

関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書

やしろにほんすぎひがし
八城二本杉東遺跡
(八 城 遺 跡)

おくなだだいどうきた
行田大道北遺跡
(行 田 I 遺 跡)

《 本 文 編 》

1 9 9 7

日 本 道 路 公 団
群 馬 県 教 育 委 員 会
松 井 田 町 遺 跡 調 査 会

関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書

八城二本杉東遺跡

（ 八 城 遺 跡 ）

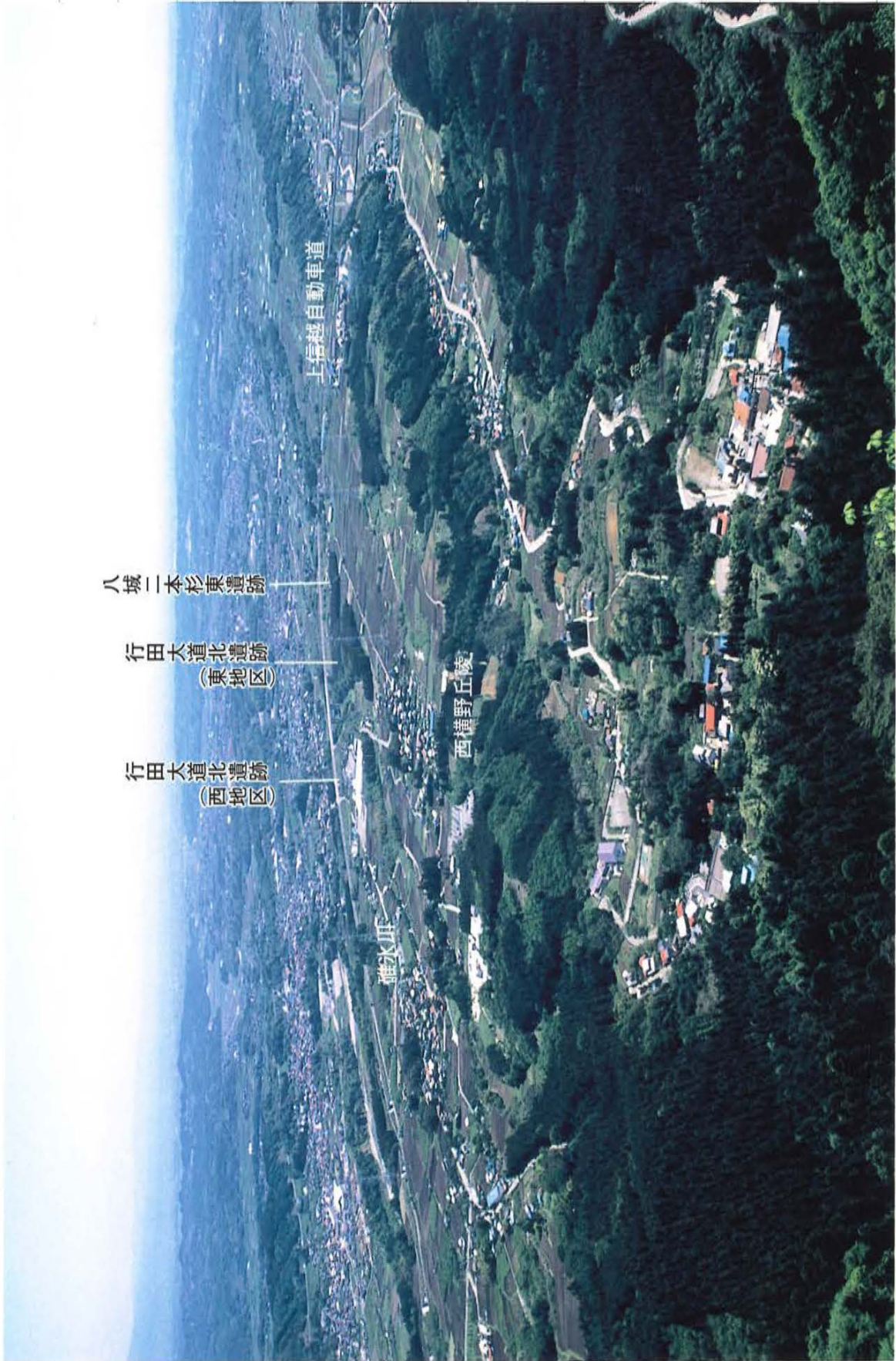
行田大道北遺跡

（ 行 田 I 遺 跡 ）

《 本 文 編 》

1 9 9 7

日 本 道 路 公 団
群 馬 県 教 育 委 員 会
松 井 田 町 遺 跡 調 査 会



遺跡遠景 (妙義山大の字より、平成7年5月撮影)



八城二本杉東遺跡・弥生土器（166号土坑出土）



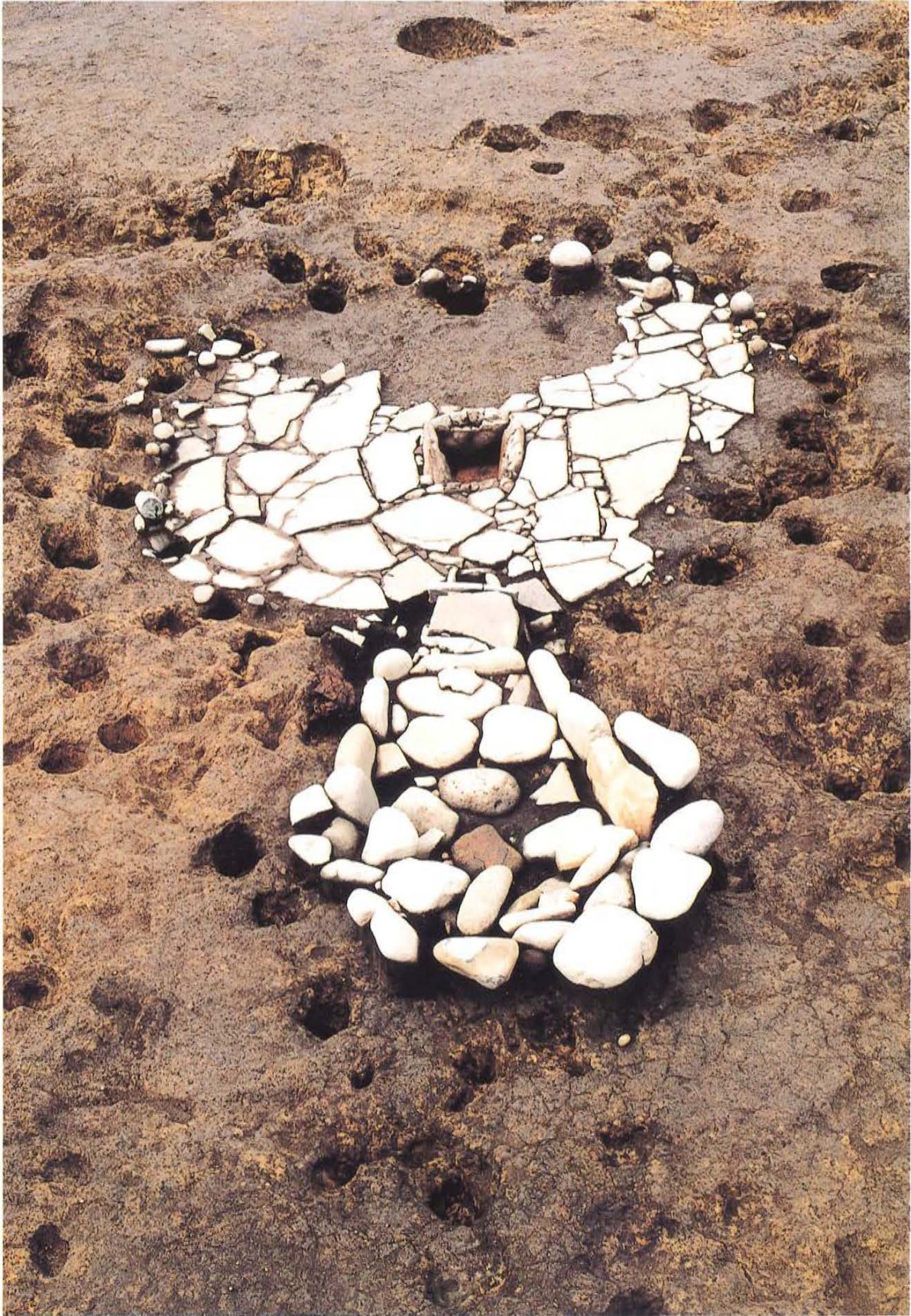
行田大道北遺跡・琥珀玉（83号住居跡出土、長さ2.7cm）



行田大道北遺跡・諸磯c式土器（55号住居跡出土）



行田大道北遺跡・諸磯c式土器（65号住居跡出土）



行田大道北遺跡・柄鏡形敷石住居跡（96号住居跡）

序 文

上信越自動車道の建設に伴い、本調査会が発足したのは昭和62年11月のことでした。発掘調査では、縄文時代を中心に弥生、古墳、奈良、平安、中～近世と、私たちの祖先の足跡が間断なく発見されました。ここに至り、ようやくその成果を報告する次第であります。

縄文時代では、国内初の発見となった石棒製作跡の西野牧小山平遺跡をはじめ、早期土器を伴う横川大林遺跡、クッキー状炭化物が出土した行田大道北遺跡、弧状配石墓群の行田梅木平遺跡など、全国規模の重要遺跡が発見されました。また、縄文時代前期から平安時代までの集落である八城二本杉東遺跡、大型掘立柱建物跡の検出で古代東山道の駅家を示唆する原遺跡も注目を集めた遺跡でした。

本町においては、計11箇所 of 遺跡が発見された訳ですが、これらはこれまで調査されたものとともに、郷土の生い立ちを示す貴重な遺産であります。今でこそ電車や自動車、また飛行機でと、交通の利便性はとどまるところを知りませんが、古くは碓氷峠の峰が行く者の前に大きく立ちちはだかったことでしょう。縄文やそれ以前から人々の地域間の交流があったといわれるようですが、遺跡に見られる祖先達の営みの積み重ねの上に現代の私達の文化が成り立っているということ、このことをあらためて認識することが大切なのだと思います。

ここに刊行いたします報告書が、広く皆様に活用されることを祈念するとともに文化財に対する認識を深める一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業を通じて御指導・御協力をいただいた日本道路公団、群馬県教育委員会、実務の全てを遂行された山武考古学研究所、また、調査に従事された全ての方々に厚く御礼を申し上げ、序文とさせていただきます。

平成9年3月

松井田町遺跡調査会
会長 武田 弘

例 言

1. 本書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い、事前調査された群馬県碓氷郡松井田町に所在する八城二本杉東遺跡・行田大道北遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本報告書は、本文編・写真図版編及び付図から構成される。
3. 発掘調査は日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会の指導で、松井田町教育委員会に松井田町遺跡調査会を組織し、実施したものである。
4. 実際の発掘調査及び整理事業は、松井田町遺跡調査会より委託された山武考古学研究所が担当した。
5. 発掘調査時における各遺跡名は事業名を使用していたが、その後、整理事業時に遺跡所在地の大字・小字連名による正式遺跡名に変更された。なお、小字名は松井田町役場税務課の「町内字名一覧」による。各遺跡の事業名（旧遺跡名）は下記の通りである。

八城二本杉東遺跡……八城遺跡 行田大道北遺跡……行田Ⅰ遺跡

6. 遺跡の所在地・面積・調査期間・調査担当者は下記の通りである。

八城二本杉東遺跡 所在地：群馬県碓氷郡松井田町大字八城字二本杉東792-2他

面積：24,000m²

調査期間：昭和63年3月8日～同年9月1日

調査担当者：千田幸生・桐谷 優・及川 司・長谷川一郎・長井正欣

行田大道北遺跡 所在地：群馬県碓氷郡松井田町大字行田字大道北732他

面積：16,100m²（東地区-8,900m²、西地区-7,200m²）

調査期間：昭和63年7月11日～平成元年10月3日

調査担当者：及川 司・長井正欣・関本寿雄

7. 本書の編集は山武考古学研究所が行い、同所員の長井正欣が担当した。
8. 本書の執筆分担は以下の通りである。

序章 第1節 調査に至る経緯……飯塚 聡（群馬県教育委員会）

第3節 調査会の経過……田口 修（松井田町教育委員会）

Ⅱ 行田大道北遺跡 第6章……中村祥子（國學院大学大学院）

その他……長井正欣

9. 本書に掲載した遺構写真は、各遺跡発掘担当者が撮影した。また、遺跡全景写真は青高館に依頼して空撮で行った。遺物写真は長井が撮影した。
10. 発掘調査における、基準点測量・水準測量・全体遺構測量等は開成測量に依頼した。
11. 八城二本杉東遺跡出土石剣の石材についてはパリノ・サーヴェイに、行田大道北遺跡4号住居跡出土小形石棒の石材については陣内主一氏に鑑定していただいた。
12. 自然科学分析については下記のような内容を実施しているが、本書ではその一部概要のみについて記載した。なお、詳細については『自然科学分析編』として別途刊行される。

残存脂肪酸分析……ズコーシャ総合科学研究所

黒曜石分析……立教大学理学部 鈴木正男氏

炭化材同定、樹種同定、種実同定、リン・カルシウム分析、脂質分析……パリノ・サーヴェイ

13. 八城二本杉東遺跡及び行田大道北遺跡に関わる出土遺物・図面・写真等の資料は、一括して松井田町教育委員会が保管している。
14. 本書の作成に際し、出土遺物・図面・写真等の整理には、青木千賀子・石田満理・樺沢美枝・小林ちか子・根津珠代・磯洋子・今成勝子・半澤利江・石坂純江・小野沢昌子・岡田うめ・坂本秀美・菅野栄子・三宅美智子・藤井陽子・大野智子・佐藤洋子・伊藤順子・池田と志子・秋山京子・五十嵐信子・矢島博文・山崎悟の協力を得た。
15. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏にご指導・ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表します。(敬称略)

群馬県教育委員会 群馬県埋蔵文化財調査事業団

相京健史 石坂茂 梅沢重昭 大栗勇一 鬼形芳夫 神戸聖語 菊地実 近藤功 小宮俊久 桜岡正信
志村哲 陣内圭一 鈴木徳雄 鈴木正男 関根慎二 大工原豊 田辺芳昭 角田真也 寺内敏郎
寺村光晴 外山和夫 外山政子 中野益男 能登健 野村宗作 巾隆之 原田恒弘 春山秀幸 平林彰
古郡正志 松田猛 三浦茂三郎 水田稔 山口逸弘

開成測量 新成田総合社 青館高 ズコーシャ パリノ・サーヴェイ 美山土木 文化総合企画

16. 発掘調査参加者は下記の通りである。

赤塚みつ子 秋山森雄 蘭三枝子 蘭美佐子 有賀登志雄 飯塚栄司 石井シズエ 石島正敏
磯部祐太郎 井田年代 市川繁弘 井上幸雄 入澤夏代 入村きよ子 岩井明美 岩井ひで 岩井儀一
上原春枝 上原ヒサ 上原藤男 上原千恵子 打越進 浦野美奈子 遠藤ふみ江 大島昭代
大塚美恵子 大野ひろ子 岡田早百合 小比木起治 小比木つね 尾高小鈴 加藤震二 金井輝秋
金谷清一郎 工藤繁 工藤マサ 小池美恵子 小泉美津子 小坂橋静乃 小坂橋昌江 小坂橋守
小林節子 後藤昇二 後藤ふじ子 酒井善三郎 坂本文吉 桜井きん 桜井慎三 佐藤友江 佐藤巴
佐藤正子 塩原かほる 柴山厚子 清水かず江 清水サト 清水千秋 清水とき子 白石登美枝
白石ふさゑ 神宮房子 杉木はま子 鈴木一好 鈴木信子 鈴木弘子 須藤セウ 高橋きくの
高橋富美子 高橋みさ子 高橋美代 田口千代子 武井武 武田アサコ 田中今造 谷口英夫
田村綾子 土屋育太郎 土屋キミエ 寺島アキ江 寺島明子 寺島石松 寺島ハツ子 寺島洋子
都丸孝江 富田静江 寅本隆之 中沢スミ子 中山美恵子 中山忠和 庭植吟子 畑山洋子 原田康子
馬場ツヤ子 平石信好 藤巻勝江 古沢豊太郎 古谷きく枝 古谷久子 細矢吾一 増田トヨミ
松本博 松本芳 黛はつ江 三田今朝次 毛利ヨシエ 山口一男 山越梅子 山田京子 吉川勝蔵
由田辰二 吉本美代子 吉本律子 和田光江

凡 例

1. 本書で使用した地形図の発行者・縮尺は、各図キャプション脇に示した。

2. 遺構の記載について

(1) 遺構名・遺構番号

遺構名・遺構番号は、基本的に現地調査時のものをそのまま使用している。そのため、遺構名に適切性を欠くものや欠番が生じている。

(2) 縮尺・方位

遺構挿図は、全体図を八城二本杉東遺跡1/1,000、行田大道北遺跡1/600縮尺で掲載し、各遺構は住居跡1/60、炉跡・カマド1/30、土坑・集石1/30・1/60・1/80、円形柱穴列1/120、掘立柱建物跡1/60縮尺を基本とし、各挿図にはスケールを付してある。なお、八城二本杉東遺跡は1/500縮尺、行田大道北遺跡は1/250縮尺の付図を添付してある。図中の北方位は座標北を示す。国家座標値（第Ⅸ系）は各遺跡の全体図及び付図に示してある。

(3) 計測値等

遺構の規模は基本的に中軸線上で計測し、竪穴住居跡は壁面下端で、土坑・柱穴等は上端での数値である。遺構の深さ（残存深度）は確認面から床面・底面までの数値で、竪穴住居跡平面図の柱穴・ピット脇数値は床面からの深さ（単位：cm）を示す。また、遺構の面積は原図をもとにデジタルプランニメーターを用いた3回計測平均値である。主軸方位は座標北を基準とした振れを示している。土層図・エレベーション図の基準線数値は標高を示す。

(4) 土坑の形態分類

各遺跡の土坑については一覧表にまとめて記載し、形態については下記のような基準で分類した。

平面形態：A類……円形 B類……楕円形（長軸：短軸=1.1>1） C類……方形

 D類……長方形（長軸：短軸=1.1>1） E類……不整形

断面形態：Ⅰ類……箱状 Ⅱ類……逆台形 Ⅲ類……皿状 Ⅳ類……フラスコ状

 Ⅴ類……凹凸のあるもの・不整形・その他

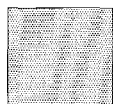
(5) 記号

遺構挿図中に使用した出土遺物の記号は次のような意味を示す。

●……土器・土製品 ▲……石器・石製品 ○……クッキー状炭化物

(6) スクリーントーン

遺構挿図中に使用したスクリーントーンは次のような意味を示す。



……焼土、地山の被熱

3. 遺物の記載について

(1) 縮尺・遺物番号、等

各遺物の縮尺は下記を基本として掲載し、挿図中にスケールを付した。遺物写真は一部を除き遺物挿図とほぼ同縮尺である。遺物番号は本文・挿図・観察表・写真図版と一致する。なお、報告書作成の工程上、写真図版編を先に印刷・製本したため一部の土器片・石器等の向きが挿図・写真とで異なるものがあるが、遺物挿図での向きを最終的に正位と判断している。

縄文土器・弥生土器…… 1 / 3 ・ 1 / 4 土製品…… 1 / 1 ・ 1 / 2

石器・石製品…… 1 / 1 ~ 1 / 6 クッキー状炭化物…… 1 / 2 土師器・須恵器…… 1 / 4

(2) 遺物観察の記載

土器・土製品等は遺物観察表にまとめ、石器・石製品等は遺物挿図の脇に計測値・石材・備考等を記した観察略表を付した。

石器の計測値は図上における長さ（縦）×幅（横）×厚さの順に記し、単位はcmである。重さは200g程度のものまではデジタル秤で、10kg程度のものまでは上皿バネ秤で、それ以上のものは体重計で計測した。

土器観察表の計測値で（ ）で示したものは推定値である。土器・土製品の色調は『新版標準土色帖』（16版，1995，財団法人日本色彩研究所色彩監修）を用いて観察した。土器・土製品の胎土は、ルーペを用いて観察し、特徴的なものを記した。

石器・石製品の石材については、例言11に示した遺物を除き、下記文献4）等を参考に担当者が観察・判断した。

(3) スクリーントーン

遺物挿図中に使用したスクリーンパターン



……赤彩範囲



……煤



……顕著に磨られている範囲

4. 本書で使用した用語・術語及び石器の石材名は原則的に下記文献に準拠している。

- 1) 戸沢充則編 1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版
- 2) 佐原 真 1981 「縄文施文法入門」『縄文土器大成 3 後期』講談社
- 3) 大塚初重・戸沢充則編 1996 『日本考古学用語辞典』柏書房
- 4) 木下亀城・小川留太郎 1967 『標準原色図鑑全集 6 岩石鉱物』保育社

本文編目次

卷頭写真
序文
例言
凡例

序章

第1節 調査に至る経緯	3
第2節 遺跡の位置と考古学的環境	5
第3節 調査会の経過	11

I 八城二本杉東遺跡

第1章 遺跡の立地と基本層序	
第1節 遺跡の立地	15
第2節 基本層序	15
第2章 調査の方法と経過	
第1節 発掘調査	17
第2節 整理調査	19
第3章 遺構と遺物	
第1節 概要	20
第2節 縄文時代	
(1) 住居跡	23
(2) 円形柱穴列・掘立柱建物跡	96
(3) 土坑	99
(4) 遺構外出土遺物	132
第3節 弥生時代	
(1) 土坑	138
(2) 遺構外出土遺物	142
第4節 平安時代	143
遺物観察表	146
第4章 まとめ	
第1節 遺跡の変遷	159
第2節 縄文時代前期関山式期の住居形態	164

Ⅱ 行田大道北遺跡

第1章 遺跡の立地と基本層序	
第1節 遺跡の立地	173
第2節 基本層序	173
第2章 調査の方法と経過	
第1節 発掘調査	176
第2節 整理調査	179
第3章 遺構と遺物（1）東地区	
第1節 概要	181
第2節 住居跡	182
第3節 クッキー状炭化物	375
第4節 土坑	383
第5節 集石・集石土坑	486
第6節 掘立柱建物跡	489
第7節 溝	489
第4章 遺構と遺物（2）西地区	
第1節 概要	490
第2節 住居跡	493
第3節 土坑	536
第4節 集石	550
第5節 掘立柱建物跡	550
第6節 溝	551
第5章 遺構外出土遺物	
第1節 土器	554
第2節 石器	554
第3節 奈良・平安時代、中・近世	554
遺物観察表	555
第6章 群馬県行田大道北遺跡の琥珀玉について	609
第7章 まとめ	
第1節 遺跡の変遷（東地区）	610
第2節 遺跡の変遷（西地区）	617
抄録	620

挿図目次

序 章

第1図 松井田町地形図	4	第2図 松井田町遺跡分布図	7
-------------	---	---------------	---

I 八城二本杉東遺跡

第3図 基本層序	15	第35図 34号・13号・15号・30号住居跡	61
第4図 八城二本杉東遺跡の位置	16	第36図 1号住居跡出土遺物①	62
第5図 八城二本杉東遺跡全体図	21	第37図 1号住居跡出土遺物②	63
第6図 1号住居跡	34	第38図 2号住居跡出土遺物	63
第7図 2号住居跡	35	第39図 3号住居跡出土遺物	64
第8図 3号住居跡	36	第40図 6号住居跡出土遺物①	64
第9図 4号住居跡	37	第41図 6号住居跡出土遺物②	65
第10図 6号住居跡	38	第42図 7号住居跡出土遺物①	66
第11図 7号住居跡	39	第43図 7号住居跡出土遺物②	67
第12図 9号住居跡	40	第44図 9号住居跡出土遺物①	67
第13図 10号住居跡	41	第45図 9号住居跡出土遺物②	68
第14図 11号住居跡	41	第46図 9号住居跡出土遺物③	69
第15図 12号住居跡	42	第47図 10号住居跡出土遺物	69
第16図 14号住居跡	43	第48図 11号住居跡出土遺物	70
第17図 16号住居跡	44	第49図 12号住居跡出土遺物①	70
第18図 17号住居跡	45	第50図 12号住居跡出土遺物②	71
第19図 18号住居跡	46	第51図 14号住居跡出土遺物	72
第20図 19号住居跡	47	第52図 16号住居跡出土遺物	73
第21図 20号住居跡	48	第53図 17号住居跡出土遺物	74
第22図 21号住居跡	49	第54図 18号住居跡出土遺物	74
第23図 22号住居跡①	50	第55図 19号住居跡出土遺物	75
第24図 22号住居跡②	51	第56図 20号住居跡出土遺物①	75
第25図 23号住居跡	52	第57図 20号住居跡出土遺物②	76
第26図 24号住居跡	53	第58図 21号住居跡出土遺物	77
第27図 26号住居跡	54	第59図 22号住居跡出土遺物①	78
第28図 27号住居跡	55	第60図 22号住居跡出土遺物②	79
第29図 29号住居跡	56	第61図 23号住居跡出土遺物	80
第30図 35号住居跡	57	第62図 24号住居跡出土遺物	80
第31図 36号住居跡	58	第63図 26号住居跡出土遺物①	81
第32図 8号住居跡	59	第64図 26号住居跡出土遺物②	82
第33図 28号住居跡	60	第65図 26号住居跡出土遺物③	83
第34図 25号住居跡	60	第66図 27号住居跡出土遺物①	83

第67図	27号住居跡出土遺物②	84	第99図	縄文時代土坑⑫	117
第68図	27号住居跡出土遺物③	85	第100図	縄文時代土坑⑬	118
第69図	29号住居跡出土遺物①	85	第101図	縄文時代土坑出土遺物①	119
第70図	29号住居跡出土遺物②	86	第102図	縄文時代土坑出土遺物②	120
第71図	35号住居跡出土遺物①	87	第103図	縄文時代土坑出土遺物③	121
第72図	35号住居跡出土遺物②	88	第104図	縄文時代土坑出土遺物④	122
第73図	35号住居跡出土遺物③	89	第105図	縄文時代土坑出土遺物⑤	123
第74図	35号住居跡出土遺物④	90	第106図	縄文時代土坑出土遺物⑥	124
第75図	35号住居跡出土遺物⑤	91	第107図	縄文時代土坑出土遺物⑦	125
第76図	35号住居跡出土遺物⑥	92	第108図	縄文時代土坑出土遺物⑧	126
第77図	36号住居跡出土遺物①	93	第109図	縄文時代土坑出土遺物⑨	127
第78図	36号住居跡出土遺物②	94	第110図	縄文時代土坑出土遺物⑩	128
第79図	8号住居跡出土遺物	94	第111図	縄文時代土坑出土遺物⑪	129
第80図	28号住居跡出土遺物	95	第112図	縄文時代土坑出土遺物⑫	130
第81図	25号住居跡出土遺物	95	第113図	縄文時代土坑出土遺物⑬	131
第82図	34号住居跡出土遺物①	95	第114図	縄文時代遺構外出土遺物①	133
第83図	34号住居跡出土遺物②	96	第115図	縄文時代遺構外出土遺物②	134
第84図	30号住居跡出土遺物	96	第116図	縄文時代遺構外出土遺物③	135
第85図	1号円形柱穴列	97	第117図	縄文時代遺構外出土遺物④	136
第86図	2号円形柱穴列	98	第118図	縄文時代遺構外出土遺物⑤	137
第87図	1号掘立柱建物跡	98	第119図	弥生時代土坑	139
第88図	縄文時代土坑①	106	第120図	弥生時代土坑出土遺物①	140
第89図	縄文時代土坑②	107	第121図	弥生時代土坑出土遺物②	141
第90図	縄文時代土坑③	108	第122図	弥生時代遺構外出土遺物	142
第91図	縄文時代土坑④	109	第123図	31号住居跡・出土遺物	144
第92図	縄文時代土坑⑤	110	第124図	32号住居跡・出土遺物	145
第93図	縄文時代土坑⑥	111	第125図	縄文時代前期の遺構分布図と遺物	161
第94図	縄文時代土坑⑦	112	第126図	縄文時代中期初頭の遺構分布図と遺物	162
第95図	縄文時代土坑⑧	113	第127図	弥生時代・平安時代の遺構分布図と遺物	163
第96図	縄文時代土坑⑨	114	第128図	関山式期の住居跡①	166
第97図	縄文時代土坑⑩	115	第129図	関山式期の住居跡②	167
第98図	縄文時代土坑⑪	116	第130図	関山式期の住居跡③	168

Ⅱ 行田大道北遺跡

第131図	基本層序	173	第134図	行田大道北遺跡 東地区全体図	180
第132図	行田大道北遺跡の位置	174	第135図	1号住居跡、20号・21号土坑	216
第133図	トレンチ設定位置図	175	第136図	2号住居跡	216

第137图	3号·9号·11号住居跡、2号·28号土坑	···217	第173图	57号住居跡	···244
第138图	4号住居跡	···218	第174图	58号住居跡、355号土坑	···244
第139图	4号住居跡遺物分布图①	···219	第175图	60号住居跡、376号·378号土坑	···245
第140图	4号住居跡遺物分布图②	···220	第176图	59号住居跡	···246
第141图	4号住居跡遺物分布图③	···221	第177图	61号·67号·65号住居跡	···246
第142图	5号·7号住居跡	···222	第178图	62号住居跡	···247
第143图	6号住居跡、25号土坑	···222	第179图	63号住居跡	···247
第144图	8号·10号住居跡、46号土坑、13号·12号住居跡	···223	第180图	64号住居跡、370号土坑	···248
第145图	14号·41号住居跡	···224	第181图	66号住居跡	···248
第146图	15号住居跡	···225	第182图	74号·75号·76号·95号住居跡、328号·426号· 427号·449号土坑①	···249
第147图	16号住居跡	···225	第183图	74号·75号·76号住居跡、328号·449号土坑②	···250
第148图	17号住居跡、149号土坑	···226	第184图	74号·75号·76号住居跡、328号土坑③	···251
第149图	18号住居跡	···226	第185图	77号·78号住居跡、438号·439号·452号土坑①	···252
第150图	19号住居跡	···227	第186图	77号·78号住居跡②	···253
第151图	25号住居跡、110号·111号·163号·211号土坑	···227	第187图	80号住居跡、329号土坑	···253
第152图	20号·33号住居跡、52号·53号·78号·135号土坑	···228	第188图	95号住居跡	···254
第153图	21号·37号住居跡、51号土坑	···229	第189图	79号住居跡、440号·456号·457号土坑	···254
第154图	22号·23号·40号住居跡、129号·132号·133号· 182号·183号土坑	···230	第190图	81号住居跡、221号土坑	···255
第155图	24号·31号住居跡、45号土坑	···231	第191图	82号住居跡、442号土坑	···255
第156图	27号·28号住居跡、8号·47号土坑	···231	第192图	85号·86号·87号·91号住居跡	···256
第157图	26号住居跡、155号土坑	···232	第193图	83号·84号·88号·89号·90号·94号住居跡、 462号·465号土坑①	···257
第158图	29号住居跡、184号土坑	···233	第194图	83号·84号·88号·89号·90号·94号住居跡、 462号·465号土坑②	···258
第159图	38号住居跡	···233	第195图	83号·84号·88号·89号·90号·94号住居跡、 462号·465号土坑③	···259
第160图	30号住居跡、7号·34号·44号土坑	···234	第196图	92号住居跡、463号土坑	···260
第161图	32号住居跡、49号土坑	···235	第197图	93号住居跡、358号·464号土坑	···260
第162图	34号·35号住居跡	···235	第198图	1号住居跡出土遺物	···261
第163图	36号住居跡、55号·56号·71号·72号·73号土坑	···236	第199图	2号住居跡出土遺物①	···261
第164图	39号·72号·73号住居跡、405号·406号·431号土坑	···237	第200图	2号住居跡出土遺物②	···262
第165图	43号·44号住居跡、217号·218号·219号土坑	···238	第201图	3号住居跡出土遺物①	···262
第166图	42号住居跡、333号·335号土坑	···238	第202图	3号住居跡出土遺物②	···263
第167图	45号·54号·56号住居跡、227号·228号· 293号·347号土坑	···239	第203图	4号住居跡出土遺物①	···264
第168图	47号·48号·53号住居跡	···240	第204图	4号住居跡出土遺物②	···265
第169图	46号住居跡、226号·357号土坑	···241	第205图	4号住居跡出土遺物③	···267
第170图	49号住居跡	···241	第206图	4号住居跡出土遺物④	···268
第171图	50号·51号·55号住居跡	···242			
第172图	52号·68号·69号·70号·71号住居跡	···243			

第207图	4号住居跡出土遺物⑤	·····269	第245图	30号住居跡出土遺物②	·····294
第208图	4号住居跡出土遺物⑥	·····270	第246图	30号住居跡出土遺物③	·····295
第209图	5号住居跡出土遺物	·····271	第247图	30号住居跡出土遺物④	·····296
第210图	6号住居跡出土遺物	·····271	第248图	30号住居跡出土遺物⑤	·····297
第211图	7号住居跡出土遺物	·····272	第249图	31号住居跡出土遺物	·····298
第212图	8号住居跡出土遺物	·····273	第250图	32号住居跡出土遺物①	·····298
第213图	9号住居跡出土遺物	·····273	第251图	32号住居跡出土遺物②	·····299
第214图	10号·11号·12号住居跡出土遺物	·····274	第252图	33号住居跡出土遺物	·····300
第215图	13号住居跡出土遺物	·····275	第253图	34号住居跡出土遺物	·····300
第216图	14号住居跡出土遺物	·····275	第254图	35号住居跡出土遺物	·····301
第217图	15号住居跡出土遺物	·····276	第255图	36号住居跡出土遺物①	·····301
第218图	16号住居跡出土遺物	·····276	第256图	36号住居跡出土遺物②	·····302
第219图	17号住居跡出土遺物	·····277	第257图	36号住居跡出土遺物③	·····303
第220图	18号住居跡出土遺物	·····277	第258图	37号住居跡出土遺物	·····304
第221图	19号住居跡出土遺物	·····278	第259图	38号住居跡出土遺物①	·····304
第222图	20号住居跡出土遺物①	·····278	第260图	38号住居跡出土遺物②	·····305
第223图	20号住居跡出土遺物②	·····279	第261图	39号住居跡出土遺物	·····305
第224图	20号住居跡出土遺物③	·····280	第262图	40号·41号住居跡出土遺物	·····306
第225图	20号住居跡出土遺物④	·····281	第263图	43号住居跡出土遺物①	·····306
第226图	20号住居跡出土遺物⑤	·····282	第264图	43号住居跡出土遺物②	·····307
第227图	21号住居跡出土遺物①	·····283	第265图	44号住居跡出土遺物	·····308
第228图	21号住居跡出土遺物②	·····284	第266图	45号住居跡出土遺物①	·····308
第229图	22号住居跡出土遺物①	·····284	第267图	45号住居跡出土遺物②	·····309
第230图	22号住居跡出土遺物②	·····285	第268图	45号住居跡出土遺物③	·····310
第231图	23号住居跡出土遺物①	·····286	第269图	45号住居跡出土遺物④	·····311
第232图	23号住居跡出土遺物②	·····287	第270图	46号住居跡出土遺物①	·····312
第233图	24号住居跡出土遺物①	·····287	第271图	46号住居跡出土遺物②	·····313
第234图	24号住居跡出土遺物②	·····288	第272图	46号住居跡出土遺物③	·····314
第235图	25号住居跡出土遺物①	·····288	第273图	47号住居跡出土遺物①	·····315
第236图	25号住居跡出土遺物②	·····289	第274图	47号住居跡出土遺物②	·····316
第237图	26号住居跡出土遺物①	·····289	第275图	48号住居跡出土遺物	·····317
第238图	26号住居跡出土遺物②	·····290	第276图	49号住居跡出土遺物①	·····317
第239图	27号住居跡出土遺物	·····291	第277图	49号住居跡出土遺物②	·····318
第240图	28号住居跡出土遺物①	·····291	第278图	49号住居跡出土遺物③	·····319
第241图	28号住居跡出土遺物②	·····292	第279图	50号住居跡出土遺物	·····319
第242图	28号住居跡出土遺物③	·····293	第280图	51号住居跡出土遺物	·····319
第243图	29号住居跡出土遺物	·····293	第281图	52号住居跡出土遺物①	·····320
第244图	30号住居跡出土遺物①	·····293	第282图	52号住居跡出土遺物②	·····321

第283图	53号住居跡出土遺物	321	第321图	76号住居跡出土遺物①	346
第284图	54号住居跡出土遺物①	322	第322图	76号住居跡出土遺物②	347
第285图	54号住居跡出土遺物②	323	第323图	77号住居跡出土遺物①	347
第286图	55号住居跡出土遺物①	323	第324图	77号住居跡出土遺物②	348
第287图	55号住居跡出土遺物②	324	第325图	77号住居跡出土遺物③	349
第288图	57号住居跡出土遺物①	324	第326图	78号住居跡出土遺物①	349
第289图	57号住居跡出土遺物②	325	第327图	78号住居跡出土遺物②	350
第290图	58号住居跡出土遺物①	326	第328图	78号住居跡出土遺物③	351
第291图	58号住居跡出土遺物②	327	第329图	79号住居跡出土遺物	351
第292图	59号住居跡出土遺物①	327	第330图	80号住居跡出土遺物①	352
第293图	59号住居跡出土遺物②	328	第331图	80号住居跡出土遺物②	353
第294图	59号住居跡出土遺物③	329	第332图	81号住居跡出土遺物①	354
第295图	60号住居跡出土遺物①	329	第333图	81号住居跡出土遺物②	355
第296图	60号住居跡出土遺物②	330	第334图	81号住居跡出土遺物③	356
第297图	60号住居跡出土遺物③	331	第335图	81号住居跡出土遺物④	357
第298图	61号住居跡出土遺物	331	第336图	82号住居跡出土遺物	357
第299图	62号住居跡出土遺物	332	第337图	83号住居跡出土遺物①	358
第300图	63号住居跡出土遺物①	333	第338图	83号住居跡出土遺物②	359
第301图	63号住居跡出土遺物②	334	第339图	83号住居跡出土遺物③	360
第302图	64号住居跡出土遺物	335	第340图	83号住居跡出土遺物④	361
第303图	65号住居跡出土遺物①	335	第341图	83号住居跡出土遺物⑤	362
第304图	66号住居跡出土遺物①	335	第342图	83号住居跡出土遺物⑥	363
第305图	65号住居跡出土遺物②	336	第343图	83号住居跡出土遺物⑦	364
第306图	65号住居跡出土遺物③	337	第344图	83号住居跡出土遺物⑧	365
第307图	66号住居跡出土遺物②	338	第345图	83号住居跡出土遺物⑨	366
第308图	67号住居跡出土遺物	339	第346图	83号住居跡出土遺物⑩	367
第309图	68号住居跡出土遺物	339	第347图	84号住居跡出土遺物	367
第310图	69号住居跡出土遺物	340	第348图	85号住居跡出土遺物	368
第311图	70号住居跡出土遺物	340	第349图	86号住居跡出土遺物	369
第312图	71号住居跡出土遺物	341	第350图	87号住居跡出土遺物	369
第313图	72号住居跡出土遺物	341	第351图	88号住居跡出土遺物	370
第314图	73号住居跡出土遺物①	342	第352图	89号住居跡出土遺物①	370
第315图	73号住居跡出土遺物②	343	第353图	89号住居跡出土遺物②	371
第316图	74号住居跡出土遺物①	343	第354图	90号住居跡出土遺物	371
第317图	74号住居跡出土遺物②	344	第355图	92号・93号住居跡出土遺物	372
第318图	74号住居跡出土遺物③	345	第356图	94号住居跡出土遺物①	372
第319图	75号住居跡出土遺物①	345	第357图	94号住居跡出土遺物②	373
第320图	75号住居跡出土遺物②	346	第358图	94号住居跡出土遺物③	374

第359図	クッキー状炭化物出土土坑	377	第397図	東地区土坑出土遺物①	430
第360図	クッキー状炭化物出土土坑の出土遺物①	378	第398図	東地区土坑出土遺物②	431
第361図	クッキー状炭化物出土土坑の出土遺物②	379	第399図	東地区土坑出土遺物③	432
第362図	クッキー状炭化物出土土坑の出土遺物③	380	第400図	東地区土坑出土遺物④	433
第363図	クッキー状炭化物①	380	第401図	東地区土坑出土遺物⑤	434
第364図	クッキー状炭化物②	381	第402図	東地区土坑出土遺物⑥	435
第365図	クッキー状炭化物③	382	第403図	東地区土坑出土遺物⑦	436
第366図	東地区土坑①	399	第404図	東地区土坑出土遺物⑧	437
第367図	東地区土坑②	400	第405図	東地区土坑出土遺物⑨	438
第368図	東地区土坑③	401	第406図	東地区土坑出土遺物⑩	439
第369図	東地区土坑④	402	第407図	東地区土坑出土遺物⑪	440
第370図	東地区土坑⑤	403	第408図	東地区土坑出土遺物⑫	441
第371図	東地区土坑⑥	404	第409図	東地区土坑出土遺物⑬	442
第372図	東地区土坑⑦	405	第410図	東地区土坑出土遺物⑭	443
第373図	東地区土坑⑧	406	第411図	東地区土坑出土遺物⑮	444
第374図	東地区土坑⑨	407	第412図	東地区土坑出土遺物⑯	445
第375図	東地区土坑⑩	408	第413図	東地区土坑出土遺物⑰	446
第376図	東地区土坑⑪	409	第414図	東地区土坑出土遺物⑱	447
第377図	東地区土坑⑫	410	第415図	東地区土坑出土遺物⑲	448
第378図	東地区土坑⑬	411	第416図	東地区土坑出土遺物⑳	449
第379図	東地区土坑⑭	412	第417図	東地区土坑出土遺物㉑	450
第380図	東地区土坑⑮	413	第418図	東地区土坑出土遺物㉒	451
第381図	東地区土坑⑯	414	第419図	東地区土坑出土遺物㉓	452
第382図	東地区土坑⑰	415	第420図	東地区土坑出土遺物㉔	453
第383図	東地区土坑⑱	416	第421図	東地区土坑出土遺物㉕	454
第384図	東地区土坑⑲	417	第422図	東地区土坑出土遺物㉖	455
第385図	東地区土坑㉑	418	第423図	東地区土坑出土遺物㉗	456
第386図	東地区土坑㉒	419	第424図	東地区土坑出土遺物㉘	457
第387図	東地区土坑㉓	420	第425図	東地区土坑出土遺物㉙	458
第388図	東地区土坑㉔	421	第426図	東地区土坑出土遺物㉚	459
第389図	東地区土坑㉕	422	第427図	東地区土坑出土遺物㉛	460
第390図	東地区土坑㉖	423	第428図	東地区土坑出土遺物㉜	461
第391図	東地区土坑㉗	424	第429図	東地区土坑出土遺物㉝	462
第392図	東地区土坑㉘	425	第430図	東地区土坑出土遺物㉞	463
第393図	東地区土坑㉙	426	第431図	東地区土坑出土遺物㉟	464
第394図	東地区土坑㉚	427	第432図	東地区土坑出土遺物㊱	465
第395図	東地区土坑㉛	428	第433図	東地区土坑出土遺物㊲	466
第396図	東地区土坑㉜	429	第434図	東地区土坑出土遺物㊳	467

第435図	東地区土坑出土遺物⑳	468	第473図	111号住居跡、534号土坑	518
第436図	東地区土坑出土遺物㉑	469	第474図	112号・113号住居跡、501号土坑	519
第437図	東地区土坑出土遺物㉒	470	第475図	114号住居跡	520
第438図	東地区土坑出土遺物㉓	471	第476図	117号住居跡	521
第439図	東地区土坑出土遺物㉔	472	第477図	96号住居跡出土遺物①	522
第440図	東地区土坑出土遺物㉕	473	第478図	96号住居跡出土遺物②	523
第441図	東地区土坑出土遺物㉖	474	第479図	96号住居跡出土遺物③	524
第442図	東地区土坑出土遺物㉗	475	第480図	97号住居跡出土遺物①	524
第443図	東地区土坑出土遺物㉘	476	第481図	97号住居跡出土遺物②	525
第444図	東地区土坑出土遺物㉙	477	第482図	98号住居跡出土遺物①	525
第445図	東地区土坑出土遺物㉚	478	第483図	98号住居跡出土遺物②・99号住居跡出土遺物	526
第446図	東地区土坑出土遺物㉛	479	第484図	100号住居跡出土遺物①	526
第447図	東地区土坑出土遺物㉜	480	第485図	100号住居跡出土遺物②	527
第448図	東地区土坑出土遺物㉝	481	第486図	101号住居跡出土遺物①	527
第449図	東地区土坑出土遺物㉞	482	第487図	101号住居跡出土遺物②	528
第450図	東地区土坑出土遺物㉟	483	第488図	102号住居跡出土遺物	528
第451図	東地区土坑出土遺物㊱	484	第489図	103号住居跡出土遺物	529
第452図	東地区土坑出土遺物㊲	485	第490図	104号住居跡出土遺物	529
第453図	1号・2号・3号・4号集石、260号土坑	487	第491図	105号住居跡出土遺物	530
第454図	集石土坑、1号掘立柱建物跡、1号溝	488	第492図	106号住居跡出土遺物	530
第455図	集石土坑出土遺物	489	第493図	107号・108号住居跡出土遺物	531
第456図	行田大道北遺跡 西地区全体図	491	第494図	109号住居跡出土遺物	531
第457図	2号・3号溝土層	491	第495図	110号住居跡出土遺物	531
第458図	96号住居跡①	502	第496図	111号住居跡出土遺物①	532
第459図	96号住居跡②	503	第497図	111号住居跡出土遺物②	533
第460図	96号住居跡③掘り方図	505	第498図	112号住居跡出土遺物	533
第461図	96号住居跡④遺物分布図	506	第499図	113号・114号住居跡出土遺物	533
第462図	97号・101号住居跡①	507	第500図	115号住居跡出土遺物①	533
第463図	97号・101号住居跡②	508	第501図	115号住居跡出土遺物②	534
第464図	98号・99号住居跡	509	第502図	116号住居跡出土遺物①	534
第465図	100号・102号住居跡、488号・489号・490号土坑	510	第503図	116号住居跡出土遺物②	535
第466図	103号・108号住居跡、482号・486号・487号土坑	511	第504図	117号住居跡出土遺物	535
第467図	104号・105号住居跡、480号土坑	512	第505図	西地区土坑①	538
第468図	106号住居跡、477号土坑	513	第506図	西地区土坑②	539
第469図	107号住居跡、481号・485号・492号・494号土坑	514	第507図	西地区土坑③、5号集石	540
第470図	109号住居跡	515	第508図	西地区土坑④	541
第471図	110号・115号・116号住居跡	516	第509図	西地区土坑出土遺物①	542
第472図	115号住居跡、518号土坑	517	第510図	西地区土坑出土遺物②	543

第511図	西地区土坑出土遺物③	544	第527図	遺構外出土遺物⑨	562
第512図	西地区土坑出土遺物④	545	第528図	遺構外出土遺物⑩	563
第513図	西地区土坑出土遺物⑤	546	第529図	遺構外出土遺物⑪	564
第514図	西地区土坑出土遺物⑥	547	第530図	遺構外出土遺物⑫	565
第515図	西地区土坑出土遺物⑦	548	第531図	遺構外出土遺物⑬ 奈良・平安時代、中・近世	565
第516図	西地区土坑出土遺物⑧	549	第532図	東地区遺構変遷図①	611
第517図	西地区土坑出土遺物⑨	550	第533図	黒浜・有尾式土器集成図	612
第518図	3号・5号掘立柱建物跡	552	第534図	諸磯 a 式土器集成図	612
第519図	遺構外出土遺物①	554	第535図	諸磯 b 式土器集成図	613
第520図	遺構外出土遺物②	555	第536図	東地区遺構変遷図②	614
第521図	遺構外出土遺物③	556	第537図	諸磯 c 式土器・十三善提式土器集成図	615
第522図	遺構外出土遺物④	557	第538図	五領ヶ台式土器集成図	615
第523図	遺構外出土遺物⑤	558	第539図	中期中葉・後半土器集成図	615
第524図	遺構外出土遺物⑥	559	第540図	北白川下層式系の土器	616
第525図	遺構外出土遺物⑦	560	第541図	西地区遺構・遺物変遷図	618
第526図	遺構外出土遺物⑧	561			

表 目 次

表 1	松井田町遺跡一覧表 (1)	9	表18	東地区土坑③	386
表 2	松井田町遺跡一覧表 (2)	10	表19	東地区土坑④	387
表 3	松井田町遺跡調査会組織表 1	11	表20	東地区土坑⑤	388
表 4	松井田町遺跡調査会組織表 2	12	表21	東地区土坑⑥	389
表 5	縄文時代土坑①	99	表22	東地区土坑⑦	390
表 6	縄文時代土坑②	100	表23	東地区土坑⑧	391
表 7	縄文時代土坑③	101	表24	東地区土坑⑨	392
表 8	縄文時代土坑④	102	表25	東地区土坑⑩	393
表 9	縄文時代土坑⑤	103	表26	東地区土坑⑪	394
表10	縄文時代土坑⑥	104	表27	東地区土坑⑫	395
表11	縄文時代土坑⑦	105	表28	東地区土坑⑬	396
表12	遺構外出土遺物点数表	132	表29	東地区土坑⑭	397
表13	弥生時代土坑	138	表30	東地区土坑⑮	398
表14	関山式期住居跡一覧	165	表31	西地区土坑①	536
表15	クッキー状炭化物一覧表	376	表32	西地区土坑②	537
表16	東地区土坑①	384	表33	西地区土坑③	538
表17	東地区土坑②	385	表34	関東周辺地域の縄文時代琥珀出土遺跡数	609

序 章

序 章

第1節 調査に至る経緯

上信越自動車道（「関越自動車道上越線」）は、首都圏と上信越地方とを結ぶ高速自動車国道として、東京都練馬区を起点とし、新潟県上越市に至る総延長約280km（このうち練馬～藤岡インター間80.4kmは関越自動車道新潟線との重複区間）が日本道路公団によって建設されている。なお、平成5年3月27日には、藤岡～佐久両インター間69.5kmが供用されており、その後平成7年11月には佐久～小諸両インター間10.8kmが供用され、そして平成8年11月14日には小諸インター～更埴ジャンクション間36.8kmが供用されて長野自動車道と接続し、現在信州中野インターまでが供用されている。本県内は、藤岡市・多野郡吉井町・甘楽郡甘楽町・富岡市・甘楽郡下仁田町・甘楽郡妙義町・碓氷郡松井田町の各市町を通過する。

本県部分の埋蔵文化財発掘調査にかかわる上信越自動車道藤岡～佐久間については、昭和47年に基本計画が策定され、同54年に建設大臣より日本道路公団が施工命令を受けている。そして同56年には、藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町（東部）・妙義町・松井田町（東部）の路線が発表され、翌57年には松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

上信越自動車道にかかわる群馬県内の埋蔵文化財の取り扱いと調査経過、ならびに松井田町における埋蔵文化財発掘調査の経緯は以下の通りである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し、文化財保護法の遵守、国・県・市町村の各指定文化財を避けること、文化財に関係する事項は県教育委員会文化財保護課と協議すること、等の考え方を示す。

昭和54・55年度 県教育委員会文化財保護課は、路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の状況をまとめ、県企画部交通対策課により、『関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書』として報告される。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、日本道路公団から県教育委員会に対し、路線内の埋蔵文化財に関する具体的な調査の依頼がなされ、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を実施した。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を「遺物分布の濃い部分」「遺物分布の薄い部分」「試掘調査を必要とする部分」に区分、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した（後の試掘調査によって52遺跡に変更）。そして、埋蔵文化財発掘調査に関する基本方針を次のように策定した。

①発掘調査終了年度は昭和66年度とする。

②発掘調査は財群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分については調査会方式を導入し、関係市町には進捗状況を考慮しながら協力を求める。

③調査関係別対応面積は次のとおり。

・埋文事業団：富岡市以東の約76万㎡（面積は変動の可能性あり）。

・調査会：下仁田町・妙義町・松井田町の約22万㎡（面積は変動の可能性あり）。

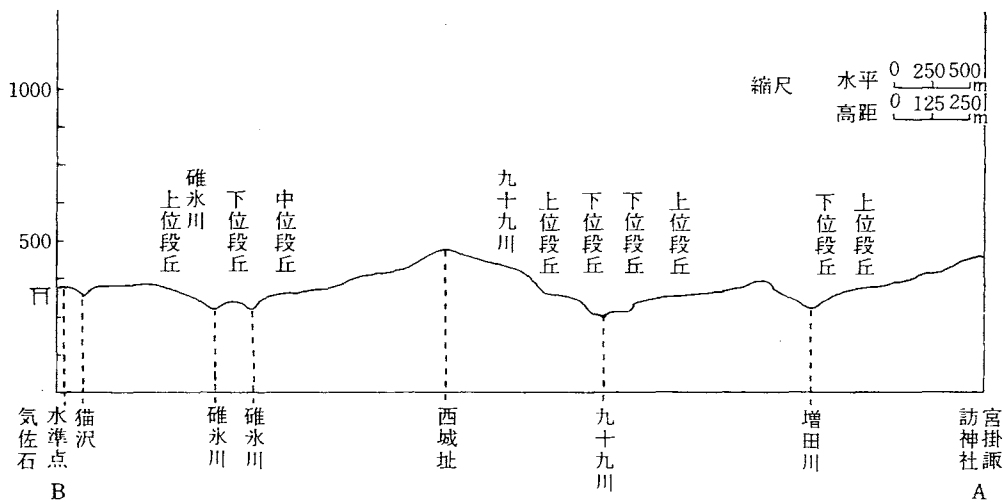
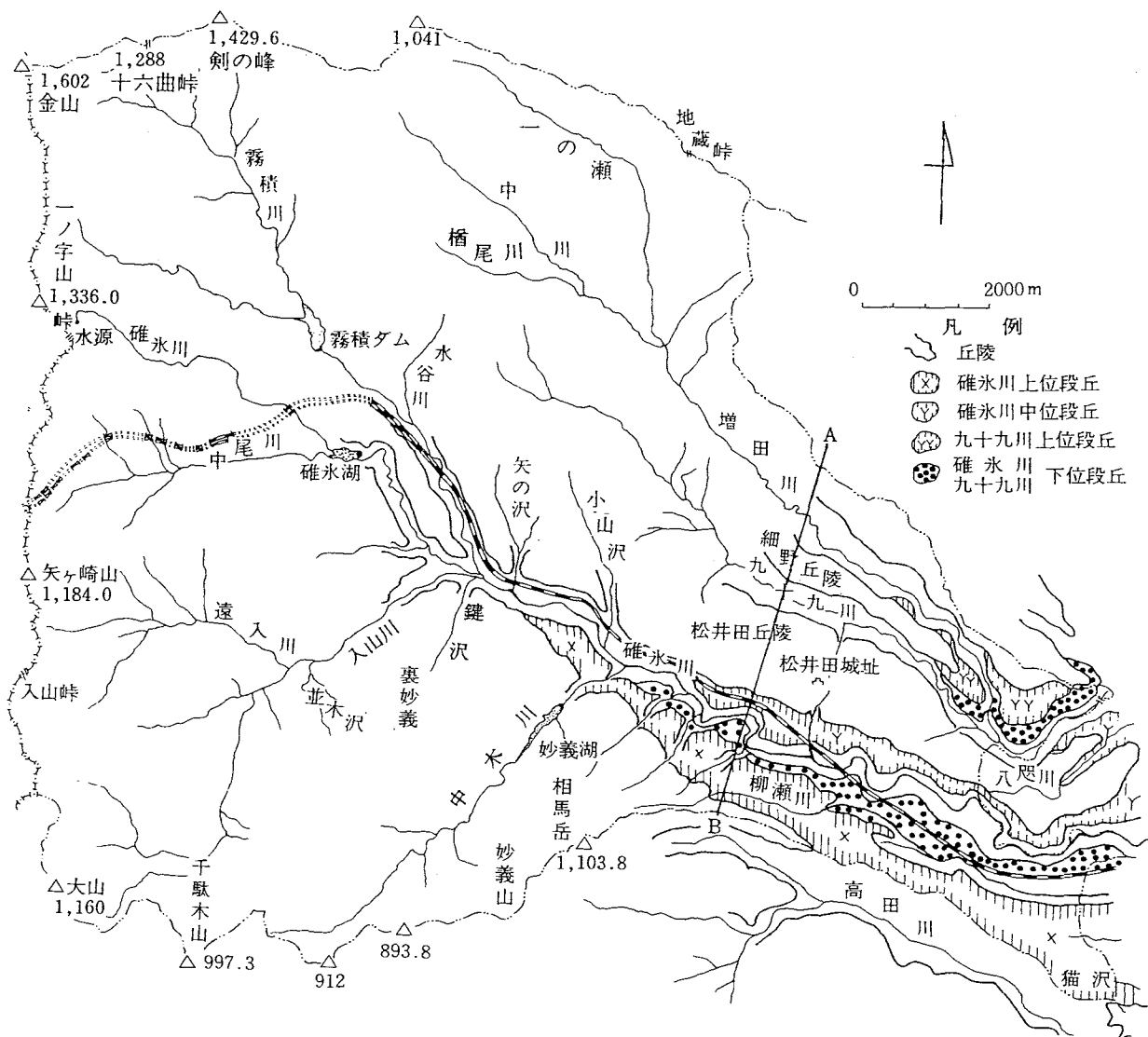
◎発掘調査事業実施方法：日本道路公団東京第二建設局が群馬県教育委員会に対し発掘調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はこれを受けて、財群馬県埋蔵文化財調査事業団ならびに各遺跡調査会に対し、再委託のかたちで委託契約を締結し、それぞれ発掘調査を実施する。

昭和61年度 4月（財群馬県埋蔵文化財調査事業団により4遺跡にて発掘調査が開始された。

昭和62年度 11月 松井田町遺跡調査会が設立され、年度末3月より発掘調査を開始（～平成3年度迄）

平成4年度 発掘調査の終了した各遺跡について整理事業を開始する。

平成8年度 各遺跡の整理報告書が刊行となり、松井田町遺跡調査会の全事業が終了する。



第1図 松井田町地形図 (「松井田町誌」より転載)

第2節 遺跡の位置と考古学的環境

松井田町は群馬県の南西部に位置し、西側は碓氷峠・入山峠・和美峠を境に長野県北佐久郡軽井沢町に接している。松井田町の地形は山地・丘陵・河岸段丘面に大別され、北西部・西部及び南西部には山地が囲み、それぞれの山地から流れる各河川沿いに丘陵や段丘が形成されている。

また、松井田町の市街地から西北西26kmには浅間山が位置し、有史以前から度重なる噴火を繰り返してきた。この降下火山灰・軽石は、遺構の年代決定の指標にもなっている。

松井田町を流れる主要河川には、碓氷川・九十九川・増田川などがあり、それぞれ並行するように南東流している。丘陵地には、長者久保丘陵・松井田丘陵・西横野丘陵・細野丘陵などがある。河岸段丘は、碓氷川流域・九十九川流域・増田川流域に形成されている。

長者久保丘陵は、剣の峰から地蔵峠を経て南東方向に延び、安中市板鼻まで続く当地方最大の丘陵地で、碓氷郡と群馬郡との分水嶺となっている。松井田丘陵は、剣の峰から松井田城跡を経て安中市名山へと延びるもので、南面を碓氷川及びその支流に、北面を九十九川及びその支流に浸食されている。西横野丘陵は、碓氷川南岸の丘陵で、碓氷郡と甘楽郡との郡境をなし、碓氷谷と鑄谷との分水嶺になっている。同丘陵は表妙義の山稜から派生し、源ヶ原・行田・越泉・上人見を経て、安中市へと続いている。なお、妙義山地の白雲山から流下する猫沢川・柳瀬川が西横野丘陵を東流している。

平坦な地形は、おもに碓氷川・九十九川・増田川流域南側の丘陵上及び河岸段丘上に分布し、この平坦地を中心に遺跡が分布している。以下、各時代ごとに本地域の遺跡を概観する。

旧石器時代

行田大道北遺跡(2)から細石核が出土しているが、旧石器の検出は極めて少ない状況にある。本地域では、浅間山噴火に伴う浅間-板鼻黄色軽石(YP層：約13,000~14,000年前)や浅間-板鼻褐色軽石(BP層：約18,000~21,000年前)が厚く堆積し、遺物の検出が困難なことにも起因していると考えられる。また、碓氷川右岸の上位段丘では地表下8~9mで広域火山灰の始良-Tn火山灰(AT層：約24,000~25,000年前)が確認される。なお、安中市の古城遺跡で、AT層前後の局部磨製石斧・ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

今回の上信越自動車道関連の発掘調査において、当該期遺跡の状況が多数明らかにされた。

碓氷川右岸では、八城二本杉東遺跡(1)・行田大道北遺跡(2)・行田梅木平遺跡(3)・新堀東源ヶ原遺跡(4)が調査されている。八城二本杉東遺跡では、前期関山式期の住居跡が円形柱穴列を取り囲むように検出された。行田大道北遺跡では、早期押型文期の住居跡1軒・前期黒浜~諸磯式期を中心とする集落跡・後期初頭の敷石住居跡などが検出されている。また、前期の遺構からクッキー状炭化物が出土している。行田梅木平遺跡では、中期末葉から後期にかけて形成されたとみられる弧状列石と配石墓群が3群検出され、西方に位置する妙義山を意識して構築された可能性が指摘されている。新堀東源ヶ原遺跡は、中期初頭~末葉の大規模な集落跡であるが、前期花積下層式期の住居跡及び同時期とみられる滑石製品・未製品・碎片などが大量に検出され、工房跡の可能性も考えられている。同遺跡では、早期押型文期の住居跡も検出されている。

碓氷川左岸では、前期諸磯式・後期加曾利B式期の住居跡や後期の配石墓が検出された五料野ヶ久保遺跡(6)、早期撚糸文期末の住居跡が検出された横川大林遺跡(8)が調査されている。

碓氷川支流の入山川左岸では、西野牧小山平遺跡(11)から石棒製作跡が発見され、注目されている。同製

作跡は、浅間D軽石と思われる橙色軽石の直下で検出されており、中期後半の時期が想定されている。

上信越自動車道関連以外でも、前～晩期の遺物が出土した千駄木岩陰遺跡(24)、敷石住居跡4軒など検出された仁田遺跡(23)、後期初頭の敷石住居跡と環状列石が検出された暮井遺跡(22)、前期関山式期の住居跡が検出された八城赤羽根遺跡(18)、後期前半の敷石住居跡が検出された二軒在家二本杉遺跡(17)などの遺跡が調査されている。

弥生時代

碓氷川右岸では、上人見遺跡(13)で再葬墓に使用したとみられる土器が出土しているほか、八城二本杉東遺跡でもほぼ同時期の遺構・遺物が検出されている。また、行田梅木平遺跡では東海地方西部の水神平式と思われる壺が出土している。さらに、松井田工業団地遺跡(15)でも中期後半の住居跡が調査されている。

碓氷川左岸では、五料稲荷谷戸遺跡(7)から中期初頭の岩櫃山式土器が出土している。

細野丘陵東端に位置する国衙遺跡(27)では、中期後半から後期の住居跡3軒が調査されている。

古墳時代

松井田町地域の古墳は、『上毛古墳総覧』(1938, 群馬県)に63基が記載されており、松井田・西横野・塚原・九十九・細野地区などに後期～終末期を中心とした古墳群がある。増田川右岸に位置する下増田上田中遺跡(83)の1号古墳は、T字状の横穴式石室を有するもので円筒埴輪や須恵器が出土している。同古墳は出土遺物などから6世紀前半(初頭)の築造とみられ、県内における横穴式石室受容期の古墳と考えられる。同様の横穴式石室は、九十九川流域の安中市・後閑3号墳にもみられる。なお、碓氷川流域には安中市に、同じく横穴式石室受容期の前方後円墳である築瀬二子塚古墳がある。

集落跡は、松井田工業団地遺跡や国衙遺跡などで後期の住居跡が調査されている。また、入山峠祭祀遺跡(89)では、4世紀代から6世紀代の土師器・滑石製模造品が多量に検出されている。なお、同遺跡での祭祀は、奈良・平安時代まで継続するようである。

奈良・平安時代

原遺跡(10)では、布掘りを施す大形の掘立柱建物跡が検出され、東山道の坂本駅跡の一部と推定されている。なお、東山道は入山峠越え・碓氷峠越えの二説がある。また、五料稲荷戸遺跡では、浅間B軽石が埋没土上層に堆積する大規模な溝状遺構が検出されている。

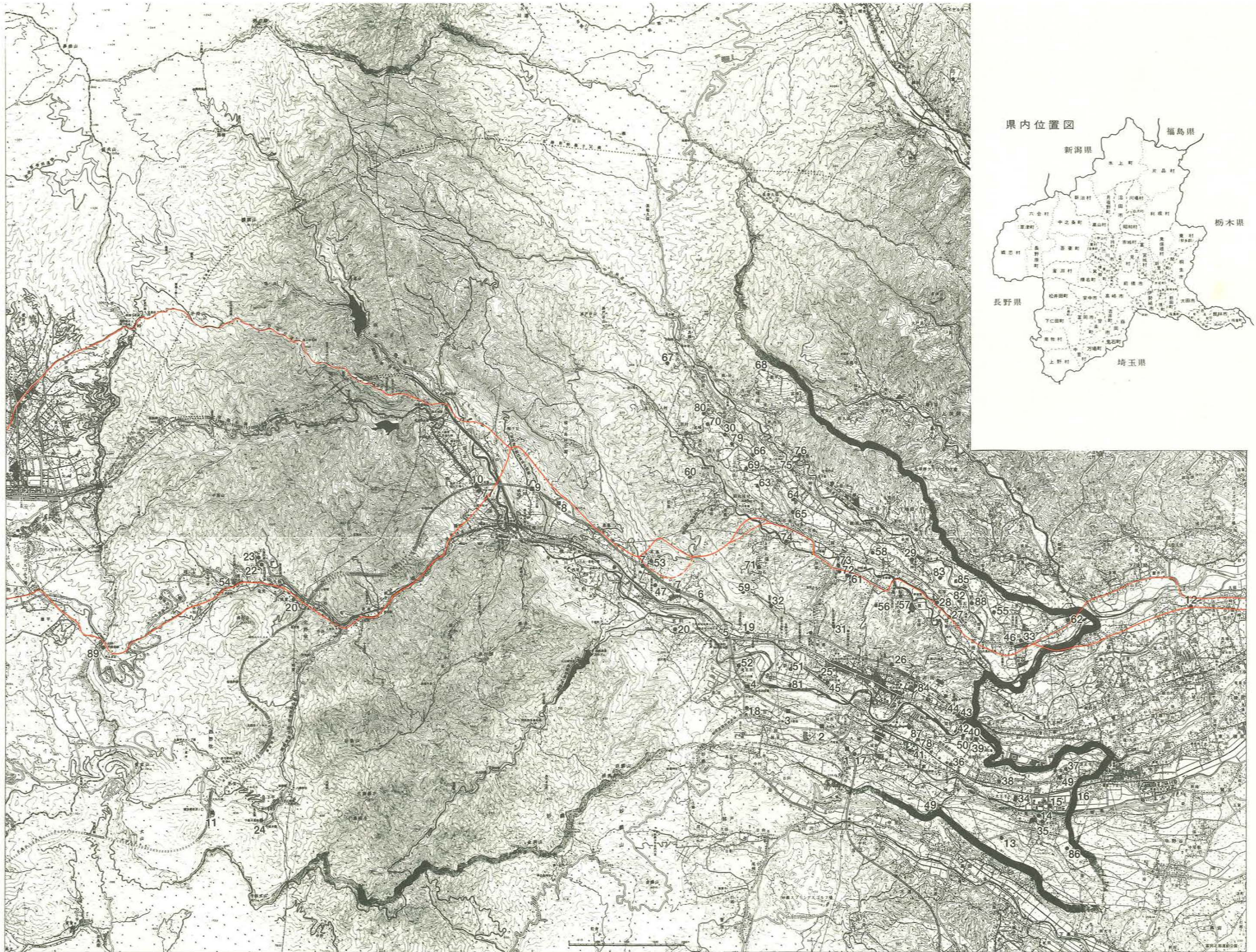
集落跡は、松井田工業団地遺跡で大規模な集落跡が調査されているほか、愛宕山遺跡(26)・仁田遺跡・暮井遺跡・人見北原遺跡(16)・五料山岸遺跡(19)・国衙遺跡・下増田天神原遺跡(29)・二軒在家二本杉遺跡などが調査されている。これらの遺跡の内、愛宕山遺跡では、皇朝十二銭の万年通宝や巡方・丸鞆が出土している。また、上信越自動車道関連では、八城二本杉東遺跡・行田梅木平遺跡・五料平遺跡(5)・五料野ヶ久保遺跡・五料稲荷谷戸遺跡・横川萩の反遺跡(9)・原遺跡で住居跡が調査されている。

生産遺跡としては、松井田工業団地遺跡や新堀陣場遺跡(25)で浅間B軽石下の水田跡が検出されている。また、高梨子碓貝戸遺跡では、同軽石下の畠跡が調査されている。近接して位置する五料山岸遺跡・五料平遺跡では、多量の須恵器が検出され、周辺に窯跡の存在が推測されている。

中・近世

城郭では、北条氏の重臣・大道寺氏の松井田城(31)が著名で、ほかに松井田西城(32)・小日向城(33)・下増田城・愛宕山城・坂本城・大王寺城・人見城・名山城などが知られている。

生産遺跡では、横川大林遺跡・下増田百石遺跡(88)・上増田長久保遺跡(80)で浅間A軽石下の畠跡が検出されている。また、人見北原遺跡では、「妙義道」と推定される道路状遺構が調査されている。



第2図 松井田町遺跡分布図

表1 松井田町遺跡一覧表(1)

No	遺跡名	時代	種別	概要
1	八城二本杉東遺跡	縄文前期・中期、弥生前期、平安	集落跡	縄文前期円山式期を主体とする集落跡。住居跡34軒、土坑218基、円形柱穴列2列、掘立柱建物跡1棟。
2	行田大道北遺跡	縄文早期～後期	集落跡	縄文前期を主体とする集落跡。住居跡117軒、敷石住居跡1軒、土坑535基、集石5基、溝3条、掘立柱建物跡4棟、ピット群等が検出され、クッキー状炭化物が出土している。
3	行田梅木平遺跡	縄文前期～後期、弥生、平安	配石遺構、集落跡	配石・配石墓群3群、住居跡35軒、土坑506基、屋外埋設土器26基、製鉄跡2基、掘立柱建物跡35棟、集石8基、溝、欄列跡。
4	新堀東源ヶ原遺跡	縄文早期～中期、弥生、古墳、平安	集落跡	縄文中期環状集落、住居跡182軒、土坑1070基、チャート剥片集中区1ヶ所、屋外埋設土器15基、掘立柱建物跡2棟、古墳2基が検出され、滑石製品・スタンブ型土製品が多量に出土している。
5	五料平遺跡	奈良・平安	集落跡	住居跡7軒、土坑77基、溝4条。集石5基、上野型短頸壺、円面硯等の須恵器が多量に出土し、他に緑釉碗。刀子、鉄族、鉄滓、紡錘車等が出土している。
6	五料野ヶ久保遺跡	縄文前期・中期・後期、奈良・平安	配石遺構、集落跡	縄文後期配石遺構、配石墓28基を主体とし、堀之内・加曾利B・高井東式の遺物が多量に出土している。他に縄文前期住居跡7軒、中期住居跡3軒。後期住居跡2軒、敷石遺構2基、集石土坑、埋設土器、奈良・平安時代住居跡2軒、溝2条を出土している。
7	五料稲荷谷戸遺跡	奈良・平安	集落跡、大形溝状遺構	住居跡23軒、掘立柱建物跡4棟、大形溝状遺構1条、畝跡3枚、道跡、溝、井戸等が検出され、大形溝状遺構は道跡の可能性が指摘されている。
8	横川大林遺跡	縄文早期・前期・中期	集落跡、土坑群	縄文早期後半絡糸体圧痕文系土器を伴う土坑群、集石、焼土跡を主体として、早期前半住居跡5軒、前期・中期住居跡4軒、近世畑跡等が検出され、黒曜石を主体とする石鏃製作関係の資料が大量に出土している。
9	横川藪の反遺跡	平安	住居跡	平安時代住居跡1軒が検出され、状況的に焼失家屋と考えられる。
10	原遺跡	奈良・平安	集落跡、掘立柱建物跡	住居跡5軒、大形掘立柱建物跡1棟、溝2条。大形掘立柱建物跡は遺構形態と立地条件より、東山道坂本駅家の可能性が指摘され、埋め戻しによる保存処理がとられている。
11	西野牧小山平遺跡	縄文中期	石棒工房跡	全国初の発見例である縄文時代中期末の石棒工房跡が検出され、注目された遺跡である。石棒は最長1mを測る大形で原石から未製品・破損品・完成品に至る各段階のものが125点出土し、石棒破片・剥片、石棒製作工具の敷き石、加曾利E3式土器等が伴う状況で出土している。
12	東山道推定路	古代	古代官道	入山峠、雁水峠の2説有り。
13	上人見遺跡	弥生	再葬墓	弥生中期の壺、甕、スクレイパー出土。
14	人見谷津遺跡	縄文～古墳、中世	住居跡	弥生後期住居跡、人見城掘切跡、縄文土器、弥生土器、土師器出土。
15	松井田工業団地遺跡	古墳～平安	集落跡、水田跡	古墳から平安時代の住居跡445軒、掘立柱建物跡11棟、B軽石下の水田跡、古墳、井戸。
16	人見北原遺跡	古墳、平安	集落跡、道路等	平安時代住居跡、ピット群、土坑、近世の道路状遺構。
17	二軒在家二本杉遺跡	縄文、平安	住居跡	縄文後期柄鏡形敷石住居及び平安時代住居跡。
18	八城赤羽根遺跡	縄文、中世	住居跡、包蔵地	縄文前期住居跡、包含層、中世堀跡。
19	五料山岸遺跡	奈良・平安	廃棄場、住居跡	奈良時代土坑1基、須恵器片集中部1、平安時代住居跡2軒。
20	五料丙小竹遺跡	縄文、平安	集落跡、土坑等	縄文中期の配石遺構1基、平安時代住居跡1軒、土坑多数。
21	北野牧狐岩遺跡	縄文	包蔵地	土器小片のみ。
22	谷井遺跡	縄文～平安	集落跡等	敷石住居を含む縄文住居跡4軒と環状列石、平安時代住居跡1軒、中世溝跡、石垣等。
23	仁田遺跡	縄文～平安	集落跡等	敷石住居を含む縄文住居跡6軒、平安時代住居跡3軒。
24	千駄木岩陰遺跡	縄文～平安	包蔵地(住居跡)	昭和48年に県と町で調査した岩陰遺跡、縄文～平安時代の遺物が多数検出、県指定史跡。
25	新堀陣場遺跡	平安	水田跡	B軽石下の平安時代水田跡。
26	愛宕山遺跡	奈良～平安	集落跡	住居跡5軒、4号住居より木工用具、装身具、紡織具、万年通宝出土。
27	国衙遺跡	縄文～平安	集落跡等	石組状遺構と石組伊1基、弥生時代住居跡3軒、古墳時代住居跡4軒、平安時代住居跡4軒。
28	国衙森浦朝日遺跡	縄文～近世	住居跡等	縄文後期柄鏡形敷石住居跡、包含層、弥生後期住居跡、山窗式円墳、江戸末期寺院跡。
29	下増田天神原遺跡	縄文、平安	住居跡、包蔵地	縄文前期包蔵地及び平安住居跡1軒、遺跡西側で三角錐形土製品出土。
30	土塩下原遺跡	縄文	住居跡、包蔵地	縄文中期住居跡2軒、集石遺構3基、炉跡1基、包含層。
31	松井田城	中世	城館跡	安中氏、武田氏を経て北条氏の重臣大道寺駿河守政繁により現在の城が形成された。天正18年(1590)年に前田利家を総大将とする北国勢により落ちる。昭和60年度林道開発計画により事前の発掘調査が行われ、青磁、古瀬戸、刀子、石臼等が出土。
32	松井田西城跡	中世	城館跡	諏訪但馬守の居城と伝えられている。
33	小日向城	中世	城館跡	松井田城の東北の出城として武田氏時代に築かれたものと思われる。
34	大王寺城	中世	城館跡	方形館跡か。上原兵庫の城と伝えられる。
35	人見城	中世	城館跡	南北朝期、足利氏に属した人見四郎忠和の館として創建され、戦国期に大改修が行われたと思われる。
36	河田陣屋	近世	単郭環壕跡	元和2年旗本政親により築かれる。
37	塚原古墳群	古墳	墳墓	10数基の小円墳群、敷基は消滅し、うち1基は前方後円墳の可能性あり。
38	西横野6号墳	古墳	墳墓	戦前の調査では直刀2振が出土。宅地内にあり墳丘部は積込になっている。
39	西横野21号墳	古墳	墳墓	墳丘部は残存しない。畑地面に玄室部の石が数個あるのみ。
40	西横野20号墳	古墳	墳墓	石室の一部を残すのみ。
41	西横野5号墳	古墳	墳墓	石室の巨石が少々存在する他はほとんど原型を留めない。
42	松井田2号墳	古墳	墳墓	ほとんど原型を留めていない。石室奥壁と側壁基部の石が少々残存。
43	松井田3号墳	古墳	墳墓	石室は土中に残存しているようである。墳丘上部は削平。

表2 松井田町遺跡一覧表(2)

No	遺跡名	時代	種別	概要
44	松井田5号墳	古墳	墳墓	墳丘は削平され、石室部が僅かに残る。本墳の他すべて横穴式石室の小円墳。
45	松井田6号墳	古墳	墳墓	(えな塚、陣場塚) 300年程前から昭和30年代までえな塚であったようだ。
46	小日向古墳群	古墳	墳墓	古墳時代末期の小円墳が密集しており、一部前方後円墳も存在する。
47	臼井7号墳(本学院)	古墳	墳墓	東西10m、南北8m、高さ3m。
48	(人見法正寺)	古墳～平安	包蔵地	土師器、須恵器が散布する。古墳群の中にあり、周辺の濃密な散布が想定される。
49	(二軒在家別所)	縄文	包蔵地	縄文中期を中心に濃密な遺物の散布が確認されている。
50	(二軒在家上座馬)	古墳～平安	包蔵地	土師器、須恵器が散布する。周辺への広がりが想定される。
51	(新堀西下原)	縄文～平安	包蔵地	縄文、土師器、須恵器、布目瓦、子持勾玉が出土した。一帯は各期の複合遺跡として濃密な分布があるものと思われる。
52	(五料滝名田)	平安	包蔵地	土器の散布が見られる。
53	(五料高墓)	中世末		板碑、磨耗が進み、年号は不明ながら小型でかなり形骸化しており、中世末期の所産と考えられる。
54	(北野牧遠入)	縄文	包蔵地	縄文時代加曾利B式期の土器が検出されている。
55	(小日向中原白田)	縄文～平安	包蔵地	縄文土器、土師器、須恵器が散布。小日向地区で古墳群と共に分布域は広がると思われる。
56	高梨子三次郎遺跡	縄文、古墳～平安	集落跡	古墳～平安時代住居跡14軒、掘立柱建物跡、土坑、溝等。
57	(高梨子中貝戸)	弥生～平安	包蔵地	周辺部は濃密な散布地。弥生、土師器、須恵器が見られる。
58	高梨子們坂	弥生	包蔵地	弥生後期の樽式土器が散布する。
59	(新井白石)	縄文	包蔵地	遺物の散布が認められる。
60	(土塩山口)	中世末		小型の板碑で記年銘等は不明。中世期の物と考えられる。
61	高梨子碓貝戸遺跡	弥生、奈良・平安	集落跡、畠跡	弥生、奈良～平安の住居跡27軒とB軽石下畠跡、集石、土坑等。
62	小日向遠地谷戸遺跡	弥生	住居跡	弥生後期樽式土器及び住居跡2軒。
63	(土塩東大久保)	縄文	包蔵地	昭和33年中期加曾利B式土器のほぼ完形品が出土。昭和35年畑の開墾の際に前期関山式土器が出土。
64	(新井上原)	縄文	包蔵地	昭和32年、中期勝坂式土器が出土。
65	(土塩畑中)	縄文	包蔵地	昭和49年、道路拡幅の際に後期堀之内式土器の完形品が出土。
66	(上増田上細野原)	縄文	包蔵地	昭和31年、後期加曾利B式土器が出土。(細野小所蔵)
67	(上増田板ヶ沢)	縄文	包蔵地	昭和11年、後期加曾利B式期の小型コップ型土器が出土。
68	(上増田宮掛～浅谷)	縄文	包蔵地	中期を中心とした土器、石器が濃密に分布している。
69	(土塩地内)	縄文	包蔵地	昭和28年～40年にかけて用水路工事が行われ、これに伴い縄文中期を中心に多くの遺物及び遺構が出土。住居床面の一部、炉、敷石部等の他67の北西では土坑が10数基検出され、該地周辺での広がりが推察される。
70	(土塩長久保)	縄文	包蔵地	中期を中心して遺物が確認されている。
71	(土塩白石)	縄文	包蔵地	中期を中心とした遺物の分布が認められ、石礫が多く見られる。(60と同一)
72	細野7号墳	古墳	墳墓	(狩家)。土毛古墳総覧によると帆立貝古墳とあるが現状では不明。昭和53年の県道工事の際に葺石の一部と須恵器、土師器片が出土。
73	細野8号	古墳	墳墓	石室部は陥没しているが全体に残存状況は良好。前方後円墳と思われる。
74	(土塩坊地)	鎌倉		建治4(1278)年の銘をもつ板碑。残長171cmと大型で頂上線、天蓋、環珞、種子(キリク、サ、サク)及び蓮座と共に下部には無量寿経念仏往生願の一節が刻まれる。
75	(上増田引ノ内)	中世末		小型の石碑で記年銘等は全く不明。箇中に所在する。
76	(上増田引ノ内)	中世末		同上。八郡に所在する。
77	原遺跡(町調査分)	縄文、奈良・平安	包蔵地、集落跡	縄文包含層及び奈良～平安期に住居跡4軒、土坑等。
78	二軒在家東光寺遺跡	縄文、平安他	集落跡	縄文住居跡2軒、平安掘立柱建物跡2棟、土坑、溝跡等。
79	土塩西大久保遺跡	縄文	包蔵地	縄文中期遺物包含層。
80	上増田長久保遺跡	縄文、近世	包蔵地、畠跡	縄文土器片少々。A下畠跡、縄文～古代(?)遺跡。
81	新堀東下原遺跡	平安	住居跡	平安時代住居跡2軒、土坑12基。
82	下増田下田中遺跡	古墳、平安	住居跡、墳墓他	古墳時代住居跡2軒、古墳周濠1、平安時代溝跡、土坑。
83	下増田上田中遺跡	縄文、古墳～平安	住居跡、墳墓他	縄文住居跡1軒、弥生土器、T字形石室円墳2基、平安住居跡1軒。
84	松井田塚越遺跡	縄文、古墳	包蔵地、住居跡	縄文時代土坑、敷石住居跡(?)1軒、古墳時代遺物包含層。
85	下増田十二平遺跡	平安	住居跡	平安時代住居跡2軒、土坑。
86	人見東原遺跡	古墳	集落跡	古墳時代住居跡3軒。
87	八城三日市遺跡	縄文、平安	集落跡	縄文中期住居跡4軒、土坑12基、平安時代溝跡。
88	下増田百石遺跡	古墳、近世	住居跡、畠跡	古墳時代住居跡1軒、A下畠跡。
89	入山峠祭祀遺跡	縄文、近世	祭祀跡	古墳時代前期を中心とする祭祀遺跡、滑石製模造品を主体として土師器、須恵器、銅銭等が出土している。

第3節 調査会の経過

松井田町遺跡調査会は昭和62年度に組織され、西野牧小山平遺跡の確認調査から開始し、平成8年度の報告書刊行をもって解散した。調査組織は以下の通りである。

表3 松井田町遺跡調査会組織表1（昭和62年度～平成3年度）

組 織	年 度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度
		氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
職 名	役 職	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
会 長	町 長	中山治秀	武田弘	武田弘	武田弘	武田弘
副 会 長	教 育 長	小板橋文夫	小板橋文夫	宮下初太郎	宮下初太郎	宮下初太郎
理 事	教 育 委 員 長	宇佐美忠一	宇佐美忠一	宇佐美忠一	宇佐美忠一	佐藤博昭
	文化財調査委員	小林二三雄	小林二三雄	関光保	関光保	関光保
	文化財調査委員	上原富次	上原富次	上原富次	上原富次	上原富次
	総務課長	坂本克朋	坂本克朋	寺嶋正行	春原直方	上原坦
	企画課長	上原坦	上原坦	上原収	上原収	上原収
	財政課長	上原長男	春原直方	萩原修一	白石敏行	白石敏行
	社会教育課長	白石敏行	土屋眞	土屋眞	土屋眞	土屋眞
顧 問	県企画部交通対策課長	町田達男	小野宇三郎	小野宇三郎	小野宇三郎	磯貝弘二
	県教委管理部参事文化財保護課長	梅沢重昭	梅沢重昭	梅沢重昭	梅沢重昭	
	県教委管理部文化財保護課長					上月正博
	日本道路公団富岡工事事務所長	栗原紀一	栗原紀一	栗原紀一	倉沢貞夫	倉沢貞夫
	日本道路公団佐久工事事務所長	蛭川友司	蛭川友司			
山武考古学研究所長	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	
監 事	監 査 委 員	松本武夫	松本武夫	松本武夫	佐藤敏夫	須藤祐伸
	収 入 役	小板橋正昭	小板橋正昭	内田武夫	寺嶋正行	寺嶋正行
事 務 局 長	文化財保護係長	伊藤節夫	伊藤節夫	伊藤節夫	伊藤節夫	清水博
	社会教育課課長補佐文化財保護係長					
事 務 員	文化財保護係主事	水澤祝彦	水澤祝彦	水澤祝彦	水澤祝彦	水澤祝彦
	松井田町遺跡調査会臨時職員	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子

表4 松井田町遺跡調査会組織表2 (平成4年度～平成8年度)

組 織		年 度				
		平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
職 名	役 職	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
会 長	町 長	武田 弘	武田 弘	武田 弘	武田 弘	武田 弘
副 会 長	教 育 長	宮下初太郎	宮下初太郎	稲塚 勇	稲塚 勇	稲塚 勇
理 事	教育委員長	中島 久	山賀基宏	山賀基宏	山賀基宏	山賀基宏
	文化財調査委員	関光 保	上原富次	上原富次	上原富次	上原富次
	文化財調査委員	上原富次	佐藤義一	佐藤義一	佐藤義一	佐藤義一
	総務課長	上原 坦	白石敏行	白石敏行	白石敏行	白石敏行
	企画課長	上原 収	武井貞夫	武井貞夫	武井貞夫	武井貞夫
	財政課長	白石敏行	土屋 眞	土屋 眞	土屋 眞	土屋 眞
	社会教育課長	土屋 眞	金谷宏二	金谷宏二	金谷宏二	金谷宏二
顧 問	県企画部交通対策課長	青木 茂一				
	県土木道路建設課長		武井上 巳	武井上 巳	高橋丑五郎	高橋丑五郎
	県教委管理部参事文化財保護課長	上月正博	荒畑大治	荒畑大治	荒畑大治	
	県教委文化スポーツ部文化財保護課長					土田 明
	日本道路公団富岡工事事務所長	佐々木芳文	佐々木芳文			
	日本道路公団佐久工事事務所長			土井俊二	土井俊二	村上友章
山武考古学研究所長	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	平岡和夫	
監 事	監 査 委 員	須藤祐伸	須藤祐伸	須藤祐伸	中山公平	中山公平
	収 入 役	寺嶋正行	寺嶋正行	寺嶋正行	寺嶋正行	寺嶋正行
事 務 局 長	社会教育課課長補佐 文化財保護係長	清水 博	清水 博	清水 博	佐野興伸	佐野興伸
事 務 員	文化財保護係主事	水澤祝彦	田口 修	田口 修	田口 修	田口 修
	松井田町遺跡調査会臨時職員	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子	中澤美江子

I 八城二本杉東遺跡



207号土抗出土遺物

第1章 遺跡の立地と基本層序

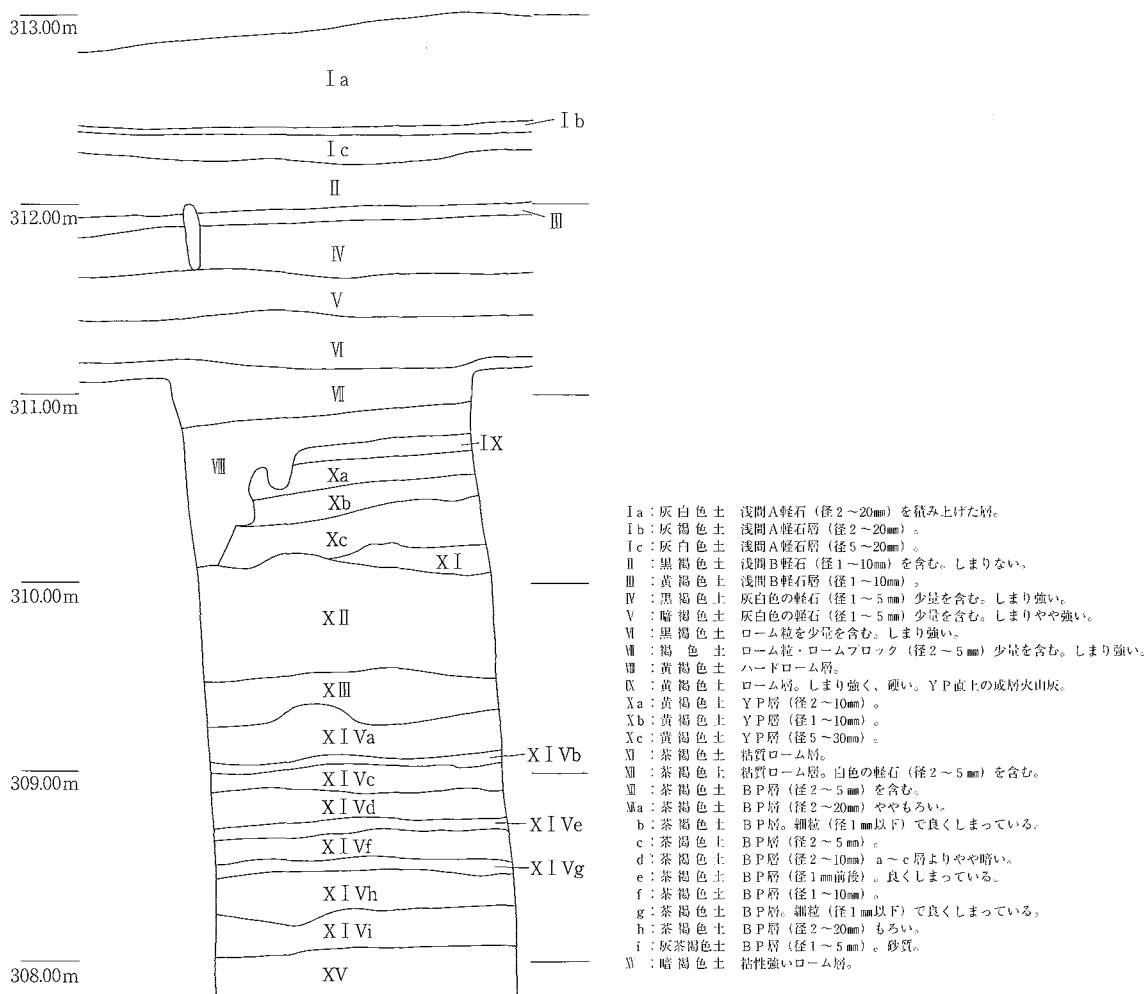
第1節 遺跡の立地

本遺跡はJR松井田駅の南南西約0.7km、主要地方道松井田・下仁田線の東側に位置する。碓氷川右岸の西横野丘陵に立地し、標高は305m～315mで西方から東方に向かって緩やかに傾斜する。西横野丘陵は西方約4kmに位置する妙義山の山稜から派生し、東方の安中市域まで帯状に展開している。

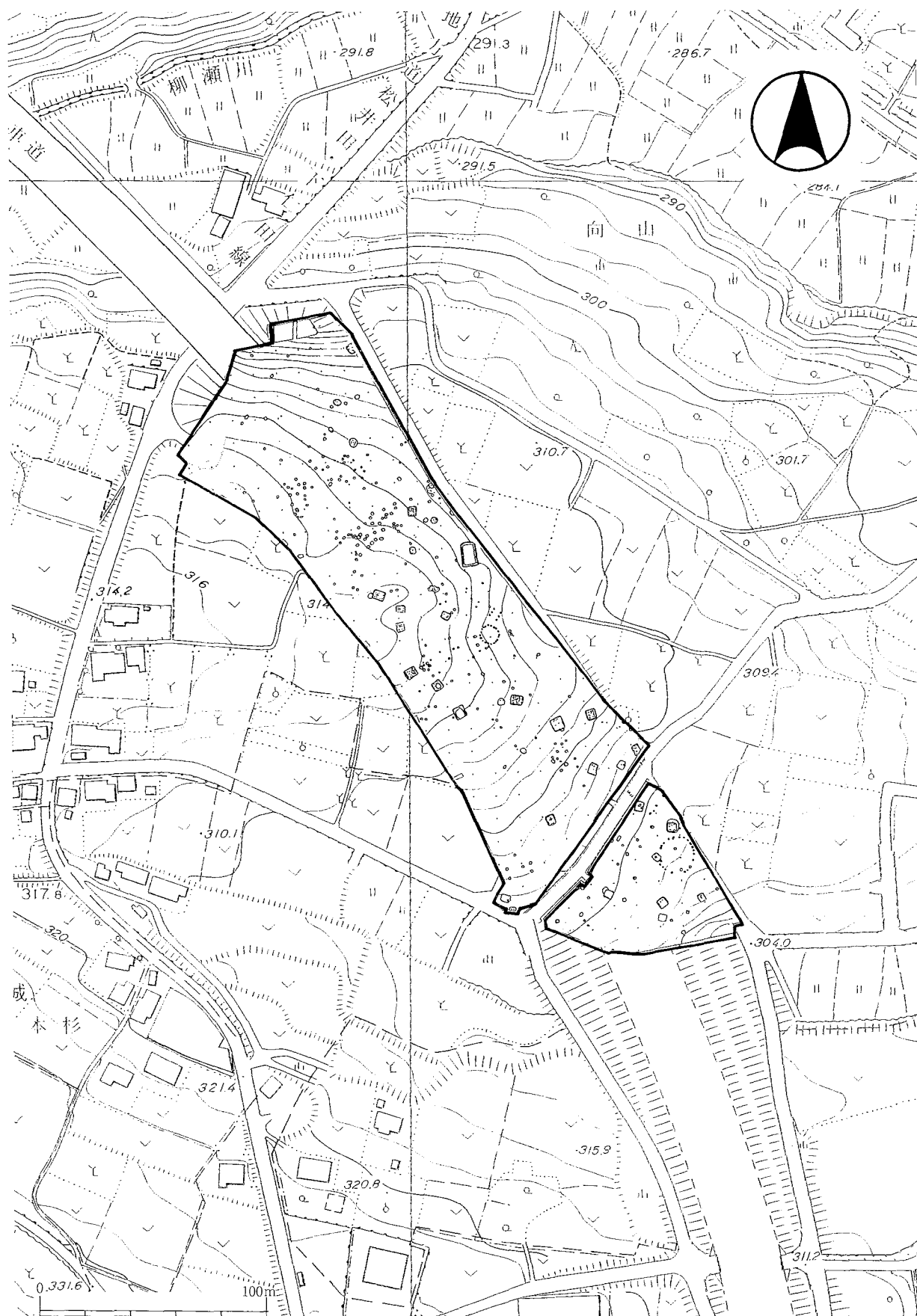
本遺跡の北西には柳瀬川の谷をはさんで、縄文時代前期黒浜～諸磯式期を中心とする集落遺跡である行田大道北遺跡が近接する。

第2節 基本層序

第3図はM23グリッドで観察したものである。他の地点においても多少の差異はあるものの、ほぼ同様な層序を示している。弥生時代及び平安時代の遺構はV層上面において確認でき、その下層（VI層）の黒褐色土中に、縄文時代前期から中期初頭にかけての遺物包含層が一部に存在する。縄文時代前期の遺構はVII層中～VIII層上面において確認することができた。X層以下にはYP及びBP層の厚い堆積がみられた。



第3図 基本層序



第4図 八城二本杉東遺跡の位置 (S=1:2,500)

第2章 調査の方法と経過

第1節 発掘調査

八城二本杉東遺跡（事業名：八城遺跡）は群馬県教育委員会が昭和59年度に実施した現地踏査の結果、対象地区全面に縄文時代の遺物が濃密に分布する地区に指定された。

表土除去に先立ち、2m×2mの試掘坑51か所を任意に設定し、遺構確認面までの土層の状態や、遺構・遺物の分布状態を大まかに把握した。その結果、縄文時代前期の遺構確認面の土層に縄文時代中期初頭及び弥生時代等の遺構・遺物の存在が確認され、これらの遺構が検出された地点は2面調査を行った。また、本格的な旧石器時代の調査は行っていないが、ローム層上面及び一部の調査地点において掘り下げた基本土層観察用坑からは旧石器時代の遺物は検出されなかった。

各遺構は埋没状態・構築状態・遺物出土状態の観察・記録を行った。

遺構測量は、国家公共座標（第Ⅸ系）を基準に10m×10mのグリッドを設定して行った。グリッド名は、北西角を基点に西から東にアルファベットを、北から南に算用数字を付し、A-1グリッドのように表記した。遺構実測図は、1/20縮尺を基本とし、炉跡・カマド等を1/10縮尺、円形柱穴列等を1/40縮尺で作図した。また、地形測量図は1/500縮尺、遺跡全体図は1/200縮尺で作成した。

写真撮影は調査の各過程で随時行い、白黒6×7判・白黒35mm・カラースライド35mmのフィルムを使用した。調査進行状況は白黒35mmでも記録してある。また、遺跡の全景写真はバルーン空撮で行った。

調査経過の概略は下記の通りである。

昭和63年

3月期 8日：発掘調査を開始する。調査区南東側を中心に試掘坑を任意に設定して掘り下げを行う（～10日）。11日：表土除去を南東側より開始する。23・24日：調査区中央部を中心に試掘坑の掘り下げを行う。また、南東側の遺構確認精査を開始する（～31日）。試掘坑調査の結果、調査区南東側はローム層上面を遺構確認面とし、同じく中央部は包含層が確認されたため同層からの調査を行うことにした。調査区南東側の遺構は縄文時代前期関山式期が中心である。なお、調査区中央部の試掘坑調査時に石剣が出土している。

4月期 先月期に引き続き、調査区南東側の遺構確認精査を行う（～7日）。並行して表土除去を行う（～30日）。6日・7日：基本層序を観察するための試掘坑を任意に4か所設定し、B P層まで掘り下げを行った。試掘坑部分に限っては旧石器時代の



昭和63年 4月20日



昭和63年 6月9日

遺物は出土しなかった。11日：各遺構の調査を開始する。測量基準杭の設置を行う。16日：V-25~W26グリッドにかけて円形に巡る土坑群が検出され、1号円形柱穴列として調査を進める。調査区中央部の遺物包含層は縄文時代中期初頭が中心とみられ、当該期の土坑の存在が想定される。

5月期 上旬：調査区南東側の調査に並行して中央部の確認精査を行う。9日：調査区南東側の空撮を行い、13日に同地区の調査を終了する。13日：調査区北側及び中央部南側の表土除去（～24日）。北側は遺構の分布が薄いようである。中央部の遺物包含層下には縄文時代中期初頭の土坑群が存在する。26日：中央部南端において平安時代の住居跡2軒が検出された。

6月期 遺構調査を継続する。2号円形柱穴列・1号掘立柱建物跡が検出される。出土遺物はないが、確認面から判断して縄文時代前期のものである可能性が高い。8日：中央部東側を中心に空撮を行う。15日：調査区北側の表土除去を行う（30日）。弥生時代の土坑が検出されたため、同地区も一部2面調査を行うことにした。

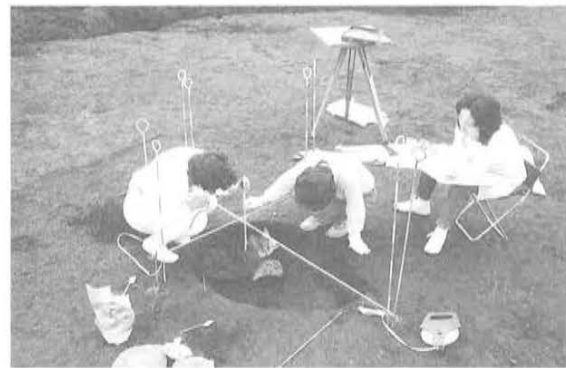
7月期 遺構調査を継続する。検出されている遺構は縄文時代前期関山式期のものであるが、同中期初頭や弥生時代の土坑も比較的多い。166号土坑は再葬墓と思われる。甕と条痕文系の壺が出土している。遺跡全体図の作成を行う。12日：群馬県教育委員会による終了確認。19日：空撮を行い、調査区中央部の未調査部分を除いて調査終了。22日：未調査部分の調査に着手する。表土除去を行う（26日）。27日：遺物包含層の調査及び遺構確認精査を行う（31日）。包含層からは縄文時代中期初頭の遺物が多く出土している。



昭和63年6月23日



昭和63年6月29日



昭和63年7月6日



昭和63年7月27日

8 月期 未調査部分から新たに検出された遺構の調査を行う。住居跡はいずれも縄文時代前期関山式期のものと思われるが、中期初頭の遺物も散見される。29日：同地区の全景写真撮影を行う。

9 月期 1日：遺構実測・写真撮影をすべて終了し、本遺跡の現地調査の全工程を終了する。



昭和63年 8 月29日

第2節 整理調査

遺物水洗い・注記及び写真・図面等の整理は、一部発掘調査に並行して進めており、その際、遺跡名の記載は事業名である「八城遺跡」を用いている。遺跡名はその後「八城二本杉東遺跡」に変更されたが、各資料（遺物収納箱・写真アルバム・図面ケース、等）の遺跡名の記載は事業名の「八城遺跡」のままとした。

本遺跡では、次章に述べる通り縄文時代前期・中期、弥生時代前期、平安時代の遺構・遺物が検出されている。整理調査は、発掘調査で得られた資料をもとに報告書によって遺跡の全体像、個々の遺構の状態、出土遺物の状況が客観的に把握できるようにとの方針で実施した。また、各時期ごとに遺構の分布状況を明確にするため、遺構検出層位や出土遺物をもとに遺構の時期判別を行い、時期別の遺構図を作成した。

出土遺物は、すべて水洗いを行い、基本的に小破片を除いて注記したが、石鏃等はパッケージに収納し、パッケージに遺跡名・出土地点等を明記してある。注記はホワイトで行い、ニスでコーティングした。注記には下記のような略称を用いた。

八城遺跡……MY 住居跡……H 土坑……土 グリッド……グ

遺物の接合・復元は可能な限り行った。接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂修復剤（バイサム）を用いたが、基本的に補強を目的としたもので、一部を除き完形品にまでは復元していない。なお、石剣については専門機関に修復を委託している。

出土遺物は、各遺構ごとに個々の土器・石器の種別・石材・数量を記録した上で、報告書掲載遺物を選別し、その際、最終的な遺構の時期を判断した。

遺物写真は報告書掲載遺物について撮影し、基本的に白黒6×7判フィルムに記録した。遺物実測も報告書掲載遺物について行い、1/1縮尺で作図した。遺物実測には、一部に長焦点レンズを使用した写実測を行っている。また、必要に応じて拓本図を作成している。拓本用紙には雁皮半紙（「若草」）を用いている。遺物トレースにはロットリング及び丸ペンを用いた。版組は基本的に3倍台紙を使用した。

整理調査終了後の遺物は、報告書に使用したものと不使用のものに分け、さらに各遺構ごとに分けて遺物収納箱もしくは専用段ボール箱に収納した。遺物収納の際には、各遺物をミナパックなどで梱包して保護してある。また、各遺物収納箱の小口には遺跡名・遺構名・報告書使用の有無等を明記してある。

遺構図面は、各遺構ごとに検討を加え一部修正を行った後、報告書掲載のものについて、トレース・版組を行った。土坑については一覧表を作成した。トレースはロットリングを用い、版組は基本的に3倍台紙を使用した。

遺構・遺物実測図は各遺構ごとに整理し、図面ケースに収納した。また、遺構図面・写真、遺物図面・写真の各台帳を作成した。

第3章 遺構と遺物

第1節 概要

本遺跡からは縄文時代、弥生時代、平安時代の遺構・遺物が検出されている。

縄文時代

検出された住居跡は32軒で、前期関山式期のもの25軒、同じく諸磯a式期のもの2軒、中期五領ヶ台式期のもの2軒、時期不明3軒である。このほか円形柱穴列2基、掘立柱建物跡1棟、土坑205基がある。主体となるのは関山式期の集落跡であるが、五領ヶ台式期の遺構も多い。なお、33号住居跡を218号土坑に名称変更している。

関山式期の住居跡は2基の円形柱穴列を取り巻くように2群に分かれて分布する状態にある。いずれの住居跡も重複することなく、ある程度の距離を置いて構築されている。住居跡の平面形態はおおむね長方形で、壁柱穴列や石囲い炉を有するものが多い。N-12グリッドに位置する22号住居跡は大形のもので堅穴外に柱穴列が巡っている。6号住居跡からは滑石製の垂飾が出土している。時期的には関山Ⅱ式期のものが大半であるが、関山Ⅰ式期の遺物も散見される。

1号柱穴列は直径15.5～16.0m、2号柱穴列は直径8.0mで、2基は130mほど離れて位置する。これら円形柱穴列や掘立柱建物跡は伴出遺物がなく、一概に遺構の時期を判断し難いが、住居跡等の遺構の分布状況や埋没土の特徴から関山式期のものと想定しておきたい。

五領ヶ台式期の住居跡は平面円形で、34号住居跡の中央部には土器埋設の炉が構築されていた。

土坑の内、時期を判断できたものは84基で、前期と考えられるものは7基と少なく、残り77基が中期初頭の五領ヶ台式期～阿玉台式期のものである。後者は当該期住居跡の後背に土坑群を形成している。特にI-10～J-11グリッドにかけては密な分布状態にある。121基については出土遺物がなく、明確な時期は不明であるが、遺構確認面の層位的な状況から縄文時代の遺構と考えておきたい。

また、遺物包含層中からは、前期関山式・黒浜式・諸磯式・十三菩提式、中期五領ヶ台式期・阿玉台式・加曾利E式等の遺物が出土しているが、五領ヶ台式期の遺物が多い傾向にある。

弥生時代

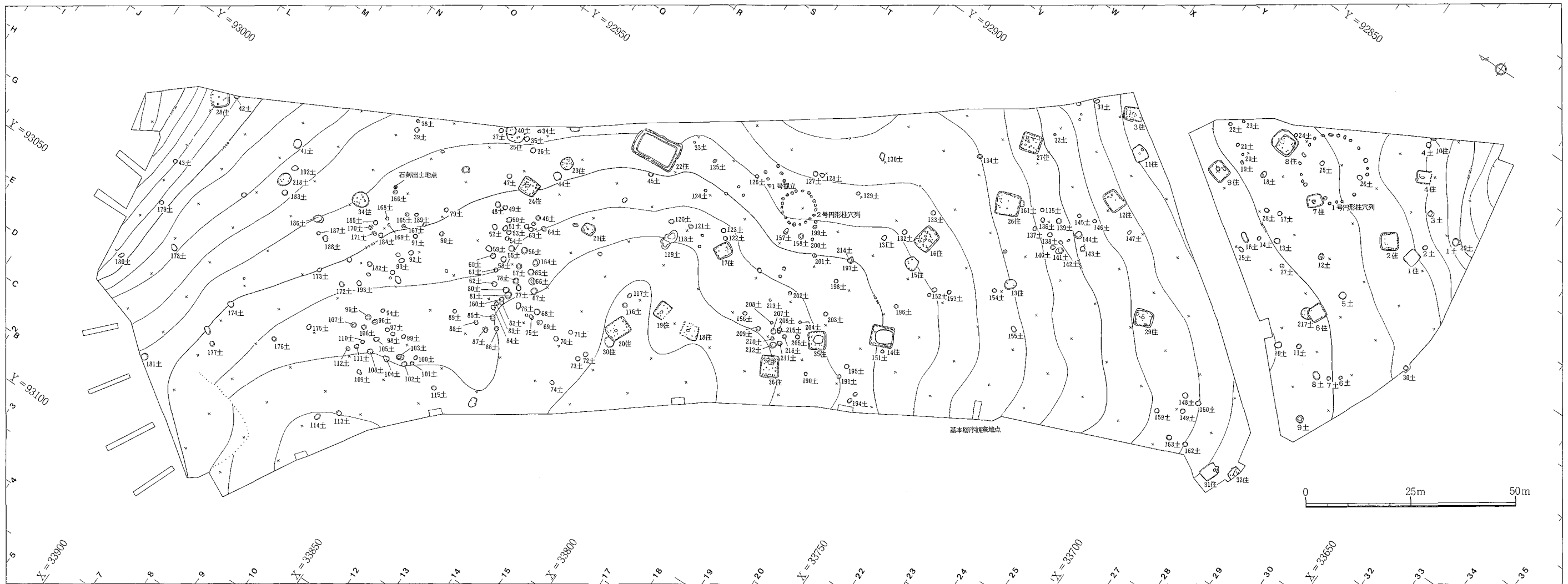
土坑13基が検出されている。I-7～H-8グリッドに10基が集中する。いずれもの土坑からも前期後半もしくは中期前半の遺物が出土しており、群馬県内における弥生時代黎明期の資料が得られている。平面形態は円形もしくは楕円形である。

166号土坑からは人頭大の礫とともに、壺と甕が出土している。同土坑は遺物出土状態から再葬墓の可能性が考えられるが、副葬品・骨片等は検出されていない。

また、確認調査時にこれら土坑群の近接地点から石剣が出土している。細粒砂岩（シルト岩）製で杷の部分に紐状のものを巻つけていた痕跡がある。弥生時代土坑群との関連性が考えられるが、確証はない。

平安時代

調査区南西端のO-27～28グリッドから住居跡2軒が検出されている。カマドは、31号住居跡は東側に、32号住居跡は北側に構築されている。32号住居跡のカマドは板状の安山岩を使用した石組みのもので、カマド内から「コ」の字状口縁の土師器甕が出土している。



第5図 八城二木杉東遺跡全体図

第2節 縄文時代

(1) 住居跡

1号住居跡（遺構：第6図、P L 4 / 遺物：第36・37図、P L 36、観察表P 146）

位置：V-28グリッド。検出状態：上面は攪乱を受けている。平面形態：長方形。規模：3.37m×2.84m。床面積：9.3㎡。残存深度：30cm。長軸方位：N-73°-W。床面の状態：多少の凹凸がみられるが全体的にはほぼ平坦である。炉跡周辺に硬化した部分がみられた。壁面の状態：ほぼ垂直に立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続し、南東部は2重に検出されている。そのほか、炉跡を囲うように深さ20~36cmのピット4基があり、また、炉跡西側に近接して深さ23cmのピットが位置する。炉跡：中央部やや西寄りに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は72cm×58cm、深さ11cm。河原石をコの字状に配している。炉跡内から焼土・炭化物・灰等は確認されなかった。遺構埋没状態：Y Pやロームブロック等を含む黒色土・黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片127点、石器（石錐1、打製石斧1、スクレイパー6、石匙1、磨石・凹石7、石鉢1、敲石1、砥石2、剥片その他26点）を確認している。このほか少量の炭化材を検出している。掲載遺物、土器13点、石器7点。

2号住居跡（遺構：第7図、P L 4 / 遺物：第38図、P L 36、観察表P 146）

位置：V-27グリッド。検出状態：遺構中央部を広範に攪乱を受けているほか、南側隅部も攪乱を受けている。平面形態：長方形。規模：5.50m×3.99m。床面積：推定21.6㎡。残存深度：19cm。長軸方位：N-38°-W。床面の状態：多少の凹凸がある。全体的に硬くしまっている。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：幅20cm前後の浅い壁周溝が巡る。柱穴：壁柱穴が連続する。壁柱穴列は北東側及び南西側は2重に、南東部は4重に検出されている。炉跡：攪乱のため残存しない。遺構埋没状態：黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：土器片・石器類が散在するような状態であった。備考：壁柱穴列の状態から拡張された可能性がある。時期：前期関山式期。

遺物：土器片30点、石器（スクレイパー2、石匙1、磨石・凹石2、石皿1、剥片その他11点）を確認している。掲載遺物、土器3点、石器4点。

3号住居跡（遺構：第8図、P L 5 / 遺物：第39図、P L 37、観察表P 146）

位置：U-21グリッド。検出状態：南東一部が調査区外。平面形態：長方形。規模：推定4.58m×3.02m。床面積：全容不明であるが13.5㎡前後と推定される。残存深度：50cm。長軸方位：N-25°-W。床面の状態：全体的に平坦で、硬くしまっている。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。北西側は3重に検出されている。そのほか、炉跡周辺にピット数基が位置する。炉跡：中央部に位置。平面形態は不整楕円形で、規模は102cm×57cm、深さ16cm。奥に河原石を置き、両脇に土器片を配して全体としてコの字状を呈している。炉跡中央部にピットがある。炉跡埋没土中から少量の焼土粒が検出されている。遺構埋没状態：Y Pやロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：炉跡使用の土器片のほか、埋没土中に土器片・石器片が散在するような状態であった。備考：壁柱穴列の状態から拡張された可能性がある。時期：前期関山式期。

遺物：土器片31点、石器（スクレイパー1、磨石・凹石4、石皿1、剥片その他16点）を確認している。掲載遺物、土器3点、石器3点。

4号住居跡（遺構：第9図、P L 5・6）

位置：W-27グリッド。検出状態：南東壁は削平されている。平面形態：長方形。規模：3.40m×2.84m。床面積：9.5㎡。残存深度：11cm。長軸方位：N-28°-W。床面の状態：多少の凹凸がある。全体的に硬くしまっている。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：南東側で一部途切れるが、ほぼ全周する。柱穴：壁柱穴が巡る。また、炉跡北西側に深さ58cm及び68cmの柱穴2基が位置する。そのほか、小ピット数基がある。炉跡：中央部やや北西寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は95cm×48cm、深さ22cm。炉跡中央部に細長い河原石を置き、両脇に小振りな河原石を配してコの字状に囲んでいる。石囲い部分の底面には32cm×23cm・厚さ9cmの平坦な河原石が置かれているが、この石に顕著な被熱痕は認められない。炉石北西部分の地山には顕著な被熱痕がみられる。炉跡埋没土中から少量の焼土粒が検出されている。遺構埋没状態：YPやローム粒を含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中からごく少量の遺物が出土している程度であった。備考：遺構南西部に小ピットと壁周溝を結ぶ細い溝があるが、規模的に間仕切り溝とは考えにくく、性格は不明である。時期：出土遺物が少ないが前期関山式期の可能性が高い。遺物：土器片2点、石器(スクレイパー3、磨石・凹石3、剥片その他14点)を確認している。掲載遺物0点。

6号住居跡（遺構：第10図、P L 5・6／遺物：第40・41図、P L 37、観察表P146）

位置：S-27グリッド。検出状態：北側隅部を217号土坑に切られる。平面形態：長方形。規模：3.68m×3.18m。床面積：11.3㎡。残存深度：19cm。長軸方位：N-64°-W。床面の状態：やや凹凸がみられる。南側に地山が被熱した部分が2か所ある。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：壁柱穴が連続する。また、炉跡南東側に深さ38cmと35cmの柱穴(P3・P4)がある。P1～P6の6基を主柱穴と判断したが、P1・P3・P5は直線ラインに位置するのに対し、P2・P4・P6の配置は直線ラインではない状態にある。炉跡：中央部やや北西寄りに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は74cm×54cm、深さ12cm。細長い礫2点がL字状に残存する。本来は礫がコの字状に配されていたと推測されるが、北東部分には炉跡内やその近接地点から出土した土器片が利用されていた可能性も考えられる。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没する。北側に217号土坑構築時のものと思われる貼り床が確認されている。遺物出土状態：炉跡周辺からの出土が比較的多い。南側焼土付近からは滑石製垂飾が出土している。時期：前期関山式期。遺物：土器片300点、滑石製垂飾1点、石器(スクレイパー3、石匙2、磨石・凹石6、剥片その他46点)を確認している。土器は関山I式が主体である。掲載遺物、土器12点、石器類7点。

7号住居跡（遺構：第11図、P L 7・17／遺物：第42・43図、P L 38、観察表P146）

位置：U-25グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：隅丸長方形。規模：3.38m×2.74m。床面積：8.7㎡。残存深度：64cm。長軸方位：N-48°-W。床面の状態：YP層中に床面を構築する。炉跡周辺は硬くしまっている。壁面の状態：75～85°の勾配で立ち上がる。壁周溝：幅10～25cm程度の浅い溝が全周する。柱穴：壁柱穴が巡るが、小規模なものが多く、柱穴の間隔もややまばらである。そのほか、炉跡北西及び南西にピットが位置する。南西部のピットは深く(45cm)掘りこまれている。炉跡：中央部に位置。平面形態は不整楕円形で、規模は74cm×54cm、深さ16cm。底面はYP層下の粘質土層にまで及ぶ。9点の礫をコの字状に配し、奥側の礫は比較的大振りで、被熱痕が認められる。炉跡埋没土中から少量の炭化物が検出されている。また、炉跡西側に焼土の分布がみられる。遺構埋没状態：YP及びロームブロックを含む黒色土・黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であるが、比較的

炉跡周辺からの出土が多かった。炉跡の南東から石皿が出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片194点、石器（打製石斧1、スクレイパー2、磨石・凹石5、石皿2、棒状礫1、剥片その他25点）を確認している。土器には関山Ⅰ式期のものもみられるが、同Ⅱ式のものが多い。深鉢には片口土器もみられる。このほか少量の炭化材が検出されている。掲載遺物、土器15点、石器3点。

9号住居跡（遺構：第12図、P L 7・17／遺物：第44～46図、P L 39・40、観察表P 147）

位置：U-23グリッド。検出状態：比較的良好な状態で遺存していた。平面形態：長方形。規模：4.10m×3.66m。床面積：14.8㎡。残存深度：48cm。長軸方位：N-18°-E。床面の状態：全体的に平坦で、硬くしまっている。壁面の状態：70～80°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。そのほか炉跡周辺に小ピット6基がある。炉跡：中央部やや北寄りに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は112cm×77cm、深さ15cm。コの字状に礫を配し、囲まれた部分に平坦な礫を置いている。いずれの礫にも被熱痕が認められ、囲まれた部分に置かれた平坦な礫は顕著に焼けた状態であった。また、炉跡北側と東側に焼土が分布していた。遺構埋没状態：Y P及びロームブロックを含む黒色土・黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：炉跡南側から石皿が置かれたような状態で出土しているほか、床面付近及び埋没土中に散在するような状態であった。備考：東壁中央付近に100cm×65cmの長方形の浅いくぼみがあるが、どのような性格のものか判断できなかった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片368点、石器（石鏃2、スクレイパー1、磨石・凹石8、石皿1、剥片その他51点）を確認している。石皿（26）にはベンガラ状赤褐色物の付着が認められた。掲載遺物、土器25点、石器6点。

10号住居跡（遺構：第13図、P L 17／遺物：第47図、P L 40、観察表P 147）

位置：X-27グリッド。検出状態：大半が調査区外で、南西隅部を調査したのみである。平面形態：不明。規模：不明。床面積：不明。残存深度：25cm。長軸方位：不明。床面の状態：調査範囲においては平坦である。壁面の状態：調査範囲が少なく判断できない。柱穴：調査範囲の壁付近にピット2基があり、壁柱穴が存在する可能性がある。炉跡：調査範囲内において検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：調査範囲内において埋没土中から少量の遺物が出土している程度である。時期：前期関山期と想定される。

遺物：土器片2点、石器（剥片1点）を確認している。掲載遺物、土器1点、石器0点。

11号住居跡（遺構：第14図、P L 8／遺物：第48図、P L 40、観察表P 147）

位置：T-21グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：隅丸長方形。楕円形に近い形態である。規模：3.66m×2.64m。床面積：9.7㎡。残存深度：40cm。長軸方位：N-30°-E。床面の状態：南側に向かってわずかな傾斜がある。多少の凹凸はあるが、全体的に平坦で、硬くしまっている。壁面の状態：70～75°の勾配で立ち上がる。壁周溝：幅16～28cmの溝が全周する。柱穴：北東壁際に2基、南西壁際に2基の柱穴がある。炉跡：中央部に位置。平面形態は楕円形で、規模は64cm×38cm、深さ8cm。底面中央部の地山に被熱痕が認められる。石囲い施設はみられなかった。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：床面付近及び埋没土中に少量の遺物が散在するような状態であった。備考：東側に平面形態楕円形、規模78cm×45cm、深さ20cmの掘り込みがあるが、性格については判断できなかった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片23点、石器（打製石斧1、磨石・凹石5、敲石1、磨製石斧1、剥片その他3点）を確認している。掲載遺物、土器3点、石器3点。

12号住居跡（遺構：第15図、P L 8・17／遺物：第49・50図、P L 40・41、観察表P147）

位置：S-21グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：南辺の長い台形。規模：4.52m×3.24m。床面積：14.6㎡。残存深度：40cm。長軸方位：N-22°-E。床面の状態：Y P 上位の成層火山灰層を床面としている。中央部3.5m×1.7mほどは不整形に数cm低い状態にある。壁面の状態：70°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：細い溝が西側部分でのみ確認された。柱穴：壁柱穴が巡る。そのほか数基のピットがあるが、炉跡北東側のP1・P2や炉跡南東側のP3、南側壁沿いに位置するP4・P5の5基は深さ40～55cmで規模も比較的大きく、支柱穴の可能性もある。炉跡：中央部やや北東寄りに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は84cm×48cm、深さ5cm。礫と土器片をL字状に配している。炉跡内からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：Y Pと思われる褐色軽石等を含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：床面付近及び埋没土中に散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片227点、石器（石鏃4、石錐4、スクレイパー3、磨石・凹石6、石皿1、剥片その他200点）を確認している。土器片10は炉に使用されていたものである。掲載遺物、土器17点、石器8点。

14号住居跡（遺構：第16図、P L 9／遺物：第51図、P L 41・42、観察表P148）

位置：M-19グリッド。検出状態：中央部に平面形態楕円形、規模約4.4m×3.5m、床面からの深さ20～30cmの掘り込みがあり、床面の大半がこの掘り込みによって壊されているような状態である。他の遺構が重複していた可能性もあるが、埋没状態や遺物出土状態からは明確に把握することはできなかった。掘り方もしくは床下土坑とも考えにくく、性格については不明である。平面形態：長方形。規模：5.12m×4.58m。床面積：23.5㎡。残存深度：床面まで60cm。楕円形の掘り込み底面まで90cm。長軸方位：N-22°-W。床面の状態：多少の凹凸がある。先述の楕円形の掘り込み底面は、全体的に平坦である。壁面の状態：80～85°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続するが、楕円形の掘り込みが接する南東壁側では検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：Y P及びロームブロックを含む黒褐色土・黒色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片275点、石器（石鏃1、石匙2、磨石・凹石7、敲石1、石核1、剥片その他106点）を確認している。掲載遺物、土器14点、石器4点。

16号住居跡（遺構：第17図、P L 9・17／遺物：第52図、P L 42・43、観察表P148）

位置：P-18グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：長方形。規模：5.04m×3.80m。床面積：19.0㎡。残存深度：70cm。長軸方位：N-81°-W。床面の状態：Y P層中に床面を構築し、全体的に硬くしまっている。東側に間仕切り状の溝がある。壁面の状態：70～80°の勾配で立ち上がる。壁周溝：南西側一部でのみ検出されている。柱穴：壁柱穴が連続する。炉跡東側の2基と東側壁際の2基は深さ45～65cmと比較的規模の大きいもので、支柱穴の可能性もある。先述の間仕切り状溝に沿って小ピットが位置するほか、小ピットが不規則な配置で検出されている。炉跡：中央部西寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は110cm×74cm、深さ30cm。東側に埋設土器を配し、炉体としている。また、埋設土器に接して河原石が検出されている。炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：Y P・ロームブロ

ック等を含む黒褐色土・黒色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：炉跡出土の埋設土器のほか、埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片88点（埋設土器1を含む）、石器（スクレイパー2、石匙1、磨石・凹石3、石皿2、石核2、剥片その他23点）を確認している。掲載遺物、土器8点、石器5点。

17号住居跡（遺構：第18図、P L 10／遺物：第53図、P L 43、観察表P 148）

位置：M-14グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：長方形。規模：3.70m×2.86m。床面積：10.5㎡。残存深度：50cm。長軸方位：N-58°-W。床面の状態：Y P層中に床面を構築し、全体的に硬くしまっている。炉跡周辺がわずかに低くなる。壁面の状態：60~80°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。そのほか、炉跡南東部に小ピットが集中する。炉跡：中央部北西寄りに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は104cm×68cm、深さ15cm。南東半部に河原石をコの字状に配している。各石には被熱痕が認められるが、炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：Y Pやロームブロック等を含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：少量の土器・石器類が埋没土中に散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片19点、石器（石鏃1、スクレイパー2、磨石・凹石2、石皿1、剥片その他11点）を確認している。掲載遺物、土器5点、石器4点。

18号住居跡（遺構：第19図、P L 10・17／遺物：第54図、P L 43、観察表148）

位置：K-15グリッド。検出状態：あまり良好な遺存状態ではなく、壁面は南側から西側半分が残存するのみであった。平面形態：長方形。規模：推定4.10m×3.55m。床面積：推定14.1㎡。残存深度：14cm。長軸方位：N-9°-W。床面の状態：北側は削平を受けている。南側は比較的良好な状態で、全体的に平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：壁柱穴が連続する。また、炉跡の対角線上に位置するP 1~P 4の4基は、規模や位置関係から支柱穴と考えられる。そのほか、小ピット数基がまばらに位置する。炉跡：中央部に位置。平面形態は楕円形で、規模は59cm×45cm、深さ14cm。北側に土器片を、西側に河原石を配してL字状に囲んでいる。南側に炉跡底面より10cmほど深いピット状の凹みがある。炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：残存部分少ないが、Y P・ロームブロック等を含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：少量の土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片26点、石器（石錐1、スクレイパー3、磨石・凹石2、剥片その他15点）を確認している。炉跡使用の土器片は図化できなかった。掲載遺物、土器3点、石器2点。

19号住居跡（遺構：第20図、P L 11／遺物：第55図、P L 44、観察表P 149）

位置：K-14グリッド。検出状態：南側壁面の西側半分が削平される。平面形態：東辺の長い台形。規模：3.86m×2.78m。床面積：推定10.7㎡。残存深度：19cm。長軸方位：N-82°-W。床面の状態：Y P層上位の成層火山灰層を床面としている。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：壁柱穴が連続する。炉跡の西側及び東側に位置するP 1~P 4の4基は、規模や位置関係から支柱穴と考えられる。炉跡：中央部西寄りに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は80cm×50cm、深さ7cm。礫や土器片等を利用している状態は確認されなかった。また、炉跡埋没土中から焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：残存

部分少ないが、ロームブロック等を含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：少量の土器・石器類が埋没土中から散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片12点、石器(石錐1、凹石1、石核1、剥片その他8点)を確認。掲載遺物、土器4点、石器2点。

20号住居跡 (遺構：第21図、P L 11・17／遺物：第56・57図、P L 44・45、観察表P 149)

位置：J-13グリッド。検出状態：比較的良好な状態で遺存していた。時期不明の30号住居跡に切られるようであるが明確に確認できなかった。平面形態：長方形。規模：5.08m×3.90m。床面積：19.1㎡。残存深度：33cm。長軸方位：N-70°-W。床面の状態：多少の凹凸はあるが、全体的に平坦で硬くしまっている。壁面の状態：60～75°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。また、P 1～P 4とP 5～P 8は、ほぼ平行して直線上に配置されており、規模的にも支柱穴と考えられる。そのほか、炉跡北西側に深さ48cmのピットがある。炉跡：中央部北西よりに位置。平面形態は不整楕円形で、規模は72cm×52cm、深さ10cm。北西端部に河原石をコの字状に配している。炉跡埋没土中から、微量の焼土粒・炭化粒が検出されている。遺構埋没状態：Y Pと思われる黄褐色軽石やローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：比較的多量の遺物が埋没土中から出土している。炉跡周辺や東側に多い状態が認められた。時期：前期関山式期。遺物：土器片336点、石器(石鏃4、石錐1、打製石斧1、スクレイパー2、石匙2、磨石3、石皿1、敲石1、石核2、剥片その他90点)を確認している。18は台付深鉢の脚台部である。掲載遺物、土器18点、石器9点。

21号住居跡 (遺構：第22図、P L 12／遺物：第58図、P L 45、観察表P 149)

位置：K-12グリッド。検出状態：比較的良好な状態で遺存していた。平面形態：隅丸方形。規模：2.36m×2.24m。本遺跡における前期関山式期住居跡の中で最小規模である。床面積：5.0㎡。残存深度：24cm。長軸方位：N-0°で、ほぼ座標北方向を指向する。床面の状態：多少の凹凸がみられる。壁面の状態：残存部分少ないが、遺存状態の良い箇所では70°前後の勾配で立ち上がっている。柱穴：P 1～P 4が規模や配置からみて支柱穴と考えられる。そのほか小ピット数基があるが、P 5(深さ45cm)、P 6(深さ30cm)を除き、いずれも浅い。壁柱穴列は巡らない。炉跡：中央部に位置。平面形態は楕円形で、規模は40cm×32cm、深さ5cm。礫や土器片等を利用している状態は確認されなかった。北西側に顕著な地山被熱痕が認められた。遺構埋没状態：Y P・ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：小規模住居跡としては多量の遺物が出土している。床面付近や埋没土中に散在するような出土状態であるが、比較的炉跡周辺からの出土が多かった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片201点、石器(石鏃2、スクレイパー4、磨石5、敲石1、剥片その他22点)を確認している。9の深鉢は外底部にも施文されている。掲載遺物、土器11点、石器5点。

22号住居跡 (遺構：第23・24図、P L 13・17／遺物：第59・60図、P L 46・47、観察表P 149)

位置：N-12グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。埋没土上層から中期初頭の遺物が多量に出土しており、遺構が重複していた可能性が高いが、確認することができなかった。なお、この中期初頭の遺物については遺構外(N-12グリッド)出土遺物として後掲する。平面形態：長方形。竪穴外に壁外周溝と柱穴列が巡る状態にある。規模：竪穴部は8.65m×4.70m、壁外周溝部は10.70m×6.45m。本遺跡における前期関山式期住居跡の中で最大規模である。床面積：竪穴部で40.6㎡・壁外周溝部まで含めると68.9㎡。残存深度：110cm。長軸方位：N-6°-W。床面の状態：Y P層中に床面を構築し、多少の凹凸がみられる。

また、北側には10cmほど高い部分が認められる。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：幅20～30cm、深さ30cm程度の壁外周溝が竪穴部とほぼ相似形に巡るが、北側はやや弧状に近い状態にある。北東隅と南側中央付近で一部途切れ、西側中央付近では竪穴部分に向かう段差へとつながる状態にある。また、竪穴部にも北側壁から東側壁北半部にかけてごく浅い溝が存在する。柱穴：壁外柱穴が連続する。壁外柱穴列は壁外周溝内に掘りこまれている。壁外周溝が途切れる南側中央付近には深さ50cmのピットがある。竪穴内では深さ47～73cmのピット5基が確認されているが、Y P粒等が充填される状態で検出されており、柱穴とは断定し難い。そのほか、竪穴部と壁外周溝間のベルト地帯にも数基のピットが不規則に存在する。炉跡：中央部北寄りに位置。掘り込みはごく浅く、あまり明瞭ではない。80cm×60cmほどの範囲に河原石をコの字状に配しており、これらの礫には被熱痕が顕著に認められた。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色土・黒色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような出土状態であったが、比較的竪穴部外寄りからの出土が多かった。また、竪穴部と壁外周溝の間からも少量の遺物が出土している。備考：西側中央付近に壁外周溝からの段差があり、この部分に出入り口施設が存在していたと思われる。壁外周溝が途切れる北東隅と南側中央付近については、採光・通風施設等の存在を想定しておきたい。時期：前期関山式期。

遺物：土器片470点、石器（石鏃2、石錐1、石匙2、打製石斧1、礫器1、スクレイパー7、磨石・凹石26、石皿1、敲石5、砥石1、石核4、剥片その他101点）を確認している。掲載遺物、土器15点、石器8点。

23号住居跡（遺構：第25図、P L 18／遺物：第61図、P L 47、観察表P 150）

位置：L-10グリッド。検出状態：比較的良好な状態で遺存していた。平面形態：隅丸方形。規模：2.54m×2.54m。先述の21号住居跡よりやや大きい程度で小規模な住居跡である。床面積：6.0㎡。残存深度：22cm。長軸方位：N-67°-W。床面の状態：多少の起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：遺構内に21基のピットがある。深さは8cmと浅いものから、122cmと極端に深いものまで、ばらつきがある。炉跡をはさんで、ほぼ平行に配置されるピットが支柱穴を構成するものと思われる。壁際にも柱穴が位置するが、壁柱穴列が明瞭に巡る状態ではない。炉跡：ほぼ中央部に位置。平面形態は円形で、規模は42cm×39cm、深さ9cm。礫や土器片を利用している状態は確認されなかった。また、顕著な地山被熱痕は認められず、炉跡埋没土中からも焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期関山式期。遺物：土器片147点、石器（石鏃2、スクレイパー2、磨石・凹石3、石核2、剥片その他12点）を確認している。掲載遺物、土器9点、石器3点。

24号住居跡（遺構：第26図、P L 12・18／遺物：第62図、P L 48、観察表P 150）

位置：K-10グリッド。検出状態：残存深度浅く、遺構上面は削平を受けているものと思われる。平面形態：長方形。規模：4.22m×3.30m。床面積：13.7㎡。長軸方位：N-2°-E。ほぼ南北方向を指向する。床面の状態：やや凹凸がみられるが、全体的に硬くしまっている。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：壁柱穴が連続する。北側・南側は2重に存在するようであるが、あまり整然とした状態ではない。また、炉跡をはさんで南北方向にほぼ平行するような状態でピットが位置しており、支柱穴の可能性もある。炉跡：中央部北寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は106cm×52cm、深さ14cm。北側端部に角礫を、南西端部に円礫を配している。各礫には被熱痕が認められる。炉跡埋没土中からは、焼土・炭化物等

は検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：少量の遺物が埋没土中に散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片57点、石器（磨石・凹石3、剥片その他15点）を確認。掲載遺物、土器5点、石器1点。

26号住居跡（遺構：第27図、P L 14・18／遺物：第63～65図、P L 48・49、観察表P 150）

位置：Q-19グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。時期不明の161号土坑と重複するが、新旧関係は確認できなかった。平面形態：北西辺がやや長い台形。規模：5.50m×4.80m。床面積：25.3㎡。残存深度：64cm。長軸方位：N-20°-W。床面の状態：全体的にはほぼ平坦で、硬くしまっている。壁面の状態：70～80°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。また、炉跡対角線上に深さ42～60cmのピット4基（P 1～P 4）が位置する。そのほかに小ピット数基がある。炉跡：中央部北西寄りに位置。平面形態は不整形で、規模は122cm×117cm、深さ22cm。北西端部に河原石を1石配している。炉石には被熱痕が認められるが、炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色土・黒色土が自然埋没する。遺物出土状態：床面付近及び埋没土中から多量の遺物が出土している。外側寄りからの出土が比較的多かった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片748点、石器（石鏃2、スクレイパー6、磨石・凹石9、敲石2、剥片その他152点）を確認している。掲載遺物、土器29点、石器9点。

27号住居跡（遺構：第28図、P L 14・18／遺物：第66～68図、P L 50・51、観察表P 151）

位置：S-19グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。南側に確認調査時の試掘坑痕跡がある。平面形態：方形。規模：4.46m×4.08m。床面積：17.7㎡。残存深度：62cm。長軸方位：N-7°-W。床面の状態：Y P層中に床面を構築している。おおむね平坦で、全体的に硬くしまっている。壁面の状態：70～80°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。東側の壁柱穴列に平行して、やや小規模な柱穴列が位置している。規模的に住居跡が拡張された痕跡ではなく、何らかの施設が存在していた可能性を想定しておきたい。また、このほかにも大小のピットが多数検出されている。炉跡：中央部北寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は77cm×46cm、深さ17cm。河原石を北側と西側に配している。炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：Y P・ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中から多量の遺物が出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片726点、石器（石鏃7、石錐1、スクレイパー13、石匙2、打製石斧3、磨石・凹石14、石皿1、敲石2、丸石1、磨製石斧1、石核1、剥片その他256点）を確認している。掲載遺物、土器20点、石器15点。

29号住居跡（遺構：第29図、P L 15・18／遺物：第69・70図、P L 51・52、観察表P 151）

位置：Q-24グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：長方形。規模：3.78m×3.40m。床面積：12.2㎡。残存深度：46cm。長軸方位：N-22°-W。床面の状態：多少の凹凸はあるが、全体的に平坦で、硬くしまっている。壁面の状態：60°前後の勾配で立ち上がっている。柱穴：壁柱穴が連続する。また、北西壁際のP 1・P 2及び南東壁際のP 3・P 4は比較的深い掘り込みを有し、P 1-P 3ラインとP 2-P 4ラインには小ピットが位置しており、これらが支柱穴と考えられる。そのほかにも小ピット数基が不規則に位置している。炉跡：中央部やや北西寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は77cm×51cm、深さ14cm。河原石4石をコの字状に配している。奥側は10cmほど掘りくぼめ、大振りな河原石を置いている。炉跡外東側を中心に焼土の

分布が認められた。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：床面付近や埋没土中から散在するような状態で出土している。時期：前期関山式期。

遺物：土器片179点、石器（石鏃7、石錐1、スクレイパー3、石匙1、打製石斧1、磨石・凹石8、石核1、剥片その他272点）を確認している。土器は関山Ⅱ式が主体であるが、1・3・13などのように櫛歯状工具やヘラ先状工具による刺突文が施される神ノ木式土器もみられる。掲載遺物、土器18点、石器12点。

35号住居跡（遺構：第30図、P L 15・18／遺物：第71～76図、P L 52～55、観察表P 152）

位置：L-18グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：南東辺がやや長い台形。規模：3.86m×3.74m。床面積：14.4㎡。残存深度：60cm。長軸方位：N-40°-W。床面の状態：全体的に平坦で、硬くしまっている。中央部分2.05m×1.90mほどの範囲が数cm低くなっている。壁面の状態：70～80°の勾配で立ち上がる。柱穴：壁柱穴が連続する。また、南西壁柱穴列にはほぼ平行して小ピットが位置し、そのほかにも数基のピットがある。P 1～P 6が位置関係から主柱穴と考えられる。炉跡：中央部やや北西寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は89cm×52cm、深さ12cm。北西側は深く掘り込んだ後、土器片を配している。また、南東側には埋設土器がある。炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：床面付近及び埋没土中から大量の遺物が出土しており、比較的炉跡及びその周辺からの出土が多かった。時期：前期関山式期。

遺物：土器片1,582点、石器（石鏃6、スクレイパー23点、石匙5、打製石斧1、磨石・凹石18、敲石2、棒状礫1、丸石4、石核2、剥片その他174点）を確認している。土器はある程度器形復元できたものが多く、関山Ⅰ式を中心としたまとまった資料が得られている。4は炉跡埋設土器である。掲載遺物、土器49点、石器22点。

36号住居跡（遺構：第31図、P L 16・18／遺物：第77・78図、P L 56、観察表P 153）

位置：K-17グリッド。検出状態：良好な状態で遺存していた。平面形態：長方形。規模：4.86m×4.08m。床面積：19.7㎡。残存深度：50cm。長軸方位：N-119°-W。床面の状態：炉跡北東側に不整形の浅い掘り込みがあるが、全体的にはほぼ平坦で、硬くしまっている。壁面の状態：70～85°の勾配で立ち上がっているが、本来はほぼ垂直に近い状態であったと思われる。柱穴：壁柱穴が連続し、南西側と北東側及び南東側ではその内側にも柱穴列が検出されている。そのほかにも数基のピットがあり、P 1～P 8は規模や位置関係から主柱穴と考えられる。炉跡：中央部やや南西寄りに位置。平面形態は楕円形で、規模は75cm×45cm、深さ9cm。南西側にはL字状に礫を配し、北東側には埋設土器がある。奥側の礫は大振りなもので、深く掘り込んだ後に、はめ込むように置かれている。また、埋設土器にも深い掘り方があり、土器の下側10cm弱の位置に礫が置かれていた。炉跡埋没土中からは焼土・炭化物等は検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：床面付近及び埋没土中から散在するような状態で出土している。備考：壁柱穴列等の状態から本住居跡は拡張された可能性がある。時期：前期関山式期。

遺物：土器片156点、石器（石鏃1、石錐1、スクレイパー2、石匙1、磨石・凹石6、石皿2、敲石3、丸石1、石核1、剥片その他157点）を確認している。1は炉跡埋設土器である。11の石皿にはベンガラと思われる赤褐色物の付着がみられた。掲載遺物、土器10点、石器6点。

8号住居跡（遺構：第32図、P L 16／遺物：第79図、P L 57、観察表P 147）

位置：V-24グリッド。検出状態：残存深度浅く、あまり良好な遺存状態ではない。浅い竪穴内の南寄りに方

形に周溝が巡る状態にある。単純に拡張された住居跡とは断定し難いが、逆に規模を縮小した可能性についても炉跡の状態からは首肯し難い。遺構が重複していた可能性が高いが、明確に確認できなかった。平面形態：外側は楕円形に近い。内側は方形。規模は、外側5.44m×5.10m、内側は4.00m×3.74m。床面積：外側は24.8㎡、内側は13.9㎡。残存深度：12cm。長軸方位：外側はN-8°-E、内側はN-3°-E。床面の状態：多少の凹凸や地割れ状のひび割れがみられるが、全体的に平坦である。なお、周溝内側と外側とに顕著な高低差は認められない。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。周溝：先述したように竪穴内において方形に巡る。幅は10~25cm、深さ10cm前後である。柱穴：規模・位置関係からP1~P4を内側の支柱穴、P5~P10を外側の支柱穴に想定しておく。炉跡：外側部分の中央部北寄りに位置。周溝を切る状態にある。平面形態は不整楕円形で、規模は75cm×45cm、深さ9cm。北西側に顕著な地山被熱痕が認められた。遺構埋没状態：残存部分少ないが、YP・ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：少量の遺物がまばらに出土している。時期：前期諸磯a式期に想定しておく。

遺物：土器片39点、石器（スクレイパー2、打製石斧1、磨石・凹石4、敲石2、砥石1、磨製石斧1、剥片その他20点）を確認している。土器には関山式期のものが少量混在する。掲載遺物、土器2点、石器4点。

28号住居跡（遺構：第33図、PL18／遺物：第80図、PL57、観察表P151）

位置：I-2グリッド。検出状態：あまり良好な遺存状態ではなく、北西側の壁面は削平されている部分がある。東側は調査区外。平面形態：不明であるが台形に近いものと推定される。規模：-×3.94m。床面積：不明。残存深度：16cm。長軸方位：不明。南東辺はN-54°-Eを指向する。床面の状態：木の根の影響であろうか、北西側は凹凸が激しい。南東側は比較的平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：南東壁から南西壁にかけて検出されている。南東壁のものは間仕切り状に北西方向に60cmほど延びる。柱穴：調査範囲において5基を検出しているが、支柱穴構成は不明である。炉跡：調査範囲内において検出されなかった。遺構埋没状態：残存部分少ないが、ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中から少量の遺物が散在するような状態で出土している。時期：前期諸磯a式期に想定しておく。

遺物：土器片54点、石器（凹石1、磨製石斧1、剥片その他5点）を確認。掲載遺物、土器3点、石器1点。

25号住居跡（遺構：第34図、PL19／遺物：第81図、PL57、観察表P150）

位置：L-9グリッド。南西から北西方向に本住居跡と同時期と思われる土坑群が位置する。検出状態：南東側は広範に攪乱を受けている。また、北東側は40号土坑に切られている。平面形態：不明であるが円形基調と想定される。規模：不明。床面積：不明。残存深度：12cm。床面の状態：多少の凹凸がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：検出範囲内にピット6基がある。P1は深さ73cmで、支柱穴の一部と思われる。炉跡：調査範囲内において検出されなかった。遺構埋没状態：残存部分が少ないが、ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中から少量の遺物が散在するような状態で出土している。時期：中期初頭～前半に想定しておく。

遺物：土器片41点、石器（石鏃1、剥片その他17点）を確認している。掲載遺物、土器4点、石器1点。

34号住居跡（遺構：第35図、PL19・20／遺物：第82・83図、PL57、観察表P152）

位置：I-7グリッド。検出状態：比較的良好な状態で遺存していたが、北東側は風倒木の影響を受け、一部

が壊されていた。平面形態：ほぼ円形。規模：3.52m×3.44m。床面積：9.3㎡。残存深度：30cm。床面の状態：多少の凹凸や地割れ状のひび割れがみられるが、全体的に平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な箇所では70°前後の勾配で立ち上がる。柱穴：遺構内にピット8基があり、炉跡を取り囲むように位置するのは比較的深い掘り込みを有する。炉跡：ほぼ中央部に埋設土器を用いた炉跡がある。埋設土器の掘り方は、平面形態円形で、規模は26cm×24cm、深さ16cmと、土器よりもわずかに大きい程度である。この埋設土器は深鉢の上半部を使用したもので、内外面に煤の付着が認められた。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒色土・黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：先述の埋設土器のほか、埋没土中から散在するような状態で出土している。時期：中期初頭。

遺物：土器片（埋設土器1を含む）195点、石器（石鏃1、打製石斧2、石皿1、剥片その他21点）を確認している。土器の胎土には、いわゆる「金雲母」を含むものが多く、1・2・4・6には結晶片岩の含有も認められた。掲載遺物、土器7点、石器3点。

13号住居跡（遺構：第35図、P L 20）

位置：P-21グリッド。検出状態：縄文時代の遺構確認面で検出。平面形態：ほぼ円形。規模：2.44m×2.12m。床面積：4.6㎡。残存深度：14cm。床面の状態：ほぼ平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：遺構内にピット5基があるが、いずれも主柱穴とは判断し難い。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中からまばらに出土している程度であった。備考：本遺構からは炉跡も検出されておらず、住居跡とするには小規模であり、遺構名称に適切性を欠いたきらいがある。時期：不明であるが、中期初頭の可能性がある。

遺物：土器4点、石器0点を確認している。土器は小破片であるが、縄文施文で胎土に繊維を含むもの1点と、無文で胎土に金雲母を含むもの3点がみられた。掲載遺物0点。

15号住居跡（遺構：第35図、P L 20）

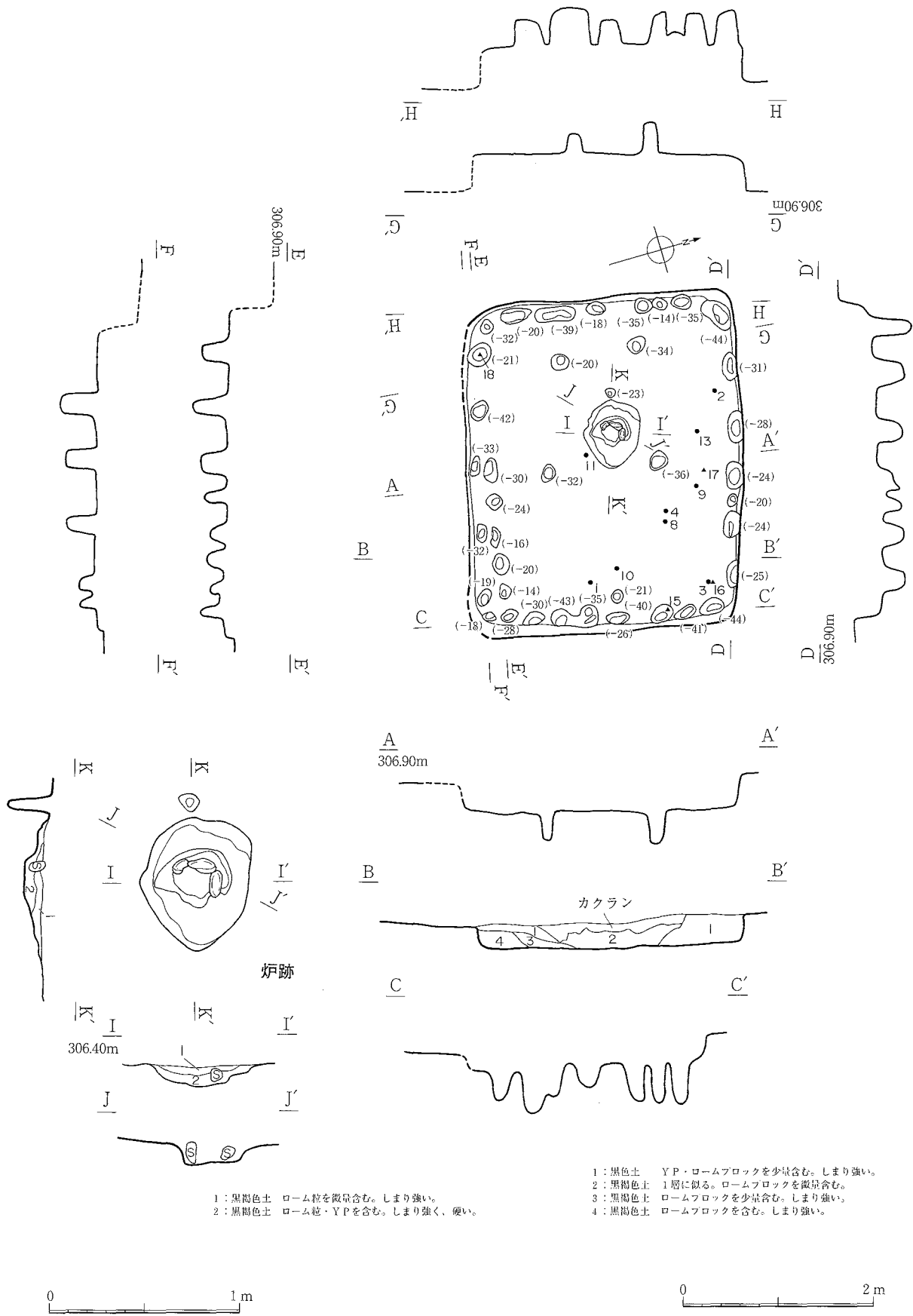
位置：O-18グリッド。検出状態：縄文時代の遺構確認面で検出。平面形態：台形。規模：2.68m×2.44m。床面積：6.0㎡。残存深度：10cm。床面の状態：多少の凹凸がみられた。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴：抜根状のものが多く、3基のみを本遺構に伴うピットと判断した。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロックを含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中からまばらに出土している程度であった。時期：不明。

遺物：土器片11点、石器（凹石1、その他剥片3点）を確認している。掲載遺物0点。

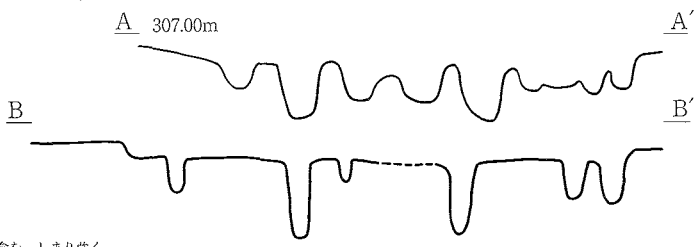
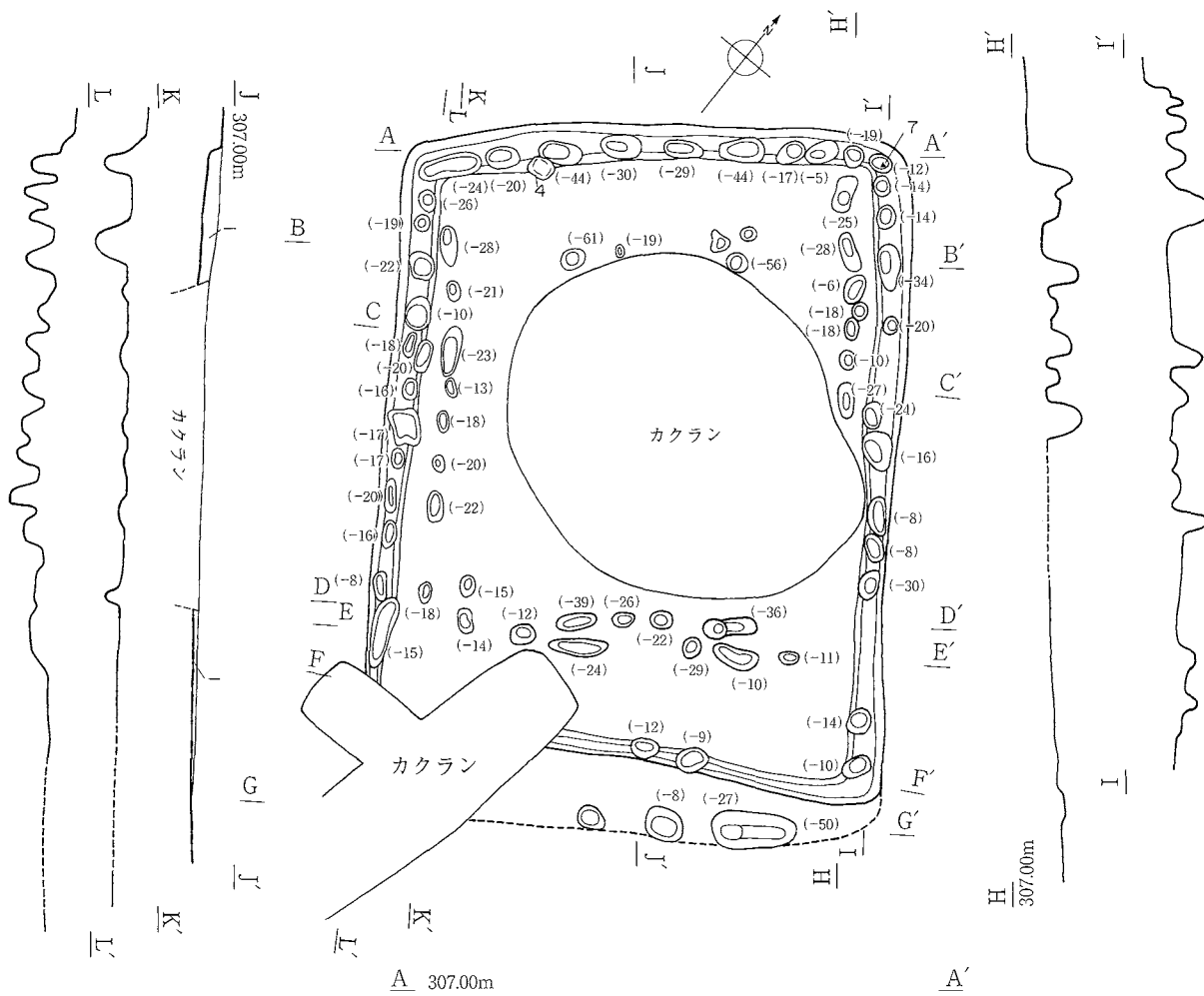
30号住居跡（遺構：第35図、P L 20／遺物：第84図、P L 57）

位置：I-13グリッド。検出状態：関山式期の20号住居跡と重複し、本遺構の方が新しいと思われるが明確に把握できなかった。平面形態：楕円形。規模：2.14m×1.88m。床面積：3.3㎡。残存深度：20cm。床面の状態：やや凹凸がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。柱穴・炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：基本的にロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：まばらな出土状態であった。備考：本遺構も13号住居跡と同様に遺構名称に適切性を欠いた。時期：不明。

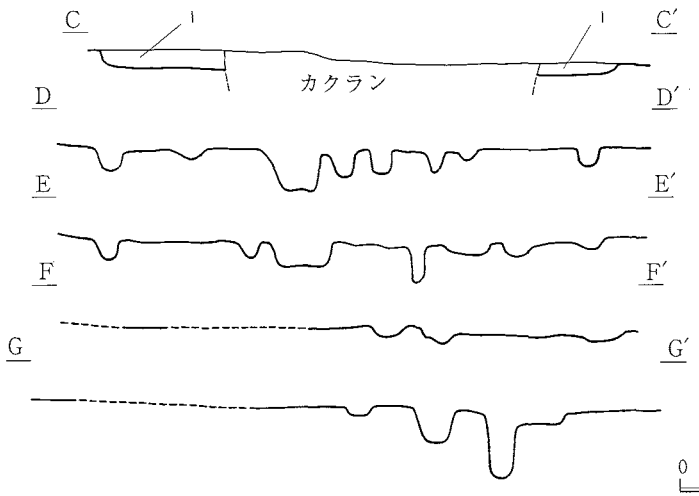
遺物：土器片5点、石器（打製石斧1、磨石1、剥片1点）を確認している。土器片の内4点は関山式のもので、20号住居跡に帰属する可能性が高い。1点はごく小破片である。掲載遺物、土器0点、石器2点。



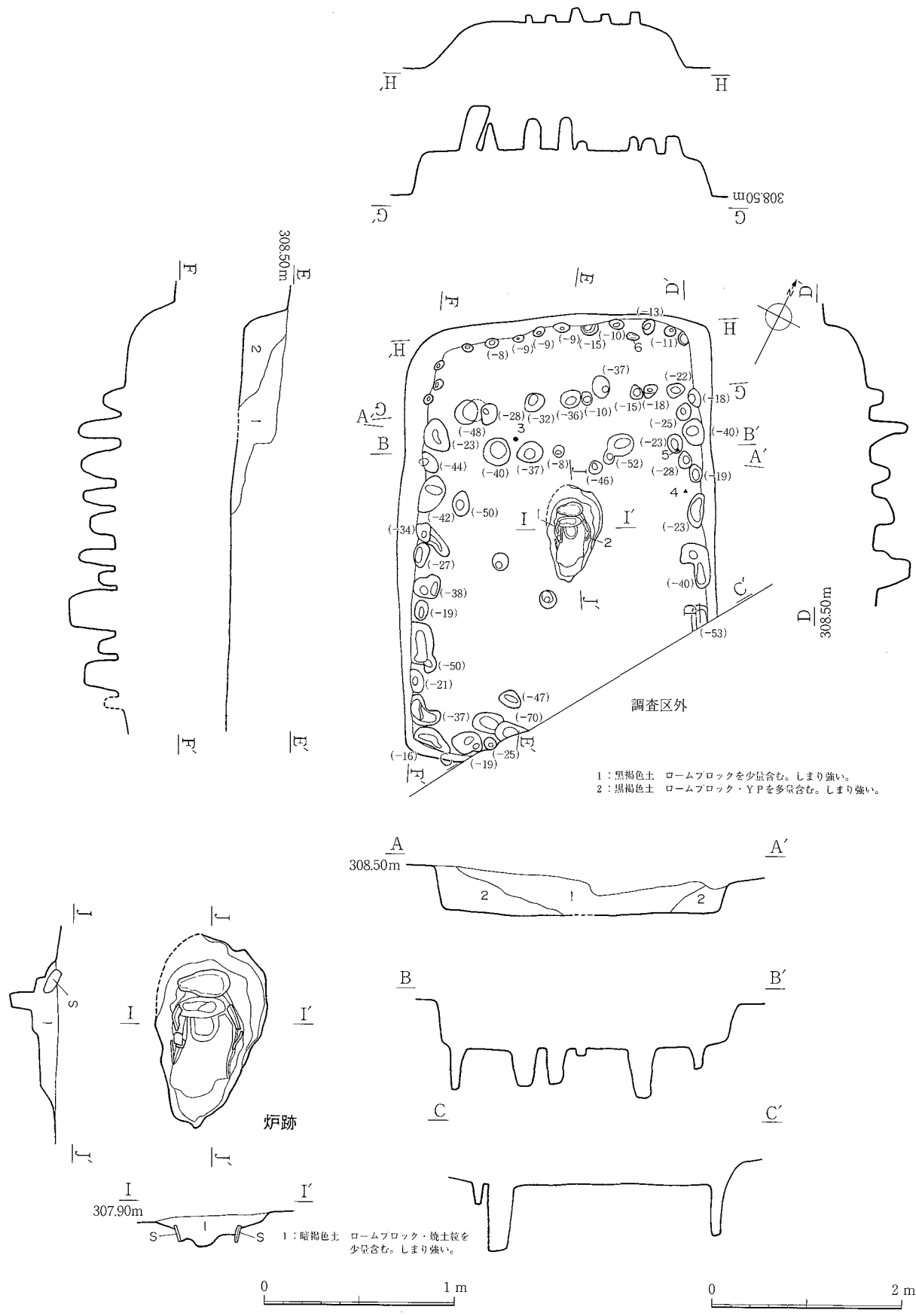
第6図 1号住居跡



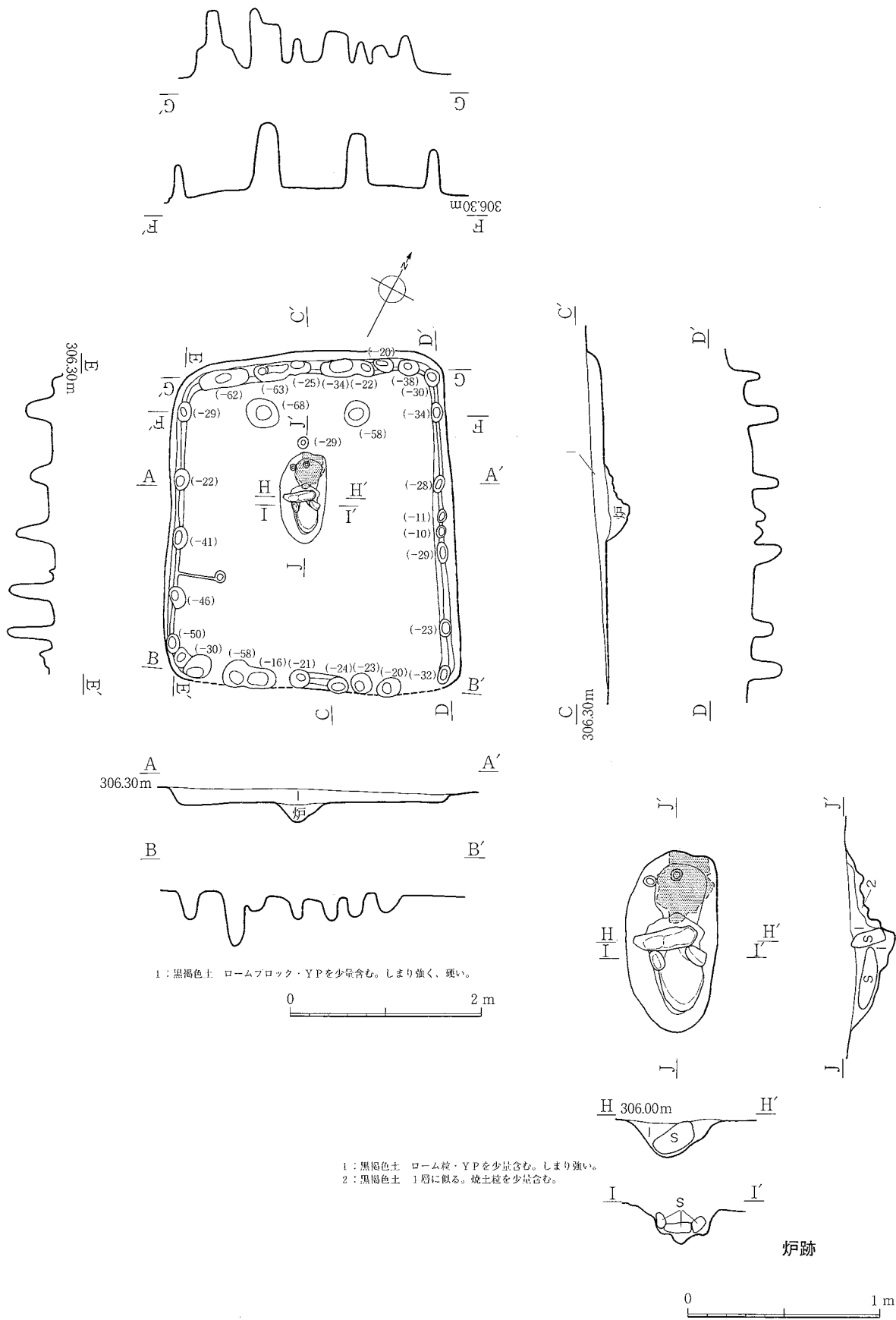
1: 黒褐色土 ロームブロックを少々含む。しまり強く、
硬い。



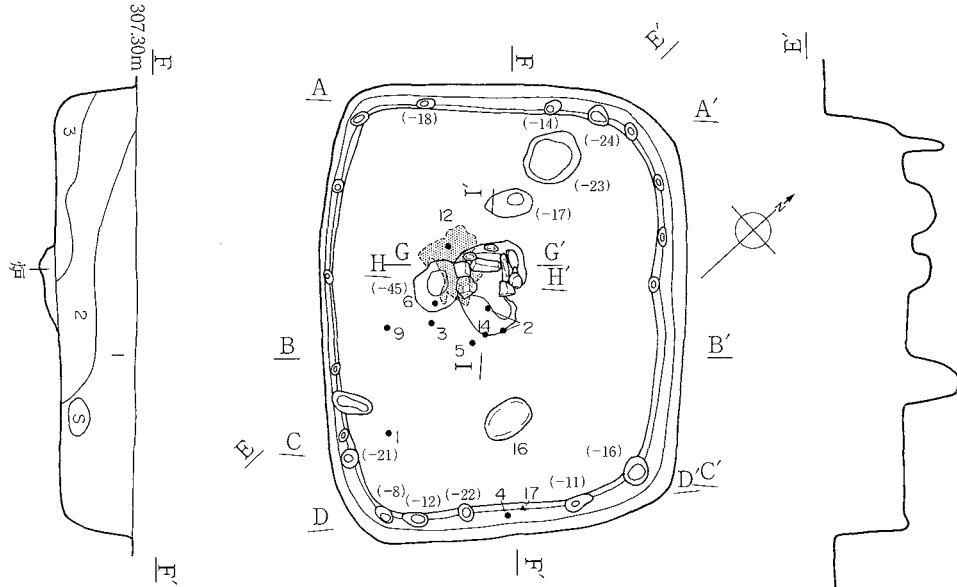
第7図 2号住居跡



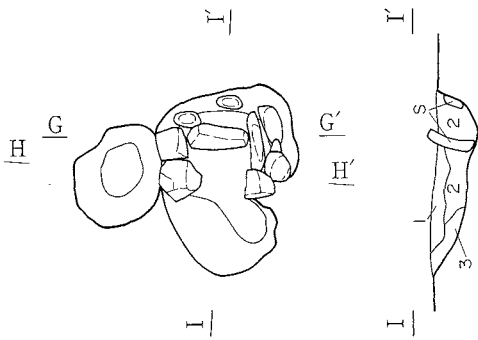
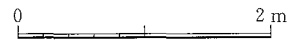
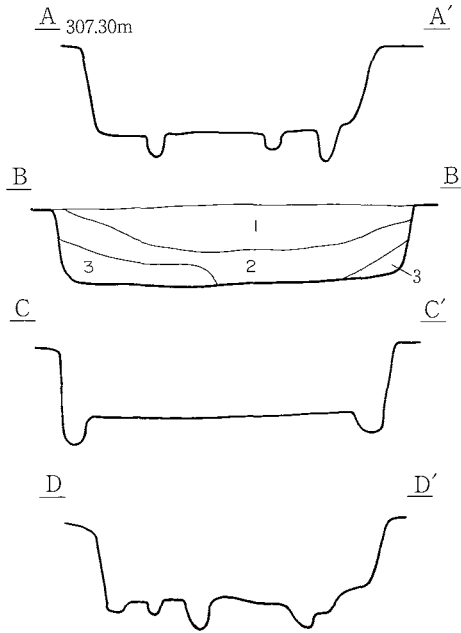
第8図 3号住居跡



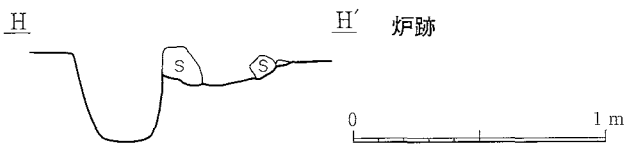
第9図 4号住居跡



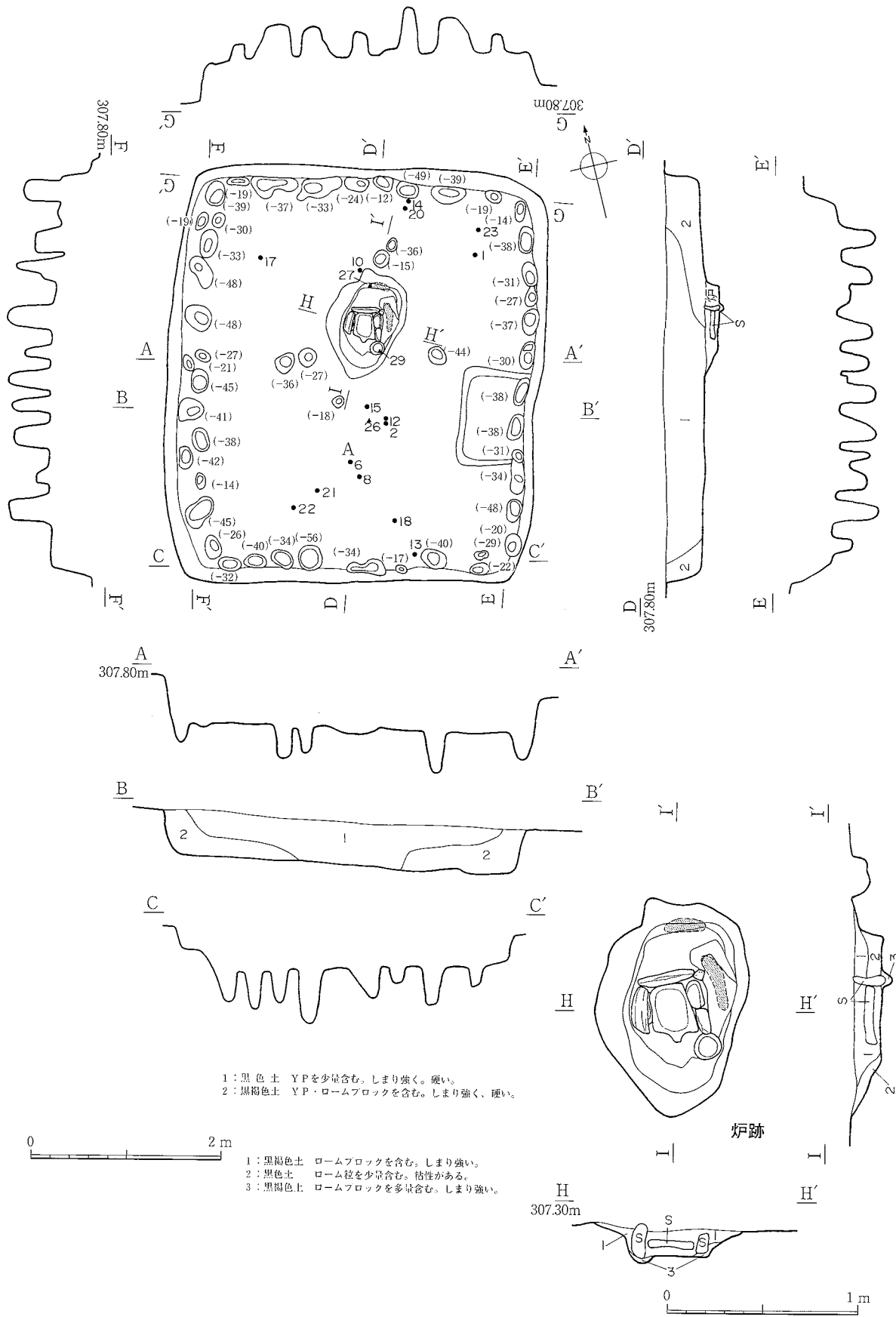
- 1: 黒色土 YPを少量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 YP・ロームブロックを多量含む。しまり強く、硬い。
- 3: 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。YPを少量含む、しまり強く、硬い。



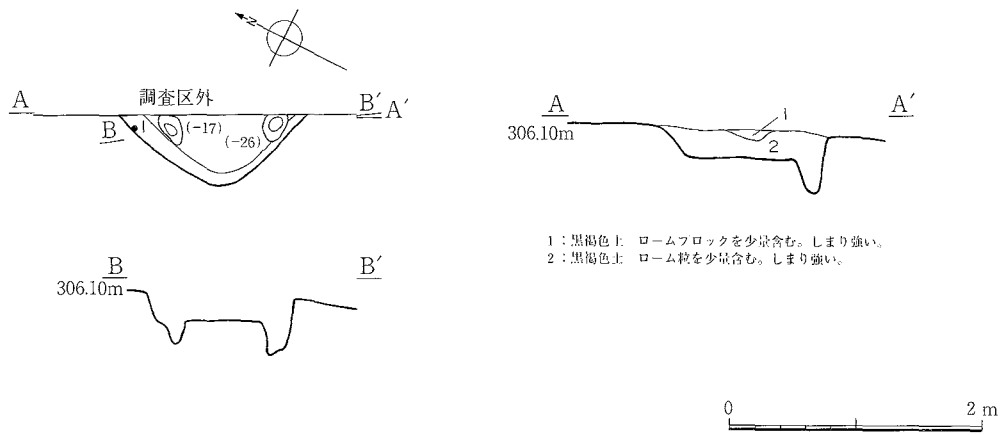
- 1: 黒褐色土 YPを多量含む。しまりあまりない。
- 2: 暗褐色土 YP・炭化物を少量含む。しまり強い。
- 3: 黒褐色土 YPを含む。しまり強い。



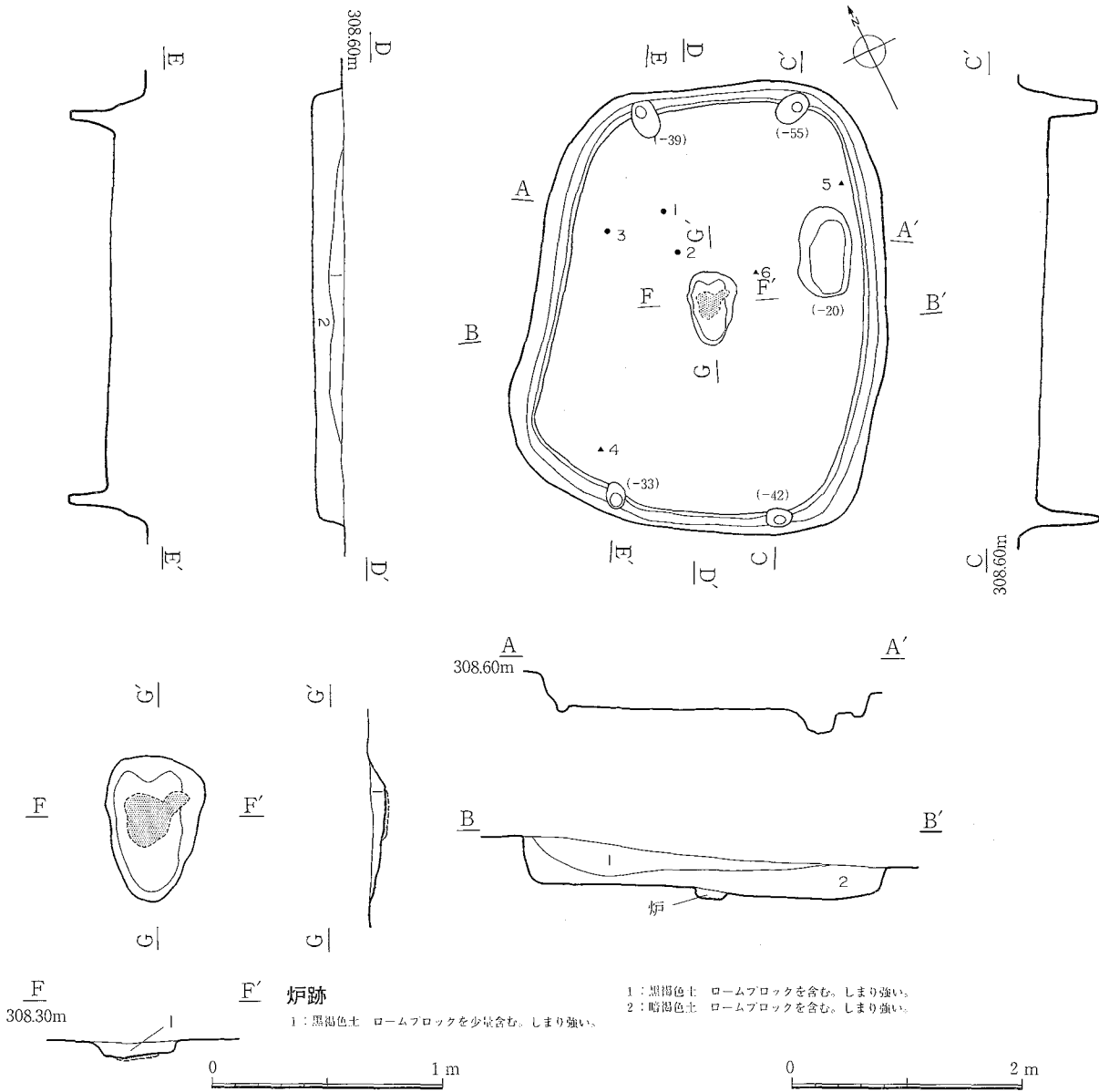
第11図 7号住居跡

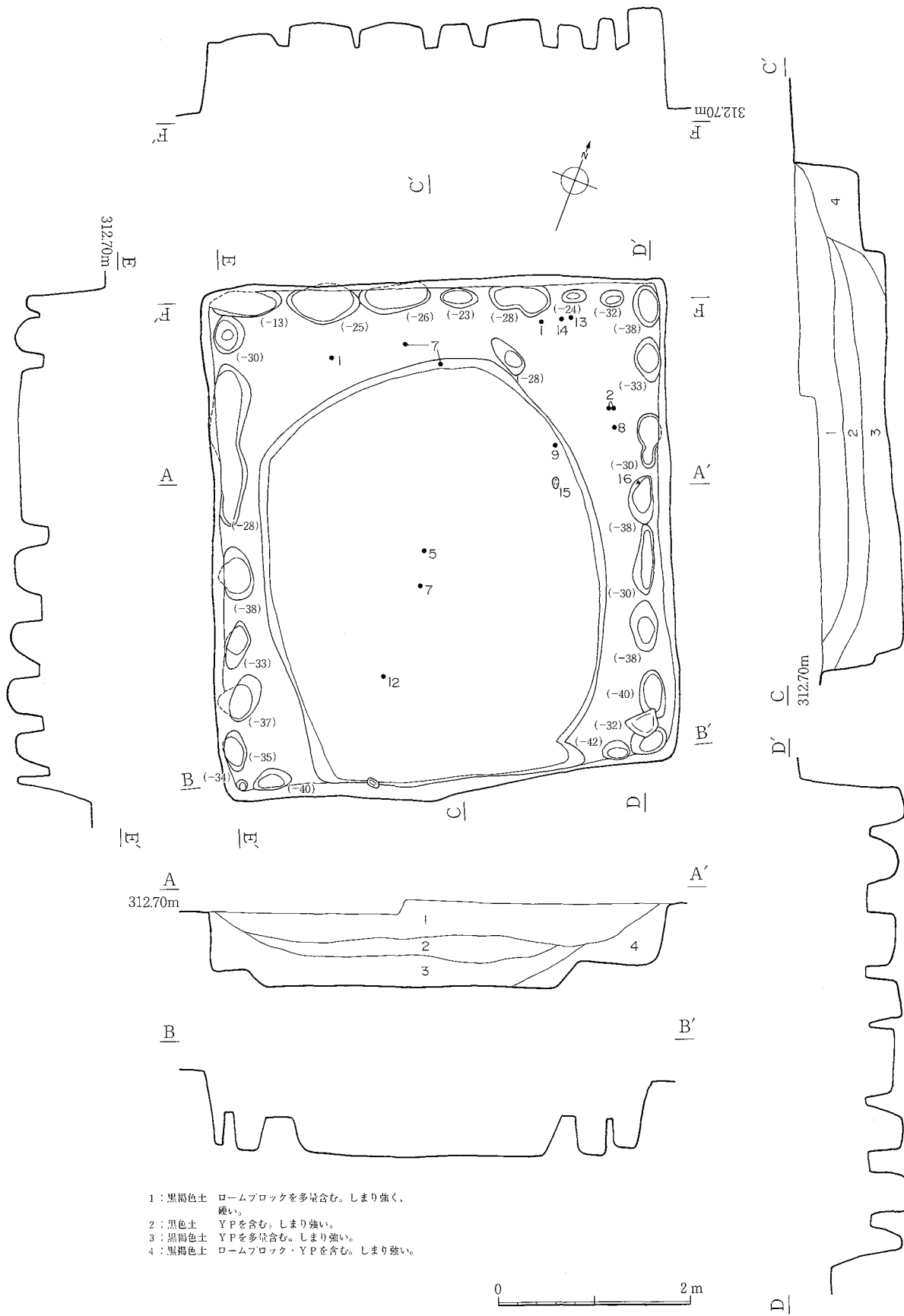


第12図 9号住居跡

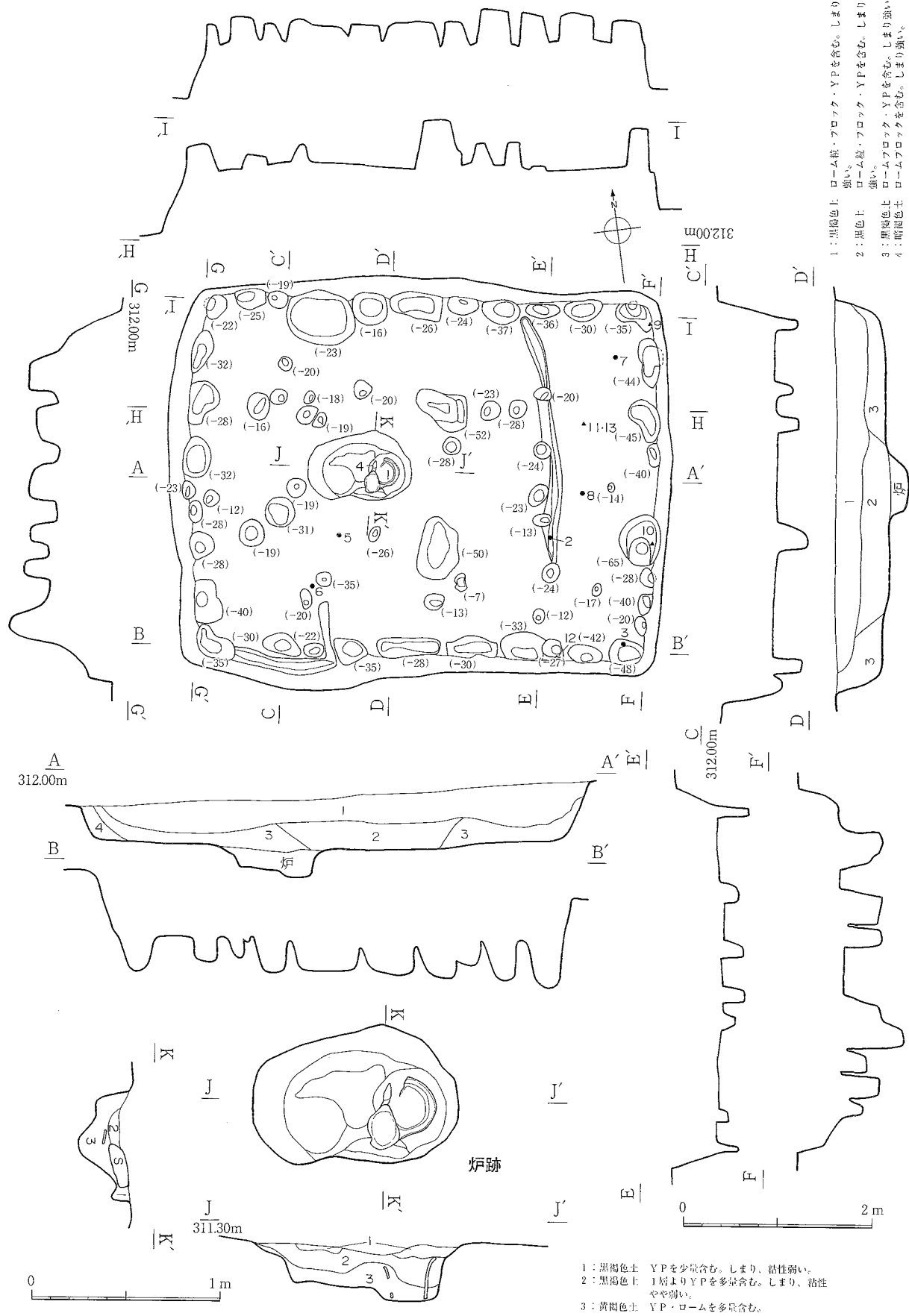


第13図 10号住居跡

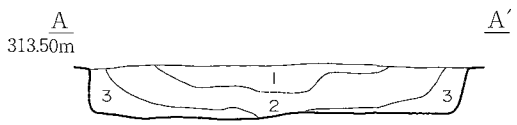
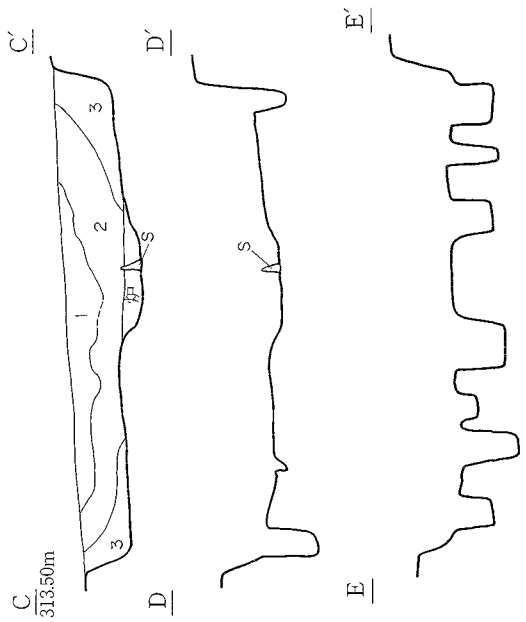
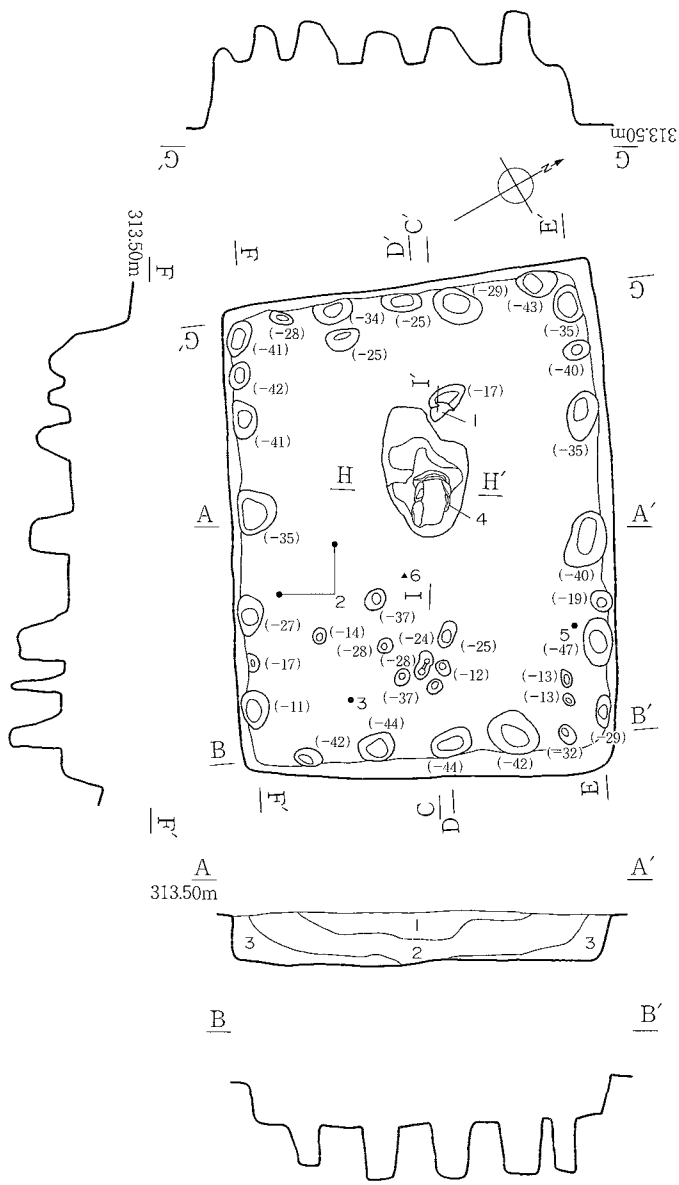




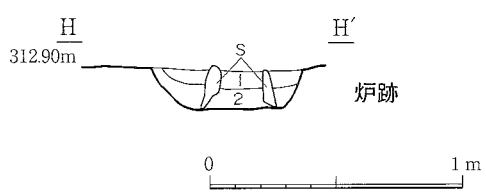
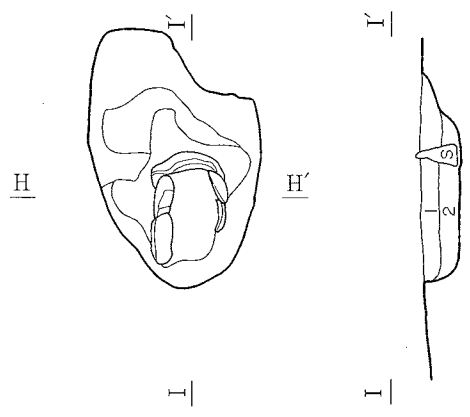
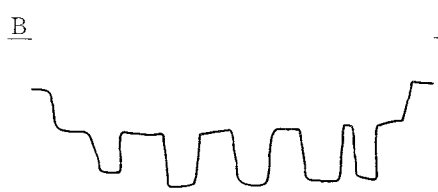
第16図 14号住居跡



第17図 16号住居跡

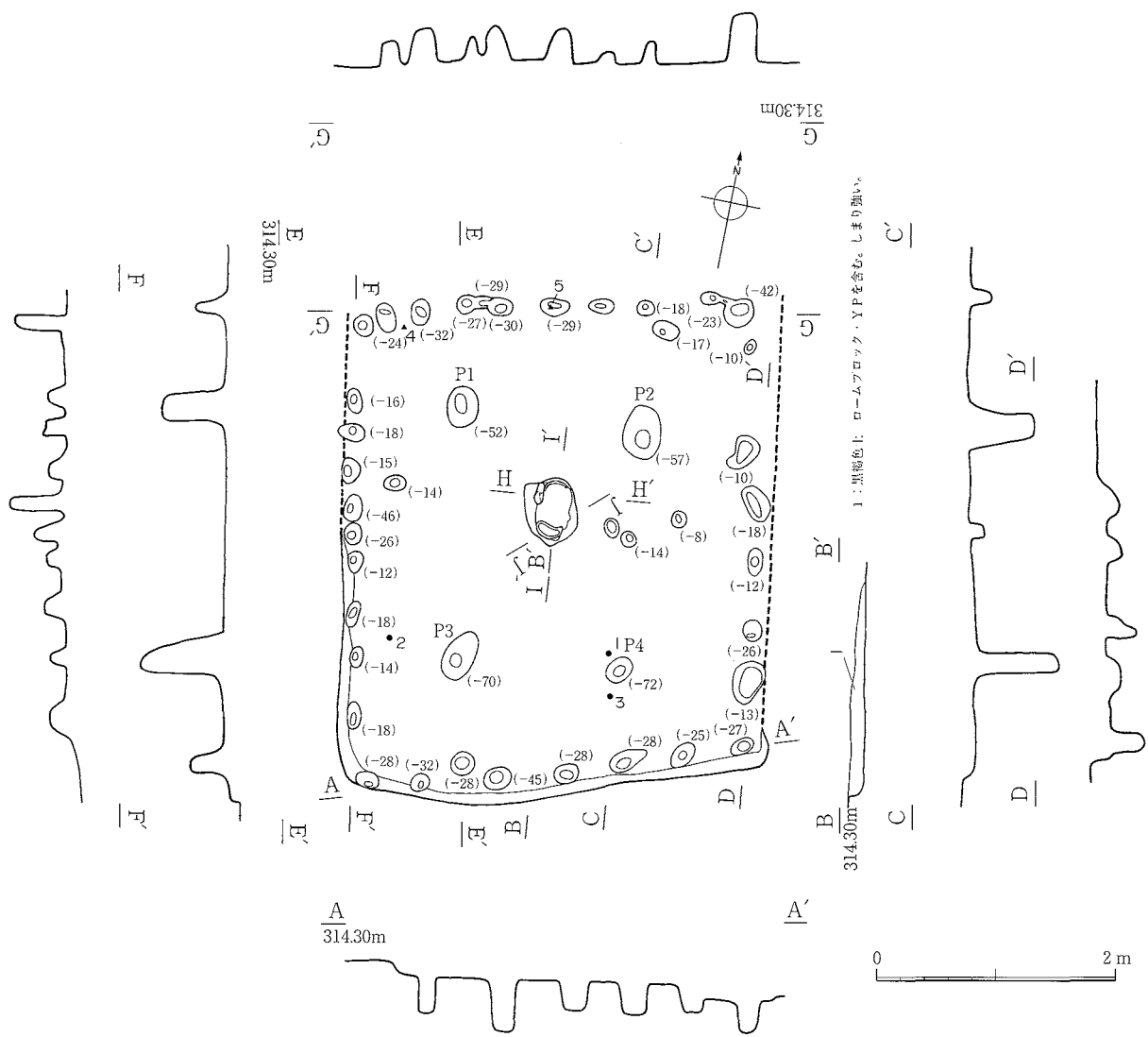


- 1: 黒褐色土 ローム粒・フロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ロームフロックを含む。YPを多量含む。しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ロームフロック・YPを含む。しまり強い。

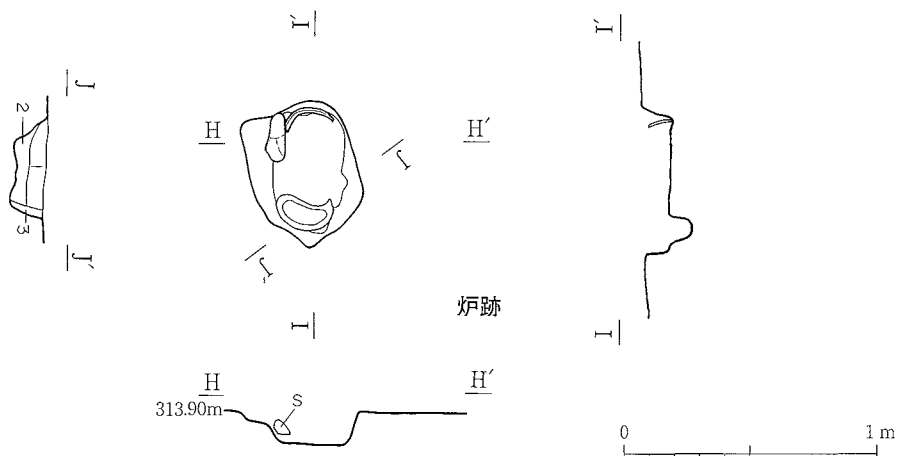


- 1: 黒褐色土 YPを多量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 YPを多量含む。しまり強い。

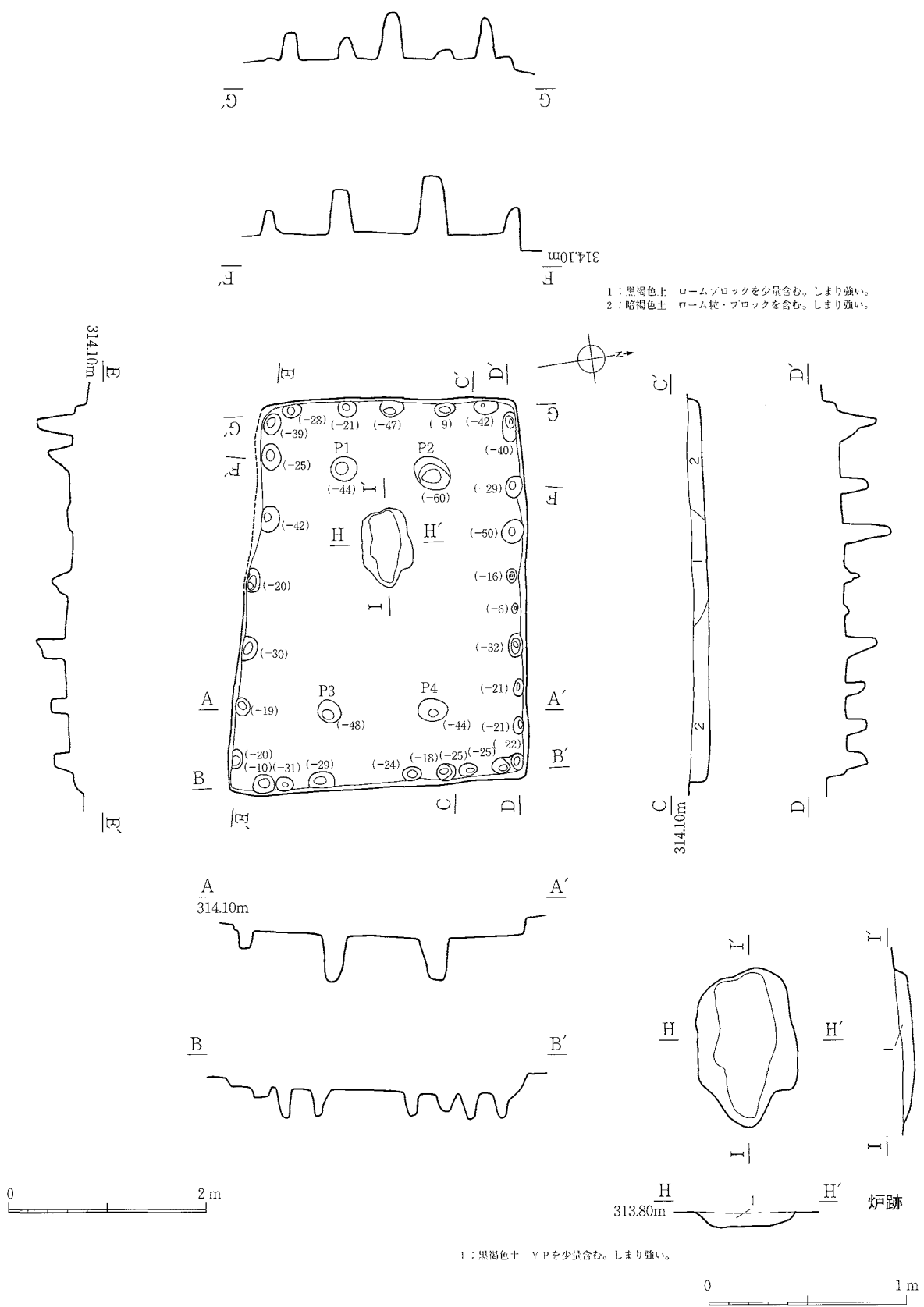
第18図 17号住居跡



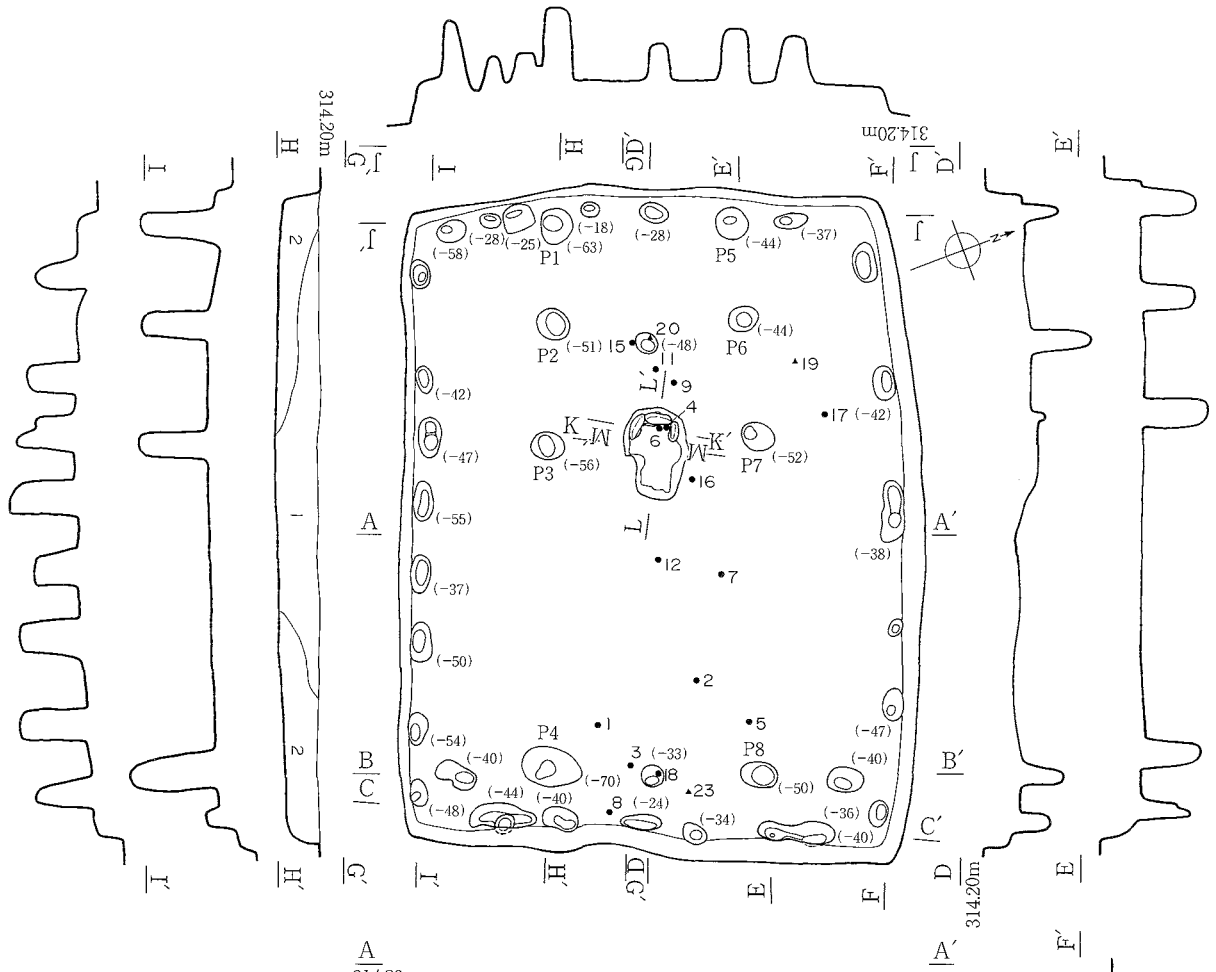
1: 黒褐色土、ロームブロックを含む。しより強い。
 2: 黒褐色土、ロームブロックを含む。しより強い。
 3: 黒褐色土、ロームブロックを含む。しより強い。



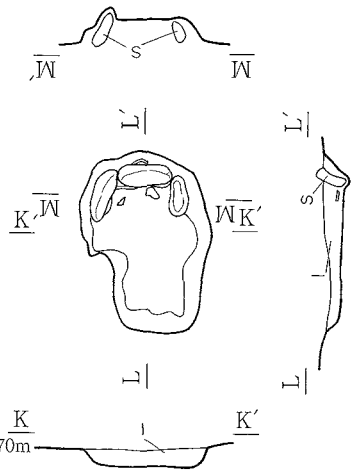
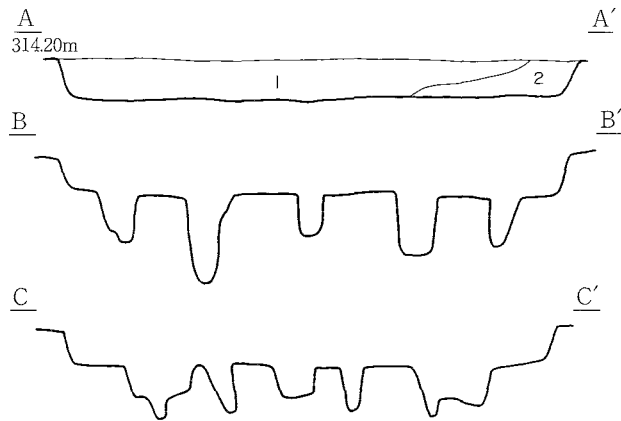
第19図 18号住居跡



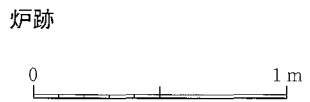
第20図 19号住居跡



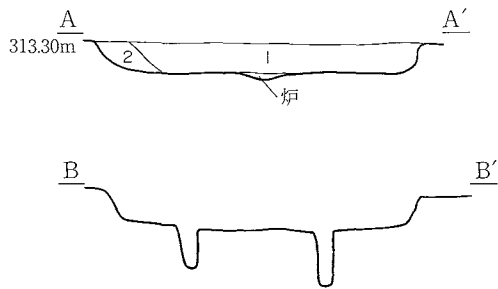
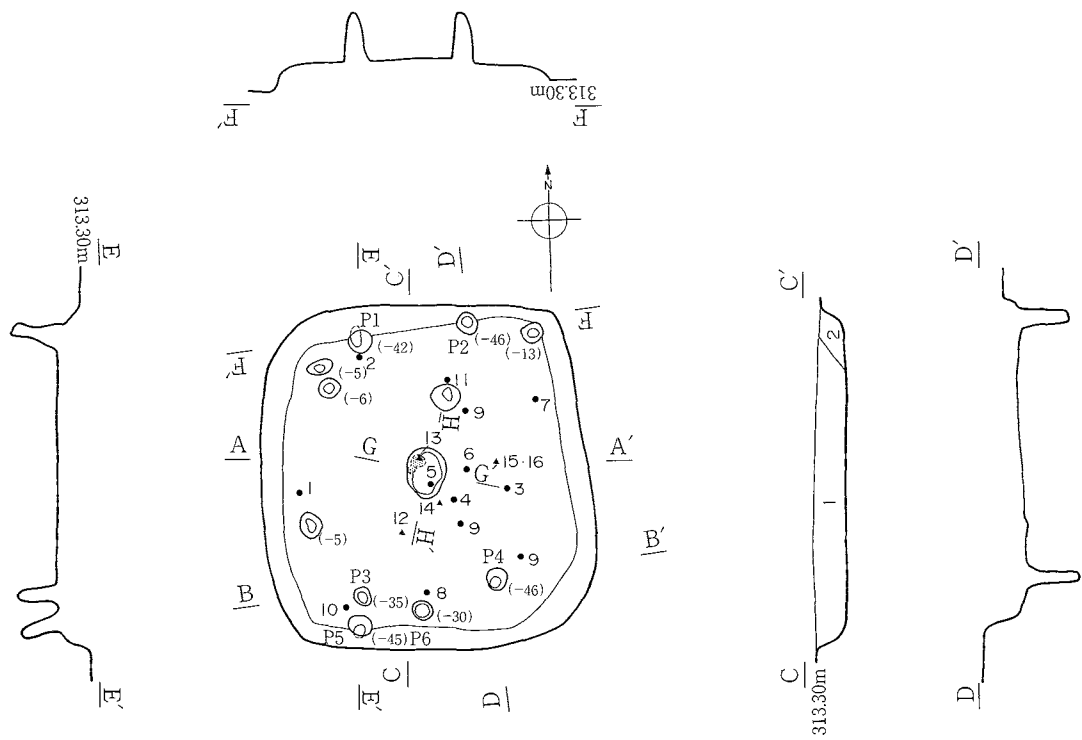
- 1: 黒褐色土 ローム粒・黄褐色軽石を少量含む。しまり強い。粘性ややある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・黄褐色軽石やや多く、しまり強い。



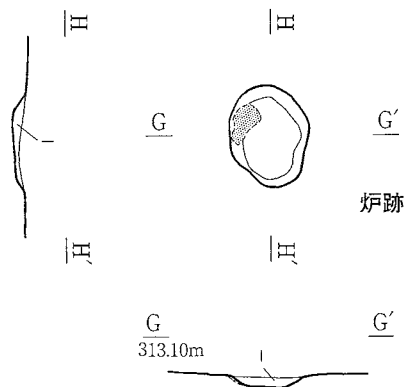
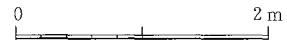
- 1: 黒褐色土 Y P を少量含む。しまりやや強い。焼土粒・炭化核を微量含む。



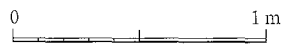
第21図 20号住居跡



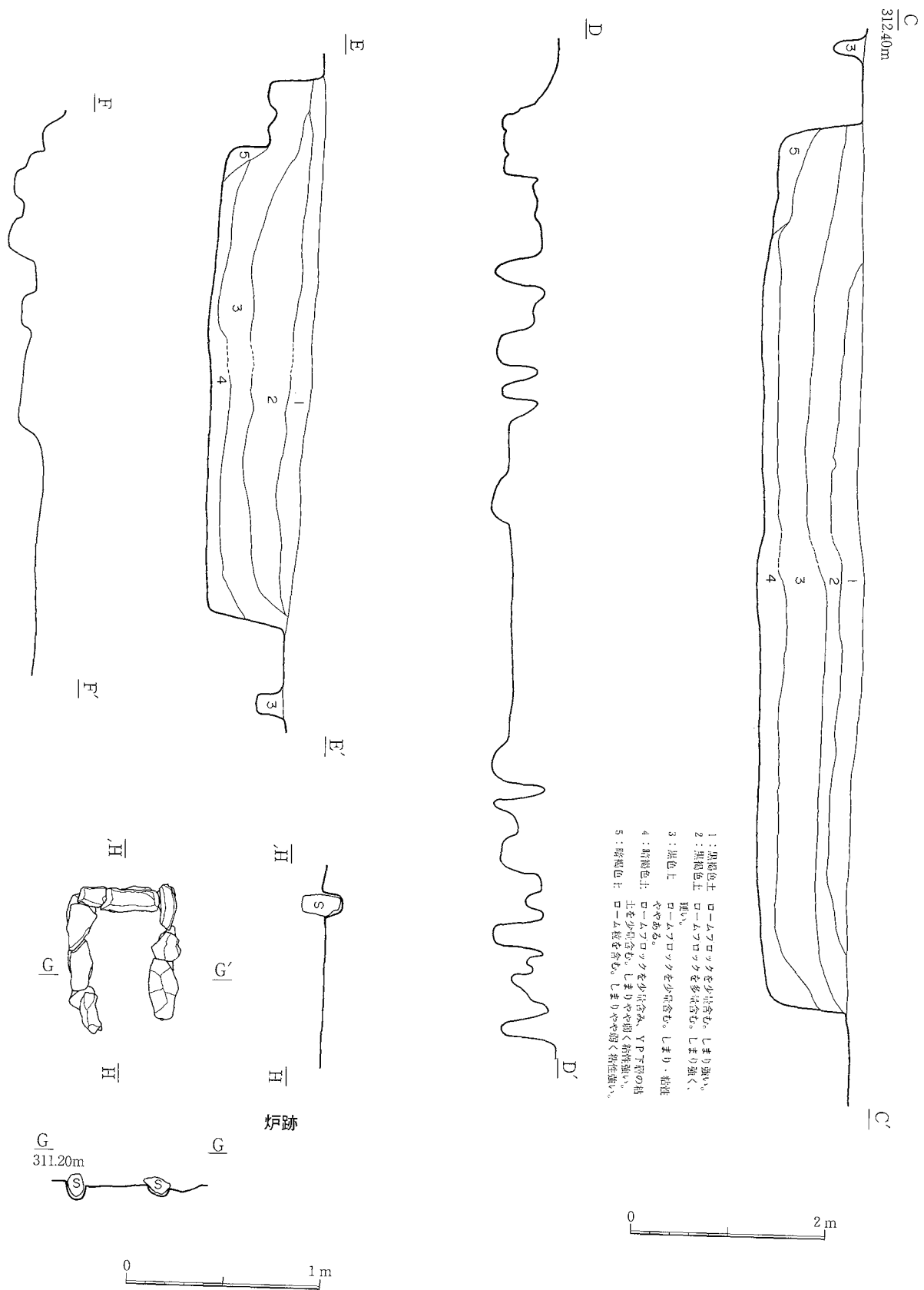
1 : 黒褐色土 ロームブロック・YPを含む。しまり強い。
 2 : 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



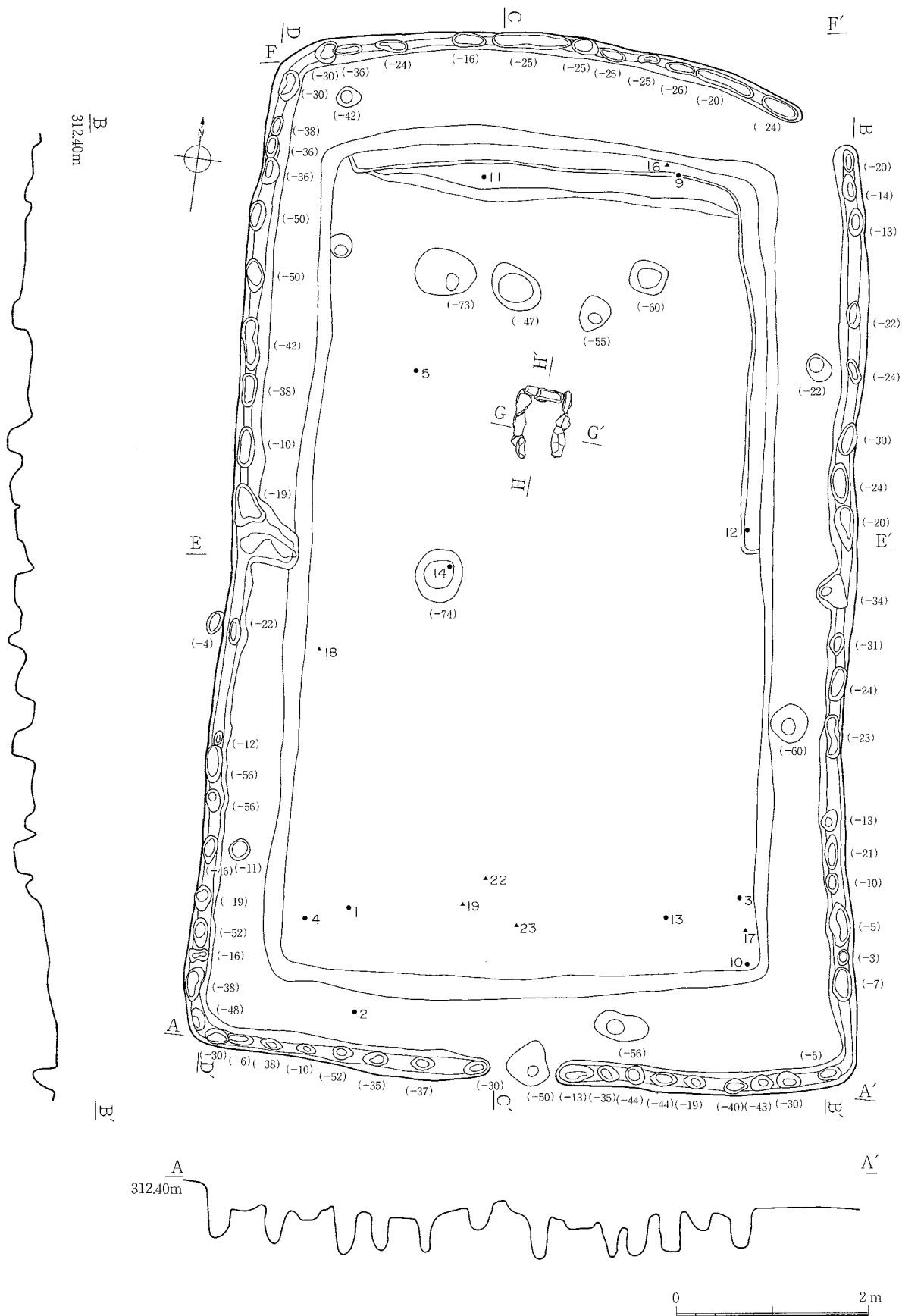
1 : 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



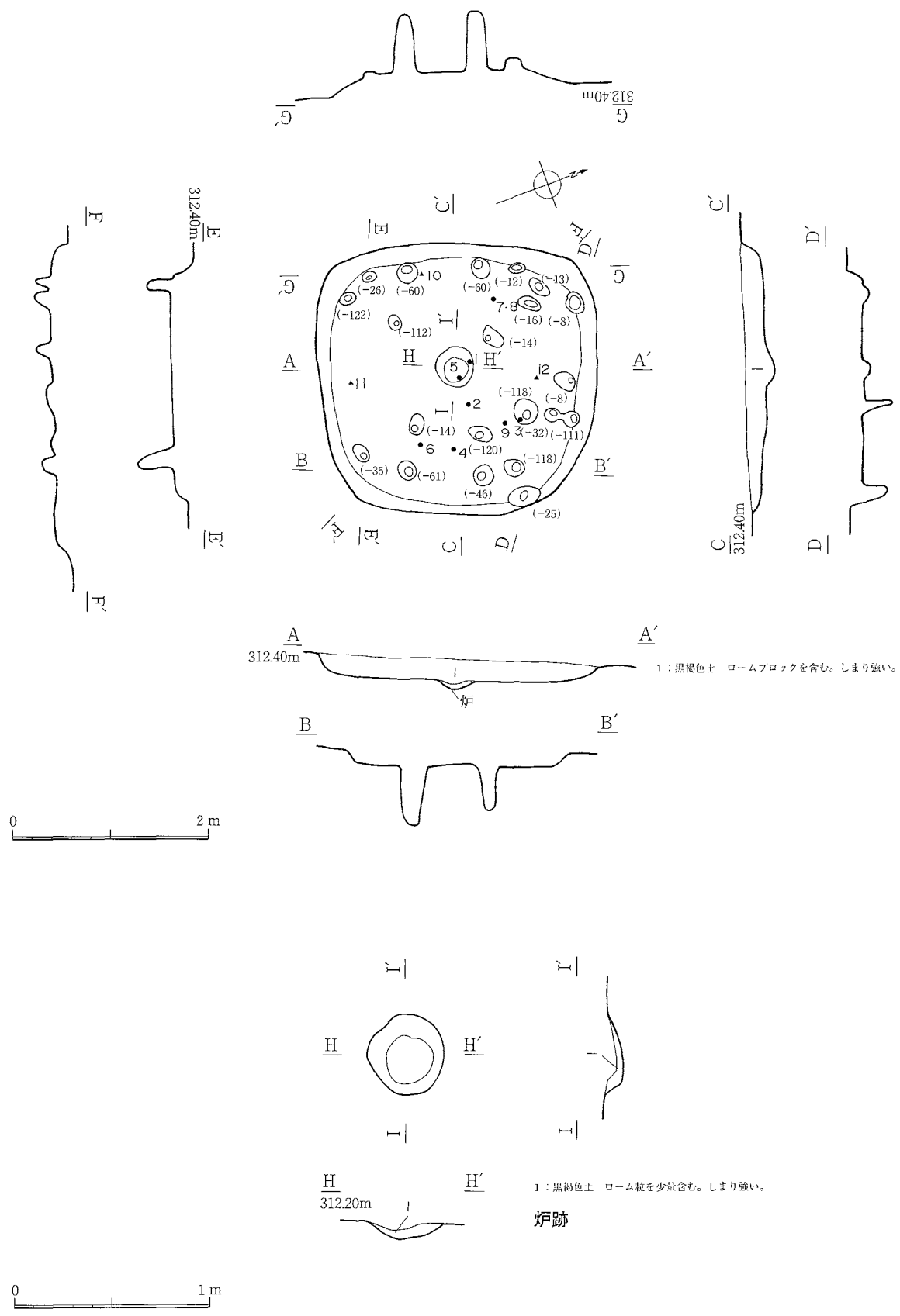
第22図 21号住居跡



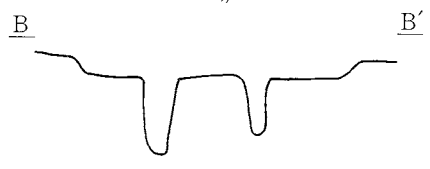
第23図 22号住居跡①



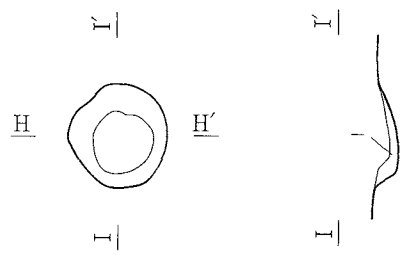
第24图 22号住居跡②



312.40m A A' 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



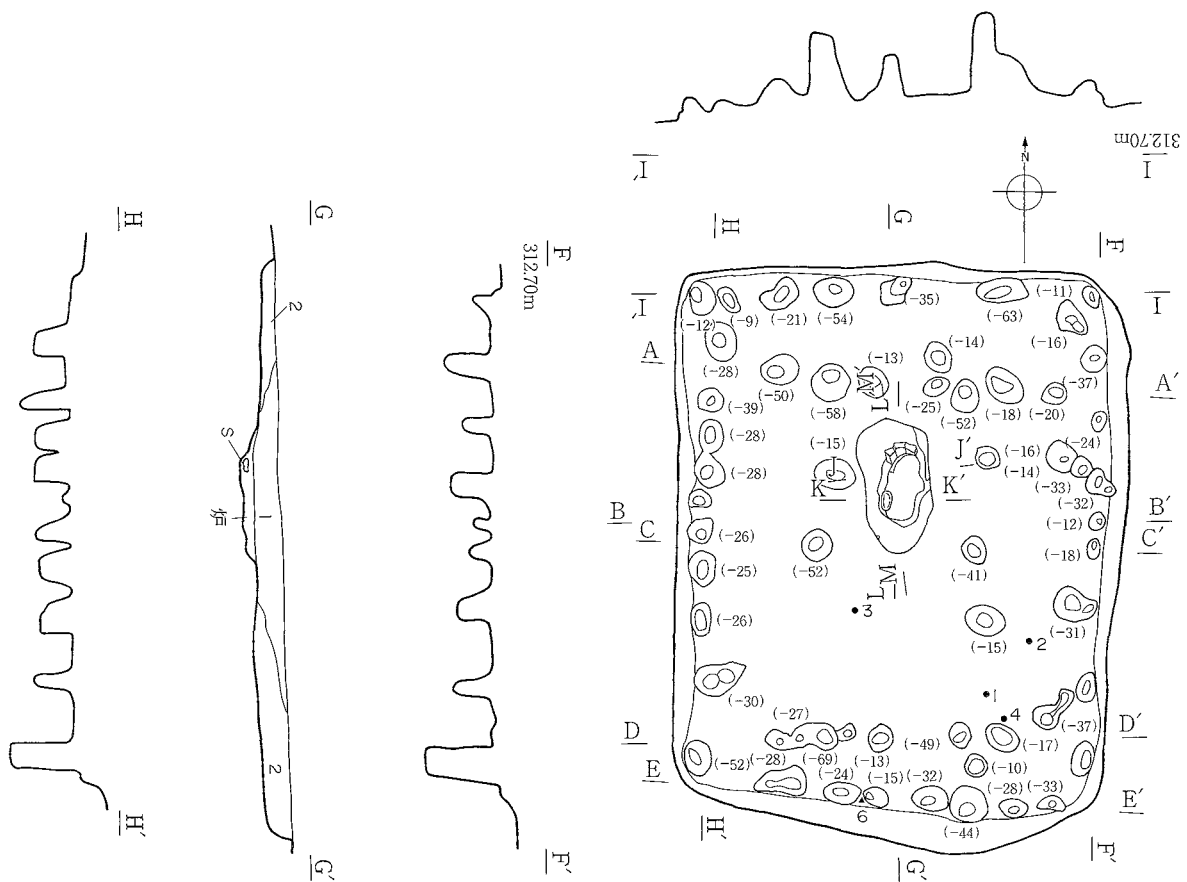
0 2 m



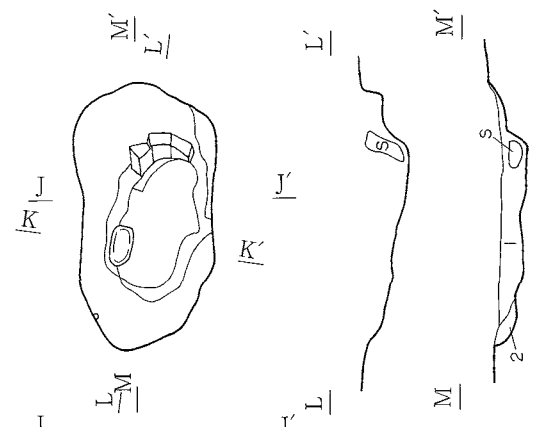
312.20m H H' 1: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。

0 1 m

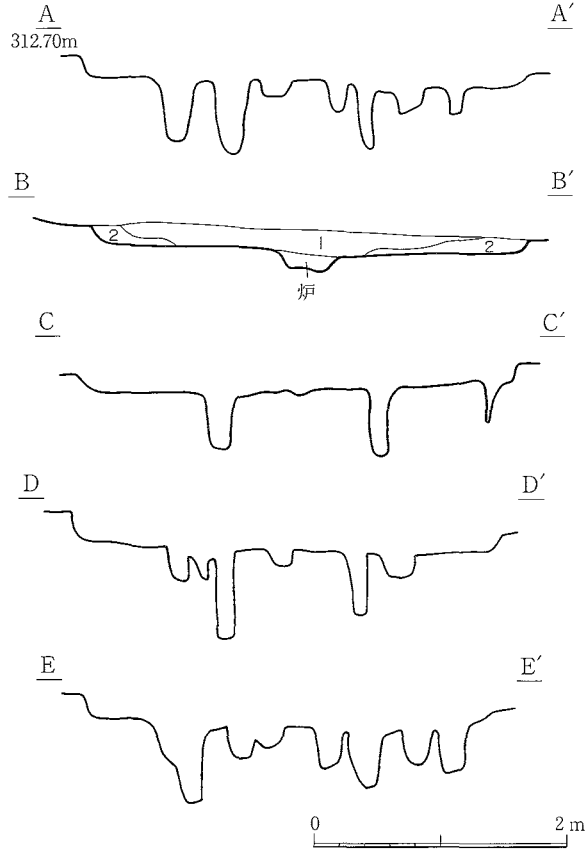
第25図 23号住居跡



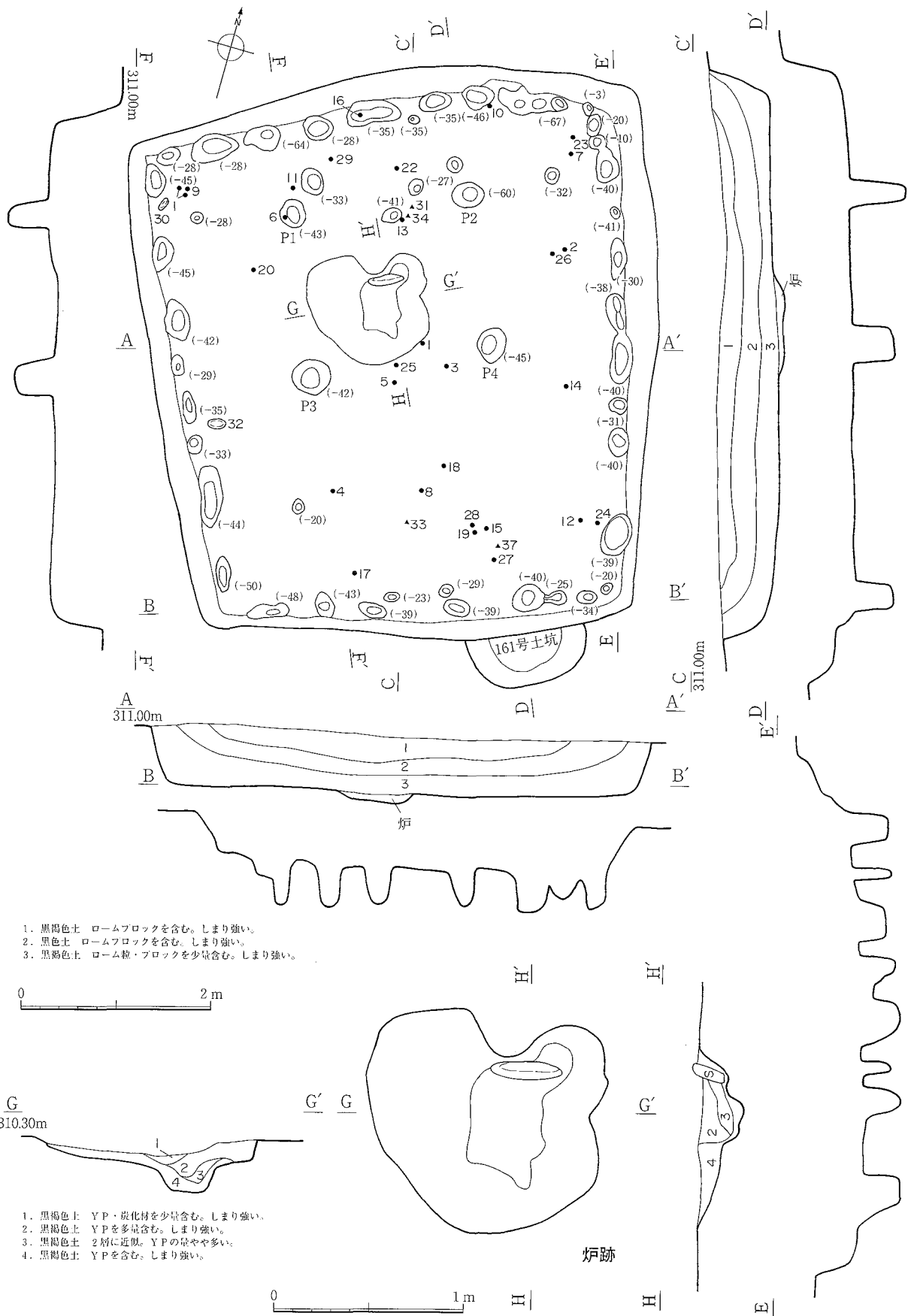
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。



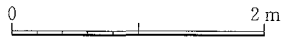
1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
 2: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。



第26図 24号住居跡

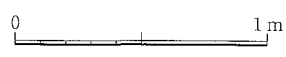


1. 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2. 黒色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
3. 黒褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。

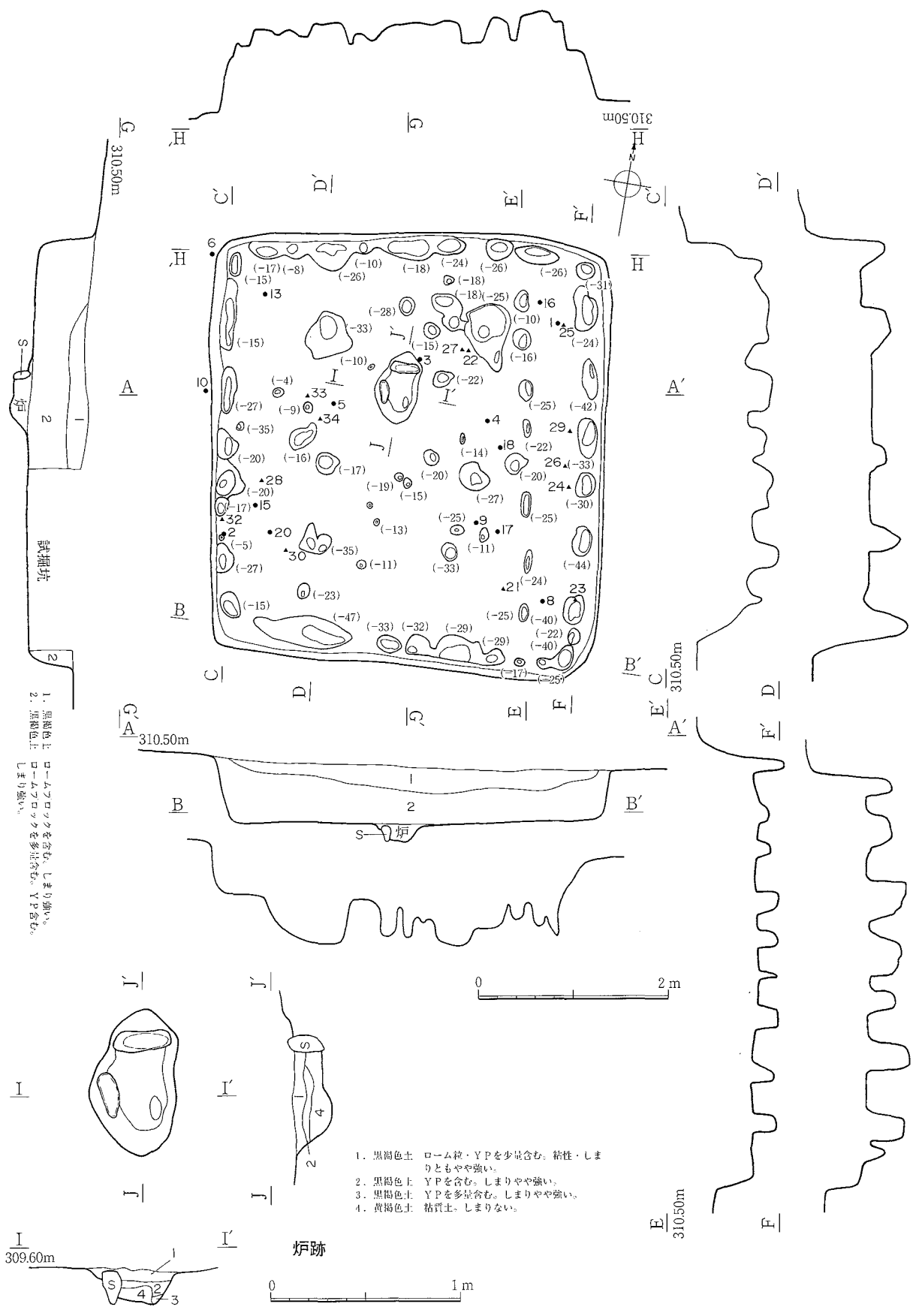


G
310.30m

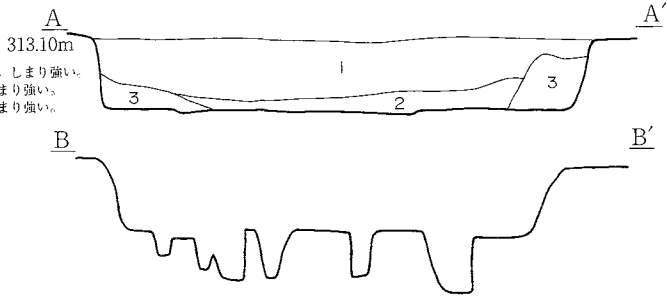
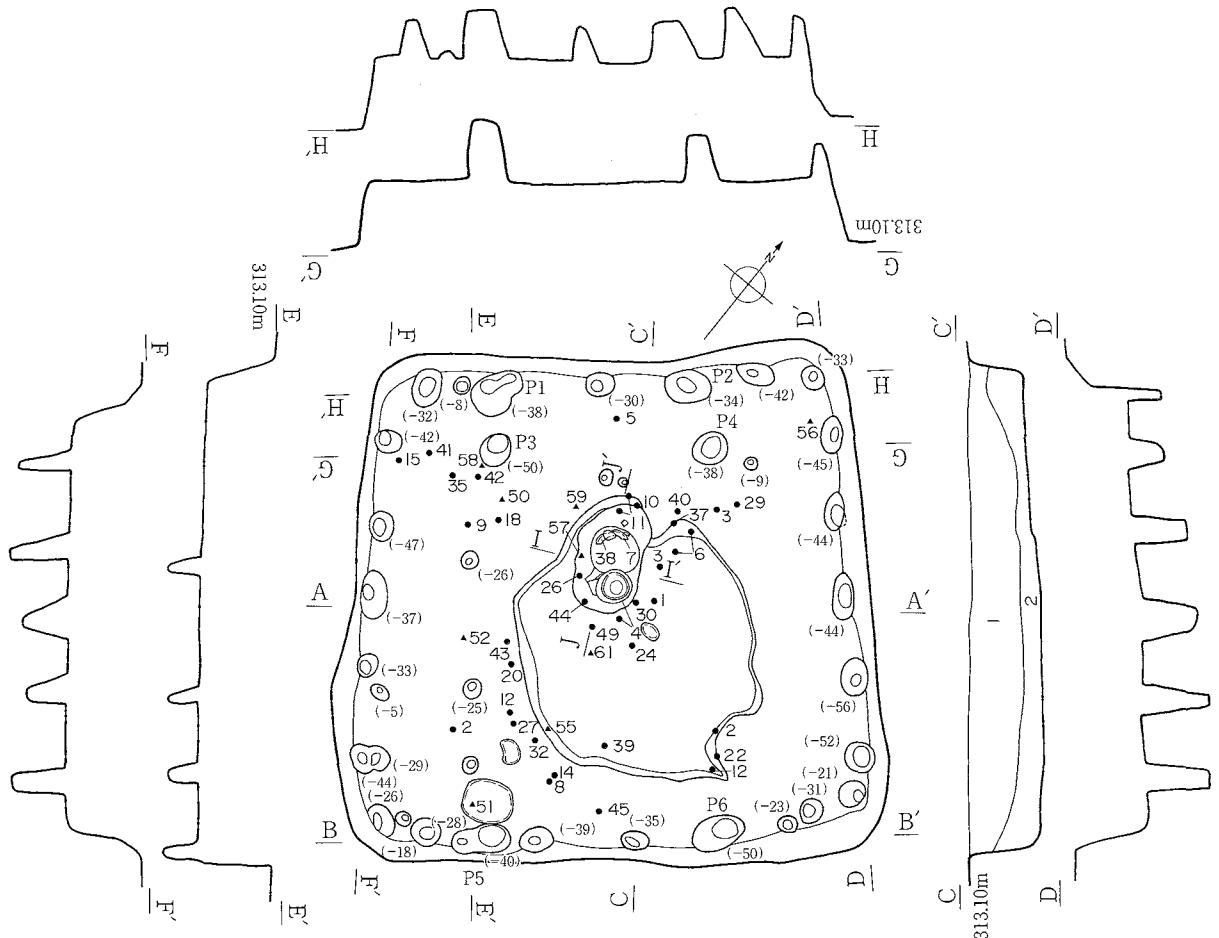
1. 黒褐色土 YP・炭化材を少量含む。しまり強い。
2. 黒褐色土 YPを多量含む。しまり強い。
3. 黒褐色土 2層に近似。YPの量やや多い。
4. 黒褐色土 YPを含む。しまり強い。



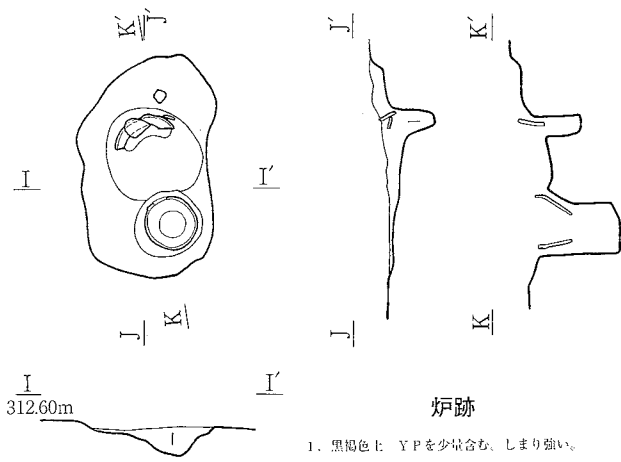
第27図 26号住居跡



第28図 27号住居跡

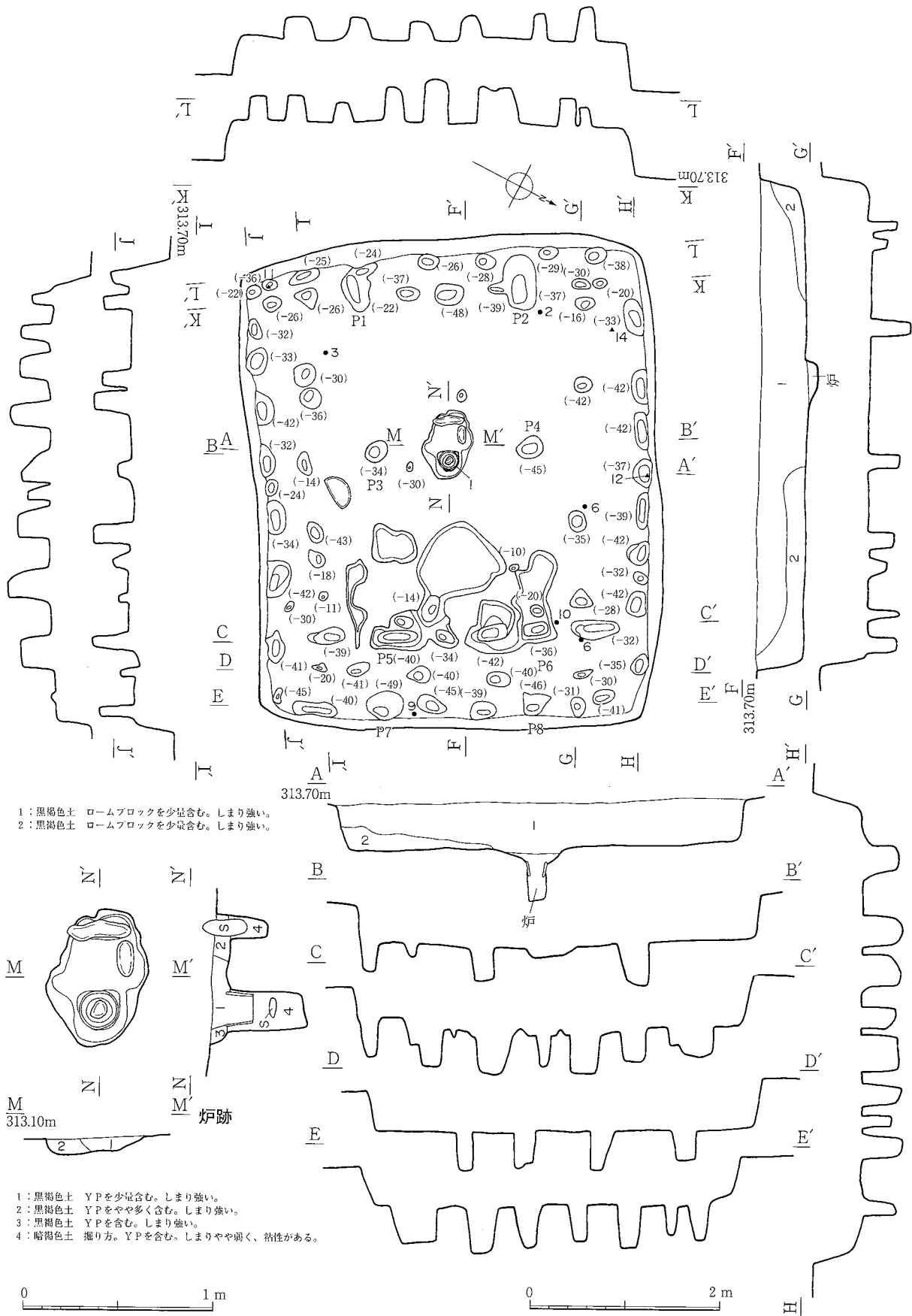


- 1. 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
- 2. 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 3. 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。

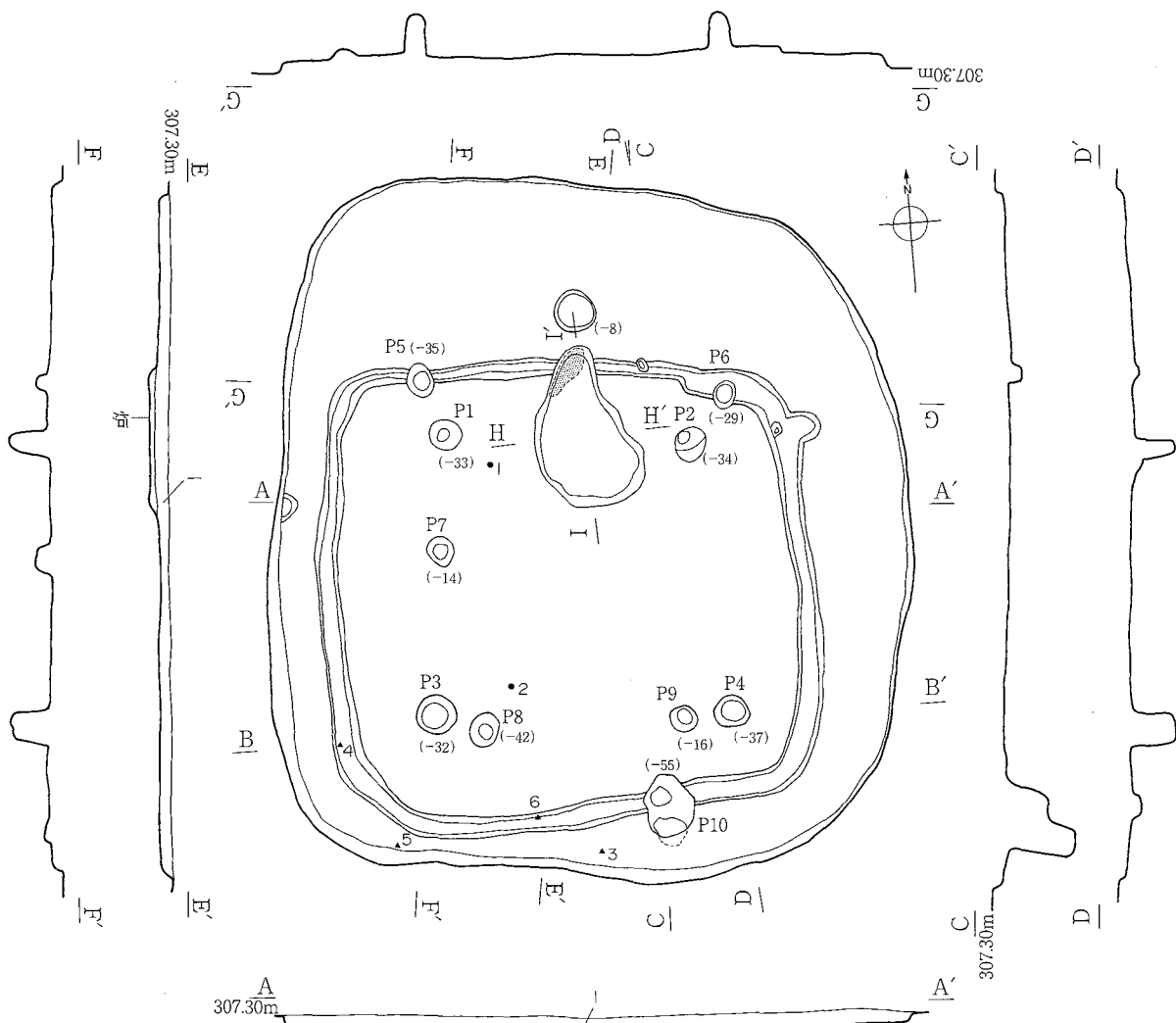


- 1. 黒褐色土 YPを少量含む。しまり強い。

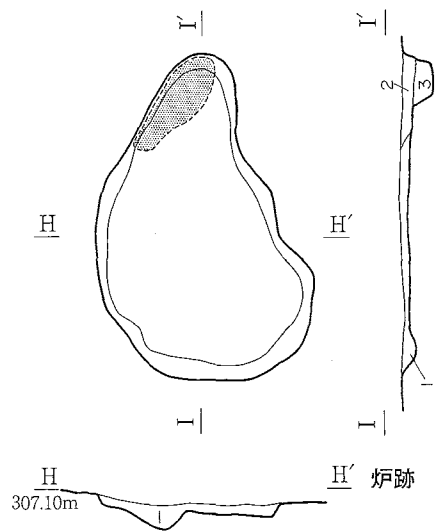
第30図 35号住居跡



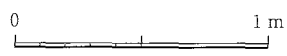
第31図 36号住居跡



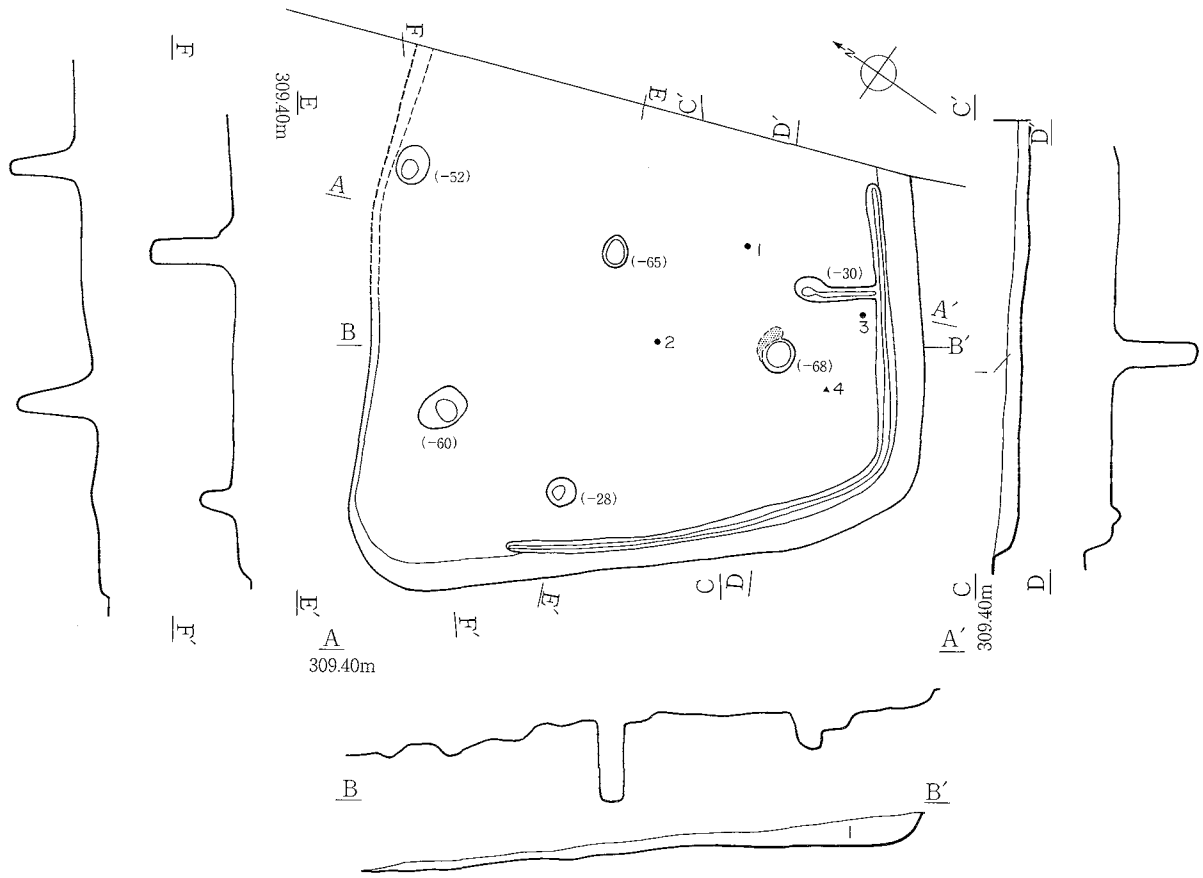
1: 黒褐色土 ロームブロック・YPを少量含む。しまり強く、硬い。



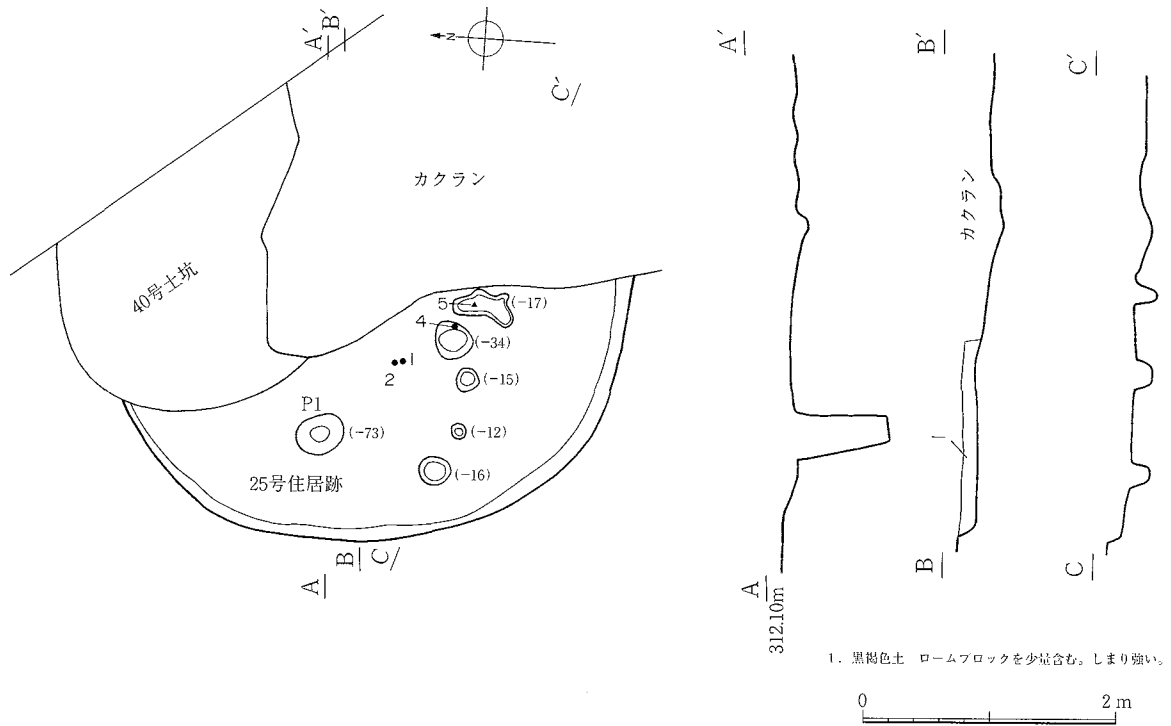
- 1: 暗褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・焼土ブロックを含む。しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。



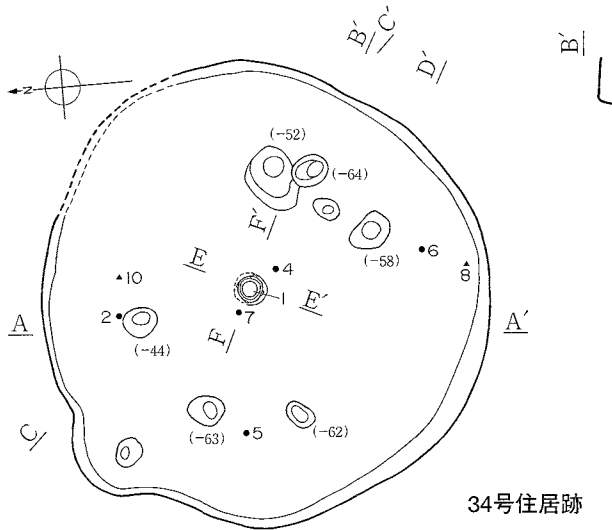
第32図 8号住居跡



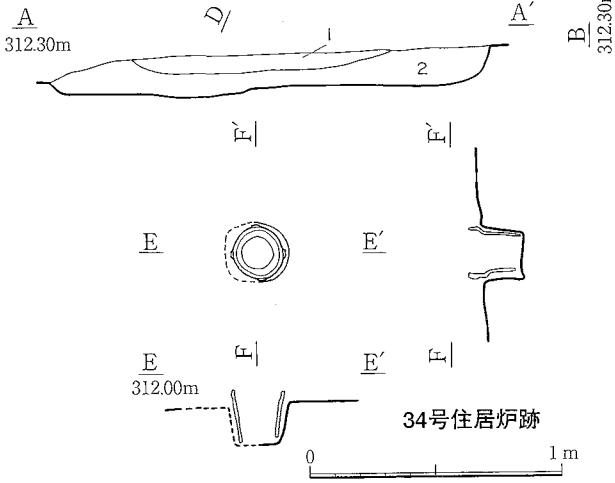
第33図 28号住居跡



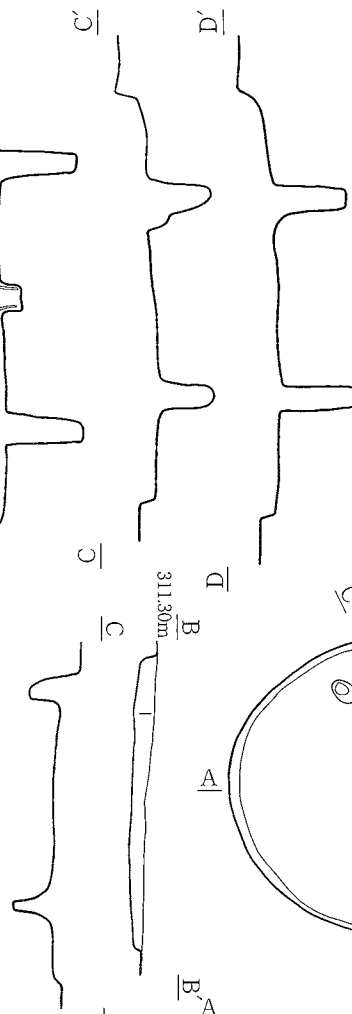
第34図 25号住居跡



34号住居跡



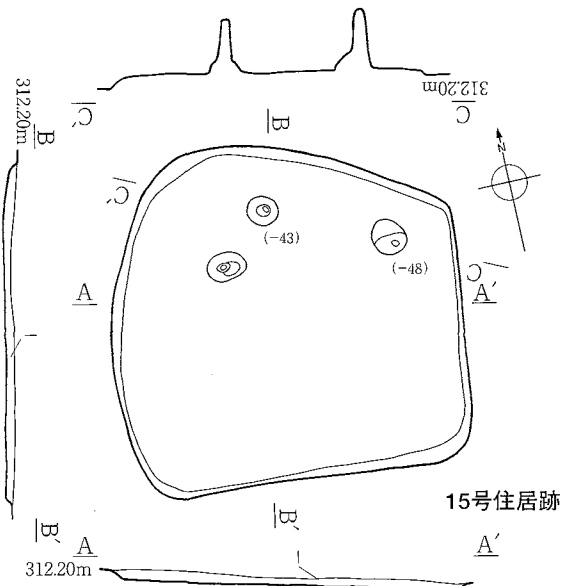
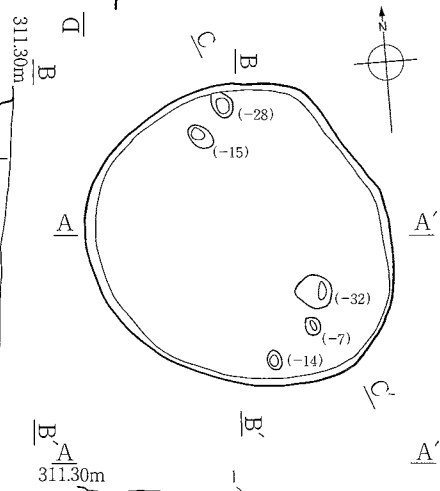
34号住居炉跡



1. 黒色土、ロームブロックを少量含む。しまり強い。
2. 黒褐色土、ロームブロックを多量含む。しまり強い。

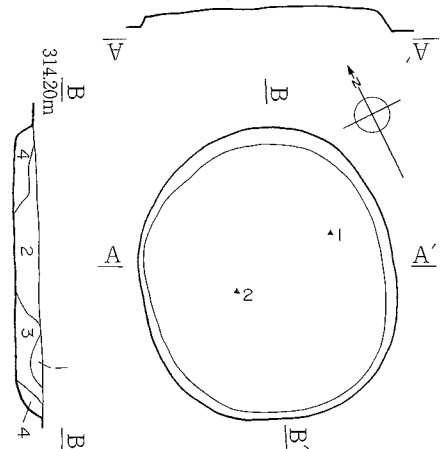
13号住居跡

1. 黒褐色土、ローム紋ブロックを含む。しまり強い。



15号住居跡

1. 黒褐色土、ロームブロックを含む。しまり強い。

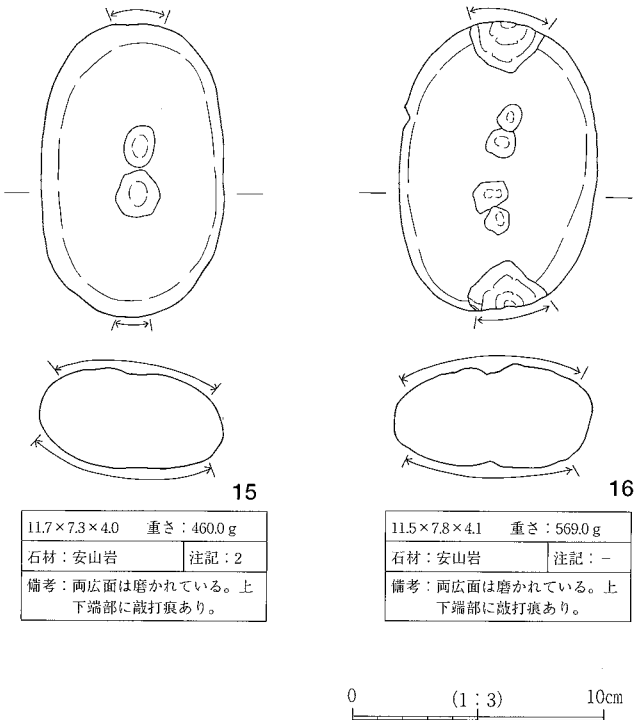
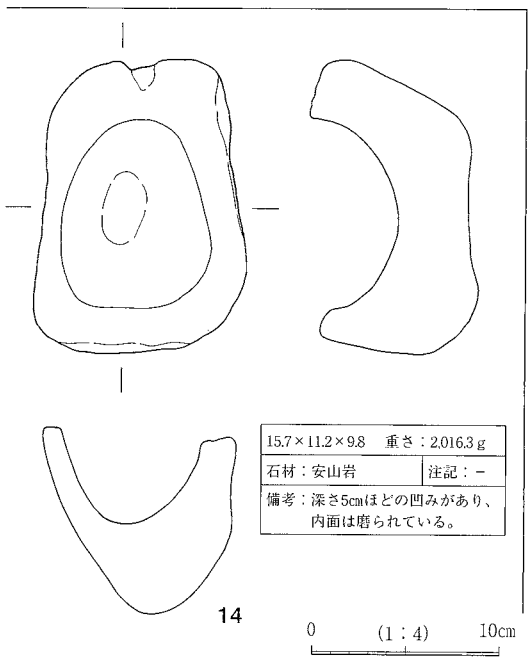
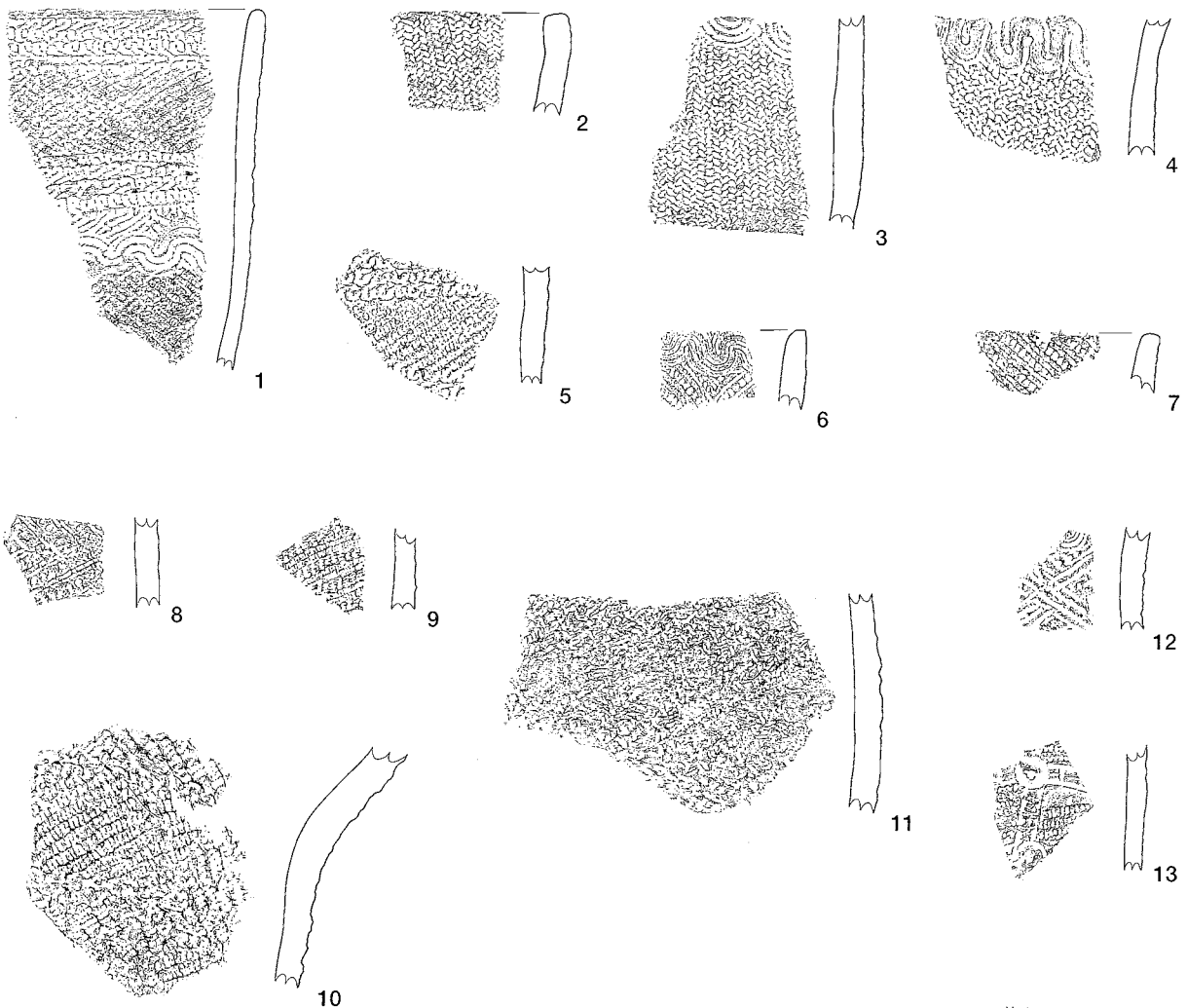


30号住居跡

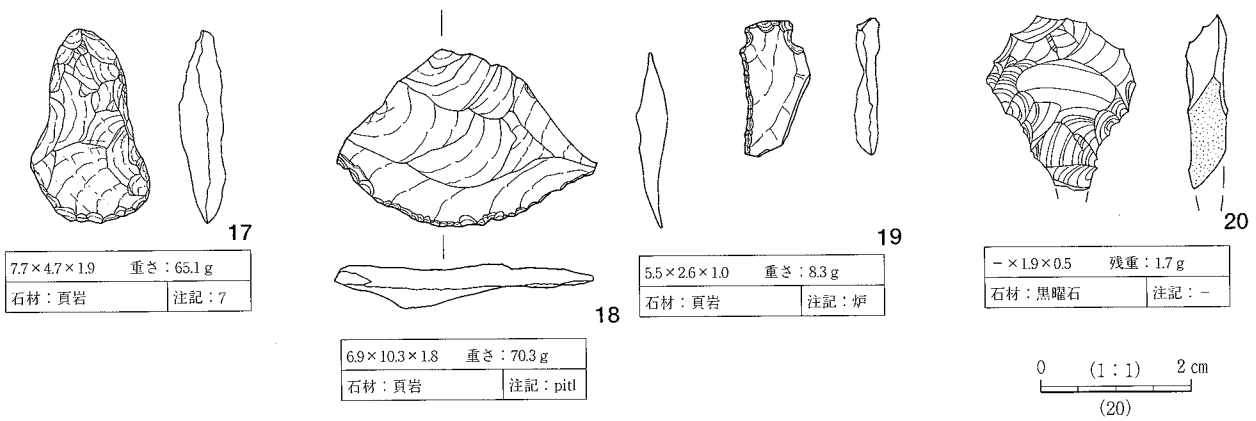
1. 黒褐色土、ローム紋・ブロッケンを多く含む。
2. 黒褐色土、ローム紋ブロックを含む。しまり強い。
3. 黒褐色土、ローム紋ブロックを含む。1のより強い。
4. 黒褐色土、ローム紋を含む。



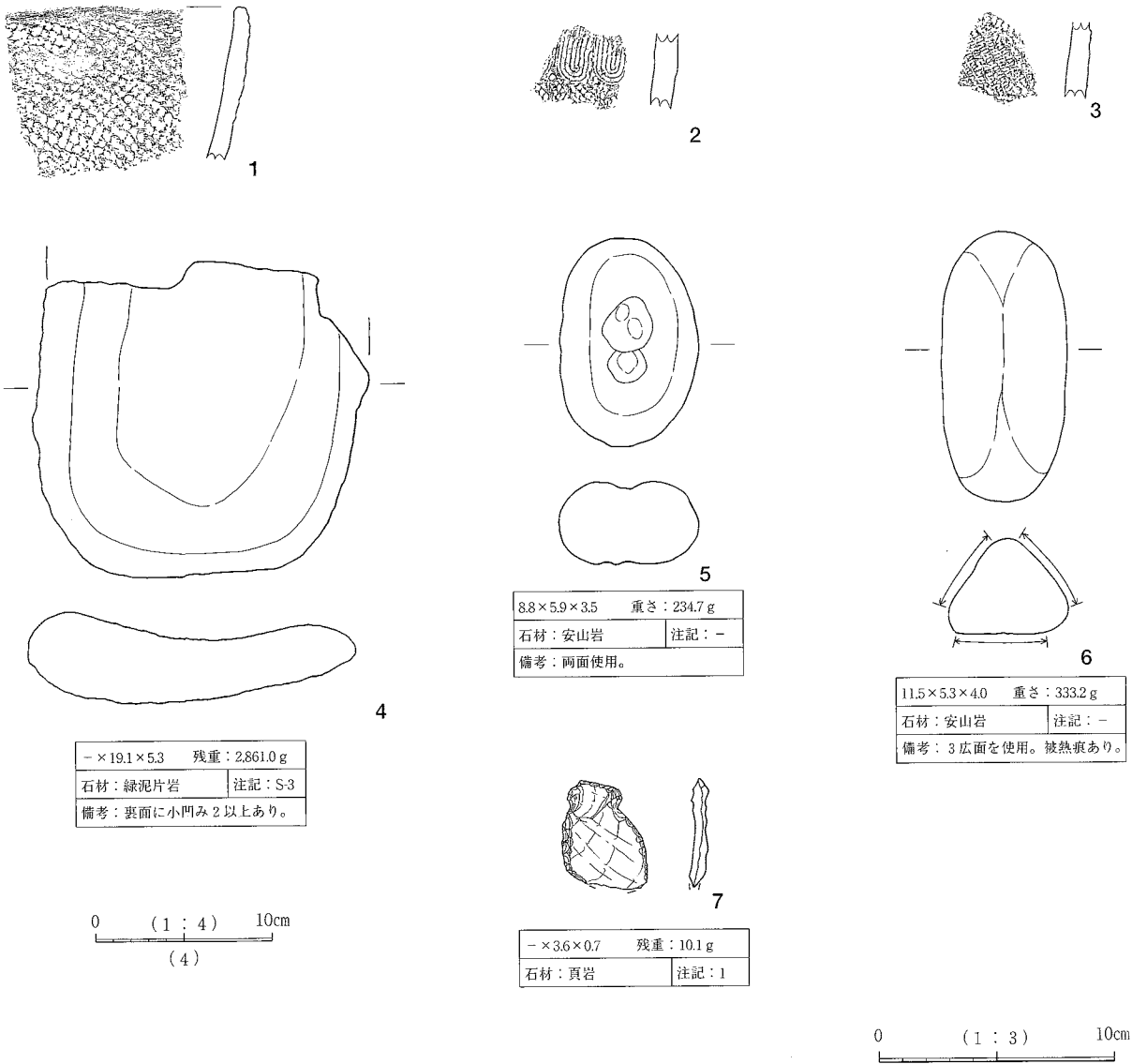
第35図 34号・13号・15号・30号住居跡



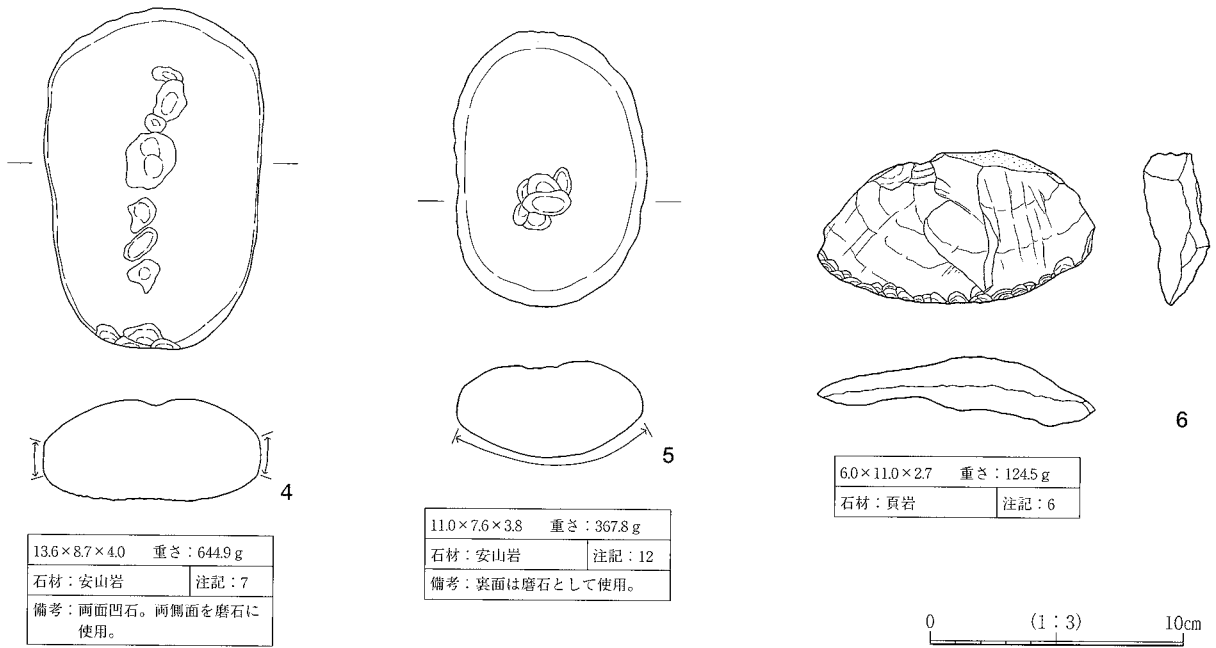
第36図 1号住居跡出土遺物①



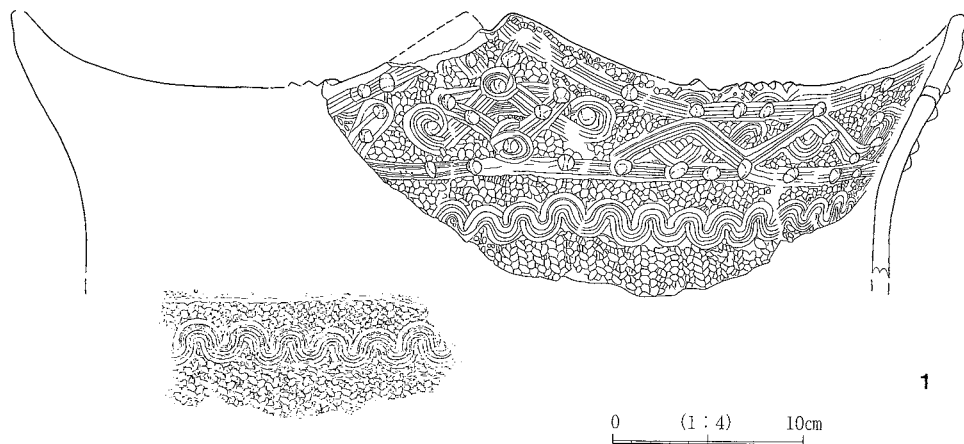
第37図 1号住居跡出土遺物②



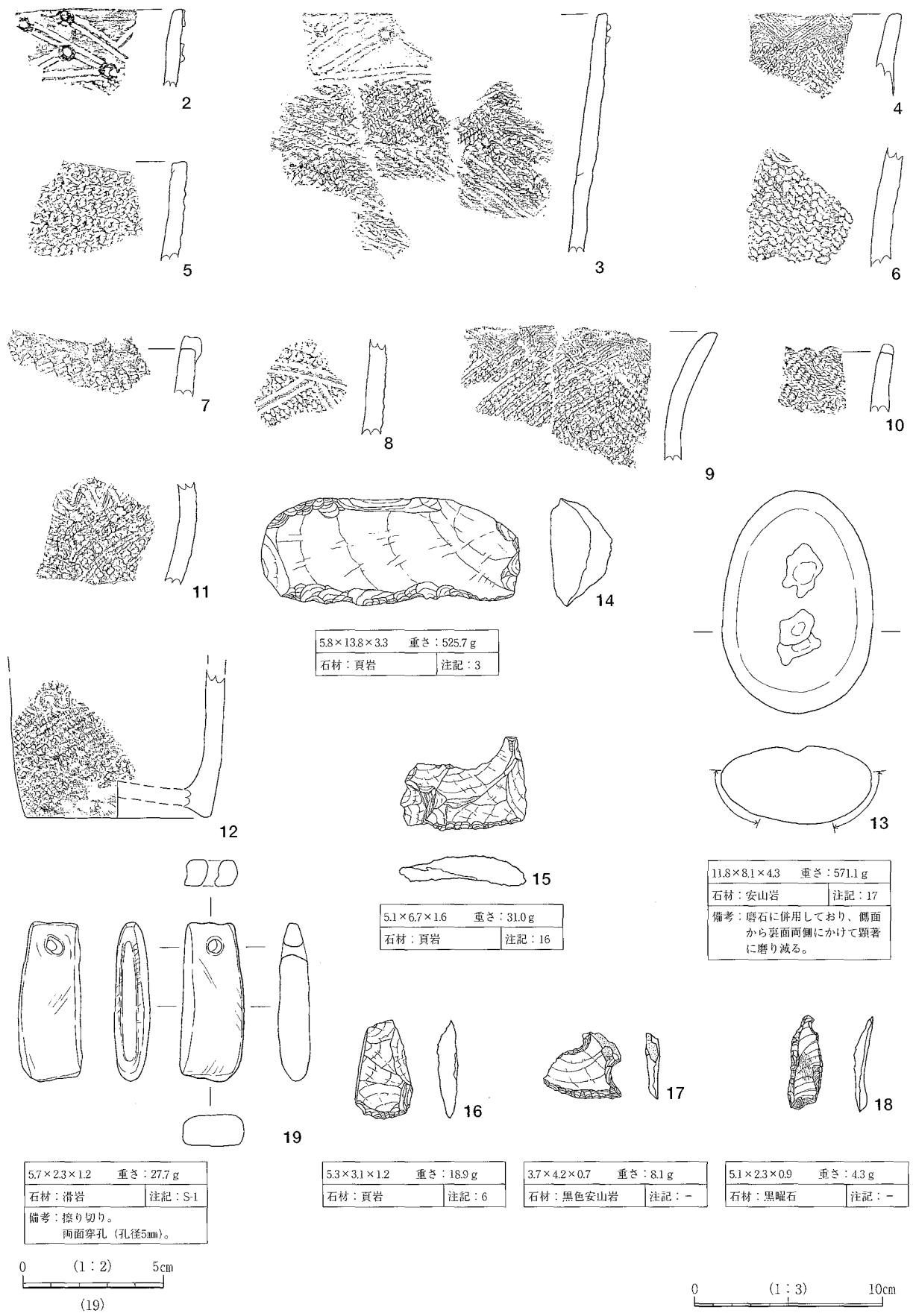
第38図 2号住居跡出土遺物



第39図 3号住居跡出土遺物



第40図 6号住居跡出土遺物①



5.8×13.8×3.3 重さ：525.7g
 石材：頁岩 注記：3

11.8×8.1×4.3 重さ：571.1g
 石材：安山岩 注記：17
 備考：磨石に併用しており、側面から裏面両側にかけて顕著に磨り減る。

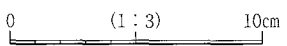
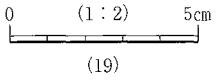
5.1×6.7×1.6 重さ：31.0g
 石材：頁岩 注記：16

5.7×2.3×1.2 重さ：27.7g
 石材：滑岩 注記：S-1
 備考：擦り切り。
 両面穿孔（孔径5mm）。

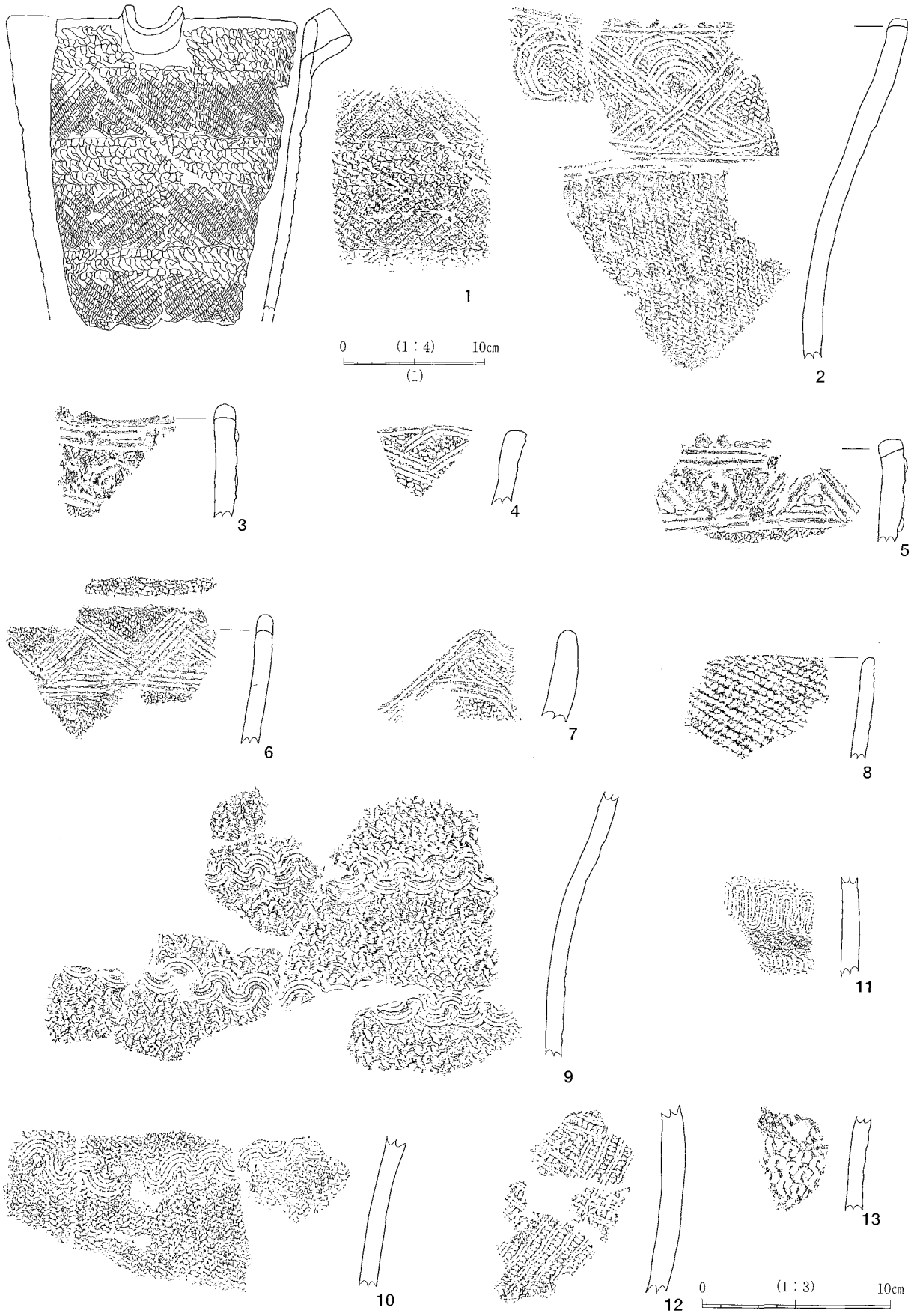
5.3×3.1×1.2 重さ：18.9g
 石材：頁岩 注記：6

3.7×4.2×0.7 重さ：8.1g
 石材：黒色安山岩 注記：-

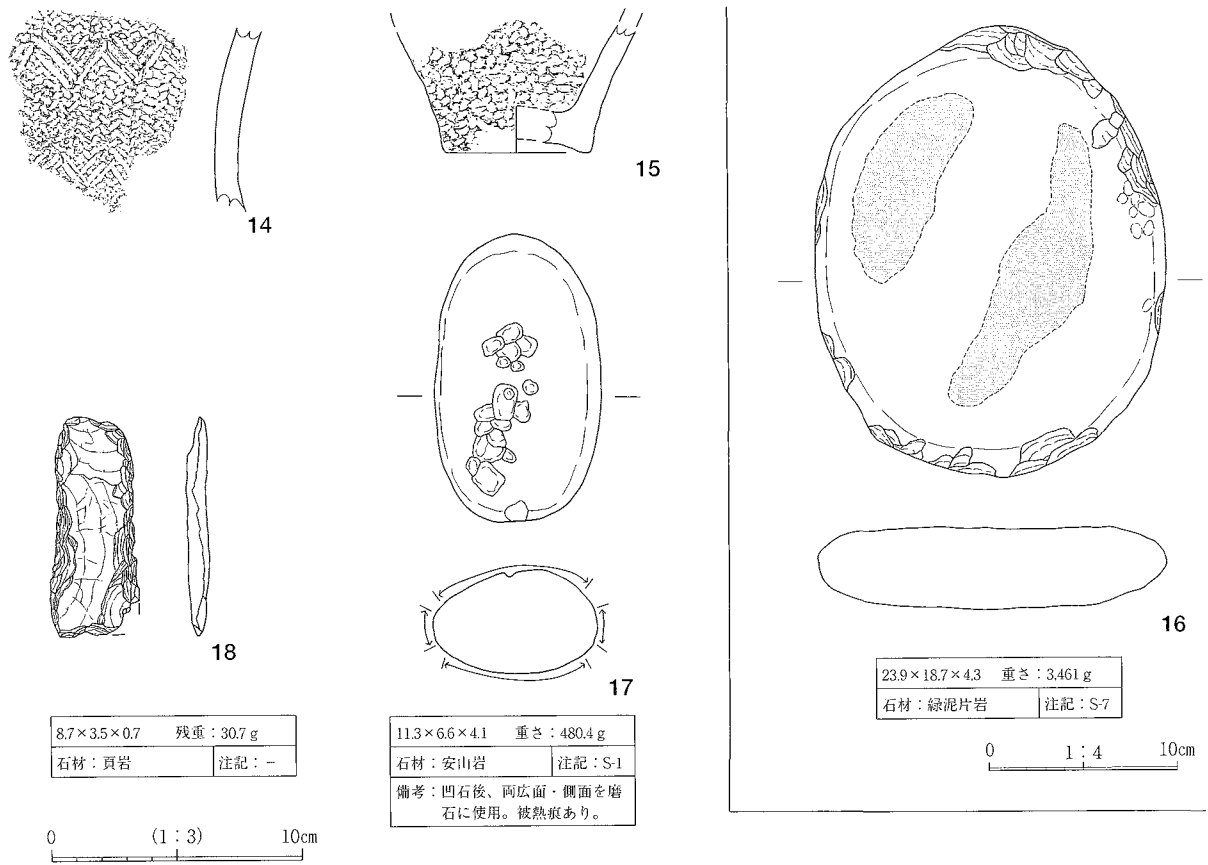
5.1×2.3×0.9 重さ：4.3g
 石材：黒曜石 注記：-



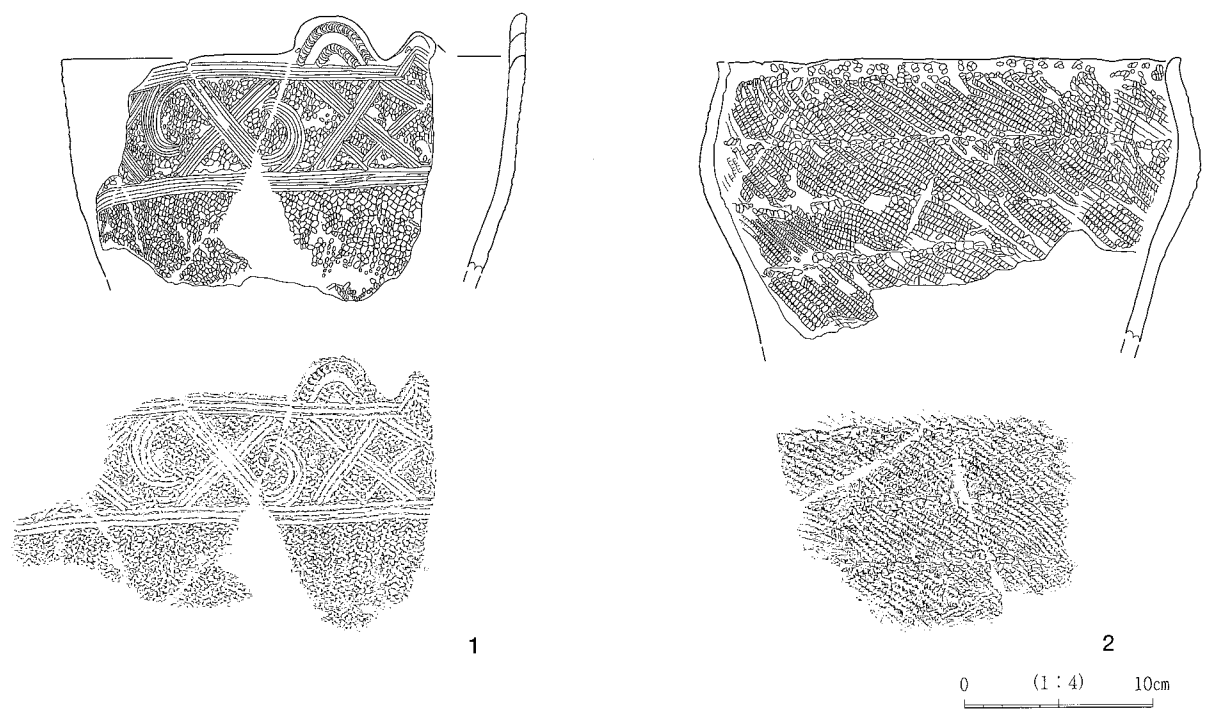
第41図 6号住居跡出土遺物②



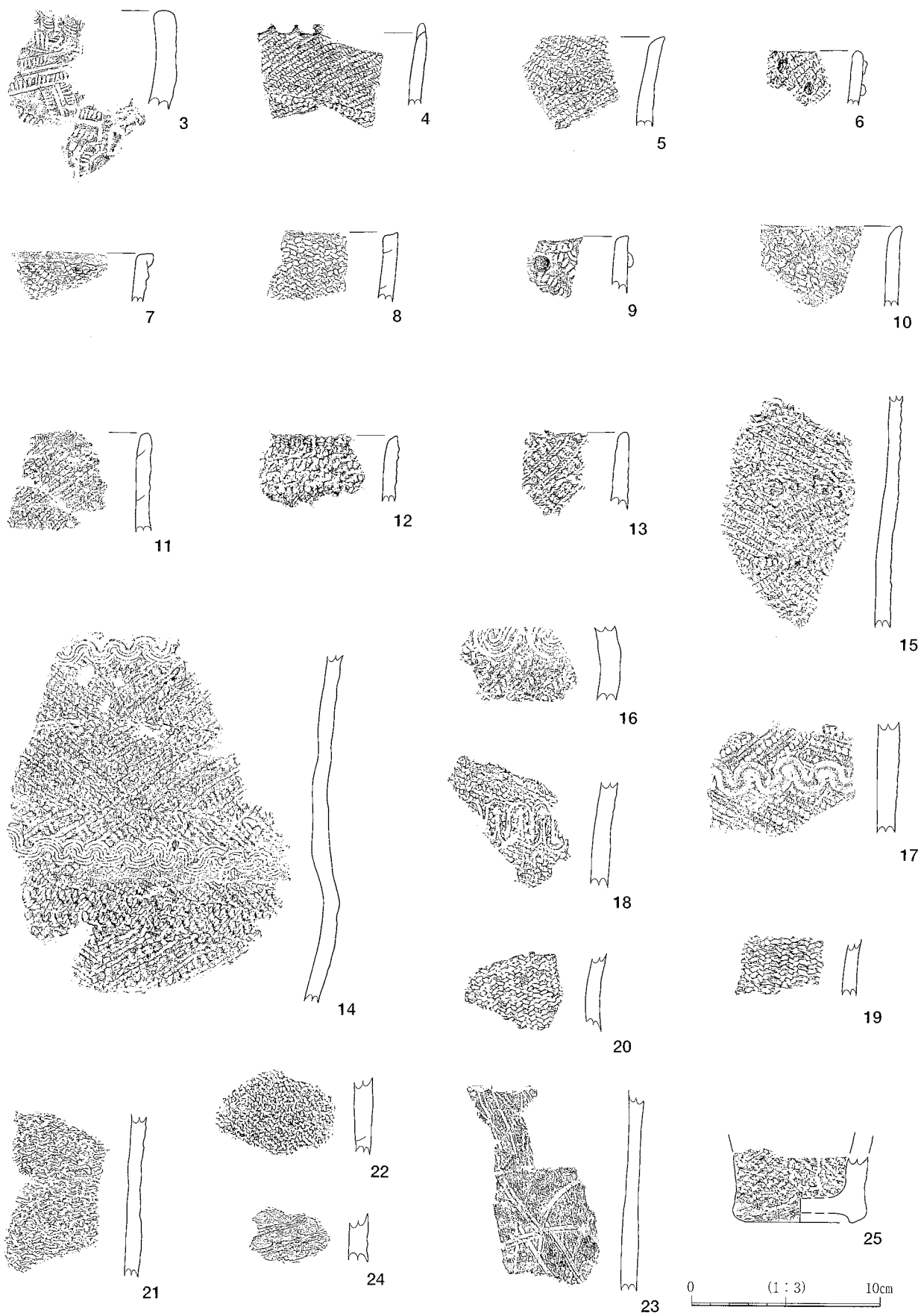
第42图 7号住居跡出土遺物①



第43図 7号住居跡出土遺物②

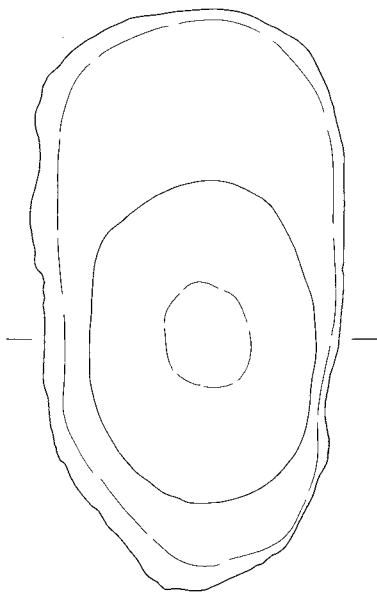


第44図 9号住居跡出土遺物①



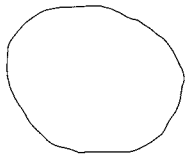
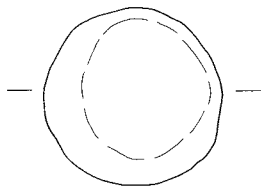
0 (1 : 3) 10cm

第45图 9号住居跡出土遺物②



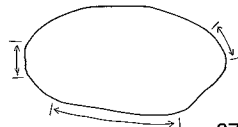
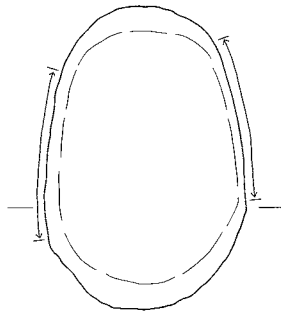
30.8×16.8×3.7	重さ：3.585 g
石材：緑泥片岩	注記：S-4
備考：ベンガラ状の赤褐色物付着。	

0 (1:4) 10cm



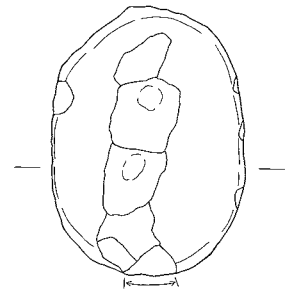
29

7.1×7.1×5.8	重さ：296.3 g
石材：安山岩	注記：炉2



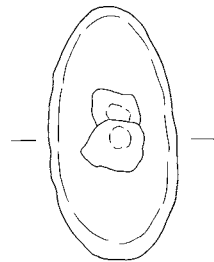
27

12.0×8.0×4.3	重さ：656.1 g
石材：安山岩	注記：20
備考：両側面・裏面が顕著に磨り減る。	



28

10.7×7.7×4.2	重さ：488.9 g
石材：安山岩	注記：-
備考：磨石にも使用。下端に敲打痕。	



30

10.1×5.1×2.6	重さ：158.4 g
石材：安山岩	注記：-
備考：両面使用。	



31

- × 1.3 × 0.4	残重：0.6 g
石材：黒曜石	注記：-

0 (1:1) 2 cm

(31)

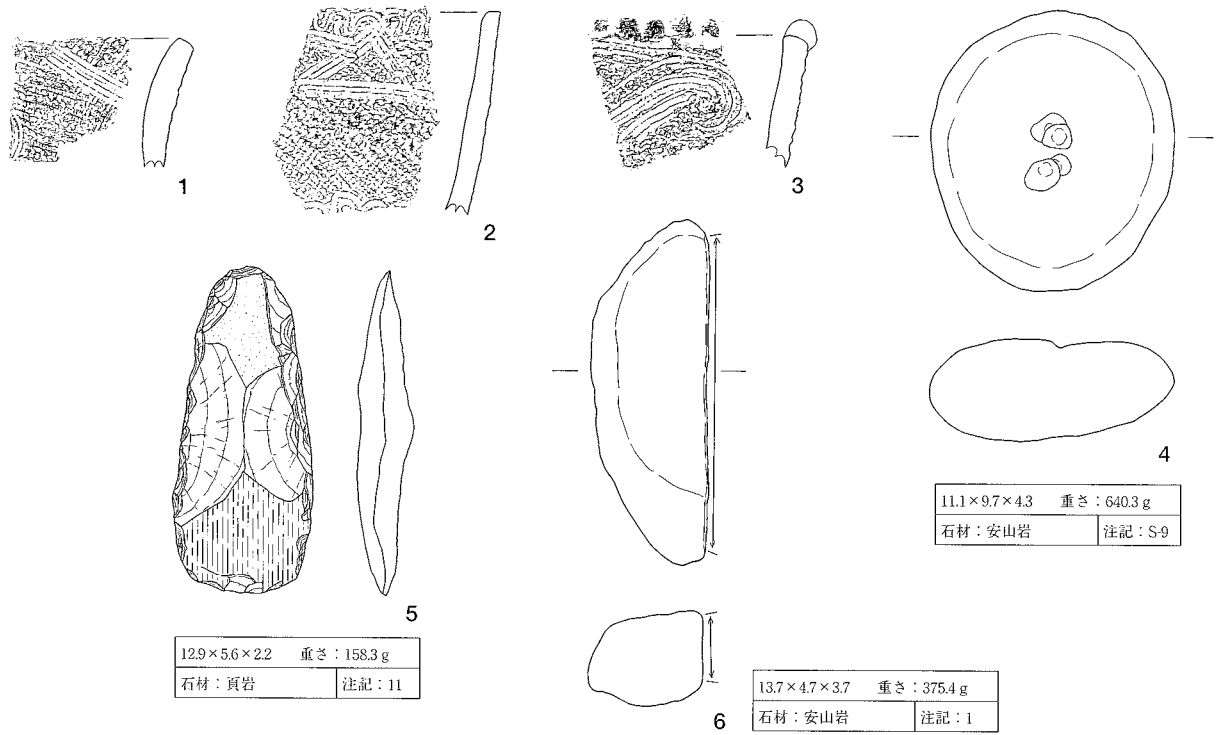
第46図 9号住居跡出土遺物③



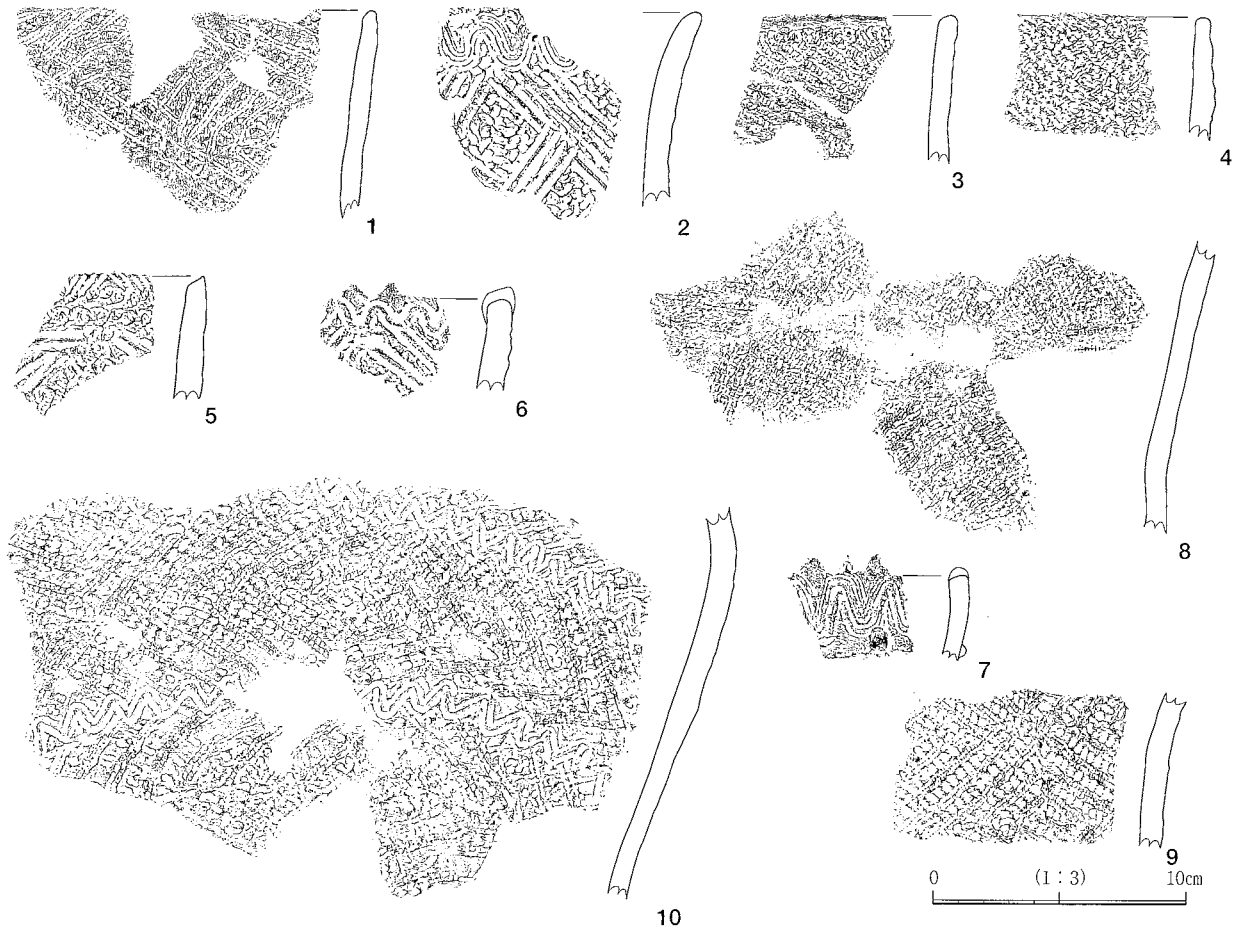
1

0 (1:3) 10cm

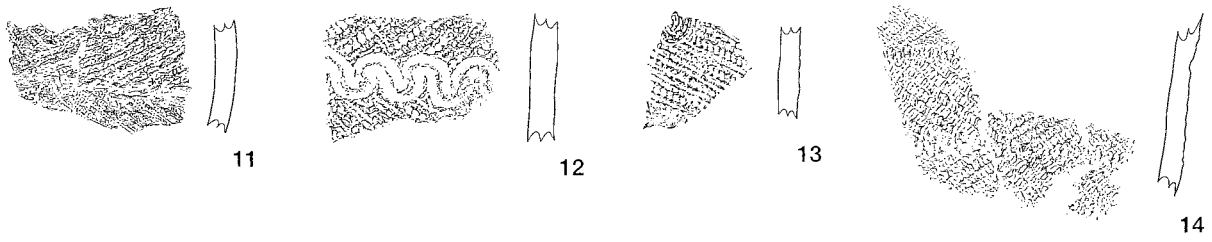
第47図 10号住居跡出土遺物



第48図 11号住居跡出土遺物



第49図 12号住居跡出土遺物①



11

12

13

14



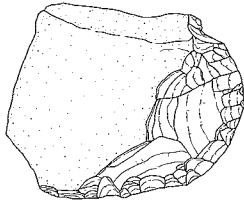
15



16

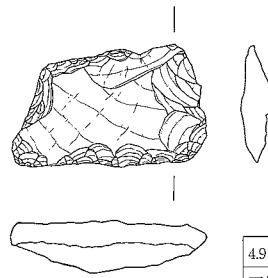


17



7.7×9.5×3.0	重さ：213.9 g
石材：頁岩	注記：119

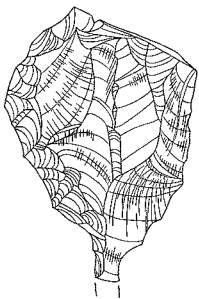
18



4.9×7.8×2.1	重さ：72.9 g
石材：頁岩	注記：78

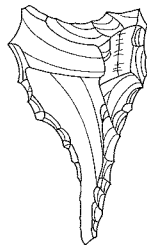
19

0 (1:3) 10cm



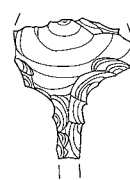
20

-×2.6×0.9	残重：6.1 g
石材：黒曜石	注記：S-16



21

3.2×1.8×0.6	重さ：6.1 g
石材：チャート	注記：-



22

-×1.6×0.5	残重：2.3 g
石材：黒曜石	注記：S-30



23

2.1×-×0.3	残重：0.9 g
石材：黒曜石	注記：S-33



24

1.4×1.1×0.2	残重：0.4 g
石材：黒曜石	注記：S-5

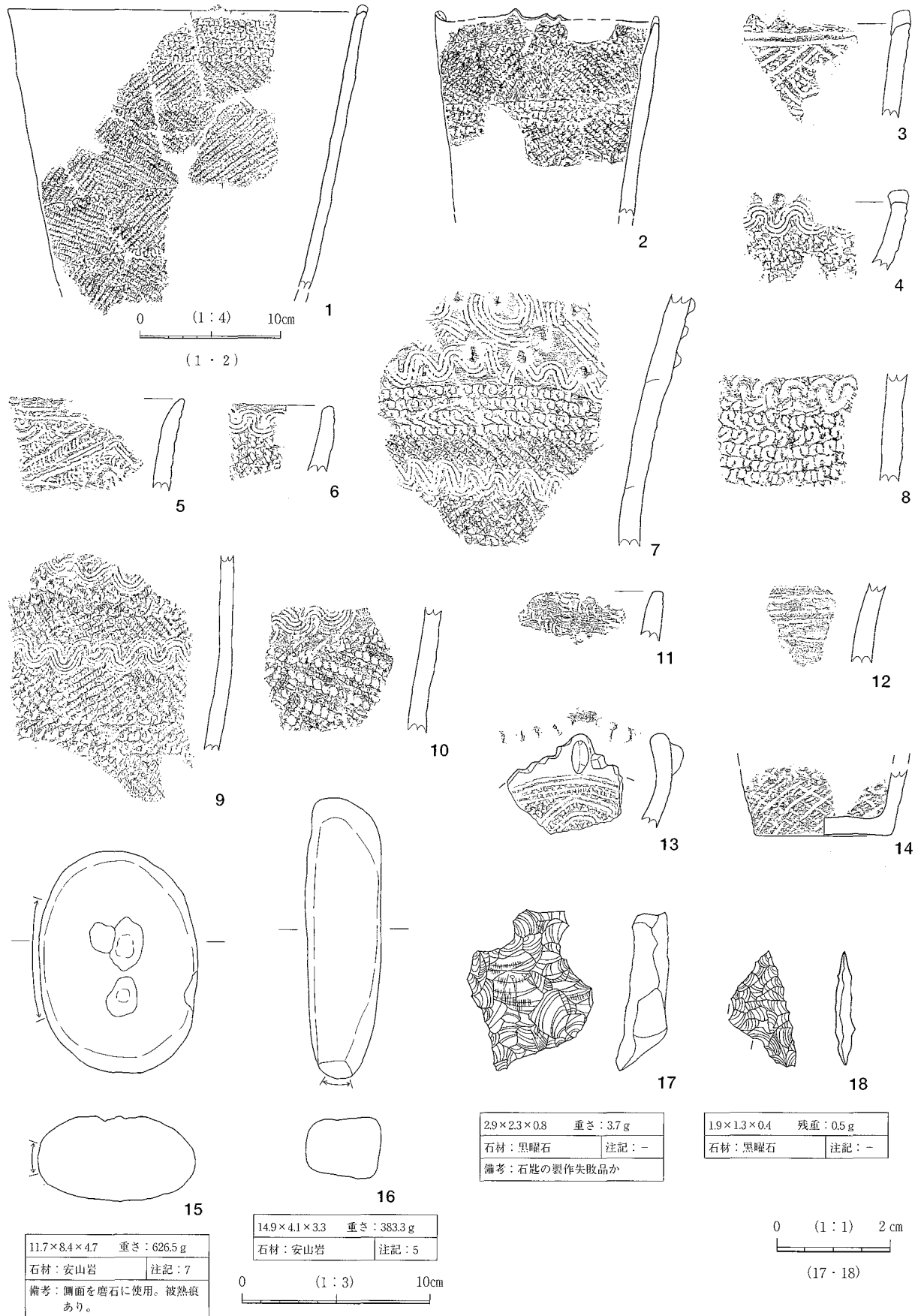


25

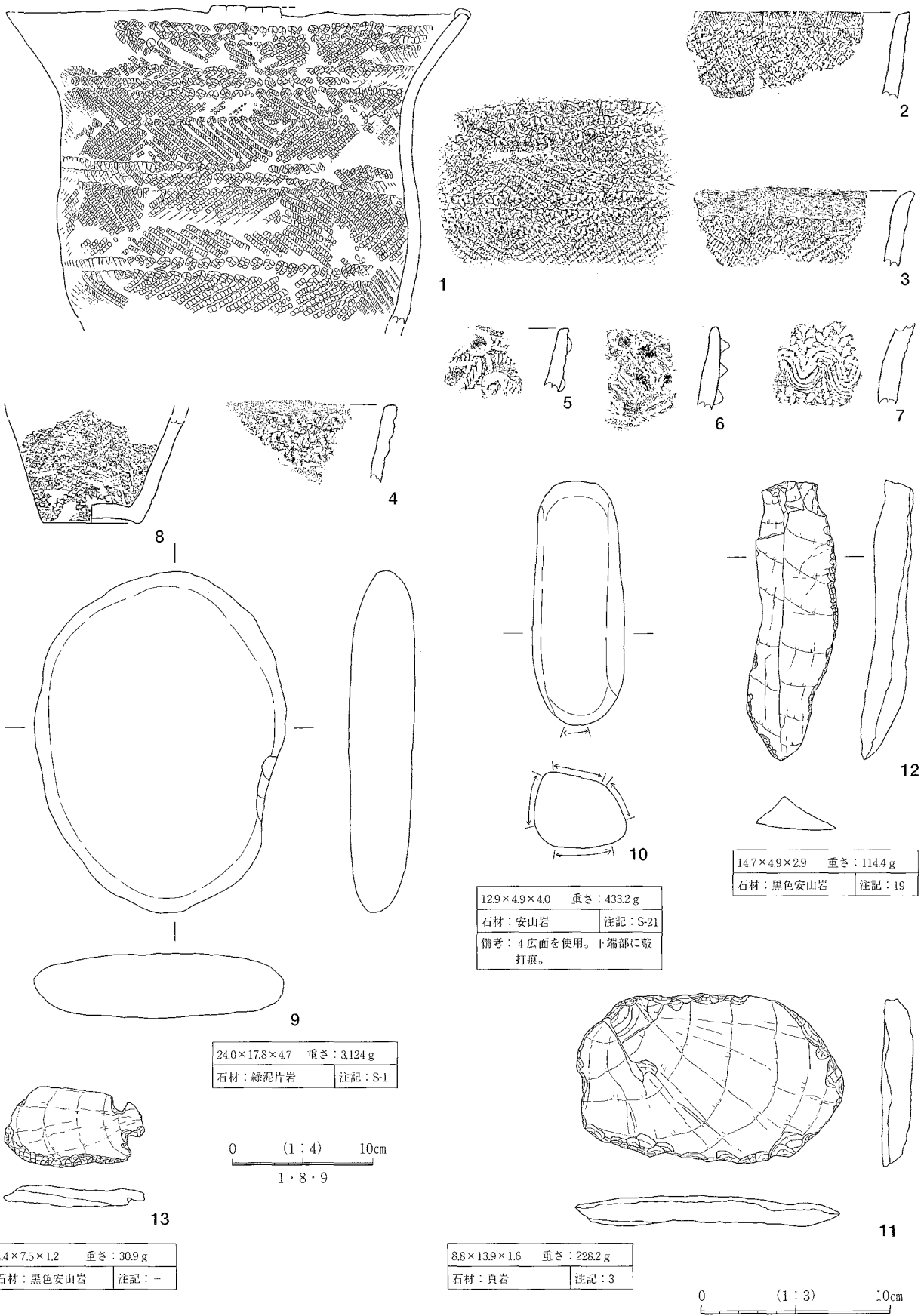
-×-×0.4	残重：0.9 g
石材：チャート	注記：S-31

0 (1:1) 2 cm

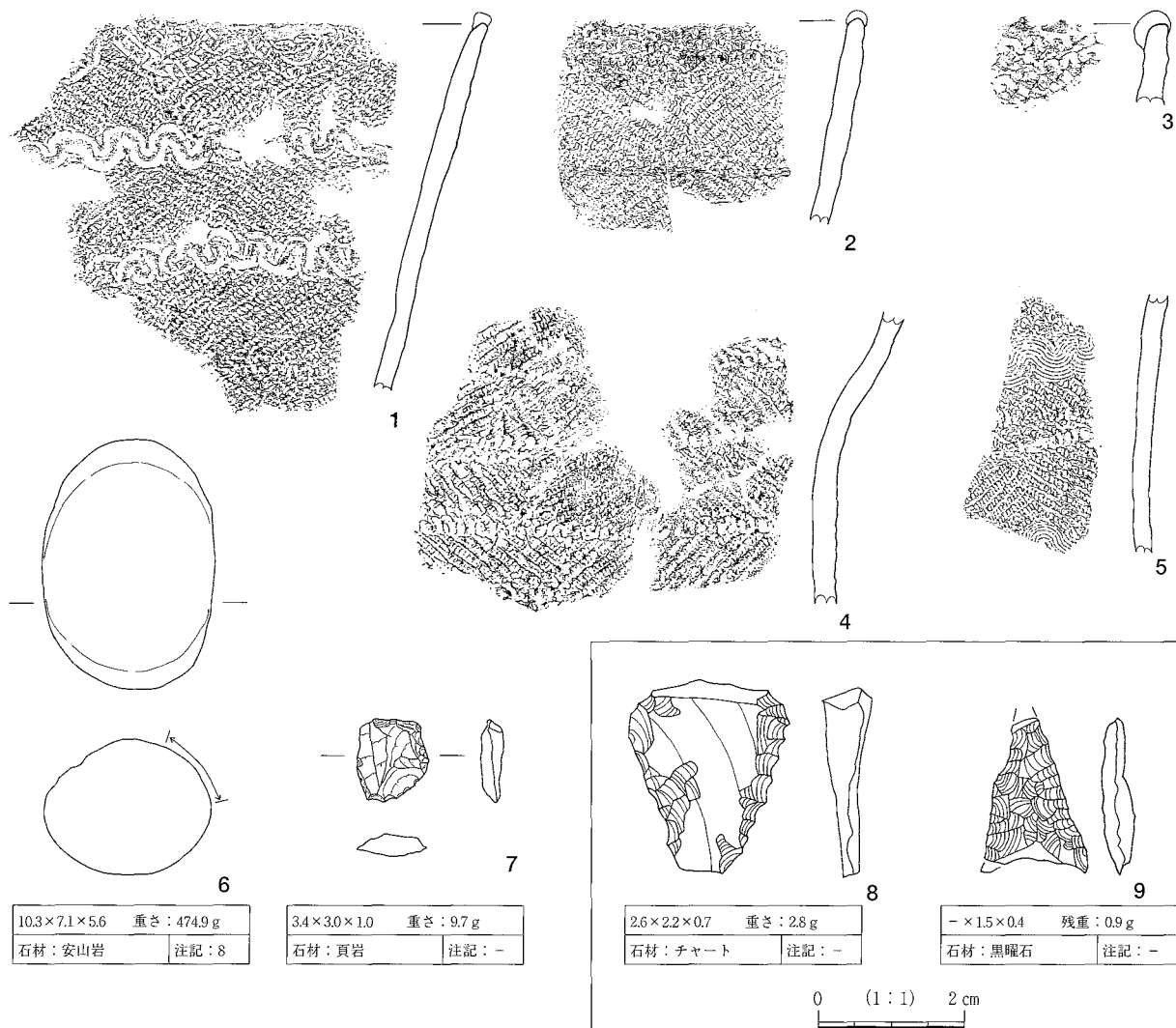
第50図 12号住居跡出土遺物②



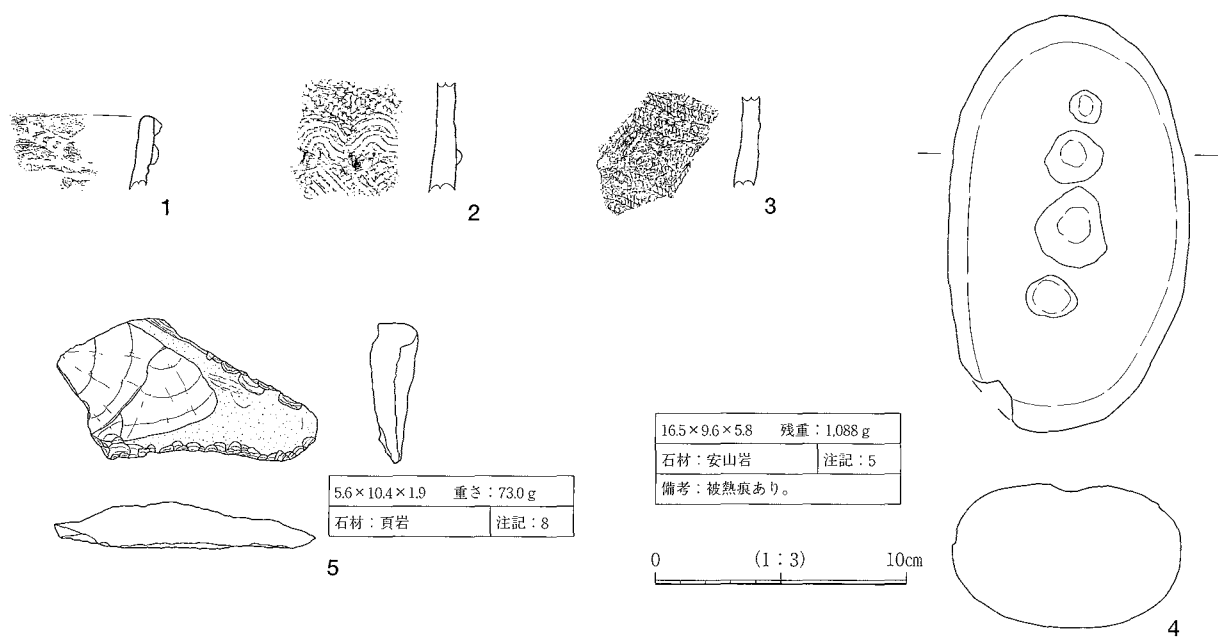
第51図 14号住居跡出土遺物



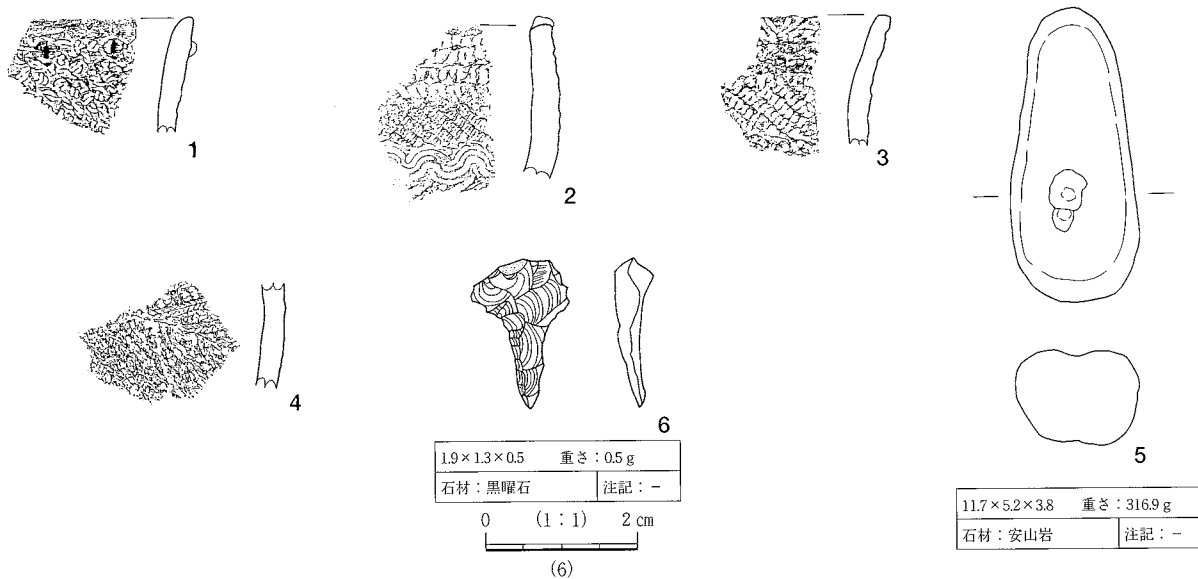
第52図 16号住居跡出土遺物



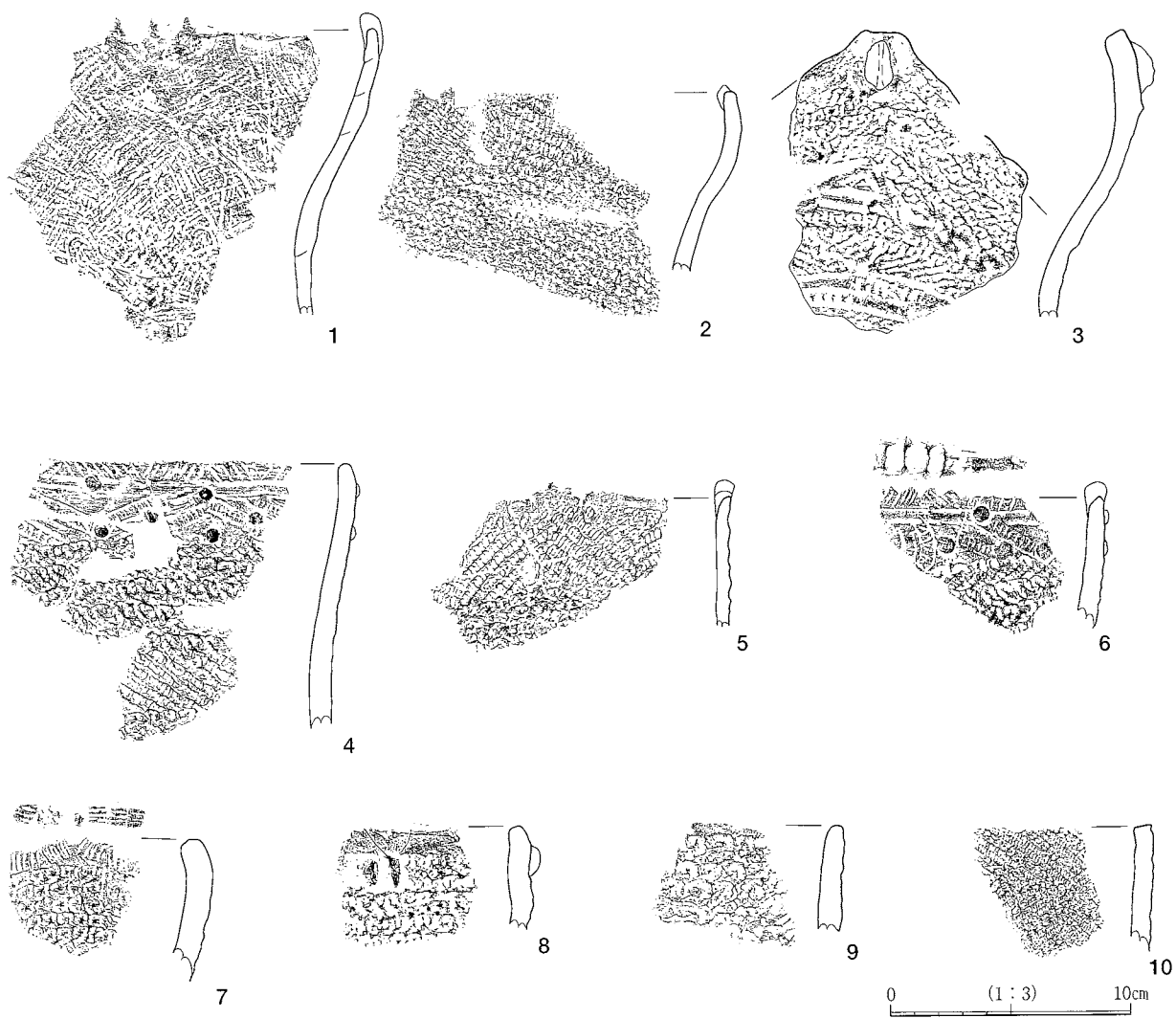
第53図 17号住居跡出土遺物



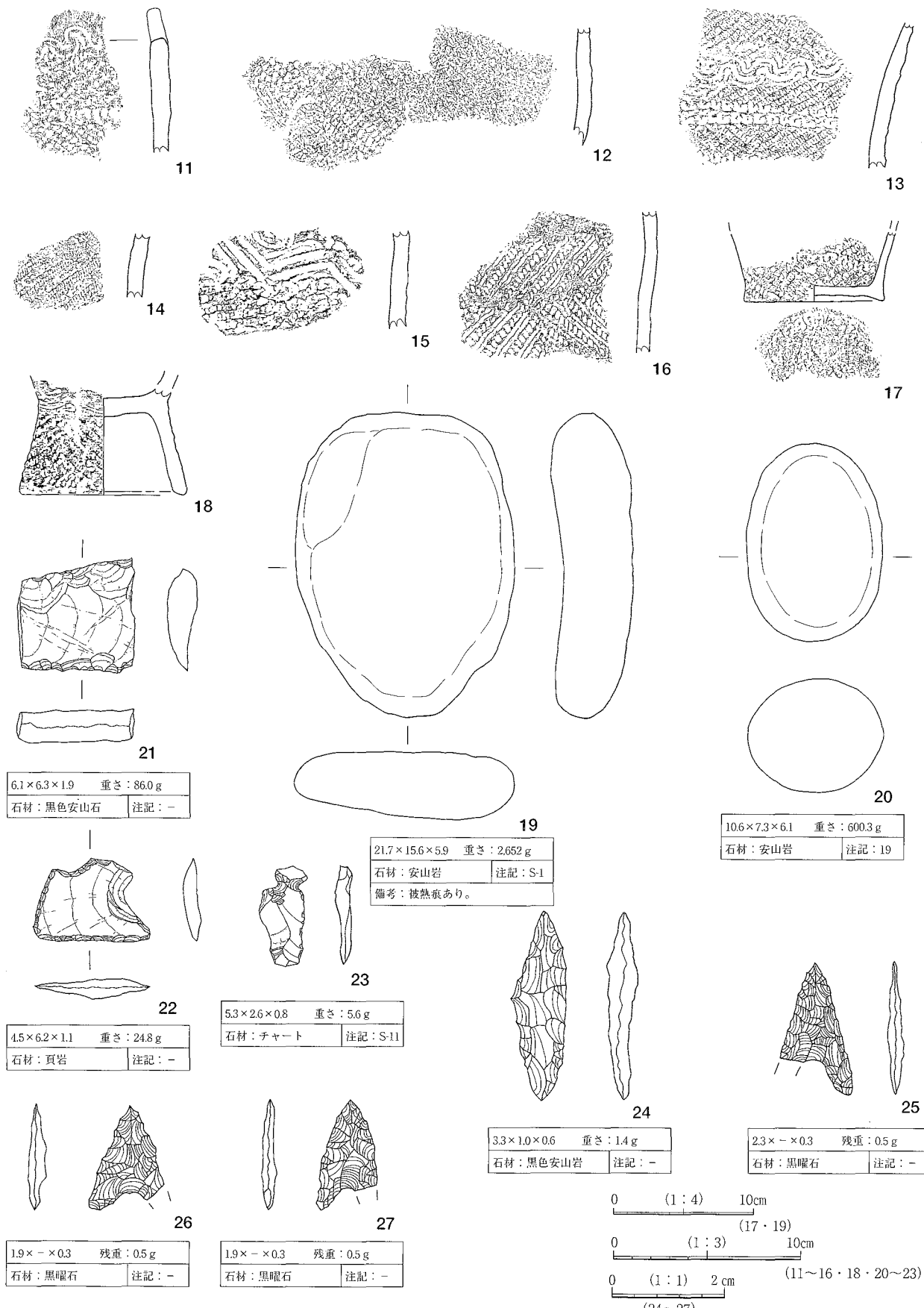
第54図 18号住居跡出土遺物



第55図 19号住居跡出土遺物



第56図 20号住居跡出土遺物①



6.1×6.3×1.9 重さ：86.0g
 石材：黒色安山石 注記：-

21.7×15.6×5.9 重さ：2.652g
 石材：安山岩 注記：S-1
 備考：被熟痕あり。

10.6×7.3×6.1 重さ：600.3g
 石材：安山岩 注記：19

4.5×6.2×1.1 重さ：24.8g
 石材：頁岩 注記：-

5.3×2.6×0.8 重さ：5.6g
 石材：チャート 注記：S-11

3.3×1.0×0.6 重さ：1.4g
 石材：黒色安山岩 注記：-

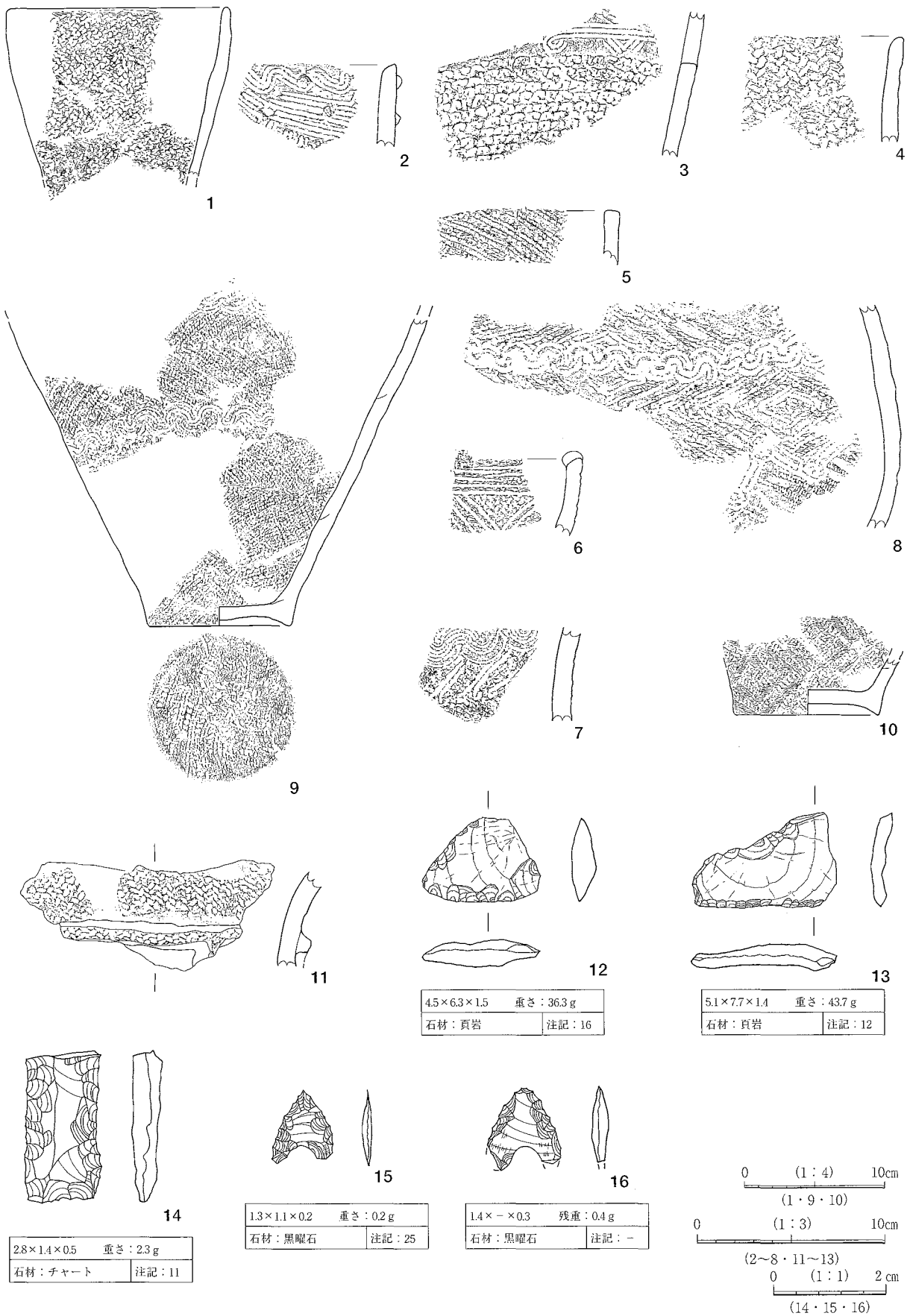
2.3×-×0.3 残重：0.5g
 石材：黒曜石 注記：-

1.9×-×0.3 残重：0.5g
 石材：黒曜石 注記：-

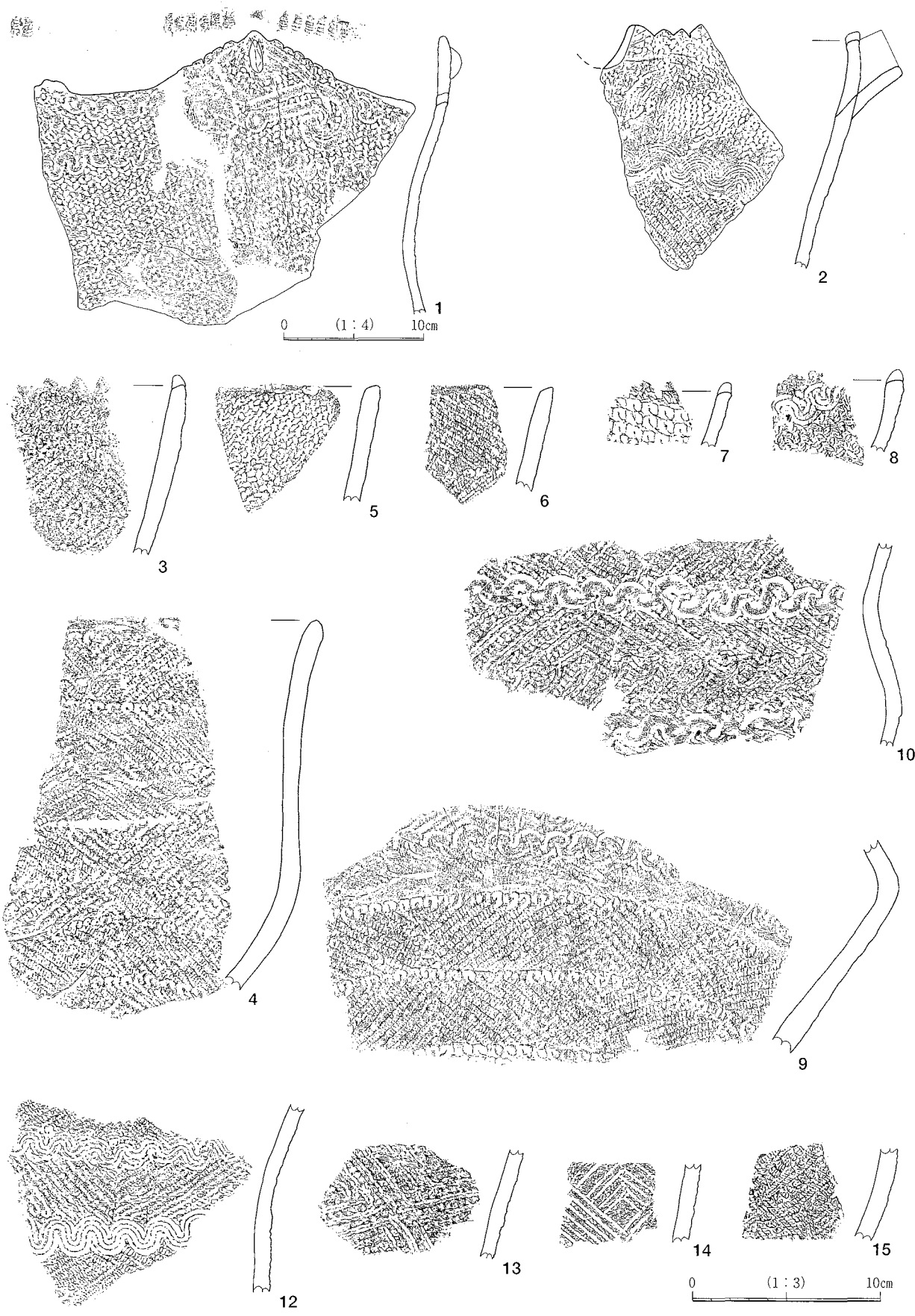
1.9×-×0.3 残重：0.5g
 石材：黒曜石 注記：-

0 (1:4) 10cm
 (17・19)
 0 (1:3) 10cm
 0 (1:1) 2cm (11~16・18・20~23)
 (24~27)

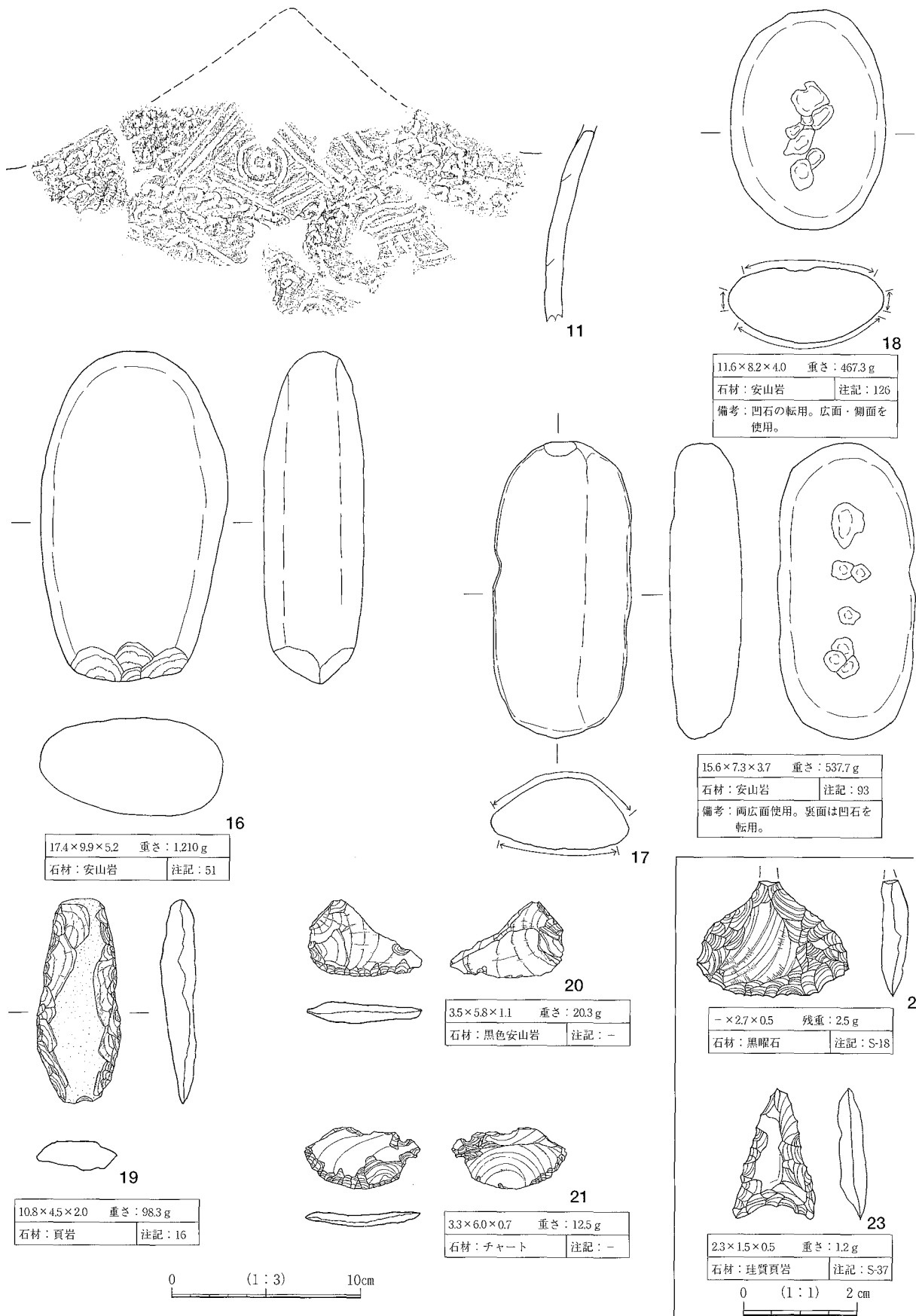
第57図 20号住居跡出土遺物②



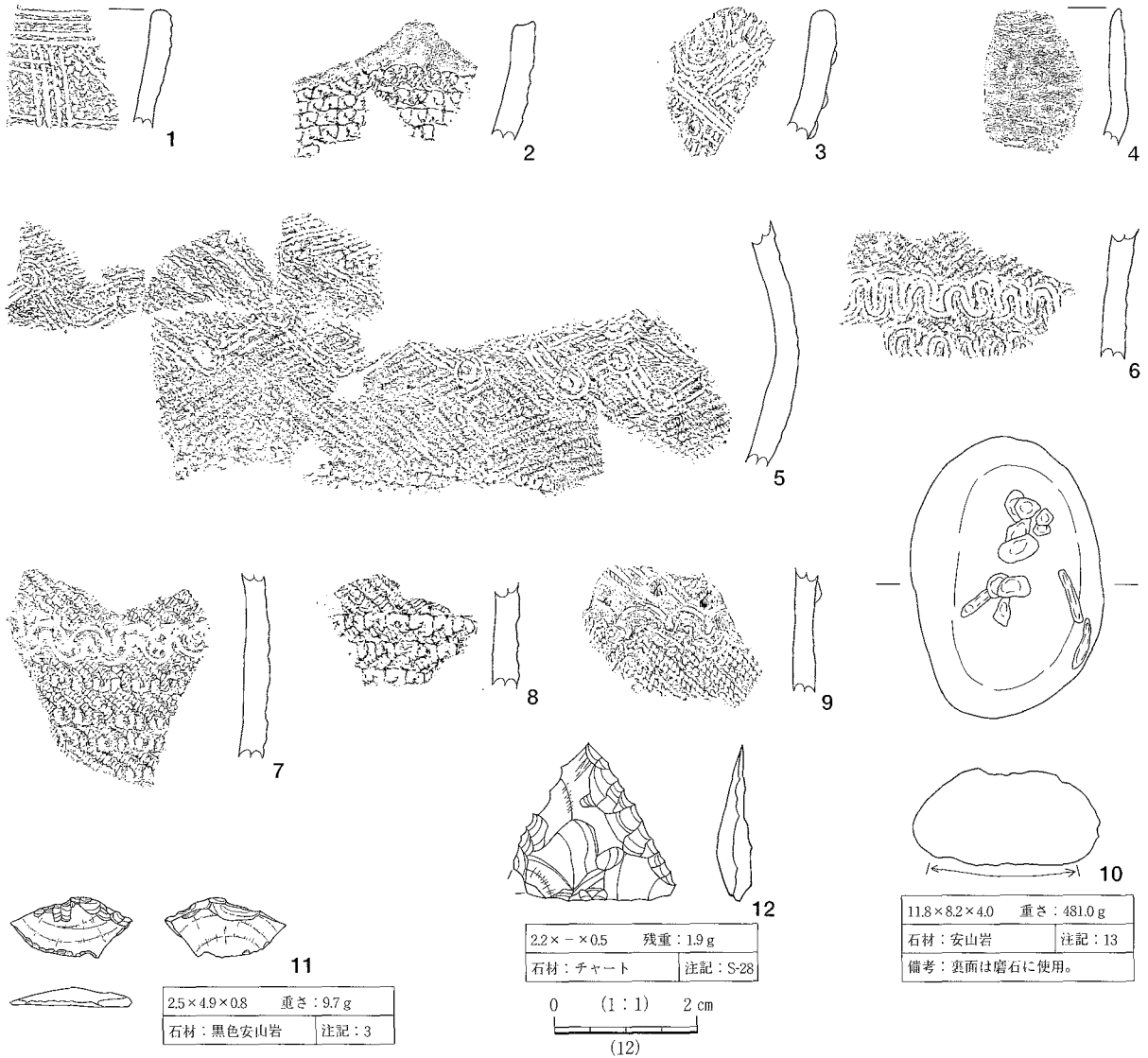
第58図 21号住居跡出土遺物



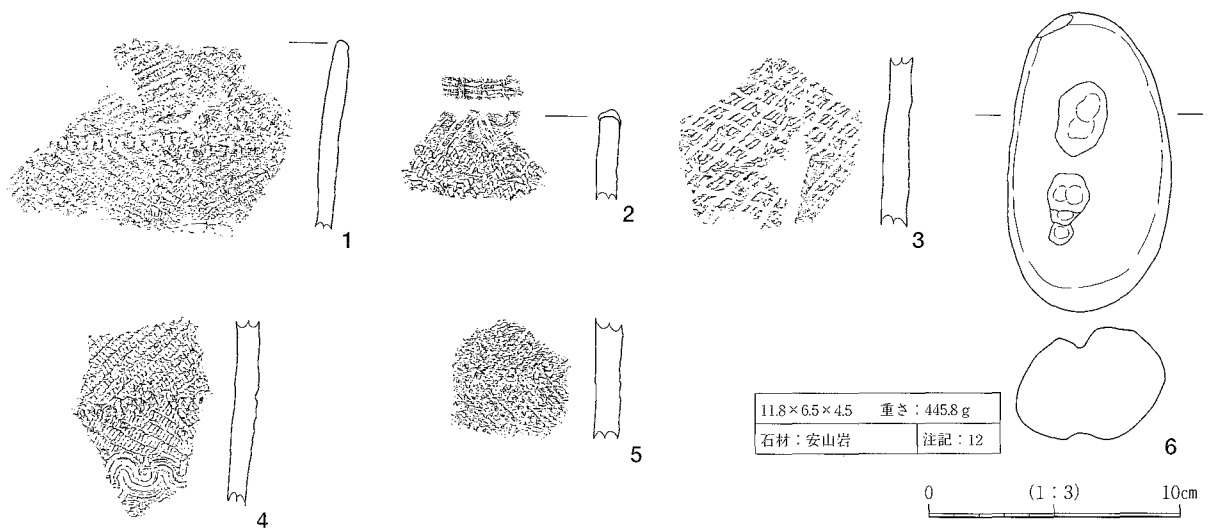
第59図 22号住居跡出土遺物①



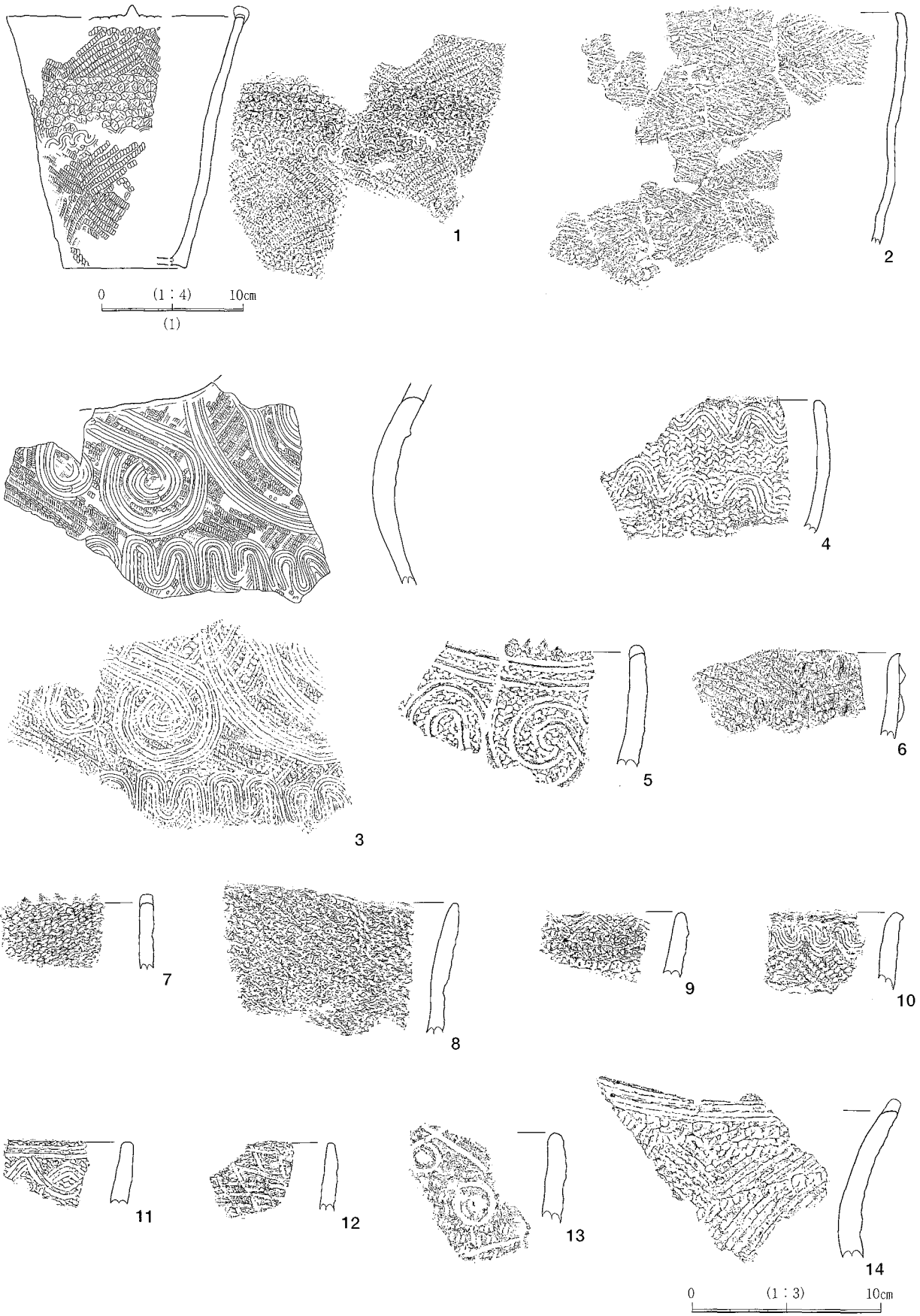
第60図 22号住居跡出土遺物②



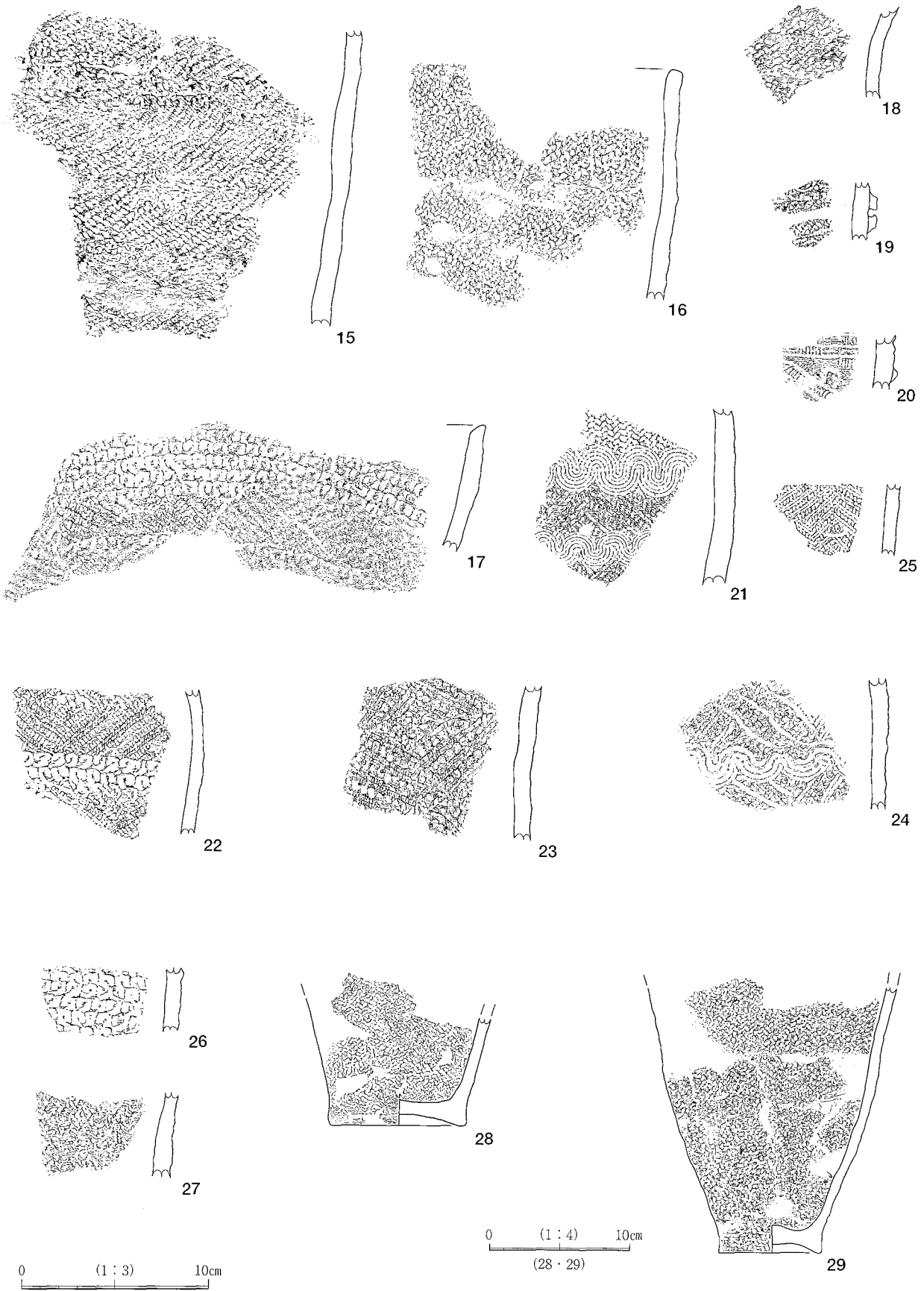
第61図 23号住居跡出土遺物



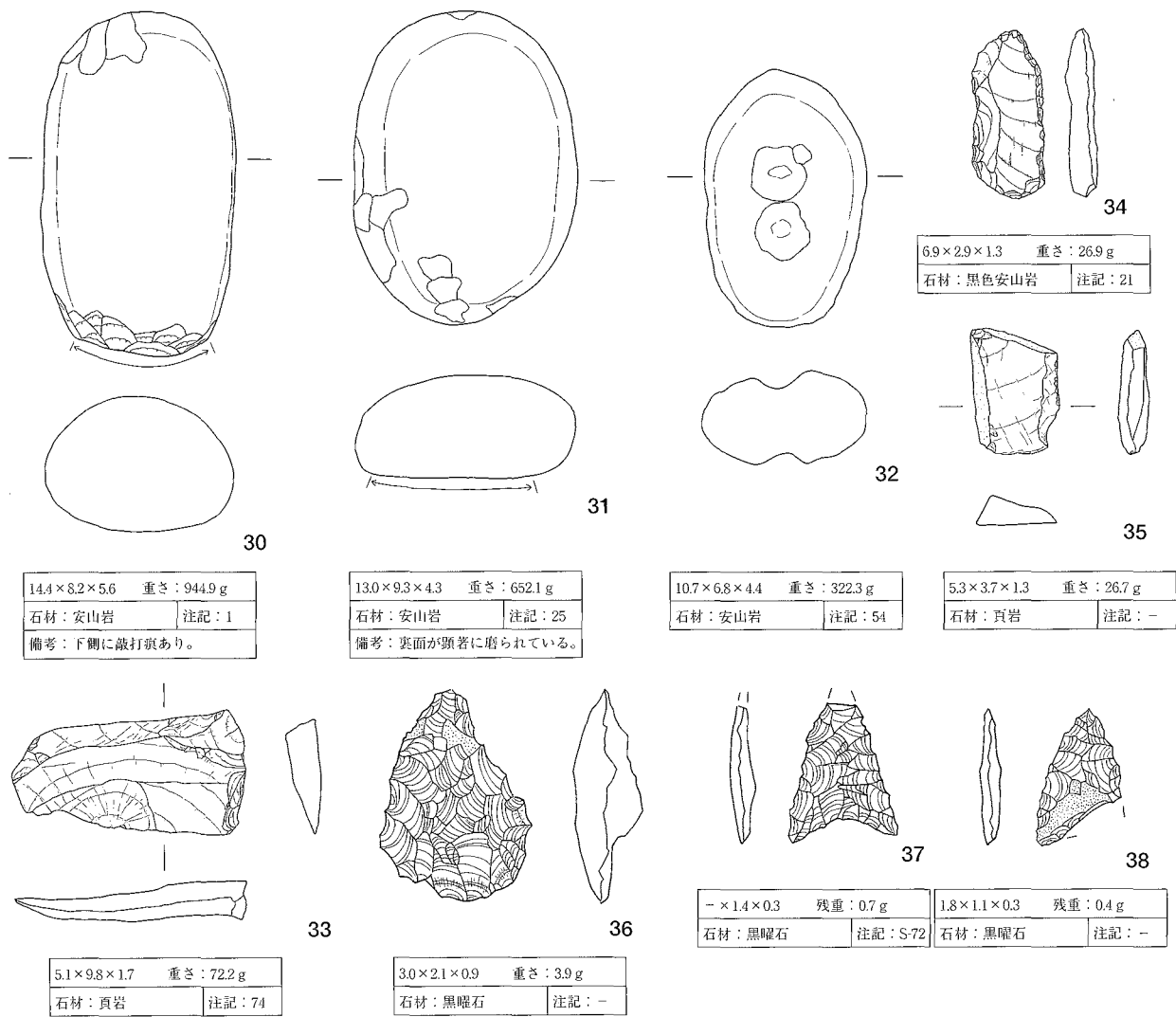
第62図 24号住居跡出土遺物



第63图 26号住居跡出土遺物①

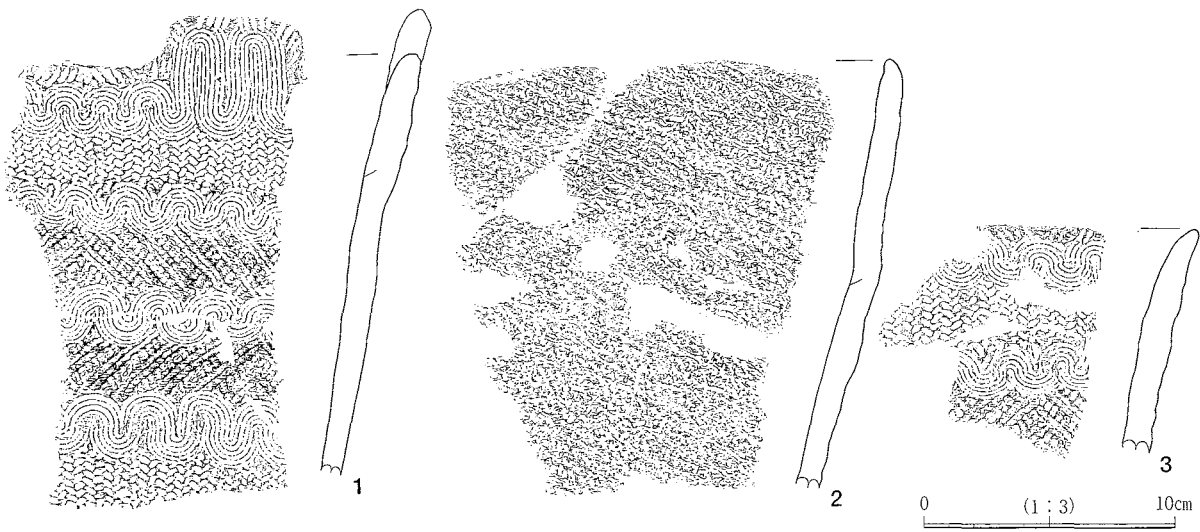


第64图 26号住居跡出土遺物②

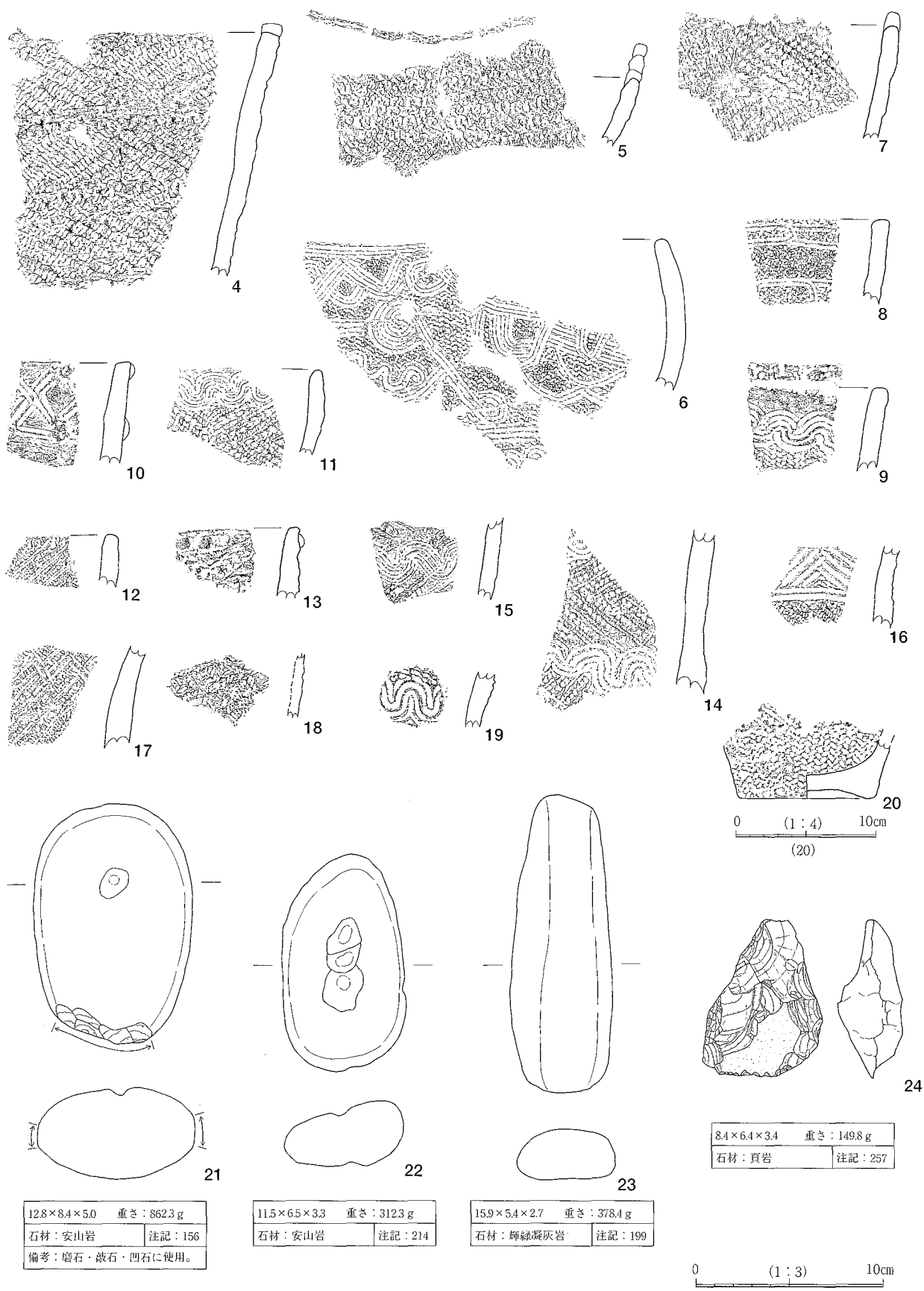


0 (1:1) 2cm
(36-38)

第65図 26号住居跡出土遺物③



第66図 27号住居跡出土遺物①



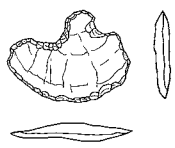
128×8.4×5.0	重さ：862.3 g
石材：安山岩	注記：156
備考：磨石・敲石・凹石に使用。	

11.5×6.5×3.3	重さ：312.3 g
石材：安山岩	注記：214

15.9×5.4×2.7	重さ：378.4 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：199

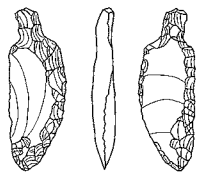
8.4×6.4×3.4	重さ：149.8 g
石材：頁岩	注記：257

第67図 27号住居跡出土遺物②



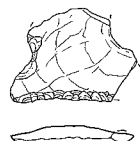
25

3.6×4.9×0.6	重さ：8.9 g
石材：泥岩	注記：237



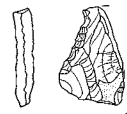
26

6.4×2.2×0.9	重さ：11.2 g
石材：チャート	注記：S-142



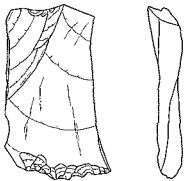
27

- × - × 0.9	残重：15.4 g
石材：頁岩	注記：212



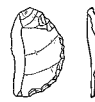
28

3.9×2.6×0.8	残重：8.1 g
石材：チャート	注記：S-174



29

7.0×4.2×1.4	重さ：27.3 g
石材：頁岩	注記：256



30

3.5×2.0×0.7	重さ：4.0 g
石材：硬砂岩	注記：8



31

- × - × 0.4	残重：0.9 g
石材：チャート	注記：-



32

- × 1.5 × 0.4	残重：0.7 g
石材：鉄石英	注記：S-4

0 (1:3) 10cm



33

1.4×1.0×0.3	重さ：0.2 g
石材：黒曜石	注記：S-17



34

1.7×- × 0.4	残重：0.5 g
石材：黒曜石	注記：S-58

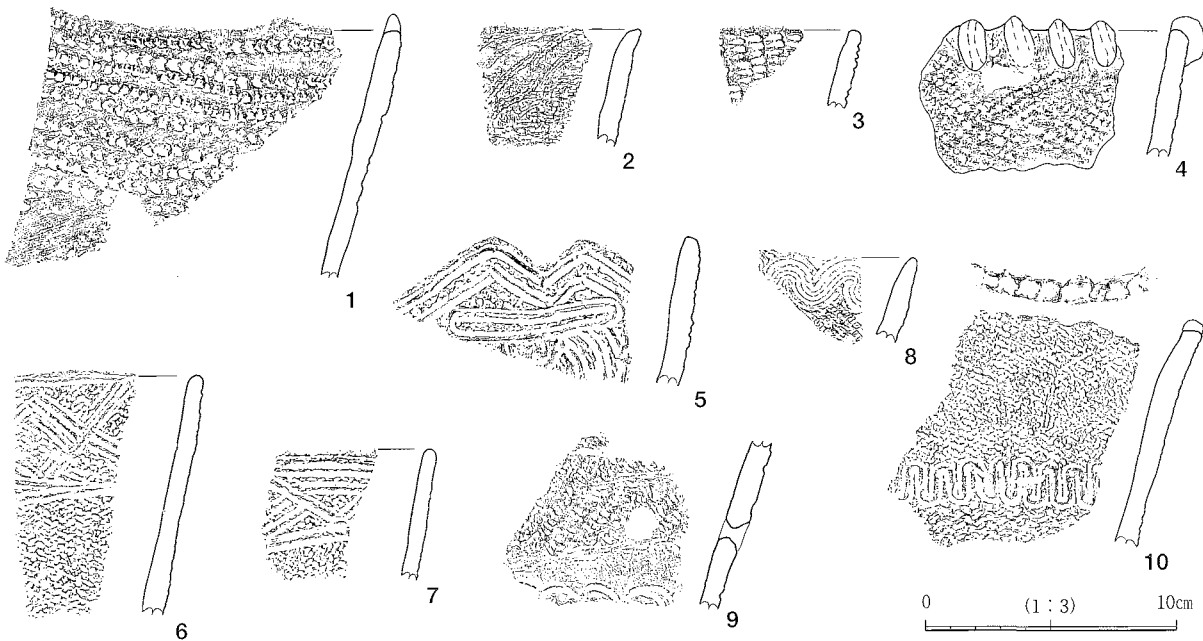


35

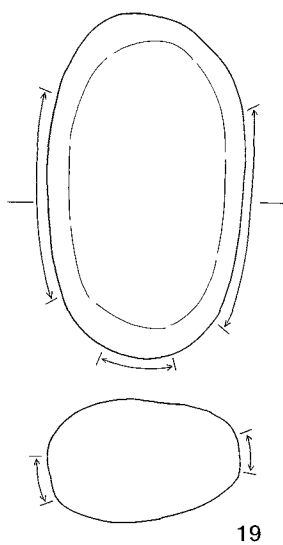
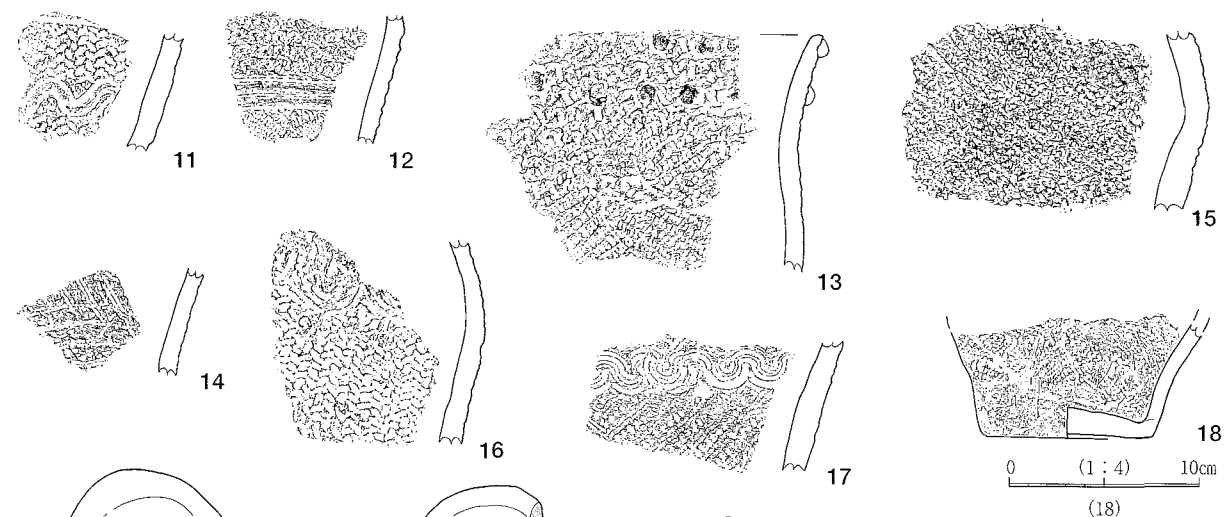
1.3×- × 0.3	残重：0.4 g
石材：黒曜石	注記：-

0 (1:1) 2 cm
(31~35)

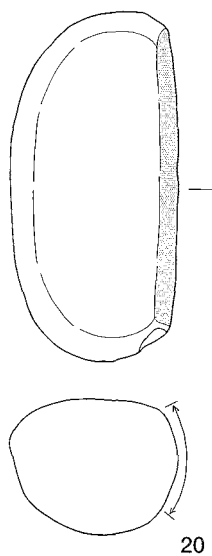
第68図 27号住居跡出土遺物③



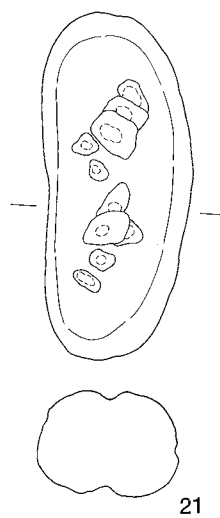
第69図 29号住居跡出土遺物①



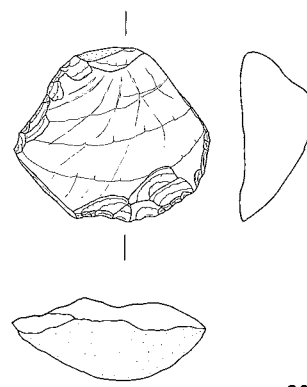
13.7×7.9×4.9 重さ：829.4 g
 石材：安山岩 注記：50
 備考：両側面磨り減る。下端に敲打痕。



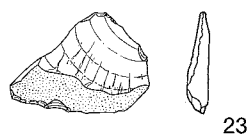
13.9×6.7×5.4 重さ：647.4 g
 石材：安山岩 注記：炉S-8
 備考：図右側面が顕著に磨り減る。



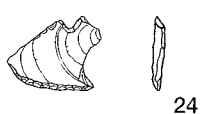
13.8×6.2×4.2 重さ：408.9 g
 石材：安山岩 注記：51



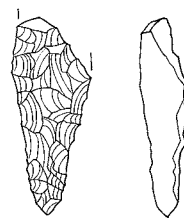
6.9×7.9×3.4 重さ：154.4 g
 石材：頁岩 注記：9



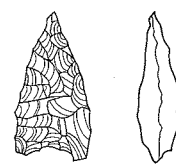
4.1×5.5×0.9 重さ：16.7 g
 石材：硬砂岩 注記：23



3.1×3.6×0.7 重さ：3.6 g
 石材：泥岩 注記：56

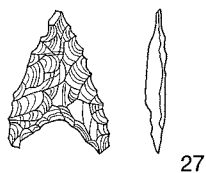


—×—×0.6 残重：1.4 g
 石材：チャート 注記：—



2.0×1.1×0.6 重さ：1.0 g
 石材：チャート 注記：炉S-1

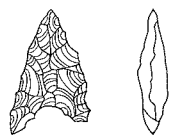
0 (1:3) 10cm



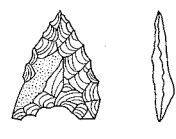
1.9×1.4×0.3 重さ：0.4 g
 石材：黒曜石 注記：S-57



1.2×1.0×0.3 重さ：0.2 g
 石材：黒曜石 注記：—



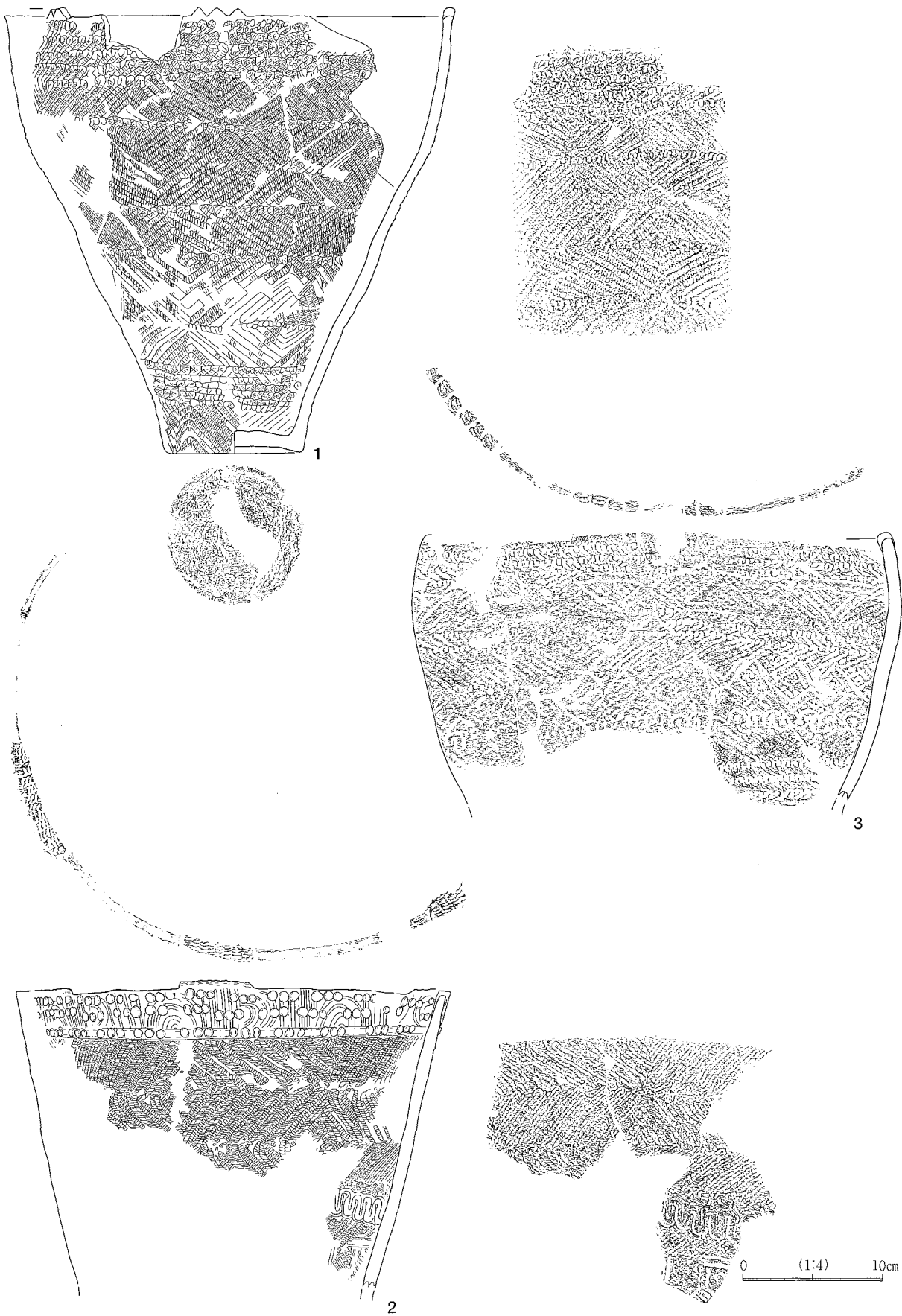
1.6×1.1×0.4 重さ：0.4 g
 石材：黒曜石 注記：—



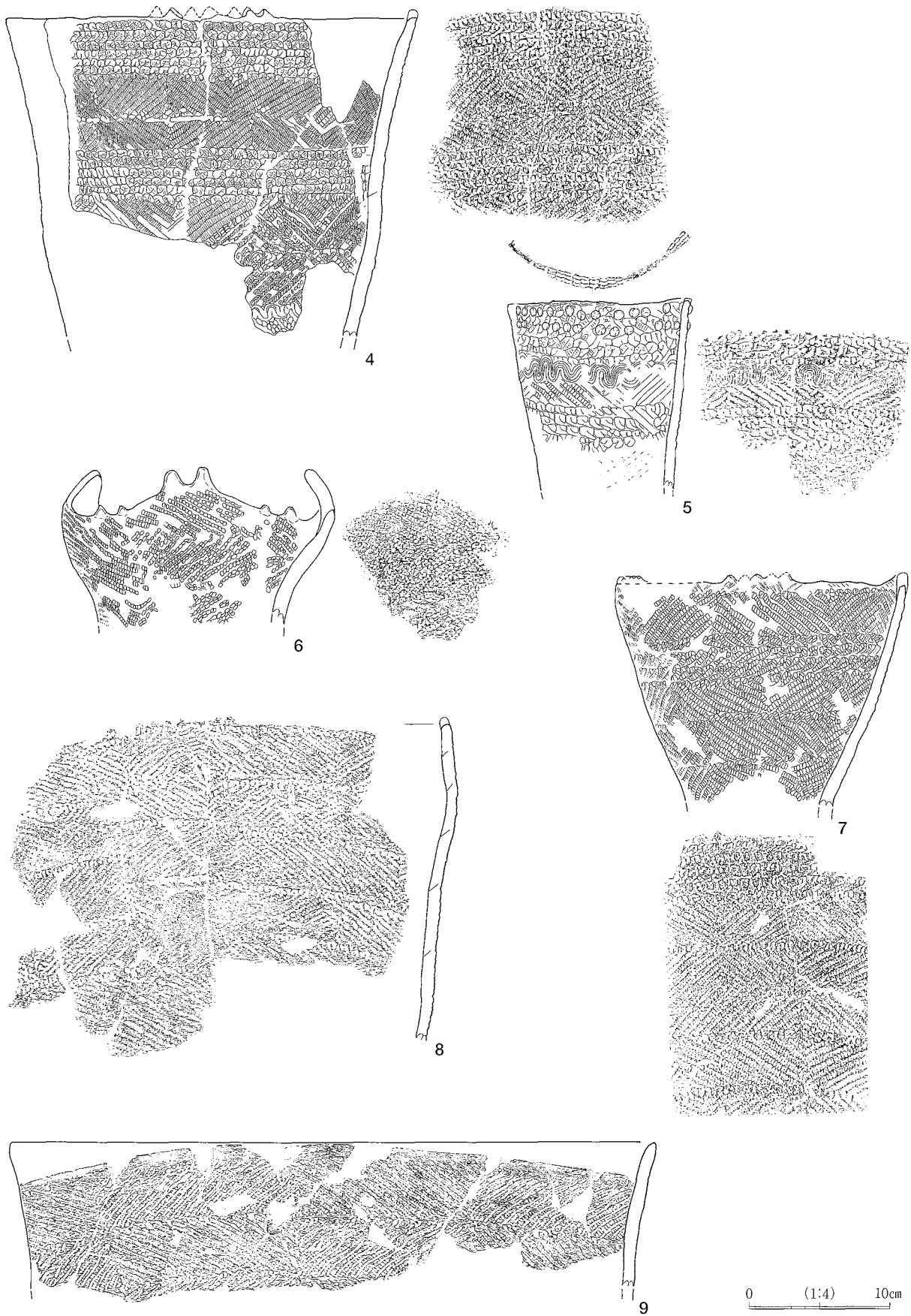
1.4×1.2×0.3 重さ：0.3 g
 石材：黒曜石 注記：—

0 (1:1) 2 cm
 (25~30)

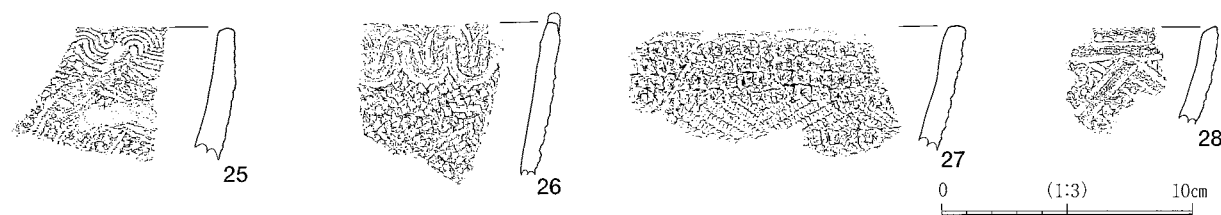
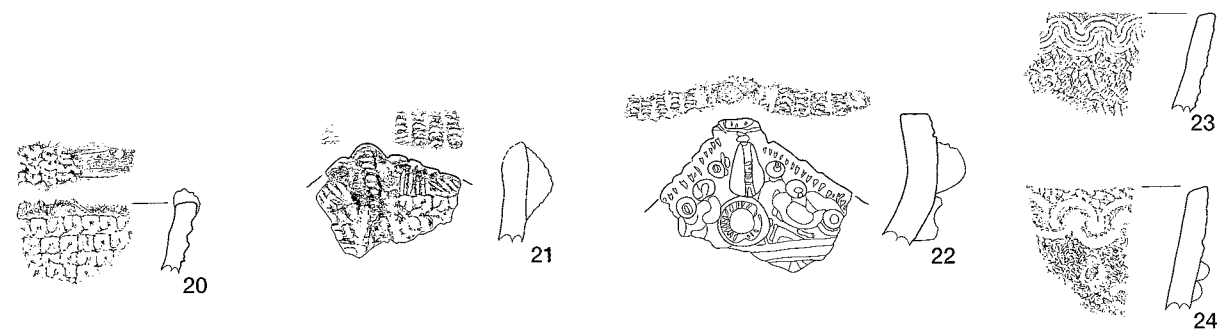
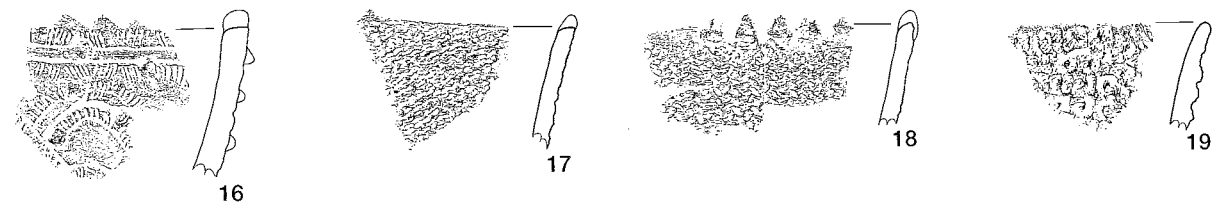
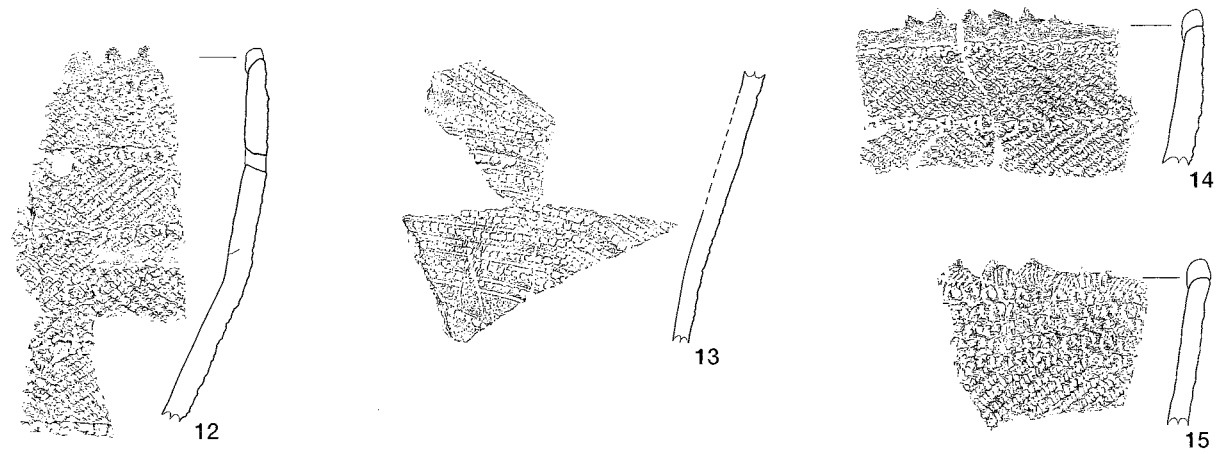
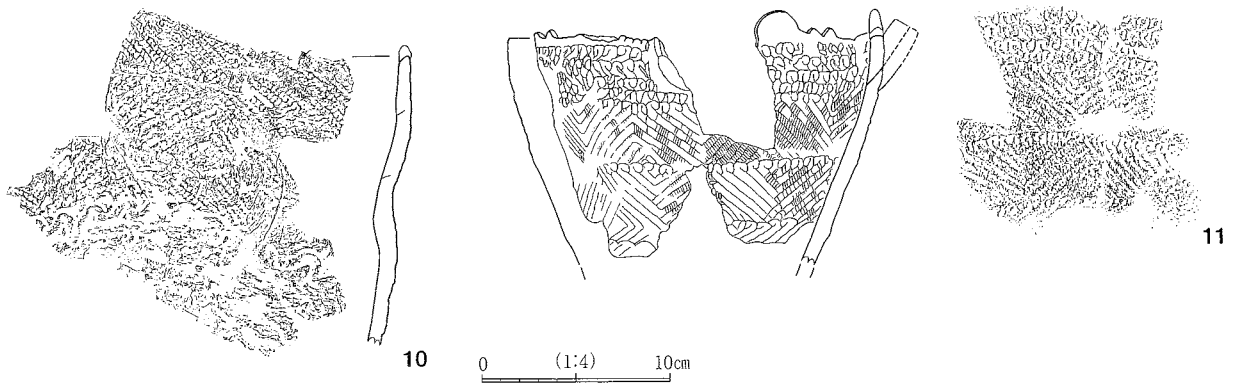
第70図 29号住居跡出土遺物②



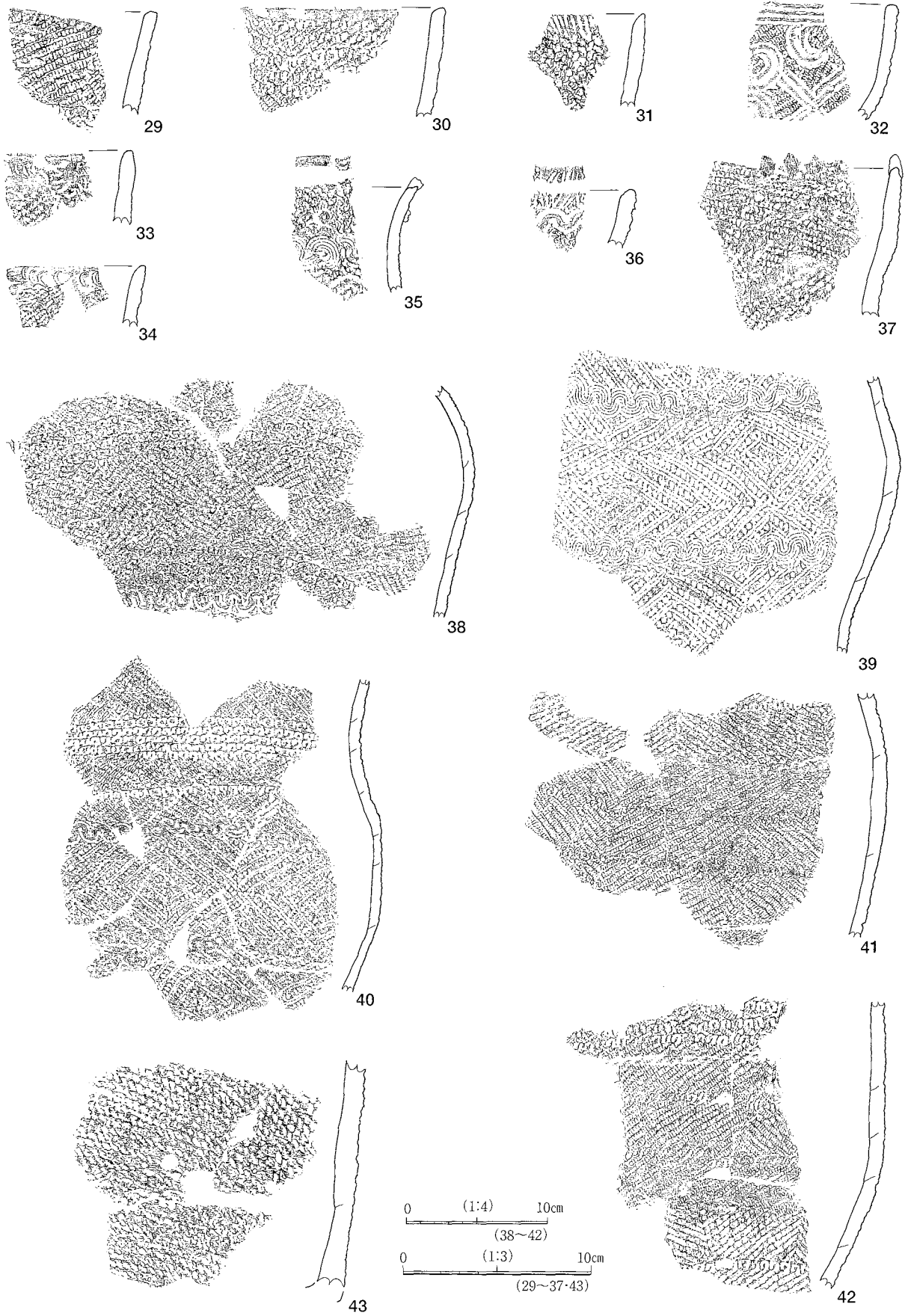
第71图 35号住居跡出土遺物①



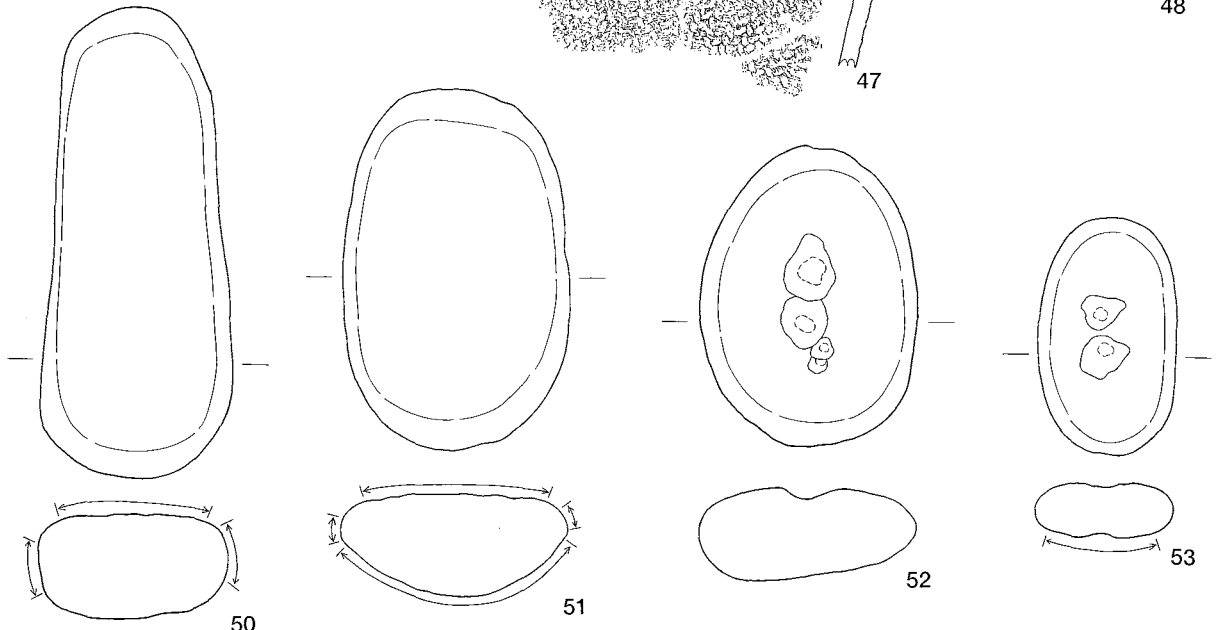
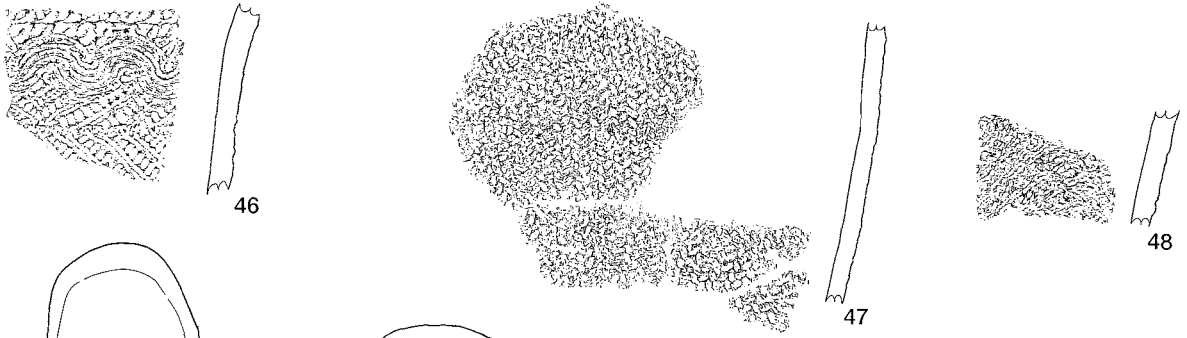
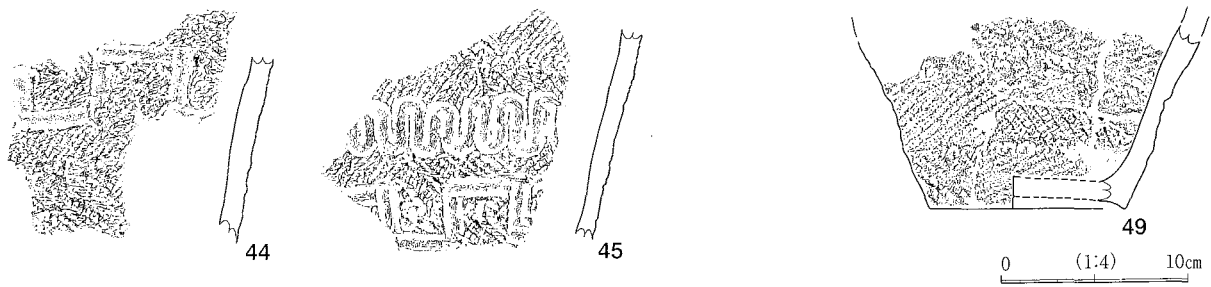
第72图 35号住居跡出土遺物②



第73图 35号住居跡出土遺物③



第74图 35号住居跡出土遺物④

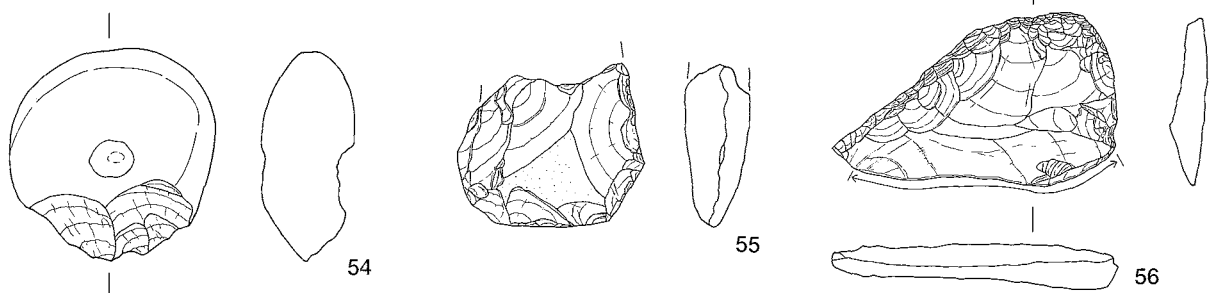


18.6×7.6×4.2 重さ：1.051.0 g
 石材：安山岩 注記：29

14.4×9.0×4.1 重さ：702.5 g
 石材：安山岩 注記：38

11.9×8.6×3.8 重さ：501.9 g
 石材：安山岩 注記：7

9.4×5.6×2.2 重さ：170.1 g
 石材：安山岩 注記：-
 備考：裏面は磨石にも使用。



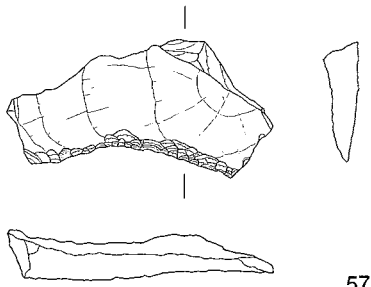
8.4×8.2×3.7 重さ：267.1 g
 石材：安山岩 注記：-

-×7.4×2.6 残重：121.4 g
 石材：頁岩 注記：2

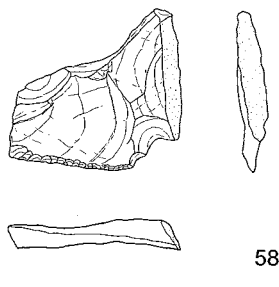
6.9×11.4×1.9 重さ：104.9 g
 石材：頁岩 注記：37

0 (1:3) 10cm

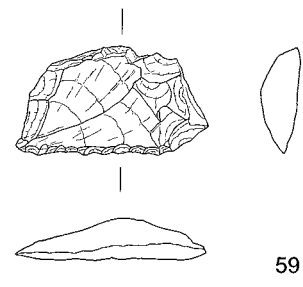
第75図 35号住居跡出土遺物⑤



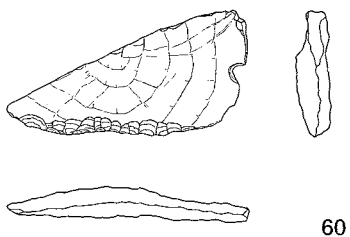
5.4×10.5×2.0	重さ: 67.4 g
石材: 黒色安山岩	注記: 35



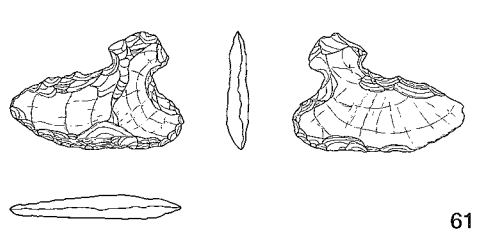
6.4×6.9×1.3	重さ: 34.3 g
石材: 頁岩	注記: 28



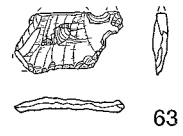
4.3×7.6×1.8	重さ: 49.4 g
石材: 黒色安山岩	注記: 213



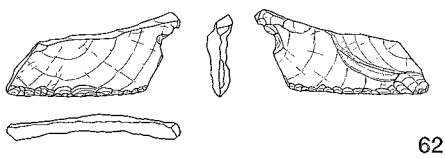
5.0×9.6×1.4	重さ: 48.0 g
石材: 黒色安山岩	注記: -



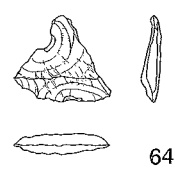
4.7×6.8×0.9	重さ: 23.0 g
石材: 頁岩	注記: 36



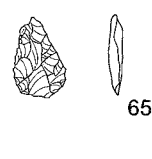
- × - × 0.6	残重: 5.5 g
石材: 珪質頁岩	注記: -



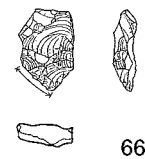
3.3×6.9×1.0	重さ: 12.4 g
石材: 頁岩	注記: -



3.5×3.9×0.8	重さ: 7.2 g
石材: 黒色安山岩	注記: -

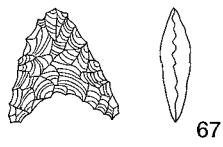


3.2×2.1×0.6	重さ: 3.4 g
石材: チャート	注記: -

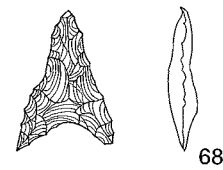


3.2×2.2×0.9	重さ: 5.7 g
石材: 黒曜石	注記: -

0 (1:3) 10cm



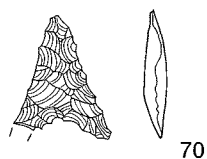
1.5×1.4×0.4	重さ: 0.5 g
石材: 黒曜石	注記: -



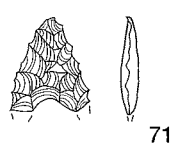
1.8×1.3×0.4	重さ: 0.4 g
石材: 黒曜石	注記: -



1.3×-×0.3	残重: 0.4 g
石材: 黒曜石	注記: -



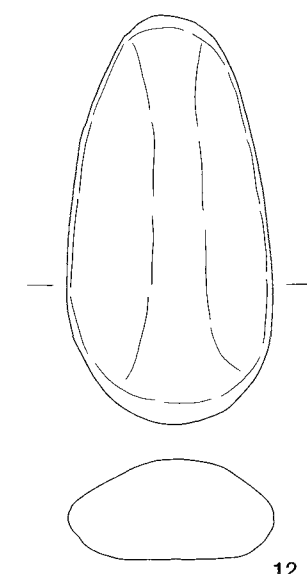
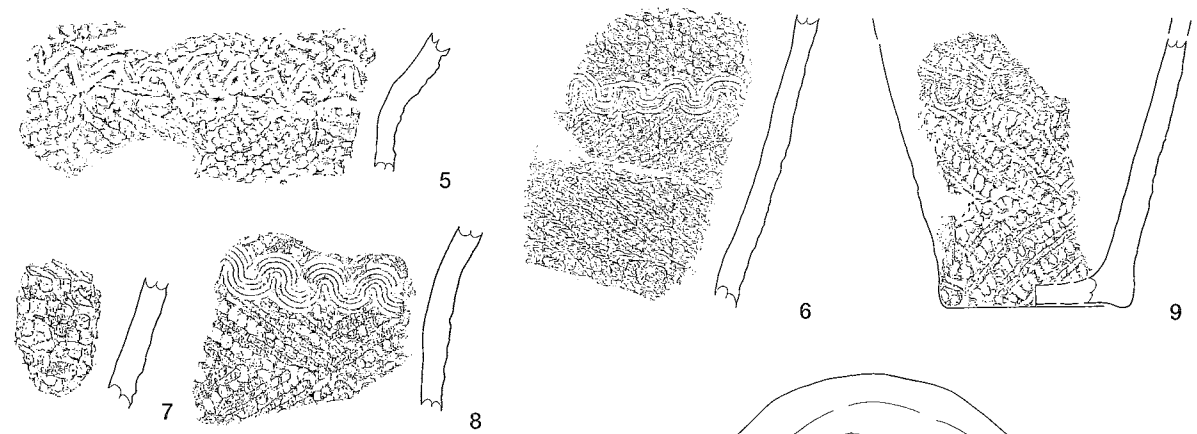
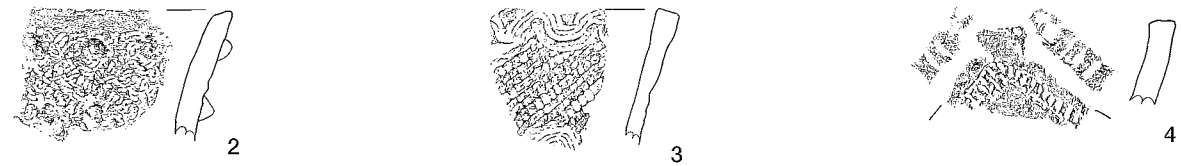
1.7×-×0.3	残重: 0.3 g
石材: 黒曜石	注記: -



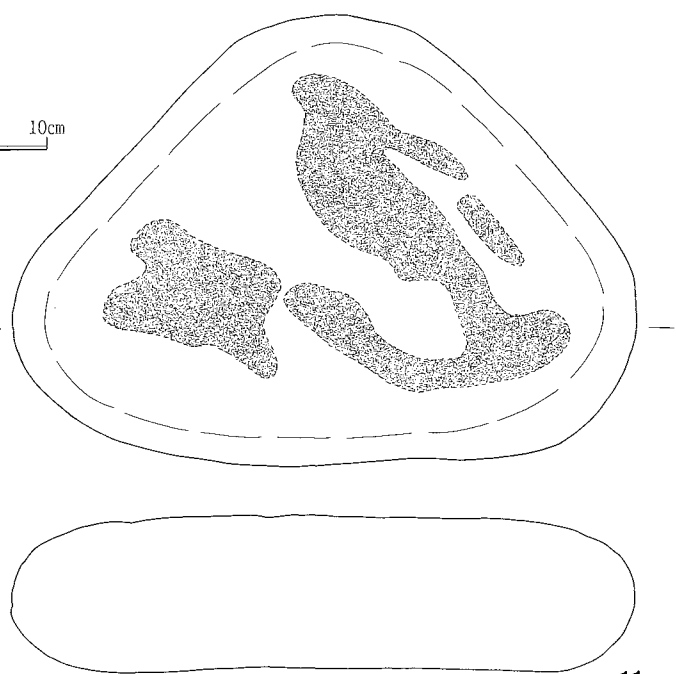
- × - × 0.3	残重: 0.2 g
石材: 黒曜石	注記: -

0 (1:1) 2cm

第76図 35号住居跡出土遺物⑥

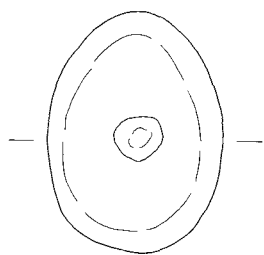


16.1×8.1×4.1	重さ：689.0 g
石材：安山岩	注記：pit4
備考：両広面・側面を使用。	



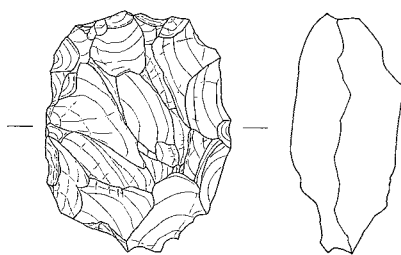
23.8×33.0×8.4	重さ：10.1kg
石材：安山岩	注記：S-1
備考：ベンガラ状の赤褐色物が付着。被熱痕あり。	

第77図 36号住居跡出土遺物①



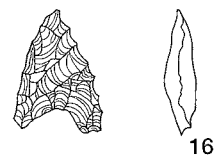
13

9.5×7.0×4.1	重さ：405.2 g
石材：安山岩	注記：-



14

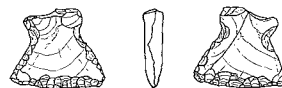
9.5×7.3×4.5	重さ：250.5 g
石材：頁岩	注記：13



16

1.7×1.2×0.4	重さ：0.5 g
石材：黒曜石	注記：13

0 (1:1) 2 cm



15

3.2×3.7×0.7	重さ：6.6 g
石材：チャート	注記：-

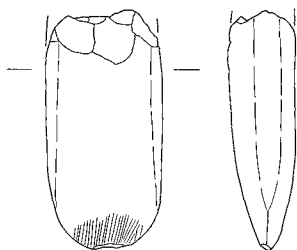
第78図 36号住居跡出土遺物②



1

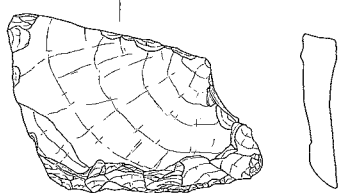


2



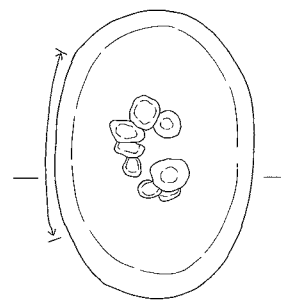
4

- × 4.6 × 2.7	残重：196.4 g
石材：輝緑岩	注記：8



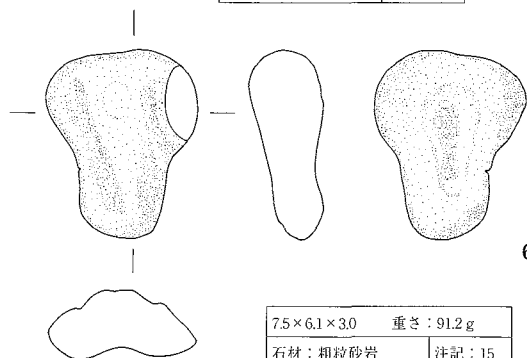
5

7.1 × 10.1 × 1.5	重さ：108.2 g
石材：黒色安山岩	注記：9



3

11.4 × 7.9 × 4.5	重さ：493.5 g
石材：安山岩	注記：16
備考：側面を磨石に使用。	

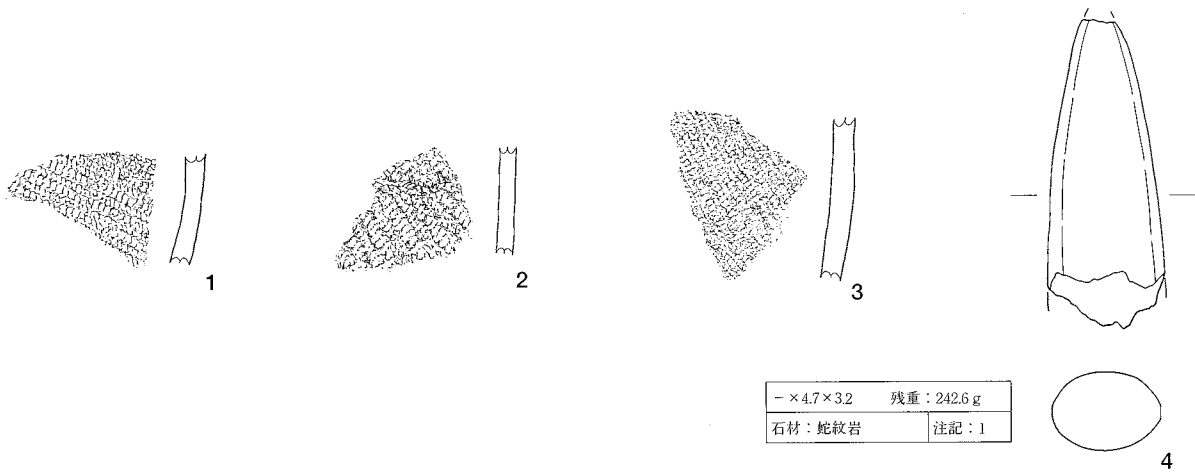


6

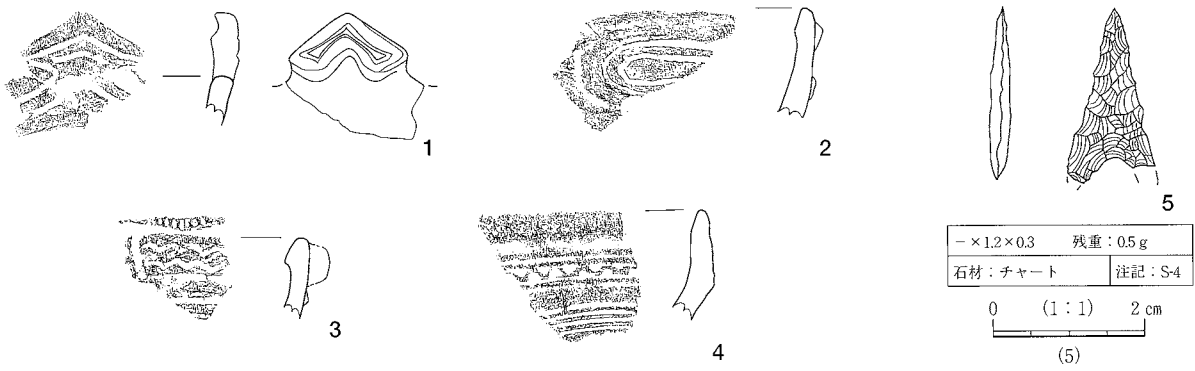
7.5 × 6.1 × 3.0	重さ：91.2 g
石材：粗粒砂岩	注記：15

0 (1:3) 10 cm

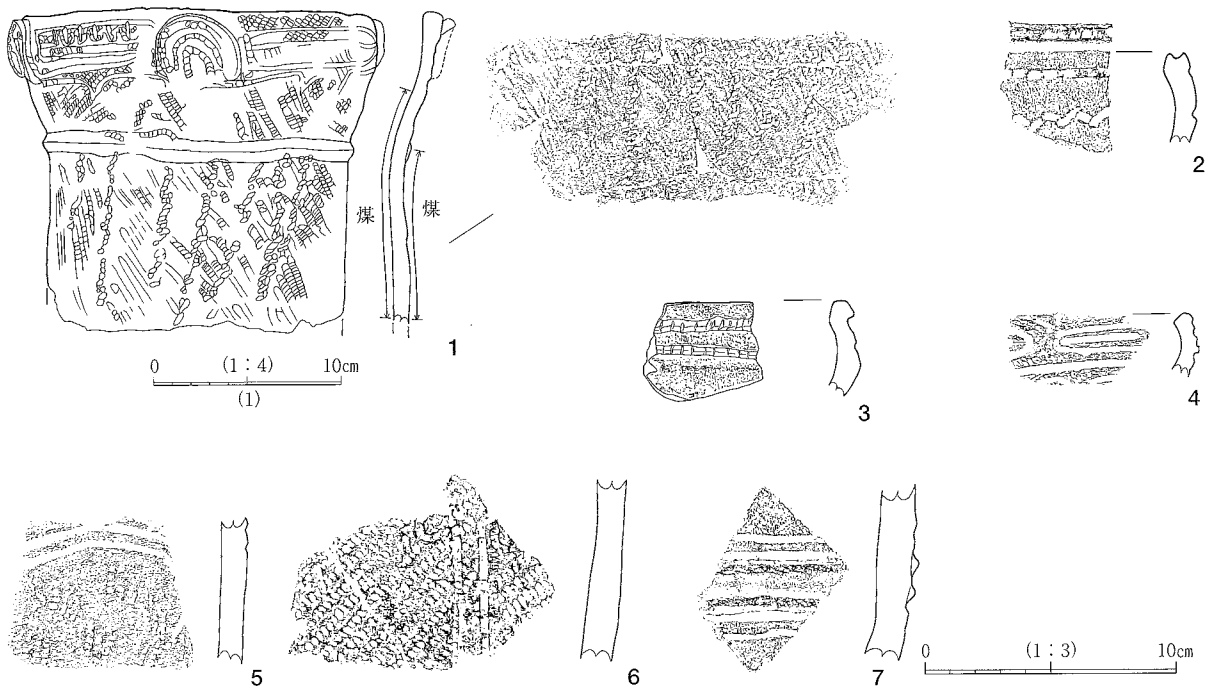
第79図 8号住居跡出土遺物



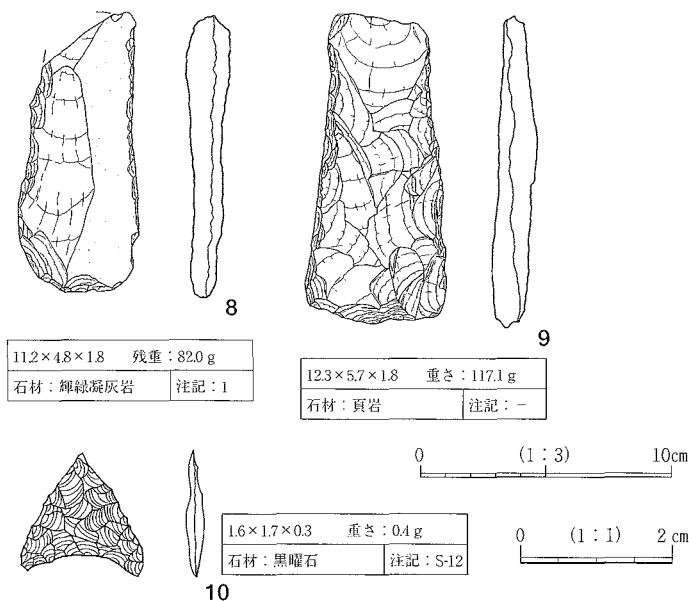
第80図 28号住居跡出土遺物



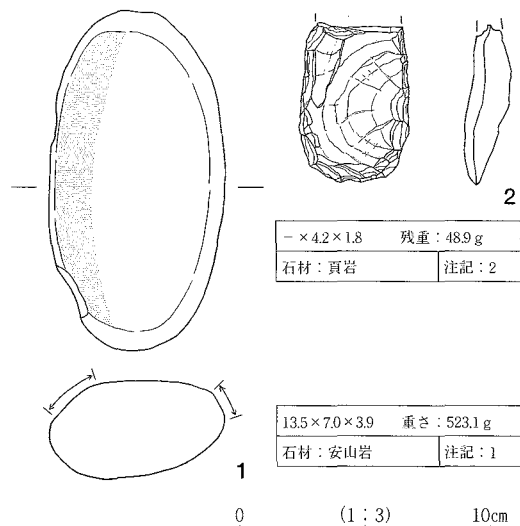
第81図 25号住居跡出土遺物



第82図 34号住居跡出土遺物①



第83図 34号住居跡出土遺物②



第84図 30号住居跡出土遺物

(2) 円形柱穴列・掘立柱建物跡

1号円形柱穴列 (遺構：第85図、P L 20)

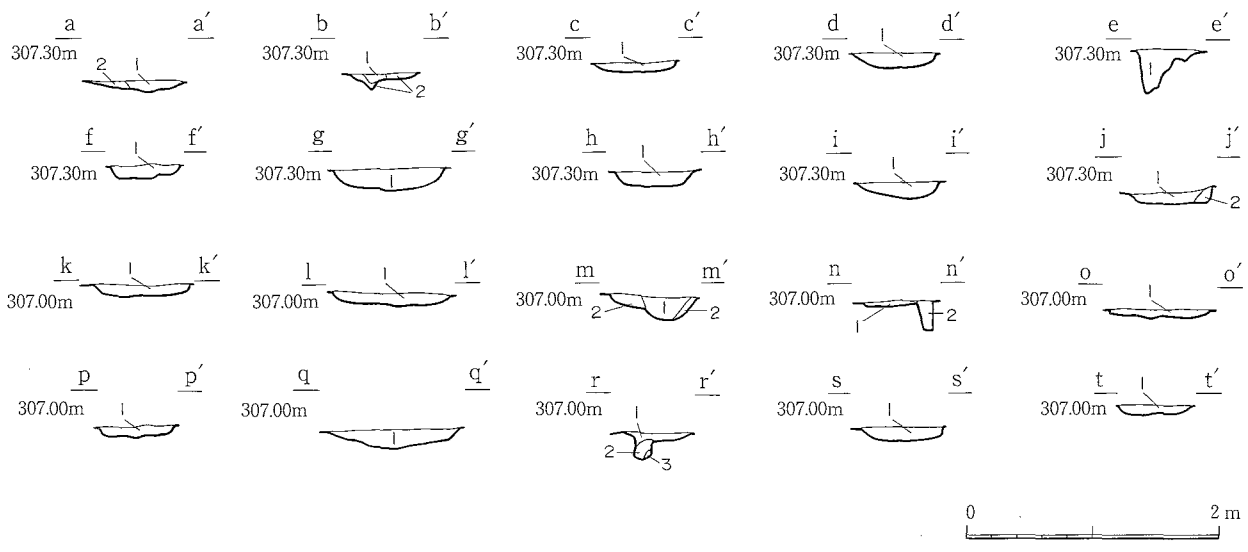
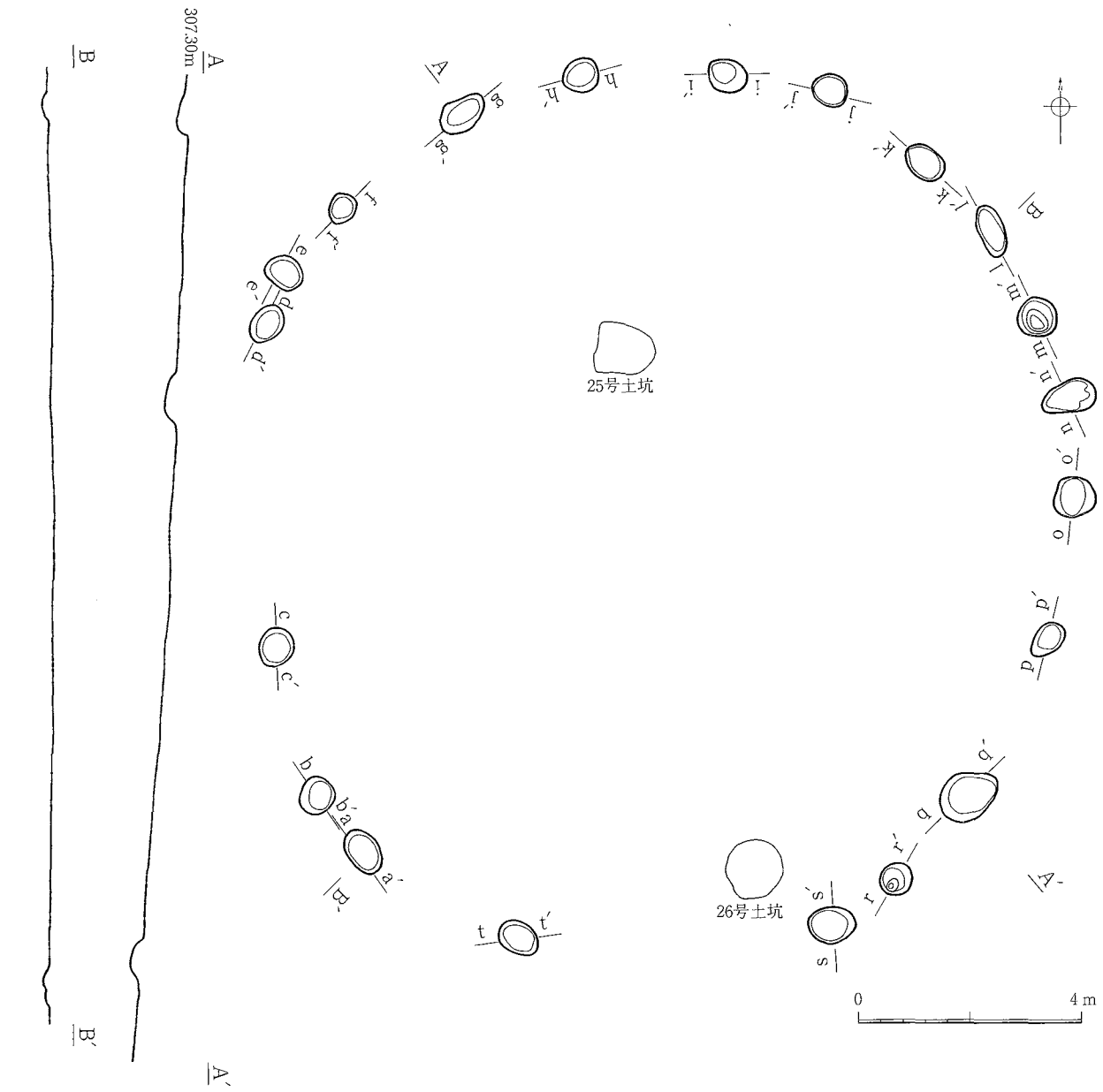
位置：V-25～W-26グリッド。検出状態：浅い楕円形のピット20基が円形に巡る。西側円周上に関山式期の7号住居跡が位置する。円周内側には諸磯a式期の25号土坑、時期不明の26号土坑がある程度で、他の遺構や施設は検出されなかった。また、本遺構に伴う遺物は出土していない。規模：ピット心々間による直径は15.5～16.0m程度。各ピットの規模は長軸が60～118cmで平均81.0cm、残存深度は7～35cmで平均14.2cmである。遺構埋没状態：各ピットにより多少の差異はあるが、おおむねロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。柱痕は確認されなかった。

2号円形柱穴列 (遺構：第86図、P L 21)

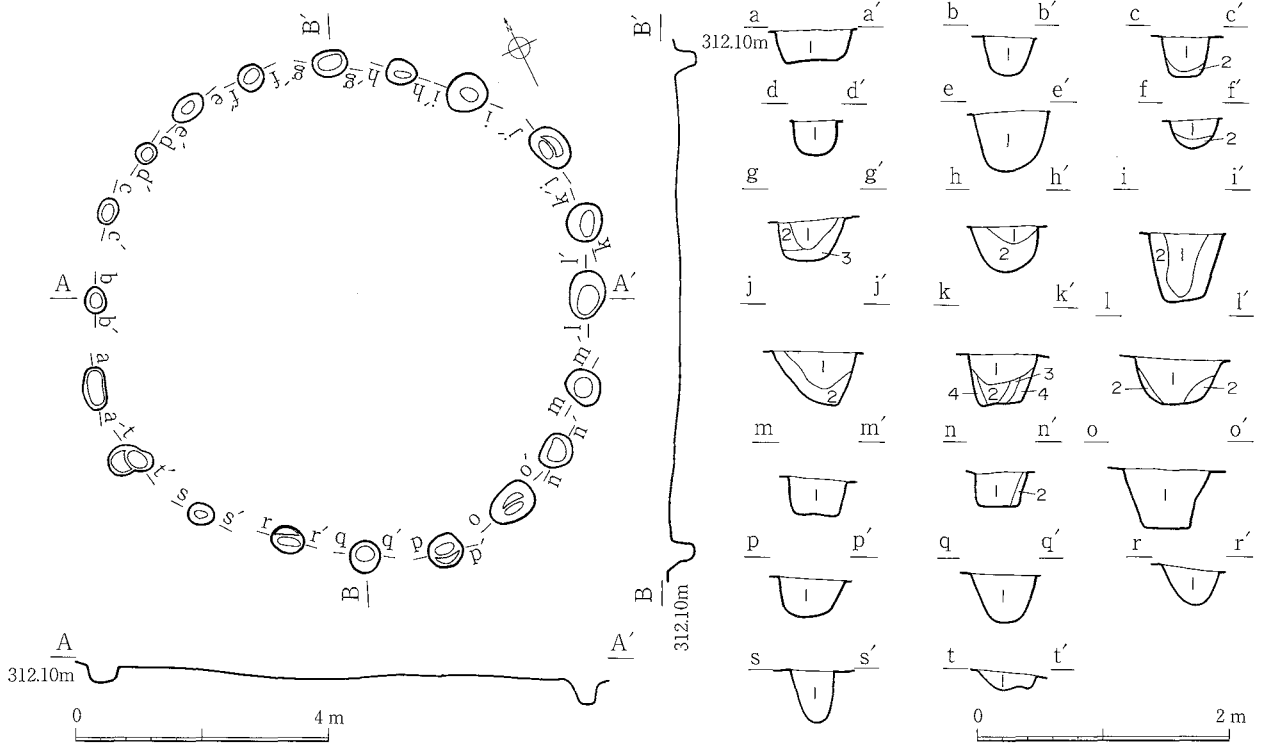
位置：N-15～O-16グリッド。1号掘立柱建物跡が北東に近接する。検出状態：円形・楕円形のピット20基が円形に巡る。円周内側には、他の遺構や施設は検出されなかった。また、本遺構に伴う遺物は出土していない。規模：ピット心々間による直径は8.0m程度。各ピットの規模は長軸が36～76cmで平均59.7cm、残存深度は15～54cmで平均36.1cmと相対的に1号円形柱穴列よりも深い。遺構埋没状態：各ピットにより多少の差異はあるが、おおむねロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没する。ピットiの1層は柱痕と思われるが、その他のピットでは明瞭に柱痕を確認できなかった。

1号掘立柱建物跡 (遺構：第87図、P L 21)

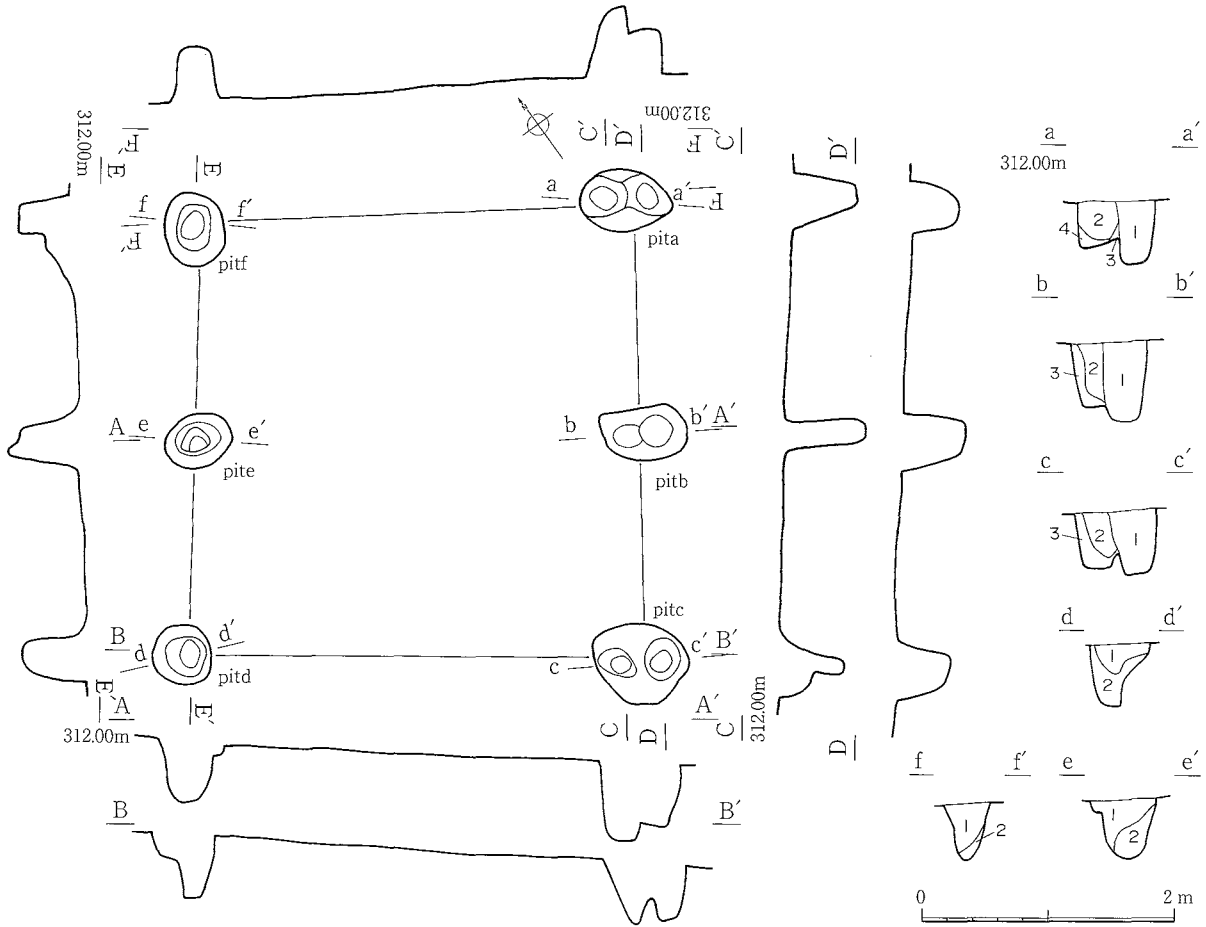
位置：O-14～O-15グリッド。2号円形柱穴列が南西に近接する。検出状態：南東側のピットa～cはそれぞれピット2基が重複しており、作り替えの可能性がある。主軸方位：N-35°-E。規模：2間×1間。桁行3.40～3.60m (柱間寸法は1.70m・1.80m)、梁行3.30～3.75m。柱穴掘り方：平面形態は円形もしくは楕円形で、長軸径51～76cm、残存深度は46～64cm。遺構埋没状態：各ピットにより多少の差異はあるが、おおむねYP・ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土が埋没する。



第85图 1号圆形柱穴列



第86图 2号圆形柱穴列



第87图 1号掘立柱建物跡

(3) 土坑

205基を縄文時代の土坑と判断した。前期7基、中期初頭77基と後者が圧倒的に多い。残り121基については出土遺物がなく、詳細な時期は不明である。なお、いずれの土坑についても、その性格については明確に判断できなかった。

前期の土坑はまばらに分布する程度であるが、中期初頭の土坑は調査区北西側に比較的多く分布し、先述したように当該期住居跡の後背に土坑群を形成している。また、前期関山期の住居跡が広範な展開をみせながら、同時期の遺物を出土する土坑がほとんどみられない点特徴的である。

形態的にはいずれの時期も、平面形態が円形（A類）もしくは楕円形（B類）を呈するものが大半で、断面形態は箱状（Ⅰ類）・逆台形状（Ⅱ類）のものが半数近くを占める。フラスコ状（Ⅳ類）を呈するものは76・159号土坑2基のみで、いずれも中期初頭の土坑である。

前期の土坑出土遺物は、総計76点の土器片、56点の石器類（石鏃2、磨石1、剥片その他53点）を確認している。関山式期から諸磯c式期のものがみられるが、量的にそれほど多くはない。

中期初頭の土坑出土遺物は、五領ヶ台Ⅱ式段階の土器が主体で、阿玉台Ⅰa式段階の土器もみられ、さらにこれらを前後する時期の土器も出土している。48・50・55・81・106・108・182・184・190・205・207号土坑からは比較的遺存状態良好な土器資料が得られている。182号土坑には5個体以上の深鉢が存在していたと思われる。当該期の出土遺物総計は、土器片2,249点、石器232点（石鏃1、スクレイパー21、石匙1、打製石斧13、磨石・凹石19、石皿2、石核6、礫器1、剥片その他168点）である。打製石斧は頁岩製、磨石・凹石は安山岩製のものが多い。剥片としたものは大半が黒曜石のチップである。

表5 縄文時代土坑①

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
1号土坑	V29	A-II	1.62×1.51	125cm		不明	95	32	-	-
2号土坑	V28	A-V	1.24×1.20	11cm		不明	95	-	-	-
3号土坑	W28	B-V	1.46×1.05	60cm		不明	95	-	-	-
4号土坑	X27	B-II	1.18×1.07	38cm		不明	95	-	-	-
5号土坑	T27	B-II	1.71×1.50	29cm		不明	95	-	-	-
6号土坑	R28	B-III	1.00×0.88	7cm		不明	95	-	-	-
7号土坑	R28	A-I	0.97×0.90	45cm		不明	95	32	-	-
8号土坑	R28	B-III	2.06×1.57	17cm		不明	95	-	-	-
9号土坑	Q28	A-II	1.92×1.82	107cm		不明	95	32	-	-
10号土坑	R27	B-II	1.76×1.26	25cm		不明	95	-	-	-
11号土坑	R27	A-II	1.11×1.02	14cm		不明	95	-	-	-
12号土坑	T26	B-II	1.49×1.14	109cm	土器片13・石鏃2・剥片27	諸磯c	88	22	101	58
13号土坑	T25	B-V	1.48×1.18	27cm		不明	95	-	-	-

表6 縄文時代土坑②

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
14号土坑	T25	B-II	0.98×0.82	40cm		不明	95	32	-	-
15号土坑	T25	B-V	1.25×0.87	18cm		不明	95	-	-	-
16号土坑	T25	B-V	2.36×1.13	12cm		不明	95	-	-	-
17号土坑	U25	B-V	1.07×0.75	15cm		不明	95	-	-	-
18号土坑	U24	B-V	1.40×0.98	26cm		不明	95	-	-	-
19号土坑	U23	B-II	0.90×0.70	47cm		不明	95	32	-	-
20号土坑	U23	B-V	0.60×0.44	24cm		不明	96	-	-	-
21号土坑	V23	B-II	0.96×0.67	18cm		不明	96	-	-	-
22号土坑	V23	B-II	0.89×0.62	39cm		不明	96	-	-	-
23号土坑	V23	B-V	0.74×0.50	14cm		不明	96	-	-	-
24号土坑	V24	B-III	0.89×0.80	12cm		不明	96	-	-	-
25号土坑	V25	B-V	1.15×0.85	21cm	土器片1	諸磯a	88	22	101	58
26号土坑	V26	B-III	1.08×0.95	25cm		不明	96	-	-	-
27号土坑	T26	B-II	0.94×0.78	12cm		不明	96	-	-	-
28号土坑	U25	B-III	1.13×1.02	8cm		不明	96	-	-	-
29号土坑	W29	不明	-×0.99	84cm	／1号土坑に切られる	不明	96	-	-	-
30号土坑	S29	A-I	1.15×1.07	46cm	土器片9	五領ヶ台	89	22	101	58
31号土坑	T20	B-III	1.29×0.83	22cm	土器片2・剥片1	関山II	88	22	101	58
32号土坑	S19	A-III	0.58×0.56	25cm		不明	96	-	-	-
33号土坑	N12	A-II	0.61×0.59	11cm		不明	96	-	-	-
34号土坑	L9	A-II	0.75×0.69	33cm	土器片1	不明	96	-	-	-
35号土坑	L9	A-II	1.06×1.00	20cm	／小ピットあり	不明	96	-	-	-
36号土坑	L9	A-II	1.27×1.17	24cm	土器片21・剥片7／上面に礫	五領ヶ台	89	23	101	58
37号土坑	L8	A-V	1.09×1.06	16cm		不明	96	-	-	-
38号土坑	K7	不明	-×0.65	33cm	／北側を抜根により壊される	不明	96	-	-	-
39号土坑	K7	B-V	1.16×1.02	32cm		不明	96	-	-	-
40号土坑	L9	不明	-×2.45	33cm	土器片25・剥片5／小ピット	阿玉台I	89	-	101	58
41号土坑	I5	B-III	2.23×1.94	20cm	剥片4	不明	96	-	-	-
42号土坑	I3	不明	-×1.34	12cm	／東側は調査区外	不明	96	-	-	-
43号土坑	G2	B-II	1.14×0.94	28cm		不明	96	-	-	-
44号土坑	L10	A-V	2.05×1.88	20cm	土器片46・剥片9	関山II	88	22	101	58
45号土坑	M12	B-V	1.11×0.99	20cm		不明	96	-	-	-

表7 縄文時代土坑③

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
46号土坑	K 10	B - II	1.03×0.92	15cm	剥片 1	不明	96	33	-	-
47号土坑	K 9	B - V	1.19×1.08	15cm	土器片37・石鏃1・スクレイパー1	五領ヶ台	89	23	101	58
48号土坑	J 9	A - I	1.13×1.08	38cm	深鉢1・土器片17・磨石1・剥片2	阿玉台 I	89	23	102	58
49号土坑	K 10	B - III	1.07×0.96	18cm	土器片1・磨石1・剥片1	関山 II	88	22	101	58
50号土坑	J 10	A - I	1.19×1.04	48cm	深鉢2・石皿1・剥片5・礫1	阿玉台 I	89	23	102	58
51号土坑	J 10	A - I	1.15×1.13	25cm	土器片10・打製石斧1・スクレイパー1	五領ヶ台	89	23	103	59
52号土坑	J 10	A - V	1.06×1.00	20cm		不明	96	33	-	-
53号土坑	J 10	A - V	0.92×0.87	25cm		不明	97	-	-	-
54号土坑	J 10	A - III	1.01×0.92	22cm	土器片1・スクレイパー1	五領ヶ台	89	23	103	59
55号土坑	J 10	B - I	1.30×1.15	34cm	深鉢1・剥片1	五領ヶ台	89	23	104	59
56号土坑	J 11	E - V	1.56×1.27	24cm	土器片40・剥片6	五領ヶ台	89	23	103	59
57号土坑	J 11	A - III	1.11×1.03	17cm		不明	97	-	-	-
58号土坑	I 10	A - II	1.24×1.17	18cm	土器片5・剥片3	五領ヶ台	89	24	103	59
59号土坑	J 10	A - II	1.32×1.21	20cm	土器片5・剥片1	五領ヶ台	90	24	103	59
60号土坑	I 10	B - II	1.17×1.05	24cm	土器片4	五領ヶ台	90	24	104	59
61号土坑	I 10	A - II	1.37×1.25	33cm	土器片7	五領ヶ台	90	24	104	59
62号土坑	I 10	A - II	1.00×1.00	20cm	剥片2	不明	97	-	-	-
63号土坑	J 10	B - V	1.11×0.93	27cm		不明	97	-	-	-
64号土坑	K 10	B - V	1.24×1.08	21cm	土器片19・剥片1	五領ヶ台	90	24	104	59
65号土坑	J 11	A - II	1.38×1.26	35cm	土器片5・円板1・剥片1・礫1	五領ヶ台	90	24	104	60
66号土坑	I 11	B - V	1.59×1.29	34cm		不明	97	-	-	-
67号土坑	I 11	A - II	1.34×1.27	28cm	土器片12・剥片2	五領ヶ台	90	24	104	60
68号土坑	I 12	B - I	1.40×1.23	29cm	土器片16	五領ヶ台	90	24	104	60
69号土坑	I 12	B - V	1.27×1.07	20cm		不明	97	-	-	-
70号土坑	I 12	B - V	1.22×1.00	16cm		不明	97	-	-	-
71号土坑	I 13	B - III	0.93×0.83	11cm	土器片1	五領ヶ台	90	25	-	-
72号土坑	I 13	A - I	1.04×1.01	33cm	不明礫2	不明	97	33	-	-
73号土坑	I 13	A - III	1.03×0.95	10cm	土器片2	五領ヶ台	90	25	104	60
74号土坑	H 13	D - III	0.98×0.84	18cm		不明	97	-	-	-
75号土坑	I 12	B - III	0.96×0.84	17cm	土器片1・剥片1	阿玉台 I	90	25	104	60
76号土坑	I 11	E - IV	1.48×1.25	44cm	土器片44・打製石斧2・スクレイパー1	五領ヶ台	90	25	104	60
77号土坑	I 11	B - III	1.32×1.17	26cm	土器片14・打製石斧1・剥片2	五領ヶ台	90	25	105	60

表8 縄文時代土坑④

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
78号土坑	I 11	B - II	1.16×1.02	17cm		不明	97	-	-	-
79号土坑	J 8	A - II	1.00×0.92	22cm	土器片15・剥片2	五領ヶ台	91	25	105	60
80号土坑	I 11	B - II	1.30×1.17	31cm	土器片13・打製石斧2・剥片1	五領ヶ台	91	25	105	60
81号土坑	I 11	B - II	1.67×1.11	26cm	深鉢1・磨石2	五領ヶ台	91	25	105	60
82号土坑	I 11	B - II	0.93×0.90	17cm	土器片8	五領ヶ台	91	25	105	60
83号土坑	I 11	B - III	0.94×0.84	30cm	土器片2	五領ヶ台	91	26	105	60
84号土坑	H11	B - I	0.98×0.89	49cm	剥片2	不明	97	33	-	-
85号土坑	H11	B - II	1.40×1.13	42cm	土器片1・剥片13・残核1	阿玉台カ	91	26	105	60
86号土坑	H11	B - V	0.99×0.89	21cm		不明	97	-	-	-
87号土坑	H11	A - II	1.20×1.12	28cm	石皿1・剥片1	不明	97	33	113	65
88号土坑	H11	B - II	1.05×0.92	33cm	土器片22・打製石斧2・剥片1	五領ヶ台	91	26	105	60
89号土坑	H10	B - II	0.91×0.82	14cm	深鉢1・剥片5	五領ヶ台	91	26	105	60
90号土坑	I 9	B - II	1.19×0.93	122cm	ノ落とし穴か	不明	97	33	-	-
94号土坑	G 9	B - V	1.02×0.91	22cm	土器片1・剥片2	不明	97	-	-	-
95号土坑	G 8	B - III	1.33×1.08	15cm	土器片5・磨石1・凹石1・スクレイパー1	五領ヶ台	91	26	106	61
96号土坑	G 9	E - III	1.21×1.10	15cm	剥片2	不明	97	-	-	-
97号土坑	G 9	B - V	1.46×1.02	43cm		不明	97	-	-	-
98号土坑	G 9	B - III	0.96×0.84	20cm	土器片16・剥片1	五領ヶ台	91	26	106	61
99号土坑	G 9	B - III	0.98×0.82	9cm		不明	97	-	-	-
100号土坑	F 10	A - II	0.93×0.92	29cm	土器片6・凹石1・スクレイパー4	五領ヶ台	91	26	106	61
101号土坑	F 10	A - V	0.84×0.80	12cm		不明	97	-	-	-
102号土坑	F 10	A - III	1.12×1.07	18cm	土器片15	五領ヶ台	91	26	106	61
103号土坑	F 10	B - V	1.60×1.10	29cm	石皿1・剥片1/2基重複か	不明	97	33	113	65
104号土坑	F 9	E - III	1.57×1.18	19cm	土器片3・剥片1	不明	98	-	-	-
105号土坑	F 9	B - III	1.26×0.87	13cm	ノ上面に礫	不明	98	33	-	-
106号土坑	F 8	A - III	1.12×1.09	15cm	深鉢1・礫器1・剥片1	五領ヶ台	92	27	106	61
107号土坑	F 8	B - V	1.35×1.12	31cm	土器片1	五領ヶ台	92	27	-	-
108号土坑	F 9	B - I	1.20×1.00	24cm	深鉢1・スクレイパー1・剥片2	五領ヶ台	92	27	107	61
109号土坑	E 9	B - III	0.99×0.86	9cm	ノ小ビットあり	不明	98	-	-	-
110号土坑	F 9	A - V	0.84×0.79	10cm		不明	98	-	-	-
111号土坑	F 9	B - III	1.31×1.02	14cm		不明	98	-	-	-
112号土坑	F 8	A - III	0.92×0.84	17cm	土器片1	不明	98	-	-	-

表9 縄文時代土坑⑤

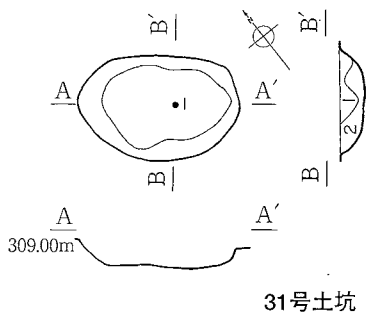
遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
113号土坑	D 9	A - II	1.21×1.12	36cm	スクレイパー 1	不明	98	34	113	65
114号土坑	D 9	E - V	1.40×1.13	24cm		不明	98	-	-	-
115号土坑	F 11	B - II	1.04×0.92	18cm		不明	98	-	-	-
116号土坑	J 13	A - II	1.18×1.14	36cm		不明	98	34	-	-
117号土坑	J 13	B - I	1.15×1.00	37cm	石皿 1	不明	98	34	-	-
118号土坑	L 13	不明	- ×1.07	29cm	／119号土坑に切られる	不明	98	34	-	-
119号土坑	L 13	E - I	2.46×1.12	36cm		不明	98	34	-	-
120号土坑	L 13	B - V	1.14×0.93	18cm		不明	98	-	-	-
121号土坑	M14	B - V	1.04×0.91	15cm		不明	98	-	-	-
122号土坑	M14	B - II	1.03×0.93	24cm		不明	98	-	-	-
123号土坑	M14	B - II	1.21×1.01	17cm		不明	98	-	-	-
124号土坑	N 13	A - II	0.89×0.84	36cm	土器片 1・スクレイパー 1・剥片 1	五領ヶ台	92	27	107	61
125号土坑	N 13	B - I	0.86×0.77	27cm		不明	98	34	-	-
126号土坑	O 14	B - II	0.94×0.84	28cm	土器片 2	五領ヶ台	92	27	107	61
127号土坑	O 15	B - II	1.22×1.06	47cm	土器片 1	不明	98	34	-	-
128号土坑	O 15	E - V	1.10×0.80	36cm		不明	98	-	-	-
129号土坑	P 16	B - V	0.98×0.88	24cm	／小ピットあり	不明	99	-	-	-
130号土坑	Q 16	E - V	1.50×1.20	24cm		不明	99	-	-	-
131号土坑	O 17	B - III	1.24×0.95	21cm	土器片 7・剥片 2	五領ヶ台	92	27	107	61
132号土坑	O 18	B - V	1.09×0.98	16cm	土器片 1	五領ヶ台	92	27	107	61
133号土坑	P 18	B - III	1.00×0.90	28cm	土器片 3 / 上面に礫	五領ヶ台	92	27	107	61
135号土坑	R 20	A - II	0.88×0.83	35cm	土器片 1・剥片 6	関山II	88	22	101	58
136号土坑	Q 20	B - II	1.08×0.92	19cm		不明	99	-	-	-
137号土坑	Q 20	B - V	1.05×0.80	15cm	土器片 1	不明	99	-	-	-
138号土坑	Q 21	B - V	1.13×0.94	24cm	土器片 1・スクレイパー 1	不明	99	34	113	65
139号土坑	R 21	B - V	1.07×0.92	25cm		不明	99	-	-	-
140号土坑	Q 21	A - II	1.00×0.89	24cm		不明	99	-	-	-
142号土坑	Q 21	B - III	0.97×0.77	22cm		不明	99	-	-	-
144号土坑	R 21	E - V	1.73×1.34	25cm		不明	99	-	-	-
145号土坑	R 21	A - III	0.82×0.78	13cm		不明	99	-	-	-
146号土坑	R 21	B - I	0.89×0.79	16cm		不明	99	-	-	-
147号土坑	R 22	B - II	1.05×0.92	20cm		不明	99	-	-	-

表10 縄文時代土坑⑥

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
148号土坑	P 25	A - V	1.16×1.10	19cm	土器片 1	不明	99	-	-	-
149号土坑	P 26	B - II	1.06×0.94	14cm		不明	99	-	-	-
150号土坑	P 26	B - II	1.25×1.04	36cm		不明	99	34	-	-
151号土坑	M19	A - I	0.82×0.75	32cm		不明	99	35	-	-
152号土坑	O 19	B - III	1.10×0.95	20cm	土器片 8	五領ヶ台	92	-	107	61
153号土坑	O 19	B - II	1.06×0.96	23cm	土器片 2	五領ヶ台	92	28	-	-
154号土坑	O 20	A - II	1.09×1.02	19cm	／上面に礫	不明	99	-	-	-
155号土坑	O 21	B - II	1.14×1.02	19cm		不明	99	35	-	-
156号土坑	L 16	B - II	0.91×0.81	14cm		不明	99	35	-	-
157号土坑	N 15	B - II	1.40×0.80	29cm	／2基の重複か	不明	99	-	-	-
158号土坑	N 16	B - V	1.34×1.12	30cm		不明	99	-	-	-
159号土坑	O 25	A - IV	1.15×1.05	92cm	土器片28/フラスコ状土坑	五領ヶ台	92	28	-	-
160号土坑	I 11	A - II	0.97×0.95	26cm	土器片3・打製石斧2・スクレイパー1	五～阿玉	92	28	107	61
161号土坑	Q 20	不明	- × -	30cm	／26号住居跡と重複・新旧不明	不明	27	-	-	-
162号土坑	O 26	B - III	1.27×1.12	19cm	土器片 1	不明	99	35	-	-
163号土坑	O 26	B - II	1.36×1.17	46cm		不明	100	35	-	-
164号土坑	J 11	B - V	1.65×1.40	35cm	土器片23・剥片2/段差あり	五領ヶ台	93	28	107	61
172号土坑	G 7	A - II	1.20×1.15	29cm	土器片8・石匙1・スクレイパー3・剥片4	五領ヶ台	93	28	107	61
173号土坑	G 7	B - II	0.95×0.83	22cm		不明	100	-	-	-
174号土坑	E 5	B - V	1.59×1.36	23cm	土器片4・剥片2	五領ヶ台	93	28	107	61
175号土坑	F 7	B - V	1.23×1.07	31cm		不明	100	-	-	-
176号土坑	E 7	B - II	1.16×0.97	57cm		不明	100	35	-	-
177号土坑	D 6	B - III	1.20×1.04	24cm		不明	100	-	-	-
178号土坑	E 4	B - V	1.76×0.97	38cm	土器片8・剥片2・不明礫1	五領ヶ台	93	29	108	62
179号土坑	F 3	B - III	1.14×0.89	31cm		不明	100	35	-	-
180号土坑	D 3	B - III	1.07×0.85	29cm	土器片 1	五領ヶ台	93	28	-	-
181号土坑	C 4	B - V	1.74×1.40	25cm	磨石 1	不明	100	-	-	-
182号土坑	H 8	A - I	1.16×1.10	19cm	深鉢5個体以上・磨石1	五領ヶ台	93	29	108	62
183号土坑	H 5	不明	- × 1.26	32cm	土器片2・剥片1	不明	100	-	-	-
184号土坑	H 8	B - II	0.96×0.96	27cm	深鉢1・剥片1	五領ヶ台	93	29	109	62
185号土坑	I 7	B - II	1.11×1.00	27cm	土器片14・スクレイパー1・剥片4	五領ヶ台	93	29	109	62
186号土坑	H 6	B - II	1.82×1.72	29cm	深鉢1・磨石1・凹石1・石皿1・剥片	五領ヶ台	93	29	109	62

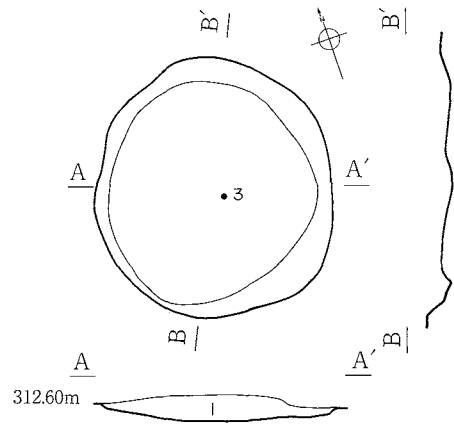
表11 縄文時代土坑⑦

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
187号土坑	H 6	B-V	0.92×0.77	25cm	土器片 4	五領ヶ台	93	29	-	-
188号土坑	H 6	B-III	1.49×1.13	13cm	土器片103・剥片 1	五領ヶ台	93	30	109	62
189号土坑	I 8	A-II	0.85×0.78	10cm	土器片 4・剥片 1	五領ヶ台	93	30	109	63
190号土坑	K18	B-V	0.85×0.74	10cm	深鉢 1・土器片26	五領ヶ台	93	30	109	63
191号土坑	L 18	B-III	0.99×0.89	14cm	土器片10・剥片 1	五領ヶ台	93	30	109	63
192号土坑	H 5	不明	- × 1.31	24cm	ノ北側攪乱	不明	100	-	-	-
193号土坑	G 8	B-II	1.32×1.04	24cm	土器片 1	五領ヶ台	94	30	-	-
194号土坑	K19	B-I	1.08×0.89	14cm		不明	100	-	-	-
195号土坑	L 18	B-III	1.15×0.99	17cm	土器片20・スクレイパー 1・剥片 6	五領ヶ台	94	30	110	63
196号土坑	N19	B-II	1.00×0.85	15cm	土器片 3	五領ヶ台	94	30	-	-
197号土坑	N17	B-II	1.16×0.96	29cm	土器片39・スクレイパー 2・剥片 9	五領ヶ台	94	31	110	63
198号土坑	N17	B-I	0.98×0.88	28cm	土器片 6・磨石 1・凹石 1	五領ヶ台	94	31	110	63
199号土坑	N16	A-II	1.04×0.96	14cm	土器片 6・凹石 1・剥片 1	五領ヶ台	94	31	110	63
200号土坑	N16	B-I	0.82×0.73	40cm	土器片 3・剥片 2	五領ヶ台	94	31	-	-
201号土坑	N16	B-III	1.08×0.96	26cm	土器片 3	五領ヶ台	94	31	-	-
202号土坑	M16	B-I	0.94×0.78	16cm	土器片 3・不明礫 1	不明	100	-	-	-
203号土坑	M17	A-II	1.09×1.04	39cm	土器片 3	五領ヶ台	94	31	-	-
204号土坑	L 17	B-II	0.66×0.53	26cm		不明	100	-	-	-
205号土坑	L 17	B-I	1.06×0.93	32cm	深鉢 1・土器片23・磨石 2・剥片 6	五領ヶ台	94	31	110	63
206号土坑	L 17	A-II	1.07×0.97	24cm	土器片15・凹石 1・スクレイパー 1・剥片	五領ヶ台	94	31	112	64
207号土坑	L 17	B-II	1.41×1.23	51cm	深鉢 1・打製石斧 1・凹石 1・剥片13	五領ヶ台	94	31	111	64
208号土坑	L 16	B-II	0.82×0.71	26cm	剥片 3	不明	100	-	-	-
209号土坑	L 16	A-II	1.13×1.03	31cm	土器片 8・打製石斧 2・磨石 2・剥片	五領ヶ台	94	32	112	64
210号土坑	L 17	A-III	0.82×0.76	15cm	土器片 1	不明	100	-	-	-
211号土坑	L 17	B-II	1.19×0.98	26cm	土器片 1・打製石斧 2・剥片 2	不明	100	-	113	65
212号土坑	K17	B-II	1.44×1.30	23cm	土器片 2	不明	100	35	-	-
213号土坑	L 16	B-II	0.65×0.58	13cm		不明	100	-	-	-
214号土坑	N17	B-II	1.56×-	25cm	土器片 3・剥片 1/197土と重複	五領ヶ台	94	30	112	64
215号土坑	L 17	A-II	1.08×1.04	49cm	土器片10・剥片 1・残核 1	五領ヶ台	94	32	112	64
216号土坑	L 17	A-III	0.93×0.90	14cm		不明	100	-	-	-
217号土坑	S27	A-III	2.79×2.64	16cm	土器片 7・剥片 4/小ピットあり	諸磯 a	88	22	101	58
218号土坑	H 5	A-III	2.79×2.58	18cm	土器片 5/小ピットあり	五領ヶ台	94	32	112	64



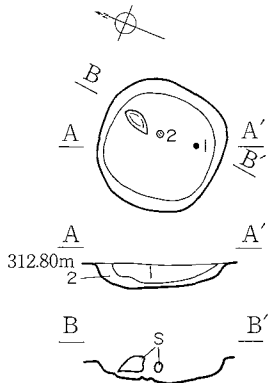
31号土坑

1: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり・粘性かやがある。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



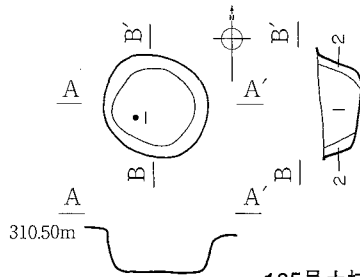
44号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



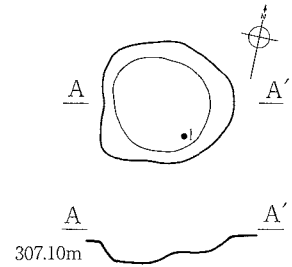
49号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。

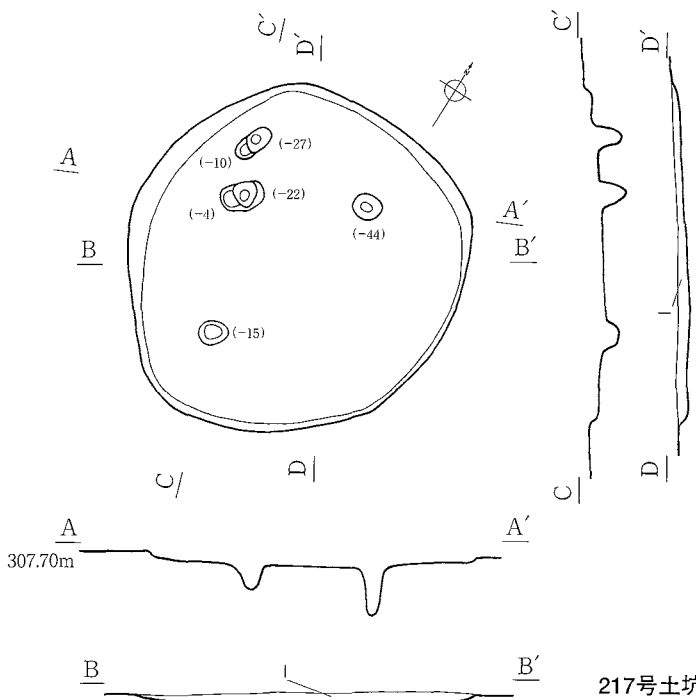


135号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。

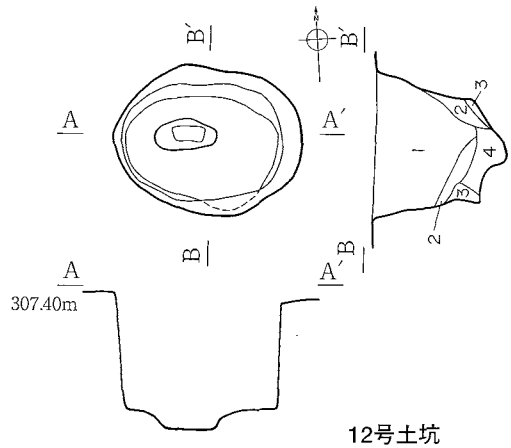


25号土坑



217号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強く、硬い。

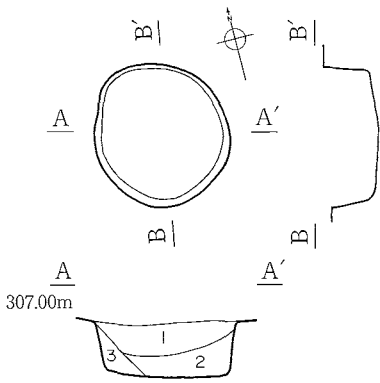


12号土坑

1: 黒色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
3: 黒褐色土 YPを含む。しまり・粘性ややある。
4: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまりやや弱く、粘性ある。

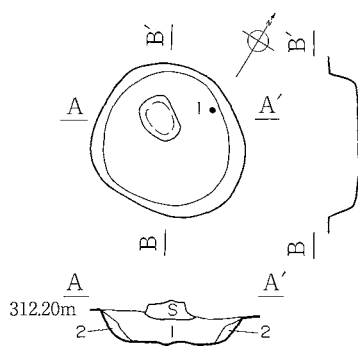


第88図 縄文時代土坑①



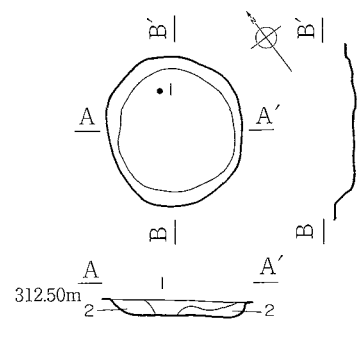
30号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 YPを含む。しまり強い。
- 3: 暗褐色土 YPを含む。しまり強い。



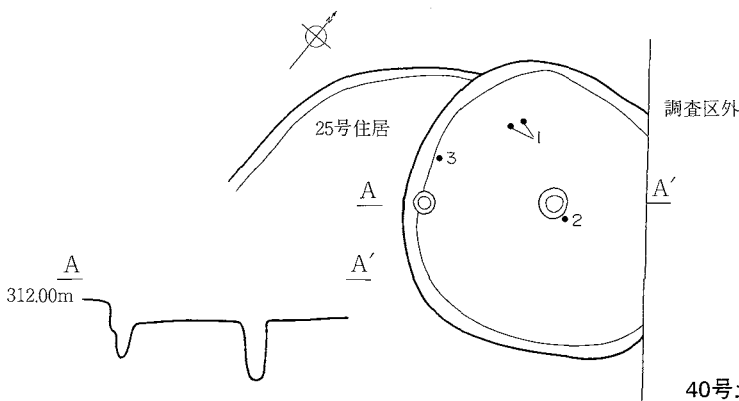
36号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック・白色珪石粒を少量含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。

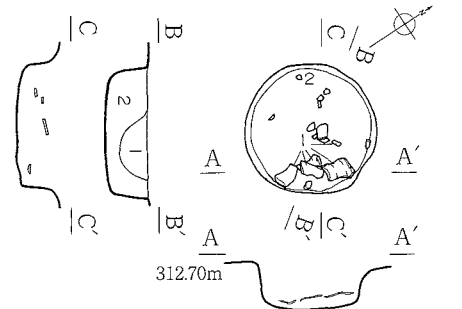


47号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック含む。しまり強い。

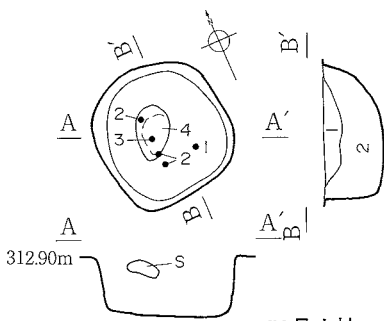


40号土坑



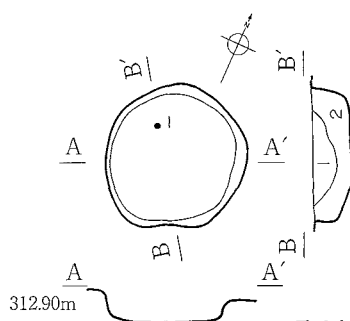
48号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック含む。しまり強い。



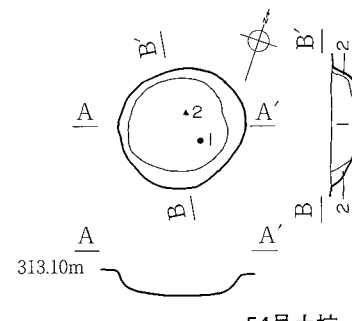
50号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ロームアブロック少量含む。しまり強い。



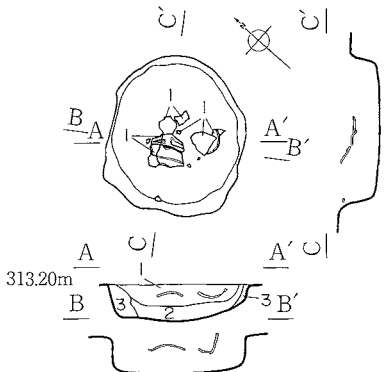
51号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。



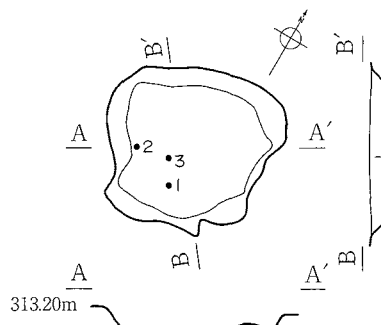
54号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。



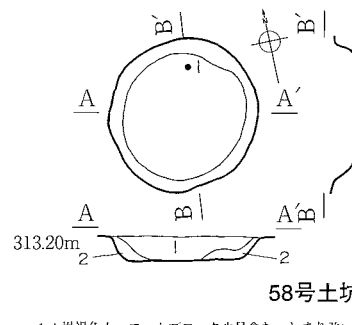
55号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック含む。しまり強い。



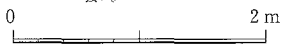
56号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。

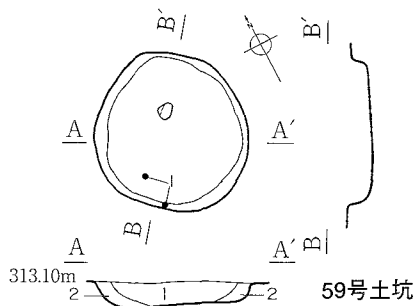


58号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。

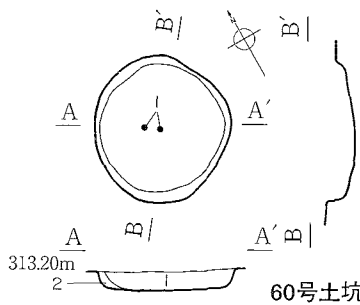


第89図 縄文時代土坑②



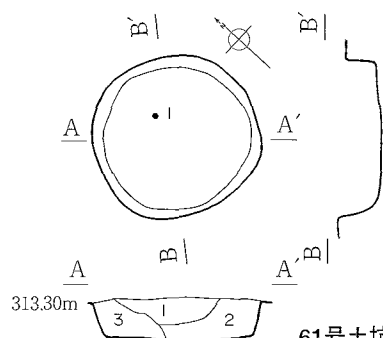
59号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。



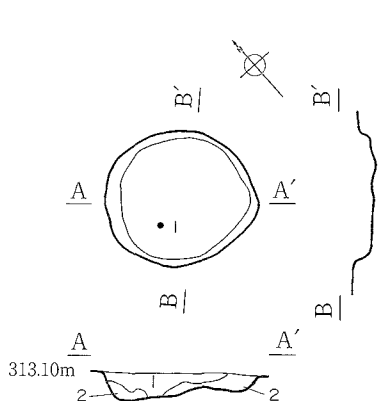
60号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。



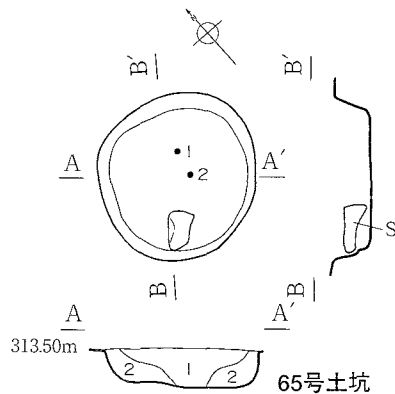
61号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。



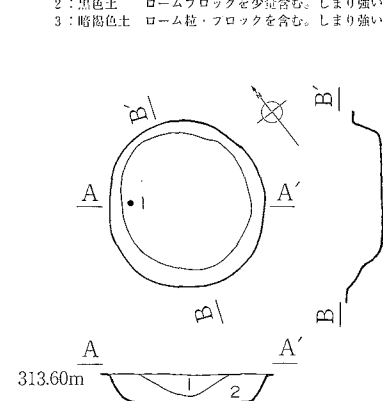
64号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり強い。



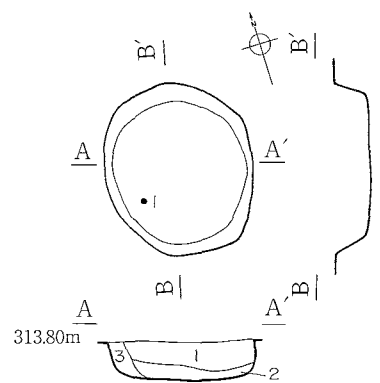
65号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



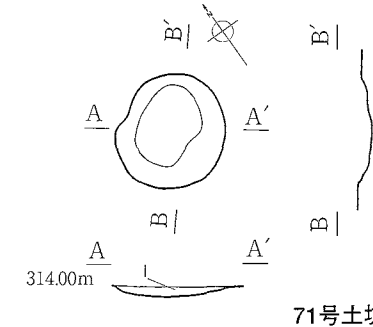
67号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。



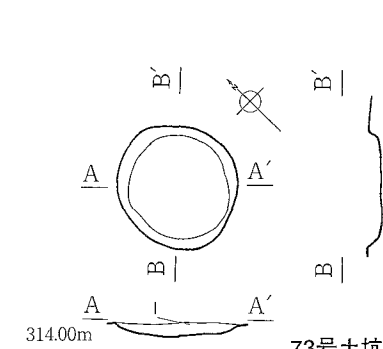
68号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。



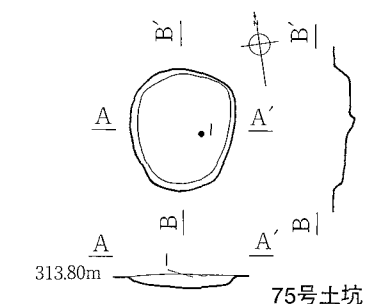
71号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



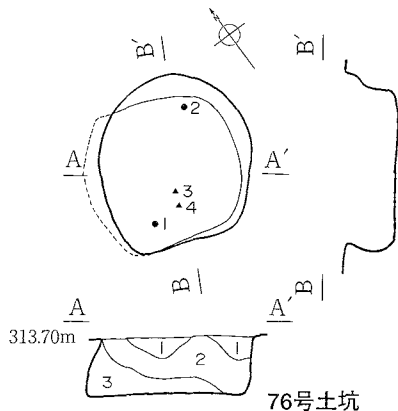
73号土坑

- 1: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。



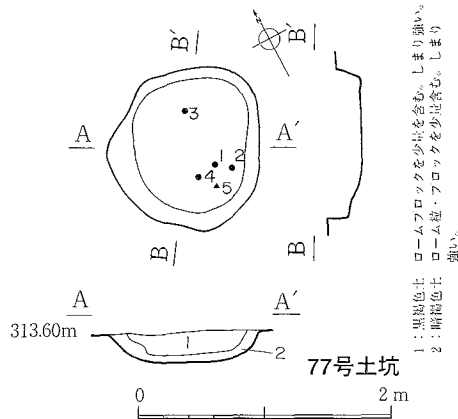
75号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



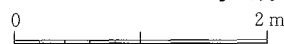
76号土坑

- 1: 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。炭化物少量含む。しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。

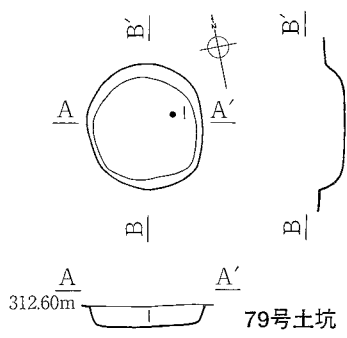


77号土坑

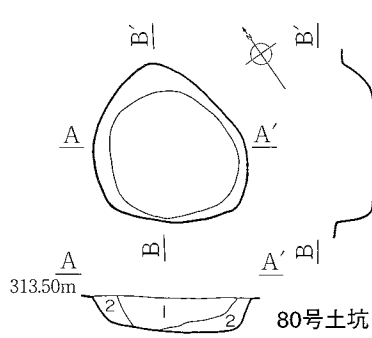
- 1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。しまり強い。



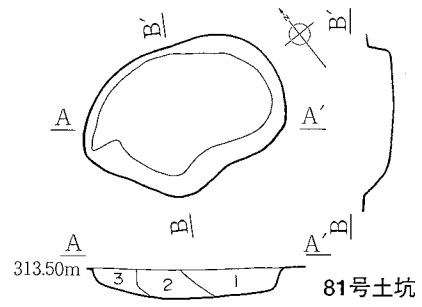
第90図 縄文時代土坑③



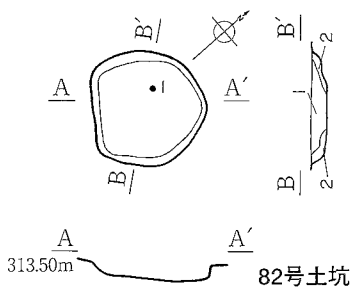
1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



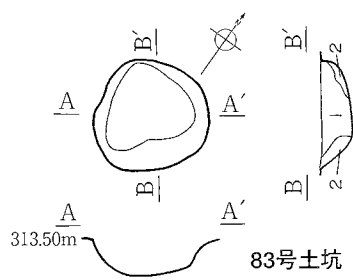
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



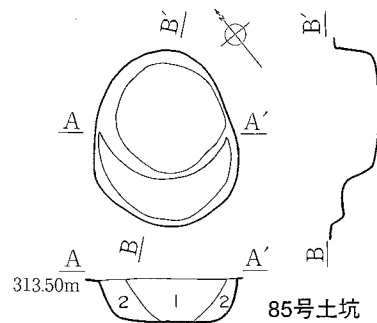
1: 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
3: 黒褐色土 ローム粒、ブロックを少量含む。しまり強い。



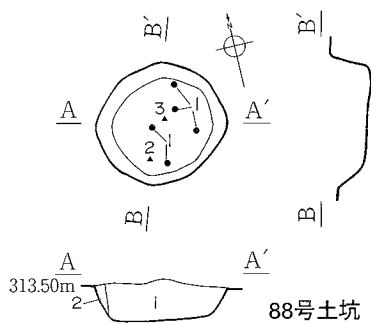
1: 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



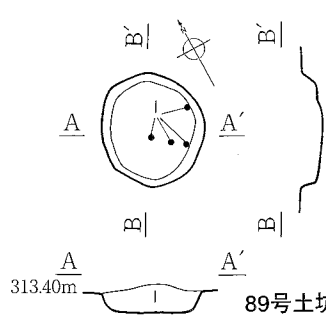
1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。



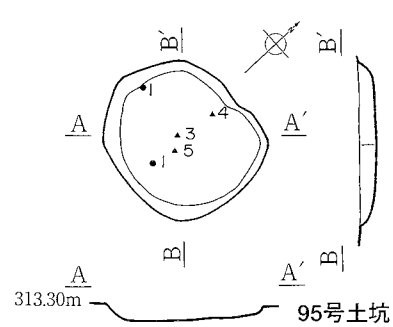
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



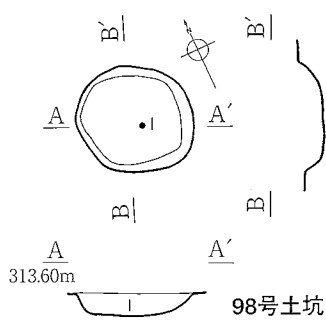
1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。



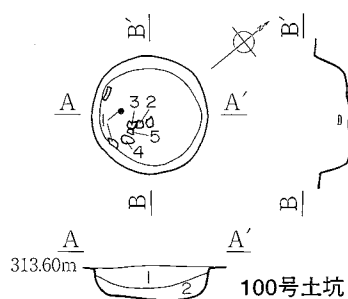
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



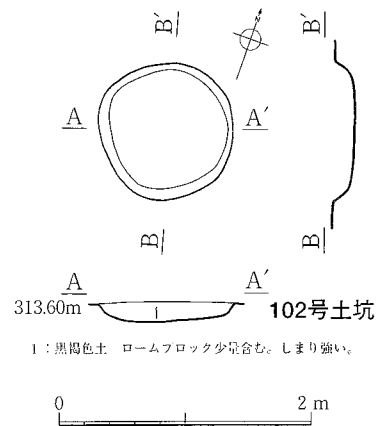
1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。

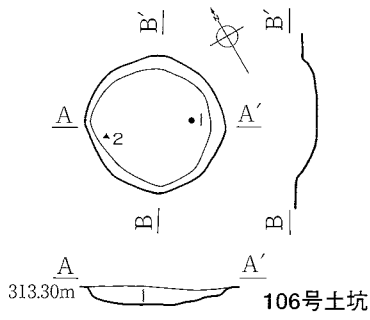


1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ローム粒、ブロックを少量含む。しまり強い。

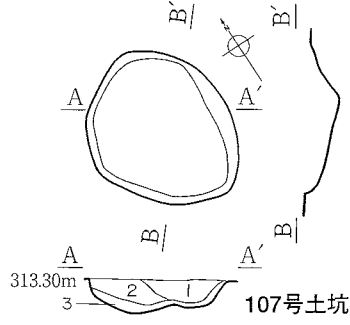


1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。

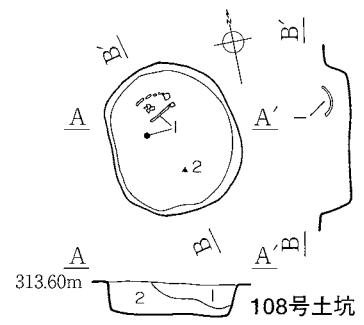
第91図 縄文時代土坑④



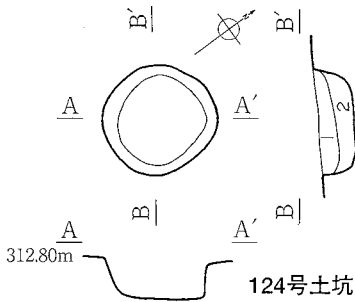
1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。



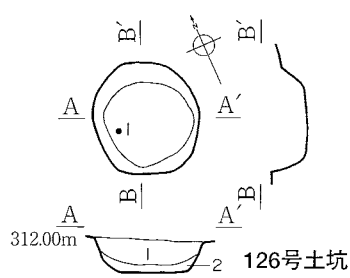
1: 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
3: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。



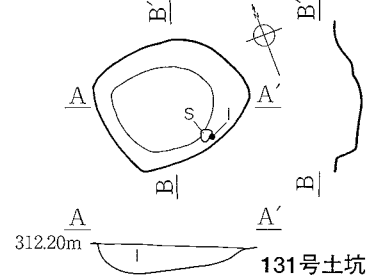
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり強い。



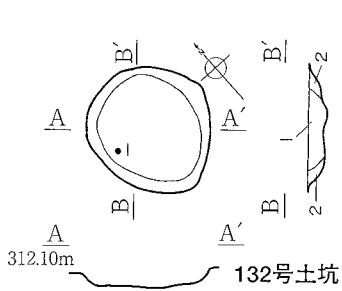
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



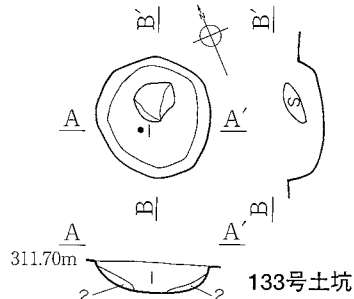
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり強い。



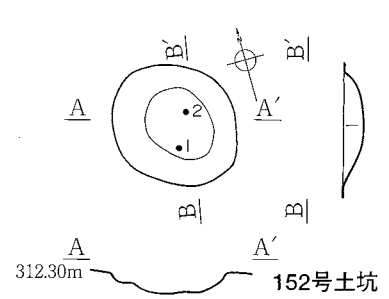
1: 暗褐色土 ロームブロックを含む。焼土・ブロック微量含む。しまり強い。



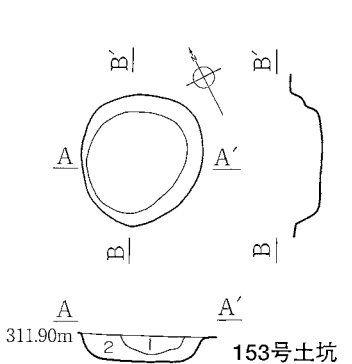
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を含む。しまり強い。



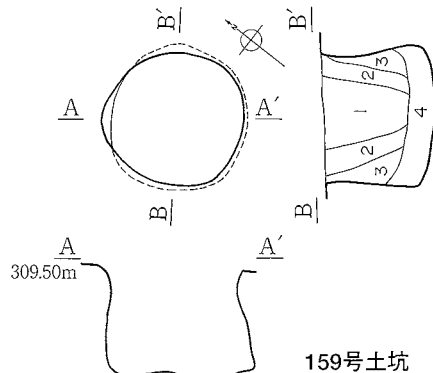
1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。



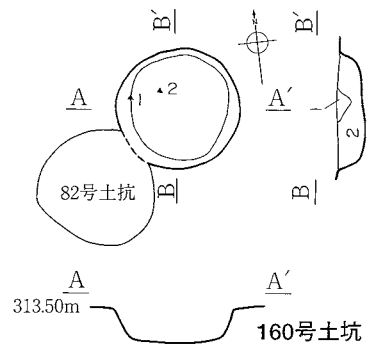
1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。



1: 暗褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。しまりやや強い。
2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・炭化物少量含む。しまりやや強い。



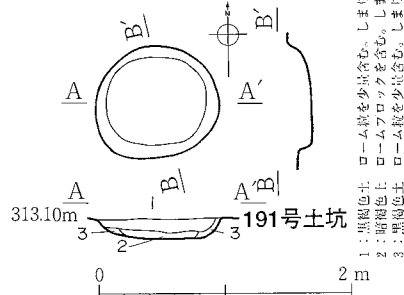
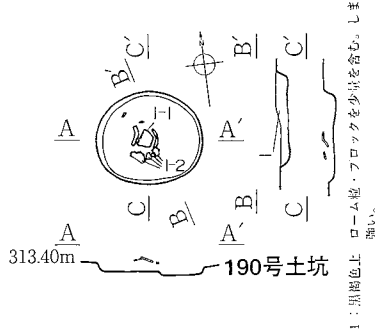
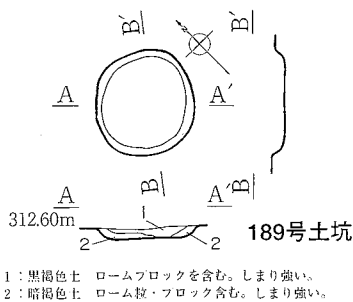
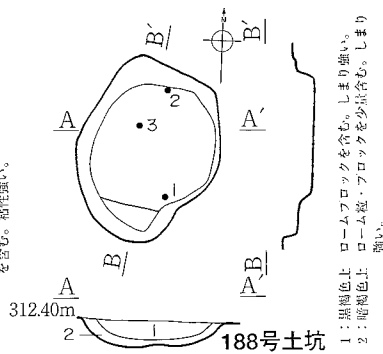
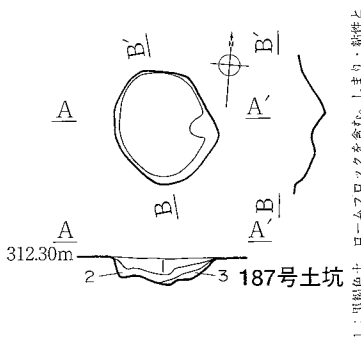
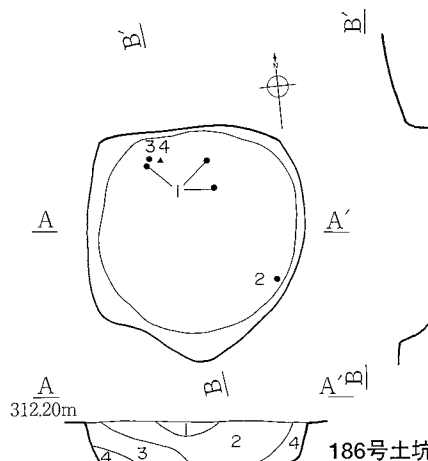
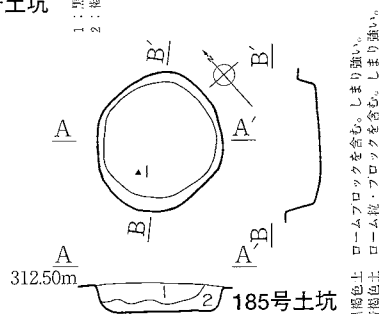
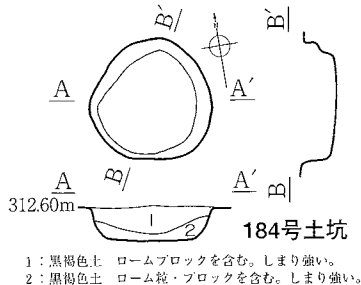
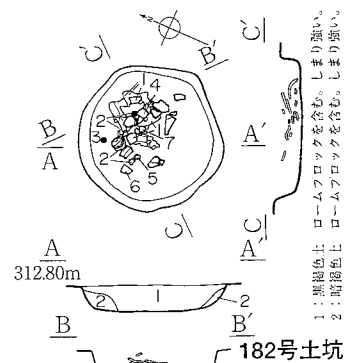
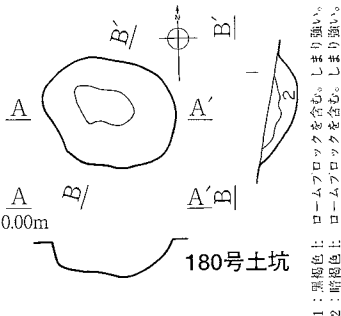
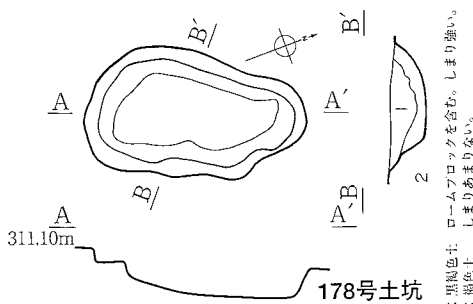
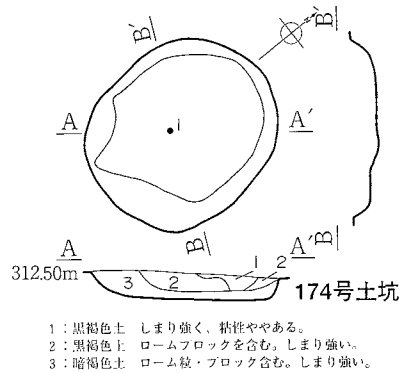
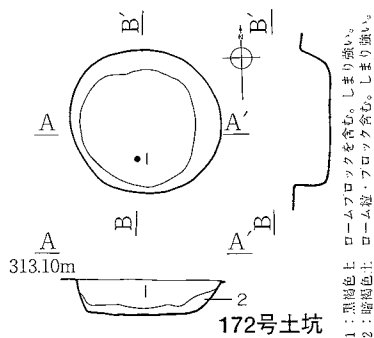
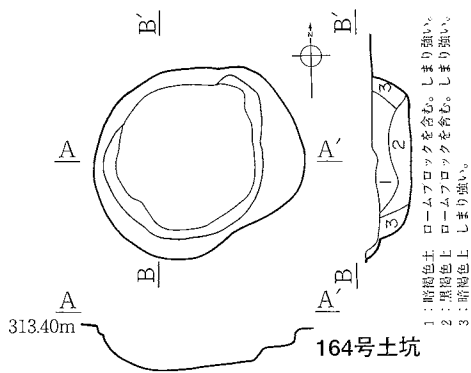
1: 黒褐色土 YPを多く含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。
3: 黒色土 ローム粒を少量含む。しまり強い。
4: 暗褐色土 ロームブロック・YP・ローム粒を含む。しまり強い。



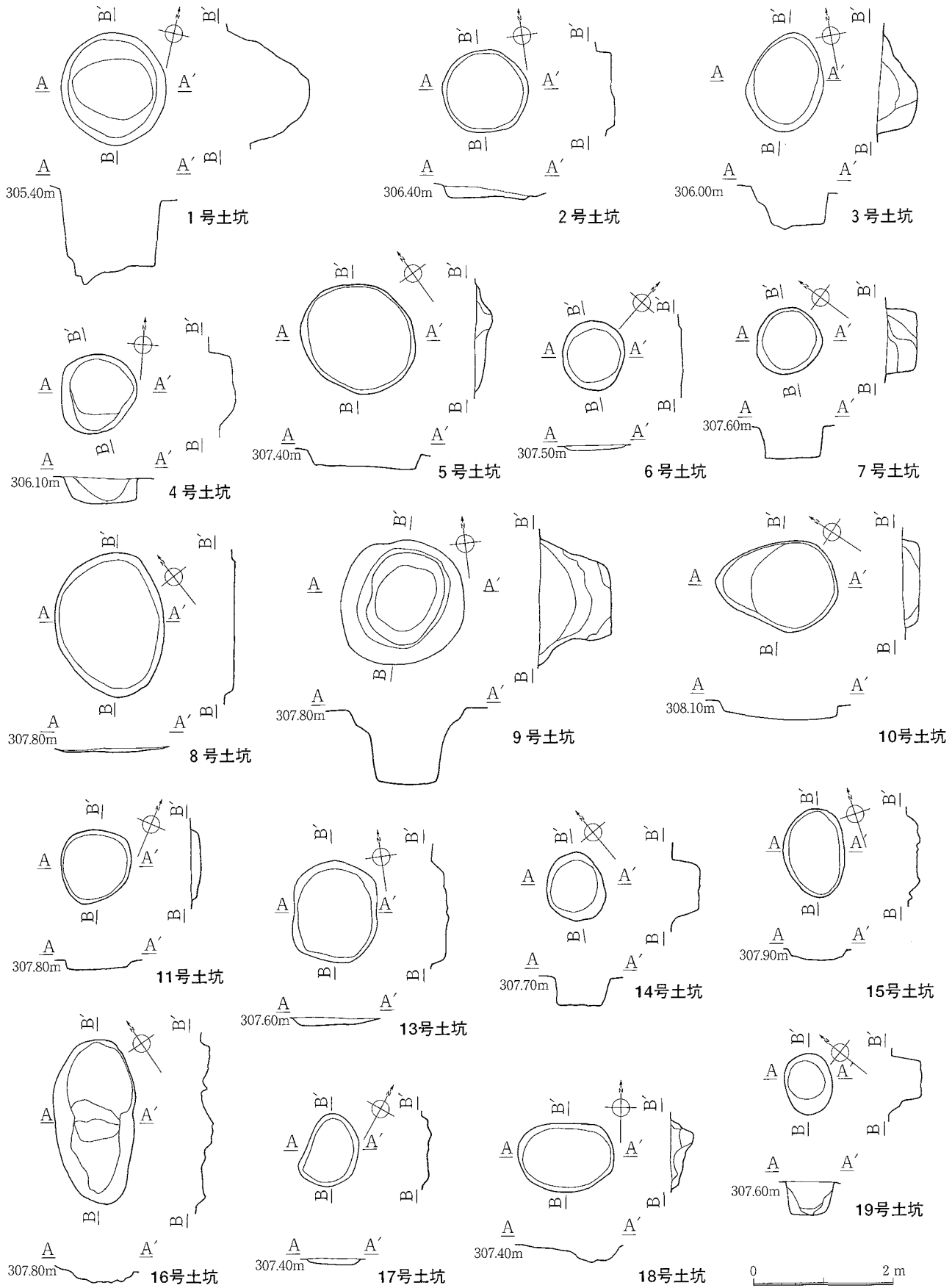
1: 暗褐色土 ローム粒・ブロック含む。しまり強い。
2: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。しまり強い。



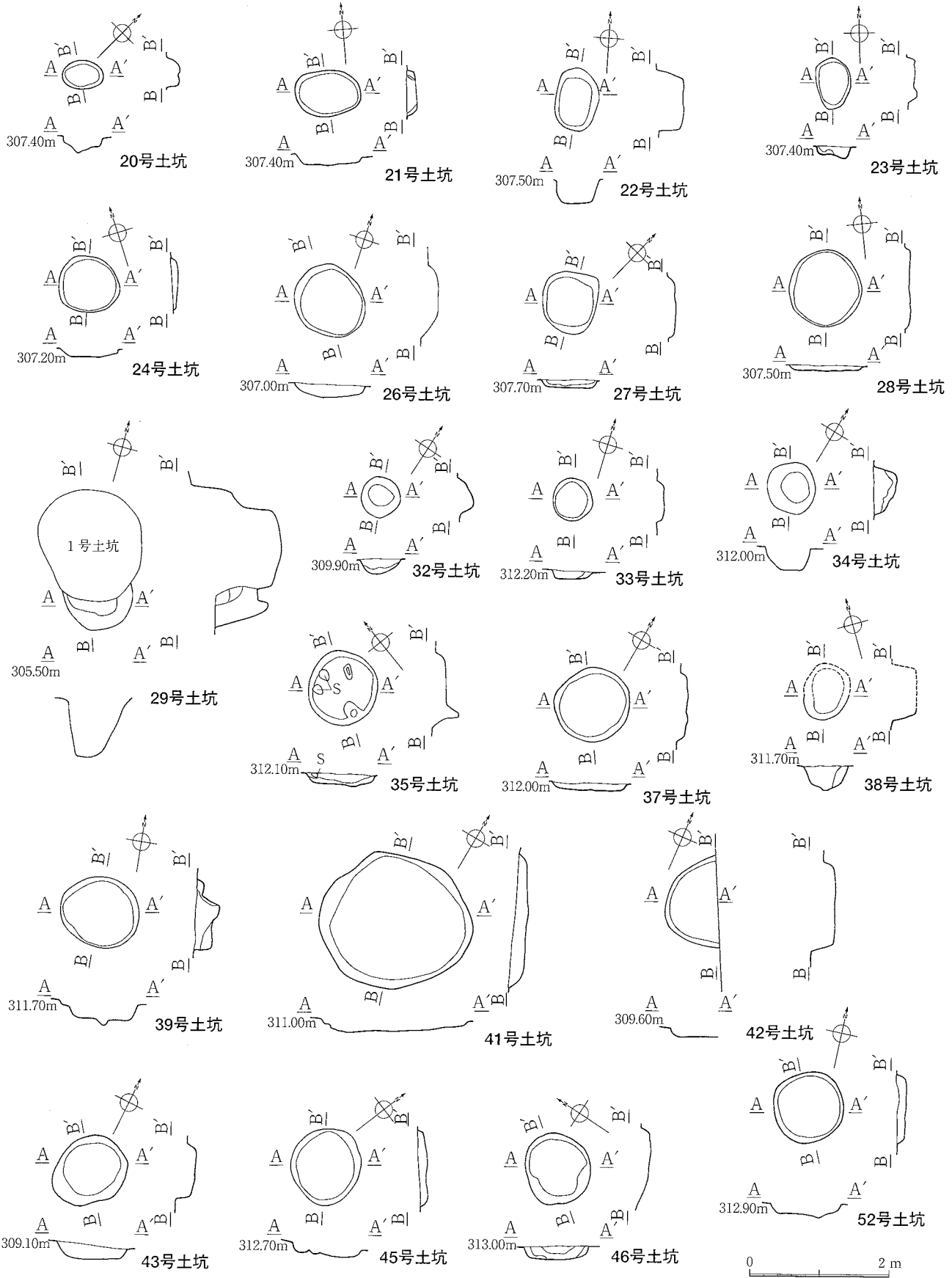
第92図 縄文時代土坑⑤



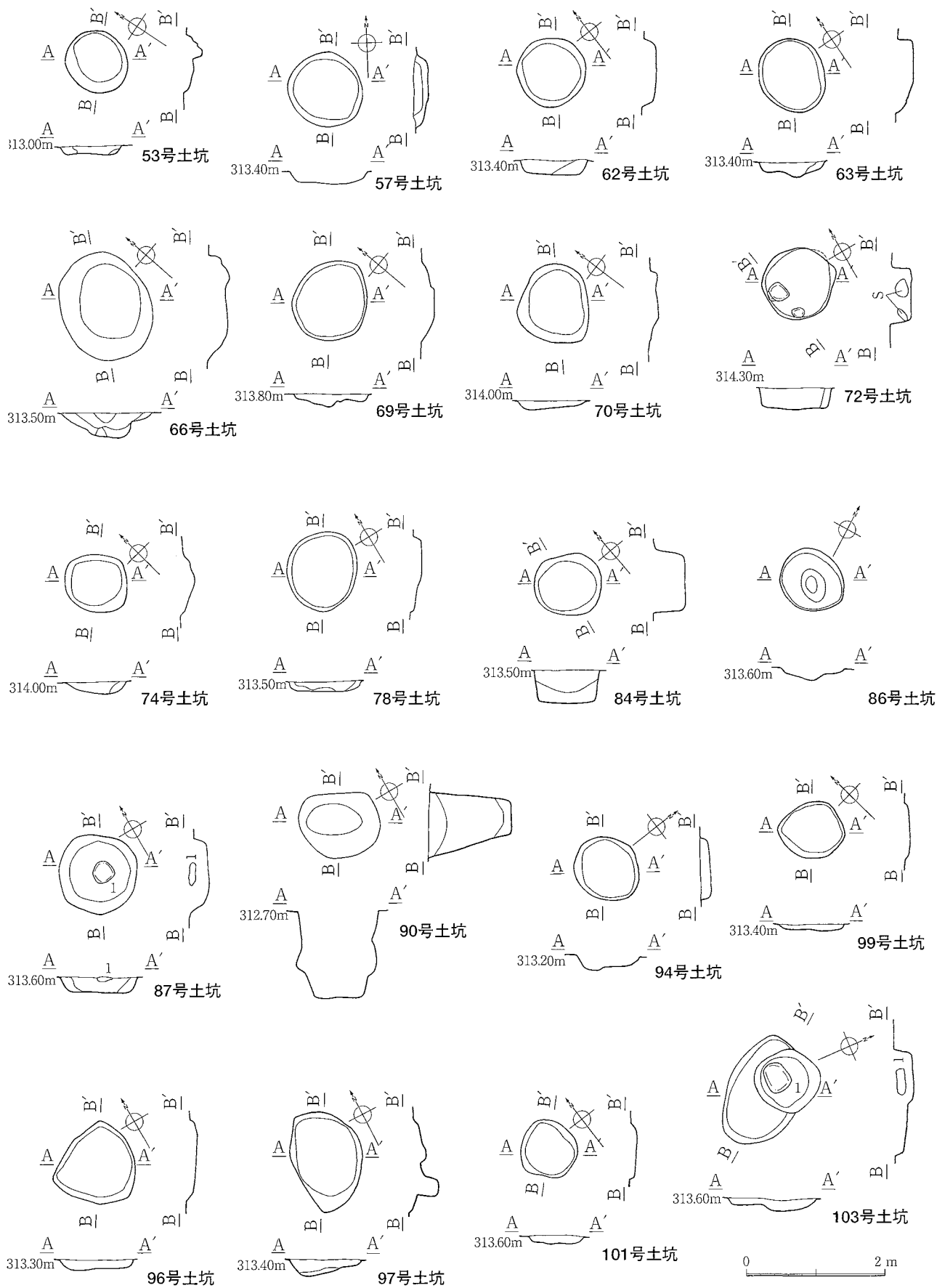
第93図 縄文時代土坑⑥



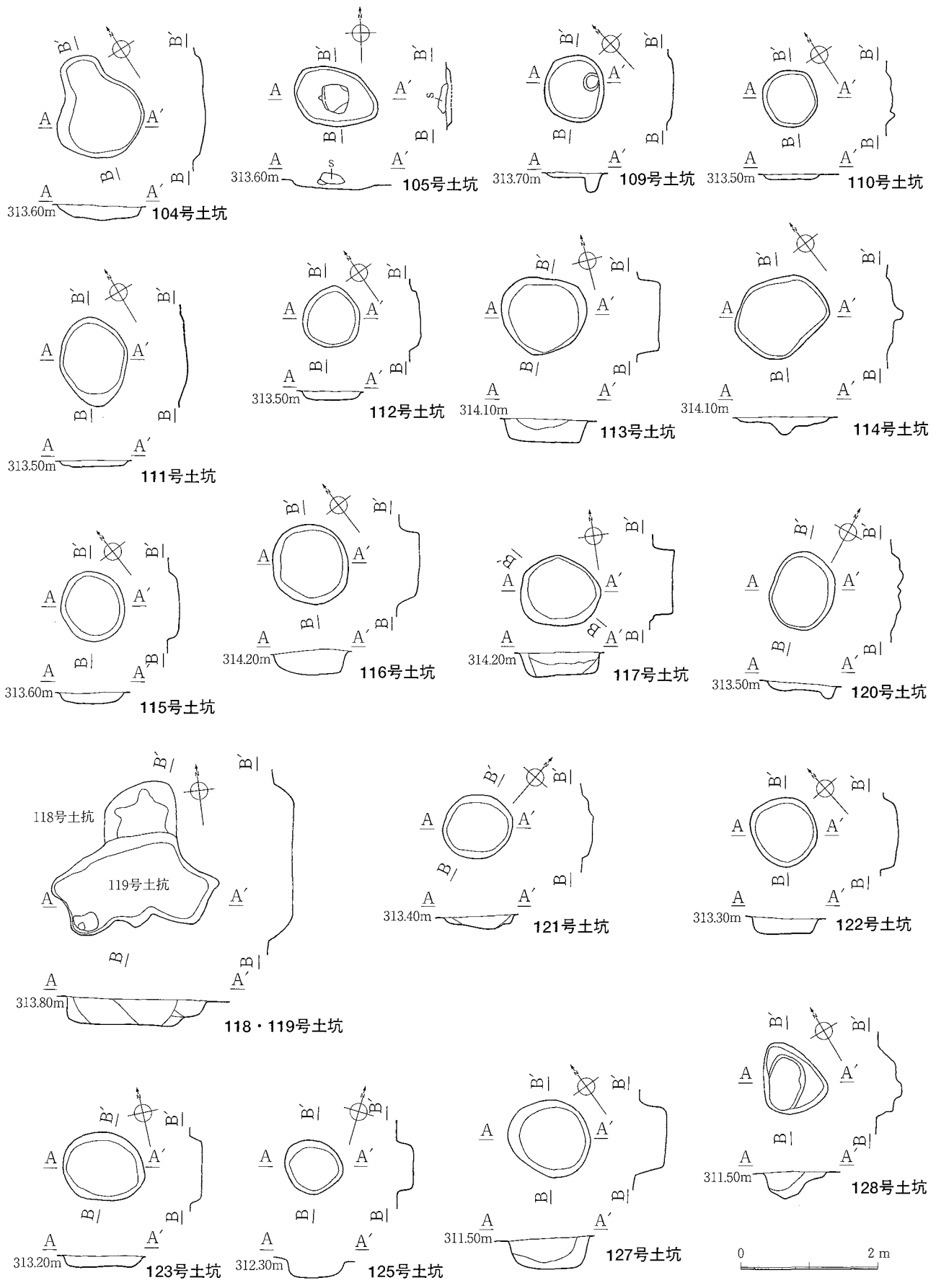
第95図 縄文時代土坑⑧



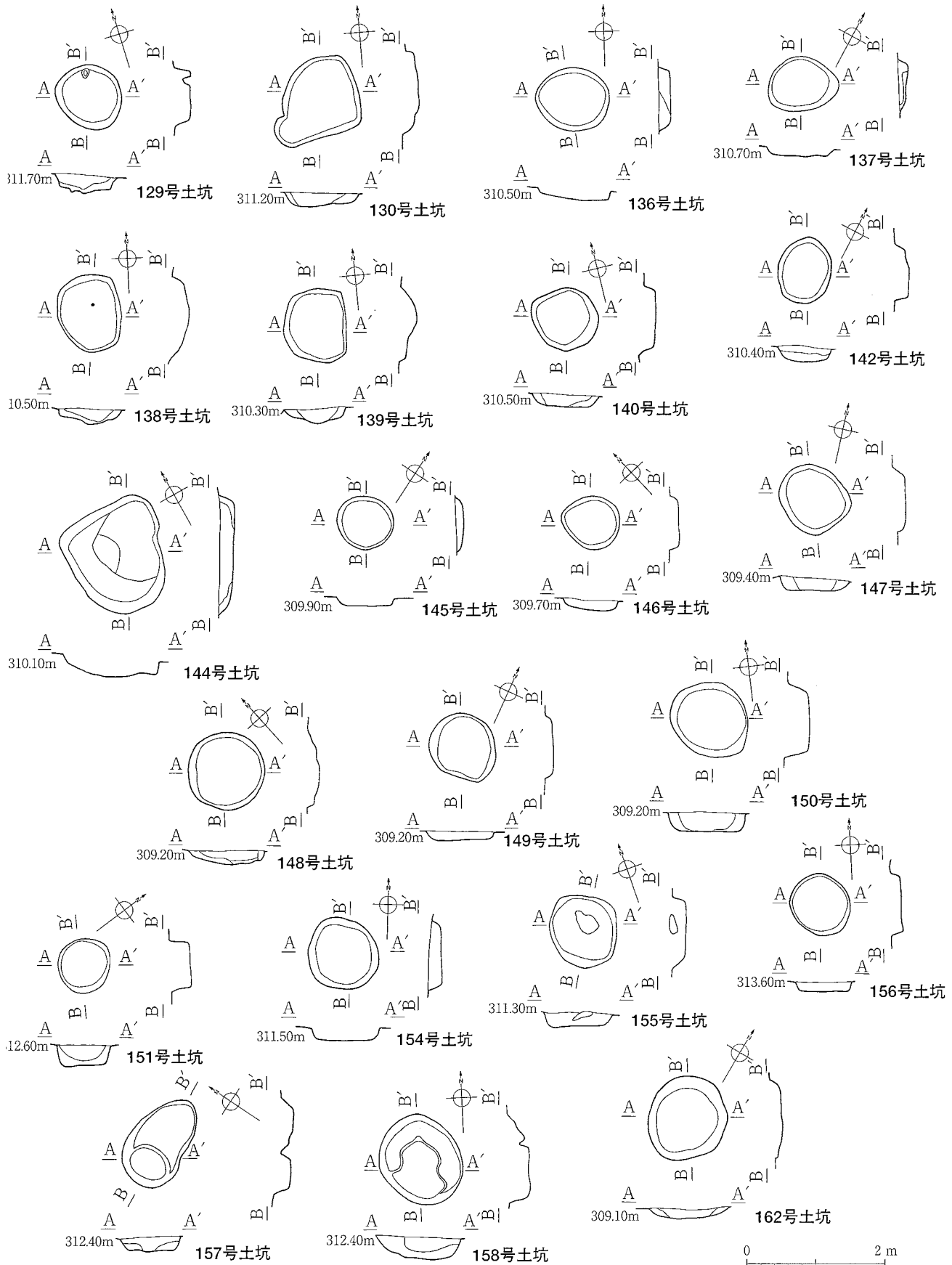
第96图 縄文時代土坑⑨



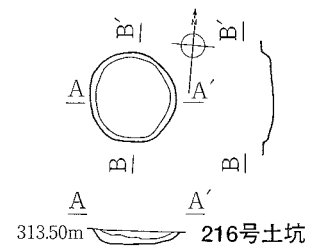
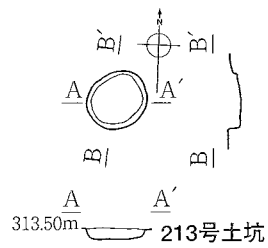
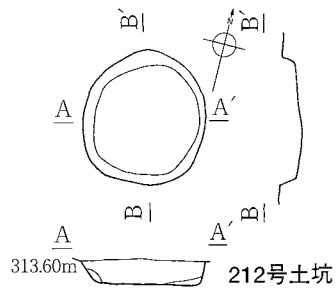
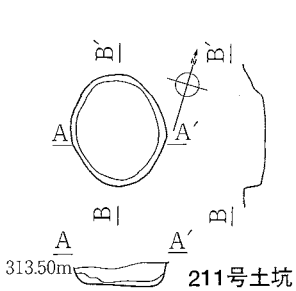
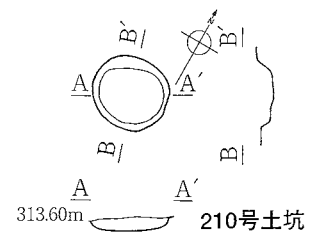
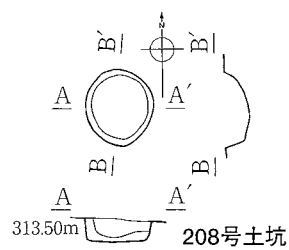
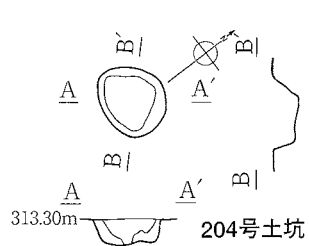
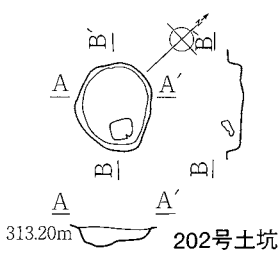
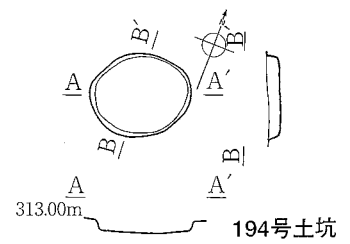
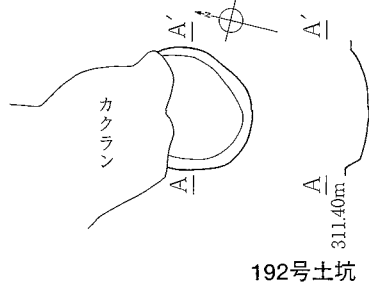
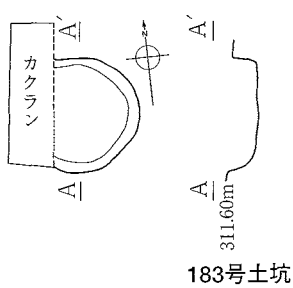
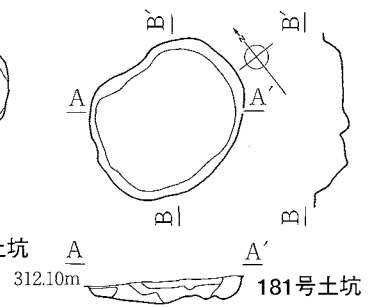
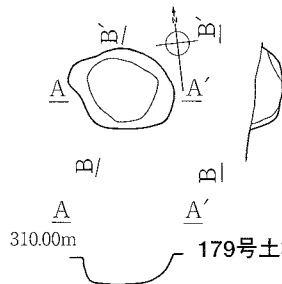
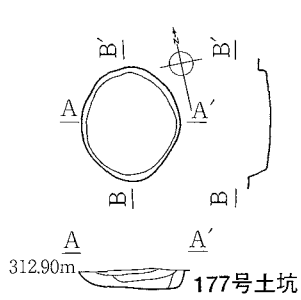
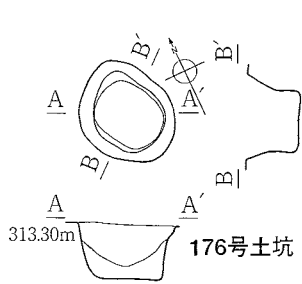
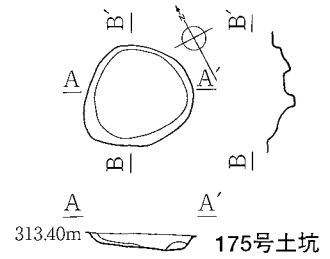
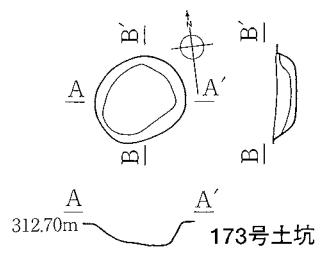
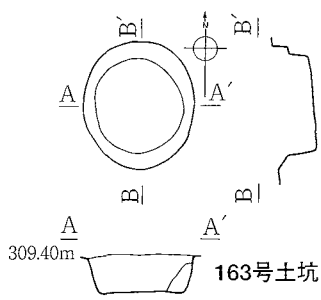
第97图 縄文時代土坑⑩



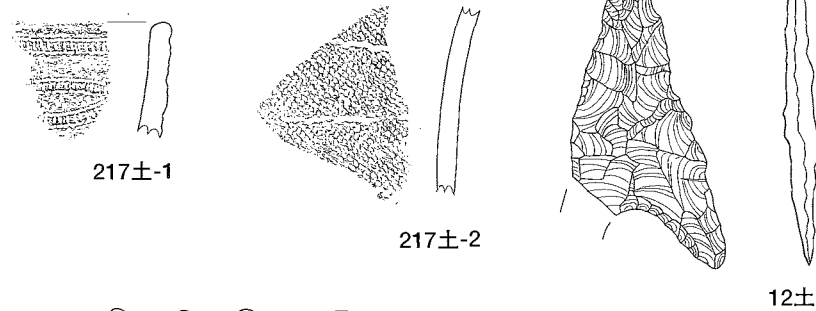
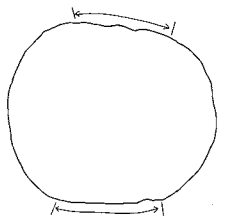
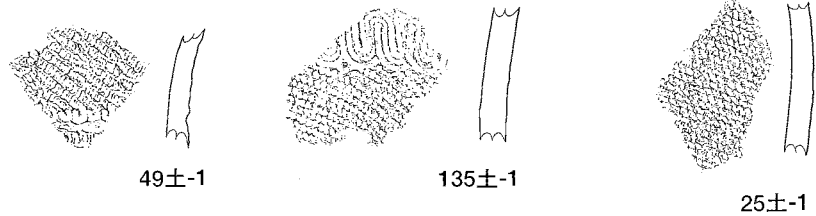
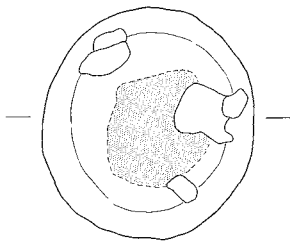
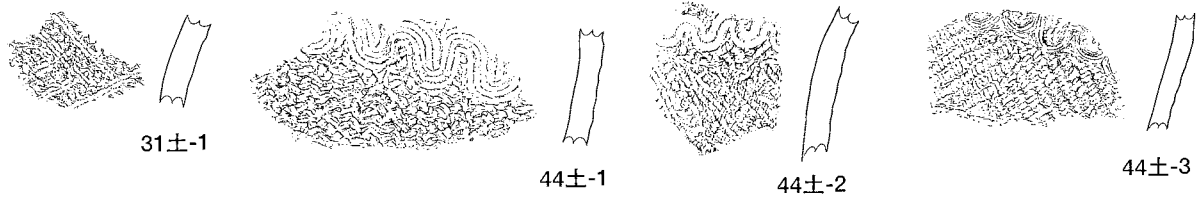
第98图 縄文時代土坑①



第99图 縄文時代土坑②

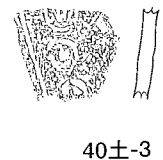
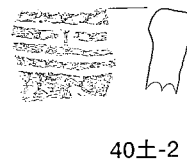
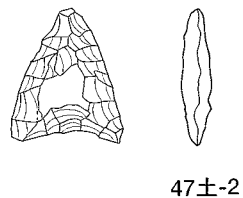
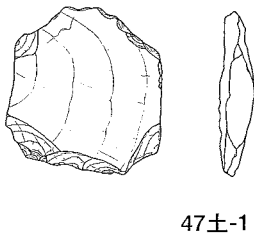
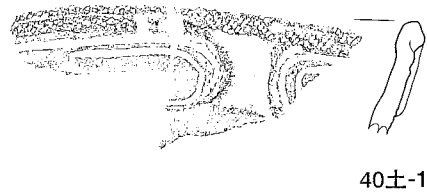
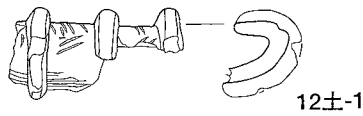


第100図 縄文時代土坑⑬



9.1×8.4×7.1	重さ：633.5 g
石材：安山岩	注記：2
備考：表裏面顕著に磨り減る。	

4.2×-×0.4	残重：2.0 g
石材：黒曜石	注記：-



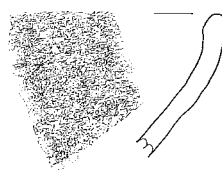
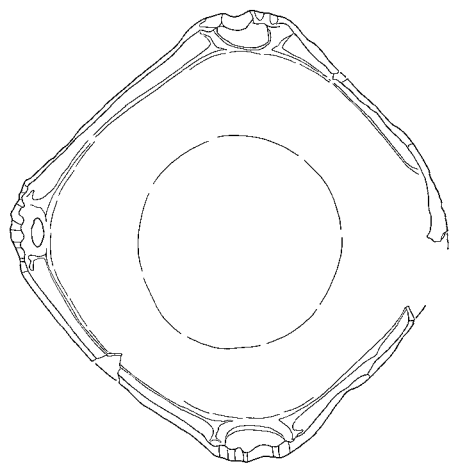
6.6×6.1×1.4	重さ：62.7 g
石材：頁岩	注記：1

1.8×1.5×0.4	重さ：0.9 g
石材：頁岩	注記：-

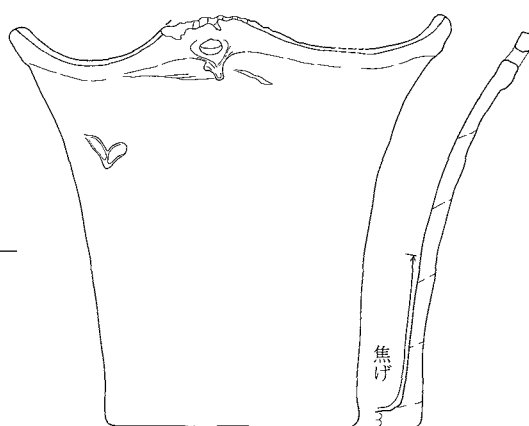
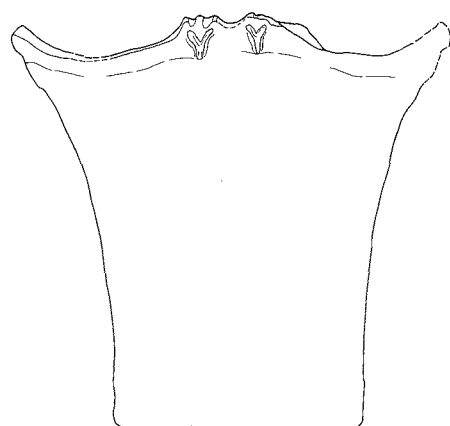
0 (1:1) 2 cm (12±-2・47±-2)

0 (1:3) 10cm

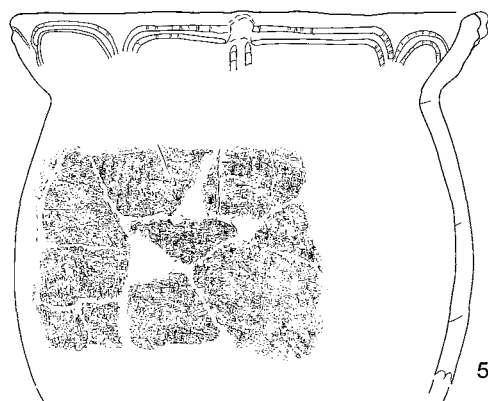
第101図 縄文時代土坑出土遺物①



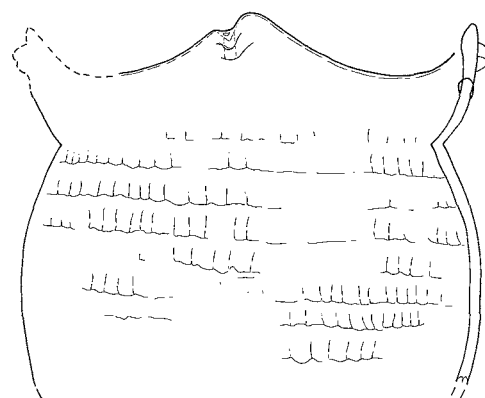
48±-2



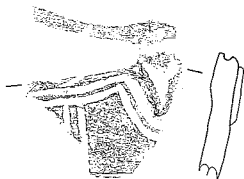
48±-1



50±-1



50±-2



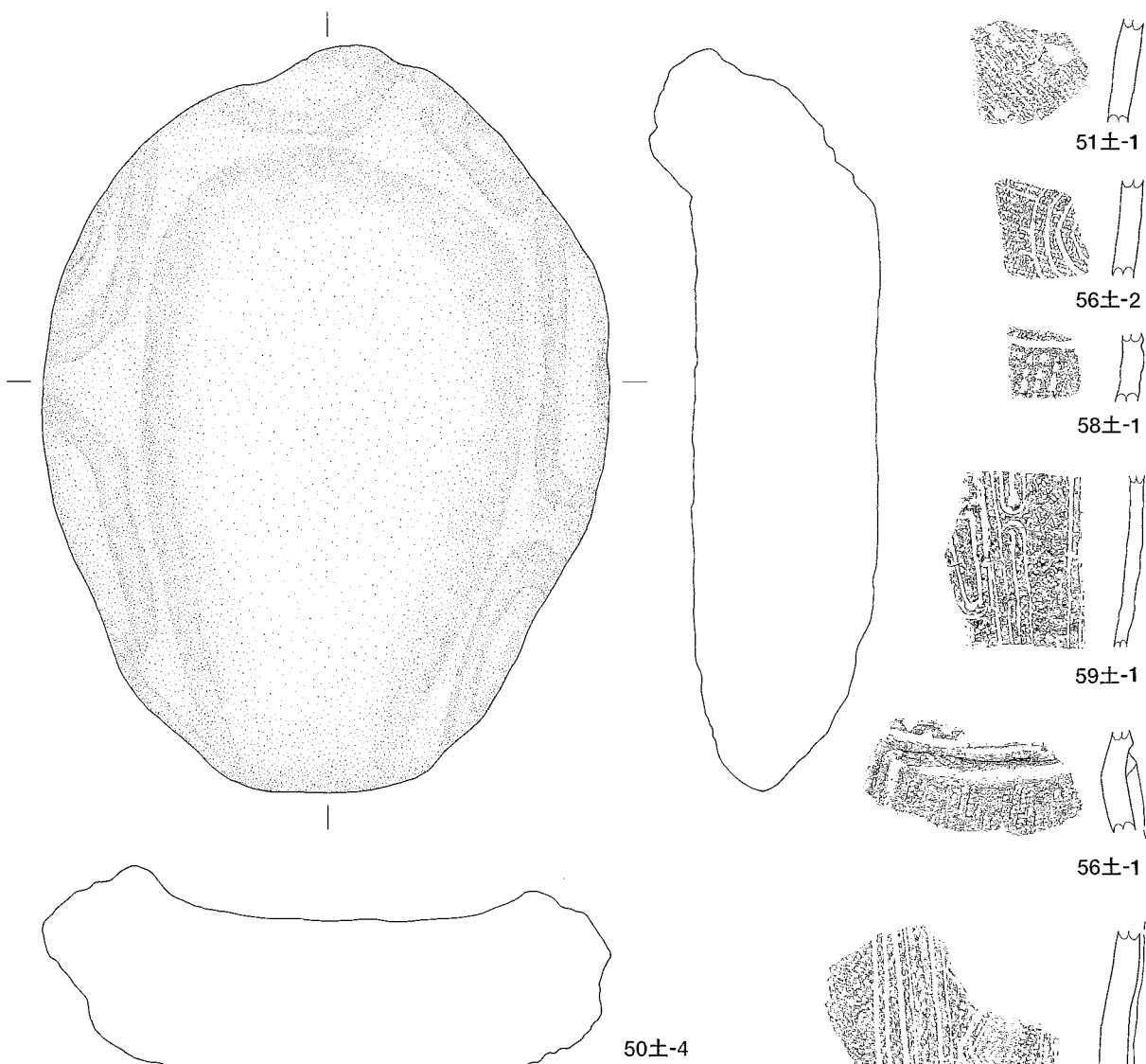
50±-3

0 (1:4) 10cm

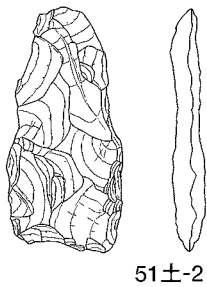
(48±-1 · 50±-1 · 2)

0 (1:3) 10cm

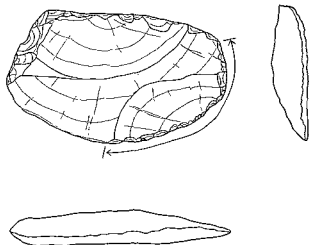
第102図 縄文時代土坑出土遺物②



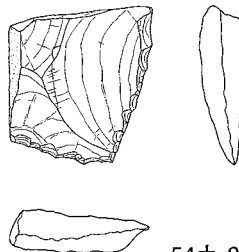
41.8×31.8×13.0 重さ：20kg
 石材：安山岩 注記：S-1
 備考：後部は白字状で、下側は切れる。周縁部に弧状の溝を掘る。



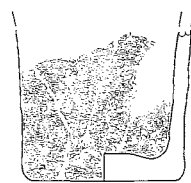
51±2



51±3



54±2



54±1

9.7×4.6×1.3 重さ：60.2g
 石材：緑泥片岩 注記：-

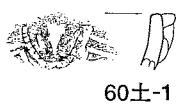
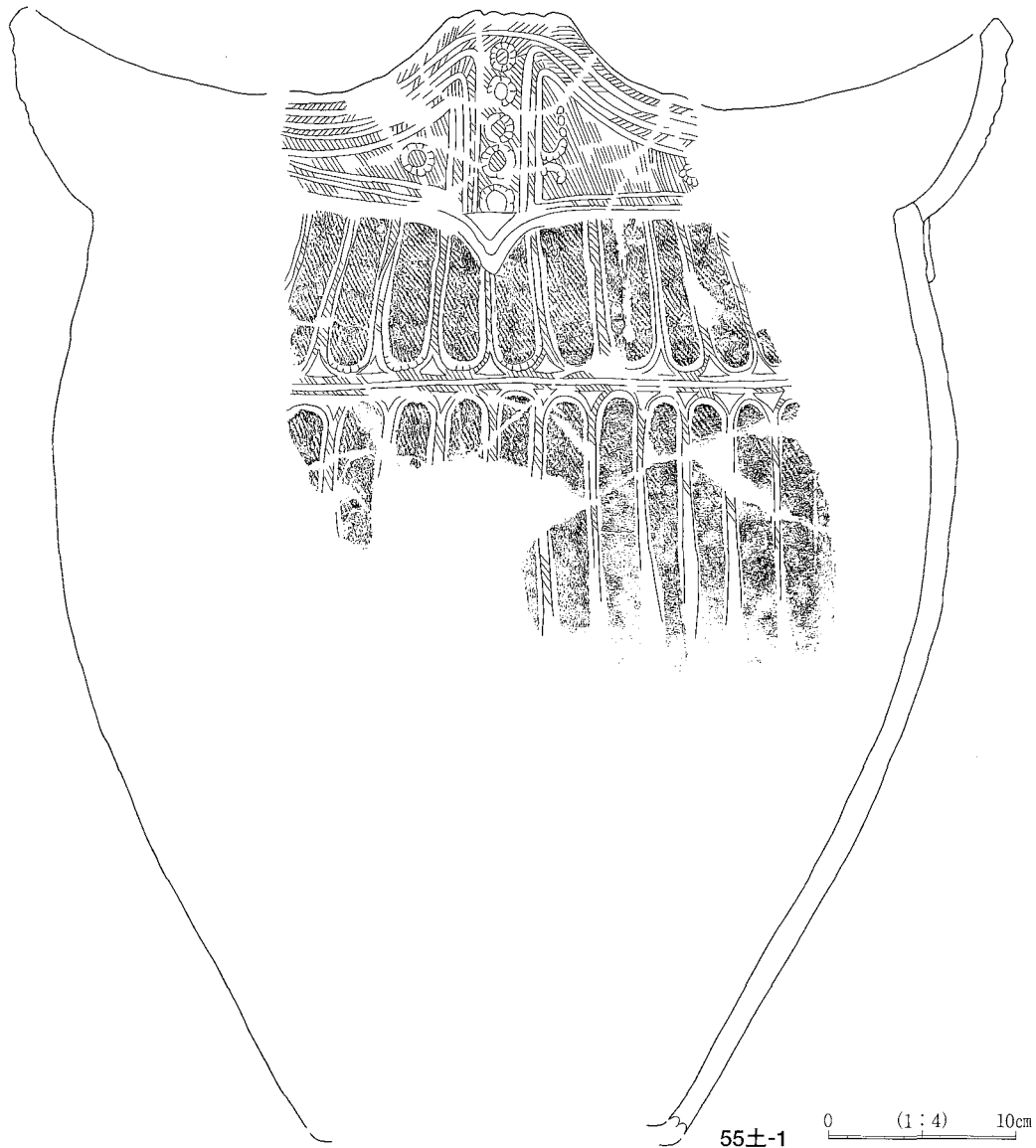
5.3×8.7×1.4 重さ：60.8g
 石材：頁岩 注記：-

6.1×5.7×1.8 重さ：62.4g
 石材：頁岩 注記：1

0 (1:4) 10cm
 (50±4・54±1)

0 (1:3) 10cm

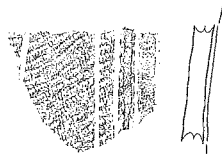
第103図 縄文時代土坑出土遺物③



60±-1



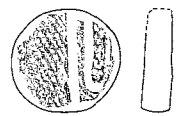
61±-1



64±-1



65±-1



65±-2



67±-1



68±-1



73±-1



75±-1



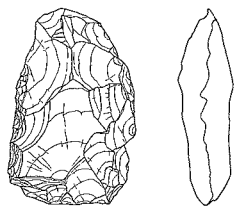
76±-1



76±-2

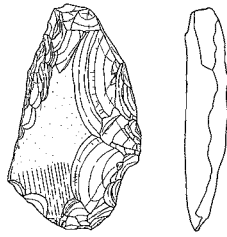
0 (1:3) 10cm

第104図 縄文時代土坑出土遺物④



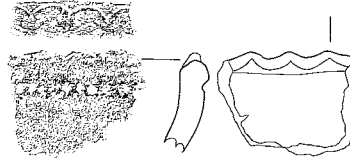
76±-3

7.8×5.0×2.1	重さ：72.5 g
石材：頁岩	注記：3



76±-4

8.9×5.1×1.8	重さ：80.4 g
石材：頁岩	注記：2



77±-1



77±-2



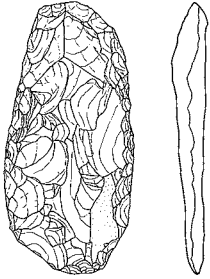
77±-3



77±-4

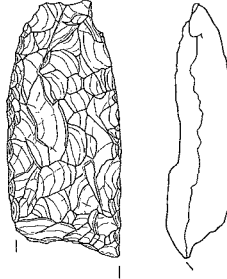


79±-1



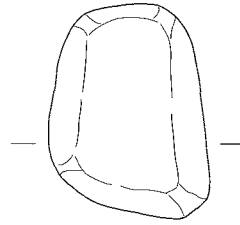
77±-5

10.7×5.0×1.3	重さ：65.0 g
石材：頁岩	注記：3

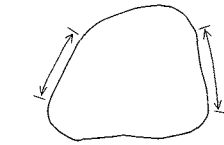


80±-2

-×4.4×2.5	残重：108.2 g
石材：黑色安山岩	注記：3



81±-2



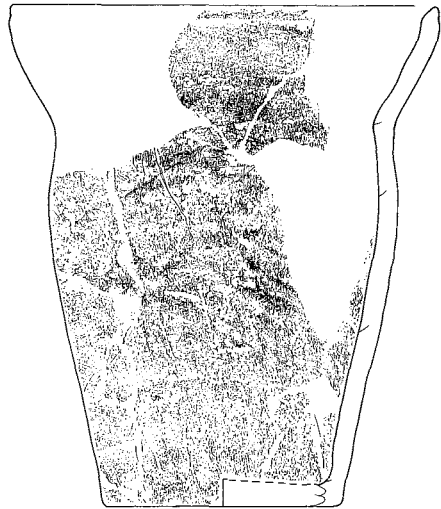
8.5×6.3×5.3	重さ：424.3 g
石材：安山岩	注記：2



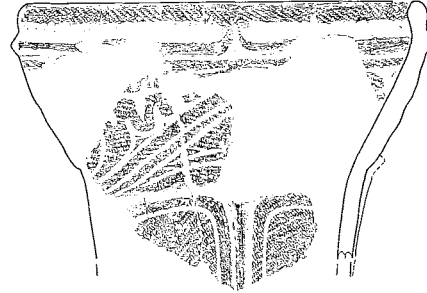
80±-1



83±-1



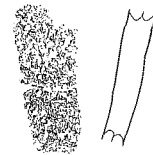
81±-1



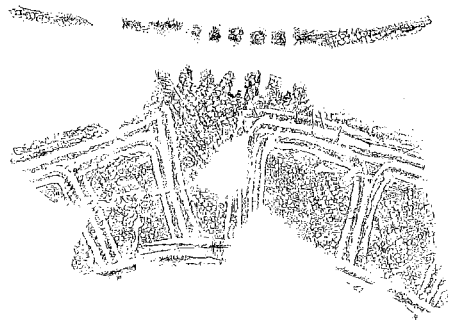
88±-1



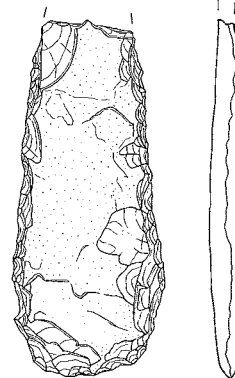
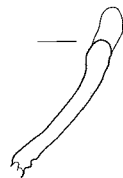
82±-1



85±-1

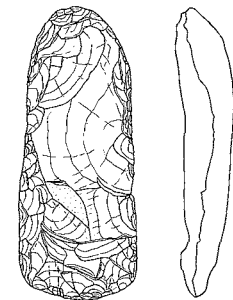


89±-1



88±-2

-×6.0×1.2	残重：132.0 g
石材：頁岩	注記：1



88±-3

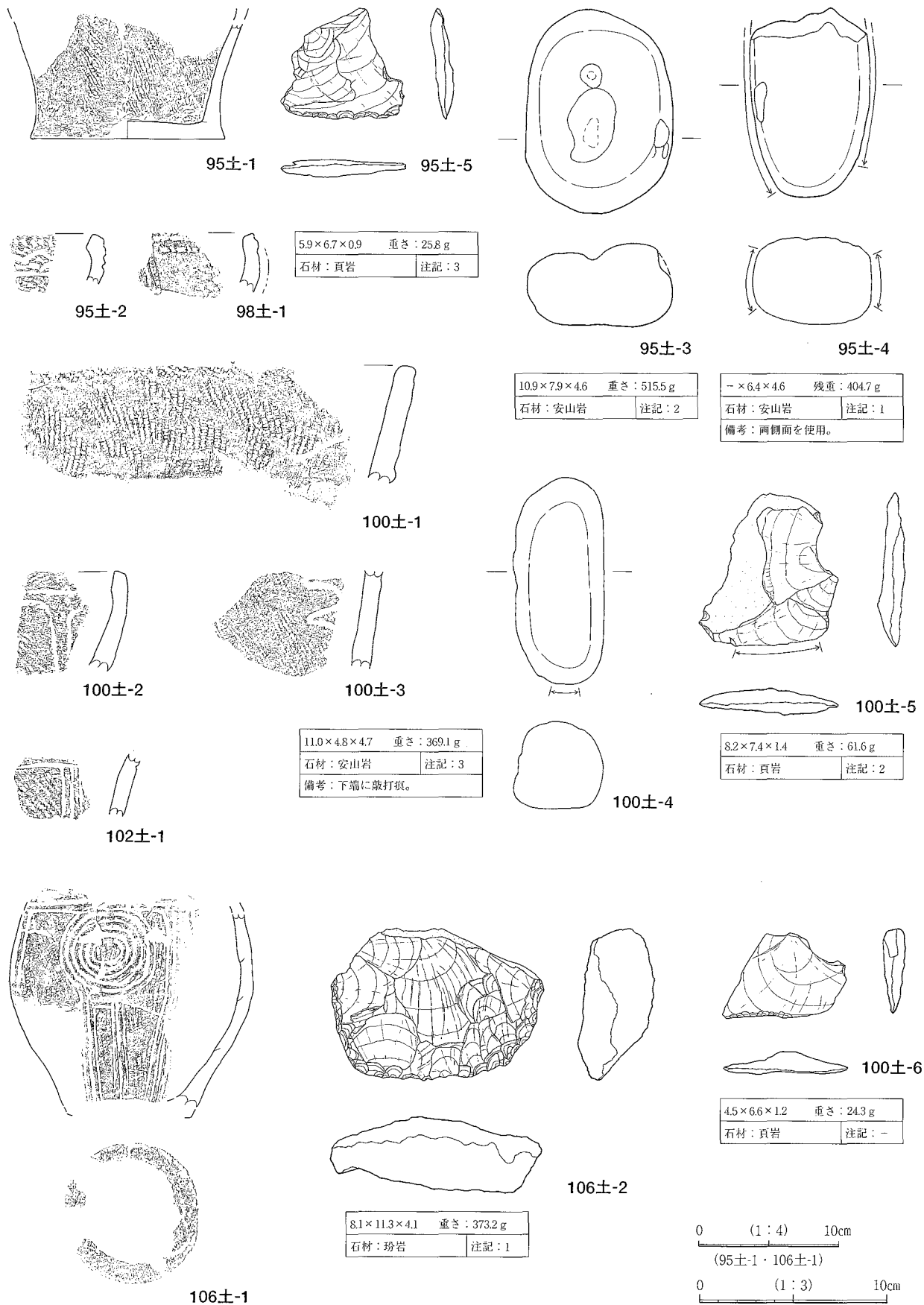
11.7×4.7×2.0	重さ：112.6 g
石材：頁岩	注記：2

0 (1:4) 10cm

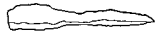
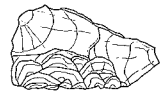
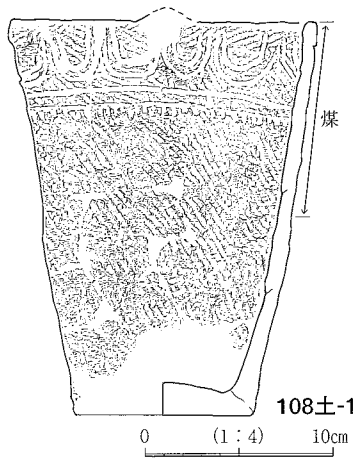
(81±-1・88±-1・89±-1)

0 (1:3) 10cm

第105図 縄文時代土坑出土遺物⑤



第106図 縄文時代土坑出土遺物⑥



108±-2

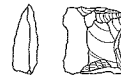
3.4×5.9×1.0	重さ：14.2 g
石材：珩岩	注記：-



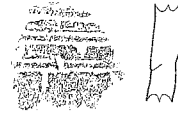
124±-1



126±-1

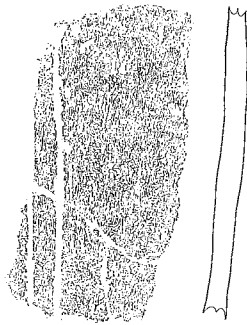


124±-2



131±-1

2.9×2.6×0.9	重さ：6.4 g
石材：チャート	注記：-



132±-1



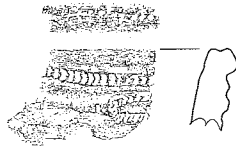
133±-1



152±-1



152±-2



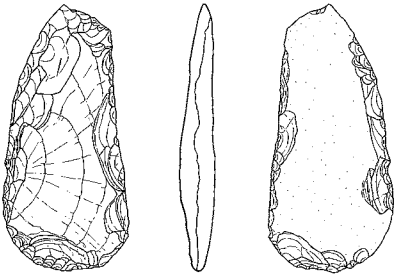
164±-1



164±-2

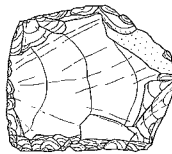


172±-1

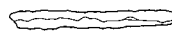


160±-1

10.6×5.0×1.5	重さ：75.9 g
石材：頁岩	注記：3



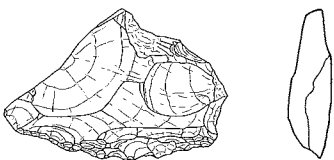
160±-2



5.9×6.9×0.8	重さ：35.4 g
石材：頁岩	注記：1



174±-1



172±-2

6.0×8.9×1.7	重さ：77.8 g
石材：黒色安山岩	注記：-



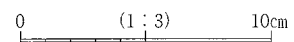
172±-3

4.4×8.1×1.6	重さ：35.2 g
石材：頁岩	注記：-

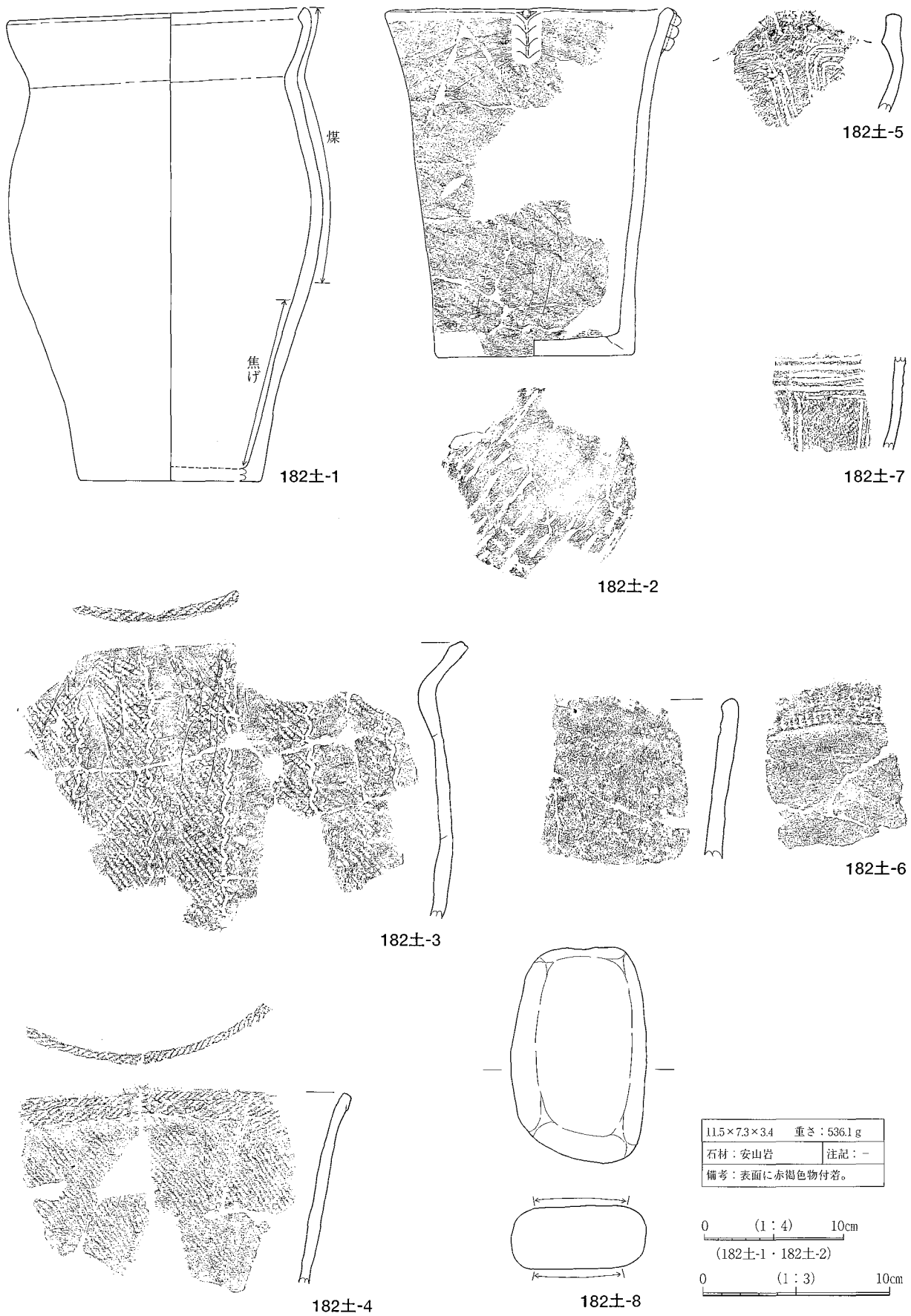


172±-4

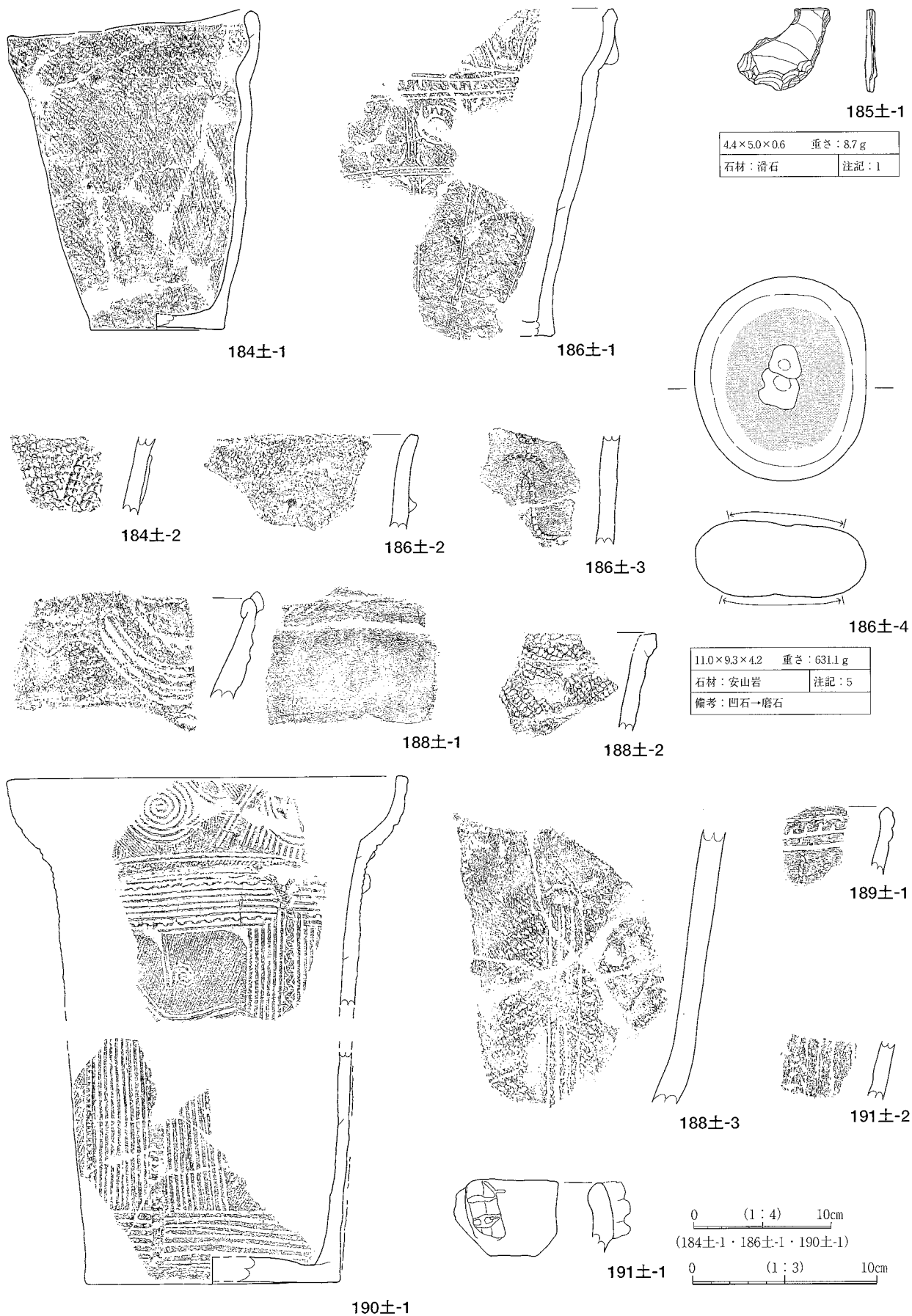
3.5×-×0.7	重さ：10.2 g
石材：頁岩	注記：-



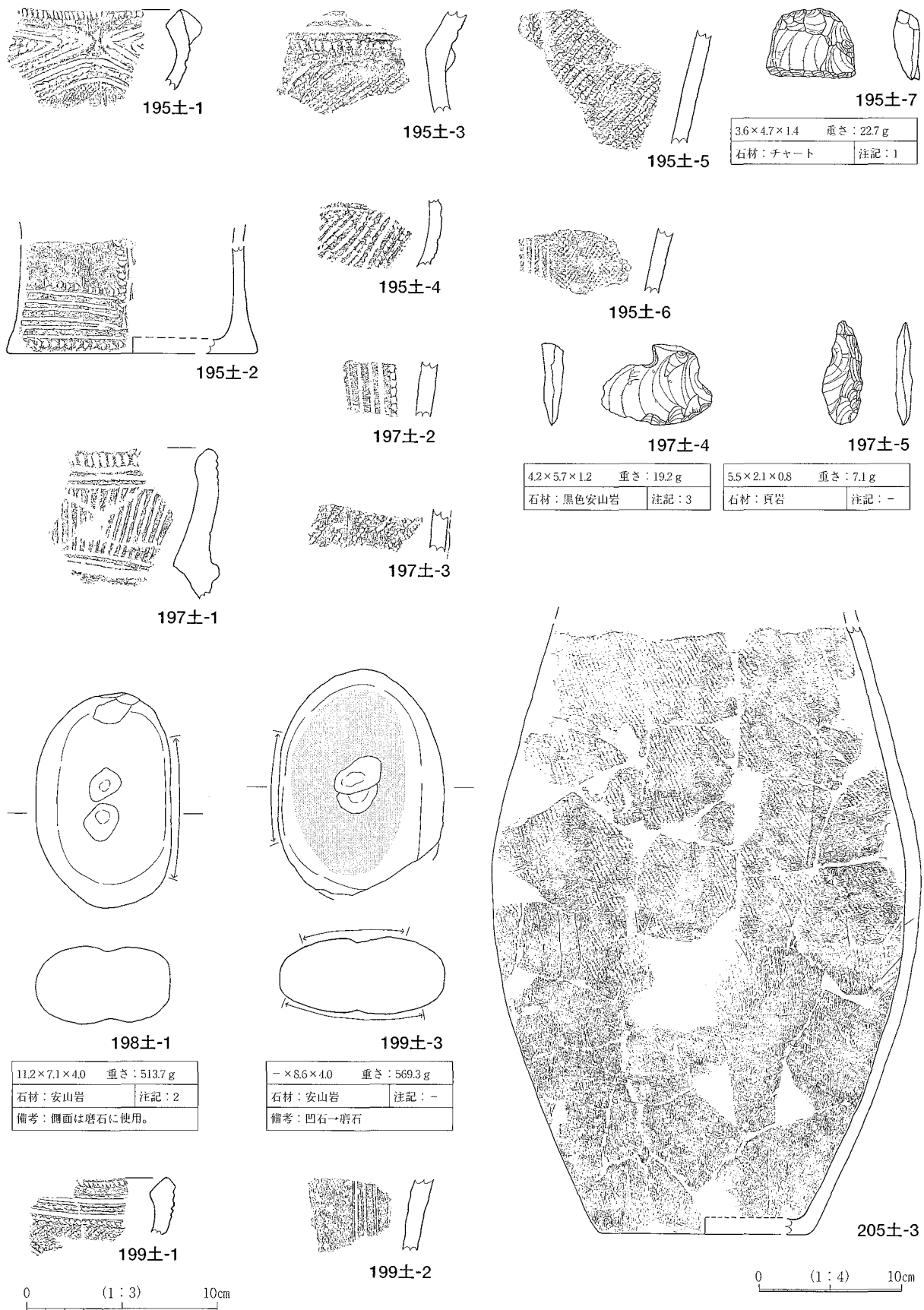
第107図 縄文時代土坑出土遺物⑦



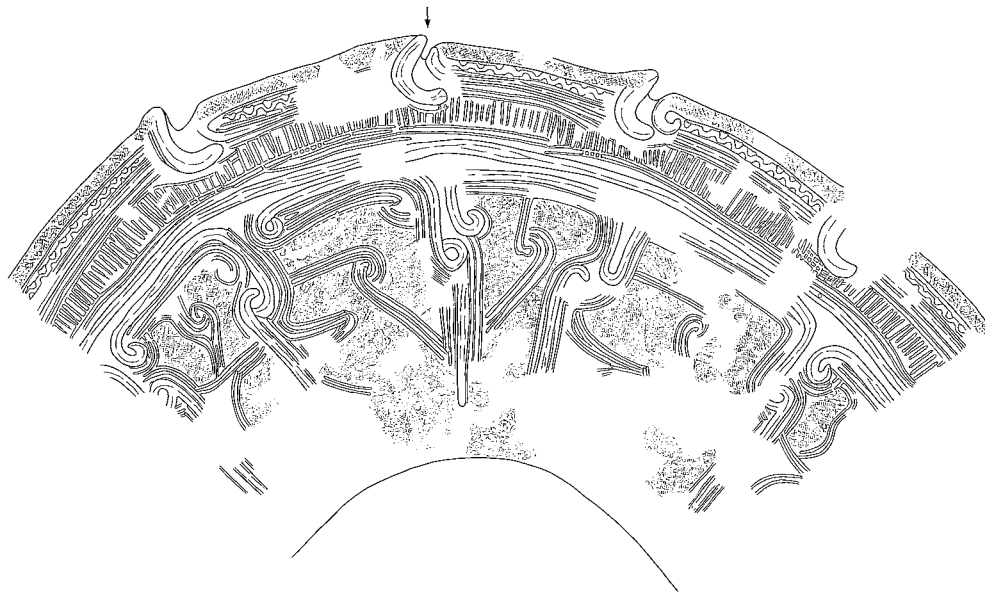
第108図 縄文時代土坑出土遺物⑧



第109図 縄文時代土坑出土遺物⑨

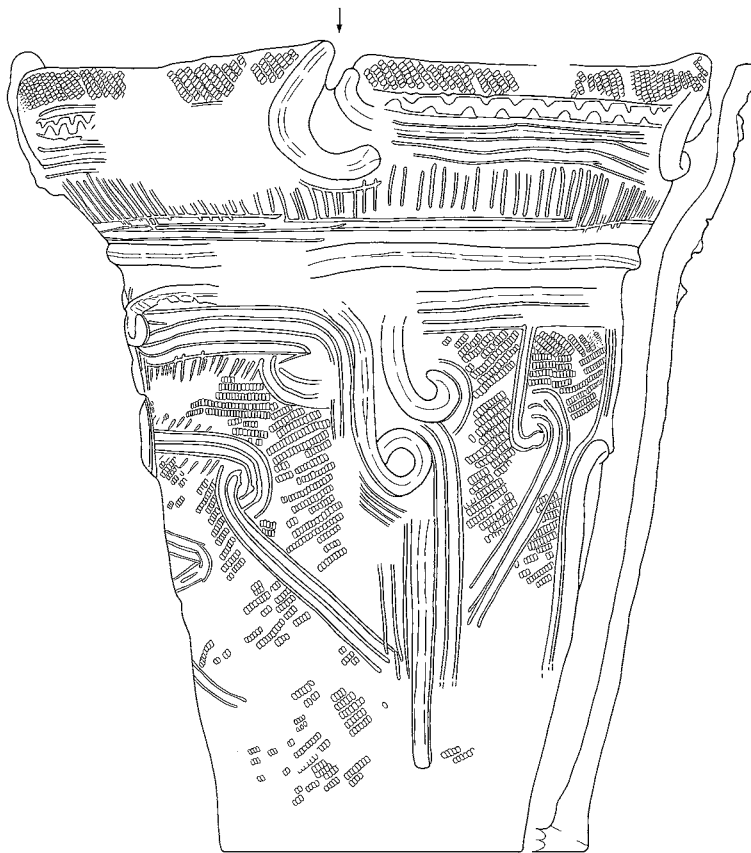


第110図 縄文時代土坑出土遺物⑩



207土-1

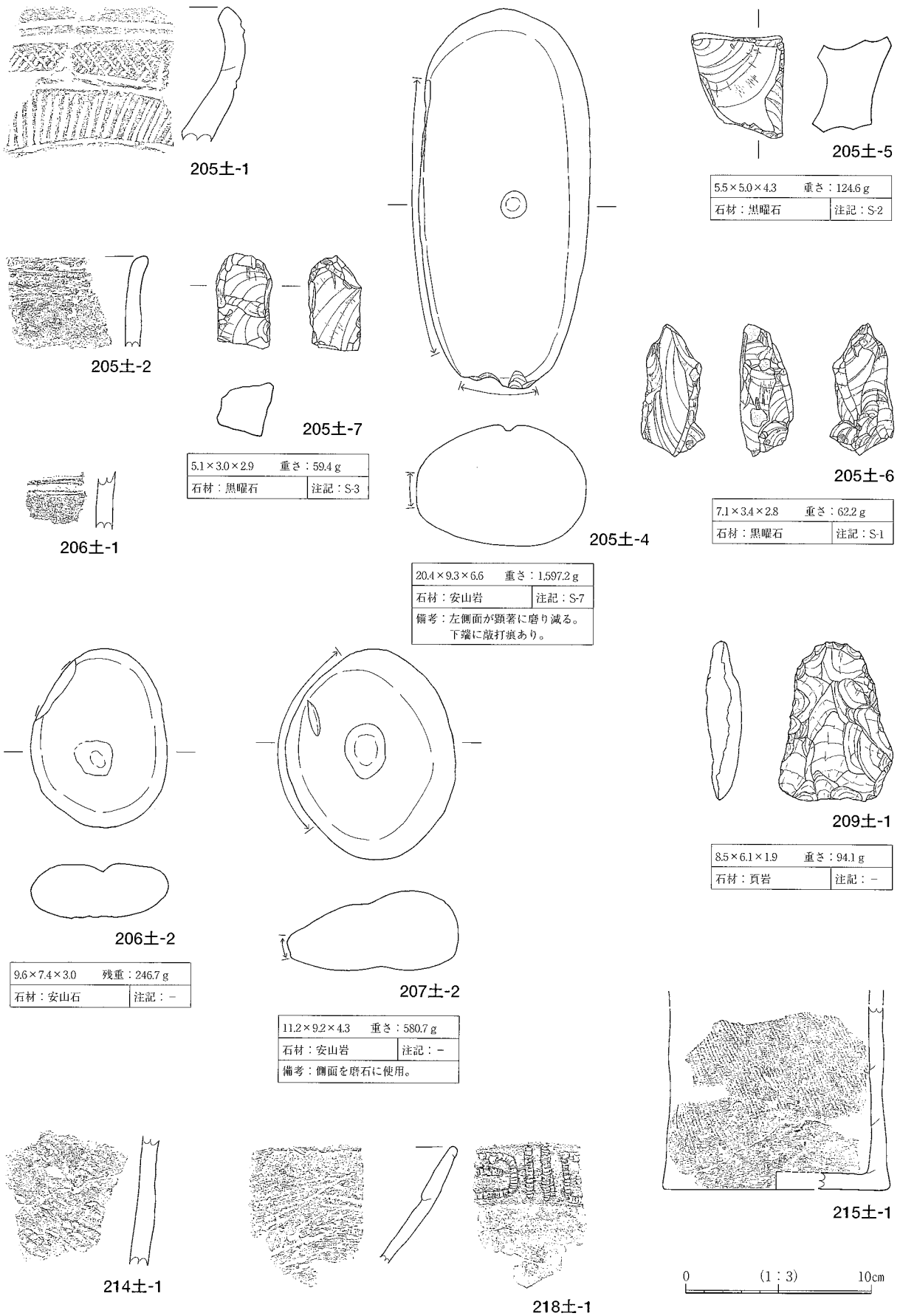
0 (1:8) 20cm



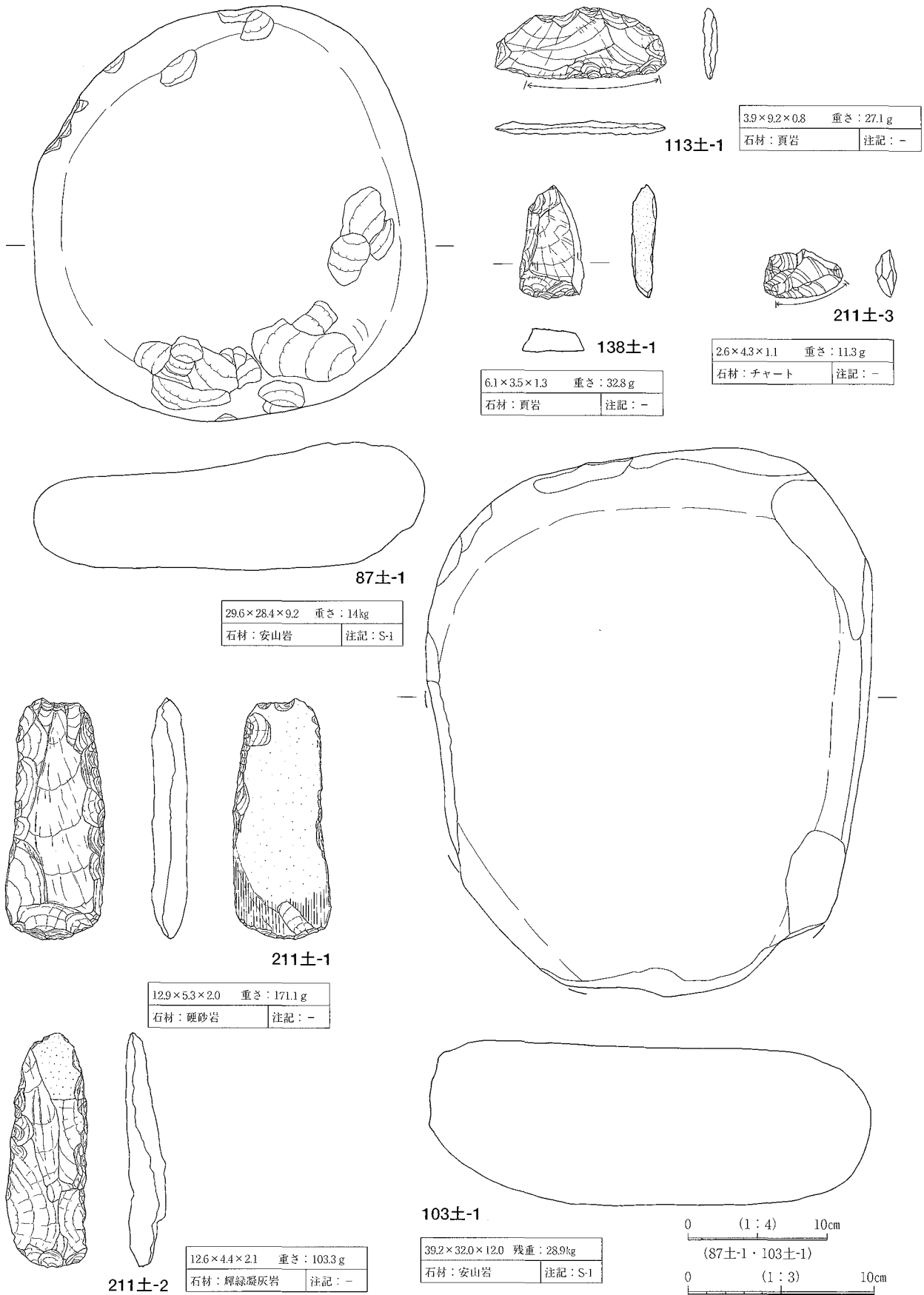
207土-1

0 (1:4) 10cm

第111図 縄文時代土坑出土遺物①



第112図 縄文時代土坑出土遺物⑫



第113図 縄文時代土坑出土遺物⑬

(4) 遺構外出土遺物

土器 (第114～116図、P L65～67、観察表P156)

遺物包含層及び遺構外からは土器片4,216点が出土している。前期関山式土器から中期後半にかけてのものがみられ、中でも中期初頭(前半)の土器が圧倒的に多い。100点以上の土器が出土しているグリッドは、G-7、G-8、H-7、H-8、I-8、I-11、I-12、J-8、M-19、N-12、N-16、N-17グリッドで、遺構の分布状態とほぼ一致している。掲載遺物30点。

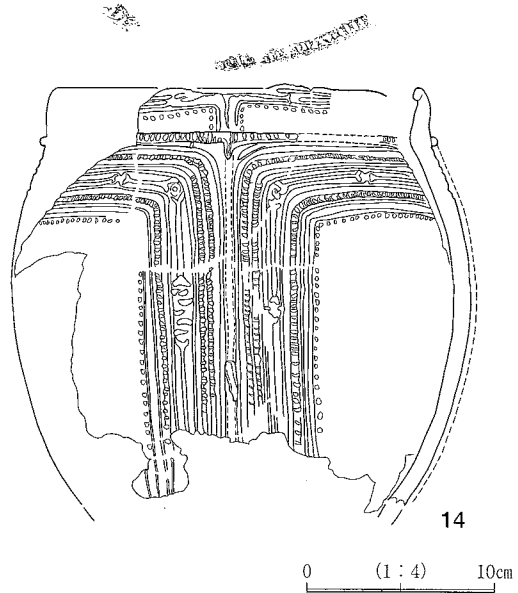
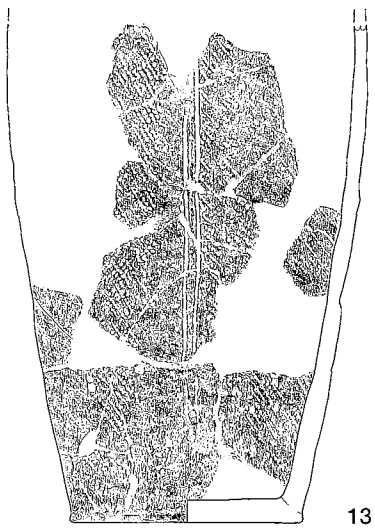
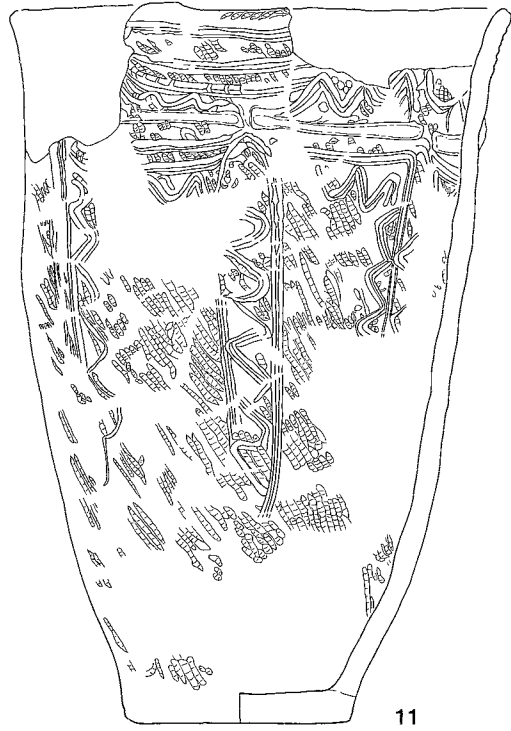
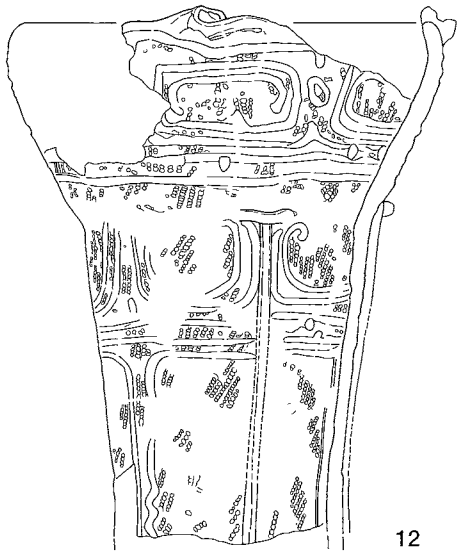
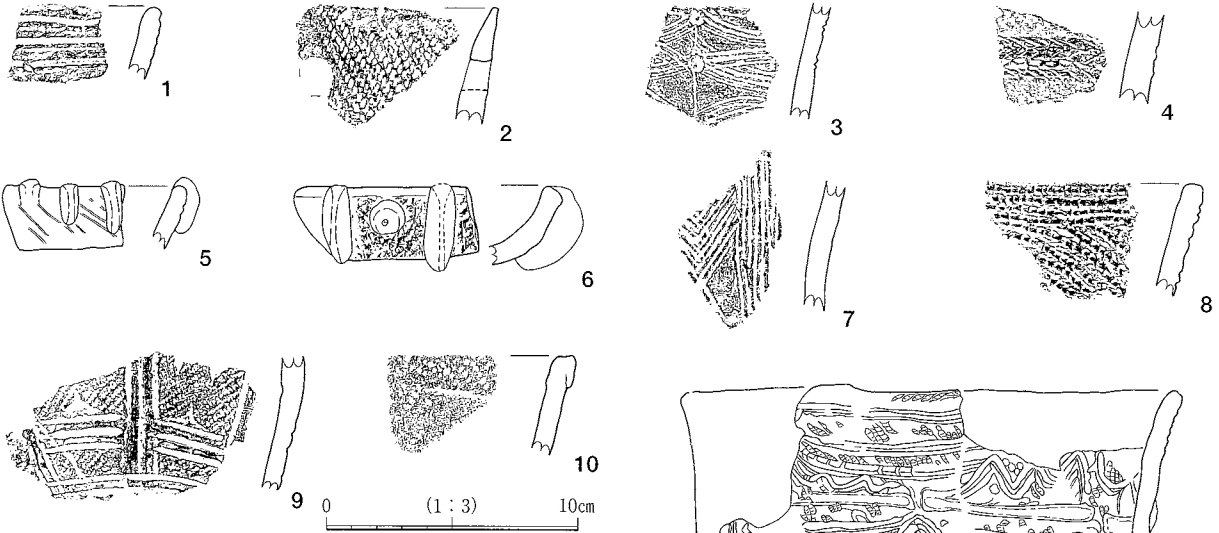
1～8は前期の土器で、1は黒浜式、2・3は諸磯a式、4～8は諸磯c式土器である。9～29は中期初頭(前半)の土器で、先述したように遺構外出土土器の大半が当該期と想定されるものである。30は中期後半の加曾利E式土器と思われるが、同時期の遺物は、きわめて客体的に出土している程度であった。14・16はN-12グリッドから出土したもので、22号住居跡内に五領ヶ台Ⅱ式期の遺構が存在していた可能性をうかがわせる。

石器 (第116～118図、P L67・68)

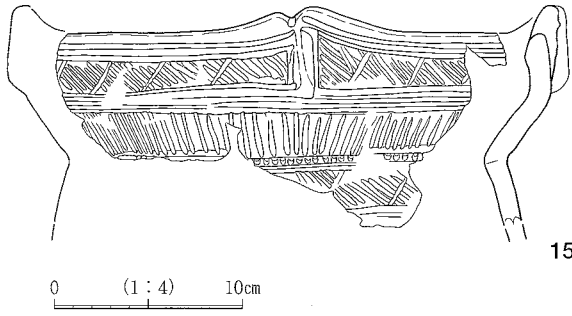
785点が出土しており、石鏃13、石錐4、スクレイパー87、石匙3、打製石斧29、磨石・凹石43、石皿2、敲石4、砥石1、磨製石斧4、石核6、剥片その他589点を確認している。掲載遺物34点。

表12 遺構外出土遺物点数表

グリッド	土器片	石器類	グリッド	土器片	石器類	グリッド	土器片	石器類	グリッド	土器片	石器類	グリッド	土器片	石器類
C-6	3	6	H-10	4	1	K-13	-	1	N-16	159	12	Q-20	-	1
C-7	-	1	H-11	28	16	K-16	3	1	N-17	326	79	Q-21	72	4
D-3	6	-	I-3	5	1	K-17	21	15	N-18	14	16	Q-23	77	6
D-4	-	2	I-4	3	-	K-18	35	-	N-19	1	-	Q-24	-	1
D-6	3	1	I-5	1	3	L-8	2	-	N-20	-	3	Q-25	3	-
D-7	2	-	I-6	15	-	L-9	4	1	N-25	1	-	R-16	1	-
E-5	5	2	I-7	72	14	L-10	2	1	N-27	4	-	R-17	11	2
E-6	7	4	I-8	122	9	L-11	1	-	O-14	6	2	R-18	1	2
E-7	2	1	I-10	4	-	L-12	2	-	O-15	46	2	R-20	1	-
F-3	-	1	I-11	300	28	L-13	-	6	O-16	10	1	R-21	-	3
F-6	-	1	I-12	128	-	L-16	17	13	O-18	1	-	R-22	5	3
F-7	6	-	J-5	1	-	L-17	35	21	O-20	3	-	S-18	3	1
F-10	13	2	J-6	1	-	L-18	54	6	O-25	2	-	S-20	1	-
G-5	2	2	J-7	2	-	M-10	3	1	O-27	1	-	S-21	4	-
G-6	1	1	J-8	104	9	M-13	1	1	P-15	1	-	S-22	1	1
G-7	116	25	J-10	26	1	M-15	2	-	P-18	1	-	S-29	12	-
G-8	207	5	J-11	2	1	M-16	40	24	P-20	-	1	T-20	6	-
G-9	15	1	J-12	4	1	M-17	39	13	P-21	3	-	T-21	2	-
H-4	-	11	J-13	17	2	M-18	40	1	P-22	2	-	T-22	5	-
H-5	-	1	J-17	2	-	M-19	102	8	P-24	2	-	U-20	4	-
H-6	8	-	K-7	5	-	M-20	7	-	P-27	-	1	表採、他	976	310
H-7	175	10	K-8	6	-	N-11	-	1	Q-17	5	-			
H-8	349	47	K-9	4	-	N-12	228	-	Q-18	3	2			
H-9	10	6	K-10	2	-	N-15	-	1	Q-19	14	1			

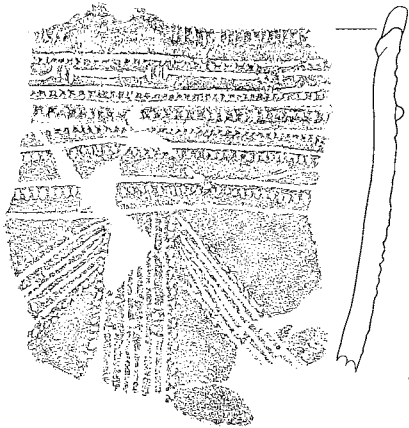


第114図 縄文時代遺構外出土遺物①

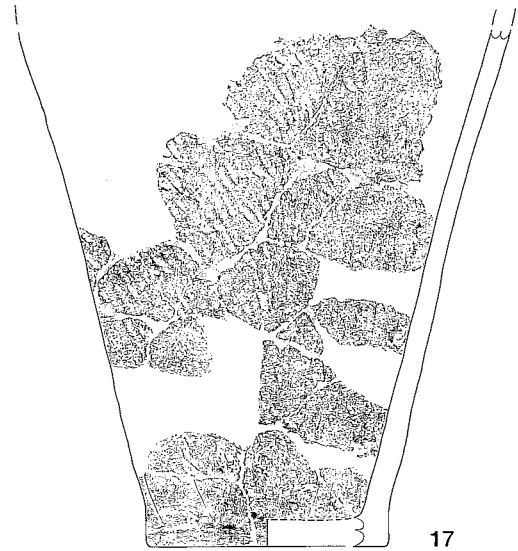


15

0 (1:4) 10cm



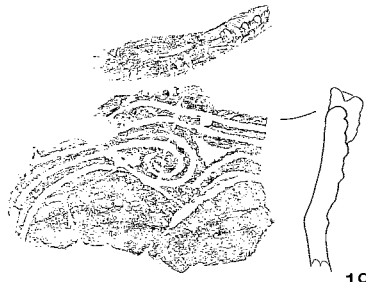
16



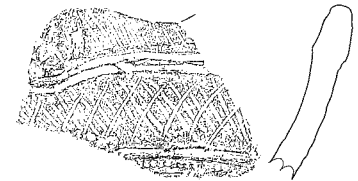
17



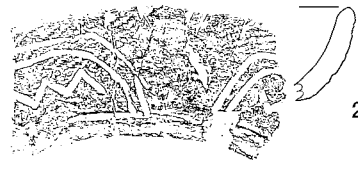
18



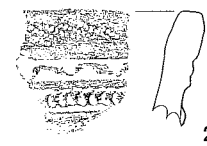
19



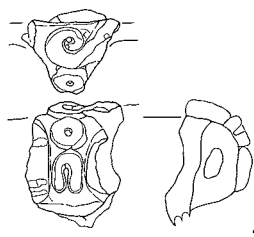
20



21



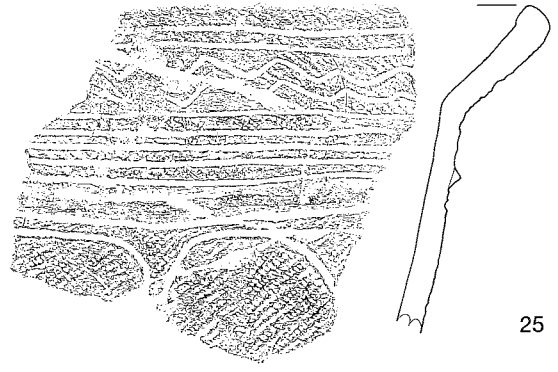
22



23



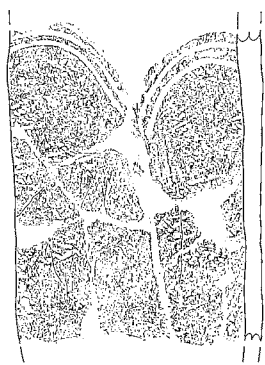
24



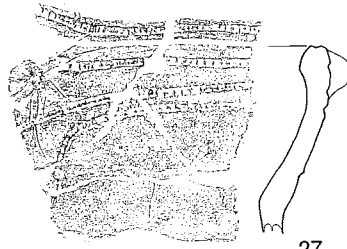
25

0 (1:3) 10cm

第115図 縄文時代遺構外出土遺物②



26



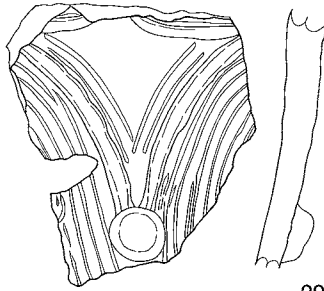
27



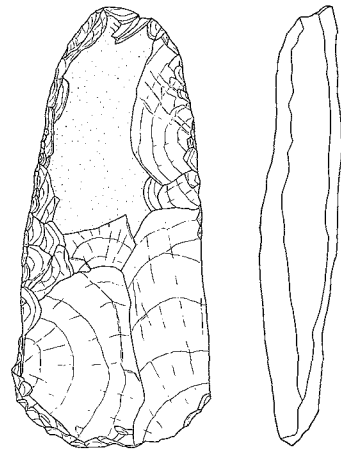
28



30

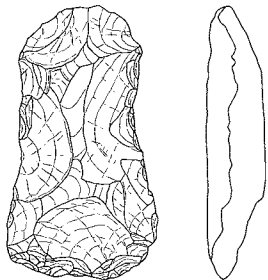


29



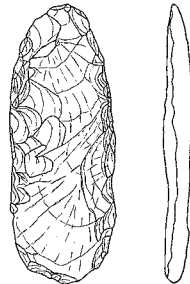
31

17.4×7.9×3.1	重さ：433.6 g
石材：頁岩	注記：-



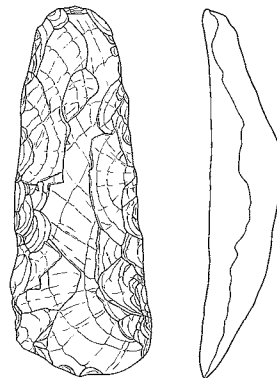
32

10.9×5.9×2.3	重さ：161.1 g
石材：頁岩	注記：-



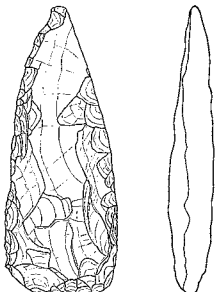
33

10.9×4.2×1.1	重さ：62.5 g
石材：頁岩	注記：L-17



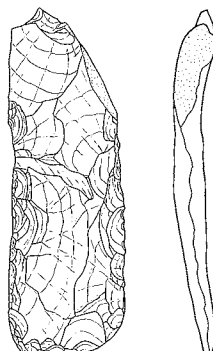
36

14.5×5.6×3.3	重さ：231.4 g
石材：頁岩	注記：-



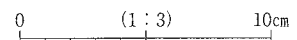
34

11.4×4.5×1.8	重さ：80.5 g
石材：凝灰岩	注記：M-16

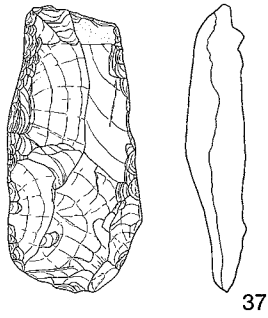


35

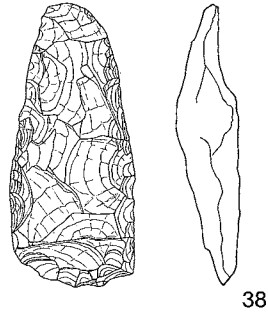
13.6×4.6×1.7	重さ：102.3 g
石材：頁岩	注記：F-11



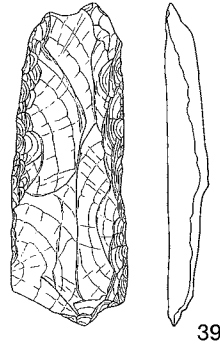
第116図 縄文時代遺構外出土遺物③



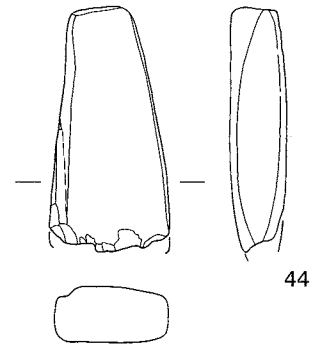
11.3×5.3×2.5	重さ：151.7 g
石材：頁岩	注記：H-11



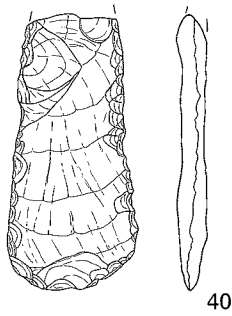
11.2×5.0×2.6	重さ：125.4 g
石材：頁岩	注記：M-16



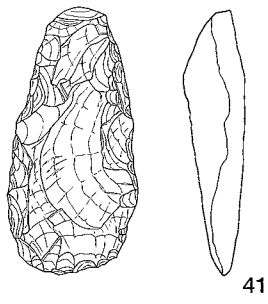
12.7×4.6×1.6	重さ：108.3 g
石材：頁岩	注記：-



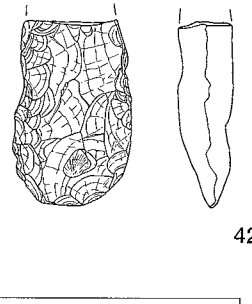
9.7×4.8×2.2	残重：185.4 g
石材：蛇紋岩	注記：I-7
備考：側面に捺切溝が残る。刃部欠損。	



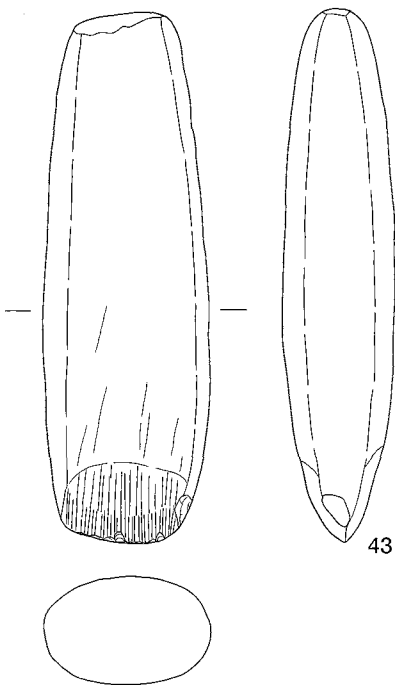
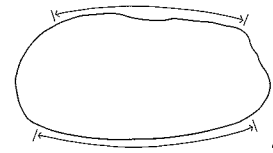
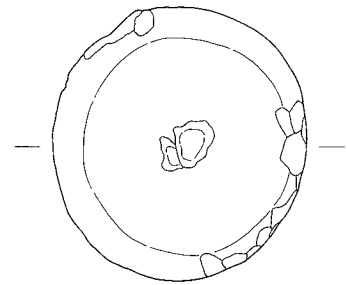
- × 5.2 × 1.1	残重：75.8 g
石材：頁岩	注記：-



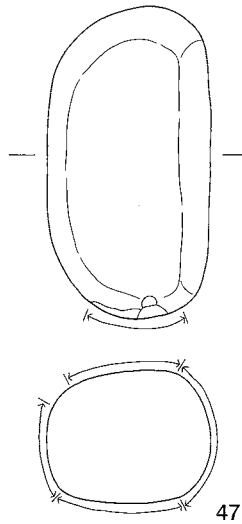
10.5×5.1×2.5	重さ：113.7 g
石材：硬砂岩	注記：I-11



- × 4.7 × 2.1	残重：85.9 g
石材：頁岩	注記：-
備考：表面に貝の化石。	

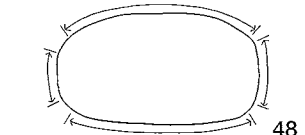
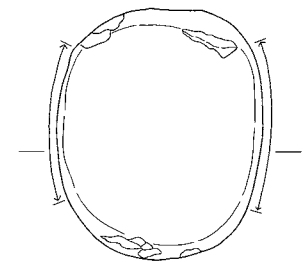


21.1×6.6×4.5	重さ：1,116.0 g
石材：輝緑岩	注記：-
備考：側面を敲打。	



12.4×6.5×5.3	重さ：761.0 g
石材：安山岩	注記：I-8
備考：4面を磨石に使用。下端に敲打痕あり。被熱痕あり。	

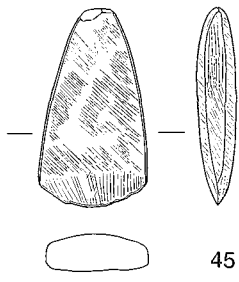
10.8×10.1×5.0	重さ：840.3 g
石材：安山岩	注記：M-16
備考：凹石→磨石。側面に敲打痕あり。	



9.9×8.2×4.4	重さ：632.5 g
石材：安山岩	注記：H-11
備考：4面を磨石に使用。両側面が頭部に磨り減る。	

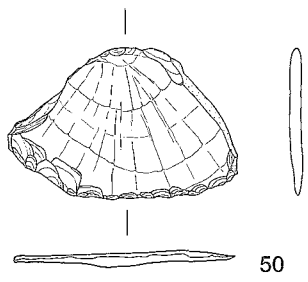
0 (1:3) 10cm

第117図 縄文時代遺構外出土遺物④



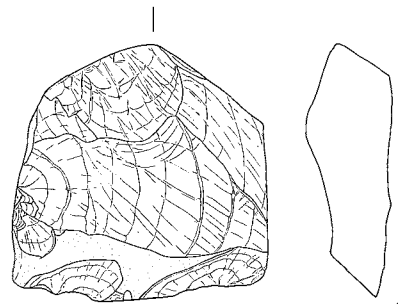
45

7.8×4.3×1.5	重さ：79.5 g
石材：輝緑岩	注記：K-17
備考：擦痕多数あり。刃こぼれあり。	



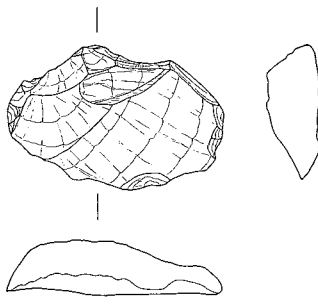
50

6.0×9.2×0.5	重さ：36.3 g
石材：頁岩	注記：L-17



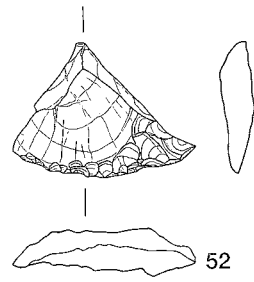
49

10.2×10.2×3.5	重さ：502.6 g
石材：頁岩	注記：L-16



51

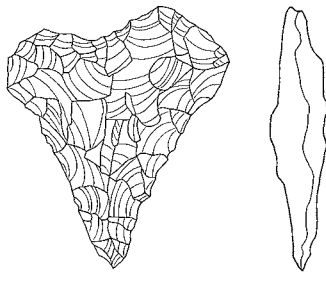
5.7×8.6×2.2	重さ：90.5 g
石材：流紋岩	注記：H-8



52

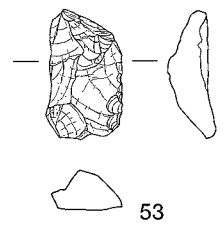
5.3×7.2×1.9	重さ：46.0 g
石材：頁岩	注記：N-17

0 (1:3) 10cm



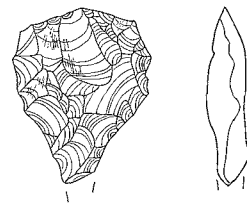
54

3.5×2.9×0.7	重さ：4.7 g
石材：チャート	注記：M-19



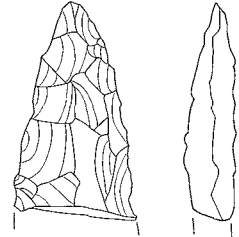
53

5.1×3.0×2.0	重さ：23.2 g
石材：頁岩	注記：H-4



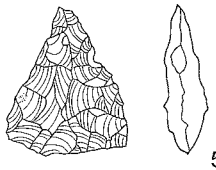
55

-×1.8×0.5	残重：1.8 g
石材：黒曜岩	注記：H-7



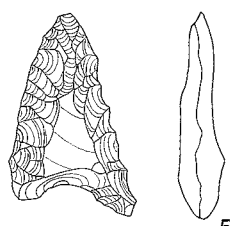
56

-×1.7×0.7	残重：3.2 g
石材：頁岩	注記：L-16



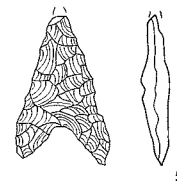
57

1.9×1.6×0.6	重さ：1.1 g
石材：黒曜岩	注記：N-17



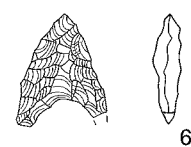
58

2.6×1.6×0.6	重さ：1.7 g
石材：黒曜岩	注記：-



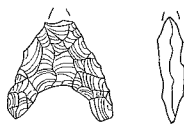
59

-×1.2×0.3	残重：0.6 g
石材：黒曜岩	注記：M-17



60

1.5×-×0.3	残重：0.5 g
石材：黒曜岩	注記：I-3



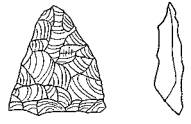
61

-×1.4×0.3	残重：0.3 g
石材：黒曜岩	注記：L-18



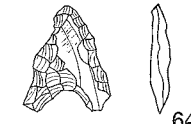
62

-×-×0.4	残重：0.4 g
石材：チャート	注記：-



63

1.4×1.3×0.4	重さ：0.5 g
石材：黒曜岩	注記：-



64

1.4×1.1×0.3	重さ：0.3 g
石材：黒曜岩	注記：-

0 (1:1) 2cm

第118図 縄文時代遺構外出土遺物⑤

第3節 弥生時代

(1) 土坑

弥生時代の土坑は13基を検出している。いずれの土坑からも、群馬県内における弥生時代黎明期の土器が出土しており、本報告書では前期後半（～中期前半）に位置付けておく。縄文時代と判断した土坑の中にも、弥生時代のもが含まれている可能性はあるが、出土遺物の量的な状態から判断して、本遺構数を大幅に上回るとは考えにくい。各遺構は基本土層（第3図）のV層・暗褐色土上面において確認できたが、埋没土はロームブロックや白色軽石粒を含む黒褐色土もしくは暗褐色土であり、地山との区別があまり明瞭ではなかった。また、検出されたのは土坑のみで、当該期の住居跡は本遺跡のみならず周辺遺跡においても現在までのところ確認されていない。

土坑の分布はI-7～H-8グリッドに10基が集中し、同地点から南東へ150mほど離れたR-18、Q-21、Q-22グリッドにそれぞれ1基ずつ位置する。平面形態は円形（A類）もしくは楕円形（B類）で、断面形態は逆台形状（II類）を呈するものが最も多く、箱状（I類）・皿状（III類）・不整形（V類）もわずかにみられる。規模は長軸が0.72～1.48mの範囲にある。確認面からの深さは15～47cmと浅いものが多い。

土器には条痕文や沈線文様を施すものがみられる。166号土坑出土遺物を除き、ほとんどが小破片である。胎土には半数近くの土器に結晶片岩の含有が認められ、171号土坑2には白色針状粒（海綿骨針）も観察された。石器類は、縄文時代の遺物が紛れ込んだものと考えられる。

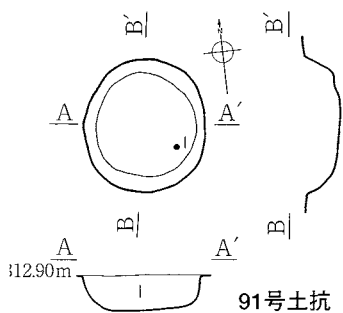
166号土坑からは条痕後に変形工字文を施す甕1点と、条痕文系の壺1点が出土している。同土坑からは人頭大の礫2点が出土しており、副葬品・骨片等は検出されなかったが、再埋葬の可能性を想定しておきたい。

171号土坑からも礫2点が出土している。その他の土坑の性格については判断し難い。

なお、本土坑群近接地点から石剣が出土しているが、同遺物については次項で述べる。

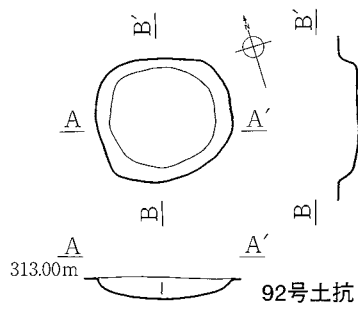
表13 弥生時代土坑

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	遺構		遺物		
						挿図	PL	挿図	PL	観察表
91号土坑	I 8	A - II	1.05×0.97	27cm	土器片2・剥片2	119	69	120	72	106
92号土坑	H 8	B - III	1.13×0.98	15cm	土器片2	119	69	120	72	106
93号土坑	H 8	B - II	1.16×0.98	17cm	土器片1・凹石1	119	69	120	72	106
134号土坑	R18	B - III	1.15×0.92	24cm	土器片3	119	69	120	72	106
141号土坑	Q21	B - V	1.48×1.14	47cm	土器片1	119	70	120	72	106
143号土坑	Q22	B - III	1.06×0.93	19cm	土器片4	119	70	120	72	106
165号土坑	I 8	A - II	0.87×0.82	37cm	土器片8・剥片4	119	70	120	72	107
166号土坑	I 7	B - II	1.16×0.79	45cm	壺1・甕1・礫/再埋葬か	119	70	121	72	107
167号土坑	I 8	B - II	0.88×0.78	28cm	土器片2・剥片2	119	70	120	72	107
168号土坑	I 7	B - II	0.72×0.63	40cm	土器片15	119	71	120	72	107
169号土坑	I 8	B - II	0.78×0.60	34cm	土器片2	119	71	120	72	107
170号土坑	H 7	B - II	0.98×0.82	41cm	土器片3	119	71	120	72	107
171号土坑	H 7	B - I	1.13×0.97	47cm	土器片18・石器類2・礫	119	71	120	72	107



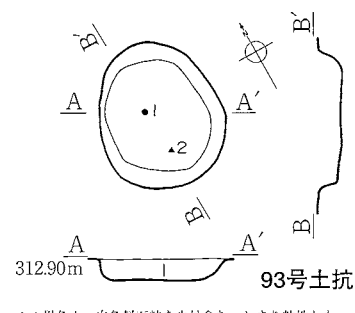
91号土坑

1: 黒色土 白色軽石粒を少量含む。しまりやや強い。粘性強い。



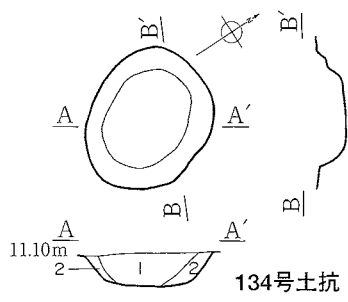
92号土坑

1: 黒色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



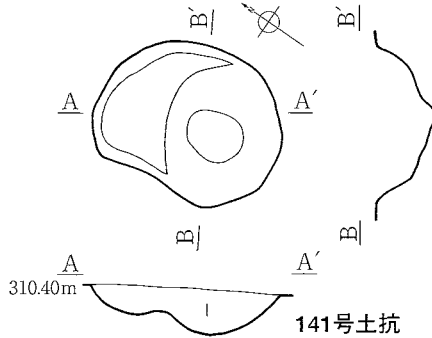
93号土坑

1: 黒色土 白色軽石粒を少量含む。しまり粘性ともやや強い。



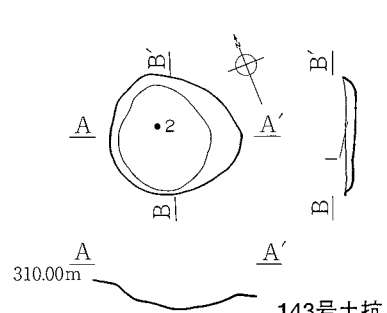
134号土坑

1: 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。
2: 暗褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



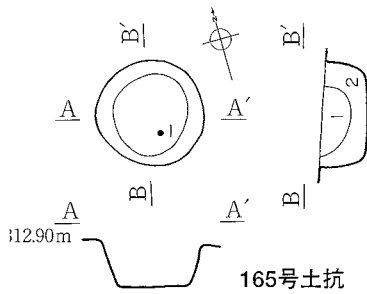
141号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまり強い。



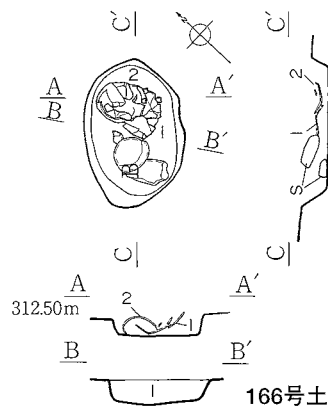
143号土坑

1: 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒を少量含む。しまり強い。



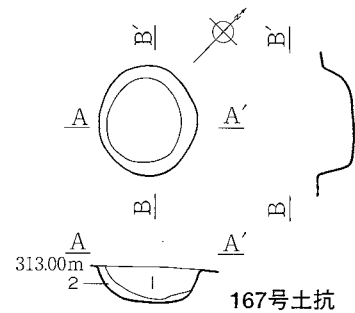
165号土坑

1: 黒色土 しまりやや強く、粘性強い。
2: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまりやや強い。粘性ある。



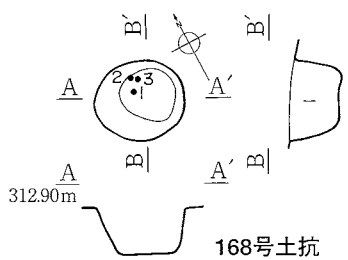
166号土坑

1: 黒褐色土 白色軽石粒を少量含む。しまりやや強く、粘性強い。



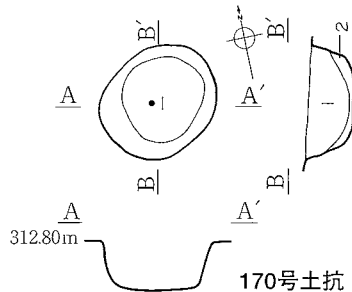
167号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり・粘性やや強い。
2: 暗褐色土 しまり・粘性やや強い。



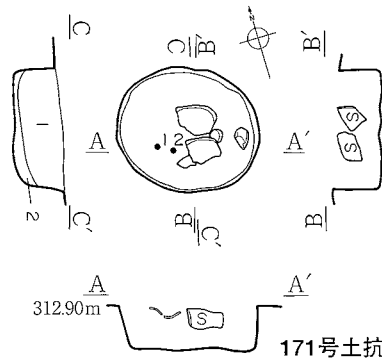
168号土坑

1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまりやや強い。粘性ある。



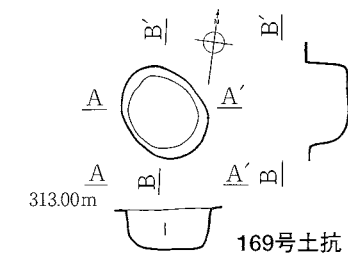
170号土坑

1: 黒褐色土 しまりやや強く、粘性強い。
2: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまりやや強く、粘性あり。



171号土坑

1: 黒褐色土 少砂を含む。しまり粘性やや強い。
2: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり粘性やや強い。

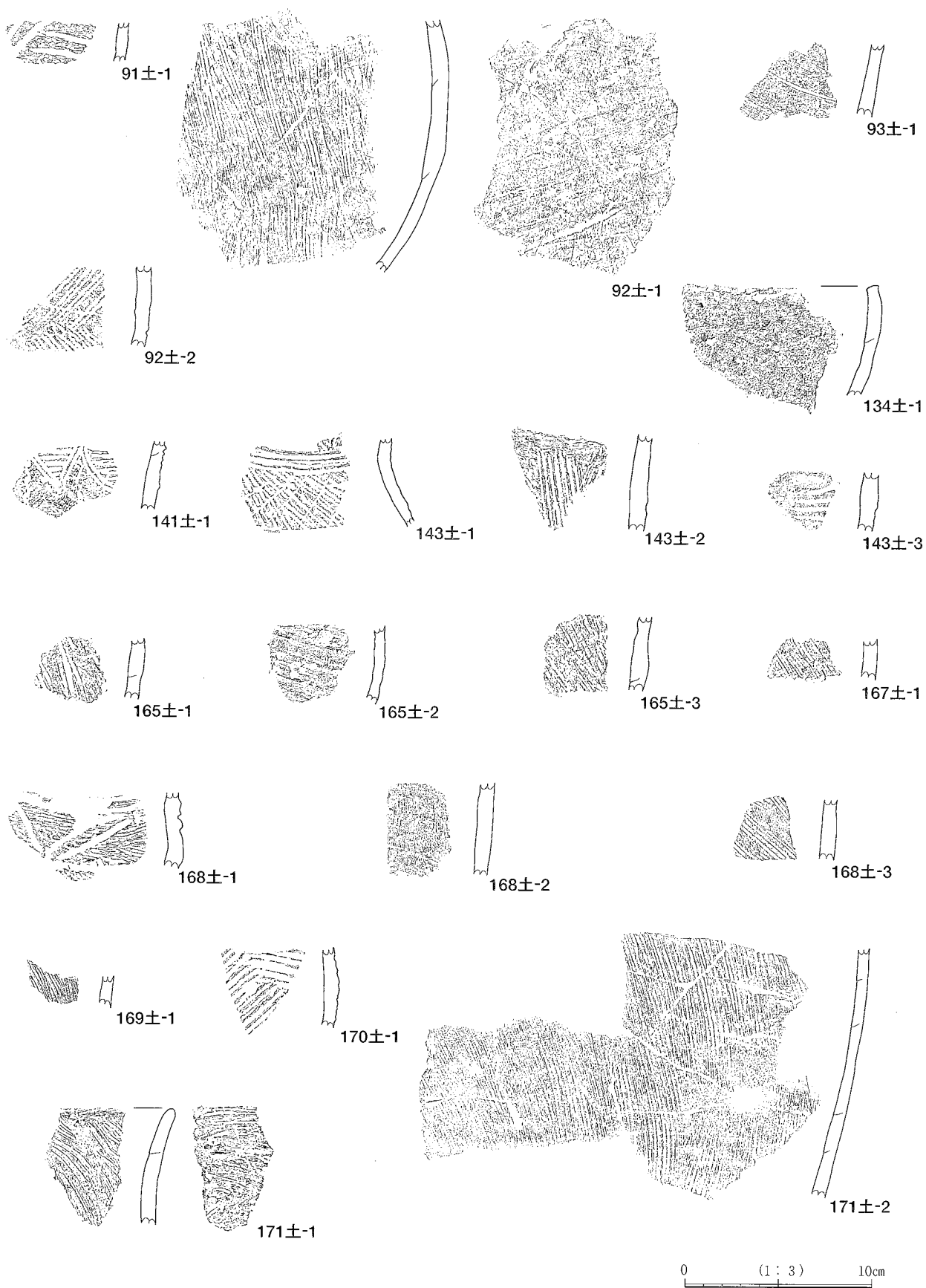


169号土坑

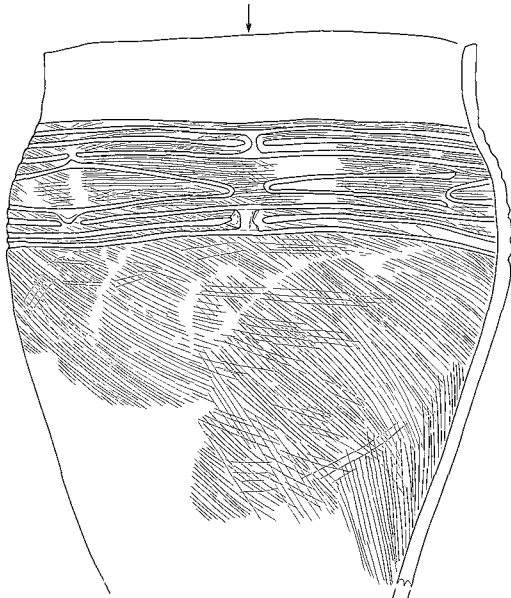
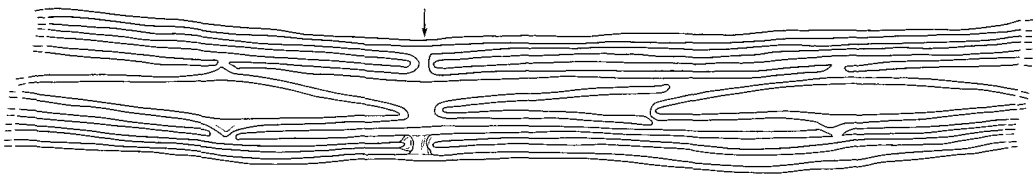
1: 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまりややあり。粘性ある。



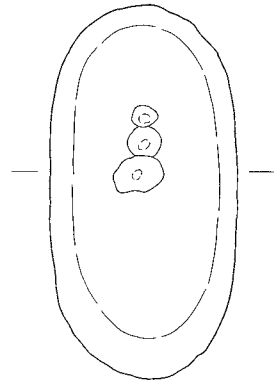
第119図 弥生時代土坑



第120図 弥生時代土坑出土遺物①

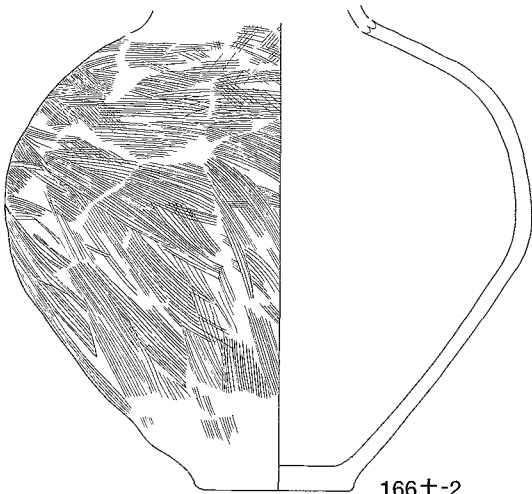


166±-1



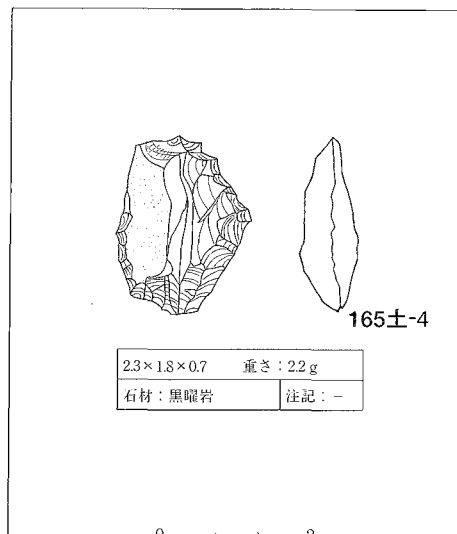
93±-2

19.8×9.9×7.2	重さ：2.387.5 g
石材：安山岩	注記：1



166±-2

0 (1:4) 10cm



165±-4

2.3×1.8×0.7	重さ：2.2 g
石材：黒曜岩	注記：-

0 (1:1) 2 cm

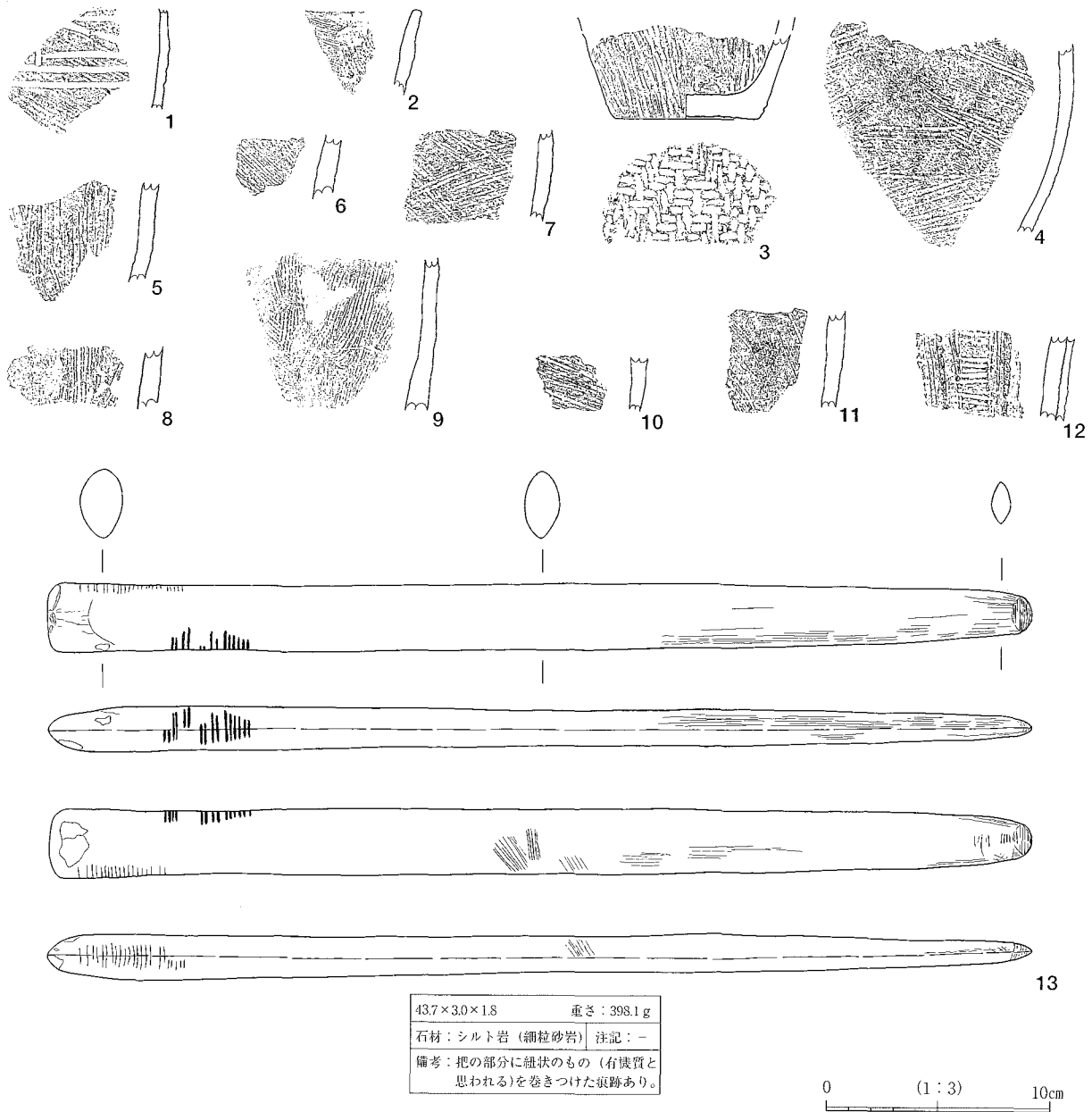
第121図 弥生時代土坑出土遺物②

(2) 遺構外出土遺物 (第122図、P L73、観察表P158)

包含層及び遺構外からも少量の弥生土器が出土している。時期的には前項で扱った土坑出土遺物と同様、前期後半～中期前半に位置付けられる。遺物分布も土坑の分布とほぼ重なる状態にある。

土器は条痕文系のもが主体を占める。1は条痕後に沈線を施している。3は底部に網代痕がある。12は横位平行沈線後に縦位隆帯を貼り付けている。1・4・5・6・7・8・12には胎土に結晶片岩の含有が認められる。

13の石剣は、確認調査時に弥生時代土坑群近接地点(第5図)から出土したものである。出土状態はP L71に示してあるが、基本層序(第3図)のV層上面に相当する層位からの出土と考えられる。本遺物の明確な時期は断定しがたいが、本遺跡の主体となる縄文時代前期もしくは中期初頭の遺物とは考えられず、暫定的に弥生時代の遺物に想定しておく。石剣は全体が丁寧に研磨されており、側面は丸みを持ちつつも稜をなす。先端部は弧状を呈し、擦痕がある。把端部は方形を呈する。把の部分には紐状のものが巻つけられていた痕跡が認められる。



第122図 弥生時代遺構外出土遺物

第4節 平安時代

住居跡2軒が周囲よりやや低い位置にあたるO-27グリッドから検出されている。南西側調査区外に関連する遺構が存在する可能性もあるが、調査区内には他に当該期の遺構・遺物は検出されていない。

31号住居跡（遺構：第123図、P L 74／遺物：第123図、P L 75、観察表P 158）

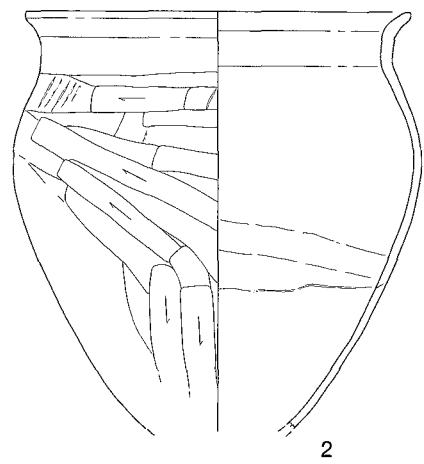
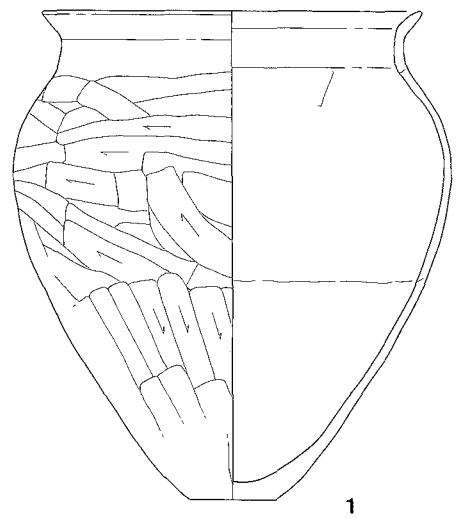
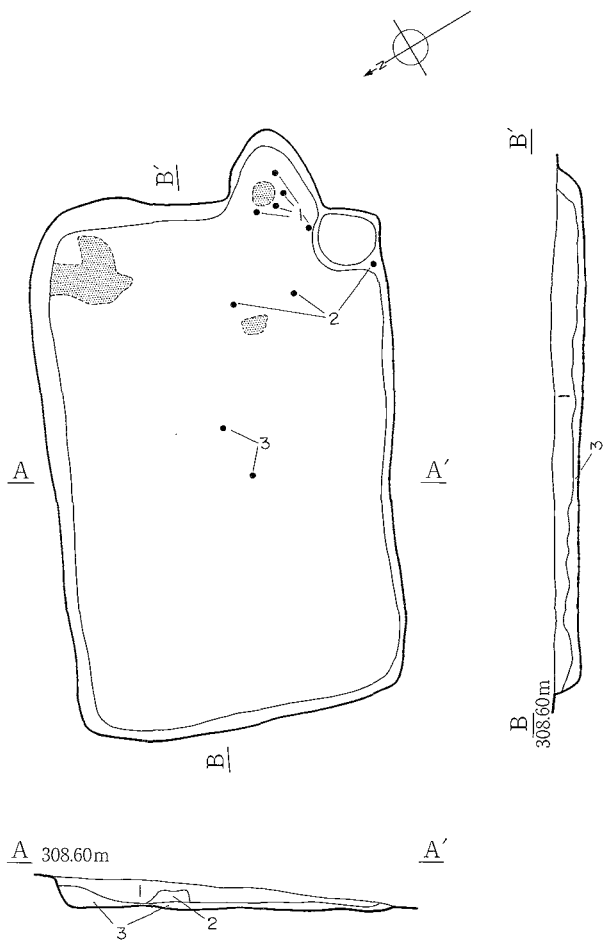
位置：O-27グリッド。検出状態：南西部はあまり良好な遺存状態ではなく、壁面の一部が削平されていた。また、床面北半は根の影響で凹凸が激しい。平面形態：縦長長方形。規模：3.95m×2.52m。床面積：9.77㎡。残存深度：27cm。主軸方位：N-118°-E。床面の状態：先述したように北側は凹凸が激しいが、南側はほぼ平坦である。北東隅とカマド手前に焼土が検出されている。特に硬化した面は確認されなかった。壁面の状態：残存部分が少なく、あまり明瞭ではない。柱穴：堅穴内及び堅穴外とも柱穴・ピットは確認されなかった。掘り方：明確に確認できなかった。カマド：東壁の南寄りに位置。60cmほど壁外に突出する掘り方を検出し得たのみで、構造等の詳細は不明である。火床部と想定される位置に地山被熱痕が認められた。また、カマド内から土師器甕が出土している。遺構埋没状態：ローム粒等を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：先述したカマド内出土の土師器甕のほか、カマド手前からも土師器甕が出土している。全体的に出土遺物は少なかった。備考：カマド向かって右側に、平面形態が不整形、規模55cm×50cm・深さ10cm程度の掘り込みがあるが、底面に凹凸があり貯蔵穴とは断定し難い。時期：土師器甕の形態的特徴から9世紀後半代に想定しておく。

遺物：土師器甕3以上、須恵器坏1以上・甕破片を確認している。土師器甕はいずれもコの字状口縁のもので、胎土には結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物4点。

32号住居跡（遺構：第124図、P L 74・75／遺物：第124図、P L 75、観察表P 158）

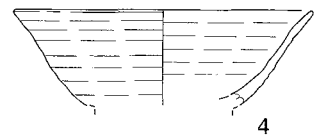
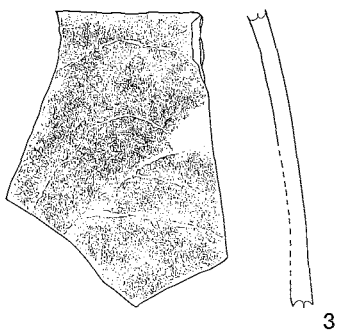
位置：O-27グリッド。検出状態：南側は調査区外。調査範囲内の南東側は耕作が床面にまで及んでいる。平面形態：全容不明であるが、長方形基調と想定される。規模：-×2.91m。床面積：不明。残存深度：40cm。主軸方位：N-17°-E。床面の状態：先述したように床面が壊されている部分があるが、残存部分は多少の起伏はみられるものの平坦で、全体的に硬くしまっている。また、中央から北側にかけて焼土の分布がみられる。壁面の状態：北側から西側にかけての壁面は比較的良好な遺存状態にあり、70°前後の勾配で立ち上がっている。北壁際に炭化材が検出されている。柱穴：調査範囲内に深さ10~30cm程度のピット4基を検出しているが、主柱穴とは判断し難い。カマド向かって右側のピットは貯蔵穴の可能性はあるが、やや小規模である。掘り方：明確に確認できなかった。カマド：北壁のやや東寄りに位置。板状の安山岩と河原石を使用した石組カマドである。カマド内から土師器甕2個体が出土しており、二つ掛けであった可能性が高い。なお、支脚は検出されていない。また、火床部と想定される位置に地山被熱痕が認められた。遺構埋没状態：耕作の影響で不明な点が多いが、ローム粒等を含む黒褐色土・暗褐色土が自然埋没していたものと推定される。遺物出土状態：カマド内から土師器甕2個体（内1個体はほぼ完存）が出土しているほかは、埋没土中から須恵器小破片がわずかに出土している程度であった。備考：炭化材や焼土の状態から火災住居と想定される。時期：土師器甕の形態的特徴から31号住居跡と同様、9世紀後半代に想定しておく。

遺物：土師器甕2、須恵器甕小破片を確認している。土師器甕はいずれもコの字状口縁のもので、外面に煤が付着する。2には胎土に結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物2点。



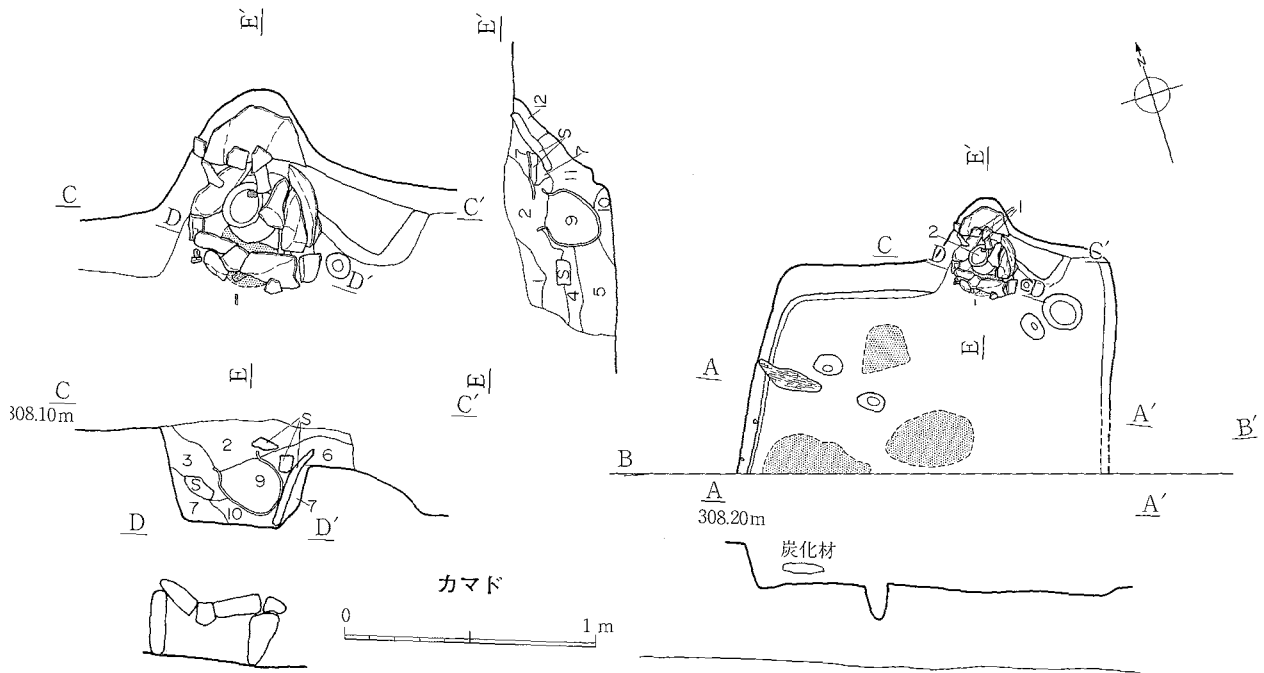
- 1: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまりやや弱く、粘性ややある。
- 3: 褐色土 ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。しまりやや弱く・粘性ややある。

0 2 m

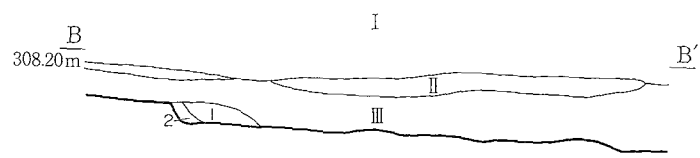


0 (1:4) 10cm

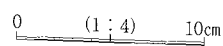
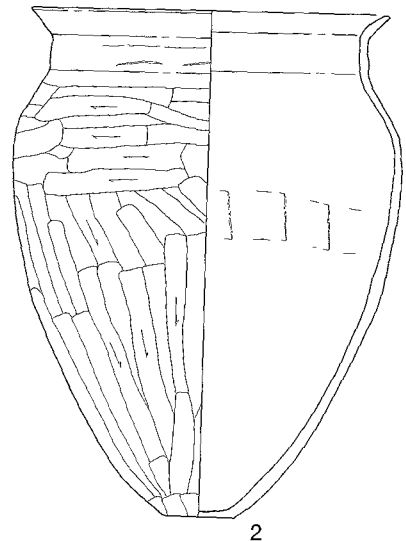
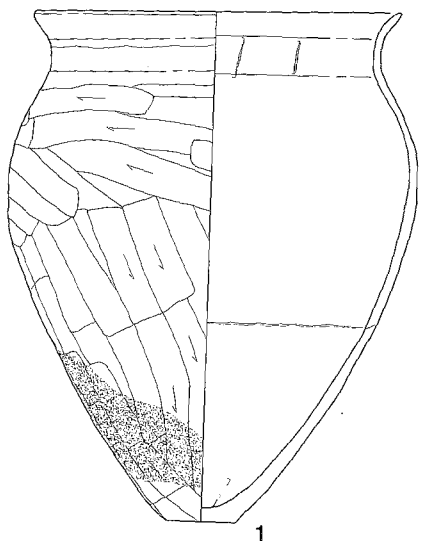
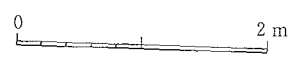
第123図 31号住居跡・出土遺物



- 1: 黒褐色土 砂質上しまり・粘性あまりない。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり・粘性ややある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を多量含む。しまり・粘性ややある。
- 4: 暗褐色土 焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性ややある。
- 5: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強く・粘性ややある。
- 6: 褐色土 ローム粒を多量含む。しまりやや弱く、粘性ややある。
- 7: 暗褐色土 焼土粒を多量含む。しまりやや弱く、粘性ややある。
- 8: 赤褐色土 焼土ブロック層。しまり、粘性ややある。
- 9: 黒褐色土 炭化物を多量含む。しまりやや弱い。
- 10: 淡赤褐色土 焼土粒を多量含む。
- 11: 暗褐色土 焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 12: 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまりあまりなく、粘性ややある。



- I A軽石を含む耕作土。砕石。
- II A軽石を含む耕作土。
- III 1: 黒色土 しまりやや弱く、粘性ややある。
- 1: 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまりやや弱く、粘性ややある。



第124図 32号住居跡・出土遺物

縄文時代土器観察表 1

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
1号住居跡 第36図 P L 36	1	②ループ文・羽状縄文+コンパス文③灰黄褐10YR4/2④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	46
	2	②組紐文③にぶい褐7.5YR6/3④繊維・長石・石英	18
	3	②組紐文+コンパス文③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	1
	4	②組紐文+コンパス文③黒褐10YR3/2④繊維・長石・石英	10
	5	②L R 縄文・ループ文③橙5YR6/8④繊維・長石・石英	-
	6	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	-
	7	②異条縄文(正反の合燃)③黒褐2.5Y3/2④繊維・長石・石英	-
	8	②異条縄文(正反の合燃)③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英	9
	9	②異条縄文(正反の合燃)③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英	14
	10	②羽状縄文 ③黒褐10YR3/1④繊維・長石・石英	45
	11	②異節縄文(前々段合燃)③褐7.5YR4/3④繊維・長石・石英・微砂粒	30
	12	②縄文+コンパス文・半截竹管状工具による平行沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・微砂粒	-
	13	②縄文+平行沈線・爪形文・円形竹管文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英	17
2号住居跡 第38図 P L 36	1	②R L 縄文③黒褐7.5YR3/1④繊維・長石・石英・角閃石	-
	2	②R L 縄文+コンパス文③黒褐7.5YR4/3④繊維・長石・石英・角閃石	-
	3	②O段多条縄文③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・微砂粒	-
3号住居跡 第39図 P L 37	1	②縄文+平行沈線・短沈線・コンパス文③褐灰7.5YR4/1④繊維・粗砂粒⑤外面に煤付着。	炬5
	2	②羽状縄文+コンパス文③灰褐7.5YR4/2④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	炬3
	3	②O段多条縄文③明褐7.5YR5/6④繊維・白色粒・赤褐色粒	11
6号住居跡 第40・41図 P L 37	1	①口径(50.6cm) ②4単位の波状口縁で、波頂間に6個前後の単位で鋸歯状突起を有する。組紐文+櫛歯状工具による平行沈線・同心円文・コンパス文+円錐状貼付文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・白色粒・赤褐色粒	30・73
	2	②半截竹管状工具による平行沈線+ボタン状貼付文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒	57
	3	②異条縄文(正反の合燃)・半截竹管状工具による平行沈線+ボタン状貼付文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒⑤3と同一個体。	71
	4	②羽状縄文・櫛歯状工具による沈線③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒	13
	5	②O段多条縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	40
	6	②組紐文・コンパス文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・微砂粒	33
	7	②口唇部に貼付文。O段多条縄文③灰褐7.5YR4/2④繊維・微砂粒	39
	8	②組紐文+半截竹管状工具による平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	16
	9	②異条縄文(正反の合燃)・櫛歯状工具による沈線③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒	70
	10	②口唇部に鋸歯状突起。異条縄文(正反の合燃)③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・長石・石英	3
	11	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③暗褐10YR3/3④繊維・長石・石英	52
	12	①底径(10.0cm) ②上げ底の底部片。O段多条縄文+コンパス文③橙7.5YR7/6④繊維・微砂粒⑤内面に煤・焦げ。	37
7号住居跡 第42・43図 P L 38	1	①口径(22.1cm) ②片口注口土器。ループ文・O段多条縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	29
	2	②9個以上の単位で鋸歯状突起。組紐文+半截竹管状工具平行沈線・弧状線③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	10
	3	②口唇部に鋸歯状突起。O段多条縄文+平行沈線+円形貼付文③橙7.5YR6/6④繊維・微砂粒	46
	4	②組紐文+半截竹管状工具による平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・長石・石英・角閃石	40
	5	②口唇部に鋸歯状突起。O段多条縄文+平行沈線で三角形を描く+円形貼付文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・白色粒	15
	6	②口唇部に長方形突起。口唇部に刺突を加える。組紐文+櫛歯状工具による沈線で三角形を描く③橙7.5YR6/6④繊維・微砂粒⑤外面に煤付着。	20
	7	②波頂部片。組紐文+半截竹管状工具による平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	-
	8	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・長石・石英	-
	9	②組紐文+コンパス文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	22
	10	②組紐文+コンパス文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	-

縄文時代土器観察表 2

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
7号住居跡	11	②末端ループ付縄文+コンパス文③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	-
	12	②異条縄文(正反の合燃)③に黄橙10YR6/3④繊維・微砂粒	41
	13	②ループ文+RL縄文③に黄褐10YR5/4④繊維・微砂粒	-
	14	②組紐文+鋸歯状に沈線③に褐7.5YR5/4④繊維・微砂粒	17
	15	②上げ底の底部。組紐文③に橙7.5YR6/4④繊維・微砂粒・白色粒	-
8号住居跡 第79図 P L 57	1	②RL縄文③橙2.5YR6/8④長石・石英・角閃石	5
	2	②RL縄文③に赤褐5YR5/4④細砂粒・長石・石英	1
9号住居跡 第44・45図 P L 39	1	①口径(24.5cm)②口唇部に半円形突起。突起右側に欠損するが注口あり。組紐文+沈線を直線・弧状・×状に施す。突起部分に半截竹管状工具による弧状の平行沈線・爪形文③に黄10YR7/4④繊維・微砂粒	52
	2	①口径24.6cm②RL縄文③に黄橙10YR7/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石・赤褐粒	74
	3	②平行沈線+ヘラ先状工具による連続刺突文③に黄橙10YR6/3④繊維・微砂粒	-
	4	②口唇部に鋸歯状突起。LR縄文③黒褐10YR3/2④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	-
	5	②羽状縄文③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	-
	6	②複節縄文③に黄褐10YR5/4④繊維・長石・石英・赤褐粒	81
	7	②口縁部やや肥厚する。RL縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・粗砂粒	-
	8	②組紐文③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒・白色粒	67
	9	②ヘラ先状工具による連続刺突文+円形貼付文③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	-
	10	②組紐文③赤褐5YR4/6④繊維・長石・石英・白色粒	65
	11	②複節縄文③明黄褐10YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	-
	12	②ループ文・RL縄文+口縁端部に鋸歯状工具による刺突③橙7.5YR6/6④繊維・微砂粒	25
	13	②異条縄文(正反の合燃)③灰黄褐10YR4/2④繊維・長石・石英	30
	14	②異条縄文(正反の合燃)・O段多条縄文+コンパス文③褐灰10YR4/1④繊維・長石・石英	64
	15	②O段多条羽状縄文+コンパス文③に黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	71
	16	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③に橙5YR6/4④繊維・長石・石英	-
	17	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	59
	18	②組紐文+コンパス文③に黄褐10YR5/4④繊維・微砂粒	18
	19	②組紐文③明黄褐10YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	-
	20	②組紐文③明褐7.5YR5/6④繊維・微砂粒・白色粒	63
	21	②組紐文③赤褐5YR4/8④繊維・微砂粒・白色粒	2
	22	②複節縄文③橙7.5YR6/8④繊維・微砂粒	1
	23	②半截竹管状工具・ヘラ先状工具による沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	51
	24	②燃糸文③に褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・長石・石英	-
	25	②上げ底の底部片。羽状縄文③橙7.5YR6/6④繊維・粗砂粒・白色粒	-
10号住居跡	1	第47図、P L 40 ②O段多条縄文③に橙2.5YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石	3
11号住居跡 第48図 P L 40	1	②異条縄文(正反の合燃)+鋸歯状工具による沈線 ③に橙7.5YR6/4 ④繊維・長石・石英	7
	2	②ループ付縄文+コンパス文・沈線(三角形を描く)③橙7.5YR7/6④繊維・粗砂粒・白色粒	8
	3	②口唇部に鋸歯状突起貼付。縄文+鋸歯状工具沈線(麻手状)③橙5YR7/6④繊維・白色粒	5
12号住居跡 第49・50図 P L 40・41	1	②異条縄文(正反の合燃)③褐10YR4/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒・赤褐粒	61
	2	②組紐文+半截竹管状工具による沈線・コンパス文③灰褐7.5YR4/2④繊維・長石・石英	39
	3	②O段多条縄文③赤褐5YR4/6④繊維・微砂粒・白色粒	74
	4	②異条縄文(前々段合燃)③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	116
	5	②ループ文+半截竹管状工具平行沈線・ヘラ先刺突③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	135
	6	②口唇部に鋸歯状突起。縄文+コンパス文・沈線③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	153

縄文時代土器観察表 3

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記	
12号住居跡	7	②口唇部に鋸歯状突起。縄文+コンパス文+円形貼付文③明褐7.5YR5/6④繊維・長石・石英	24	
	8	②異条縄文（正反の合燃）③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着	171	
	9	②異条縄文（正反の合燃）③灰黄褐10YR5/2④繊維・長石・石英	57	
	10	②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③にぶい灰褐7.5YR5/4④繊維・長石・石英・角閃石	炉1	
	11	②燃糸文③灰黄褐10YR4/2④繊維・長石・石英・白色粒	168	
	12	②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英・白色粒	35	
	13	②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③黒5Y2/1④繊維・長石・石英・白色粒	88	
	14	②O段多条縄文③褐7.5YR5/3④繊維・長石・石英・白色粒	17	
	15	②縄文+コンパス文③にぶい赤褐5YR5/3④繊維・長石・石英・白色粒・赤褐粒	134	
	16	②組紐文③橙7.5YR6/6④繊維・微砂粒・白色粒	160	
	17	②上げ底の底部片。異条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英・白色粒	157	
	14号住居跡 第51図 P L 41・42	1	①口径(25.5cm)②口唇部に鋸歯状突起（1か所のみ残存）。O段多条縄文・ループ文③浅黄橙10YR8/4④繊維・長石・石英	30
		2	①口径15.9cm②口唇部に鋸歯状突起。O段多条縄文・ループ文+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・長石・石英⑤外面に煤付着。	49・50
		3	②口唇部に鋸歯状突起。縄文+半截竹管状工具平行沈線③橙7.5YR6/6④繊維・白色粒	-
		4	②口唇部に鋸歯状突起。ループ文+コンパス文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・角閃石	-
		5	②縄文+半截竹管状工具平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・角閃石	14
		6	②ループ文+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・微砂粒・白色粒	-
7		②O段多条縄文・ループ文+コンパス文・沈線幾何学文+豆状貼付文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。内面丁寧に磨かれる。	7・31 ・35	
8		②ループ文+コンパス文③にぶい黄橙10YR5/3④繊維・長石・石英・角閃石	53	
9		②O段多条・ループ文+コンパス文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英⑤外面煤付着。	55	
10		②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③褐灰10YR4/1④繊維・長石・石英・白色粒	-	
11		②爪形文③黄灰2.5Y4/1④繊維・微砂粒・白色粒	-	
12		②半截竹管状工具による平行沈線③にぶい黄褐10YR6/3④繊維・長石・石英	7	
13		②波頂部の左右鋸歯状突起。縄文+沈線・刺突+貼付文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	46	
14		②底部。格子目状燃糸文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・角閃石	45	
16号住居跡 第52図 P L 42	1	①口径32.5cm②口唇部に3個以上単位で長方形の突起貼り付け。O段多条縄文・ループ文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・白色粒⑤外面に煤付着。	炉1	
	2	②末端ループ付O段多条縄文+鋸歯状に沈線③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	15	
	3	②末端ループ付O段多条縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	1	
	4	②ループ文③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	炉1	
	5	②平行沈線・ヘラ先状刺突+豆状貼付文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	60	
	6	②縄文+沈線+豆状貼付文③にぶい赤褐5YR5/4④繊維・粗砂粒・白色粒	63	
	7	②組紐文+コンパス文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒	29	
	8	②やや上げ底の底部。組紐文③黄橙7.5YR7/8④繊維・長石・石英⑤内面に煤付着。	18	
17号住居跡 第53図 P L 43	1	②口唇部に刻み目のある小突起。O段多条縄文+コンパス文・半截竹管状工具による弧状沈線・ヘラ先刺突③橙7.5YR6/6④繊維・白色粒⑤外面に煤付着。	12	
	2	②口唇部に小突起。ループ文・O段多条縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・白色粒	6・9	
	3	②口唇部に鋸歯状突起貼付。末端ループ付O段多条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・白色粒	4	
	4	②末端ループ付O段多条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	炉1	
	5	②O段多条縄文・コンパス文③灰黄褐10YR6/2④繊維・白色粒⑤外面に煤付着。	18	
18号住居跡 第54図 P L 43	1	②半截竹管状工具による平行沈線・爪形状+円形貼付文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	5	
	2	②複節縄文+コンパス文・沈線+円形貼付文③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・長石・石英	2	
	3	②異条縄文（正反の合燃）③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・長石・石英	6	

縄文時代土器観察表 4

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
19号住居跡 第55図 P L 44	1	②組紐文+円形貼付文③に黄褐色10YR6/3④繊維・長石・石英	-
	2	②口唇部突起に刺突。O段多条・ループ文+コンパス文③に黄褐色7.5YR6/4④繊維・微砂粒	-
	3	②末端ループ付R L縄文③に黄褐色10YR5/4④繊維・微砂粒	-
	4	②異条縄文(正反の合燃)③に黄褐色10YR5/3④繊維・微砂粒・白色粒	-
20号住居跡 第56・57図 P L 44	1	②口唇部に鋸歯状突起(3個単位)。縄文+斜方向中心の不規則な平行沈線・コンパス文③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	107
	2	②口唇部に鋸歯状突起。異節縄文(前々段合燃)・O段多条縄文③に黄褐色10YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒	147
	3	②波状口縁部片。ループ文・縄文+平行沈線・ヘラ先刺突・コンパス文+貼付文③に黄褐色7.5YR7/6④繊維・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着	127
	4	②ループ文・O段多条縄文・平行沈線+円形貼付文+ヘラ先刺突③に黄褐色10YR5/2④繊維・微砂粒⑤外面に煤付着。	炉1
	5	②口唇部に刻み目のある小突起。O段多条縄文・ループ文③に黄褐色10YR6/3④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	154
	6	②口唇部に鋸歯状突起。ループ文+平行沈線+円形貼付文+ヘラ先刺突③に黄褐色10YR7/6④繊維・微砂粒・白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	炉2
	7	②波頂部の左右に刻み目のある小突起。ループ文・ヘラ先刺突・口唇部に沈線③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・長石・石英	101
	8	②ループ文+豆状貼付文③に黄褐色2.5Y4/1④繊維・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	184
	9	②ループ文③に黄褐色7.5YR5/6④繊維・長石・石英・角閃石	24
	10	②異条縄文(正反の合燃)③に黄褐色10YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面煤付着。	-
	11	②口唇部に長方形突起。ループ文・縄文+コンパス文③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	29
	12	②異節縄文(前々段合燃)・羽状縄文③に黄褐色10YR4/2④繊維・粗砂粒・石英⑤外面に煤付着。	98
	13	②ループ付O段多条縄文+コンパス文③に黄褐色10YR6/3④繊維・白色粒⑤外面に煤付着。	-
	14	②異条縄文(正反の合燃)③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	-
	15	②ループ文+平行沈線・(コンパス文)③に明赤褐色5YR5/6④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	38
	16	②異条縄文(正反の合燃)③にオリーブ黒5Y3/1④繊維・長石・石英	80
	17	①底径(10.0cm)②やや上げ底。ループ付O段多条縄文③に黄褐色10YR6/4④繊維・微砂粒・白色粒⑤外底部にも施文。	17
	18	①脚台部底径8.9cm②台付深鉢の脚台部。O段多条縄文+コンパス文③に黄褐色7.5YR8/8④繊維・白色粒⑤外面に煤付着。	127
21号住居跡 第58図 P L 45	1	①口径(16.0cm)②組紐文③に明赤褐色5YR5/6④繊維・微砂粒・白色粒	23
	2	②沈線・コンパス文+粒状貼付文③に黄褐色10YR5/2④繊維・長石・石英	14
	3	②波状口縁波頂部欠損。ループ文・沈線③に黄褐色7.5YR4/3④繊維・長石・石英・白色粒	37
	4	②組紐文③に黄褐色10YR6/4④繊維・微砂粒・白色粒	43
	5	②異条縄文(正反の合燃)③に黄褐色10YR6/3④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	28
	6	②口唇部に鋸歯状突起。組紐文+半截竹管平行沈線③に黄褐色7.5YR5/4④繊維・長石・石英	30
	7	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③に黄褐色10YR6/4④繊維・長石・石英	2
	8	②復節縄文・O段多条縄文+コンパス文・半截竹管状工具平行沈線・同心円文③に黄褐色7.5YR4/3④繊維・長石・石英・白色粒	68
	9	①底径10.4cm②底部上げ底。異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③に黄褐色7.5YR6/4④繊維・長石・石英・白色粒⑤外底部にも施文。	8・41 ・57
	10	①底径10.4cm②底部上げ底。異条縄文(正反の合燃)③に黄褐色7.5YR6/4④繊維・微砂粒	86
	11	②くびれ部に隆帯。組紐文③に黄褐色7.5YR5/4④繊維・長石・石英⑤隆帯上にも施文。	12
22号住居跡 第59・60図 P L 46	1	②波状口縁(4単位)。波頂部左右に刻み目のある小突起。組紐文+コンパス文・沈線文・爪形文+耳状貼付文、突起上にヘラ先刺突③に明赤褐色10YR7/6④繊維・長石・石英	202
	2	②片口注口部の脇に鋸歯状突起。組紐文・O段多条縄文+コンパス文③に黄褐色10YR7/4④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	92
	3	②口唇部に鋸歯状突起。ループ文・O段多条縄文③に黄褐色5YR6/6④繊維・粗砂粒⑤外面に煤付着。	182
	4	②末端ループ付O段多条縄文③に黄褐色7.5YR7/6④繊維・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	205
	5	②組紐文③に黄褐色10YR7/4④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	138
	6	②復節縄文③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・長石・石英	-
	7	②口唇部に鋸歯状突起。ループ文③に黄褐色10YR7/4④繊維・微砂粒・白色粒	-

縄文時代土器観察表 5

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
22号住居跡	8	②口唇部に鋸歯状突起。組紐文+コンパス文③橙7.5YR6/6④繊維・石英	-
	9	②胴部屈曲する。末端ループO段多糸縄文+コンパス文③橙7.5YR7/6④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	122
	10	②異糸縄文(正反の合燃)+コンパス文③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	185
	11	②波状口縁の波頂部欠損。ループ文+半截竹管状工具平行沈線・同心円文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	114
	12	②O段多糸縄文+コンパス文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・微砂粒⑤外面に煤付着。	145
	13	②異糸縄文(正反の合燃)③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	186
	14	②縄文+半截竹管状工具による平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	238
	15	②異糸縄文(正反の合燃)③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒・白色粒	-
23号住居跡 第61図 P L 47	1	②組紐文+半截竹管状工具平行沈線③黒褐10YR2/2④繊維・長石・石英・角閃石	52
	2	②波頂部片。ループ文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	86
	3	②波頂部片。縄文+櫛歯状工具条線+円形貼付文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・白色粒	78
	4	②無文③褐7.5YR4/3④繊維・微砂粒	21
	5	②異糸縄文(正反の合燃)・O段多糸縄文・ループ文+条線と同心円文を鋸歯状に繋げる③褐7.5YR4/3④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	83
	6	②O段多糸縄文+コンパス文③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・長石・石英	28
	7	②末端ループ付O段多糸縄文③明褐7.5YR5/6④繊維・長石・石英	72
	8	②末端ループ付O段多糸縄文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・白色粒	-
	9	②羽状縄文+コンパス文・沈線+円形貼付文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・長石・石英	12
24号住居跡 第62図 P L 48	1	②末端ループ付O段多糸縄文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・粗砂粒・長石・石英	4
	2	②口唇部に刻み目のある小突起。O段多糸縄文+沈線・突起上にヘラ先刺突③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英	3
	3	②燃糸文+格子目状燃糸文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・長石・石英・角閃石	11
	4	②末端ループ付O段多糸+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・白色粒⑤外面煤付着。	6
	5	②異糸縄文(正反の合燃)③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・長石・石英	-
25号住居跡 第81図 P L 57	1	②波頂部片。沈線文③暗褐7.5YR3/3④金雲母・長石・石英・角閃石⑤波頂部内面に抽象文様。	6
	2	②内面口縁部に稜。隆帯区画内に沈線③灰黄褐10YR4/2④金雲母・長石・石英・角閃石	5
	3	②外面口縁部に突起。内面口縁部に稜。隆帯+沈線区画内に波状沈線③明赤褐5YR5/6④長石・石英・角閃石⑤外面煤付着。	-
	4	②沈線+刺突文③橙7.5YR6/6④石英・角閃石⑤赤色塗彩の痕跡あり。	9
26号住居跡 第63・64図 P L 48・49	1	①器高18.6cm・口径(16.8cm)・底径(8.5cm)②口唇部に小突起、突起左右に刻み目。O段多糸縄文・ループ文+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英・白色粒⑤底部にも縄文施文。外面に煤付着。	1・4・ 198
	2	②無節縄文③明褐7.5YR5/6④繊維・長石・石英⑤器面凹凸があり粗雑なつくり。	118
	3	②波状口縁の波頂部欠損。異糸縄文(正反の合燃)+コンパス文・櫛歯状工具により巖手状の文様③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	191
	4	②組紐文+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	241
	5	②口唇部に鋸歯状突起。組紐文+半截竹管状工具平行沈線・巖手状文様③明赤褐5YR5/6④繊維・長石・石英	419
	6	②羽状縄文+豆状貼付文③黒褐10YR3/1④繊維・微砂粒	38
	7	②口唇部に鋸歯状突起。複節縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・長石・石英	133
	8	②異節縄文(前々段合燃)③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	448
	9	②ループ文+鋸歯状沈線③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・微砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	3
	10	②羽状縄文+コンパス文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英	98
	11	②縄文+櫛歯状工具沈線③にぶい橙5YR6/6④繊維・長石・白色粒	32
	12	②沈線を格子状に交差させる③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	375
	13	②O段多糸縄文+沈線直線文・渦巻状文③橙7.5YR6/6④繊維・粗砂粒・長石・石英・赤褐粒	73
	14	②口唇部に小突起。末端ループ付O段多糸縄文+沈線③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	220
	15	②末端ループ付O段多糸縄文・LR縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒	354

縄文時代土器観察表 6

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
26号住居跡	16	②組紐文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	58
	17	②ループ文・羽状縄文③橙5YR6/6④繊維・結晶片岩・長石・石英	259
	18	②組紐文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・微砂粒・白色粒	444
	19	②破片内に2条の隆帯。縄文+（コンパス文）③にぶい橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	301
	20	②平行沈線+ヘラ先刺突・円形貼付文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	20
	21	②異条縄文（正反の合燃）・組紐文+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	-
	22	②異条縄文（正反の合燃）・ループ付O段多条縄文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・白色粒	85
	23	②異条縄文（正反の合燃）③黒褐10YR3/1④繊維・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	131
	24	②異条縄文（正反の合燃）・O段多条縄文+施文原体圧痕+コンパス文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英	337
	25	②異条縄文（正反の合燃）③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英	168
	26	②ループ文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒	117
	27	②組紐文③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・長石・石英	355
	28	①底径9.8cm②底部上げ底。組紐文③にぶい橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英⑤内面に焦げ。	338
	29	①底径7.4cm②底部上げ底。組紐文③明赤褐5YR5/8④繊維・微砂粒・石英	402
27号住居跡 第66・67図 P L 50	1	②口唇部に長方形突起。組紐文・異条縄文（正反の合燃）+コンパス文・口縁端部にヘラ先刺突③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	441
	2	②異節縄文（前々段合燃）③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・白色粒・赤褐粒	373
	3	②組紐文・異条縄文（正反の合燃）+コンパス文・口縁端部ヘラ先刺突③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・長石・石英⑤1と同一個体か。	427
	4	②口唇部に小突起。末端ループ付O段多条縄文③にぶい黄褐色10YR5/3④繊維・長石・石英・白色粒⑤内面に焦げ。	409
	5	②口唇部に大小の山形小突起。ループ文・羽状縄文（反燃か）③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・白色粒⑤外面煤付着。	257
	6	②組紐文+歯菌状工具により直線・鋸歯状・波状・同心円・蕨手状の文様③黒褐2.5Y3/2④繊維・微砂粒・石英	108
	7	②口唇部に鋸歯状突起。羽状縄文（単節・O段多条）③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・長石・石英	-
	8	②組紐文+半截竹管状工具平行沈線③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・微砂粒・白色粒	66
	9	②組紐文+コンパス文・口唇部に歯菌状工具刺突③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	168
	10	②縄文+沈線+豆状・円形貼付文③灰黄褐10YR4/2④繊維・粗砂粒・石英⑤外面に煤付着。	292
	11	②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・白色粒	-
	12	②異条縄文（正反の合燃）③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英	-
	13	②縄文+平行沈線+刺突・円形貼付文③にぶい赤褐④繊維・白色針状粒・石英	105
	14	②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③暗灰黄2.5Y4/2④繊維・長石・石英・白色粒	-
	15	②異条縄文（正反の合燃）+コンパス文③黒褐7.5YR3/1④繊維・微砂粒⑤外面に煤付着。	443
	16	②O段多条縄文+半截竹管状工具平行沈線③暗褐7.5YR3/3④繊維・微砂粒⑤外面に煤付着。	439
	17	②異条縄文（正反の合燃）+半截竹管状工具による鋸歯状沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・長石・石英	60
	18	②ループ付O段多条縄文施文後、原体の圧痕③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・粗砂粒・長石・石英⑤内面の剥離激しい。	170
	19	②コンパス文+刺突③にぶい橙5YR6/4④繊維・長石・石英・白色粒・赤褐粒	-
	20	①底径（9.8cm）②底部上げ底。組紐文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	372
28号住居跡 第80図 P L 57	1	②R L縄文③にぶい黄橙10YR6/3④微砂粒・白色粒	16
	2	②結節あるO段多条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④粗砂粒・白色粒⑤外面に煤付着。	6
	3	②付加条縄文③黒褐7.5YR3/1④粗砂粒・長石・石英・角閃石	22
29号住居跡 第69・70図 P L 51	1	②口唇部に小突起。歯菌状工具・半截竹管状工具刺突文③浅黄橙10YR8/4④繊維・白色粒	16
	2	②燃糸文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英・赤褐粒	149
	3	②ヘラ先刺突③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英・白色粒	51
	4	②羽状縄文+口縁部に耳状突起貼付③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・粗砂粒・長石・石英	110

縄文時代土器観察表 7

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記	
29号住居跡	5	②双山状波状口縁部。縄文+半截竹管状工具沈線③に黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	122	
	6	②組紐文+半截竹管状工具沈線③褐7.5YR4/3④繊維・石英⑤外面に煤付着。	89	
	7	②組紐文+半截竹管状工具沈線③に黄橙10YR7/4④繊維・白色粒	95	
	8	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒・赤褐粒	84	
	9	②O段多条縄文+(コンパス文)③に黄橙10YR6/4④繊維・粗砂粒・長石・石英・赤褐粒⑤補修孔あり。	145	
	10	②口唇部に鋸歯状突起。組紐文+コンパス文③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒・石英	48	
	11	②組紐文+コンパス文③に黄橙7.5YR7/4④繊維・微砂粒・白色粒	11	
	12	②ループ文・O段多条縄文+半截竹管状工具平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・石英	125	
	13	②半截竹管状工具平行沈線・連続刺突文③橙7.5YR7/6④粗砂粒・白色粒・赤褐粒	9	
	14	②異条縄文(正反の合燃)③に黄橙10YR7/4④繊維・結晶片岩・長石・石英	115	
	15	②組紐文・複節縄文③に黄褐10YR5/3④繊維・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	20	
	16	②組紐文③に黄橙10YR6/3④繊維・長石・石英・白色粒	103	
	17	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③に黄褐10YR6/4④繊維・長石・石英・白色粒	82	
	18	①底径9.2cm②羽状縄文③に黄橙7.5YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒	138	
	34号住居跡 第82図 P L 57	1	①口径18.6cm②断面三角形の凸帯貼り付け後、R L 縄文を地文とし、口縁部に逆U字状の粘土紐貼り付け等間隔4単位、口縁部は沈線・押し文・短沈線・刺突文で文様描出、凸帯下に結節文。③に黄橙7.5YR6/4④結晶片岩・金雲母・長石・石英⑤炉に使用。内外面に煤付着。	炉1
		2	②口縁部内側に稜。直線・波状の押し文、口唇部にも押し文③暗褐10YR3/3④結晶片岩・金雲母・長石・石英	9
		3	②口縁部内側に稜。口縁部に押し文2条③褐7.5YR4/6④金雲母・長石・石英・角閃石	-
		4	②口縁部内側に稜。口縁部に隆帯で楕円形区画+縄文を地文+沈線を楕円形・直線に施し文様描出③暗褐7.5YR3/3④結晶片岩・金雲母・長石・石英⑤内外面に煤付着。	34
5		②縄文+沈線③褐色10YR4/6④金雲母・長石・石英・角閃石	6	
6		②L R 縄文+押し文③に赤褐5YR4/3④結晶片岩・長石・石英・角閃石	71	
7		②破片内に隆帯2条・沈線4条③明褐7.5YR5/6④金雲母・長石・石英・角閃石	76	
35号住居跡 第71~75図 P L 52~54	1	①器高31.6cm・口径推定32.1cm・底径9.9cm②口唇部に鋸歯状突起。底部上げ底。ループ文・末端ループ付O段多条縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒⑤底部にも施文。内面下半焦げ付着。図上復元。	88	
	2	①口径(31.0cm)②口唇部に低く(高さ5mm)幅広の板状突起、推定4単位。胴部に異条縄文(正反の合燃)+コンパス文・平行沈線、口縁部に直線及び弧状沈線+円形貼付文列、突起上面に爪形刺突③に黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面部分的に煤付着。	8・47	
	3	①口径(33.4cm)②口唇部に低く(高さ5mm)幅広で刻み目のある突起、推定4単位。ループ文・O段多条縄文+半截竹管状工具による三角形及び菱形文・コンパス文、突起上面に爪形刺突③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	174・185	
	4	①口径(29.0cm)②口唇部に鋸歯状突起。ループ文・O段多条羽状縄文・異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・長石・石英⑤外面一部赤彩。	130・304	
	5	①口径(12.8cm)②口唇部に低い隆起、推定4単位。ループ文・羽状縄文+コンパス文・口縁部に円形貼付文列、口唇部隆起部分に爪形刺突③に黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面部分的に煤付着。	192	
	6	①口径(15.5cm)②キャリパー状の器形。4単位の二又波状口縁と想定され、波頂間に三角形小突起2個単位。複節縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・角閃石	178・182	
	7	①口径20.5cm②口唇部に鋸歯状突起、4単位。末端ループ付O段多条縄文+口縁部に短沈線③に黄橙10YR7/3④繊維・角閃石・白色粒⑤炉に使用。	炉1	
	8	②口唇部に鋸歯状突起。末端ループ付O段多条縄文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	38	
	9	①口径(45.7cm)②異条縄文(正反の合燃)③に黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	260	
	10	②波状口縁と思われ、波頂間に三角形小突起。胴部湾曲し途中でくびれる。羽状縄文+コンパス文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	313	
	11	①口径(20.0cm)②片口注口土器。注口右側に半円形突起。左側に刻み目のある小突起。鋸歯状突起。ループ文・O段多条縄文③に黄橙10YR6/4④繊維・白色粒・長石・石英	208・336	
	12	②口唇部に鋸歯状突起。末端ループ付O段多条縄文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英・白色粒⑤焼成後の穿孔あり。	3・60	
	13	②ループ文・O段多条縄文+口縁部に円形・粒状の貼付文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	-	
	14	②口唇部に鋸歯状突起。末端ループ付O段多条縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	329	
	15	②口唇部に鋸歯状突起。ループ文・ループ付縄文、口縁部に短沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石	235	

縄文時代土器観察表 8

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
35号住居跡	16	②口唇部に鋸歯状突起。半截竹管状工具による平行沈線に梯子段状短沈線+円錐状の貼付文+短沈線③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・白色粒	-
	17	②口唇部に三角形小突起。複節縄文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・長石・石英⑤外面煤付着。	-
	18	②口唇部に鋸歯状突起。組紐文③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	272
	19	②ループ文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石	-
	20	②口唇部に低い板状突起。ループ文、突起上面に爪形刺突③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	148
	21	②波状口縁。波頂部の左右に刻み目のある小突起。口縁部にヘラ先刺突+ループ文+貼付文+貼付文上面に刺突③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	-
	22	②内湾する波状口縁。波頂部の左右に刻み目のある小突起。口縁部下に耳状及びボタン状貼付文+それぞれの貼付文上面・側縁にヘラ先刺突、縄文+沈線+円形・粒状の貼付文+口縁部にヘラ先刺突③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	5
	23	②末端ループ付O段多糸縄文+コンパス文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	-
	24	②異節縄文(前々段合燃)+コンパス文+粒状貼付文③明黄褐10YR7/6④繊維・長石・石英	98
	25	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③黒褐10YR3/2④繊維・長石・石英	-
	26	②口唇部に小突起。羽状縄文+コンパス文③橙5YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	222
	27	②ループ文・O段多糸縄文③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英・角閃石	58
	28	②縄文+半截竹管状工具平行沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・長石・石英	-
	29	②O段多糸縄文③橙5YR6/6④繊維・長石・石英	172
	30	②ループ文・末端ループ付O段多糸縄文③灰褐7.5YR5/2④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	94
	31	②組紐文+口縁部に短沈線③橙7.5YR7/6④繊維・長石・石英	-
	32	②O段多糸縄文+半截竹管状工具弧状・直線沈線③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・長石・石英	64
	33	②縄文+爪形刺突③灰黄褐10YR6/2④繊維・白色粒	-
	34	②O段多糸縄文+口縁部に爪形刺突③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・白色針状粒(海綿骨針)・微砂粒	-
	35	②口縁部外反する。口唇部に小突起。末端ループ付縄文+コンパス文・小円形刺突のある円形貼付文、口唇部に爪形刺突③橙5YR6/6④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	242
	36	②縄文+口縁部及び口唇部にヘラ先刺突+コンパス文③にぶい赤褐5YR5/4④繊維・長石・石英・赤褐粒	-
	37	②波状口縁部片。口唇部に鋸歯状突起。羽状縄文③橙7.5YR6/6④繊維・白色粒⑤外面に煤付着。	177
	38	②ループ文・O段多糸縄文+コンパス文③橙5YR6/6④繊維・長石・石英・赤褐粒	炉1
	39	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③黄橙7.5YR7/8④繊維・長石・石英⑤外面に煤付着。	36
	40	②異条縄文(正反の合燃)・ループ文・O段多糸縄文③黄橙7.5YR7/8④繊維・長石・石英	176
	41	②末端ループ付O段多糸縄文③橙5YR6/6④繊維・長石・石英	238
	42	②末端ループ付O段多糸縄文③橙5YR6/6④繊維・長石・石英・赤褐粒⑤外面に煤付着。	322
	43	②異節縄文(前々段合燃)③黄橙7.5YR8/8④繊維・長石・石英⑤底部付近の破片で内面焦げる。	146
	44	②異条縄文(正反の合燃)+半截竹管状工具による沈線文③橙7.5YR7/6④繊維・白色粒	128
	45	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文・沈線文③灰褐7.5YR6/2④繊維・長石・石英・白色粒⑤内面わずかに焦げる。	30
	46	②ループ文・異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	-
	47	②組紐文③橙7.5YR6/8④繊維・長石・石英・角閃石・白色粒⑤内面焦げる。	-
	48	②異条縄文(正反の合燃)③橙7.5YR6/8④繊維・長石・石英・角閃石・白色粒	-
49	①底径(10.4cm)②上げ底と推定される。末端ループ付O段多糸縄文、底部大半を欠損するが底部にも施文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・粗砂粒・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	119	
36号住居跡 第77図 P.L.56	1	①口径17.4cm②O段多糸縄文+口縁部に沈線格子目文+コンパス文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英⑤炉に使用。	埋1
	2	②異節縄文(前々段合燃)+豆状貼付文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	3
	3	②口縁部厚く、口唇部平坦。異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③明黄褐10YR6/6④繊維・長石・石英・角閃石	18
	4	②波頂部に突起。波頂部左右に刻み目。口縁部に刺突文③橙7.5YR6/6④繊維・長石・石英	-
	5	②複節縄文+半截竹管状工具による波状文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・白色粒・角閃石	-
	6	②異条縄文(正反の合燃)・異節縄文(前々段合燃)+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石	23

縄文時代土器観察表 9

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
36号住居跡	7	②ループ文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石	-
	8	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英	-
	9	①底径(7.6cm)②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	21
	10	①底径7.7cm②底部上げ底。O段多条縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英	32
31号土坑	1	第101図、P L 58②異条縄文(正反の合燃)③にぶい橙5YR6/6④繊維・微砂粒	1
44号土坑 第101図 P L 58	1	②組紐文+コンパス文③灰黄褐10YR4/2④繊維・長石・石英・白色粒	-
	2	②異条縄文(正反の合燃)+コンパス文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・長石・石英・白色粒	-
	3	②O段多条縄文+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・長石・石英・赤褐粒	4
49号土坑	1	第101図、P L 58②末端ループ付O段多条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英	1
135号土坑	1	第101図、P L 58②R L 縄文+コンパス文③橙5YR6/8④繊維・長石・石英・白色粒	1
25号土坑	1	第101図、P L 58②R L 縄文③明赤褐2.5YR5/6④長石・石英・角閃石	1
217号土坑 第101図 P L 58	1	②縄文+半截竹管状工具による平行沈線・爪形文で木の葉状に区画し区画外の縄文を磨消す③にぶい橙7.5YR6/4④粗砂粒・長石・石英	-
	2	②結節のあるR L 縄文③にぶい黄橙10YR7/3④白色粒・角閃石	-
12号土坑	1	第101図、P L 58②集合沈線+耳状貼付文③淡黄2.5Y8/4④粗砂粒・長石・石英	2
30号土坑	1	第101図、P L 58②平行沈線区画+沈線による格子目文③にぶい褐7.5YR5/4④長石・石英	-
36号土坑	1	第101図、P L 58②無文③暗赤褐5YR3/3④長石・石英・白色粒	4
40号土坑 第101図 P L 58	1	②隆帯区画+隆帯沿いに2条の沈線+口縁部に縄文③灰褐7.5YR4/2④金雲母・長石・石英	1・5
	2	②縄文+口縁部に工字状の沈線③にぶい黄橙10YR6/4④長石・石英・角閃石	12
	3	②縄文+小さい同心円状・平行沈線③にぶい褐7.5YR5/3④長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	2
48号土坑 第102図 P L 58	1	①器高21.8cm・口径23.5cm・底径12.5cm②4単位の波状口縁。波頂部は鋸歯状で、中央が半円形に凹み2単位のY字状隆線を貼り付けるもの、楕円形の透かし孔を持ち孔に沿うようにY字状隆線を貼り付けるものがあり、それぞれ対をなしている。胴部にV字状の貼付文、内面口縁部に沿って沈線が施される。③にぶい橙7.5YR6/4④金雲母・粗砂粒・長石・石英⑤内面下半がわずかに焦げる。	1・2・ 3・4・ 5・6
	2	②内面口縁部に稜。無文③にぶい赤褐5YR4/3④長石・石英・角閃石	14
50号土坑 第102図 P L 58	1	①口径(25.0cm)②口縁部に小突起を推定4単位配す。口縁部に角押文2列、胴部は無文。③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・雲母・長石・石英・角閃石⑤外面部分的に煤付着。	9
	2	①口径(23.9cm)②4単位の波状口縁と想定される。波頂部に粘土をV字状に重ねた小突起を貼り付ける。外面胴部に輪積痕を意図的に残し「L」字が連続するような効果を上げている。③にぶい橙7.5YR6/4④金雲母・長石・石英	17・20
	3	②波状口縁部。波頂部に円形刺突、波頂部下にV字状隆線+口縁部・隆帯沿いに沈線2条③暗赤褐5YR3/2④長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	29
51号土坑	1	第103図、P L 59①無節縄文③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・長石・石英・角閃石	1
54号土坑	1	第103図、P L 59①底径8.6cm②無文③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	3
55号土坑 第104図 P L 59	1	①口径(52.2cm)②4単位の波状口縁と想定される。頸部くびれる。内面口縁部に稜。施文は上半部のみ。縄文+頸部下にV字状の貼付文+胴部横位沈線の上側U字状・下側逆U字状の連続沈線区画、波頂部下縦位に刺突により円形文様を配置、円形文様及び口縁部に沿うように押引文もしくは沈線による区画③にぶい橙7.5YR7/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤図上復元。内面底部付近焦げ。外面上半部～頸部に煤付着。	2・3・ 4・5・ 6・9・ 10
56号土坑 第103図 P L 59	1	②縄文+隆帯貼り付け+三角印刻文③黒褐10YR3/1④金雲母・長石・石英・角閃石	16
	2	②縄文+同心円状沈線③黒褐10YR3/1④金雲母・長石・石英・角閃石	6
	3	②縦位隆帯+L R 縄文+平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石	13
58号土坑	1	第103図、P L 59②沈線・角押文③橙5YR6/6④長石・石英・角閃石	1
59号土坑	1	第103図、P L 59②縄文+直線・U字状沈線③にぶい赤褐5YR5/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤外面煤、内面焦げ。	2・3
60号土坑	1	第104図、P L 59②口縁部下に粘土紐を逆三角形に回して貼り付ける+押引文③明赤褐2.5YR5/6④長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	2・3
61号土坑	1	第104図、P L 59②R L 縄文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	1
64号土坑	1	第104図、P L 59②R L 縄文を縦方向に施文+縦位隆帯+平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石	4
65号土坑 第104図 P L 60	1	②口縁部にR L 縄文③暗褐7.5YR3/4④金雲母・長石・石英	3
	2	①径4.4×4.1cm・厚さ1.1cm②土製円板。L R 縄文+沈線③赤褐5YR4/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石	2

縄文時代土器観察表10

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
67号土坑	1	第104図、P L 60②結節あるR L縄文+沈線③暗赤褐5YR3/3④結晶片岩・長石・石英	1・9
68号土坑	1	第104図、P L 60②縦位・斜位の沈線③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石	8
73号土坑	1	第104図、P L 60②破片内に4条の沈線③に、褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石⑤口縁部S字状に折れる。外面に煤付着。	-
75号土坑	1	第104図、P L 60②角押文③黒褐7.5YR3/1④金雲母・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	1
76号土坑 第104図 P L 60	1	②R L縄文+平行沈線③に、赤褐5YR4/3④結晶片岩・長石・石英・角閃石	17
	2	②隆帯貼り付け+平行沈線③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石	1
77号土坑 第105図 P L 60	1	②内面口縁部に稜を持ち、波状貼付文。外面口縁部、沈線後に連続刺突を施す。③灰黄褐10YR4/2④金雲母・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	9
	2	②沈線③に、褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石⑤鋭く屈曲する。	10
	3	②弧状沈線・押引文③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石	1
	4	②結節あるL R縄文③に、褐7.5YR5/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石	7
79号土坑	1	第105図、P L 60②沈線③に、褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石⑤外面煤付着。	4
80号土坑	1	第105図、P L 60②押引文③黒褐10YR3/2④金雲母・長石・石英	6
81号土坑	1	第105図、P L 60①器高26.3cm・口径(22.5cm)・底径12.4cm②無文③に、橙7.5YR7/4④長石・石英・角閃石	1
82号土坑	1	第105図、P L 60②R L縄文③黒褐7.5YR3/1④長石・石英・角閃石	2
83号土坑	1	第105図、P L 60②縦位隆帯+縄文+平行沈線③黒褐10YR3/2④結晶片岩・長石・石英	2
85号土坑	1	第105図、P L 60②無文③に、褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石	-
88号土坑	1	第105図、P L 60①口径(21.6cm)②内面口縁部に稜を持つ。口縁部下に隆帯・胴部に縦位隆帯+R L縄文+沈線を直線・逆U字状・三叉状に施す③に、褐7.5YR5/4④金雲母・長石・石英・角閃石⑤外面一部に煤付着。図上復元。	3・6・ 7・8
89号土坑	1	第105図、P L 60②刻み目のある波状口縁。R L縄文+平行沈線による長方形区画③に、赤褐5YR5/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤外面一部に煤付着。	2・4・ 5・6
95号土坑 第106図 P L 61	1	①底径13.8cm②L R縄文を縦方向に施文③橙5YR6/6④結晶片岩・長石・石英	1・6
	2	②口縁部内面に稜を持つ。縄文+沈線・刺突③黒褐5YR3/1④結晶片岩・長石・石英・角閃石	-
98号土坑	1	第106図、P L 61 ②縦位隆帯+押引文③に、赤褐5YR4/3④結晶片岩・長石・石英	2
100号土坑 第106図 P L 61	1	②隆帯+R L縄文③に、赤褐5YR5/4④長石・石英・角閃石	4・5
	2	②縄文+沈線③褐7.5YR4/3④長石・石英・角閃石	1
	3	②R L縄文+蛇行沈線③に、黄褐10YR5/3④金雲母・長石・石英・角閃石	2
102号土坑	1	第106図、P L 61 ②R L縄文+沈線③に、赤褐5YR5/4④結晶片岩・長石・石英	-
106号土坑	1	第106図、P L 61②縄文+半截竹管状工具による平行沈線で同心円・横位直線・縦位直線を描く③に、赤褐5YR5/4④結晶片岩・白色粒⑤内面下半焦げ。外面一部に煤付着。	2
108号土坑 第107図 P L 61	1	①器高20.7cm・口径16.0cm・底径9.5cm②口唇部に小突起、2単位と推測される。縄文+口縁部に半截竹管状工具によるU字状沈線を連続させる。その下に横位平行沈線+ヘラ先状工具連続刺突③赤褐5YR4/6④結晶片岩・長石・白色粒・赤褐粒⑤外面上半に煤付着。	5・6
124号土坑	1	第107図、P L 61②縦位平行沈線③に、赤褐5YR5/4④雲母・長石・石英	-
126号土坑	1	第107図、P L 61②平行沈線・爪形文③に、赤褐5YR4/4④結晶片岩・長石・石英	1
131号土坑	1	第107図、P L 61②平行沈線+ヘラ先刺突③明赤褐5YR5/6④金雲母・長石・石英	5
132号土坑	1	第107図、P L 61②縦位沈線③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤煤付着。	1
133号土坑	1	第107図、P L 61②平行沈線③橙5YR6/6④長石・石英・角閃石	1
152号土坑 第107図 P L 61	1	②半截竹管状工具及びヘラ先状工具による交互沈線③黒褐5YR3/1④長石・石英・角閃石	1
	2	②沈線による同心円文③赤褐5YR4/6④結晶片岩・長石・石英	4
164号土坑 第107図 P L 61	1	②爪形文、口唇部にも刺突文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・金雲母・長石・石英・角閃石	-
	2	②細縄文+平行沈線③明赤褐5YR5/8④結晶片岩・長石・石英⑤内面焦げる。	-
172号土坑	1	第107図、P L 61②縄文+沈線・三角形印刻文③黒褐5YR3/1④結晶片岩・雲母・長石	5
174号土坑	1	第107図、P L 61②工具平行沈線+交差するヘラ先沈線③赤褐5YR4/6④長石・石英・角閃石⑤外面口縁部に煤付着。	1
182号土坑	1	①器高33.8cm・口径21.6cm・底径12.8cm②頸部くびれる。内面口縁部に稜。底部欠損。無文③橙7.5YR7/6④長石・石英・角閃石⑤外面上半に煤。内面下半は焦げる。	68~95

縄文時代土器観察表11

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
182号土坑 第108図 P L 62	2	①器高24.7cm・口径(20.6cm)・底径14.2cm②内面口縁部に稜を持つ。貼付文2単位。口縁部に径6mm程度の円柱状粘土を縦位に貼り付け、その回りに幅8mmの帯状粘土を上面から見るとV字状に3段貼り付けている。そのほかは無文である。③に黄橙10YR6/4④結晶片岩・金雲母・雲母・長石・石英⑤底部に圧痕あり	29・ 43・ 44
	3	②内面口縁部に稜。結節縄文③に赤褐2.5YR4/4④結晶片岩・雲母・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。口唇部に縄文。	38
	4	②口縁部肥厚する。縄文③黒褐10YR3/2④結晶片岩・雲母・長石・石英・角閃石⑤外面に煤付着。口唇部にも縄文。	52
	5	②波状口縁部片。内面口縁部に稜を持つ。細縄文+沈線③に赤褐5YR4/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石	25
	6	②外面無文であるが内面口縁部に押引文③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石	28
	7	②細縄文+縦位・横位の平行沈線③に黄褐10YR5/4④結晶片岩・長石・石英角閃石	65
	184号土坑 第109図 P L 62	1	①器高23.0cm・口径18.3cm・底径9.7cm②R L縄文③に赤褐5YR5/4④結晶片岩・長石・石英・白色粒⑤内面底部付近に焦げ。外面上半部分的に煤付着。
2		②縄文+貼付文に刺突③に黄橙10YR7/4④長石・石英・角閃石・赤褐粒	-
186号土坑 第109図 P L 62	1	①器高(23.6cm)②縄文+口縁部にV字状貼付文+半截竹管状工具平行沈線+ヘラ先刺突③橙5YR6/6④結晶片岩・長石・石英⑤外面部分的に煤付着。	3・23 ・26
	2	②豆粒状貼付文③に赤褐5YR4/4④結晶片岩・長石・石英⑤地文はない。	17
	3	②角押文③橙5YR7/6④長石・石英・角閃石	11
188号土坑 第109図 P L 62・63	1	②紐状粘土貼付け+縄文+弧状沈線③橙5YR7/8④長石・石英・角閃石⑤口縁部内側に折返。	42
	2	②単節縄文③黄灰2.5Y4/1④白色粒・長石・石英・角閃石⑤口縁部外側に折返す。	65
	3	②R L縄文を縦位施文+沈線③明赤褐5YR5/6④長石・石英・角閃石	18
189号土坑	1	第109図、P L 63②内面口縁部に稜。縄文・結節文+沈線+刺突文③褐灰7.5YR4/1④結晶片岩・粗砂粒・長石・石英	-
190号土坑 第109図 P L 63	1	①口径(29.2cm)・底径(18.6cm)②口縁部内湾する。口縁部に粘土紐貼付け、頸部に隆帯、頸部下にV字状貼付文、胴部縦位貼付文に刺突+細沈線+半截竹管状工具による渦巻状・縦位・横位・斜位の沈線③に褐7.5YR5/4④金雲母・結晶片岩・長石・石英・角閃石	1・2・ 5・6・ 7
191号土坑 第109図 P L 63	1	②内面口縁部に稜を持つ。貼付文③黒褐5YR3/1④長石・石英・角閃石⑤地文はない。	-
	2	②沈線+刺突文③明赤褐5YR5/6④雲母・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	-
195号土坑 第110図 P L 63	1	②内面口縁部に稜を持つ。隆帯を貼り付け口縁部でX字状に交差させる。縄文+沈線+刺突③黒褐7.5YR3/1④金雲母・長石・石英⑤口唇部にもヘラ先刺突。	5
	2	①底径推定13.2cm②平行沈線+D字状刺突③橙5YR6/6④結晶片岩・長石・石英⑤内面焦げる。	11
	3	②括れ部に隆帯+胴部に斜め隆線+L R縄文・沈線・刺突文③暗褐10YR3/4④金雲母・結晶片岩・白色針状粒・長石・石英	6
	4	②押引文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・長石・石英	3
	5	②縦位隆帯+L R縄文③黒褐7.5Y3/1④雲母・長石・石英・角閃石	5
	6	②細縄文+平行沈線③橙7.5YR7/6④雲母・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	-
197号土坑 第110図 P L 63	1	②括れ部に隆帯+沈線・口縁部に短沈線③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・長石・石英・角閃石	--
	2	②沈線+三角形刺突文③に褐7.5YR5/3④金雲母・長石・石英・角閃石	-
	3	②縦位隆帯+L R縄文③明赤褐5YR5/6④雲母・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	-
199号土坑 第110図 P L 63	1	②内面口縁部に稜を持つ。L R縄文+沈線+刺突③に赤褐2.5YR4/4④雲母・長石・石英	--
	2	②縦位平行沈線③明赤褐5YR5/6④金雲母・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	1
205号土坑 第110・112図 P L 63	1	②沈線(上半部は格子目状)③橙7.5YR6/6④金雲母・長石・石英・角閃石	26
	2	②破片内は無文③に赤褐5YR5/4④雲母・長石・石英・角閃石	-
	3	①底径14.4cm・残存高42.3cm②胴部上半に無節R縄文(下半部は無文)③に橙5YR6/4④長石・石英・角閃石⑤外面部分的に煤付着。	1・ 2・
206号土坑	1	第112図、P L 64②縦位沈線③明赤褐5YR5/6④長石・石英・角閃石	-
207号土坑 第111図 P L 64	1	①器高42.2cm・口径36.6cm・底径16.1cm②口縁部肥厚する。底部欠損。括れ部に隆帯。括れ部隆帯上:口縁部に逆「J」字状の貼付文4単位+口縁部に2cm前後の幅でR L縄文+隆帯+平行沈線+沈線・半截竹管状工具による刺突、胴部:R L縄文を縦方向に施文+蕨手状貼付文+半截竹管状工具による蕨手状等の沈線③橙7.5YR6/6④金雲母・長石・石英	1
214号土坑	1	第112図、P L 64②無節縄文③赤褐5YR4/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石・赤褐粒	-
215号土坑	1	第112図、P L 64①底径(12.2cm)②単節縄文③に黄橙10YR6/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤外面一部煤付着。	1
218号土坑	1	第112図、P L 64②外面条痕・内面口縁部押引文③橙5YR6/6④結晶片岩・長石・石英	1
遺構外	1	②半截竹管状工具平行沈線③に黄橙10YR7/4④繊維・長石・石英・角閃石	G8

縄文時代土器観察表12

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
第114～116図 P L 65～67	2	②R L 縄文+推定径15mmの円形孔③に黄橙10YR7/3④長石・石英・角閃石	J8
	3	②半截竹管状工具平行沈線(木葉状)+円形竹管刺突③暗赤褐5YR3/6④長石・石英・角閃石	表採
	4	②浮線文+斜めに刻み・刺突③浅黄橙10YR8/4④長石・石英・角閃石	表採
	5	②沈線+耳状貼付文③に黄橙10YR7/2④長石・石英・角閃石・白色粒	H8
	6	②無節縄文+耳状・ボタン状貼付文③に黄橙10YR7/2④長石・石英・角閃石・白色粒	I7
	7	②集合沈線③に黄橙10YR7/4④白色粒・赤褐粒・角閃石	H8
	8	②結節状浮線③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石・赤褐粒	Bト
	9	②L R 縄文+平行沈線+三角形印刻文③に黄橙10YR5/4④結晶片岩・金雲母・長石・石英⑤外面一部に煤付着。	L17
	10	②口縁部外側に折り返される。単節縄文③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石	I11
	11	①器高37.7cm・口径(26.8cm)・底径11.8cm②口縁部の5cmほど下に太い凹線を一周させ、X字状つまみを推定8単位+無節縄文+平行沈線を縦位・横位鋸歯状に施す③に黄橙7.5YR7/4④粗砂粒・長石・石英・角閃石⑤外面一部に煤付着。	H7・ H8
	12	①残存高27.8cm・口径22.4cm②推定3単位の波状口縁。波頂部に渦巻き状文様。縄文+縦位隆線3単位+棒状工具による弧状・直線・蛇行状等の沈線+部分的に棒状工具による刺突③に黄橙10YR7/4④雲母・長石・石英・角閃石	G8・ J8
	13	①底径12.2cm②R L 縄文+半截竹管状工具縦位平行沈線4単位③に黄橙7.5YR6/4④結晶片岩・雲母・長石・石英⑤施文後器面をナデ。	I11
	14	①口径(19.8cm)②口縁部内側に折り返される。括れ部に隆帯・胴部に垂下する隆線+隆線の両側に文様を対称施文(鍵の手状に複数の沈線+連続刺突文)③に黄橙7.5YR6/4④金雲母・長石・石英⑤外面一部に煤付着。	N12
	15	①口径(29.0cm)②波状口縁。内面口縁部に稜。波頂部下に貼付文+棒状工具による沈線+括れ部に円形竹管状工具連続刺突文③に黄橙7.5YR6/4④金雲母・長石・石英・角閃石	L17 M19
	16	①口唇部双山状小突起。口縁部内側に折り返される。口縁部下3cmほどに隆帯+沈線+刺突③灰褐7.5YR4/2④金雲母・石英	N12
	17	①底径9.8cm②無節縄文③に黄橙7.5YR6/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤内面焦げ。	N17
	18	①底径6.8cm②平行沈線③に黄橙7.5YR6/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤内面焦げ。	J8
	19	②波状口縁部片。波頂部に凹み。渦巻状等の押引文・口唇部に刻み目③に黄褐7.5YR5/4④結晶片岩・長石・石英・角閃石	I11
	20	②波状口縁部片。沈線(横位沈線間は格子目状)+連続刺突文③に赤褐5YR4/3④金雲母・長石・石英・角閃石	O18
	21	②縄文+沈線を弧状・鋸歯状に施す③に黄褐7.5YR5/4④結晶片岩・粗砂粒	M16
	22	②隆帯・口縁部に縄文+連続爪形文・刺突文③黒褐10YR3/1④雲母・長石・石英	I12
	23	②口縁部把手部分。頂部に渦巻き状貼付文・把手部分に円形及び逆U字状貼付文③に赤褐5YR4/3④雲母・長石・石英・角閃石	G8
	24	②L R 縄文+半截竹管状工具平行沈線・連続爪形文③橙5YR6/6④長石・石英・角閃石	M19
	25	②隆帯+R L 縄文(隆帯より上は横方向・隆帯より下は縦方向に施文)+沈線を直線・弧状・鋸歯状に施す③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石	I11
	26	②縄文+弧状沈線③に黄橙10YR6/4④長石・石英・角閃石⑤施文後ナデ。	I11
	27	②内面口縁部に稜。口縁部に貼付文+角押文③に黄褐7.5YR5/3④金雲母・長石・石英⑤口縁部内外面に煤付着。	I12
	28	②隆帯+隆帯間に「」状の貼付文③に赤褐5YR4/3④長石・石英・角閃石	G8
	29	②縄文+弧状隆帯を対象配置し交点に円形貼付文+隆帯に沿うように平行沈線③に黄橙7.5YR7/3④長石・石英・角閃石⑤赤彩の痕跡あり。	I11
	30	②単節縄文+沈線+沈線間の縄文を磨り消す③に黄橙10YR7/3④粗砂粒・石英・角閃石	Bト

弥生時代土器観察表1

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
91号土坑	1	第120図、P L 72②細縄文+沈線③褐灰10YR4/1④結晶片岩・長石・石英	1
92号土坑 第120図 P L 72	1	②条痕文③灰褐7.5YR4/2④粗砂粒・結晶片岩・長石・石英⑤外面一部に煤付着。	1
	2	②矢羽状平行沈線③橙5YR6/6④長石・石英・角閃石・赤褐粒	-
93号土坑	1	第120図、P L 72②条痕・条線③黒褐5YR2/1④結晶片岩・長石・石英	1
134号土坑	1	第120図、P L 72②無文③褐灰10YR4/2④結晶片岩・雲母・長石・石英	-
141号土坑	1	第120図、P L 72②結節のある縄文+半截竹管状工具による平行沈線+逆三角形・弧状の区画③に黄橙10YR7/4④長石・石英・角閃石・白色粒	-
143号土坑	1	②半截竹管状工具沈線+ヘラ先沈線③に黄橙10YR6/4④長石・石英・角閃石⑤一部赤彩あり。	-

弥生時代土器観察表 2

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
143号土坑 第120図 P L 72	2	②半截竹管状工具沈線③にぶい黄橙10YR7/4④粗砂粒・長石・石英・角閃石	-
	3	②沈線③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石	-
165号土坑 第120図 P L 72	1	②条痕文③褐灰10YR4/1④粗砂粒・白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	2
	2	②条痕文③褐10YR4/6④長石・石英・角閃石	-
	3	②条痕文③浅黄橙10YR8/3④粗砂粒・長石・石英・角閃石	-
166号土坑 第121図 P L 72	1	①口径23.0cm②口唇部平坦。底部欠損。口縁部無文。条痕文を地文とし、胴部上半に幅4mmほどの工具による沈線で変形工字文を施文。③灰白10YR8/1④長石・石英・角閃石・白色粒⑤内面上半は丁寧な磨かれ、下半には擦痕がある。	2
	2	①底径8.0cm。胴部最大径27.9cm②口縁部欠損。全体に条痕文③にぶい黄橙10YR7/3④結晶片岩・長石・石英⑤外面部分的に煤付着。	1
167号土坑	1	第120図、P L 72 ②条痕文③灰褐5YR4/2④結晶片岩・長石・石英・角閃石	-
168号土坑 第120図 P L 72	1	②条痕文+沈線による三角文③灰黄褐10YR6/2④粗砂粒・角閃石	3
	2	②条痕文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石	1
	3	②条痕文③赤褐5YR4/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石	2
169号土坑	1	第120図、P L 72 ②条痕文③赤褐5YR4/6④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤内面焦げる。	-
170号土坑	1	第120図、P L 72 ②集合沈線③浅黄橙10YR8/4④雲母・長石・石英	2
171号土坑 第120図 P L 72	1	②口縁部外反。条痕文③褐灰7.5YR4/1④結晶片岩・長石・石英・角閃石⑤内面にも条痕。	2
	2	②条痕文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・白色針状粒・長石・石英⑤外面一部に煤付着。	1
遺構外 第122図 P L 73	1	②条痕文+沈線③灰黄褐10YR4/2④結晶片岩・長石・石英・角閃石・白色粒	H8
	2	②条痕文③にぶい黄橙10YR6/4④長石・石英・角閃石	-
	3	①底径8.4cm②条痕文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・白色粒⑤底部に網代痕。外面煤付着。	H8
	4	②条痕文③灰褐7.5YR4/2④結晶片岩・長石・石英⑤外面に煤付着。内面焦げる。	-
	5	②条痕文③暗褐10YR3/3④結晶片岩・長石・石英	18
	6	②条痕文③にぶい褐7.5YR6/3④結晶片岩・細砂粒	18
	7	②条痕文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・粗砂粒・長石・石英	G8
	8	②条痕文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・粗砂粒・石英・赤褐色粒	-
	9	②条痕文③橙7.5YR6/6④長石・石英・角閃石⑤外面一部に煤付着。	-
	10	②条痕文③橙5YR6/6④粗砂粒・角閃石・白色粒	I7
	11	②条痕文③灰黄褐10YR5/2④長石・石英・角閃石	-
	12	②半截竹管状工具平行沈線後、縦位隆帯を破片内に2本③にぶい黄橙10YR6/3④結晶片岩・長石・石英・角閃石	G7

平安時代遺物観察表

31号住居跡 (第123図、P L 75)

番号	器種 器高・口径・底径 (cm)	残存	器形・成形・整形等の特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④注記 ⑤備考
1	土師器甕 25.6・20.1・4.6	1/2	コの字状口縁。肩部付近に最大径(23.4cm)。外面、口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	①にぶい橙7.5YR6/4 ②酸化 ③結晶片岩・石英・長石 ④カマド、他
2	土師器甕 -・(20.6)・-	1/4	コの字状口縁。肩部付近に最大径(推定21.6cm)。外面、口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	①にぶい橙7.5YR6/4 ②酸化 ③結晶片岩・石英・長石 ④1・10・62・83
3	須恵器破片 -・-・-	-	内外面ともナデ。	①灰白5Y7/1 ②還元・やや不良 ③石英・黒色粒 ④40・45、他
4	須恵器壺 -・(16.0)・-	1/5	ロクロ成・整形。体部内湾気味に立ち上がり、口縁部やや外反する。高台剥落。	①灰白2.5Y8/2 ②還元 ③石英・角閃石・赤褐色粒 ④-

32号住居跡 (第124図、P L 75)

番号	器種 器高・口径・底径 (cm)	残存	器形・成形・整形等の特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④注記 ⑤備考
1	土師器甕 27.3・19.5・3.5	1/2	緩いコの字状口縁。最大径21.7cm。外面、口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	①にぶい黄橙10YR7/4 ②酸化 ③細砂粒 ④カマド ⑤外面一部に煤付着
2	土師器甕 26.7・19.0・3.6	ほぼ完形	コの字状口縁。肩部付近に最大径(20.6cm)。外面、口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面、ヘラナデ。	①にぶい橙7.5YR6/4 ②酸化 ③結晶片岩・石英・長石 ④カ9 ⑤煤付着

第4章 まとめ

第1節 遺跡の変遷

八城二本杉東遺跡では、関山式期を中心とする縄文時代前期集落跡→縄文時代中期中頭土坑群→弥生時代前期後半～中期前半土坑群→平安時代集落という断続的な遺跡の変遷がみられる。ここでは各時期ごとに遺構・遺物を概括しておく。

縄文時代前期集落跡と遺物（第125図）

関山式期から諸磯c式期にかけての遺構・遺物が検出されているが、主体となるのは関山式期のものであり、黒浜～諸磯式期の遺構・遺物はわずかに散在するような状態にある。本遺跡の北西には柳瀬川の谷をはさんで黒浜～諸磯式期の集落遺跡である行田大道北遺跡（本書所収）が近接しており、本遺跡の関山式期集落は黒浜式期に至って行田大道北遺跡へと移動した可能性が考えられる。

関山式期の住居跡は25軒が検出されている。遺構の分布状況を見ると、2基の円形柱穴列を取り巻くように2群の住居跡群の存在を想定することができる。1号円形柱穴列を中心とするA群住居跡は円心から半径約60mの範囲内に、2号円形柱穴列を中心とするB群住居跡は円心から半径67m程度の範囲内に弧状もしくは円形に分布する状態にある。特に、B群の北側に位置する23号住居跡から南東側に位置する27号住居跡にかけては比較的整然とした弧状に住居跡が分布している。なお、B群の円弧の中心は2号円形柱穴列の円心から北東27mほどの位置（+）にあたり、その場合の円弧の半径は約70mである。住居跡中心点と円形柱穴列の円心との距離は、A群が8.5m～57m、B群20.5m～64.5mであり、その位置関係に明確な規格性は認められない。住居跡の主軸方向も不規則であるが、A群の1号・3号・4号住居跡、B群の17号・19号・20号・22号・26号・35号・36号住居跡等は円形柱穴列方向を指向しているようでもある。

関山式期の住居形態については次節で述べるが、1号住居跡と4号住居跡のように構造の類似した住居跡が近接して位置する状況が認められる。また、炉跡に埋設土器を有する住居跡（16号・35号・36号住居跡）はB群にのみ分布する。B群には大形住居跡（22号住居跡）も存在する。

本遺跡のように円形柱穴列を中心とした関山式期の集落形態は安中市・東畑遺跡¹⁾でも調査されている。また、住居跡群が2群存在する点については小林達雄が論じており²⁾、小林は「竪穴住居跡群が二分される現象は」縄文時代の「早期以来晩期にいたる各地の縄文集落遺跡に多数存在する」とし、いくつかの事例を検証しながら「縄文人の中には自らの集団に二分的なものを区別する原理の存在していた蓋然性がきわめて高かった」と指摘し、縄文人の社会組織や世界観との関係に言及している。

A・B住居跡群の中心的な位置にある円形柱穴列は、その位置関係から推測して集落構成員にとって何らかの象徴的な構築物であったと思われるが、上部構造等に不明な点が多い。遺構名を柱穴列としたものの柱痕と思われるものが確認できたのは2号円形柱穴列のピット1基のみで、確実に柱が立てられていたとは断定し難い状況にある。仮に柱が立てられていたとしても、各ピットの規模からみて高い柱であった可能性は低い。また、各ピットの円心からの配置角度は、1号円形柱穴列では7～46°とばらつきがあるが、2号円形柱穴列は14～22°と均等に近い状態にある。近年、こうした象徴的構築物と太陽の運行や山などとの関係が積極的に論じられている³⁾が、妙義山や浅間山などの本遺跡周辺の山や日の出・南中・日没等との関連性を明確にすることはできなかった。

関山式期の遺構からの出土遺物の内、土器は関山Ⅱ式が主体で関山Ⅰ式も散見される。施文は組紐文・異条縄文（正反の合撚）・羽状縄文・O段多条縄文・ループ文などにコンパス文や沈線文を加えるパターンが多い。29号住居跡1・35号住居跡13などのように刺突文が多用される神ノ木式土器もみられるが、量的には少ない。35号住居跡16のように、平行沈線間に梯子段状短沈線を施すものは二ツ木式土器の特徴とされている⁴⁾が、口唇部に鋸歯状突起があり本書では関山Ⅰ式土器の範疇に含めておきたい。

口唇部の突起には、いくつかのバリエーションがあり、本書では鋸歯状突起・長方形突起（27号住居跡1など）・半円形突起（9号住居跡1・35号住居跡11）・刻み目のある小突起・山形小突起（27号住居跡5）・板状突起（35号住居跡2・20）・三角形小突起などのように示した。半円形突起は片口注口土器の左右両端に付加されるとの指摘があり⁵⁾、本遺跡例でもそれは首肯される。また、口縁部付近を中心に円形もしくは円錐状・ボタン状等の貼付文を施すものは関山Ⅰ式土器に多いようである。

当該期土器の胎土には、繊維・石英・長石等が特徴的に観察される。9号住居跡2・24、12号住居跡1、14号住居跡2、26号住居跡17、27号住居跡7、29号住居跡14、35号住居跡4・11などには結晶片岩の含有も認められたが、比率的には全体の3%に満たない。

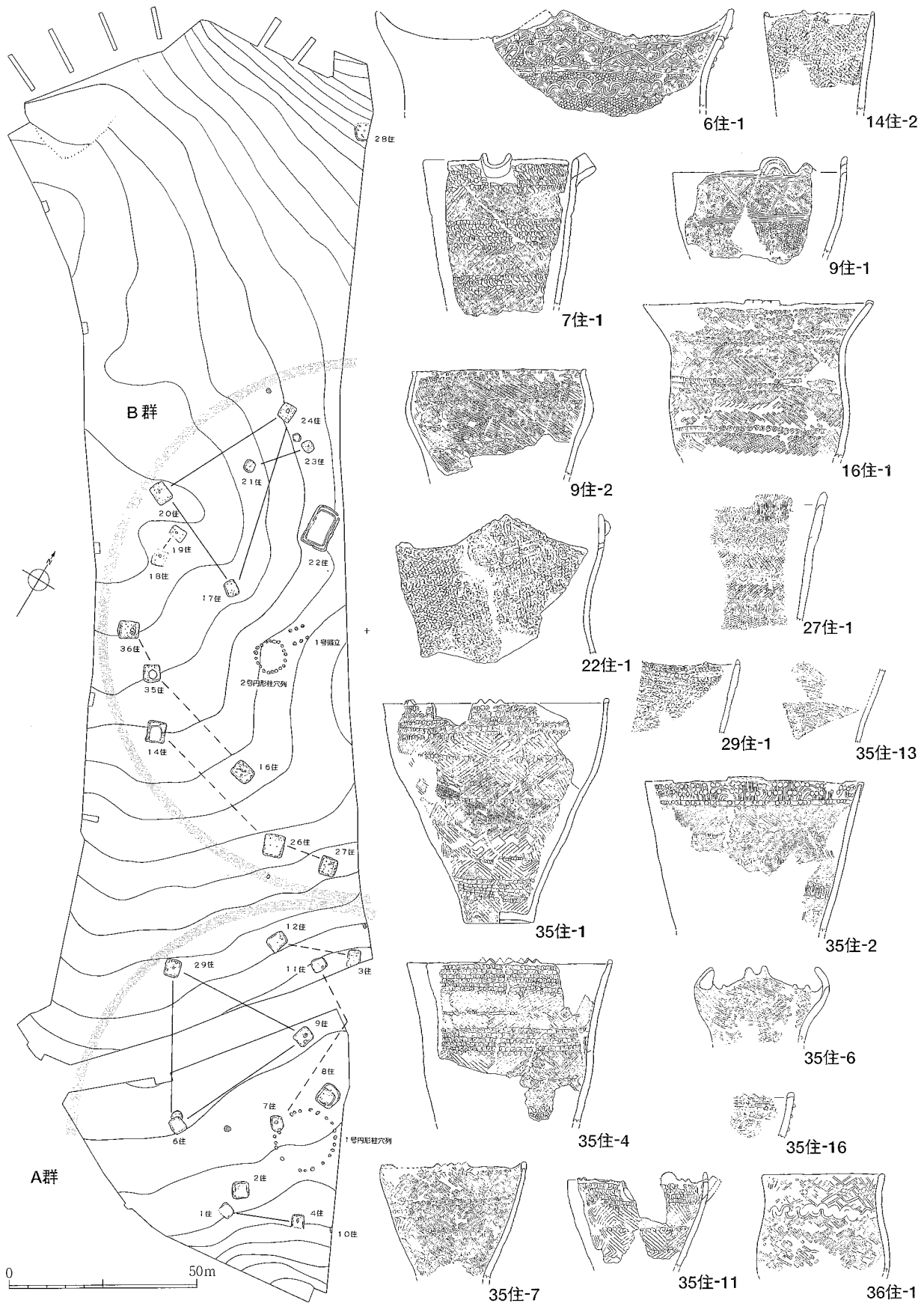
関山式期の住居跡及び土坑から出土した石器類は2,204点で、器種別の数値は以下の通りである。なお、()内の%数字は剥片類を除いた383点での比率を示す。石鏃41点（10.7%）、石錐12点（3.1%）、石匙17点（4.4%）、スクレイパー90点（23.5%）、打製石斧9点（2.3%）、磨製石斧1点（0.3%）、磨石・凹石152点（39.7%）、敲石17点（4.4%）、石皿15点（3.9%）、砥石2点（0.5%）、棒状礫2点（0.5%）、丸石6点（1.6%）、石鉢1点（0.3%）、石核17点（4.4%）、垂飾1点（0.3%）、剥片その他1,821点。石材は、黒曜石1,432点、チャート151点、珪質頁岩9点、黒色安山岩13点、頁岩364点、安山岩202点、砂岩11点、結晶片岩5点、緑色岩類4点、滑石1点、石灰岩3点、不明その他9点である。

縄文時代中期初頭土坑群と遺物（第126図）

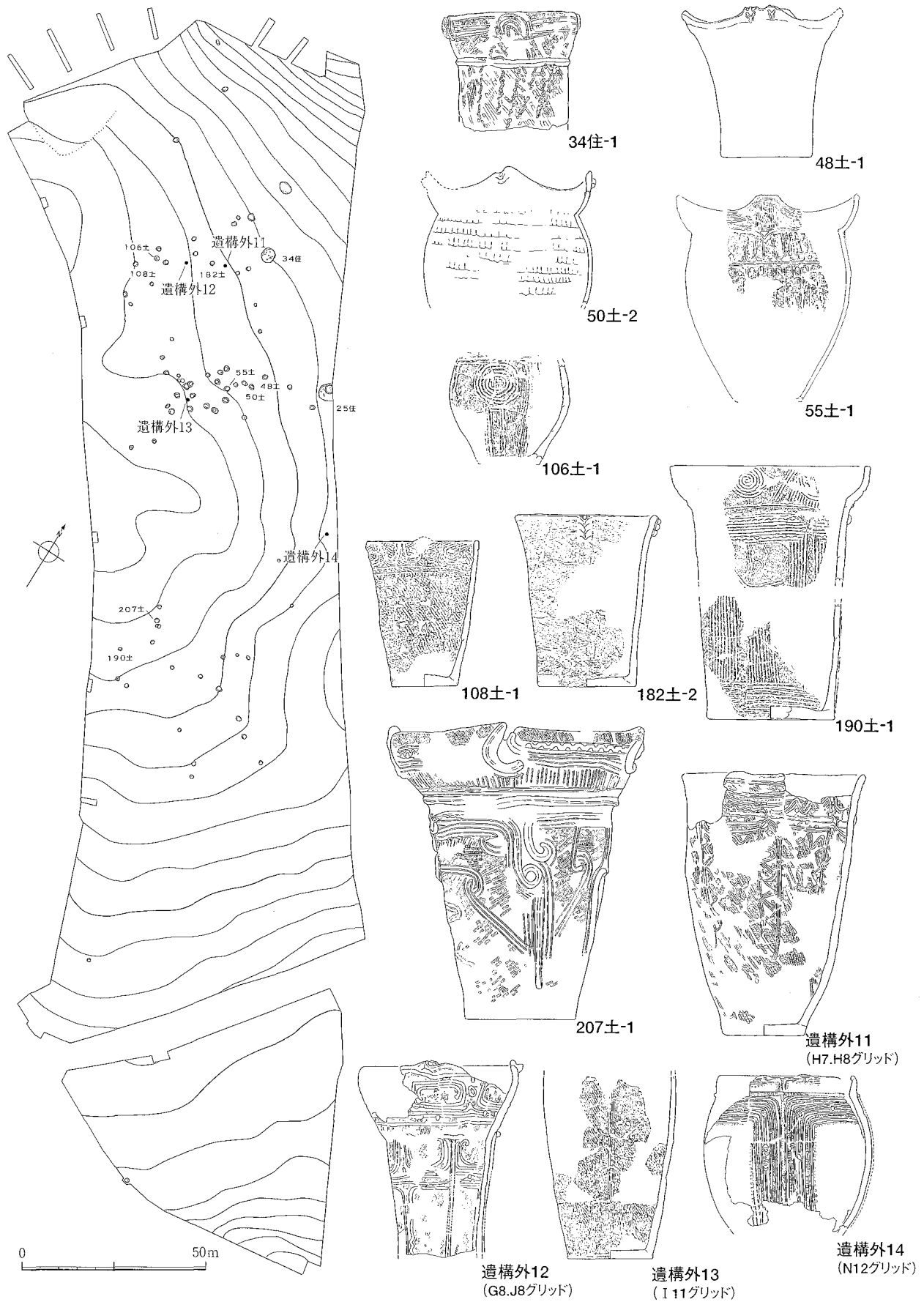
当該期の土坑群は先述したように住居跡の後背に展開する状態にある。住居跡2軒に対し、土坑77基と圧倒的に土坑の数が多い。これらの遺構からは五領ヶ台式期の良好な資料が得られている。また、包含層中からも多量の遺物が出土しているが、これらは何らかの遺構に伴っていた可能性が高い。

五領ヶ台式土器については種々の編年細分案が提示されている⁶⁾が、本書ではⅠ式（古段階）・Ⅱ式（新段階）と区分するとどめた。本遺跡の土器は、おおむね五領ヶ台Ⅱ式を中心とし、阿玉台式土器の古い段階のものまでがみられるようである。

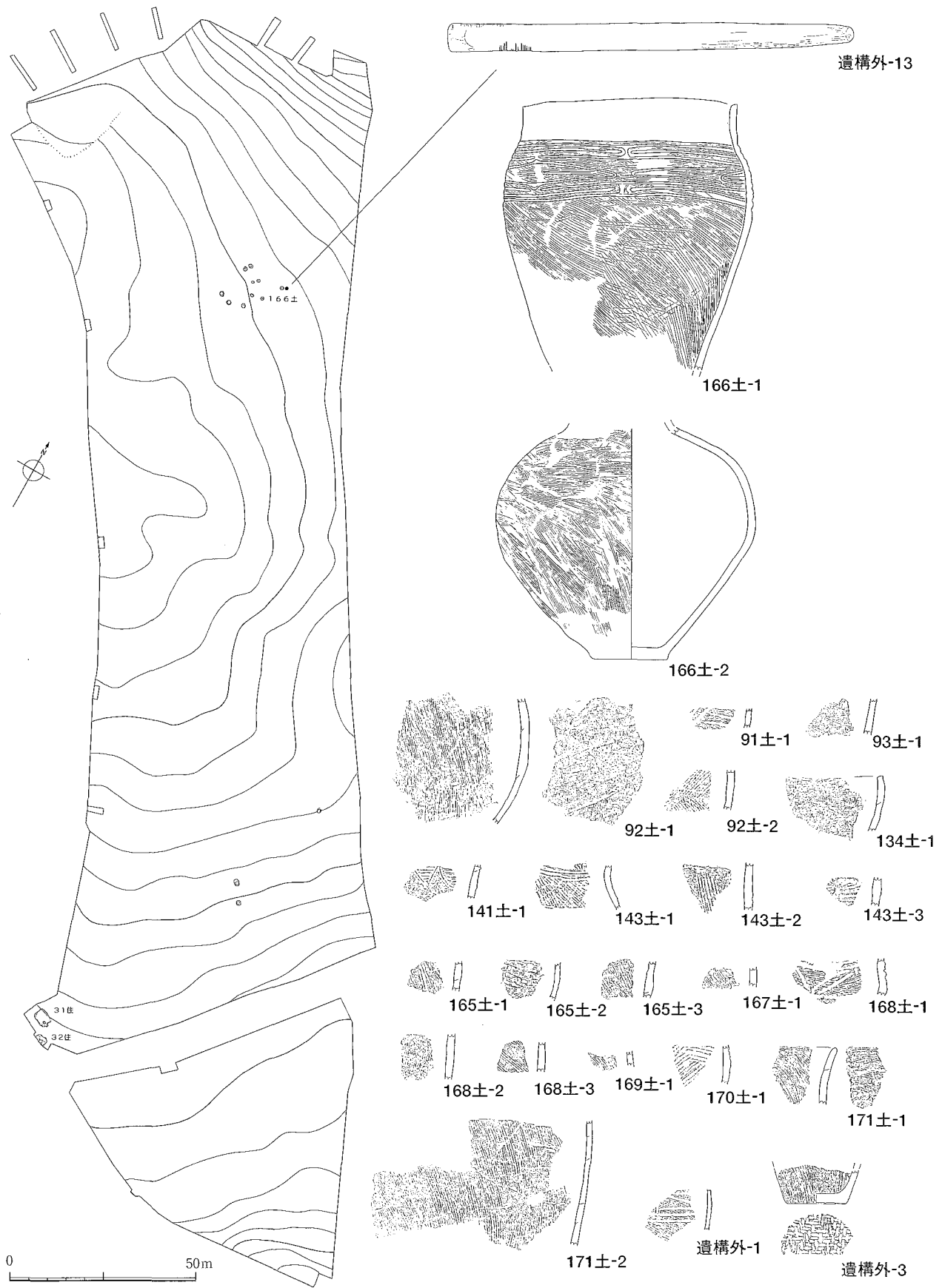
群馬県内の当該期土器資料については山口逸弘がまとめており⁷⁾、五領ヶ台Ⅱ式段階の土器分析の視点として、a：結束縄文の多様、b：区画内加飾手法の発展、c：口縁部肥厚部縄文施文の一群をあげ、cについては五領ヶ台式期の終末期の様相で東関東の土器群との対比が必要であるとしている。口縁部肥厚部縄文施文の土器は、本遺跡では108号土坑1や207号土坑1などが該当する。また、50号土坑2のように器面に輪積痕を残し、ひだ状文様のつくものは阿玉台Ⅰb式の特徴とされるが⁸⁾、Ⅰa式段階にも存在するようであり⁹⁾、器形も頸部が括れる点など、やや古相であることから本遺跡例は阿玉台Ⅰa式段階と考えておきたい。遺構外14は胴部が大きく膨らむもので、類似した器形と文様構成を持つ土器が栃木県・鶴田中原遺跡¹⁰⁾にみられる。本遺跡出土の当該期土器は胎土に、いわゆる金雲母や長石・石英・角閃石を含むものを通有とし、そのほか結晶片岩を含むものも目立つ。なお、190号土坑1は破片資料から図上復元したものであり、上下の位置関係にずれがあることを付け加えておく。



第125図 縄文時代前期の遺構分布図と遺物 (S=1/8)



第126図 縄文時代中期初頭の遺構分布図と遺物 (S = 1 / 8、55号土坑1のみ S = 1 / 16)



第127図 弥生時代・平安時代の遺構分布図と遺物 (S = 1 / 6)

弥生時代前期後半～中期前半土坑群と遺物（第127図）

土坑13基と包含層中から条痕文や変形工字文・三角連繫文などを施文する土器が出土している。おおむね弥生時代前期後半（末葉）を中心とする時期の遺物と考えられるが、不詳な土器片もあり、中期前半までの時期幅を持たせておく。群馬県内の編年観では若狭編年¹¹⁾のⅠ-2期～Ⅱ期に相当する時期と想定されるものである。なお、土坑の性格については、骨片等が検出されていないため一概に断定はできないが、166号土坑の遺物出土状態などから再葬墓の可能性を考えておきたい。

166号土坑1は細密条痕地文に変形工字文を施す甕で胴部下側から底部を欠く。同じく2は口頸部を欠く条痕文の施された壺で、器形がある程度把握できるものはこの2点のみである。後者には胎土に結晶片岩の含有が認められる。また、破片資料ではあるが168号土坑1や遺構外1には三角連繫文が施されるようである。これらの遺物は藤岡市・沖Ⅱ遺跡例¹²⁾や倉渕村・上ノ久保遺跡例¹³⁾・下仁田町・杣瀬Ⅲ遺跡の包含層出土遺物¹⁴⁾に時期的に近い資料と考えられる。黎明期の弥生土器については、かつて第4回三県シンポジウムによって検討がなされ¹⁵⁾、上ノ久保遺跡出土土器は中期前半の岩櫃山式土器に先行するものと指摘されている¹⁶⁾。松井田町内では岩櫃山式系土器の良好な資料として上人見遺跡出土遺物¹⁷⁾がある。

さて、当該期の土坑群近接地点から出土した石剣については、先述（P142）したように弥生時代（前期）の遺物と想定した。石剣は縄文時代晩期を主体とした時期にみられる遺物であり¹⁸⁾、柄頭を瘤状に造作したり、柄の部分に沈線彫刻による文様が施されるものが多い。本遺跡例は、柄の部分に紐状のものを巻き付けた痕跡はあるものの、こうした加飾はみられず、形骸化した段階のものとも考えることも可能である。なお、本遺跡例に類似した石剣が、縄文時代後・晩期を中心とする月夜野町・矢瀬遺跡でも検出されている¹⁹⁾。

平安時代の遺構

本遺跡では住居跡2軒が検出されているにすぎず、しかも他の時期の遺構より地形的に低い部分に位置している。この内、32号住居跡からは板状の安山岩と河原石を使用した石組カマドが良好な状態で検出されている。また、31号住居跡1・2、32号住居跡2のコの字状口縁甕の胎土に結晶片岩が含有されていたことに注意しておきたい。

第2節 縄文時代前期関山式期の住居形態

本遺跡で検出された関山式期の住居跡は、他の遺構との重複が少なく、その形態を理解する上で良好な検出状態にある。また、本遺跡の当該期住居跡にはいくつかの類型がみられ、形態的な特徴からの分類が可能である。前節で述べたようにA・B住居跡群において類似した住居跡が近接して位置する状況が認められ、ここでは、住居形態の分類を通してそれを検証したい。なお、群馬県内の縄文時代前期住居形態については、既に原雅信や大工原豊がその特徴・類似性に着目して検討しており²⁰⁾、県外では、笹森健一²¹⁾らによる研究も行われている。以下に炉跡の構造も視点に加え、分類を試みることにする。

平面形態には（隅丸）長方形17軒・（隅丸）方形3軒・台形4軒、不明1軒がみられ、（隅丸）長方形のものが大半を占める。（隅丸）長方形の短軸：長軸比は1：1.2までのもの7軒、同じく1：1.2～1.5未満のもの7軒、1：1.5以上のもの3軒で、方形にちかいものも多い。住居跡の規模は、床面積でみると21号住居跡の5.0㎡を最小とし、最大は22号住居跡の40.6㎡である。平均値は15.2㎡であり、22号住居跡の規模は本遺跡において突出して大きい。壁周溝を一部にせよ有するものは6軒のみで、壁柱穴列は11号・21号・23号住居跡を除いて存在し、壁柱穴列が壁周溝を伴わない例が多いようである。この内、22号住居跡は壁外に周溝・

柱穴列が巡るもので他にあまり類例をみない。支柱穴配置は明確に把握できなかったものも多いが、1列2～3基支柱を平行配置するものが主体となるようである。

住居形態を平面形態・規模・壁周溝・壁柱穴列を基準に次のように分類する。

A類：平面形態長方形（短軸：長軸比1：1.5以上）、床面積は40㎡以上と大規模で、壁外に周溝・柱穴列を有する。22号住居跡のみが該当する。

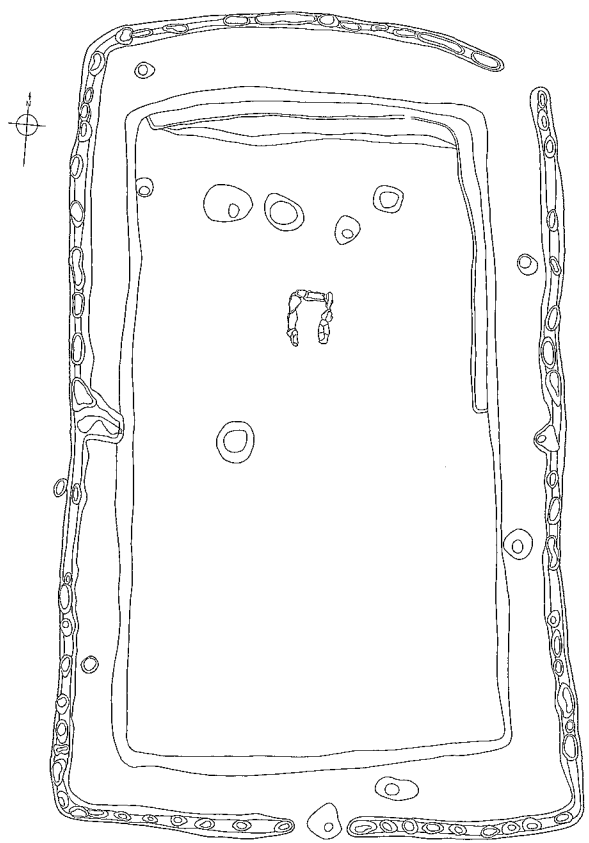
B1類：平面形態長方形（短軸：長軸比1：1.2～1.5未満）、床面積20～30㎡未満とやや規模が大きく、壁周溝・壁柱穴列を有する。2号住居跡のみが該当する。

B2類：平面形態長方形（短軸：長軸比1：1.2～1.5未満）、床面積10～20㎡未満と中規模で、壁柱穴列を有する。16号・17号・20号・24号住居跡。3号住居跡も本類と思われる。

B3類：平面形態長方形（短軸：長軸比1：1.2～1.5未満）、床面積10㎡未満と小規模で、壁周溝を有するが、壁柱穴はあまり密な状態ではない。7号・11号住居跡。

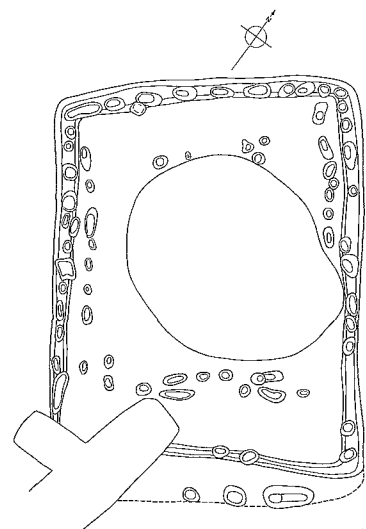
表14 関山式期住居跡一覧

遺構番号	位置	群	平面形態	規模	短軸：長軸	床面積	壁周溝	壁柱穴	柱穴配置	炉跡構造	分類
1号住居跡	V28	A群	長方形	3.37m×2.84m	1：1.19	9.3㎡	-	○	(平行)	コ状石囲い	C3-I
2号住居跡	V27	A群	長方形	5.50m×3.99m	1：1.38	21.6㎡	○	○	不明	不明	B1
3号住居跡	U21	A群	長方形	4.58m×3.02m	1：1.52	不明	-	○	(平行)	石+土器囲い	B2-II
4号住居跡	W27	A群	長方形	3.40m×2.84m	1：1.20	9.5㎡	○	○	(平行)	コ状石囲い	C3-I
6号住居跡	S27	A群	長方形	3.68m×3.18m	1：1.16	11.3㎡	-	○	(平行)	L状石囲い	C2-I
7号住居跡	U25	A群	隅丸長方形	3.38m×2.74m	1：1.23	8.7㎡	○	○	(対角)	コ状石囲い	B3-I
9号住居跡	U23	A群	長方形	4.10m×3.66m	1：1.14	14.8㎡	-	○	(平行)	コ状石囲+石敷	C2-I
10号住居跡	X27	A群	不明	不明	不明	不明	-	(○)	不明	不明	不明
11号住居跡	T21	A群	隅丸長方形	3.66m×2.64m	1：1.39	9.7㎡	○	-	平行	地床炉	B3-IV
12号住居跡	S21	A群	台形	4.52m×3.24m	1：1.40	14.6㎡	一部	○	平行	石+土器囲い	E2-II
14号住居跡	M19	B群	長方形	5.12m×4.58m	1：1.12	23.5㎡	-	○	不明	不明	C1
16号住居跡	P18	B群	長方形	5.04m×3.80m	1：1.32	19.0㎡	-	○	平行	埋設土器	B2-III
17号住居跡	M14	B群	長方形	3.70m×2.86m	1：1.29	10.5㎡	-	○	(平行)	コ状石囲い	B2-I
18号住居跡	K15	B群	長方形	4.10m×3.55m	1：1.15	14.1㎡	-	○	平行	石+土器囲い	C2-II
19号住居跡	K14	B群	台形	3.86m×2.78m	1：1.39	10.7㎡	-	○	平行	地床炉	E2-IV
20号住居跡	J13	B群	長方形	5.08m×3.90m	1：1.30	19.1㎡	-	○	平行	コ状石囲い	B2-I
21号住居跡	K12	B群	隅丸方形	2.36m×2.24m	1：1.05	5.0㎡	-	-	(平行)	地床炉	D3-IV
22号住居跡	N12	B群	長方形	8.65m×4.70m	1：1.84	40.6㎡	壁外○	壁外○	-	コ状石囲い	A-I
23号住居跡	L10	B群	隅丸方形	2.54m×2.54m	1：1.00	6.0㎡	-	-	(平行)	地床炉	D3-IV
24号住居跡	K10	B群	長方形	4.22m×3.30m	1：1.28	13.7㎡	-	○	平行	石囲い	B2-I
26号住居跡	Q19	B群	台形	5.50m×4.80m	1：1.15	25.3㎡	-	○	平行	石1	E1-I
27号住居跡	S19	B群	方形	4.46m×4.08m	1：1.09	17.7㎡	-	○	平行	石囲い	D2-I
29号住居跡	Q24	A群	長方形	3.78m×3.40m	1：1.11	12.2㎡	-	○	平行	コ状石囲い	C2-I
35号住居跡	L18	B群	台形	3.86m×3.74m	1：1.03	14.4㎡	-	○	平行	土器+埋設土器	E2-III
36号住居跡	K17	B群	長方形	4.86m×4.08m	1：1.19	19.7㎡	-	○	平行	石囲+埋設土器	C2-III



22号住

A類

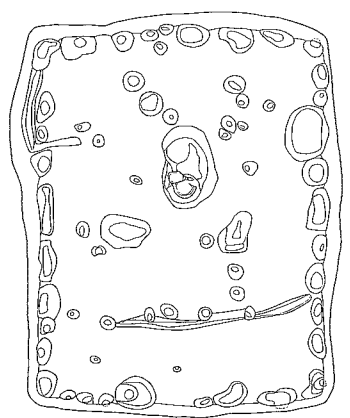


2号住

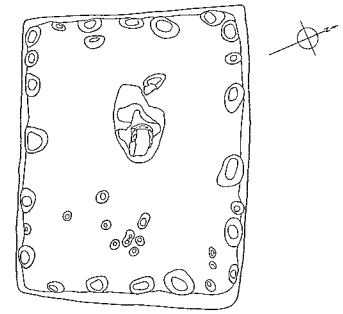
B 1 類



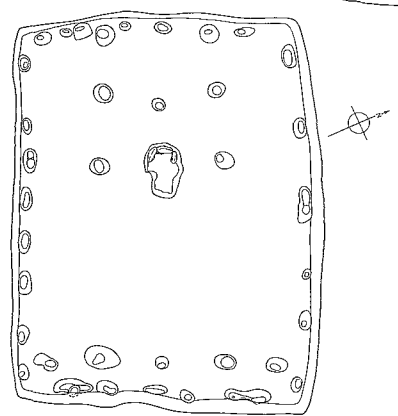
3号住



16号住

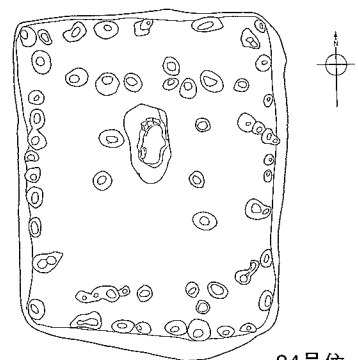


17号住

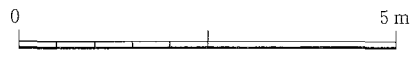


20号住

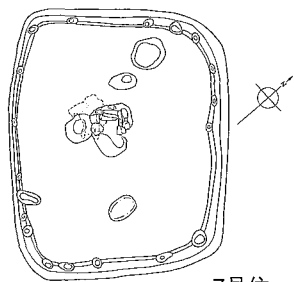
B 2 類



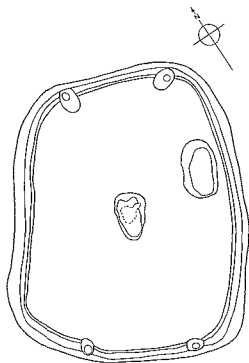
24号住



第128図 関山式期住居跡①

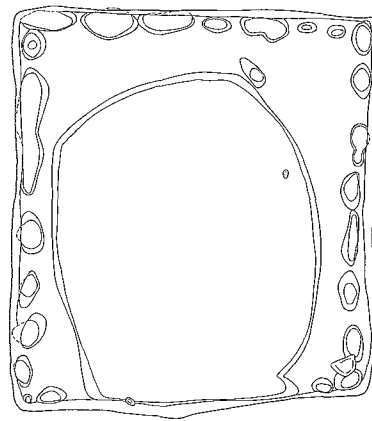


7号住



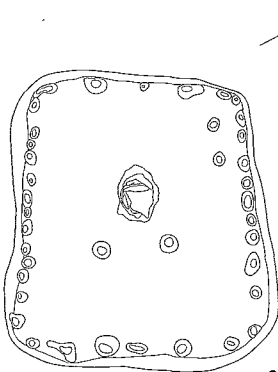
11号住

B 3類

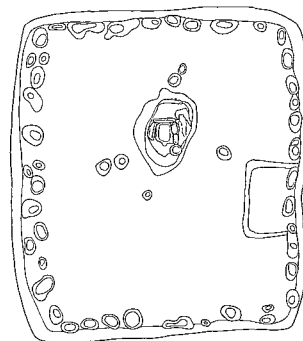


14号住

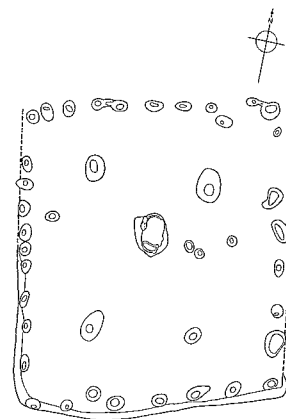
C 1類



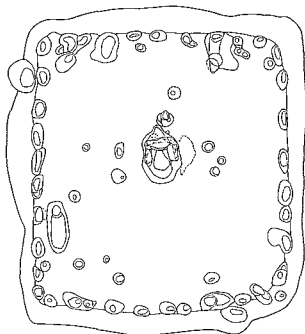
6号住



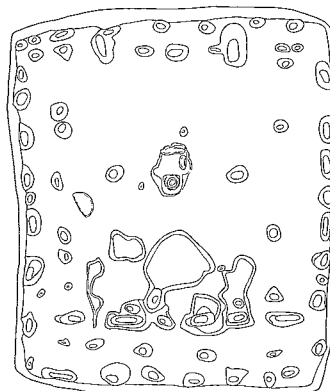
9号住



18号住

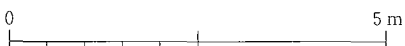


29号住

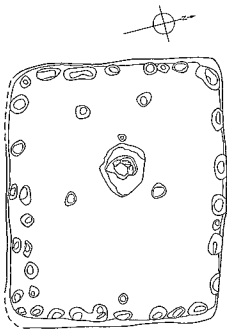


36号住

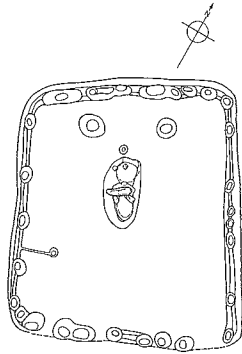
C 2類



第129図 関山式期住居跡②

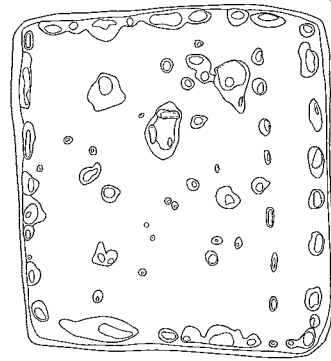


1号住



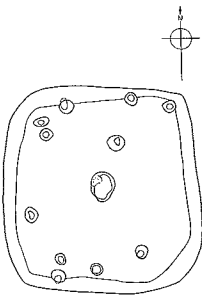
4号住

C 3 類

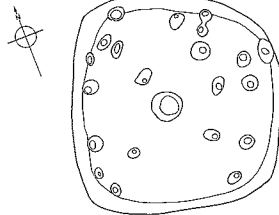


27号住

D 2 類

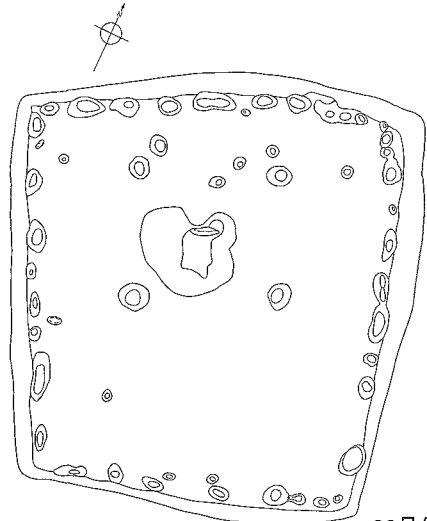


21号住



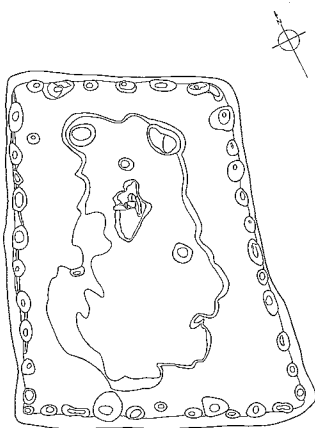
23号住

D 3 類

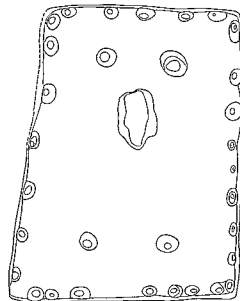


26号住

E 1 類

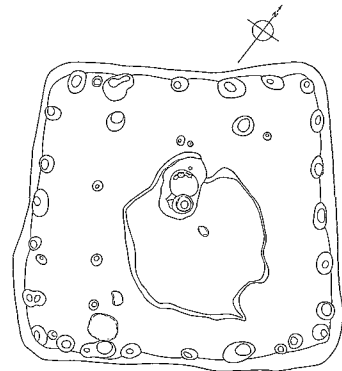


12号住



19号住

E 2 類



35号住



第130図 関山式期住居跡③

C 1 類：平面形態長方形（短軸：長軸比 1：1.2未満）、床面積20～30㎡未満とやや規模が大きく、壁柱穴列を有する。14号住居跡のみが該当する。

C 2 類：平面形態長方形（短軸：長軸比 1：1.2未満）、床面積10～20㎡未満と中規模で、壁柱穴列を有する。6号・9号・18号・29号・36号住居跡。

C 3 類：平面形態長方形（短軸：長軸比 1：1.2未満）、床面積10㎡未満と小規模で、壁柱穴列を有し、壁周溝を有するものもある。1号・4号住居跡。

D 2 類：平面形態方形、床面積10～20㎡未満と中規模で壁柱穴列を有する。27号住居跡。

D 3 類：平面形態隅丸方形、床面積10㎡未満と小規模で、壁周溝・壁柱穴列はない。21号・23号住居跡。笹森分類の「井沼方タイプ」に類似したものである。

E 1 類：平面形態台形、床面積20～30㎡未満とやや規模が大きく、壁柱穴列を有する。26号住居跡。

E 2 類：平面形態台形、床面積10～20㎡未満と中規模で、壁柱穴列を有する。12号・19号・35号住居跡。

平面形態方形の住居跡には20㎡以上の規模の大きいものはなく、また、同じく台形の住居跡には10㎡未満の小規模なもののみみられない。なお、これらの分類は数値での機械的な操作によるところが大きいいため、近接した各類には類似性の高いものも存在する。

次に、炉跡構造をみると、石囲い炉（Ⅰ類）、石と土器で囲うもの（Ⅱ類）、埋設土器を有するもの（Ⅲ類）、地床炉で石・土器囲いや埋設土器等の施設がないもの（Ⅳ類）に大別できる。Ⅰ類の石囲い炉はコ状に囲む例が多いが、L字状のものもみられる。Ⅳ類には本来石囲い等が存在した可能性もあることを考慮しておく必要がある。なお、Ⅰ類の内、コ状石囲いについては群馬県内以外には存在しないようであるとの指摘²²⁾があり、それによると県内では花積下層式段階に既に存在するようである。

Ⅰ類の石囲い炉は、A類(22号住居跡)、B 2 類(17号・20号・24号住居跡)、B 3 類(7号住居跡)、C 2 類(6号・9号・29号住居跡)、C 3 類(1号・4号住居跡)、D 2 類(27号住居跡)、E 1 類(26号住居跡)にあり、いずれの住居跡形態にも通有である。Ⅱ類の炉跡は、B 2 類(3号住居跡)、C 2 類(18号住居跡)、E 2 類(12号住居跡)にあり、中規模な住居跡に採用される傾向がみられる。Ⅲ類の埋設土器を有する炉跡は、B 2 類(16号住居跡)、C 2 類(36号住居跡)、E 2 類(35号住居跡)が相当する。Ⅳ類の炉跡は、B 3 類(11号住居跡)、D 3 類(21号・23号住居跡)、E 2 類(19号住居跡)にみられる。Ⅲ類の埋設土器を有する炉跡を有する16号・35号・36号住居跡は、いずれも関山Ⅰ式期と考えられ、この炉跡構造は時期差とみることが可能である。

以上のように、住居跡形態・炉跡構造から分類してみると、いくつかの分類群が抽出できる。A住居跡群の1号・4号住居跡（C 3 - Ⅰ類）、6号・9号・29号住居跡（C 2 - Ⅰ類）、B群住居跡の21号・23号住居跡（D 3 - Ⅳ類）、17号・20号・24号住居跡（B 2 - Ⅰ類）は同形態・同構造の住居跡と考えられる。また、A住居跡群の7号・11号住居跡、3号・12号住居跡、そしてB住居跡群の18号・19号住居跡、16号・35号・36号住居跡、14号・26号・27号住居跡は、それぞれ住居跡形態や炉跡構造の類似性が高い。

第125図をみると、これらの同形態・同構造の住居跡や類似性が高い住居跡2～3軒が近接して分布している状況が理解できる。B住居跡群をみると、関山Ⅰ式期と考えられる16号・35号・36号住居跡は3軒が縦列して位置し、これに後続すると思われる14号・26号・27号住居跡も3軒が縦列し、しかも前者に平行するような位置関係にある。また、小規模住居跡である21号・23号住居跡は大形住居跡である22号住居跡の北西に位置する状況にある。このように、円形柱穴列を中心とするA・B住居跡群の中には、さらに2～3軒程度の小住居跡群が認められるのであり、小住居跡群については住居形態・炉跡構造には時期差も関連していることが再検証された。なお、他遺跡例との比較・検討は不十分であり、それについては稿を改めたい。

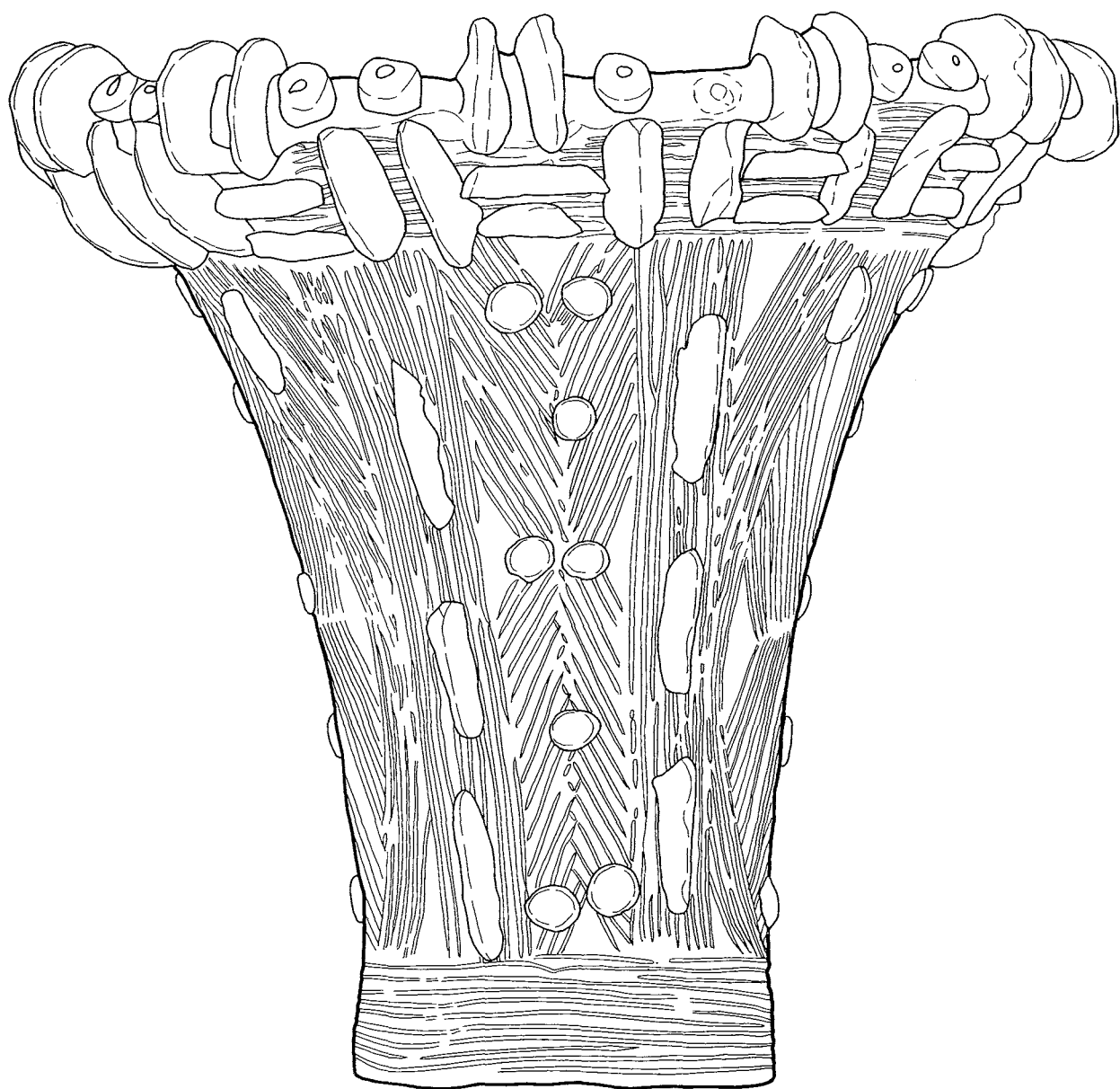
《引用・参考文献》

- 1) 大工原 豊 1994「東畑遺跡」『中野谷地区遺跡群』安中市教育委員会
- 2) 小林達雄 1996『縄文人の世界』朝日新聞社
- 3) 小林達雄編 1995『縄文時代における自然の社会化』季刊考古学・別冊6, 雄山閣
- 4) 新井和之 1986「文様系統論・関山式土器」『季刊考古学』第17号, 雄山閣
- 5) 4) 文献と同。
- 6) 今村啓爾 1985「五領ヶ台式土器の編年」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第4号
山本典幸 1988「五領ヶ台式土器様式」『縄文土器大観3 中期Ⅱ』小学館
中山真治 1992「五領ヶ台式土器-その段階設定と系統について」『東京考古』10, 東京考古談話会
- 7) 山口逸弘 1995「群馬県における中期初頭の土器群」『第8回縄文セミナー中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 8) 谷井 彪 1988「阿玉台式土器様式」『縄文土器大観2 中期Ⅰ』小学館
- 9) 7) 文献と同。
- 10) 塚本師也 1995「栃木県における中期初頭の土器様相」『第8回縄文セミナー中期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
- 11) 若狭 徹 1996「群馬県地域」『YAY! - 弥生土器を語る会20回到達記念論文集』弥生土器を語る会
- 12) 荒巻 実 1986『C11沖Ⅱ遺跡』藤岡市教育委員会
- 13) 山本良知 1975「烏川流域における弥生文化」『水沼遺跡』倉渕村誌別冊
- 14) 大賀 健 1994「杣瀬Ⅰ遺跡・杣瀬Ⅱ遺跡・杣瀬Ⅲ遺跡」下仁田町遺跡調査会・山武考古学研究所
- 15) 群馬県考古学談話会他 1983『第4回三県シンポジウム-東日本における黎明期の弥生土器』
- 16) 平野進一 1983「群馬県における初期弥生土器」15) 文献所収
- 17) 松井田町誌編さん委員会 1985『松井田町誌』
- 18) 野村 崇 1995「石剣・石刀」『縄文文化の研究9』雄山閣
- 19) 三宅敦気 1993「縄文時代後・晩期のムラ」『東国史論』第8号、群馬考古学研究会
- 20) 原 雅信 1991「群馬県における縄文時代前期の住居形態について」『研究紀要8』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
大工原 豊 1994「住居址の形態について」『中野谷地区遺跡群』
- 21) 笹森健一 1980「縄文時代前期の住居と集落(Ⅰ)」『土曜考古』第3号、土曜考古学研究会
笹森健一 1981「縄文時代前期の住居と集落(Ⅱ)」『土曜考古』第4号、土曜考古学研究会
笹森健一 1982「縄文時代前期の住居と集落(Ⅲ)」『土曜考古』第5号、土曜考古学研究会
- 22) 石坂 茂 1988「成果と問題点」『勝保沢中ノ山遺跡Ⅰ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

そのほか、関山式期の遺構・遺物については下記の文献を参考にした。

- 太田市教育委員会 1981『大塚・間之原遺跡確認調査の概要』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986『中畝遺跡・諏訪西遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986『三後沢遺跡・十二原Ⅱ遺跡』
富士見村教育委員会 1986『田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見限遺跡』
北橋村教育委員会 1986『分郷八崎遺跡』
月夜野町教育委員会 1986『善上遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990『下箱田向山遺跡』
渋川市教育委員会 1994『半田中原遺跡』
北橋村教育委員会 1996「西ノ平遺跡」『北橋村村内遺跡Ⅳ』
縄文時代研究班 1993「茨城県における縄文時代前期前半の住居跡形態について」『研究ノート』2号、(財)茨城県教育財団

Ⅱ 行田大道北遺跡



(65号住居跡出土遺物)

第1章 遺跡の立地と基本層序

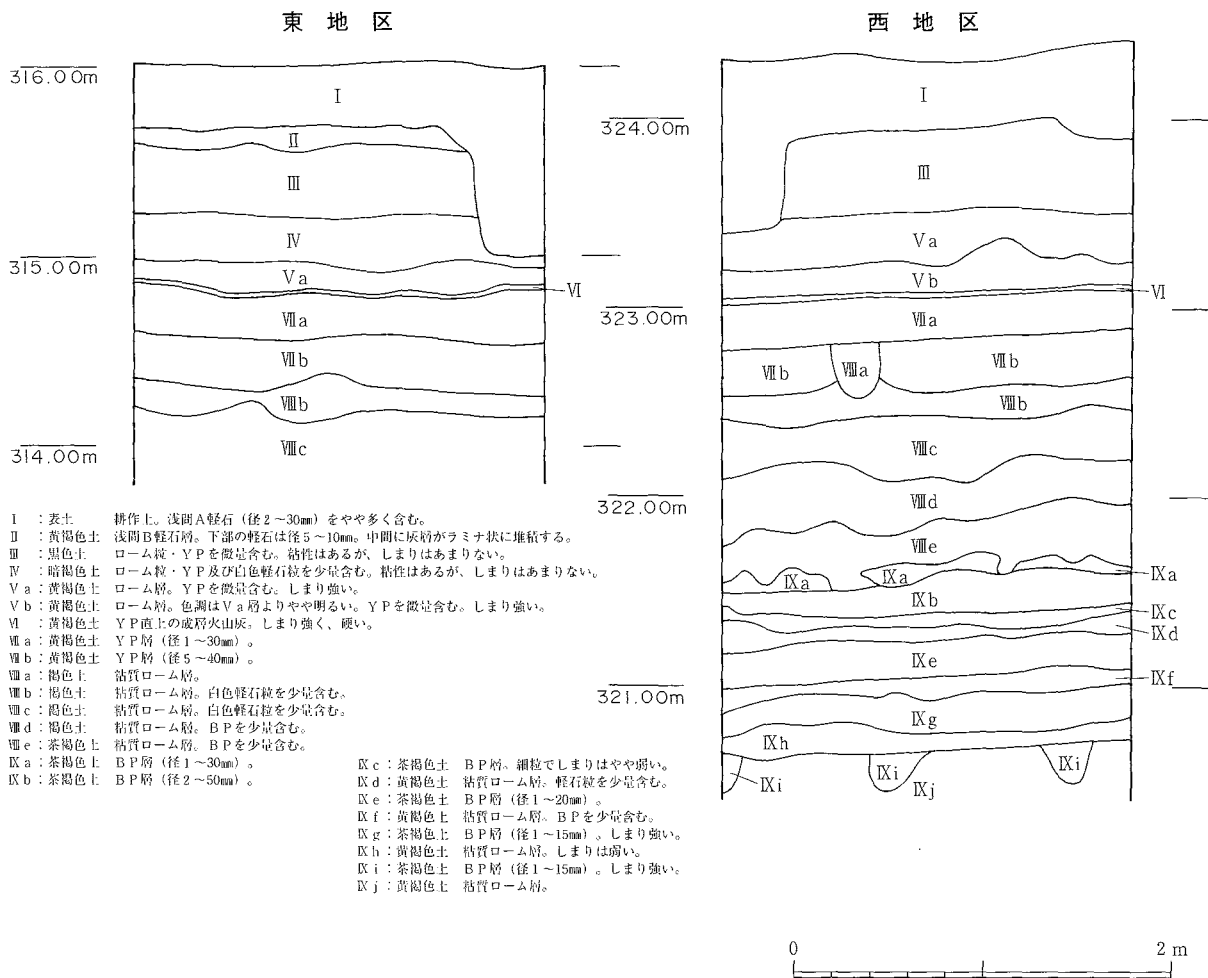
第1節 遺跡の立地

本遺跡は一般県道磯部停車場・妙義山線を挟んで東地区と西地区に大別される。東地区は西横野丘陵上に立地し標高315m前後、西地区は碓氷川右岸上位段丘上に立地し標高325m前後である。

東地区の南東側には柳瀬川の谷をはさんで、縄文時代前期関山式期を中心とする集落遺跡である八城二本杉東遺跡がある。西地区の北西には縄文時代後期の配石墓群等が検出された行田梅木平遺跡が近接する。

第2節 基本層序

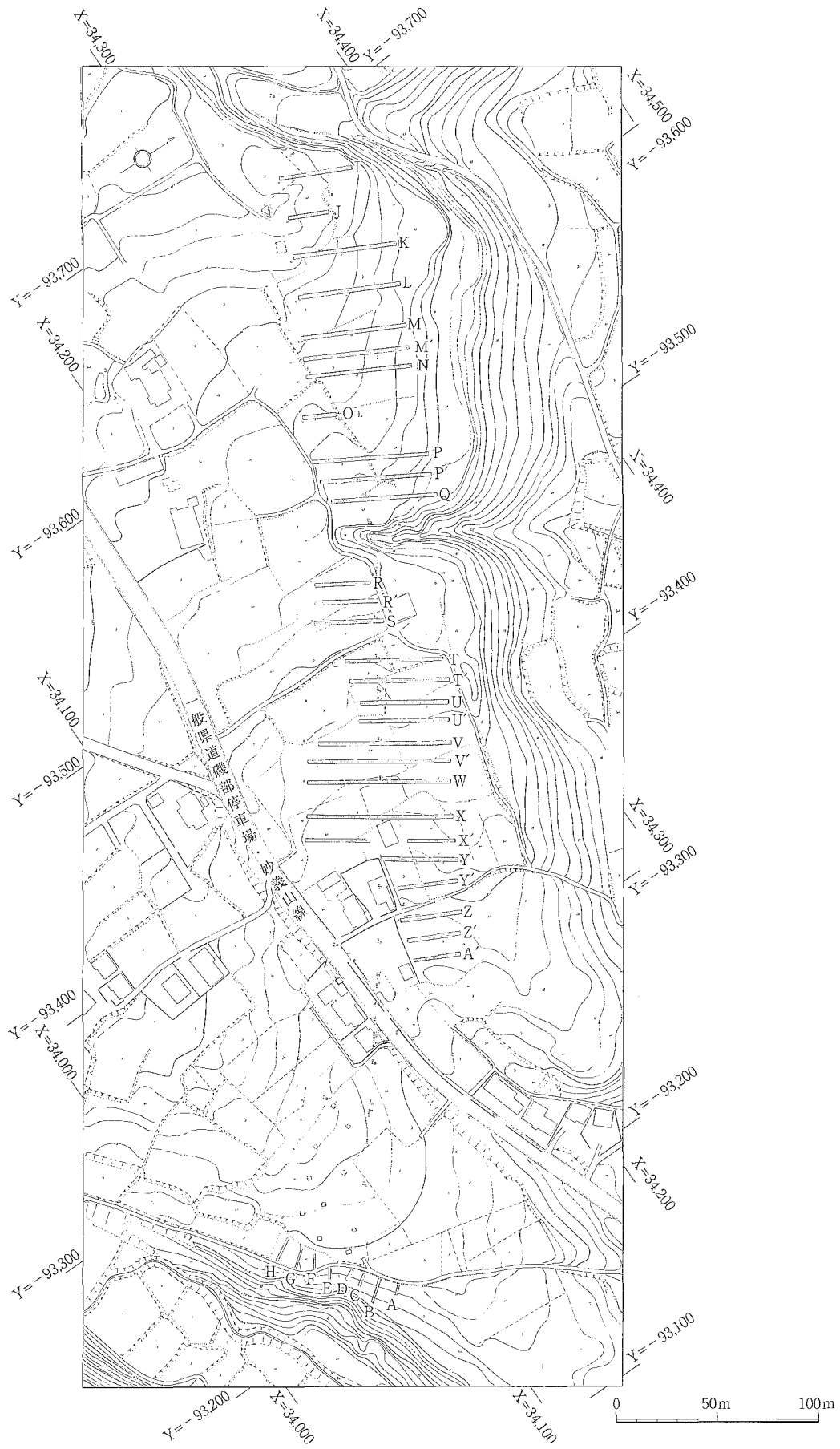
第131図は東地区中央部付近及び西地区Ca-21グリッドにおいて観察したものである。両地区の層序はおおむね類似した状態にある。浅間B軽石層（Ⅱ層）は部分的に確認されるのみで、表土下は黒色土（Ⅲ層）が40cm程度の層厚で堆積する部分が多い。その下層は東地区では暗褐色土（Ⅳ層）が堆積する。縄文時代の遺構はこの暗褐色土層中もしくはローム層（Ⅴa層）上面で確認できた。なお、この上層での遺構・遺物は皆無に近い状態であった。Ⅵ層はYP層上面の成層火山灰層で非常に硬くしまる。Ⅶa層以下には、YP層・粘質ローム層・B P層の厚い堆積がみられた。



第131図 基本層序



第132図 行田大道北遺跡の位置



第133図 トレンチ設定位置図

第2章 調査の方法と経過

第1節 発掘調査

行田大道北遺跡（事業名：行田Ⅰ遺跡）は群馬県教育委員会が昭和59年度に実施した現地踏査の結果、縄文時代の遺物が濃密に分布する地区に指定された。

調査は工事工程上、一般県道磯部停車場・妙義山線の東側（東地区）と西側（西地区）に分けて進めることになり、東地区を先行して実施した。なお、東地区は工事工程等との関連で8調査区・4次に分けての調査となった。

東地区は表土除去に先立ち、遺構確認面までの土層の状態や遺構・遺物の分布状態を把握するため、2m×2mの試掘坑10か所を任意に、東端部にトレンチ8本を設定して確認調査を行った。その結果、縄文時代前期を中心とする遺構・遺物が検出され、遺跡の広がりには調査区全面に及ぶと想定された。また、各遺構はローム層上面もしくはその上層の暗褐色土中で確認できた。

西地区については、東地区の調査に並行して確認調査を実施した。2m×2mの試掘坑を任意に設定して調査した後、南北方向のトレンチ28本を設定し、遺構・遺物の分布状態を確認した。その結果、I～Nトレンチにかけては縄文時代の遺構・遺物が確認されたため本調査の対象とし、O～Qトレンチにかけては検出された溝のみを調査することとした。また、Rトレンチ以東は黒色土～黒褐色土の厚い堆積がみられ、遺構・遺物が検出されなかったため、本調査対象から除外した。

また、本格的な旧石器時代の調査は行っていないが、ローム層上面及び一部の調査地点において掘り下げた基本土層観察用坑からは旧石器時代の遺物は検出されなかった。ただし、整理調査の段階で遺構埋没土中からの出土遺物に旧石器の可能性のあるものがわずかに確認されている。

各遺構は、埋没状態・構築状態・遺物出土状態の観察・記録を行った。

遺構測量は、国家公共座標（第Ⅸ系）を基準に10m×10mのグリッドを設定して行った。グリッド名は、北西角を基点に北から南に大文字・小文字のアルファベットを組み合わせ、西から東に算用数字を付し、Bh-15グリッドのように表記した。遺構実測図は、1/20縮尺を基本とし、炉跡等を1/10縮尺で作図した。なお、96号住居跡（柄鏡形敷石住居跡）については、後日移築が可能なように1/5縮尺で作図してある。また、地形測量図は1/500縮尺、調査区全体図は1/200縮尺で作成した。

各遺構は重複するものが多く、調査ではその新旧関係が把握できるよう埋没土層の観察に努めたが、明確に確認できないものも多かった。

出土遺物は、極力出土地点を記録して取り上げたが、重複等の影響で帰属する遺構を明確に把握できないものも多かった。また、埋設土器等は出土状態図を作成した。

東地区から出土したクッキー状炭化物については、群馬県内においては稀少な資料であることから、遺物取り上げ後、和紙で包み、その外側をさらにアルミホイルで梱包して保管した。同遺物については、その後、脂肪酸分析を委託して実施している。また、遺構から出土した炭化材や埋設土器中の土壌などのサンプリングを行い、後日、樹種同定やリン・カルシウム分析などを行うことにした。

写真撮影は調査の各過程で随時行い、白黒6×7判・白黒35mm・カラーズライド35mmのフィルムを使用した。各遺構は基本的にローリングタワー上から撮影し、また、調査区全景写真はバルーン空撮で行った。

第2節 整理調査

遺物水洗い・注記及び写真・図面等の整理は、一部発掘調査に並行して進めており、その際、遺跡名の記載は事業名である「行田Ⅰ遺跡」を用いている。遺跡名はその後「行田大道北遺跡」に変更されたが、各資料（遺物収納箱・写真アルバム・図面ケース、等）の記載は事業名のままとした。

本遺跡では、第3～5章に記載するように検出された遺構・遺物のほとんどが縄文時代のもので、時期的には前期中葉～末葉を中心とし、早期～後期にわたる。整理調査は、発掘調査で得られた資料をもとに報告書によって遺跡の全体像、個々の遺構の状態、出土遺物の状況が客観的に把握できるようにとの方針で実施した。また、本遺跡は遺構が密集・重複するものが多く、各時期ごとに遺構の分布状況を明確にするため、出土遺物や切り合い関係から遺構の時期判別を行い、時期別の遺構図を作成した。

本遺跡は、先述したように東地区と西地区に大別され、両地区はやや異なった様相を呈し、位置的にも本来は別遺跡と考えられる。掲載にあたっては、東地区の遺構・遺物を第3章、西地区の遺構・遺物を第4章で扱った。また、遺構外出土遺物については、表採遺物の中に地区が不明なものもあることから、第5章に一括して掲載した。

出土遺物は、すべて水洗いを行い、基本的に微細破片を除いて注記したが、石鏃等の注記困難な遺物については、パッケージに収納し、パッケージに遺跡名・出土地点等を明記してある。注記はホワイトインクで行い、ニスでコーティングした。注記には下記の略称を用いた。

行田Ⅰ遺跡……MOⅠ 住居跡……H 土坑……土 集石……集 グリッド……グ

遺物の接合・復元は可能な限り行った。接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂修復剤（バイサム）を用いたが、基本的に補強を目的としたもので、一部を除き完形状態までには復元していない。

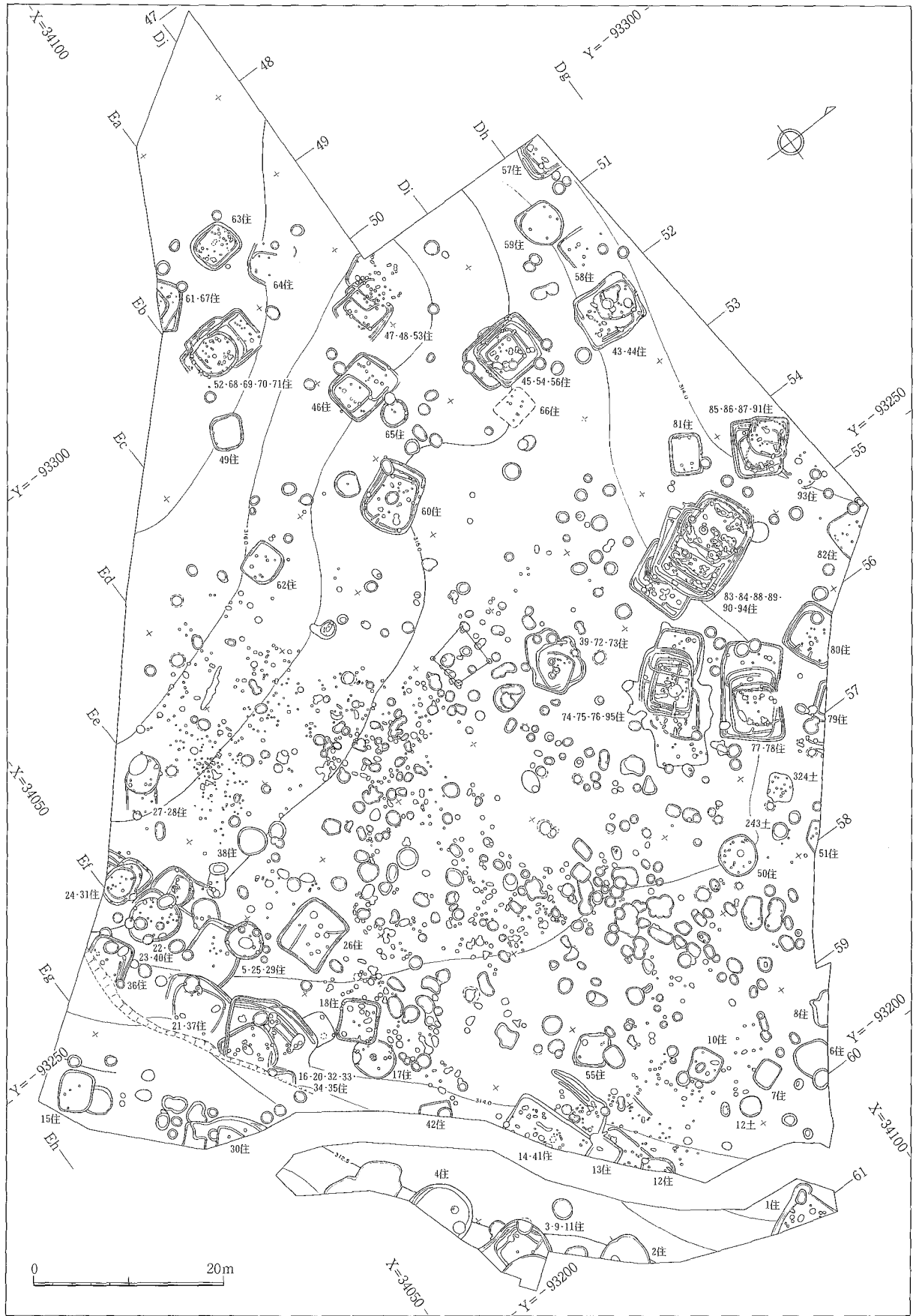
出土遺物は、各遺構ごとに個々の土器や石器の種別・石材、数量を記録した上で、報告書掲載遺物を選択し、その際、最終的な遺構の時期を判断した。

遺物写真は、報告書掲載遺物について撮影し、基本的に白黒6×7判フィルムに記録した。遺物実測も報告書掲載遺物について行い、基本的に1/1縮尺で作図したが、特大遺物については1/2縮尺で作図したものもある。遺物実測には、一部に長焦点レンズを使用した写真実測を行っている。また、必要に応じて拓本図を作成している。拓本用紙には雁皮半紙（「若草」）を用いている。遺物トレースにはロットリング及び丸ペンを用いた。版組には基本的に2倍台紙を使用した。

整理調査後の遺物は、報告書に使用したものと不使用のものに分け、さらに各遺構ごとに分けて遺物収納箱もしくは専用段ボール箱に収納した。遺物収納の際には、各遺物をミナパックなどで梱包して保護してある。また、各遺物収納箱の小口には遺跡名・遺構名・報告書使用の有無などを明記してある。なお、クッキー状炭化物については、先述した（第1節）方法で保管してある。

遺構図面は、各遺構ごとに検討を加え、一部修正を行った後、報告書掲載のものについて、トレース・版組を行った。また、必要に応じて遺物水平分布図及び垂直分布図を作成した。土坑については一覧表を作成した。トレースはロットリングを用い、版組は基本的に3倍台紙を使用した。

遺構・遺物実測図は各遺構ごとに整理し、図面ケースに収納した。また、遺構図面・写真、遺物図面・写真の各台帳を作成した。



第134图 行田大道北遺跡 東地区全体図

第3章 遺構と遺物（1）東地区

第1節 概要

検出された遺構はすべて縄文時代と判断されるもので、時期的には前期中葉～中期初頭が大半を占め、前期前半及び中期後半の遺構も散見される。全体としては中央部に土坑群が形成され、土坑群を取り巻くように住居跡が分布する状態にある。遺跡は、西側及び北東方向へと広がりを持つものと推定されるが、北側には西地区の試掘調査の結果から、あまり広範には展開しないものと思われる。また、南東側は柳瀬川の谷があり、崖状の地形となっている。

住居跡

95軒を検出しており、前期91軒、中期4軒と、前者が圧倒する。これらの住居跡は、複雑に重複しており、しかも黒浜・有尾式期の住居跡は数次にわたる拡張が行われた形跡も認められる。また、黒浜・有尾式期の住居跡には出入り口部と思われる掘り込みが存在するものがみられた。

住居形態は重複等の影響で不明確なものも多いが、おおむね前期諸磯b式期頃までのものは長方形もしくは方形を基調とし、諸磯c式期には円形のものもみられる。中期の住居跡はいずれも円形と想定される。また、炉跡は、前期のものは地床炉・土器埋設炉がみられ、中期のものは石囲い炉が多い。

調査区南東端に位置する4号住居跡は黒浜・有尾式～十三菩提式にかけての遺物が大量に出土しており、遺構の時期のみならず、その性格も問題となるものである。同住居跡からはこれらの遺物に混じって珪藻土製の小形石棒2点が出土している。中期以降にみられる石棒とは系統を異にするものと思われ、石棒とするのに疑問視する向きもあるが、本報告書では前期の小形石棒としておく。

83号住居跡からは諸磯b式期を中心とする大量の遺物とともに琥珀製の玉が出土している。同琥珀玉は均整化されたもので、現在までのところ群馬県内における縄文時代の琥珀製品は本遺跡例のみである。また、全国的にみてもおそらく最古期のものと思われる。なお、同住居跡からは北白川下層式系の土器もみられる。

55号・65号住居跡からは諸磯c式土器のほぼ完形品が出土している。

クッキー状炭化物

諸磯c式期と想定される6号・7号・8号・10号住居跡、12号・243号・324号土坑からクッキー状炭化物が出土している。完存するものは5点であるが、図化可能なものは64点にのぼる。平面形は円形もしくは楕円形で、中央部に凹みのあるものが多い。群馬県内初の出土例である。

土坑

475基を確認している。時期的には、黒浜式期71基、諸磯a式期65基、諸磯b式期27基、諸磯c式期45基、十三菩提式期7基、五領ヶ台式期92基、前期中葉3基、加曾利E式期9基、不明156基で、前期中葉から中期初頭と想定される土坑が大半を占める。93号・203号土坑からは珧状耳飾りが出土している。

集石

土坑としたものを含めて7基を確認している。伴出遺物が少なく時期は判然としないものが多いが、おおむね前期後半から中期初頭にかけての遺構と想定される。

その他の遺構

掘立柱建物跡1棟を確認している。本来は数棟が存在していた可能性がある。この他、時期不明の溝1条、ピット多数を検出している。

第2節 住居跡

1号住居跡（遺構：第135図、P L 3／遺物：第198図、P L 48、観察表P 566）

位置：Eb-60グリッド。東～南側は調査区外。検出状態：20号・21号土坑に切られる。表土から浅い位置にあり、床面の一部が削平を受けている。平面形態：全容不明であるが長方形基調と推定される。規模・床面積：不明。残存深度：30cm。長軸方位：不明であるが、西壁はN-25°-Wを指向する。床面の状態：ローム面を床面とし、やや凹凸がある。壁面の状態：残存部分が少なく不明確。壁周溝：西側から北側にかけて検出されているが、西側では幅が50cm前後と広く、一概に壁周溝とは判断できない。柱穴：大小のピットが存在するが、主柱穴については明確に判断できなかった。炉跡：中央部北寄りに位置するものと推定される。土器埋設炉で、掘り方は、平面楕円形、規模65cm×46cm、深さ約40cm。遺構埋没状態：Y Pを含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：先述の炉跡埋設土器の他、土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片218点、石器（石鏃1、石匙1、磨石・凹石3、打製石斧2、剥片その他9点）を確認している。黒曜石総重量8.1g。炉跡埋設土器は非常に脆弱な状態であり、図化できなかった。掲載遺物、土器6点、石器3点。

2号住居跡（遺構：第136図、P L 3／遺物：第199・200図、P L 48、観察表P 566）

位置：Ec-60グリッド。南東側は調査区外。検出状態：遺構上面は耕作により削平されている。平面形態：不明。検出部分は、やや弧状を呈している。規模・床面積：不明。残存深度：約20cm。床面の状態：多少の起伏はあるが、ほぼ平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく不明確。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック・Y P等を含む暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片157点、石器（スクレイパー2、その他剥片17点）を確認している。黒曜石総重量40.2g。関山Ⅱ式土器が少量確認されている。掲載遺物、土器5点、石器2点。

3号住居跡（遺構：第137図、P L 4／遺物：第201・202図、P L 48・49、観察表P 566）

位置：Ed-59グリッド。東～南側は調査区外。検出状態：重複が著しい。遺構上面は一部に攪乱を受ける。9号住居跡に切られる。また、2号・28号土坑を切るが、調査時には両土坑とも本住居跡と同時に掘り下げてしまった。11号住居跡との新旧関係は不明である。11号住居跡は本住居跡の拡張前のものである可能性もある。平面形態：不明。検出部分はやや弧状を呈している。規模・床面積：不明。残存深度：39cm。長軸方位：不明。床面の状態：多少の凹凸があるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：部分的に不明瞭な箇所もあるが、検出範囲においてほぼ全周するようである。柱穴：多数のピットが存在するが、主柱穴は明確に判断できなかった。炉跡：中央西寄りに焼土の分布がみられ、炉跡の痕跡である可能性もある。遺構埋没状態：Y P等を含む黒褐色基調の土がやや不安定な状態で埋没する。遺物出土状態：土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期諸磯a式期。

遺物：土器片1,699点、石器（石鏃1、石匙1、スクレイパー3、磨石・凹石15、敲石2、砥石1、打製石斧1、チャート原石1、剥片その他165点）を確認している。黒曜石総重量237.0g。重複の影響で帰属を明確にできなかった遺物が多い。掲載遺物、土器5点、石器13点。

4号住居跡（遺構：第138～141図、P L 5 / 遺物：第203～208図、P L 50～53、観察表P 566）

位置：Ee-58グリッド。南東側は調査区外で、崖面に近接する位置にある。検出状態：後述するように多時期にわたる遺物が出土しているが、明確な遺構の重複は確認できなかった。平面形態：全容不明であるが、円形基調と推定される。規模：不明であるが、径6.5m前後と推定される。床面積：不明。残存深度：98cm。長軸方位：不明。床面の状態：起伏・凹凸がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：大小のピットが存在するが、主柱穴は不明である。これらのピットの多くは北側から検出されている。炉跡：明確に確認できなかったが、中央西寄りに浅い楕円形の凹みが2か所あり、同部分からはわずかな被熱痕が認められた。遺構埋没状態：Y P・ローム粒を含む黒褐色～暗褐色土が埋没する。遺物出土状態：前期黒浜・有尾～十三菩提式期にかけての土器・石器が埋没土中から大量に出土している。第139～141図に各時期別の土器及び石器類の分布概念図を示した。水平分布には特に遺物集中地点などの偏りは認められない。垂直分布は、諸磯a式・b式土器が上層から下層にかけて万遍なく出土している一方で、諸磯c式土器は上層からの出土が多い。十三菩提式土器は量的には少ないが、やはり上層から出土している。黒浜式土器はややまばらな分布状態にある。また、諸磯b式・c式・十三菩提式土器は比較的大きめな破片で出土しているものが多かった。埋没土の中位付近からは小形石棒2点が出土している。備考：出土状態から判断して、これらの遺物は一括廃棄されたものと考えられるが、諸磯c式土器や十三菩提式土器が上層に集中する点など疑問も残る。時期：一括廃棄だと仮定した場合、前期諸磯c式期もしくは十三菩提式期以降と想定される。

遺物：土器片5,681点、石器（石鏃5、石錐2、石匙4、打製石斧3、スクレイパー2、磨石・凹石13、敲石1、石皿2、砥石1、磨製石斧1、滑石片1、小形石棒2、剥片その他565点）を確認している。黒曜石総重量697.6g。土器の比率（破片数での単純比率）は、黒浜・有尾式5.1%、諸磯a式27.5%、諸磯b式48.1%、諸磯c式18.8%、十三菩提式0.6%で、諸磯b式土器が半数近くを占める。諸磯b式土器は器形復元できたものが多く、(1)・(2)のように大形の深鉢もみられる。また、十三菩提式土器にも(24)のように完形に近い遺物がある。小形石棒(43)・(44)は2点とも珪藻土製で、非常に軟質である。掲載遺物、土器28点、石器26点。

5号住居跡（遺構：第142図、P L 5 / 遺物：第209図、P L 53、観察表P 567）

位置：Ee-54グリッド。検出状態：29号・40号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。平面形態：楕円形。規模：3.03m×2.48m。床面積：6.4m²。残存深度：24cm。長軸方位：N-58°-W。床面の状態：全体的に凹凸がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：北東側で一部確認されたのみである。柱穴：大小のピットが存在するが、主柱穴は明確に判断できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が自然埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。黒浜～諸磯a式期の紛れ込み遺物が多かった。南西部からは長さ30cm前後の礫3点が出土している。時期：前期諸磯c式期。

遺物：土器片900点、石器（石鏃2、磨石・凹石2、珪藻土1、棒状礫1、磨製石斧1、剥片その他70点）。黒曜石総重量94.7g。珪藻土(6)は4号住居跡出土の石棒と同質石材。掲載遺物、土器3点、石器5点。

6号住居跡（遺構：第143図、P L 5 / 遺物：第210・363図、P L 53・134、観察表P 567）

位置：Ea-59グリッド。北側は調査区外。検出状態：25号土坑と重複し本住居跡が切られるようであるが、1層においては区別がつかなかった。平面形態：全容不明であるが、隅丸形状と推定される。規模：不明。南

北方向は 3.6m前後である。床面積：不明。残存深度：72cm。長軸方位：不明。床面の状態：全体的に平坦である。壁面の状態：80° 前後の勾配、もしくは垂直に近い状態で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む暗褐色～褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で、土器片・石器類が出土しているほか、数点のクッキー状炭化物（第3章第3節）や炭化したクルミが出土している。時期：前期諸磯c式期。
遺物：土器片86点、石器（石鏃1、砥石1、剥片その他52点）、クッキー状炭化物、クルミを確認している。黒曜石総重量159.2g。掲載遺物、土器1点、石器1点、クッキー状炭化物3点。

7号住居跡（遺構：第142図、P L 5 / 遺物：第211・363・364図、P L 54・134、観察表P 567）

位置：Ea-59グリッド。検出状態：比較的良好な状態で検出された。平面形態：隅丸長方形。規模：2.53m×2.04m。床面積：4.8m²。残存深度：64cm。長軸方位：N-25°-W。床面の状態：多少の起伏はあるが、全体的に平坦である。壁面の状態：70～80° の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒等を含む黒褐色・暗褐色・褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。また、西側中央部付近を中心にクッキー状炭化物（第3章第3節）が出土している。ほかに、炭化したクルミや炭化材が少量みられた。時期：前期諸磯c式期。

遺物：土器片120点、石器（石鏃2、石皿1、砥石1、剥片その他47点）、クッキー状炭化物、クルミ、炭化材を確認している。黒曜石総重量378.5g。掲載遺物、土器2点、石器4点、クッキー状炭化物13点。

8号住居跡（遺構：第144図、P L 5 / 遺物：第212図、P L 54、観察表P 567）

位置：Dj-59グリッド。北東側大半が調査区外。検出状態：上面は部分的に攪乱を受ける。南西部壁外に土坑状の掘り込みがあるが、明確に遺構とは判断できなかった。平面形態：不明。検出部分は弧状を呈している。規模・床面積：不明。残存深度：65cm。長軸方位：不明。床面の状態：全体的に平坦である。壁面の状態：85° 前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：少量の土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態であった。ほかに、クッキー状炭化物小片（第3章第3節）、炭化したクルミ、炭化材がわずかに出土している。時期：前期諸磯c式期。

遺物：土器片29点、石器（磨製石斧1、剥片その他17点）、クッキー状炭化物小片、クルミ、炭化材を確認している。黒曜石総重量78.5g。掲載遺物、土器4点、石器1点。

9号住居跡（遺構：第137図、P L 4 / 遺物：第213図、P L 49、観察表P 567）

位置：Ed-59グリッド。東～南側は調査区外。検出状態：3号・11号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。平面形態：不明であるが、検出部分は弧状を呈しており、円形基調と推定される。規模・床面積：不明。残存深度：50cm。長軸方位：不明。床面の状態：凹凸が著しい。壁面の状態：重複の影響もあり、明確に把握できなかった。壁周溝：検出されなかった。柱穴：多数のピットがあるが、主柱穴は明確に判断できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：YP等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期諸磯c式期。

遺物：土器片485点、石器（石鏃1、スクレイパー1、磨石1、剥片その他23点）を確認している。黒曜石

総重量123.8g。(1)・(2)の土器は凹凸文が施文されるものである。掲載遺物、土器7点、石器3点。

10号住居跡（遺構：第144図、P L 5 / 遺物：第214・364図、P L 54・134、観察表P 567）

位置：Eb-59グリッド。検出状態：比較的良好な状態で検出された。46号土坑と重複し、本住居跡が新しいと思われる。平面形態：隅丸方形。規模：3.23m×3.00m。床面積：8.7m²。長軸方位：N-31°-W。床面の状態：ローム面を床面とし、多少の凹凸はあるものの、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：5基のピットを検出しているが、主柱穴は明確に判断できなかった。炉跡：中央南寄りに平面楕円形、規模1.10m×0.76mの浅い掘り込みがあるが、被熱痕や炭化物等は検出されず、炉跡とは判断できなかった。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中から土器片・石器類が多量に出土している。また、これらの遺物に混じってクッキー状炭化物（第3章第3節）や炭化したクルミや炭化材等が少量出土している。時期：前期諸磯c式期。

遺物：土器片506点（手捏土器1）、石器（磨製石斧2、打製石斧1、剥片その他87点）、クッキー状炭化物、クルミ、炭化材を確認している。黒曜石総重量162.1g。炭化材は分析の結果「クリ」に同定された（別巻『自然科学分析編』）。掲載遺物、土器4点、石器2点、クッキー状炭化物3点。

11号住居跡（遺構：第137図、P L 4 / 遺物：第214図、P L 49、観察表P 567）

位置：Ed-59グリッド。検出状態：重複が著しい。3号住居跡内の（壁）周溝が巡る範囲内を本住居跡と判断したが、先述したように3号住居跡拡張前の状態とも考えられる。9号住居跡に切られる。また、28号土坑を切るが、調査時には本住居跡と同時に掘り下げてしまった。平面形態：隅丸長方形と想定される。規模：3.75m×-。床面積：不明。残存深度：39cm。長軸方位：N-10°-W前後と想定される。床面の状態：多少の凹凸はあるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：不明。壁周溝：幅25cm前後の壁周溝が巡る。柱穴：大小のピットが存在するが、主柱穴は明確に判断できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：本遺構に明確に伴うと考えられる遺物は確認できなかった。時期：不明。

遺物：掲載遺物、土器1点。

12号住居跡（遺構：第144図、P L 5 / 遺物：第214図、P L 54、観察表P 567）

位置：Ec-59グリッド。南東側は調査区外。検出状態：表土からの深さが浅く、上面は削平を受けている。平面形態：楕円形に近い形態と思われるが、全容は不明である。規模：3.40m×-。床面積：不明。残存深度：39cm。長軸方位：推定N-47°-E。床面の状態：凹凸が著しい。壁面の状態：80～85°の勾配で立ち上がる。壁周溝：壁際にやや不整然とした溝があるが、途切れ途切れの状態であり、一部はピット状になっている。柱穴：数基のピットが検出されているが、主柱穴は明確に判断できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：Y P・ローム粒等を含む暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態で出土している。時期：前期諸磯a式期と思われる。

遺物：土器片85点、石器（剥片27点）を確認している。黒曜石総重量34.3g。掲載遺物、土器1点。

13号住居跡（遺構：第144図、P L 5 / 遺物：第215図、P L 55、観察表P 567）

位置：Ec-59グリッド。南東側は調査区外。検出状態：表土からの深さが浅く、あまり良好な遺存状態ではな

い。また、他の時期のピットが遺構内外に多数存在しているが、重複関係等の詳細は明確に把握できなかつた。平面形態：全容不明であるが、長方形基調と想定される。規模： $- \times 2.70\text{m}$ 。床面積：不明。残存深度：54cm。長軸方位：推定 $N-17^{\circ}-W$ 。床面の状態：やや凹凸がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では 80° 前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかつた。柱穴：北西壁際は壁柱穴状に検出されている。その他、不規則にピットが位置するが、主柱穴は明確ではない。先述したように他の時期のピットも存在するようである。炉跡：コの字状石囲い炉。長さ23cmの河原石を奥側に配し、両脇には角礫を使用している。周辺には顕著な被熱痕や炭化物等は検出されなかつた。形態的には関山式期の炉跡に類似している。遺構埋没状態：Y P等を含む黒褐色基調の土が自然埋没していた。遺物出土状態：土器片・石器類が埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期諸磯a式期と判断したが、住居跡や炉跡の形態等にはやや古い様相も見受けられる。

遺物：土器片182点、石器（磨石・凹石5、剥片その他26点）を確認している。黒曜石総重量24.3g。土器は諸磯a式のほか、黒浜・有尾式も多い。掲載遺物、土器4点、石器3点。

14号住居跡（遺構：第145図、P L 6 / 遺物：第216図、P L 55、観察表P 568）

位置：Ec-58グリッド。南側は調査区外。検出状態：表土からの深さが浅く、遺存状態は良好ではない。表土下が既に床面の状態で、壁面は残存していなかつたため、壁周溝から住居跡範囲を想定した。住居跡内外に多数のピットが存在しており、他の時期のピットも多いと思われるが、その新旧関係については明確に把握できなかつた。また、41号住居跡が本住居跡の内側に納まるような状態で重複しており、本住居跡の方が新しいと判断した。41号住居跡には炉跡が遺存しているため問題も残るが、同住居跡の床面は本住居跡よりも22cmほど下に位置するため、14号住居跡構築後も残されたものと考えられる。平面形態：全容不明であるが、長方形基調と想定される。規模：不明であるが、東西方向は9m前後と想定される。床面積：不明。残存深度：0cm。長軸方位：推定 $N-70^{\circ}-E$ 。床面の状態：遺存状態の影響もあり、凹凸が著しい。壁面の状態：不明。壁周溝：一部不明瞭であったり、幅が極端に広がっている部分もみられるが、ほぼ全周していたものと推定される。柱穴：多数のピットが存在するが、先述したように他の時期のピットも多いと思われる。炉跡：検出範囲の西寄りに65cm \times 55cmの範囲で被熱痕が確認されているが、明瞭な握り込みはなく、炉跡とは断定できない。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：壁周溝やピット内から土器片・石器等が出土している。時期：前期黒浜・有尾式～諸磯a式期と思われる。

遺物：土器片157点、石器（石鏃1、磨石・凹石1、剥片その他12点）を確認している。黒曜石総重量34.3g。掲載遺物、土器2点、石器2点。

15号住居跡（遺構：第146図、P L 6 / 遺物：第217図、P L 55、観察表P 568）

位置：Eg-55グリッド。調査区南端部の緩斜面に位置。検出状態：遺構上側は削平を受けていた。48号土坑と重複し、本住居跡の方が新しい。平面形態：隅丸長方形。規模：4.20m \times 3.35m。床面積：13.3 m^2 。残存深度：55cm。長軸方位： $N-51^{\circ}-W$ 。床面の状態：多少の起伏はあるが、おおむね平坦で、南東方向へ緩やかに傾斜している。壁面の状態：遺存状態良好な部分では 80° 前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかつた。柱穴：数基のピットが不規則に位置する。炉跡：検出されなかつた。遺構埋没状態：Y P等を含む黒褐色～褐色土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。紛れ込みと想定される前期黒浜・有尾～諸磯c式土器も多くみられ、五領ヶ台式土器は比較的西側隅付近か

らの出土が多かった。備考：床面の傾斜状態など本遺構を住居跡と断定するには問題がある。時期：中期五領ヶ台式期と判断したが、遺構の形態や遺物出土状態等に疑問も残る。

遺物：土器片456点、石器（磨製石斧1、磨石7、石鏃2、剥片その他34点）を確認している。黒曜石総重量65.7g。掲載遺物、土器4点、石器1点。

16号住居跡（遺構：第147図、P L 6 / 遺物：第218図、P L 55、観察表P 568）

位置：Ee-56グリッド。検出状態：20号住居跡と重複し本住居跡の方が新しいが、残存深度が浅く、遺構南側の範囲は明確に把握できなかった。平面形態：全容不明であるが、円形に近い方形と推定される。規模：3.37m×3m前後。床面積：不明であるが、8.5㎡前後と推定される。残存深度：19cm。長軸方位：推定N-75°-W。床面の状態：凹凸が著しい。後世の桑根等の影響と思われる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出部分の各隅付近に位置する3基が支柱穴と思われる。南東隅の2基は規模が小さく支柱穴とは考えにくい。南側は不明であるが、本来は4～5基で構成されたものと考えられる。炉跡：中央東側に位置する。平面不整楕円形の地床炉で、規模は62cm×46cm、深さ20cm。焼土や炭化材等は顕著に確認されなかった。遺構埋没状態：ローム粒等を含む暗褐色土が埋没する。遺物出土状態：炉跡内から凹石が出土しているほか、埋没土中に少量の土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：中期五領ヶ台式期。

遺物：土器片22点、石器（磨石・凹石1、敲石1、剥片その他149点）を確認している。黒曜石総重量203.9g。掲載遺物、土器4点、石器3点。

17号住居跡（遺構：第148図、P L 6 / 遺物：第219図、P L 55、観察表P 568）

位置：Ed-56グリッド。検出状態：確認面からの残存深度が浅く、遺構の範囲を明確に把握することが困難な状態であったが、炉跡は比較的良好な状態で遺存していた。149号土坑及び18号住居跡と重複し、両遺構よりも本住居跡の方が新しい。ただ、149号土坑・18号住居跡壁周溝の方が本住居跡よりも深く掘り込まれており、図面上は本遺構を切るような表現になっている。平面形態：あまり明確ではないが、長方形基調と想定される。規模：推定4.45m×3.65m。床面積：不明であるが、13㎡前後と推定される。残存深度：15cm。長軸方位：N-74°-E。床面の状態：凹凸が著しい。後世の桑根等の影響と思われる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：検出されなかった。柱穴：149号土坑との重複部分も含めて10基のピットを検出しているが、他の時期のピットも存在するようである。P-1～4は規模・形状・位置等から支柱穴の可能性が高い。炉跡：ほぼ中央部に位置。四方を大形の河原石で囲んだ石囲い炉で、中央部には底部を欠いた深鉢を埋設している。河原石の下側と深鉢の口縁部がほぼ同じレベルにある。河原石は北西及び南東側に長めのもの（56cm・57cm）を北東及び南西側に短めのもの（41cm・43cm）を配している。掘り方は、平面楕円形で2段に掘り込まれ、規模95cm×76cm、深さは石囲い部分で27cm、埋設土器のある中央部分で54cmである。炉跡内・埋設土器内からも焼土・灰・炭化物等は顕著に確認されなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：炉跡埋設土器のほかは、紛れ込みと思われる黒浜・有尾式土器や諸磯a式土器が遺構範囲内から出土している程度であった。時期：中期加曾利E3式期。

遺物：深鉢1、土器片75点、石器（石鏃1、剥片その他14点）を確認している。黒曜石総重量4.4g。土器片は前期のものであり、石鏃等の石器類も紛れ込み遺物である可能性が高い。掲載遺物、土器1点、石器1点。

18号住居跡（遺構：第149図、P L 7 / 遺物：第220図、P L 56、観察表P 568）

位置：Ed-56グリッド。検出状態：床面まで既に削平されており、壁周溝から遺構の範囲を把握した。17号住居跡と重複し、本住居跡の方が古い。床面の一部は削平を受けている。また、他の時期のピットが重複するようであるが、明確に確認できなかった。平面形態：隅丸方形。規模：4.20m×3.92m。床面積：14.2㎡。残存深度：0 cm。長軸方位：N-40°-W。床面の状態：凹凸がみられる。後世の桑根等の影響と思われる。壁面の状態：不明。壁周溝：ほぼ全周し、壁柱穴を伴う。柱穴：やや不整然とした状態ではあるが、壁柱穴が存在する。そのほか、遺構内に大小のピットがあるが、本遺構への帰属が不明瞭なものが多く、主柱穴構成は明確に判断できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：壁周溝・ピット及び遺構範囲内に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片141点、石器（石匙1、スクレイパー2、磨石・凹石3、残核2、砥石3、剥片その他22点）を確認している。黒曜石総重量142.8g。掲載遺物、土器2点、石器5点。

19号住居跡（遺構：第150図、P L 8 / 遺物：第221図、P L 56、観察表P 568）

位置：Ed-56グリッド。検出状態：床面まで既に削平されており、遺構の範囲は明確ではないが、ピットが円形に巡ることなどから住居跡と判断した。規模・床面積：不明。残存深度：0 cm。長軸方位：不明。床面の状態：一部は削平を受けているものと思われるが、おおむね平坦である。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：先述したようにピットが円形に巡り、そのほかにも大小のピットが存在する。他の時期と考えられるピットも多いようである。炉跡：ほぼ中央部と想定される位置に、85cm×80cmほどの範囲で地山被熱痕が検出され、同部分を炉跡の痕跡と判断した。なお、同部分の北端はピットに切られる状態にある。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：ピット内等から土器片・石器類が出土しているが、帰属が不明確なものが多い。時期：中期後半に想定しておく。遺物：土器片119点、石器（凹石1、スクレイパー1、剥片他15点）。黒曜石10.7g。掲載遺物、土器1点、石器3点。

20号住居跡（遺構：第152図、P L 8 / 遺物：第222～226図、P L 56～58、観察表P 568）

位置：Ee-56グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため、一段低い状態にある。16号・32号・33号・35号住居跡、52号・53号・78号土坑が重複して位置する。これらの遺構は五領ヶ台式期と想定される16号住居跡や諸磯b式期と想定される35号住居跡を除き、いずれも黒浜～諸磯a式期と考えられる近接した時期のもので、土層観察等からも新旧関係を明確に把握できなかった。ただ、床面のレベル差や出土遺物からは本住居跡は33号住居跡よりも新しく、32号住居跡には切られるものと推測される。また、4回程度の拡張が行われているようである。平面形態：長方形基調と思われるが、全容は不明。規模・床面積：不明。残存深度：約40cm。長軸方位：不明。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では垂直に近い状態にある。壁周溝：北側は5重に確認されており、先述したように4回の拡張が想定される。柱穴：ピット多数が存在するが、主柱穴は不明である。炉跡：地山被熱痕が5か所確認されているが、明確に炉跡と判断できるものは検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡想定範囲埋没土中からは多量の遺物が出土している。当初、32号住居跡上面も本遺構の範囲と判断し、同部分からの遺物も本住居跡出土遺物として取り上げ、本書にもそのまま掲載している。これらの遺物は32号住居跡に帰属する可能性もある。時期：前期黒浜有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片3,220点、石器（石皿兼多孔石1、磨石・凹石22、打製石斧4、磨製石斧2、砥石1、楔形石器1、

スクレイパー 2、石匙 3、石錐 2、石鏃 5、剥片その他 206 点)を確認している。黒曜石総重量 262.2g。ごく客体的にはあるが、北白川下層式系の土器もみられた。掲載遺物、土器 56 点、石器 24 点。

21号住居跡 (遺構：第153図、P L 8 / 遺物：第227・228図、P L 58・59、観察表 P 569)

位置：Ef-55グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため、一段低い状態にある。37号住居跡を切り、51号土坑に切られる状態にある。また、北東側に位置する33号住居跡よりも本住居跡の方が本来は新しいと思われる。また、北側に位置する29号住居跡もほぼ同時期の遺構で、本住居跡との新旧関係は明確に判断できなかった。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：30cm。長軸方位：不明。床面の状態：凹凸が著しい。後世の桑根等の影響と思われる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では垂直に近い状態にある。壁周溝：南側や東側は削平や重複の影響で不明であるが、西側から北側にかけて確認されている。柱穴：大小のピットがあるが、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から多量の遺物が出土している。時期：前期諸磯 a 式期。遺物：浅鉢 1、土器片 1,014 点、石器 (磨石・凹石 17、打製石斧 1、スクレイパー 1、剥片その他 89 点)。黒曜石総重量 126.0g。ごく客体的にはあるが、北白川下層式系の土器がある。掲載遺物、土器 19 点、石器 5 点。

22号住居跡 (遺構：第154図、P L 11 / 遺物：第229・230図、P L 61、観察表 P 570)

位置：Ee-54グリッド。検出状態：重複が著しい。遺構東寄りには攪乱溝がある。出土遺物から判断して本住居跡の北側に重複する23号住居跡の方が新しいと考えられるが、同住居跡は確認面からの掘り込みが浅いため、図面上は本住居跡が切っている状態になっている。40号住居跡は時期不明であるが、本住居跡が切る状態にある。本住居跡から出土した遺物が前期黒浜～諸磯 a 式土器のものであることから、当該期の遺構と判断したものであるが、住居形態は中期的な様相にあり、遺構の時期を誤認している可能性もある。なお、重複する土坑の内、133号土坑は諸磯 c 式期、129号・132号・182号・183号・204号土坑は諸磯 a 式期もしくは黒浜式期と想定される。平面形態：円形。規模：5.08m×5.03m。床面積：推定 21.6m²。残存深度：16cm。床面の状態：凹凸が著しい。後世の桑根の影響と思われる。壁面の状態：残存部分が少なく、不明確。壁周溝：重複等の影響で不明瞭な部分もあるが、南側・北東側の一部を除いて確認されている。柱穴：多数のピットが存在し、掘り込みの深いものも多いが、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：出土遺物から前期黒浜～諸磯 a 式期と判断したが、先述したように疑問が残る。遺物：土器片 694 点、石器 (石皿 1、磨石・凹石 7、打製石斧 1、磨製石斧 2、砥石 1、石匙 1、剥片その他 52 点)を確認している。黒曜石総重量 60.5g。掲載遺物、土器 12 点、石器 7 点。

23号住居跡 (遺構：第154図、P L 11 / 遺物：第231・232図、P L 61・62、観察表 P 570)

位置：Ee-54グリッド。検出状態：重複が著しい。22号・40号住居跡及び 133号土坑と重複し、いずれの遺構よりも本住居の方が新しいと思われるが、図上では22号住居跡・13号土坑に切られる状態になっている。確認面からの掘り込みが浅く、壁周溝から遺構範囲を判断した。平面形態：楕円形。規模：推定 4.10m×3.47m。床面積：推定 11.9m²。残存深度：10cm弱。長軸方位：N-5°-W。床面の状態：凹凸が著しい。後世の桑根等の影響と思われる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：重複部分で不明瞭であるほかは全周する。幅 25cm 前後、深さ 15cm 前後である。柱穴：各隅に位置する P-1～4 の 4 基が規模や位

置から判断して主柱穴と考えられる。炉跡：中央部付近に位置する。河原石を使用した石囲い炉で、南側には長さ41cm×27cm・厚さ10cm前後の石を広面を上にして置き、他の石は斜めに差し込むような状態で構築されている。掘り方は平面楕円形で、規模は94cm×81cm・深さ17cm。また、炉跡中央部には炉跡底面からの深さ約50cm、平面形態円形・径45cm前後の坑が掘り込まれている。炉跡埋没土中には焼土ブロックや炭化粒が少量認められた。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没する。遺物出土状態：133号土坑の北側上面から深鉢上半部が、同土坑の東側からは打製石斧が4点まとまって出土している。時期：中期後半。

遺物：土器片174点、石器（打製石斧6、石匙1、剥片その他15点）を確認している。黒曜石総重量20.2g。掲載遺物、土器3点、石器7点。

24号住居跡（遺構：第155図、P L 11／遺物：第233・234図、P L 62、観察表P 570）

位置：Ee-53グリッド。南西側は調査区外。検出状態：31号住居跡・45号土坑を切る状態にある。北側の外側周溝間の床面は内側床面より40cmほど高い状態にあり、別の遺構が重複していた可能性がある。平面形態：楕円形～隅丸長方形。規模：3.28m×2.87m。北側は中央の壁周溝までを本住居跡の範囲と想定した。床面積：不明。残存深度：55cm。長軸方位：N-12°-W。床面の状態：全体的にはほぼ平坦である。周縁部を中心に後世の桑根等の影響と思われる凹凸がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では垂直に近い状態で立ち上がる。壁周溝：内側のものは楕円形状に全周し、北側及び東側方向は2重に存在する。拡張が行われたものと思われる。柱穴：多数のピットが存在するが、主柱穴は把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。重複する31号住居跡・45号土坑の遺物も紛れ込んでいるものと考えられる。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片1,150点、石器（磨石・凹石7、石鏃4、滑石製品1、剥片石器1、剥片その他148点）を確認している。黒曜石総重量150.3g。掲載遺物、土器18点、石器5点。

25号住居跡（遺構：第151図、P L 10・11／遺物：第235・236図、P L 63、観察表P 571）

位置：Ee-55グリッド。検出状態：南東部壁面付近は桑根等の影響で凹凸が著しい。数基の遺構が重複し、29号住居跡・211号土坑を切る状態にある。また、遺構内に位置する110号・111号土坑よりも本住居跡が新しい。163号土坑との新旧関係は不明である。平面形態：円形。規模：3.60m×3.58m。床面積：9.5m²。残存深度：26cm。床面の状態：多少の凹凸がみられるが、全体的に平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：南東部を除き、ほぼ全周する。幅25cm前後、深さ15cm前後である。柱穴：遺構の各隅付近に位置するP-1～4の4基が規模や位置から主柱穴と考えられる。炉跡：検出されなかった。遺構中央部に位置していたものと思われるが、同部分には焼土・炭化物等は確認されず、トレンチ調査を行ったところ本住居跡よりも古い111号土坑が存在していることが判明した。なお、後述の河原石が石囲い炉に使用されていた可能性がある。遺構埋没状態：ロームブロック・YP等を含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。黒浜～十三菩提式期にかけての紛れ込み遺物が多い。深鉢(1)は、破碎されて遺構西側及び南側に散らばるような状態で出土している。また、111号土坑の周辺部を中心に長さ25～50cm程度の河原石が合計8点出土している。時期：中期加曽利E4式期。

遺物：深鉢2以上、土器片234点、石器（磨石・凹石9、打製石斧1、石匙1、スクレイパー1、石錐1、剥片その他53点）。黒曜石総重量52.1g。深鉢(1)は曾利V式と考えられる。掲載遺物、土器3点、石器6点。

26号住居跡（遺構：第157図、P L 11／遺物：第237・238図、P L 63・64、観察表P 571）

位置：Ed-55グリッド。検出状態：遺構内に多数のピットや周溝が雑然とした状態で存在する。これらのピットと本住居跡との関係は明確にできなかったが、拡張等の立て替えが行われた可能性もある。また、五領ヶ台式期と想定される155号土坑が北西側に位置する。平面形態：長方形。規模：6.20m×5.30m。床面積：24.6㎡。残存深度：23cm。長軸方位：N-17°-W。床面の状態：先述したようにピット・周溝が多数存在し、床面の状態を把握できなかった。壁面の状態：遺存状態良好な部分では垂直に近い状態にある。壁周溝：不整然とした状態であるが、ほぼ全周している。また、その内側にも西側から南側にかけても周溝があり、拡張が行われている可能性がある。柱穴：多数のピットが存在し、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒等を含む黒褐色基調の土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中やピット内・壁周溝内に散在する状態で出土している。出土した土器の大半は前期黒浜・有尾～諸磯a式と想定されるものである。十三菩提式土器及び五領ヶ台式土器も少量出土しており、これらの時期の遺構が重複していた可能性がある。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期と想定される。なお、時期判断を誤認しており、土器は十三菩提式土器・五領ヶ台式土器を掲載している。

遺物：土器片564点、石器（石皿1、磨石・凹石15、敲石4、砥石2、石匙1、スクレイパー1、剥片その他105点）を確認している。石皿(6)は中央部に穴が開けられている。掲載遺物、土器5点、石器9点。

27号住居跡（遺構：第156図、P L 11／遺物：第239図、P L 64、観察表P 571）

位置：Ee-53グリッド。検出状態：あまり良好な遺存状態ではない。南西側は28号住居跡に切られている。南東側は桑根等の影響で凹凸が激しく、遺構範囲を明確に把握できなかった。8号土坑は本住居跡内に位置すると想定され、本住居跡を切るものと思われるが、時期は不明である。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模：不明。短軸方向は2.90m前後である。床面積：不明。残存深度：8cm弱。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：南西側で確認されているが、南東方向に向かうにしたがって不鮮明になる。柱穴：数基のピットが存在するが、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：確認されなかった。遺構埋没状態：Y P等を含む黒褐色土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中から少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片44点、石器（石皿1、剥片その他22点）。黒曜石総重量43.3g。掲載遺物、土器4点、石器2点。

28号住居跡（遺構：第156図、P L 11／遺物：第240～242図、P L 64・65、観察表P 571）

位置：Ee-53グリッド。検出状態：47号土坑に切れ、27号住居跡を切る状態にある。平面形態：全容不明であるが、楕円形に近い状態と思われる。規模：3.75m×2.90m。床面積：推定9.6㎡。残存深度：28cm。長軸方位：N-42°-W。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。中央部分がやや低い状態にある。壁面の状態：70°前後の勾配で立ち上がる。北側～東側～南側にかけて確認されているが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：壁際沿いを中心にピットが位置している。炉跡：中央部付近73cm×47cmの範囲に被熱痕が確認され、明確な掘り込みはないが、同部分に炉跡が位置していたものと考えられる。遺構埋没状態：Y P等を含む黒褐色土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。土器は諸磯c式土器が主体であるが、諸磯a・諸磯b式土器も多かった。時期：前期諸磯c式期と想定される。

遺物：土器片454点、石器（石核1、スクレイパー1、石匙1、楔形石器1、石錐1、石鏃4、磨石3、砥石1、剥片その他175点）。黒曜石総重量236.2g。土器(6)は縁孔のある浅鉢。掲載遺物、土器9点、石器9点。

29号住居跡（遺構：第158図、P L 11／遺物：第 243図、P L 65、観察表 P 571）

位置：Ee-55グリッド。検出状態：遺構の掘り込みはほとんど残存していない状態であり、壁周溝の存在から住居跡と判断したものである。25号住居跡及び184号土坑に切られる状態にある。南東側に位置する21号住居跡との新旧関係は不明であるが、同住居跡の方が掘り込みが深く、また先行して調査したため図上では同住居跡に切られる状態になっている。平面形態：長方形と想定される。規模：-×4.85m。床面積：不明。残存深度：0 cm。長軸方位：N-27°-W。床面の状態：凹凸が著しい。後世の桑根等の影響と思われる。壁面の状態：不明。壁周溝：重複部分を除き確認されている。幅は20～40cm、深さ25cm前後である。北側は比較的幅が広い状態にあり、壁柱穴列を伴っている。柱穴：北側の壁周溝内に壁柱穴列があるほか、数基のピットが不規則に存在するが、支柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺構範囲内から少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期諸磯 a 式期。遺物：土器片17点、石器（磨石・凹石 2、石匙 1、剥片その他 7 点）を確認している。黒曜石総重量8.5g。掲載遺物、土器 3 点、石器 2 点。

30号住居跡（遺構：第160図、P L 13／遺物：第244～248図、P L 65～67、観察表 P 571）

位置：Ef-56グリッド。南東側は調査区外。検出状態：44号土坑を切る状態にある。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：最下面までは約160cm。長軸方位：不明。床面の状態：北側はテラス状に40 cmほど高くなっており、また中央部は一段低い状態にある。壁面の状態：西側は70° 前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：ピット 3 基が検出されているが、支柱穴は不明である。遺構埋没状態：ローム粒・Y P 等を含む黒褐色基調の土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中から大量の遺物が出土している。土器は諸磯 c 式土器が主体であるが、黒浜～諸磯 b 式土器もやや多かった。時期：前期諸磯 c 式期。遺物：土器片3,204点、石器（石皿 1、磨石・凹石16、敲石 1、砥石 7、スクレイパー 4、打製石斧 9、磨製石斧 2、石匙 3、石錐 1、楔形石器 1、石鏃 9、石核 3、剥片その他687点）を確認している。黒曜石総重量1,358.4g。土器には興津式とみられるものもわずかに確認されている。掲載遺物、土器15点、石器31点。

31号住居跡（遺構：第155図、P L 11／遺物：第249図、P L 63、観察表 P 572）

位置：Ee-53グリッド。南西側は調査区外。検出状態：24号住居跡に切られており、調査区内においてわずかな範囲を検出したのみである。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：20cm。長軸方位：不明。床面の状態：凹凸が著しい。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：検出範囲において 3 重に存在する。柱穴：ピット 4 基を検出しているが、支柱穴は不明。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片97点、石器（磨石 3、打製石斧 1、剥片その他 2 点）を確認している。黒曜石は検出されなかった。掲載遺物、土器 6 点、石器 2 点。

32号住居跡（遺構：第161図、P L 12・13／遺物：第250・251図、P L 59、観察表 P 572）

位置：Ee-56グリッド。検出状態：南側は後世の削平により消失している。20号・33号・34号・35号住居跡及び49号・52号土坑が重複する。49号土坑は五領ヶ台式期、35号住居跡は諸磯 b 式期と想定され本住居跡よりも新しいと考えられるが、他の遺構はいずれも黒浜～諸磯 a 式期と考えられる近接した時期のもので、新

旧関係を明確に把握できなかった。ただ、床面のレベル差からは20号・33号住居跡よりも本住居跡の方が新しいと想定される。平面形態：全容は不明であるが、ほぼ方形と考えられる。規模：推定5.30m×4.95m。床面積：不明。残存深度：20号・33号住居跡からの深さ約30cm。長軸方位：N-12°-E。床面の状態：多少の凹凸はあるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出部分において全周する。北東付近にある溝は33号住居跡壁周溝の一部と考えられる。柱穴：多数のピットが存在するが、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。遺物：土器片1,297点、石器（磨製石斧1、石核1、石匙1、スクレイパー2、石錐1、楔形石器1、石鏃1、磨石・凹石5、石皿1、敲石1、剥片その他110点）を確認している。黒曜石総重量188.6g。土器②は北白川下層式系と想定される。掲載遺物、土器20点、石器8点。

33号住居跡（遺構：第152図、P L 8 / 遺物：第252図、P L 60、観察表P 572）

位置：Ee-55グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため、一段低い状態にある。20号・21号・32号・37号住居跡、52号・78号・135号土坑が重複して位置する。これらの遺構は135号土坑（諸磯c式期）を除き、いずれも黒浜～諸磯a式期と考えられる近接した時期のもので、新旧関係を明確に判断することができなかった。ただ、床面のレベル差や出土遺物からは、本住居跡が20号・32号住居跡よりも古いものと推測される。また、2回程度の拡張が行われた可能性がある。平面形態：全容不明であるが、長方形基調と推定される。規模：不明。短軸方向は5m前後である。床面積：不明。残存深度：40cm。長軸方位：N-44°-W。床面の状態：残存部分においては、ほぼ平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な部分は垂直に近い状態にある。壁周溝：検出部分において全周する。図示できなかったが、32号住居跡内にも延びており（第161図参照）、南側の削平部分にまで及んでいる。北東側・南西側は1条で、南西側の壁周溝は幅が広く深く掘り込まれている。北西側は3重に検出されており、先述したように2回の拡張が想定される。柱穴：数基のピットが存在するが、主柱穴は不明である。炉跡：52号土坑に切られるような状態で地山の被熱痕が確認されたが、明確な掘り込みはみられなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片412点、石器（石鏃1、スクレイパー1、打製石斧1、台石1、砥石1、磨石6、剥片その他44点）を確認している。黒曜石総重量101.1g。掲載遺物、土器5点、石器5点。

34号住居跡（遺構：第162図、P L 8 / 遺物：第253図、P L 60、観察表P 572）

位置：Ee-56グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため大半が消失している。35号住居跡と重複し、本来は本遺構の方が古いと考えられる。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：33cm。長軸方位：不明。床面の状態：多少の起伏があるが、ほぼ平坦である。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：ピット3基を確認しているが、いずれも床面からの深さが浅い。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片18点、石器（石鏃1、磨石1、剥片その他20点）。黒曜石総重量16.7g。掲載遺物、土器2点、石器1点。

35号住居跡（遺構：第162図、P L 8 / 遺物：第254図、P L 60、観察表P 572）

位置：Ee-56グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため大半が消失している。本来は、20号・32号・34号

住居跡を切るものと思われるが、遺構の範囲を明確に把握することができなかった。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：20号住居跡床面からの深さ10cm前後。床面の状態：調査範囲においてはほぼ平坦である。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：調査範囲において検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期諸磯b式期。

遺物：土器片112点（内、獣面把手3点）、石器（磨石・凹石3、石匙1、石鏃1、石皿1、剥片その他13点）を確認している。黒曜石総重量5.67g。掲載遺物、土器6点、石器4点。

36号住居跡（遺構：第163図、P L 12・13／遺物：第255～257図、P L 67・68、観察表P 573）

位置：Ef-54グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため消失している。また、西側は攪乱を受けている。5基の土坑が重複し、諸磯c式期と想定される55号土坑を除き、他の土坑はいずれも諸磯a式期と考えられるものである。73号土坑を切り、他の土坑には切られるようであるが、諸磯a式期の土坑との新旧関係はあまり明確ではない。また、炉跡の位置や壁周溝の状態から他の住居跡が重複している可能性も考えられる。平面形態：全容は不明であるが、隅丸方形もしくは長方形と思われる。規模：東西方向（短軸方向と想定される）は4.5m前後と推定される。残存深度：55cm。長軸方位：推定N-29°-W。床面の状態：やや起伏がみられる。また、中央南東よりに地山の被熱痕が確認されている。壁面の状態：85°前後の勾配で立ち上がり、垂直に近い状態にある。壁周溝：検出部分において3重に検出されている。柱穴：多数のピットが存在しているが、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：南西側に偏在するような状態にある。土器埋設炉で、掘り方平面形は楕円形を呈し、規模は55cm×35cm、埋設土器部分の深さ26cm。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：炉跡埋設土器のほか、埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片1,078点、石器（磨石・凹石8、敲石2、磨製石斧4、砥石2、スクレイパー2、石皿1、石匙1、石鏃2、剥片その他117点）を確認している。黒曜石総重量193.6g。炉跡埋設土器は掲載していないが、胎土に繊維を含まず、単節縄文が施文されるものである。掲載遺物、土器18点、石器16点。

37号住居跡（遺構：第153図、P L 8／遺物：第258図、P L 60、観察表P 573）

位置：Ef-55グリッド。検出状態：南側は後世の削平のため、一段低い状態にある。21号住居跡等の遺構に切られており、南西側の一部が残存するのみである。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：35cm。長軸方位：不明。床面の状態：検出部分は比較的平坦な状態であった。壁面の状態：遺存状態良好な北西部では垂直に近い状態にある。壁周溝：検出されなかった。柱穴：主柱穴は不明である。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：少量の遺物が埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片6点、石器（石皿1、剥片その他9点）を確認している。黒曜石は検出されていない。土器(6)は関山Ⅱ式と想定される。掲載遺物、土器6点、石器1点。

38号住居跡（遺構：第159図、P L 13／遺物：第259・260図、P L 68、観察表P 573）

位置：Ed-54グリッド。検出状態：比較的良好な遺存状態であるが、上面は一部攪乱を受けている。平面形態：不整円形。規模：2.60m×2.52m。床面積：5.4m²。残存深度：74cm。床面の状態：多少の起伏がみられ

る。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・YP等を含む黒褐色土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期諸磯c式期。

遺物：土器片300点、石器（凹石・磨石8、石皿1、石鏃1、剥片その他80点）。黒曜石総重量202.3g。磨石(8)にはベンガラと思われる赤褐色物が付着していた。掲載遺物、土器7点、石器4点。

39号住居跡（遺構：第164図、P L 13／遺物：第261図、P L 69、観察表P 573）

位置：Dj-54グリッド。検出状態：黒浜式期の72号・73号住居跡に切られる状態にあり、73号住居跡の床面下にかろうじて壁周溝と5cmほどの掘り込み及び炉跡が残存していた。平面形態：長方形。規模：推定3.90m×3.30m。床面積：推定11.9m²。残存深度：73号住居跡床面から約5cm。長軸方位：N-31°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：北西側から東側にかけて確認できたが、他の部分ではあまり明瞭な状態ではない。柱穴：重複の影響もあり、支柱穴は把握できなかった。南東側は壁柱穴列が存在するようである。炉跡：ほぼ中央部に位置する。土器埋設炉で深鉢上半部を使用し、底部には胴部片を置いている。また、炉跡北西端にも土器片を立てている。埋設土器内からは凹石が出土している。炉跡掘り方は、平面楕円形で、規模は75cm×50cm、埋設土器部の深さは25cmである。炉跡埋没土中からは少量の焼土が検出されている。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：炉跡出土遺物のみを本住居跡の遺物と判断した。時期：前期関山II式期。

遺物：深鉢1点、土器片10点、石器（凹石1点）を確認している。黒曜石は検出されていない。深鉢(1)は口唇部に9個の鋸歯状突起が4単位ある。掲載遺物、土器3点、石器1点。

40号住居跡（遺構：第154図、P L 13／遺物：第262図、P L 70、観察表P 573）

位置：Ee-54グリッド。検出状態：遺構の掘り込みがほとんど残存していない状態で、壁周溝の存在から住居跡と判断したものである。重複が著しく遺構の範囲も明確ではない。5号・23号住居跡及び126号土坑・132号土坑に切られる状態にある。128号土坑との新旧関係は不明である。平面形態：不明であるが、長方形基調である可能性が高い。規模・床面積：不明。残存深度：0cm。長軸方位：不明。床面の状態：凹凸がある。壁面の状態：不明。壁周溝：北西側及び23号住居跡内に同住居跡の炉跡に切られる状態で存在するが、他の部分では明確に確認できなかった。北西側は2重に検出されており、拡張された可能性がある。柱穴：遺構想定範囲内に数基のピットが存在する。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺構想定範囲内から少量の土器片が出土している。時期：断定はできないが前期黒浜・有尾式期の可能性を考えておきたい。

遺物：土器片14点を確認している。石器類は検出されなかった。掲載遺物、土器1点。

41号住居跡（遺構：第145図、P L 15／遺物：第262図、P L 70、観察表P 573）

位置：Ec-58グリッド。南側は調査区外。検出状態：14号住居跡と重複し、本住居跡の方が古いと考えられる（14号住居跡参照）。また、ピットの状態は14号住居跡と同様である。平面形態：全容不明であるが、方形もしくは長方形と想定される。規模：不明。東西方向は推定2.8m前後である。床面積：不明。残存深度：14号住居跡床面から22cm。長軸方位：推定N-33°-W。床面の状態：凹凸がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：検出されなかった。柱穴：多数のピットが存在するが、支柱穴は明確

に把握できなかった。また、壁柱穴列も確認できなかった。炉跡：長さ35cmほどの細長い河原石と埋設土器で構築されている。埋設土器は2か所にあり、掘り方の規模85cm×30cm、深さ約35cmである。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：炉跡内出土の土器のほかは、埋没土中から土器片がわずかに出土している程度である。時期：前期関山Ⅱ式期。

遺物：土器片10点を確認している。炉跡埋設土器は脆弱な状態にあり、十分に復元できなかった。(1)・(2)・(3)は炉跡埋設土器の一部と炉跡内から出土した遺物である。掲載遺物、土器3点。

42号住居跡（遺構：第166図、P L 15）

位置：Ed-57グリッド。南西側は調査区外。検出状態：ごく一部分を検出し得たのみである。北西側に壁周溝と思われる溝が検出されたため住居跡と判断した。ピット2基が存在するほか、詳細は不明である。遺物も出土していない。諸磯c式期と想定される333号土坑、時期不明の335号土坑が重複する。

遺物：掲載遺物0点。

43号住居跡（遺構：第165図、P L 14・15／遺物：第263・264図、P L 70・71、観察表P 573）

位置：Dh-52グリッド。検出状態：44号住居跡内に納まるように位置し、本住居跡が新しい。諸磯a式期と想定される217号土坑、時期不明の218号・219号土坑が位置する。土層の状態から217号・218号土坑よりも本住居跡の方が新しいと思われる。219号土坑との新旧関係は不明である。また、図上では数基のピットが本住居跡を切る状態にあるが、これは44号住居跡に帰属するものと考えられ、本来は本住居跡の方が新しい。平面形態：北側壁が長い台形。床面積：11.6㎡。残存深度：37cm。長軸方位：N-17°-E。床面の状態：多少の起伏がある。壁面の状態：70°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：北側及び東側で確認されているが、他の部分では明瞭な状態ではない。柱穴：多数のピットが存在するが、支柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒・YP等を含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期諸磯a式期。

遺物：土器片330点、石器（磨石・凹石8、磨製石斧1、砥石1、スクレイパー3、打製石斧1、剥片その他39点）を確認している。黒曜石総重量17.3g。掲載遺物、土器11点、石器10点。

44号住居跡（遺構：第165図、P L 14・15／遺物：第265図、P L 71、観察表P 574）

位置：Dh-52グリッド。検出状態：43号住居跡に切られる状態にある。217号・218号・219号土坑が重複して位置する。西側はあまり良好な遺存状態ではない。平面形態：長方形。規模：6.85m×5.75m。床面積：32.9㎡。残存深度：20cm。長軸方位：N-6°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がある。壁面の状態：75°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：やや不整然とした状態で一部不明瞭な部分もあるが、本来は全周していたものと推定される。北側及び東側は2重に存在するようであり、拡張が行われた可能性がある。柱穴：多数のピットが残存する。P-1・2は規模や位置から支柱穴の一部と考えられる。炉跡：重複の影響もあり、検出されていない。遺構埋没状態：ローム粒・YP等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片227点、石器（磨石・凹石8、残核1、打製石斧1、スクレイパー2、剥片その他32点）を確認している。黒曜石総重量27.9g。掲載遺物、土器4点、石器6点。

45号住居跡（遺構：第167図、P L15／遺物：第266～269図、P L71～73、観察表P574）

位置：Di-51グリッド。検出状態：重複が著しい。54号・56号住居跡を本住居跡が切る。また、時期不明の227号土坑、黒浜式期と想定される228号・347号土坑が重複するほか、遺構番号を付さなかったが228号土坑の北東側にも土坑が存在する。これらの遺構は、工事工程の関係で北西側と南東側に分けて、2次にわたる調査を行っている。平面形態：長方形。規模：6.20m×5.40m。床面積：推定33.1㎡。残存深度：30cm。長軸方位：N-11°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：60°前後の勾配で立ち上がる。あまり良好な遺存状態ではなかった。壁周溝：北東隅部では確認できなかったが、ほぼ全周するものと思われる。多重に存在し、北側では4重に検出されており、3回の拡張が行われたものと推定される。柱穴：重複・拡張の影響で多数のピットが存在するが、P-1～4が最終拡張段階での主柱穴と思われる。溝状のP-5・6は出入り口部に関連する可能性が考えられる。北側寄りに河原石を使用した小規模な石囲い炉があり、その手前に埋設土器がある。石囲い炉の掘り方は、平面不整形で、規模43cm×40cm、深さ19cmである。埋設土器は下半を欠いた深鉢を北から3番目の壁周溝内に付設したもので、位置的に炉跡に関連する可能性もある。遺構埋没状態：ローム粒等を含む黒褐色土が埋没する。遺物出土状態：先述の埋設土器(1)のほか、多量の土器・石器類が埋没土中に散在するような状態で出土している。土器は黒浜～諸磯a式と想定されるものが大半であるが、諸磯b式・c式土器もわずかにみられる。時期：前期黒浜～諸磯a式期。先述したように諸磯b式・c式土器も散見されるが、主体となる土器や遺構の形態から時期判断した。遺物：深鉢1点、土器片2,825点（黒浜・有尾式959点、諸磯a式1,742点、諸磯b式84点、諸磯c式2点、不明38点）、石器（磨石・凹石29、敲石2、砥石3、打製石斧1、スクレイパー4、石匙4、石鏃2、剥片その他131点）。黒曜石総重量143.9g。掲載遺物、土器20点、石器14点。

46号住居跡（遺構：第169図、P L17／遺物：第270～272図、P L73・74、観察表P574）

位置：Dj-51グリッド。検出状態：工事工程の関係で、本住居跡は北西側と南東側に分けて調査を行っている。壁周溝の状態から2軒の住居跡が重複している可能性もあるが、床面に顕著な高低差は認められず、土層観察からも重複は確認できなかったため、規模を大幅に拡張したものと判断した。黒浜式期と想定される226号・357号土坑が重複して位置する。平面形態：拡張前は隅丸方形、拡張後は隅丸長方形。規模：拡張前は3.50m×3.25m、拡張後は6.70m×5.40m。床面積：拡張前は11.0㎡、拡張後は33.1㎡と推定される。残存深度：18cm。長軸方位：拡張後はN-11°-W。床面の状態：多少の凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：北東側の一部は不明瞭であるが、拡張前・拡張後ともほぼ全周する。拡張後部分では北側・東側においてあまり良好な遺存状態ではないものの2重に存在する部分があり、大規模拡張と小規模拡張の合わせて2回の拡張が行われたものと想定される。柱穴：多数のピットが存在するが、P-1～4の4基が最終拡張後の主柱穴と思われる。また、P-5・6の溝状ピットは出入り口施設に関連するものと判断した。炉跡：確認できなかった。南側に地山被熱痕が2か所にみられるが、明瞭な掘り込みは認められず、炉跡とは断定しがたい。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：深鉢6点、土器片2,410点、石器（石皿4、磨石・凹石37、磨製石斧1、砥石3、打製石斧2、スクレイパー2、石匙1、研磨具1、石鏃1、残核3、剥片その他134点）を確認している。黒曜石総重量139.7g。深鉢(1)～(6)はある程度器形が想定できる状態にまで復元できた。菱形状に縄文を施文するものが多い。石器(23)は研磨具と想定したものである。掲載遺物、土器11点、石器12点。

47号住居跡（遺構：第168図、P L 17／遺物：第273・274図、P L 75、観察表P 575）

位置：Dj-50グリッド。検出状態：48号・53号住居跡と重複し、48号住居跡に切られるようである。本住居跡は工事工程の関係で2次に分けて調査を行っている。北側に向かうほど遺存状態が悪い。平面形態：方形基調と想定される。規模：推定49.5m×4.60m。床面積：不明。残存深度：26cm。長軸方位：N-78°-E。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態が良好ではなく、明確ではない。壁周溝：重複の影響等で不鮮明な部分もあるが、ほぼ全周するものと推定される。西側は2重に、東側は3重に検出されており、拡張が行われた可能性がある。柱穴：多数のピットが存在し、あまり明確ではないが、P-1～4は規模や位置から主柱穴と思われる。P-5や溝状のP-6は出入り口部の可能性が考えられる。炉跡：中央東寄りや同じく西寄り等に地山被熱痕が認められたが、いずれからも明瞭な掘り込みは確認されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・YP等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片787点、石器（磨石・凹石11、磨製石斧1、打製石斧1、スクレイパー3、石匙1、石鏃1、敲石2、砥石2、剥片その他56点）を確認している。黒曜石総重量20.1g。ごく客体的にはあるが、北白川下層式系の土器もみられる。掲載遺物、土器11点、石器10点。

48号住居跡（遺構：第168図、P L 17／遺物：第275図、P L 75、観察表P 575）

位置：Dj-50グリッド。検出状態：47号・53号住居跡と重複し、いずれも本住居跡が切るものと思われる。本住居跡は工事工程の関係で2次に分けて調査を行っており、2次調査時に遺構西側を明確に検出することができなかった。また、北側に向かうほど遺存状態が悪い。平面形態：全容は不明であるが、方形基調と思われる。規模：不明。南北方向は4.1m前後である。床面積：不明。残存深度：10cm。長軸方位：不明。床面の状態：多少の凹凸がみられる。壁面の状態：明確に確認できなかった。壁周溝：西側や北東隅部では明瞭に確認できなかったが、本来は全周していたものと思われる。柱穴：多数のピットが存在するが、主柱穴は把握できなかった。炉跡：確認できなかった。南東隅に地山被熱痕が確認されているが、これは重複する47号住居跡に関わるものと思われる。遺構埋没状態：ローム粒・YP等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期諸磯a式期。

遺物：土器片386点、土製円板1点、石器（磨石・凹石8、スクレイパー2、石匙1、石錐1、剥片その他32点）を確認している。黒曜石総重量64.2g。掲載遺物、土器7点、石器6点。

49号住居跡（遺構：第170図、P L 17／遺物：第276～278図、P L 76、観察表P 575）

位置：Eb-50グリッド。検出状態：上面の一部に攪乱を受けるが、比較的良好な状態で遺存していた。平面形態：隅丸方形に近い円形で、北西側は50cm前後外側に張り出す状態にある。規模：3.62m×3.16m。床面積：9.0㎡。残存深度：62cm。長軸方位：N-66°-W。床面の状態：全体的にはほぼ平坦である。東側が数cm程度高い状態にある。壁面の状態：ほぼ垂直に近い状態（勾配角85°前後）で立ち上がる。壁周溝：全周する。北西側は2重に存在するが、これは拡張や重複ではなく、本住居跡に付随する何らかの施設の存在を想定しておきたい。柱穴：各壁際に位置するP-1～8の8基が主柱穴と考えられる。P-1・2とP-5・6、P-3・4とP-7・8がそれぞれ対応する。炉跡：明確な掘り込みは確認できなかったが、中央北東寄りに38cm×32cmほどの範囲で地山被熱痕があり、炉跡の痕跡と判断した。遺構埋没状態：ローム粒・ブロック等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器

片・石器類が出土している。時期：前期諸磯 a 式期。

遺物：深鉢 1 点、土器片 1,345 点、石器（石皿 1、磨製石斧 2、打製石斧 2、敲石 1、磨石・凹石 2、砥石 1、剥片その他 124 点）を確認している。黒曜石総重量 64.2g。土器には(8)などのように、ごく客体的にはあるが北白川下層式系のものが確認されている。掲載遺物、土器 8 点、石器 10 点。

50号住居跡（遺構：第171図、P L 16・17／遺物：第279図、P L 76、観察表 P 575）

位置：Dj-57グリッド。検出状態：攪乱溝に切られるが、比較的良好な遺存状態であった。平面形態：円形。規模：径3.80m前後。床面積：推定11.5m²。残存深度：20cm。方位：炉跡長軸方向はN-7°-E前後を指向する。床面の状態：多少の起伏はあるが、全体的にほぼ平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：円形に配列されており、主柱穴は8基前後と想定される。炉跡：ほぼ中央部に位置する。本来は石囲い炉と思われるが、河原石2石が残存するのみであった。掘り方は平面楕円形で、規模88cm×76cm、深さ22cmで、炉跡内に小ピット7基がある。炉跡埋没土中からは少量の焼土が検出されている。遺構埋没状態：ローム粒等を含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。前期の紛れ込み遺物が多かった。時期：中期加曾利 E 3 式期。

遺物：土器片 123 点、石器（磨石 1、石核 1、剥片他 17 点）。黒曜石総重量 32.4g。掲載遺物、土器 3 点、石器 3 点。

51号住居跡（遺構：第171図、P L 17／遺物：第280図、P L 76、観察表 P 575）

位置：Di-57グリッド。北東側は調査区外。検出状態：調査区の関係で遺構南西部を検出し得たのみである。平面形態：不明。検出部分は弧状を呈している。規模・床面積：不明。残存深度：48cm。長軸方位：不明。床面の状態：多少の起伏はみられるが、ほぼ平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な部分では直立に近い状態にある。壁周溝：検出されなかった。柱穴：数基のピットが検出されているが、主柱穴は不明である。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から土器片がわずかに出土した程度である。時期：前期諸磯 c 式期。

遺物：土器片 5 点、ミニチュア土器 1 点を確認している。石器類は確認できなかった。掲載遺物、土器 2 点。

52号住居跡（遺構：第172図、P L 18・19／遺物：第281・282図、P L 77、観察表 P 575）

位置：Ea-50グリッド。検出状態：5軒の住居跡が重複するものと思われる。新旧関係は土層観察から、新しい順に68号・69号・52号・70号・71号住居跡と判断したが、いずれも黒浜～諸磯 a 式期の遺構であり、誤認している可能性もある。なお、これらの遺構は工事工程の関係で第172図 C-C' ラインの東側と西側に分けて、2次にわたる調査を行っている。平面形態：楕円形に近い形態。規模：推定4.55m×4.15m。床面積：推定16.0m²。残存深度：43cm。長軸方位：N-8°-W。床面の状態：多少の凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：重複の影響もあり、明確に確認できなかった。壁周溝：全周する。柱穴：多数のピットが存在し、重複する遺構に帰属するものも多いと思われるが、規模及び位置関係から P-1～4 の 4 基を本住居跡の主柱穴と判断した。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：6・7層が残存した本住居跡の埋没土と思われる、ローム粒等を含む黒褐色土が埋没している。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯 a 式期に想定しておく。

遺物：土器片 1,530 点、石器（磨石・凹石 16、打製石斧 4、スクレイパー 2、敲石 2、磨製石斧 1、石匙 2、剥片その

他87点)を確認している。黒曜石総重量76.9g。掲載遺物、土器12点、石器8点。

53号住居跡 (遺構：第168図、P L 17／遺物：第283図、P L 75、観察表P 576)

位置：Di-50グリッド。北西側は調査区外。検出状態：あまり良好な遺存状態ではない。47号・48号住居跡と重複し、48号住居跡に切られるようであるが、47号住居跡との新旧関係は不明である。本住居跡は工事工程の関係で2次に分けて調査を行っており、2次調査時に住居跡と判断したものである。平面形態：不明。規模：不明。東西方向は5m前後と思われる。床面積：不明。残存深度：28cm。長軸方位：不明。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：西側部分を除き明瞭に確認できなかったが、西側は一部3重に存在しており、拡張が行われた可能性がある。柱穴：重複部分も含めて多数のピットが存在し、あまり明確ではないが支柱穴4基と仮定した場合、規模や位置からはP-7~10が相当するものと思われる。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期黒浜~諸磯a式期。遺物：土器片98点、石器(磨石・凹石2、剥片その他5点)。黒曜石4.1g。掲載遺物、土器4点、石器1点。

54号住居跡 (遺構：第167図、P L 15／遺物：第284・285図、P L 73、観察表P 576)

位置：Di-51グリッド。検出状態：重複が著しい。45号住居跡に切られる状態にある。56号住居跡にも切られるようであるが、明確には確認できなかった。また、黒浜式期と想定される228号・293号土坑が重複する。重複の影響もあり、本住居跡については不明確な点が多い。なお、これらの遺構は工事工程の関係で北西側と南東側に分けて、2次にわたる調査を行っている。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：20cm。長軸方位：不明であるが、北西方向を指向すると思われる。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。重複する56号住居跡の床面である可能性もある。南東寄りに小範囲ではあるが、地山被熱痕がみられた。壁面の状態：残存部分が少なく、不明確。壁周溝：南東側から北西側にかけて検出されたが、その他の部分は重複のため確認できなかった。柱穴：数基のピットが存在するが、支柱穴は不明である。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。重複する56号住居跡に帰属する可能性もある。時期：前期黒浜・有尾式期に想定しておく。遺物：土器片453点、土製円板1点、石器(石皿1、磨石3、磨製石斧2、礫器1、剥片その他20点)を確認している。黒曜石総重量5.7g。掲載遺物、土器10点、石器4点。

55号住居跡 (遺構：第171図、P L 19・20／遺物：第286・287図、P L 78、観察表P 576)

位置：Eb-58グリッド。検出状態：集石土坑である260号土坑と重複し、本住居跡が新しいと想定されるが、調査時に新旧関係を誤認しており、北東側一部の状態が不明瞭である。平面形態：台形に近い隅丸方形。規模：推定3.33m×3.23m。床面積：推定9.9m²。残存深度：32cm。長軸方位：N-43°-E。床面の状態：多少の起伏があるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：北東側の状態が不明であるが、各隅部で途切れる状態にあるものと想定される。幅20cm前後、深さ10cm前後。柱穴：大小のピット6基を検出している。P-1・4は比較的掘り込みが深い。P-2は長軸65cmと規模が大きく、柱穴以外の性格が考えられる。他のピットはいずれも小規模なものである。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ルームブロック・YP等を含む黒褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：北側隅部で深鉢(1)がほぼ完形の状態で出土し、東側隅部では上半部を欠損する深鉢(2)が出土している。このほか、埋

没土中から少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期諸磯c式期。

遺物：深鉢2点、土器片60点、石器（磨石・凹石1、スクレイパー1、石鏃3、剥片その他23点）を確認している。黒曜石総重量46.6g。掲載遺物、土器3点、石器4点。

56号住居跡（遺構：第167図、P L15）

位置：Di-52グリッド。検出状態：重複が著しい。45号住居跡に切られる状態にある。54号住居跡を切るようであるが、明確には確認できなかった。また、黒浜・有尾式期と想定される228号・293号土坑が重複する。重複の影響もあり、本住居跡については不明な点が多い。なお、これらの遺構は工事工程の関係で北西側と南東側に分けて、2次にわたる調査を行っている。平面形態：全容は不明であるが、長方形基調と想定される。規模：不明。短軸（東西）方向は残存部分で5.25m。床面積：不明。残存深度：15cm。長軸方位：不明。北側壁はN-10°-W前後を指向する。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。重複する54号住居跡の床面である可能性もある。壁面の状態：あまり良好な遺存状態ではなく、不明である。壁周溝：西側で確認されているのみである。柱穴：ピット数基が検出されているが、主柱穴は不明。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡出土遺物としては取り上げていないが、54号住居跡出土遺物としたものが本住居跡に帰属する可能性もある。時期：不明な部分が多いが、前期黒浜・有尾式期に想定しておく。

遺物：掲載遺物0点。

57号住居跡（遺構：第173図、P L19／遺物：第288・289図、P L78・79、観察表P576）

位置：Dg-50グリッド。北側及び西側は調査区外。検出状態：比較的良好な遺存状態であったが、北側・西側が未調査のため、詳細は不明である。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：40cm。長軸方位：不明。床面の状態：ローム面を床面としており、多少の凹凸はあるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出部分において全周する。東側は2重、南側は3重に確認されており、拡張が行われた可能性がある。柱穴：大小のピット数基が存在するが、主柱穴は不明。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：2・3・6層が本住居跡の埋没土と考えられる。ローム粒・YP等を含む黒褐色基調の土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。南東隅付近には長さ35cmほどの河原石がみられた。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片1,166点（黒浜・有尾式102点、諸磯a式1,063点、不明1点）、石器（石皿5、磨石・凹石16、磨製石斧1、残核1、スクレイパー2、石匙1、剥片その他19点）。黒曜石総重量21.7g。掲載遺物、土器9点、石器9点。

58号住居跡（遺構：第174図、P L19／遺物：第290・291図、P L79、観察表P576）

位置：Dg-51グリッド。検出状態：工事工程の関係で、2次に分けて調査を行っている。東側及び北側は遺存状態が悪く全容を把握できなかった。また、ほぼ同時期と想定される355号土坑に切られる状態にある。平面形態：不明であるが、長方形基調と思われる。規模：不明。南北方向は4.5m前後と推定される。床面積：不明。残存深度：44cm。床面の状態：多少の起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：南側から西側にかけて確認されたが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：数基のピットが存在し、深く掘り込まれているものが多いが、主柱穴は明確に把握できなかった。炉跡：

確認できなかった。白色・褐色軽石やローム粒等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯 a 式期。
遺物：土器片243点（黒浜・有尾式66点、諸磯 a 式176点、諸磯 b 式1点）、石器（磨石・凹石11、磨製石斧1、砥石2、スクレイパー3、剥片その他32点）。黒曜石総重量10.6g。掲載遺物、土器9点、石器9点。

59号住居跡（遺構：第176図、P L 20・23／遺物：第292～294図、P L 80、観察表 P 576）

位置：Dh-51グリッド。検出状態：西側一部に攪乱を受ける。平面形態：隅丸台形。規模：4.65m×4.08m。床面積：14.9㎡。残存深度：30cm。長軸方位：N-58°-E。床面の状態：後世の桑根等の影響と思われる凹凸・地割れ状の溝が著しい。壁面の状態：おおむね70°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：南西側で確認されているが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：数基のピットが存在し、P-1～4の4基が支柱穴と想定される。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：中央部付近から深鉢(1)が、東側から深鉢(2)が、南側からコップ形土器(3)が出土しているほか、埋没土中から土器片・石器類が出土している。時期：前期諸磯 a 式期。

遺物：深鉢2点、コップ形土器1点、土器片189点、石器（磨石・凹石20、敲石2、磨製石斧1、砥石2、スクレイパー1、剥片その他26点）を確認している。黒曜石は検出されていない。磨石・凹石及び敲石の内18点に明瞭な被熱痕が認められた。掲載遺物、土器5点、石器11点。

60号住居跡（遺構：第175図、P L 21・23／遺物：第295～297図、P L 80・81、観察表 P 577）

位置：Ea-52グリッド。検出状態：いずれも諸磯 b 式期と想定される376号・378号土坑に切られる状態にある。また、壁周溝やピットの検出状態からは拡張が行われたものと判断される。平面形態：隅丸長方形。規模：7.09m×5.40m。床面積：35.9㎡。残存深度：31cm。長軸方位：N-30°-W。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では直立に近い状態にある。壁周溝：重複等の影響で不明瞭な部分もあるが、ほぼ全周するものと想定される。また、不整然とした状態ではあるが、南東側は2重に、南西側は3重に、北西側は4重に存在するようであり、3回にわたる拡張が行われた可能性がある。柱穴：先述したように拡張が行われているため、多数のピットが存在するが、P-1～6の6基を規模や位置関係から最終拡張段階での支柱穴と判断した。P-1・3・5及びP-2・4・6は、それぞれほぼ同一ライン上に位置している。また、P-7としたものは溝状のもので、出入口施設に関連する可能性が考えられる。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色粒等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没するものと思われる。なお、1・5層は重複する378号土坑の埋没土と考えられる。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯 a 式期。

遺物：土器片753点（黒浜・有尾式611点、諸磯 a 式78点、不明その他64点）、石器（石皿1、磨石・凹石18、砥石1、敲石2、打製石斧1、磨製石斧1、スクレイパー2、石鏃1、剥片その他68点）を確認している。黒曜石総重量48.8g。掲載遺物、土器12点、石器15点。

61号住居跡（遺構：第177図、P L 23／遺物：第298図、P L 81、観察表 P 577）

位置：Ea-49グリッド。南西側大半が調査区外。検出状態：調査区の関係で北東側の一部を検出し得たのみであり、遺構の全容は不明である。67号住居跡と重複し、本住居跡が切る状態にある。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：38cm。長軸方位：不明。床面の状態：多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出部分において全周する。柱穴：ピット数基が検出されているが、支柱穴は不明。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から深鉢(1)のほか、土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯 a 式期。

遺物：深鉢 1 点、土器片 122 点（黒浜・有尾式 71 点、諸磯 a 式 51 点）、石器（磨石 1、敲石 1、石鏃 1、剥片その他 3 点）を確認している。黒曜石総重量 2.6g。掲載遺物、土器 2 点、石器 3 点。

62号住居跡（遺構：第178図、P L 21・23／遺物：第299図、P L 82、観察表 P 577）

位置：Eb-52グリッド。検出状態：比較的良好な遺存状態であった。平面形態：隅丸長方形。規模：3.90 m×3.45m。床面積：12.5㎡。残存深度：23cm。長軸方位：N-13°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。東側に向かってわずかに低くなる状態にある。壁面の状態：遺存状態良好な部分では直立に近い状態にある。壁周溝：西側の北半から北側～東側にかけて確認されたが、北東隅部では途切れる状態にある。柱穴：大小のピットが存在するが、規模や位置関係から P-1～4 基を支柱穴と判断した。P-3 は掘り方の規模が他に比して大きい。P-5・6 等も深い掘り込みを有している。炉跡：中央北側に焼土がわずかに分布していたが、焼土下にはピットがあり、炉跡とは断定し難い。遺構埋没状態：ロームブロック等を含む黒褐色基調の土が埋没していた。1層の状態からみて南北に細長い他の遺構が重複していた可能性もあるが、明確に把握できなかった。遺物出土状態：北側壁周溝の上側から土器(1)が出土しているほか、埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。P-6 の北側には大振りな河原石がある。黒浜～諸磯 b 式期にかけての土器も多くみられた。時期：前期諸磯 c 式期。

遺物：土器片 338 点（黒浜・有尾式 82 点、諸磯 a 式 126 点、諸磯 b 式 32 点、諸磯 c 式 98 点）、石器（石核 1、石錐 1、剥片その他 51 点）を確認している。黒曜石総重量 147.4g。掲載遺物、土器 4 点、石器 2 点。

63号住居跡（遺構：第179図、P L 22・24／遺物：第300・301図、P L 82・83、観察表 P 577）

位置：Dj-49グリッド。検出状態：上面に一部攪乱を受けているものの、比較的良好な遺存状態であった。平面形態：隅丸長方形。規模：4.50m×3.92m。床面積：15.6㎡。残存深度：37cm。長軸方位：N-10°-W。床面の状態：多少の凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では直立に近い状態にある。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、ほぼ全周する。西側・南側では 2 重に、東側では少なくとも 3 重に存在するようであり、数回にわたる拡張が行われた可能性がある。柱穴：拡張の影響もあり、多数のピットが存在する。あまり明確ではないが、P-1～4 の 4 基を最終拡張段階での支柱穴と判断した。炉跡：中央部やや西寄りに 72cm×35cm ほどの範囲で地山被熱痕が認められ、炉の痕跡と推定される。遺構埋没状態：ローム粒・ブロック等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中に散乱するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯 a 式期。

遺物：土器片 680 点（黒浜・有尾式 240 点、諸磯 a 式 439 点、その他 1 点）、石器（石皿 1、磨石・凹石 11、磨製石斧 2、敲石 1、棒状礫 1、砥石 3、不明石器 1、スクレイパー 2、滑石片 1、石匙 1、剥片その他 34 点）。黒曜石総重量 56.5g。不明石器(2)は凹面が平滑であり、磨る用途と推定される。掲載遺物、土器 13 点、石器 14 点。

64号住居跡（遺構：第180図、P L 22・24／遺物：第302図、P L 83、観察表 P 577）

位置：Dj-49グリッド。検出状態：北西側から北側～東側にかけての遺存状態が悪かった。破線で図示した

範囲がおおむね遺構範囲と思われるが、掘り過ぎている可能性が高い。時期不明の370号土坑が重複する。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：10cm。長軸方位：不明であるが、北西方向を指向しているものと推定される。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：南東～南西～北西部にかけてコの字状に確認されているが、本来は全周していた可能性がある。南西部は2重に存在するようであり、拡張が行われた可能性がある。柱穴：規模や位置関係からP-1～5の5基を支柱穴と判断した。P-1・2・4はほぼ同一ライン上に位置することから、支柱穴は本来6基であった可能性があり、重複する370号土坑の位置に残りの支柱穴が存在していたものと推定される。炉跡：中央北西よりに位置する。土器を埋設したものである。掘り方は、平面不整形円で、規模35cm×35cm、深さ15cm。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：先述の炉跡使用の深鉢(1)のほか、埋没土中から少量の遺物が出土している。時期：炉跡使用の土器から前期諸磯a式期と想定される。遺物：深鉢1点、土器片109点(黒浜・有尾式46点、諸磯a式63点)、石器(小円礫1、剥片2点)を確認している。黒曜石総重量2.9g。掲載遺物、土器4点。

65号住居跡(遺構：第177図、P L 24/遺物：第303・305・306図、P L 83、観察表P 577)

位置：Dj-51グリッド。検出状態：比較的良好な遺存状態であった。西側に黒浜式期と想定される357号土坑が重複し本来は本住居跡が新しいが、土坑を先行して調査してしまったため、西側一部の状態が確認できなかった。平面形態：円形。規模：2.65m×2.57m。床面積：推定5.6㎡。残存深度：26cm。床面の状態：全体的にほぼ平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な部分では直立に近い状態にある。壁周溝：重複部分は不明だが、全周していたものと推定される。柱穴：ピット6基が検出されているが、支柱穴構造は判断できない。P-5・6は壁周溝を切るように対の状態で配置されている。炉跡：P-2の北東側にわずかな地山被熱痕が認められるが、炉跡とは断定し難い。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：東側の壁周溝上に倒れた状態で深鉢のほぼ完形品(1)が出土しているほか、埋没土中に散乱するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期諸磯c式期。

遺物：深鉢1点、土器片128点(黒浜・有尾式11点、諸磯a式33点、諸磯b式21点、諸磯c式62点、不明1点)、石器(スクレイパー1、剥片その他20点)を確認している。黒曜石総重量11.5g。深鉢(1)は諸磯c式土器の優品である。掲載遺物、土器6点、石器2点。

66号住居跡(遺構：第181図、P L 23/遺物：第304・307図、P L 83・84、観察表P 578)

位置：Di-52グリッド。検出状態：壁面の立ち上がりがほとんど確認できないような状態であった。平面図の線で囲んだ部分が、およその床面範囲と推定される。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模：不明であるが、長軸方向3.9m前後、短軸方向3.2m前後と推定される。床面積：不明。残存深度：0cm。長軸方向：不明であるが、北方向を指向するものと推定される。床面の状態：ほぼ平坦である。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：ピット数基が検出されているが、支柱穴は不明。炉跡：中央部南西寄りとして想定される位置に、埋設土器を用いた炉跡がある。深鉢上半部を使用しており、南東側には焼土が確認されている。掘り方は、平面円形で、規模34cm×34cm、深さ15cmである。炉跡に接して長さ44cmの大振りな河原石が位置していた。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：炉跡使用の埋設土器(1)のほか、遺構想定範囲内に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期諸磯b式期。

遺物：深鉢1点、土器片403点(黒浜・有尾式33点、諸磯a式185点、諸磯b式134点、不明51点)、石器(磨石・凹石

3、砥石1、石錐1、石鏃2、剥片その他59点)。黒曜石総重量74.9g。掲載遺物、土器14点、石器4点。

67号住居跡（遺構：第177図、P L 23／遺物：第308図、P L 81、観察表P 578）

位置：Ea-49グリッド。南西側大半が調査区外。検出状態：調査区の関係で北東側を検出し得たのみであり、遺構の全容は不明である。61号住居跡と重複し、本住居跡が切られる状態にある。また、北隅部に黒浜式期と想定される363号土坑が重複するが、新旧関係は確認できなかった。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模：不明。北西-南東方向は検出部分において4.90m。床面積：不明。残存深度：15cm。長軸方位：不明。北東壁は北西方向を指向する。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：北隅部で明瞭に確認されなかった以外は、検出部分において全周する。東側では2重に検出されているが平行な位置関係ではなく、他の住居跡が重複している可能性も考えられる。柱穴：ピット数基が存在するが、支柱穴は不明。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜～諸磯a式期。遺物：土器片25点（黒浜・有尾式20点、諸磯a式5点）、石器（磨製石斧1、砥石1、剥片その他5点）を確認している。黒曜石は検出されていない。掲載遺物、土器2点、石器3点。

68号住居跡（遺構：第172図、P L 18・19／遺物：第309図、P L 77、観察表P 578）

位置：Ea-50グリッド。検出状態：5軒の住居跡が重複するものと思われ、新旧関係は土層観察から、新しい順に68号・69号・52号・70号・71号住居跡と判断したが、いずれも黒浜～諸磯a式期を中心とする時期の遺構であり、新旧関係を誤認している可能性もある。本住居跡が本来は最も新しいと思われるが、52号住居跡の掘り込みが深く、同住居跡を先行して調査してしまったため、北西側一部の状態を確認し得たのみであった。なお、これらの遺構は工事工程の関係で第172図C-C'ラインの東側と西側に分けて、2次にわたる調査を行っている。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模・床面積：不明。残存深度：8cm。長軸方位：推定N-47°-W。床面の状態：確認し得た部分においては、ほぼ平坦な状態であった。52号住居跡との重複部分では、6・7層上面を床面としていたと思われるが、両層の上面に顕著な硬化面は確認できなかった。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：確認し得た部分においては全周する。柱穴：帰属する柱穴を明確に把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：明確に確認できなかった。C-C'ラインの西側においては52号住居跡との重複部分上層の遺物を本住居跡出土遺物として取り上げている。土器は諸磯a式土器が大半を占めるが、黒浜・有尾式土器も多く、諸磯b式土器もわずかに出土している。時期：前期諸磯a式～b式期。遺物：土器片320点、石器（敲石1、砥石1、スクレイパー1、磨石・凹石4、石皿1、剥片その他14点）を確認している。黒曜石総重量2.3g。掲載遺物、土器12点、石器3点。

69号住居跡（遺構：第172図、P L 18・19／遺物：第310図、P L 78、観察表P 578）

位置：Ea-50グリッド。検出状態：68号住居跡参照。重複の影響で南側一部の状態が把握できたのみである。平面形態：全容不明であるが、台形に近い形態と推定される。規模：不明。南側端部は4.90m。床面積：不明。残存深度：22cm。長軸方位：不明。西側壁面はN-0°を指向する。床面の状態：検出部分には多少の起伏がみられる。壁面の状態：70°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出部分においては西側から南側の西端にかけて確認されているが、南側の大半と東側では確認できなかった。柱穴：明確ではないが、

P-5・6を主柱穴の一部と判断した。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色粒軽石粒・YP等を含む黒褐色土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。土器は諸磯a式が大半であるが、黒浜・有尾式も多い。時期：諸磯a式期と想定しておく。遺物：土器片411点（黒浜・有尾式130点、諸磯a式247点、不明34点）、石器（磨石・凹石11、磨製石斧2、スクレイパー2、石匙2、石皿1、敲石1、砥石1、剥片他47点）。黒曜石85.3g。掲載遺物、土器7点、石器6点。

70号住居跡（遺構：第172図、P L 18・19／遺物：第311図、P L 78、観察表P 578）

位置：Ea-50グリッド。検出状態：68号住居跡参照。重複の影響で西側から北側にかけての一部が残存するのみであるが、52号住居跡の南側の溝は本住居跡の壁周溝と想定される。平面形態：明確ではないが、隅丸方形に近い形態と思われる。規模：推定5.10m×4.65m。床面積：不明。残存深度：21cm。長軸方位：推定N-85°-E。床面の状態：残存部分においては、多少の凹凸はみられるものの、ほぼ平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：一部不明瞭な部分があるが、本来は全周していたものと推定される。柱穴：本住居跡に帰属する柱穴・ピットを把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡の残存部分埋没土中から少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期と想定しておく。

遺物：土器片30点、石器（磨石1、敲石1、剥片その他4点）。黒曜石はない。掲載遺物、土器4点、石器1点。

71号住居跡（遺構：第172図、P L 18・19／遺物：第312図、P L 78、観察表P 579）

位置：Ea-50グリッド。検出状態：68号住居跡参照。重複の影響で遺構南側は壊されている。平面形態：全容不明であるが、隅丸方形に近い形態と思われる。規模：-×4.60m。長軸（南北）方向は5m程度と推定される。床面積：不明。残存深度：12cm。長軸方位：N-8°-W。床面の状態：多少の起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：残存部分において全周する。東側及び西側では2重に確認されており、拡張が行われた可能性がある。柱穴：明確ではないが、P-7・8を主柱穴の一部と判断した。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色粒軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片152点、石器（スクレイパー1、石匙1、磨石・凹石3、敲石2、磨製石斧1、打製石斧1、剥片その他15点）を確認している。黒曜石総重量11.5g。掲載遺物、土器片5点、石器2点。

72号住居跡（遺構：第164図、P L 13／遺物：第313図、P L 69、観察表P 579）

位置：Dj-54グリッド。検出状態：39号住居跡を切り、73号住居跡に切られる状態にある。東側の遺構範囲は重複のため不明である。また、五領ヶ台式期の406号土坑、黒浜式期の405号土坑が遺構内に位置する。平面形態：全容は不明であるが、長方形基調と思われる。規模：不明。残存部分の短軸方向は3.50m。床面積：不明。残存深度：18cm。長軸方位：N-73°-W。床面の状態：多少の起伏はあるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：検出されなかった。柱穴：本住居跡に伴うと考えられる柱穴・ピットは確認できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：白色粒軽石・ローム粒等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に土器片・剥片が散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片181点、石器（剥片20点）。黒曜石総重量16.5g。掲載遺物、土器5点、石器1点。

73号住居跡（遺構：第164図、P L 13／遺物：第314・315図、P L 69・70、観察表P 579）

位置：Dj-54グリッド。検出状態：39号・73号住居跡を切る状態にある。また、黒浜式期と想定される405号・431号土坑が重複する。なお、遺構範囲を明確に把握できなかった部分がある。平面形態：隅丸方形。規模：推定4.90m×4.60m。床面積：推定19.2m²。残存深度：18cm。長軸方位：N-80°-W。床面の状態：多少の起伏はあるが、全体的にほぼ平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：明確に確認できなかった部分もあるが、ほぼ全周すると思われる。柱穴：数基のピットが存在するが、支柱穴は明確に把握できなかった。遺構埋没状態：白色軽石粒・ローム粒等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に土器片・石器類が散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：深鉢2点、土器片804点、石器（磨石・凹石9、打製石斧1、スクレイパー1、石鏃1、剥片その他52点）。黒曜石総重量93.6g。深鉢(1)・(2)は器形が想定できる状態に復元できた。掲載遺物、土器10点、石器7点。

74号住居跡（遺構：第182～184図、P L 25／遺物：第316～318図、P L 84、観察表P 579）

位置：Dj-55グリッド。検出状態：本住居跡を含めて少なくとも4軒の住居跡が連鎖状に重複している。また、本住居跡の南西側から北西側にかけても不明瞭ながら壁周溝が存在しており、もう1軒住居跡が存在していた可能性がある。壁周溝の状態から本住居跡は2回の拡張が行われたものと想定され、これらの重複・拡張により本住居跡内は複雑な状態にある。新旧関係は、各遺構がいずれも黒浜・有尾式期と想定されることから誤認している可能性もあるが、土層観察等により、新しいものから74号→75号・76号→95号住居跡の順と判断した。平面形態：南東壁がやや長い隅丸台形。規模：6.00m×4.30m。床面積：36.5m²。残存深度：25cm。長軸方位：N-44°-W。床面の状態：凹凸・起伏が著しい。壁面の状態：あまり良好な遺存状態ではなく、明確でない。壁周溝：2～3重の状態で全周する。先述したように2回の拡張が行われた可能性がある。柱穴：重複・拡張の影響で一概に断定できないが、P-1～4の4基を本住居跡の最終拡張段階での支柱穴と判断した。P-3は溝状であるが、柱穴が重複した結果と考えられる。また、P-5・6は南東壁から溝状にのびるもので、出入り口部に関連するものと想定される。炉跡：確認できなかった。北西端付近に焼土の分布がみられたが、位置的に本住居跡の炉跡とは断定し難い。遺構埋没状態：A-A'の1・2層が本住居跡の埋没土と考えられ、ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片1,541点、石器（石皿3、磨石・凹石8、砥石2、スクレイパー5、石鏃2、敲石6、剥片その他135点）を確認している。黒曜石総重量171.4g。掲載遺物、土器17点、石器11点。

75号住居跡（遺構：第182～184図、P L 25／遺物：第319・320図、P L 85、観察表P 579）

位置：Di-55グリッド。検出状態：74号住居跡参照。南東側を74号住居跡に切られるものと思われる。平面形態：南東壁がやや長い隅丸台形。規模：4.70m×4.70m。床面積：21.6m²。残存深度：18cm。長軸方位：N-40°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：全周する。柱穴：多数のピットが存在し明確ではないが、P-9～12の4基を本住居跡の支柱穴と判断した。また、北西壁部にはP-7・8が対の状態に位置している。炉跡：確認できなかった。南西側にわずかに地山被熱痕が認められるが、炉跡とは断定し難い。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片527点、石器（磨石・凹石12、打製石斧1、磨製石斧2、スクレイパー2、楔形石器1、石皿1、石匙1、剥片その他29点）を確認している。黒曜石総重量35.3g。掲載遺物、土器11点、石器7点。

76号住居跡（遺構：第182～184図、P L 25／遺物：第321・322図、P L 85、観察表P 580）

位置：Dj-56グリッド。検出状態：74号住居跡参照。北西側を74号住居跡に切られるものと思われる。また、東隅部を五領ヶ台式期と想定される449号土坑に切られる。平面形態：隅丸長方形もしくは楕円形に近い形態である。規模：推定6.05m×5.25m。床面積：推定27.9m²。残存深度：14cm。長軸方位：N-46°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：本来は全周していたものと思われるが、北東側では明瞭に確認できなかった。柱穴：明確ではないが、P-13・14を主柱穴の一部と判断した。重複する74号住居跡内にも本住居跡の柱穴が存在するものと思われるが、把握できなかった。また、南東壁から溝状にのびるP-15・16は出入り口施設に関連する可能性がある。遺構埋没状態：A-A'の5・6層が本住居跡の埋没土と考えられ、ローム粒・YP・白色軽石粒等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であった。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片279点、石器（玉石1、磨石・凹石11、敲石1、剥片石器1、剥片その他42点）を確認している。黒曜石総重量31.4g。玉石とした(8)は全体が丁寧に磨かれている。掲載遺物、土器7点、石器4点。

77号住居跡（遺構：第185・186図、P L 26・27／遺物：第323～325図、P L 86、観察表P 580）

位置：Di-56グリッド。検出状態：78号住居跡を切る状態にある。また、時期不明の439号土坑が重複して位置する。先述の74号・75号・76号等の住居跡と平行するような位置関係にある。平面形態：南東壁がやや長い隅丸台形。規模：7.35m×5.60m。床面積：40.1m²。残存深度：28cm。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：北西隅付近では明瞭に確認できなかったが、ほぼ全周するものと想定される。2～4重に存在するようであり、数次にわたる拡張が行われた可能性がある。柱穴：重複・拡張の影響で多数のピットが存在し、明確ではないがP-1～4の4基を最終拡張段階での主柱穴と判断した。あるいは、主柱穴6基構成である可能性もある。P-5・6は南東壁から溝状にのびるもので出入り口施設に関連する可能性がある。P-5・6部分は、こうした溝状の掘り込みが重複するようであり、また、内側の壁周溝部分にも同様の掘り込みが認められることから、拡張時に出入り口施設も作り替えられたものと推測される。炉跡：北西側に偏在する。地床炉で、平面不整楕円形を呈し、規模72cm×43cm、深さ10cm。底面にはわずかな被熱痕が認められ、炉跡埋没土中からは少量の炭化材や焼土が検出されている。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片1,662点、石器（磨石・凹石27、スクレイパー5、石錐1、石匙4、石鏃4、石皿1、砥石2、敲石3、打製石斧2、剥片その他81点）を確認している。黒曜石総重量116.2g。(1)はある程度器形が想定できる状態にまで復元できた。(5)は高台部である。掲載遺物、土器18点、石器12点。

78号住居跡（遺構：第185・186図、P L 26・27／遺物：第326～328図、P L 87、観察表P 580）

位置：Di-56グリッド。検出状態：77号住居跡に南東側を切られる状態にある。また、諸磯a式期と想定される438号土坑、黒浜・有尾式期と想定される452号土坑が北西側で重複する。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模：推定5.90m×-。床面積：不明。残存深度：22cm。長軸方位：推定N-46°-E。

床面の状態：多少の凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：あまり良好な遺存状態ではなく、明確でない。壁周溝：ほぼ全周するものと推定される。柱穴：明確ではないが、P-7・8は支柱穴の一部と思われる。なお、支柱穴4基と想定した場合、77号住居跡内に位置するP-9もしくはP-10及びP-11がP-7・8に対応する可能性がある。炉跡：北西側に偏在する。地床炉で、平面楕円形を呈し、規模41cm×36cm、深さ8cm。底面にはわずかな被熱痕が認められ、炉跡埋没土中からは少量の焼土が検出されている。遺構埋没状態：C-C'の13・14層が本住居跡の埋没土であり、ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：炉跡南東側から中央部に穴の開いた石皿(13)が出土しており、その下には深さ75cmのピットが存在する。埋没土中からは多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片931点、石器（石皿1、磨石・凹石14、スクレイパー3、石匙1、石鏃1、剥片その他46点）を確認している。黒曜石総重量52.1g。掲載遺物、土器12点、石器7点。

79号住居跡（遺構：第189図、P L 24／遺物：第329図、P L 87、観察表P 581）

位置：Dh-56グリッド。北西側大半が調査区外。検出状態：調査区の関係で南西側一部を調査し得たのみであり、全容は不明である。本住居跡との新旧関係は把握できなかったが、時期不明の440号・456号・457号土坑が重複して位置する。南東側の遺構範囲は誤認している可能性がある。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：35cm。長軸方位：不明。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：あまり良好な遺存状態ではなく、おおむね50～60°の勾配で立ち上がっている。壁周溝：検出部分において2重に確認されている。柱穴：ピット数基が存在するが、支柱穴は不明である。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。遺物：土器片218点（黒浜・有尾式183点、諸磯a式22点、不明その他13点）、石器（磨石・凹石7、スクレイパー1、敲石2、剥片その他17点）を確認している。黒曜石総重量15.0g。掲載遺物、土器4点、石器4点。

80号住居跡（遺構：第187図、P L 27／遺物：第330・331図、P L 88、観察表P 581）

位置：Dh-56グリッド。北東側は調査区外。検出状態：黒浜・有尾式期と想定される329号土坑が重複するが、本遺構との新旧関係は把握できなかった。平面形態：全容は不明であるが、方形に近い形態と推定される。規模：5.50m×-。床面積：不明。残存深度：28cm。長軸方位：N-20°-W。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出部分においてほぼ全周する。南西側を中心に2重に確認されており、拡張が行われたものと想定される。柱穴：多数のピットが存在し、明確ではないがP-1～5の5基を拡張後の支柱穴と判断した。調査区外にもう1基存在するものと推定され、支柱穴は6基構成と考えられる。また、P-6・7としたものは、南側壁から溝状にのびるもので、出入口施設の可能性がある。なお、P-6・7の内側にも溝状の掘り込みが確認されており、これは拡張前の出入口施設で、拡張に伴って出入口施設も作り替えられたものと推定される。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片1,558点、石器（磨石・凹石12、磨製石斧2、打製石斧1、砥石2、スクレイパー3、不明石器1、石鏃1、石皿2、剥片その他78点）。黒曜石総重量75.9g。(1)・(2)はある程度器形が想定できる状態にまで復元できた。底部片(1)には木葉痕がある。不明石器(24)は両側面中央部に挟りがある。掲載遺物、土器11点、石器14点。

81号住居跡（遺構：第190図、P L 28／遺物：第332～335図、P L 89・90、観察表P 581）

位置：Dh-53グリッド。検出状態：比較的良好な遺存状態であった。東側隅付近に黒浜・有尾式期と想定される221号土坑が位置する。平面形態：長方形。規模：4.00m×2.95m。小規模な住居跡である。床面積：11.5m²。残存深度：55cm。長軸方位：N-63°-W。床面の状態：多少の凹凸・起伏はあるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：全周する。幅20cm前後、深さ5～10cm程度である。柱穴：P-1～4の4基が支柱穴と判断される。P-5・6は出入り口施設に関連するものと想定される。炉跡：北西側に位置する。地床炉で、平面形は不整形、規模50cm×45cm、深さ8cm。底面には被熱痕が認められた。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中から多量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜～諸磯a式期。

遺物：深鉢2点、土器片1,902点（黒浜・有尾式1,505点、諸磯a式391点、不明その他8点）、石器（磨石・凹石23、砥石3、磨製石斧1、スクレイパー4、石匙4、石鏃2、剥片その他63点）を確認している。黒曜石総重量110.6g。土器片(36)は生焼けの状態であった。掲載遺物、土器36点、石器18点。

82号住居跡（遺構：第191図、P L 28／遺物：第336図、P L 90、観察表P 582）

位置：Dg-55グリッド。北西側は調査区外。検出状態：北西側に諸磯a式期と想定される442号土坑が重複する。平面形態：全容は不明であるが、長方形基調と思われる。規模：不明。南北方向は5.2m前後と推定される。床面積：不明。残存深度：18cm。長軸方位：不明であるが、西側壁面はN-2°-W前後を指向する。床面の状態：多少の凹凸・起伏はあるが、全体的にはほぼ平坦である。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：検出されなかった。柱穴：数基のピットが存在するが、支柱穴は把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が自然埋没するものと思われる。遺物出土状態：埋没土中から少量の遺物が出土している。時期：前期黒浜～諸磯b式期の土器がみられるが、主体となる諸磯a式期に想定しておく。

遺物：土器片182点（黒浜・有尾式56点、諸磯a式99点、諸磯b式19点、不明8点）、石器（磨石2、剥片その他16点）を確認している。黒曜石総重量26.4g。掲載遺物、土器7点。

83号住居跡（遺構：第193～195図、P L 28～31／遺物：第337～346図、P L 91～95、観察表P 582）

位置：Dh-54グリッド。検出状態：本住居跡を含めて6軒の住居跡が重複するものと想定され、煩雑な状態にある。各遺構の状態や出土遺物・土層観察等により、古いものから84号→89号→90号→88号→94号→83号住居跡の順に構築されたものと判断し、本住居跡を最も新しい時期の遺構と想定した。遺構変遷想定図を第195図に示してある。また、本住居跡の上部には諸磯c式期と想定される4号集石が構築されていた。そのほか、諸磯b式期と想定される459号土坑が北西隅付近に位置するようであるが、同土坑の詳細は不明である。平面形態：隅丸方形。規模：5.26m×5.04m。床面積：推定25.1m²。残存深度：65cm。長軸方位：N-21°-W。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：重複の影響で不鮮明な部分が多いが、遺存状態良好な部分では75°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：南側で確認され、他の部分にも存在するようであるが、明瞭な状態ではない。柱穴：多数のピットが存在するが、支柱穴は把握できなかった。なお、北側には壁柱穴列が存在する。炉跡：南西隅付近に平面円形の穴があり、埋没土中や北西側に焼土の分布がみられたことから炉跡と判断した。規模は83cm×82cm、深さ41cm。位置や深さから疑問も残る。遺構埋没状態：黒褐

色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：大量の土器・石器類が出土している。重複する遺構からの紛れ込み遺物も多い。また、埋没土中から琥珀玉が検出されている。備考：本住居跡からは少量の炭化材が検出されており、樹種同定の結果、「オニグルミ」という分析結果を得ている（別途刊行の『自然科学分析編』参照）。時期：前期諸磯b式期。

遺物：深鉢約10点、浅鉢6点、ミニチュア土器・手捏土器4点、土器片7,504点（黒浜・有尾式1,458点、諸磯a式3,755点、諸磯b式1,959点、諸磯c式203点、北白川下層式6点、その他不明123点）、石器（琥珀玉1、石皿3、磨石・凹石52、棒状礫1、砥石11、磨製石斧4、打製石斧13、スクレイパー5、石匙9、石錐2、楔形石器2、石鏃10、剥片その他913点）を確認している。黒曜石総重量1,719.2g。ある程度器形復元できた土器が多く、諸磯b式期の良好な資料が得られている。また、(14)などのように北白川下層式系の土器にも好資料がある。琥珀玉(94)は発掘調査時には粉々に近い状態であったが、ある程度にまで復元することができた。垂飾等の装飾品と思われ、非常に丁寧な整形で均整のとれた形状である。掲載遺物、土器60点、石器34点。

84号住居跡（遺構：第193～195図、P L 28・29／遺物：第347図、P L 96、観察表P 584）

位置：Di-54グリッド。検出状態：83号住居跡参照。89号及び88号住居跡に切られる状態にある。また、時期不明の462号・465号土坑が重複する。平面形態：全容は不明であるが、方形基調と推定される。規模：-×6.15m。床面積：不明。残存深度：20cm。長軸方位：推定N-20°-W。床面の状態：多少の凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、不明確。壁周溝：ほぼ全周するものと推定される。南側は不鮮明ながら3重に確認されており、少なくとも2回の拡張が行われたものと思われる。柱穴：重複・拡張等の影響で明確ではないが、P-1・2を最終拡張段階での支柱穴の一部と判断した。P-3・4は出入口施設に関連するものと思われ、P-3は南壁から溝状にのびている。なお、同様な溝状の掘り込みは内側の壁周溝にも認められる。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片436点、石器（打製石斧1、スクレイパー1、磨石1、砥石1、石匙2、剥片その他46点）を確認している。黒曜石総重量61.4g。掲載遺物、土器7点、石器3点。

85号住居跡（遺構：第192図、P L 30／遺物：第348図、P L 98・99、観察表P 584）

位置：Dg-54グリッド。検出状態：北東に位置する93号住居跡を除き、本住居跡を含めて4軒の住居跡が重複するものと判断した。ただ、91号住居跡としたものは南西隅付近の本住居跡壁周溝と86号住居跡壁周溝間に位置する壁周溝の部分で、本住居跡の拡張前の状態である可能性がある。これらの住居跡は土層観察や出土遺物により、古いものから85号→86号→87号住居跡の順に構築されたものと判断される。本住居跡は86号・87号住居跡に大半を切られる状態にある。平面形態：隅丸長方形と想定される。規模：5.80m×4.70m。床面積：推定27.3m²。残存深度：55cm。長軸方位：N-68°-W。床面の状態：大半を86号・87号住居跡に切られる状態にあるが、残存部分においてはほぼ平坦な状態である。壁面の状態：70°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：重複の影響で不明瞭な部分もあるが、ほぼ全周していたものと想定される。先述したように91号住居跡とした壁周溝部分は本住居跡の拡張前のものと想定される。柱穴：明確ではないが、規模や位置関係からP-1～4の4基を本住居跡の支柱穴と判断した。また、明瞭な状態ではないが、南東壁から溝状にのびる掘り込みが対の状態が存在するようであり、同部分が出入り口部と想定される。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：A-A'の9・10層が本住居跡の埋没土と考えられ、ローム粒・YP・白色軽石粒等を

含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：当初86号住居跡部分の遺物も本住居跡出土遺物として取り上げているため、帰属を誤認している遺物が多く含まれている。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片1,227点、石器（磨石・凹石10、打製石斧3、スクレイパー2、石匙1、石鏃2、敲石3、剥片その他104点）。黒曜石総重量170.7g。(13)のように関山式土器も混在していた。掲載遺物、土器14点、石器7点。

86号住居跡（遺構：第192図、P L 30／遺物：第349図、P L 99、観察表P 584）

位置：Dg-54グリッド。検出状態：85号住居跡参照。85号住居跡を切り、87号住居跡に切られる状態にある。平面形態：全容は不明であるが、隅丸長方形と推定される。規模：推定4.60m×4.10m。床面積：不明。残存深度：60cm。長軸方位：N-10°-E。床面の状態：全体的にほぼ平坦である。壁面の状態：重複の影響で明確に確認できなかった。壁周溝：87号住居跡と重複する部分では確認できなかったが、本来は全周していたものと推定される。柱穴：重複の影響もあり明確ではないが、P-5～8の4基を本住居跡の支柱穴と判断した。また、壁周溝内に小ピット数基がみられる。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：A-A'の6～8層が本住居跡の埋没土と考えられ、ローム粒・YP・白色軽石粒等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：床面付近の遺物のみを本住居跡出土遺物として取り上げたため、量的に少ない状態にある。時期：前期黒浜・有尾式期と想定される。

遺物：土器片83点、石器（磨石・凹石7、スクレイパー1、敲石2、砥石1、剥片その他6点）を確認している。黒曜石は検出されていない。掲載遺物、土器4点、石器3点。

87号住居跡（遺構：第192図、P L 30・31／遺物：第350図、P L 99、観察表P 584）

位置：Dg-54グリッド。検出状態：85号住居跡参照。85号・86号住居跡を切る状態にある。また、床面付近及び埋没土中から多量の炭化材が検出されている。平面形態：円形に近い隅丸方形。規模：4.05m×3.95m。床面積：14.9m²。残存深度：25cm。85号住居跡の東側確認面からは85cm。長軸方位：N-39°-E。床面の状態：多少の凹凸がみられる。また、地山被熱痕が随所に確認され、先述したように炭化材も多量に検出されていることから本住居跡は火災を受けた可能性がある。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、全周するものと想定される。柱穴：重複の影響もあり明確ではないが、P-9～12の4基を本住居跡の支柱穴と判断した。また、北西から南西にかけての壁際には小ピットが多数検出されている。炉跡：中央西寄りに位置。本来は85号・86号住居跡の柱穴P-1・5を切る状態にあるものと想定される。平面形は不整楕円形で、規模64cm×44cm、深さ9cmである。炉跡埋没土中からは微量の焼土・炭化材が検出されている。遺構埋没状態：A-A'の1～5層が本住居跡の埋没土と考えられ、ローム粒・YP・白色軽石粒や炭化粒・材を含む暗褐色～黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：中央南側から埋設土器(1)が検出されている。径28cm・深さ19cmほどの平面円形の掘り方内に深鉢の上半部を埋設したものである。埋設土器炉の可能性も考えられるが、内部からは焼土・炭化材等は検出されていない。また、南西隅付近からは深鉢(2)が出土している。そのほか、埋没土中から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。なお、先述したように本住居跡からは多量の炭化材が検出されているが、これらは樹種同定の結果、「クリ」という分析結果が得られている（別途刊行の『自然科学分析編』参照）。時期：埋設土器から前期諸磯a式期と想定される。

遺物：深鉢2点、土器片337点（黒浜・有尾式255点、諸磯a式182点、その他1点）、石器（磨石・凹石11、石匙1、石皿1、打製石斧1、砥石1、剥片その他30点）。黒曜石総重量30.5g。掲載遺物、土器7点、石器3点。

88号住居跡（遺構：第193～195図、P L 28～30／遺物：第351図、P L 96、観察表P 585）

位置：Di-54グリッド。検出状態：83号住居跡参照。84号・89号・90号住居跡を切り、94号住居跡及び83号住居跡に切られる状態にある。また、時期不明の462号土坑が重複する。94号住居跡南側壁面と90号住居跡の南側壁面の間には貼り床が確認されているが、これは、本住居跡構築時に90号住居跡範囲に貼り床を施し、94号住居跡構築時に同住居跡部分が壊された結果と推定される。なお、この貼り床は黄褐色のローム土を中心とした土を充填したもので、上面は非常に硬くしまっていた。平面形態：隅丸長方形。規模：推定8.50m×7.30m。床面積：不明。残存深度：20cm。長軸方位：N-23°-W。床面の状態：残存する床面が少なく明確な状態ではないが、先述のように90号住居跡との重複部分には貼り床が施されていた。壁面の状態：明確に把握できなかった。壁周溝：重複のため確認できない部分もあるが、全周するものと思われる。2～3重に存在するようであり、拡張が行われた可能性がある。柱穴：多数のピットが存在するが、主柱穴は不明である。また、壁周溝内にも部分的にピットが存在する。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：土器片・石器類が埋没土中に散乱するような状態であった。備考：本住居跡からは少量の炭化材が検出されており、樹種同定の結果、「クリ」という分析結果を得ている（別途刊行の『自然科学分析編』参照）。時期：前期黒浜・有尾～諸磯a式期。

遺物：土器片853点（黒浜・有尾式 467点、諸磯a式382点、不明4点）、石器（磨石・凹石11、礫器1、スクレイパー2、石匙2、石鏃2、石皿3、剥片その他147点）。黒曜石総重量222.8g。掲載遺物、土器4点、石器8点。

89号住居跡（遺構：第193～195図、P L 28～30／遺物：第352・353図、P L 96、観察表P 585）

位置：Di-54グリッド。検出状態：83号住居跡参照。84号住居跡を切り、90号住居跡に切られ、その後さらに88号住居跡にも切られる状態にある。南側の一部と南西側壁周溝部分が残存するのみで、詳細は不明である。なお、北西側は床面の状態から破線部分までを遺構範囲と推定した。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模：推定7.90m×-。床面積：不明。残存深度：5cm程度。長軸方位：不明。南西壁面はN-39°-Wを指向する。床面の状態：残存部分が少ないが、やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：残存部分において全周する。遺構推定範囲の破線部分には壁周溝は明瞭に確認できなかった。柱穴：主柱穴は不明であるが、壁周溝内に壁柱穴列が確認されている。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：遺構範囲内から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片444点、石器（石匙1、石錐1、石鏃1、磨石・敲石8、剥片その他29点）を確認している。黒曜石総重量81.2g。掲載遺物、土器7点、石器4点。

90号住居跡（遺構：第193～195図、P L 28～30／遺物：第354図、P L 97、観察表P 585）

位置：Di-54グリッド。検出状態：83号住居跡参照。89号住居跡を切り、88号住居跡及び94号住居跡に切られる状態にあるものと想定される。平面形態：隅丸長方形。規模：9.30m×6.25mと想定され、大形の住居跡である。床面積：推定57.0m²。残存深度：18cm。長軸方位：N-22°-W。床面の状態：大半が重複により壊されているが、残存する南側部分は比較的平坦な状態であった。南東隅部にピットに切られるような状態で焼土の分布がみられたが、その性格については把握できなかった。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：全周する。不整然とした状態であり明瞭ではないが、2重に存在するようであり、拡張が行われた可能性がある。柱穴：ピット数基が残存するが、主柱穴は不明である。炉跡：検出されなかった。

遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡の残存部分から土器片・石器類が散在するような状態で出土している。時期：前期黒浜・有尾～諸磯 a 式期。

遺物：土器片531点（黒浜・有尾式122点、諸磯 a 式317点、不明その他92点）、石器（磨石・凹石 4、磨製石斧 1、スクレイパー 1、石匙 1、石鏃 1、剥片その他75点）。黒曜石総重量128.9g。掲載遺物、土器 5 点、石器 5 点。

91号住居跡（遺構：第192図、P L 30）

位置：Dg-54グリッド。検出状態：85号住居跡参照。85号住居跡南西側壁周溝と86号住居跡壁周溝間に存在する壁周溝部分を本住居跡と判断したが、先述したように85号住居跡の拡張前のものである可能性がある。いずれにしても、検出範囲はごくわずかであり、詳細は不明である。遺物出土状態：本住居跡想定部分から黒浜・有尾式期の土器片・石器類がわずかに出土している程度である。

遺物：土器片 7 点、石器（磨石 1、剥片 1 点）。黒曜石は検出されていない。掲載遺物 0 点。

92号住居跡（遺構：第196図、P L 31／遺物：第355図、P L 99、観察表 P 585）

位置：Di-57グリッド。北東側は調査区外。検出状態：壁周溝と思われる溝 2 条やピットが存在することから住居跡と判断したが、遺存状態が悪く不明瞭な部分が多い。黒浜・有尾式期と想定される463号土坑に切られるようである。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：20cm。長軸方位：不明。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁周溝：先述したように 2 条が存在するようであるが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：ピット数基が存在するが、主柱穴等の詳細は不明である。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色～暗褐色土が埋没する。遺物出土状態：P-1から磨石等が集中して出土しているほか、埋没土中から土器片少量が出土している。時期：前期黒浜・有尾式。

遺物：土器片24点、石器（磨石・凹石 5、その他 8 点）。黒曜石総重量1.7g。掲載遺物、土器 2 点、石器 1 点。

93号住居跡（遺構：第197図、P L 31／遺物：第355図、P L 99、観察表 P 585）

位置：Dg-54グリッド。北側は調査区外。検出状態：壁周溝と思われる溝やピットが存在することなどから住居跡と判断したが、攪乱を受けるなど遺存状態が悪く、不明瞭な部分が多い。南西側に85号・86号・87号住居跡が位置し、本住居跡の掘り込みが浅いことから図上ではこれらに切られる状態になっているが、85号・86号住居跡よりは本住居跡の方が新しいと想定される。また、黒浜・有尾式期と想定される358号土坑や時期不明の464号土坑が重複し、本来は358号土坑を切る状態にあるものと思われるが、新旧関係を誤認し土坑を先行して調査してしまった。平面形態：不明。規模・床面積：不明。残存深度：壁面の立ち上がりは確認できなかったが、遺構範囲内に18cmほどの厚さで埋没土が認められた。床面の状態：凹凸・起伏がある。壁面の状態：不明。壁周溝：南側で確認されているが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：数基のピットが存在し、P-1～4基は規模的に主柱穴の可能性もあるが、住居プランが不明瞭であり、断定できない。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒・YP・白色軽石粒等を含む黒褐色・暗褐色土が埋没していた。遺物出土状態：遺構範囲内から少量の遺物が出土している。時期：前期諸磯 a 式期に想定しておく。遺物：土器片21点、石器（剥片 1 点）を確認している。黒曜石は検出されていない。掲載遺物、土器 2 点。

94号住居跡（遺構：第193～195図、P L 28～30／遺物：第356～358図、P L 97・98、観察表 P 585）

位置：Dh-54グリッド。検出状態：83号住居跡参照。90号住居跡及び88号住居跡を切り、83号住居跡に切ら

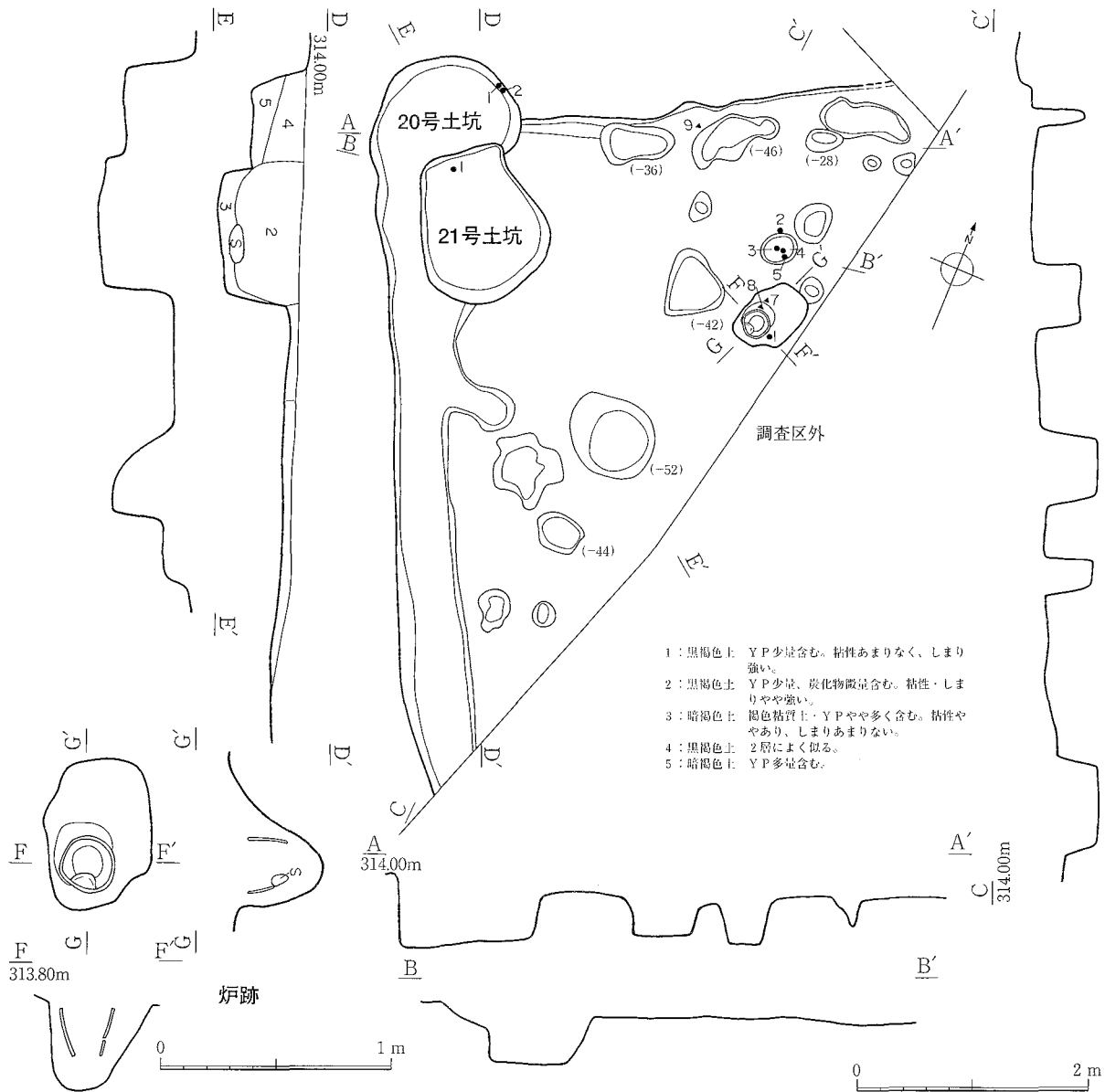
れる状態にある。88号住居跡構築時に施されたと推定される貼り床を、本住居跡が壊しているものと想定される。また、床面の大半は83号住居跡との重複により壊されている。平面形態：重複により全容は不明であるが、隅丸方形もしくは台形に近い形態と推定される。規模：推定6.20m×6.15m。床面積：不明。残存深度：30cm。長軸方位：推定N-20°-W。床面の状態：83号住居跡との重複により大半が壊されているため、明瞭な状態ではない。壁面の状態：明確に把握できなかった。壁周溝：重複により不明瞭な部分が多いが、全周していたものと推定される。柱穴：数基のピットが残存するが、支柱穴は不明である。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡の残存部分から少量の土器片・石器類を検出している。時期：前期諸磯a式期と想定される。

遺物：土器片71点（黒浜・有尾式11点、諸磯a式57点、北白川下層式2点、諸磯b式1点）、土製円板1点、石器（敲石2、石皿1、磨石6、剥片その他3点）を確認している。黒曜石総重量1.5g。諸磯b式土器は本来は重複する83号住居跡に帰属する遺物と考えられる。土器片(33)・(34)は色調灰黄褐色を呈する薄手のもので、北白川下層式系と判断した。掲載遺物、土器34点、石器2点。

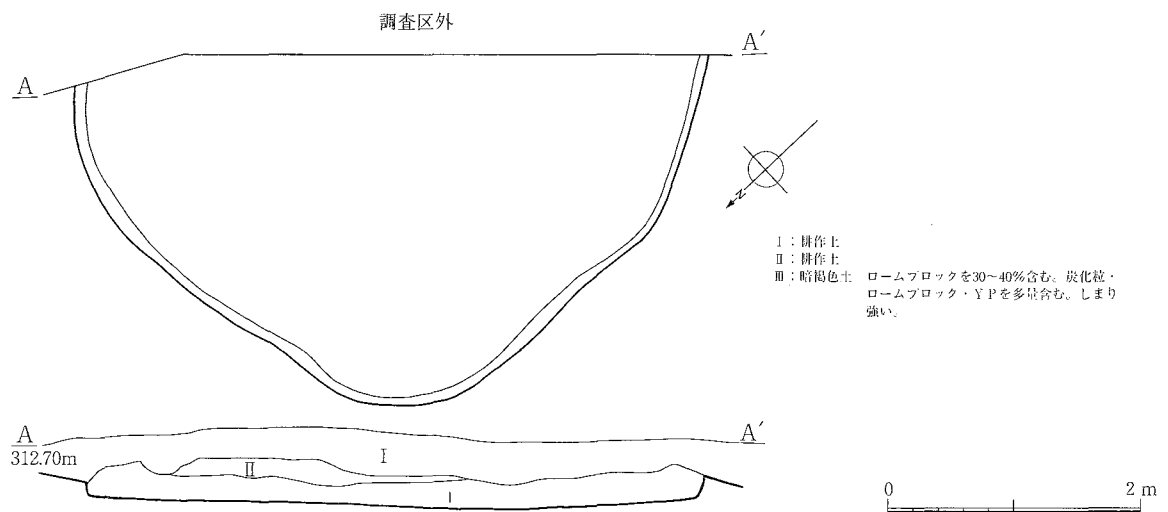
95号住居跡（遺構：第182・188図、P L 31）

位置：Dj-56グリッド。検出状態：74号住居跡参照。76号住居跡に北西側を切られる状態にある。また、五領ヶ台式期と想定される449号土坑、諸磯a式期と想定される426号土坑、時期不明の427号土坑が重複する。北側には攪乱溝がある。平面形態：不明であるが、長方形基調と推定される。規模：-×5.30m。床面積：不明。残存深度：14cm。長軸方位：推定N-30°-E。床面の状態：やや凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確でない。壁周溝：検出されなかった。柱穴：大小のピットが存在するが、支柱穴は把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：土器片1点が出土したのみである。時期：出土遺物がほとんどなく明確ではないが、重複関係等から前期黒浜・有尾式期の可能性を考えておきたい。

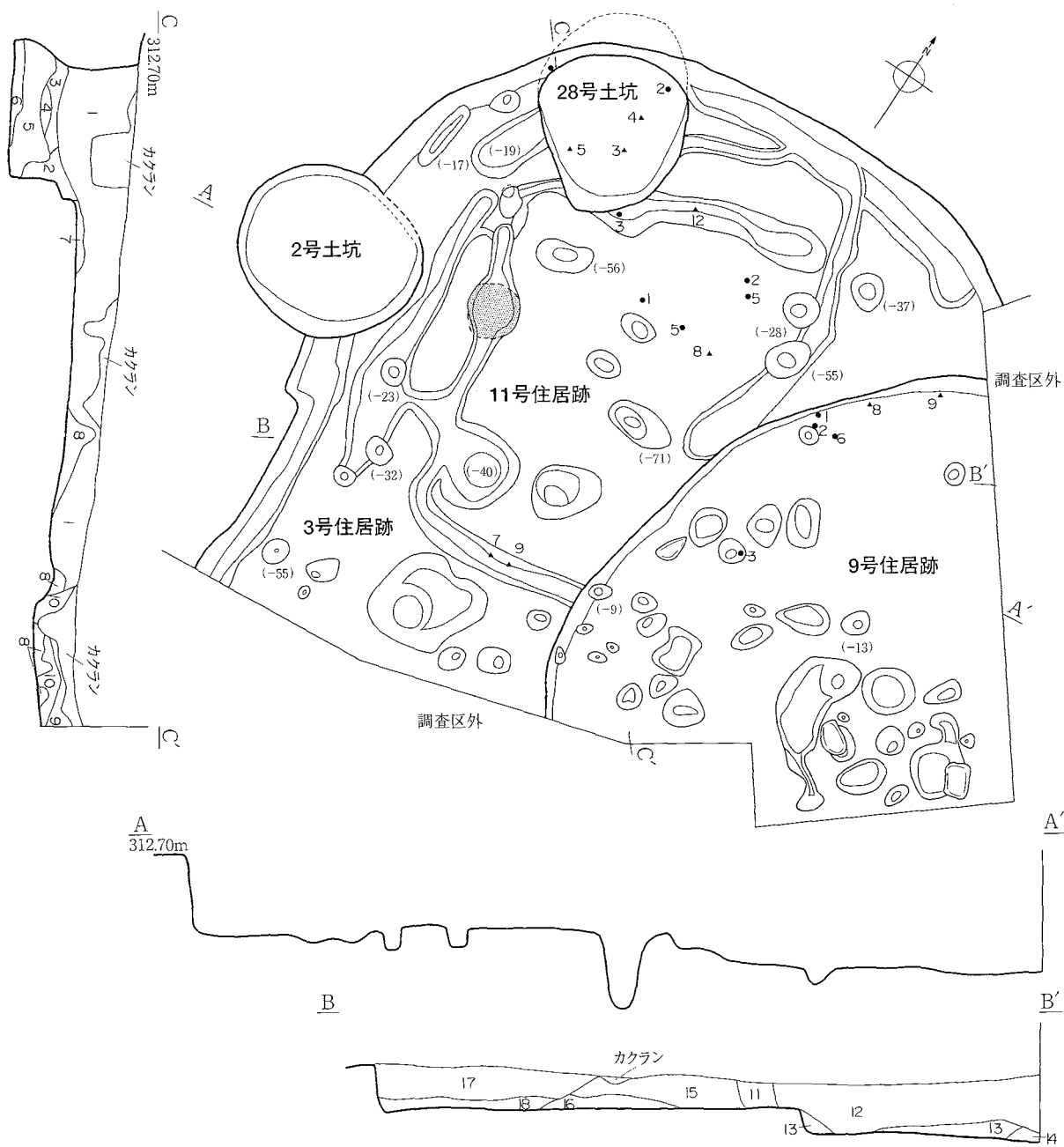
遺物：掲載遺物0点。



第135図 1号住居跡、20号・21号土坑

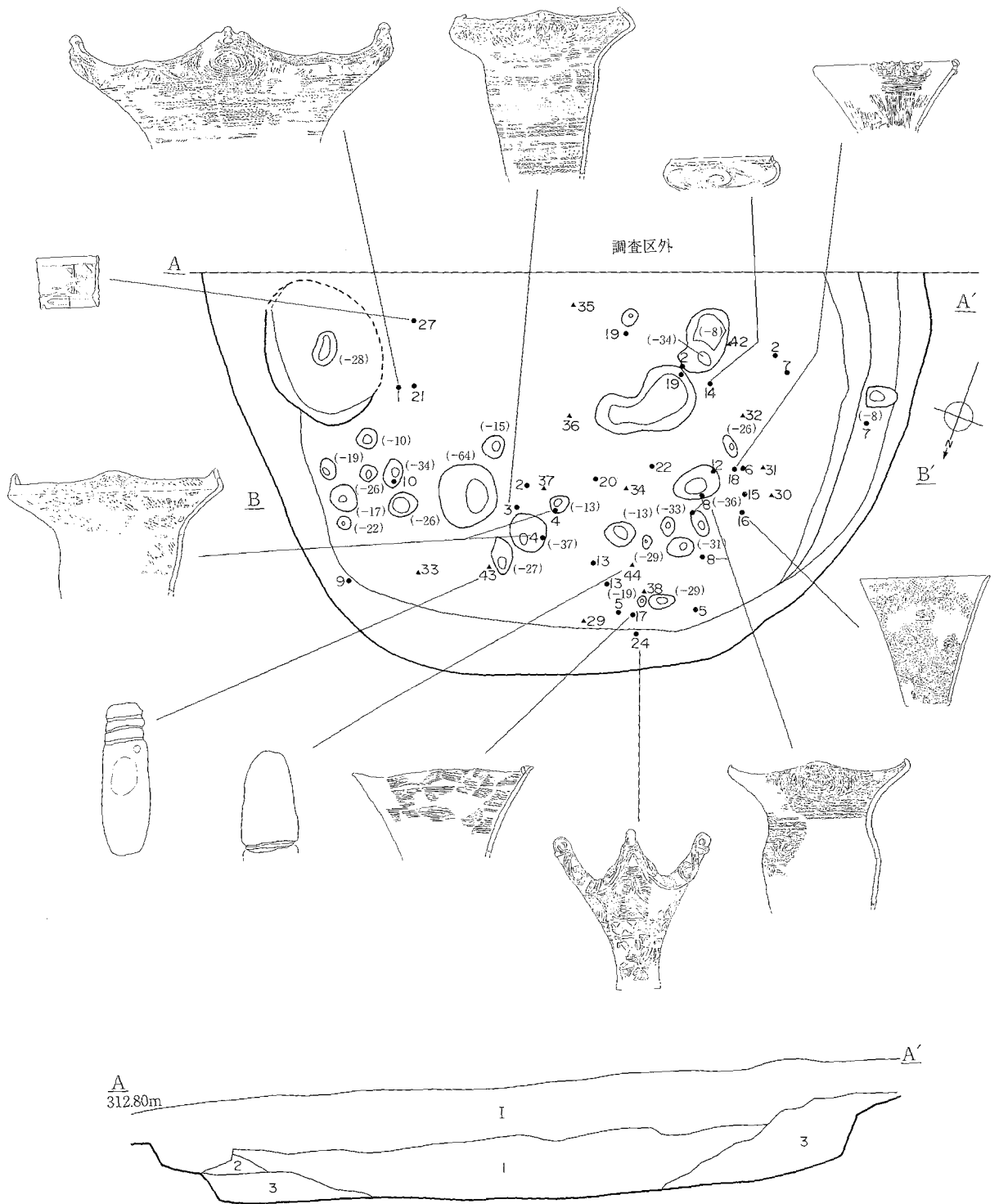


第136図 2号住居跡

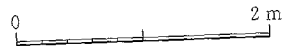


- | | |
|---|---|
| 1: 黒褐色土 Y P少量、炭化物微量含む。粘性・しまり
あまりない。 | 8: 暗褐色土 Y P多量含む。しまり・粘性ある。 |
| 2: 茶褐色土 Y P・褐色粘質土少量含む。粘性・しまり
あり。 | 9: 黒褐色土 しまり・粘性弱い。カクラン気味である。 |
| 3: 暗褐色土 Y P少量含む。粘性あり、しまりあまり
ない。 | 10: 黒褐色土 1層に近似。Y P少量含む。粘性あまり
なく、しまりやや強い。 |
| 4: 暗褐色土 川砂の様な砂利層。軽石含む。粘性・し
まりあまりない。 | 11: 黒褐色土 1層に似るがやや暗い。Y P微量含む。
粘性あまりなく、しまりある。 |
| 5: 黒褐色土 Y P少量、炭化物多量含む。4層の砂状
の物が全体に混入。粘性・しまり弱い。 | 12: 黒褐色土 Y P少量含む。色調黒味強く、粒1層
に比べやや細かい。炭化粘微量含む。し
まり・粘性ある。 |
| 6: 暗褐色土 褐色粘質土・炭化物少量含む。粘性・し
まり弱い。 | 13: 暗褐色土 しまりあまりないが、粘性ある。 |
| 7: 暗褐色土 褐色粘質土少量含む。粘性あり、しまり
あまりない。 | 14: 暗褐色土 13層に似るが色調やや明るい。 |
| | 15: 暗褐色土 Y P少量含む。やや褐色気味。 |
| | 16: 暗褐色土 15層に似るが褐色粘質土少量含む。 |
| | 17: 黒褐色土 Y P少量含む。粘性・しまりある。 |
| | 18: 黒褐色土 Y P混入少ない。しまり強く、粘性ある。 |

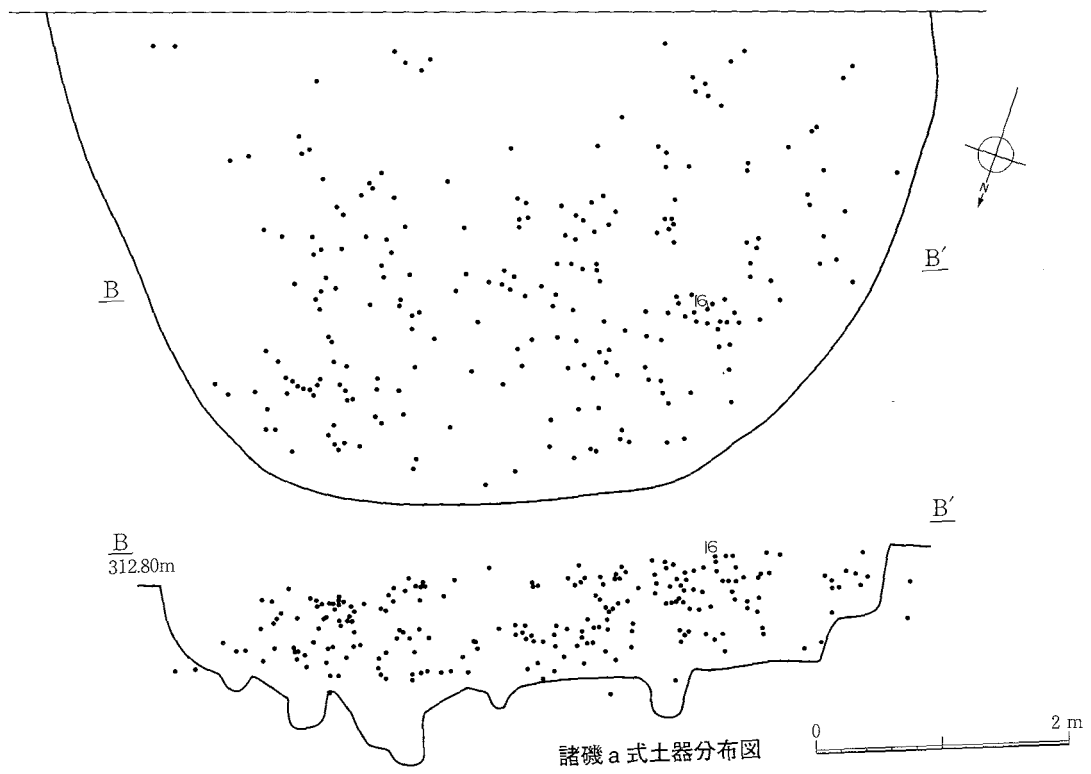
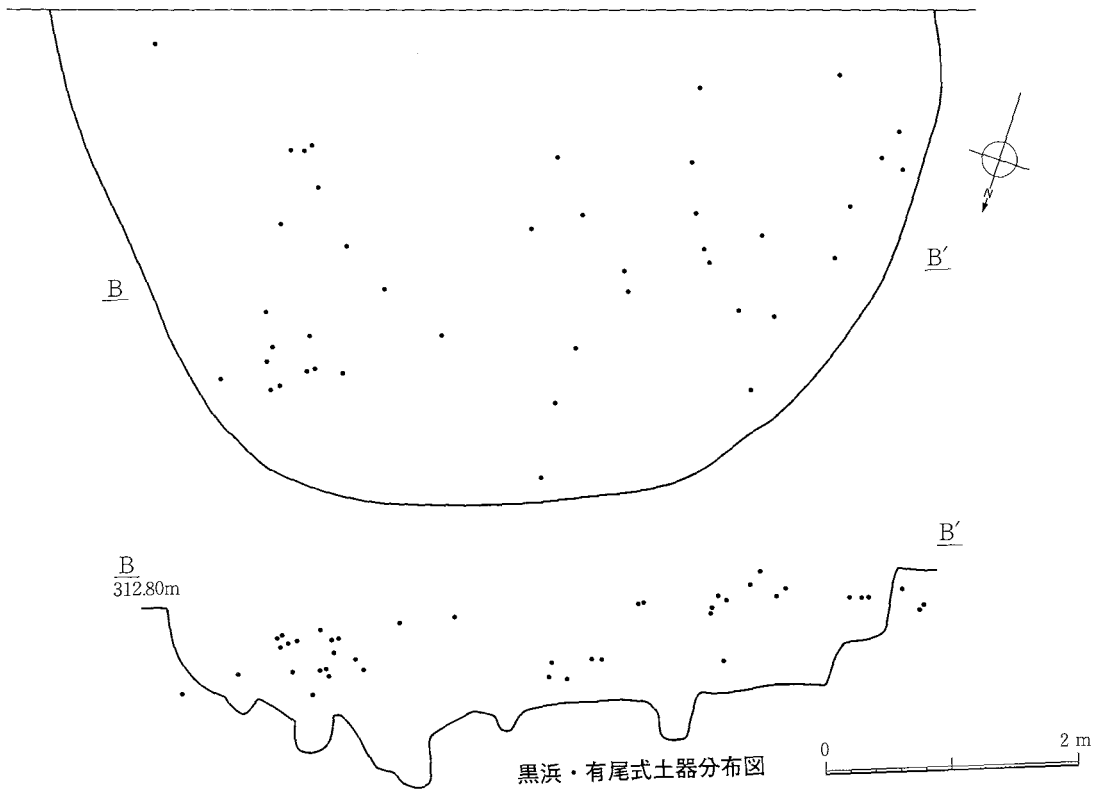
第137図 3号・9号・11号住居跡、2号・28号土坑



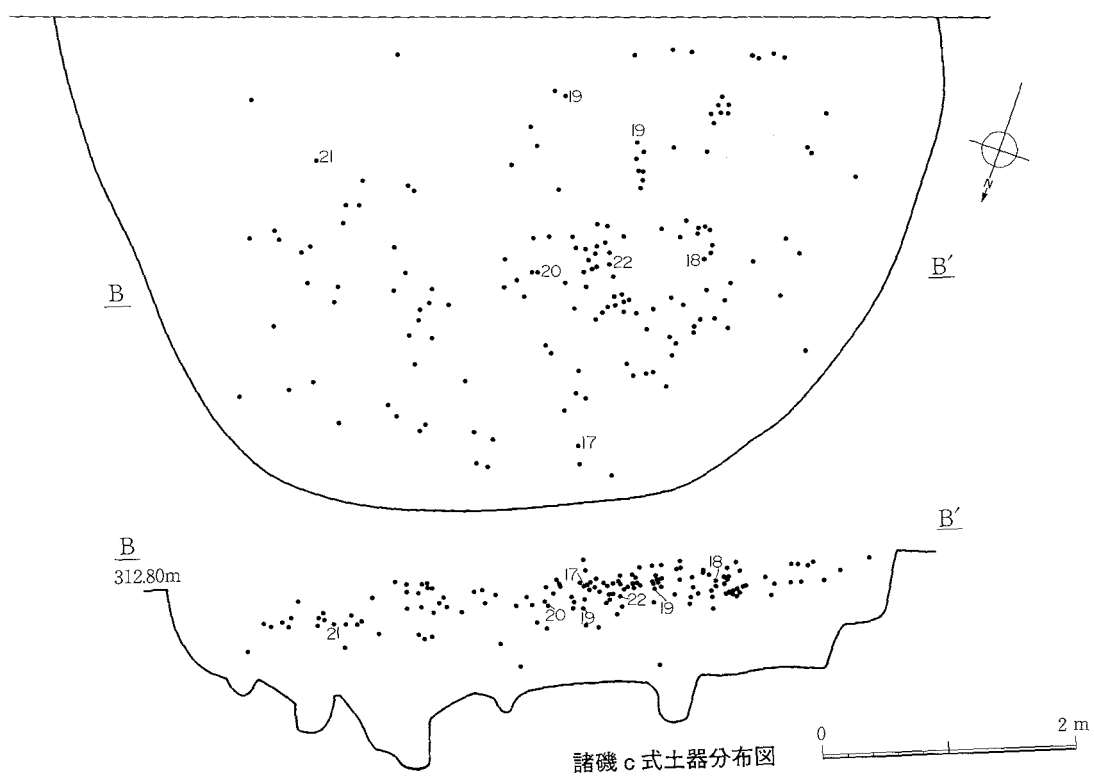
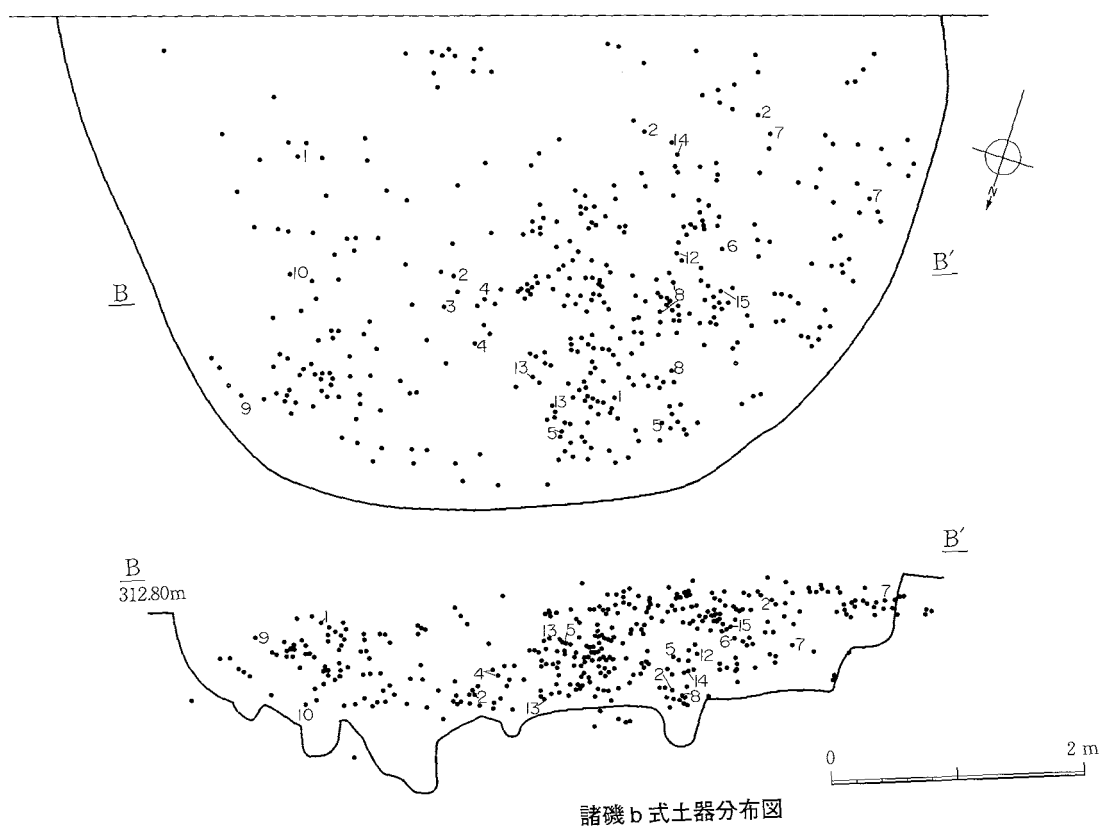
- I : 黒褐色土 A 軽石を多量含む雑作土。
- 1 : 黒褐色土 YP 粒・ローム粒・炭化粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2 : 暗褐色土 YP 粒・ローム粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3 : 暗褐色土 ローム粒・褐色粘土をやや多く、YP 粒少量、炭化粒微量含む。しまり・粘性やや多い。



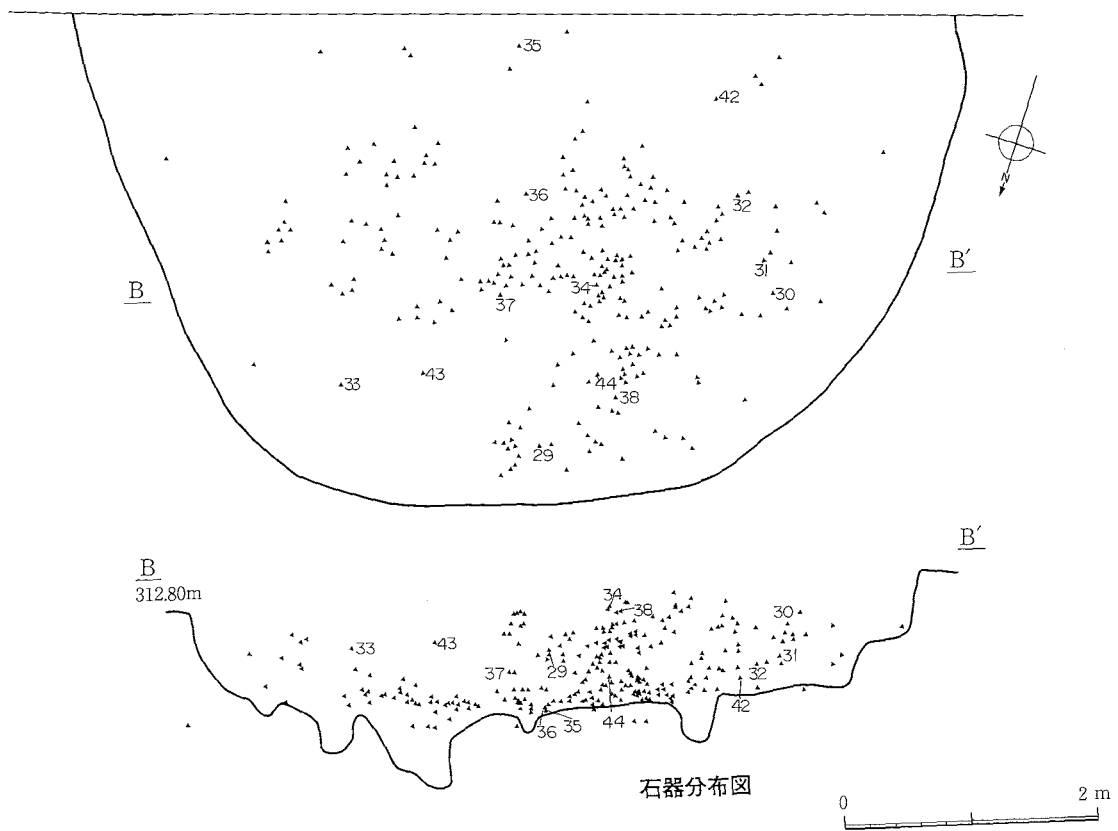
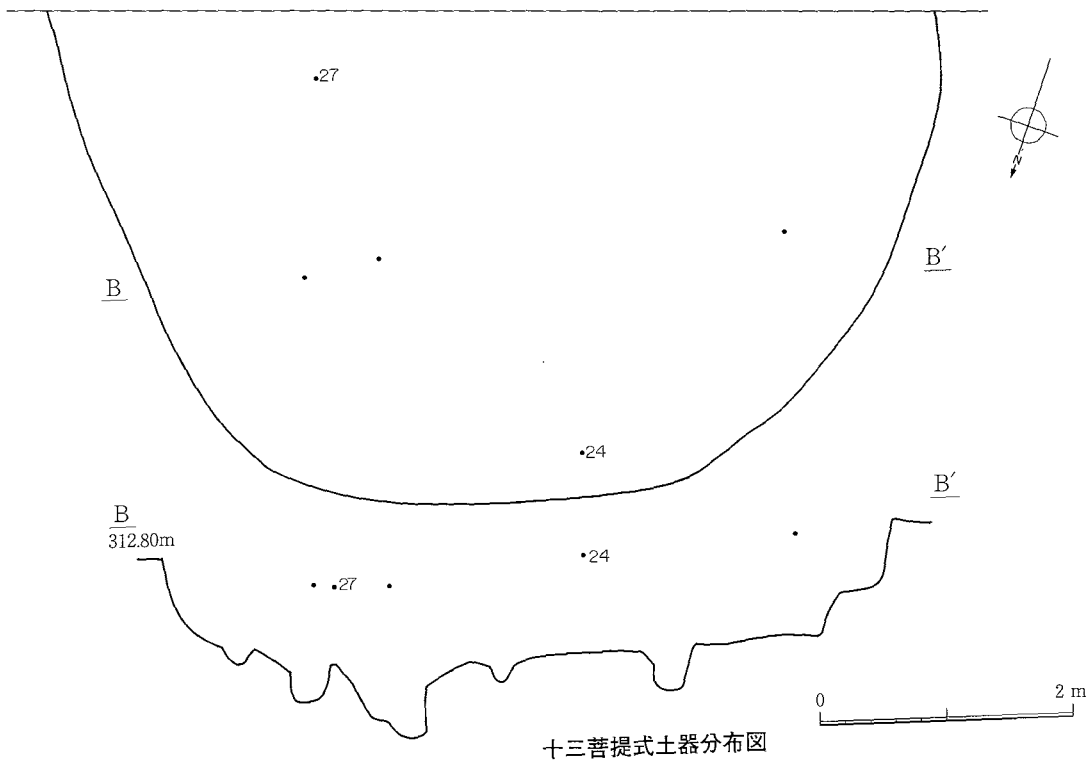
第138図 4号住居跡



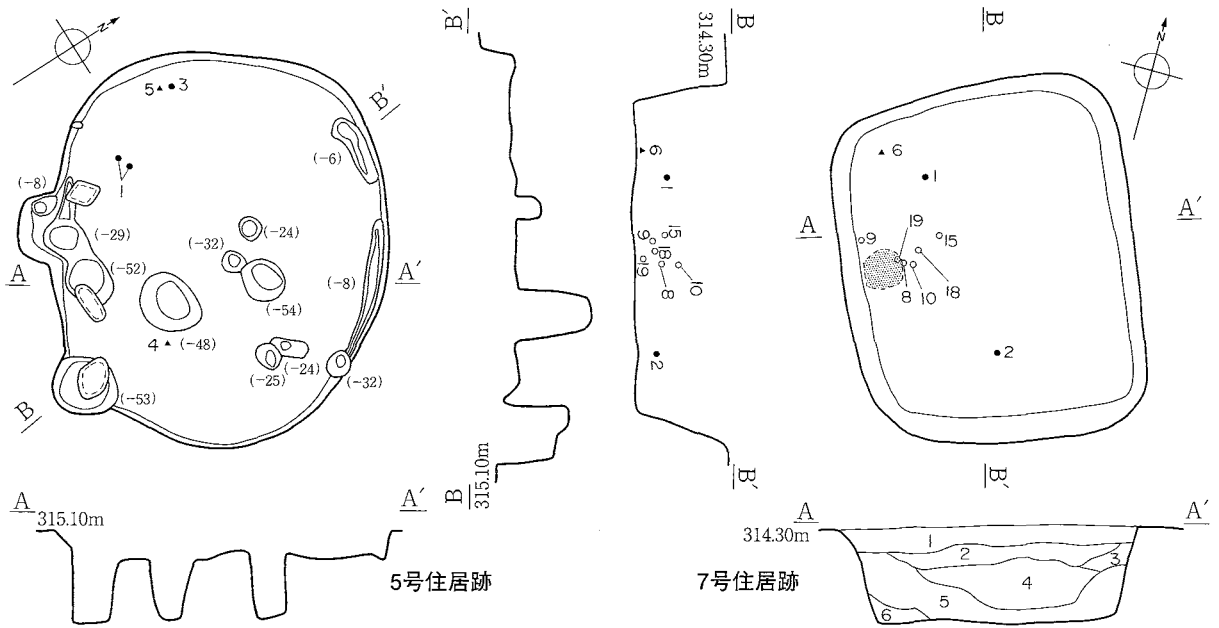
第139図 4号住居跡遺物分布図①



第140図 4号住居跡遺物分布図②

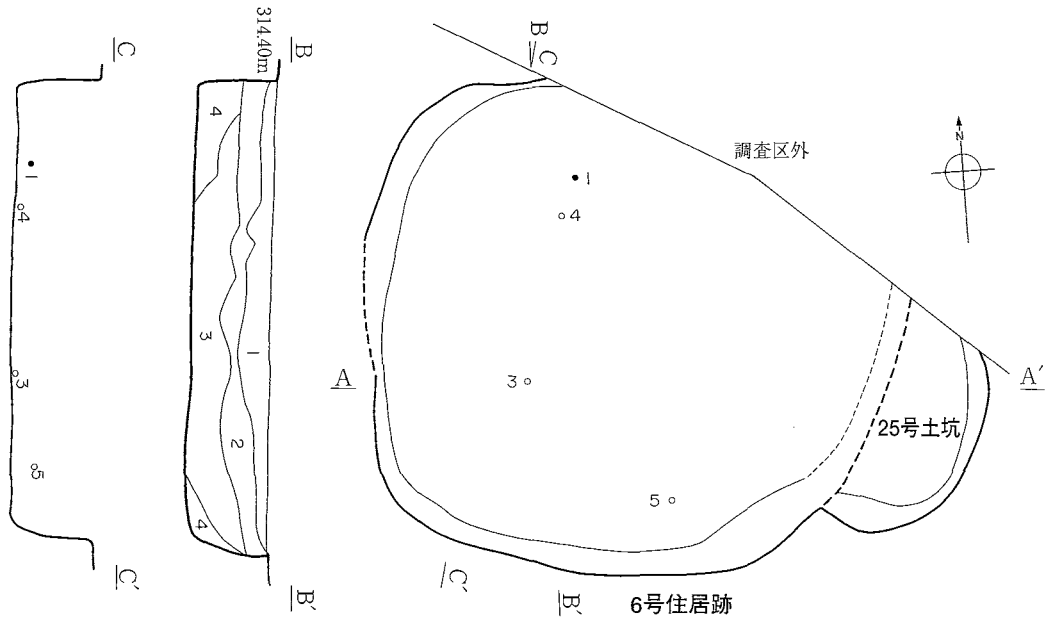
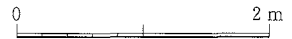


第141图 4号住居跡遺物分布图③

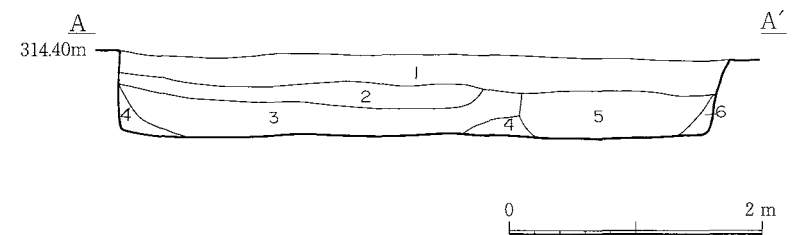


- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化物微量含む。粘性、しまりあまり強くない。
- 2: 暗褐色土 YP・炭化粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 YP多量、炭化物やや多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 4: 褐色土 YP多量、炭化物少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 5: 褐色土 4層より色調やや暗い。粘性やや強く、しまり強い。炭化物やや多く含む。植物質炭化物の出土層。
- 6: 褐色粘質土 壁面のくずれた層。地山ではない。粘性あり、しまりあまりない。

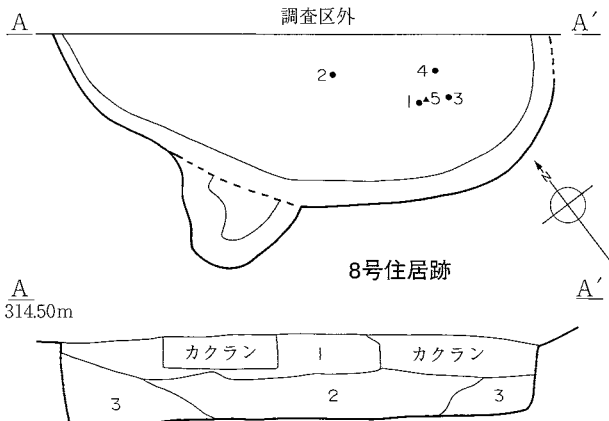
第142図 5号・7号住居跡



- 1: 暗褐色土 ロームブロック微量、ローム粒・白色粒やや多く、炭化粒を少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 1層より色調明るい。ローム粒・YP・白色粒多量、炭化粒少量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 褐色土 YP多量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 褐色土 褐色粘質土多量、YP少量含む。粘性、しまりややある。
- 5: 褐色土 3層によく似るが、褐色のロームブロック多量含む。粘性あり、しまり強い。
- 6: 褐色土 1層より色調明るい。粘性やや強く、しまりあまりない。

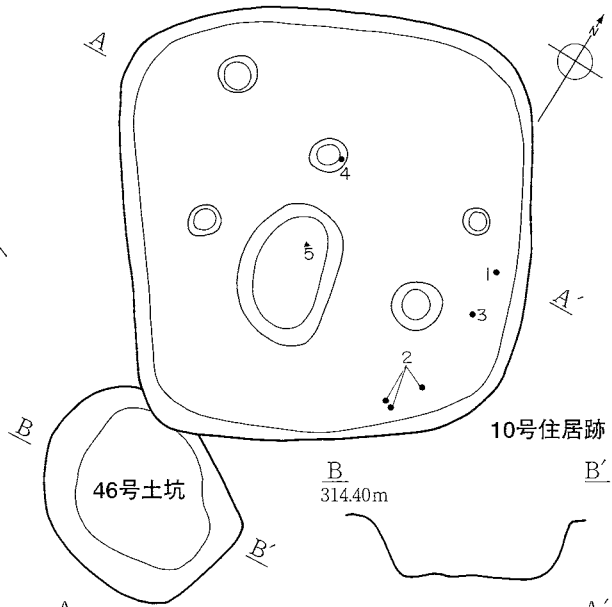


第143図 6号住居跡、25号土坑



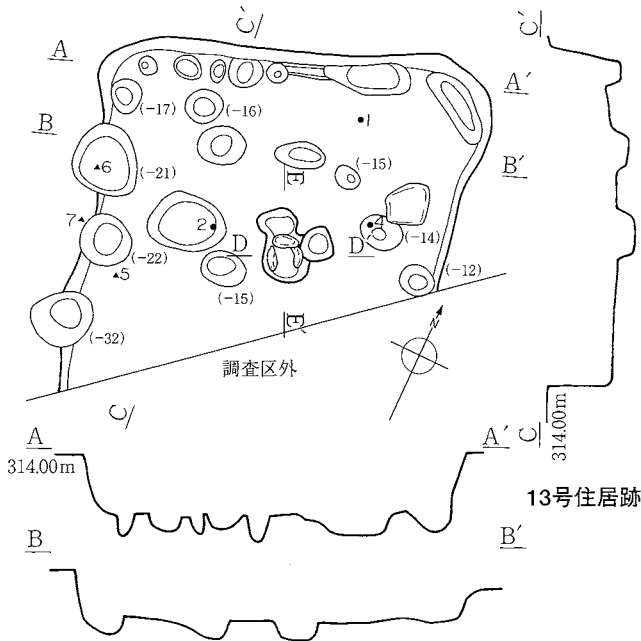
8号住居跡

- 1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。粘性弱く、し
まり強い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロックやや多く、YP・炭化粒
少量含む。しまり強く、粘性ややある。
- 3: 暗褐色土 ロームブロックやや多く含む。YP・炭
化粒は2層より多い。しまり強く、粘
性ややある。

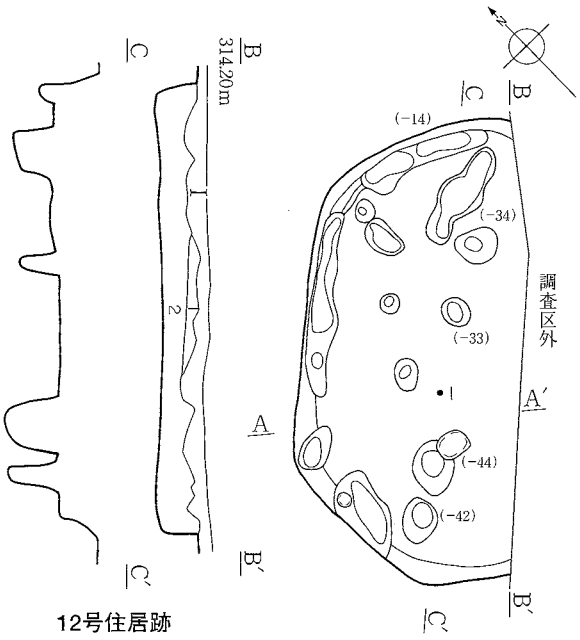


10号住居跡

- 1: 黒褐色土 ロームブロックを含む。粘性・しまりや
や強い。
- 2: 黒褐色土 色調1層よりやや明るい。ロームブロッ
クやや多く、炭化材少量含む。しまり強
く、粘性やや強い。
- 3: 暗褐色土 ロームブロックを含む。粘性・しまり強
い。

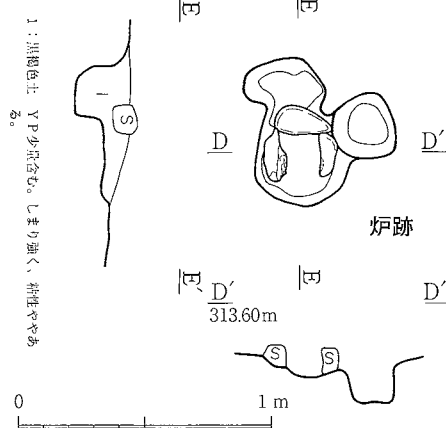


13号住居跡



12号住居跡

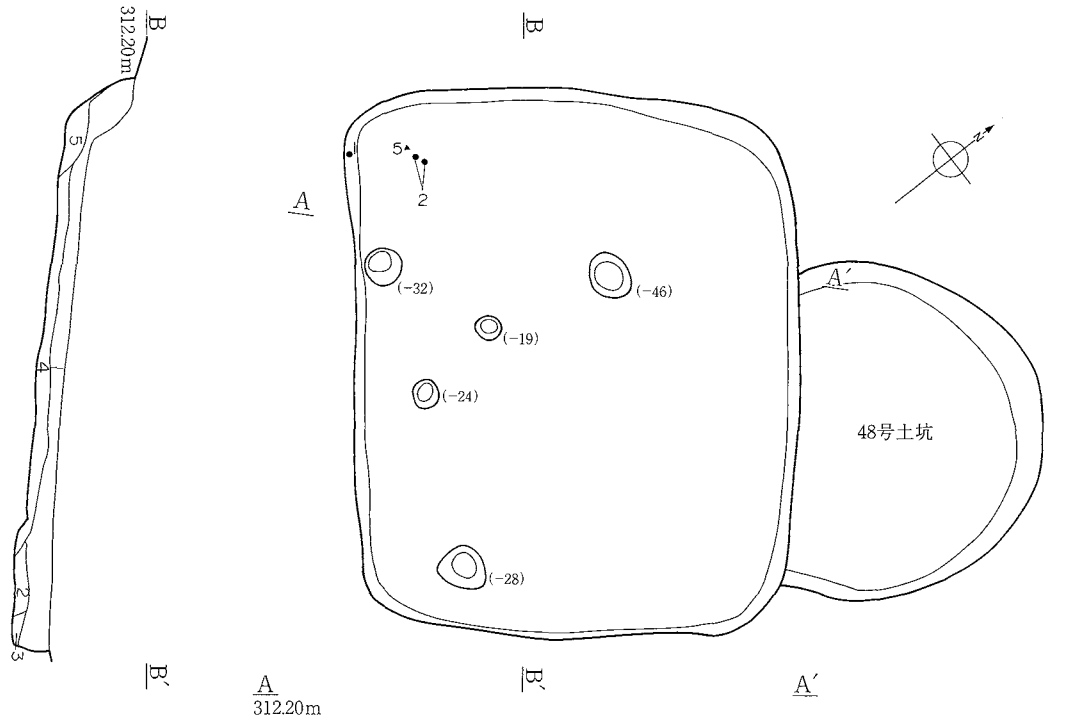
- I: 表土耕作土
- 1: 暗褐色土 YP・ローム粒少量含む。しまりやや強
い。
- 2: 暗褐色土 YP・ローム粒やや多く、炭化物・ロー
ムブロック少量含む。しまりやや強い。



炉跡

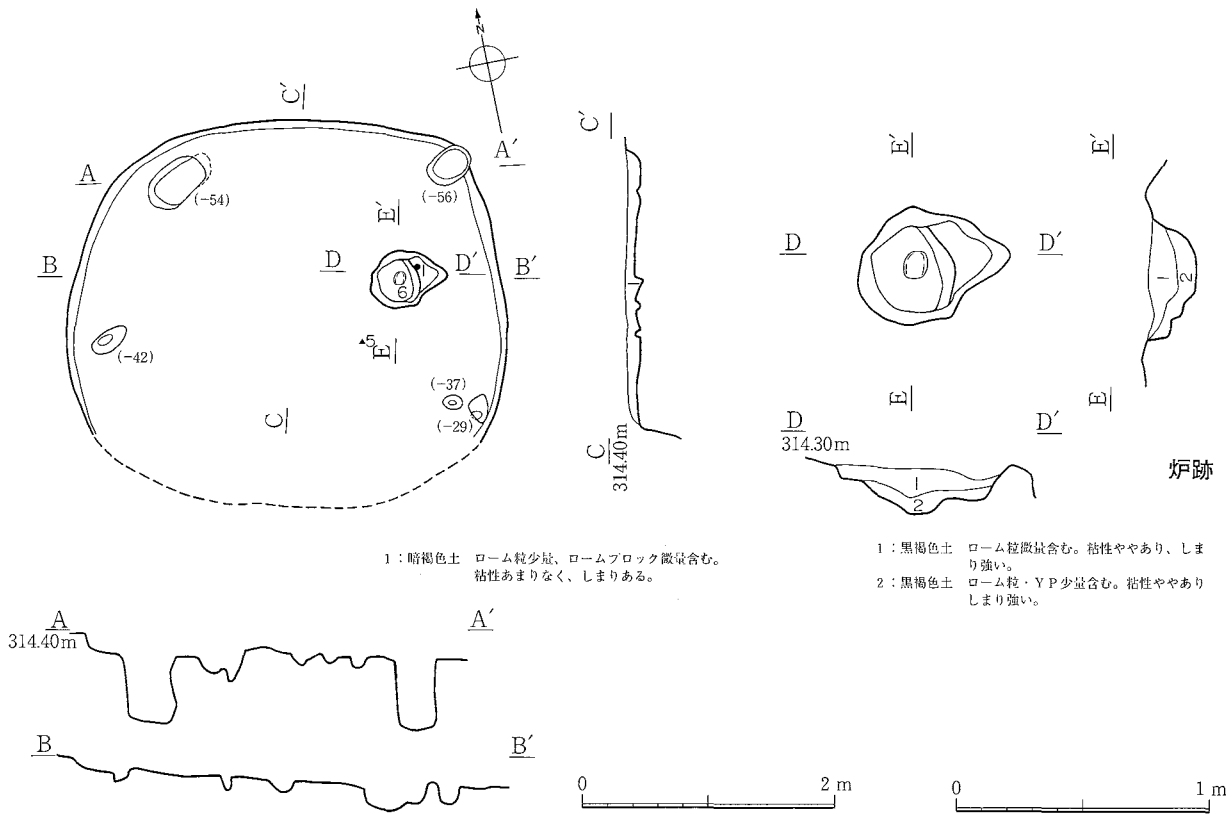
- 1: 黒褐色土 YP少量含む。しまり強く、粘性ややあ
る。

第144図 8号・10号住居跡、46号土坑、13号・12号住居跡



- 1: 黒褐色土 YP・炭化粒微量含む。粘性、しまりあまりない。
- 2: 褐色土 褐色粘土多量含む。粘性あり、しまりあまりない。
- 3: 褐色土 2層よりやや暗い、粘性ややあり、しまりあまりない。
- 4: 褐色土 YP・炭化粒微量、褐色粘質土多量含む。粘性・しまりややある。
- 5: 褐色土 YP少量、炭化粒微量含む。

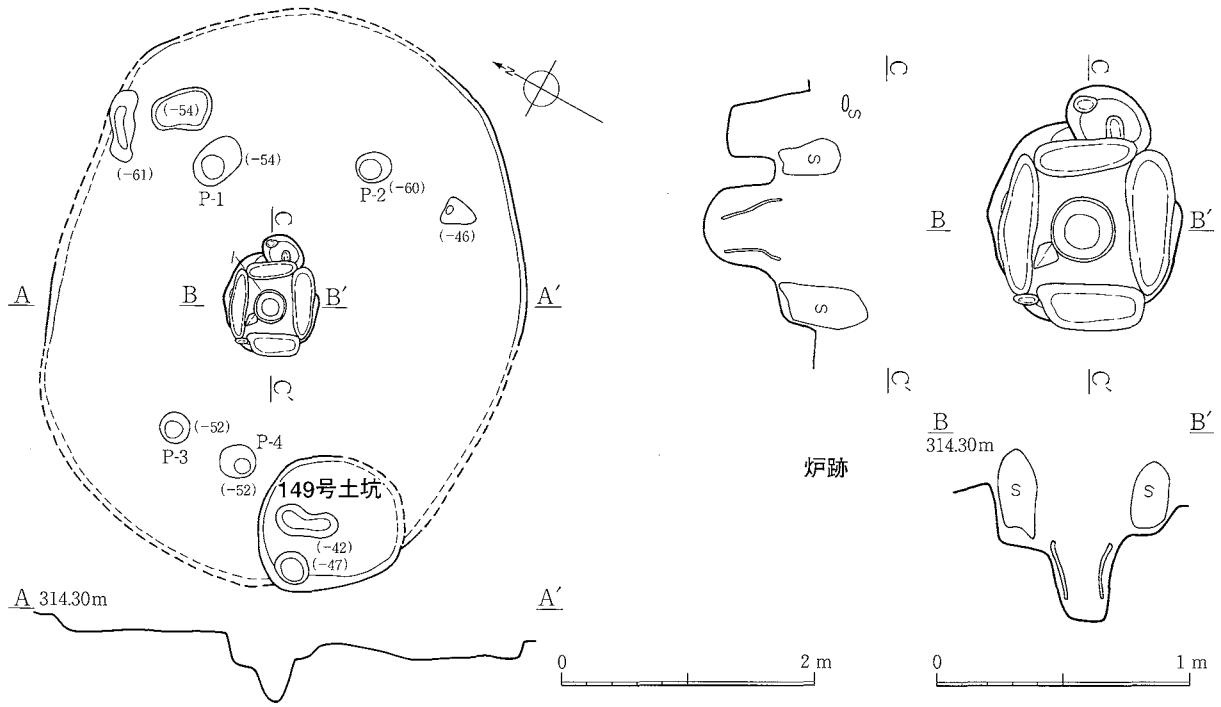
第146図 15号住居跡



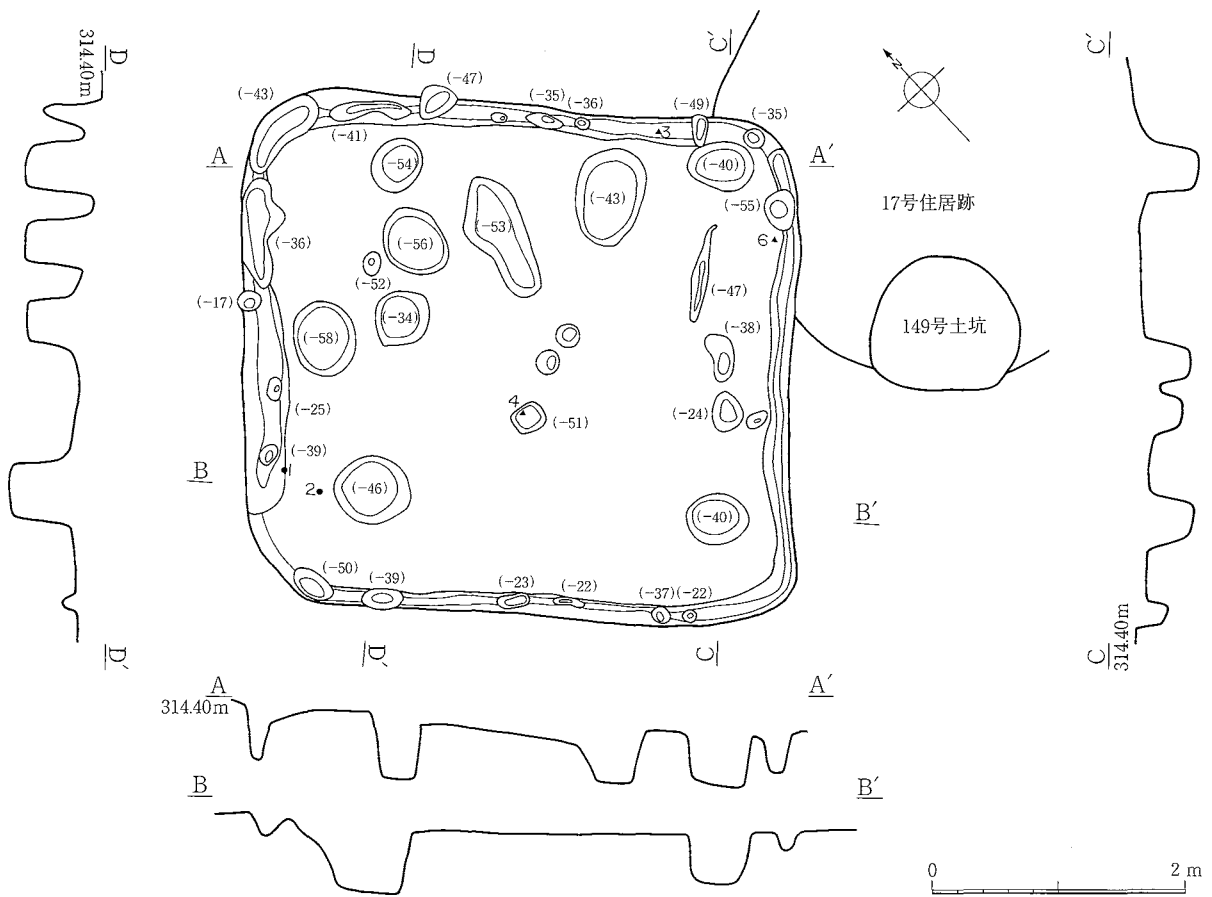
- 1: 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。粘性あまりなく、しまりある。

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性ややあり、しまり強い。

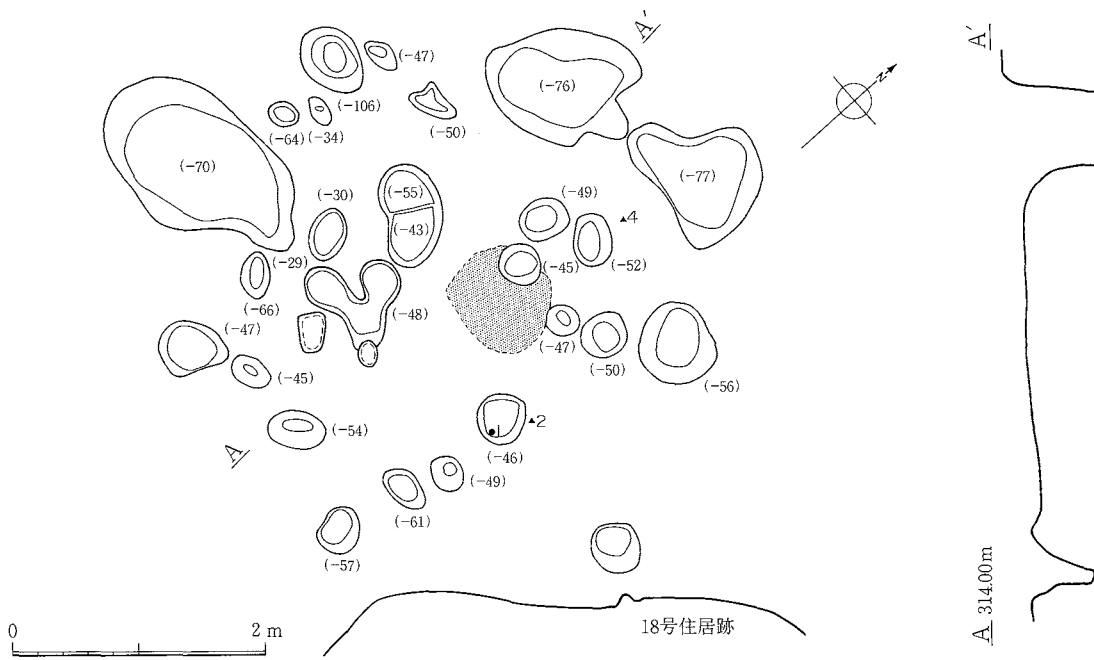
第147図 16号住居跡



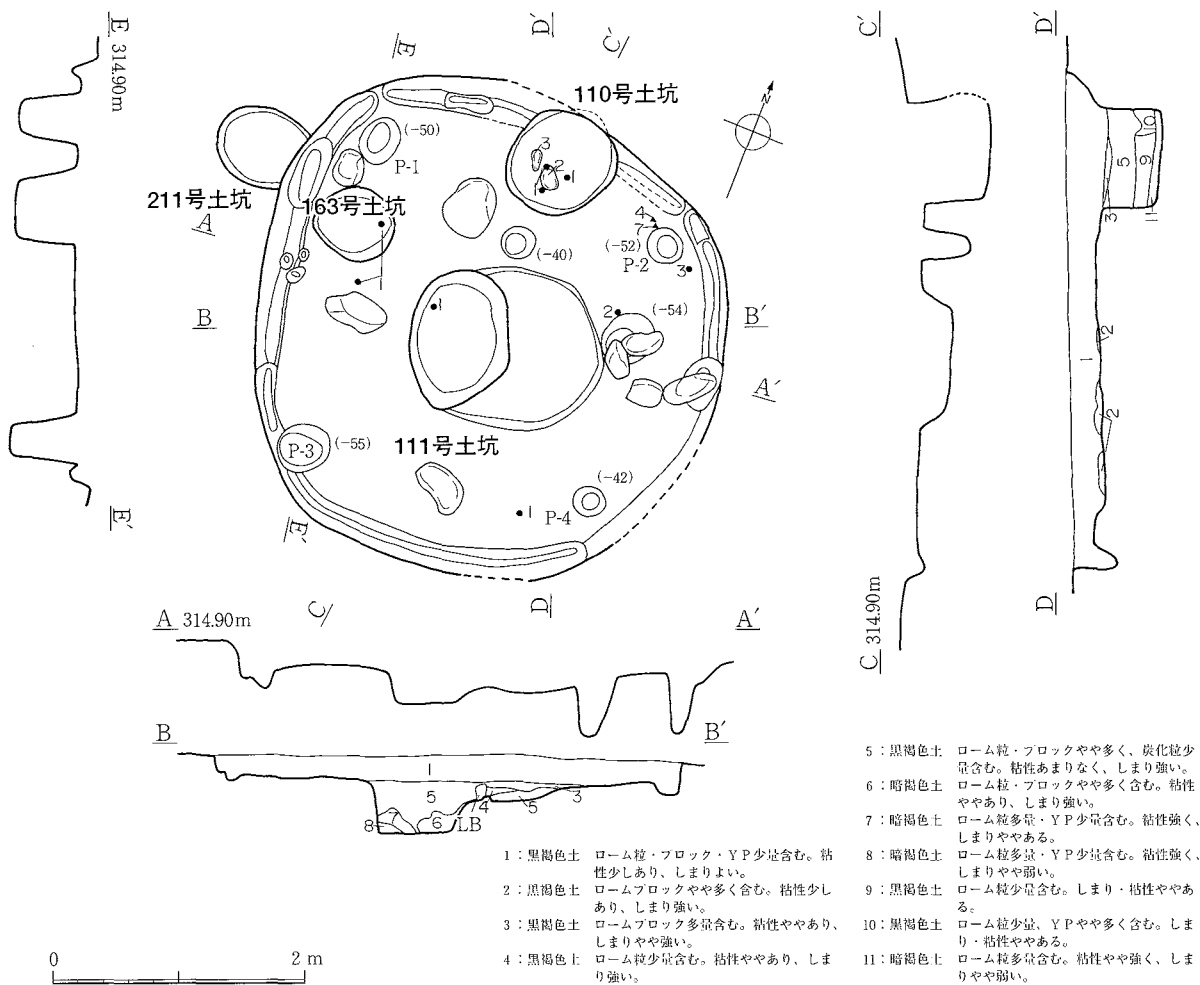
第148图 17号住居跡、149号土坑



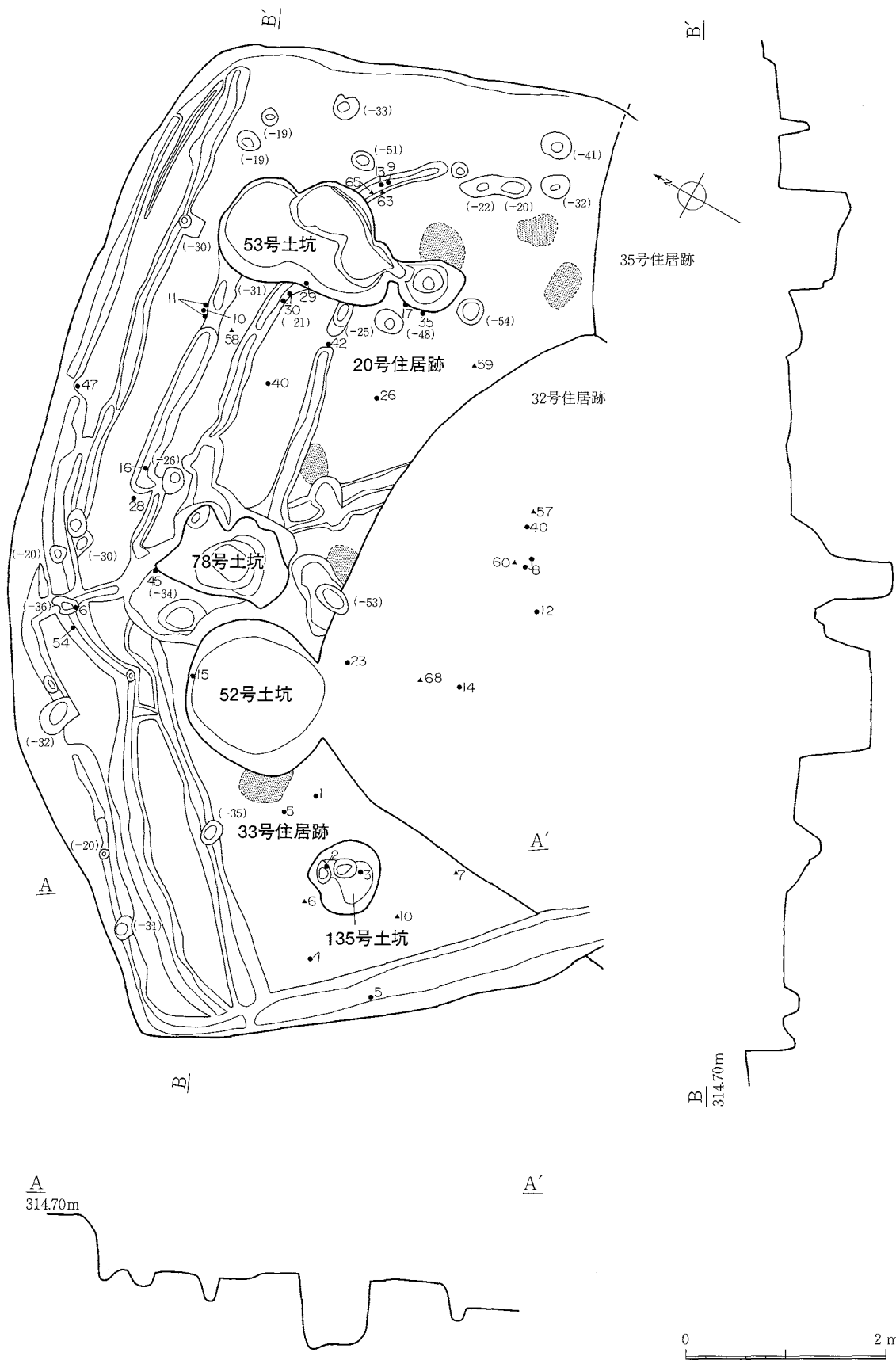
第149图 18号住居跡



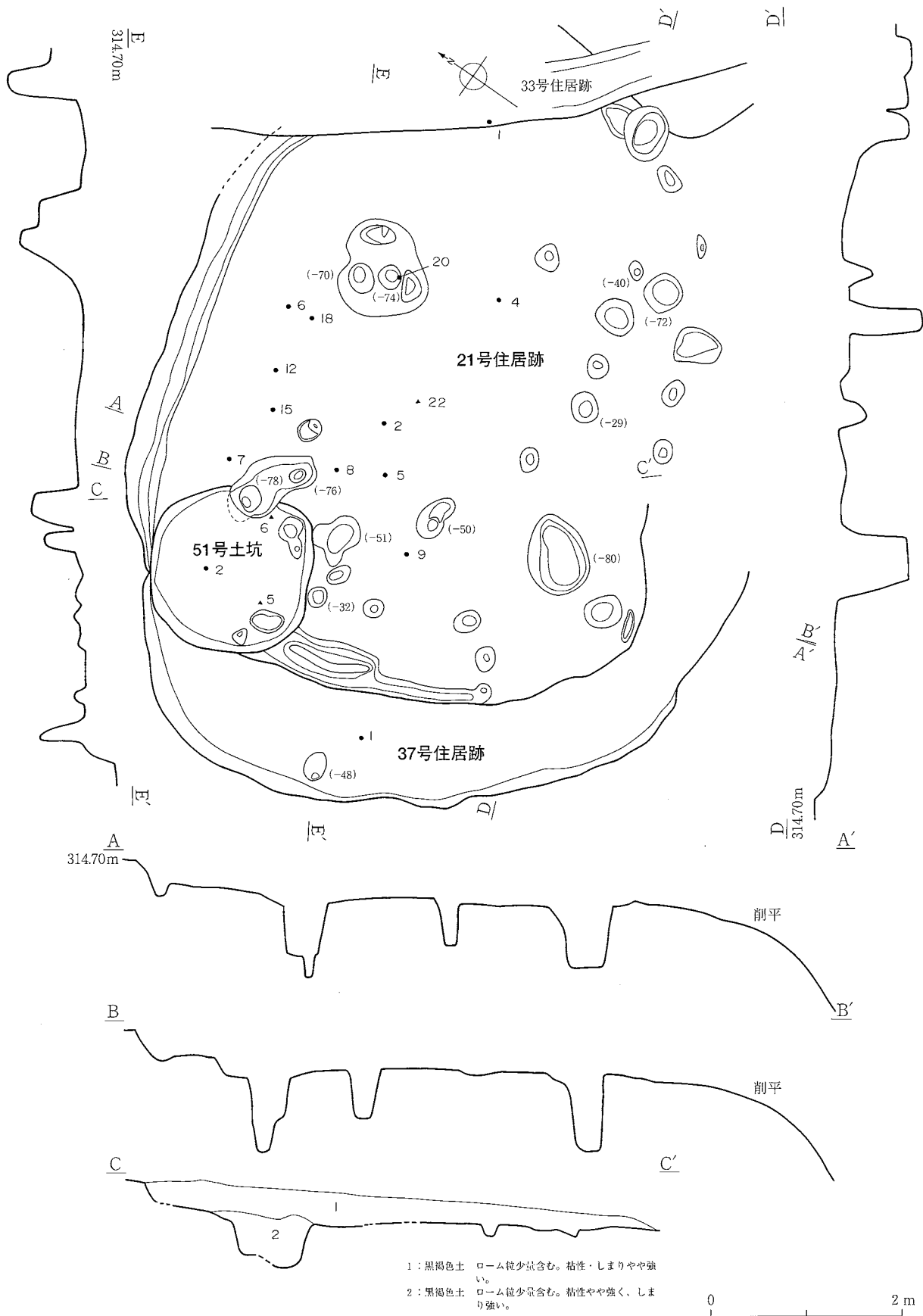
第150図 19号住居跡



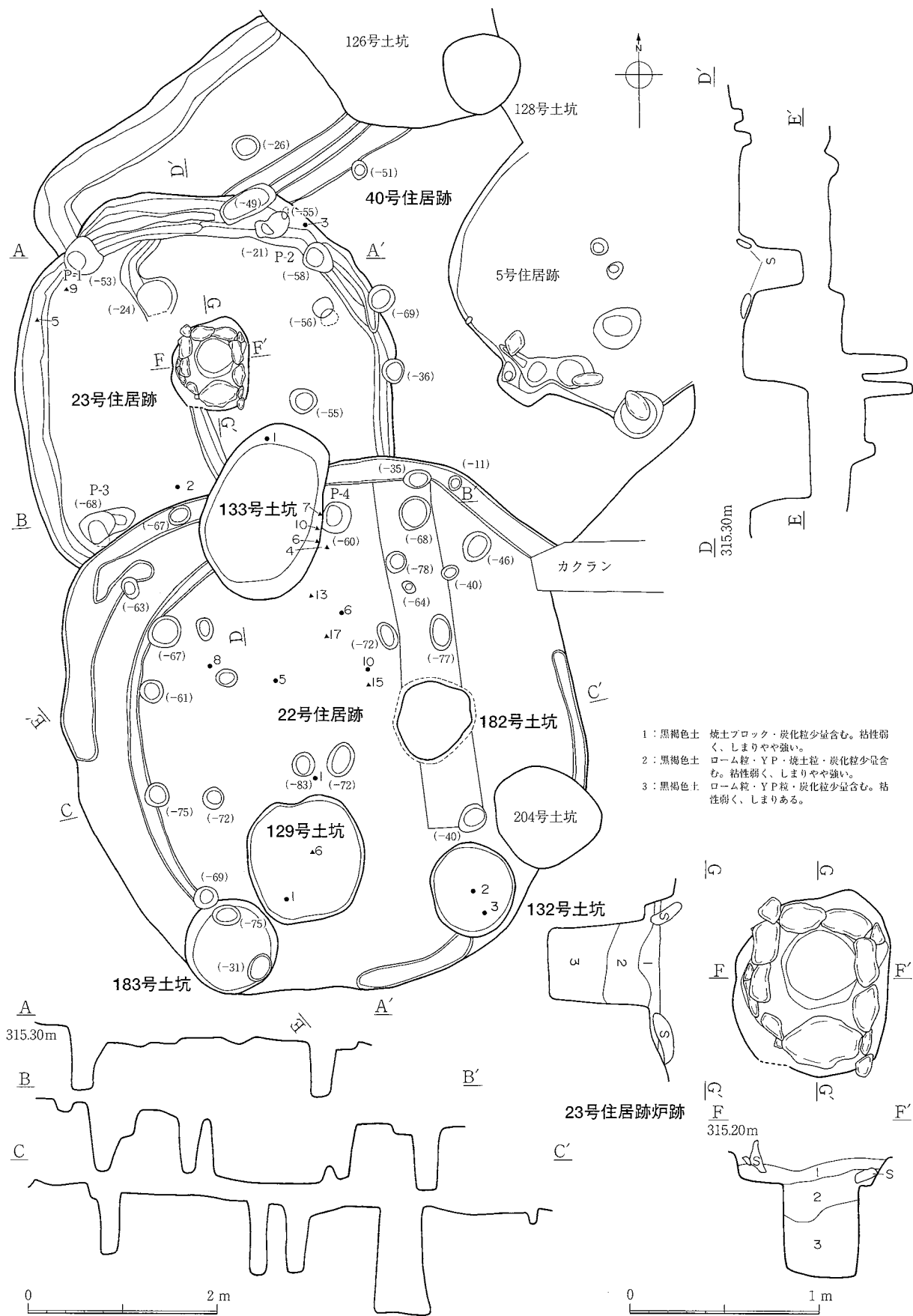
第151図 25号住居跡、110号・111号・163号・211号土坑



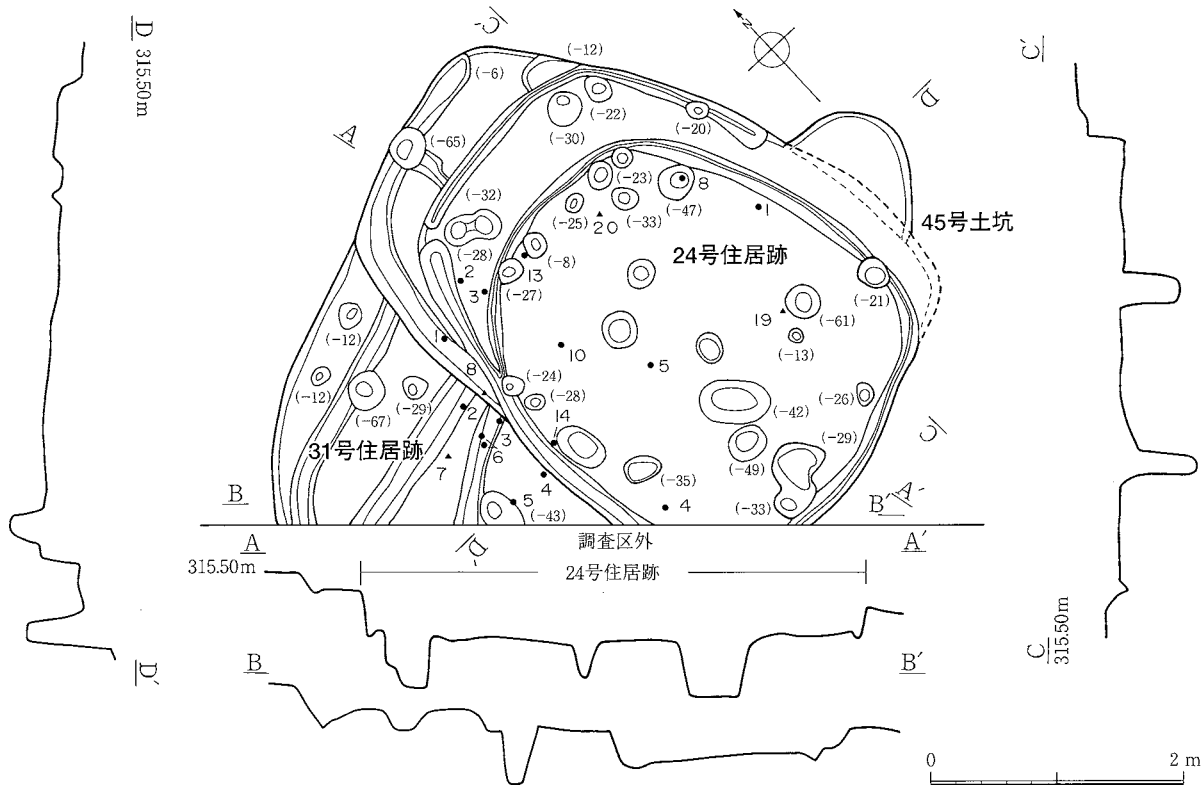
第152图 20号·33号住居跡、52号·53号·78号·135号土坑



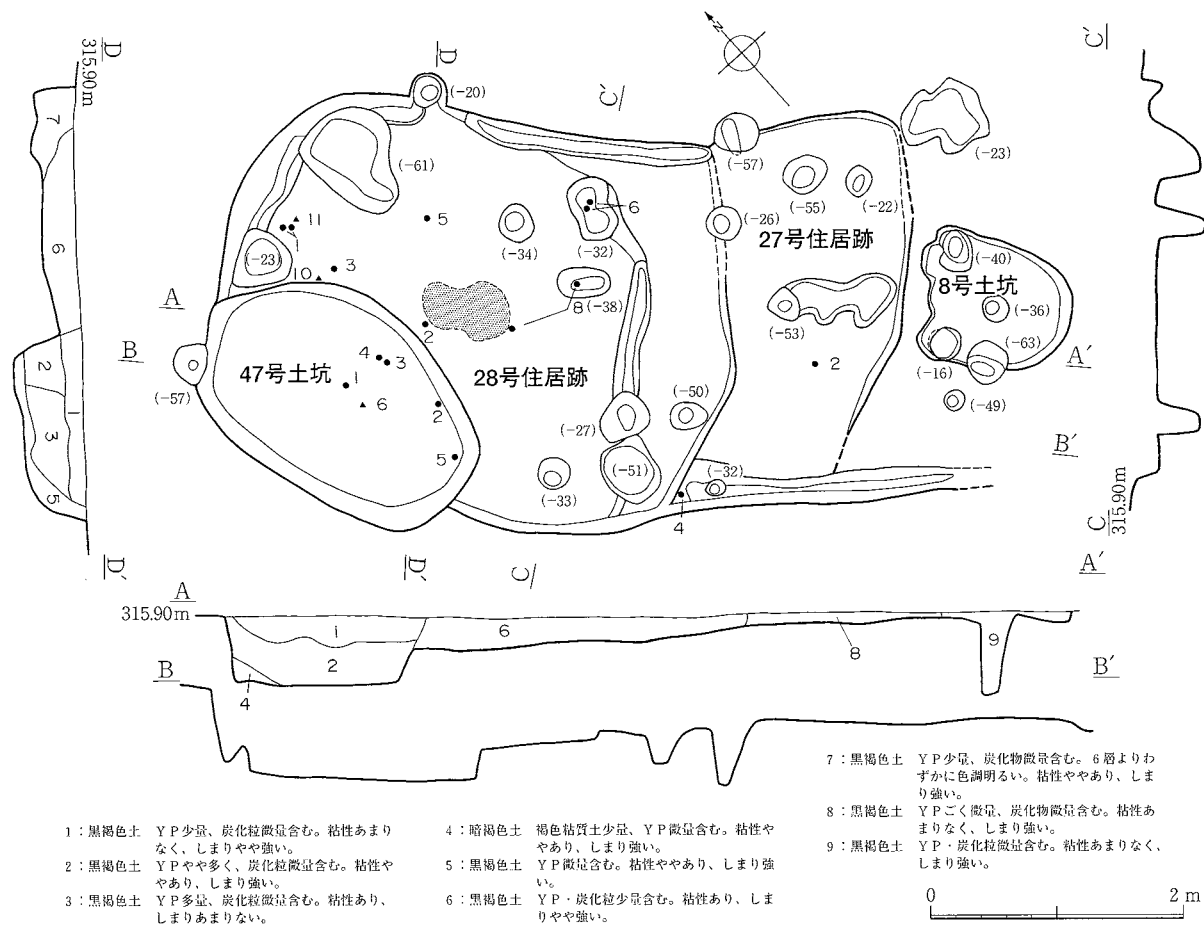
第153図 21号・37号住居跡、51号土坑



第154図 22号・23号・40号住居跡、129号・132号・133号・182号・183号土坑



第155図 24号・31号住居跡、45号土坑

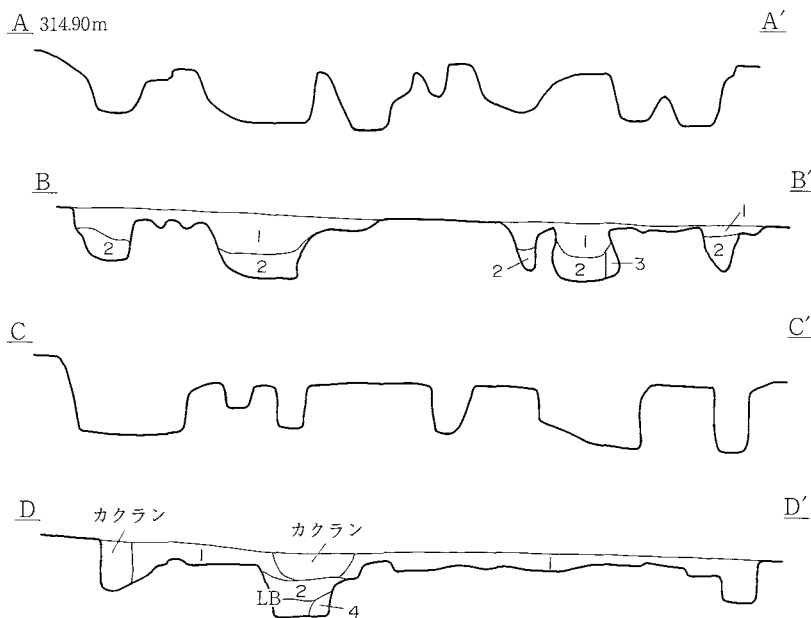
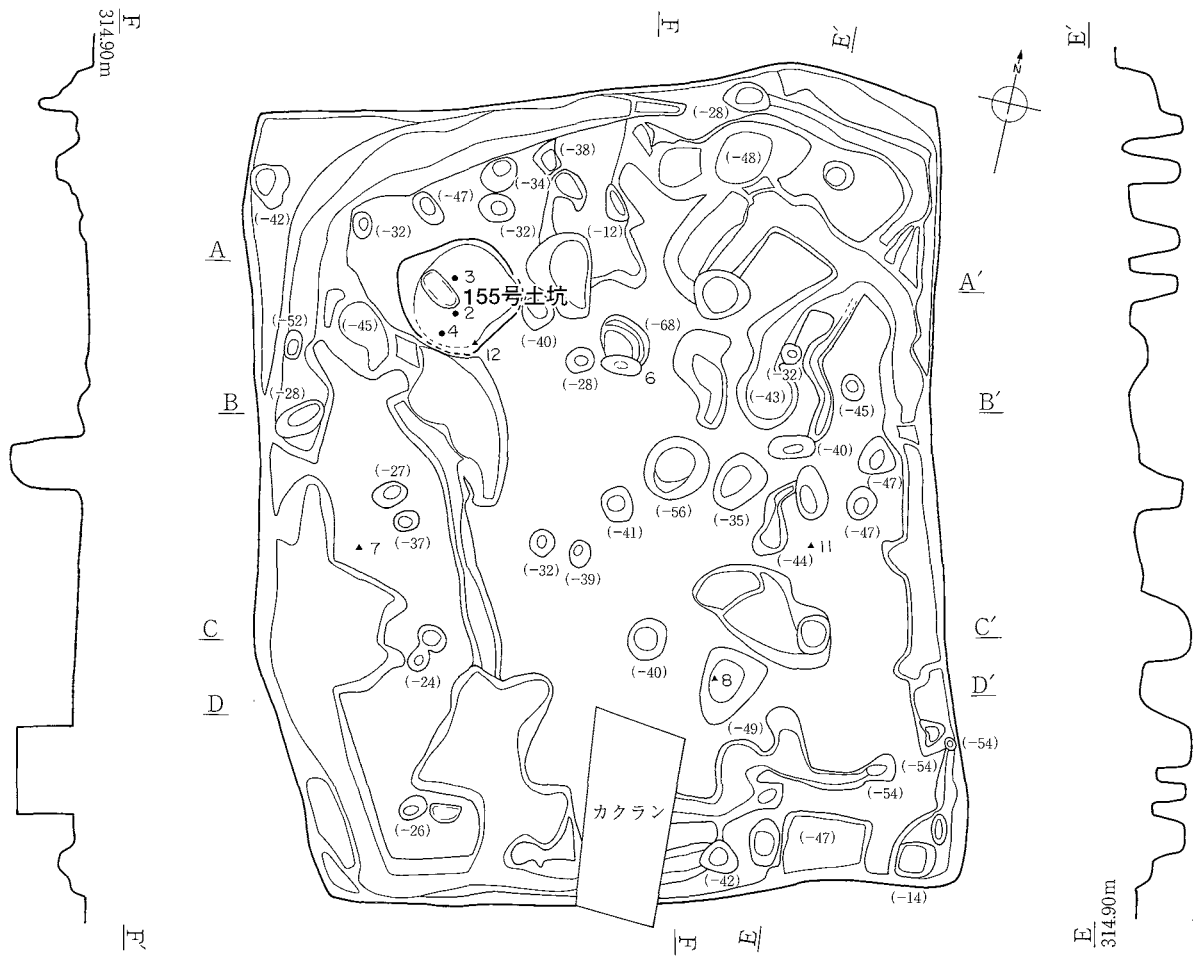


- 1: 黒褐色土 YP少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YPやや多く、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 YP多量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまりあまりない。

- 4: 暗褐色土 褐色粘質土少量、YP微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 5: 黒褐色土 YP微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 6: 黒褐色土 YP・炭化粒少量含む。粘性あり、しまりやや強い。

- 7: 黒褐色土 YP少量、炭化物微量含む。6層よりわずかに色調明るい。粘性ややあり、しまり強い。
- 8: 黒褐色土 YPごく微量、炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 9: 黒褐色土 YP・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。

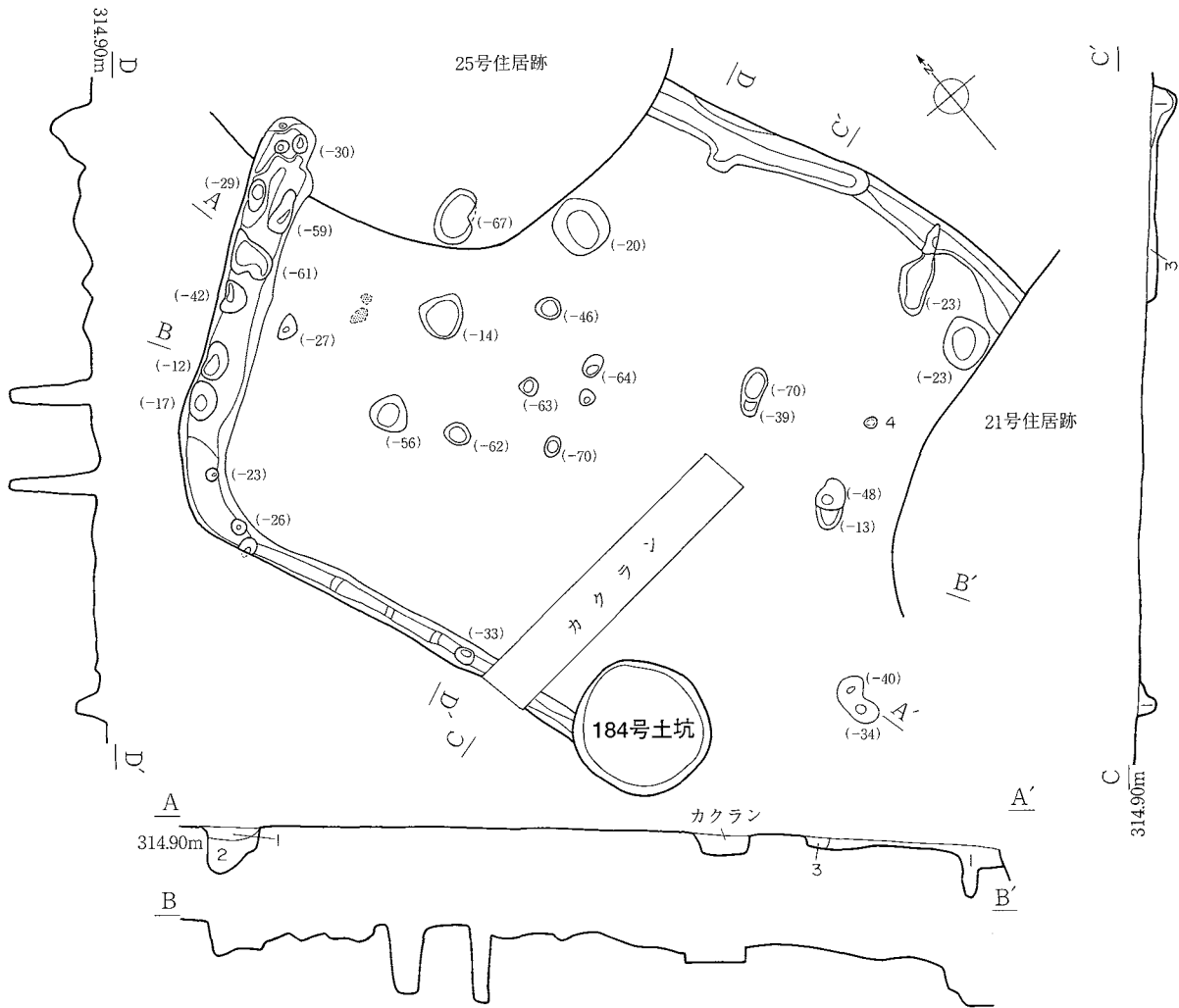
第156図 27号・28号住居跡、8号・47号土坑



- | | | | |
|---------|------------------------------------|---------|-----------------------|
| 1: 黒褐色土 | ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。 | 3: 黒褐色土 | YP少量含む。粘性ややあり、しまりある。 |
| 2: 黒褐色土 | YPやや多く、炭化粒微量含む。粘性あまりないが、しまりやや強い。 | 4: 褐色土 | YP微量含む。粘性あり、しまりあまりない。 |

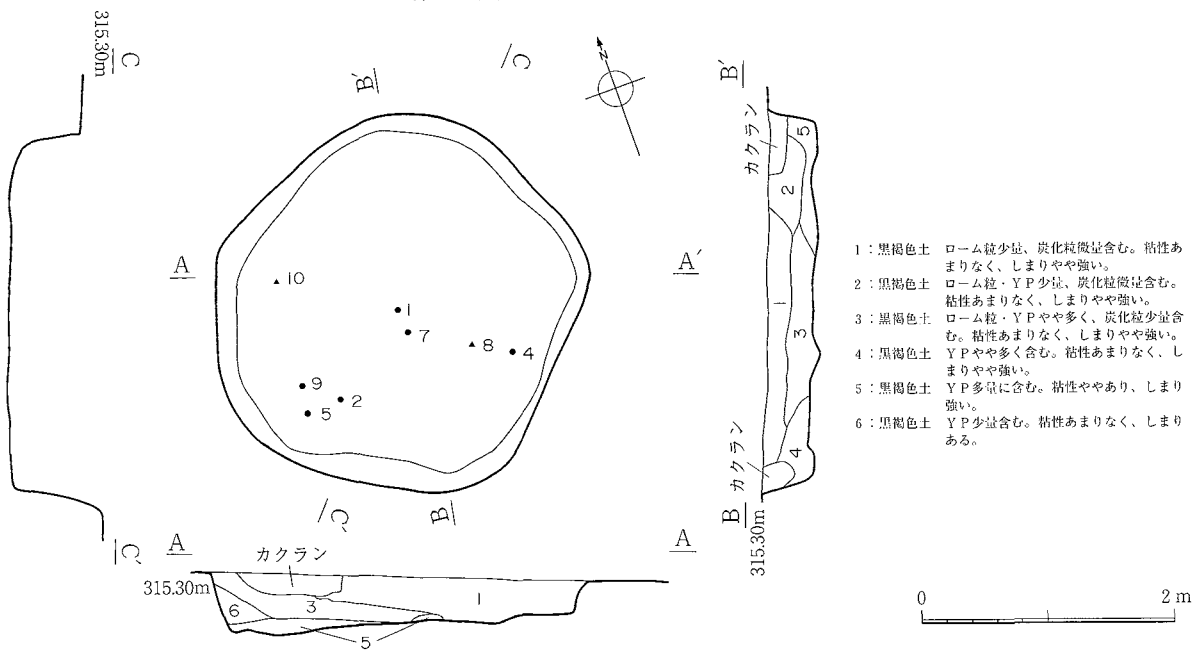


第157図 26号住居跡、155号土坑



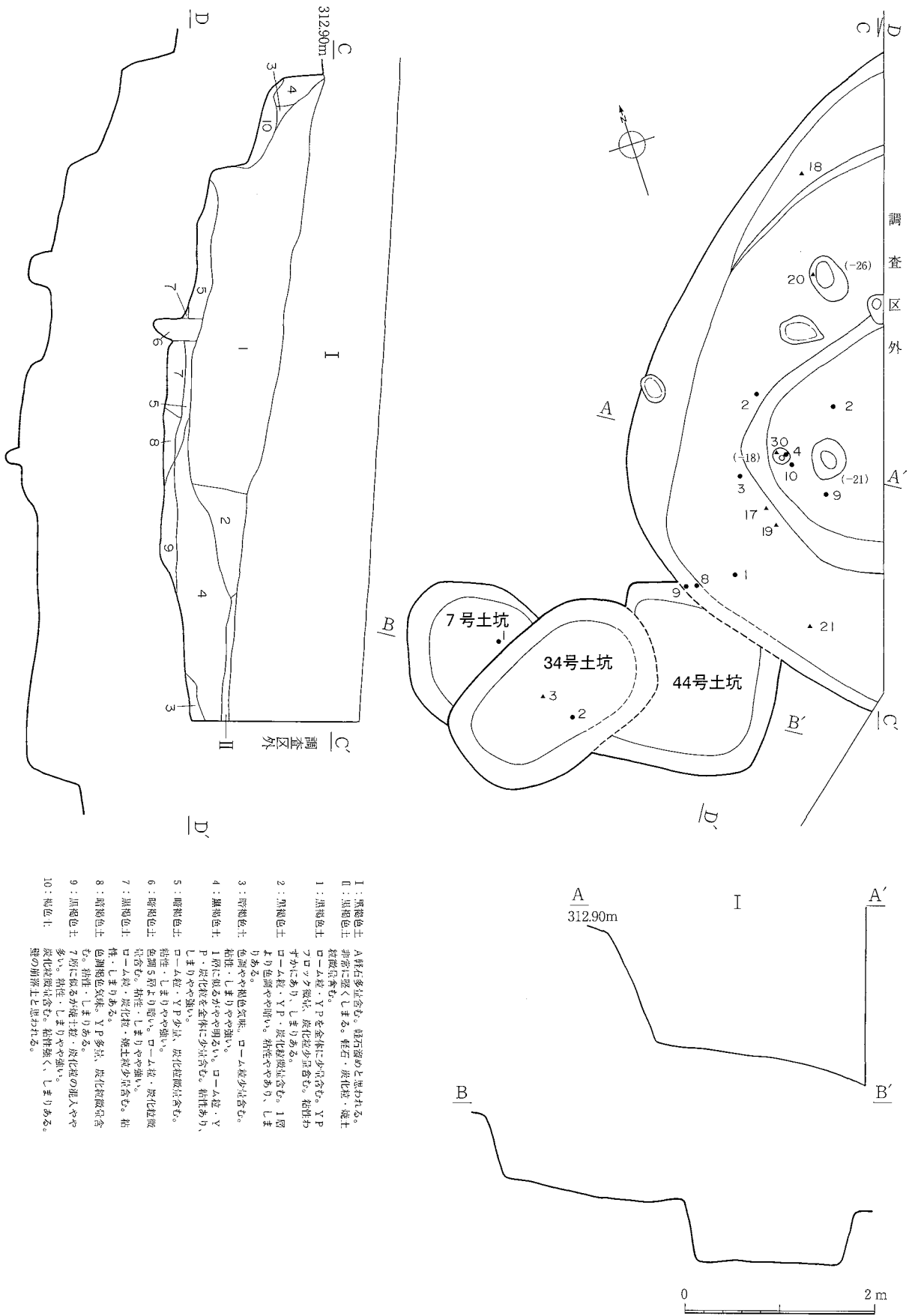
- | | |
|---|--|
| <p>1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、し
まり強い。</p> <p>2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YPを1層よりや
や多く含む。粘性ややあり、しまり強い。</p> | <p>3: 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。粘性ややあり、
炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり
強い。</p> |
|---|--|

第158図 29号住居跡、184号土坑



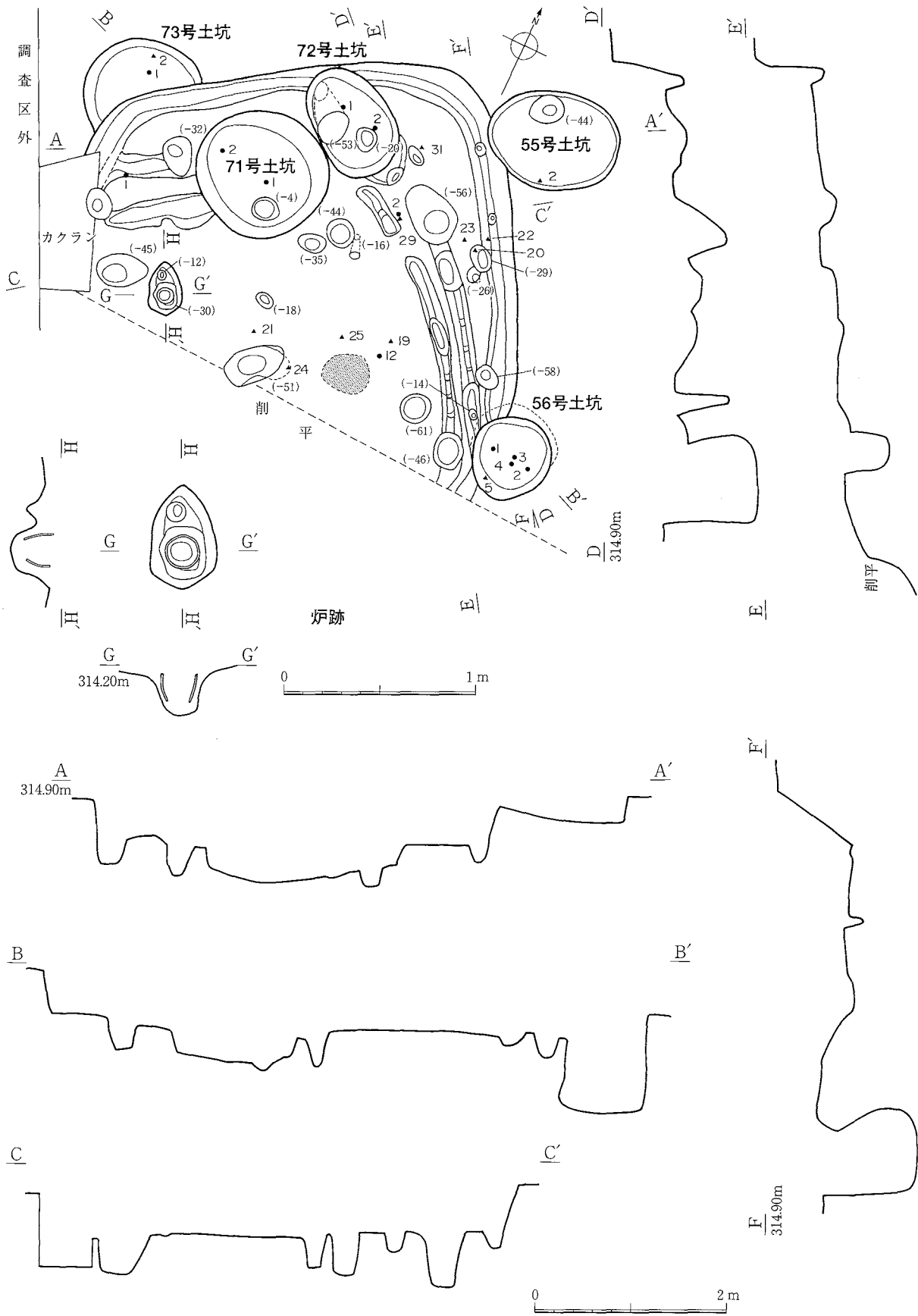
- | |
|---|
| <p>1: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あ
まりなく、しまりやや強い。</p> <p>2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。
粘性あまりなく、しまりやや強い。</p> <p>3: 黒褐色土 ローム粒・YPやや多く、炭化粒少量含
む。粘性あまりなく、しまりやや強い。</p> <p>4: 黒褐色土 YPやや多く含む。粘性あまりなく、し
まりやや強い。</p> <p>5: 黒褐色土 YP多量に含む。粘性ややあり、しまり
強い。</p> <p>6: 黒褐色土 YP少量含む。粘性あまりなく、しまり
ある。</p> |
|---|

第159図 38号住居跡

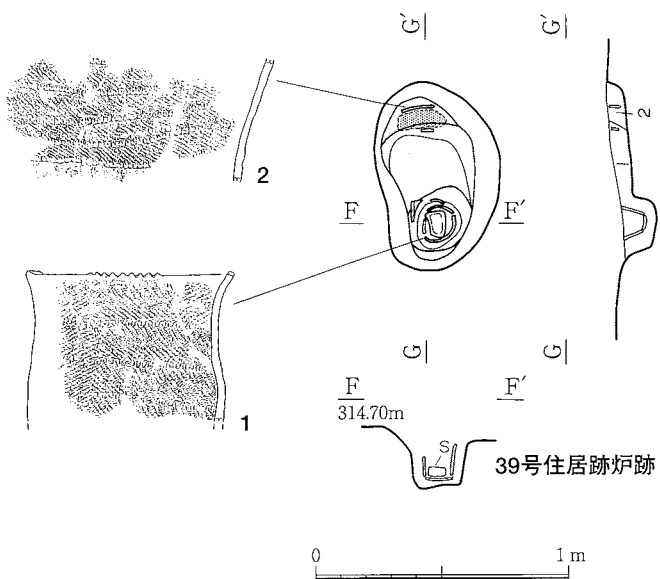
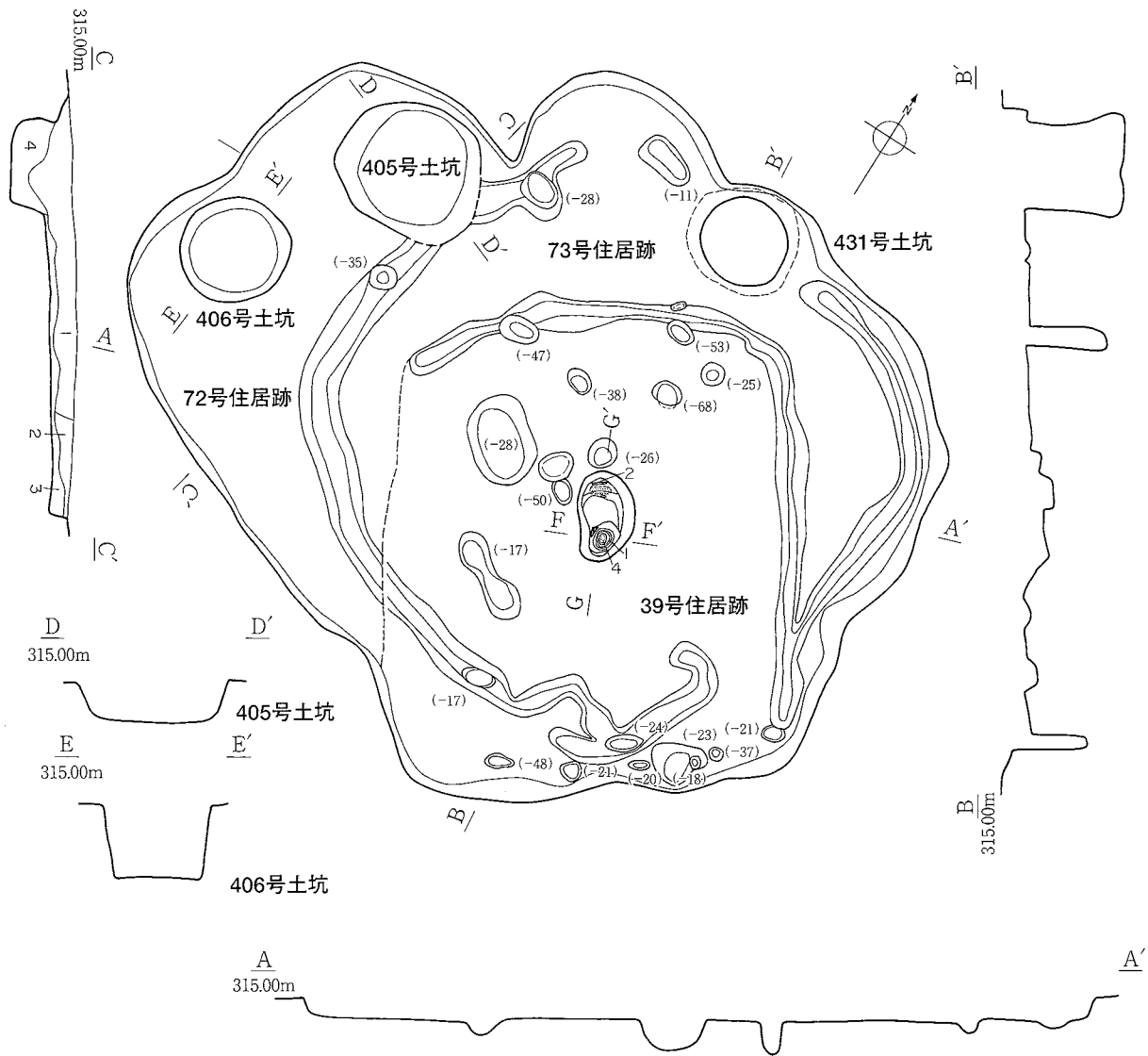


- I : 黒褐色土 A軽石多量含む。軽石強めに混入される。
 II : 黒褐色土 非常に堅くしめる。軽石・炭化粒・焼土
 1 : 黒褐色土 コーム粒・Y.P.を全体に少量含む。Y.P.
 フラック散見。炭化粒少量含む。粘着性
 弱にあり、しりある。
 2 : 黒褐色土 コーム粒・Y.P.炭化粒散見含む。1層
 より色調やや暗い。粘性ややあり、しり
 ありある。
 3 : 暗褐色土 色調やや褐色気味。コーム粒少量含む。
 粘性・しりやや強い。
 4 : 黒褐色土 1層に似るかやや強い。コーム粒・Y.
 P.炭化粒を全体に少量含む。粘性あり、
 しりやや強い。
 5 : 暗褐色土 コーム粒・Y.P.少量。炭化粒散見含む。
 粘性・しりやや強い。
 6 : 暗褐色土 色調S前より暗い。コーム粒。炭化粒散
 見含む。粘性・しりやや強い。
 7 : 黒褐色土 コーム粒・炭化粒。焼土少量含む。粘
 性・しりあり。
 8 : 暗褐色土 色調褐色気味。Y.P.多量。炭化粒散見含
 む。粘性・しりあり。
 9 : 黒褐色土 7層に似るか焼土粒・炭化粒の混入やや
 多い。粘性・しりやや強い。
 10 : 褐色土 炭化粒散見含む。粘性弱く、しりあり。
 壁の崩落上と思われる。

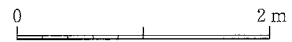
第160図 30号住居跡、7号・34号・44号土坑



第163図 36号住居跡、55号・56号・71号・72号・73号土坑

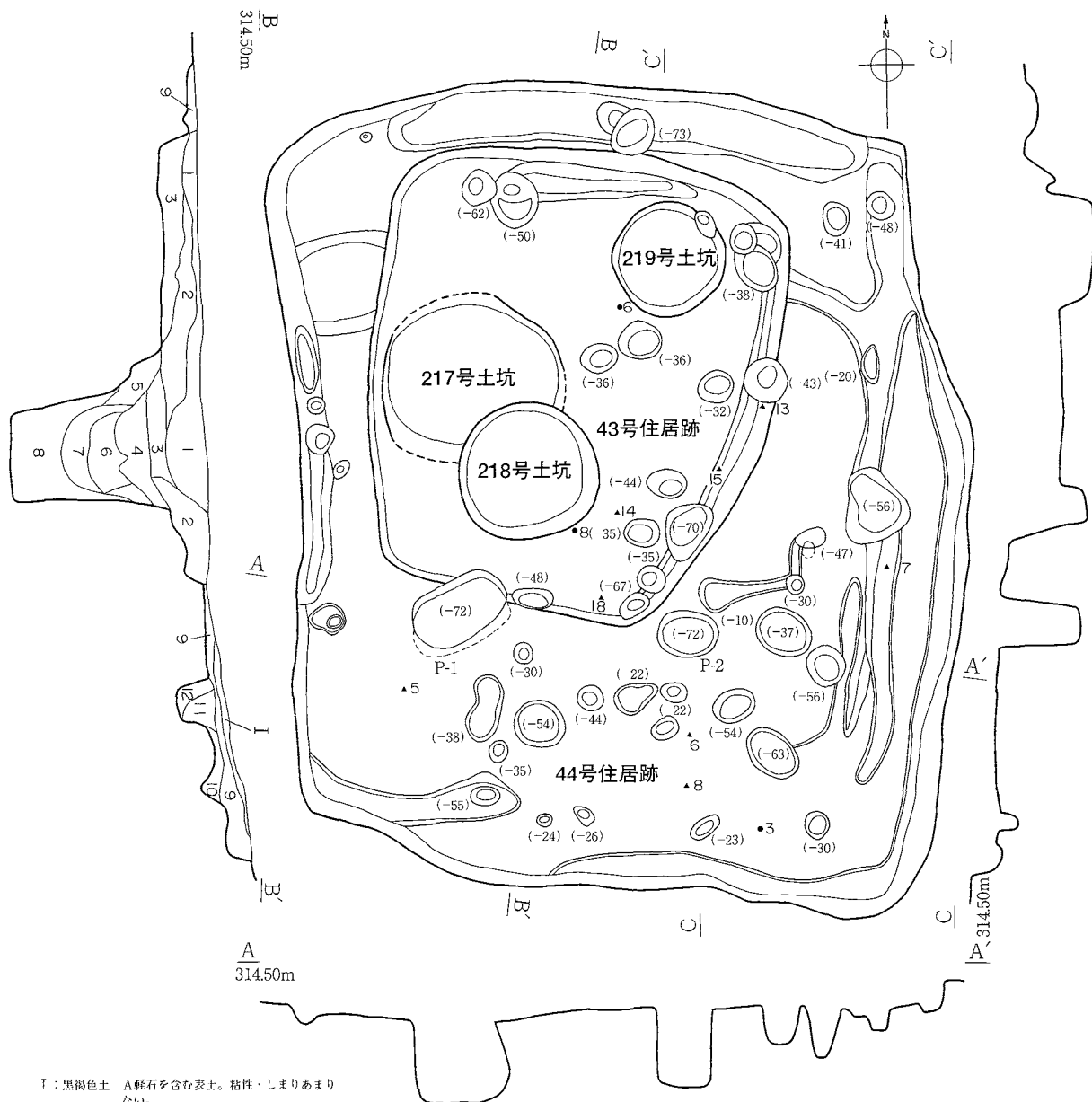


- 1: 黒褐色土 白色軽石粒少量、ローム粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 色調やや暗褐色に近い。ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、YP・白色軽石粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



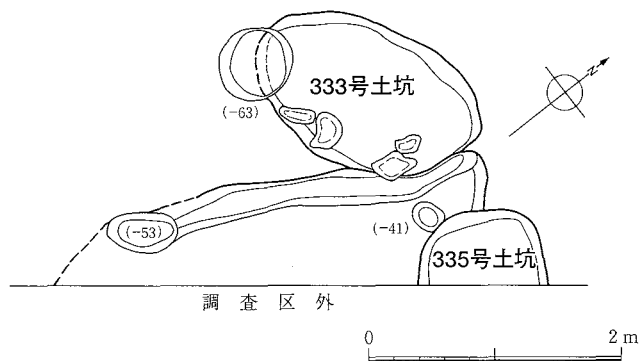
- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒少量、焼土微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 焼土少量、ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。

第164図 39号・72号・73号住居跡、405号・406号・431号土坑

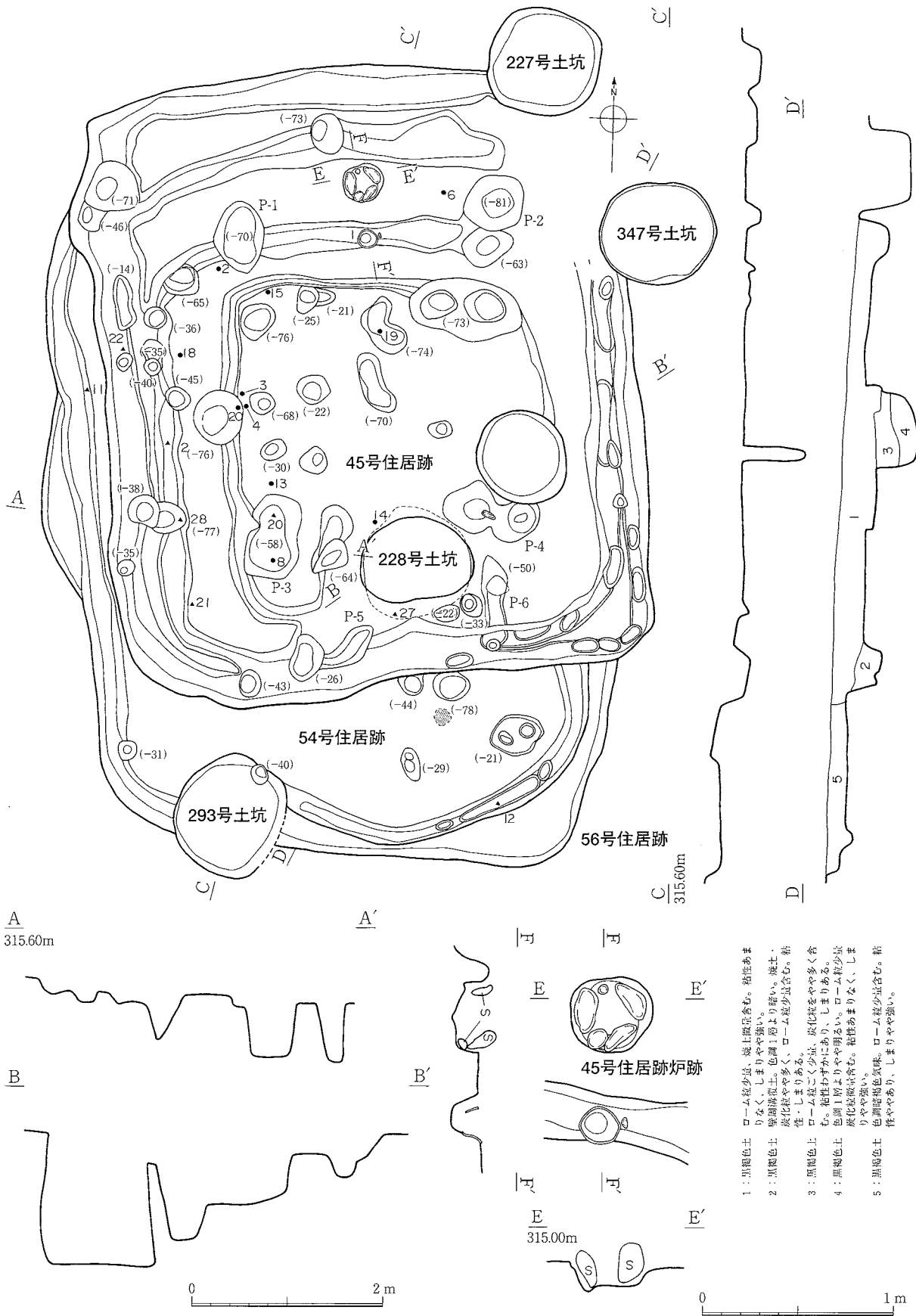


- I : 黒褐色土 A 軽石を含む表土。粘性・しまりあまりない。
- 1 : 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 2 : 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性わずかにあり、しまりやや強い。
- 3 : 黒褐色土 1・2層より色調やや明るい。ローム粒YPやや多く含む。粘性わずかにあり、しまりやや強い。
- 4 : 黒褐色土 YP少量含む。粗い粒子でザラザラする。粘性なく、しまりやや強い。
- 5 : 暗褐色土 ローム粒やや多く、YP少量含む。粘性やや強く、しまりややある。
- 6 : 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 7 : 黒褐色土 YP・炭化物少量、ロームブロック微量含む。水分を含み粘性があるが、しまりやや弱い。
- 8 : 褐色土 褐色粘土多量、YP・炭化物少量含む。粘性があるが、しまりやや弱い。
- 9 : 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 10 : 黒褐色土 ローム粒少量・YPやや多く含む。粘性あり、しまり強い。
- 11 : 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 12 : 黒褐色土 ローム粒少量・ロームブロックやや多くYP微量含む。粘性あり、しまり強い。

第165図 43号・44号住居跡、217号・218号・219号土坑

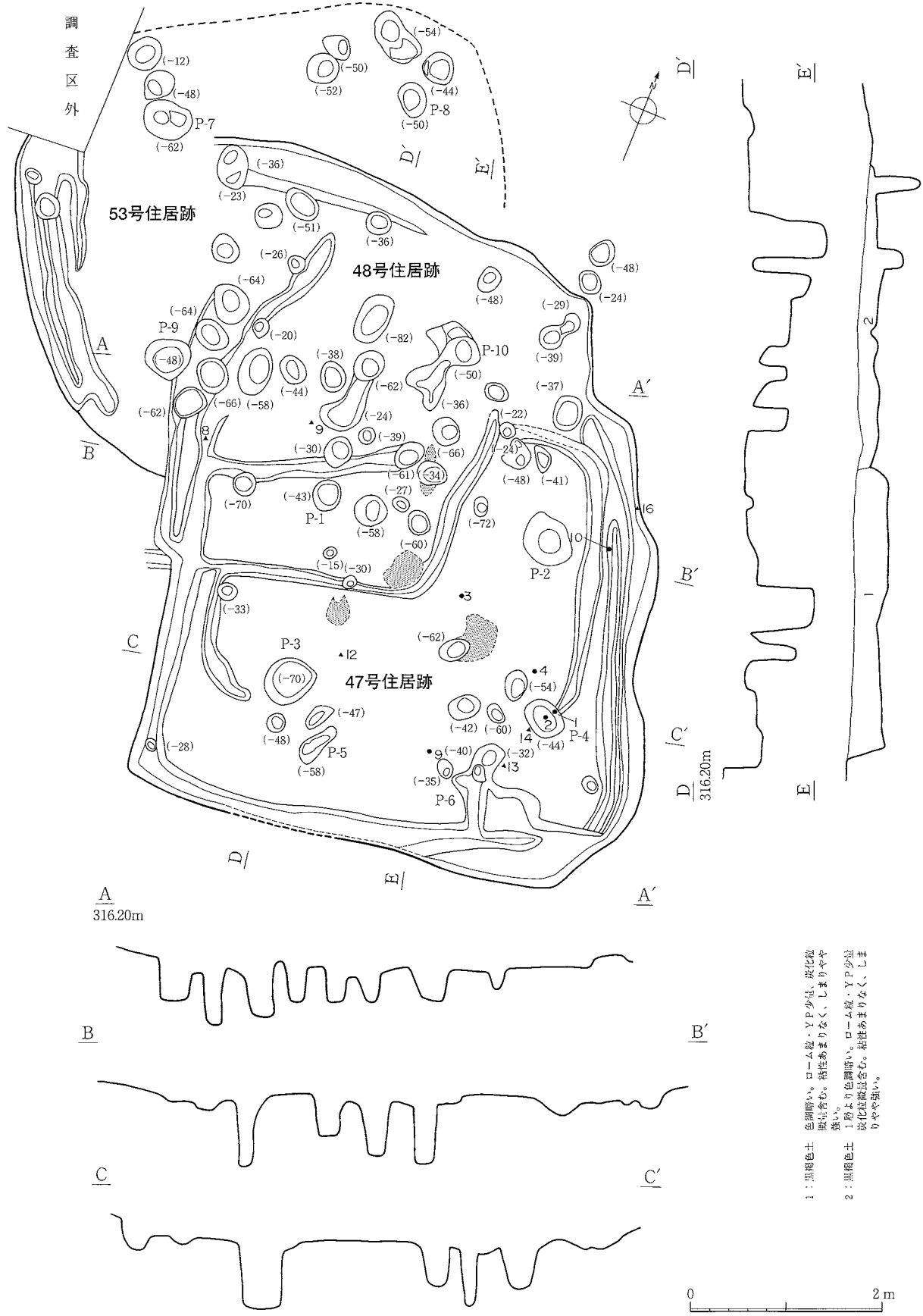


第166図 42号住居跡、333号・335号土坑

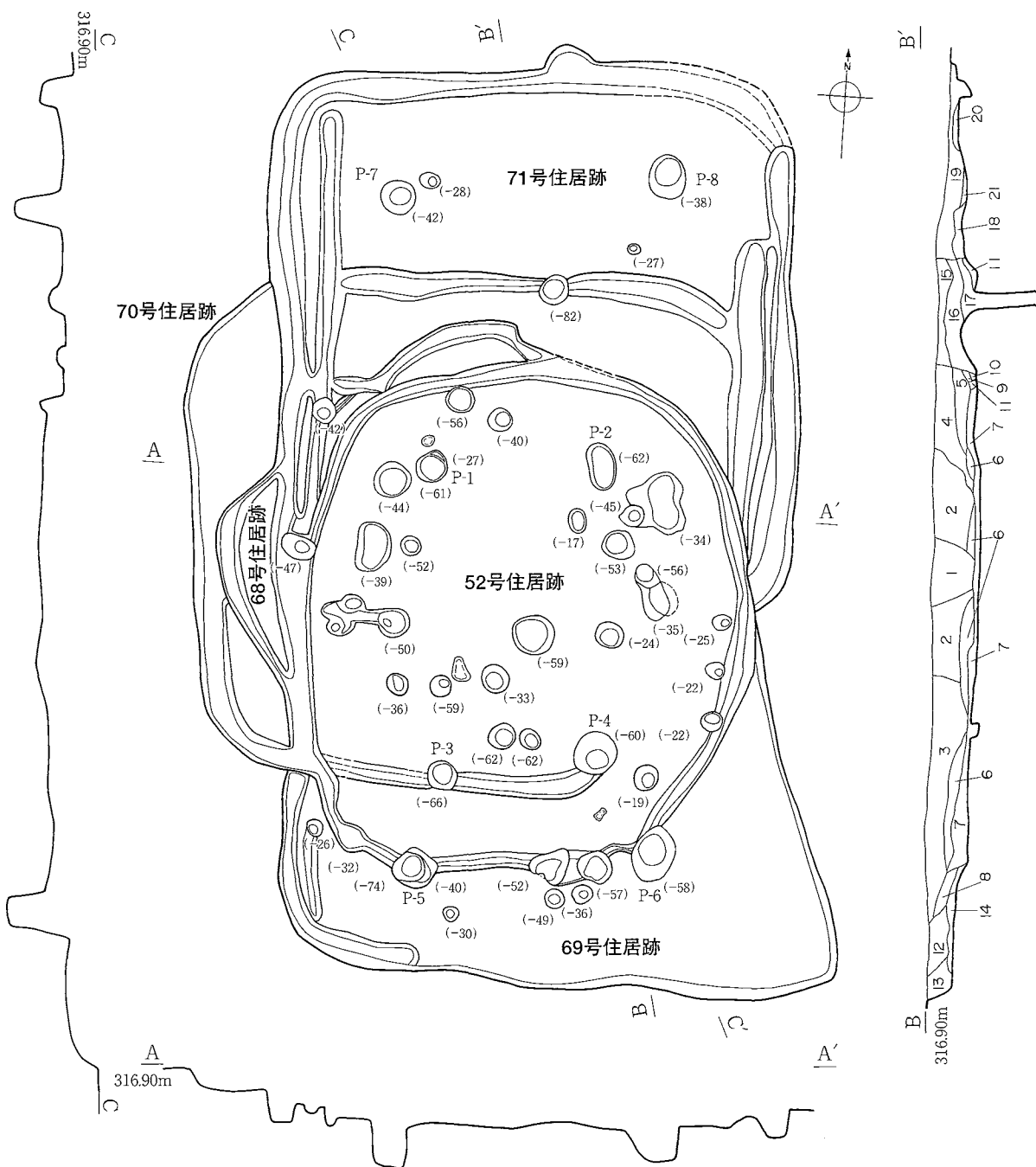


- 1: 黒褐色土、ローム粒少量、炭化痕量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土、炭化痕量豊富。色調1層より暗い。凝結性、しまりあり。
- 3: 黒褐色土、ローム粒ごく少量、炭化痕量やや多く含む。粘性わずかにあり、しまりあり。
- 4: 黒褐色土、色調1層よりやや明るい。ローム粒少量、炭化痕量豊富。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 5: 黒褐色土、色調暗褐色気味。ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。

第167図 45号・54号・56号住居跡、227号・228号・293号・347号土坑



第168図 47号・48号・53号住居跡



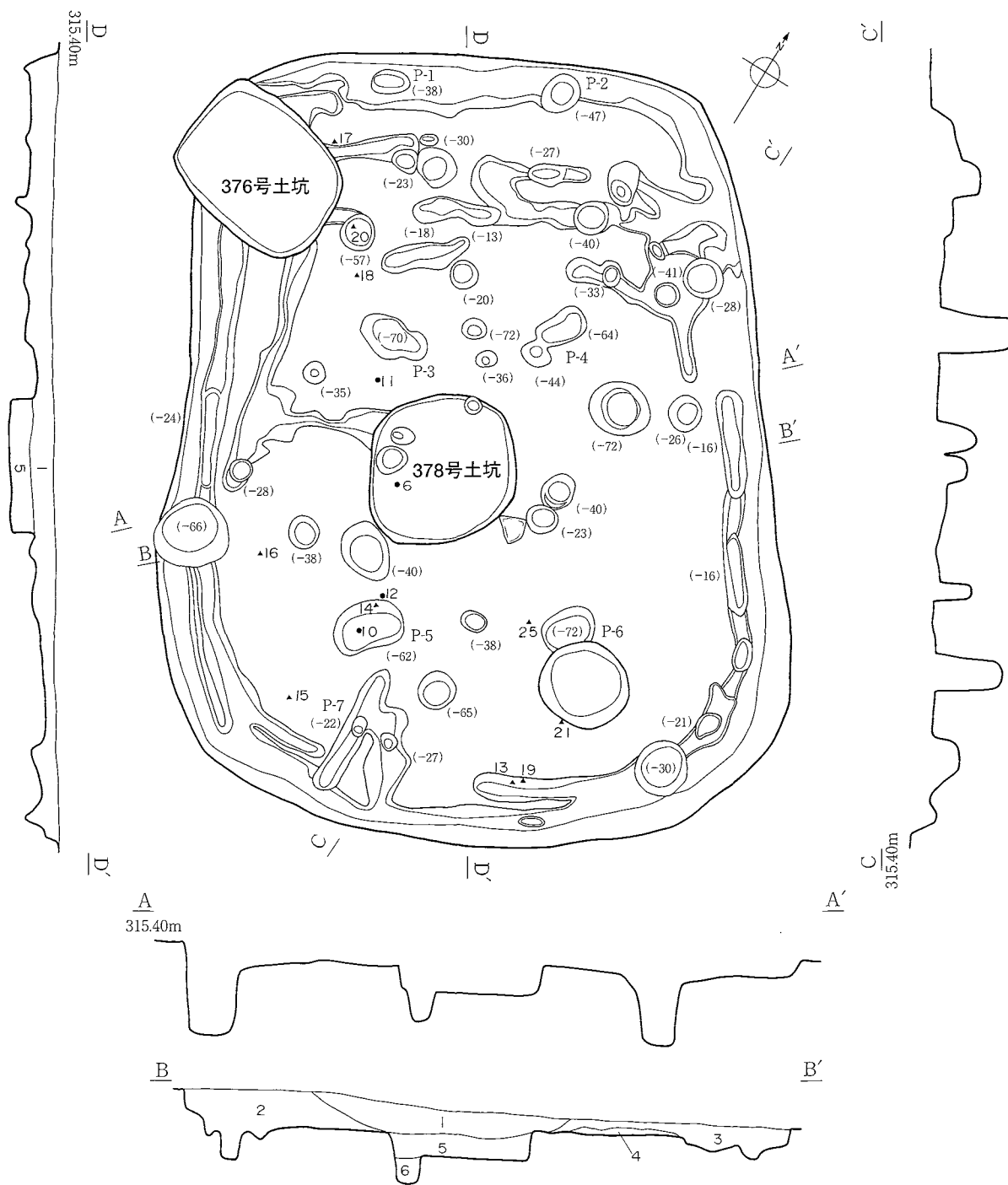
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPをやや多く含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPを密に、炭化粒微量含む。色調1層よりやや明るい。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒を濃密に・YP少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP・炭化粒少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 6: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量、ロームブロック微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 7: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 8: 黒褐色土 ロームブロック少量、ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。

- 9: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 10: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 11: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 12: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 13: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 14: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 15: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。

- 16: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量、ロームブロック・炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 17: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 18: 暗褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 19: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 20: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 21: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。

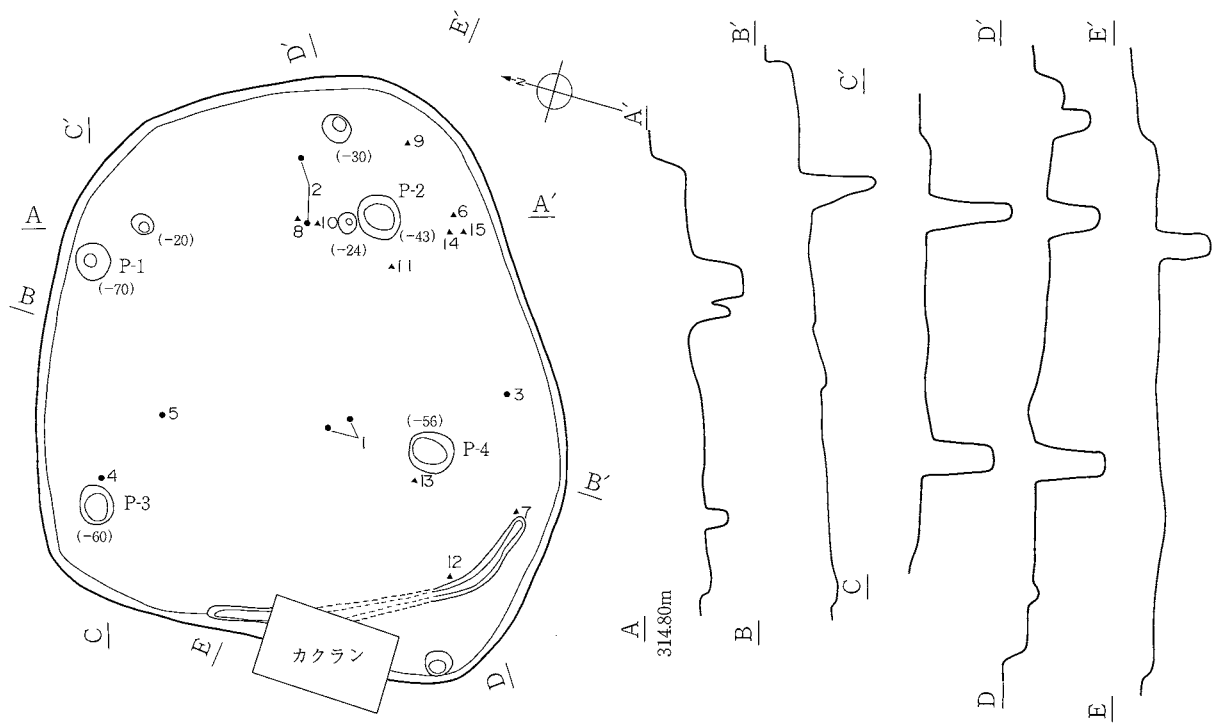


第172図 52号・68号・69号・70号・71号住居跡

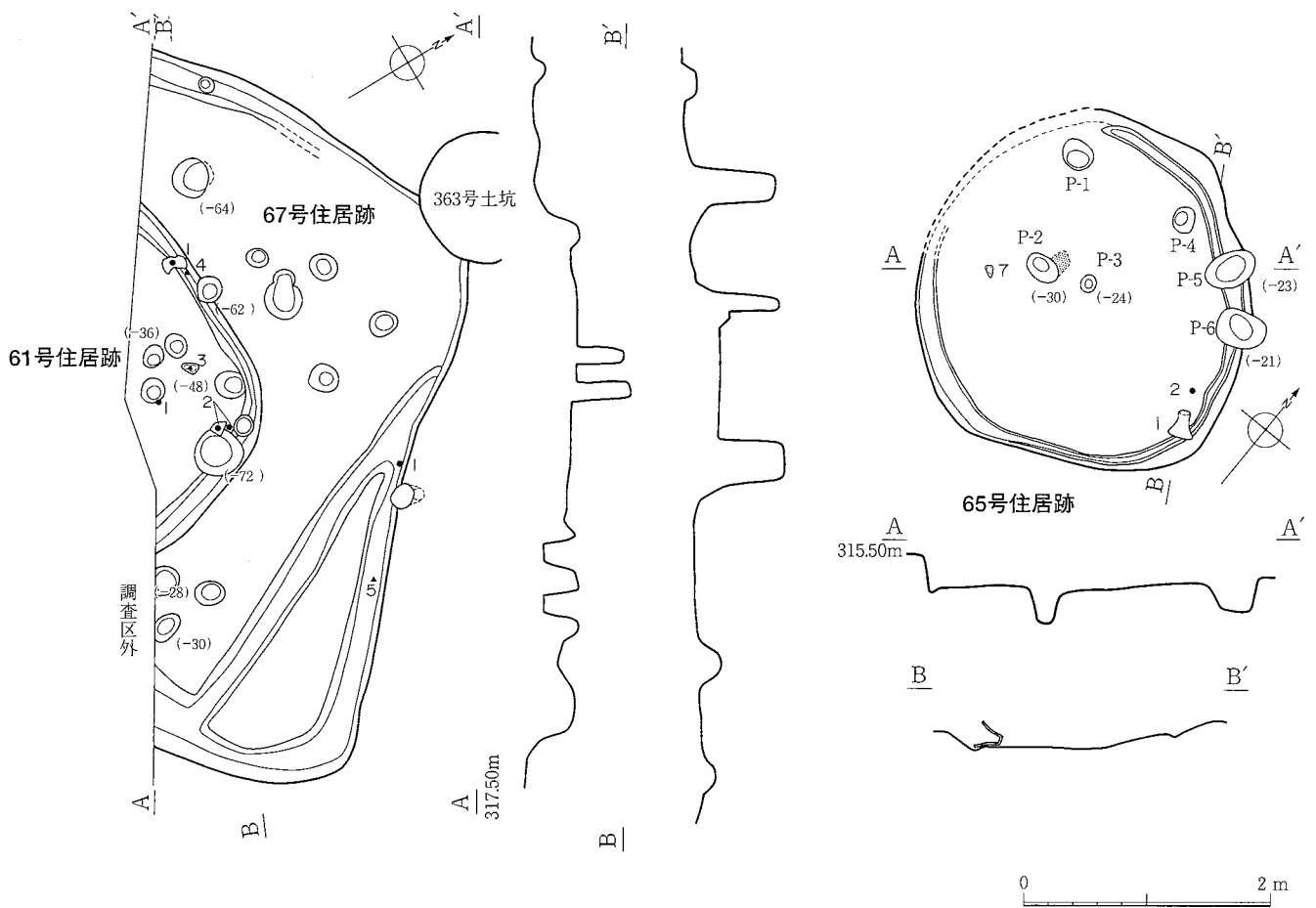


- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒をごく少量、炭化粒・
焼土粒微量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 1層に似るがローム粒・白色粒の混入や
や多い。粘性・しまりある。
- 3: 黒褐色土 色調1・2層よりやや明るい。ローム粒
・白色粒少量含む。粘性あまりなく、し
まりやや強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性・しまり
ある。
- 5: 暗褐色土 ロームブロックをやや多く、炭化粒微量
含む。粘床である。粘性やや強く、しまり
ある。
- 6: 黒褐色土 ローム粒少量含む。色調2層に似る。粘
性・しまり強い。

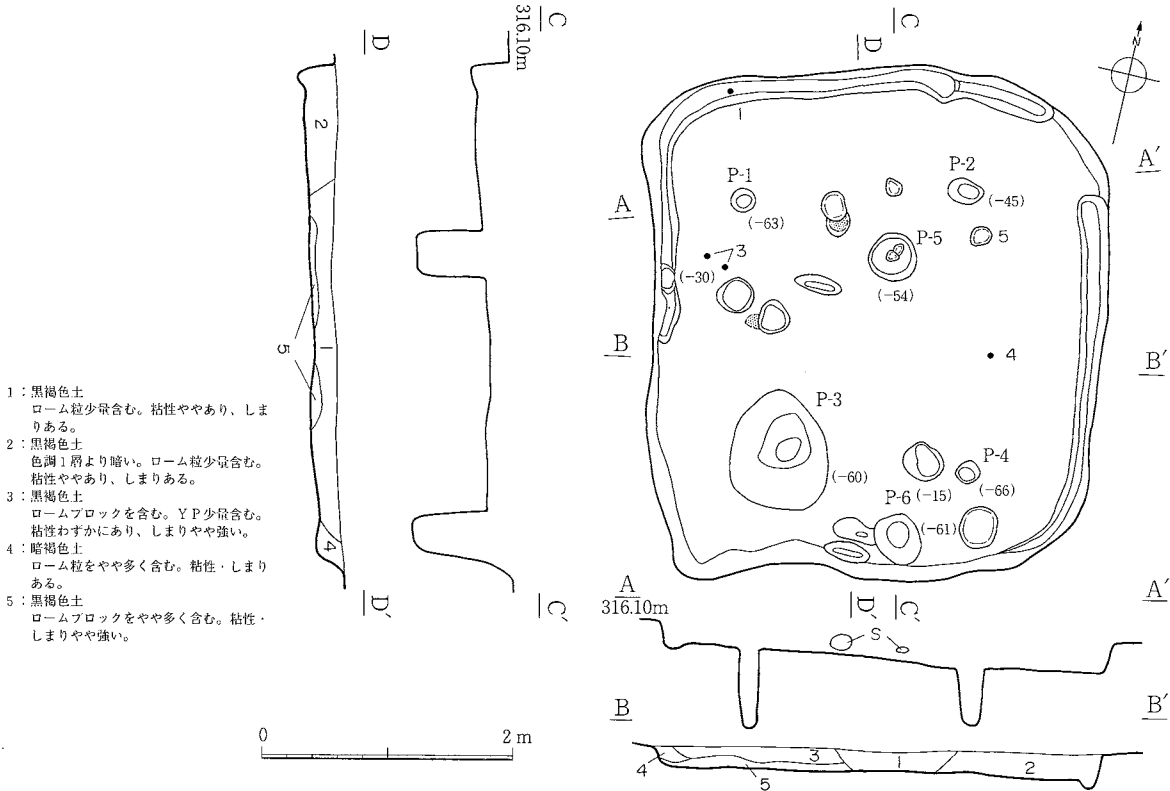
第175図 60号住居跡、376号・378号土坑



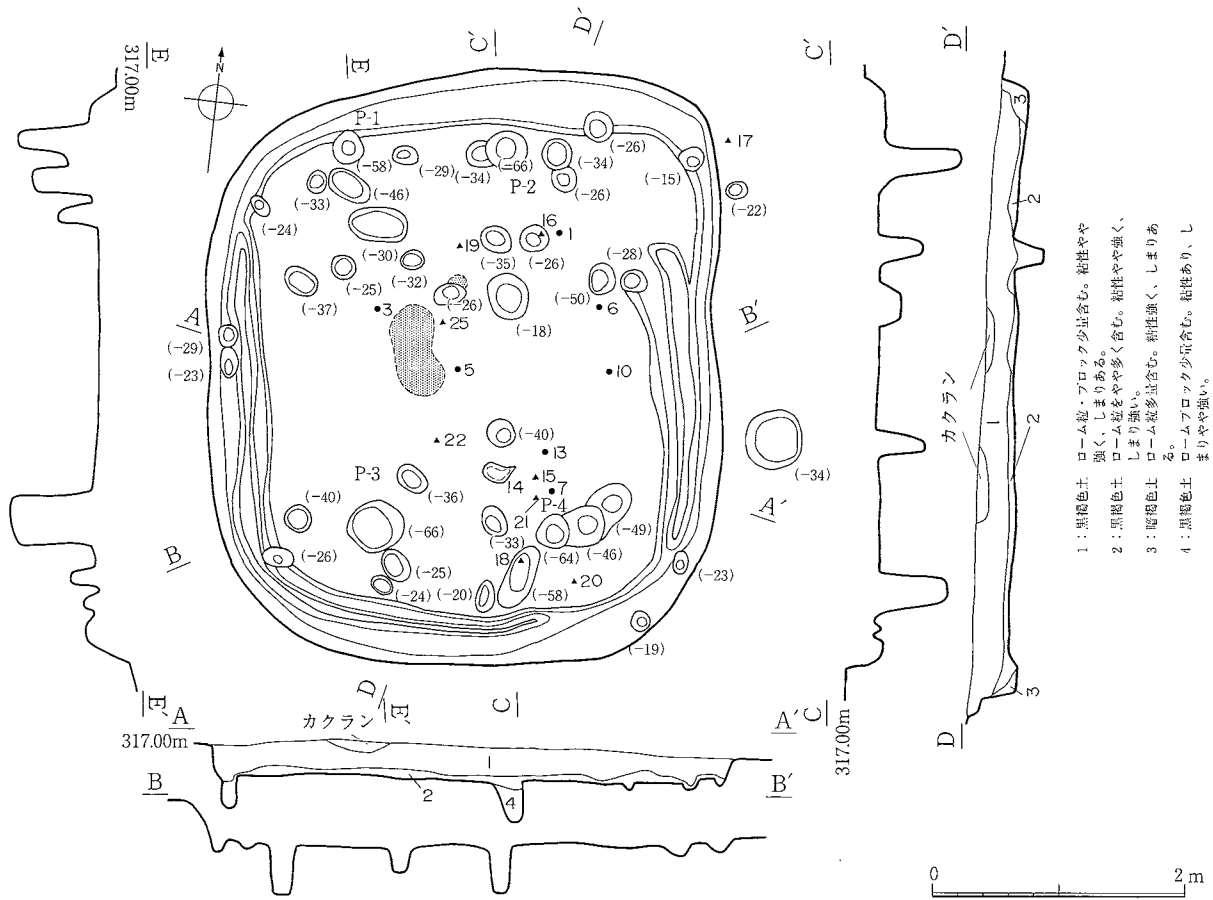
第176図 59号住居跡



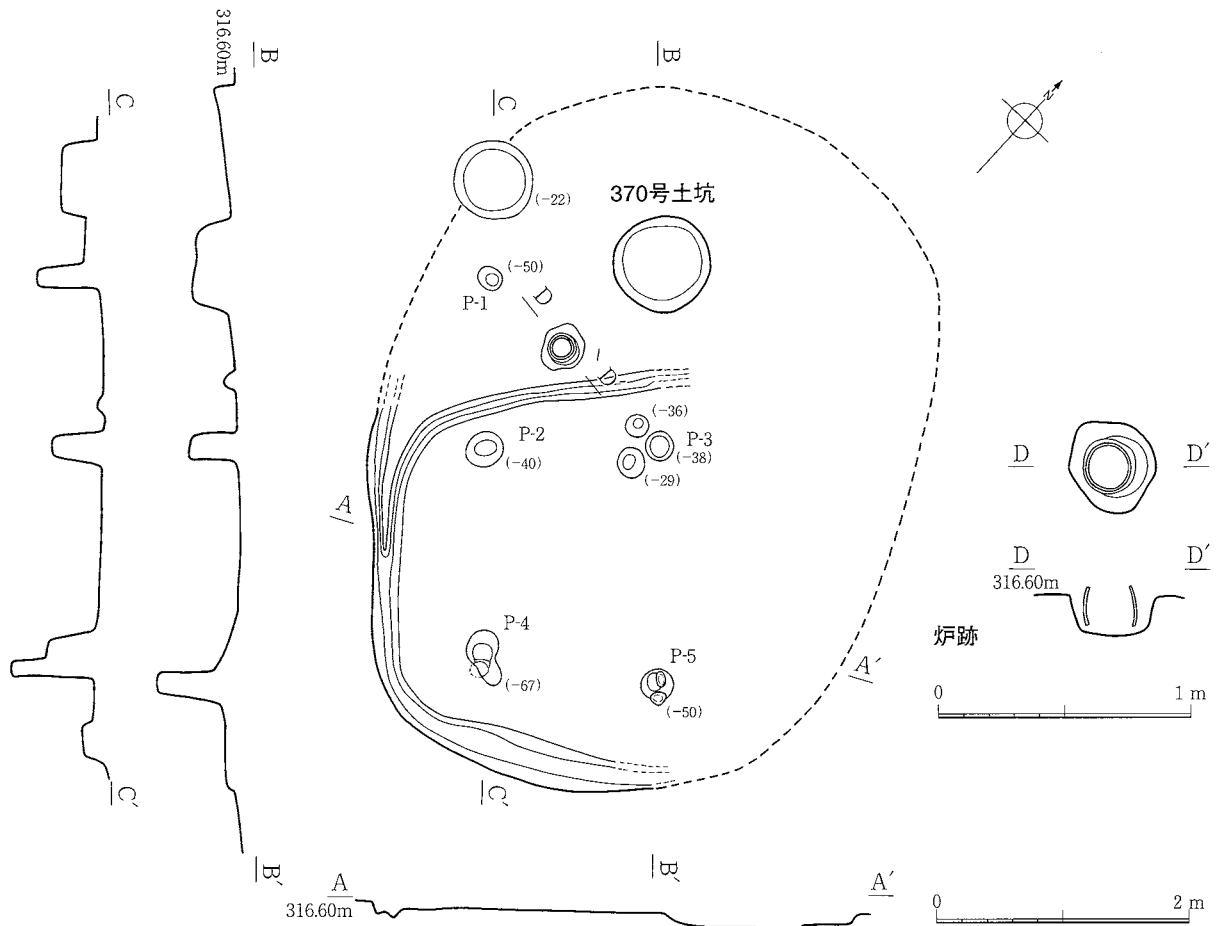
第177図 61号・67号・65号住居跡



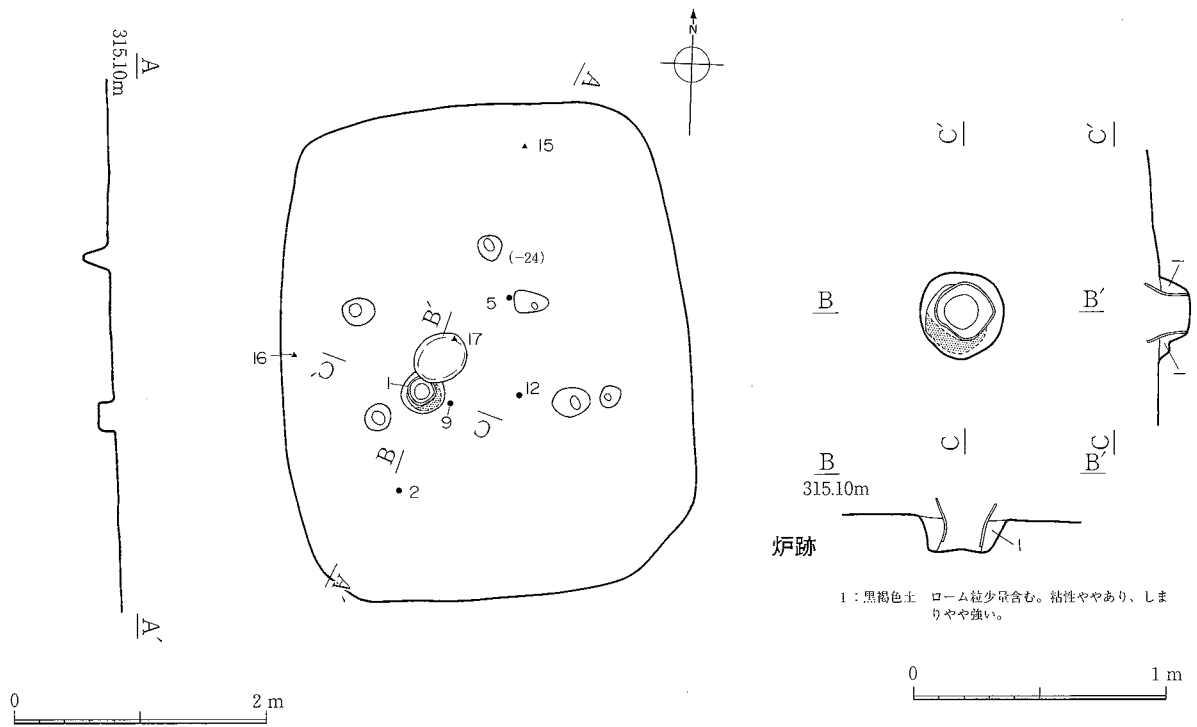
第178図 62号住居跡



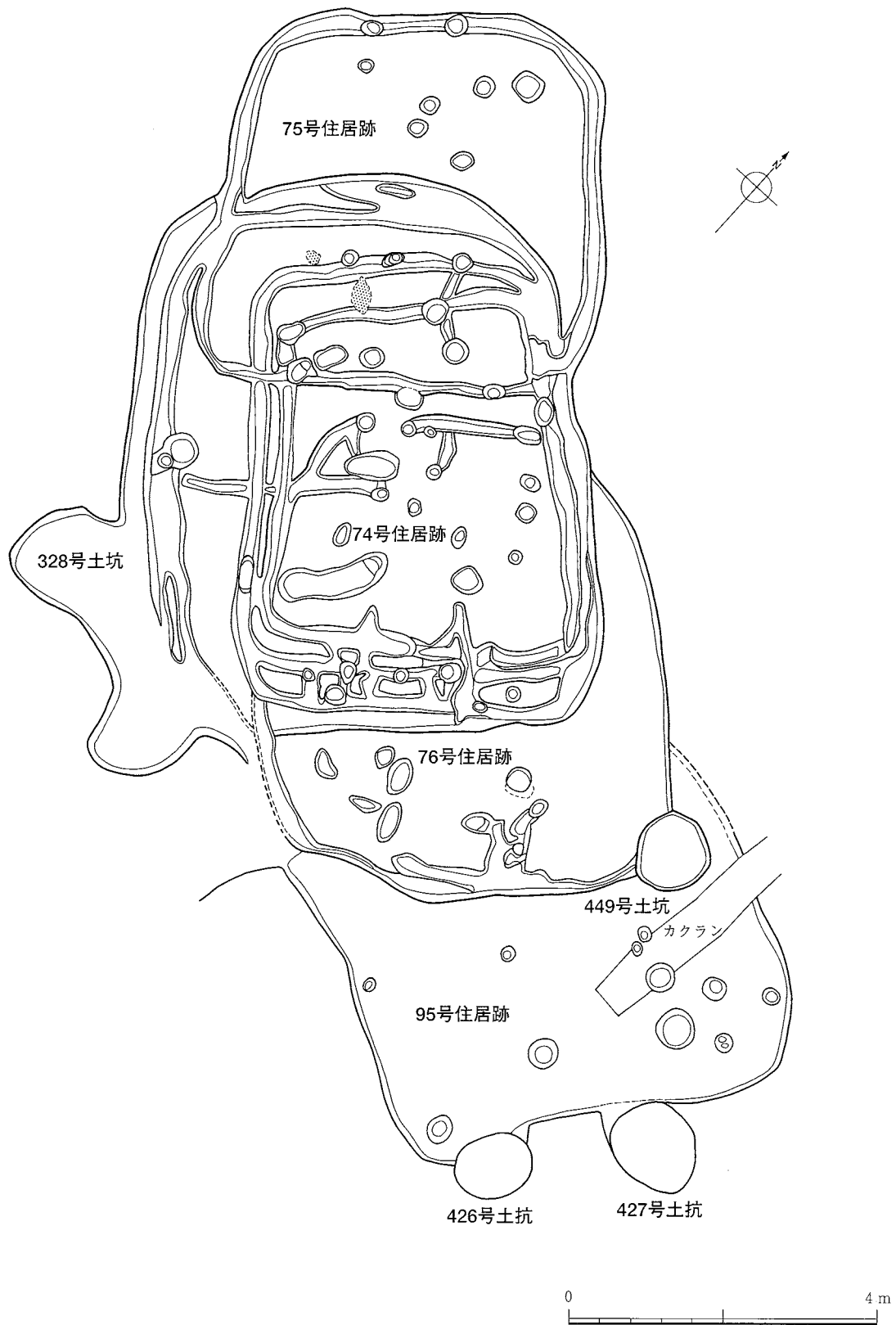
第179図 63号住居跡



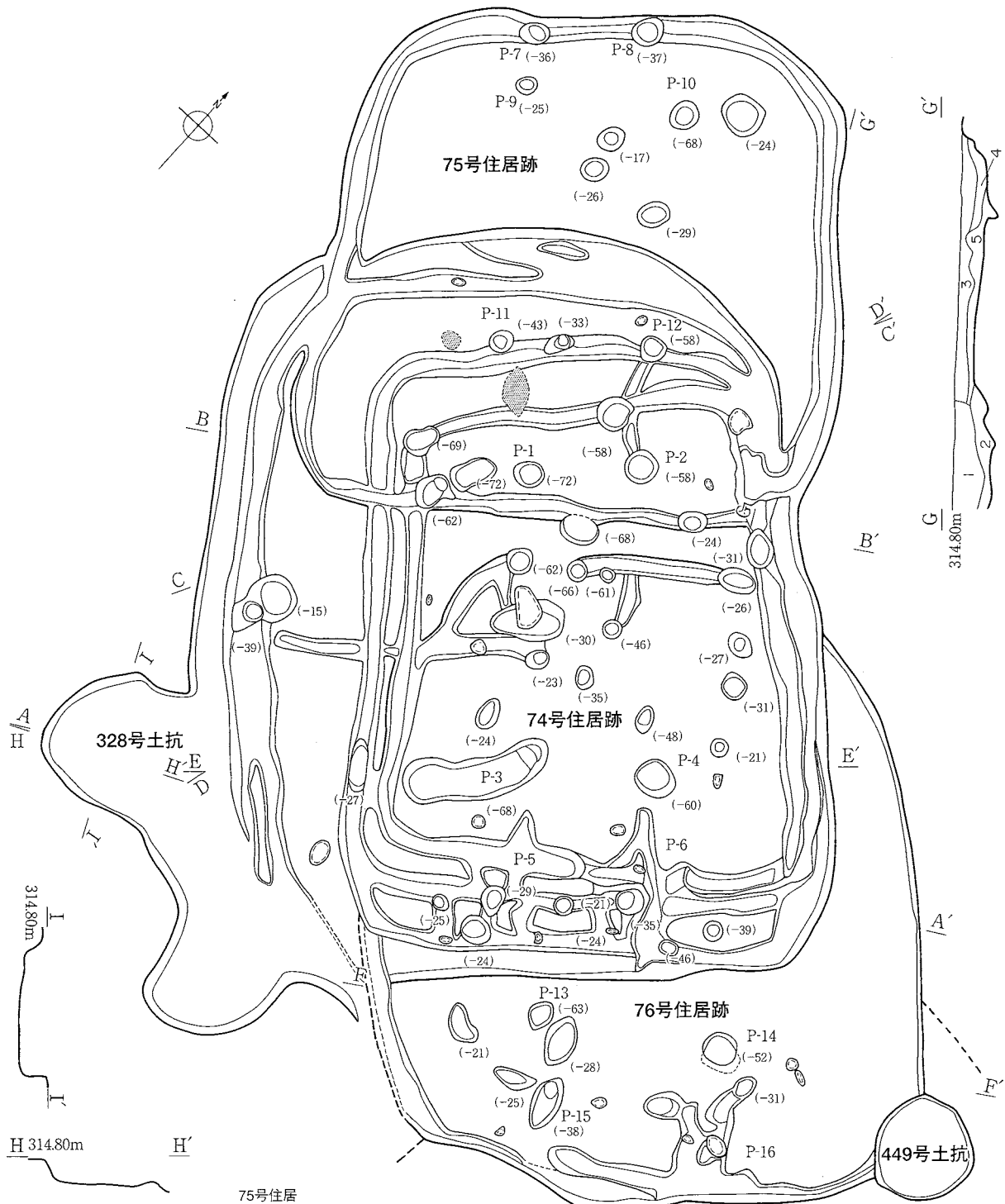
第180図 64号住居跡、370号土坑



第181図 66号住居跡

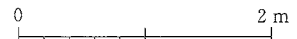


第182図 74号・75号・76号・95号住居跡、328号・426号・427号・449号土坑①

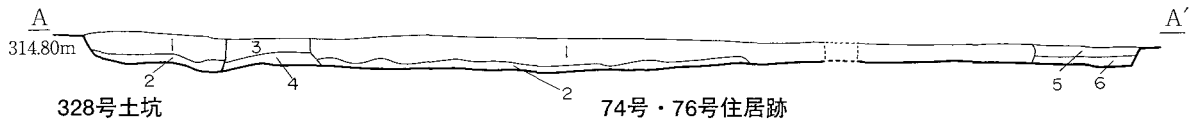


75号住居

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPを少量含む。しまりやや強く、粘性がある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPを微量含む。しまりやや強く、粘性がある。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒を少量、YPを微量含む。しまり強い。粘性あまりない。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒を少量、YPを微量含む。しまり強く、粘性がある。
- 5: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、YP・白色軽石粒を微量含む。しまり・粘性やや強い。



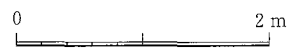
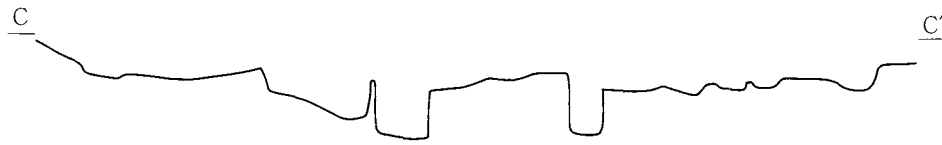
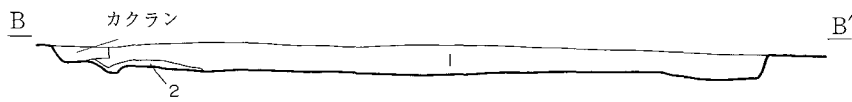
第183図 74号・75号・76号住居跡、328号・449号土坑②



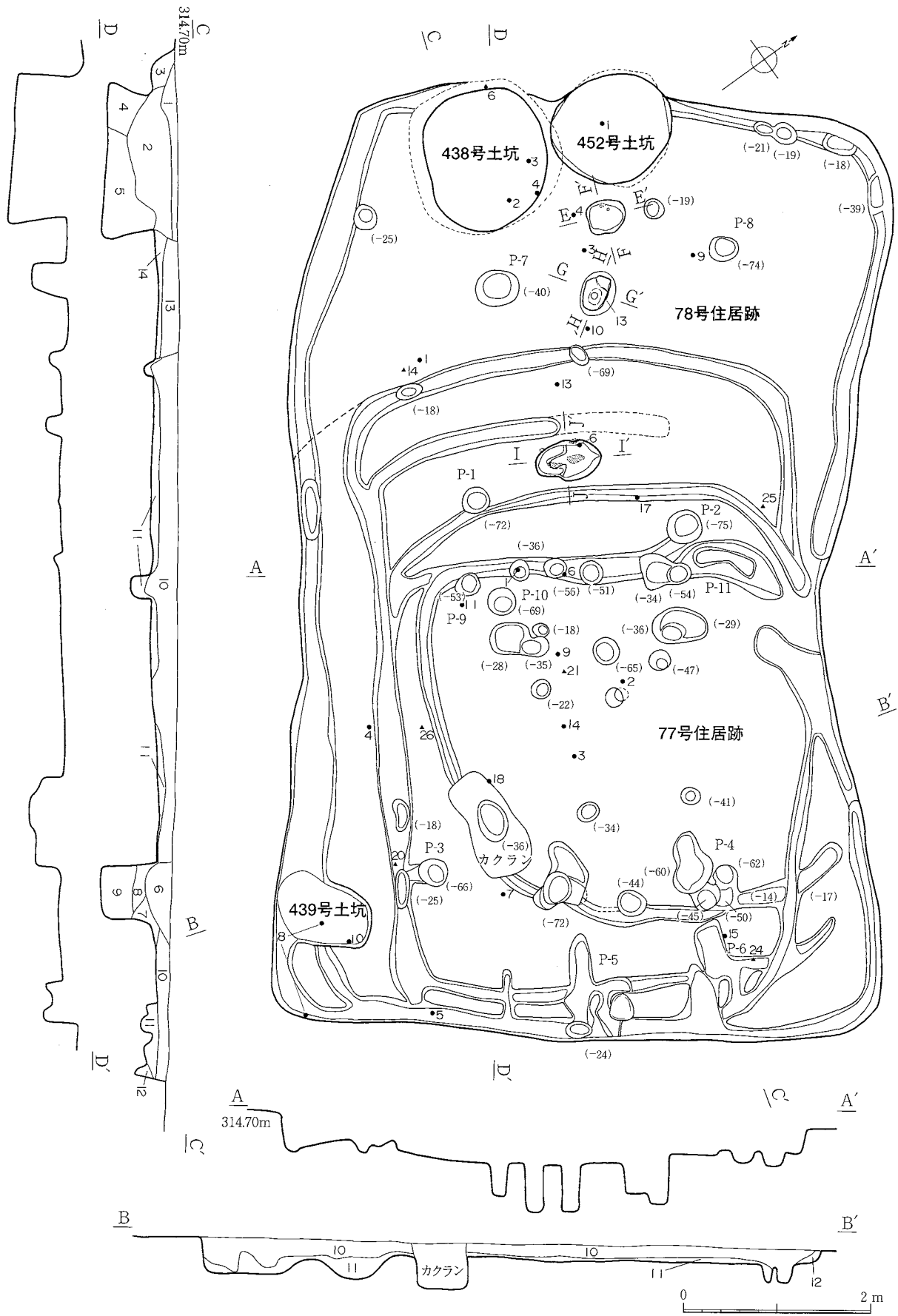
1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。粘性あり、しまりやや強い。

1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPを少量含む。しまりやや強く、粘性がある。
 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPを微量含む。しまりやや強く、粘性がある。
 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック(Φ~20mm)・白色軽石粒を少量含む。しまりやや強い。

4: 暗褐色土 ローム粒・ブロック(Φ~40mm)をやや多く含む。しまり強く、粘性がある。
 5: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒を微量含む。しまり強い。粘性あまりない。
 6: 黒褐色土 ローム粒を少量、YPを微量含む。しまり強く、粘性ややある。



第184図 74号・75号・76号住居跡、328号土坑③

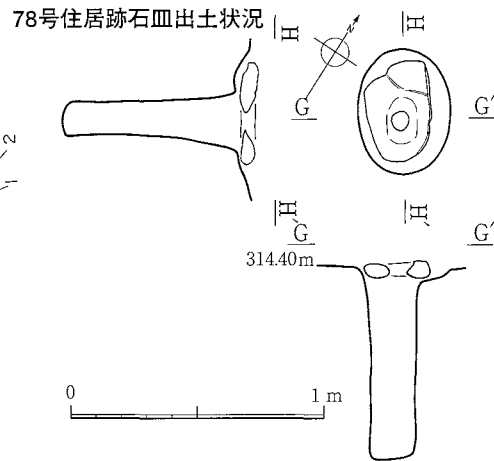
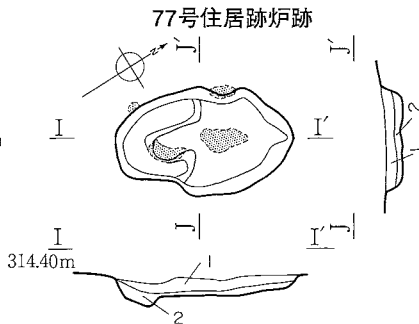
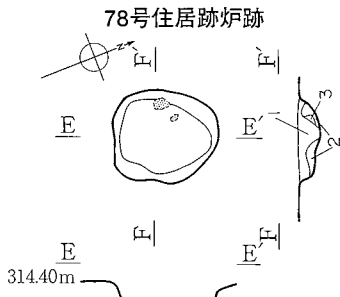


第185図 77号・78号住居跡、438号・439号・452号土坑①

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 色調2層に似る。2層よりやや多くYPを含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・ロームブロック微量、YP少量含む。粘性あり、しまり強い。

- 6: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 7: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 8: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、ロームブロック少量、YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 9: 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。粘性やや強く、しまり強い。

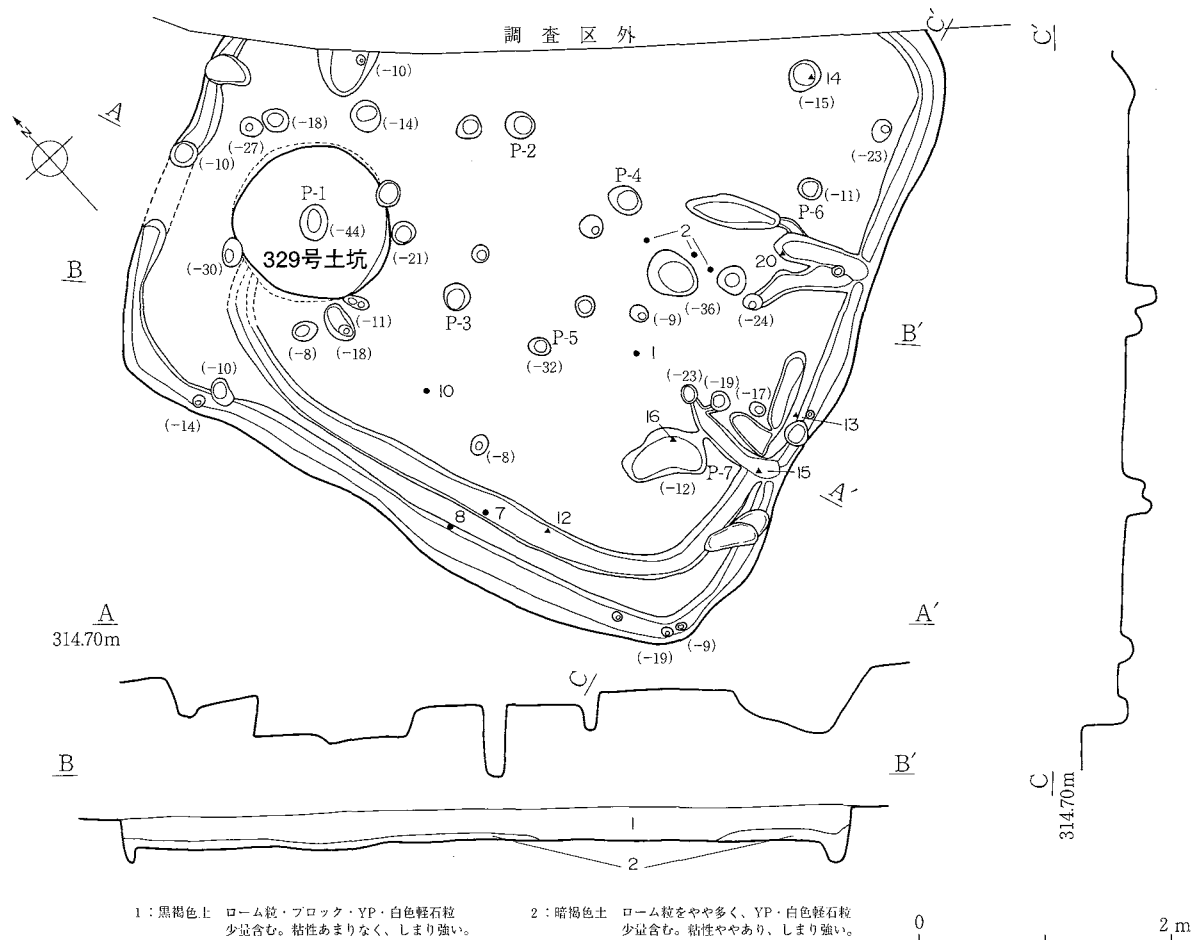
- 10: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 11: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 12: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 13: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 14: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、YP微量含む。粘性あり、しまりやや強い。



- 1: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒・焼土少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・焼土少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 3: 赤褐色土 焼土ブロック

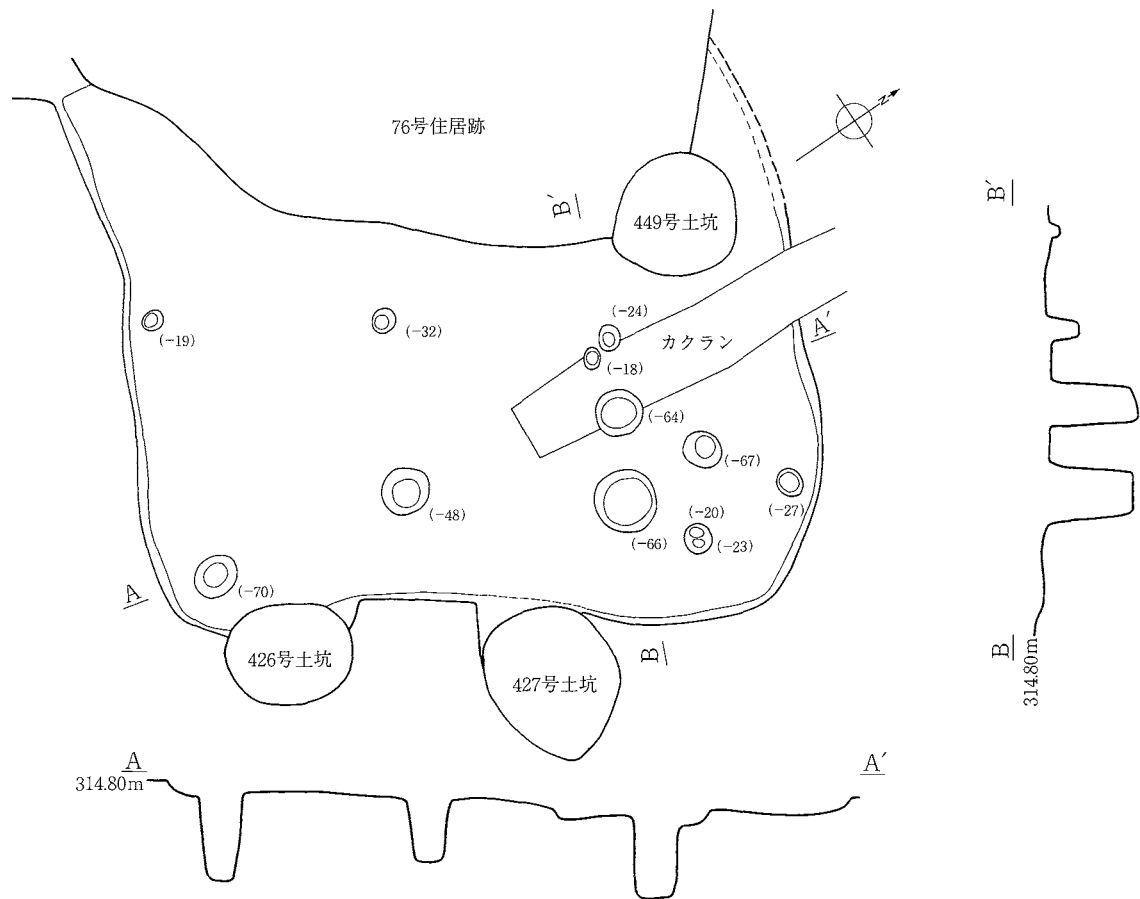
- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・焼土・炭化材少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、焼土少量含む。粘性あり、しまりやや強い。

第186図 77号・78号住居跡②

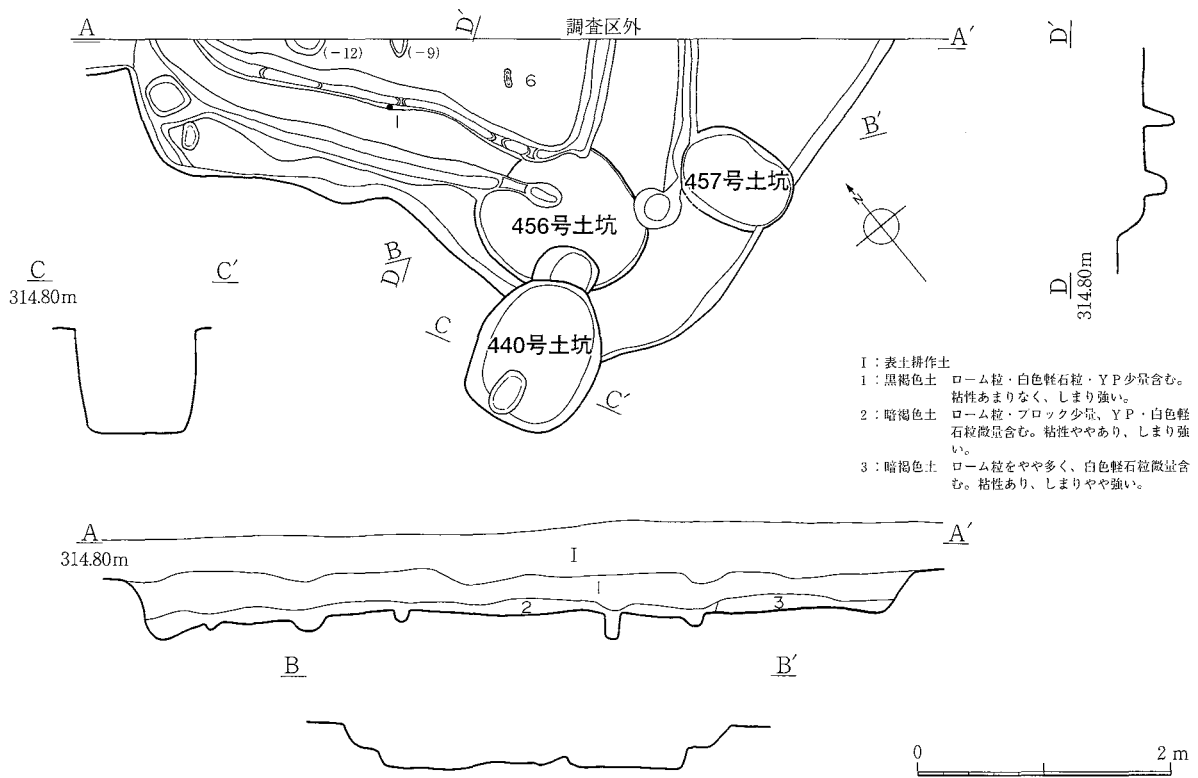


- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、YP・白色軽石粒少量含む。粘性ややあり、しまり強い。

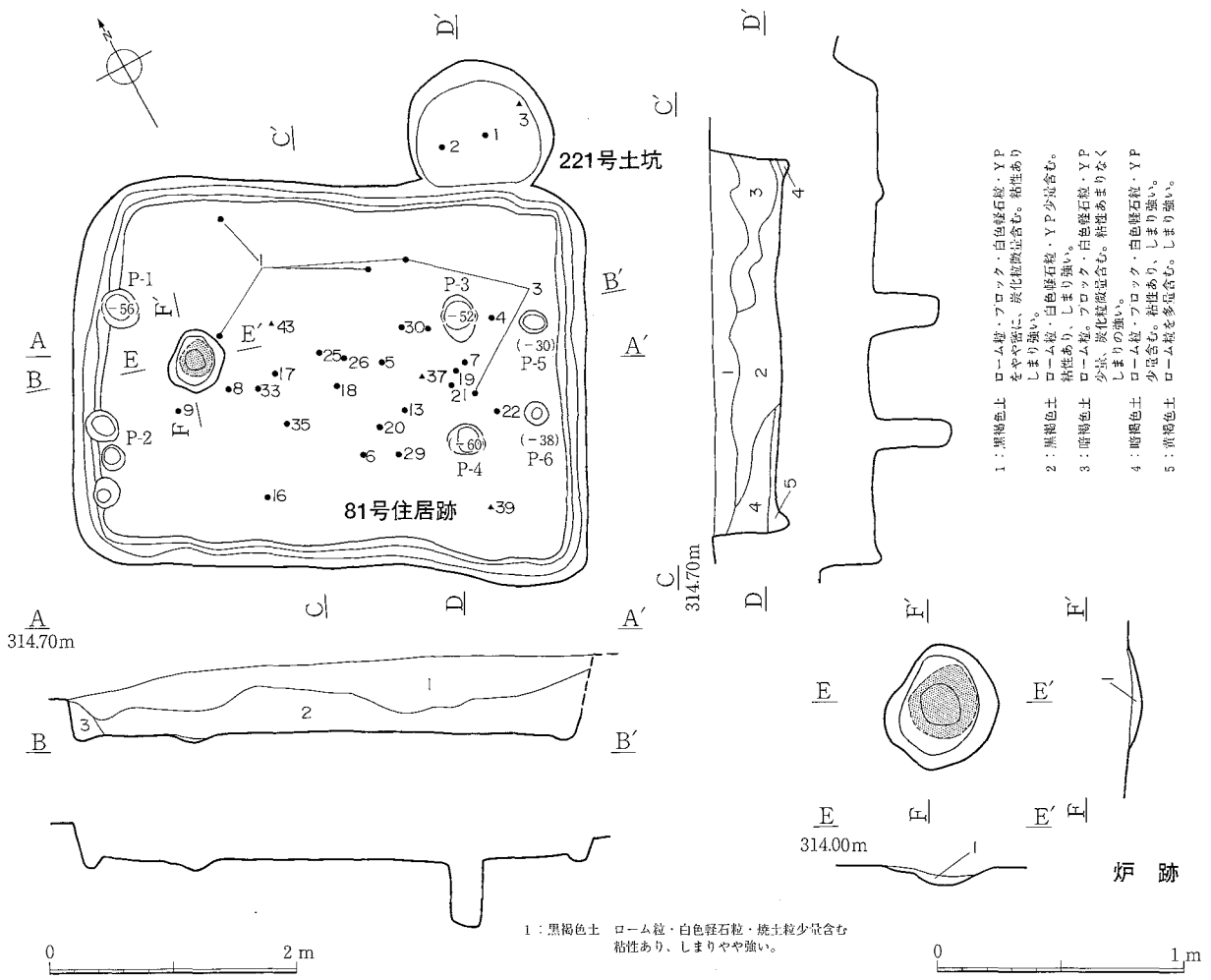
第187図 80号住居跡、329号土坑



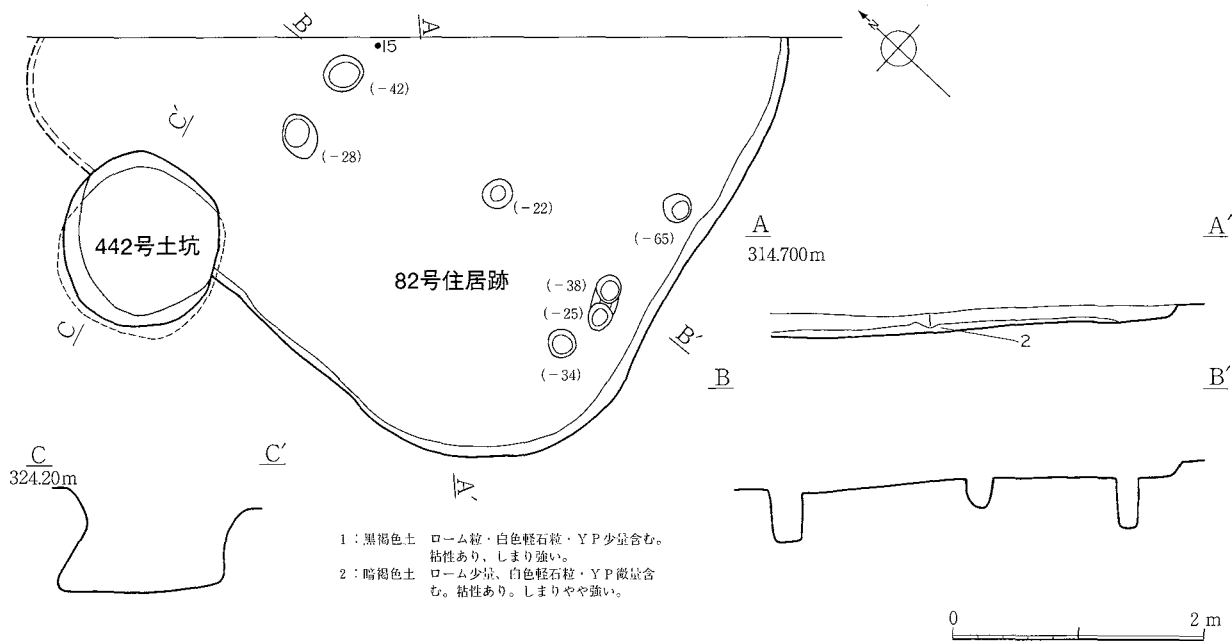
第188図 95号住居跡



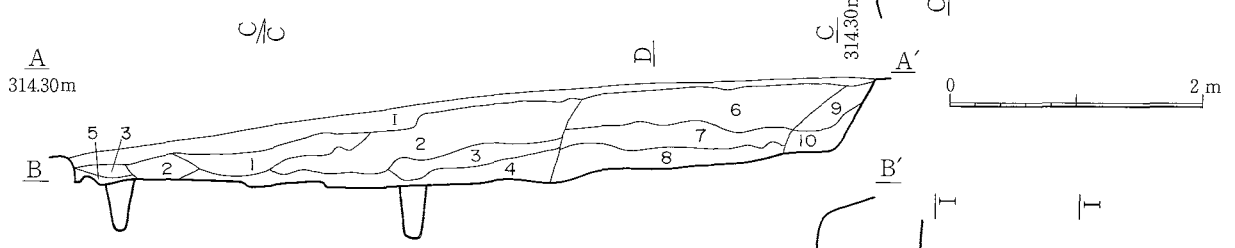
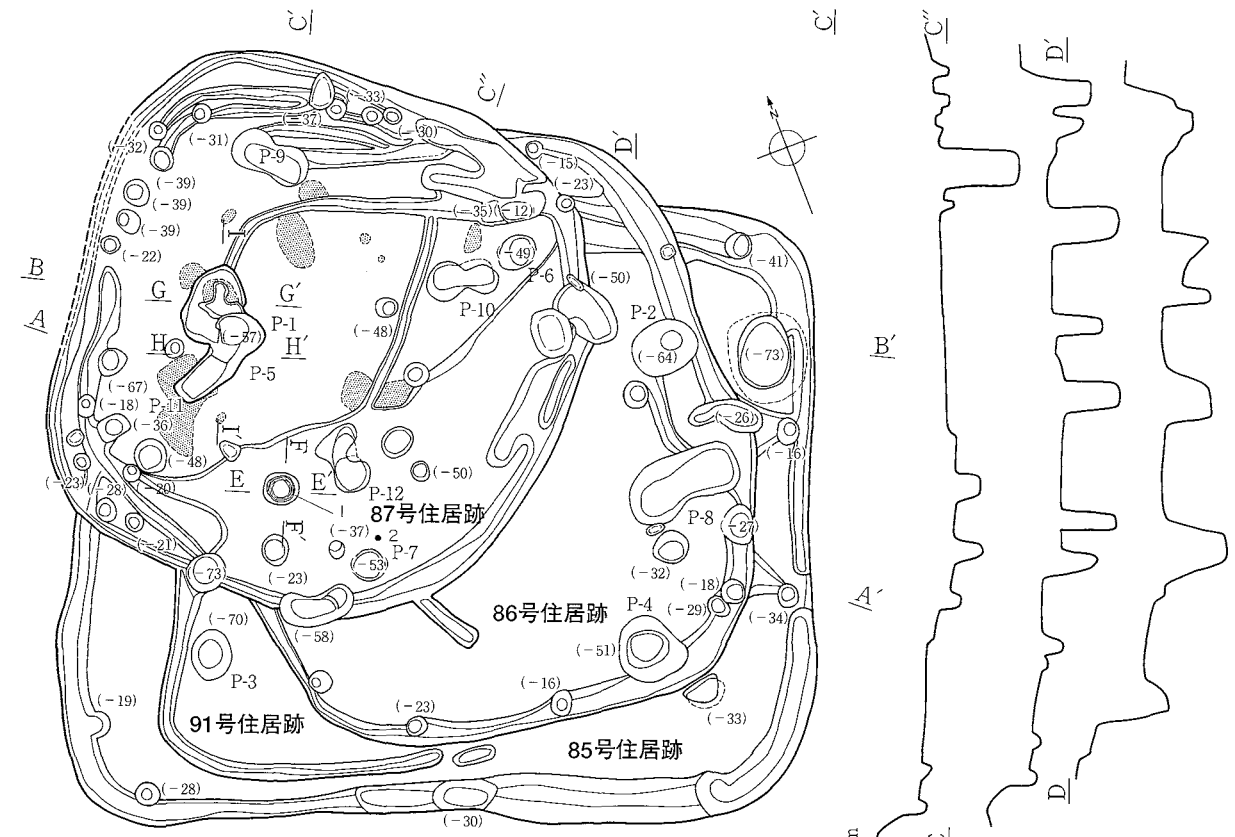
第189図 79号住居跡、440号・456号・457号土坑



第190図 81号住居跡、221号土坑

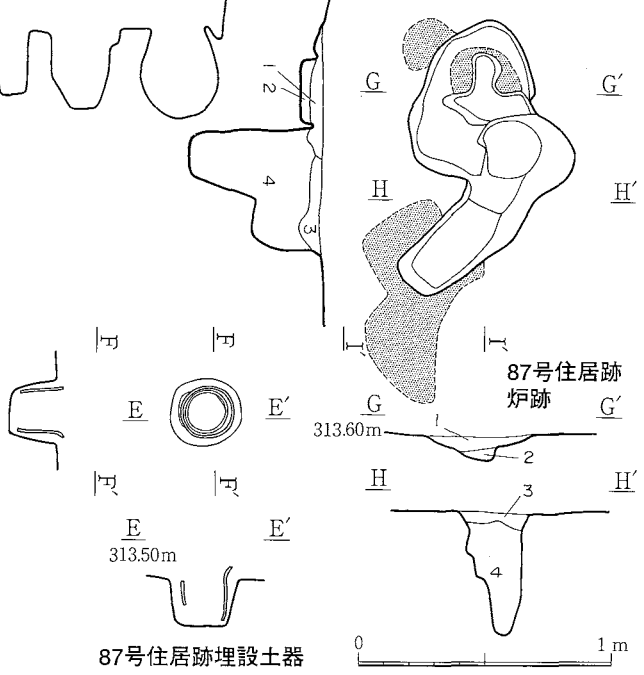


第191図 82号住居跡、442号土坑

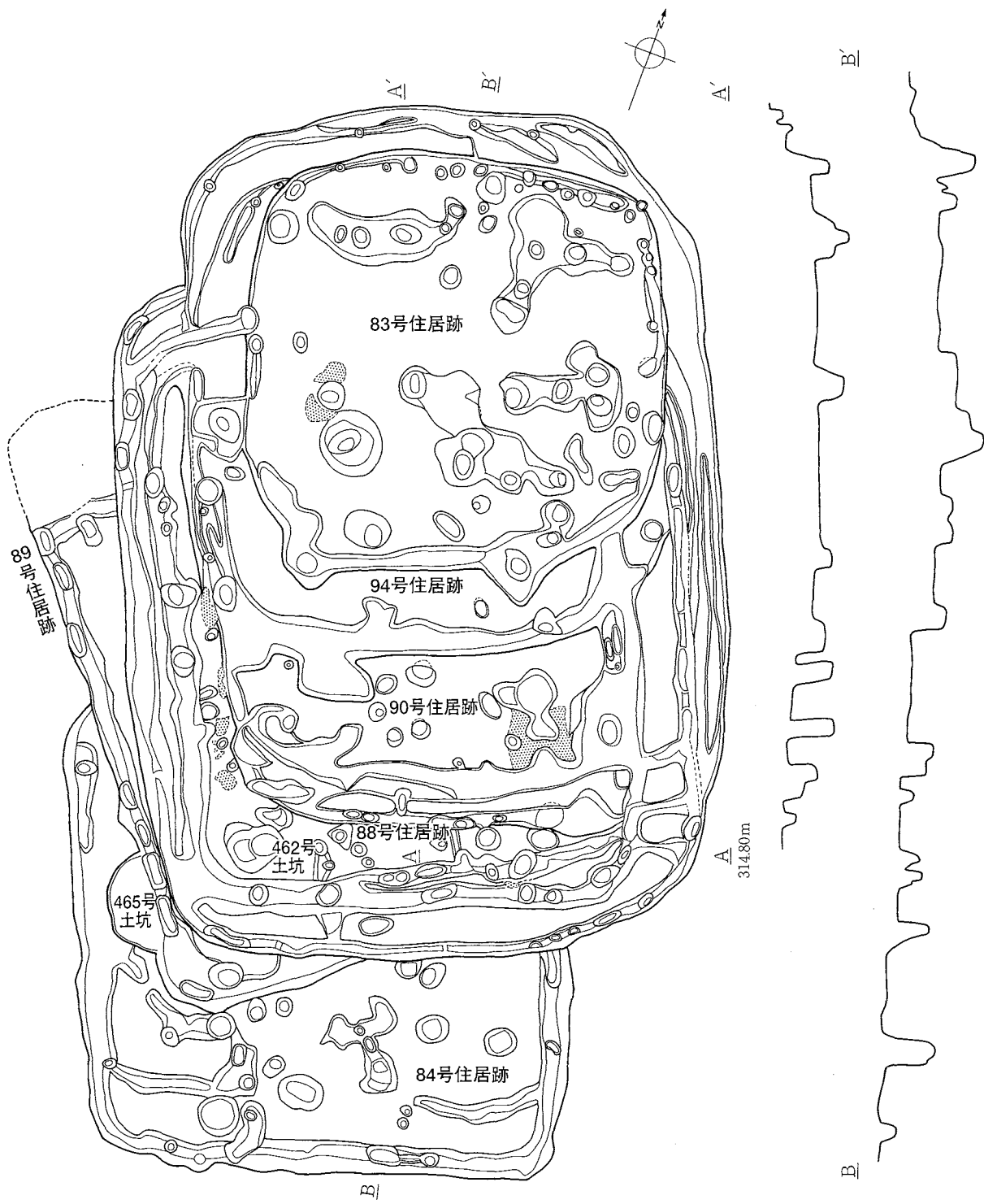


- 1: 黒褐色土
浅間A軽石を含む表土(耕作土)。
- 1: 暗褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒・砂粒を密に、炭化材を少量含む。固くよくしまっている。粘性あまりない。
- 3: 暗褐色土
ローム粒・ブロック・YP少量、白色軽石粒・砂粒・炭化材微量含む。固くよくしまっている。粘性あまりない。
- 4: 黒褐色土
ローム粒・ブロック・YP少量、炭化材微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 暗褐色土
ローム粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 6: 黒褐色土
ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒やや多く含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 7: 黒褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 8: 黒褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒を2層よりやや少なく、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 9: 黒褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 10: 黒褐色土
ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒少量含む。粘性ややあり、しまり強い。

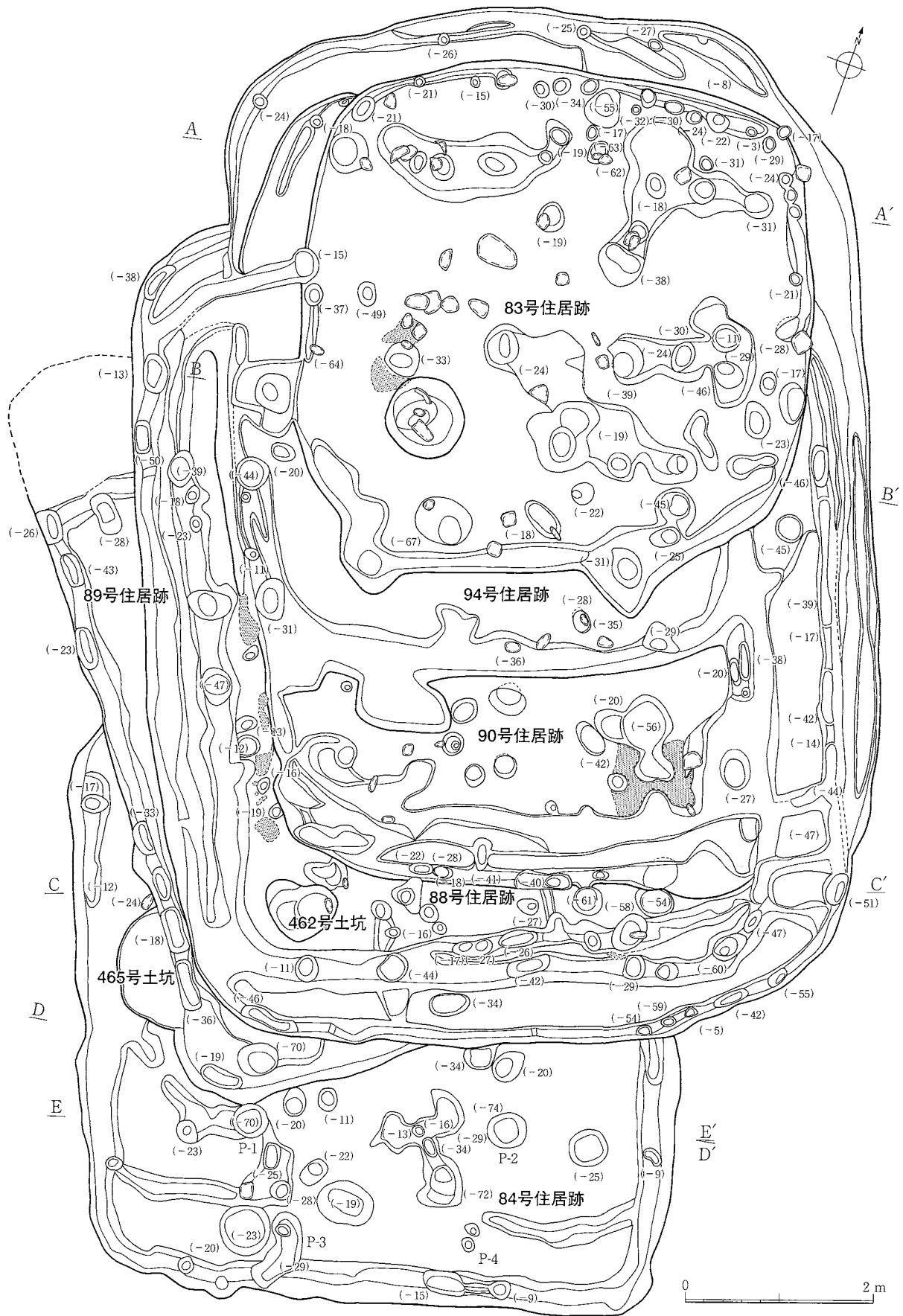
- 87号住居跡炉跡**
- 1: 暗褐色土
ローム粒・白色軽石粒少量、焼上・炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
 - 2: 暗褐色土
ローム粒・白色軽石粒・焼上・炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
 - 3: 黒褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
 - 4: 黒褐色土
ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。



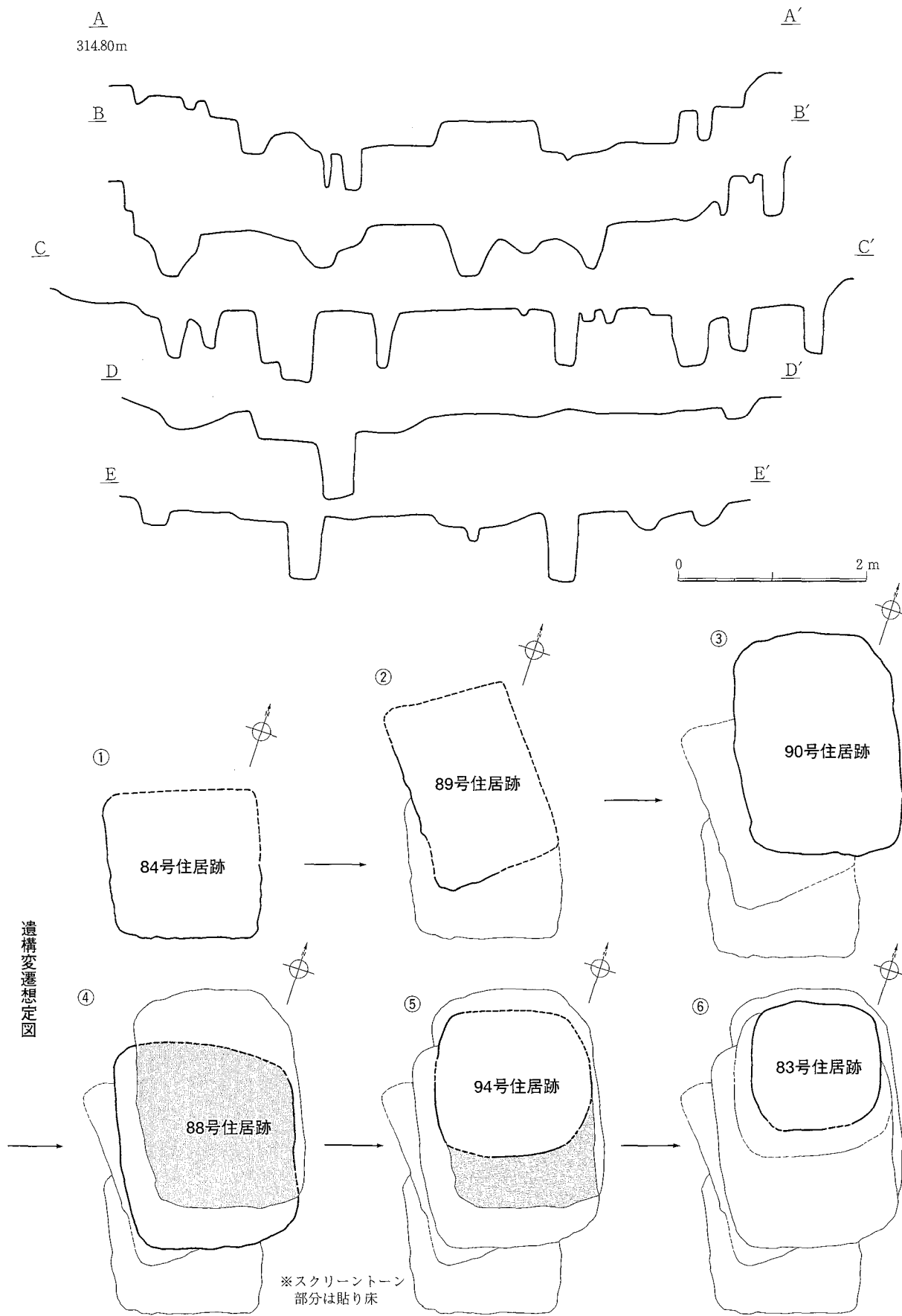
第192図 85号・86号・87号・91号住居跡



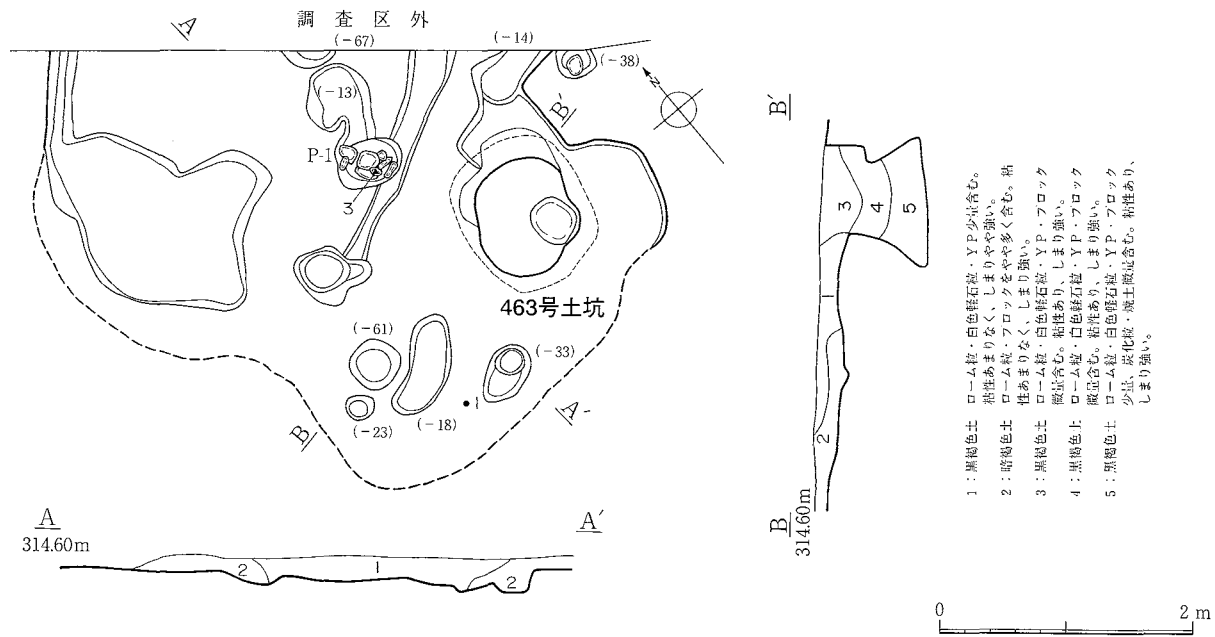
第193图 83号·84号·88号·89号·90号·94号住居跡、462号·465号土坑①



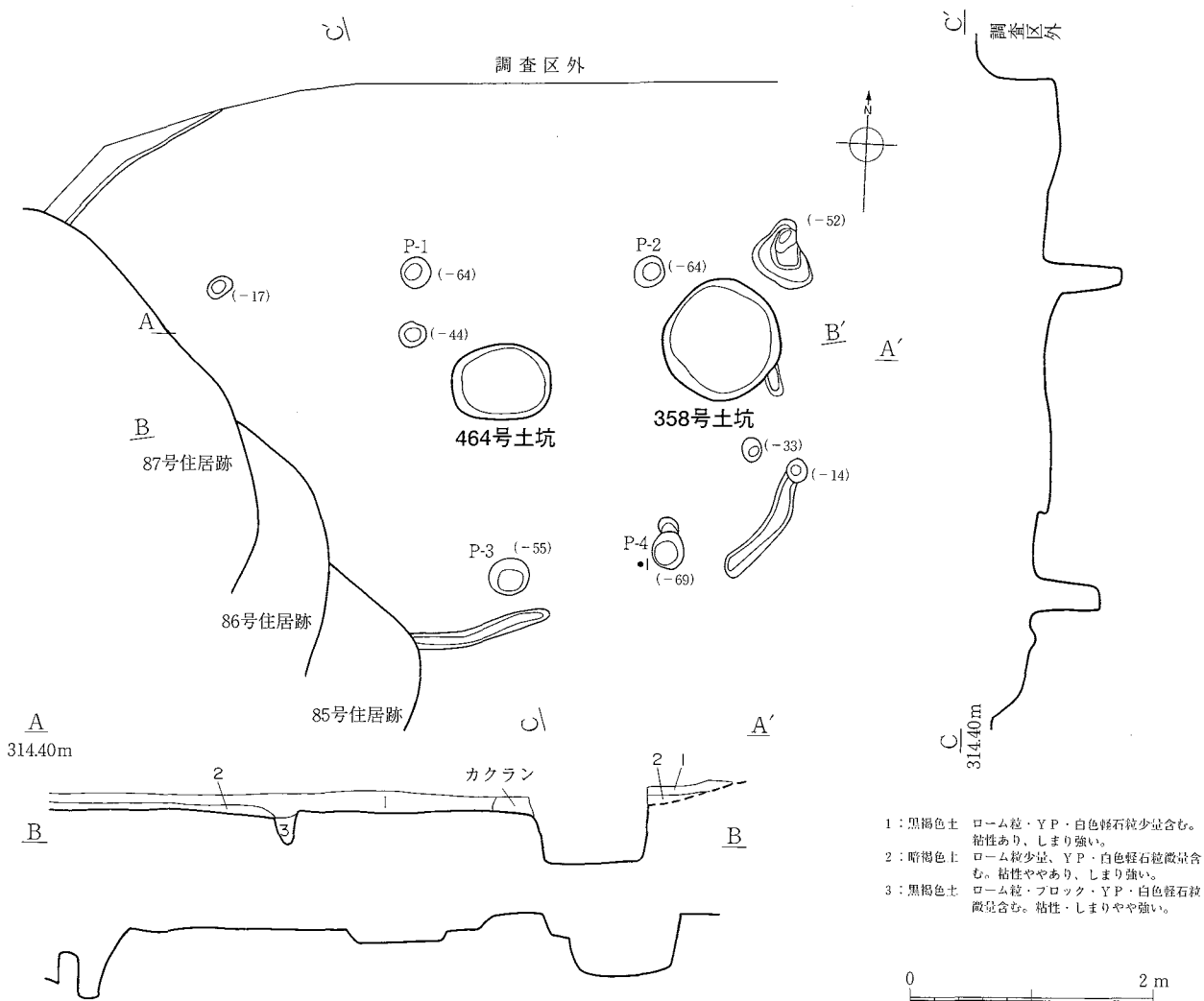
第194图 83号·84号·88号·89号·90号·94号住居迹、462号·465号土坑②



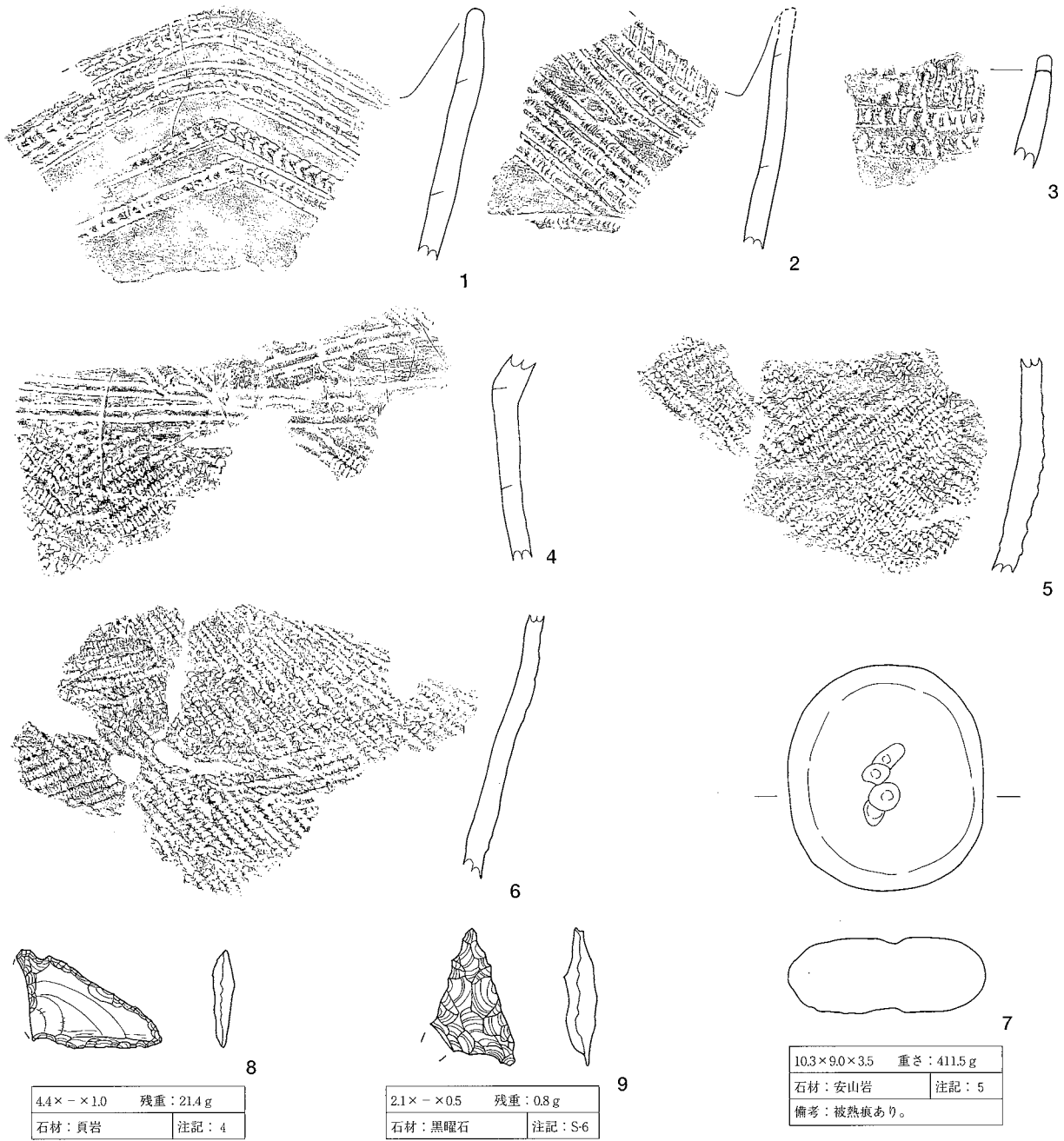
第195図 83号・84号・88号・89号・90号・94号住居跡、462号・465号土坑③



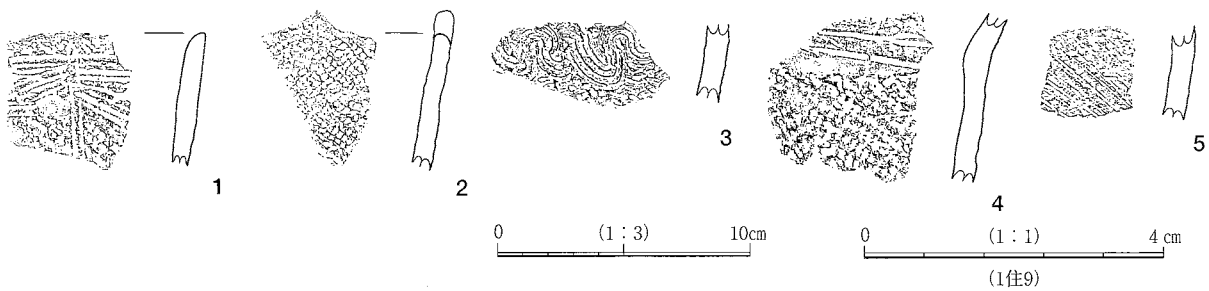
第196図 92号住居跡、463号土坑



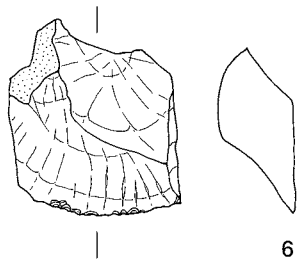
第197図 93号住居跡、358号・464号土坑



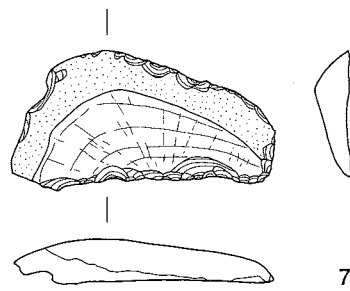
第198図 1号住居跡出土遺物



第199図 2号住居跡出土遺物①

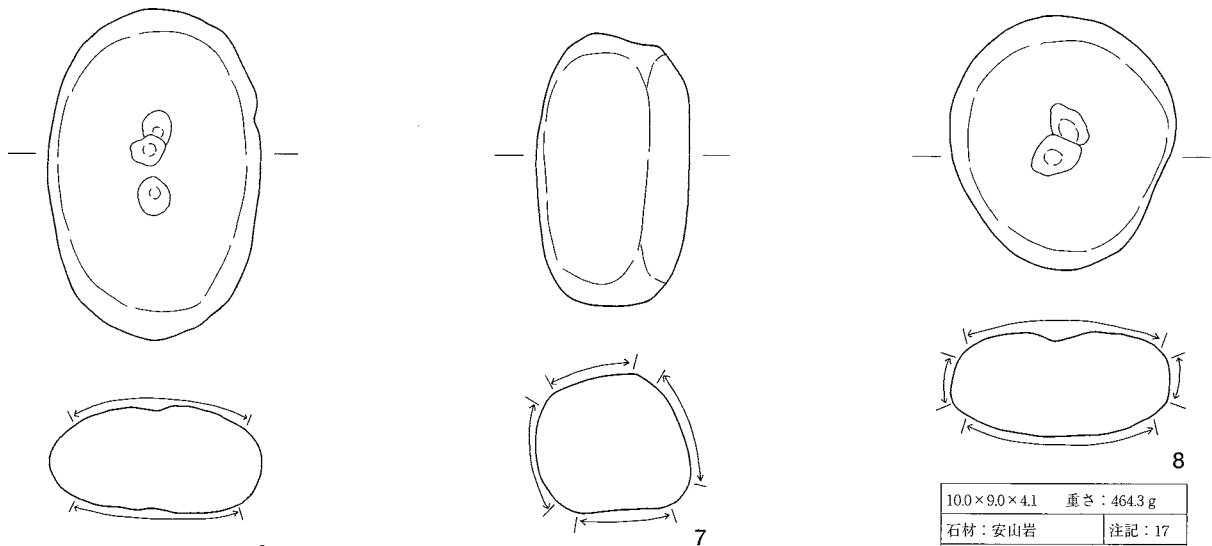
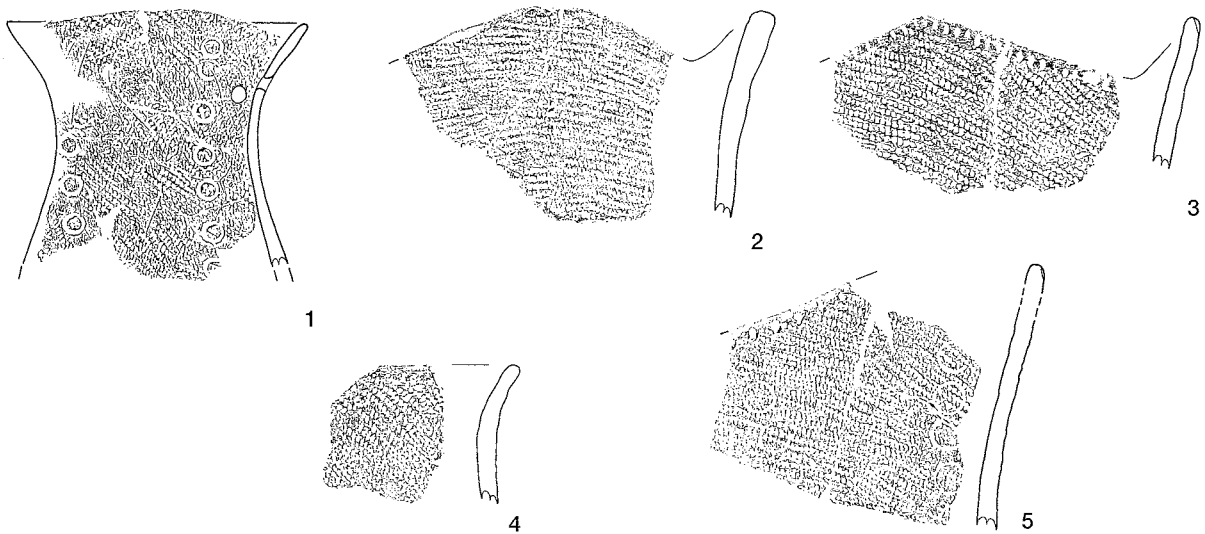


7.8×6.8×3.0 重さ：140.9 g
 石材：黒色安山岩 注記：-



5.5×10.4×1.8 重さ：81.8 g
 石材：硬砂岩 注記：-

第200図 2号住居跡出土遺物②



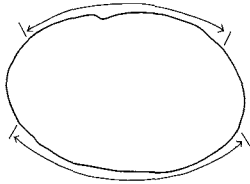
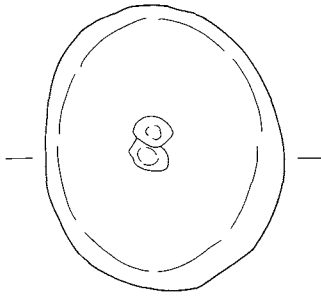
13.0×8.3×4.2 重さ：662.4 g
 石材：安山岩 注記：-
 備考：凹石→磨石。

10.7×6.1×5.5 重さ：627.0 g
 石材：安山岩 注記：3
 備考：4広面を使用。

10.0×9.0×4.1 重さ：464.3 g
 石材：安山岩 注記：17
 備考：凹石・磨石兼用。

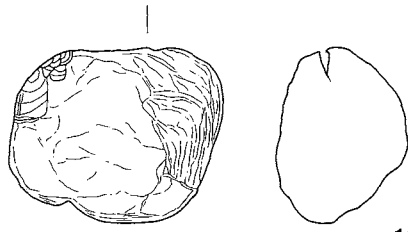
0 (1:3) 10cm

第201図 3号住居跡出土遺物①



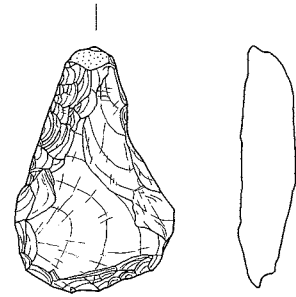
112×94×6.2	重さ：888.4 g
石材：安山岩	注記：5
備考：磨石→凹石。被熱痕あり。	

9



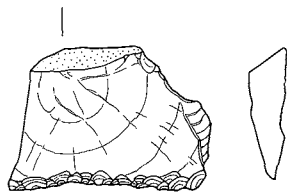
7.0×8.5×5.2	重さ：337.3 g
石材：チャート原石	注記：-

10



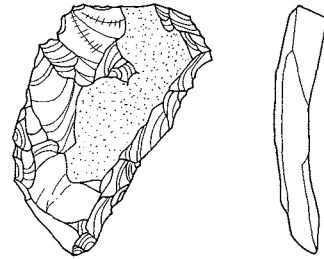
9.7×6.3×2.3	重さ：123.0 g
石材：頁岩	注記：-

11



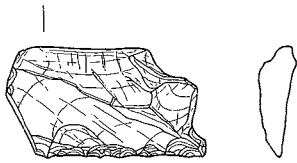
5.6×8.0×1.5	重さ：55.2 g
石材：硬砂岩	注記：22

12



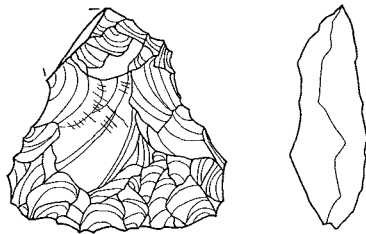
3.2×2.7×0.7	重さ：4.0 g
石材：黒曜石	注記：-

14



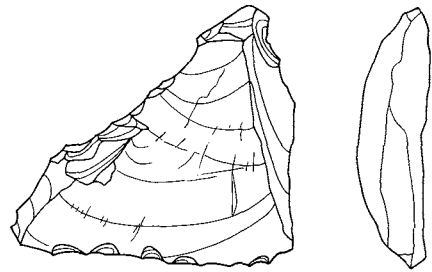
4.3×7.8×1.5	重さ：60.7 g
石材：頁岩	注記：-

13



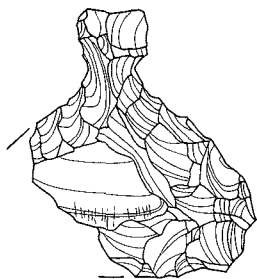
3.0×2.9×1.0	残重：7.1 g
石材：チャート	注記：-

15



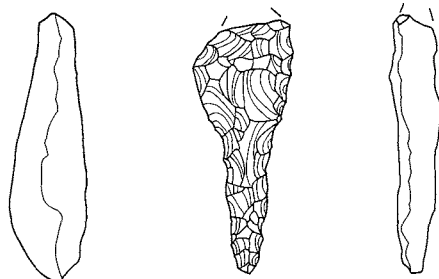
3.4×3.7×1.0	重さ：8.2 g
石材：チャート	注記：-

16



3.5×-×1.0	残重：8.5 g
石材：チャート	注記：-

17



-×1.4×0.7	残重：2.2 g
石材：鉄石英	注記：-

18

0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4cm

(14~18)

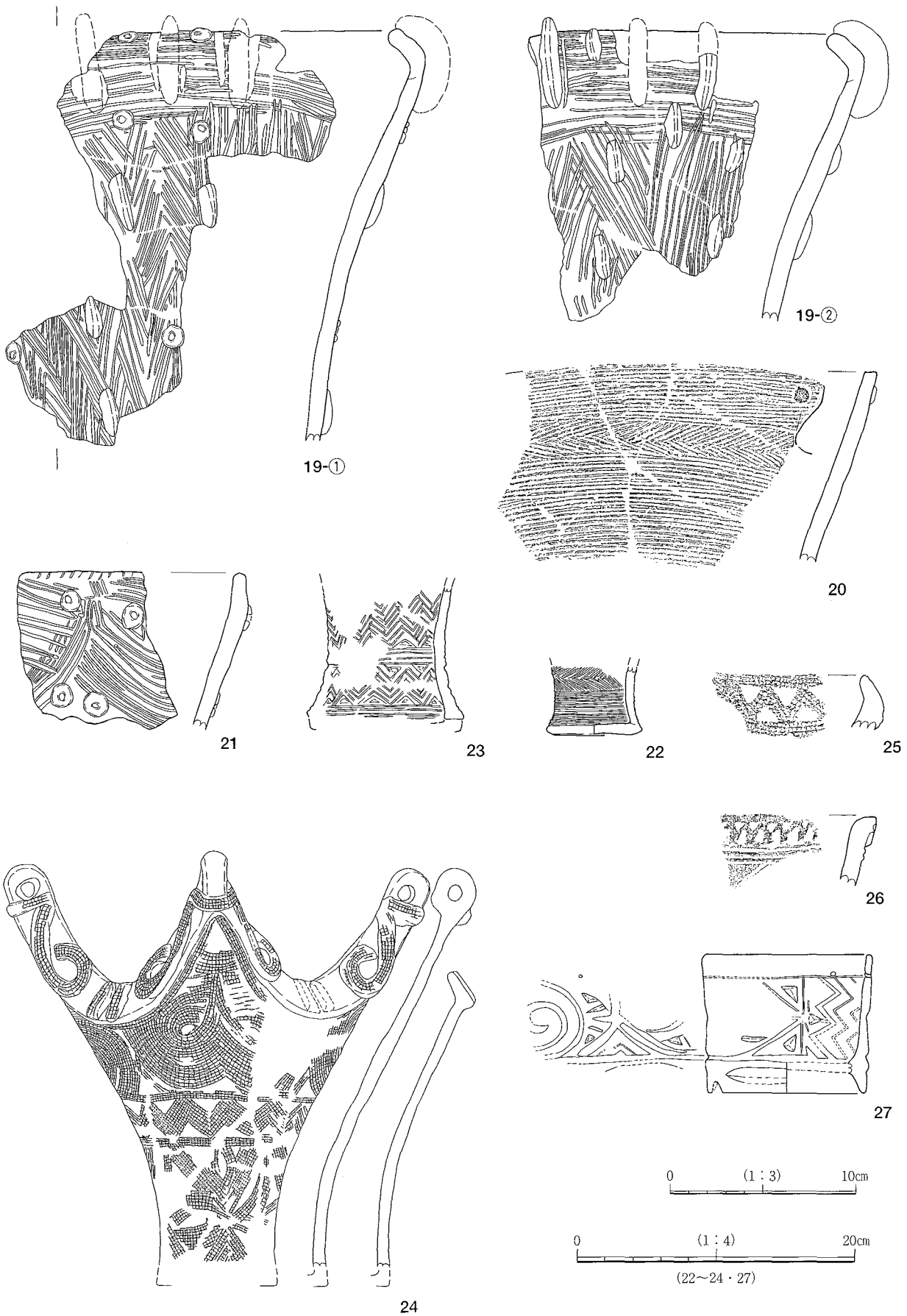
第202図 3号住居跡出土遺物②



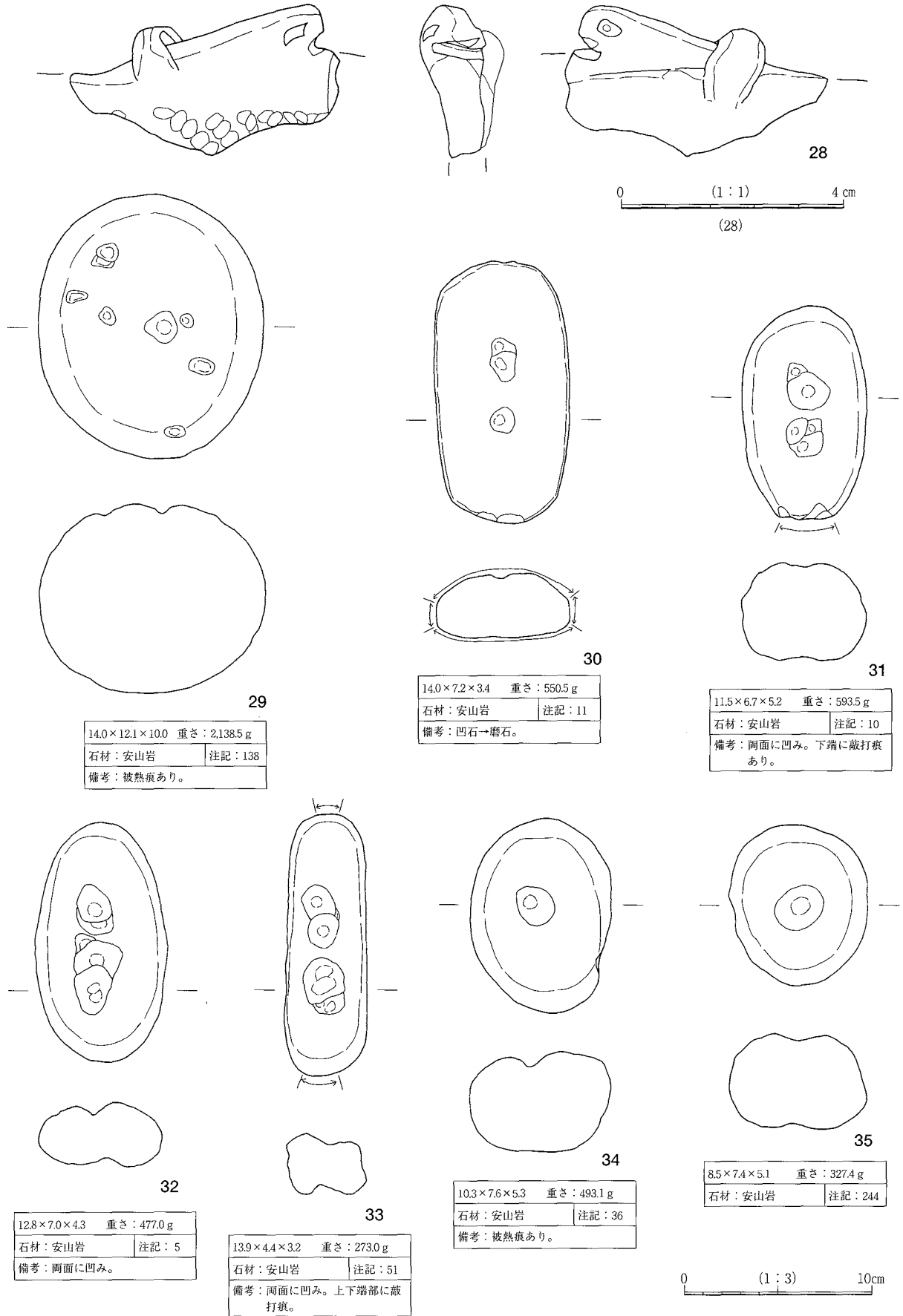
第203图 4号住居跡出土遺物①



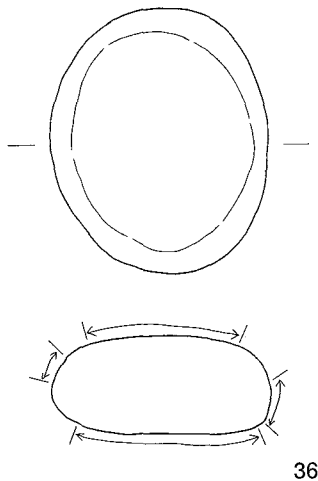
第204图 4号住居跡出土遺物②



第205图 4号住居跡出土遺物③

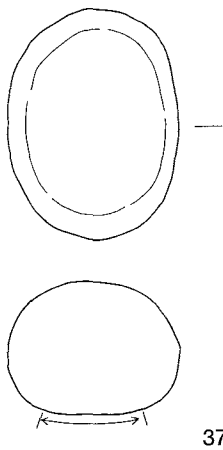


第206図 4号住居跡出土遺物④



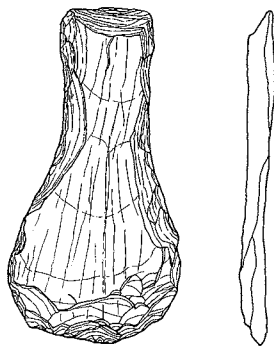
10.6×8.7×3.9 重さ：479.9 g
 石材：安山岩 注記：109
 備考：4面使用。

36



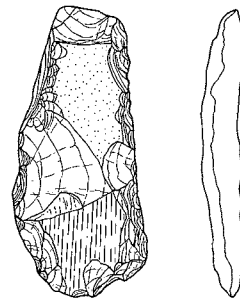
9.1×6.9×5.3 重さ：485.6 g
 石材：安山岩 注記：95

37



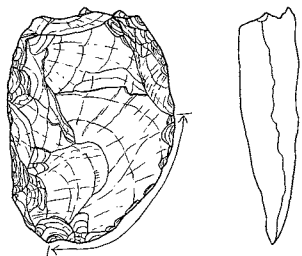
13.3×6.8×1.3 重さ：136.2 g
 石材：雲母片岩 注記：200

38



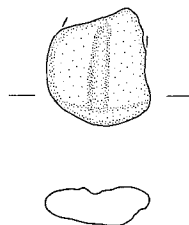
11.6×5.3×1.7 重さ：99.2 g
 石材：頁岩 注記：-

39



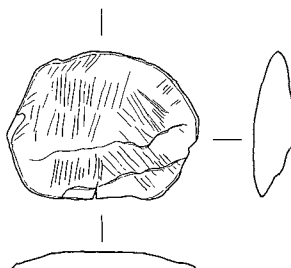
9.3×6.6×2.3 重さ：147.2 g
 石材：頁岩 注記：-

40



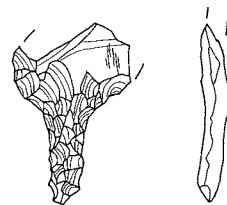
-×4.1×1.5 残重：33.0 g
 石材：粗粒砂岩 注記：-

41



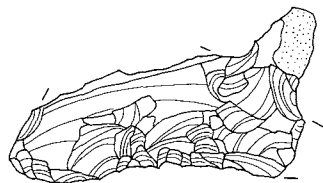
5.8×7.6×1.6 重さ：92.5 g
 石材：滑石 注記：3
 備考：玦状耳飾の未製品か。擦痕あり。

42



-×-×0.4 残重：0.9 g
 石材：黒曜石 注記：-

47



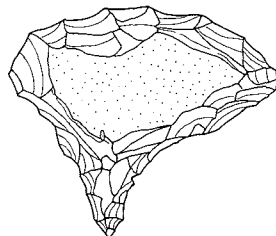
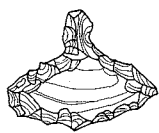
2.2×-×0.6 残重：4.2 g
 石材：チャート 注記：-

48



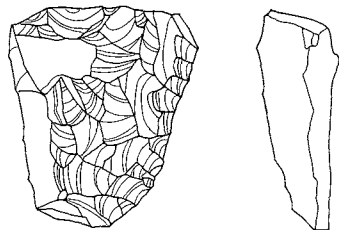
1.6×2.0×0.3 重さ：0.6 g
 石材：黒曜石 注記：-

49



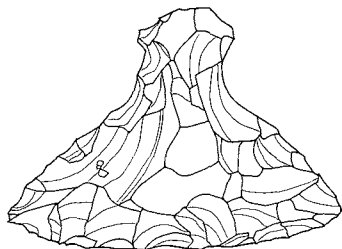
3.1×3.6×0.9 重さ：7.5 g
 石材：黒色安山岩 注記：-

46



2.9×2.5×1.1 重さ：7.4 g
 石材：チャート 注記：-

45



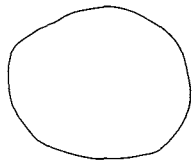
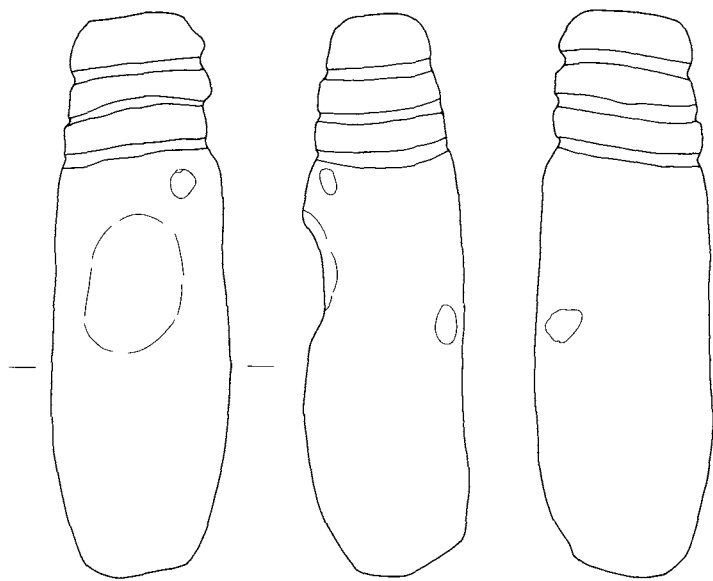
3.2×4.4×0.9 重さ：8.5 g
 石材：黒色安山岩 注記：-

49

0 (1:3) 10cm

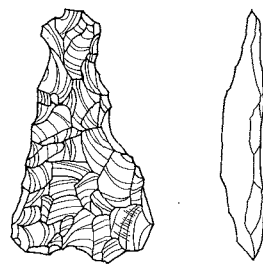
0 (1:1) 4cm
 (45~50)

第207図 4号住居跡出土遺物⑤



43

7.4×2.4×2.2	重さ：17.6 g
石材：珪藻土	注記：100
備考：全面を研磨。頭部に3条の沈線。	



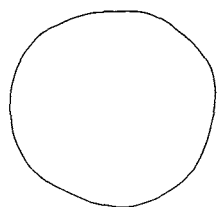
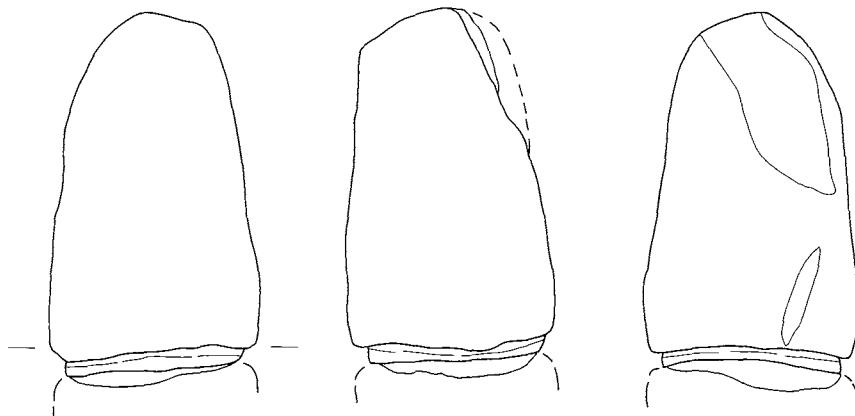
51

3.2×1.9×0.6	重さ：2.2 g
石材：黒曜石	注記：-
備考：製作途中品か。	



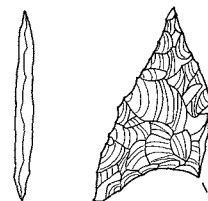
52

1.5×1.5×0.3	重さ：0.4 g
石材：黒曜石	注記：-



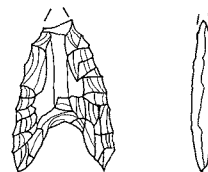
44

残4.9×2.8×2.7	残重：21.2 g
石材：珪藻土	注記：137
備考：全面を研磨。沈線以下を欠損。	



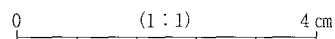
53

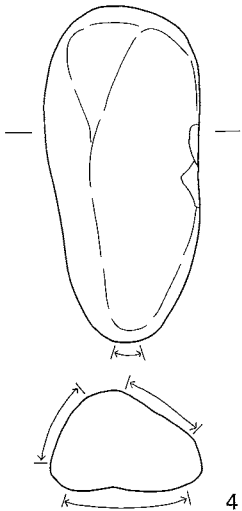
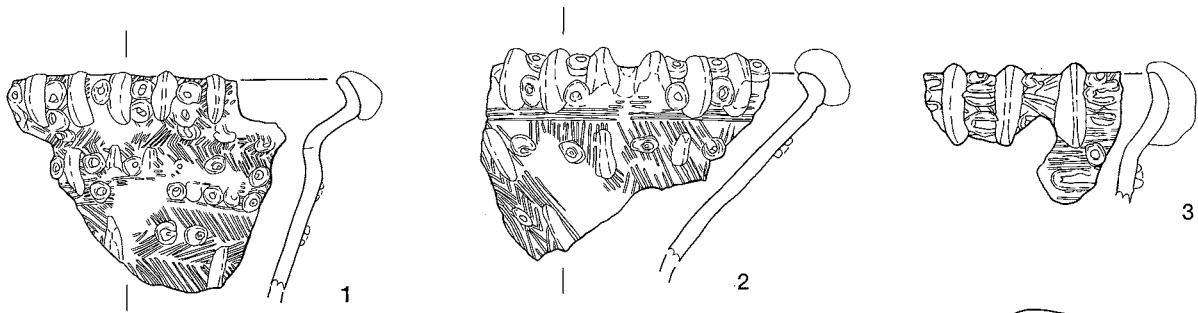
2.5×-×0.3	残重：0.7 g
石材：黒曜石	注記：-



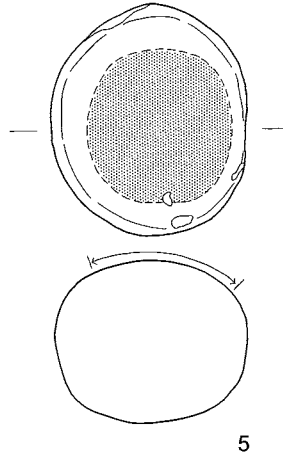
54

-×1.4×0.3	残重：0.7 g
石材：チャート	注記：-

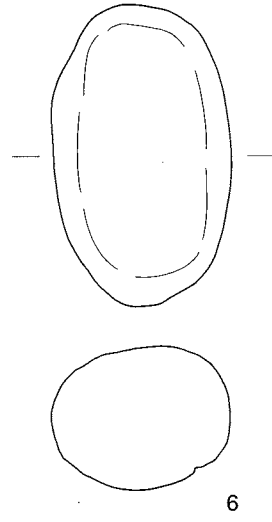




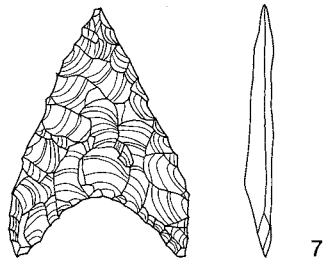
13.2×6.2×4.0	重さ：386.1g
石材：安山岩	注記：2



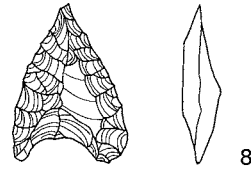
9.2×7.7×6.4	重さ：566.2g
石材：安山岩	注記：12
備考：被熱痕あり。	



4.0×2.4×2.0	重さ：15.1g
石材：珪藻土	注記：-
備考：4号住居跡小形石棒と同質石材。全体を研磨。	

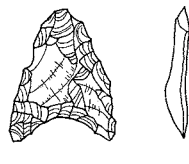
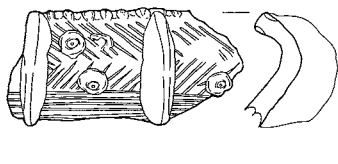


3.3×2.4×0.4	重さ：1.9g
石材：黒曜石	注記：-



2.1×1.5×0.5	重さ：1.2g
石材：黒曜石	注記：-

第209図 5号住居跡出土遺物

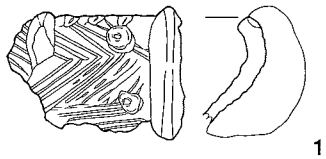


1.8×1.4×0.3	重さ：0.6g
石材：黒曜石	注記：-

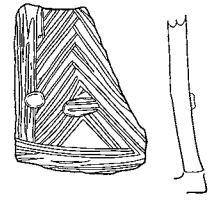
0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4cm
(5住6~8 6住2)

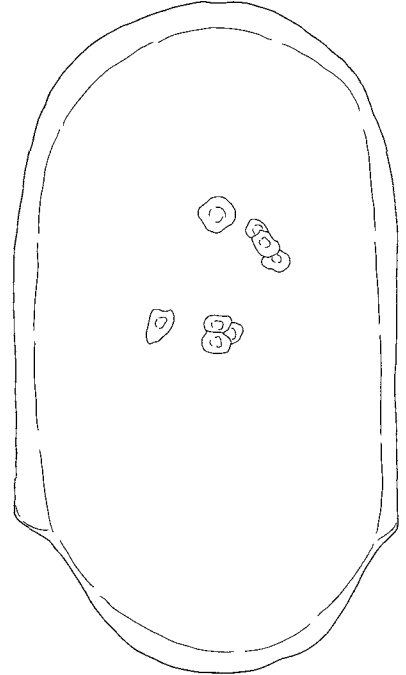
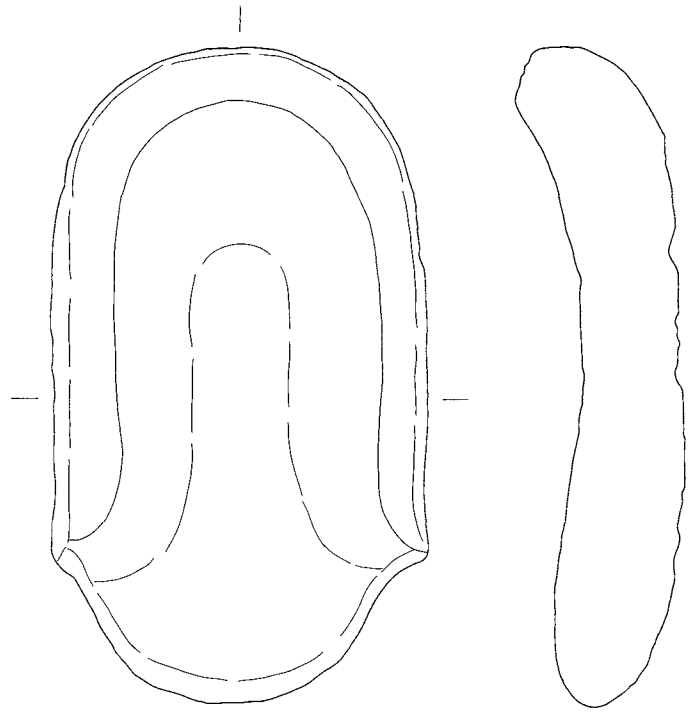
第210図 6号住居跡出土遺物



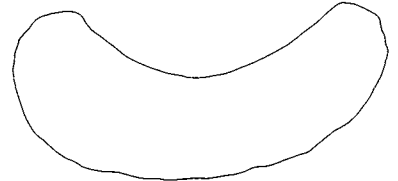
1



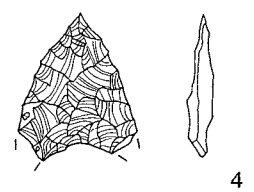
2



3

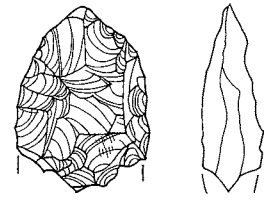


26.0×15.0×6.8 重さ：2.880 g	
石材：安山岩	注記：-
備考：出し部を作る。下半を中心 に被熱痕あり。裏面に凹み 数か所。	



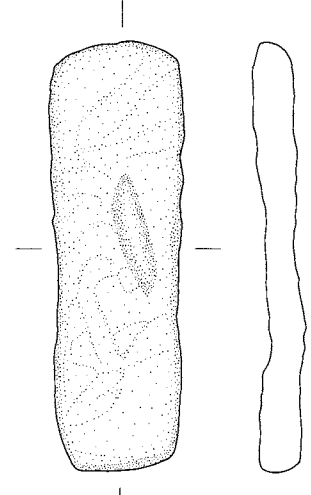
4

- × - × 0.3	残重：0.7 g
石材：黒曜石	注記：-



5

- × 1.8 × 0.8	残重：3.4 g
石材：黒曜石	注記：-



6

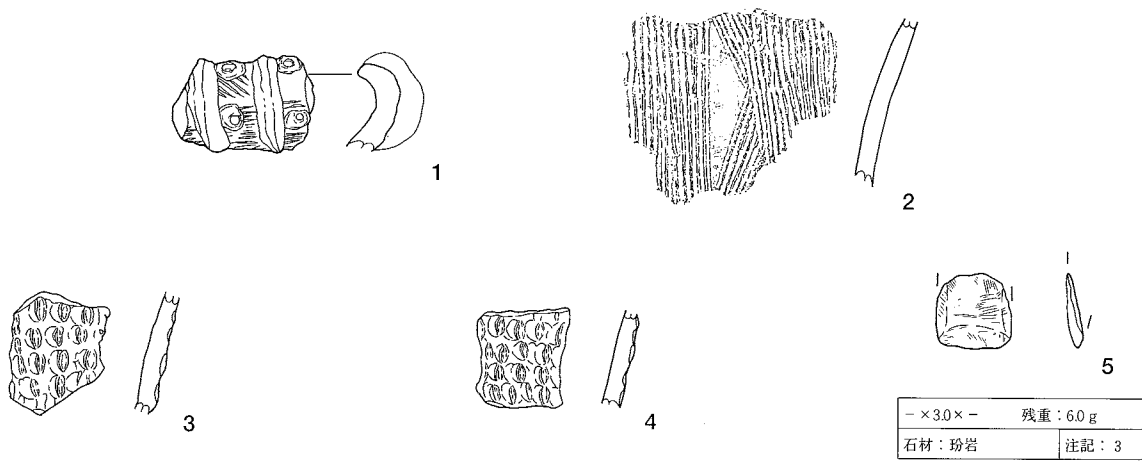
17.0×5.4×1.9 重さ：221.6 g	
石材：粗粒砂岩	注記：1
備考：短冊形の有溝砥石。	

0 (1:3) 10cm

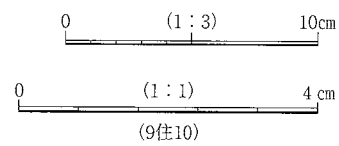
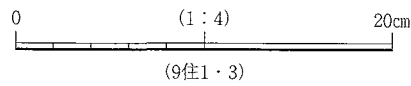
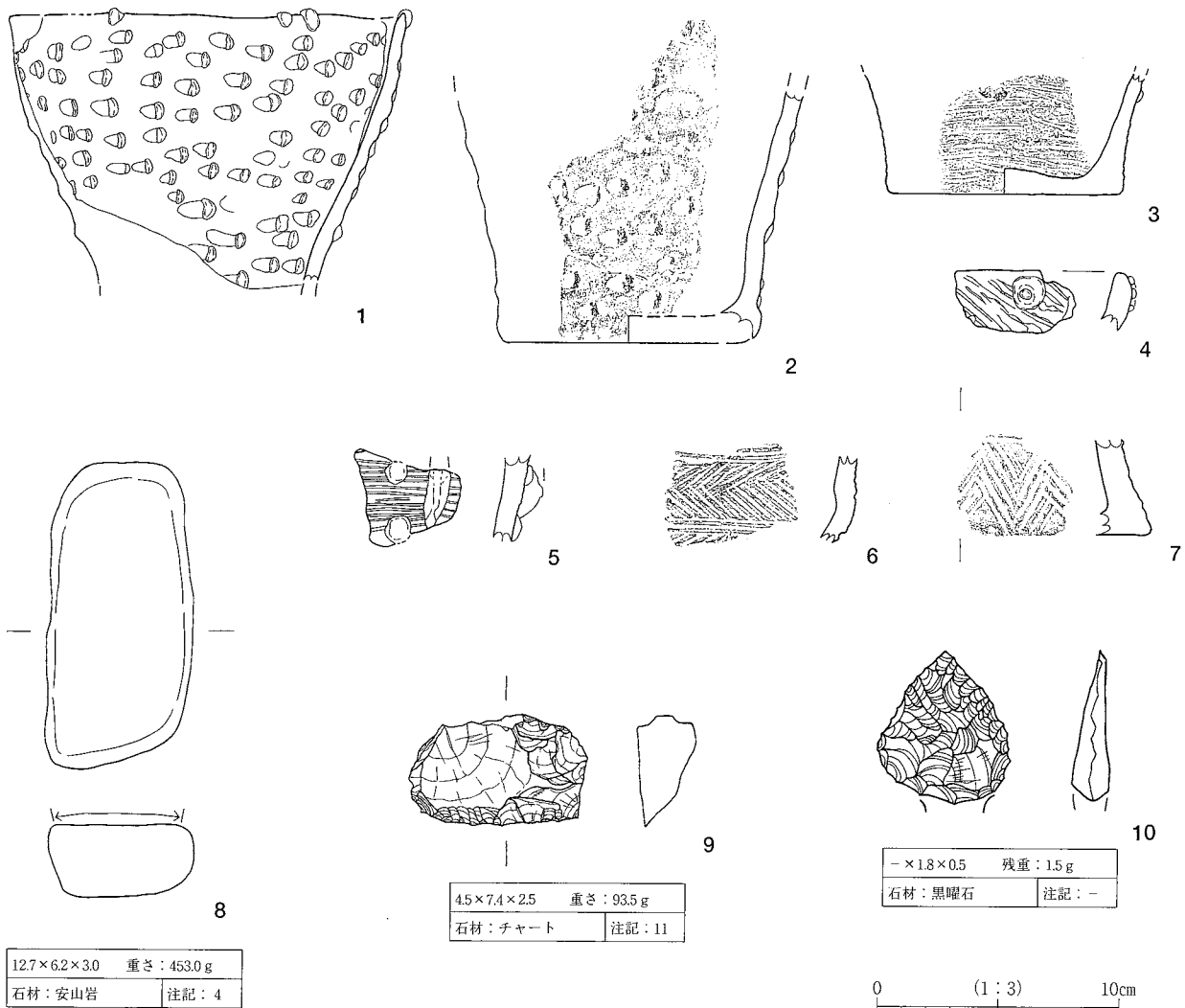
0 (1:1) 4 cm

(4・5)

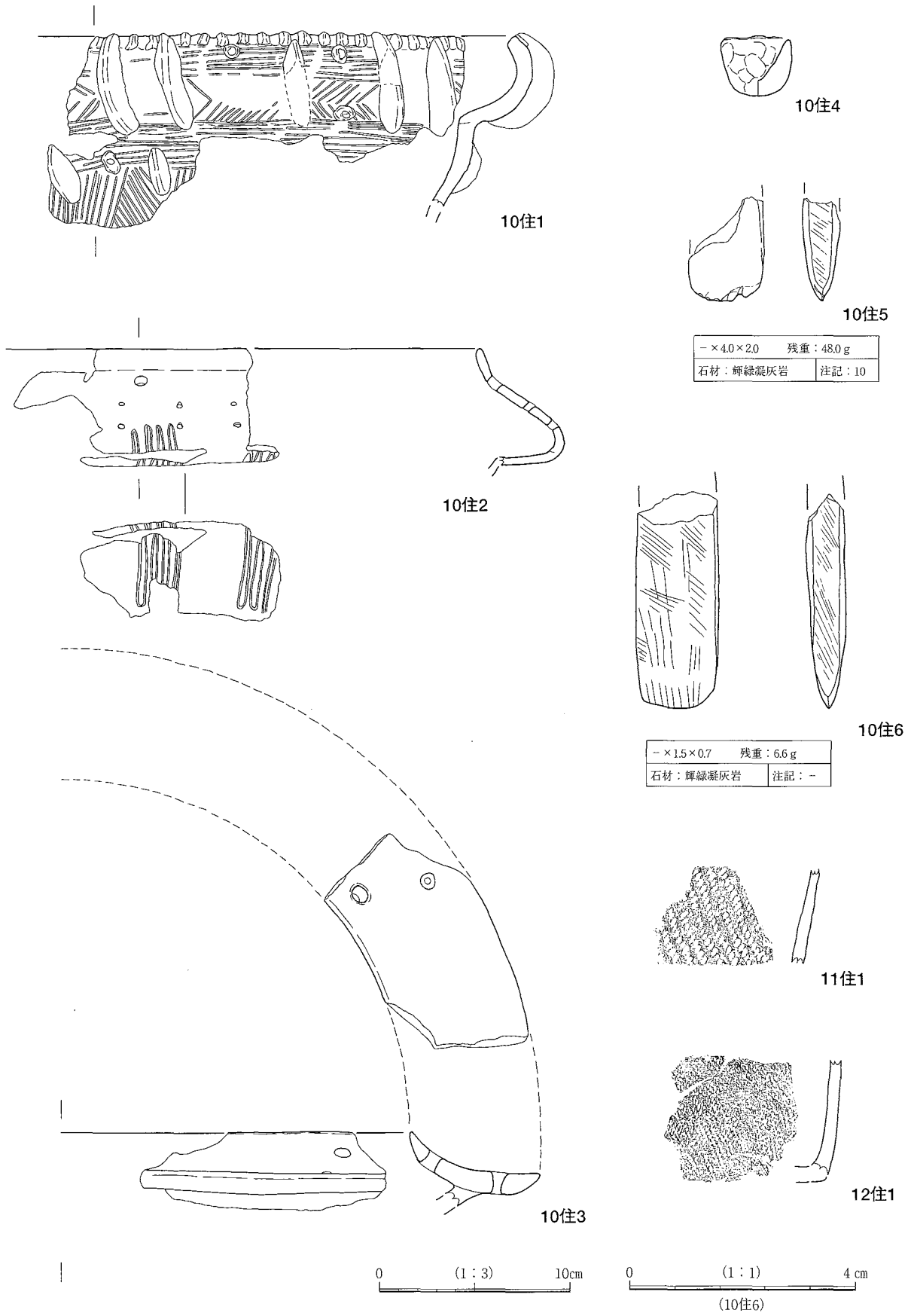
第211図 7号住居跡出土遺物



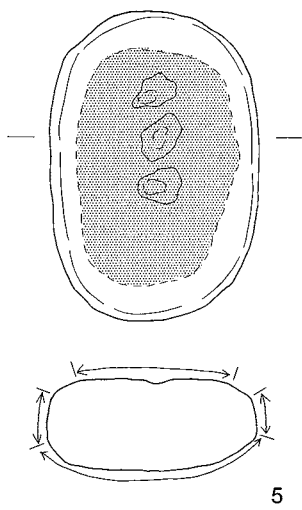
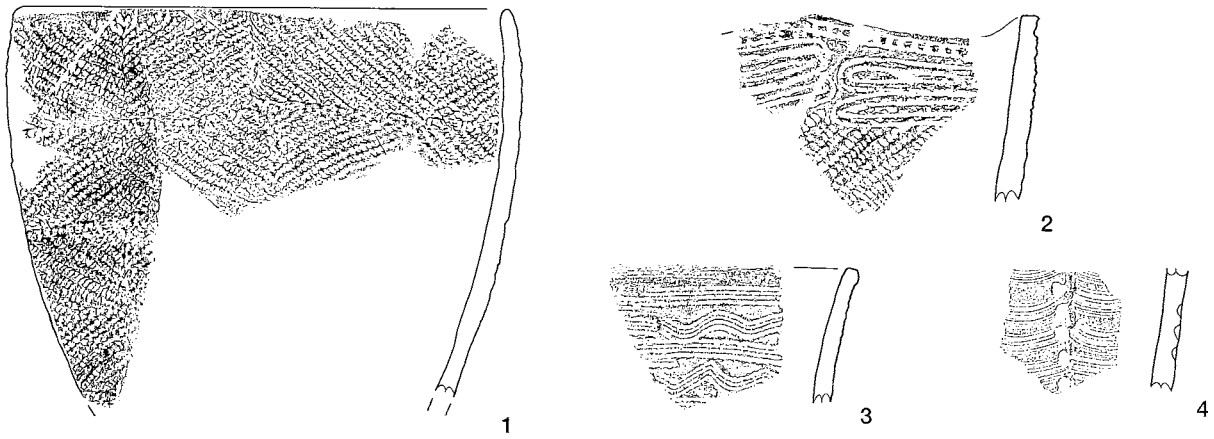
第212図 8号住居跡出土遺物



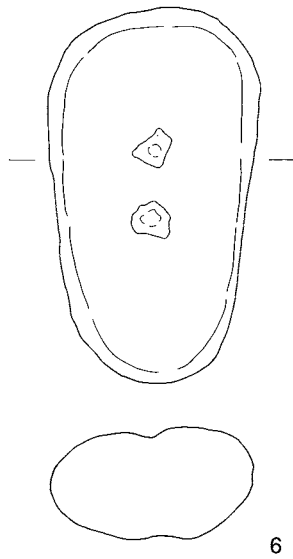
第213図 9号住居跡出土遺物



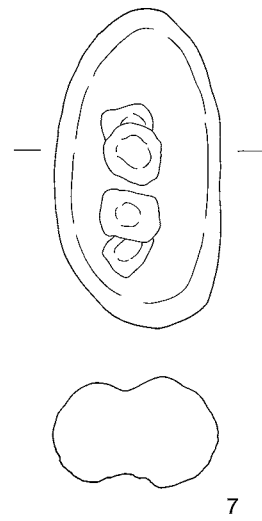
第214図 10号・11号・12号住居跡出土遺物



120×8.3×3.6	重さ：546.5 g
石材：安山岩	注記：2
備考：凹石→磨石。	

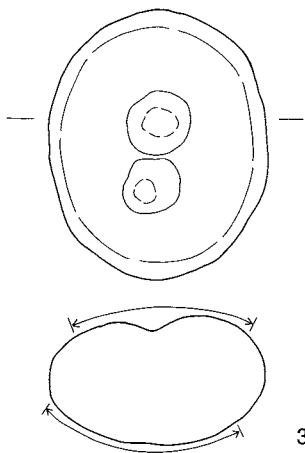


14.8×8.3×4.4	重さ：713.3 g
石材：安山岩	注記：5
備考：被熱痕あり。	

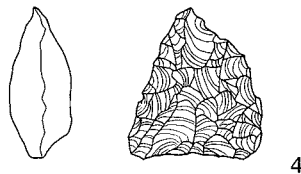
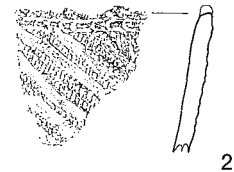
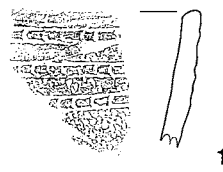


12.5×6.5×4.3	重さ：426.2 g
石材：安山岩	注記：4

第215図 13号住居跡出土遺物



10.6×8.7×5.1	重さ：558.5 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。	

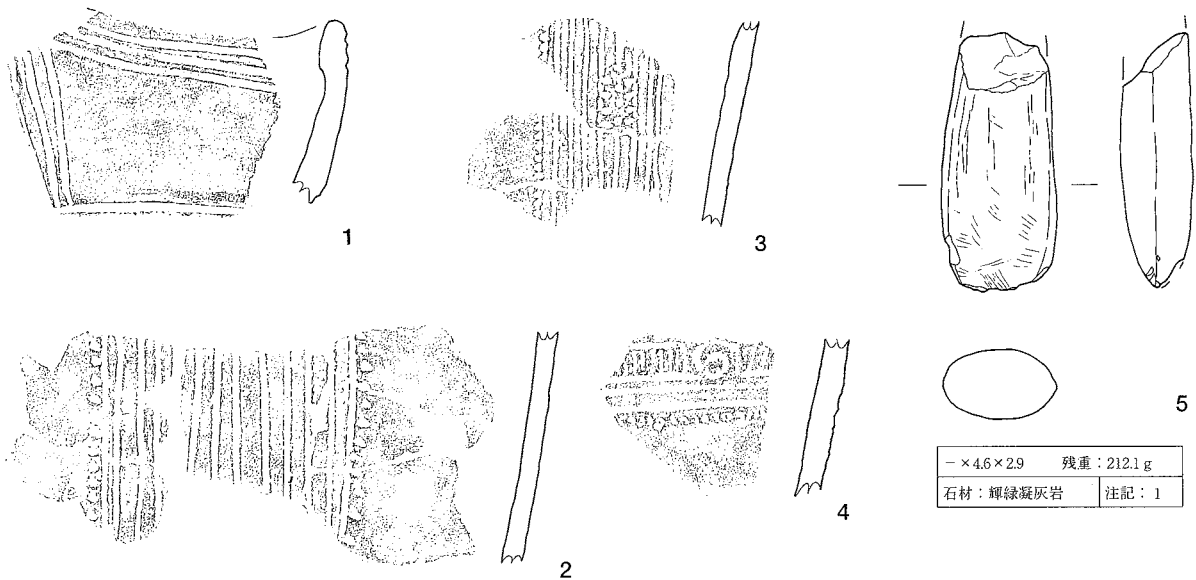


2.0×1.8×0.8	重さ：2.8 g
石材：黒曜石	注記：-

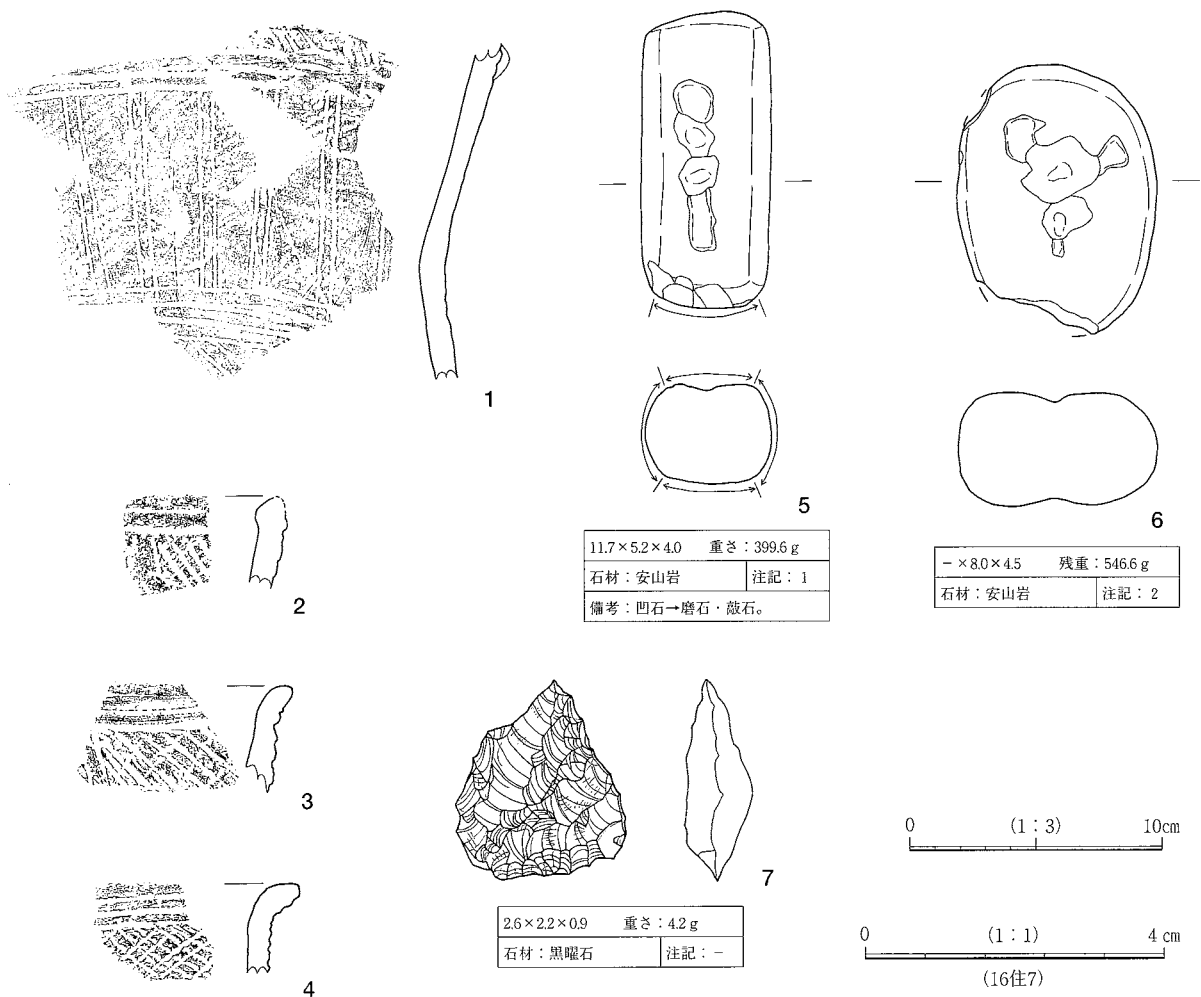
0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4cm
(14住4)

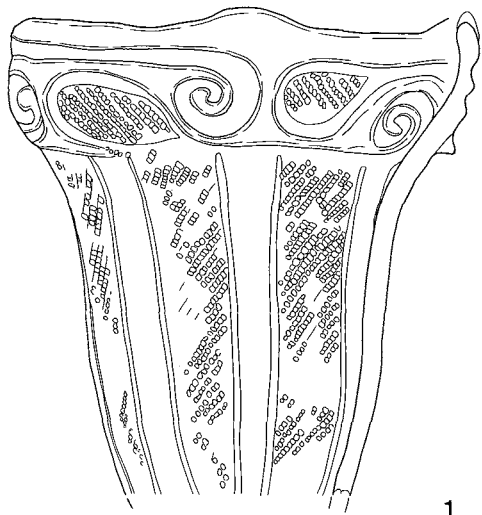
第216図 14号住居跡出土遺物



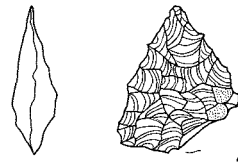
第217図 15号住居跡出土遺物



第218図 16号住居跡出土遺物

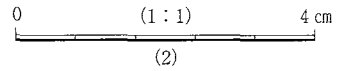


1

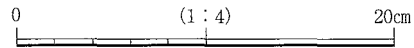


2

1.9 × - × 0.6	残重：1.1 g
石材：黒曜岩	注記：-

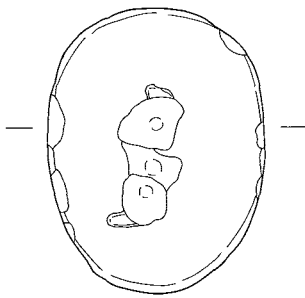


(2)



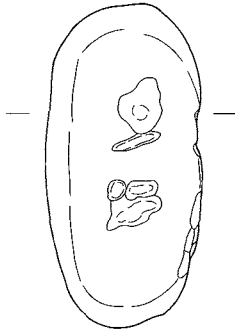
(1)

第219図 17号住居跡出土遺物



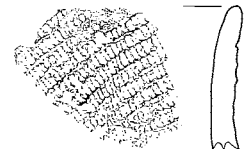
3

11.2 × 8.7 × 3.1	重さ：427.8 g
石材：安山岩	注記：13
備考：凹石→磨石。	



4

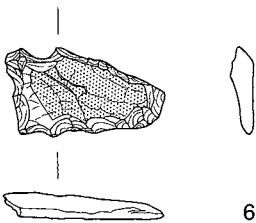
12.8 × 6.2 × 4.4	重さ：513.3 g
石材：安山岩	注記：4
備考：凹石→磨石。	



1

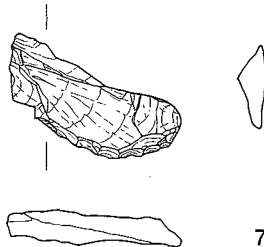


2



6

3.5 × 6.3 × 1.1	重さ：18.0 g
石材：頁岩	注記：12
備考：酸化した鉄分が付着する。	



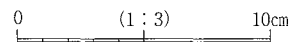
7

4.9 × 6.9 × 1.3	重さ：28.4 g
石材：黒色安山岩	注記：-

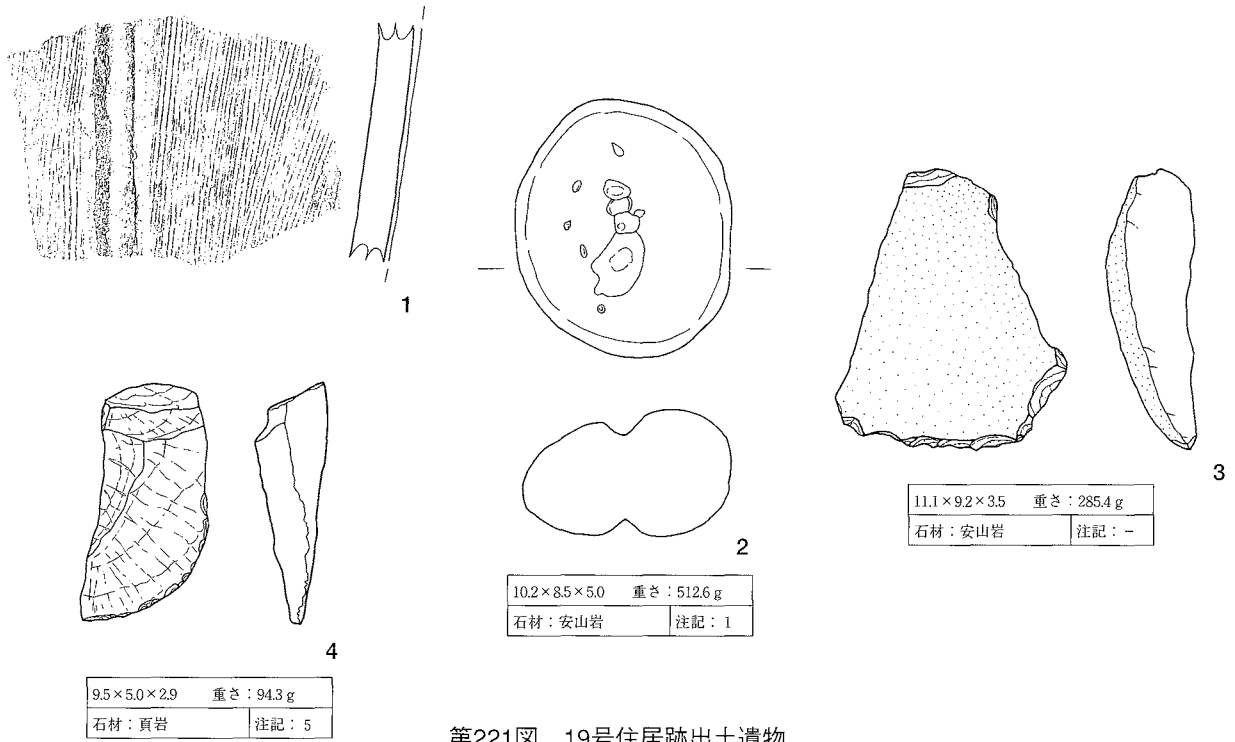


5

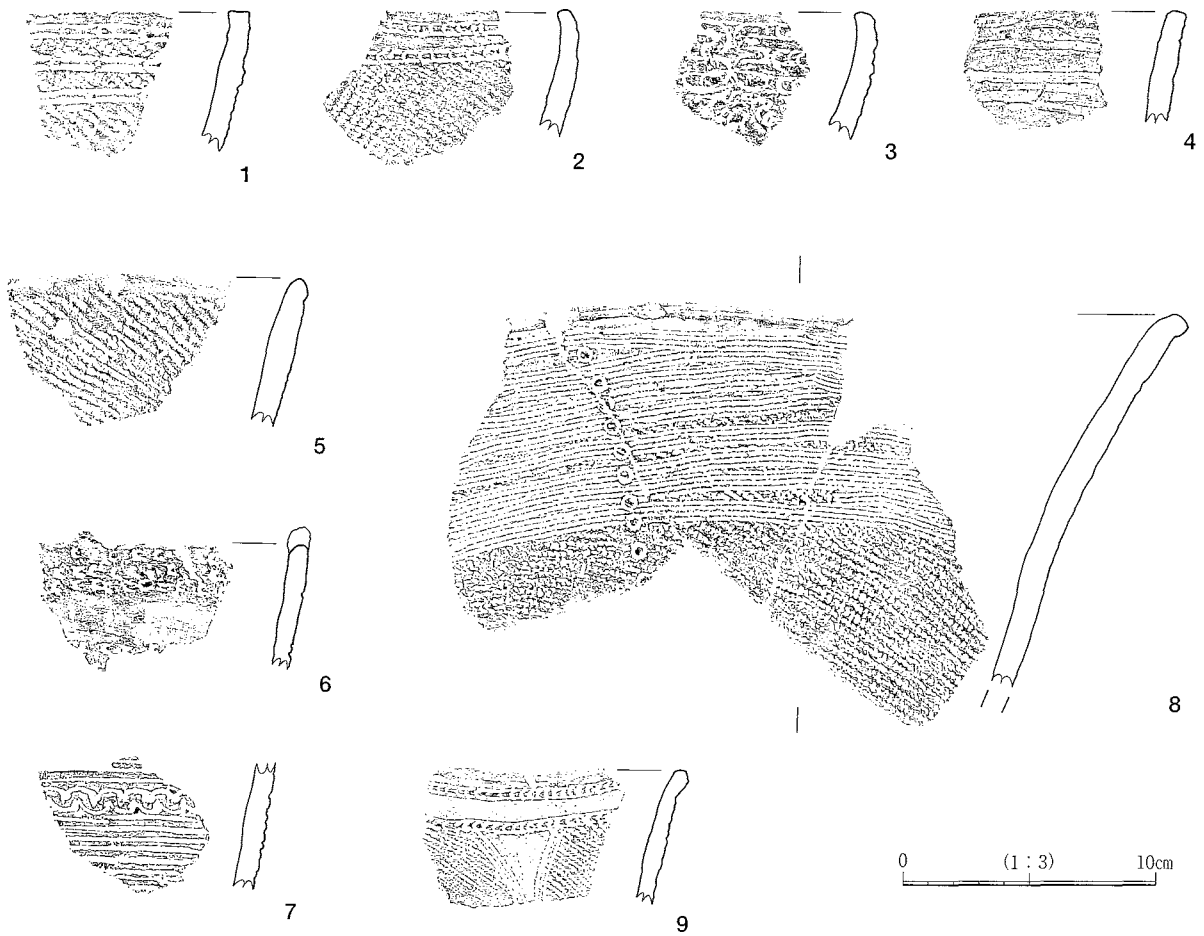
6.2 × 6.6 × 2.2	重さ：58.0 g
石材：頁岩	注記：-



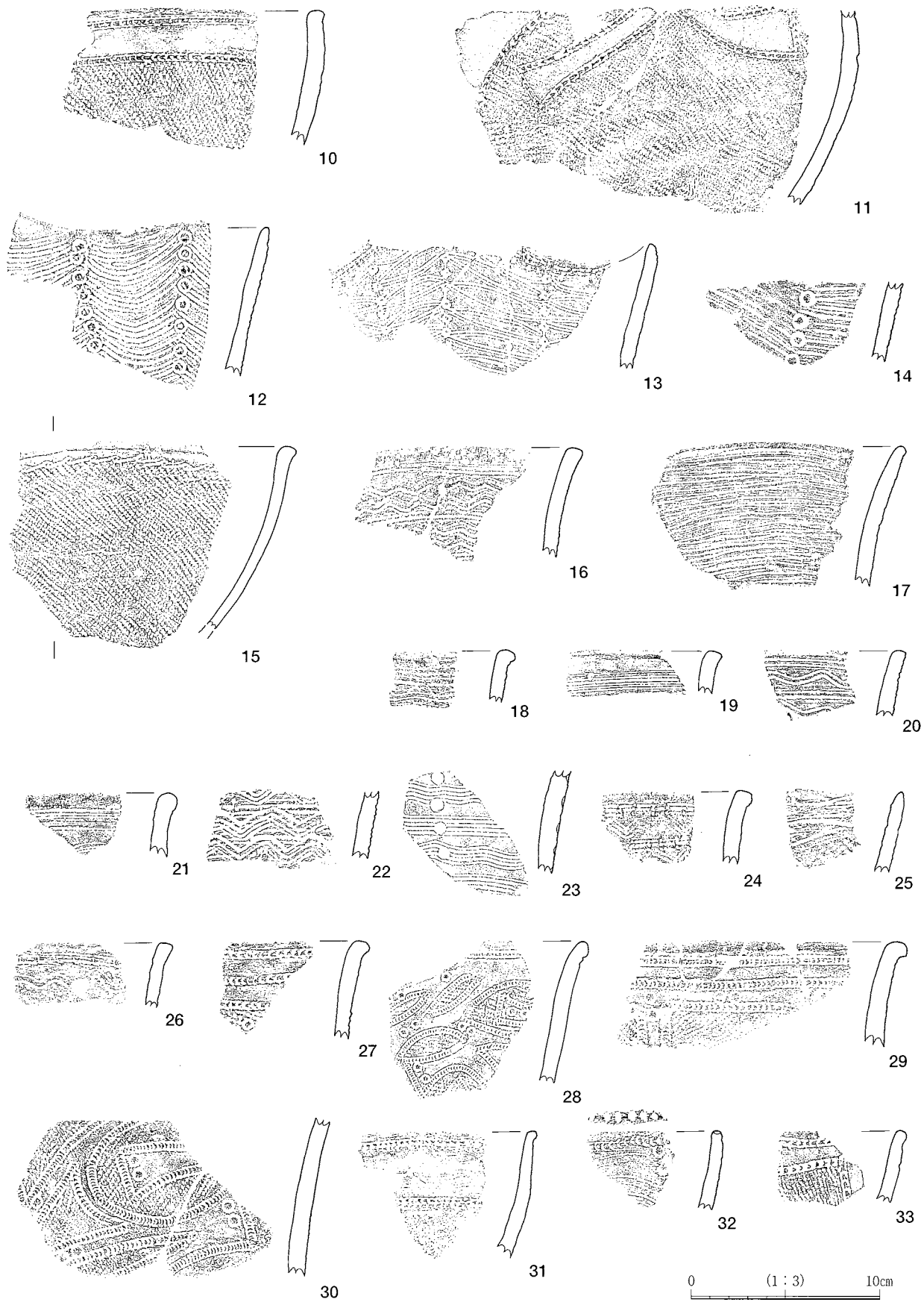
第220図 18号住居跡出土遺物



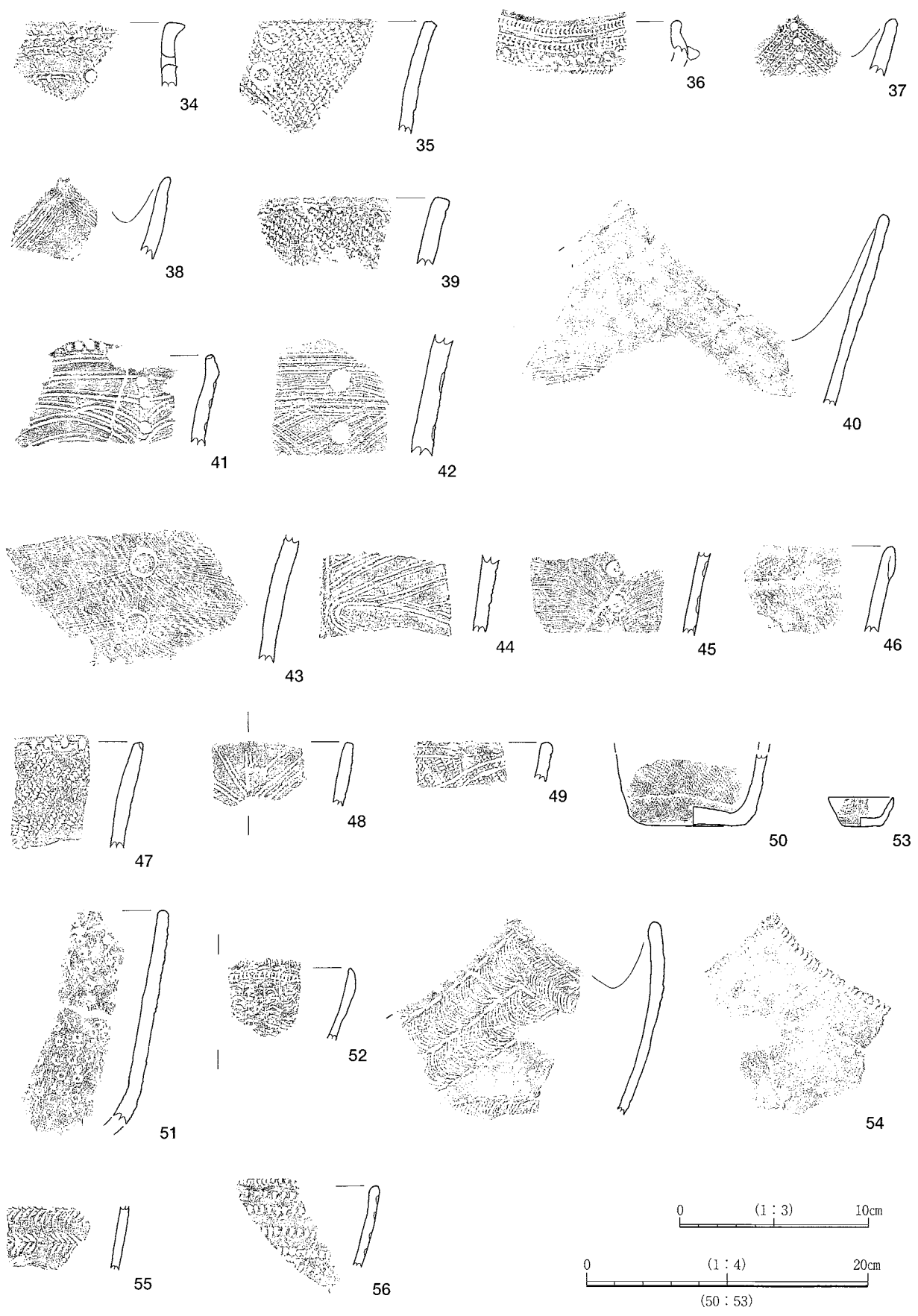
第221図 19号住居跡出土遺物



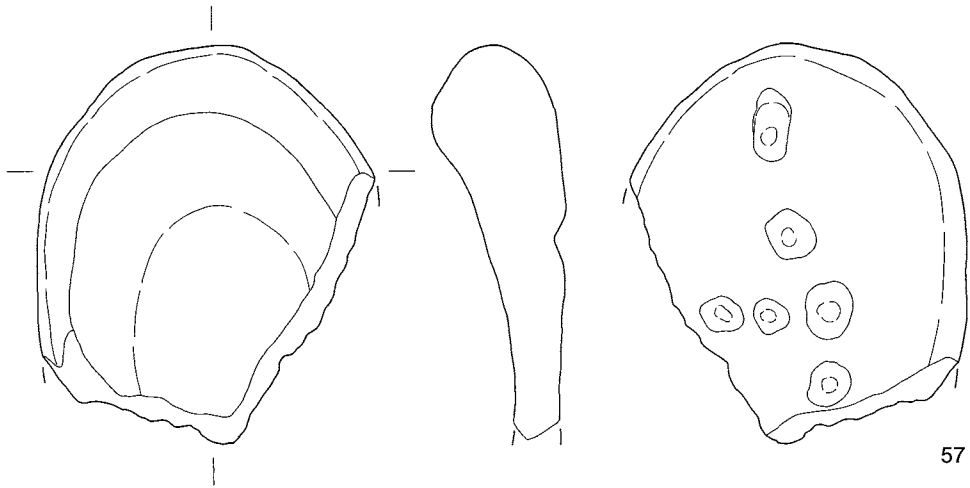
第222図 20号住居跡出土遺物①



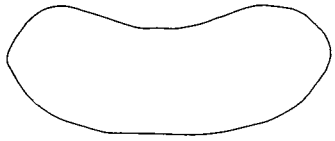
第223图 20号住居跡出土遺物②



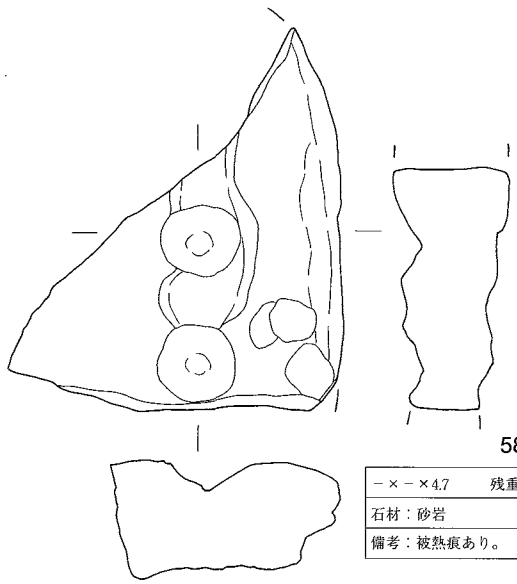
第224図 20号住居跡出土遺物③



57

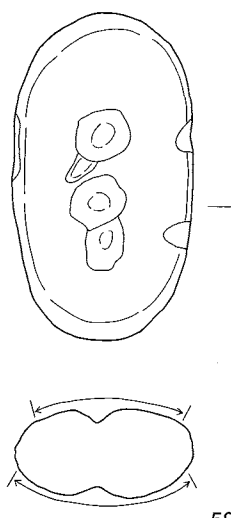


- × - × 5.3 残重: 1.378 g	
石材: 緑泥片岩	注記: 22
備考: 裏面は多孔石。	



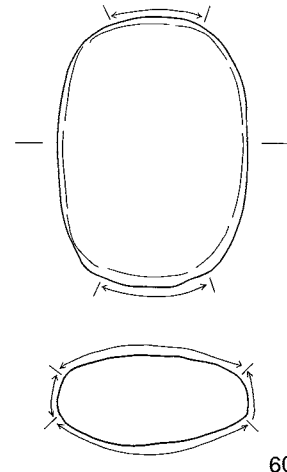
58

- × - × 4.7 残重: 780 g	
石材: 砂岩	注記: 12
備考: 被熱痕あり。	



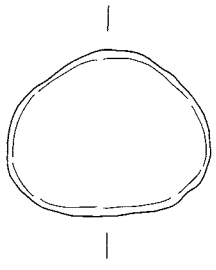
59

13.0 × 7.3 × 3.5 重さ: 463.4 g	
石材: 安山岩	注記: 5
備考: 凹石→磨石。	



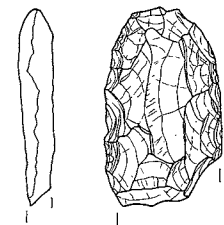
60

10.7 × 7.7 × 3.5 重さ: 465.8 g	
石材: 安山岩	注記: 23
備考: 4面を磨る。上下端部に敲打痕。	



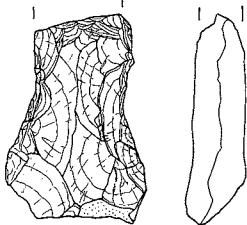
61

6.7 × 8.1 × 1.0 重さ: 68.9 g	
石材: 粗粒砂岩	注記: -
備考: 明瞭な使用痕なし。被熱痕あり。	



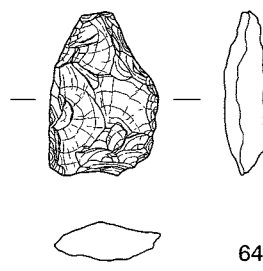
62

- × 4.6 × 1.4 残重: 59.0 g	
石材: 頁岩	注記: -



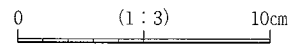
63

- × 5.5 × 2.4 残重: 99.9 g	
石材: 頁岩	注記: 1

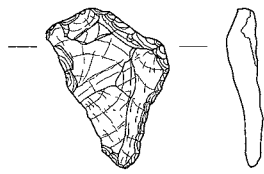


64

6.5 × 4.3 × 1.6 重さ: 46.5 g	
石材: 頁岩	注記: -

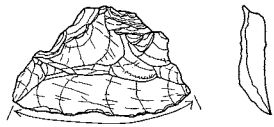


第225図 20号住居跡出土遺物④



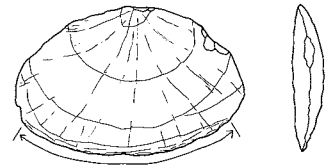
65

6.3×4.8×1.4	重さ: 25.6 g
石材: 頁岩	注記: 3



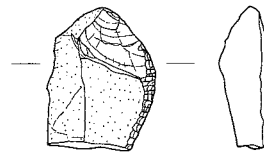
66

4.3×7.0×1.3	重さ: 42.9 g
石材: ホルンフェルス	注記: -



67

5.9×9.2×1.3	重さ: 68.2 g
石材: 頁岩	注記: -



68



5.6×4.2×1.9	重さ: 23.9 g
石材: 頁岩	注記: 24



69

3.0×4.2×0.9	重さ: 8.4 g
石材: チャート	注記: -



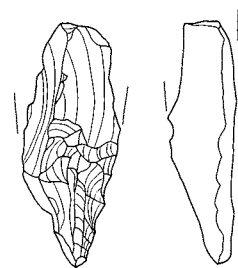
70

3.2×-×0.6	残重: 6.2 g
石材: チャート	注記: -



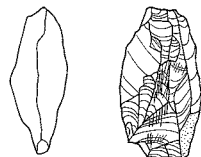
71

3.1×4.4×0.8	重さ: 9.1 g
石材: チャート	注記: -



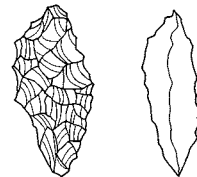
72

-×-×1.0	残重: 3.7 g
石材: チャート	注記: -



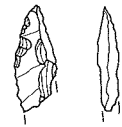
73

2.0×1.1×0.8	重さ: 1.4 g
石材: 黒曜岩	注記: -



74

2.2×1.1×0.8	重さ: 1.8 g
石材: チャート	注記: -



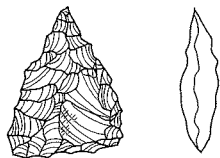
75

-×-×0.8	残重: 5.0 g
石材: チャート	注記: -



79

-×-×0.3	残重: 0.2 g
石材: 黒曜石	注記: -



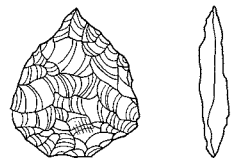
76

2.0×1.5×0.5	重さ: 1.2 g
石材: 黒曜石	注記: -



77

-×1.5×0.3	残重: 0.4 g
石材: 黒曜石	注記: -



78

2.0×1.7×0.4	重さ: 1.0 g
石材: 黒曜石	注記: -



80

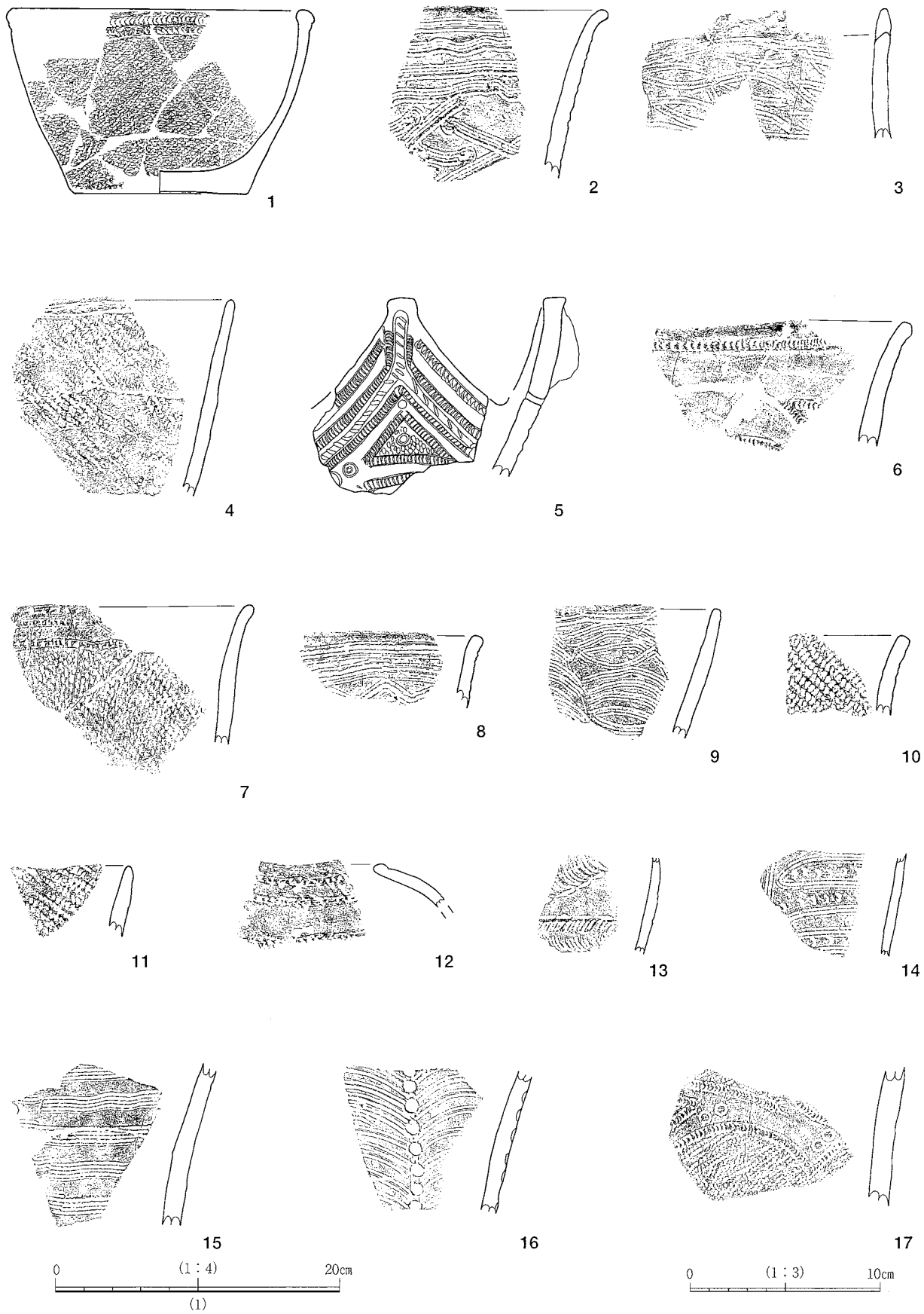
1.1×1.0×0.2	重さ: 0.2 g
石材: 黒曜石	注記: -

0 (1:3) 10cm

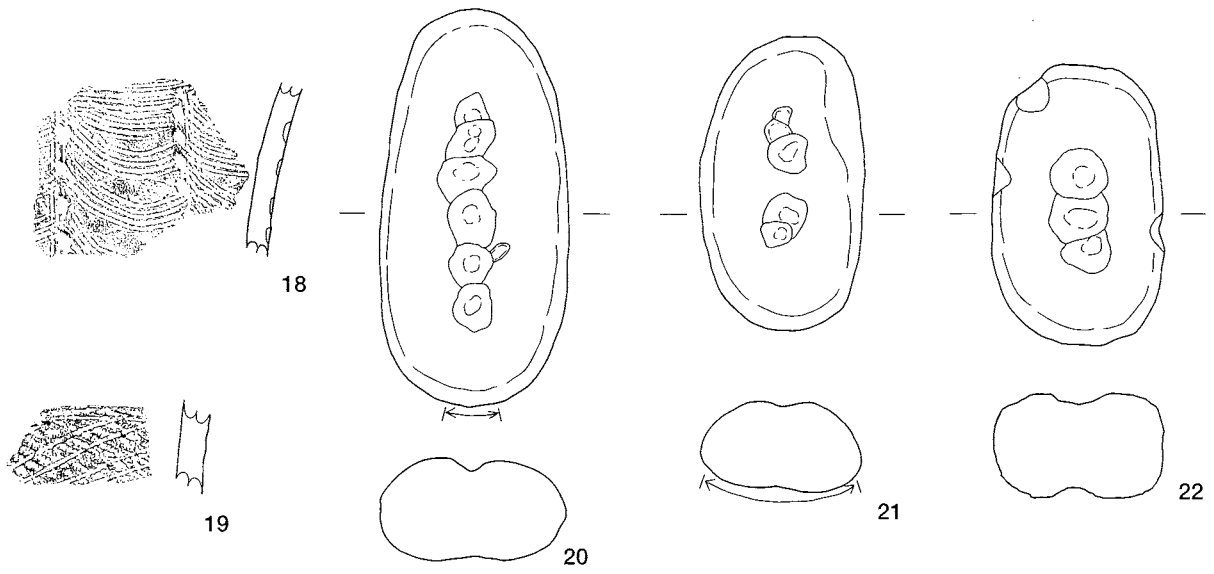
0 (1:1) 4 cm

(72~74・76~80)

第226図 20号住居跡出土遺物⑤



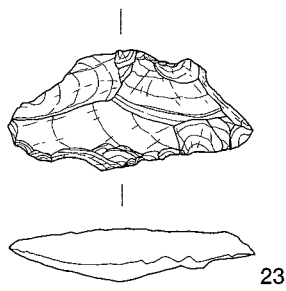
第227图 21号住居跡出土遺物①



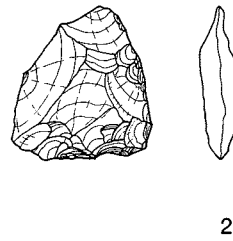
15.6×7.5×4.1	重さ：604.1 g
石材：安山岩	注記：2
備考：下端に敲打痕あり。	

11.5×6.5×3.6	重さ：439.1 g
石材：安山岩	注記：-
備考：裏面は凹石→磨石。	

11.0×6.8×4.2	重さ：442.0 g
石材：安山岩	注記：5

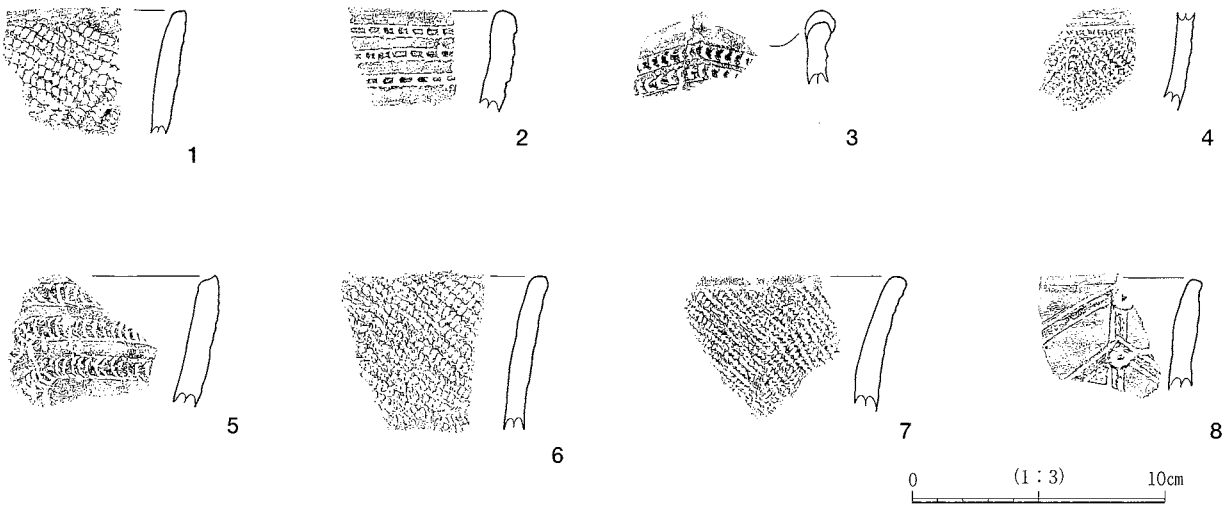


4.7×9.6×2.1	重さ：67.6 g
石材：頁岩	注記：-

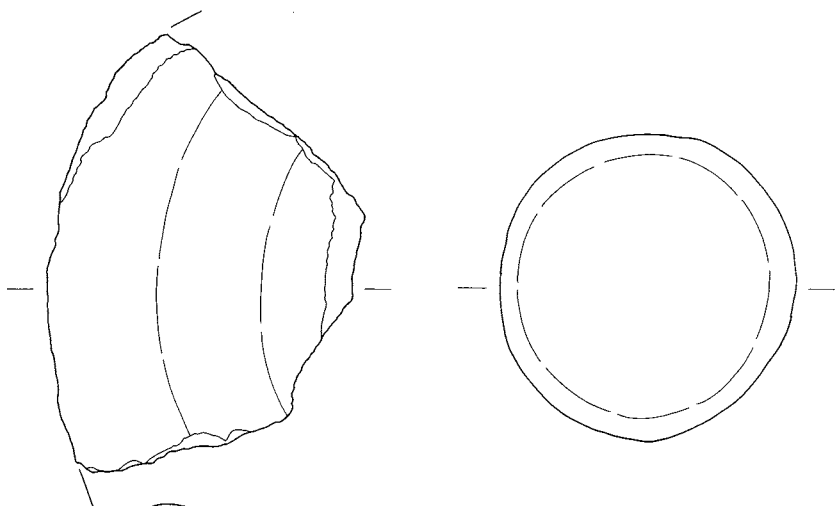
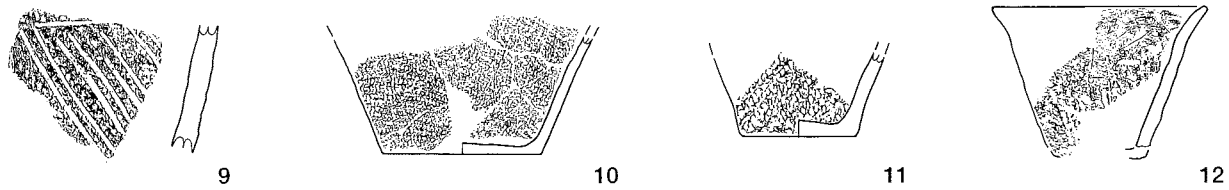


6.0×5.5×1.5	重さ：42.8 g
石材：頁岩	注記：-

第228図 21号住居跡出土遺物②

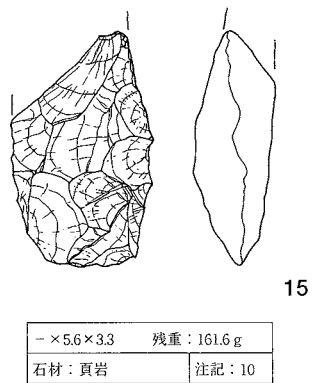


第229図 22号住居跡出土遺物①

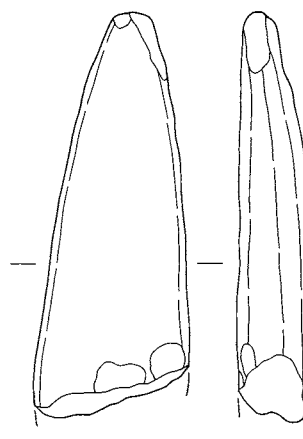


-- × -- × 9.2 残重：2,350 g
 石材：安山岩 注記：5

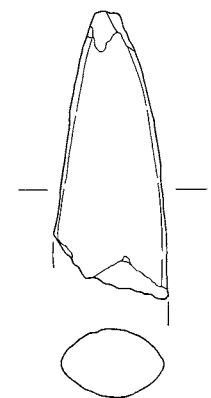
12.1 × 11.7 × 7.7 重さ：1,575 g
 石材：安山岩 注記：-
 備考：被熱痕あり。



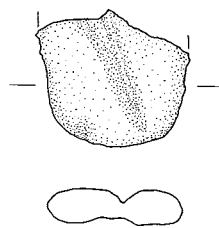
-- × 5.6 × 3.3 残重：161.6 g
 石材：頁岩 注記：10



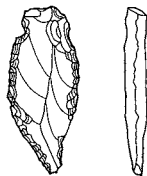
-- × -- × 2.8 残重：413.9 g
 石材：輝緑凝灰岩 注記：-



-- × -- × 2.6 残重：186.3 g
 石材：輝緑凝灰岩 注記：8



-- × 6.2 × 1.4 残重：45.9 g
 石材：粗粒砂岩 注記：-

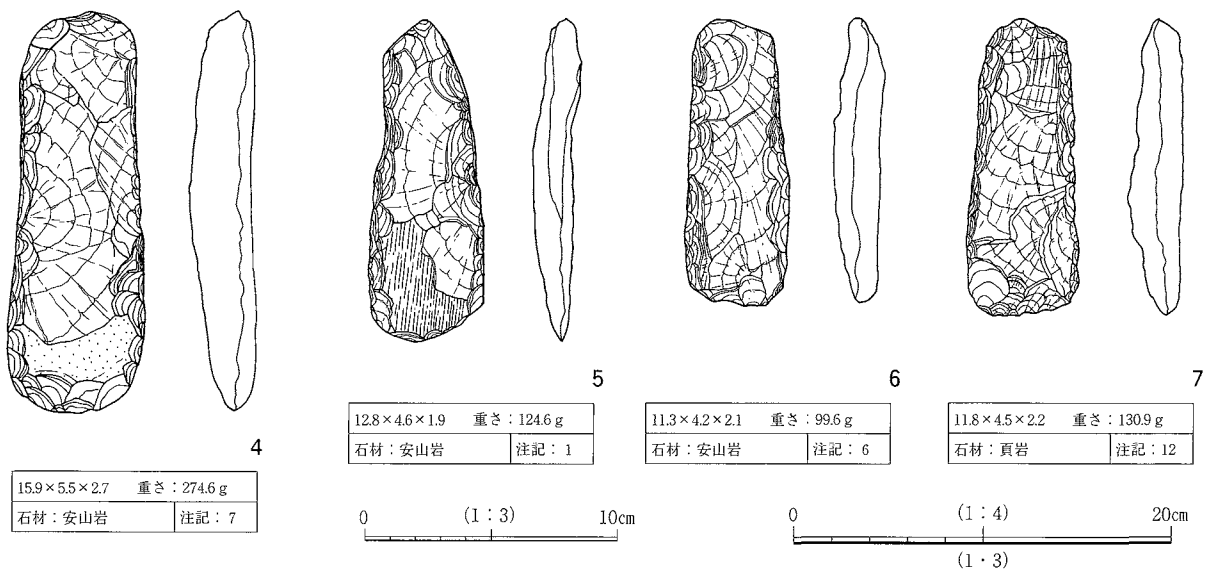
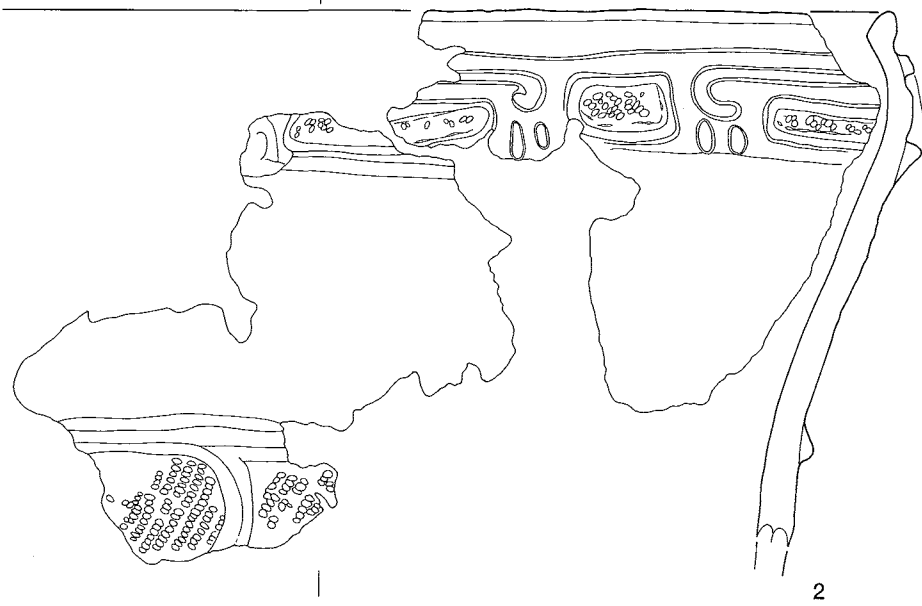
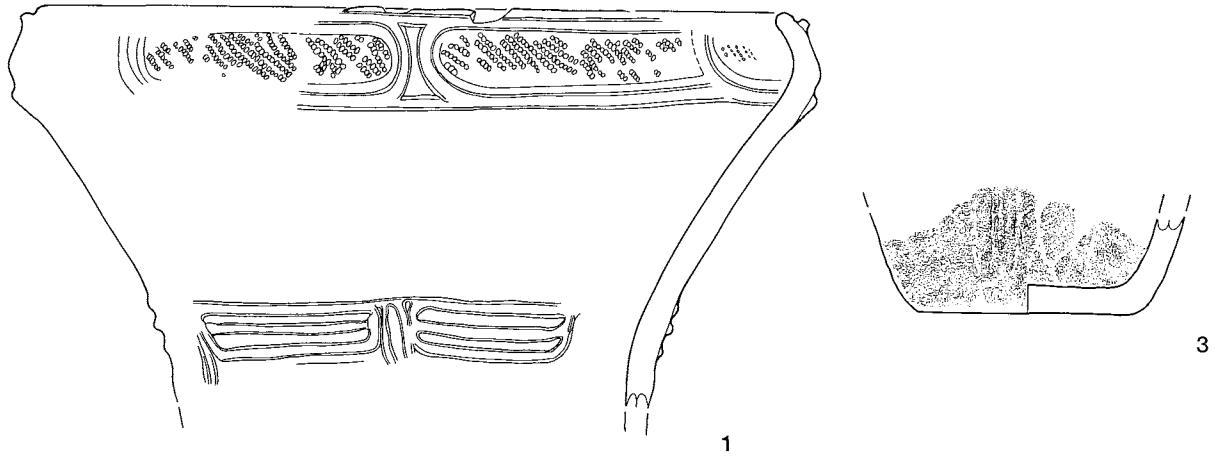


6.6 × 2.8 × 0.9 重さ：14.4 g
 石材：頁岩 注記：-

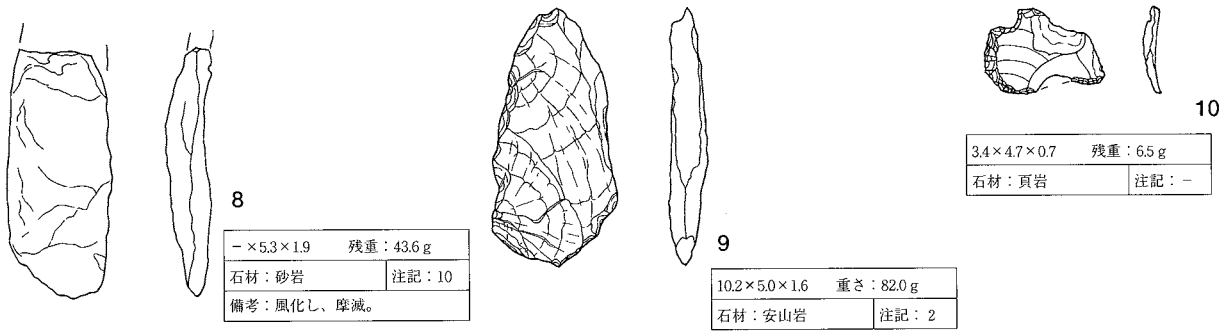
0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm
 (10)

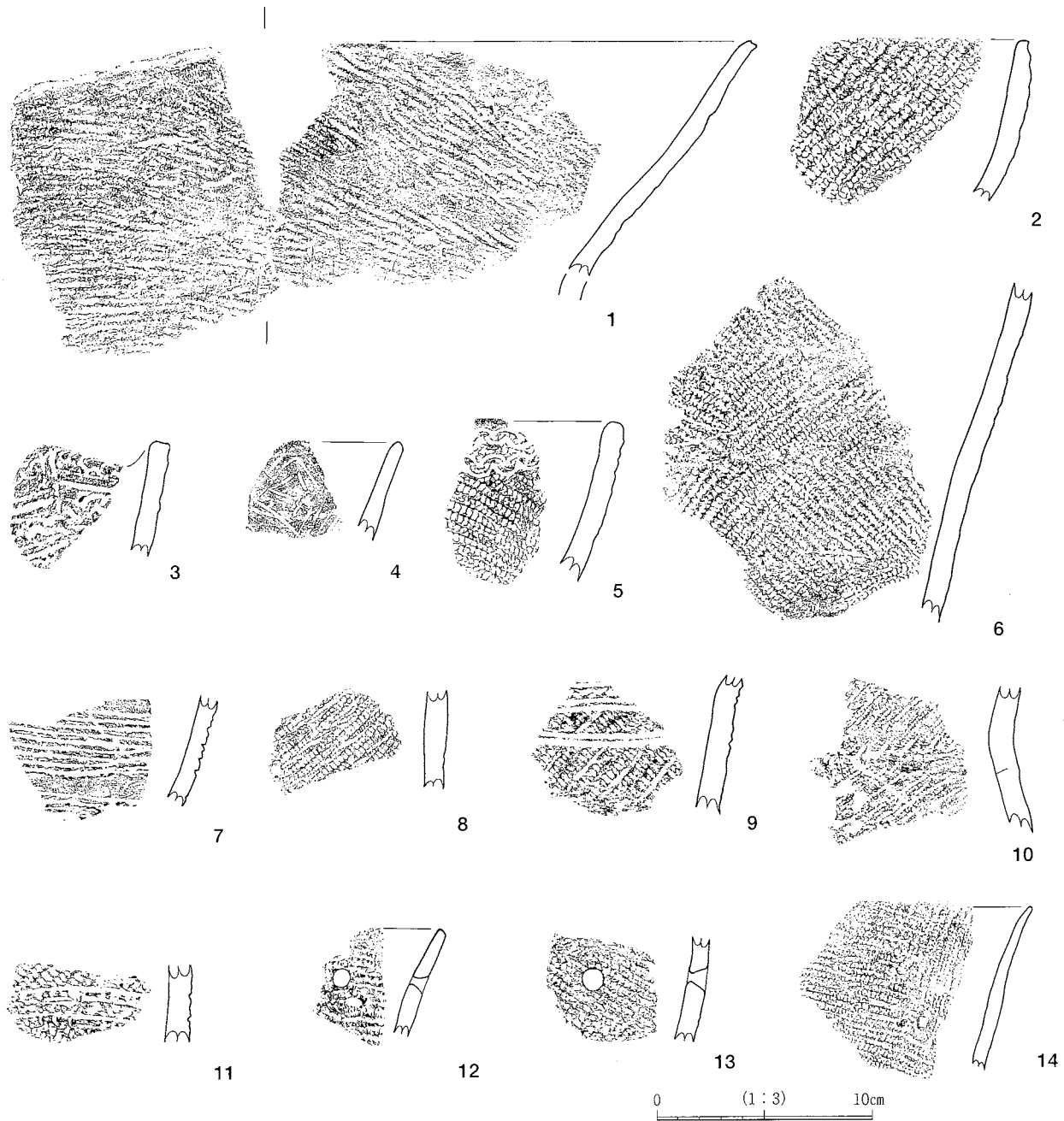
第230図 22号住居跡出土遺物②



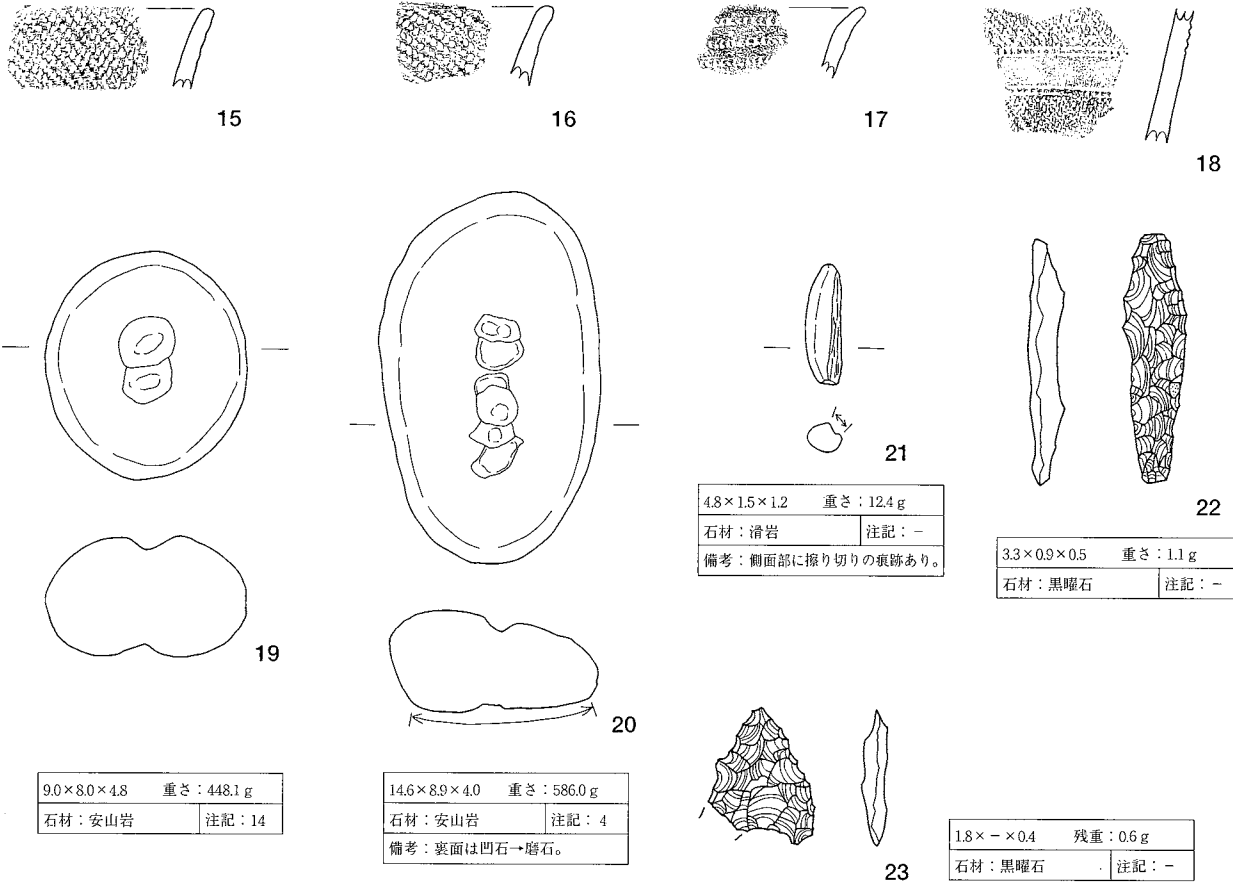
第231図 23号住居跡出土遺物①



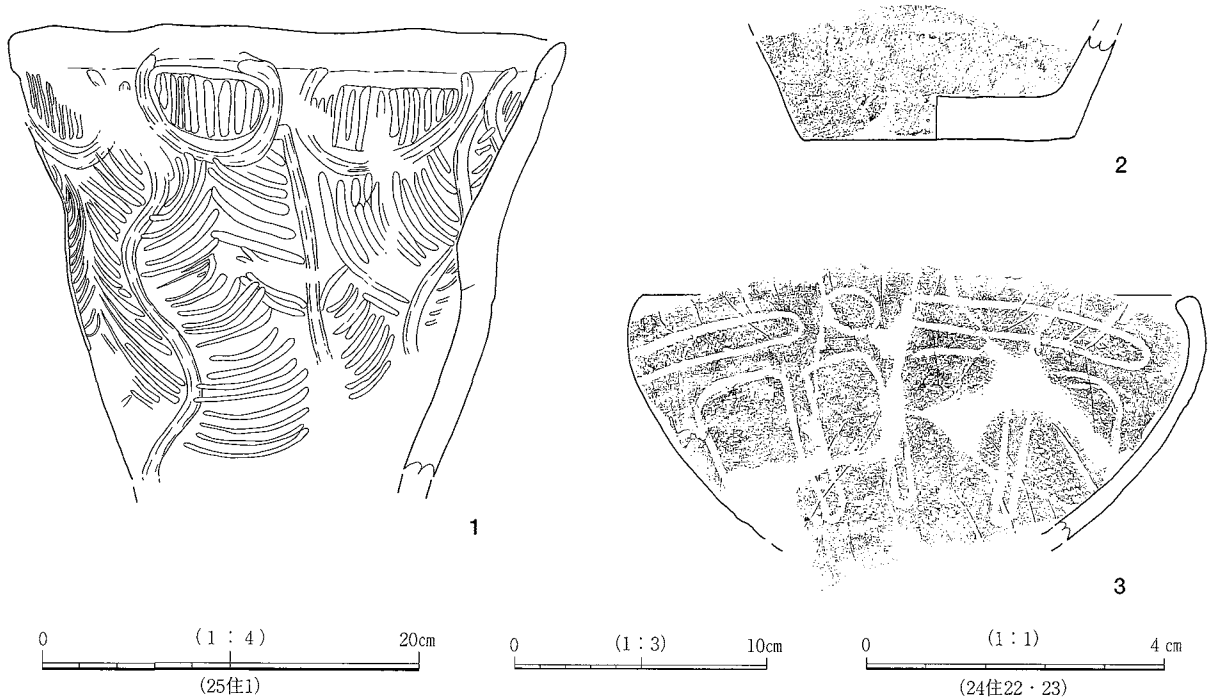
第232図 23号住居跡出土遺物②



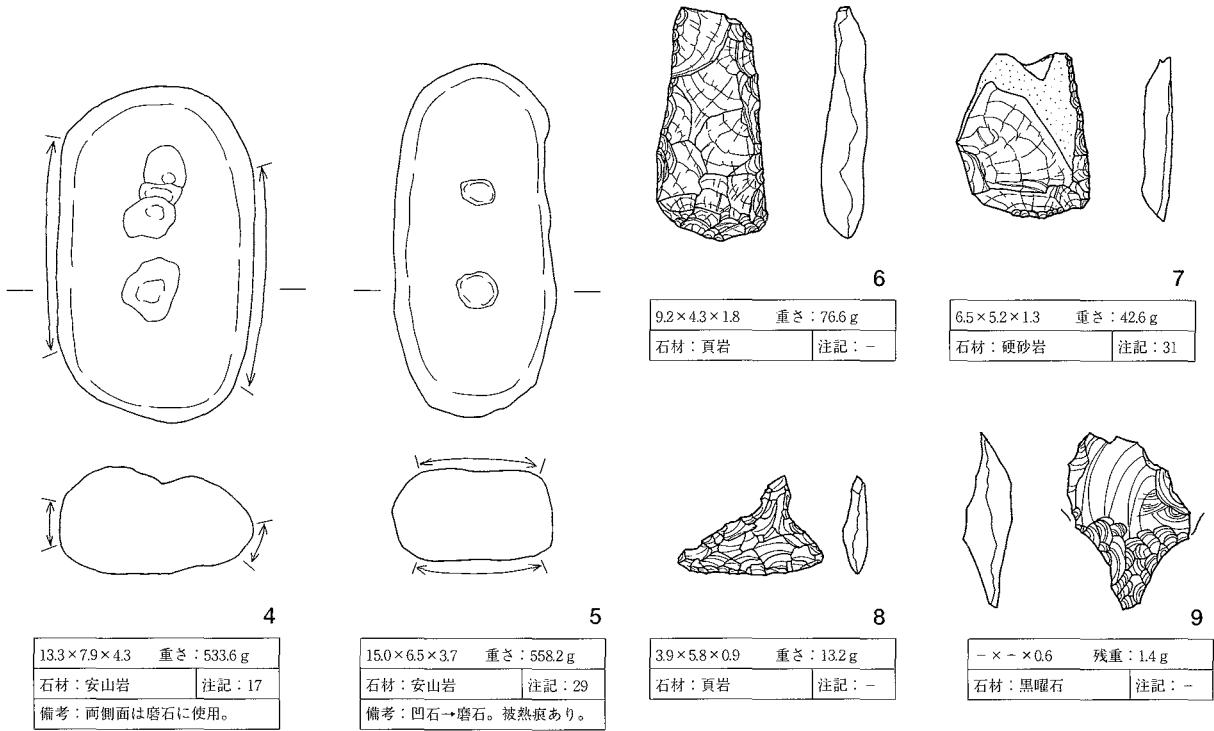
第233図 24号住居跡出土遺物①



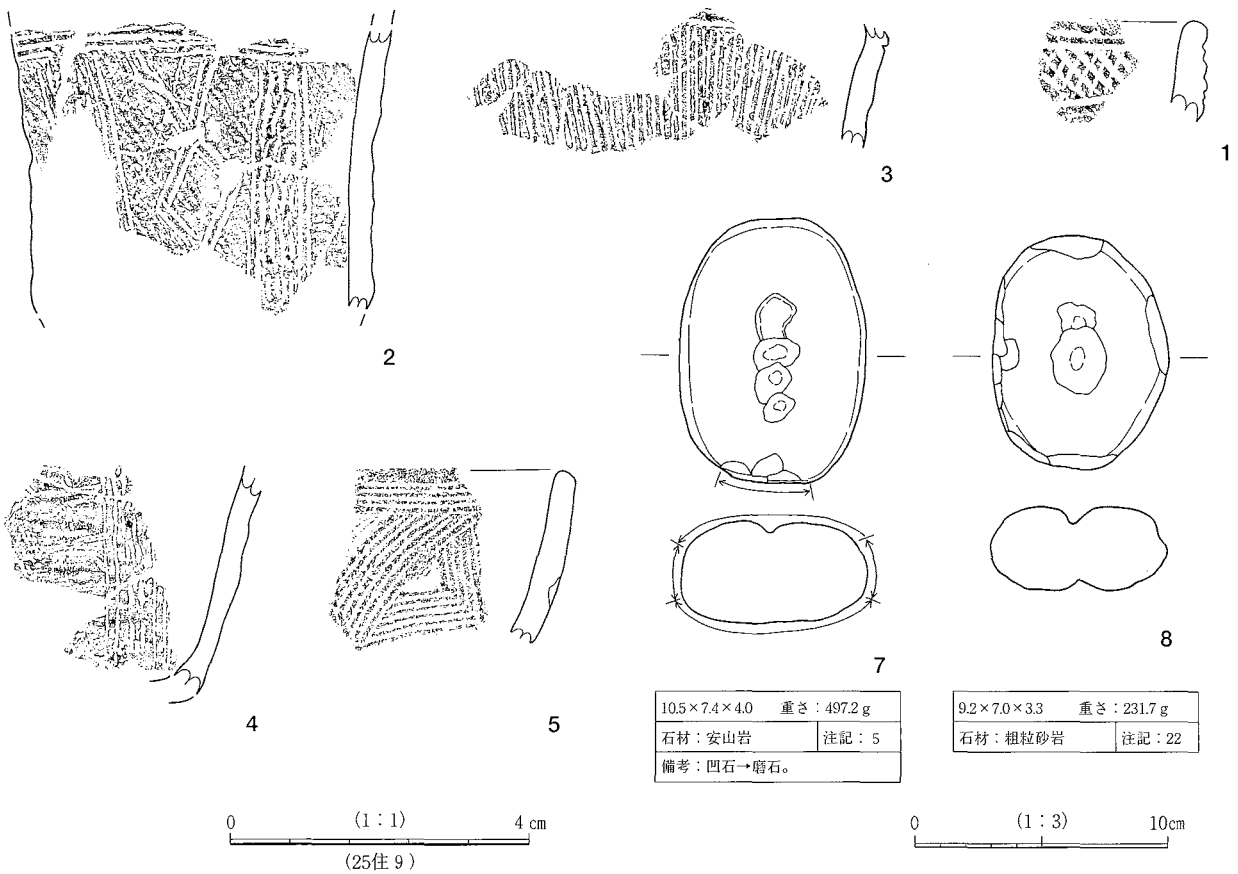
第234図 24号住居跡出土遺物②



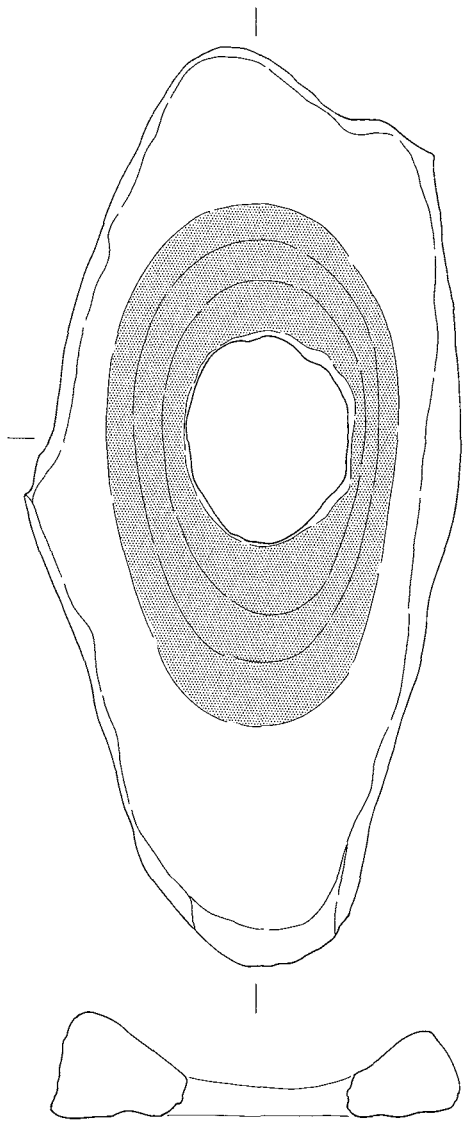
第235図 25号住居跡出土遺物①



第236図 25号住居跡出土遺物②

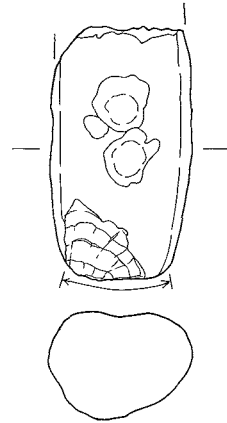


第237図 26号住居跡出土遺物①

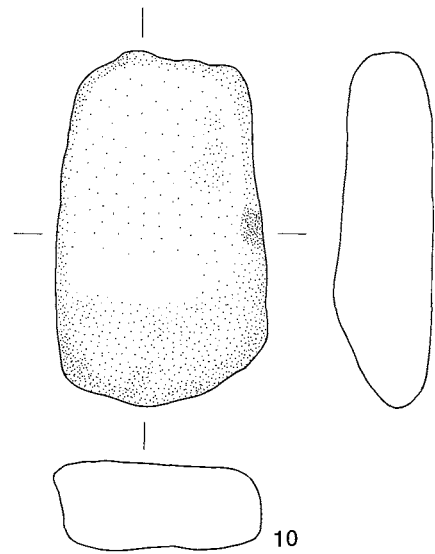


36.2×16.4×4.5 重さ：3,590 g
 石材：緑泥片岩 注記：30
 備考：21×11cmの楕円形範囲がよく磨られ、中央部に8.1×6.5cmの穴。

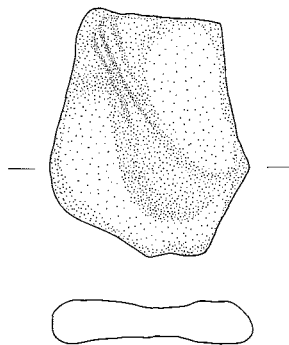
6



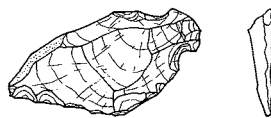
9
 -×5.5×4.3 残重：341.4 g
 石材：安山岩 注記：-



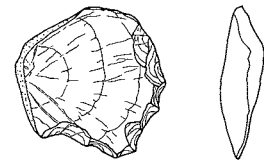
10
 14.2×8.5×3.6 重さ：527.2 g
 石材：粗粒砂岩 注記：-



11
 9.9×7.9×1.7 重さ：151.4 g
 石材：粗粒砂岩 注記：-



12
 4.3×7.6×0.9 重さ：26.3 g
 石材：頁岩 注記：34



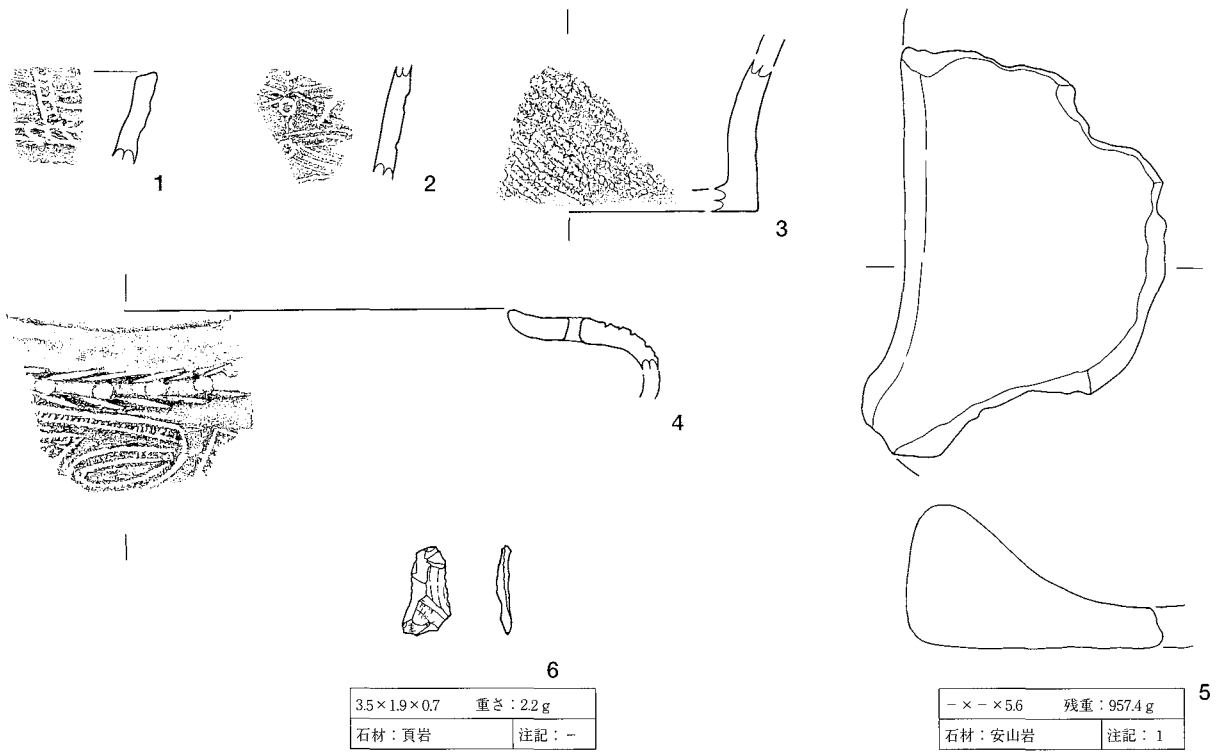
13
 6.0×6.0×1.6 重さ：55.1 g
 石材：頁岩 注記：-



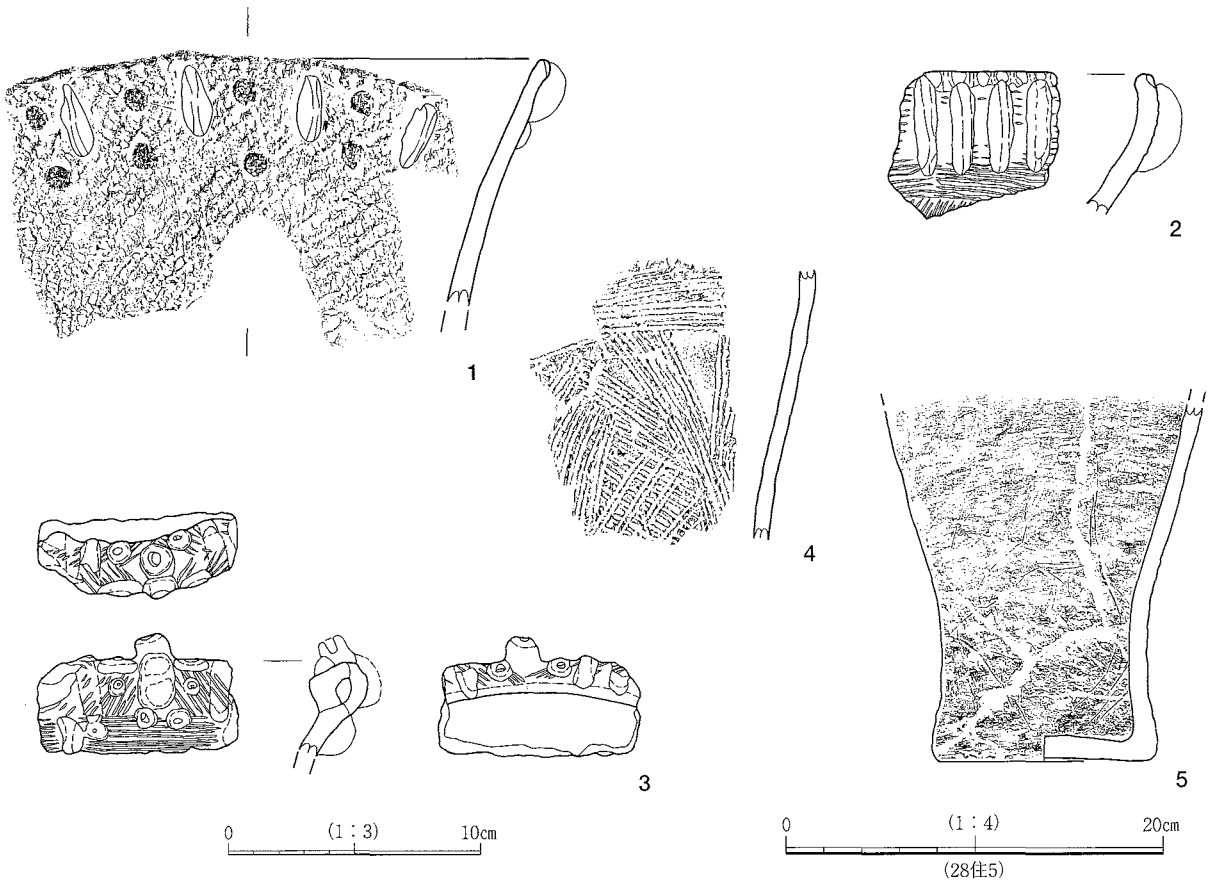
14
 4.1×1.8×0.9 重さ：4.8 g
 石材：黒曜石 注記：-

0 (1:3) 10cm

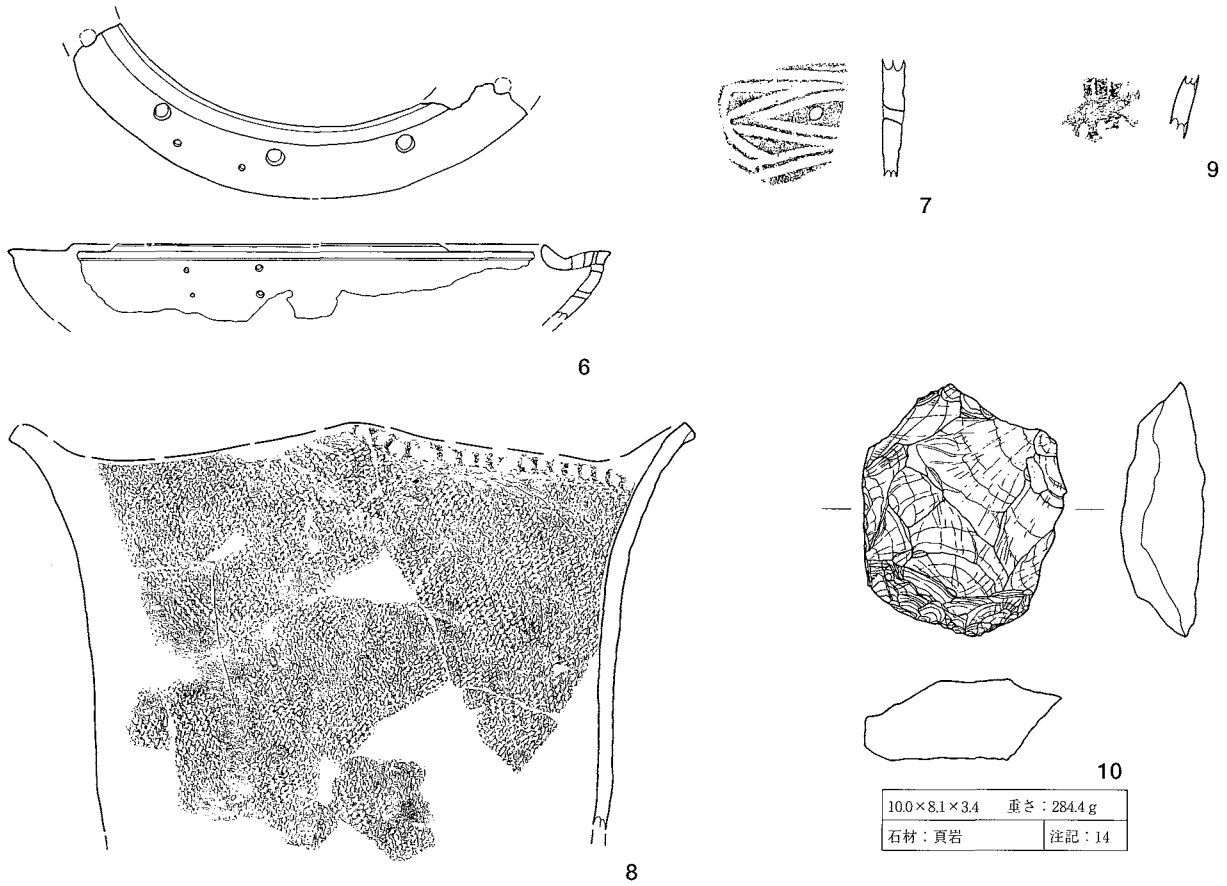
第238図 26号住居跡出土遺物②



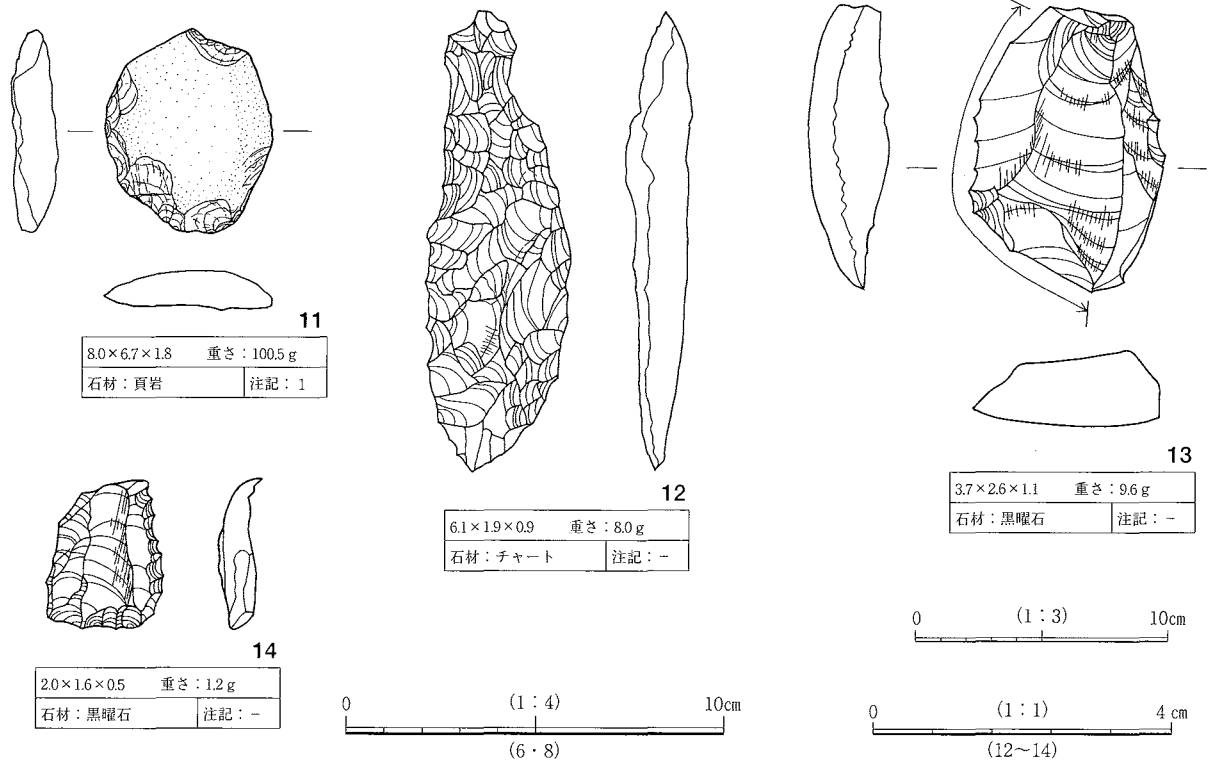
第239図 27号住居跡出土遺物



第240図 28号住居跡出土遺物①



10.0×8.1×3.4 重さ：284.4 g
 石材：頁岩 注記：14



8.0×6.7×1.8 重さ：100.5 g
 石材：頁岩 注記：1

6.1×1.9×0.9 重さ：8.0 g
 石材：チャート 注記：-

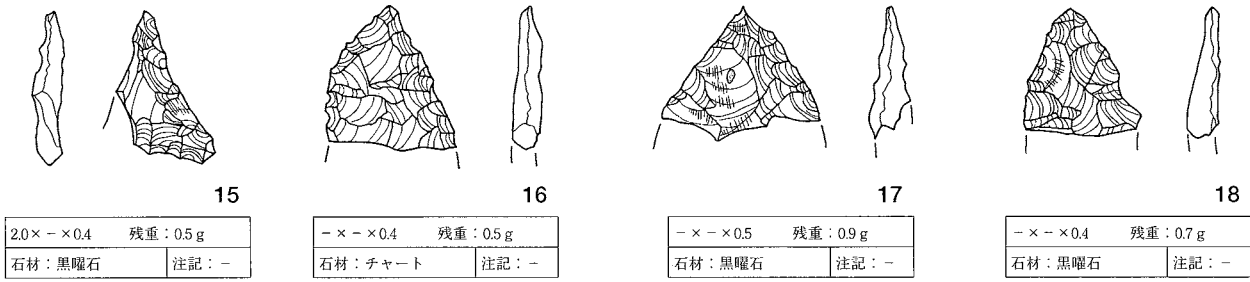
3.7×2.6×1.1 重さ：9.6 g
 石材：黒曜石 注記：-

2.0×1.6×0.5 重さ：1.2 g
 石材：黒曜石 注記：-

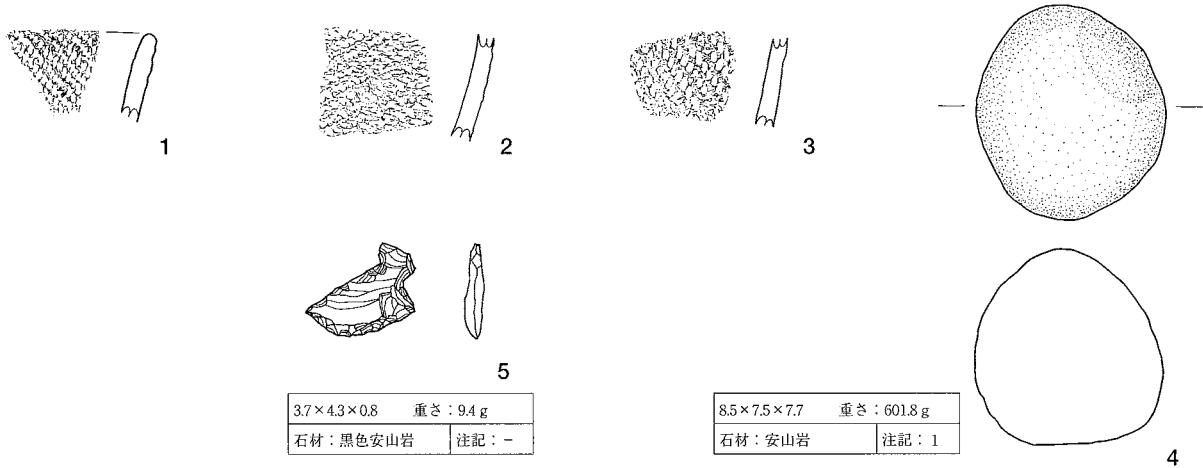
0 (1:4) 10cm
 (6・8)

0 (1:3) 10cm
 0 (1:1) 4cm
 (12~14)

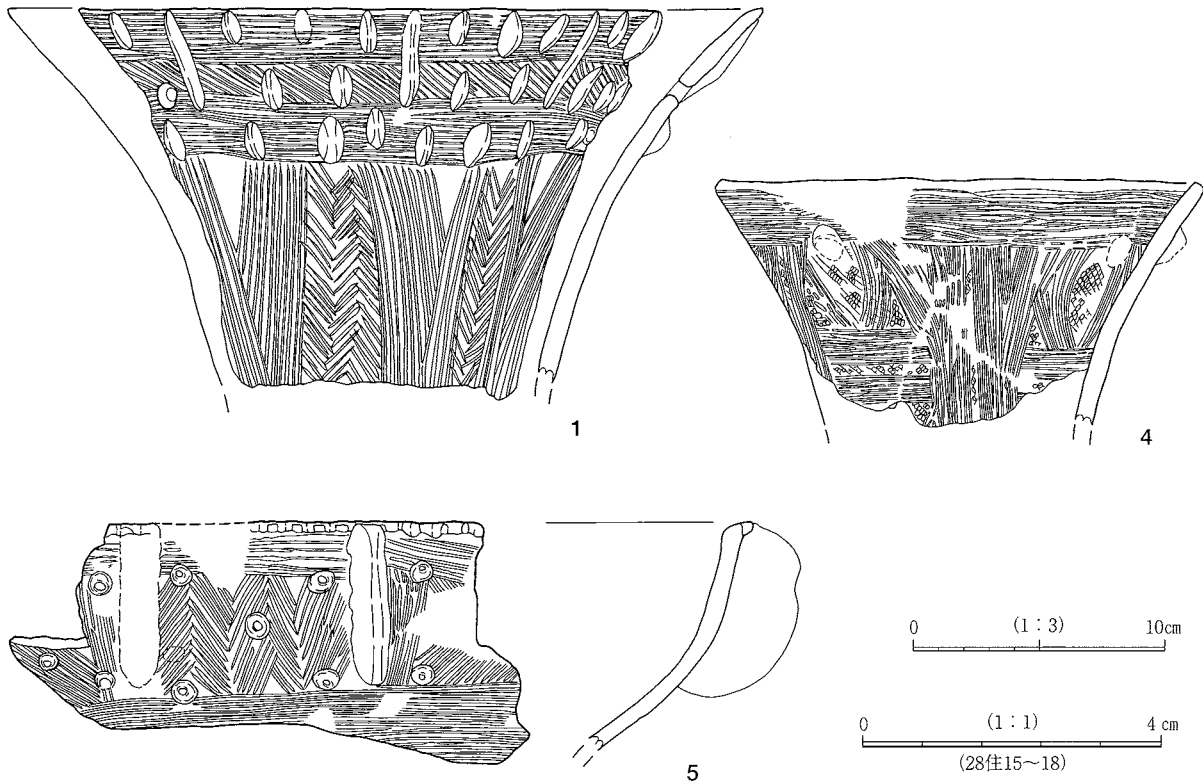
第241図 28号住居跡出土遺物②



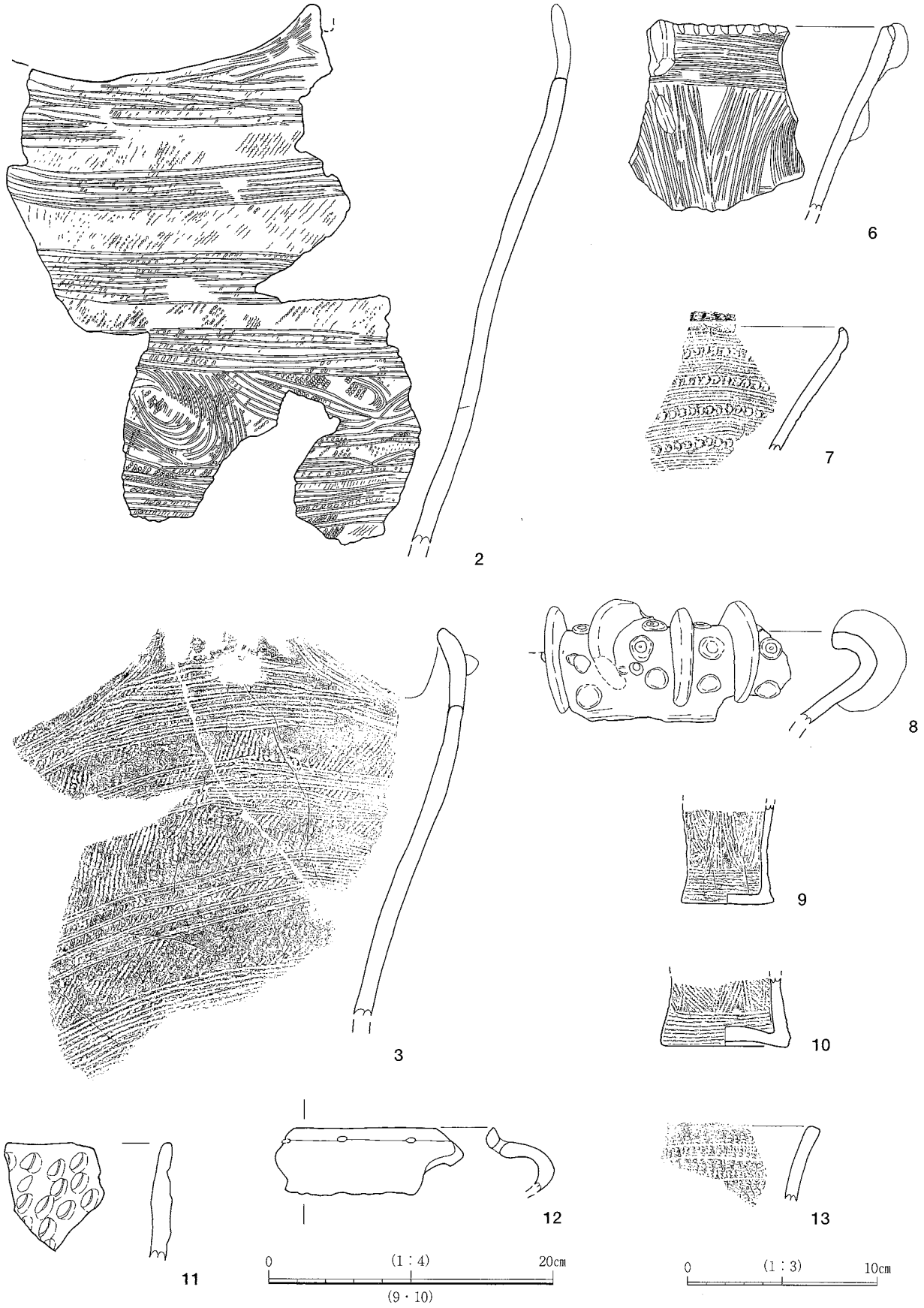
第242図 28号住居跡出土遺物③



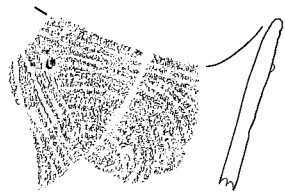
第243図 29号住居跡出土遺物



第244図 30号住居跡出土遺物①



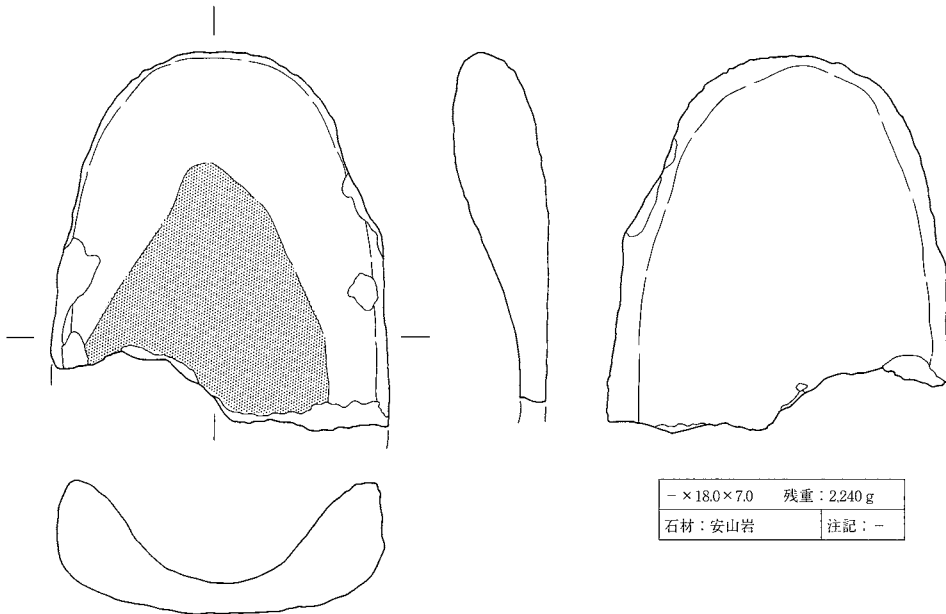
第245图 30号住居跡出土遺物②



14

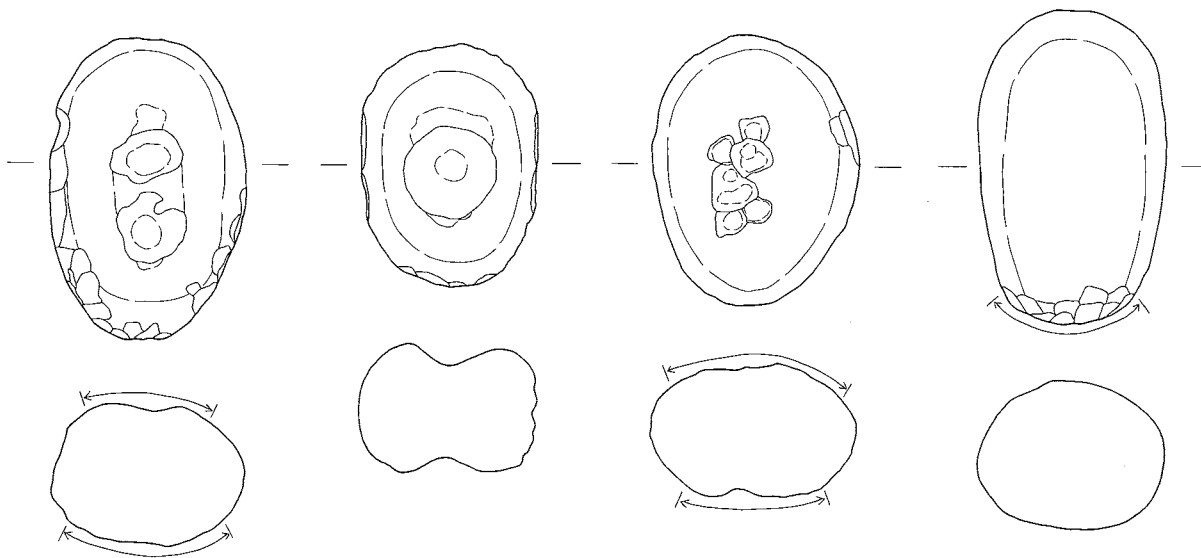


15



16

- × 18.0 × 7.0	残重: 2.240 g
石材: 安山岩	注記: -



17

18

19

20

11.9 × 7.8 × 5.5	重さ: 691.4 g
石材: 安山岩	注記: 8
備考: 凹石→磨石。側面に敲打痕あり。	

9.7 × 7.0 × 5.0	重さ: 440.3 g
石材: 安山岩	注記: 1
備考: 敲打痕あり。	

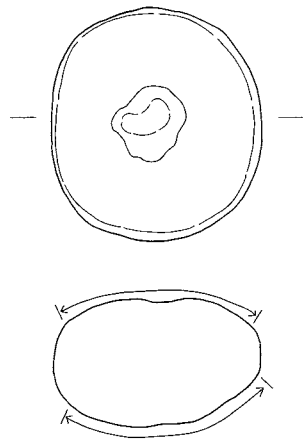
10.7 × 8.2 × 5.2	重さ: 575.3 g
石材: 安山岩	注記: 9
備考: 凹石→磨石。	

12.5 × 7.4 × 5.9	重さ: 745.0 g
石材: 安山岩	注記: 28

0 (1:4) 20cm
(16)

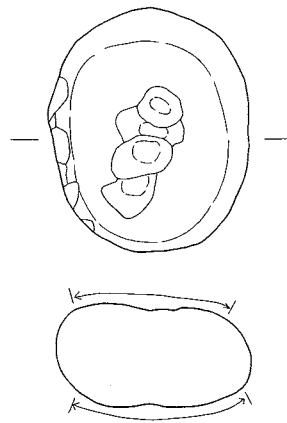
0 (1:3) 10cm

第246図 30号住居跡出土遺物③



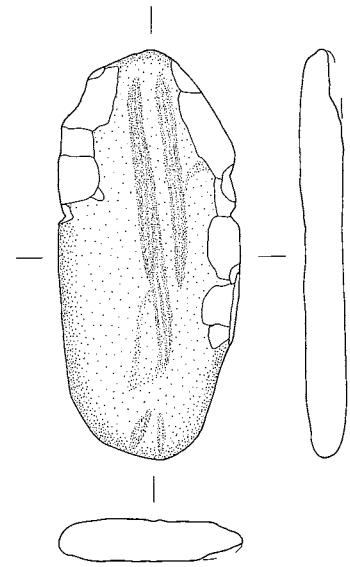
21

9.3×8.3×5.0	重さ：557.1 g
石材：安山岩	注記：18
備考：凹石→磨石。	



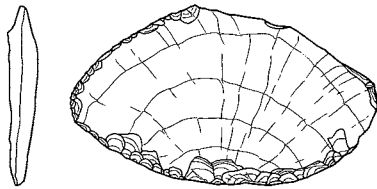
22

9.7×7.9×4.2	重さ：454.3 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。	



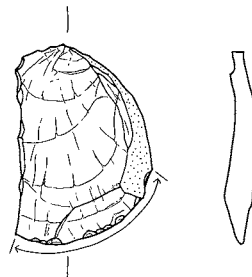
23

16.1×7.2×1.8	残重：257.7 g
石材：粗粒砂岩	注記：-



24

7.0×12.1×1.2	重さ：95.4 g
石材：頁岩	注記：-



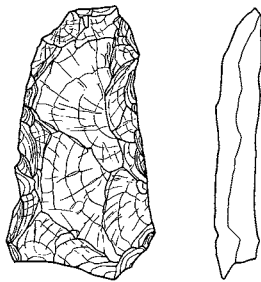
25

7.8×5.3×1.3	重さ：63.9 g
石材：頁岩	注記：-



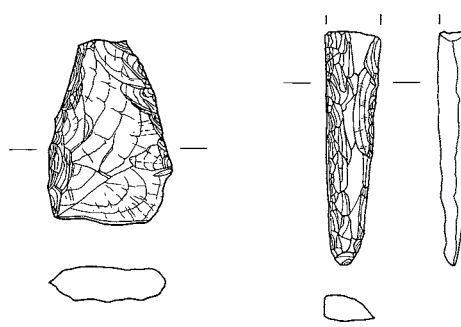
26

11.2×5.0×1.3	重さ：76.8 g
石材：頁岩	注記：-



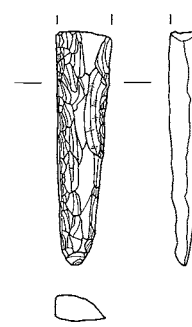
27

10.7×5.7×1.8	重さ：125.3 g
石材：頁岩	注記：-



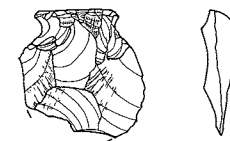
28

7.3×4.9×1.6	重さ：60.5 g
石材：頁岩	注記：-



29

-×2.2×1.1	残重：30.0 g
石材：頁岩	注記：-



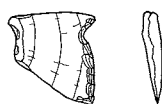
30

-×5.0×1.3	残重：25.1 g
石材：珉質頁岩	注記：6



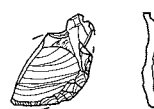
31

5.4×5.7×1.3	重さ：31.5 g
石材：頁岩	注記：-



32

3.6×3.4×0.7	重さ：8.3 g
石材：黒色安山岩	注記：-

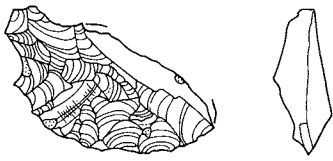


33

-×-×0.6	残重：5.1 g
石材：珉質頁岩	注記：-

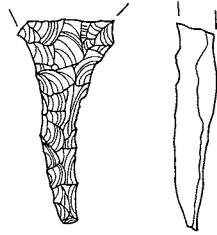
0 (1:3) 10cm

第247図 30号住居跡出土遺物④



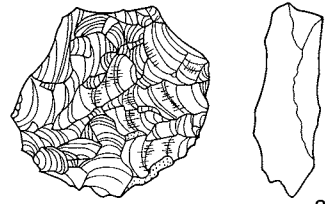
34

1.9×2.8×0.8	残重：8.3 g
石材：黒曜石	注記：-



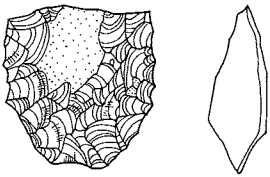
35

-×-×0.6	残重：1.3 g
石材：黒曜石	注記：-



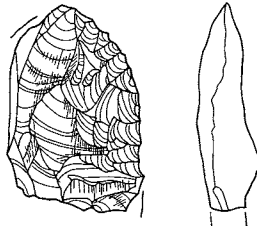
36

2.5×2.7×0.9	重さ：5.2 g
石材：黒曜石	注記：-



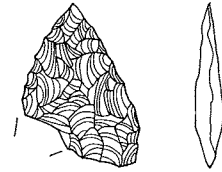
37

2.2×2.0×0.8	重さ：2.9 g
石材：黒曜石	注記：-



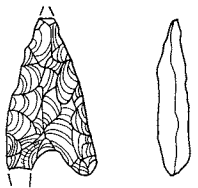
38

-×-×0.8	残重：3.8 g
石材：黒曜石	注記：-



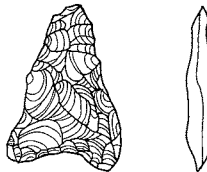
39

2.2×-×0.4	残重：0.9 g
石材：黒曜石	注記：-



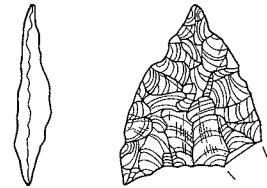
40

-×1.2×0.5	残重：0.7 g
石材：黒曜石	注記：-



41

2.2×1.5×0.3	重さ：0.8 g
石材：黒曜石	注記：-



42

2.3×-×0.5	残重：1.1 g
石材：黒曜石	注記：-



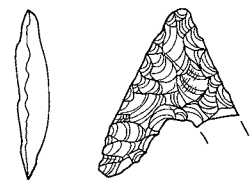
43

1.5×1.5×0.3	重さ：0.5 g
石材：黒曜石	注記：-



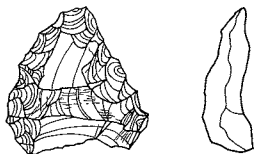
44

1.3×-×0.3	残重：0.2 g
石材：黒曜石	注記：-



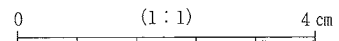
45

2.2×-×0.4	残重：0.8 g
石材：黒曜石	注記：-

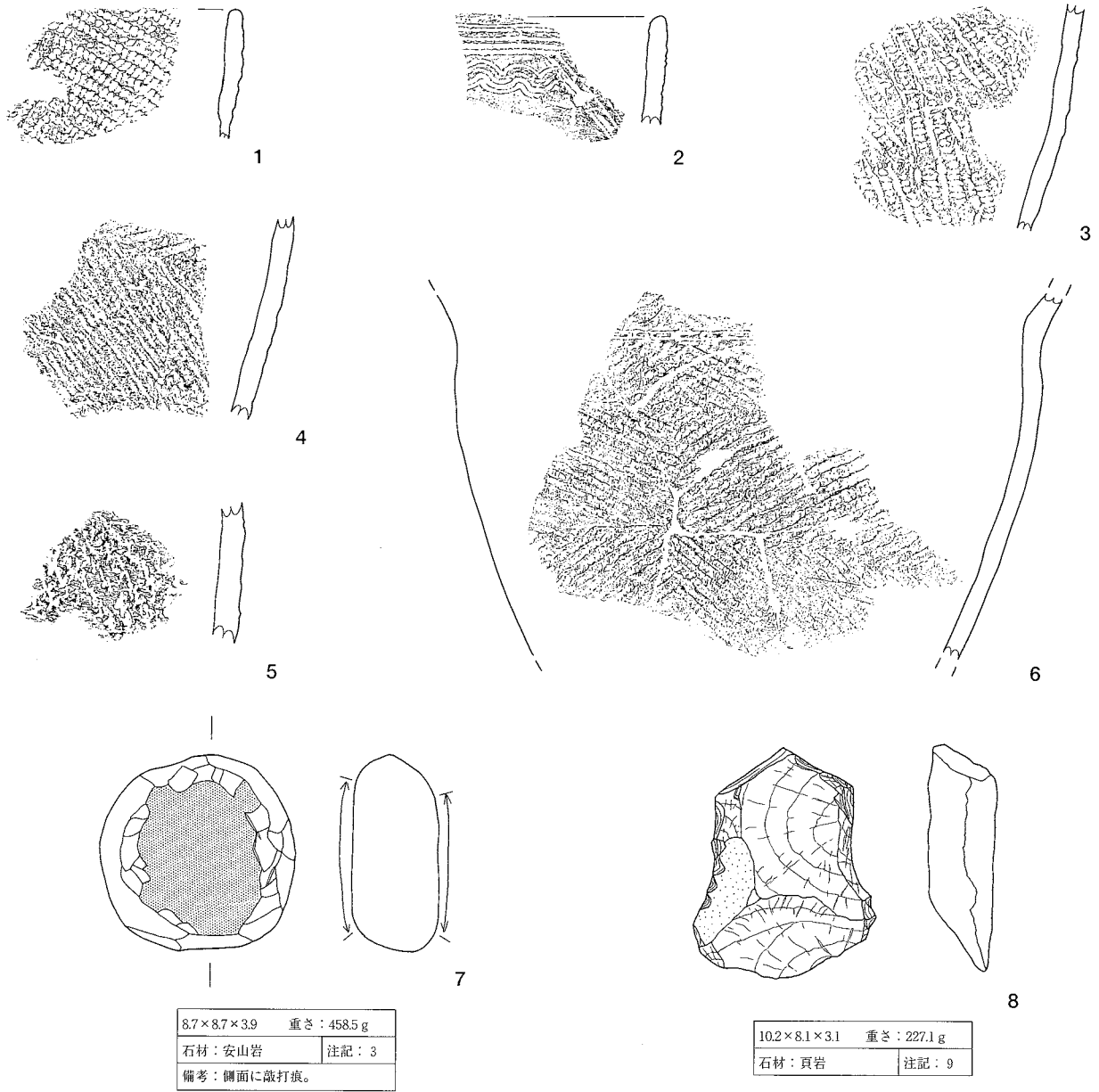


46

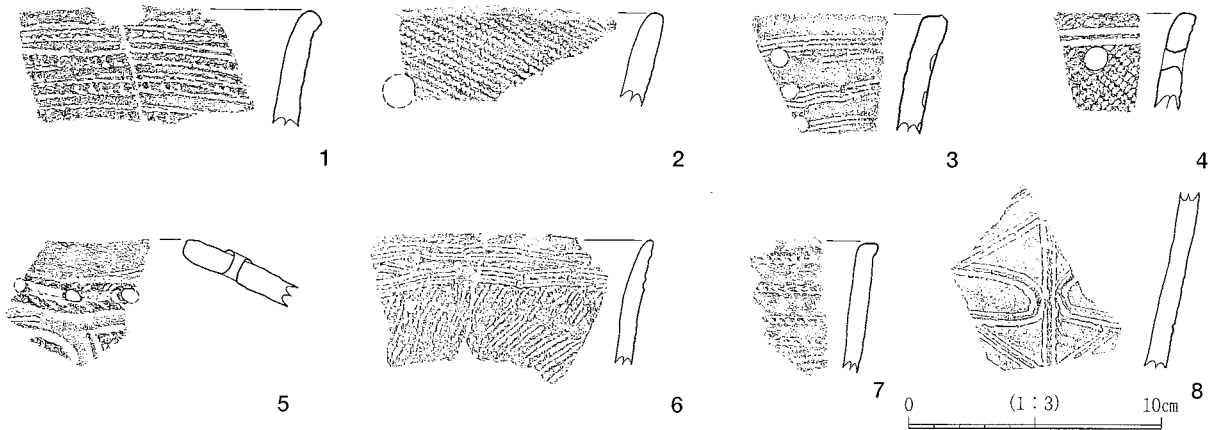
2.0×1.9×0.6	重さ：1.4 g
石材：黒曜石	注記：-



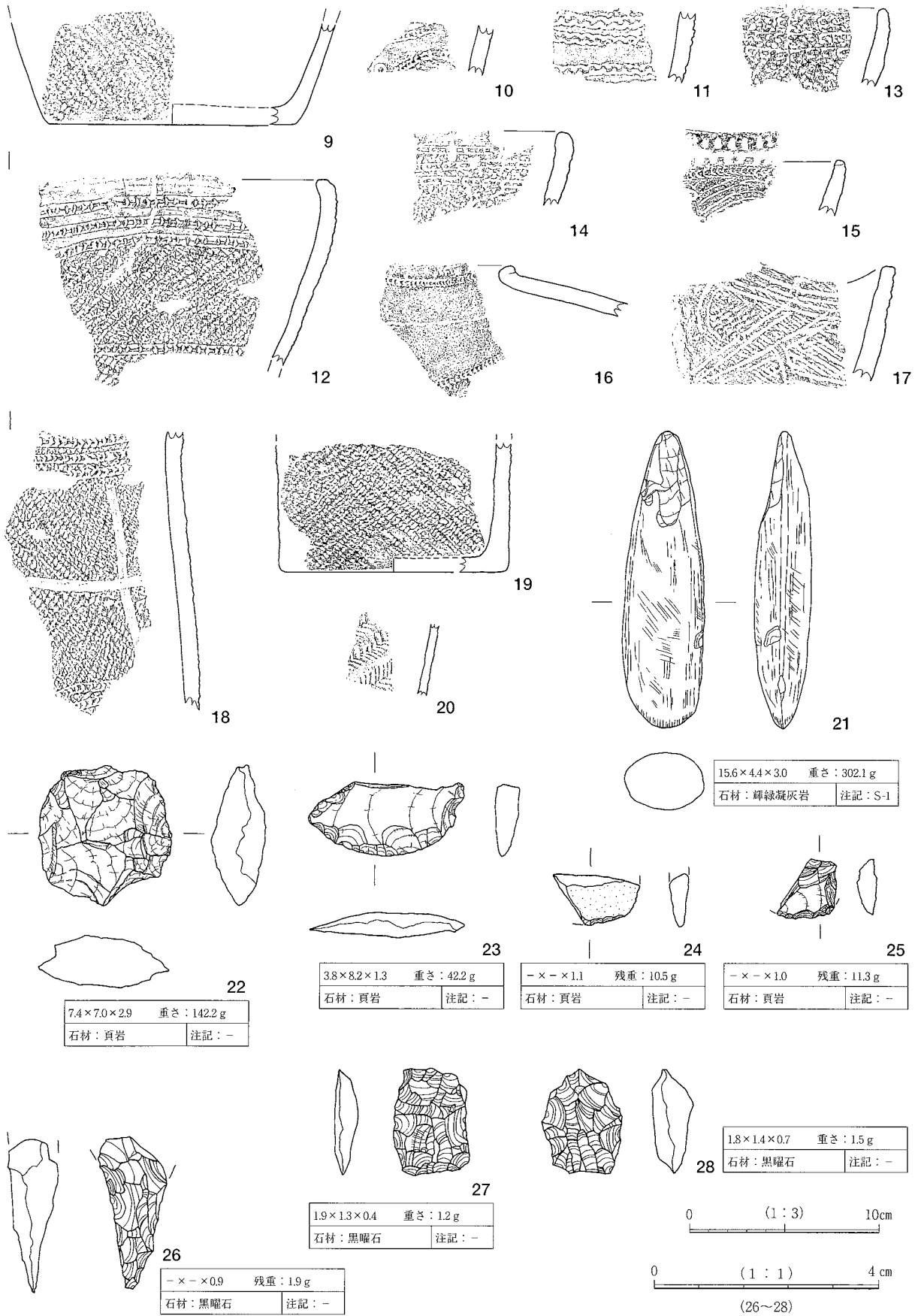
第248図 30号住居跡出土遺物⑤



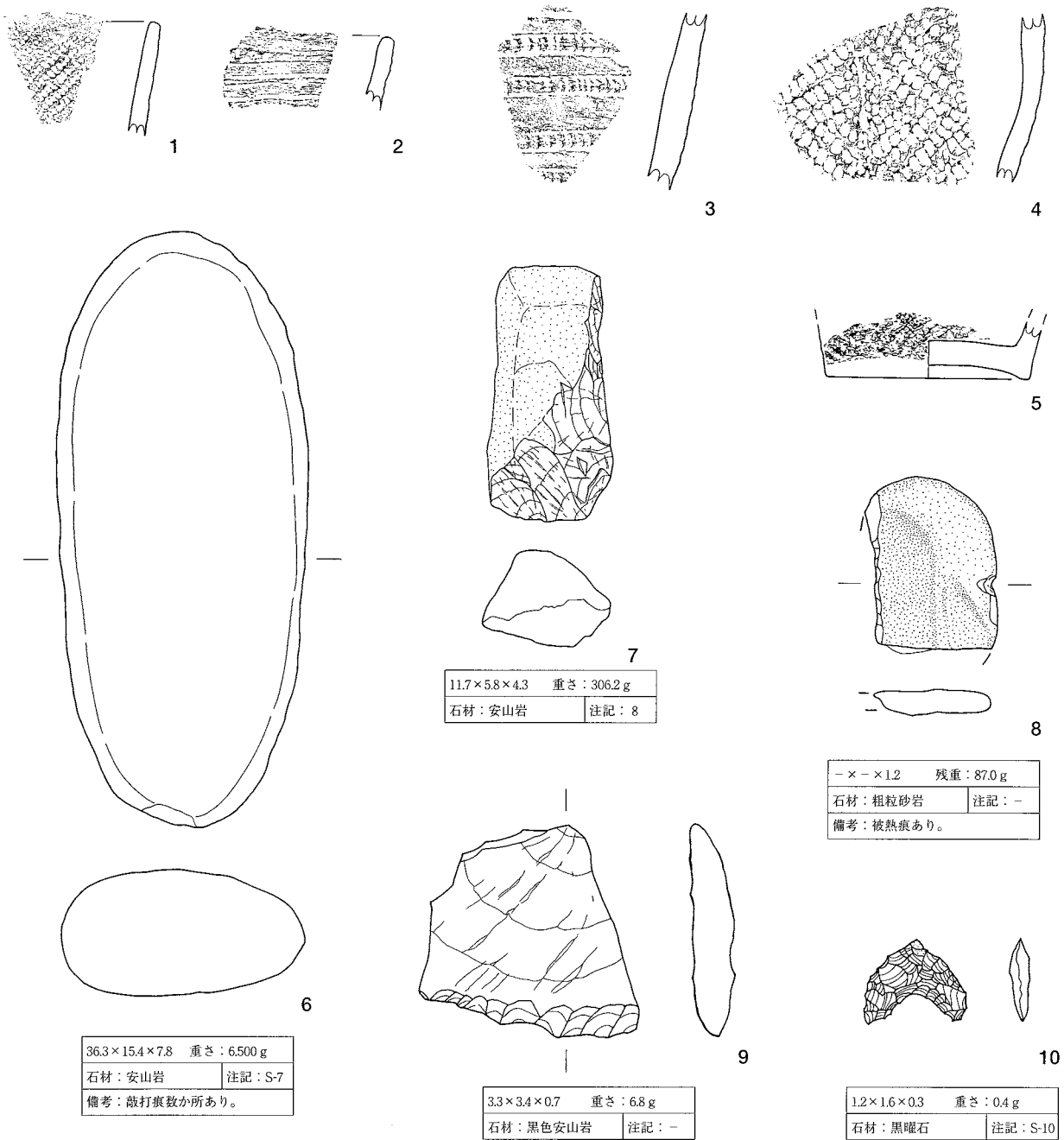
第249図 31号住居跡出土遺物



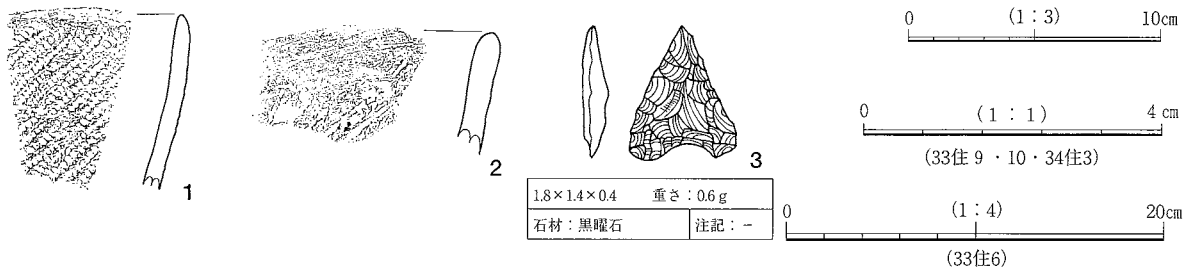
第250図 32号住居跡出土遺物①



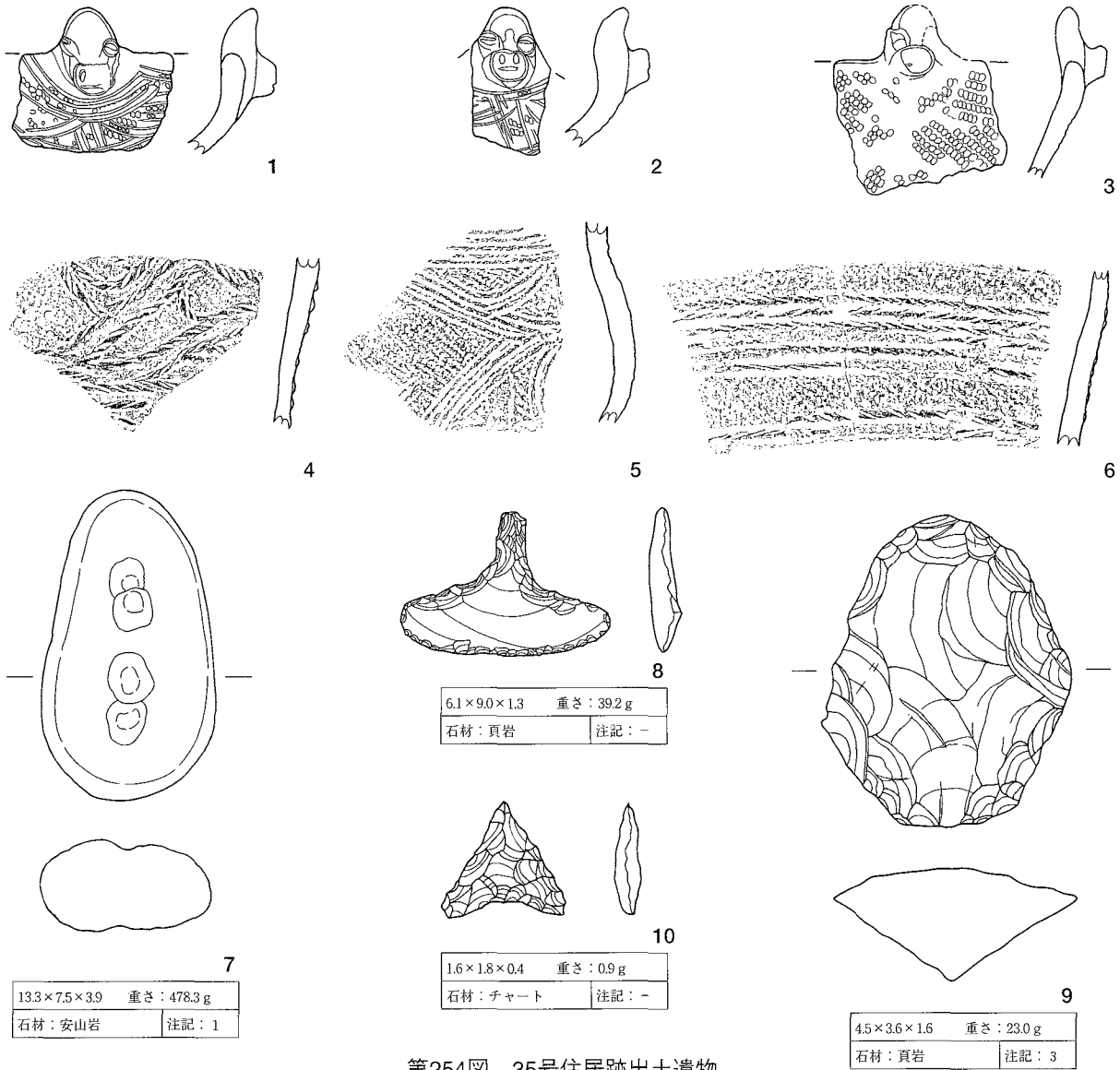
第251図 32号住居跡出土遺物②



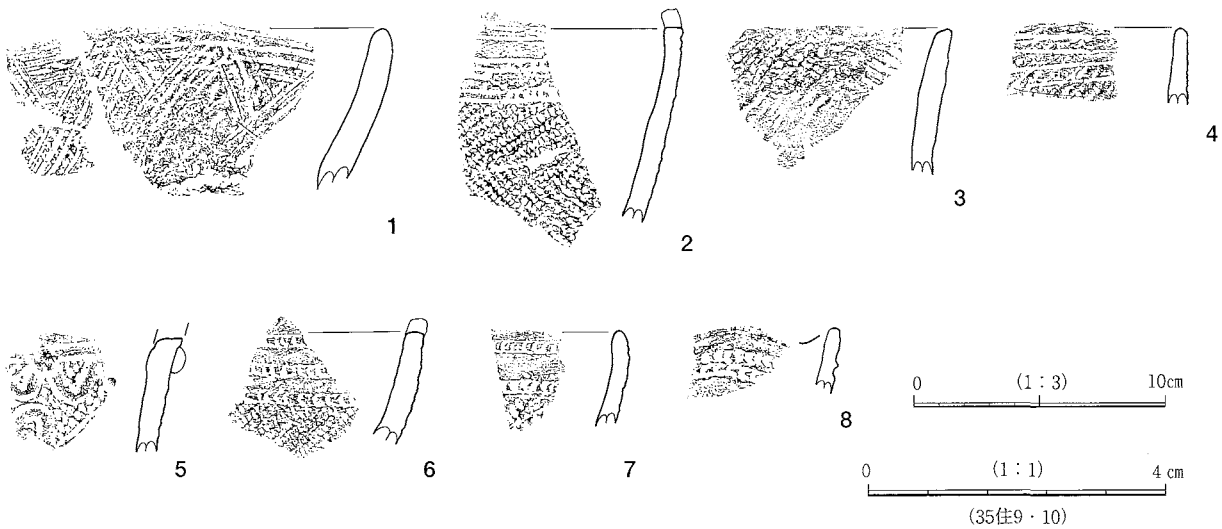
第252図 33号住居跡出土遺物



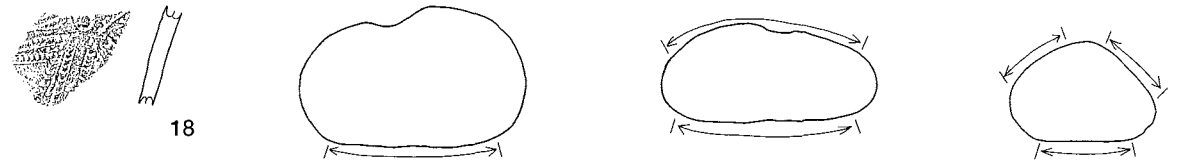
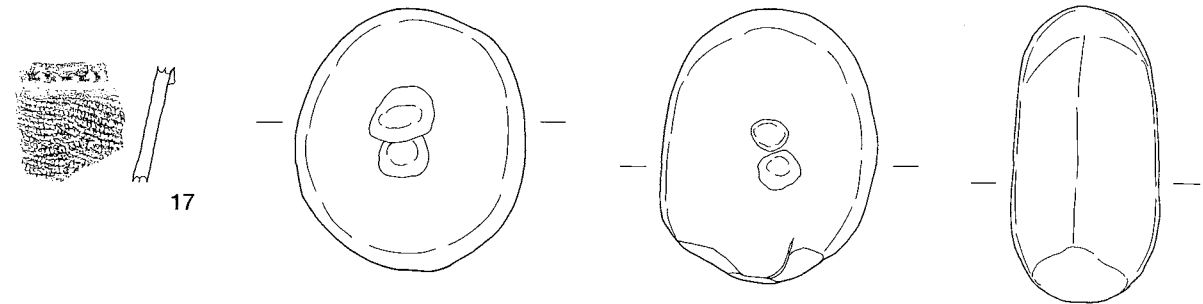
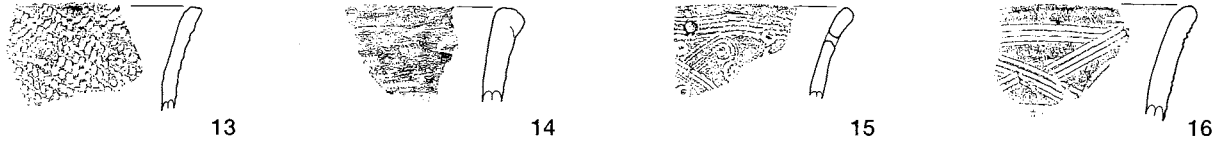
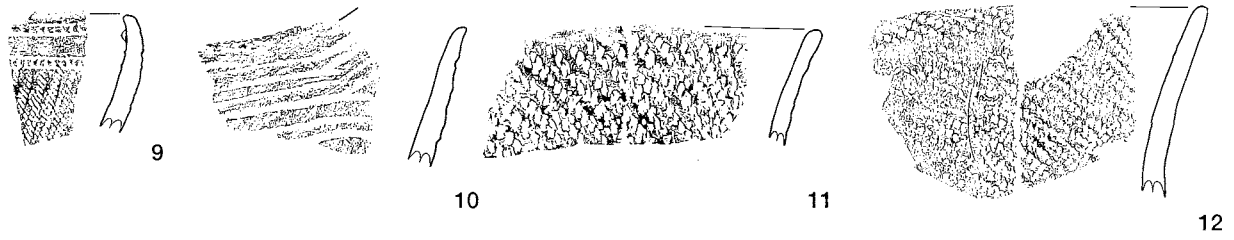
第253図 34号住居跡出土遺物



第254図 35号住居跡出土遺物



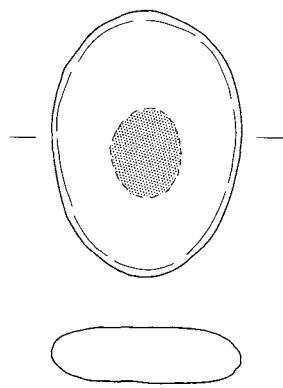
第255図 36号住居跡出土遺物①



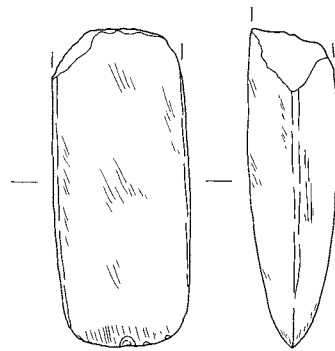
10.4×9.2×5.5 重さ：830.7 g
 石材：安山岩 注記：7
 備考：裏面は磨石に使用。裏面に赤褐色物(ベンガラ)が付着。

10.8×8.7×3.9 重さ：451.6 g
 石材：安山岩 注記：10
 備考：凹石→磨石。

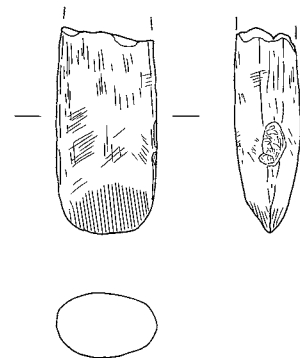
11.7×6.0×4.0 重さ：369.1 g
 石材：安山岩 注記：2



10.5×7.5×2.3 重さ：239.7 g
 石材：安山岩 注記：12
 備考：中央部にわずかな敲打痕あり。



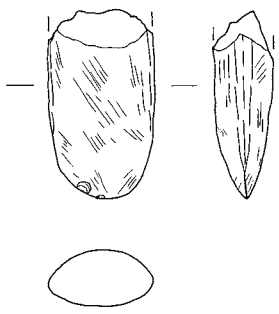
- ×5.5×3.7 残重：415.8 g
 石材：玢岩 注記：11



- ×4.0×2.6 残重：150.8 g
 石材：輝緑凝灰岩 注記：3

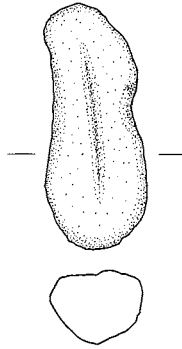
0 (1:3) 10cm

第256図 36号住居跡出土遺物②



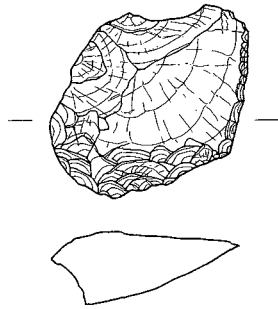
25

- × 4.2 × 2.5	残重 : 110.9 g
石材 : 輝緑凝灰岩	注記 : 5



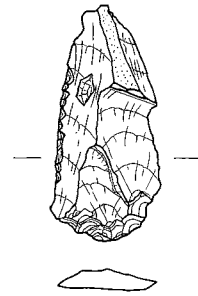
26

9.8 × 4.1 × 2.9	重さ : 122.1 g
石材 : 粗粒砂岩	注記 : -



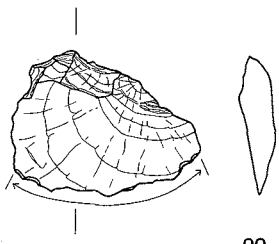
27

7.6 × 7.9 × 2.9	重さ : 153.9 g
石材 : 頁岩	注記 : -



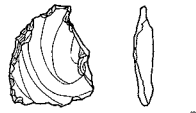
28

9.3 × 4.3 × 0.9	重さ : 34.4 g
石材 : 頁岩	注記 : -



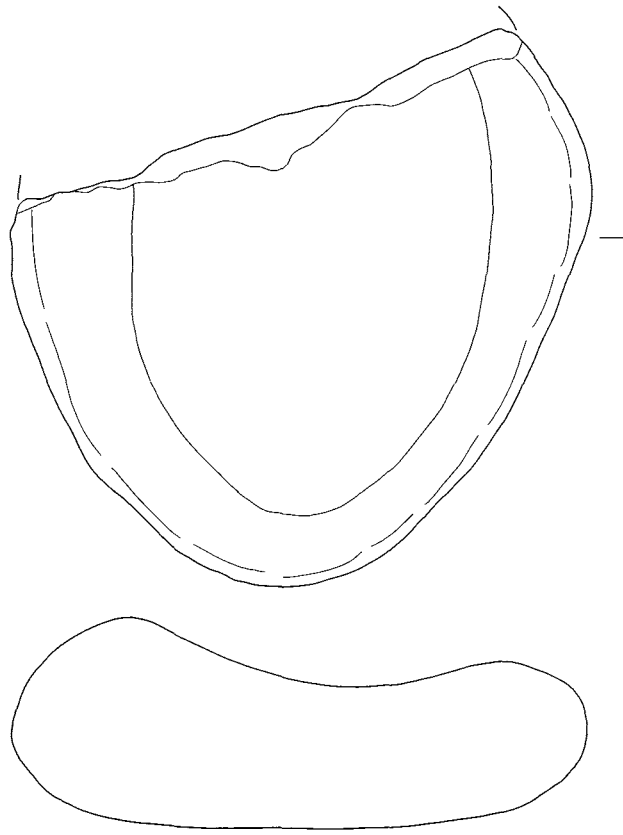
29

5.7 × 7.5 × 1.5	重さ : 49.4 g
石材 : 黒色安山岩	注記 : 14



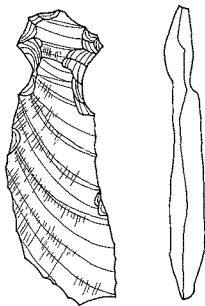
30

4.0 × 3.3 × 0.8	重さ : 10.0 g
石材 : チャート	注記 : -



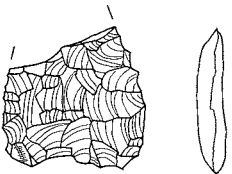
31

- × 31.1 × 11.2	残重 : 9.460 g
石材 : 安山岩	注記 : S-19
備考 : 被熱痕あり。	



32

3.9 × 1.4 × 0.5	重さ : 1.9 g
石材 : 黒曜石	注記 : -



33

- × 1.9 × 0.6	残重 : 1.4 g
石材 : 黒曜石	注記 : -



34

1.3 × 1.5 × 0.4	残重 : 0.4 g
石材 : 黒曜石	注記 : -

0 (1 : 3) 10cm

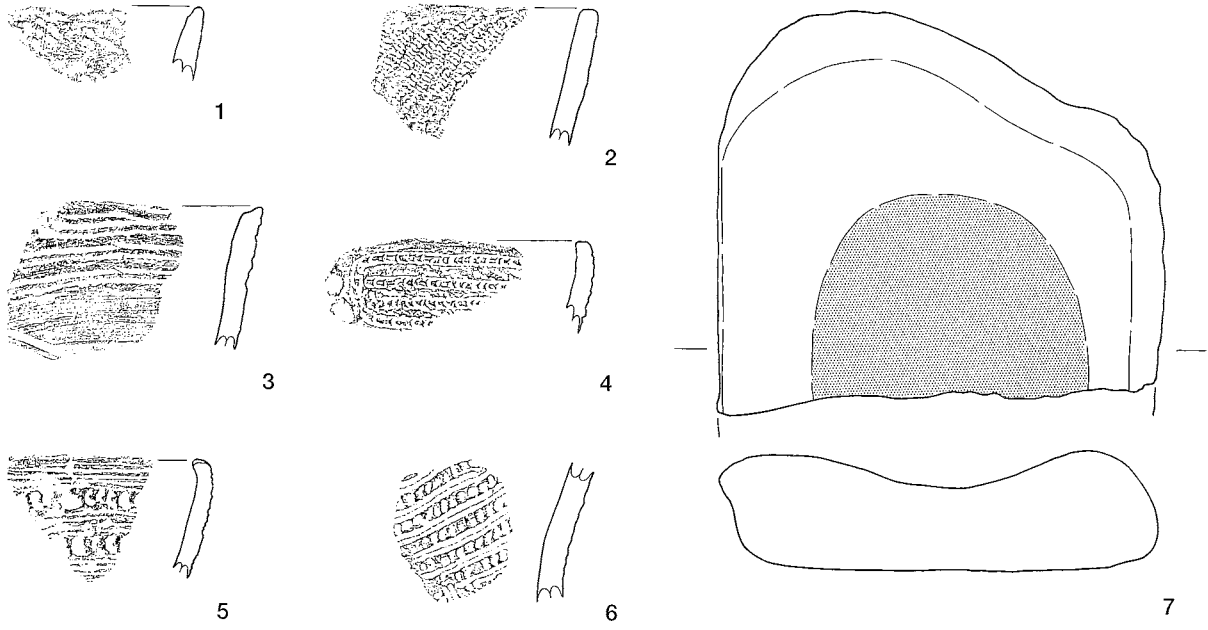
0 (1 : 1) 4 cm

(32 · 33 · 34)

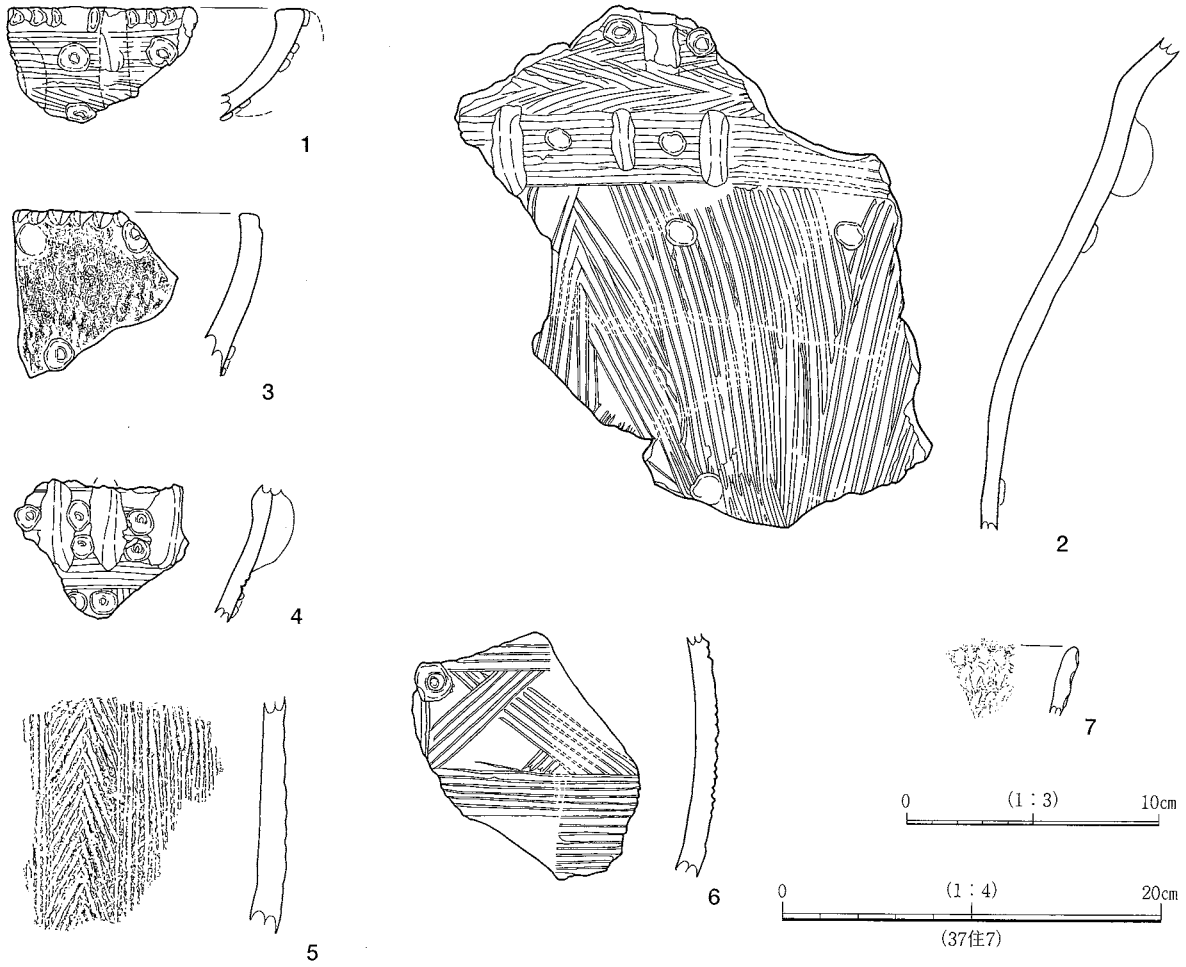
0 (1 : 4) 20cm

(31)

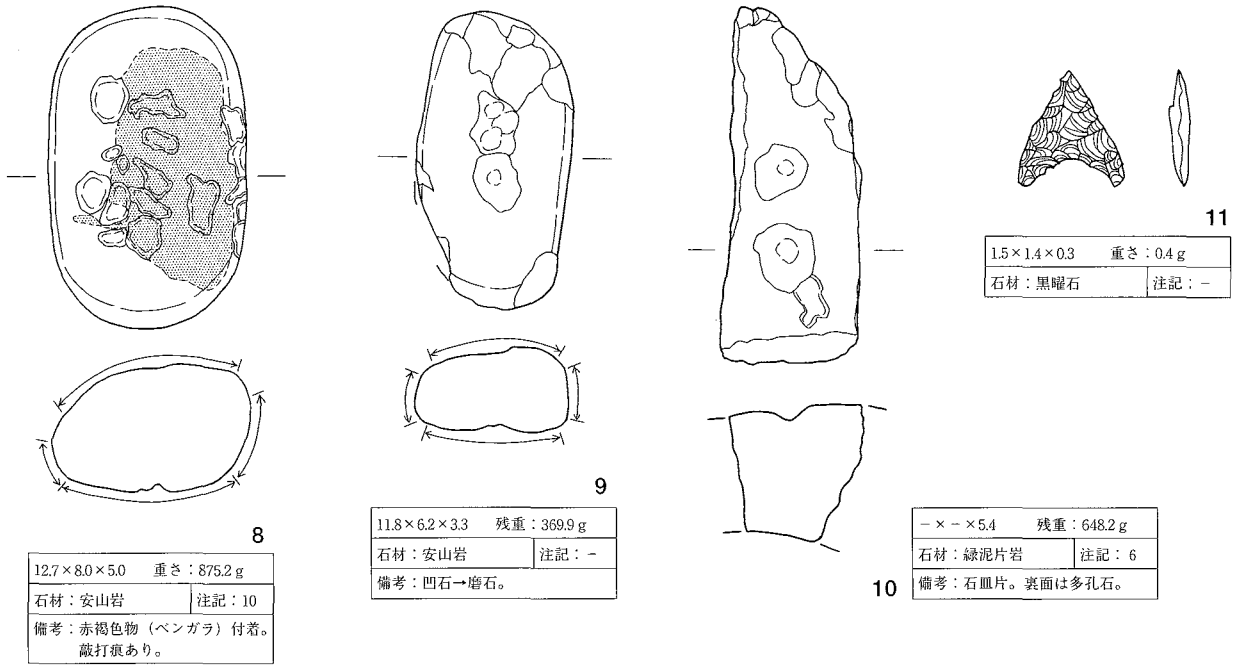
第257図 36号住居跡出土遺物③



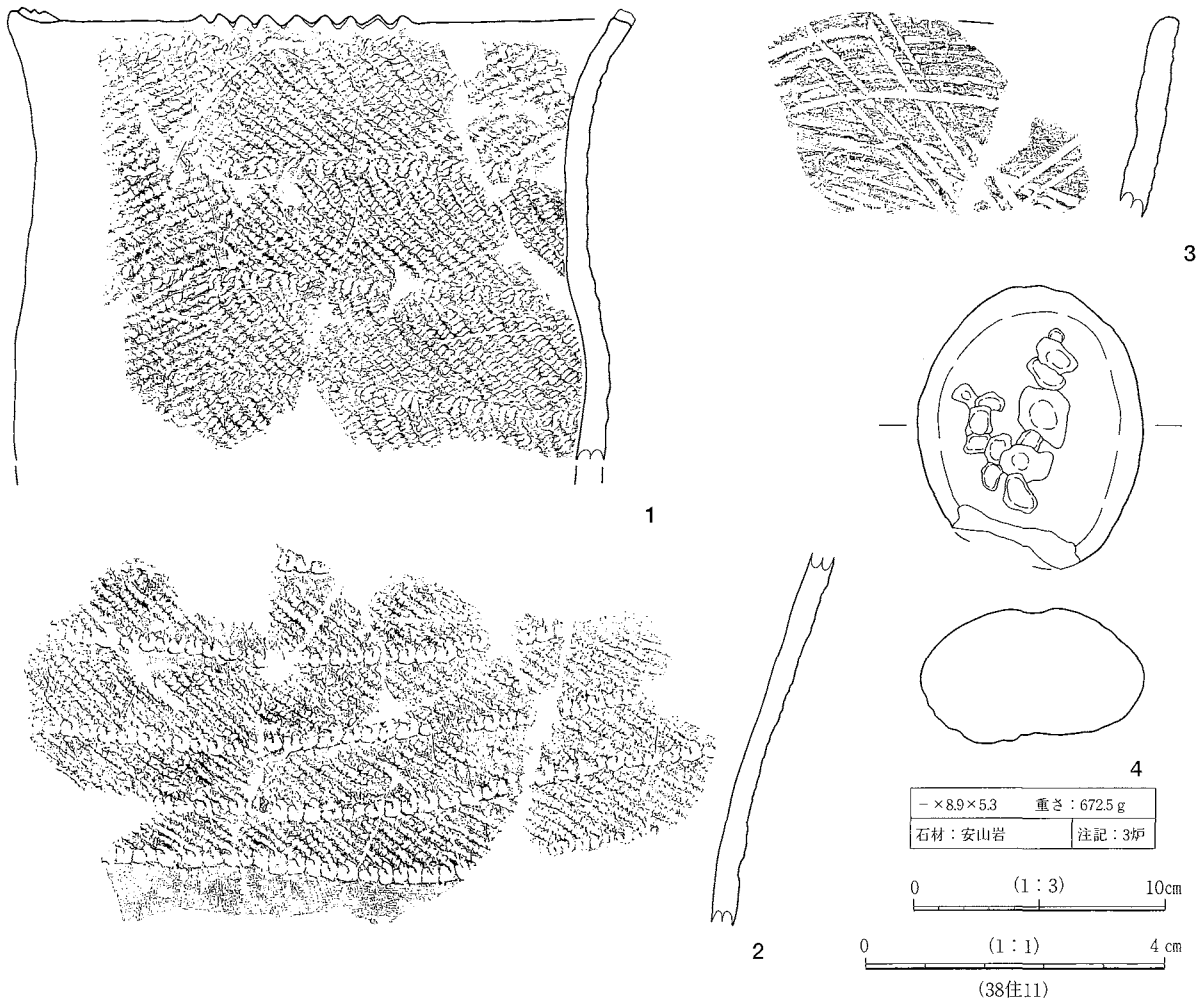
第258図 37号住居跡出土遺物



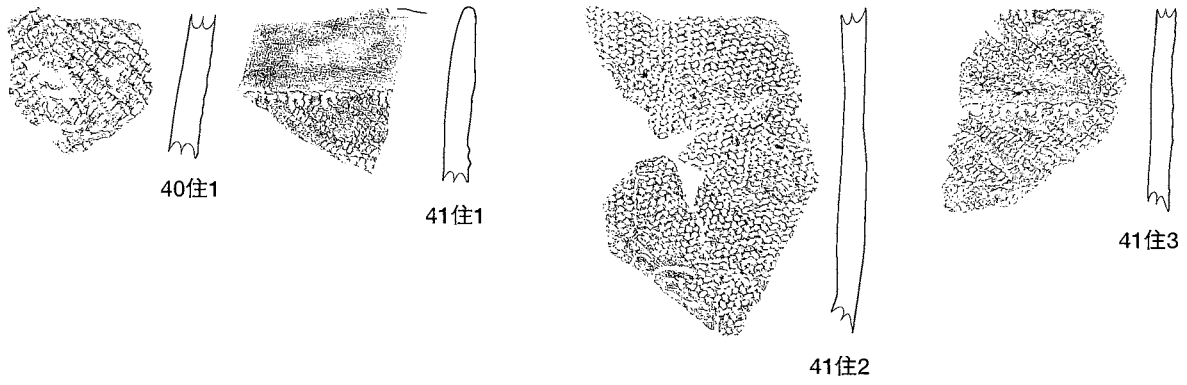
第259図 38号住居跡出土遺物①



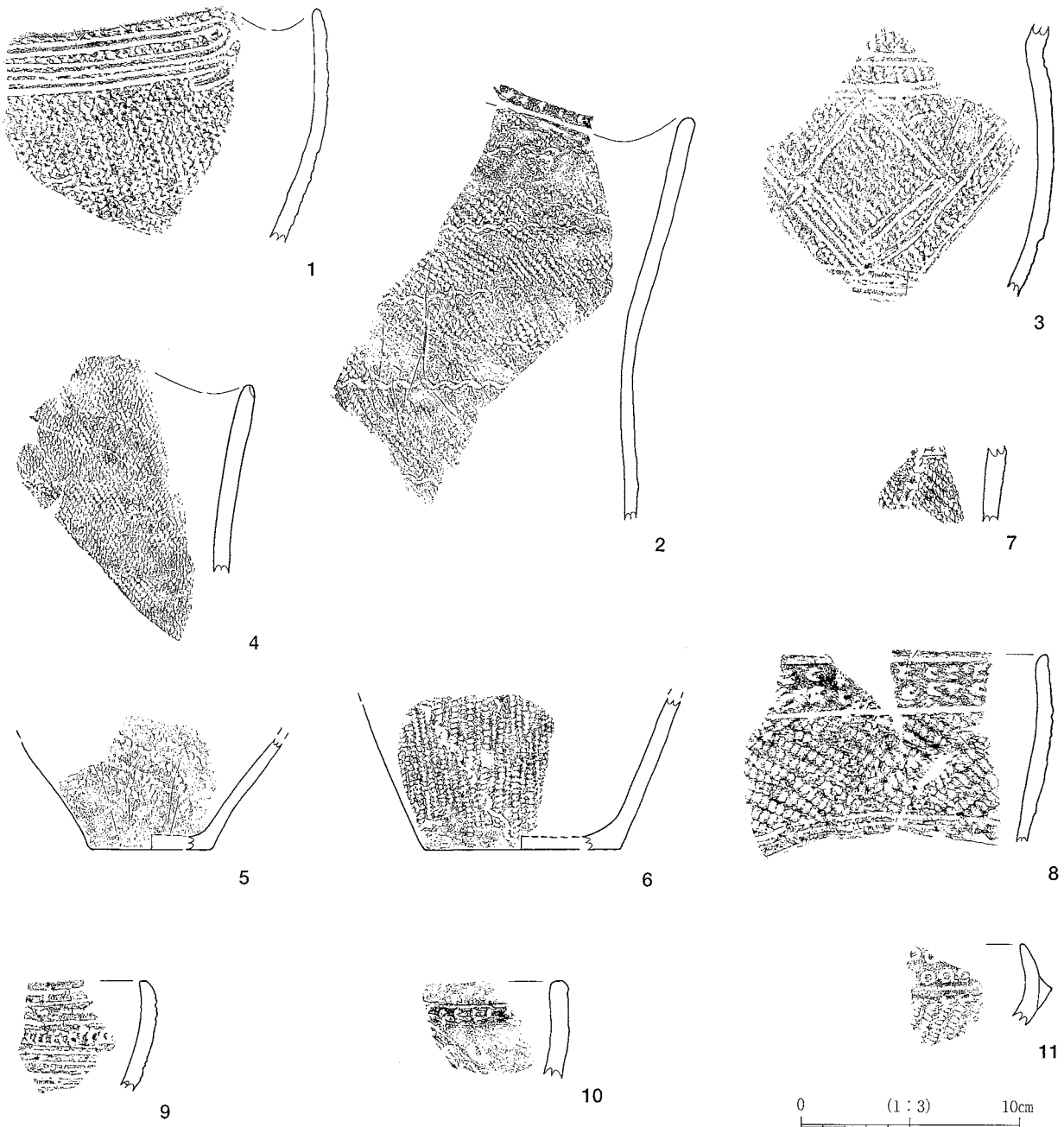
第260図 38号住居跡出土遺物②



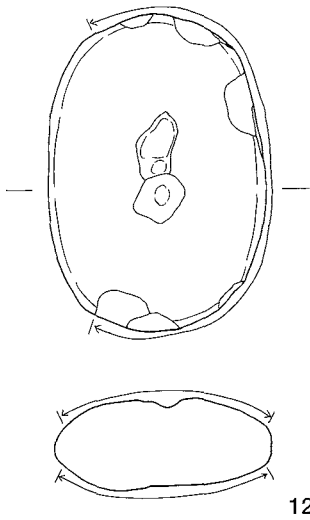
第261図 39号住居跡出土遺物



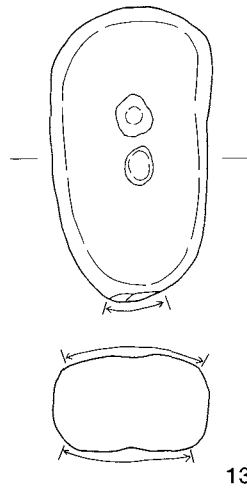
第262图 40号・41号住居跡出土遺物



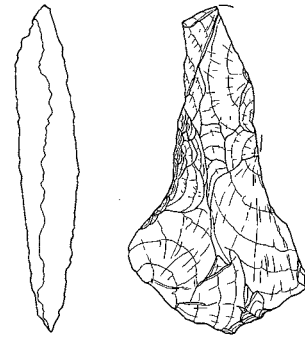
第263图 43号住居跡出土遺物①



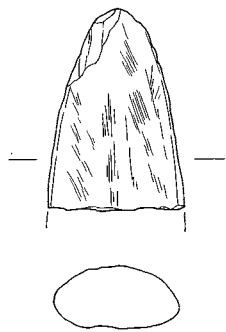
12.5×8.7×3.6	重さ：551.1 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。側面に敲打痕。	



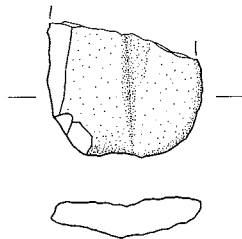
11.6×6.5×3.8	重さ：505.1 g
石材：安山岩	注記：2
備考：凹石→磨石。	



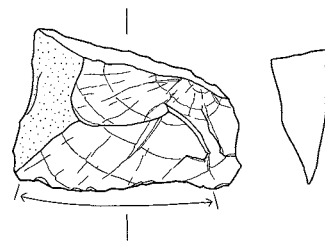
12.9×7.0×2.5	残重：145.8 g
石材：黒色安山岩	注記：6



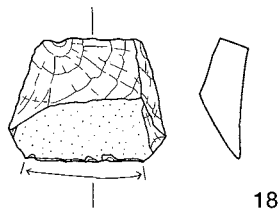
- × - × 2.5	残重：173.6 g
石材：蛇紋岩	注記：3



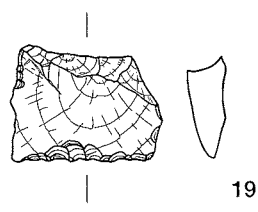
- × 6.2 × 1.6	残重：56.3 g
石材：粗粒砂岩	注記：-



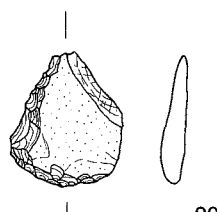
6.4×9.0×2.3	重さ：95.3 g
石材：硬砂岩	注記：-



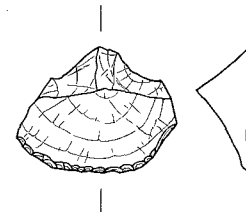
4.9×6.2×2.0	重さ：64.4 g
石材：安山岩	注記：8



4.6×5.9×1.5	重さ：40.8 g
石材：頁岩	注記：-



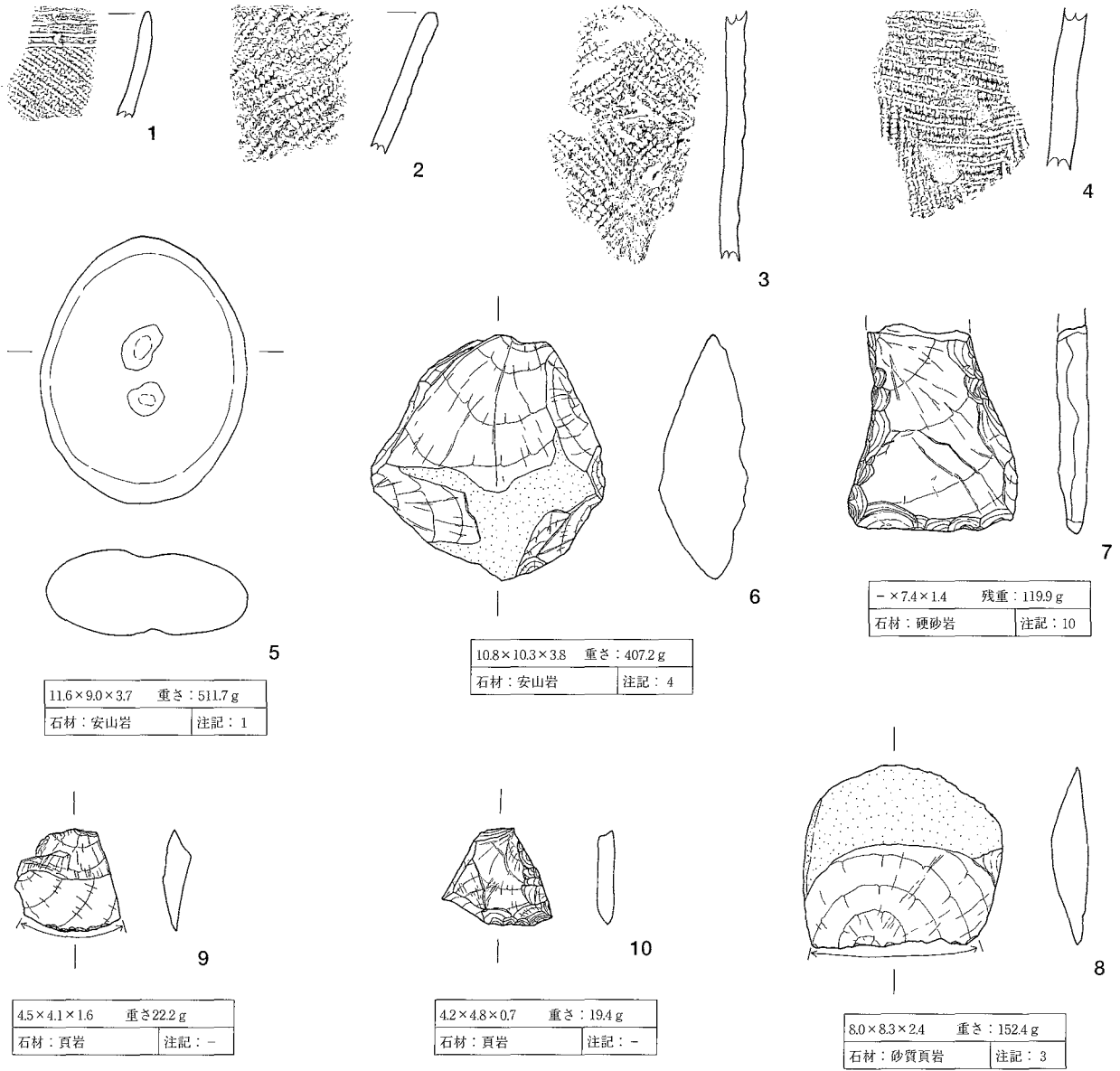
5.3×4.4×1.1	重さ：23.9 g
石材：頁岩	注記：-



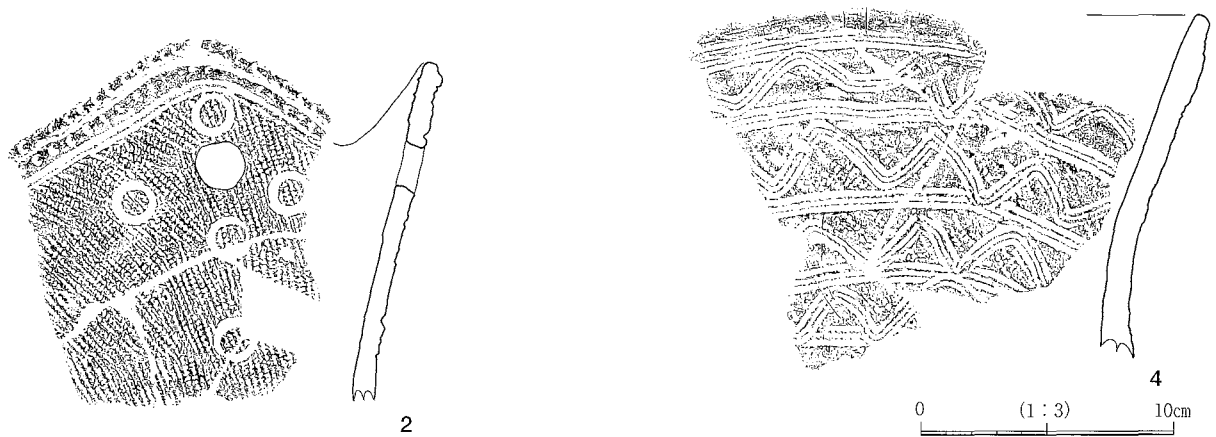
4.9×6.2×2.1	重さ：37.3 g
石材：頁岩	注記：-

0 (1:3) 10cm

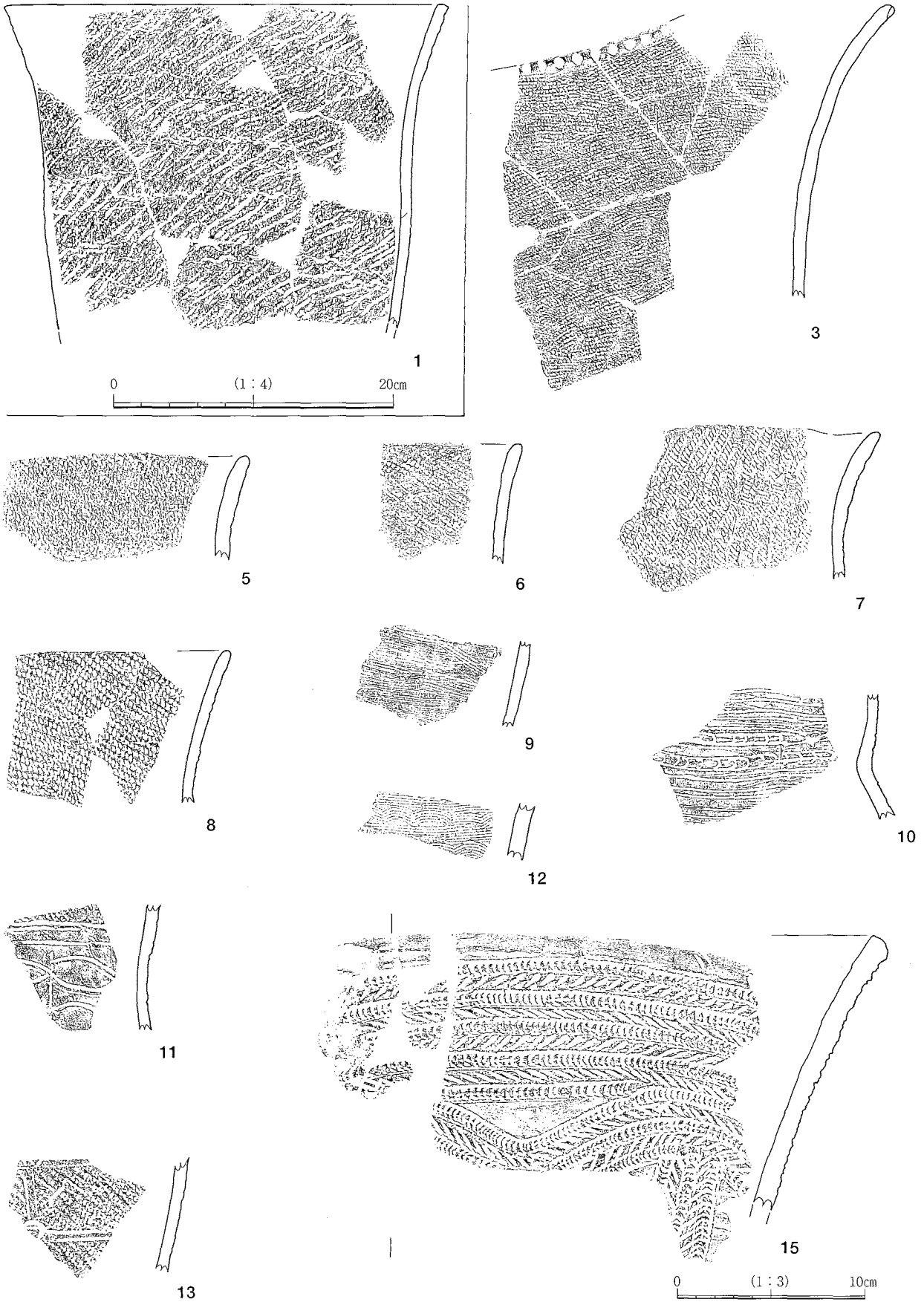
第264図 43号住居跡出土遺物②



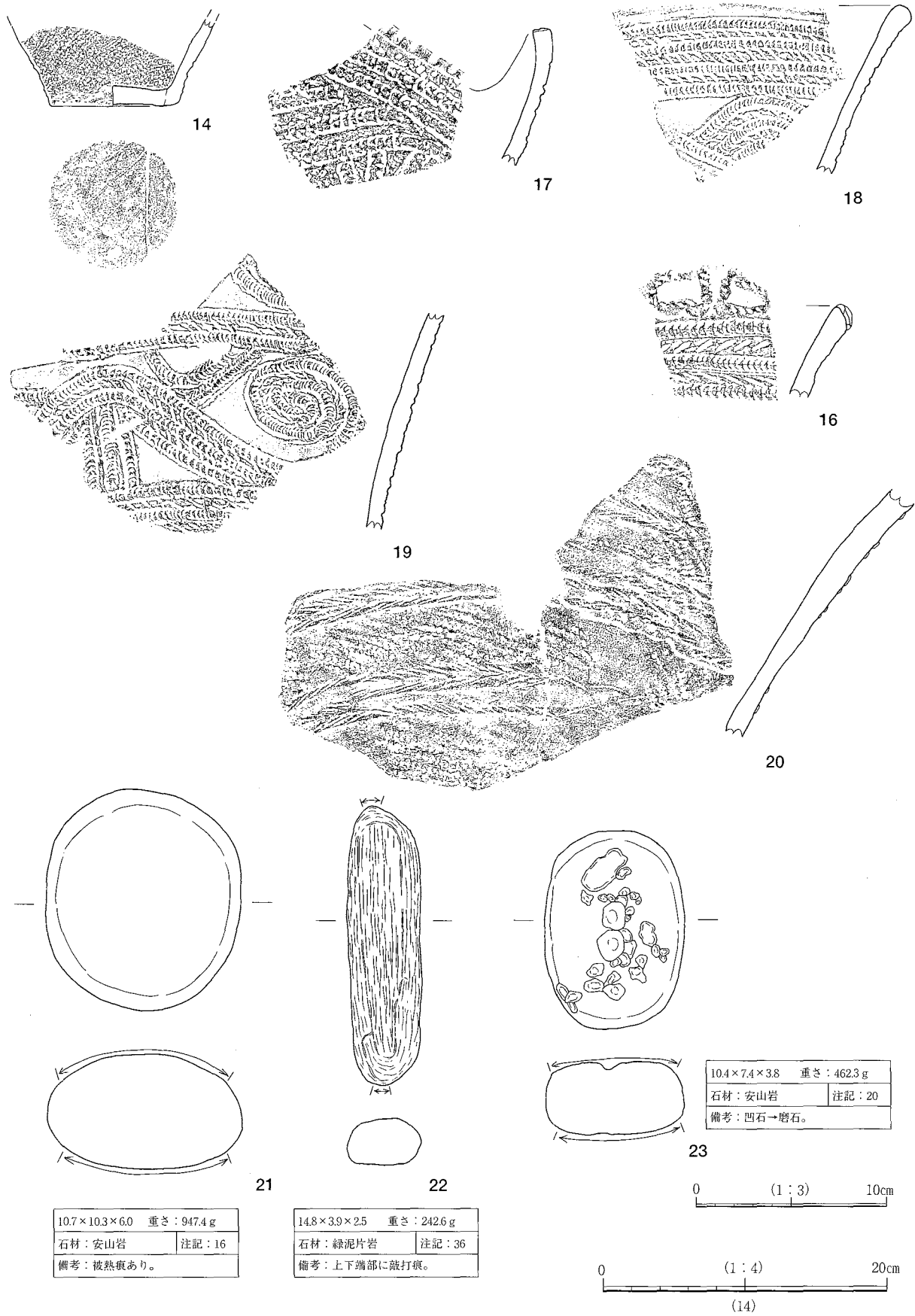
第265図 44号住居跡出土遺物



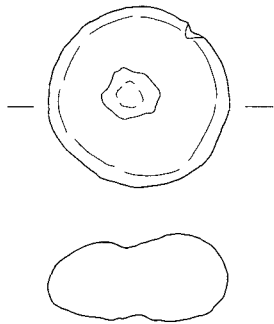
第266図 45号住居跡出土遺物①



第267图 45号住居跡出土遺物②

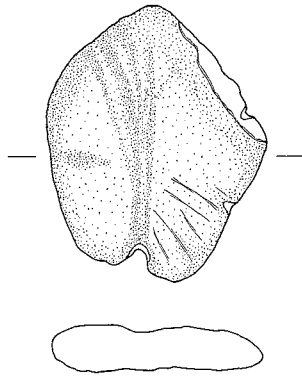


第268図 45号住居跡出土遺物③



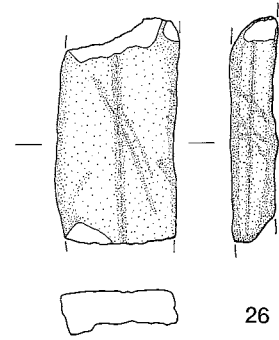
24

7.3×7.2×3.5	重さ: 208.9 g
石材: 安山岩	注記: -
備考: 被熱痕あり。	



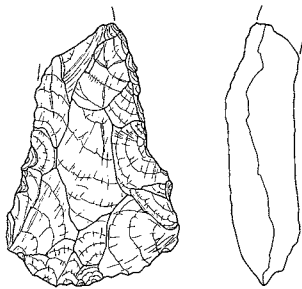
25

11.0×8.6×1.9	重さ: 171.2 g
石材: 粗粒砂岩	注記: -



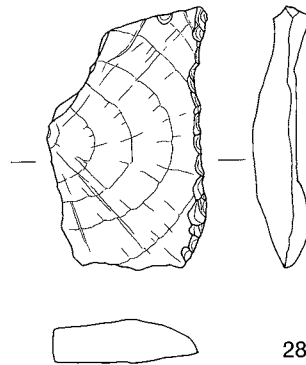
26

- × 5.0 × 1.9	残重: 83.3 g
石材: 中粒砂岩	注記: 23
備考: 表裏面・両側面を使用。	



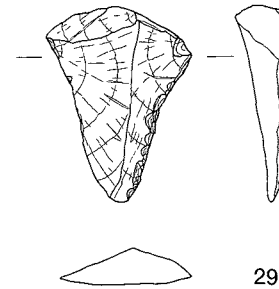
27

- × 6.9 × 3.0	残重: 195.2 g
石材: 頁岩	注記: 54



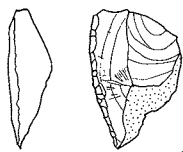
28

10.4×6.4×2.3	重さ: 138.4 g
石材: 安山岩	注記: 18



29

7.8×5.8×2.1	重さ: 48.4 g
石材: 頁岩	注記: -



30

5.5×3.6×1.8	重さ: 24.9 g
石材: 頁岩	注記: -



31

3.8×5.1×0.9	重さ: 14.5 g
石材: ホルンフェルス	注記: -



34

2.1×1.5×0.3	重さ: 0.7 g
石材: 黒曜石	注記: -



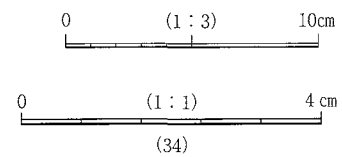
32

3.4 × - × 0.8	残重: 13.4 g
石材: 頁岩	注記: -

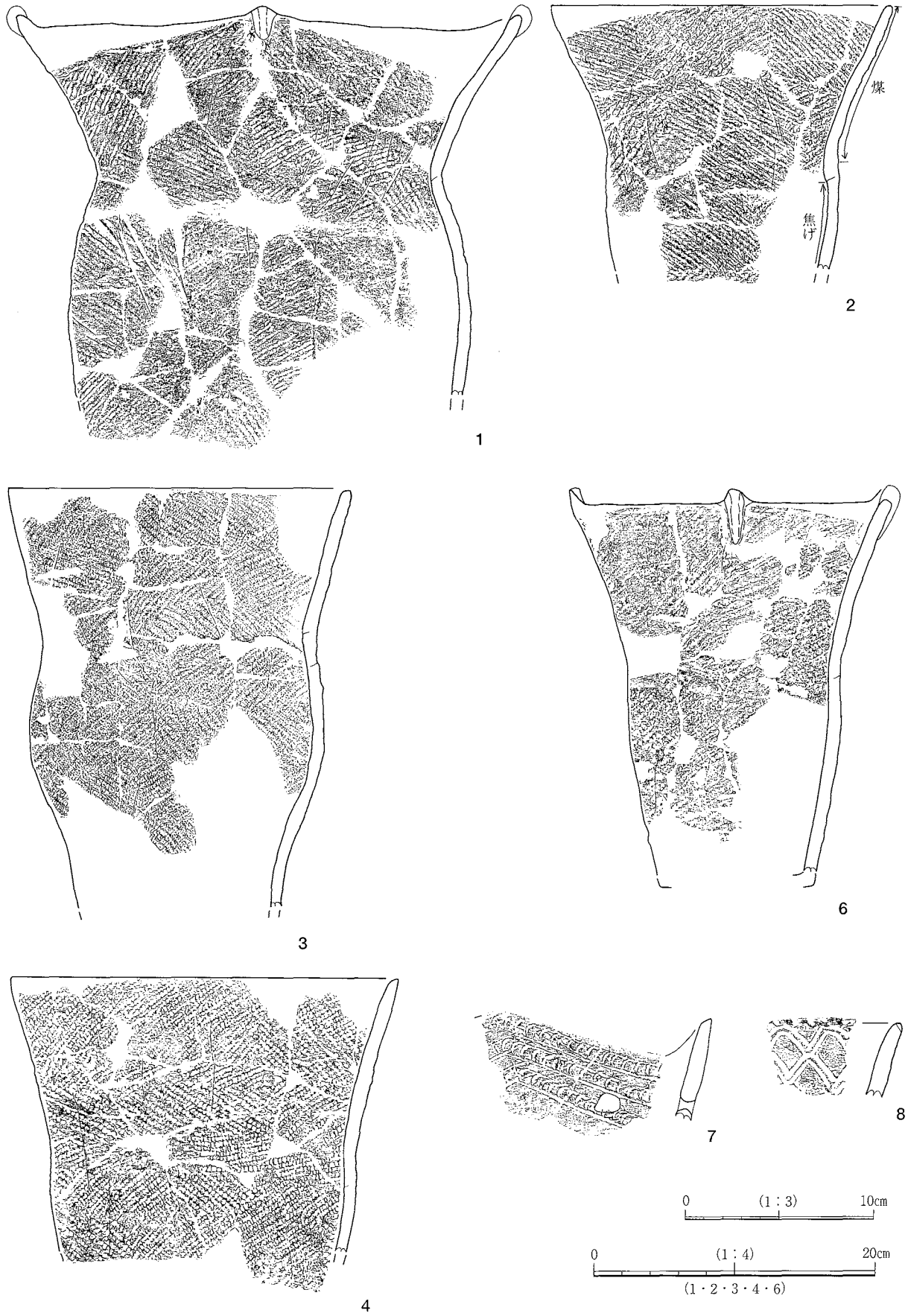


33

- × 2.4 × 0.8	残重: 7.9 g
石材: 珪質頁岩	注記: -



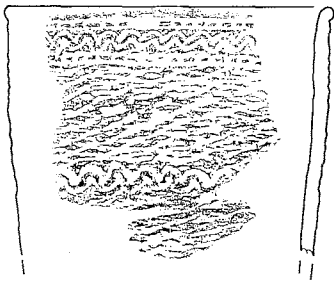
第269図 45号住居跡出土遺物④



第270図 46号住居跡出土遺物①



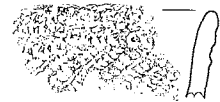
5



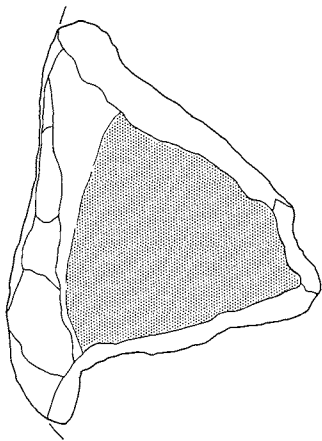
9



10



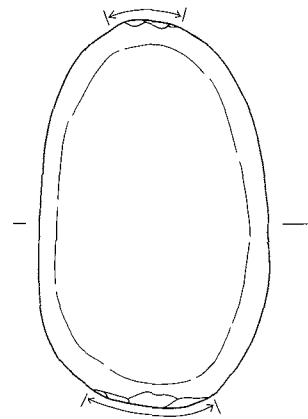
11



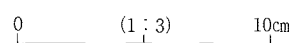
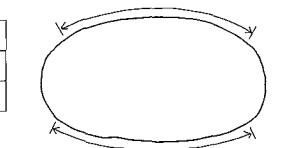
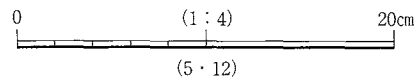
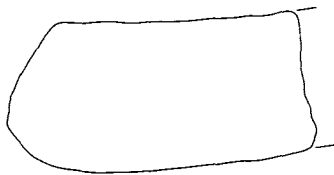
12

- × - × 8.6	残重：3.2kg
石材：安山岩	注記：49
備考：破砕後の被熱痕あり。	

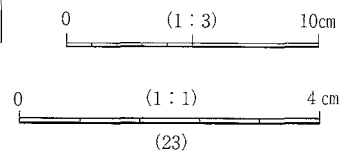
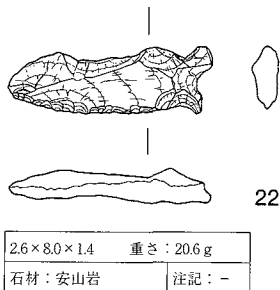
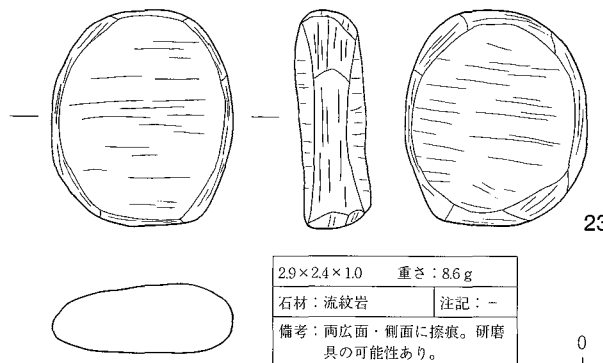
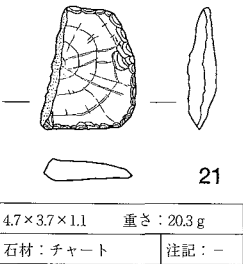
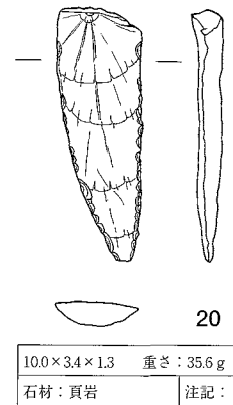
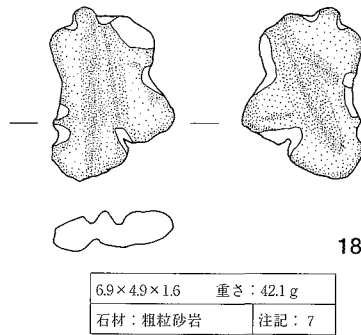
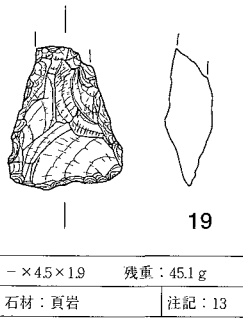
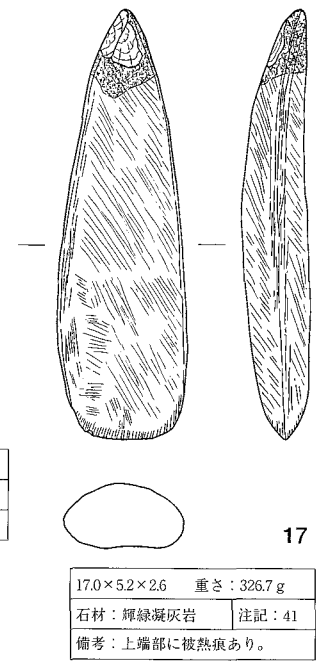
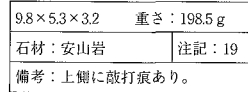
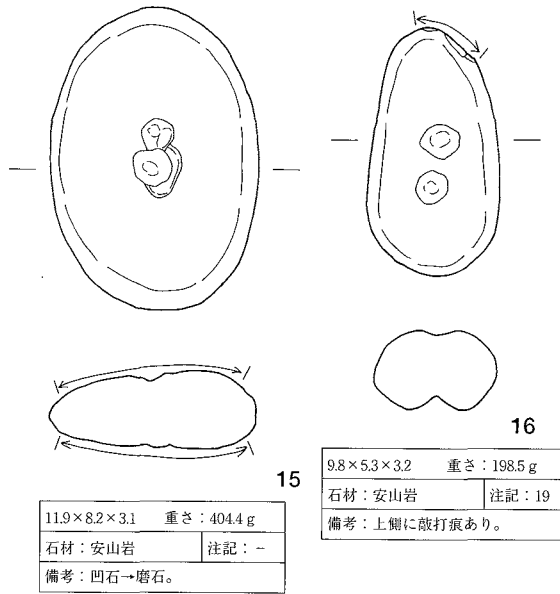
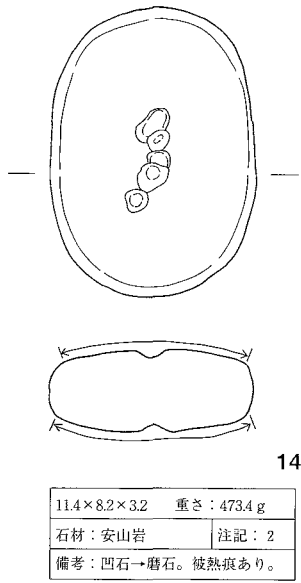
15.3 × 9.2 × 5.0	重さ：1.081.6g
石材：安山岩	注記：15
備考：上下端部に敲打痕あり。	



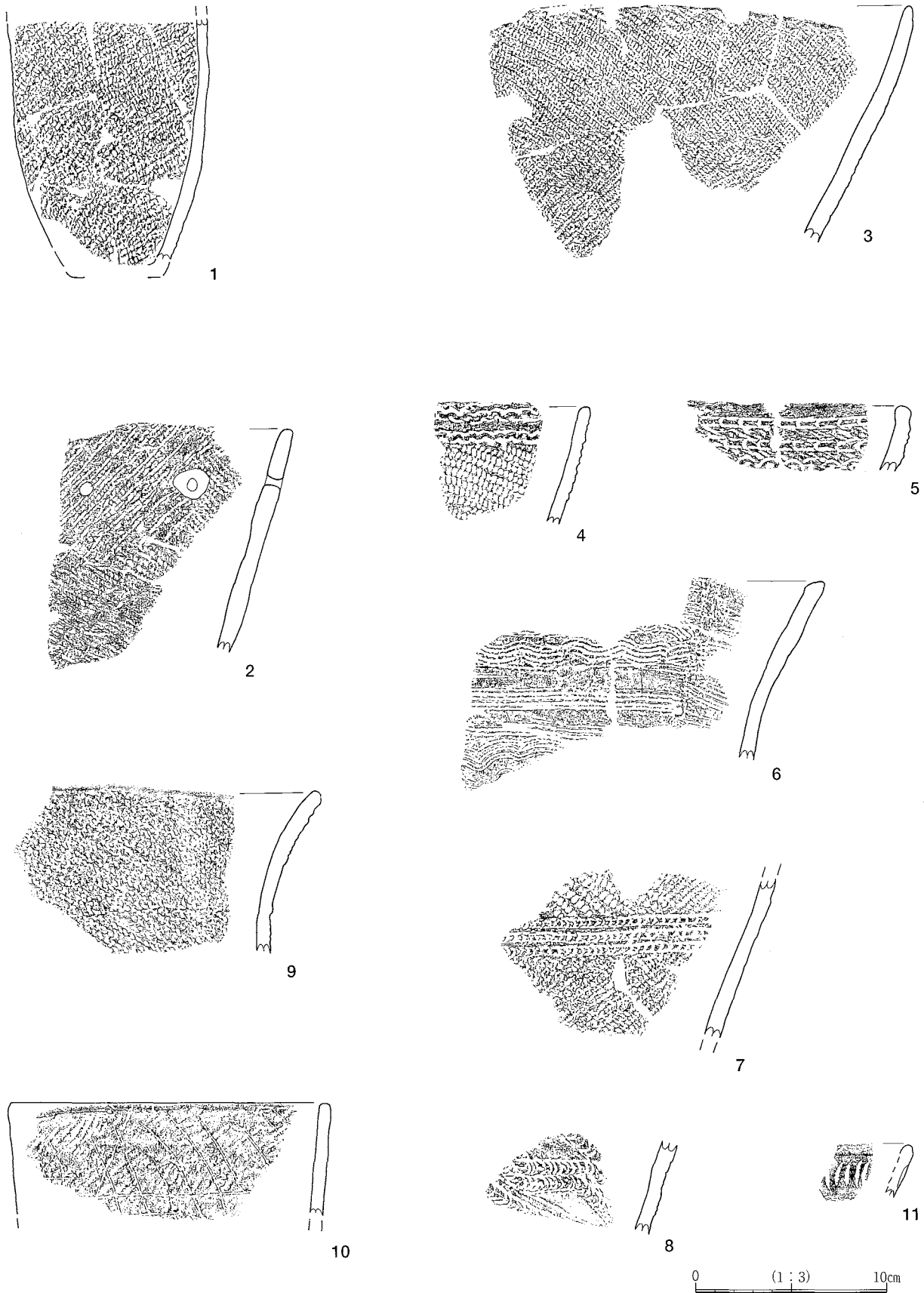
13



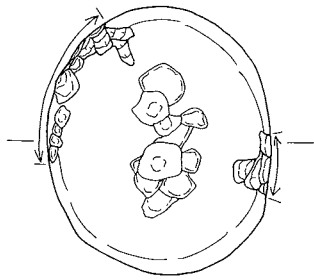
第271図 46号住居跡出土遺物②



第272図 46号住居跡出土遺物③

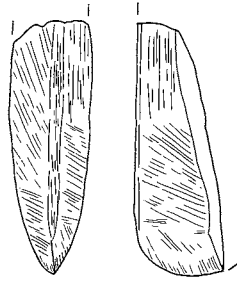


第273图 47号住居跡出土遺物①



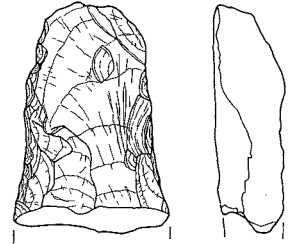
12

10.5×8.8×4.6	重さ：584.1 g
石材：安山岩	注記：38
備考：凹石→磨石。側面に敲打痕あり。	



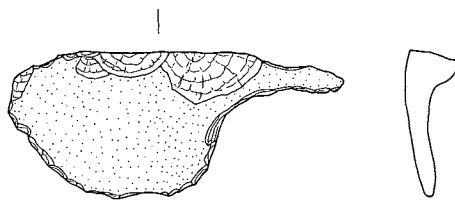
14

- × - × 3.2	残重：151.6 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：34



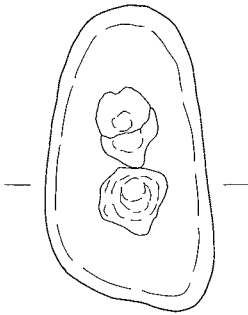
15

- × 6.2 × 2.9	残重：180.6 g
石材：頁岩	注記：-



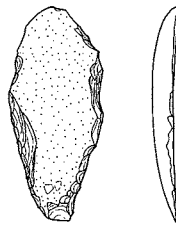
16

5.7×13.3×2.1	重さ：87.3 g
石材：安山岩	注記：36



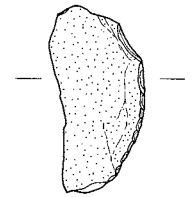
13

12.1×6.7×4.0	重さ：443.6 g
石材：安山岩	注記：29



17

8.4×3.7×1.1	重さ：32.1 g
石材：頁岩	注記：-



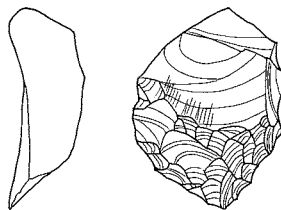
18

7.3×3.8×2.0	重さ：51.3 g
石材：安山岩	注記：-



19

2.3 × - × 0.3	残重：4.3 g
石材：頁岩	注記：-



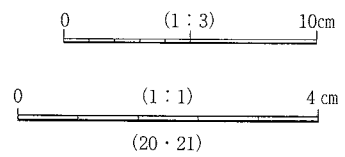
20

2.7×2.0×1.0	重さ：3.8 g
石材：黒曜石	注記：-

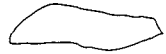
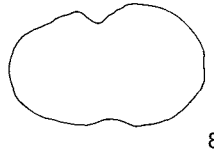
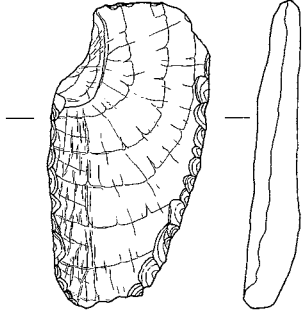
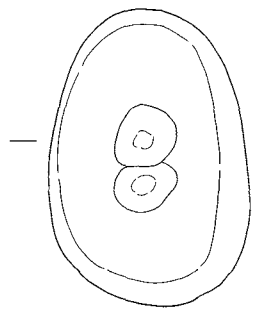


21

1.4×1.1×0.3	重さ：0.3 g
石材：黒曜石	注記：-

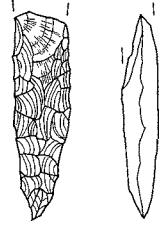
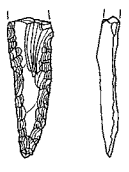
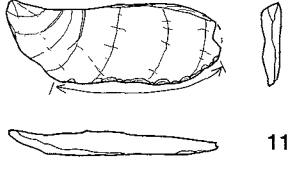
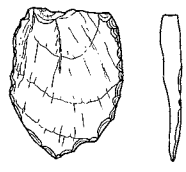


第274図 47号住居跡出土遺物②



11.7×8.0×4.8	重さ：548.9g
石材：安山岩	注記：14

12.1×6.5×2.3	重さ：162.2g
石材：安山岩	注記：9



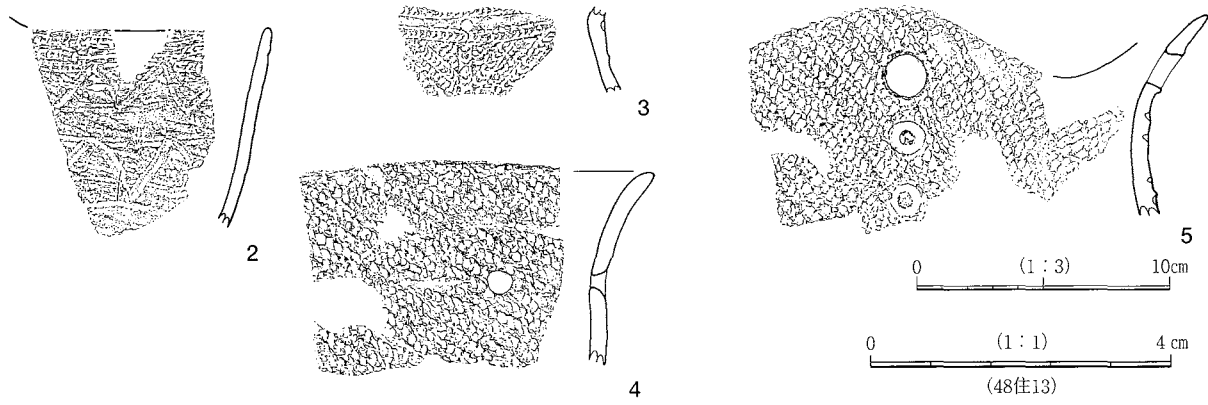
5.9×4.5×0.9	重さ：18.9g
石材：頁岩	注記：-

3.3×8.5×1.0	残重：23.9g
石材：頁岩	注記：-

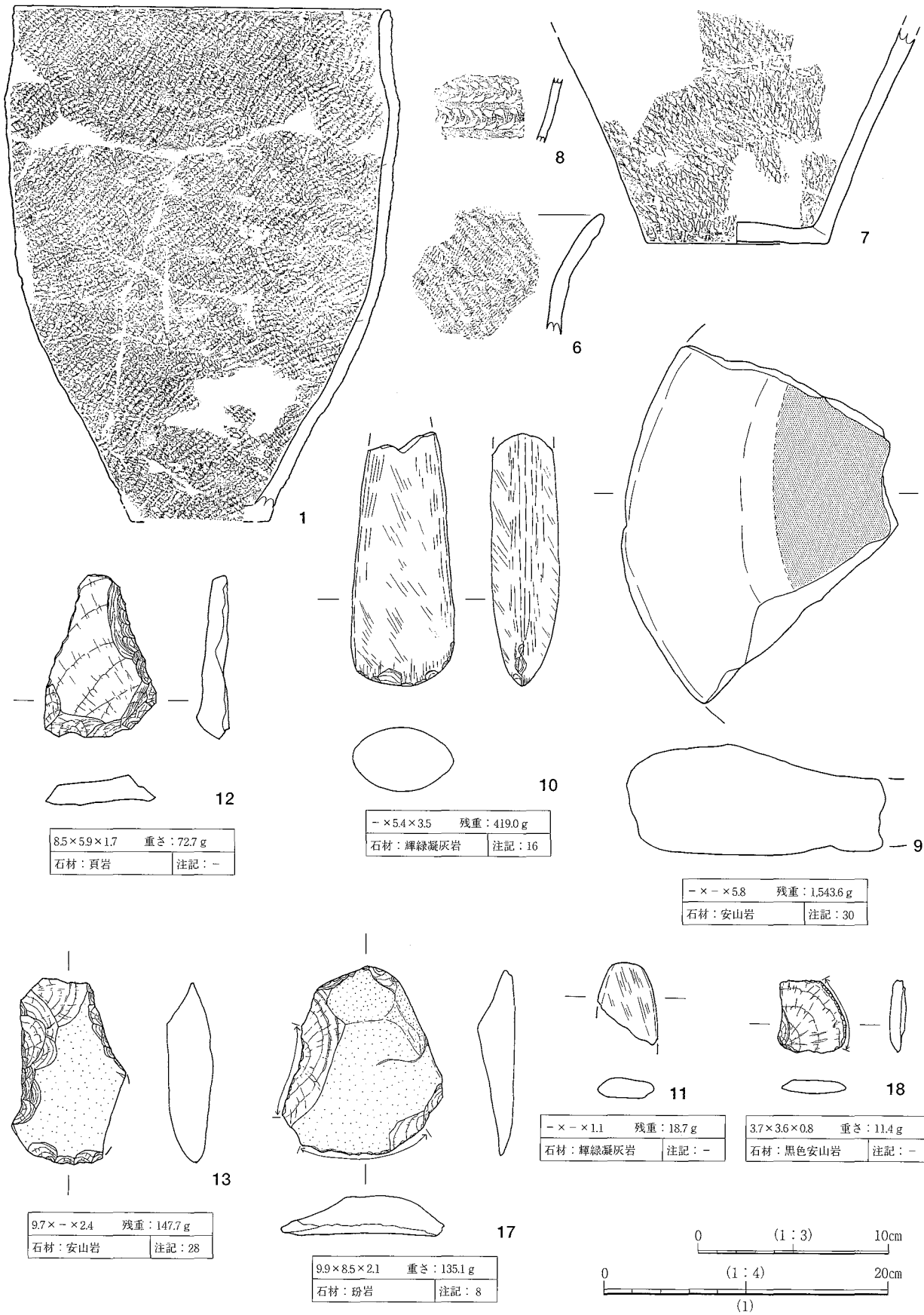
残5.5×1.9×0.8	残重：6.4g
石材：チャート	注記：-

残2.7×0.8×0.5	残重：0.9g
石材：黒曜石	注記：-

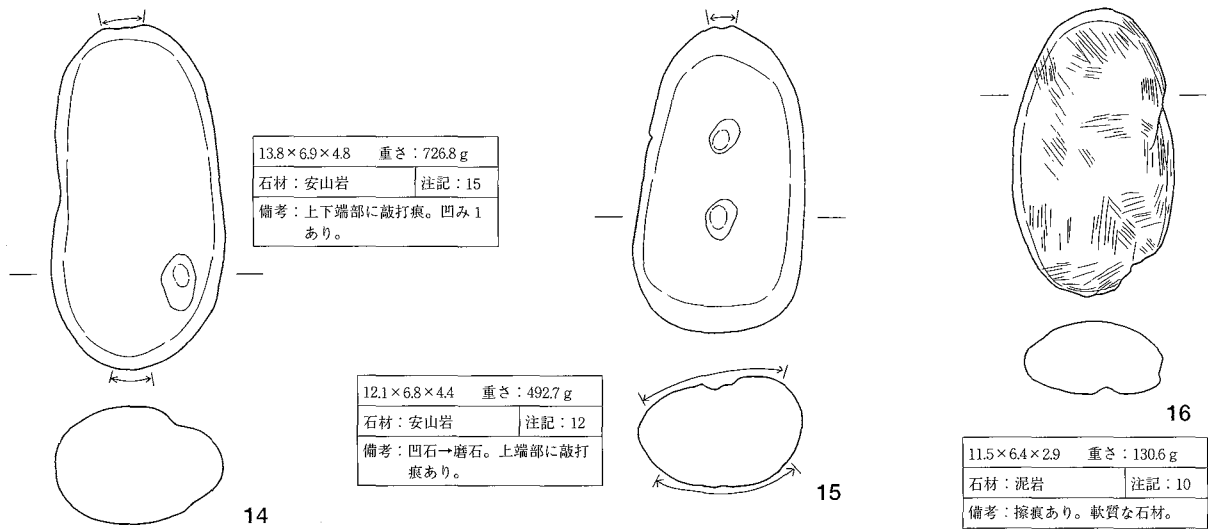
第275図 48号住居跡出土遺物



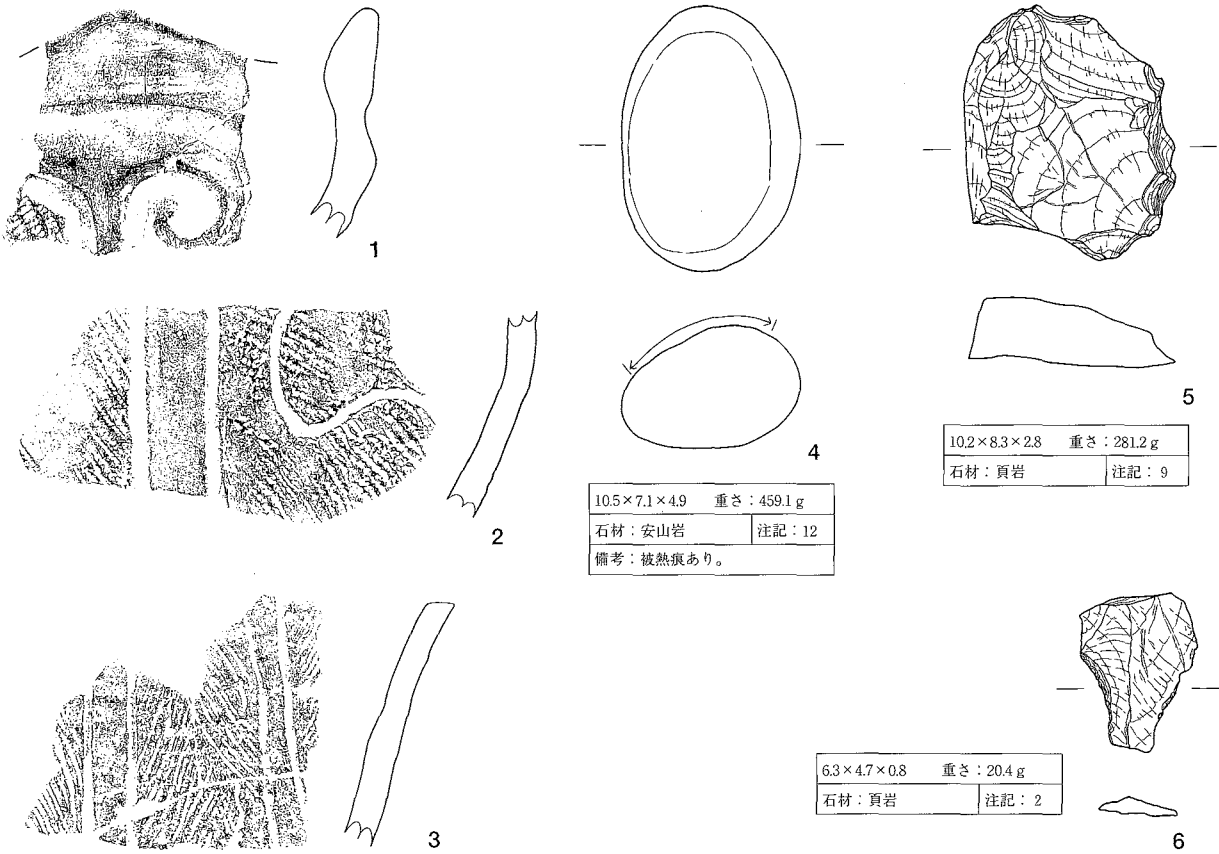
第276図 49号住居跡出土遺物①



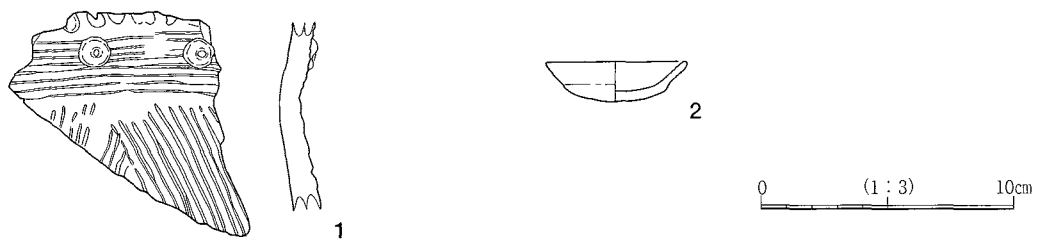
第277図 49号住居跡出土遺物②



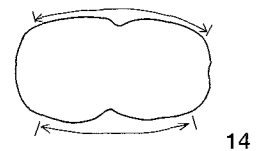
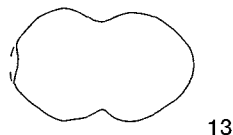
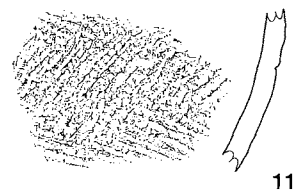
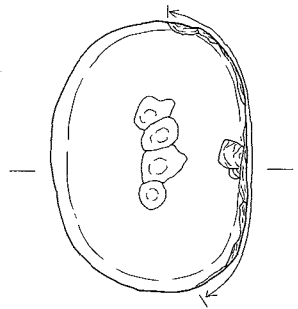
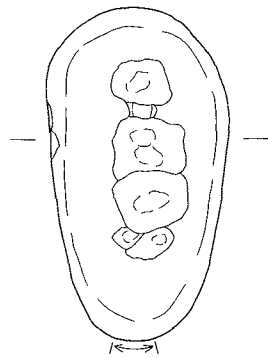
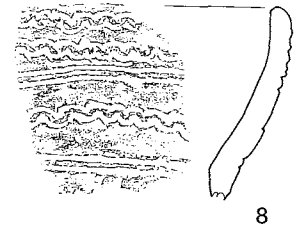
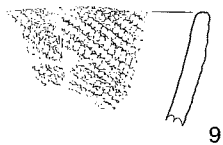
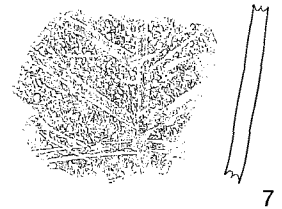
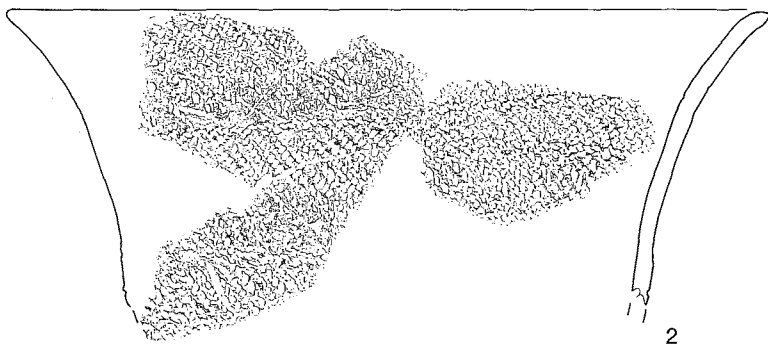
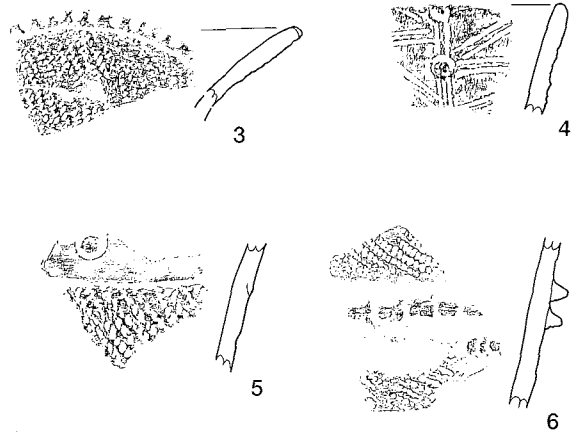
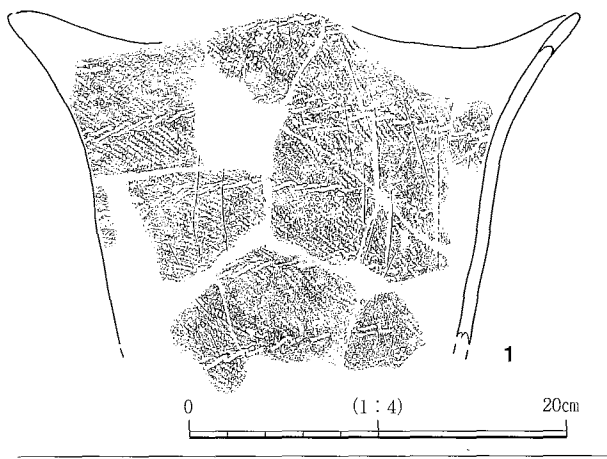
第278図 49号住居跡出土遺物③



第279図 50号住居跡出土遺物

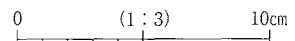


第280図 51号住居跡出土遺物

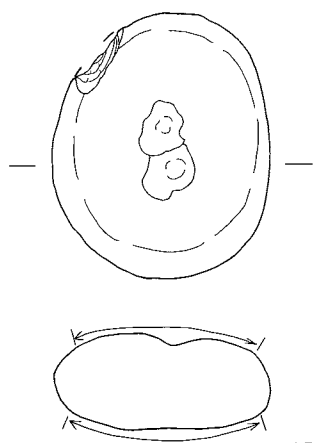


13.2×7.2×4.5	残重：529.2g
石材：安山岩	注記：30
備考：下端に敲打痕あり。	

10.7×7.8×4.1	重さ：556.0g
石材：安山岩	注記：35
備考：凹石→磨石。側面に敲打痕。	

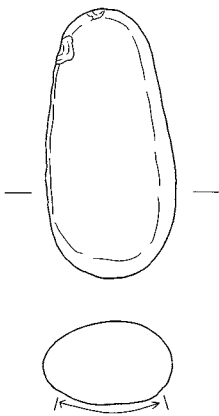


第281図 52号住居跡出土遺物①



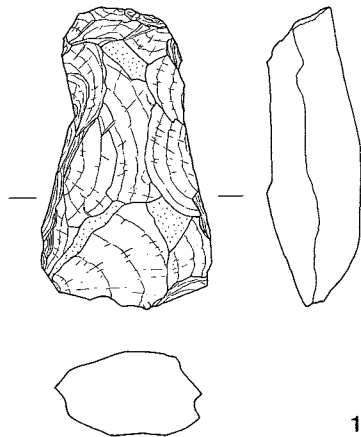
15

10.5×8.6×3.9	残重：504.0 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。	



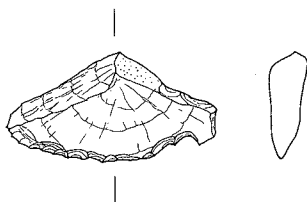
16

10.7×5.2×3.4	重さ：243.7 g
石材：安山岩	注記：24



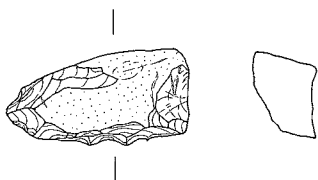
17

12.0×6.7×3.7	重さ：296.2 g
石材：硬砂岩	注記：42



18

4.4×8.3×1.8	重さ：43.4 g
石材：頁岩	注記：-



19

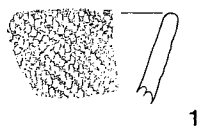
3.8×7.3×2.5	重さ：88.5 g
石材：頁岩	注記：-



20

3.9×2.7×1.0	重さ：8.6 g
石材：チャート	注記：S-9

第282図 52号住居跡出土遺物②



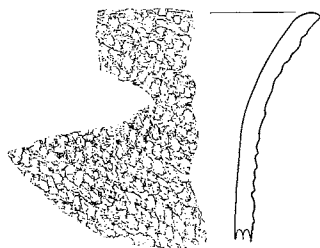
1



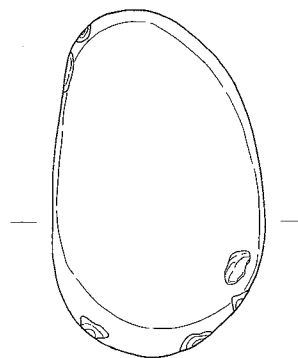
2



4



3

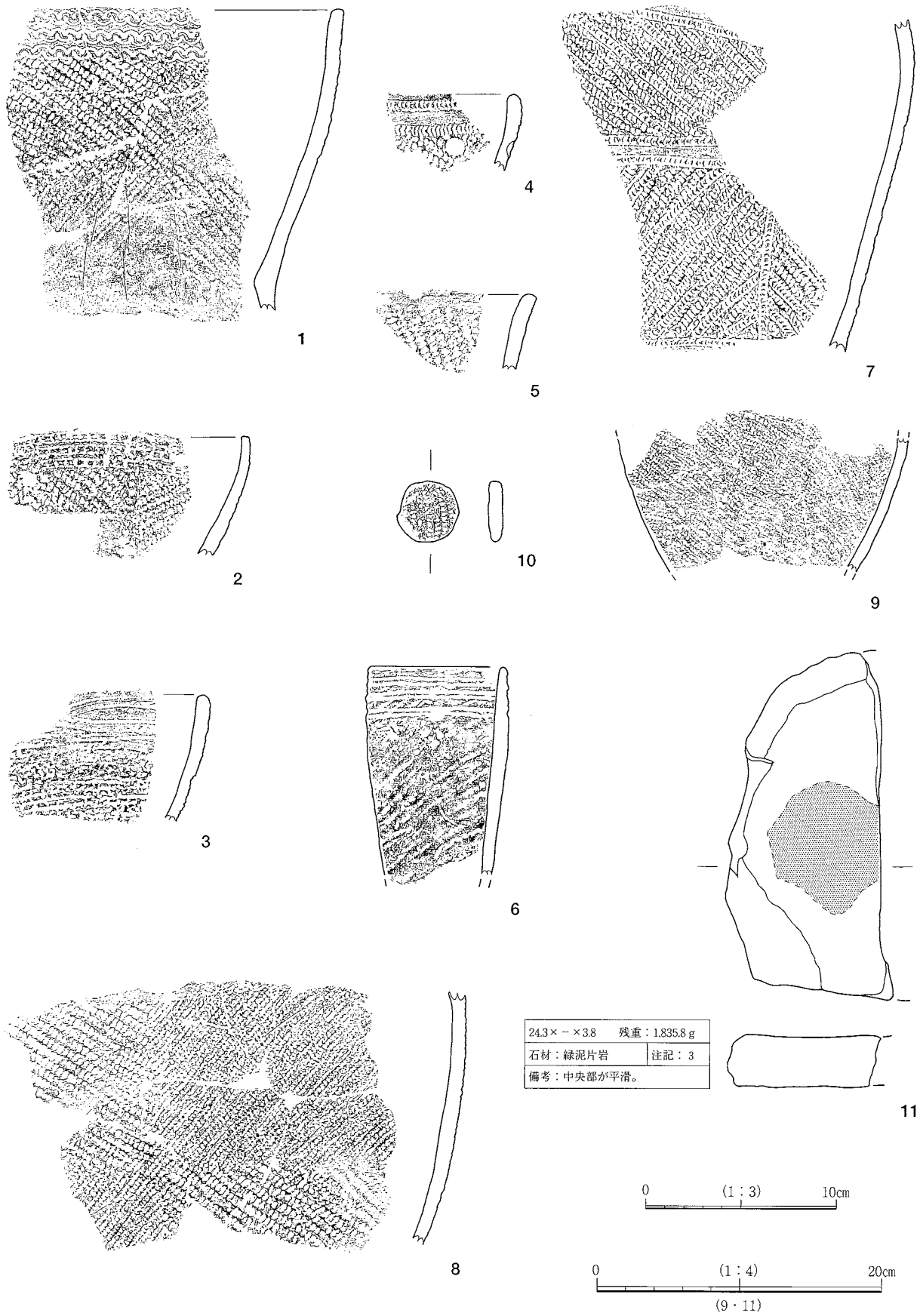


5

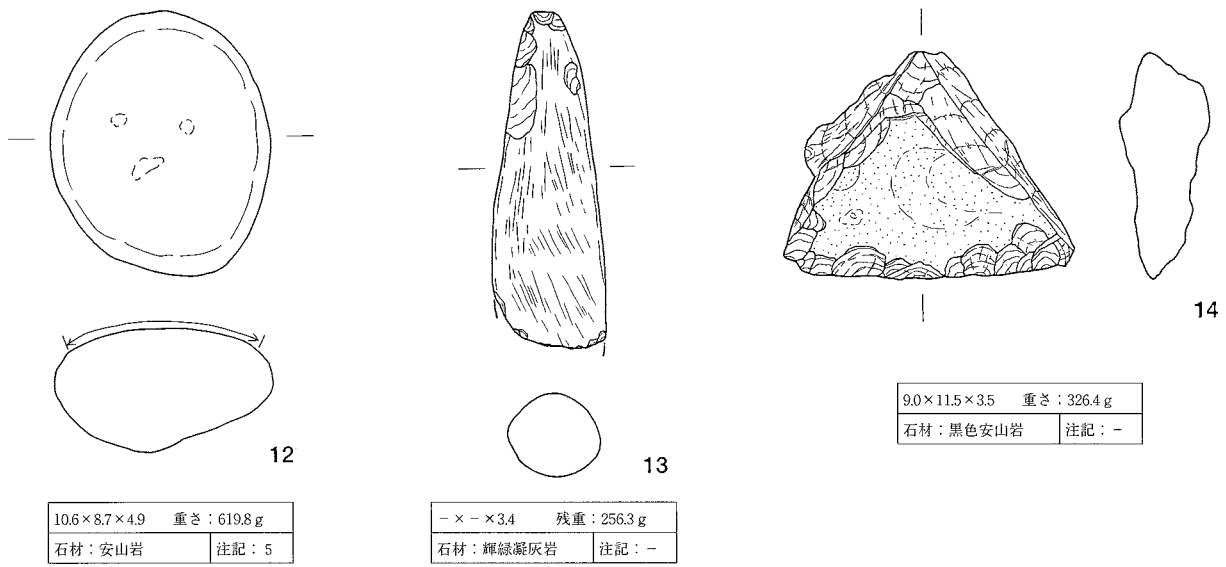
13.9×8.4×4.4	残重：796.5 g
石材：安山岩	注記：-
備考：被熱痕あり。剥離痕あり。	

0 (1:3) 10cm

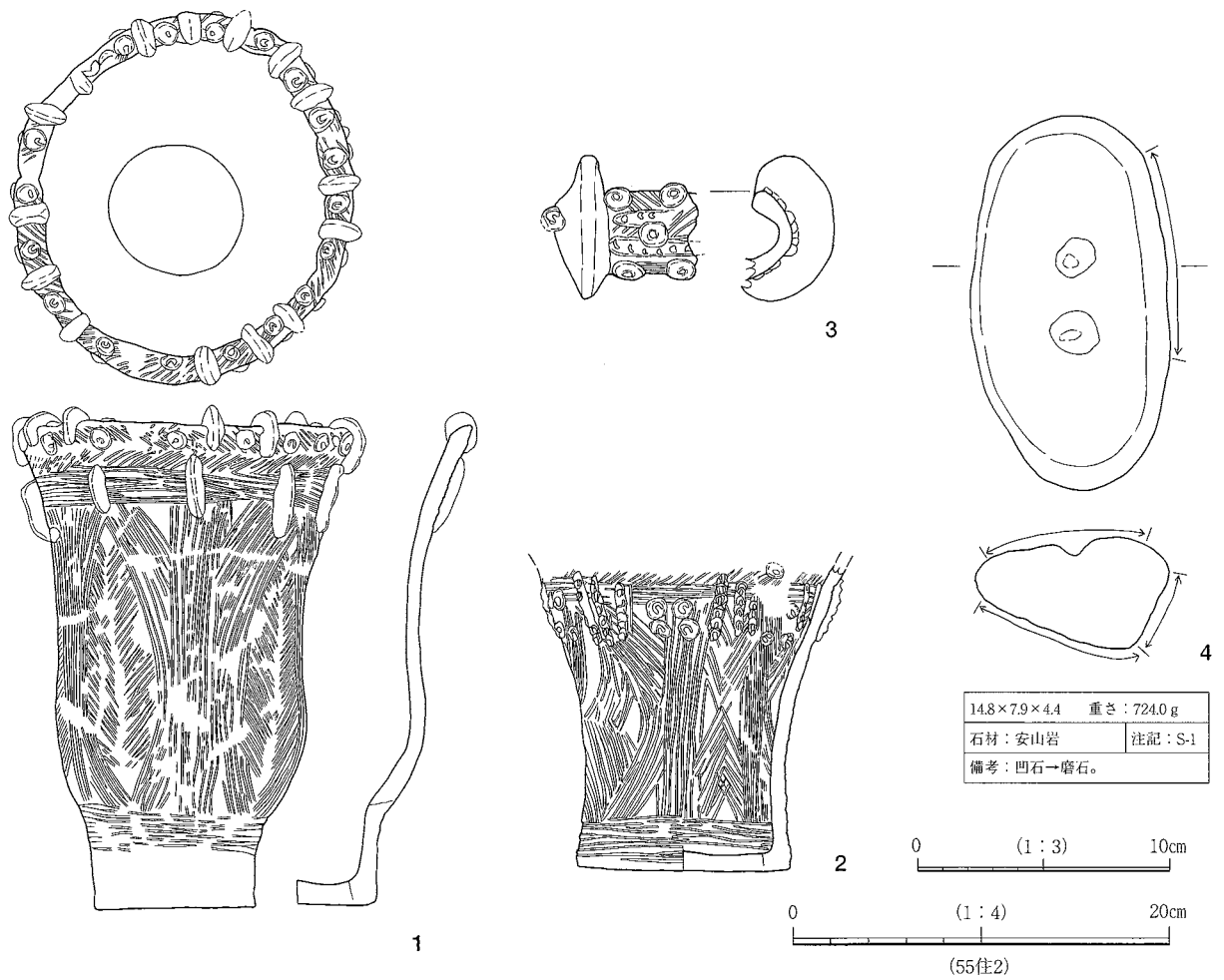
第283図 53号住居跡出土遺物



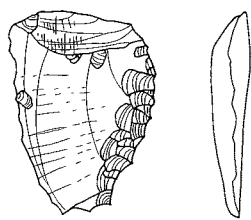
第284図 54号住居跡出土遺物①



第285図 54号住居跡出土遺物②

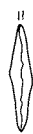


第286図 55号住居跡出土遺物①



5

2.7×2.0×0.5	重さ: 2.4 g
石材: 黒曜石	注記: -



6

- × - × 0.3	残重: 0.2 g
石材: 黒曜石	注記: -

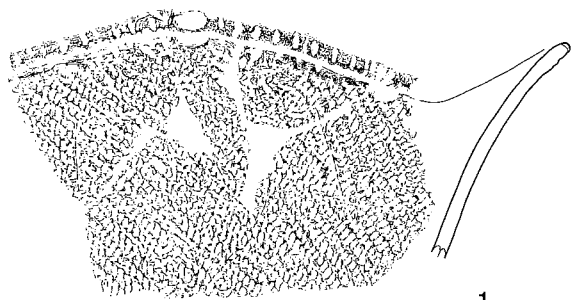


7

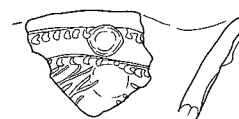
- × - × 0.3	残重: 0.3 g
石材: 黒曜石	注記: -

0 (1:1) 4 cm

第287図 55号住居跡出土遺物②



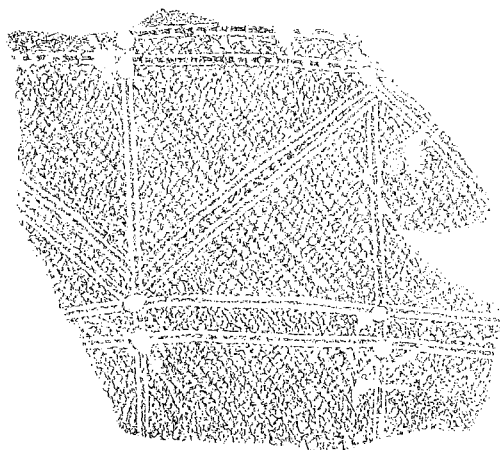
1



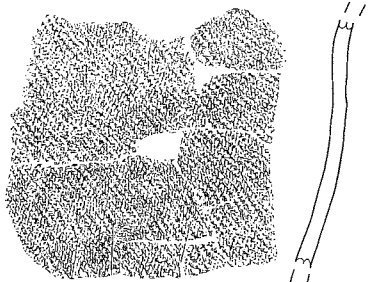
2



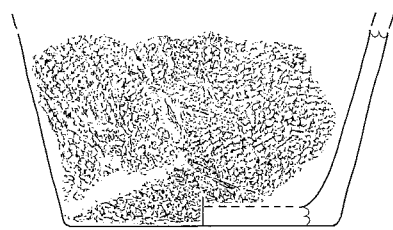
3



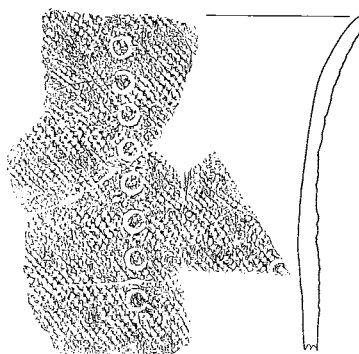
4



5



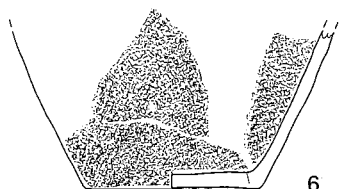
6



8



7



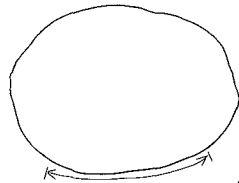
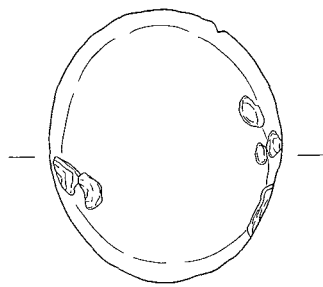
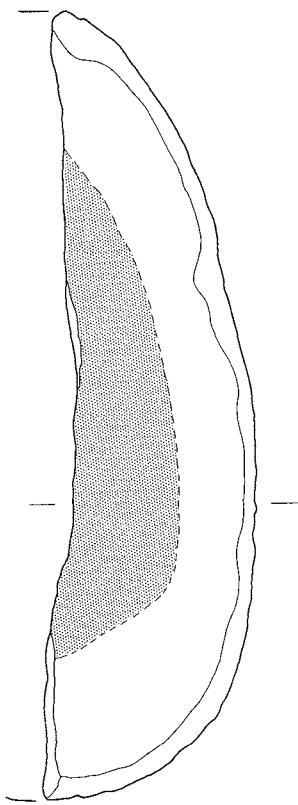
6

0 (1:4) 20cm

(57住6)

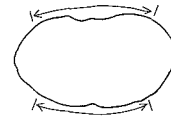
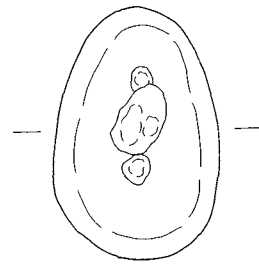
0 (1:3) 10cm

第288図 57号住居跡出土遺物①



11

10.8×9.2×6.8	重さ：847.4 g
石材：安山岩	注記：15



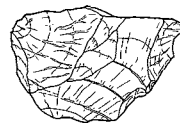
12

10.0×6.6×3.6	重さ：342.0 g
石材：安山岩	注記：12



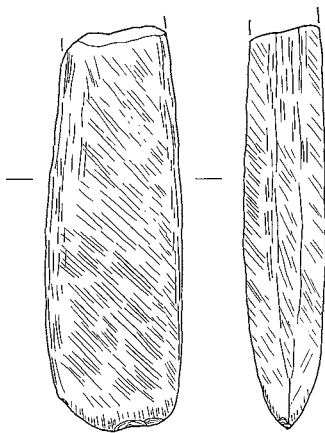
10

31.2×-×2.8	残重：905.7 g
石材：緑泥片岩	注記：21
備考：被熱痕あり。	



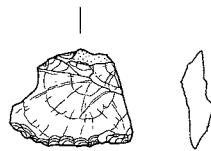
14

4.6×6.9×2.5	重さ：77.8 g
石材：頁岩	注記：15



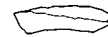
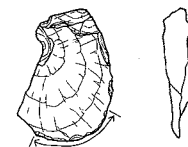
13

残16.0×5.5×3.2	残重：505.9 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：3



15

3.8×4.8×1.5	重さ：19.1 g
石材：頁岩	注記：-



16

5.2×3.8×1.2	重さ：18.2 g
石材：黒色安山岩	注記：-



17

3.2×3.2×0.9	重さ：9.8 g
石材：頁岩	注記：-

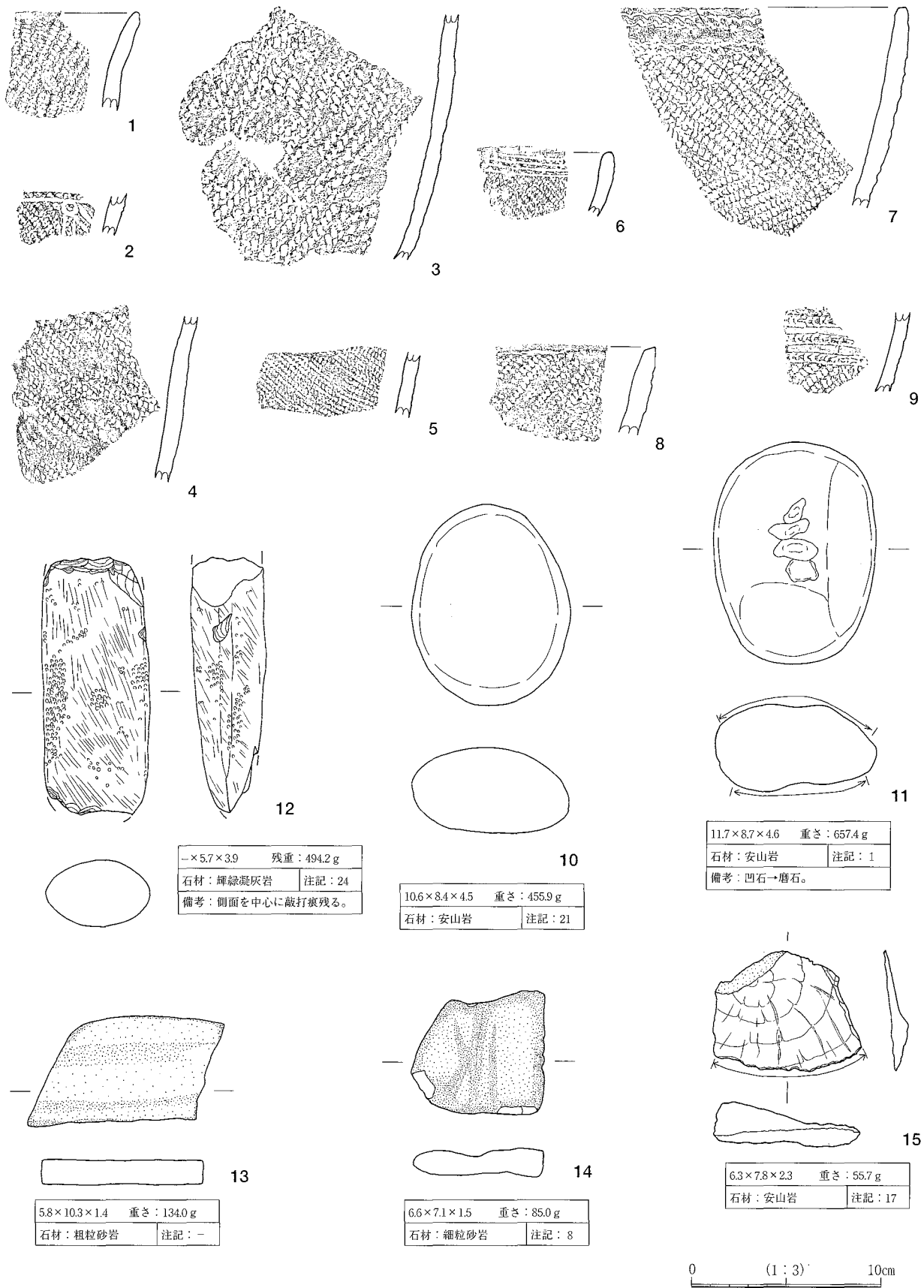


18

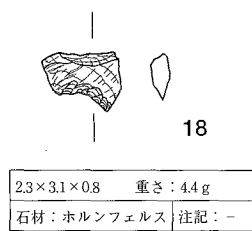
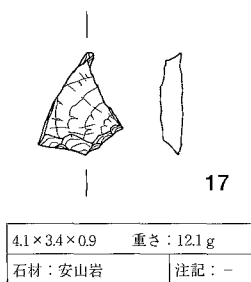
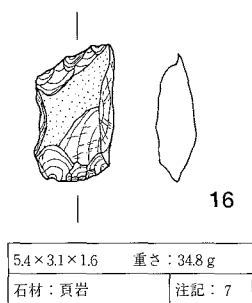
2.7×4.9×0.8	重さ：5.6 g
石材：頁岩	注記：2

0 (1:3) 10cm

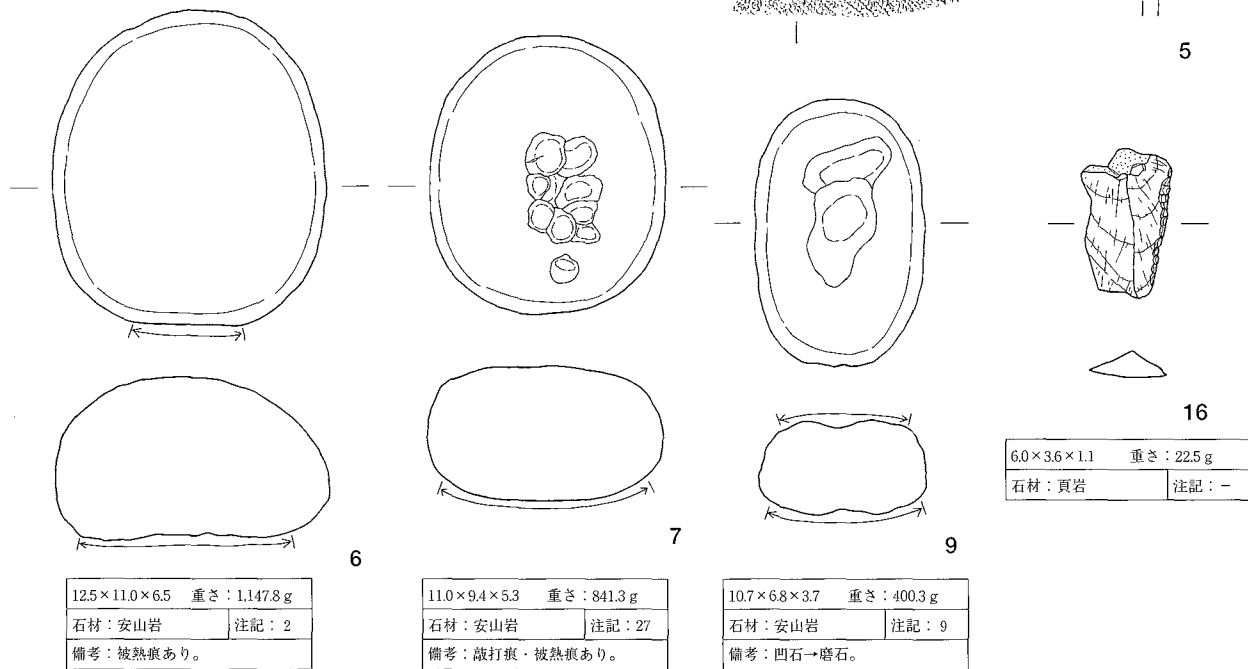
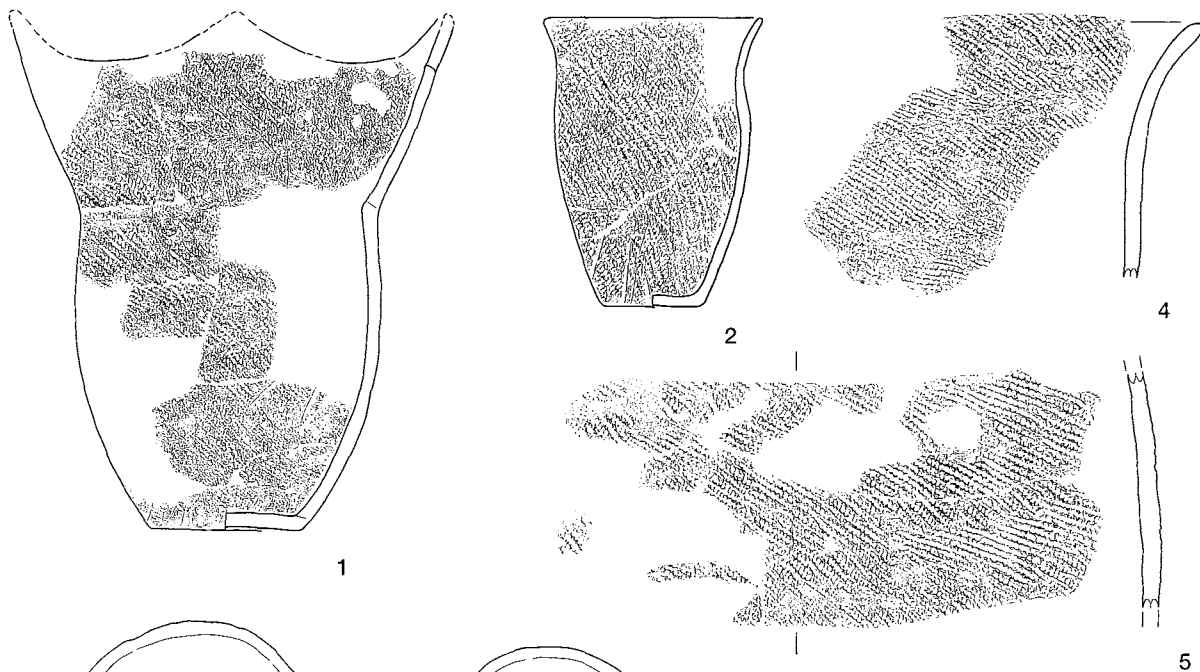
第289図 57号住居跡出土遺物②



第290図 58号住居跡出土遺物①



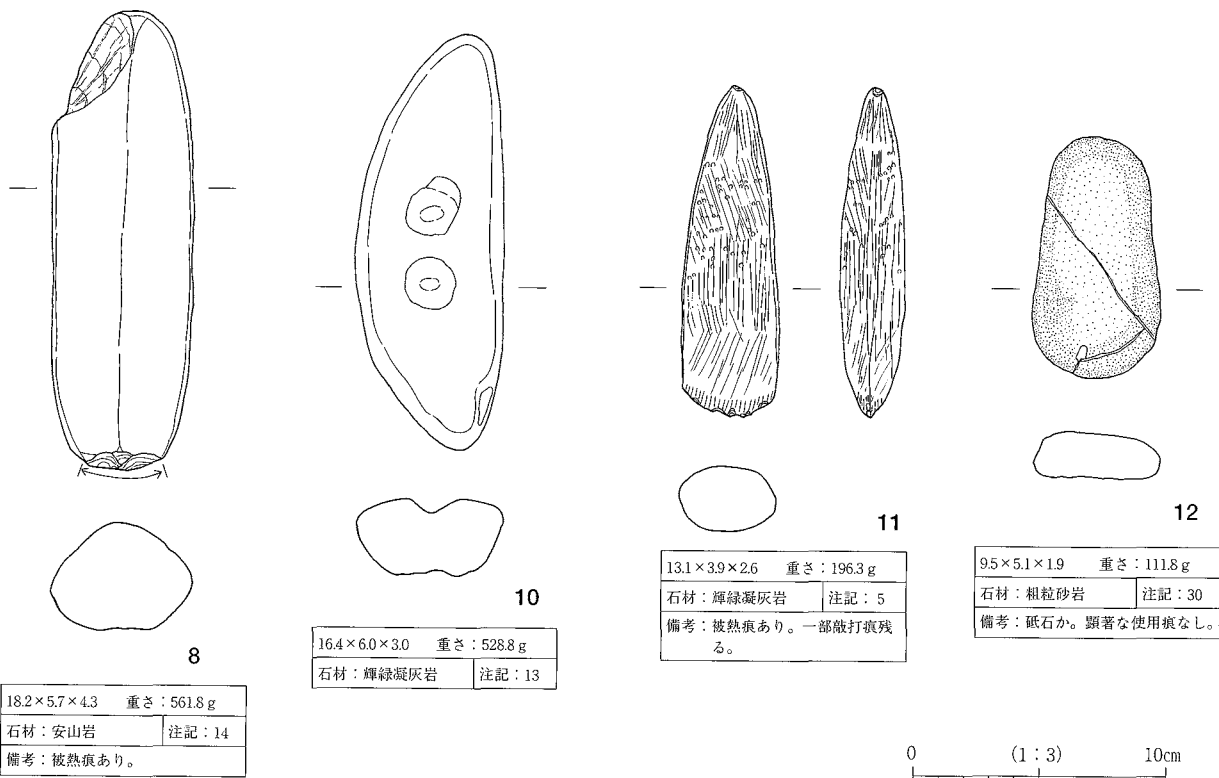
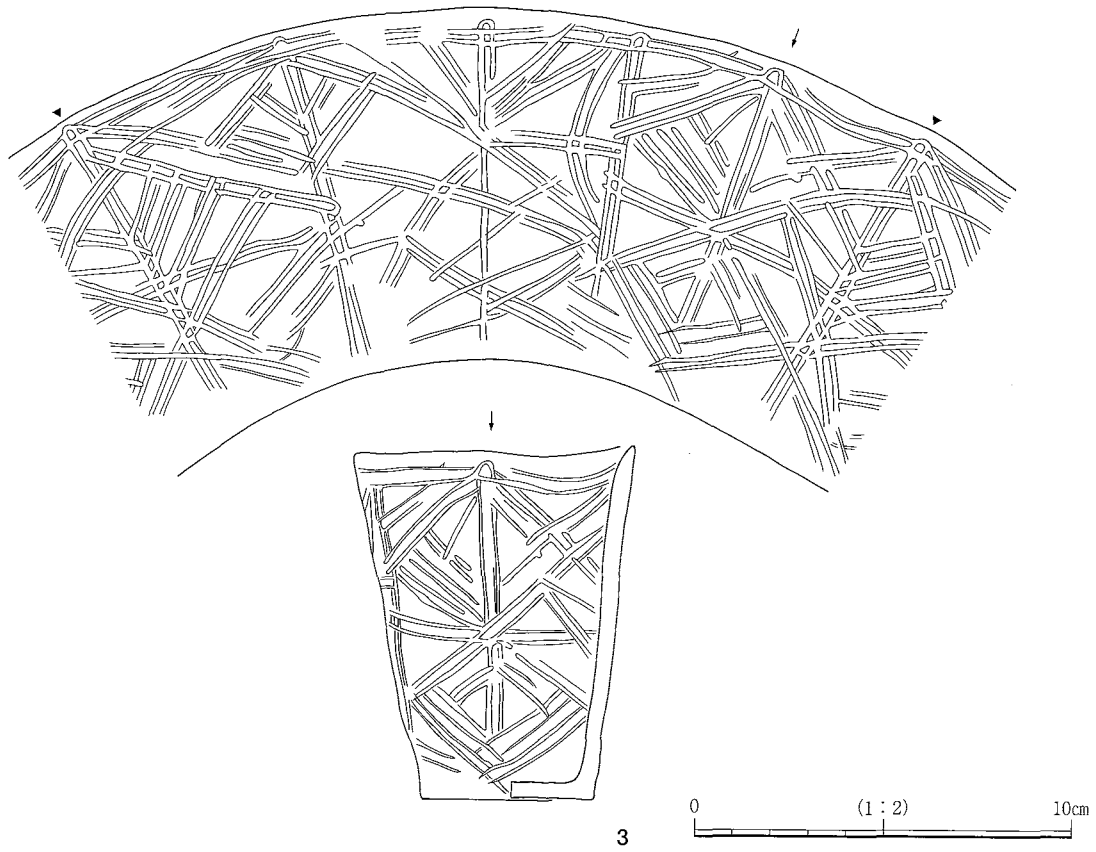
第291図 58号住居跡出土遺物②



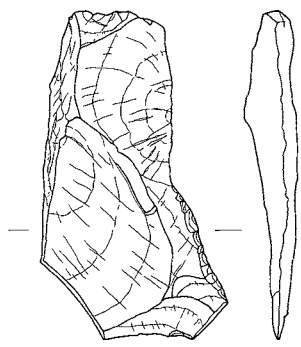
0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm
(59住1・2)

第292図 59号住居跡出土遺物①

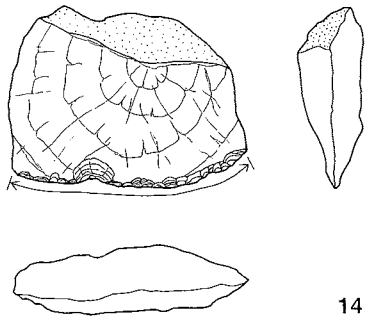


第293図 59号住居跡出土遺物②



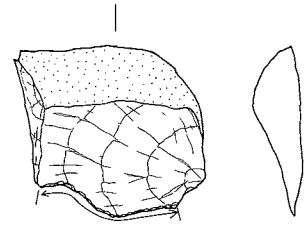
13.0×7.4×2.2	重さ：113.9 g
石材：頁岩	注記：28

13



7.2×9.4×2.6	重さ：163.3 g
石材：安山岩	注記：3

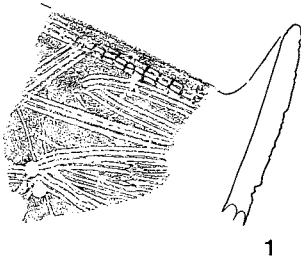
14



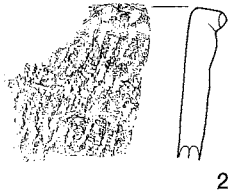
6.8×7.5×2.1	重さ：112.9 g
石材：安山岩	注記：1

15

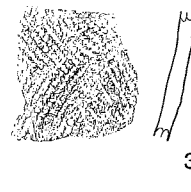
第294図 59号住居跡出土遺物③



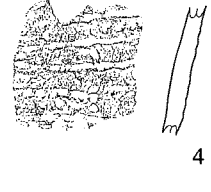
1



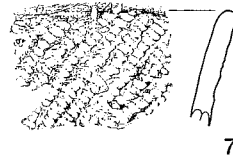
2



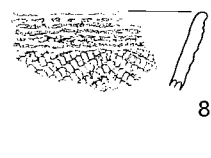
3



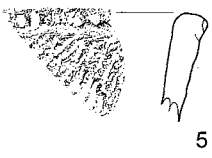
4



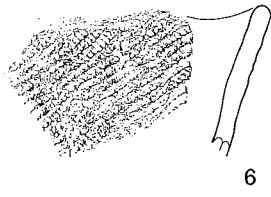
7



8



5



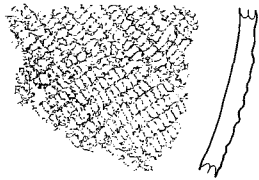
6



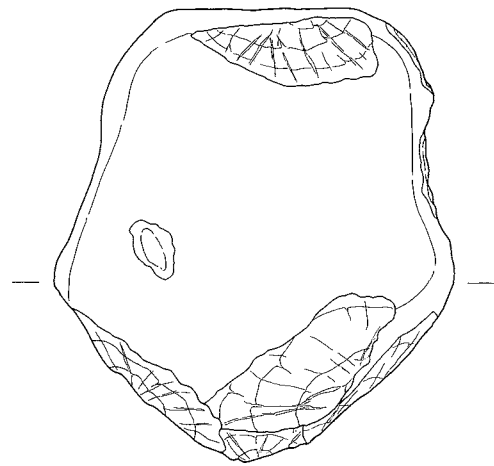
9



11



10



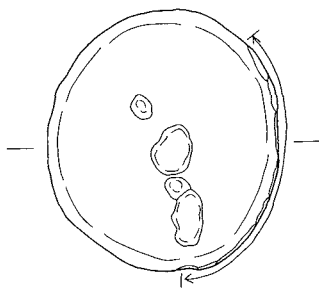
13

残24.1×21.2×8.8	残重：7.040 g
石材：安山岩	注記：11

0 (1:3) 10cm

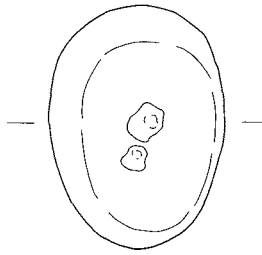
0 (1:4) 20cm
(60住13)

第295図 60号住居跡出土遺物①



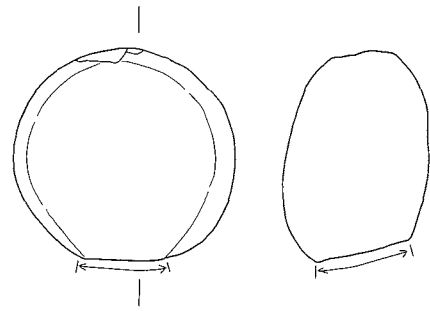
14

10.3×9.4×3.9	重さ：501.5 g
石材：安山岩	注記：22
備考：凹石→磨石。側面に敲打痕あり。	



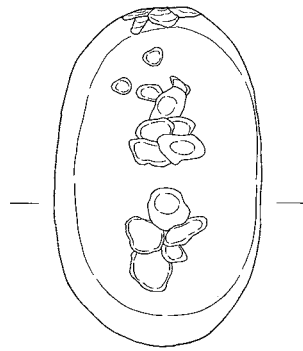
15

9.6×6.9×5.0	重さ：446.7 g
石材：安山岩	注記：19
備考：凹石→磨石。	



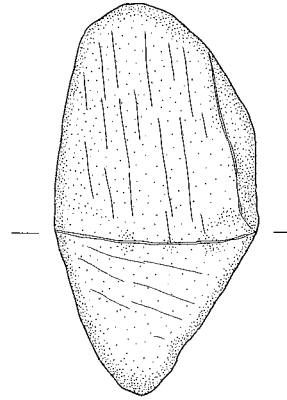
16

8.4×8.8×5.8	重さ：620.1 g
石材：安山岩	注記：24



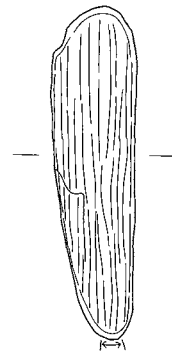
17

13.5×8.2×5.0	重さ：731.4 g
石材：安山岩	注記：37
備考：凹石→磨石。	



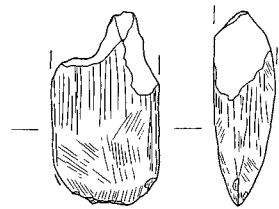
18

15.5×8.1×1.4	重さ：202.6 g
石材：粗粒砂岩	注記：32
備考：使用痕顕著でないが砥石か。	



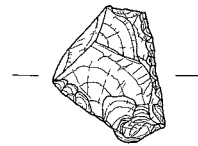
19

13.0×3.4×2.4	重さ：170.9 g
石材：緑泥片岩	注記：44
備考：棒状礫。敲打具か。	



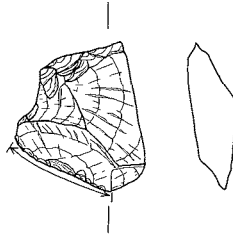
21

-×4.2×2.4	残重：103.2 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：8
備考：被熱痕あり。	



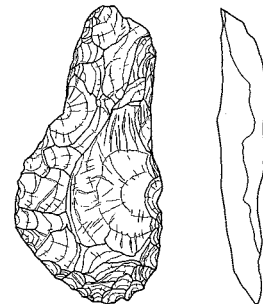
22

5.4×4.5×2.0	重さ：28.3 g
石材：頁岩	注記：-



23

5.9×5.1×1.9	重さ：58.8 g
石材：頁岩	注記：-

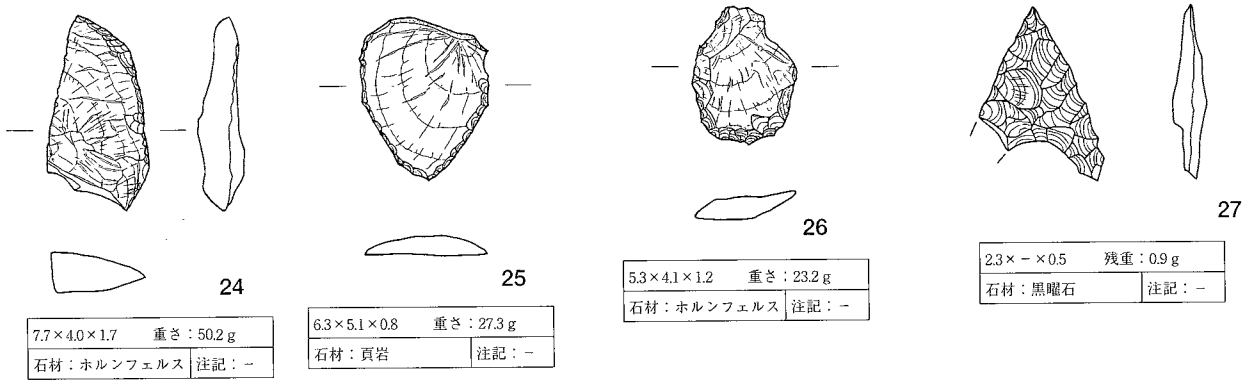


20

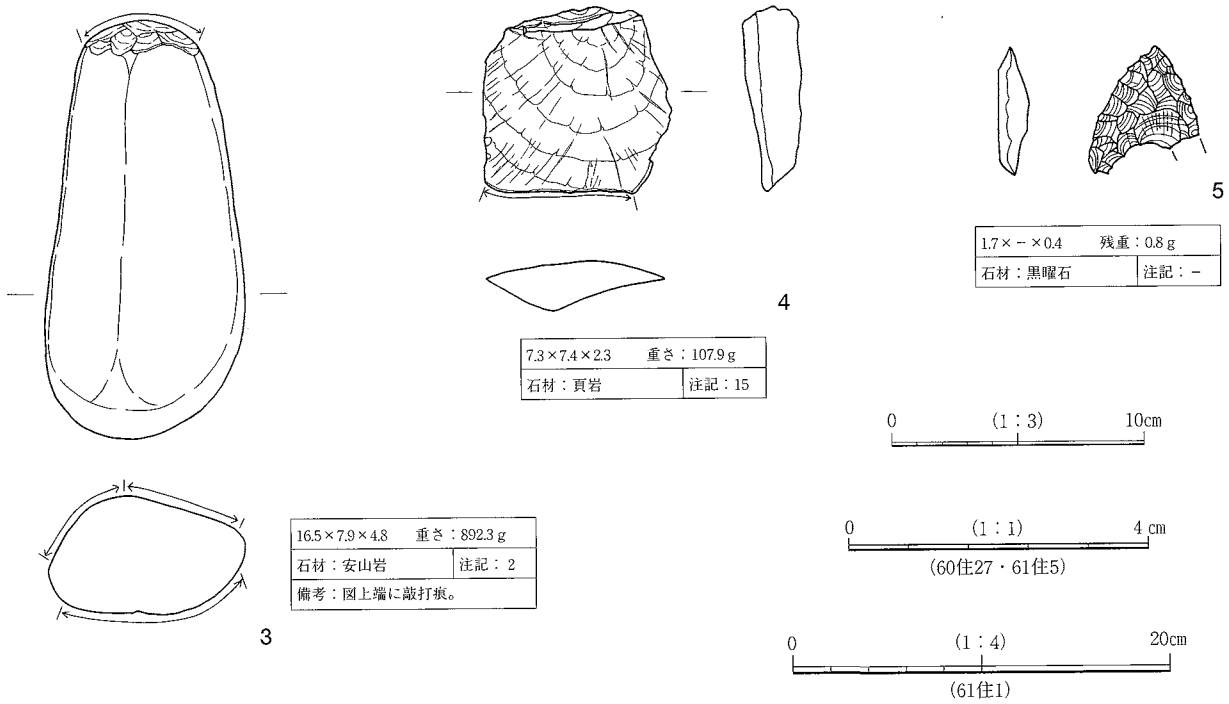
11.8×5.9×2.0	重さ：97.1 g
石材：頁岩	注記：43

0 (1:3) 10cm

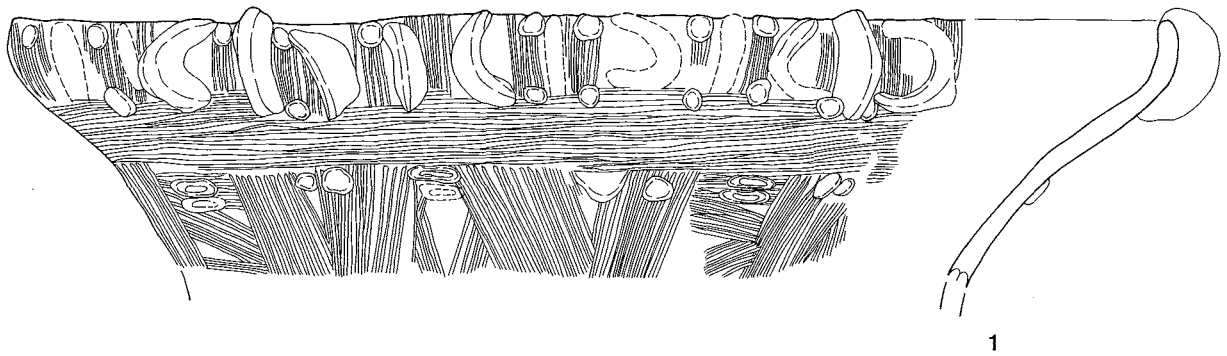
第296図 60号住居跡出土遺物②



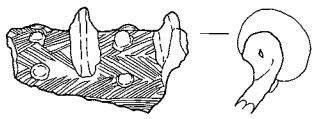
第297図 60号住居跡出土遺物③



第298図 61号住居跡出土遺物



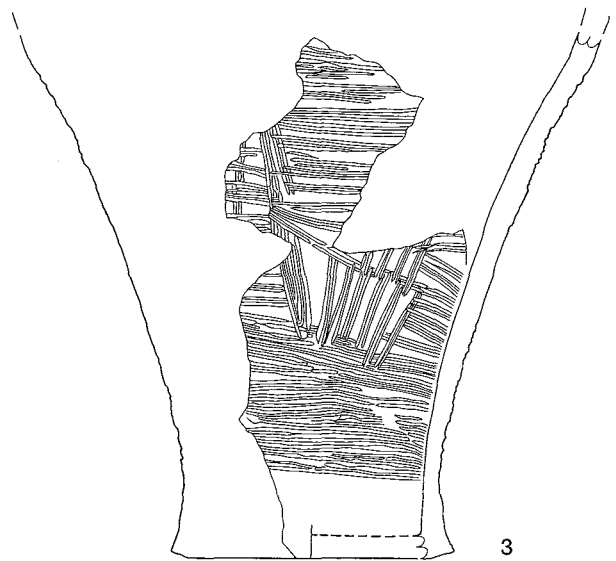
1



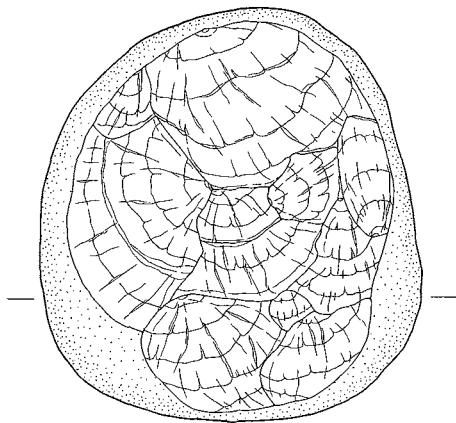
2



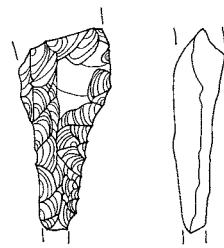
4



3

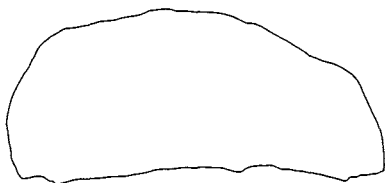


5



6

- × - × 0.7	残重: 1.7 g
石材: 黒曜石	注記: -

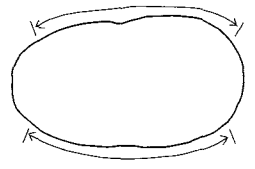
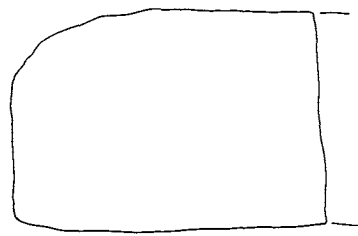
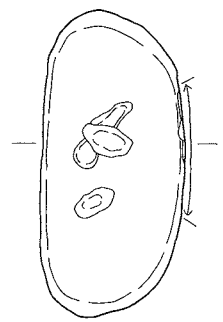
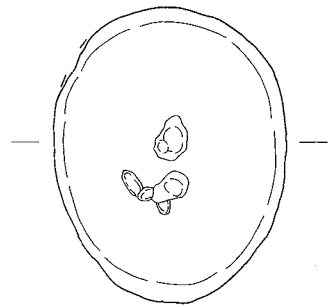
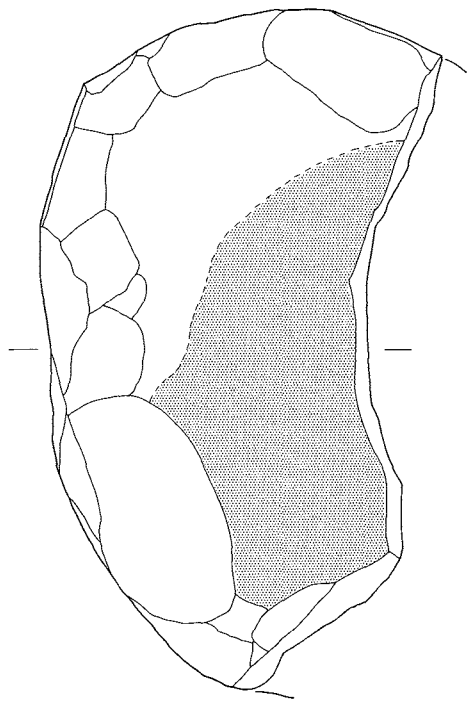
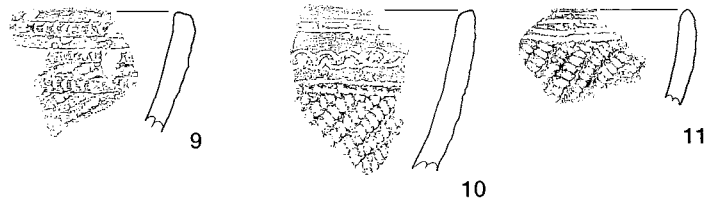
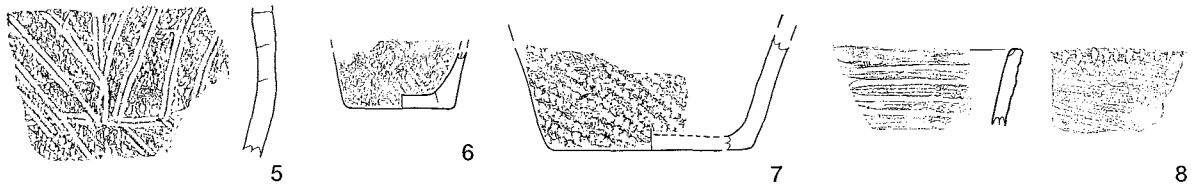
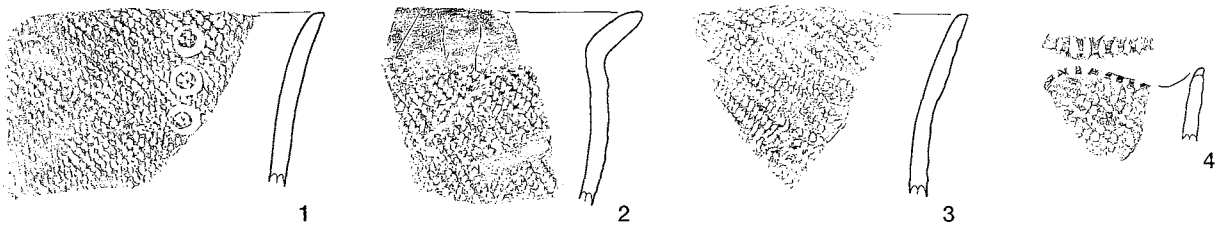


16.4 × 15.2 × 6.9	重さ: 2,092 g
石材: 安山岩	注記: 4
備考: 被熱痕あり。石核か。	

0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4cm
(6)

第299図 62号住居跡出土遺物



残26.8×-×8.8 残重：5.520 g	
石材：安山岩	注記：10

11.7×9.2×5.2 残重：750.1 g	
石材：安山岩	注記：9
備考：凹石→磨石。被熱痕あり。	

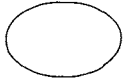
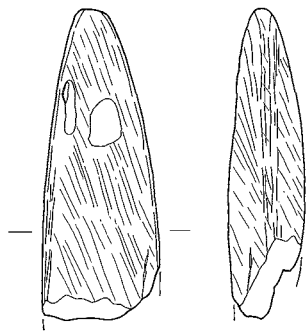
12.0×5.8×3.3 重さ：325.7 g	
石材：安山岩	注記：23
備考：側面に敲打痕あり。	

0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm

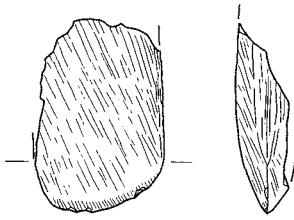
(6)

第300図 63号住居跡出土遺物①



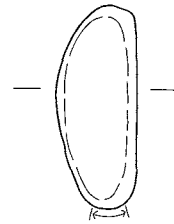
17

残12.3×4.7×3.0 残重：233.7g
石材：緑泥片岩 注記：31



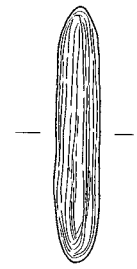
18

-x-x-	残重：88.7g
石材：輝緑凝灰岩	注記：7



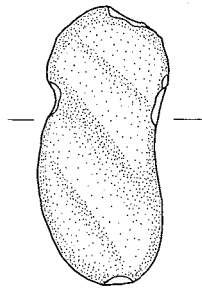
19

8.1×3.2×2.7 重さ：90.0g
石材：凝灰岩 注記：30
備考：下端に敲打痕あり。



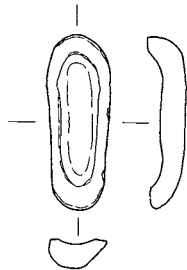
20

10.1×1.7×1.2 重さ：35.4g
石材：緑泥片岩 注記：5
備考：棒状礫。



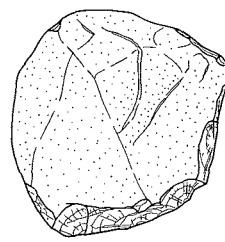
21

11.0×5.2×2.4 重さ：144.6g
石材：粗粒砂岩 注記：8



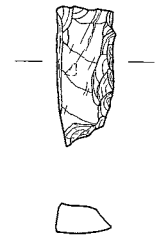
22

6.8×2.5×1.5 重さ：24.0g
石材：頁岩 注記：12
備考：凹面平滑。



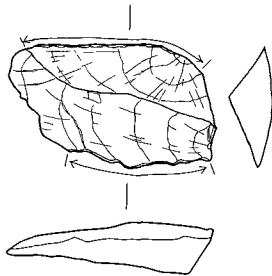
23

8.9×8.6×3.3 重さ：269.6g
石材：頁岩 注記：-



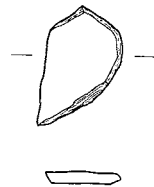
24

5.5×2.3×1.2 重さ：23.0g
石材：黒色安山岩 注記：-



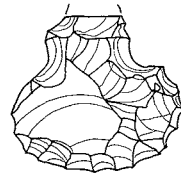
25

4.8×8.2×2.0 重さ：62.7g
石材：黒色安山岩 注記：15



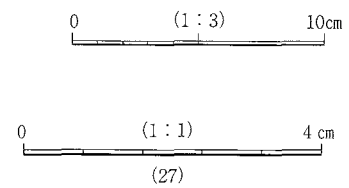
26

4.8×3.3×0.4 重さ：10.1g
石材：滑石 注記：-
備考：滑石片。装飾品製作用か。

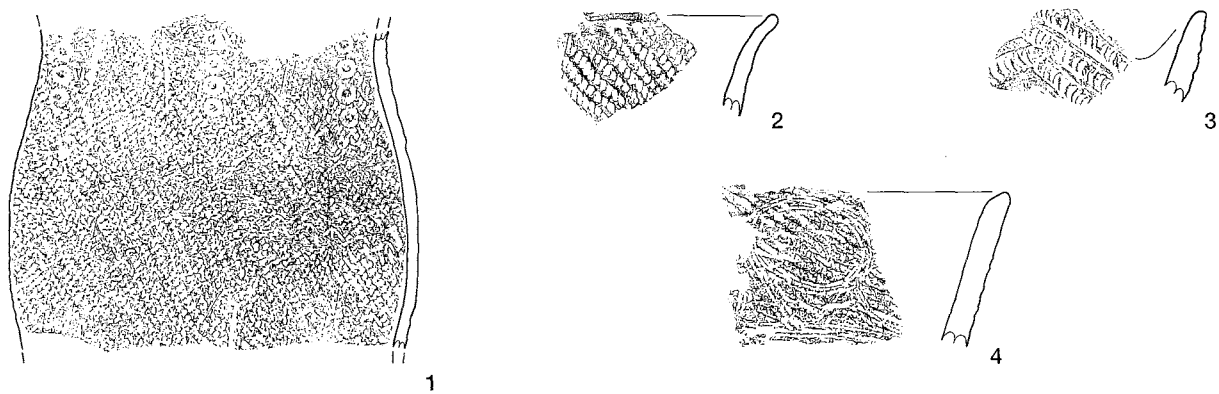


27

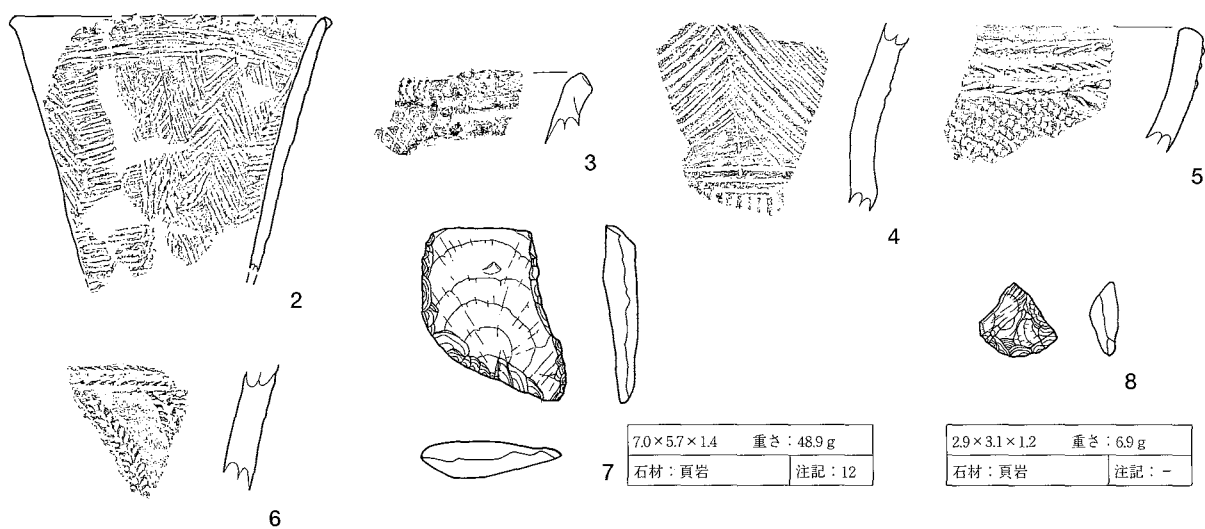
-×2.2×0.6 残重：2.7g
石材：ホルンフェルス 注記：-



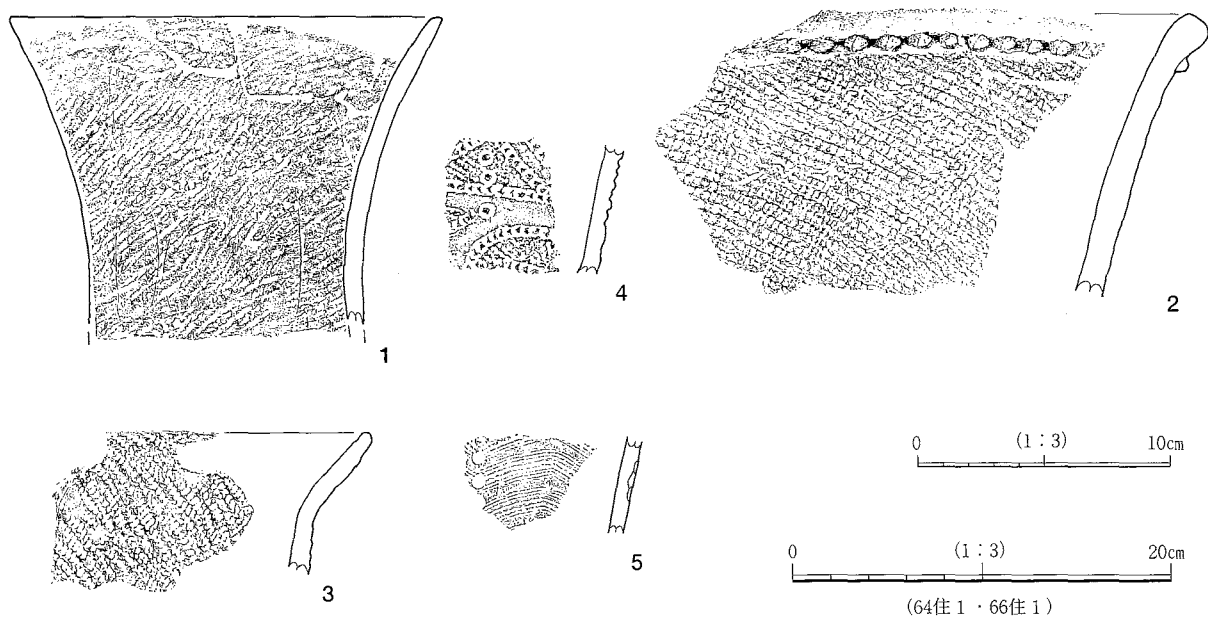
第301図 63号住居跡出土遺物②



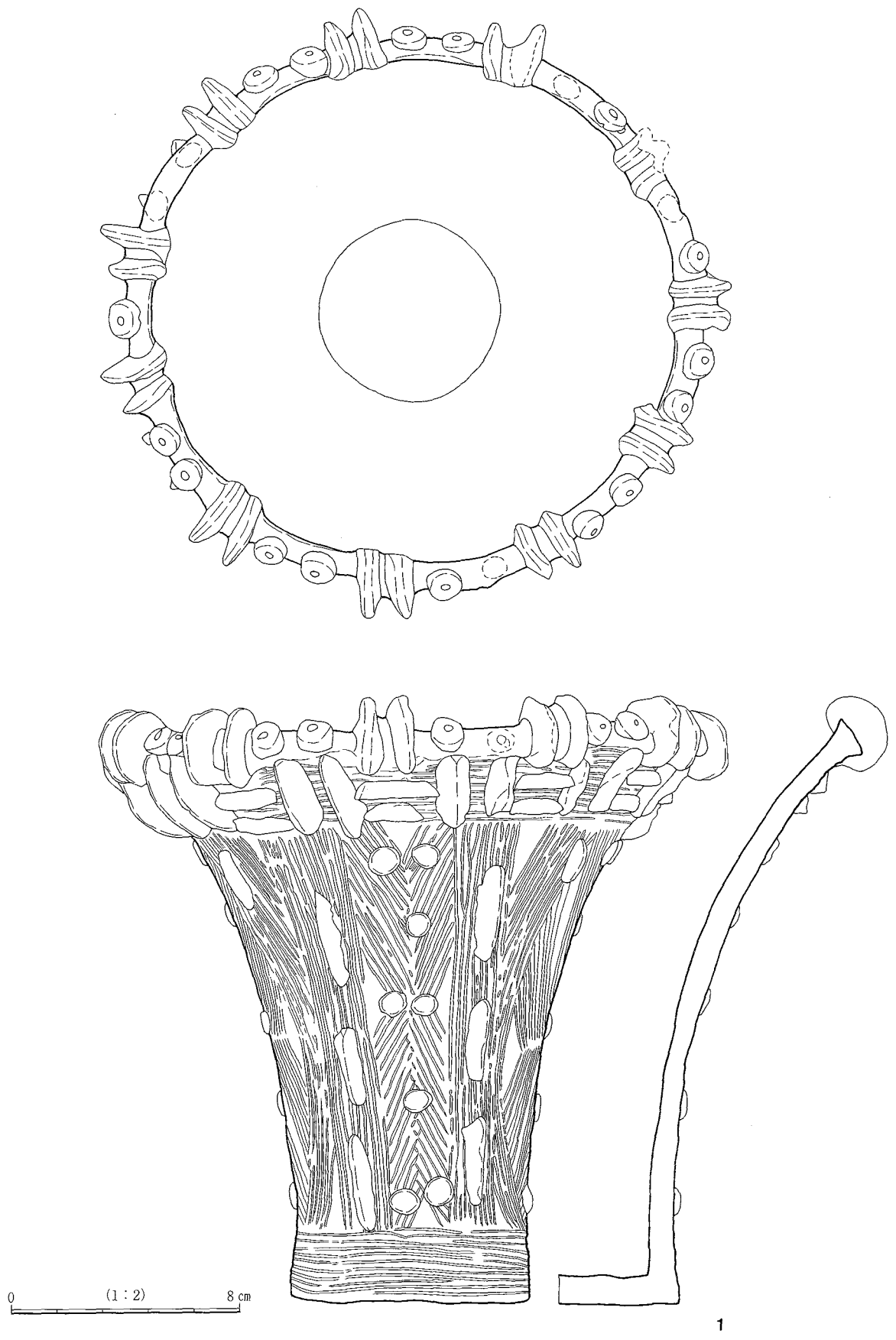
第302図 64号住居跡出土遺物



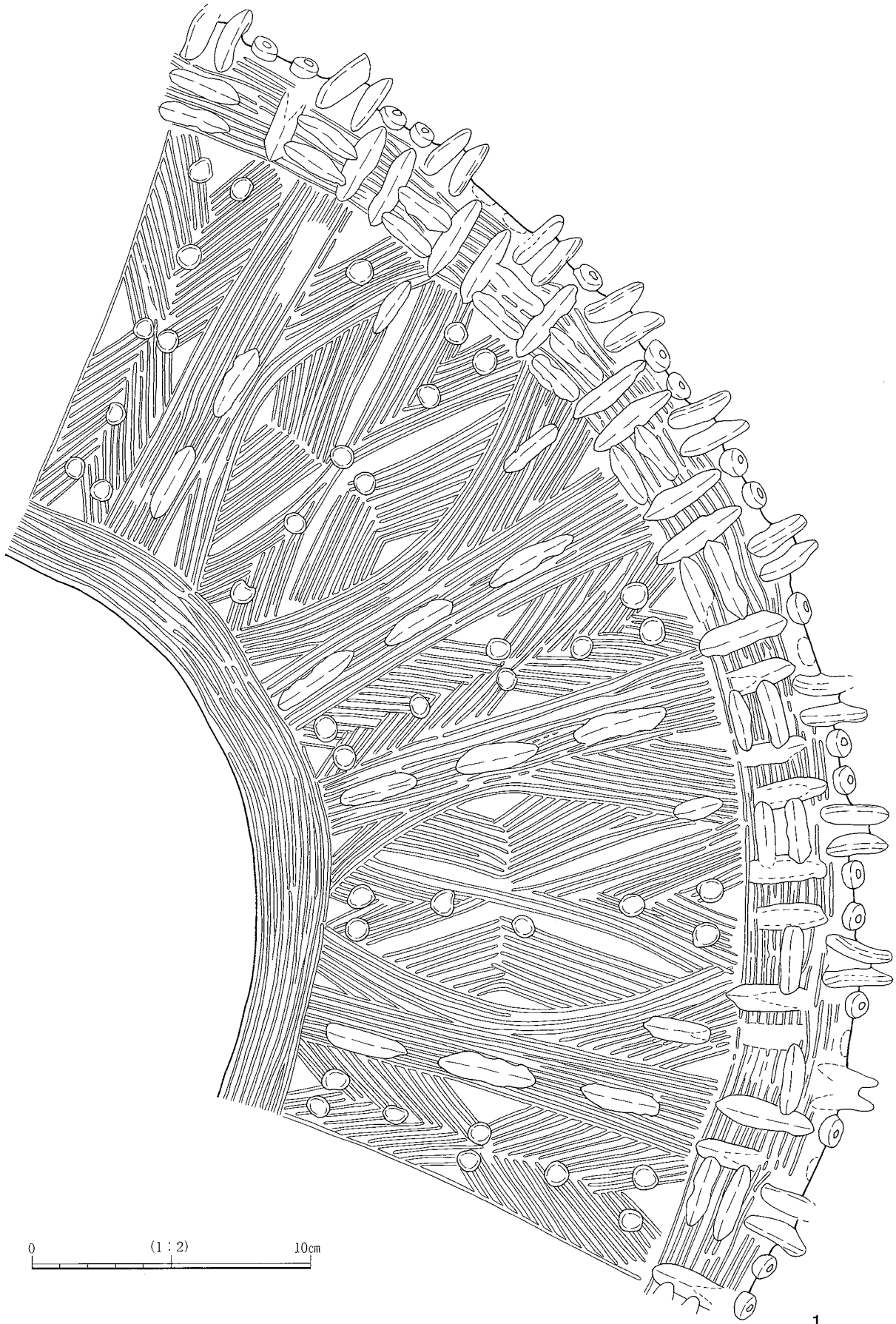
第303図 65号住居跡出土遺物①



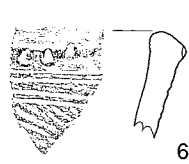
第304図 66号住居跡出土遺物①



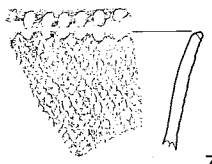
第305图 65号住居跡出土遺物②



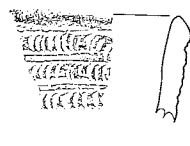
第306图 65号住居跡出土遺物③



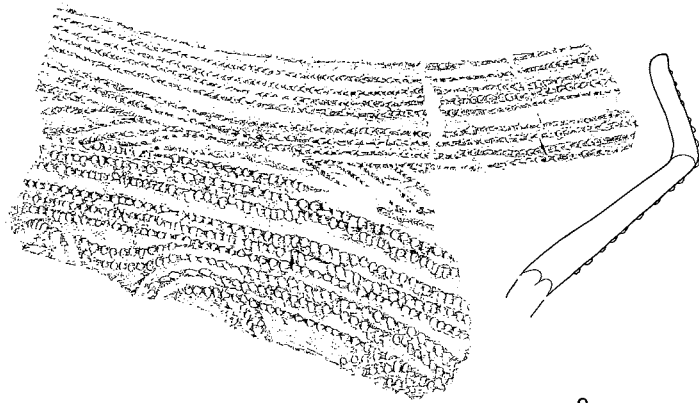
6



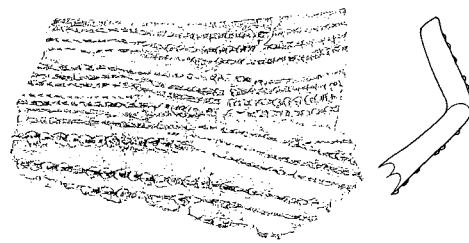
7



8



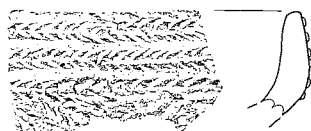
9



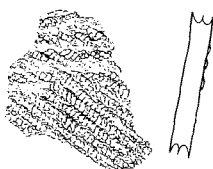
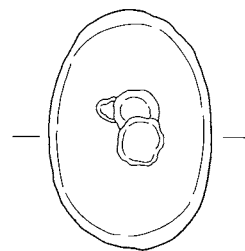
10



11



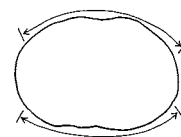
12



13

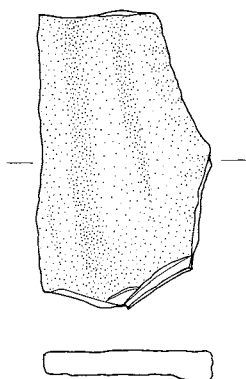


14



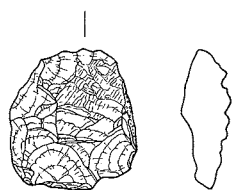
15

9.5×6.5×4.5	重さ：381.6g
石材：安山岩	注記：8
備考：凹石→磨石。	



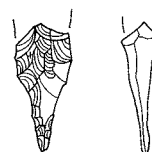
16

11.9×6.9×1.3	重さ：1228g
石材：粗粒砂岩	注記：3



17

5.6×5.1×2.1	重さ：65.7g
石材：黒色安山岩	注記：11



18

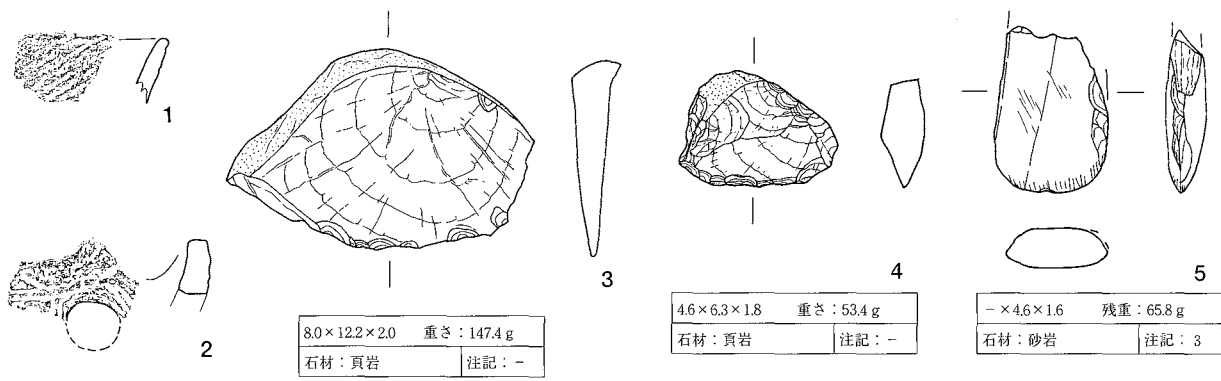
- x - x -	残重：0.3g
石材：黒曜石	注記：-

0 (1:3) 10cm

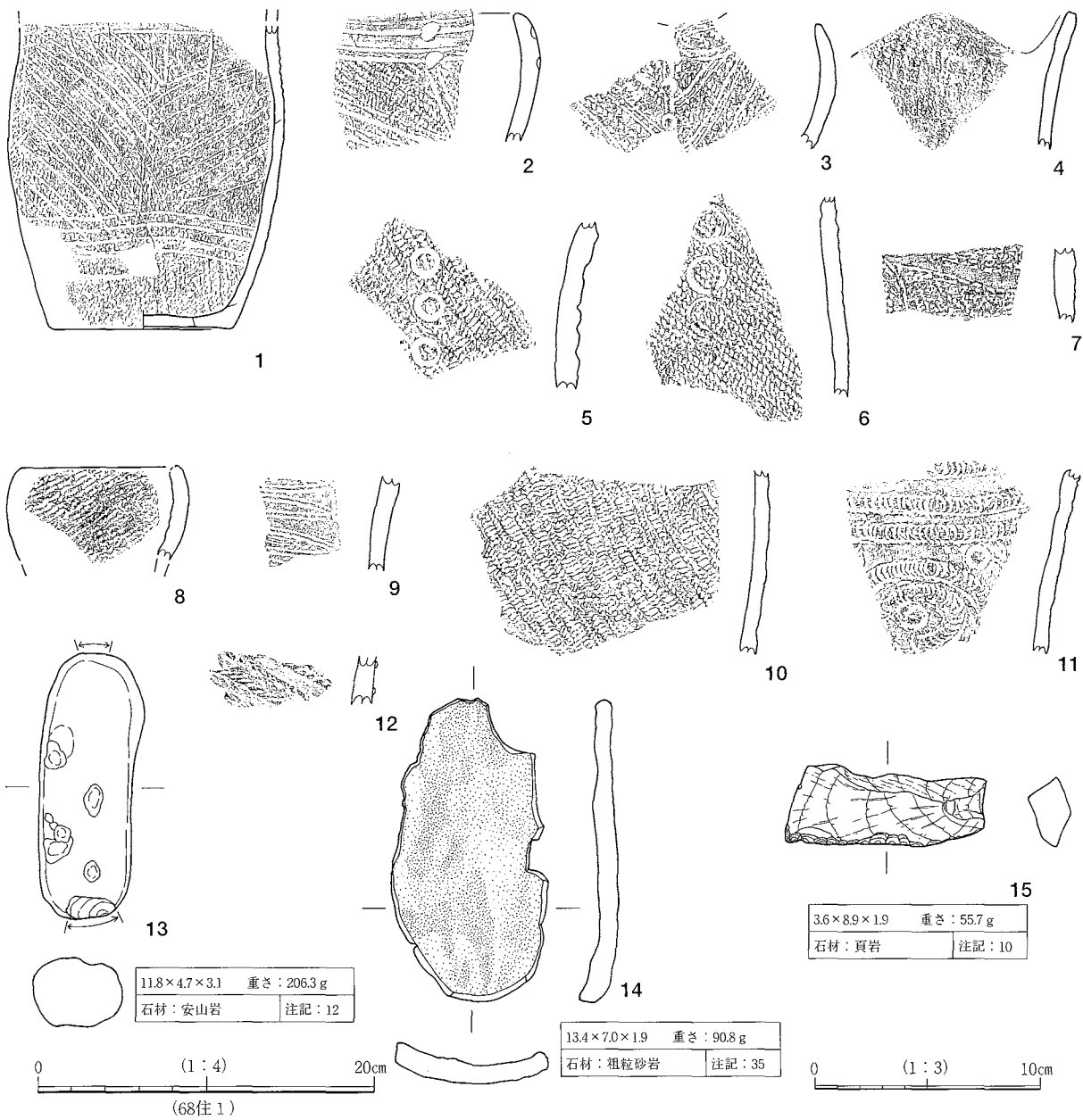
0 (1:1) 4cm

(18)

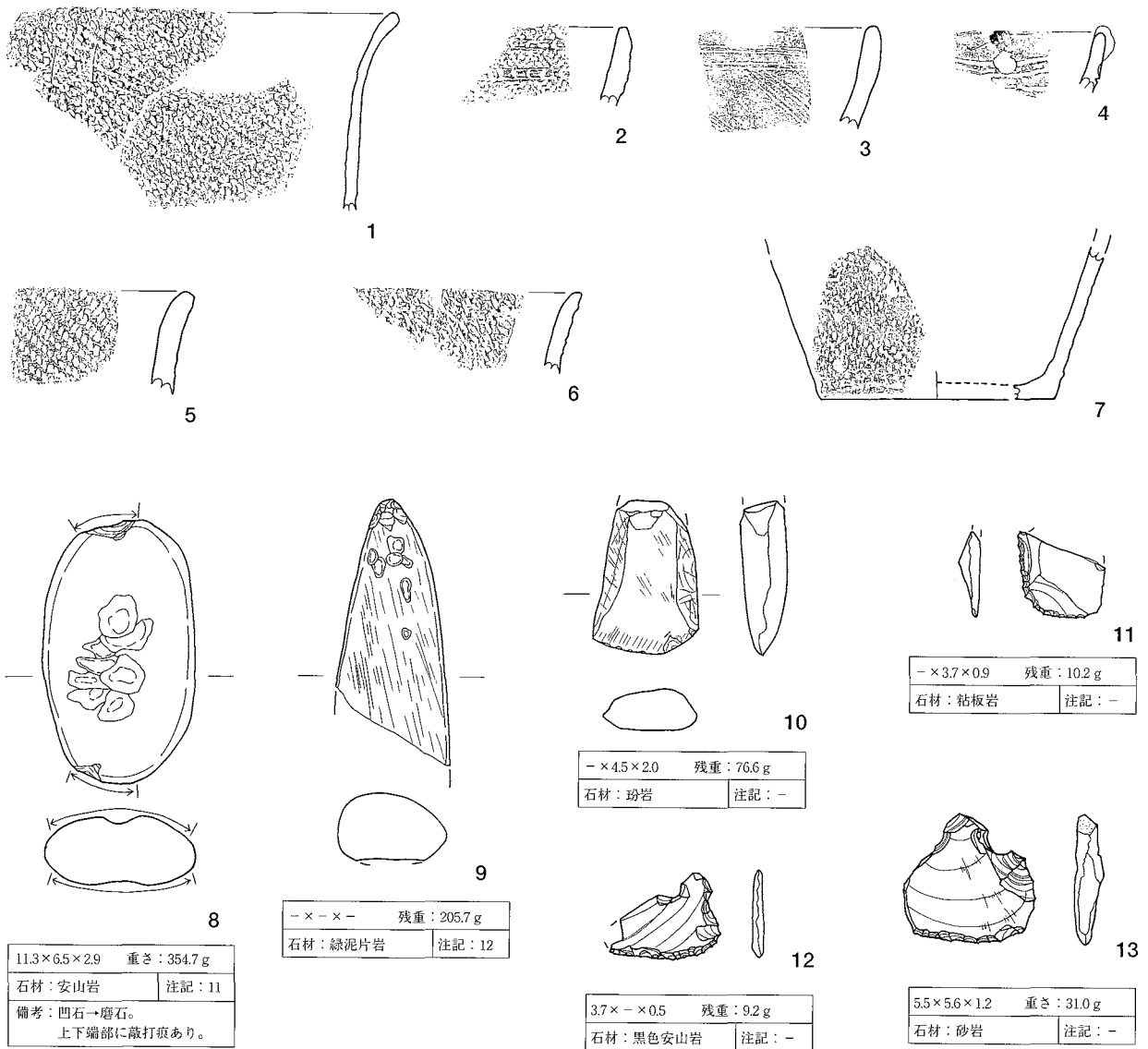
第307図 66号住居跡出土遺物②



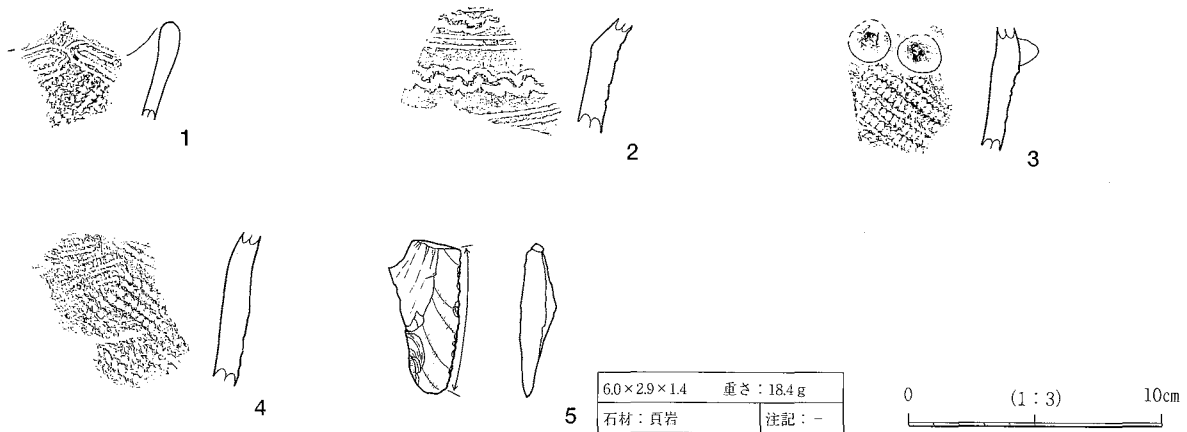
第308図 67号住居跡出土遺物



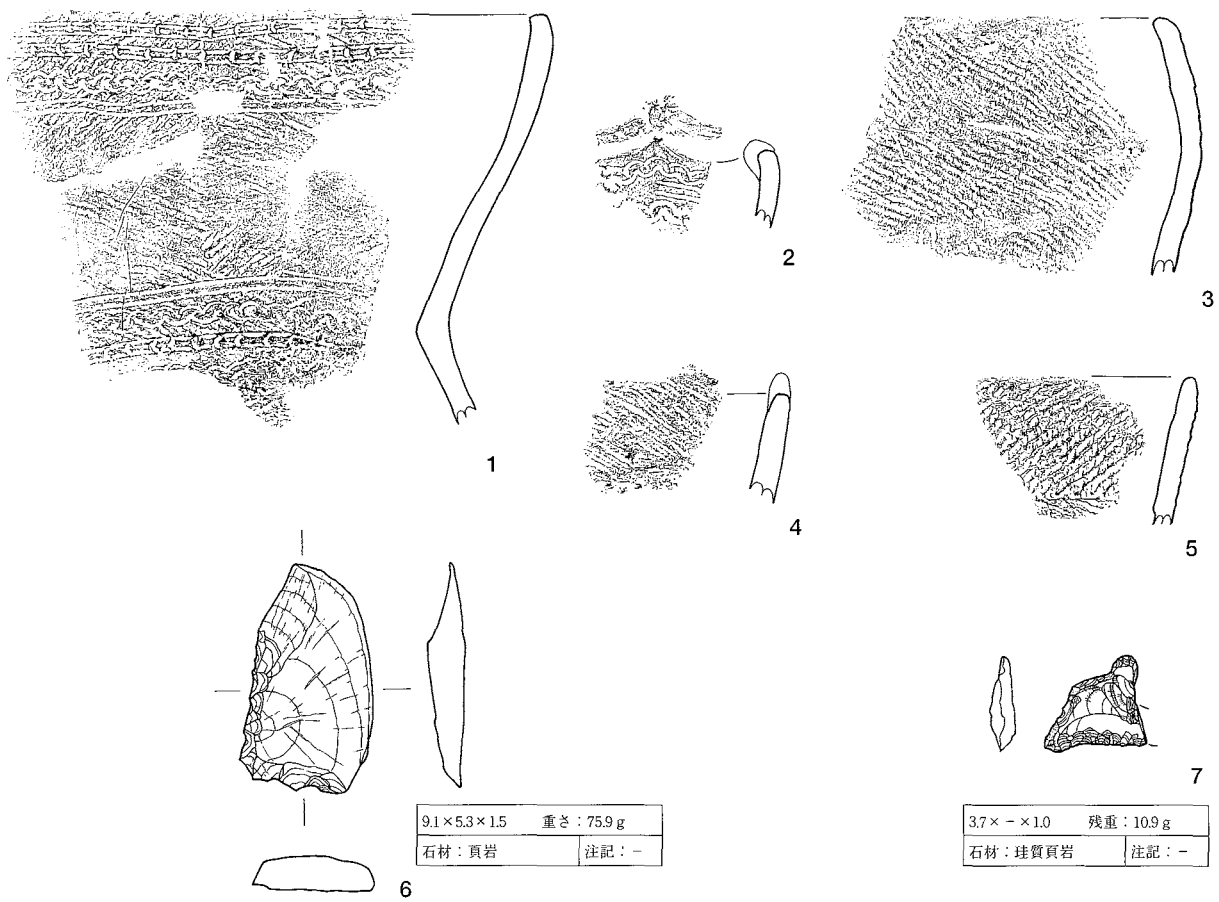
第309図 68号住居跡出土遺物



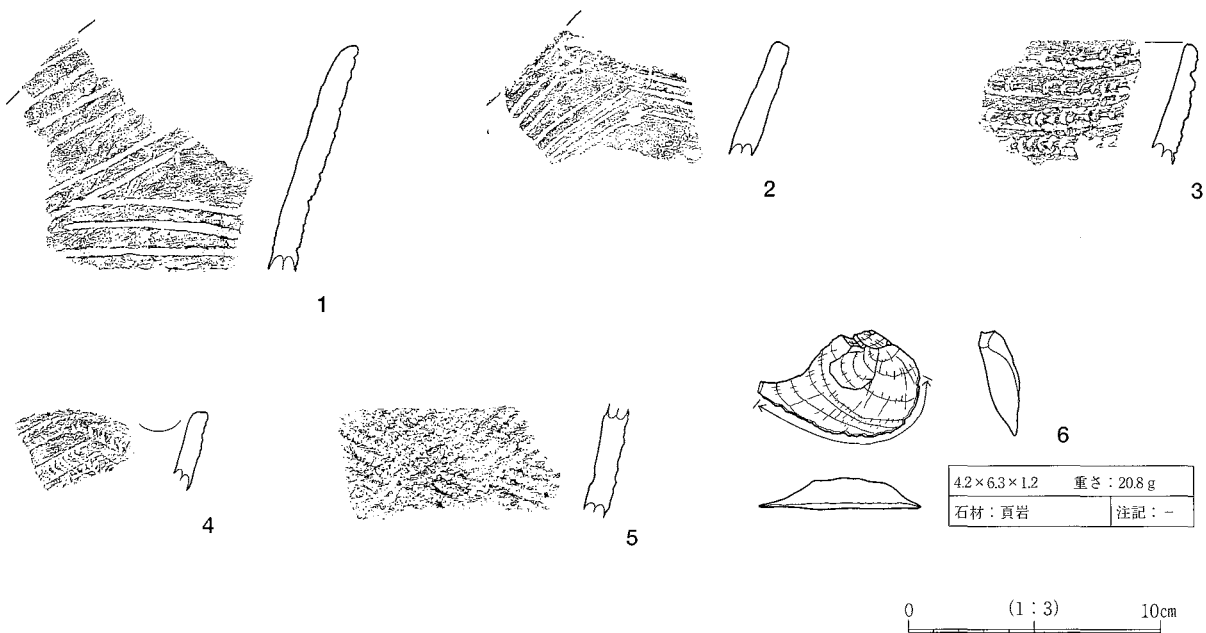
第310図 69号住居跡出土遺物



第311図 70号住居跡出土遺物



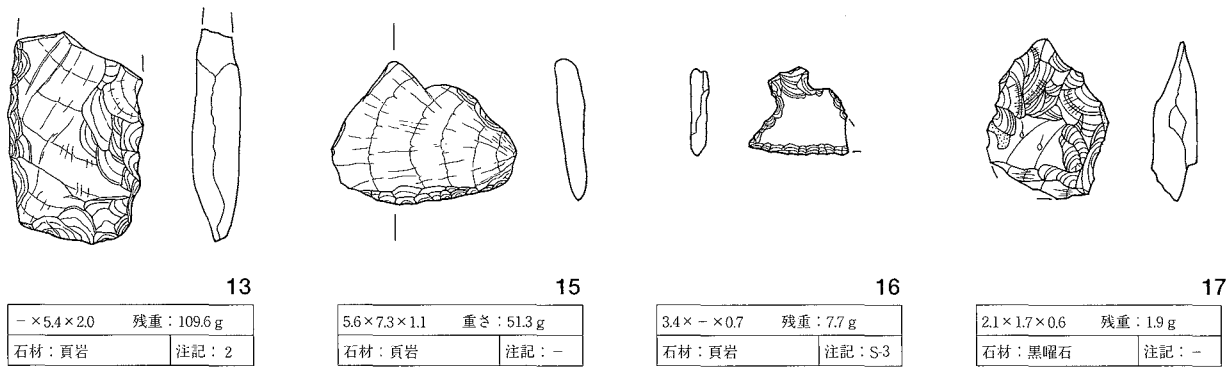
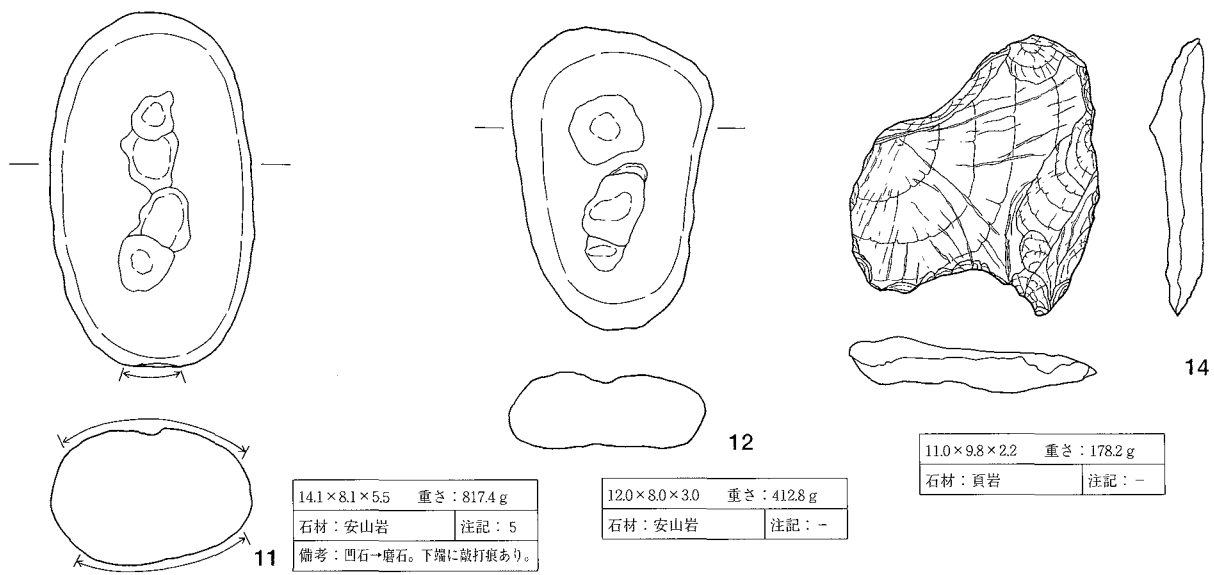
第312図 71号住居跡出土遺物



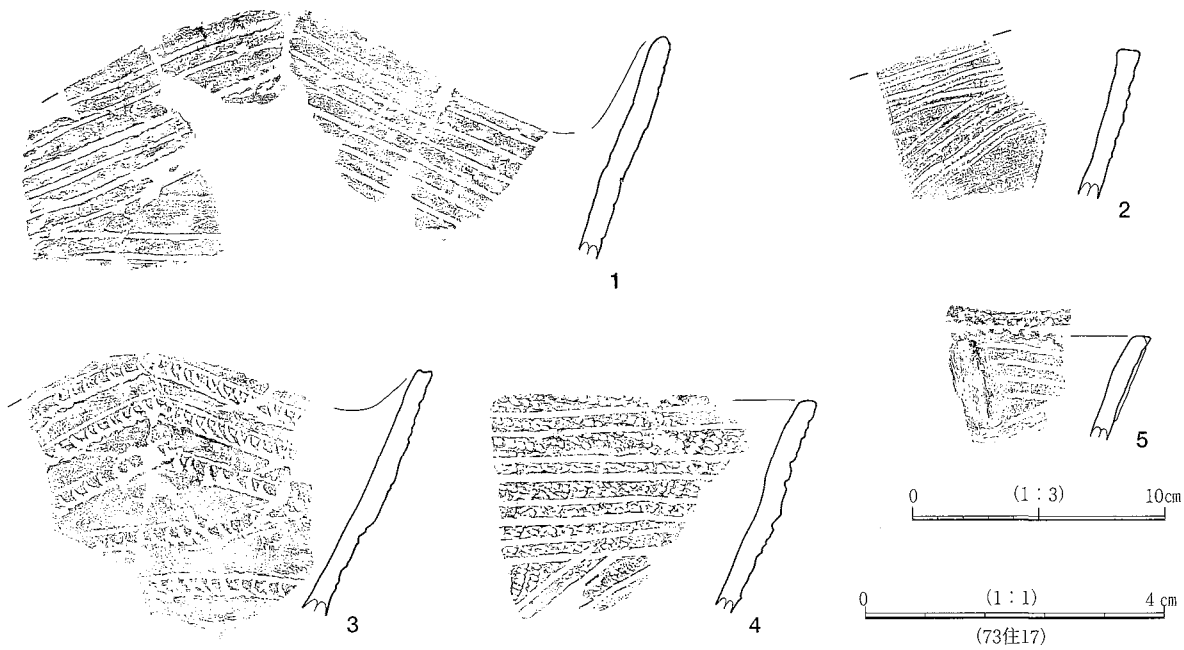
第313図 72号住居跡出土遺物



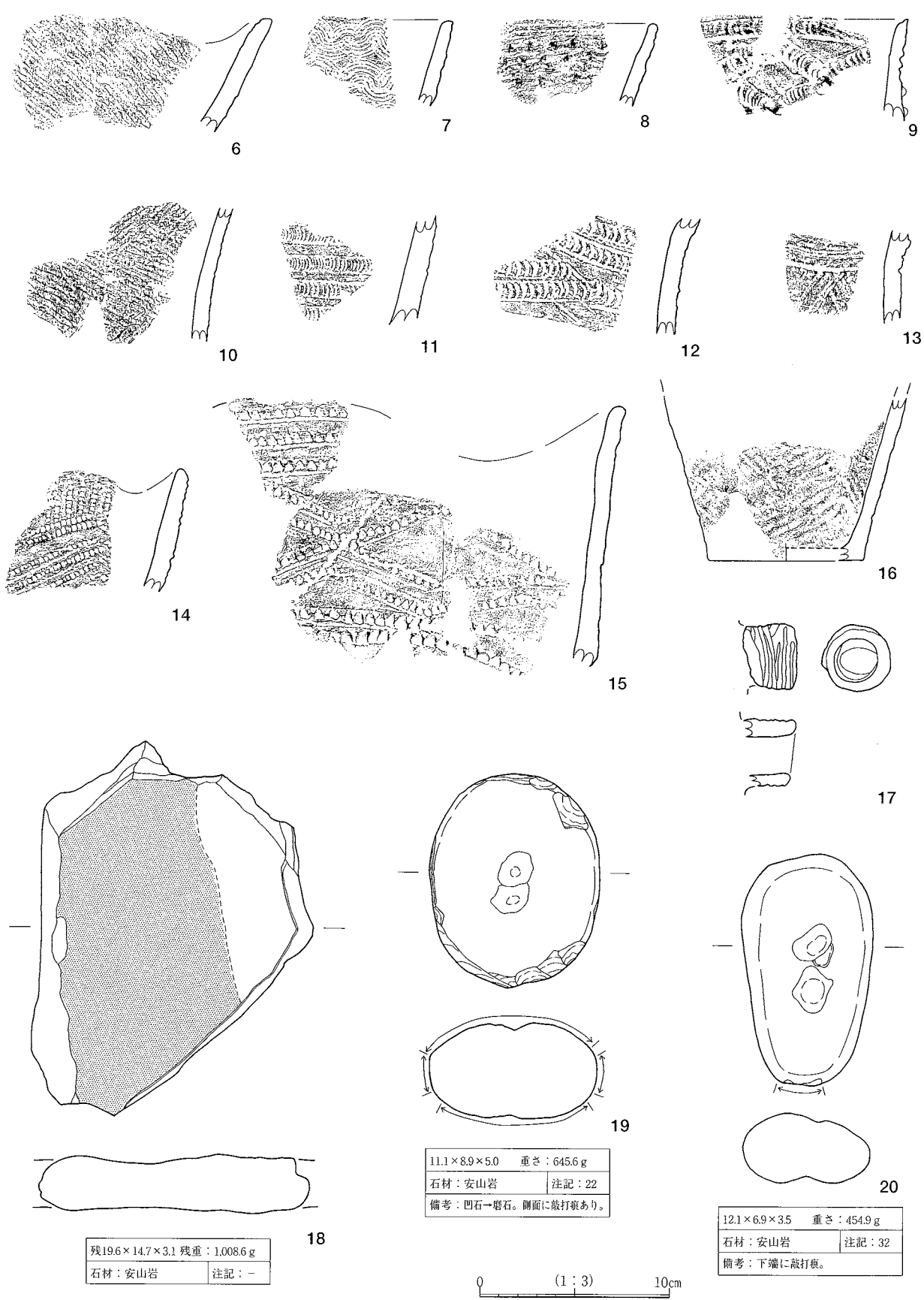
第314图 73号住居跡出土遺物①



第315図 73号住居跡出土遺物②



第316図 74号住居跡出土遺物①



残19.6×14.7×3.1 残重：1.008.6 g
石材：安山岩 注記：-

18

11.1×8.9×5.0 重さ：645.6 g
石材：安山岩 注記：22
備考：凹石一磨石。側面に敲打痕あり。

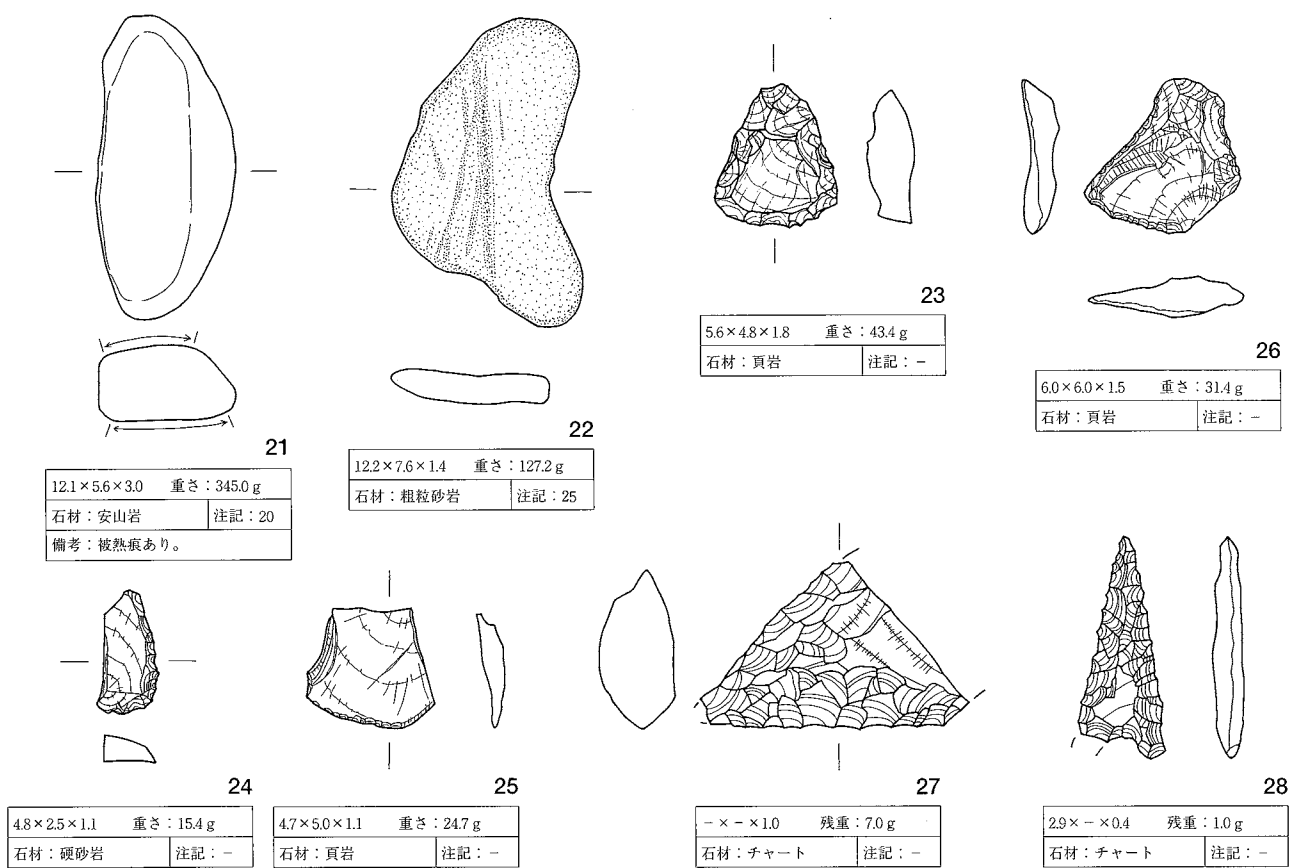
19

12.1×6.9×3.5 重さ：454.9 g
石材：安山岩 注記：32
備考：下端に敲打痕。

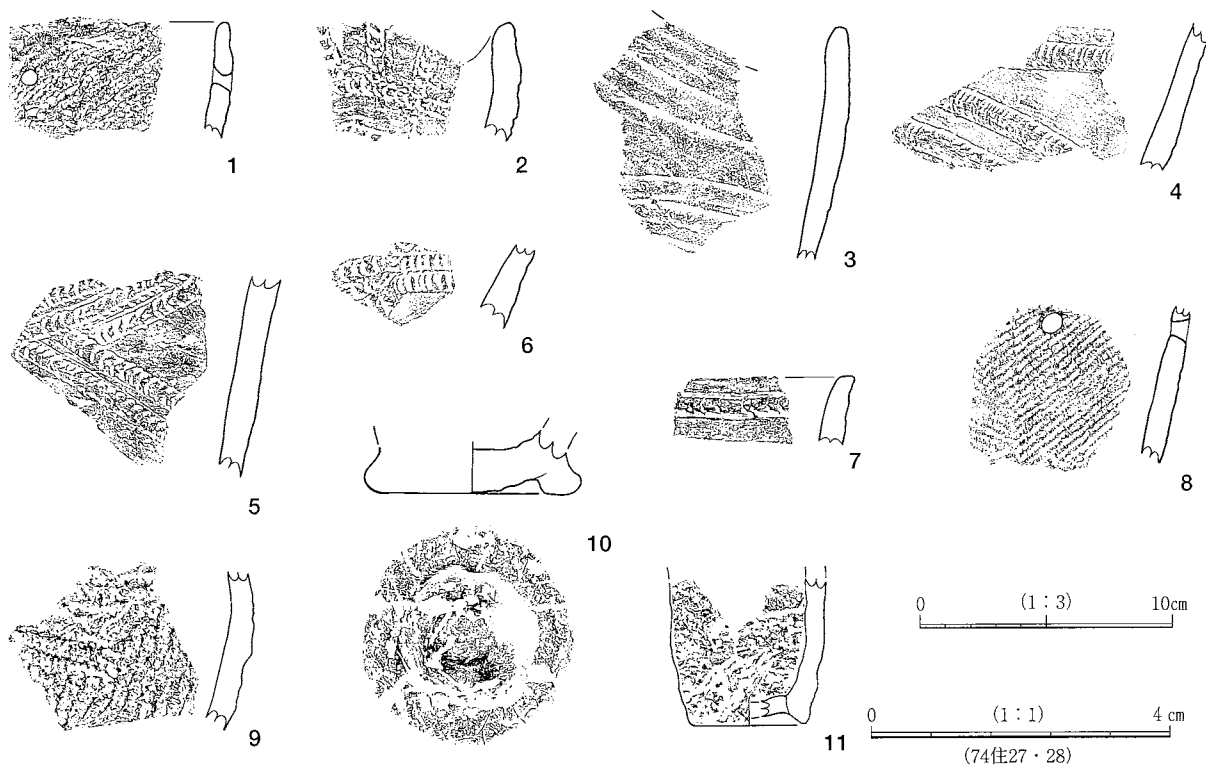
20

0 (1:3) 10cm

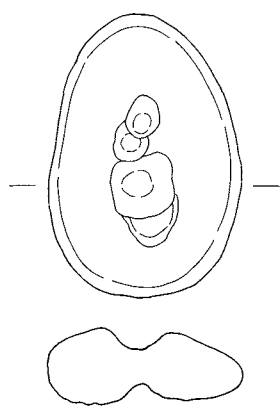
第317図 74号住居跡出土遺物②



第318図 74号住居跡出土遺物③

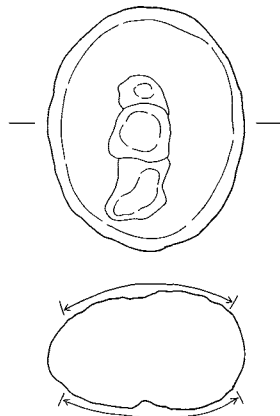


第319図 75号住居跡出土遺物①



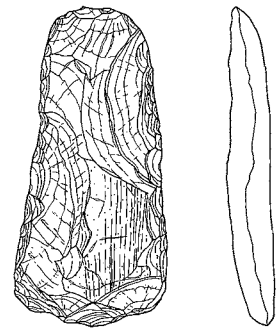
12

11.3×7.6×3.0	重さ：276.9 g
石材：安山岩	注記：-



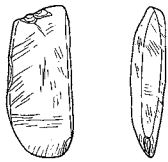
13

9.7×7.8×4.7	重さ：355.6 g
石材：安山岩	注記：8
備考：凹石→磨石。被熱痕あり。	



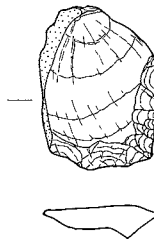
14

12.7×6.1×1.8	重さ：148.9 g
石材：頁岩	注記：-



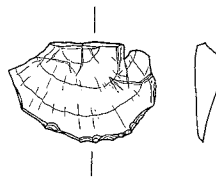
15

6.0×2.8×1.4	重さ：33.4 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：-
備考：刃部あり。不定形な磨製石斧。	



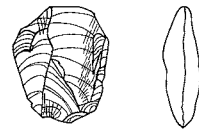
16

6.5×4.8×1.4	重さ：64.2 g
石材：頁岩	注記：-



17

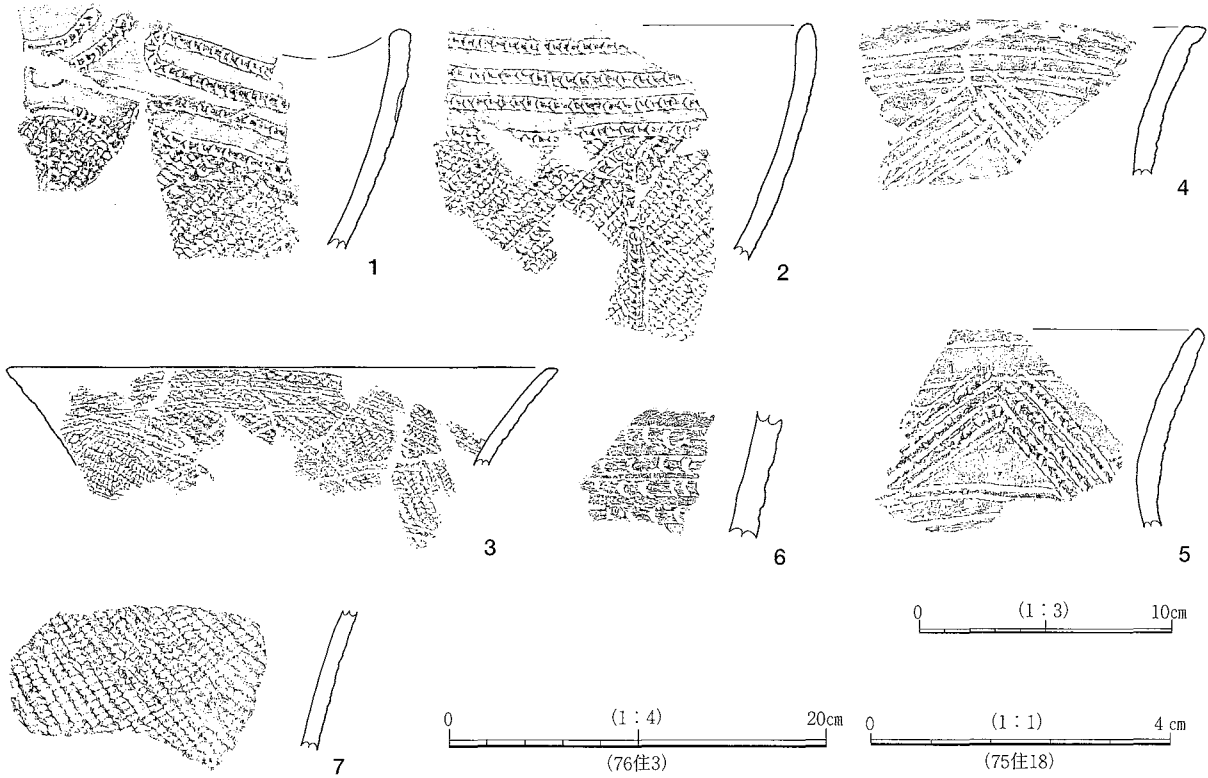
4.0×5.9×1.1	重さ：21.9 g
石材：頁岩	注記：-



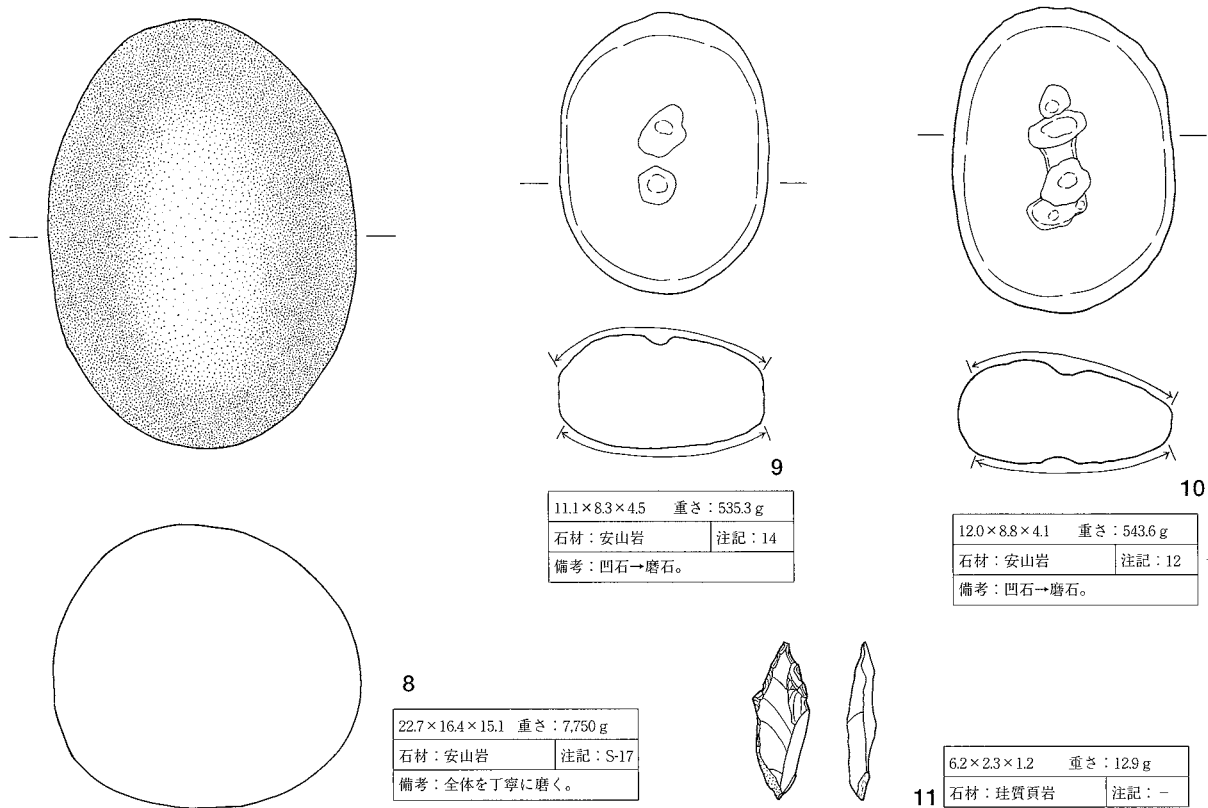
18

1.5×1.3×0.5	重さ：0.8 g
石材：黒曜石	注記：-

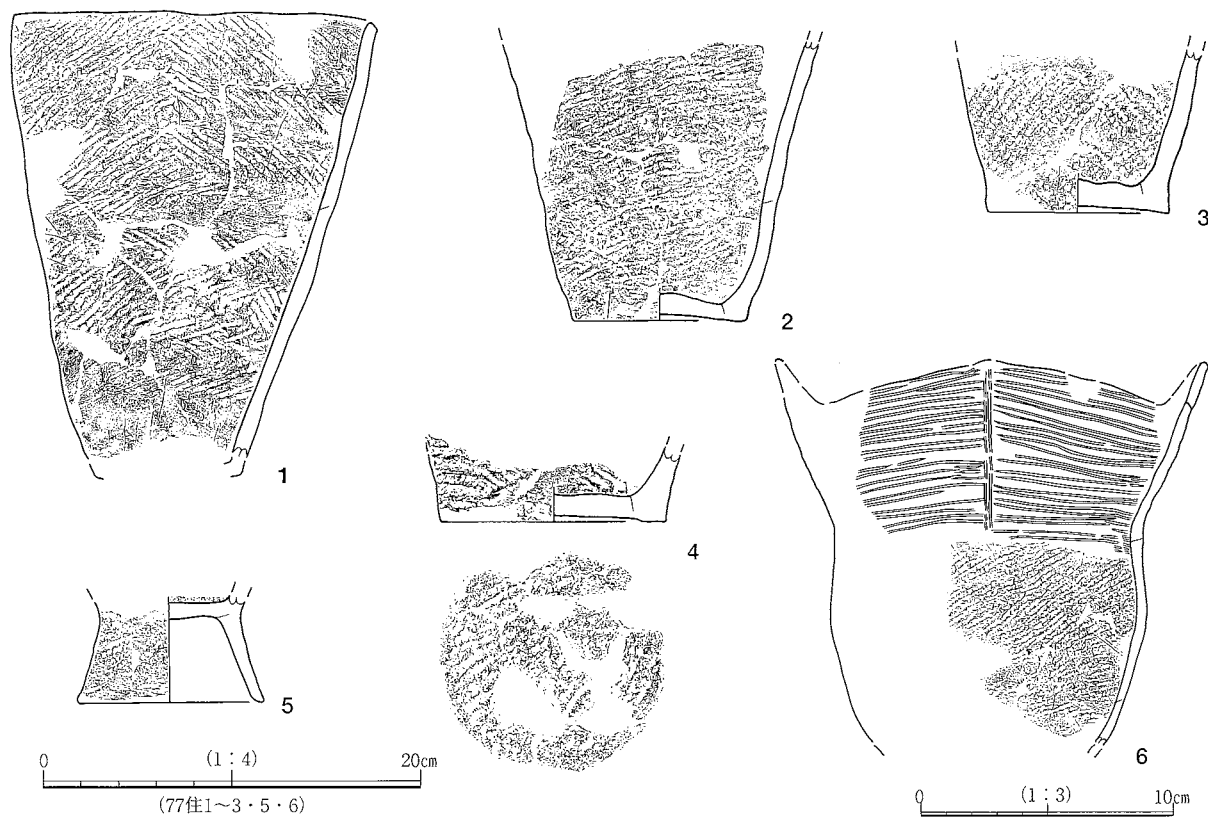
第320図 75号住居跡出土遺物②



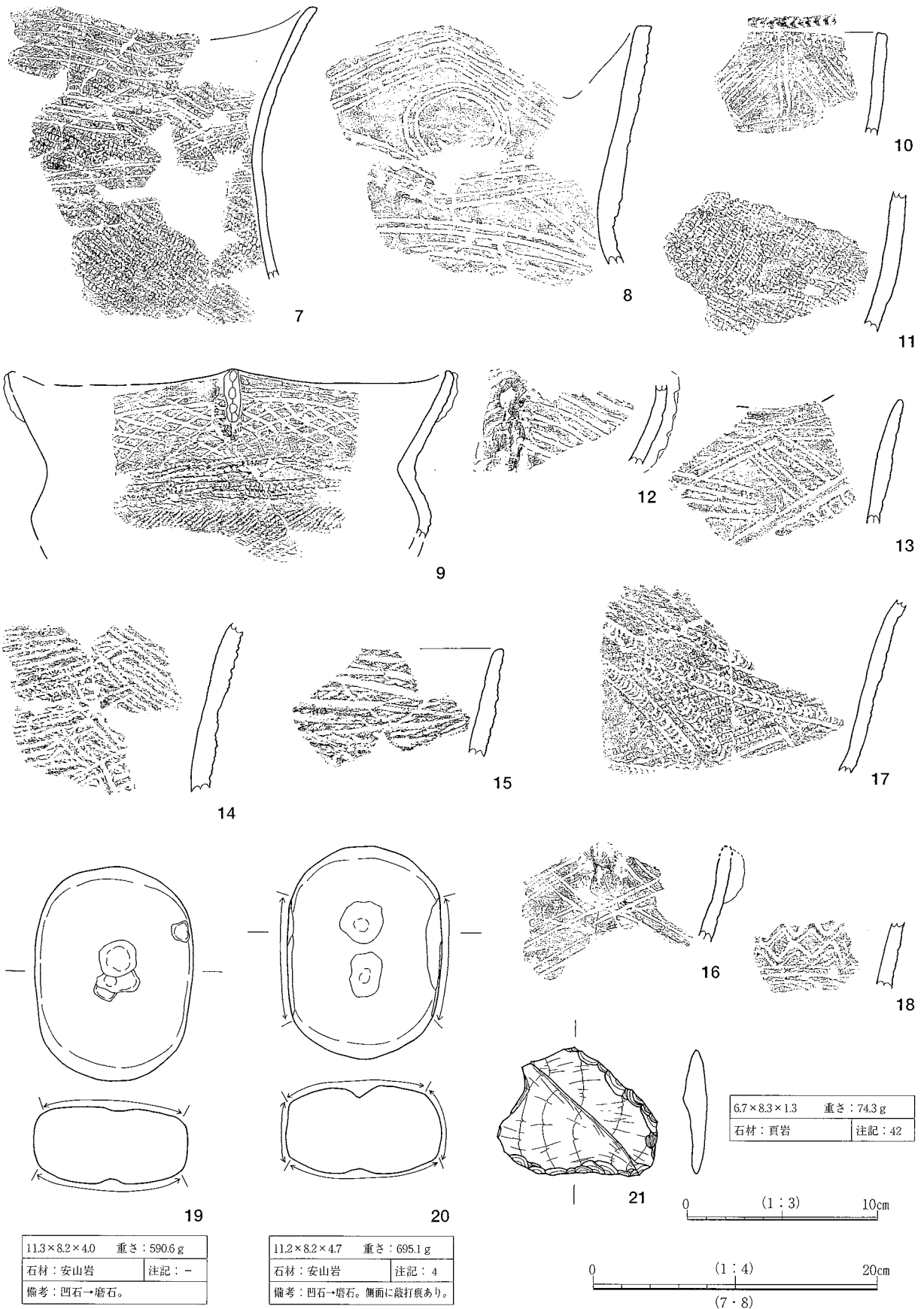
第321図 76号住居跡出土遺物①



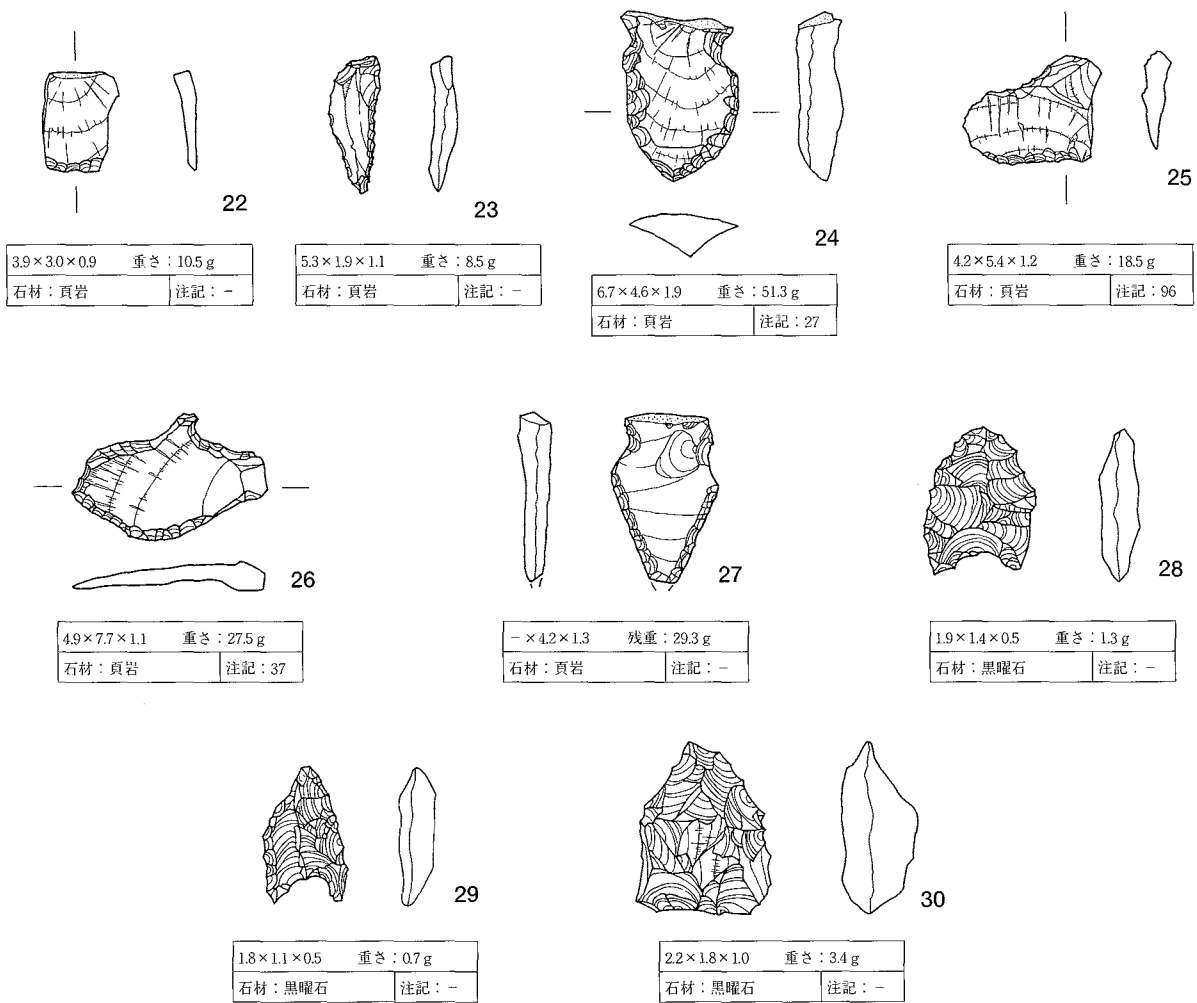
第322図 76号住居跡出土遺物②



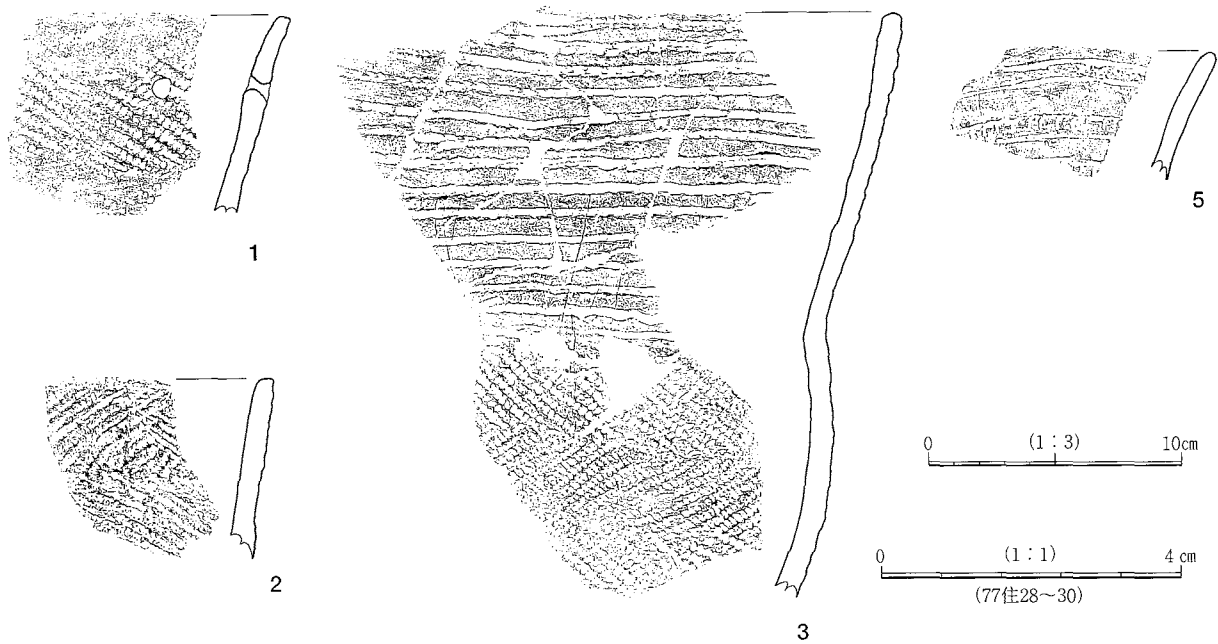
第323図 77号住居跡出土遺物①



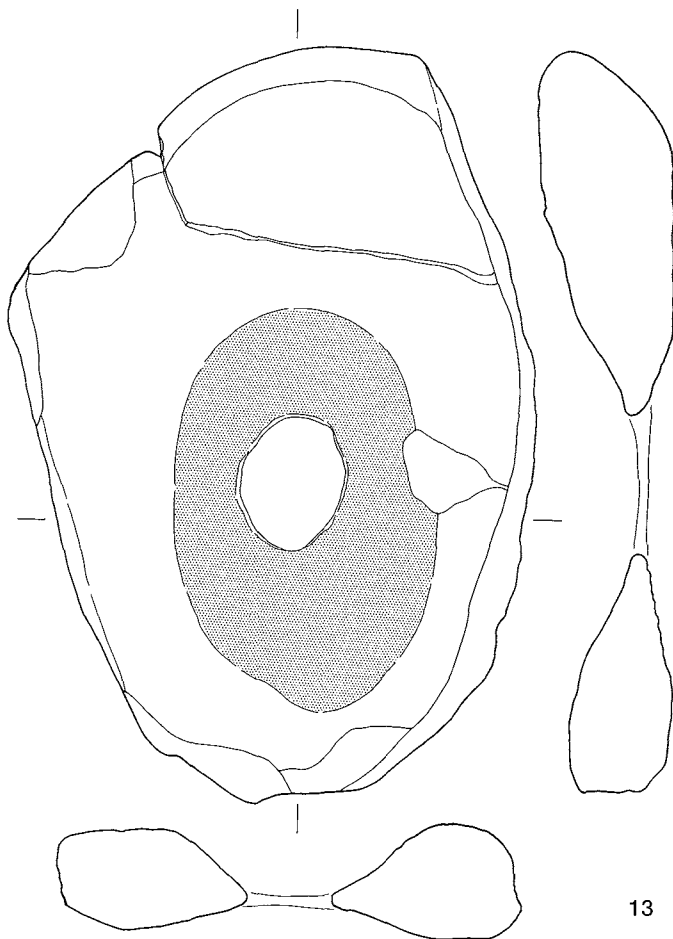
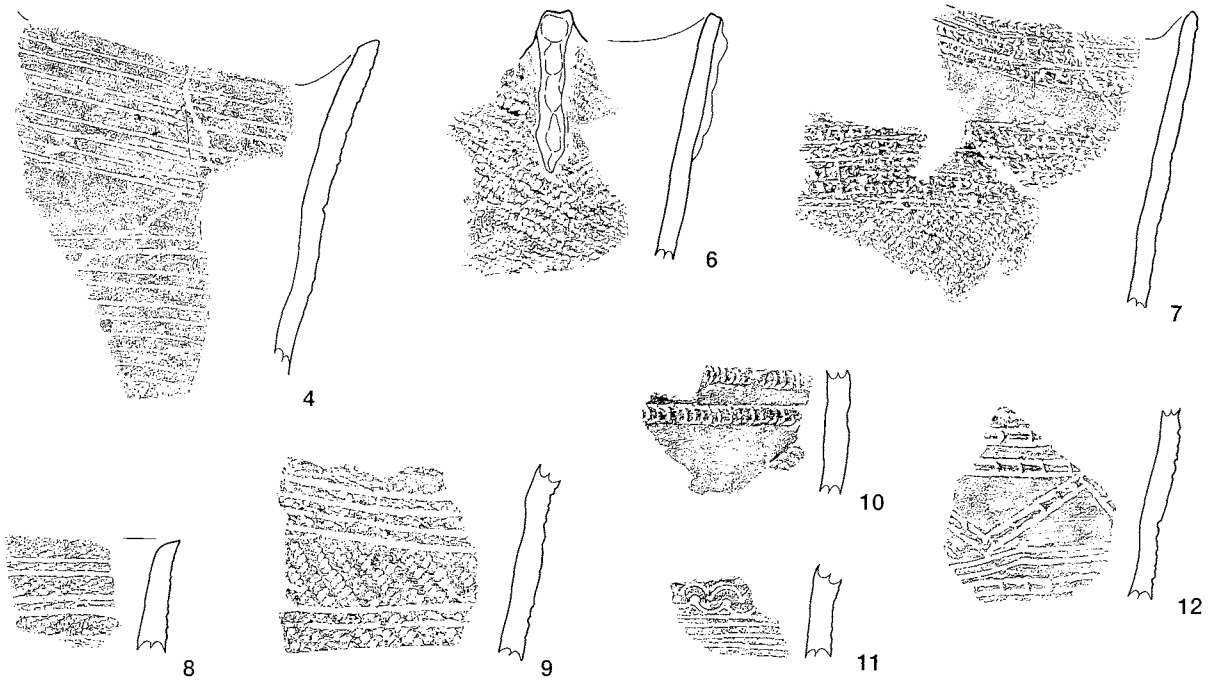
第324図 77号住居跡出土遺物②



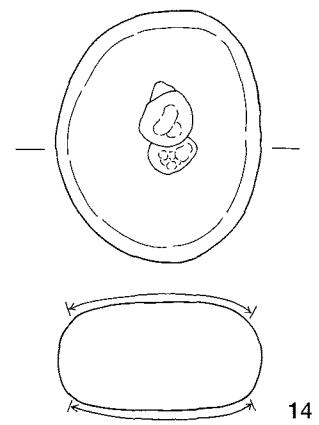
第325図 77号住居跡出土遺物③



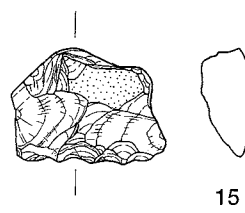
第326図 78号住居跡出土遺物①



39.9×28.2×7.3	重さ：10.9kg
石材：緑泥片岩	注記：S-1
備考：中央部に7.4×5.6cmの孔。	



10.0×8.1×4.3	重さ：515.4g
石材：安山岩	注記：3
備考：凹石→磨石。	

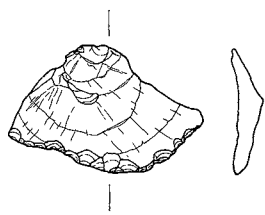


4.6×6.0×1.9	重さ：58.5g
石材：頁岩	注記：-

0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm
(13)

第327図 78号住居跡出土遺物②



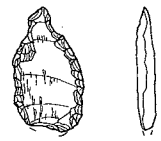
16

5.0×7.7×1.3	重さ：32.3 g
石材：頁岩	注記：-



17

5.5×3.4×1.4	重さ：29.3 g
石材：頁岩	注記：-



18

-×2.9×0.8	残重：11.4 g
石材：チャート	注記：-



19

1.5×1.1×0.3	重さ：0.2 g
石材：黒曜石	注記：-

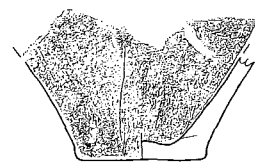
第328図 78号住居跡出土遺物③



1



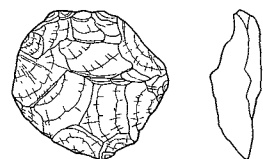
2



3
(1:4)

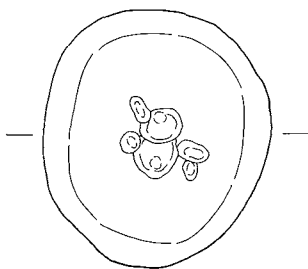


4



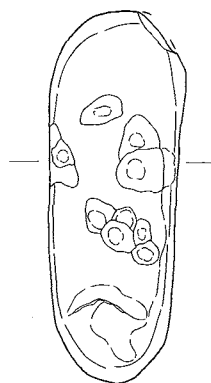
7

5.9×6.2×2.0	重さ：58.8 g
石材：頁岩	注記：-



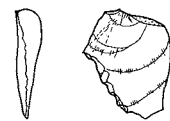
5

10.3×9.1×5.1	重さ：636.9 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。	



6

14.8×5.4×3.4	残重：366.5 g
石材：安山岩	注記：14



8

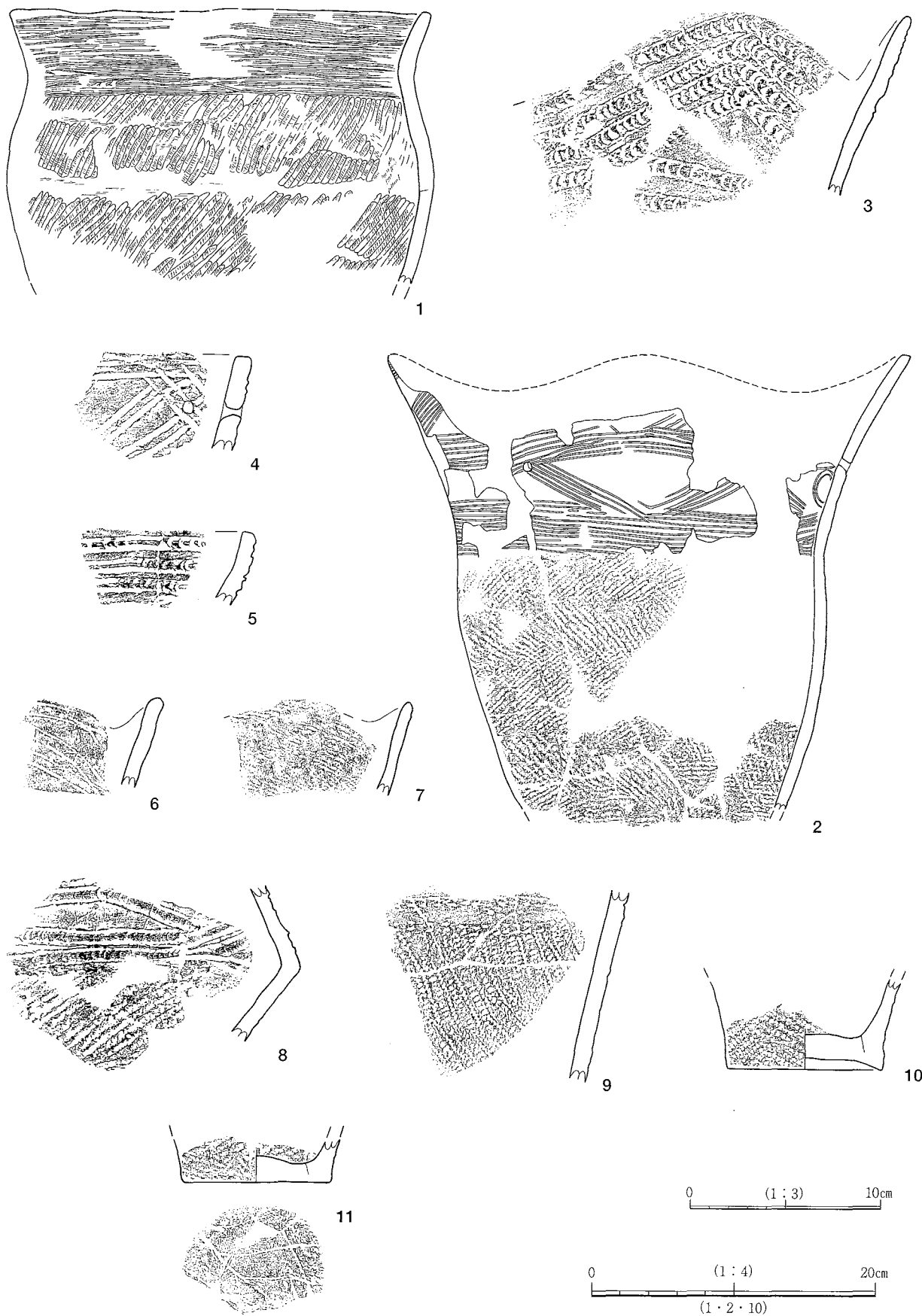
4.3×3.5×1.0	重さ：11.6 g
石材：頁岩	注記：-

0 (1:3) 10cm

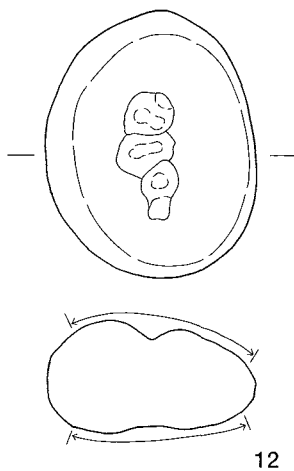
0 (1:1) 4cm

(78住19)

第329図 79号住居跡出土遺物

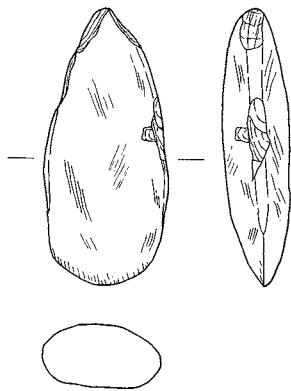


第330图 80号住居跡出土遺物①



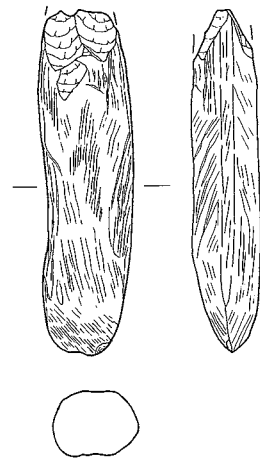
12

10.6×8.4×4.5	重さ：410.4 g
石材：安山岩	注記：8
備考：凹石→磨石。	



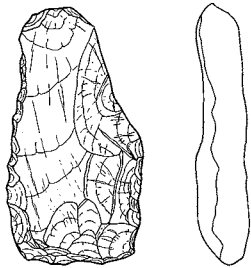
13

11.0×4.9×2.6	重さ：214.2 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：30



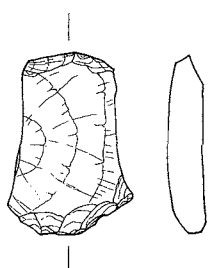
14

残13.7×3.7×2.7	残重：234.8 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：36
備考：不定形な磨製石斧	



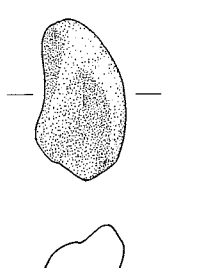
15

10.2×5.4×2.2	重さ：111.8 g
石材：安山岩	注記：31



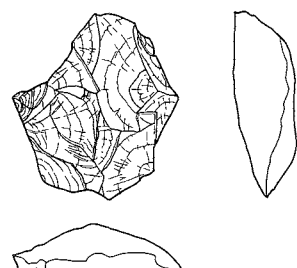
16

7.3×5.0×1.5	重さ：67.3 g
石材：頁岩	注記：9



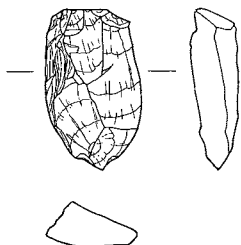
17

6.4×3.6×2.4	重さ：37.9 g
石材：粗粒砂岩	注記：-



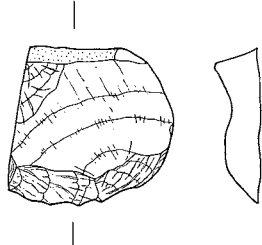
18

7.4×6.6×2.4	重さ：90.6 g
石材：頁岩	注記：-



19

6.4×3.8×1.9	重さ：43.4 g
石材：頁岩	注記：-



20

6.3×6.5×2.3	重さ：86.1 g
石材：頁岩	注記：35



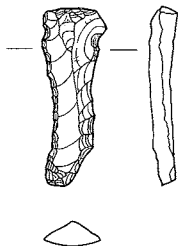
21

3.0×5.4×1.0	重さ：11.5 g
石材：頁岩	注記：-



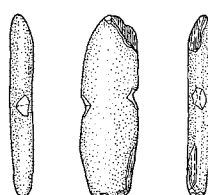
22

3.2×6.2×0.9	重さ：17.9 g
石材：硬砂岩	注記：-



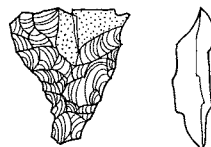
23

7.1×2.6×1.2	重さ：16.8 g
石材：頁岩	注記：-



24

7.3×2.3×1.0	重さ：27.9 g
石材：雲母片岩	注記：-
備考：両側面中央部に挟みあり。	



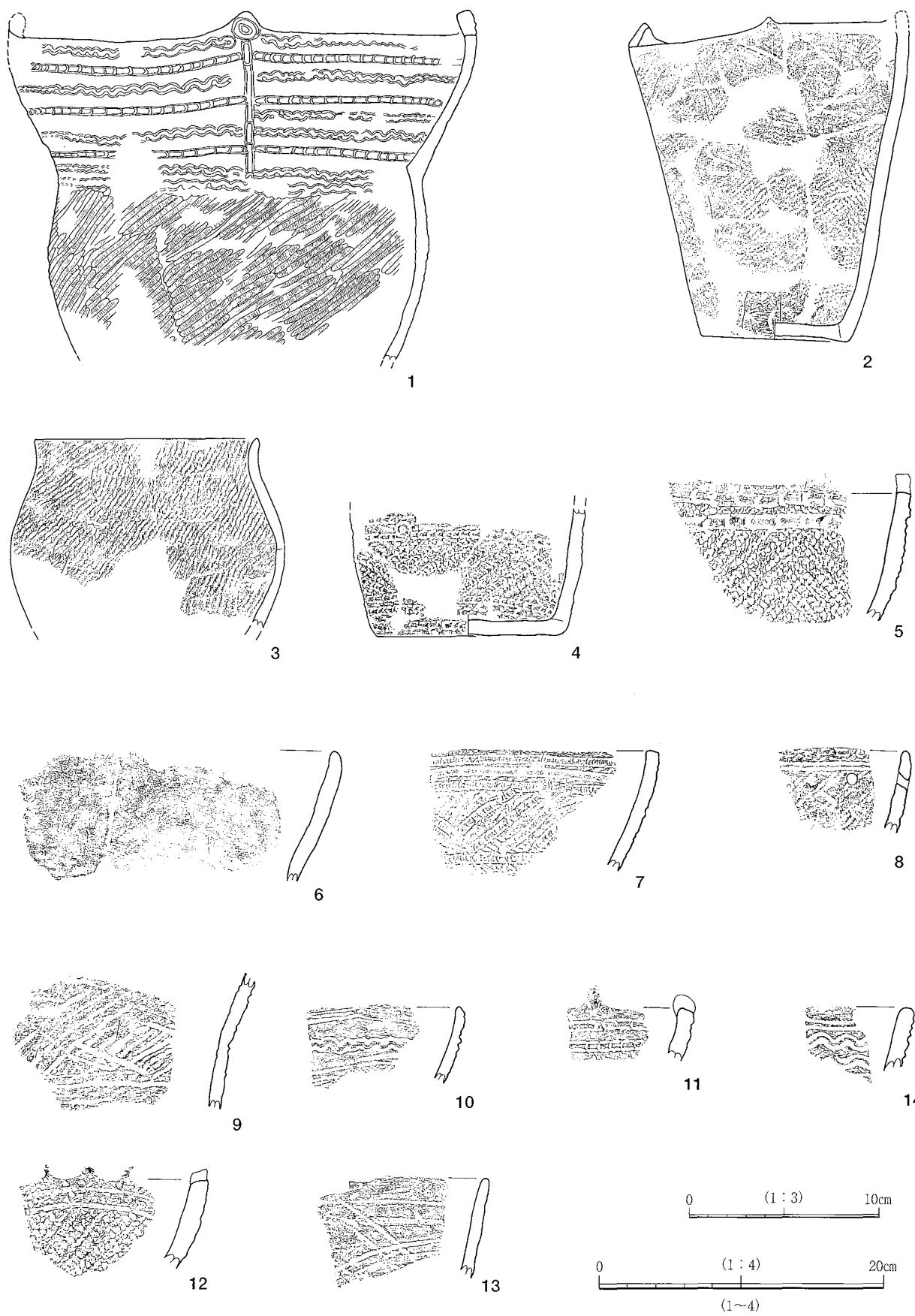
25

1.8×1.6×0.5	重さ：0.8 g
石材：黒曜石	注記：-

0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4 cm
(25)

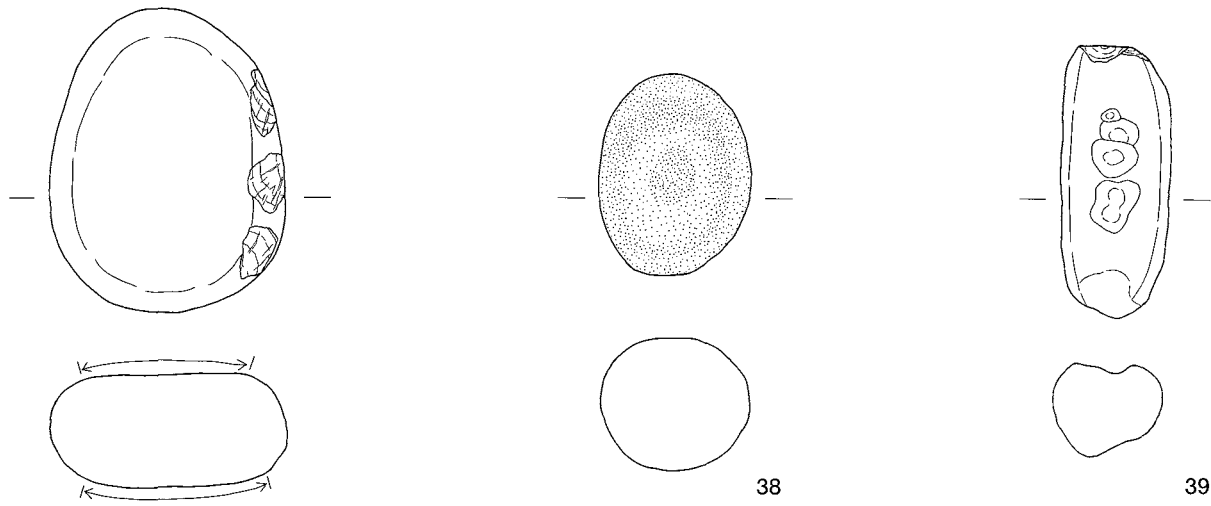
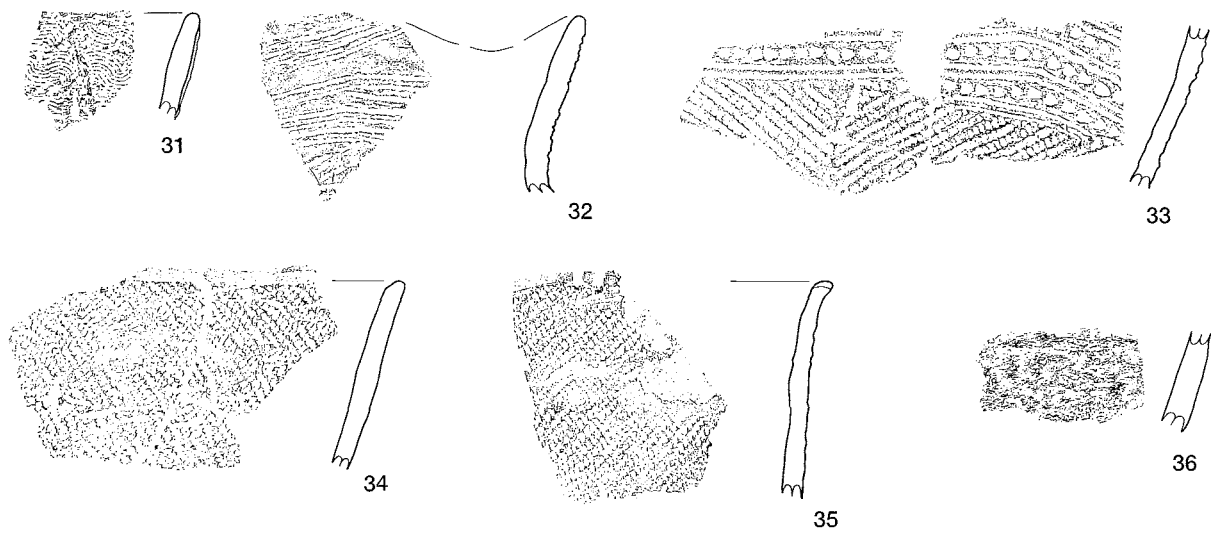
第331図 80号住居跡出土遺物②



第332图 81号住居跡出土遺物①



第333图 81号住居跡出土遺物②



37

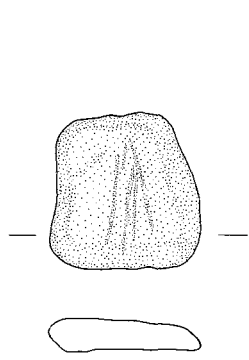
12.1×9.3×4.6	重さ：934.8 g
石材：安山岩	注記：5
備考：被熟痕あり。	

38

7.9×6.0×5.3	重さ：336.1 g
石材：安山岩	注記：8

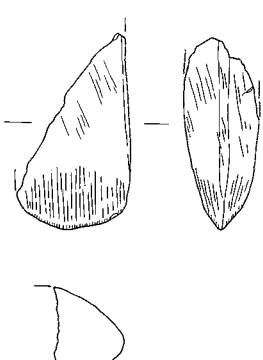
39

10.8×4.4×3.6	重さ：238.3 g
石材：安山岩	注記：-
備考：被熟痕あり。	



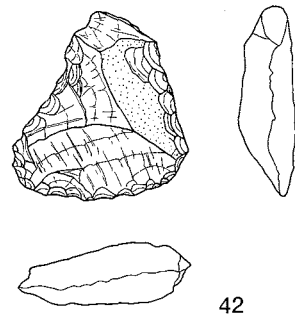
40

6.3×5.9×1.3	重さ：65.5 g
石材：粗粒砂岩	注記：-



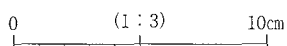
41

- × - × 3.1	残重：99.4 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：-

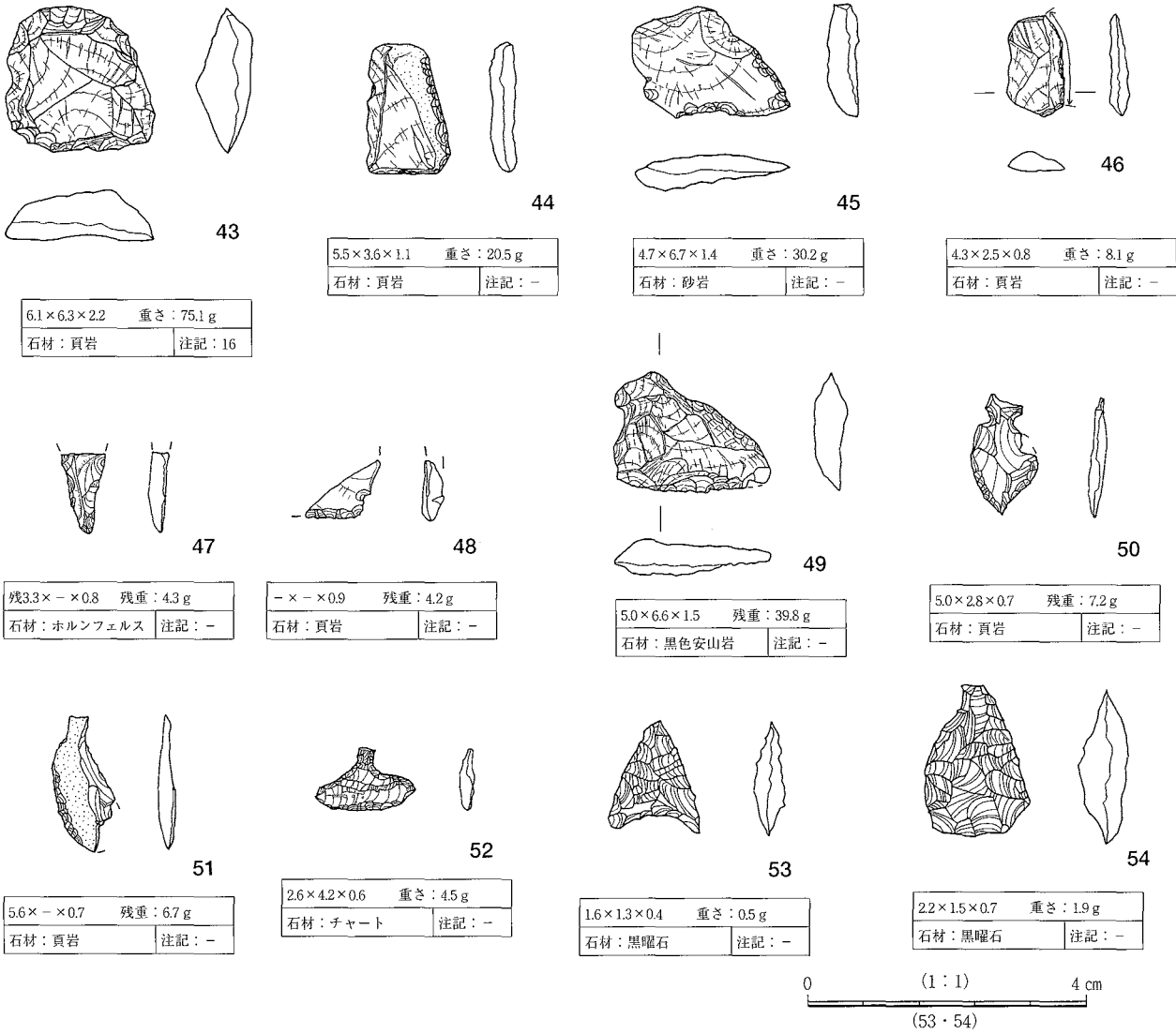


42

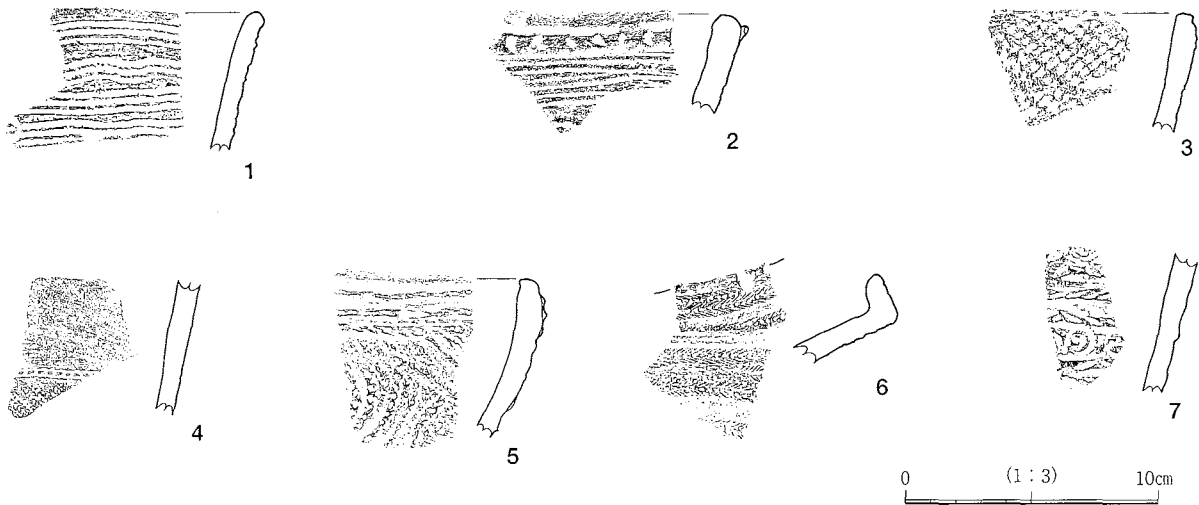
7.5×7.0×2.4	重さ：100.7 g
石材：黒色安山岩	注記：-



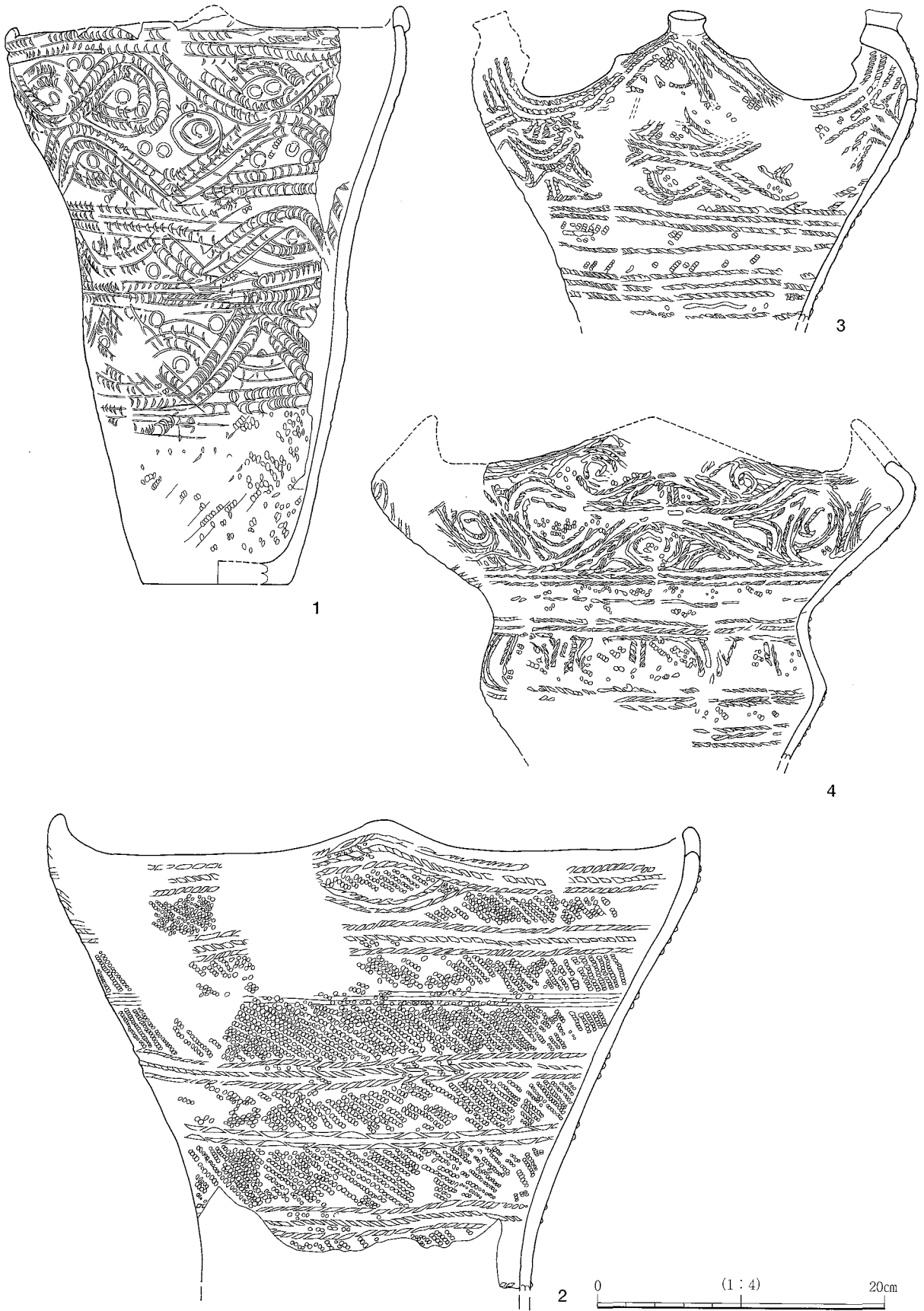
第334図 81号住居跡出土遺物③



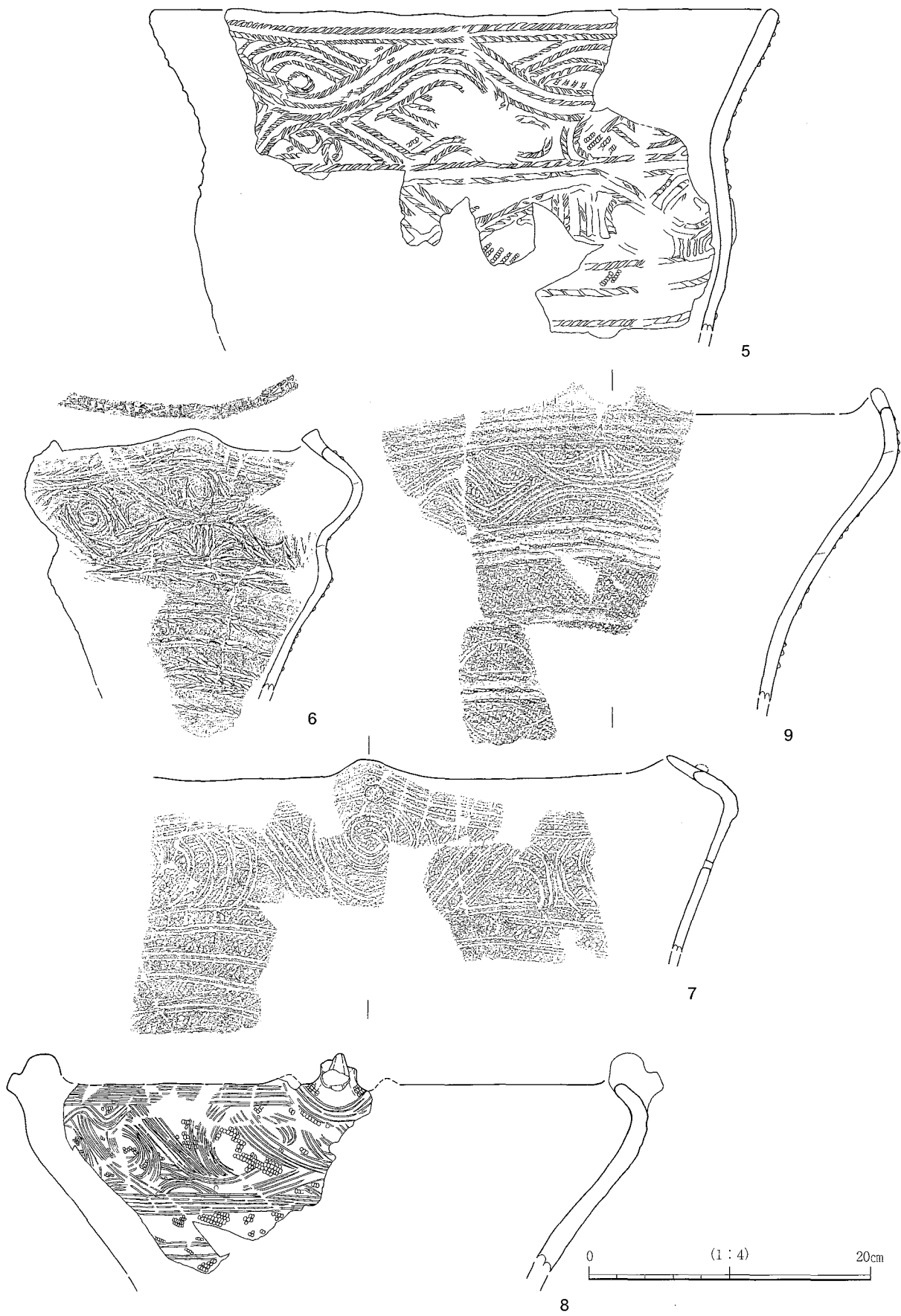
第335図 81号住居跡出土遺物④



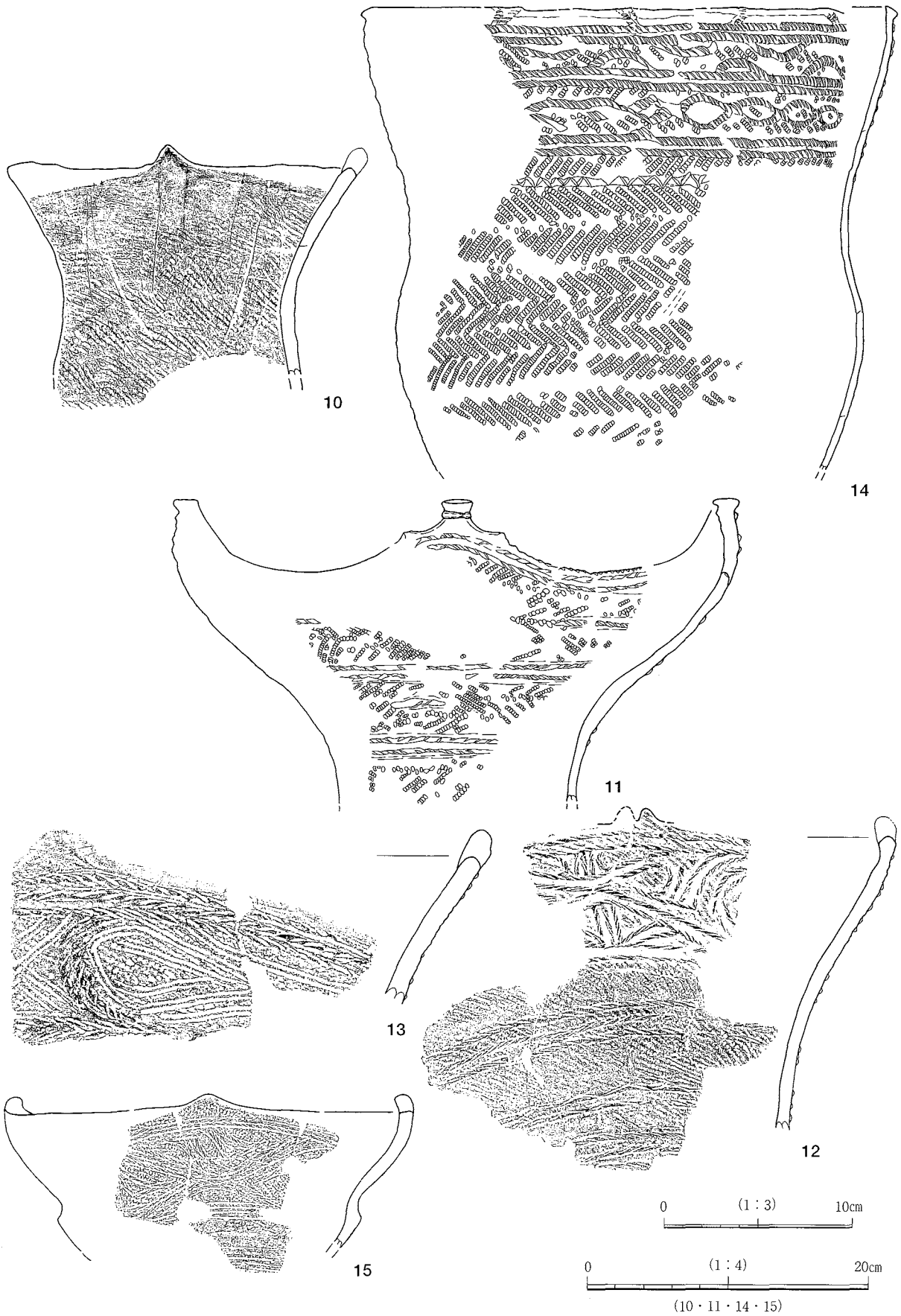
第336図 82号住居跡出土遺物



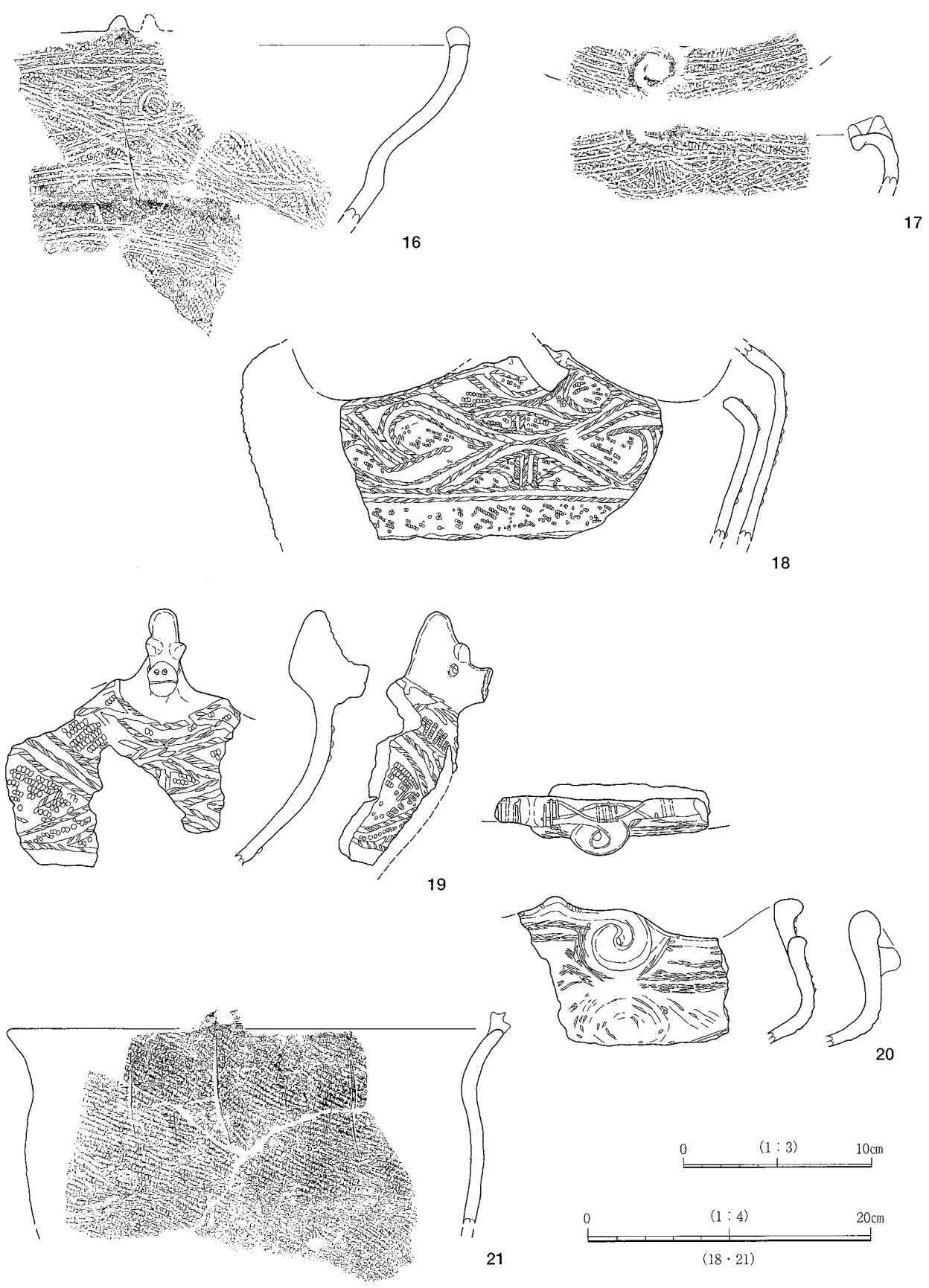
第337图 83号住居跡出土遺物①



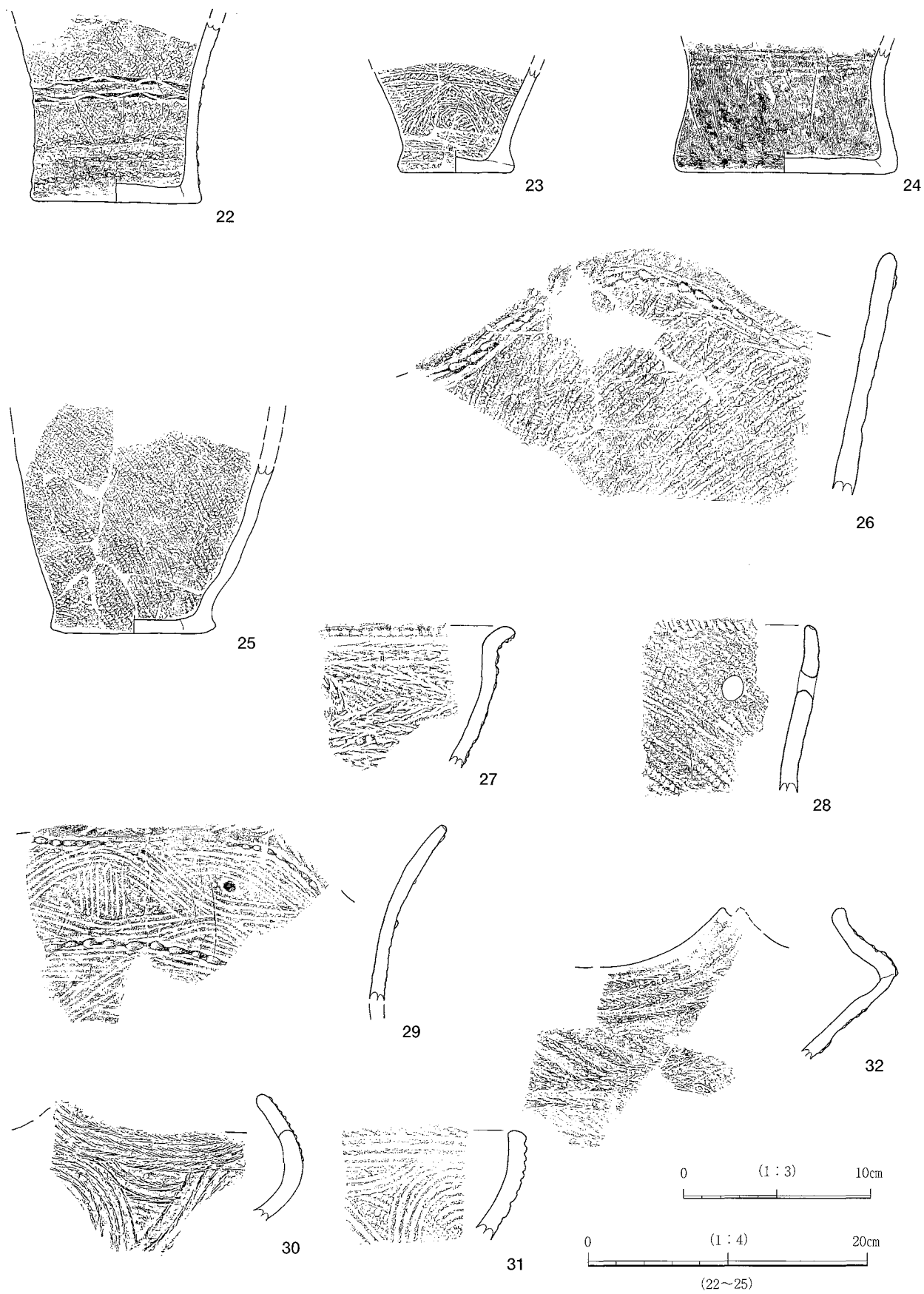
第338图 83号住居跡出土遺物②



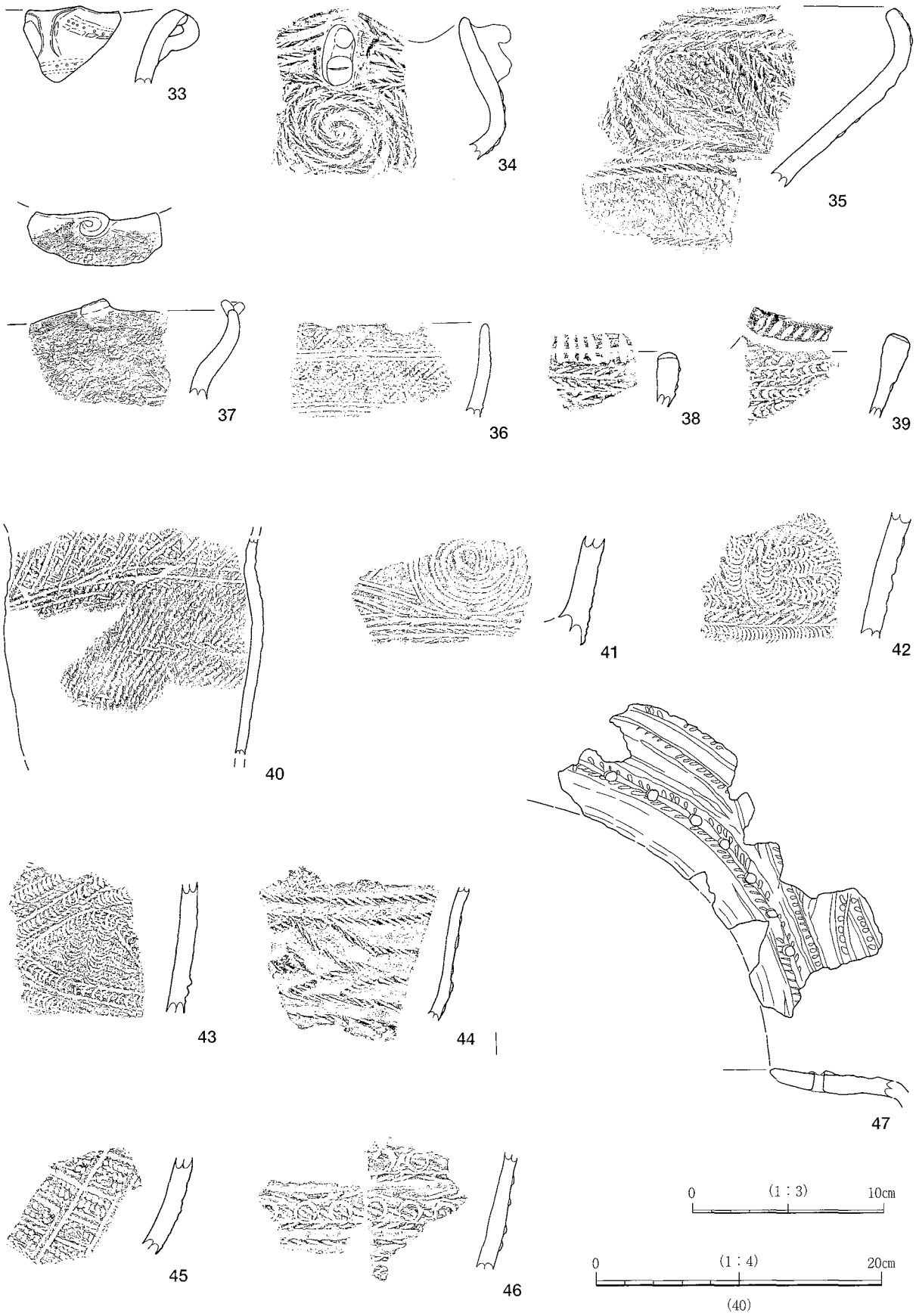
第339图 83号住居跡出土遺物③



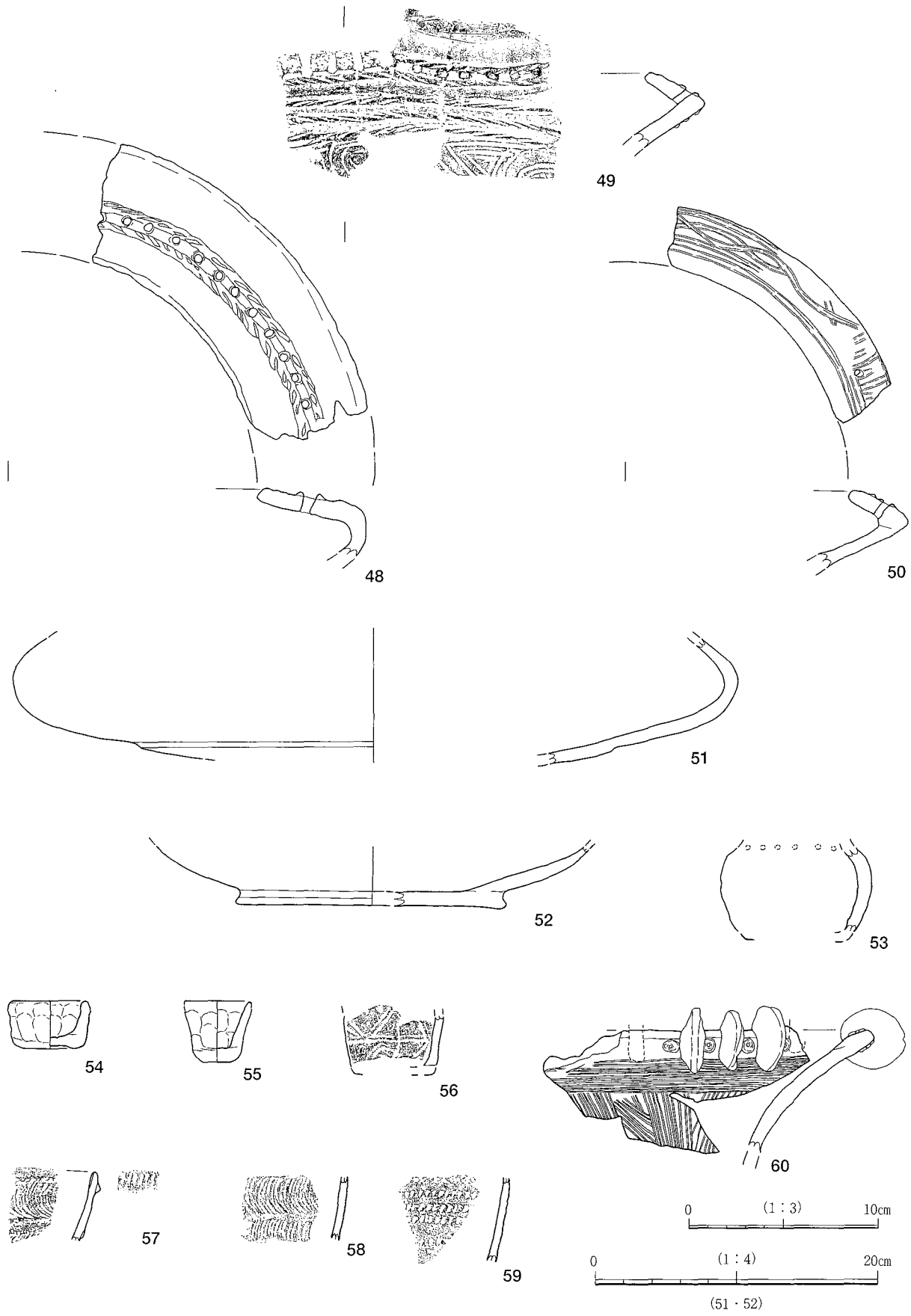
第340图 83号住居跡出土遺物④



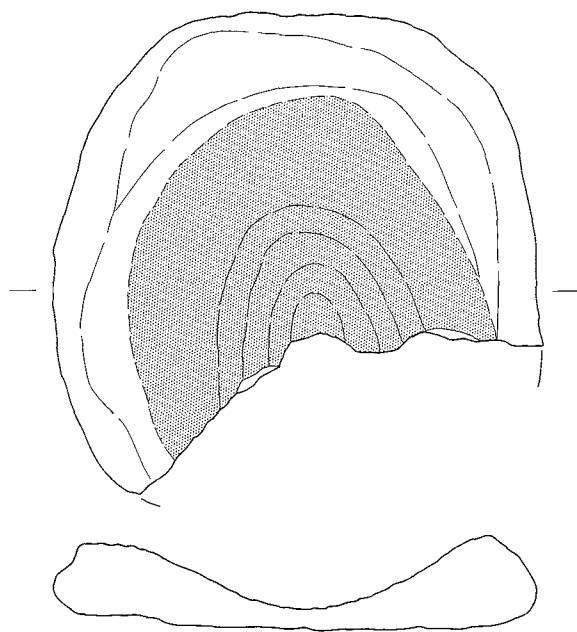
第341图 83号住居跡出土遺物⑤



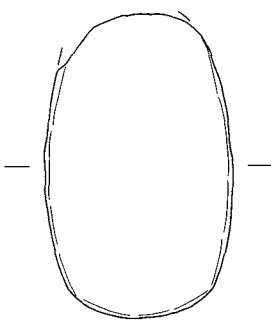
第342图 83号住居跡出土遺物⑥



第343图 83号住居跡出土遺物⑦

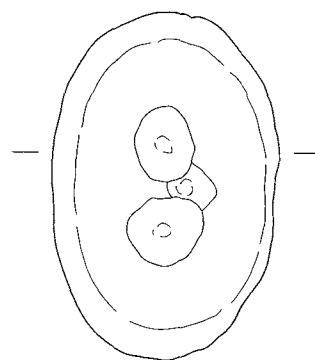


61



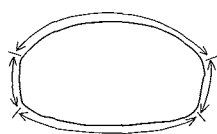
63

- × 7.4 × 4.2	残重: 570.3 g
石材: 安山岩	注記: 142



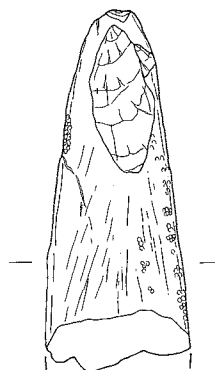
64

13.7 × 9.0 × 5.5	重さ: 847.9 g
石材: 安山岩	注記: 172



65

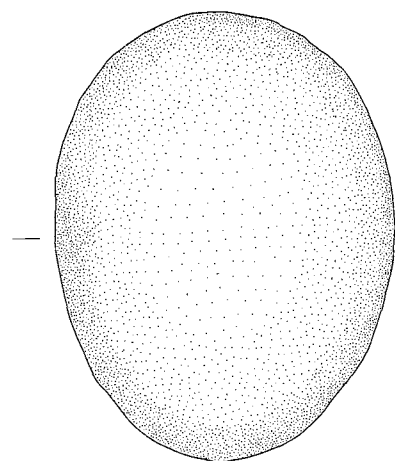
10.9 × 7.2 × 4.0	重さ: 403.1 g
石材: 安山岩	注記: 52
備考: 凹石 → 磨石。下端に敲打痕。	



68

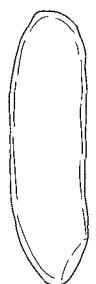
- × 5.8 × 3.8	残重: 427.3 g
石材: 輝緑凝灰岩	注記: 8

- × 19.4 × 3.8	残重: 1.722 g
石材: 緑泥片岩	注記: 69
備考: 裏面に複数の凹みあり。	



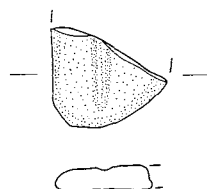
62

17.8 × 13.5 × 7.0	重さ: 2.419 g
石材: 安山岩	注記: 101



66

10.8 × 3.2 × 2.5	重さ: 124.1 g
石材: 輝緑凝灰岩	注記: 59
備考: 棒状礫。敲打具か。	

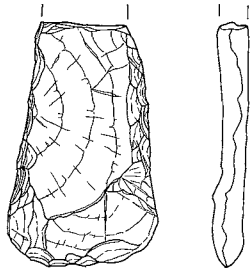


67

- × 4.6 × 1.0	残重: 19.6 g
石材: 粗粒砂岩	注記: 10

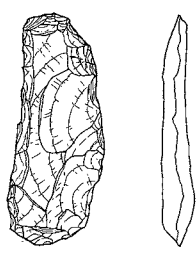
0 (1:3) 10cm

第344図 83号住居跡出土遺物⑧



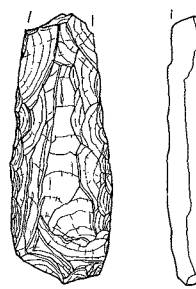
69

- × 6.0 × 1.5 残重: 93.5 g
石材: 頁岩 注記: -



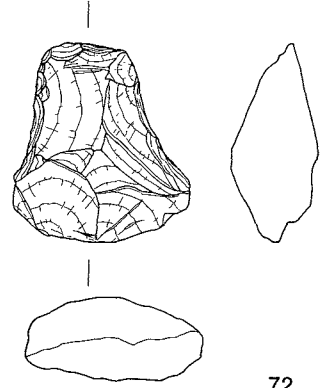
70

9.1 × 3.8 × 1.4 重さ: 45.0 g
石材: 頁岩 注記: -



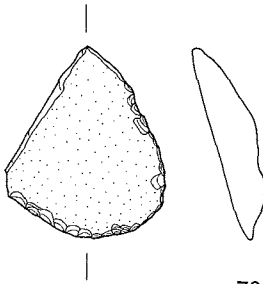
71

- × 4.1 × 1.5 残重: 81.7 g
石材: チャート 注記: -



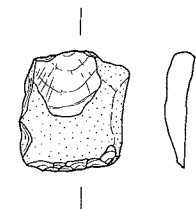
72

7.9 × 7.0 × 3.5 重さ: 175.2 g
石材: 頁岩 注記: -



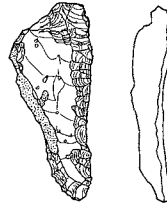
73

7.5 × 6.3 × 2.9 重さ: 104.0 g
石材: 硬砂岩 注記: -



74

4.8 × 4.4 × 1.2 重さ: 27.0 g
石材: 頁岩 注記: -



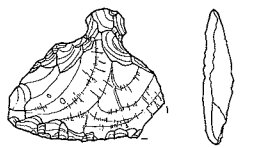
75

7.7 × 3.4 × 1.8 重さ: 26.2 g
石材: 黒曜石 注記: -



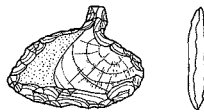
76

4.8 × 8.3 × 1.1 重さ: 30.1 g
石材: 頁岩 注記: -



77

5.3 × - × 1.2 残重: 30.1 g
石材: 頁岩 注記: -



78

4.0 × 5.4 × 0.7 重さ: 13.1 g
石材: 頁岩 注記: -



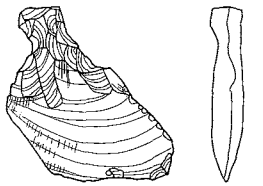
79

4.2 × 5.5 × 1.1 重さ: 17.1 g
石材: ホルンフェルス 注記: 79



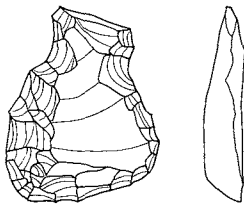
80

3.5 × 5.2 × 0.8 重さ: 8.5 g
石材: 頁岩 注記: -



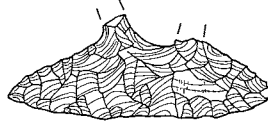
81

2.3 × 2.2 × 0.4 重さ: 1.5 g
石材: 黒曜石 注記: -



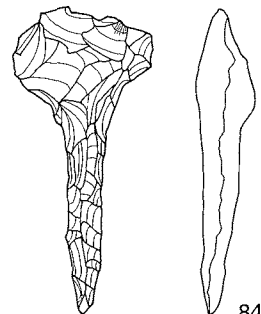
82

2.6 × 2.1 × 0.6 重さ: 3.2 g
石材: チャート 注記: -



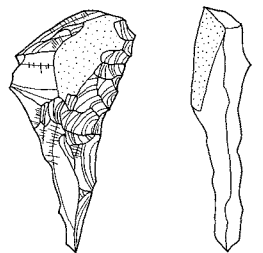
83

- × 3.5 × 0.6 残重: 1.7 g
石材: 黒曜石 注記: -



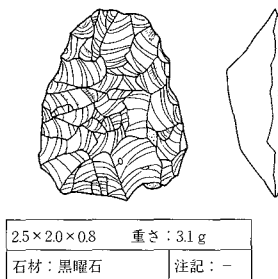
84

4.0 × 1.8 × 0.8 重さ: 2.7 g
石材: ホルンフェルス 注記: -



85

3.2 × 1.5 × 0.8 重さ: 2.0 g
石材: 黒曜石 注記: 14



86

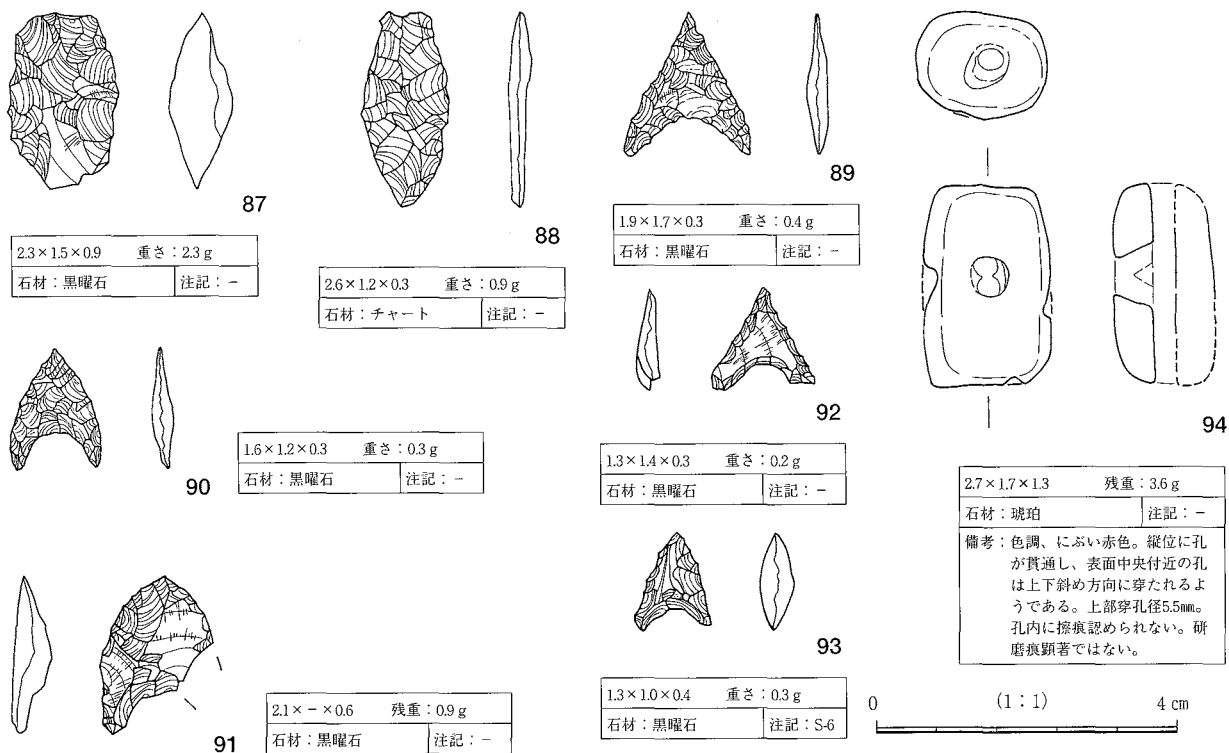
2.5 × 2.0 × 0.8 重さ: 3.1 g
石材: 黒曜石 注記: -

0 (1 : 3) 10cm

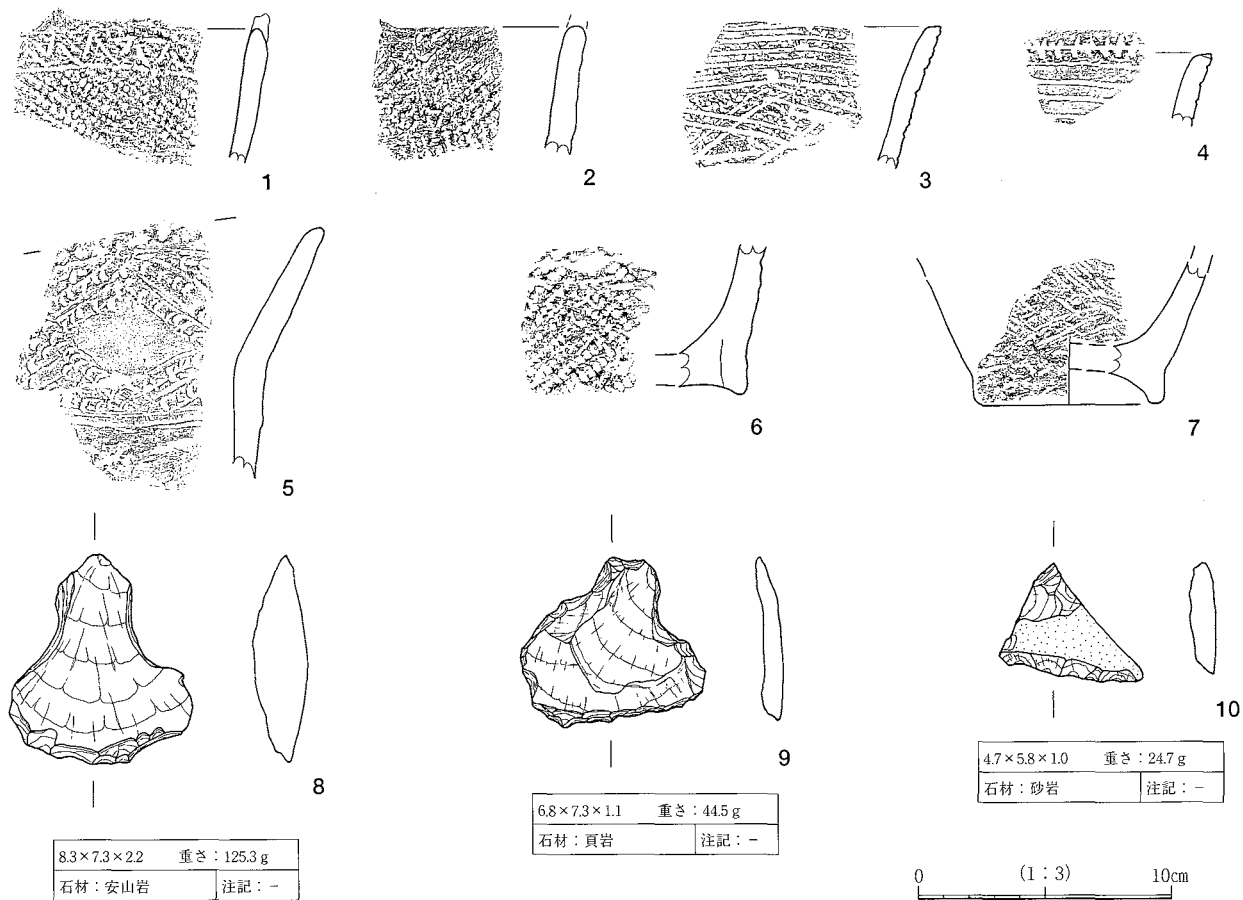
0 (1 : 1) 4 cm

(81~86)

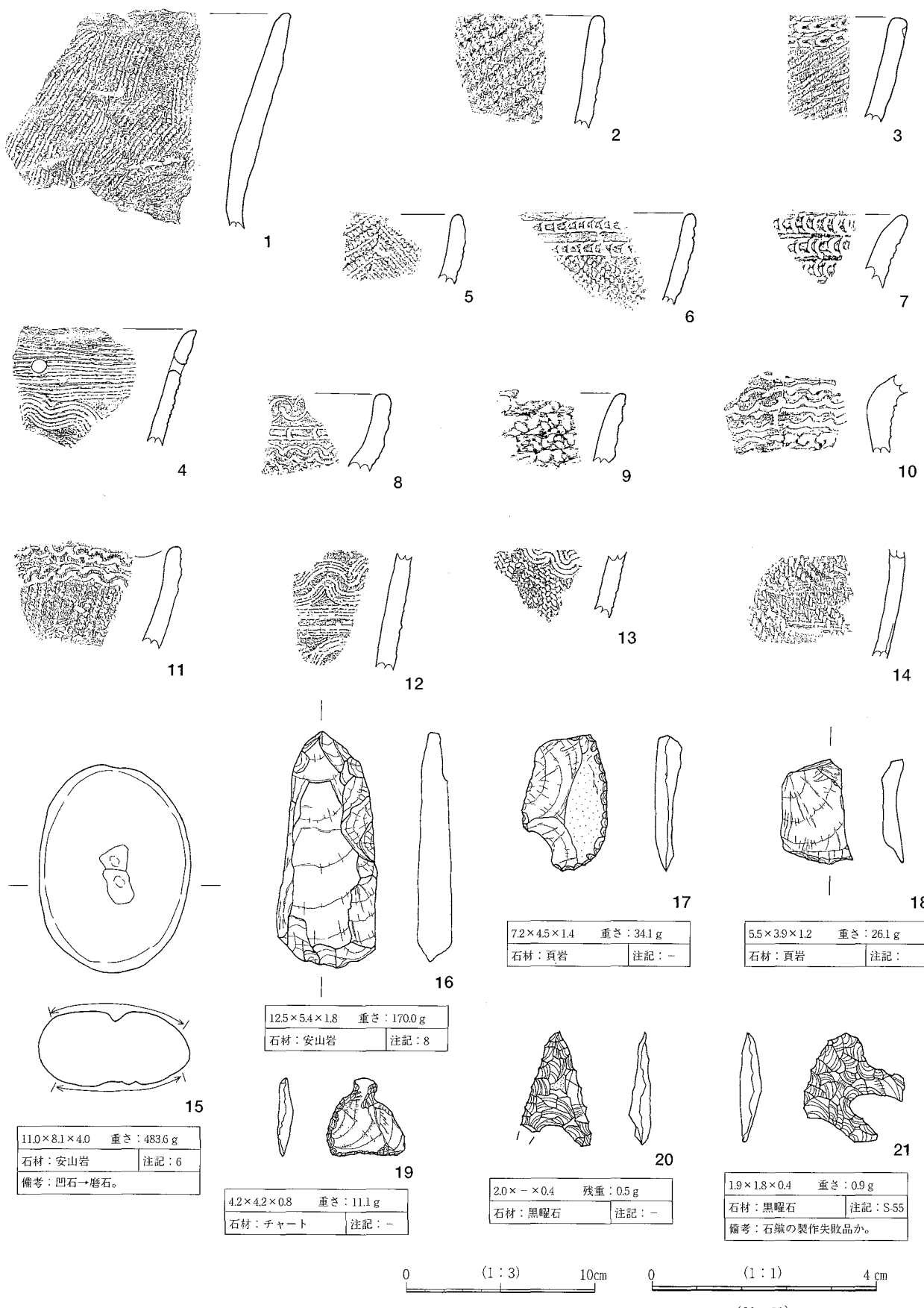
第345図 83号住居跡出土遺物⑨



第346図 83号住居跡出土遺物⑩



第347図 84号住居跡出土遺物



11.0×8.1×4.0 重さ：483.6 g
 石材：安山岩 注記：6
 備考：凹石→磨石。

12.5×5.4×1.8 重さ：170.0 g
 石材：安山岩 注記：8

4.2×4.2×0.8 重さ：11.1 g
 石材：チャート 注記：-

7.2×4.5×1.4 重さ：34.1 g
 石材：頁岩 注記：-

5.5×3.9×1.2 重さ：26.1 g
 石材：頁岩 注記：-

2.0×-×0.4 残重：0.5 g
 石材：黒曜石 注記：-

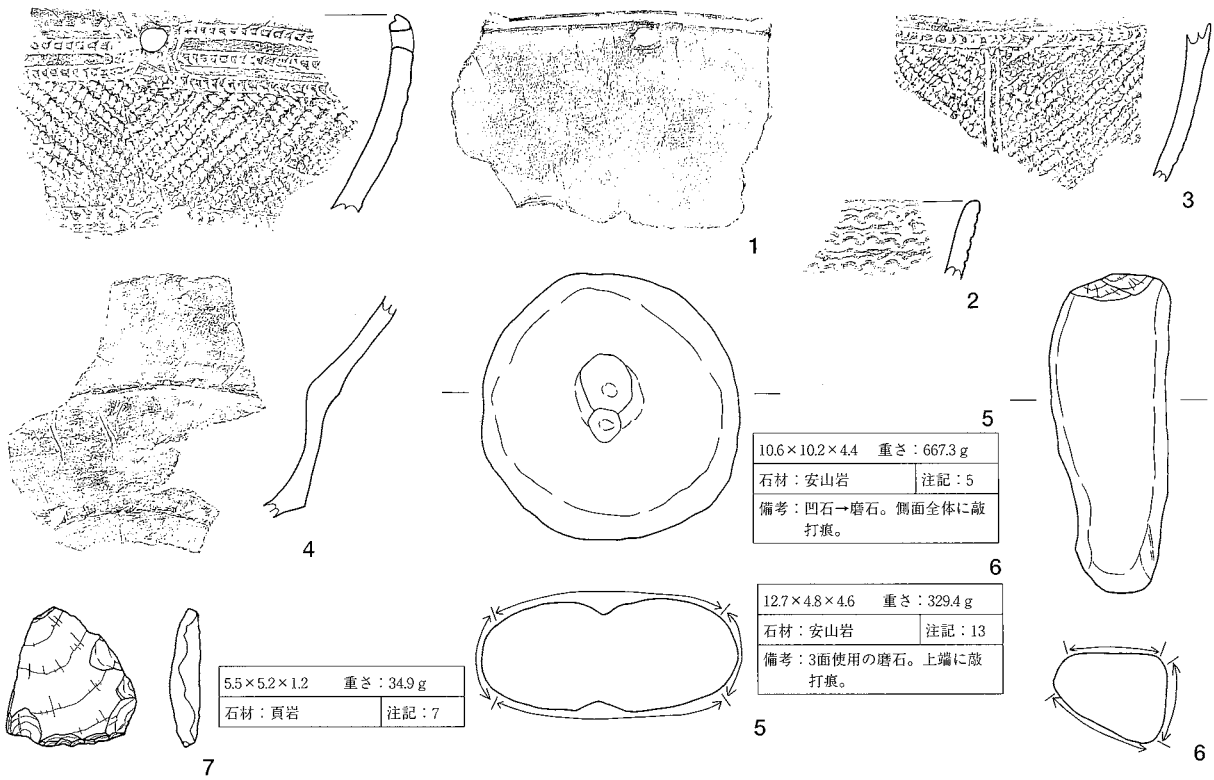
1.9×1.8×0.4 重さ：0.9 g
 石材：黒曜石 注記：S-55
 備考：石鏃の製作失敗品か。

0 (1:3) 10cm

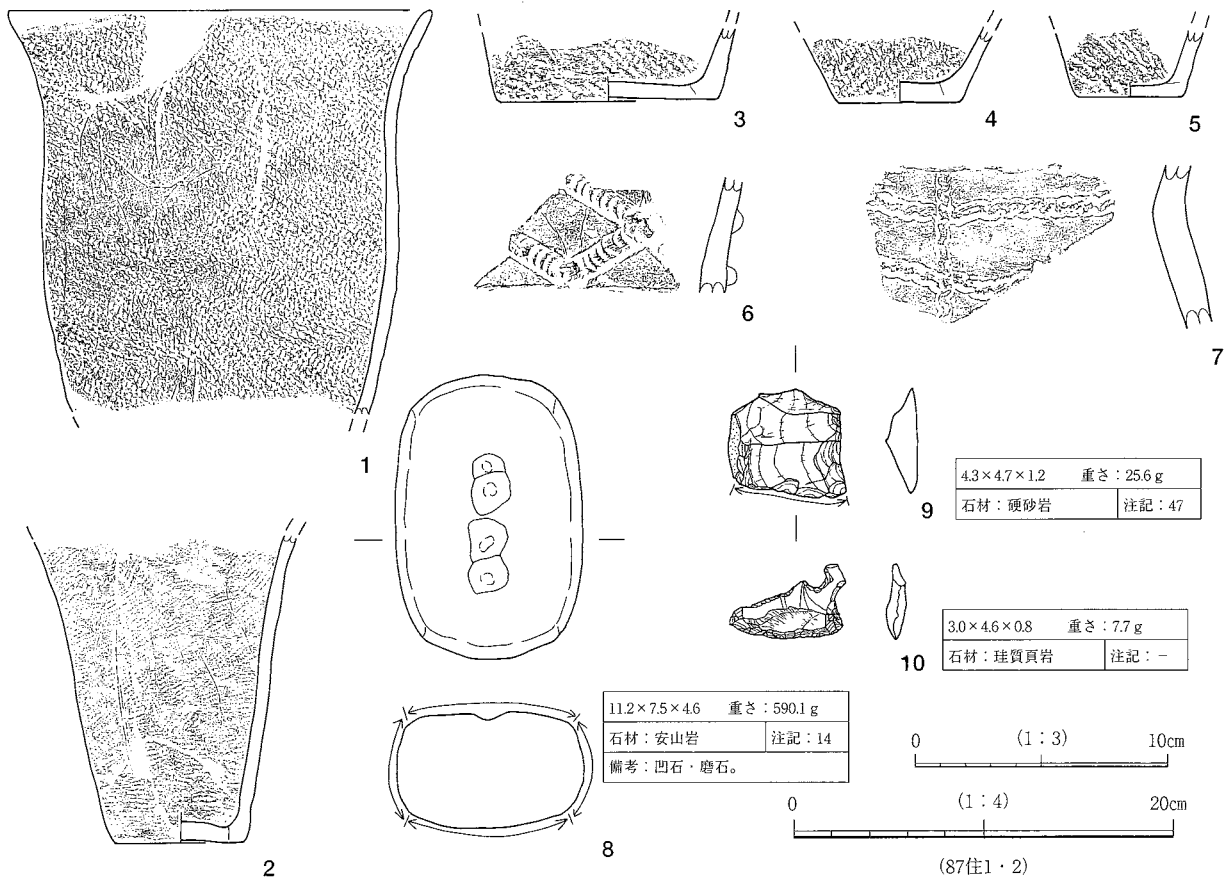
0 (1:1) 4cm

(20・21)

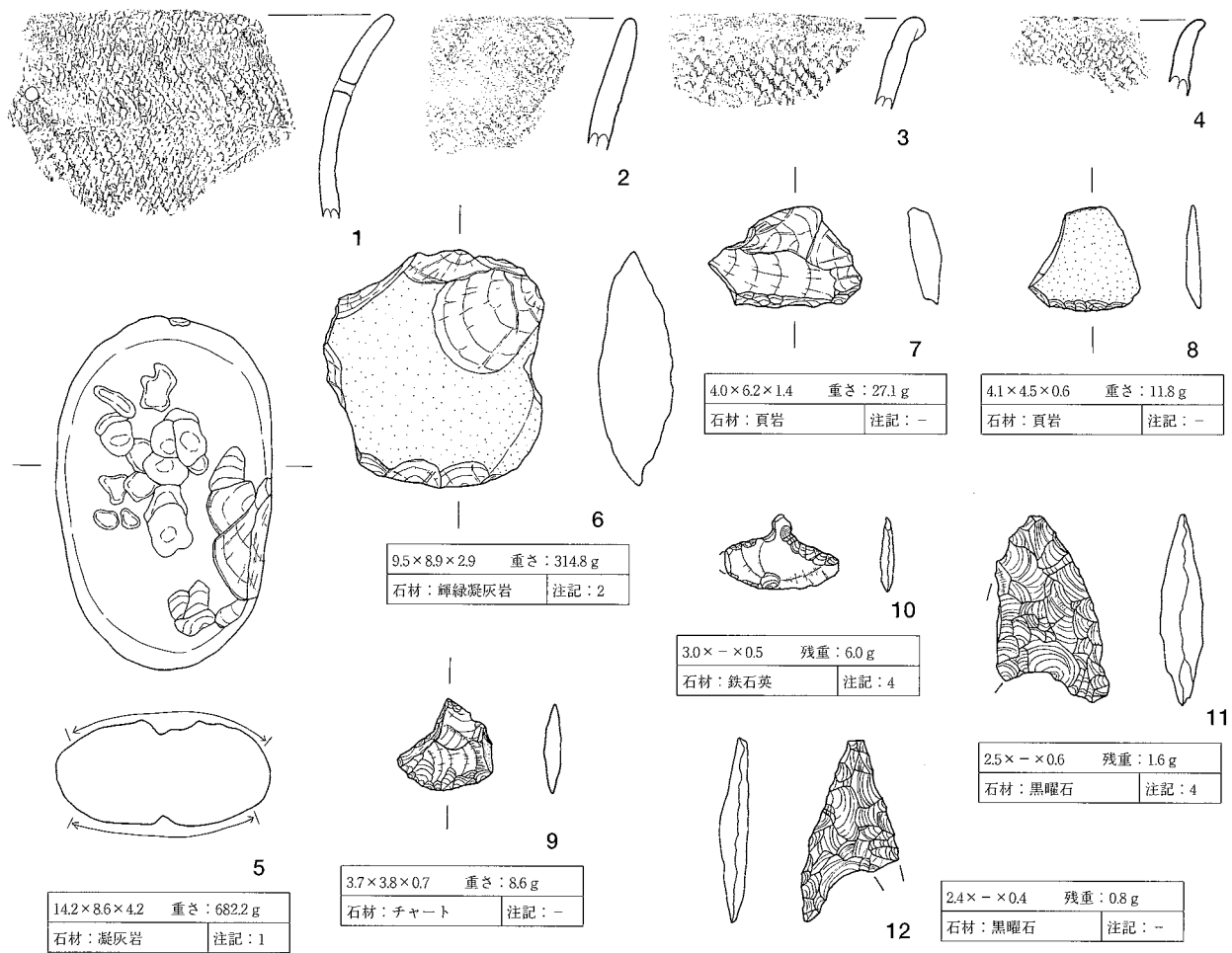
第348図 85号住居跡出土遺物



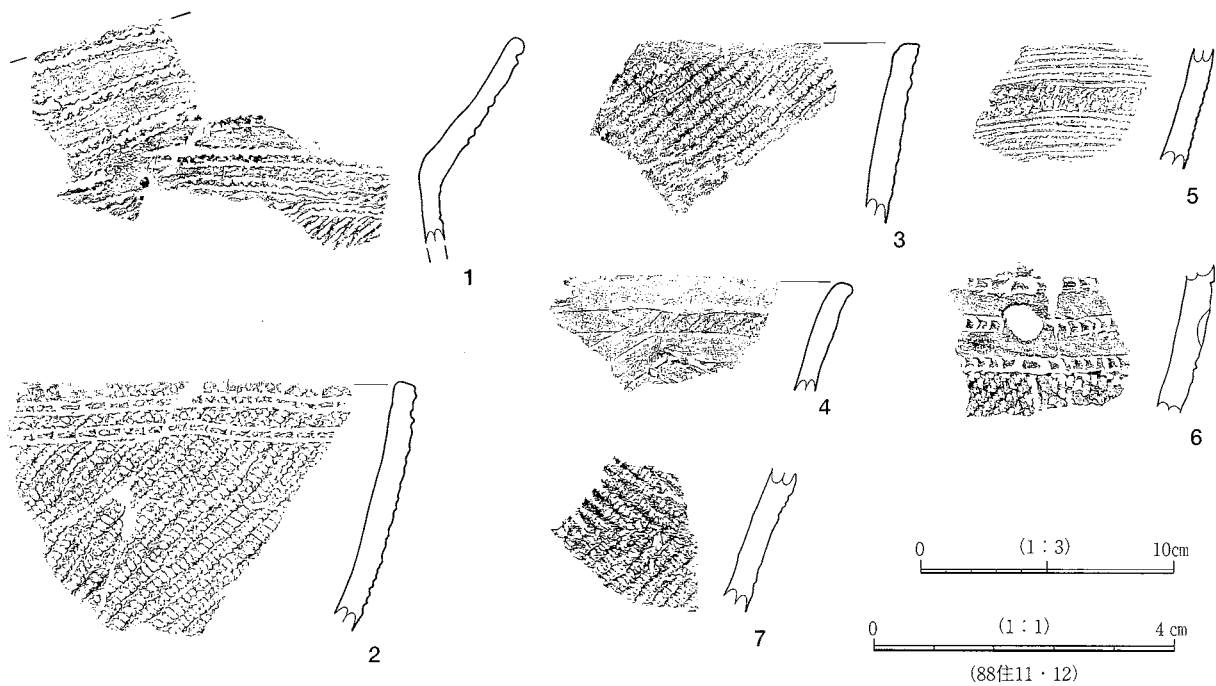
第349図 86号住居跡出土遺物



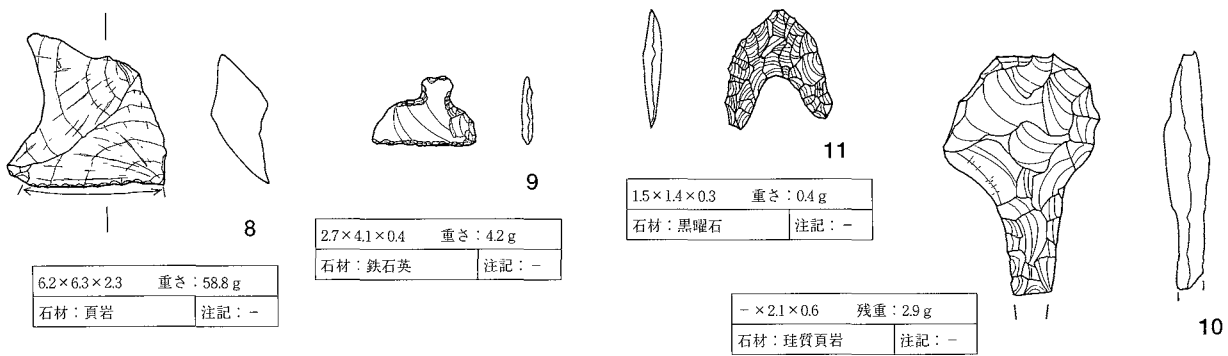
第350図 87号住居跡出土遺物



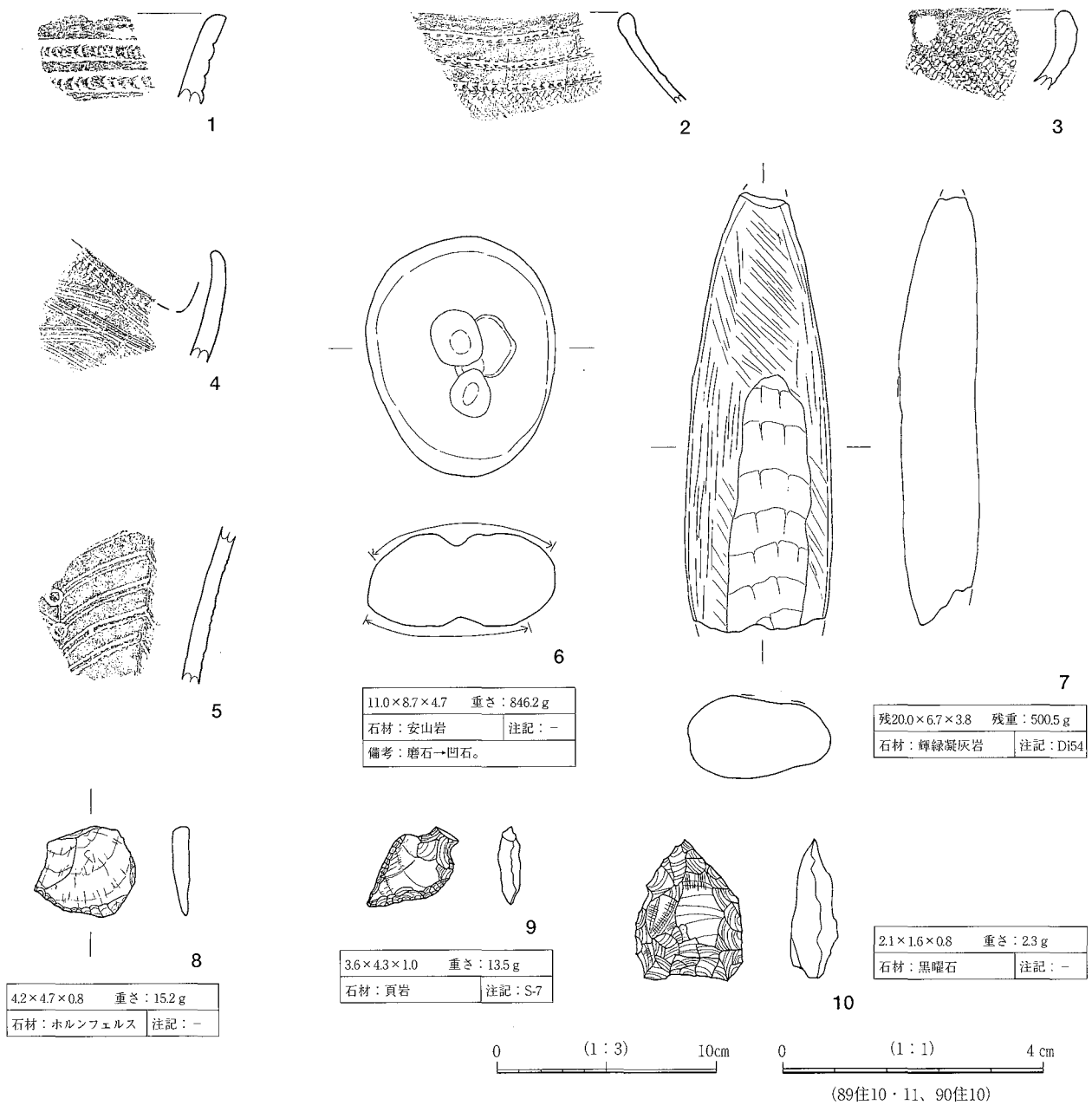
第351図 88号住居跡出土遺物



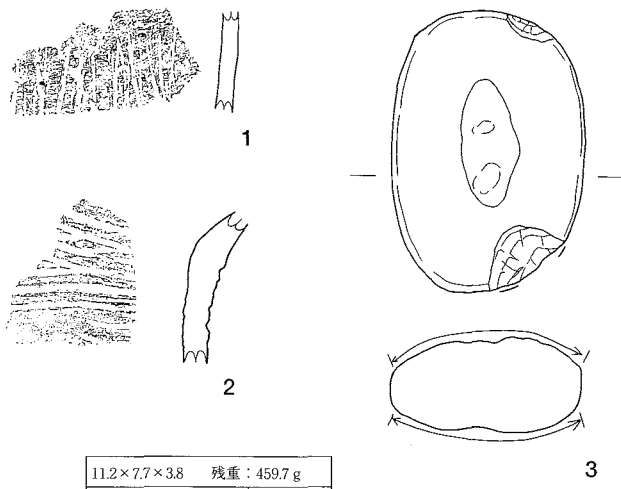
第352図 89号住居跡出土遺物①



第353図 89号住居跡出土遺物②

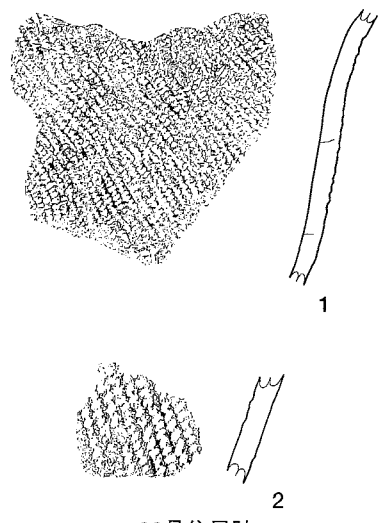


第354図 90号住居跡出土遺物



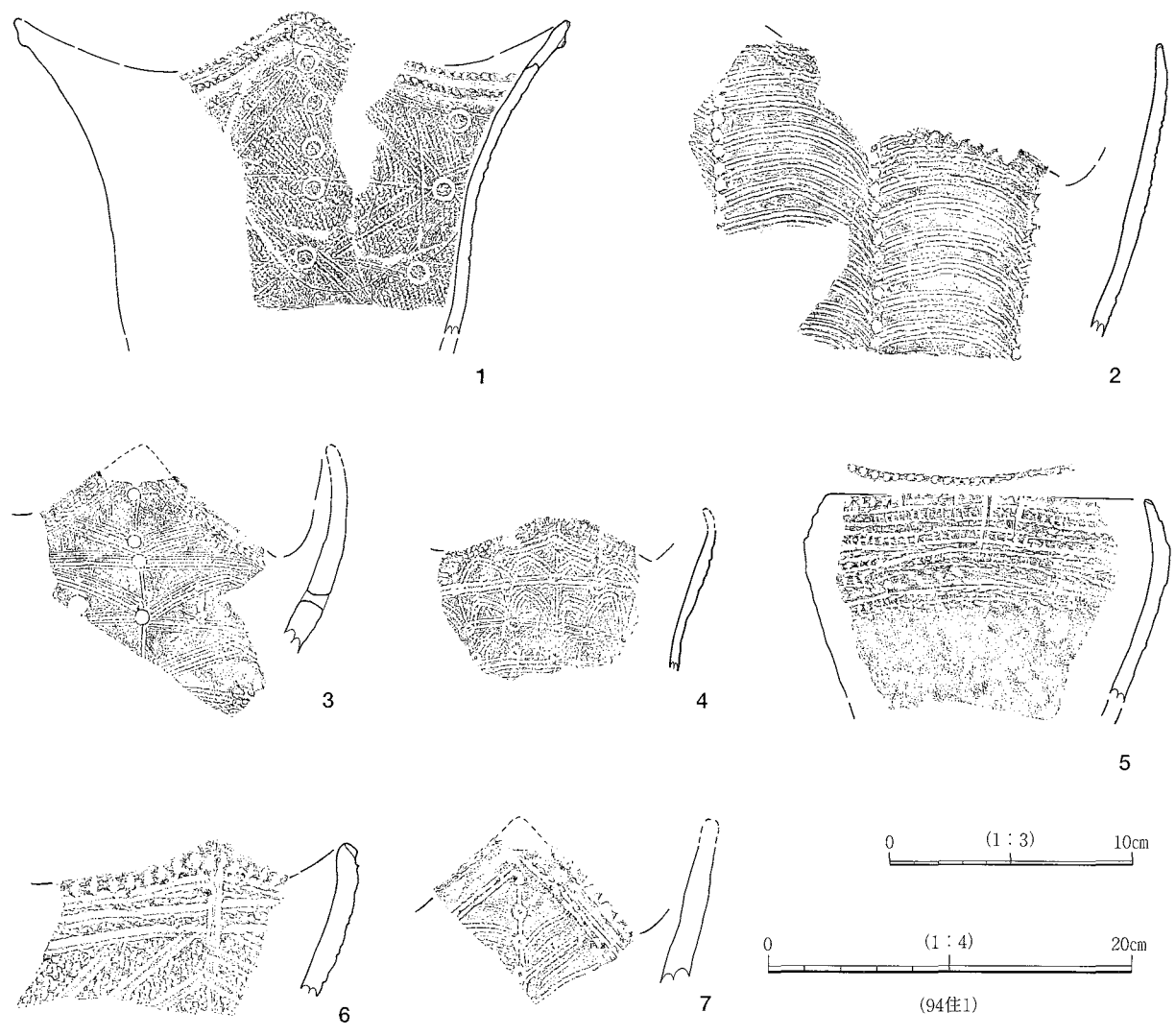
11.2×7.7×3.8	残重：459.7 g
石材：凝灰岩	注記：10
備考：凹石→磨石。	

92号住居跡

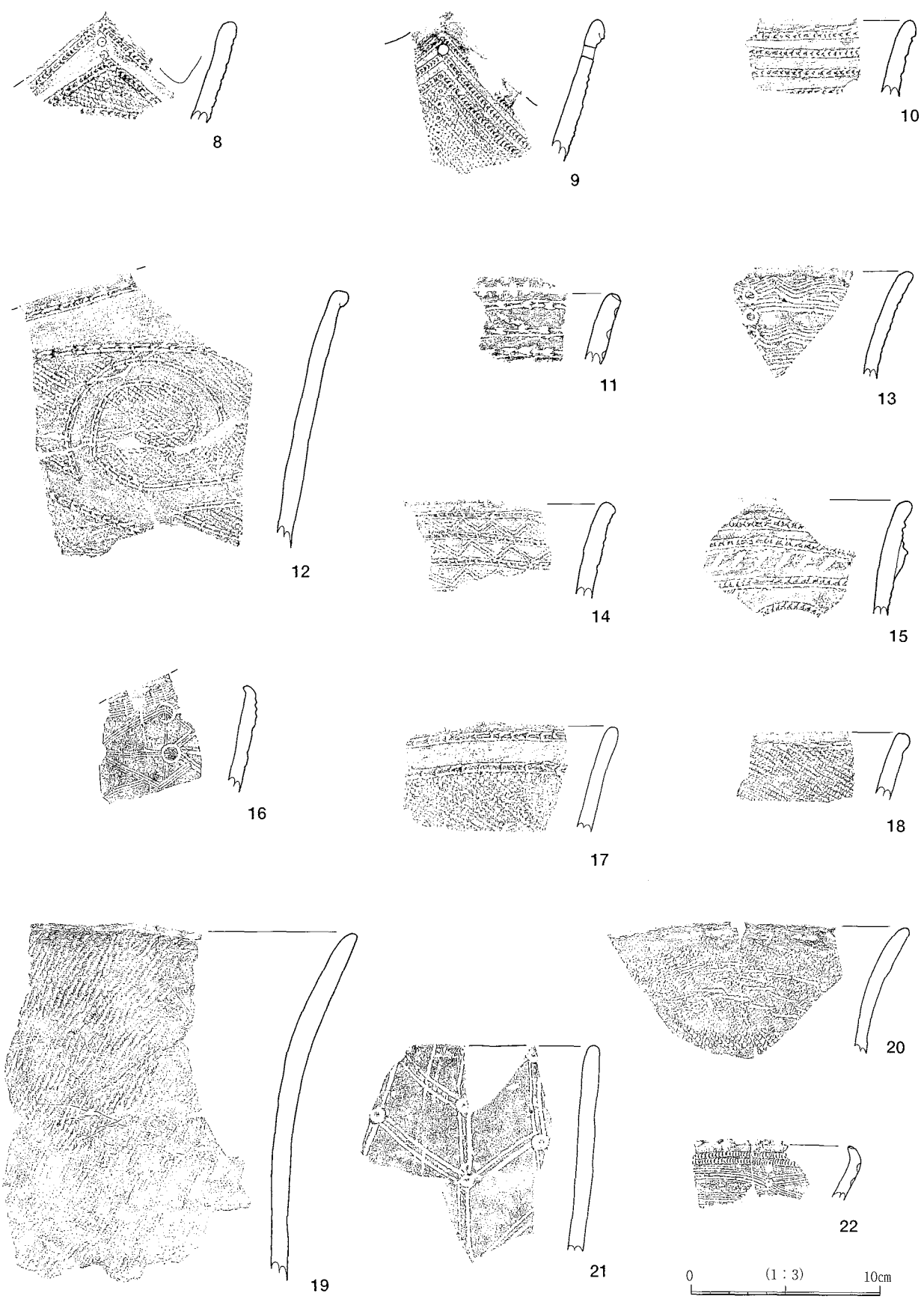


93号住居跡

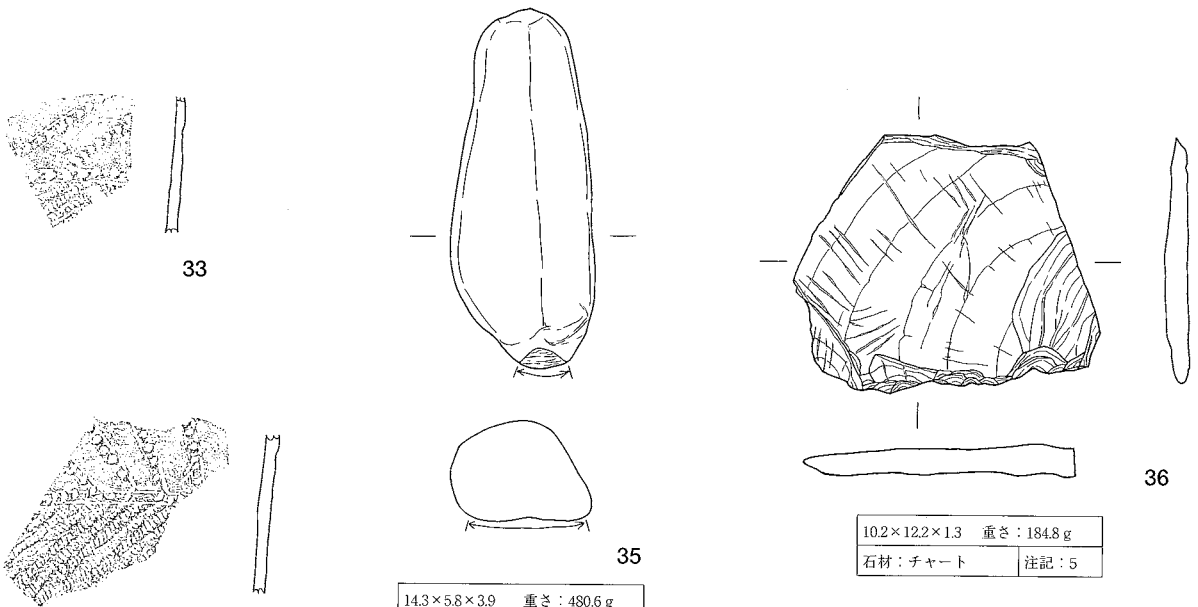
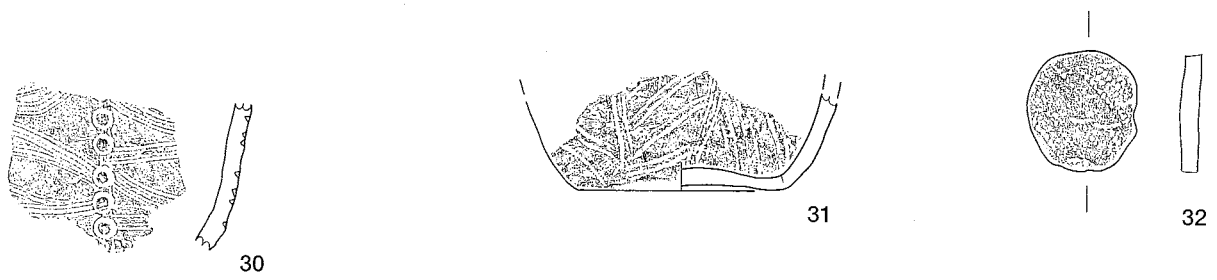
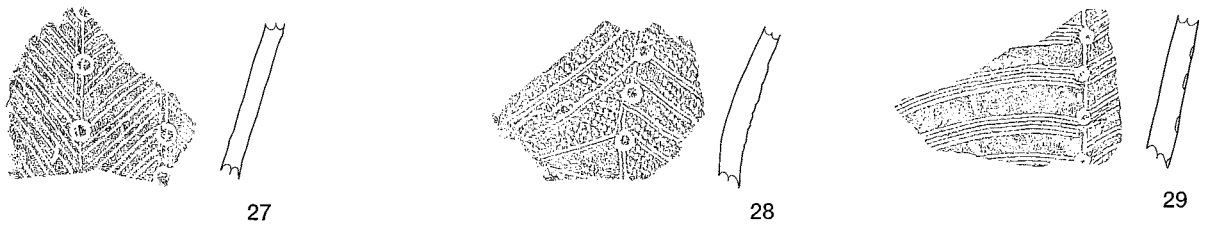
第355図 92号・93号住居跡出土遺物



第356図 94号住居跡出土遺物①



第357图 94号住居跡出土遺物②



14.3×5.8×3.9	重さ：480.6 g
石材：安山岩	注記：8
備考：下端に敲打痕。裏面は磨石。	

10.2×12.2×1.3	重さ：184.8 g
石材：チャート	注記：5

0 (1:3) 10cm

第358図 94号住居跡出土遺物③

第3節 クッキー状炭化物

6号・7号・8号・10号住居跡及び12号・243号・324号土坑からクッキー状炭化物が出土している。これらの遺構はいずれも前期諸磯c式期と想定される。クッキー状炭化物の総数は70点以上にのぼると推定され、64点を図化することができた。計測値等は表15に一覧してあるが、各遺構からの小片・碎片を含めた総重量は667.5gにのぼる。形状はおおむね扁平な円形もしくは楕円形を呈し、中央部に指頭大の凹みを有するものが多い。完存状態にあるものは、7号住居跡(7)・(17)、243号土坑(11)・(20)、324号土坑(33)の5点のみであるが、その内、最大のものは243号土坑(20)で長さ4.5cm・重さ11.3g、最小のものは7号住居跡(17)で長さ3.0cm・重さ3.9gであり、ややばらつきがみられる。なお、遺物番号は土器・石器等からの連番である。

これらのクッキー状炭化物、伴出土器及び7号住居跡で検出された焼土については残存脂肪酸分析を行っている。分析結果の詳細については別途刊行の『自然科学分析編』に掲載されるが、クッキー状炭化物については「ニホンジカ、イノシシのような動物、モズのような野鳥やウズラ卵のような野鳥の卵に類似した脂肪が残存している」との指摘がなされている。また、324号土坑出土の土器(11)内には「ニホンジカ、イノシシのような動物の脂肪が付着していた可能性がある」とされ、7号住居跡で検出された焼土については「イヌ、タヌキのような動物、キジ、モズ、ツグミのような野鳥やウズラ卵のような野鳥の卵の脂肪が残存し、ニホンジカ、イノシシのような動物の脂肪も若干存在していた可能性がある」とのことであった。

以下に各遺構ごとにクッキー状炭化物の出土状態をまとめるが、遺構の検出状態や規模等については、住居跡は第2節に記載してあり、土坑については第4節に記載することにする。

6号住居跡 (P 183/クッキー状炭化物：第363図、P L 134)

形状が把握できるもの3点は埋没土下層から出土している。クッキー状炭化物総重量20.9g。

7号住居跡 (P 184/クッキー状炭化物：第363・364図、P L 134)

形状の把握できるものが13点みられ、西壁際中央付近に集中する。同部分には焼土の分布が認められ、この焼土については先述したように残存脂肪酸分析を実施している。クッキー状炭化物総重量72.6g。

8号住居跡 (P 184)

北西側大半が調査区外で、埋没土中から碎片が検出されたのみである。クッキー状炭化物総重量0.3g。

10号住居跡 (P 185/クッキー状炭化物：第364図、P L 134)

出土状態は明確に把握できなかったが、埋没土中から形状が把握できるもの3点が出土している。クッキー状炭化物総重量21.8g。

12号土坑 (表16/クッキー状炭化物：第364図、P L 134)

埋没土中から1点が発見されている。また、下層付近から炭化種子が出土しており、種子同定の結果、アブラナ科アブラナ属という分析結果を得ている (『自然科学分析編』)。クッキー状炭化物総重量6.6g。

243号土坑 (表23/クッキー状炭化物：第364図、P L 134)

埋没土2～3層中に散在するような状態で多量に出土している。形状が把握できるものが12点あり、(11)・(20)は完形品で、(20)は本遺跡中で最大規模のものである。土器・石器類 (第360図、P L 132) も多く出土している。クッキー状炭化物総重量237.9g。

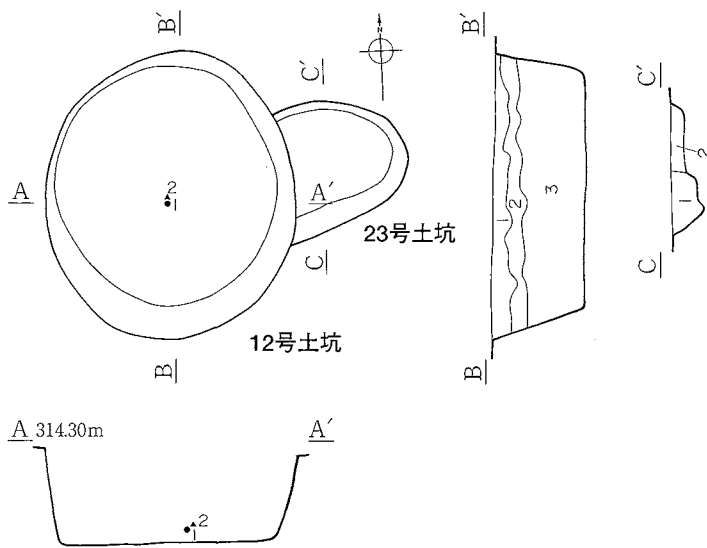
324号土坑 (表26/クッキー状炭化物：第364・365図、P L 134)

埋没土中に散在するような状態で多量に出土している。形状が把握できるものが32点あり、(33)は完形品である。本土坑にはピットが存在し、小規模な住居跡の可能性もある。土器・石器類 (第360～362、P L 132・133) も出土しており、(6)のような獣面モチーフの耳状突起もみられる。クッキー状炭化物総重量307.4g。

表15 クッキー状炭化物一覧表

遺構番号	NO.	残存	長さ×幅×厚さ	重さ	注記
6号住居跡	3	1/3	- × - × 1.4cm	残 3.7g	ク2
	4	1/2	- × - × 1.5cm	残 6.6g	ク4
	5	1/3	- × - × 1.4cm	残 3.2g	ク1
	-	その他小片・碎片の総重量 7.4g			
7号住居跡	7	完形	3.8 × 3.4 × 1.3cm	85g	-
	8	7/8	3.4 × - × 1.2cm	残 5.1g	ク2
	9	7/8	3.2 × 3.2 × 1.1cm	残 5.0g	ク6
	10	7/8	3.3 × 2.9 × 1.1cm	残 4.4g	ク1
	11	2/3	3.3 × - × 1.3cm	残 7.2g	-
	12	1/2	3.3 × - × 1.0cm	残 3.0g	-
	13	2/3	3.2 × - × 1.0cm	残 2.2g	-
	14	2/3	3.2 × - × 1.2cm	残 3.2g	-
	15	1/2	3.3 × - × 1.1cm	残 3.4g	ク4
	16	4/5	3.1 × - × 1.0cm	残 5.2g	-
	17	完形	3.0 × 2.9 × 1.0cm	3.9g	-
	18	4/5	3.3 × - × 1.2cm	残 4.4g	ク3
	19	1/2	- × - × 1.3cm	残 3.8g	ク5
	-	その他小片・碎片の総重量 13.3g			
8号住居跡	-	その他小片・碎片の総重量 0.3g			
10号住居跡	7	1/4	- × - × 1.4cm	残 2.7g	-
	8	1/3	- × - × 1.3cm	残 2.4g	-
	9	1/3	- × - × 1.4cm	残 2.6g	-
	-	その他小片・碎片の総重量 14.1g			
12号土坑	3	2/3	4.0 × - × 1.7cm	残 6.6g	-
243号土坑	9	7/8	3.4 × 3.5 × 1.1cm	残 5.8g	ク2
	10	7/8	3.3 × 3.2 × 1.2cm	残 4.5g	ク4
	11	完形	3.2 × 3.1 × 1.2cm	5.5g	ク12
	12	7/8	3.9 × 3.3 × 1.6cm	残 8.7g	ク1
	13	1/2	3.6 × - × 1.7cm	残 5.5g	ク8
	14	1/2	3.4 × - × 1.3cm	残 4.6g	ク10
	15	2/5	- × - × 1.5cm	残 3.8g	ク6
	16	1/2	3.7 × - × 1.3cm	残 5.4g	ク9
	17	4/5	3.9 × - × 1.6cm	残 9.0g	ク3
	18	1/2	- × - × 1.4cm	残 4.9g	ク5
	19	1/3	- × - × - cm	残 2.4g	-

遺構番号	NO.	残存	長さ×幅×厚さ	重さ	注記
243号土坑	20	完形	4.5 × 3.8 × 1.4cm	11.3g	ク11
	-	その他小片・碎片の総重量 159.9g			
324号土坑	20	7/8	4.5 × 4.1 × 1.4cm	残 7.9g	ク7
	21	2/3	4.0 × - × 1.5cm	残 6.2g	ク1
	22	3/4	3.4 × - × 1.0cm	残 4.8g	ク9
	23	1/2	3.7 × - × 1.3cm	残 5.0g	ク6
	24	2/3	3.4 × - × 1.3cm	残 4.2g	ク20
	25	2/5	- × - × 1.1cm	残 3.0g	ク5
	26	1/3	- × - × 1.5cm	残 4.3g	ク17
	27	1/3	- × - × 1.4cm	残 4.2g	ク3
	28	1/3	- × - × 1.4cm	残 4.4g	ク18
	29	2/3	3.0 × - × 1.2cm	残 3.4g	-
	30	1/2	4.1 × - × 1.2cm	残 5.9g	-
	31	1/3	- × - × 1.4cm	残 4.9g	-
	32	2/3	3.7 × - × 1.2cm	残 6.5g	-
	33	完形	3.4 × 3.5 × 1.1cm	6.2g	-
	34	1/3	- × - × 1.4cm	残 2.7g	ク13
	35	1/3	- × - × 1.4cm	残 3.5g	ク15
	36	2/5	3.8 × - × 1.3cm	残 3.5g	-
	37	1/2	2.8 × - × 1.1cm	残 2.0g	-
	38	1/3	- × - × 1.4cm	残 3.1g	-
	39	1/4	- × - × 1.6cm	残 3.4g	-
	40	1/2	3.4 × - × 1.3cm	残 3.0g	-
	41	1/3	- × - × 1.0cm	残 2.5g	-
	42	1/4	- × - × 1.2cm	残 2.2g	-
	43	7/8	4.3 × 4.0 × 1.1cm	残 10.8g	ク4
	44	1/2	3.1 × - × 1.1cm	残 4.6g	ク2
	45	4/5	3.2 × 3.3 × 1.2cm	残 5.3g	ク16
	46	4/5	3.5 × 3.4 × 1.2cm	残 6.0g	ク14
	47	2/3	- × 3.5 × 1.2cm	残 6.1g	ク12
	48	4/5	3.8 × - × 1.2cm	残 6.9g	ク19
	49	1/4	- × - × 1.3cm	残 2.4g	ク11
	50	1/4	- × - × 1.0cm	残 3.3g	ク10
51	1/5	- × - × 1.0cm	残 1.7g	ク8	
-	その他小片・碎片の総重量 163.5g				

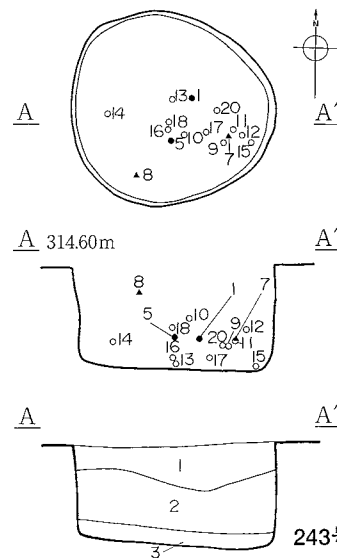


12号土坑

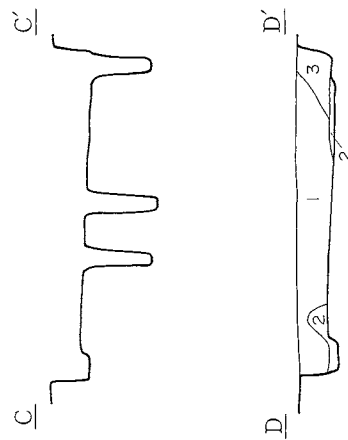
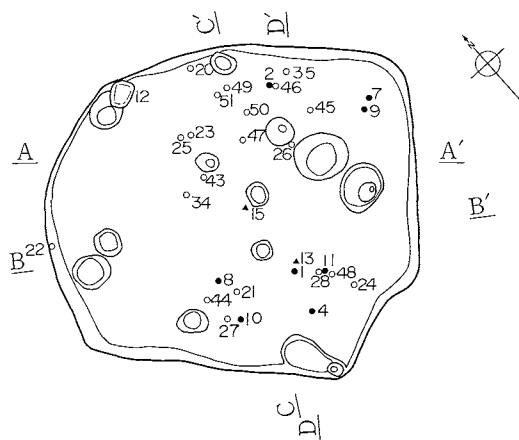
- 1: 暗褐色土 粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 YP・白色粒子少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまり強い。

23号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性・しまりあまりない。
- 2: 暗褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりあまりない。

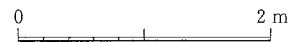
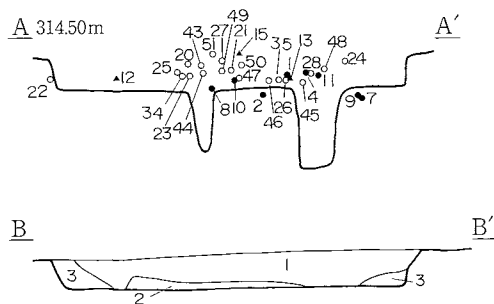


- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒・炭化粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YPをやや多く、炭化粒多量、ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 褐色粘土少量、YP微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

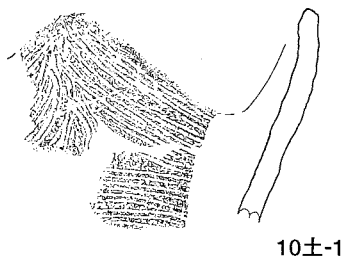


324号土坑

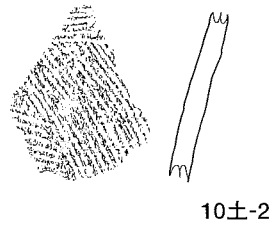
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒・炭化粒(クッキー状炭化物含む)少量、YP微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・白色粒・炭化粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



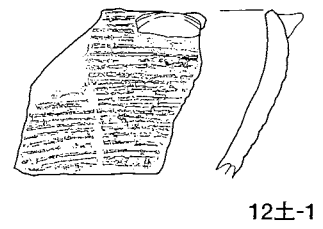
第359図 クッキー状炭化物出土土坑



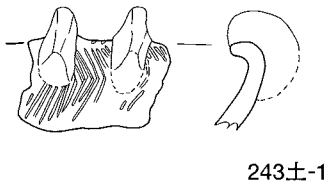
10±-1



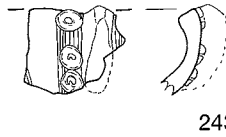
10±-2



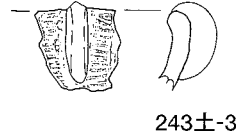
12±-1



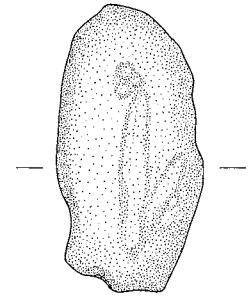
243±-1



243±-2



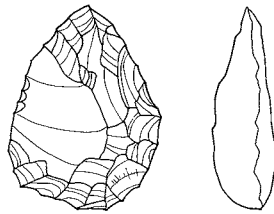
243±-3



12±-2

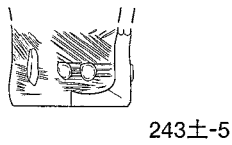


243±-4



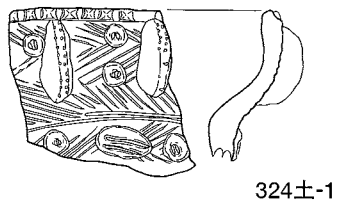
243±-6

11.9×5.9×2.0	重さ：172.5 g
石材：砂岩	注記：5

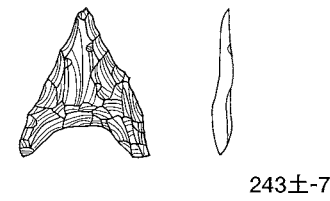


243±-5

2.7×2.0×0.9	重さ：4.0 g
石材：チャート	注記：-

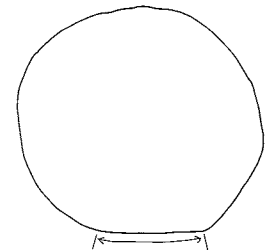
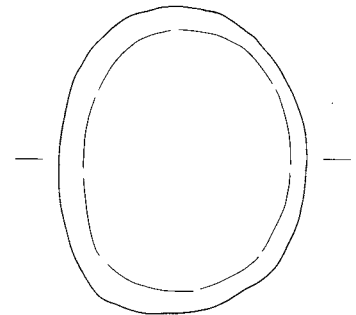


324±-1

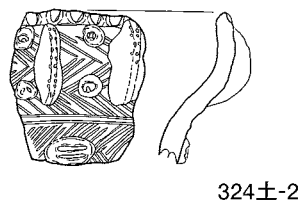


243±-7

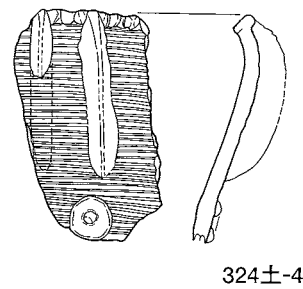
2.0×1.7×0.3	重さ：0.5 g
石材：黒曜石	注記：S-6



243±-8

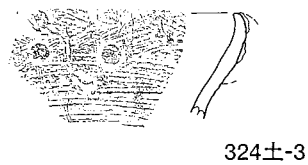


324±-2

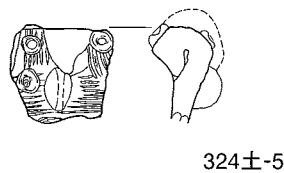


324±-4

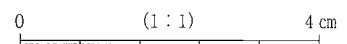
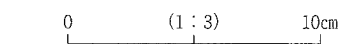
12.2×9.9×8.9	重さ：1,422.5 g
石材：安山岩	注記：4



324±-3

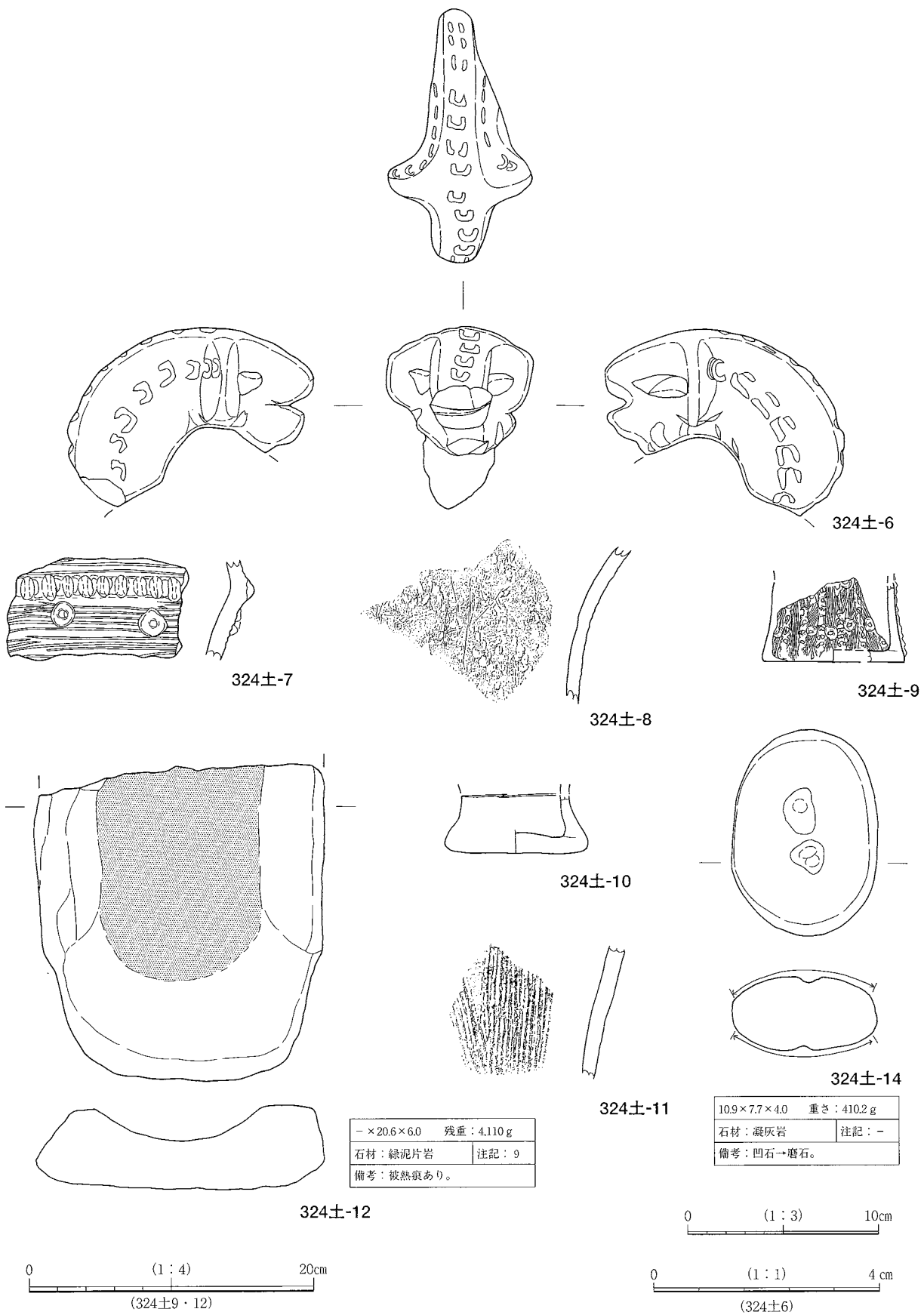


324±-5

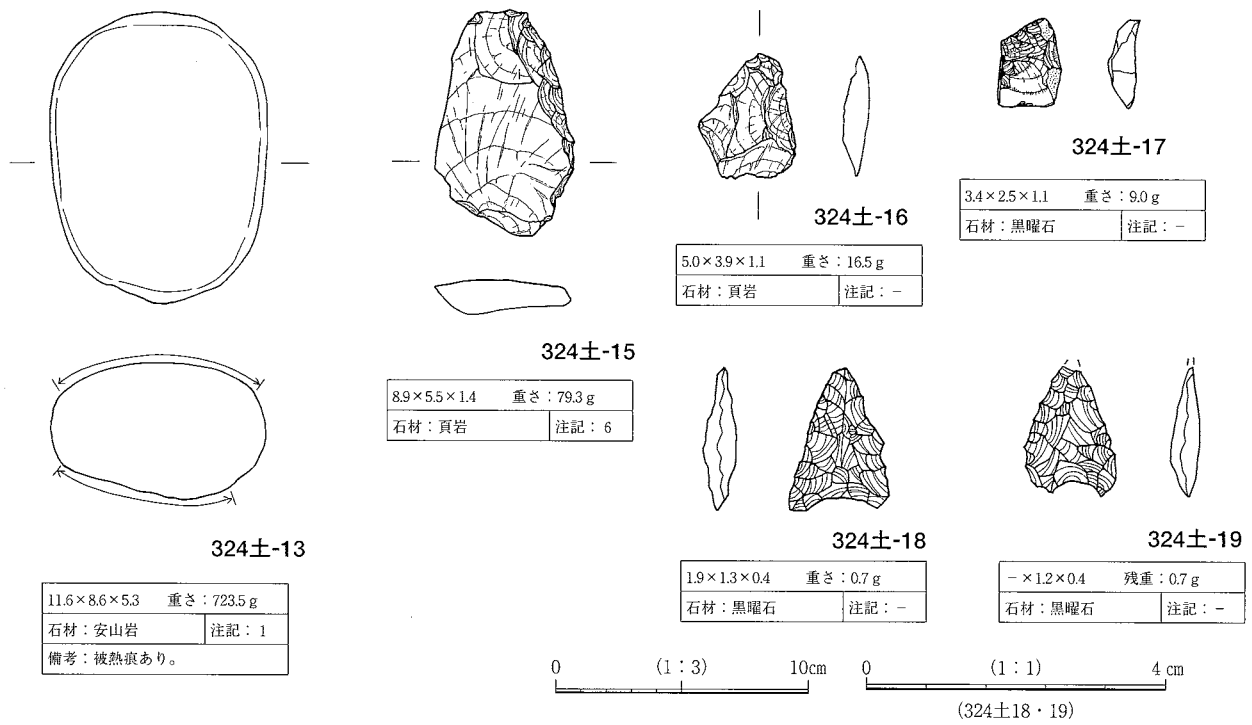


(243±6・7)

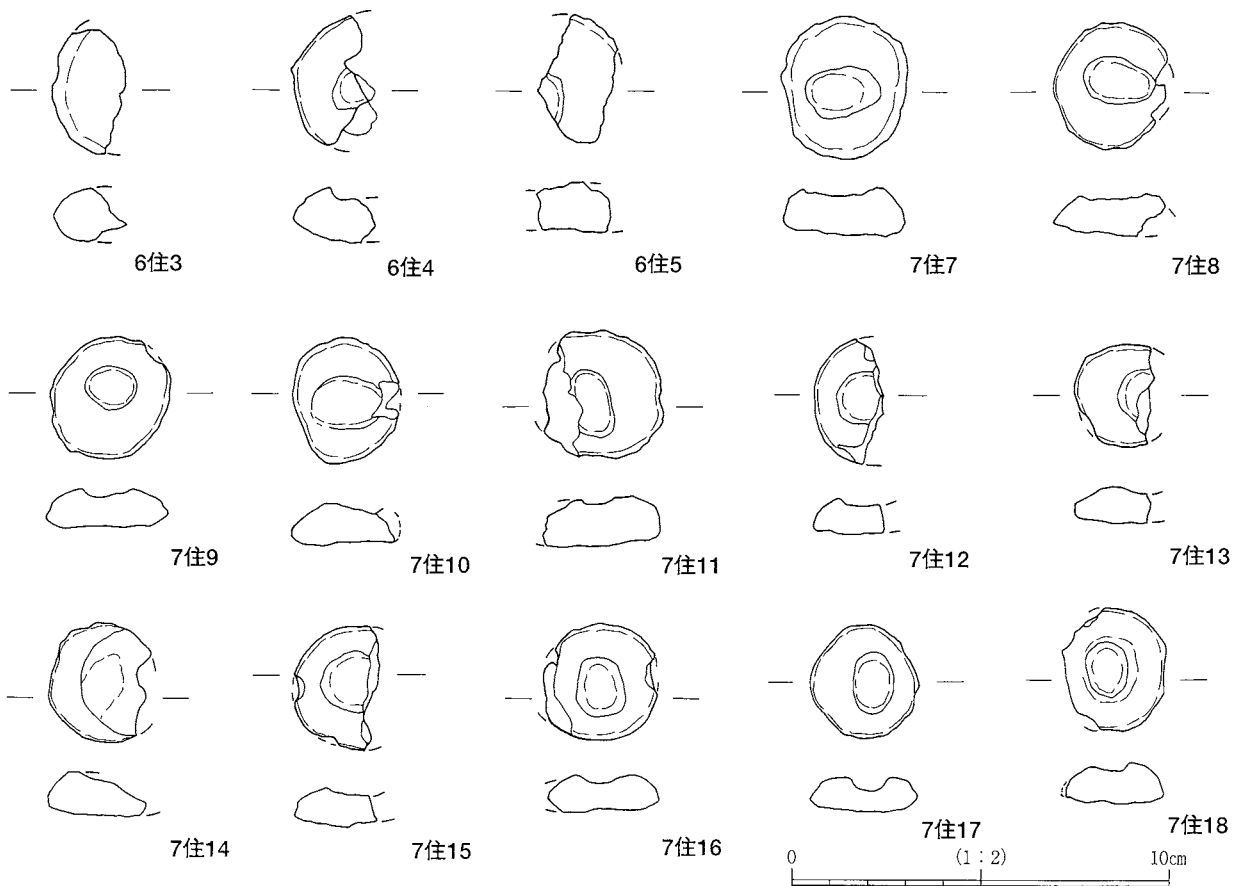
第360図 クッキー状炭化物出土土坑の出土遺物①



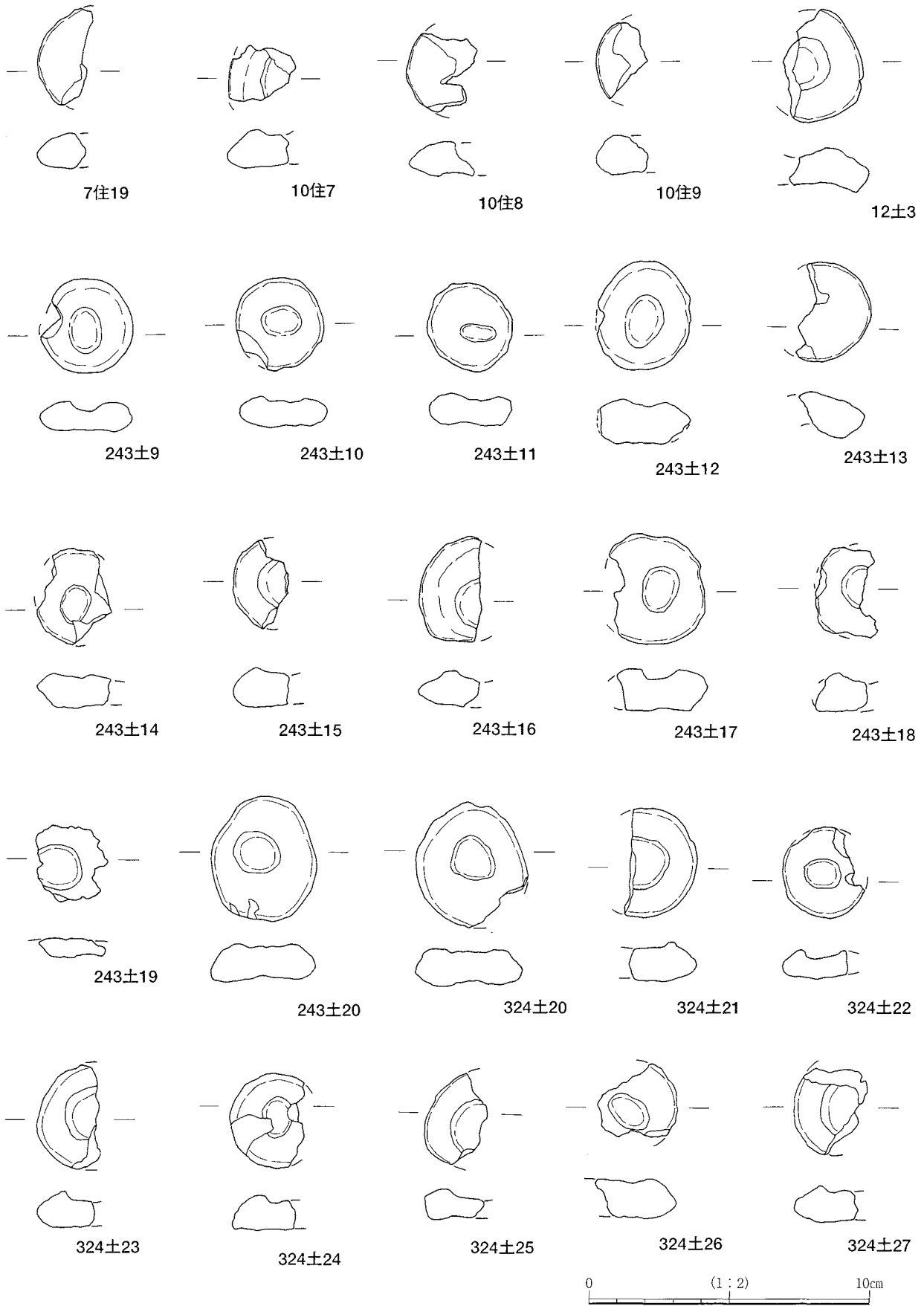
第361図 クッキー状炭化物出土土坑の出土遺物②



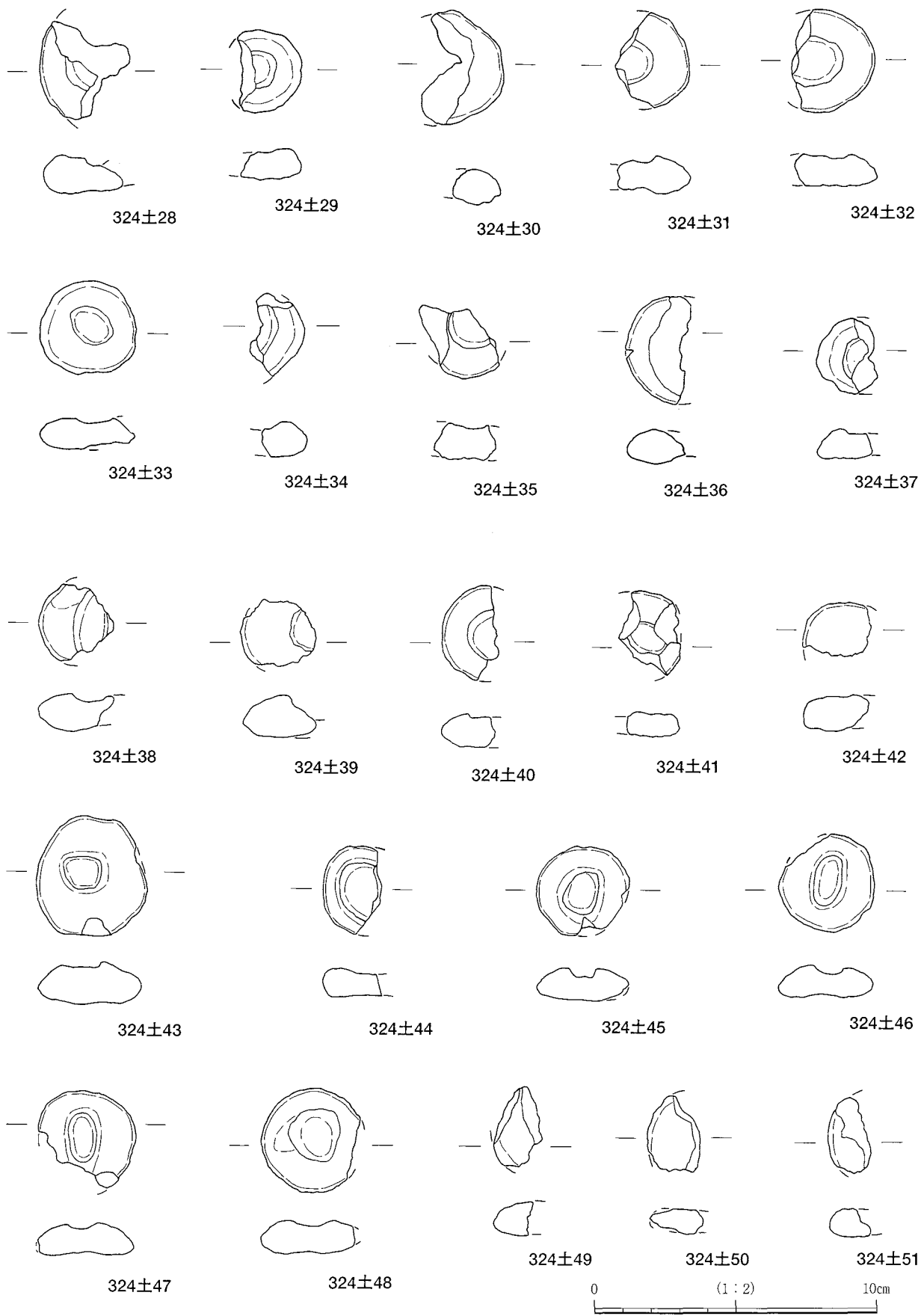
第362図 クッキー状炭化物出土土坑の出土遺物③



第363図 クッキー状炭化物①



第364図 クッキー状炭化物②



第365図 クッキー状炭化物③

第4節 土坑

東地区からは475基の土坑を確認している。各土坑の概要は表16～30に一覧した。なお、26号土坑は欠番である。時期的には、前期黒浜・有尾式期と想定されるもの71基（時期不明を除いた全体比率22.3%、以下同じ）、同じく諸磯a式期65基（20.4%）、諸磯b式期27基（8.5%）、諸磯c式期45基（14.1%）、十三菩提式期7基（2.2%）、中期五領ヶ台式期92基（28.8%）、中期中葉3基（0.9%）、加曾利E式期9基（2.8%）で、住居跡は前期のものが大半であったのに比べて、中期初頭五領ヶ台式期の土坑が多い傾向が認められる。

先述したように12号・243号・324号土坑からはクッキー状炭化物が出土している。260号・264号・339号土坑は集石土坑である。また、380号・390号・461号・474号土坑は掘立柱建物跡の一部と判断した。諸磯b式期と想定される203号土坑からは珧状耳飾りが出土しており、墓壙の可能性が考えられるが、その他の土坑については性格について結論づけることができなかった。時期別の遺構番号は下記の通りである。

前期黒浜式期

2号・14号・20号・21号・23号・28号・29号・45号・80号・81号・98号・103号・104号・111号・115号・128号・131号・148号・164号・180号・183号・196号・198号・199号・213号・220号・221号・224号・226号・228号・237号・242号・259号・263号・272号・291号・292号・293号・294号・299号・302号・305号・329号・337号・341号・347号・348号・351号・355号・357号・358号・359号・361号・363号・364号・372号・400号・405号・431号・434号・435号・436号・445号・447号・448号・452号・453号・454号・458号・463号・468号

前期諸磯a式期

1号・11号・13号・30号・52号・53号・56号・71号・72号・73号・78号・90号・91号・92号・97号・99号・129号・132号・149号・152号・157号・182号・188号・200号・201号・204号・211号・215号・217号・222号・223号・225号・229号・240号・247号・261号・271号・287号・309号・321号・322号・336号・338号・340号・343号・352号・353号・356号・360号・362号・365号・367号・369号・373号・382号・384号・391号・393号・395号・398号・407号・426号・438号・442号・455号

前期諸磯b式期

7号・22号・42号・44号・70号・89号・123号・185号・202号・203号・232号・244号・260号・283号・297号・303号・332号・339号・350号・376号・378号・379号・380号・389号・390号・428号・459号

前期諸磯c式期

6号・10号・12号・17号・27号・32号・34号・35号・36号・37号・38号・40号・41号・43号・47号・48号・51号・55号・75号・79号・93号・108号・114号・125号・126号・127号・133号・135号・142号・184号・194号・233号・243号・270号・278号・280号・310号・323号・324号・333号・349号・354号・374号・375号・429号

前期十三菩提式期

5号・82号・177号・181号・197号・320号・342号

中期五領ヶ台式期

9号・16号・18号・31号・39号・49号・50号・57号・58号・59号・64号・65号・66号・67号・68号・74号・77号・83号・84号・94号・107号・110号・112号・113号・120号・121号・130号・134号・144号・145号・146号・150号・154号・155号・158号・160号・161号・168号・175号・178号・191号・192号・195号・206号・208号・210号・216号・234号・246号・249号・253号・254号・255号・256号・257号・264号・266号・268号・273号・275号・276号・281号・284号・285号・286号・288号・289号・295号・298号・301号・307号・311号・314号・316号・317号・331号・334号・381号・383号・401号・402号・406号・409号・410号・412号・417号・425号・433号・441号・449号・470号・473号

中期中葉

205号・207号・392号

中期加曾利E式期

102号・122号・140号・151号・241号・328号・330号・371号・466号

表16 東地区土坑①

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
1号土坑	Ed59	B-II	2.20×1.96	26cm	土器片303・剥片7	諸磯a	366	32	397	100
2号土坑	Ed59	B-I	1.68×1.54	81cm	土器片258・スクレイパー2	黒浜	137	-	397	100
3号土坑	Ea59	B-III	1.32×0.80	27cm	剥片2/ピット2あり	不明	392	-	-	-
4号土坑	Ea59	E-III	0.80×0.70	33cm		不明	134	-	-	-
5号土坑	Ea59	B-II	1.65×1.35	34cm	土器片2	十三菩提	366	-	397	100
6号土坑	Ea59	B-I	1.17×0.65	66cm	土器片5・磨石1・石匙1	諸磯c	366	-	397	100
7号土坑	Ef56	不明	不明	80cm	土器片9	諸磯b	160	-	397	100
8号土坑	Ee53	E-V	1.17×1.09	10cm	/小ピットあり	不明	156	-	-	-
9号土坑	Eb58	E-I	0.93×0.57	35cm	深鉢1・石皿1	五領ヶ台	366	32	397	100
10号土坑	Ea59	A-II	0.95×0.87	57cm	土器片2・凹石2	諸磯c	366	43	360	132
11号土坑	Ea59	B-II	0.50×0.40	70cm	土器片3/ピット状	諸磯a	366	-	397	100
12号土坑	Ea59	B-II	2.27×1.98	75cm	土器片23・クッキー・炭化種子	諸磯c	359	43	360	132
13号土坑	Ea60	B-II	1.47×1.39	43cm	土器片1	諸磯a	366	-	398	100
14号土坑	Eb59	B-V	1.58×1.12	40cm	深鉢1/ピットあり	黒浜	366	-	398	100
15号土坑	Ea56	A-I	0.50×0.46	52cm		不明	380	-	-	-
16号土坑	Eb59	A-IV	0.85×0.80	70cm	深鉢1・打製石斧1・剥片5、他	五領ヶ台	366	32	398	101
17号土坑	Eb59	A-II	0.87×0.82	30cm	土器片18・磨石3	諸磯c	366	-	398	100
18号土坑	Eb59	B-V	0.58×0.51	25cm	土器片159・剥片7	五領ヶ台	366	-	398	101
19号土坑	Eb59	D-II	0.67×0.45	41cm	/ピットあり	不明	366	-	-	-
20号土坑	Eb60	B-II	1.15×-	63cm	土器片26・磨石1	黒浜	135	-	398	101
21号土坑	Eb60	E-II	1.31×1.07	63cm	土器片57・スクレイパー1	黒浜	135	-	399	101
22号土坑	Ea60	C-II	0.88×0.80	67cm	土器片5・剥片1	諸磯b	367	-	399	101
23号土坑	Ea59	不明	-×1.02	27cm	土器片1/12土に切られる	黒浜	359	-	-	-
24号土坑	Ea59	B-III	0.59×0.43	27cm	剥片3	不明	392	-	-	-
25号土坑	Ea60	B-II	-×1.59	71cm	/6住と重複	不明	143	-	-	-
27号土坑	Ec59	B-II	0.80×0.67	70cm	土器片8・スクレイパー1	諸磯c	367	-	399	101
28号土坑	Ed59	B-IV	1.43×1.30	44cm	土器片36・敲石1・磨石1、他	黒浜	137	-	399	101

表17 東地区土坑②

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
29号土坑	Ed59	B - II	不明	58cm	土器片100・剥片2	黒浜	367	-	399	101
30号土坑	Ee56	A - I	1.28×1.17	40cm	土器片82・磨石1・剥片	諸磯a	367	32	400	102
31号土坑	Ee56	B - II	1.22×1.10	40cm	土器片12	五領ヶ台	367	33	400	102
32号土坑	Ef56	B - II	1.32×1.13	45cm	土器片17・剥片5	諸磯c	367	-	400	102
33号土坑	Ef56	A - II	0.94×0.86	40cm		不明	392	-	-	-
34号土坑	Ef56	D - I	2.35×1.42	93cm	土器片254・ミニチュア1・敲石1	諸磯c	160	-	400	102
35号土坑	Ef56	B - II	1.83×1.45	43cm	土器片142・スクレイパー4	諸磯c	367	33	400	102
36号土坑	Eg55	B - II	1.17×0.90	25cm	土器片47・剥片3	諸磯c	367	-	400	102
37号土坑	Eg55	B - II	1.37×1.31	53cm	土器片61・石鏃1	諸磯c	367	-	400	102
38号土坑	Ef56	B - II	1.30×0.97	32cm	土器片64・剥片石器1	諸磯c	368	-	400	102
39号土坑	Eg56	B - II	1.54×1.29	32cm	土器片88・剥片石器1	五領ヶ台	368	-	401	102
40号土坑	Ef56	B - V	1.12×0.89	33cm	土器片3/傾斜を持つ	諸磯c	368	-	401	102
41号土坑	Eg56	A - II	0.87×0.81	41cm	土器片9	諸磯c	368	-	401	102
42号土坑	Ef55	A - II	1.43×1.30	60cm	土器片2・凹石1	諸磯b	368	-	401	102
43号土坑	Eg55	B - II	2.26×1.10	56cm	土器片57・磨石1	諸磯c	368	-	401	102
44号土坑	Ef56	C - II	1.96×1.85	56cm	土器片・ミニチュア1・石鏃1、他	諸磯b	160	-	401	102
45号土坑	Ee54	B - II	不明	22cm	土器片19・石皿1	黒浜	155	-	401	102
46号土坑	Eb59	B - II	1.67×1.38	42cm	/10住に切られる	不明	144	-	-	-
47号土坑	Ed53	B - II	2.45×1.58	67cm	土器片88・石鏃2・凹石1	諸磯c	156	-	401	103
48号土坑	Eg55	B - II	3.19×2.67	69cm	土器片457・石匙1・磨製石斧1、他	諸磯c	368	-	402	103
49号土坑	Ee56	B - I	1.20×0.83	54cm	土器片68・石鏃1・凹石1	五領ヶ台	161	-	403	103
50号土坑	Eb59	B - II	0.80×0.70	40cm	土器片2・(石棒1)	五領ヶ台	368	-	403	103
51号土坑	Ee55	A - II	1.88×1.77	不明	土器片135・磨石3・剥片石器1	諸磯c	153	-	403	104
52号土坑	Ee55	B - II	1.60×1.36	74cm	土器片143・剥片3・磨石1	諸磯a	152	-	404	104
53号土坑	Ee56	E - V	1.77×1.08	70cm	土器片118・剥片5	諸磯a	152	-	404	104
54号土坑	Ef54	A - II	1.35×1.26	42cm	剥片3	不明	368	-	-	-
55号土坑	Ef54	B - II	1.40×1.02	26cm	土器片12・磨製石斧1	諸磯c	163	-	404	104
56号土坑	Ef54	A - I	0.88×0.82	100cm	土器片56・スクレイパー1、他	諸磯a	163	-	404	104
57号土坑	Ec58	B - IV	0.92×0.83	68cm	土器片24・剥片4	五領ヶ台	369	-	405	104
58号土坑	Ec56	B - I	0.80×0.68	46cm	土器片1・剥片10	五領ヶ台	369	-	405	104
59号土坑	Ec56	B - I	1.02×0.80	52cm	土器片9・スクレイパー1	五領ヶ台	369	-	405	104
60号土坑	Ec56	B - II	0.83×0.71	50cm		不明	392	-	-	-

表18 東地区土坑③

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
61号土坑	Eb56	E - II	1.86×1.38	50cm	打製石斧1・スクレイパー1、他	不明	392	-	405	104
62号土坑	Eb56	B - II	0.62×0.52	50cm		不明	392	-	-	-
63号土坑	Eb55	B - II	1.30×1.06	40cm	土器片1	不明	392	-	-	-
64号土坑	Eb56	E - V	1.56×1.05	108cm	土器片62・石皿1・剥片2	五領ヶ台	369	-	405	105
65号土坑	Ec56	B - I	0.92×0.70	54cm	土器片2・剥片2	五領ヶ台	369	-	406	105
66号土坑	Eb55	B - I	1.78×1.56	56cm	土器片18・剥片9	五領ヶ台	369	-	406	105
67号土坑	Eb56	E - I	0.97×0.32	54cm	土器片30・磨製石斧1	五領ヶ台	369	-	406	105
68号土坑	Eb56	B - V	1.08×0.87	76cm	深鉢1・打製石斧1・磨石2、他	五領ヶ台	369	-	407	105
69号土坑	Eb56	E - II	2.08×1.70	58cm		不明	392	-	-	-
70号土坑	Eb55	B - V	1.15×0.80	54cm	土器片3・剥片1／ピット2基状	諸磯b	369	-	407	106
71号土坑	Ef54	B - II	1.34×1.32	36cm	土器片22・石皿1・磨石1	諸磯a	163	-	407	106
72号土坑	Ef54	B - II	1.19×0.80	32cm	土器片7・磨石1	諸磯a	163	-	408	106
73号土坑	Ef54	不明	不明	46cm	土器片1・剥片1	諸磯a	163	-	408	106
74号土坑	Eb56	A - II	0.88×0.82	49cm	土器片4	五領ヶ台	370	-	408	106
75号土坑	Eb56	B - II	1.46×1.23	54cm	土器片7・石鏃1・剥片29	諸磯c	370	-	408	106
76号土坑	Ec58	B - I	1.00×0.79	52cm		不明	392	-	-	-
77号土坑	Eb58	B - II	1.13×0.98	62cm	土器片3・打製石斧1、他	五領ヶ台	370	-	408	106
78号土坑	Ee56	E - V	1.14×0.82	85cm	土器片180・磨石1・凹石1	諸磯a	152	-	408	106
79号土坑	Ec56	E - II	2.13×1.23	43cm	土器片36・土製品1・剥片1、他	諸磯c	370	-	408	106
80号土坑	Ec56	B - IV	1.49×1.25	78cm	土器片66・スクレイパー1、他	黒浜	370	-	408	106
81号土坑	Ec56	A - I	1.38×1.30	50cm	土器片39 (関山式含む)、他	黒浜	370	33	409	106
82号土坑	Eb57	A - II	1.34×1.29	59cm	土器片3・剥片2	十三菩提	370	-	409	107
83号土坑	Ea57	B - II	1.24×1.04	41cm	土器片19	五領ヶ台	371	-	409	107
84号土坑	Ea56	E - II	2.52×1.58	58cm	土器片65・剥片1・磨石1	五領ヶ台	370	-	409	107
85号土坑	Eb56	B - I	0.70×0.55	41cm		不明	392	-	-	-
86号土坑	Eb56	B - II	0.98×0.73	40cm		不明	392	-	-	-
87号土坑	Ec55	A - II	1.59×1.45	30cm		不明	392	-	-	-
88号土坑	Ec55	B - I	1.40×1.08	34cm		不明	392	-	-	-
89号土坑	Ec55	A - II	2.15×2.07	36cm	土器片13・剥片5	諸磯b	371	-	409	107
90号土坑	Ec55	B - II	2.26×2.00	44cm	土器片222・磨石1	諸磯a	371	-	409	107
91号土坑	Ed56	B - V	0.75×0.44	71cm	土器片20・剥片8	諸磯a	134	-	410	107
92号土坑	Ed55	B - II	0.40×0.35	49cm	土器片2・剥片3	諸磯a	134	-	-	-

表19 東地区土坑④

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
93号土坑	Ed55	E - II	1.83×1.20	14cm	深鉢1・珧状耳飾1、他	諸磯c	371	33	410	107
94号土坑	Ed55	A - II	0.71×0.65	69cm	土器片2・剥片2	五領ヶ台	371	-	410	107
95号土坑	Eb56	B - II	1.60×0.91	43cm		不明	392	-	-	-
96号土坑	Ec56	B - II	1.31×1.17	39cm		不明	392	-	-	-
97号土坑	Ec55	E - II	1.40×1.37	39cm	土器片5	諸磯a	371	-	410	107
98号土坑	Di53	B - II	0.52×0.47	52cm	土器片19・磨石1・剥片1	黒浜	371	34	410	107
99号土坑	Eb55	B - IV	0.86×0.73	77cm	土器片13・剥片2	諸磯a	371	-	410	107
100号土坑	Eb56	B - II	0.50×0.44	47cm		不明	392	-	-	-
101号土坑	Eb56	B - II	0.75×0.54	52cm		不明	392	-	-	-
102号土坑	Ec56	B - II	1.41×0.93	42cm	土器片1	加曾利E	371	-	410	107
103号土坑	Ec56	B - II	1.04×0.79	42cm	土器片11	黒浜	371	-	410	107
104号土坑	Ec55	B - II	1.43×1.16	43cm	土器片10	黒浜	371	-	410	107
105号土坑	Ec55	B - II	0.99×0.80	37cm	剥片2・残核1	不明	392	-	-	-
106号土坑	Eb55	A - II	0.70×0.76	52cm		不明	392	-	-	-
107号土坑	Eb54	E - IV	1.50×0.73	51cm	深鉢1・土器片127	五領ヶ台	372	33	410	108
108号土坑	Ec54	E - V	1.22×0.56	16cm	深鉢1・土器片29/小ビットあり	諸磯c	372	34	410	108
109号土坑	Ee55	A - II	0.70×0.67	28cm		不明	392	-	-	-
110号土坑	Ee55	A - I	0.83×0.81	67cm	深鉢1・石皿1・磨石1・剥片2、他	五領ヶ台	151	-	411	108
111号土坑	Ee55	B - II	1.12×0.80	26cm	土器片6	黒浜	151	-	411	108
112号土坑	Ec54	B - II	1.28×1.10	46cm	土器片4・磨製石斧1	五領ヶ台	372	-	411	108
113号土坑	Ec54	A - II	1.20×1.10	53cm	土器片6・剥片1	五領ヶ台	372	-	411	108
114号土坑	Eb53	A - I	1.30×1.25	60cm	土器片12・剥片6/黒浜紛れ込み	諸磯c	372	-	411	108
115号土坑	Ed54	A - II	1.79×1.68	66cm	土器片61・剥片1	黒浜	372	-	411	108
116号土坑	Eb55	B - I	1.14×0.90	50cm		不明	392	-	-	-
117号土坑	Eb54	A - IV	0.83×0.76	83cm		不明	393	-	-	-
118号土坑	Eb54	B - II	0.91×0.82	56cm	土器片5	不明	372	-	411	108
119号土坑	Eb54	A - II	0.82×0.75	47cm	磨製石斧1	不明	393	-	412	108
120号土坑	Eb53	E - II	1.24×0.76	67cm	土器片22・石皿1	五領ヶ台	372	-	412	108
121号土坑	Eb53	A - I	1.37×1.30	74cm	土器片51・石巖1・磨製石斧1、他	五領ヶ台	372	-	412	108
122号土坑	Eb54	B - I	0.97×0.70	56cm	土器片26・剥片1	加曾利E	373	-	412	108
123号土坑	Eb54	E - I	1.05×0.82	41cm	土器片13・剥片1	諸磯b	373	-	412	109
124号土坑	Eb54	B - I	0.96×0.65	62cm	土器片6	不明	393	-	-	-

表20 東地区土坑⑤

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
125号土坑	Eb54	E - I	1.40×1.02	63cm	土器片6・砥石1	諸磯c	373	-	412	109
126号土坑	Ee54	B - II	3.48×2.02	16cm	深鉢2・凹石1・スクレイパー1	諸磯c	373	34	412	109
127号土坑	Ed54	B - II	1.70×1.30	86cm	土器片82・剥片26	諸磯c	373	-	413	109
128号土坑	Ee54	A - II	0.84×-	31cm	土器片170・剥片26	黒浜	373	-	413	109
129号土坑	Ee54	B - I	1.45×1.30	129cm	土器片122・石皿2・磨石1	諸磯a	154	-	413	109
130号土坑	Ed55	A - II	1.54×1.48	52cm	土器片5・磨石1	五領ヶ台	371	-	413	110
131号土坑	Ed54	A - I	1.15×1.05	67cm	土器片6・磨石1	黒浜	373	-	413	110
132号土坑	Ee54	B - I	1.00×0.87	112cm	土器片30・石鏃1	諸磯a	154	-	414	110
133号土坑	Ee54	B - I	1.88×1.28	70cm	土器97・石鏃1・石匙1・剥片12	諸磯c	154	-	414	110
134号土坑	Ee55	A - II	0.75×0.70	30cm	土器片1・剥片1	五領ヶ台	373	-	414	110
135号土坑	Ee55	A - I	0.73×0.72	80cm	深鉢1	諸磯c	152	-	414	110
136号土坑	Ec54	B - -	1.17×1.00	不明		不明	134	-	-	-
137号土坑	Eb54	B - -	1.08×0.85	不明		不明	134	-	-	-
138号土坑	Ec54	B - II	1.25×1.18	36cm		不明	393	-	-	-
139号土坑	Ec54	E - I	1.66×1.18	42cm		不明	393	-	-	-
140号土坑	Ec56	B - II	0.86×0.71	31cm	土器片1	加曾利E	373	34	414	110
141号土坑	Ec55	B - III	1.42×1.23	40cm		不明	393	-	-	-
142号土坑	Ea56	E - I	2.00×1.22	53cm	浅鉢1・土器片9・磨石1	諸磯c	373	34	414	110
143号土坑	Ec54	E - II	1.75×1.50	42cm		不明	393	-	-	-
144号土坑	Eb54	B - I	0.78×0.66	61cm	土器片4・スクレイパー1	五領ヶ台	373	-	414	110
145号土坑	Eb54	A - I	0.64×0.60	64cm	土器片14・剥片1	五領ヶ台	373	-	414	110
146号土坑	Eb54	A - IV	0.60×0.55	95cm	土器片25・石鏃1・磨石1・剥片	五領ヶ台	374	-	414	110
147号土坑	Eb54	A - I	0.50×0.46	59cm		不明	393	-	-	-
148号土坑	Ed53	A - IV	1.19×1.09	115cm	土器片12・磨製石斧1	黒浜	374	35	415	110
149号土坑	Ed56	B - II	1.23×1.05	12cm	土器片9・剥片1	諸磯a	148	-	415	110
150号土坑	Eb55	A - IV	0.70×0.68	65cm	土器片9・打製石斧1・磨石1	五領ヶ台	374	-	415	110
151号土坑	Ec54	B - II	0.86×0.65	47cm	土器片3・剥片4	加曾利E	374	-	415	111
152号土坑	Ec55	E - II	1.46×1.28	42cm	土器片28・石匙1・磨石3	諸磯a	374	-	415	111
153号土坑	Ec55	E - II	0.87×0.60	36cm	土器片1 (高台部)	不明	393	-	415	111
154号土坑	Ec55	E - V	1.39×1.03	20cm	土器片70・剥片12	五領ヶ台	374	34	415	111
155号土坑	Ed55	C - II	1.02×0.92	42cm	土器片26・磨石1・剥片9	五領ヶ台	157	-	415	111
156号土坑	Eb53	B - II	0.87×0.75	63cm		不明	393	-	-	-

表21 東地区土坑⑥

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
157号土坑	Eb53	B - II	0.76×0.71	56cm	土器片5・剥片1	諸磯 a	374	-	415	111
158号土坑	Eb53	E - II	0.70×0.58	53cm	深鉢1・土器片137・磨石2、他	五領ヶ台	374	-	416	111
159号土坑	Ec53	A - II	0.76×0.70	57cm		不明	374	-	-	-
160号土坑	Ec53	B - I	1.35×1.04	60cm	土器片15・石鏃1・小形石皿1、他	五領ヶ台	374	-	416	111
161号土坑	Ed53	B - IV	0.70×0.58	52cm	土器片10・剥片2	五領ヶ台	374	-	416	111
162号土坑	Ed54	E - II	1.53×0.95	66cm	剥片2/上面に礫5	不明	393	34	416	111
163号土坑	Ee55	B - I	0.65×0.58	49cm		不明	151	-	-	-
164号土坑	Ef54	B - V	1.11×0.96	24cm	土器片9	黒浜	374	-	416	111
165号土坑	Eb54	D - -	0.98×0.79	63cm		不明	134	-	-	-
166号土坑	Eb54	B - II	0.94×0.65	49cm		不明	393	-	-	-
167号土坑	Ed54	B - II	1.03×0.89	61cm		不明	393	-	-	-
168号土坑	Ed54	A - IV	0.85×0.77	58cm	深鉢1・石鏃1・剥片11、他	五領ヶ台	374	36	416	111
169号土坑	Ed55	A - I	0.80×0.75	65cm	スレイバー4・剥片5	不明	393	-		111
170号土坑	Ed54	B - II	1.35×0.90	53cm		不明	393	-	-	-
171号土坑	Ec54	B - -	1.50×0.73	49cm		不明	134	-	-	-
172号土坑	Ec53	B - II	0.76×0.66	21cm	剥片1	不明	393	-		112
173号土坑	Eb53	不明	0.87×0.85	不明		不明	134	-	-	-
174号土坑	Ec53	B - IV	0.65×0.42	60cm	/中位で礫出土	不明	393	35	-	-
175号土坑	Ec53	E - II	1.74×1.62	44cm	土器片5・石鏃1・石皿1	五領ヶ台	375	-	417	112
176号土坑	Ec54	B - -	0.88×0.79	不明		不明	134	-	-	-
177号土坑	Ed54	B - V	2.18×1.35	102cm	土器片61・剥片3	十三菩提	375	-	417	112
178号土坑	Ed54	B - II	0.87×0.80	33cm	土器片16・石鏃1・剥片12	五領ヶ台	375	-	418	112
179号土坑	Ec54	D - -	1.90×1.59	不明		不明	134	-	-	-
180号土坑	Ed53	A - IV	1.08×1.05	76cm	土器片14・磨石1	黒浜	375	-	418	112
181号土坑	Ed52	B - II	1.34×1.14	58cm	土器片38・剥片4	十三菩提	375	-	418	112
182号土坑	Ee54	E - IV	0.91×0.86	114cm	土器片8・磨製石斧1、他	諸磯 a	154	-	418	112
183号土坑	Ef54	A - II	1.00×0.96	66cm	土器片2・凹石1	黒浜	154	-	418	112
184号土坑	Ee54	A - I	1.12×1.08	43cm	土器片7・磨石1/関山紛れ込み	諸磯 c	158	-	418	112
185号土坑	Eb54	B - II	0.83×0.63	65cm	土器片13・凹石1	諸磯 b	375	-	418	112
186号土坑	Eb54	B - II	1.03×0.63	53cm		不明	393	-	-	-
187号土坑	Eb54	B - II	1.20×0.90	56cm		不明	393	-	-	-
188号土坑	Eb54	E - I	0.96×0.65	47cm	土器片14/大木系土器	諸磯 a	373	-	418	112

表22 東地区土坑⑦

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
189号土坑	Eb55	E-II	0.88×0.59	45cm	磨石2/上位から礫出土	不明	393	-	418	112
190号土坑	Eb54	B--	1.03×0.64	49cm		不明	134	-	-	-
191号土坑	Ec53	B-II	0.80×0.55	28cm	土器片2・磨石1	五領ヶ台	375	-	419	112
192号土坑	Ec53	A-II	0.77×0.76	54cm	土器片12	五領ヶ台	374	-	419	112
193号土坑	Di53	B-V	0.68×0.60	18cm		不明	393	-	-	-
194号土坑	Ee53	B-II	1.98×1.03	20cm	土器片35・石鏃1・磨石1、他	諸磯c	375	-	419	112
195号土坑	Ed57	E-I	0.95×0.79	52cm	土器片42・磨石2	五領ヶ台	375	-	419	112
196号土坑	Ed52	B-II	1.16×0.98	40cm	土器片36	黒浜	375	35	419	112
197号土坑	Ed56	B-I	2.30×1.44	88cm	土器片143・磨石2・打製石斧1、他	十三菩提	375	-	419	113
198号土坑	Ed51	B-IV	1.19×0.97	135cm	土器196・磨製石斧1・磨石1	黒浜	375	36	419	113
199号土坑	Ef54	A-II	1.53×1.51	42cm	土器片110・磨石3	黒浜	375	-	420	113
200号土坑	Ef54	A-I	1.35×1.25	39cm	土器片40・剥片石器2	諸磯a	376	36	420	113
201号土坑	Dg55	A-I	1.47×1.35	37cm	土器片45	諸磯a	376	36	420	113
202号土坑	Ec52	E-I	4.55×0.53	65cm	土器片6・剥片5/溝状	諸磯b	376	36	420	113
203号土坑	Ec52	B-II	1.59×1.22	37cm	土器42・块状耳飾り1	諸磯b	376	37	421	114
204号土坑	Ee54	B-III	1.14×0.96	18cm	土器片65・剥片4	諸磯a	376	-	421	114
205号土坑	Ed56	B-I	1.76×1.21	57cm	土器片81・剥片1	中期中葉	376	37	421	114
206号土坑	Ed56	B-II	1.91×1.09	43cm	土器片49・磨石2・剥片1	五領ヶ台	376	-	421	114
207号土坑	Ed57	B-I	1.26×1.11	98cm	土器片40・剥片2/焼町系土器	中期中葉	376	-	422	114
208号土坑	Ed56	B-II	0.95×0.80	60cm	土器片59・残核1	五領ヶ台	376	-	422	115
209号土坑	Ed57	E-I	1.44×0.70	64cm	剥片2	不明	393	-	422	115
210号土坑	Ed56	B-I	0.65×0.55	57cm	土器片47・磨石1	五領ヶ台	376	-	422	115
211号土坑	Ee54	B-V	-×0.63	73cm	土器片34・磨石1	諸磯a	151	-	423	115
212号土坑	Ed57	A-I	0.76×0.72	50cm		不明	393	37	-	-
213号土坑	Ed57	B-I	1.70×1.38	81cm	土器片2	黒浜	377	-	423	115
214号土坑	Ed57	A-I	0.72×0.66	60cm		不明	393	-	-	-
215号土坑	Ed57	B-I	0.85×0.58	69cm	土器18	諸磯a	377	-	423	115
216号土坑	Ed57	A-I	0.95×0.90	61cm	土器片16・磨石1・剥片22	五領ヶ台	377	-	423	115
217号土坑	Dg52	B-II	1.65×不明	40cm	土器片56	諸磯a	165	-	423	115
218号土坑	Dh52	A-II	1.25×1.20	144cm	/217土を切ると推定される	不明	165	-	-	-
219号土坑	Dg52	A-II	1.02×1.00	32cm		不明	165	-	-	-
220号土坑	Dg55	B-IV	1.00×0.90	59cm	土器片59・スクレイパー1、他	黒浜	377	-	424	115

表23 東地区土坑⑧

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
221号土坑	Dh54	A - II	1.18× -	45cm	深鉢1・土器片59・石皿1・凹石1	黒浜	190	28	424	115
222号土坑	Dj50	A - I	1.13×1.08	48cm	土器片140・石匙1・石皿1・磨石1	諸磯a	377	-	424	116
223号土坑	Dj50	B - I	1.22×1.08	75cm	土器片104・砥石1・剥片1	諸磯a	377	-	425	116
224号土坑	Dh55	A - II	1.00×0.97	29cm	土器片6	黒浜	377	-	425	116
225号土坑	Di51	A - I	1.11×1.03	64cm	土器片54・残核1	諸磯a	377	-	425	116
226号土坑	Dj52	B - II	1.24×0.95	不明	土器片22・石鏃1・剥片1	黒浜	169	-	425	116
227号土坑	Dh51	A - II	1.27×1.17	29cm		不明	167	-	-	-
228号土坑	Di52	B - IV	1.24×0.86	136cm	土器片17・剥片1	黒浜	167	-	425	116
229号土坑	Ea50	A - I	1.12×1.11	38cm	土器片58・磨石1・剥片1	諸磯a	377	-	426	116
230号土坑	Dj58	A - V	- ×1.76	14cm	ノ小ピットあり	不明	393	-	-	-
231号土坑	Dj58	A - II	- ×1.70	15cm	-	不明	393	-	-	-
232号土坑	Dj56	B - II	1.60×1.30	20cm	土器片14・剥片1	諸磯b	377	-	426	117
233号土坑	Dj56	B - II	1.48×1.10	21cm	スクレイパー1・剥片1	諸磯c	393	-	426	117
234号土坑	Dj57	B - IV	0.80×0.73	70cm	土器片39・石鏃1・磨石1・剥片21	五領ヶ台	377	37	426	117
235号土坑	Dj57	A - V	1.25×1.22	20cm		不明	393	37	-	-
236号土坑	Dj57	B - IV	0.71×0.60	63cm		不明	394	-	-	-
237号土坑	Dj58	B - II	1.20×0.94	66cm	土器片23・石鏃1	黒浜	377	-	426	117
238号土坑	Dj58	D - II	1.33×0.73	72cm	磨石1・剥片2ノ中位から礫出土	不明	394	-		117
239号土坑	Dj58	B - IV	1.47×0.85	65cm		不明	394	-	-	-
240号土坑	Dj58	B - I	1.50×0.80	73cm	深鉢1・土器片33・剥片1	諸磯a	378	37	426	117
241号土坑	Dj58	B - I	1.38×1.22	89cm	土器片1・剥片1ノピットあり	加曾利E	378	-	426	117
242号土坑	Ea58	B - II	1.13×0.81	39cm	土器片11・剥片1ノピットあり	黒浜	378	-	426	117
243号土坑	Di57	A - I	1.73×1.57	85cm	土器片128・クッキー・石鏃2、他	諸磯c	359	43	360	132
244号土坑	Dj57	B - I	0.90×0.80	84cm	土器片10	諸磯b	377	-	426	117
245号土坑	Dj57	B - II	1.45×1.09	14cm		不明	394	-	-	-
246号土坑	Eb58	B - IV	1.02×0.82	69cm	土器片32・剥片12、他	五領ヶ台	378	-	427	117
247号土坑	Ea58	B - I	1.45×1.07	42cm	土器片1・磨石1	諸磯a	378	-	427	117
248号土坑	Ea58	B - II	1.11×0.80	51cm	磨石1	不明	394	-	427	117
249号土坑	Eb58	B - IV	0.75×0.62	66cm	土器片13・石鏃1・石錐1	五領ヶ台	378	-	427	117
250号土坑	Eb58	A - II	0.72×0.67	50cm		不明	394	-	-	-
251号土坑	Ea58	B - V	1.22×0.77	23cm	土器片1	不明	394	-	-	-
252号土坑	Ea58	B - II	1.52×1.07	57cm	磨石1	不明	394	-	427	117

表24 東地区土坑⑨

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
253号土坑	Ea57	B - I	0.82×0.69	66cm	土器片41・磨石1・剥片4	五領ヶ台	378	-	427	117
254号土坑	Ea57	B - II	1.04×0.79	60cm	土器片11・石鏃1・剥片2、他	五領ヶ台	378	-	427	118
255号土坑	Ea56	A - I	0.73×0.68	70cm	土器片5・剥片3・残核1	五領ヶ台	378	-	428	118
256号土坑	Ea56	A - IV	0.93×0.88	76cm	土器片76・剥片20	五領ヶ台	378	-	428	118
257号土坑	Ea58	B - II	1.41×1.28	52cm	土器片8・剥片5	五領ヶ台	378	-	428	118
258号土坑	Ea57	B - I	1.55×1.03	54cm		不明	394	-	-	-
259号土坑	Eb58	B - II	0.94×0.65	54cm	土器片24・剥片2	黒浜	378	-	428	118
260号土坑	Eb58	B - II	1.16×1.02	68cm	土器片51・剥片、他/集石土坑	諸磯b	453	45	455	133
261号土坑	Ea57	B - II	1.50×1.35	94cm	土器片130・磨石2・剥片2	諸磯a	379	-	428	118
262号土坑	Eb57	B - II	0.95×0.80	44cm		不明	394	38	-	-
263号土坑	Eb58	B - II	1.25×1.07	55cm	土器片72・磨石2、他	黒浜	379	-	428	118
264号土坑	Eb57	B - I	1.63×1.18	48cm	土器片156・磨石2、他/集石土坑	五領ヶ台	454	46	455	133
265号土坑	Eb57	B - I	0.85×0.78	49cm	磨石1	不明	394	-	429	118
266号土坑	Eb57	B - II	1.17×1.05	51cm	土器片20・剥片2	五領ヶ台	379	-	429	118
267号土坑	Ea57	B - I	1.37×1.02	52cm		不明	394	-	-	-
268号土坑	Eb57	B - II	1.29×1.09	50cm	土器片1・凹石1	五領ヶ台	379	38	429	118
269号土坑	Ea58	B - II	1.30×1.08	58cm		不明	394	-	-	-
270号土坑	Ea57	B - II	1.01×0.88	47cm	土器片4・剥片2	諸磯c	379	-	429	118
271号土坑	Ec58	E - II	1.65×1.02	60cm	土器片16・剥片1	諸磯a	379	-	429	118
272号土坑	Ec57	A - IV	0.96×0.88	60cm	土器片32・石皿1	黒浜	379	38	429	118
273号土坑	Eb58	B - II	2.43×1.90	72cm	土器片26・打製石斧1	五領ヶ台	379	-	430	119
274号土坑	Ea57	B - II	1.28×1.00	55cm		不明	394	-	-	-
275号土坑	Ea57	B - II	1.20×1.02	48cm	土器片41	五領ヶ台	380	38	430	119
276号土坑	Eb57	B - II	1.16×0.55	52cm	土器片6/ピットあり	五領ヶ台	380	-	430	119
277号土坑	Ea57	A - II	- ×1.50	55cm	/331土に切られる	不明	383	-	-	-
278号土坑	Ea56	B - II	0.99×0.69	47cm	土器片8・剥片1	諸磯c	380	-	430	119
279号土坑	Ea56	B - I	0.94×0.80	52cm		不明	394	-	-	-
280号土坑	Ea56	B - II	2.31×1.37	62cm	土器片9・剥片4/高い部分あり	諸磯c	380	-	430	119
281号土坑	Ea56	A - IV	0.80×0.71	62cm	土器片25・磨石2・磨製石斧1、他	五領ヶ台	380	-	430	119
282号土坑	Ea56	B - II	1.39×1.05	30cm	/中位から礫出土・ピットあり	不明	394	-	-	-
283号土坑	Ea57	B - II	2.13×1.48	63cm	土器片30・磨石1、他	諸磯b	380	-	430	119
284号土坑	Ea56	B - II	1.26×1.10	87cm	土器片29・石核1・剥片3	五領ヶ台	380	-	431	119

表25 東地区土坑⑩

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
285号土坑	Ea56	B - II	1.15 × -	64cm	土器片97	五領ヶ台	380	-	431	119
286号土坑	Ea56	E - II	1.10 × 0.68	24cm	深鉢1・土器片48・打製石斧1	五領ヶ台	380	38	431	119
287号土坑	Ea56	B - I	0.62 × 0.51	55cm	土器片2・剥片1	諸磯 a	380	-	431	120
288号土坑	Ea57	A - II	0.74 × 0.68	45cm	土器片59／剥片2	五領ヶ台	380	-	431	120
289号土坑	Eb57	A - I	0.84 × 0.77	74cm	土器片49・多孔石1・磨石1、他	五領ヶ台	379	-	432	120
290号土坑	Eb57	A - I	0.84 × 0.77	37cm	剥片1・残核1／中位から礫出土	不明	394	-	-	-
291号土坑	Ec51	B - II	1.13 × 0.75	90cm	土器片40	黒浜	381	-	432	120
292号土坑	Ec51	A - IV	1.15 × 1.05	88cm	土器片53・剥片1	黒浜	381	-	432	120
293号土坑	Di51	B - II	1.30 × 1.11	16cm	土器片514・打製石斧1・石鏃1、他	黒浜	167	-	433	120
294号土坑	Ea57	不明	不明	59cm	土器底部片	黒浜	381	-	-	-
295号土坑	Ea57	不明	不明	不明	土器片53・敲石1・剥片2	五領ヶ台	381	-	434	121
296号土坑	Ea57	不明	不明	不明		不明	381	-	-	-
297号土坑	Ea57	不明	不明	54cm	土器片39・剥片1	諸磯 b	381	-	434	121
298号土坑	Ea57	不明	不明	52cm	土器片49・石皿2・磨石3・剥片7	五領ヶ台	381	-	434	121
299号土坑	Ea57	不明	不明	44cm	土器片54	黒浜	381	-	435	122
300号土坑	Ea57	不明	不明	52cm		不明	381	-	-	-
301号土坑	Ea57	B - II	1.50 × 0.95	95cm	土器片33・磨石2・石核1、他	五領ヶ台	381	-	435	122
302号土坑	Ea58	B - II	1.60 × 1.13	70cm	深鉢1・土器片28・磨石1、他	黒浜	379	-	435	122
303号土坑	Ea58	B - II	2.60 × 1.25	63cm	土器片64・磨石2・磨製石斧1	諸磯 b	382	-	435	122
304号土坑	Ea58	B - I	1.27 × 0.95	61cm	剥片6・残核1	不明	394	-	-	-
305号土坑	Ea57	B - II	1.28 × 1.08	65cm	土器片11／小ピットあり	黒浜	382	-	436	122
306号土坑	Ea58	B - II	1.95 × 1.50	74cm		不明	394	-	-	-
307号土坑	Eb58	A - II	0.80 × 0.78	55cm	土器片18・磨石1・剥片23	五領ヶ台	382	-	436	122
308号土坑	Ec57	E - I	2.48 × 2.18	63cm	剥片2	不明	395	-	436	122
309号土坑	Ec57	E - I	2.38 × 2.18	50cm	土器片2	諸磯 a	382	-	436	122
310号土坑	Ec57	E - I	2.55 × 0.97	44cm	土器片1・剥片1	諸磯 c	382	-	436	122
311号土坑	Ec56	B - II	1.23 × 0.88	47cm	土器片34・剥片3	五領ヶ台	382	38	436	122
312号土坑	Eb57	B - III	1.02 × 0.65	43cm		不明	394	-	-	-
313号土坑	Eb58	B - II	1.09 × 0.82	59cm		不明	394	-	-	-
314号土坑	Eb58	B - I	0.88 × 0.68	59cm	土器片19・剥片1	五領ヶ台	382	-	436	123
315号土坑	Ea57	B - IV	0.70 × 0.69	57cm		不明	395	-	-	-
316号土坑	Ea57	B - I	0.77 × 0.67	58cm	土器片16・剥片7	五領ヶ台	382	-	437	123

表26 東地区土坑①

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
317号土坑	Ea57	A-I	0.68×0.64	46cm	土器片75・剥片2	五領ヶ台	382	-	436	123
318号土坑	Dj57	B-II	1.06×0.85	22cm	／小ピットあり	不明	395	-	-	-
319号土坑	Ea58	B-I	1.32×0.75	68cm		不明	395	-	-	-
320号土坑	Di57	A-IV	0.92×0.85	76cm	土器片20・剥片1	十三菩提	382	-	437	123
321号土坑	Di57	A-I	0.81×0.75	72cm	土器片19・磨石3・敲石1、他	諸磯a	383	-	437	123
322号土坑	Ec57	E-IV	1.22×0.83	105cm	土器片109・砥石1・残核1、他	諸磯a	383	-	437	123
323号土坑	Eb57	B-II	- ×1.28	58cm	土器片2	諸磯c	383	-	437	123
324号土坑	Di57	E-I	2.98×2.58	24cm	土器片354・クッキー・石鏃2、他	諸磯c	359	43他	360	132
325号土坑	Ea56	B-I	0.68×0.61	70cm	磨石1	不明	395	-	-	-
326号土坑	Ea56	B-II	0.80×0.43	55cm		不明	395	-	-	-
327号土坑	Ea56	B-V	1.03×0.75	34cm	磨石7・剥片1、他	不明	395	-	438	123
328号土坑	Dj55	E-II	- ×1.33	28cm	深鉢1・土器片75・剥片3	加曾利E	183	-	438	123
329号土坑	Dh56	A-I	1.28×1.21	32cm	土器113・剥片2	黒浜	383	38	437	123
330号土坑	Ea57	A-II	1.15×1.05	67cm	土器38・剥片9 / 曾利系の土器	加曾利E	383	-	438	124
331号土坑	Ea57	E-II	3.37×-	56cm	土器片12・磨石1・剥片3	五領ヶ台	383	-	-	-
332号土坑	Ea57	B-I	1.60×1.10	48cm	土器片72	諸磯b	383	-	438	124
333号土坑	Ed57	E-V	1.85×1.15	不明	土器片2・石皿2、他	諸磯c	166	-	438	124
334号土坑	Ea57	E-II	- ×1.53	50cm	土器片34・敲石1・剥片12	五領ヶ台	381	-	439	124
335号土坑	Ed57	不明	不明	不明		不明	166	-	-	-
336号土坑	Di53	A-II	1.22×1.16	34cm	土器片5	諸磯a	383	-	439	124
337号土坑	Di53	B-II	0.89×0.65	42cm	土器片14・剥片1	黒浜	383	-	439	124
338号土坑	Di53	B-II	1.30×1.15	28cm	土器片17・磨石1・剥片1	諸磯a	383	-	439	124
339号土坑	Di52	B-II	1.16×0.95	36cm	土器片22・磨石1、他 / 集石土坑	諸磯b	454	46	455	133
340号土坑	Di52	A-I	1.03×1.00	71cm	深鉢2・土器片85・打製石斧2、他	諸磯a	384	39	439	124
341号土坑	Di52	A-II	1.87×1.82	35cm	土器68・磨石9	黒浜	384	39	439	124
342号土坑	Di53	A-II	1.26×1.21	36cm	土器片11	十三菩提	384	-	440	124
343号土坑	Di52	A-II	0.80×0.77	24cm	土器片3	諸磯a	384	-	-	-
344号土坑	Dj52	A-II	0.78×0.73	35cm	土器片1	不明	395	-	-	-
345号土坑	Dj52	A-II	1.32×1.23	40cm		不明	395	-	-	-
346号土坑	Dh52	B-V	1.53×1.38	17cm		不明	395	-	-	-
347号土坑	Di52	B-II	1.23×1.06	47cm	土器片55・磨石3・剥片2	黒浜	167	38	440	125
348号土坑	Di50	B-I	1.50×1.35	95cm	土器片2・剥片2、他	黒浜	384	39	440	125

表27 東地区土坑⑫

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
349号土坑	Dj51	B - II	1.44×1.10	70cm	土器片96・石匙1・石錐1、他	諸磯c	384	-	440	125
350号土坑	Dj52	B - II	1.97×1.73	52cm	土器片54・石鏃1・凹石1、他	諸磯b	384	-	440	125
351号土坑	Dh52	B - IV	1.60×1.37	66cm	土器364・石鏃1・磨石7・剥片1、他	黒浜	384	39	441	125
352号土坑	Dg52	A - I	1.32×1.21	62cm	土器片18・石核1・剥片2、他	諸磯a	384	40	441	125
353号土坑	Ea52	A - II	0.85×0.78	65cm	土器片99・磨石1	諸磯a	385	40	442	126
354号土坑	Ea52	C - II	2.70×2.67	30cm	土器片57・凹石2・剥片6／ピット	諸磯c	385	40	442	126
355号土坑	Dg51	B - II	1.17×1.03	46cm	土器片33・磨石2・楔形石器1、他	黒浜	174	-	442	126
356号土坑	Di52	A - II	1.05×0.96	52cm	土器片178・凹石1・剥片1、他	諸磯a	385	40	442	126
357号土坑	Dj51	B - IV	1.45×1.30	110cm	土器片261・石皿1・凹石1・剥片1	黒浜	169	-	443	126
358号土坑	Dg54	A - II	0.98×0.93	66cm	土器片41	黒浜	197	-	443	127
359号土坑	Dg51	B - II	1.26×1.05	29cm	土器片60・磨石1	黒浜	385	-	443	127
360号土坑	Dh51	A - II	1.18×1.15	88cm	土器片103・凹石1・砥石1・剥片5	諸磯a	385	40	444	127
361号土坑	Dh51	A - II	1.20×1.07	42cm	土器片8	黒浜	385	40	444	127
362号土坑	Ea51	B - II	1.44×1.30	64cm	土器片28・スクレイパー2、他	諸磯a	385	-	444	127
363号土坑	Ea49	A - II	1.05×0.99	32cm	土器片29・剥片1	黒浜	385	-	444	127
364号土坑	Ea49	A - II	1.42×1.35	40cm	土器片17・打製石斧1	黒浜	385	-	444	127
365号土坑	Ea48	B - II	1.16×1.04	12cm	土器片5	諸磯a	386	-	-	-
366号土坑	Dj48	B - II	1.05×0.94	25cm		不明	395	-	-	-
367号土坑	Ea51	A - II	1.57×1.53	112cm	土器片213・凹石1・剥片2、他	諸磯a	386	-	444	127
368号土坑	Eb51	B - V	1.12×0.88	36cm	／小ピットあり	不明	395	-	-	-
369号土坑	Dj50	B - I	1.85×1.35	108cm	土器片156・磨石1・剥片1、他	諸磯a	386	-	445	127
370号土坑	Dj49	A - II	0.78×0.73	34cm		不明	180	-	-	-
371号土坑	Dj49	A - II	1.32×1.30	51cm	土器片16・打製石斧1、他	加曾利E	386	-	445	128
372号土坑	Dg50	B - II	0.98×0.86	65cm	土器片4・磨石1・剥片1	黒浜	386	-	445	128
373号土坑	Dg50	A - II	0.88×0.82	70cm	土器片1・剥片1	諸磯a	386	-	445	128
374号土坑	Dj51	A - I	1.25×1.17	65cm	土器片15・剥片1	諸磯c	386	-	445	128
375号土坑	Dj52	B - II	1.68×1.17	48cm	土器片21・剥片8	諸磯c	386	-	445	128
376号土坑	Dj52	D - II	1.55×1.23	37cm	土器片13・剥片3	諸磯b	175	-	445	128
377号土坑	Eb52	A - II	0.93×0.91	24cm		不明	395	-	-	-
378号土坑	Ea52	B - II	1.56×1.34	27cm	土器片19・剥片1	諸磯b	175	-	445	128
379号土坑	Ea54	A - II	0.84×0.81	52cm	土器片7	諸磯b	386	-	446	128
380号土坑	Ea53	B - III	0.97×0.81	12cm	土器片1／ピットは1号掘立	諸磯b	387	-	446	128

表28 東地区土坑⑬

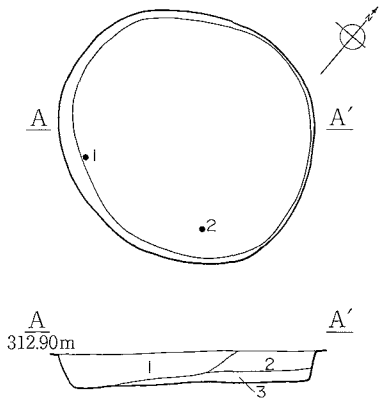
遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
381号土坑	Eb53	B - III	1.10×0.78	44cm	土器片7・剥片2／ピットあり	五領ヶ台	387	-	446	128
382号土坑	Eb53	A - I	0.70×0.65	71cm	土器片7・剥片1	諸磯a	387	-	446	128
383号土坑	Eb53	E - II	1.09×1.01	75cm	土器片5・剥片2	五領ヶ台	387	-	446	128
384号土坑	Eb52	B - II	0.94×0.49	35cm	土器片122・磨石1・スクレイパー	諸磯a	387	-	446	128
385号土坑	Eb52	A - III	0.74×0.69	30cm	土器片1・剥片1	不明	395	-	-	-
386号土坑	Eb52	A - II	0.56×0.54	70cm		不明	395	-	-	-
387号土坑	Ea53	A - II	0.74×0.71	66cm		不明	395	-	-	-
388号土坑	Ea53	B - II	1.54×1.25	20cm	磨石1	不明	387	-	446	128
389号土坑	Ea52	B - II	1.20×0.82	16cm	土器片6／ピットあり	諸磯b	387	-	446	128
390号土坑	Ea54	E - II	0.88×0.61	93cm	土器片1・剥片1／1号掘立	諸磯b	387	-	446	128
391号土坑	Ea54	A - II	0.97×0.93	49cm	土器片3／小ピットあり	諸磯a	387	-	447	128
392号土坑	Ea54	B - IV	0.74×0.68	67cm	深鉢1・土器片116、剥片石器、他	中期中葉	387	41	447	129
393号土坑	Ea55	E - II	1.58×0.88	84cm	土器片18・磨石1	諸磯a	388	-	447	129
394号土坑	Ea55	B - II	0.85×0.72	46cm	土器片7・磨石1・剥片1	不明	395	-	-	-
395号土坑	Ea54	E - V	3.25×2.53	44cm	土器片40、他／北白川下層式系	諸磯a	388	-	447	129
396号土坑	Ea54	B - II	1.04×0.80	79cm	土器片1／430土と重複	不明	395	-	-	-
397号土坑	Ea54	A - V	0.45×0.42	48cm		不明	395	-	-	-
398号土坑	Ea54	E - II	1.85×1.24	23cm	土器片11・石皿1・磨石1	諸磯a	388	-	447	129
399号土坑	Dj53	B - III	0.92×0.86	28cm		不明	395	-	-	-
400号土坑	Di53	A - II	1.03×0.98	24cm	土器片24・磨石1／ピットあり	黒浜	388	-	447	129
401号土坑	Ea55	A - IV	0.92×0.84	104cm	土器片4	五領ヶ台	388	-	448	129
402号土坑	Ea55	B - IV	0.81×0.72	94cm	土器片3	五領ヶ台	388	-	448	129
403号土坑	Ea55	B - II	0.88×0.70	60cm	スクレイパー1、他／段差あり	不明	395	-	448	129
404号土坑	Ea55	B - II	0.75×0.73	30cm		不明	396	-	-	-
405号土坑	Dj54	B - II	1.30×1.13	34cm	土器片19・磨石1・剥片1	黒浜	164	-	448	129
406号土坑	Dj54	A - II	0.95×0.85	62cm	土器片1	五領ヶ台	164	-	448	129
407号土坑	Eb53	B - V	1.83×1.35	60cm	土器片18・多孔石1、他	諸磯a	389	41	448	129
408号土坑	Ea55	B - IV	0.79×0.65	76cm	土器片2・磨製石斧1	不明	396	-	448	130
409号土坑	Ea55	B - IV	1.38×1.23	106cm	土器片9・凹石1・打製石斧1	五領ヶ台	389	-	448	130
410号土坑	Ea55	E - II	2.15×1.25	70cm	土器片11・石鎌1・磨石1	五領ヶ台	389	-	448	130
411号土坑	Ea56	B - II	0.69×0.62	53cm		不明	388	-	-	-
412号土坑	Ea56	B - II	0.75×0.58	33cm	土器片4・磨石2・剥片3	五領ヶ台	389	-	449	130

表29 東地区土坑⑭

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
413号土坑	Ea56	B - II	0.94×0.84	42cm		不明	389	-	-	-
414号土坑	Ea56	B - I	0.72×0.65	29cm	剥片 2	不明	396	-	-	-
415号土坑	Ea56	A - II	0.67×0.64	23cm	石匙 1・剥片 1	不明	396	-	449	130
416号土坑	Ea55	B - II	0.85×0.70	38cm	／段差あり	不明	396	-	-	-
417号土坑	Dj56	E - II	2.27×2.02	32cm	土器片 7・剥片 3	五領ヶ台	389	-	449	130
418号土坑	Dj56	不明	不明	21cm		不明	389	-	-	-
419号土坑	Ea56	D - II	1.26×0.91	34cm		不明	396	-	-	-
420号土坑	Dj55	B - II	- ×0.74	30cm		不明	396	-	-	-
421号土坑	Dj55	A - II	1.21×1.13	32cm	／段差あり	不明	396	-	-	-
422号土坑	Dj56	E - V	1.55×1.31	25cm		不明	396	-	-	-
423号土坑	Dj56	B - IV	1.13×0.94	96cm	剥片 7	不明	396	-	-	-
424号土坑	Ea56	B - II	0.55×0.50	20cm	土器片 2・剥片 2	不明	396	-	-	-
425号土坑	Dj55	A - IV	0.86×0.83	87cm	土器片 10・磨石 1・剥片 9	五領ヶ台	389	-	449	130
426号土坑	Dj56	B - I	1.00×1.82	94cm	土器片 10・剥片 1	諸磯 a	389	-	449	130
427号土坑	Dj56	B - II	1.25×1.03	14cm	／小ピット 4基あり	不明	396	-	-	-
428号土坑	Dj56	B - I	0.89×0.80	95cm	土器片 18／段差あり	諸磯 b	389	-	449	130
429号土坑	Di56	E - V	1.07×1.01	28cm	土器片 5・石匙 1	諸磯 c	390	-	449	130
430号土坑	Ea54	B - II	- ×0.55	21cm		不明	395	-	-	-
431号土坑	Dj54	A - IV	0.98×0.94	不明	土器片 8	黒浜	164	-	449	130
432号土坑	Ec52	不明	- ×0.53	58cm	／攪乱を受ける	不明	396	-	-	-
433号土坑	Ea55	B - II	0.73×0.51	87cm	土器片 12・石匙 1・スクレイパー	五領ヶ台	390	41	449	130
434号土坑	Di56	B - II	1.30×0.82	44cm	土器片 23・剥片 3／小ピット	黒浜	390	-	449	130
435号土坑	Di55	A - II	1.18×1.13	25cm	土器片 6・磨石 1	黒浜	390	-	-	-
436号土坑	Di54	B - II	1.65×1.61	39cm	土器片 27	黒浜	390	-	449	130
437号土坑	Di55	A - II	1.10×1.04	31cm		不明	396	-	-	-
438号土坑	Di55	B - IV	1.42×1.29	60cm	土器片 92・磨石 1・剥片 8	諸磯 a	185	41	450	130
439号土坑	Di56	E - II	1.08×0.72	38cm		不明	185	-	-	-
440号土坑	Dh56	B - I	1.23×0.98	83cm	剥片石器 1・礫	不明	189	42	450	130
441号土坑	Dj55	A - IV	1.22×1.19	108cm	土器片 36・打製石斧 1、他	五領ヶ台	390	-	450	130
442号土坑	Dg55	B - IV	1.38×1.24	84cm	土器片 20／82住と重複	諸磯 a	191	-	450	130
443号土坑	Dg55	B - II	1.33×0.94	23cm	磨石 1	不明	396	-	450	130
444号土坑	Dj54	B - II	0.93×0.84	16cm	／ピットあり	不明	396	-	-	-

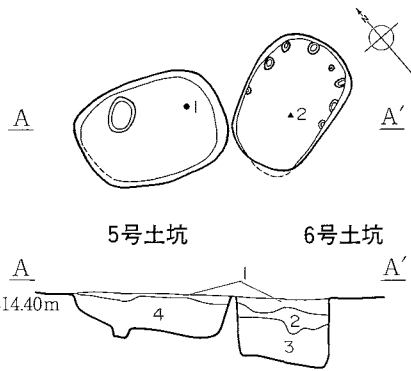
表30 東地区土坑⑮

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
445号土坑	Di54	A - II	1.34×1.25	32cm	土器片178・剥片3	黒浜	390	42	450	131
446号土坑	Dj54	B - II	0.87× -	25cm	／450土と重複	不明	396	-	-	-
447号土坑	Dj54	B - II	1.52×1.35	34cm	土器片44・凹石1・剥片4	黒浜	390	42	451	131
448号土坑	Di54	A - II	1.37×1.28	27cm	土器片9	黒浜	390	-	451	131
449号土坑	Dj56	B - II	0.98×0.85	15cm	土器片81・石鏃1・剥片6	五領ヶ台	391	-	451	131
450号土坑	Dj54	A - I	0.85×0.81	24cm	／446土と重複	不明	396	-	-	-
451号土坑	Ea54	A - I	0.77×0.75	37cm		不明	396	-	-	-
452号土坑	Di55	B - IV	1.33×1.15	37cm	土器片132・石鏃1・磨石1	黒浜	185	-	451	131
453号土坑	Di55	A - I	1.02×0.98	47cm	土器片37・磨石1	黒浜	391	42	451	131
454号土坑	Di53	B - II	1.62×1.44	40cm	土器片8	黒浜	391	-	451	131
455号土坑	Dh55	A - II	1.55×1.50	43cm	土器片23・スクレイパー1、他	諸磯a	391	-	451	131
456号土坑	Dh56	B - V	1.37×1.07	36cm		不明	189	-	-	-
457号土坑	Di57	B - II	0.93×0.68	33cm		不明	189	-	-	-
458号土坑	Dh54	A - II	1.40×1.37	94cm	土器片84・磨石3・凹石1・剥片4	黒浜	391	42	452	131
459号土坑	Dh55	不明	不明	不明	土器片79・磨石4・剥片1、他	諸磯b	134	-	452	131
460号土坑	Ea54	B - II	0.75×0.64	36cm		不明	396	-	-	-
461号土坑	Ea54	E - V	1.04×0.53	73cm	／1号掘立の柱穴	不明	396	-	-	-
462号土坑	Di54	E - II	0.71×0.69	74cm		不明	194	-	-	-
463号土坑	Di57	B - IV	1.16×0.80	84cm	土器片2・剥片2	黒浜	196	-	452	131
464号土坑	Dg54	B - II	0.81×0.61	10cm		不明	197	-	-	-
465号土坑	Di54	不明	不明	不明		不明	194	-	-	-
466号土坑	Ea55	B - II	不明	32cm	土器片28・剥片8	加曾利E	391	-	452	131
467号土坑	Ea55	B - II	0.60×0.37	70cm		不明	391	-	-	-
468号土坑	Dh54	A - II	1.14×1.10	45cm	土器片44・石皿1	黒浜	391	-	452	131
469号土坑	Ea55	A - II	0.62×0.58	30cm		不明	396	-	-	-
470号土坑	Ea55	B - II	0.76×0.60	44cm	土器片30・剥片1	五領ヶ台	391	-	452	131
471号土坑	Ea54	A - II	0.85×0.79	52cm		不明	396	42	-	-
472号土坑	Dh56	B - II	0.55×0.48	41cm		不明	396	-	-	-
473号土坑	Eb54	B - II	0.55×0.46	34cm	土器片2	五領ヶ台	391	-	452	131
474号土坑	Ea54	A - I	0.45×0.43	51cm	土器片10／1号掘立の柱穴	不明	454	42	452	131
535号土坑	Ec55	B - II	0.90×0.70	39cm		不明	134	-	-	-
536号土坑	Ec55	E - II	0.97×0.88	22cm		不明	134	-	-	-



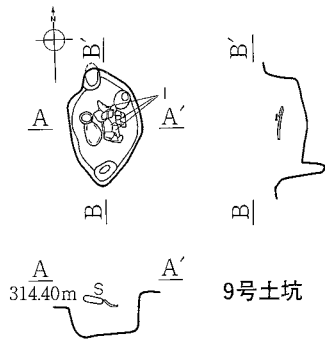
1号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒少量含む。しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロックを40~50%、炭化粒少量含む。しまり強い。
- 3: 褐色土 炭化粒少量含む。しまり・粘性やや強い。

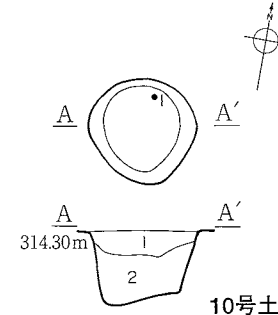


5号土坑 6号土坑

- 1: 黒褐色土 粘性やや弱く、しまりあまりない。
- 2: 暗褐色土 ロームブロック少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 色調明るく褐色気味。ローム粒をやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。

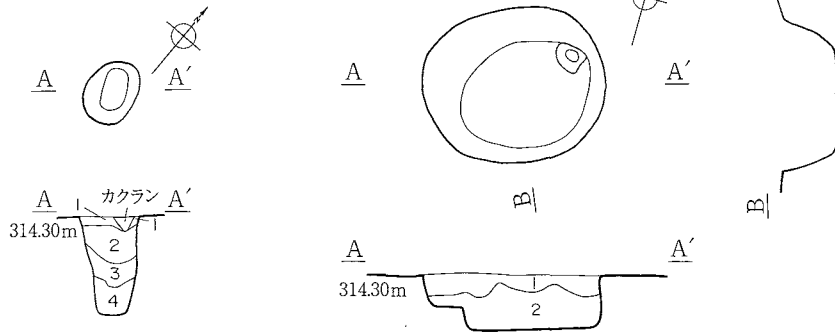


9号土坑



10号土坑

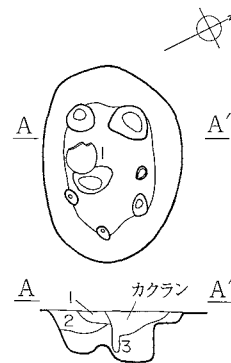
- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。しまり強い。



11号土坑

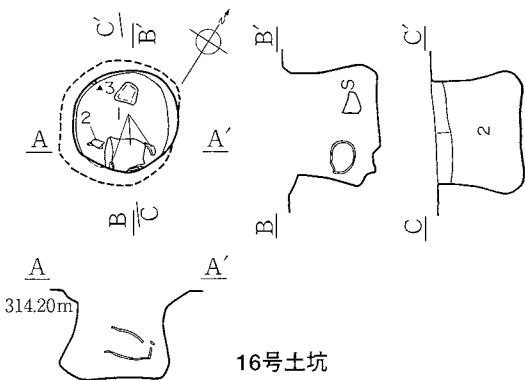
13号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。しまりある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。しまりやや強い。
- 4: 褐色土 掘り過ぎ部分
- 1: 黒褐色土 粘性ややあり、しまりやや弱い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。粘性やや強く、しまり強い。



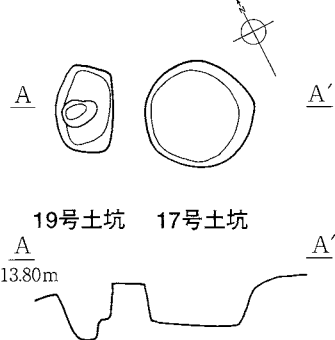
14号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 3: 暗褐色土 ロームブロック・YP少量含む。しまり強い。

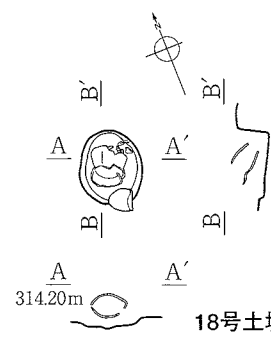


16号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 YP少量、炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。



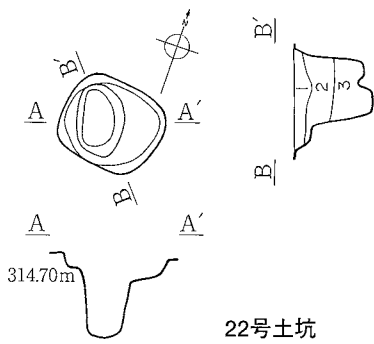
19号土坑 17号土坑



18号土坑

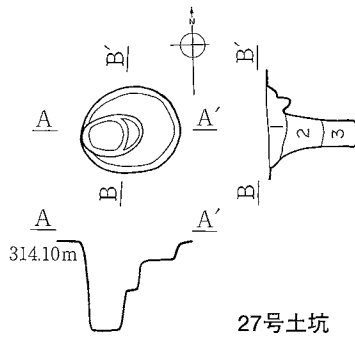


第366図 東地区土坑①



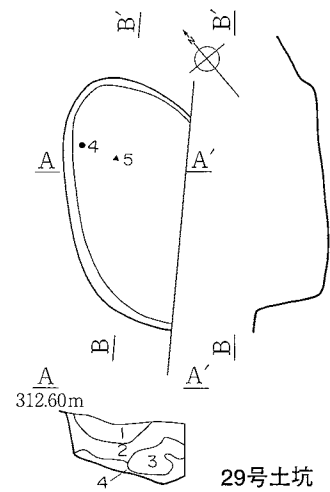
22号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりややある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりややある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒少量含む。しまり・粘性ややある。



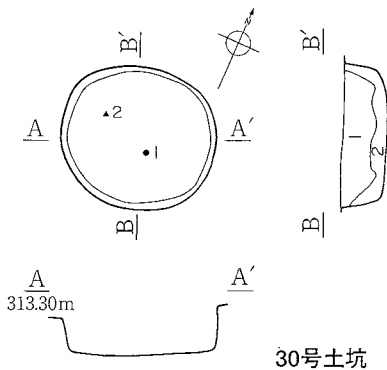
27号土坑

- 1: 黒褐色土 色調やや明るい。ロームブロック微量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。粘性やや強く、しまり強い。
- 3: 褐色土 ローム粒多量含む。粘性強く、しまり弱い。



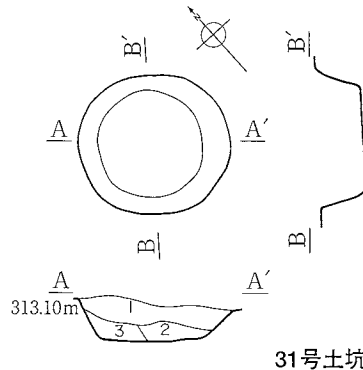
29号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ロームブロックを含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
- 4: 褐色土 粘性あり、しまり弱い。



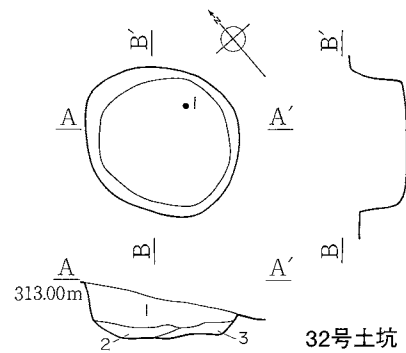
30号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 粘性ややあり、しまり弱い。



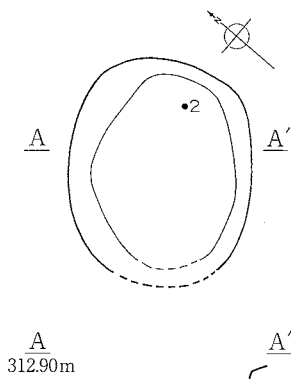
31号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック含む。粘性・しまりややある。
- 2: 暗褐色土 ロームブロック含む。粘性強く、しまりあまりない。
- 3: 暗褐色土 YPをやや多く含む。粘性弱く、しまりよい。

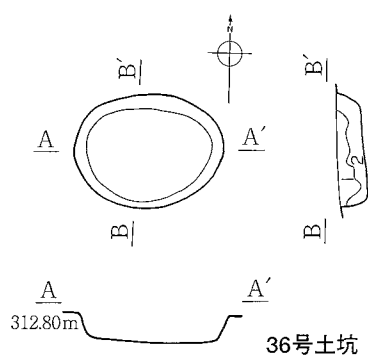


32号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック含む。粘性弱く、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 褐色粘質土少量含む。粘性・しまりややある。
- 3: 褐色土 (地山) 掘り過ぎ

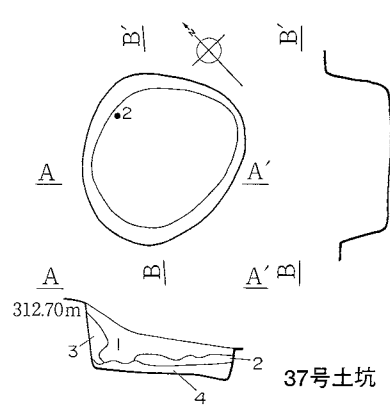


35号土坑



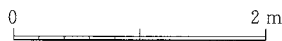
36号土坑

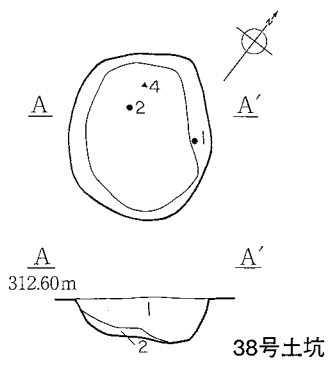
- 1: 赤褐色土 YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 褐色粘質土少量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



37号土坑

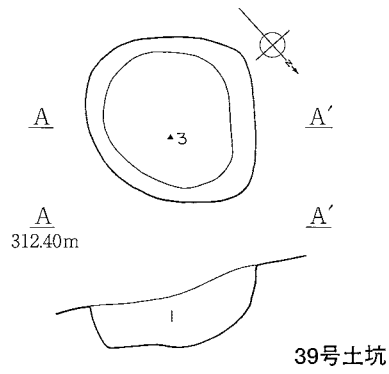
- 1: 黒褐色土 YP粒少量含む。粘性・しまりややある
- 2: 暗褐色土 褐色粘質土少量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 3: 暗褐色土 褐色粘質土微量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 4: 褐色土 褐色粘質土多量含む。粘性あり、しまりやや弱い。





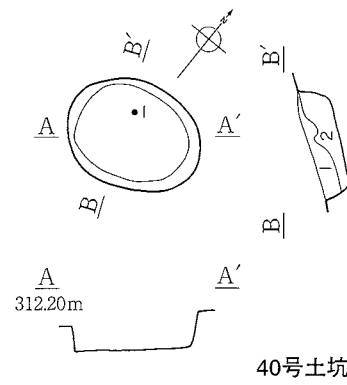
38号土坑

- 1: 黒褐色土 YP微量含む。しまりやや強い。
2: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性ややある。



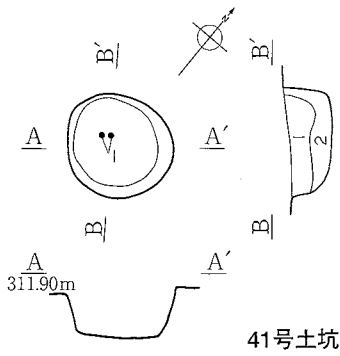
39号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック・YP少量含む。しまり・粘性ややある。



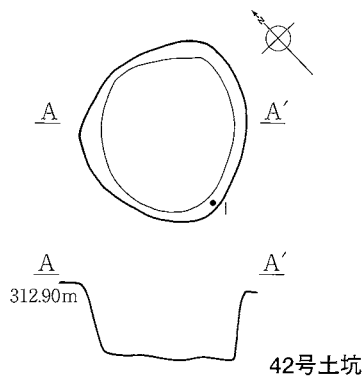
40号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性ややありしまりやや弱い。
2: 暗褐色土 YP・褐色粘土含む。しまり・粘性ややある。

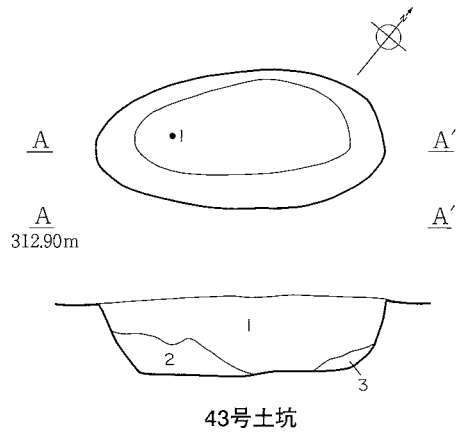


41号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性ややありしまり弱い。
2: 暗褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性強く、しまり弱い。

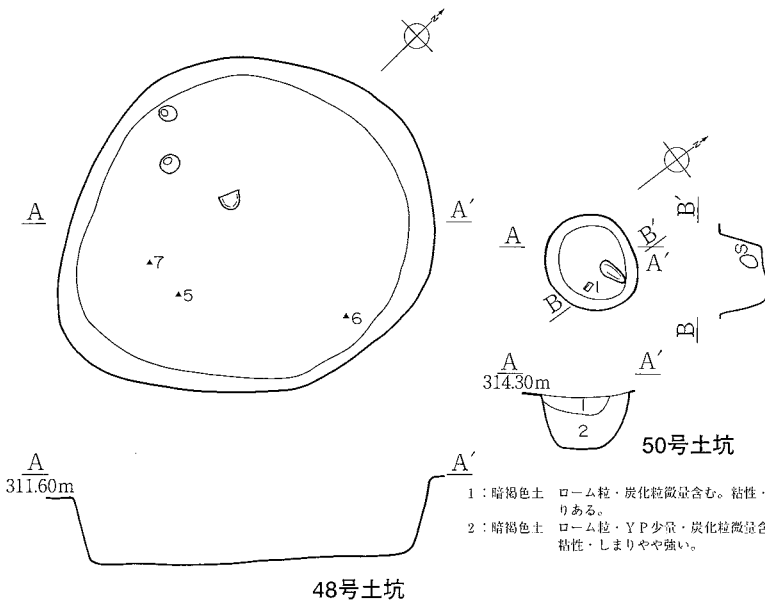


42号土坑



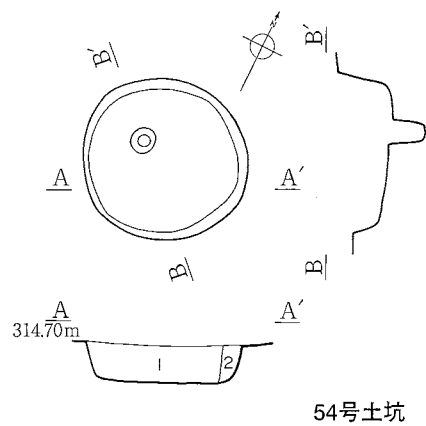
43号土坑

- 1: 黒褐色土 YP少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。色調黒味強い。
2: 黒褐色土 YP少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。土層より明るい。
3: 黒褐色土 YPやや多く、炭化粒微量含む。粘性・しまりややある。



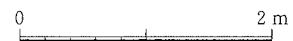
48号土坑

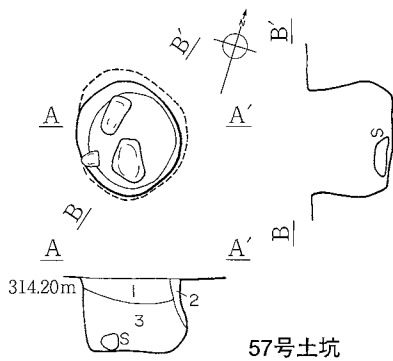
- 1: 暗褐色土 ローム粒・炭化粒微量含む。粘性・しまりある。
2: 暗褐色土 ローム粒・YP少量・炭化粒微量含む。粘性・しまりやや強い。



54号土坑

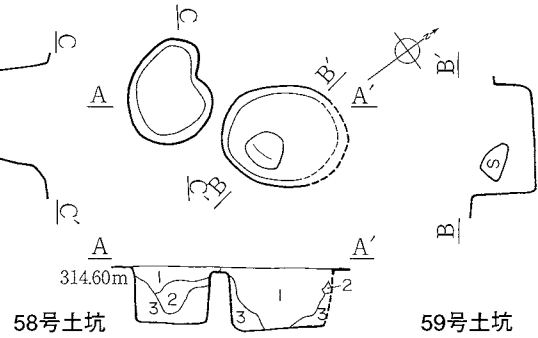
- 1: 黒褐色土 YP・ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
2: 暗褐色土 ロームブロック含む。





57号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く含む。しまり粘性やや強い。
- 3: 暗褐色土 ロームブロック・YPをやや多く含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。

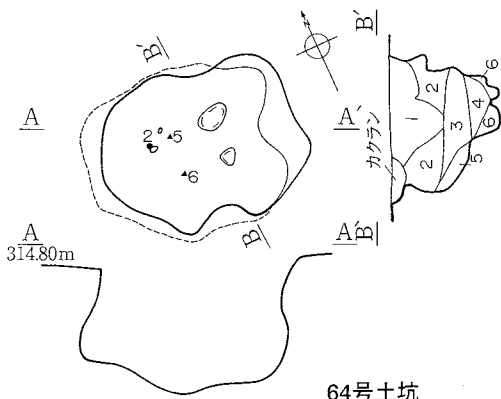


58号土坑

59号土坑

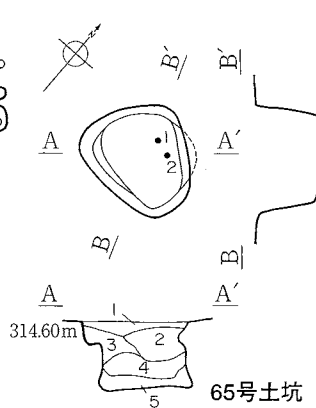
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒を微量含む。粘性わずかにあり、しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 YP・ブロック少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YPブロック少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。

- 1: 黒褐色土 YP・ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YPブロック多量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



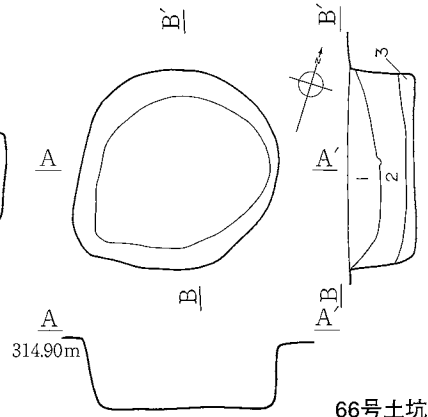
64号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量・炭化粒微量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土多量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 4: 暗褐色土 褐色粘土・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 暗褐色土 YP多量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 6: 暗褐色土 YP少量含む。粘性・しまりやや強い。



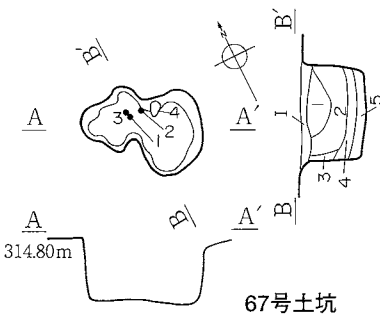
65号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 4: 暗褐色土 YP少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 5: 暗褐色土 色調明るい。褐色粘土多量に含む。粘性やや強く、しまりあまりない。



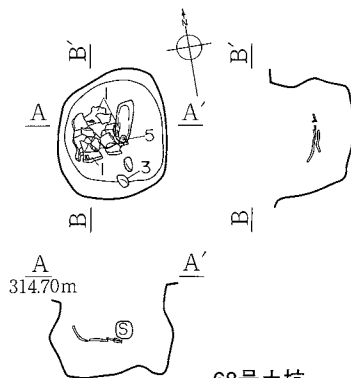
66号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く含む。粘性・しまりややある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YP多量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 褐色土 ローム粒・YP多量含む。粘性強く、しまり弱い。

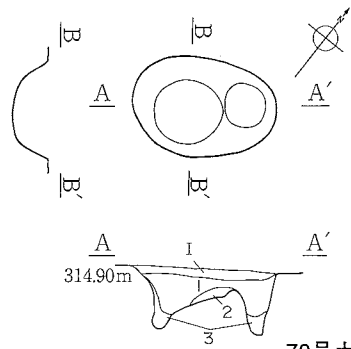


67号土坑

- I: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや弱い。
- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。しまりやや弱い。粘性ややある。
- 2: 黒褐色土 色調1層よりやや明るい。ローム粒・ブロックをやや多く含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性やや強く、しまり弱い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、YP少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒多量、YPをやや多く含む。色調は褐色に近い。粘性強く、しまりやや弱い。

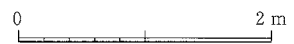


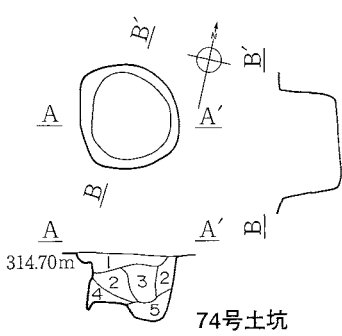
68号土坑



70号土坑

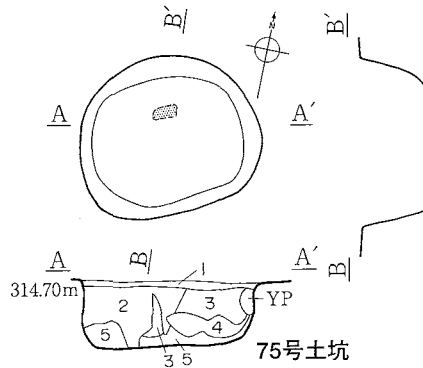
- I: 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロックをやや多く含む。しまり・粘性やや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・YP多量含む。粘性少しあり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量・YP少量含む。粘性強く、しまりやや弱い。





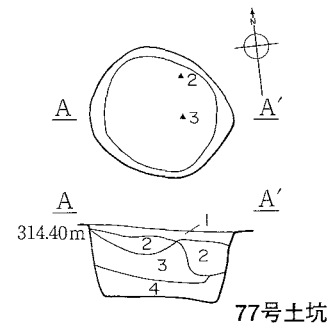
74号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YPを2層よりやや多く含む。粘性やや強く、しまり強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒多量、YP少量含む。しまり・粘性強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性強く、しまりやや強い。



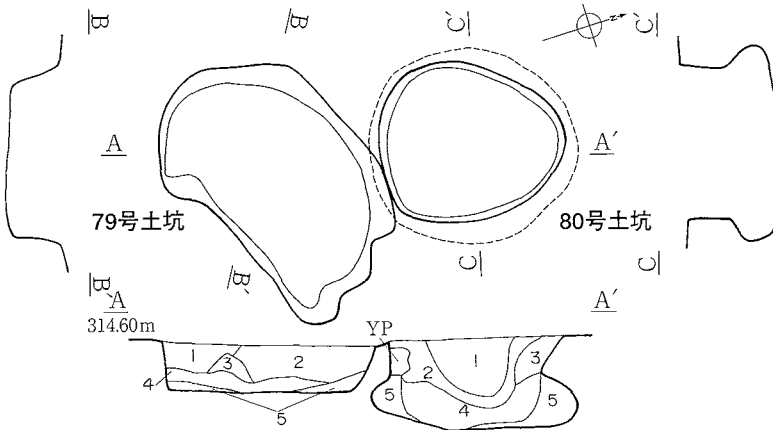
75号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックをやや多く、YP少量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、ロームブロック・YP少量含む。しまり・粘性やや強い。色調は3層に同じ。ローム粒多量、大きめのロームブロック・YPをやや多く含む。しまり・粘性やや強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性強く、しまりややある。
- 5: 褐色土



77号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック・YPをやや多く、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 4: 褐色土 YP多量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

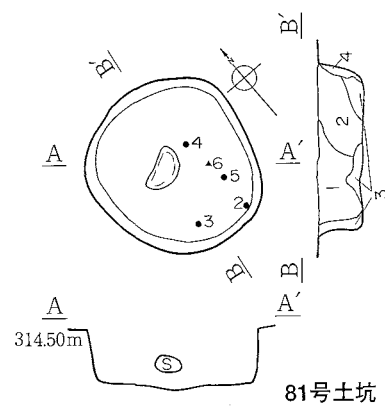


79号土坑

80号土坑

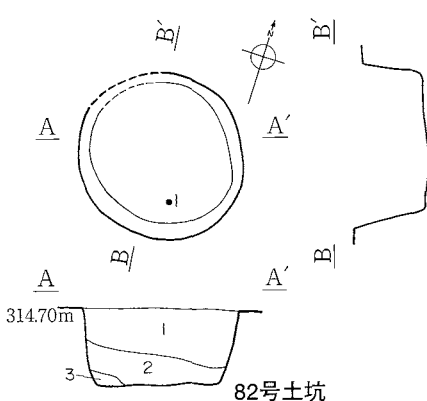
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。しまり・粘性やや強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒多量、YP少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性強く、しまりやや弱い。

- 1: 黒褐色土 ロームブロック少量、YP微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロックをやや多く、YP少量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YPを2層より多量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量、YP微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒多量を含む。粘性強く、しまりやや弱い。



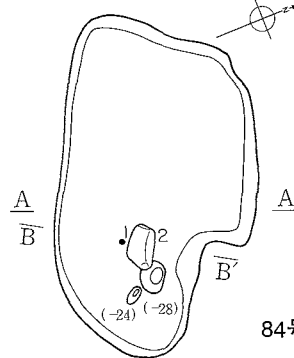
81号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く、炭化粒微量含む。粘性ないが、しまりややある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。
- 4: 黒褐色土 YP多量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。



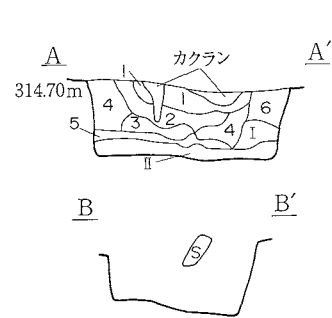
82号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性あるが、しまりやや弱い。



84号土坑

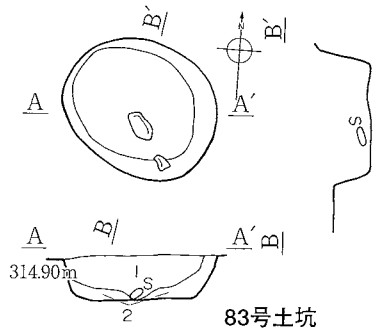
- 1: 黒褐色土 YP微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒少量、YP微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



84号土坑

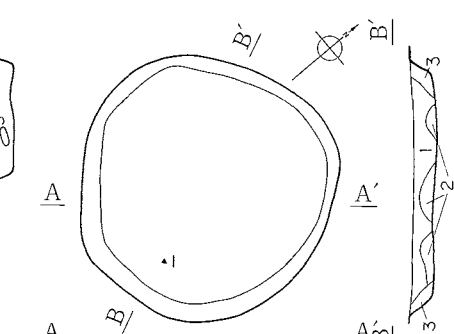
- 4: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 5: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性・しまりある。
- 6: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- I: YP層
- II: 褐色粘土

0 2 m



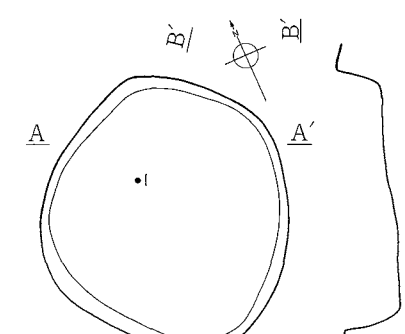
83号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。



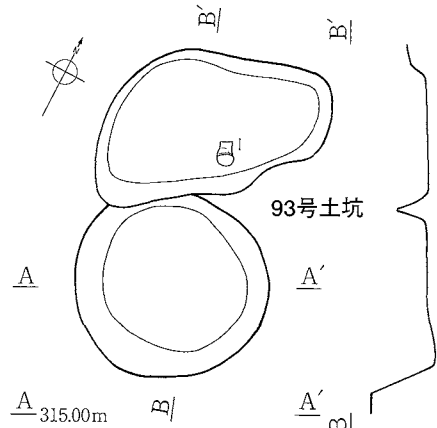
89号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、炭化粒微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 YP多量含む。粘性・しまりやや強い。



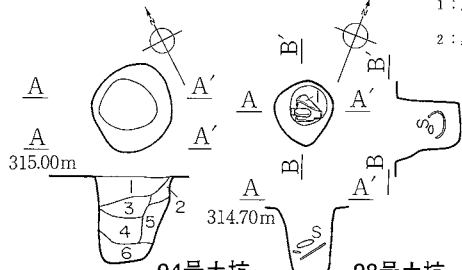
90号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。しまり・粘性ややある。



93号土坑

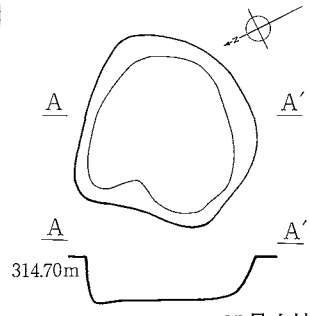
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりある。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 3: 暗褐色土 YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 4: 黄褐色土 YP多量含む。粘性あまりなく、しまりある。



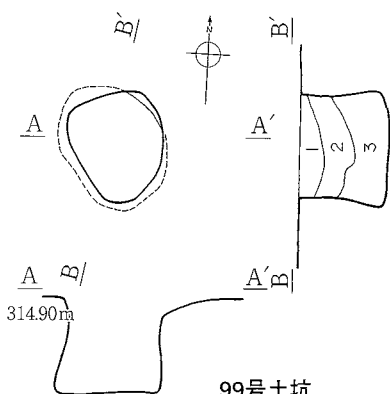
94号土坑

98号土坑

- 1: 黒色土 ローム粒微量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。しまり・粘性ややある。
- 4: 暗褐色土 ローム粒・YPをやや多く含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 5: 黒褐色土 色割3層より暗い。ローム粒・YP少量含む。しまり・粘性ややある。
- 6: 暗褐色土 ローム粒・YP多量含む。粘性強く、しまりやや弱い。

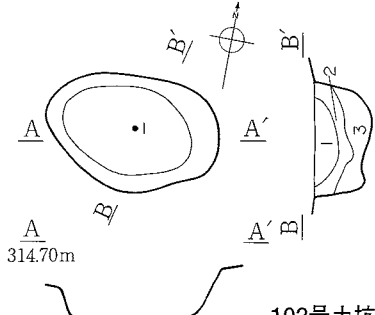


97号土坑



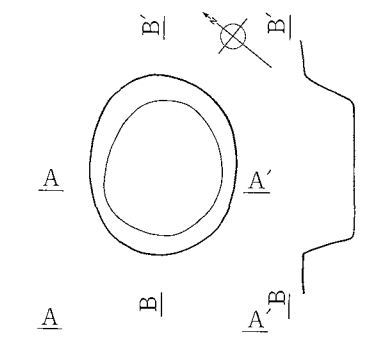
99号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



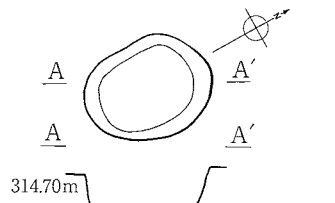
102号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 3: 褐色土 YP・ローム粒多量含む。粘性あり、しまりあまりない。

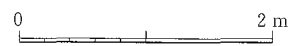


104号土坑

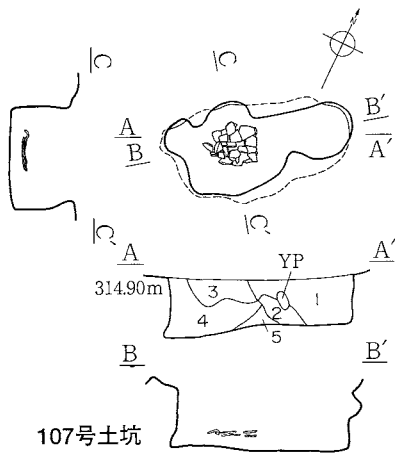
- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりある。
- 3: 黒褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 4: 暗褐色土 YP多量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 5: 黒褐色土 YP多量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 6: 暗褐色土 ローム粒多量、YP微量含む。粘性あり、しまりあまりない。



103号土坑

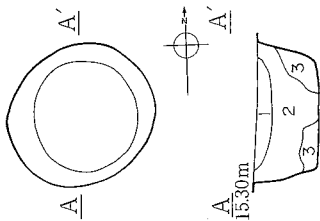


第371図 東地区土坑⑥



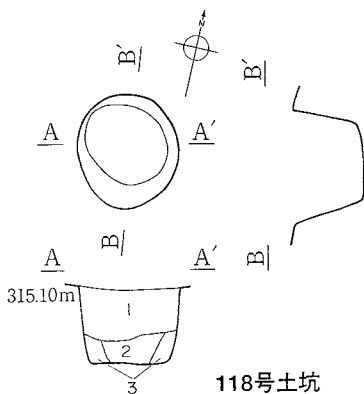
107号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性ややありしまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・YPを1層よりやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック微量含む。粘性しまりややある。
- 4: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。粘性ややありしまりやや強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。しまり・粘性強い。



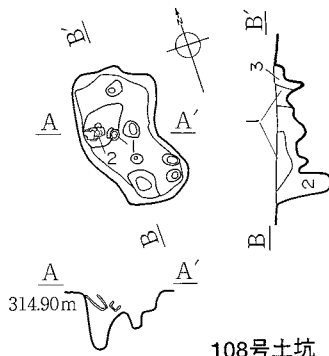
113号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YPやや多く、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。



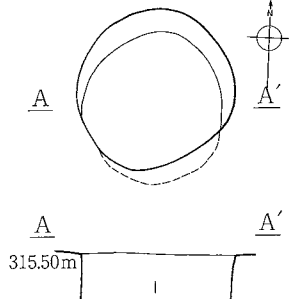
118号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YPをやや多く、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 YPを多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黄褐色土 YPを多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。



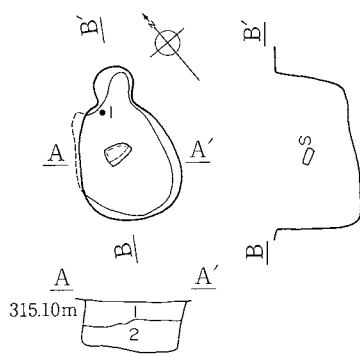
108号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性しまりやや弱い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。粘性しまりやや強い。



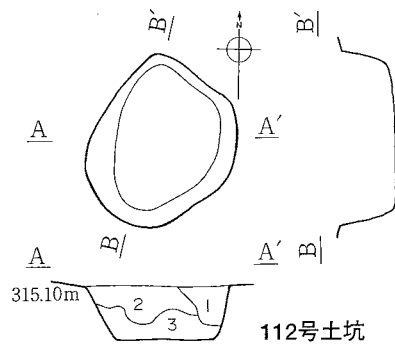
114号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 褐色土 ローム粒多量含む。粘性あり、しまりあまりない。



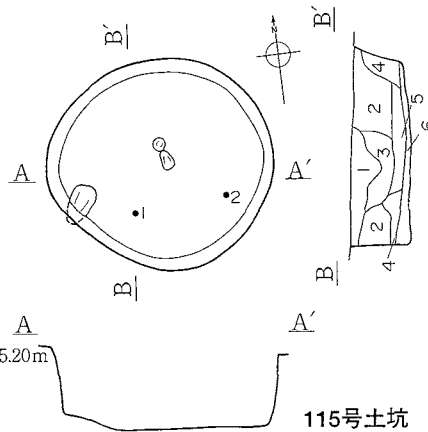
120号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりある。
- 2: 黒褐色土 YP微量含む。粘性あまりなく、しまりある。



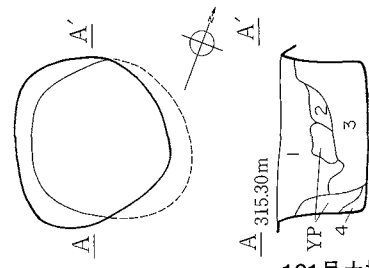
112号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性しまりある。



115号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性ややありしまりやや弱い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YPをやや多く含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性ややありしまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒多量・YP少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、YP少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 6: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性強く、しまりやや強い。

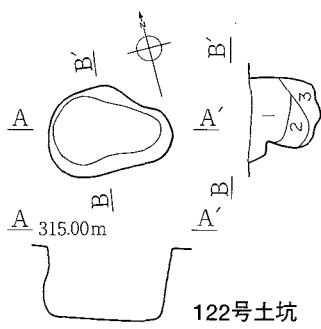


121号土坑

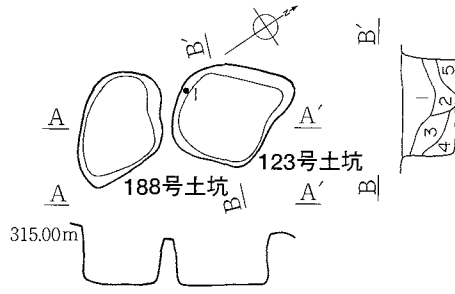
- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性しまり弱い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性しまりある。
- 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 4: 褐色土 粘質土。粘性あり、しまりあまりない。



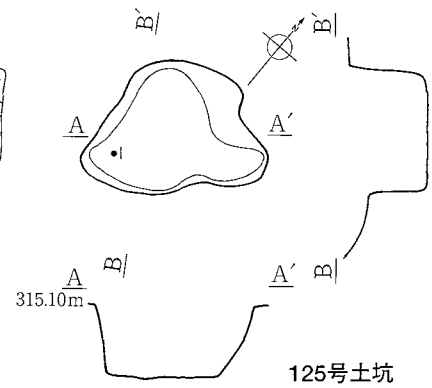
第372図 東地区土坑⑦



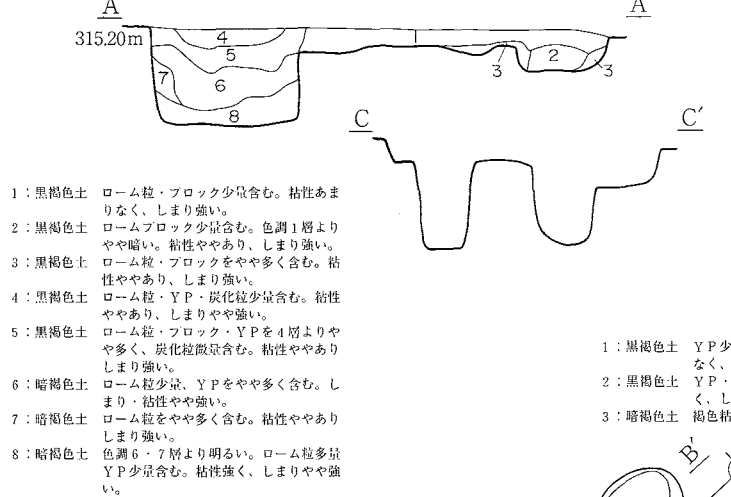
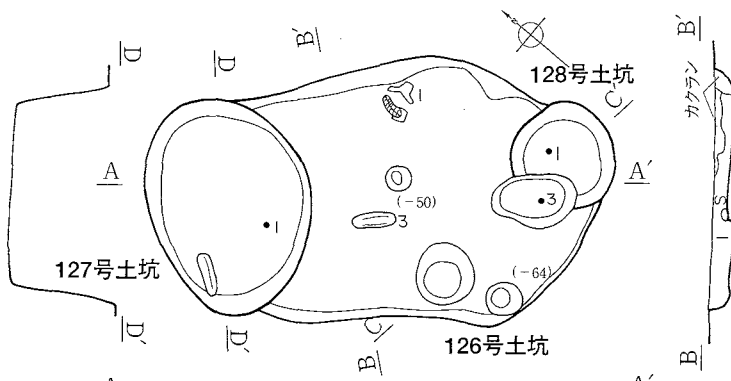
- 1: 黒褐色土 Y P 粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y P 粒微量含む。粘性・しまりある。
- 3: 黒褐色土 色調やや明るい。Y P 粒微量含む。粘性・しまりやや強い。



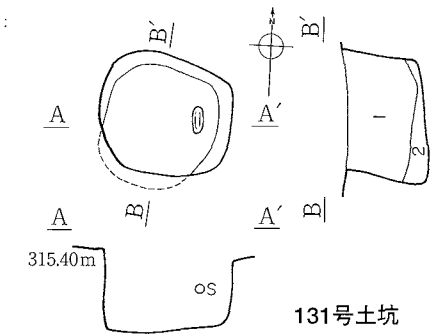
- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 Y P 微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・Y P を微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 Y P 少量含む。粘性・しまりやや弱い。
- 5: 暗褐色土 粘質土気味。粘性あり、しまりやや弱い。



125号土坑

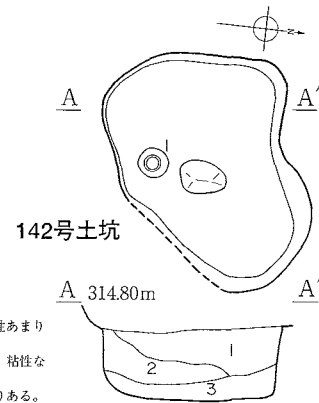


- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。色調1層よりやや暗い。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロックをやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・Y P・炭化粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・Y P を4層よりやや多く、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 6: 暗褐色土 ローム粒少量、Y P をやや多く含む。しまり・粘性やや強い。
- 7: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 8: 暗褐色土 色調6・7層より明るい。ローム粒多量 Y P 少量含む。粘性強く、しまりやや強い。



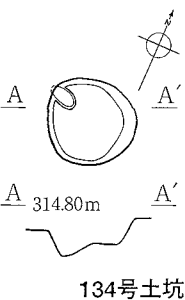
131号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性やや強く、しまりある。

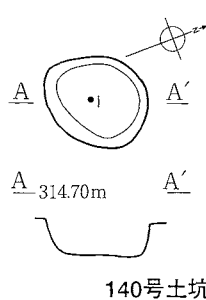


142号土坑

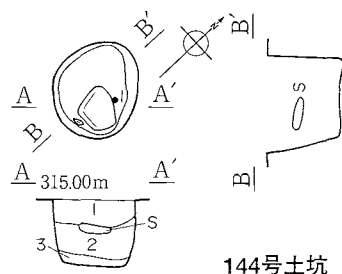
- 1: 黒褐色土 Y P 少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y P・ロームブロック少量含む。粘性なく、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性・しまりある。



134号土坑

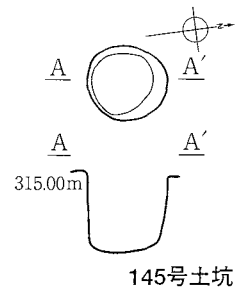


140号土坑



144号土坑

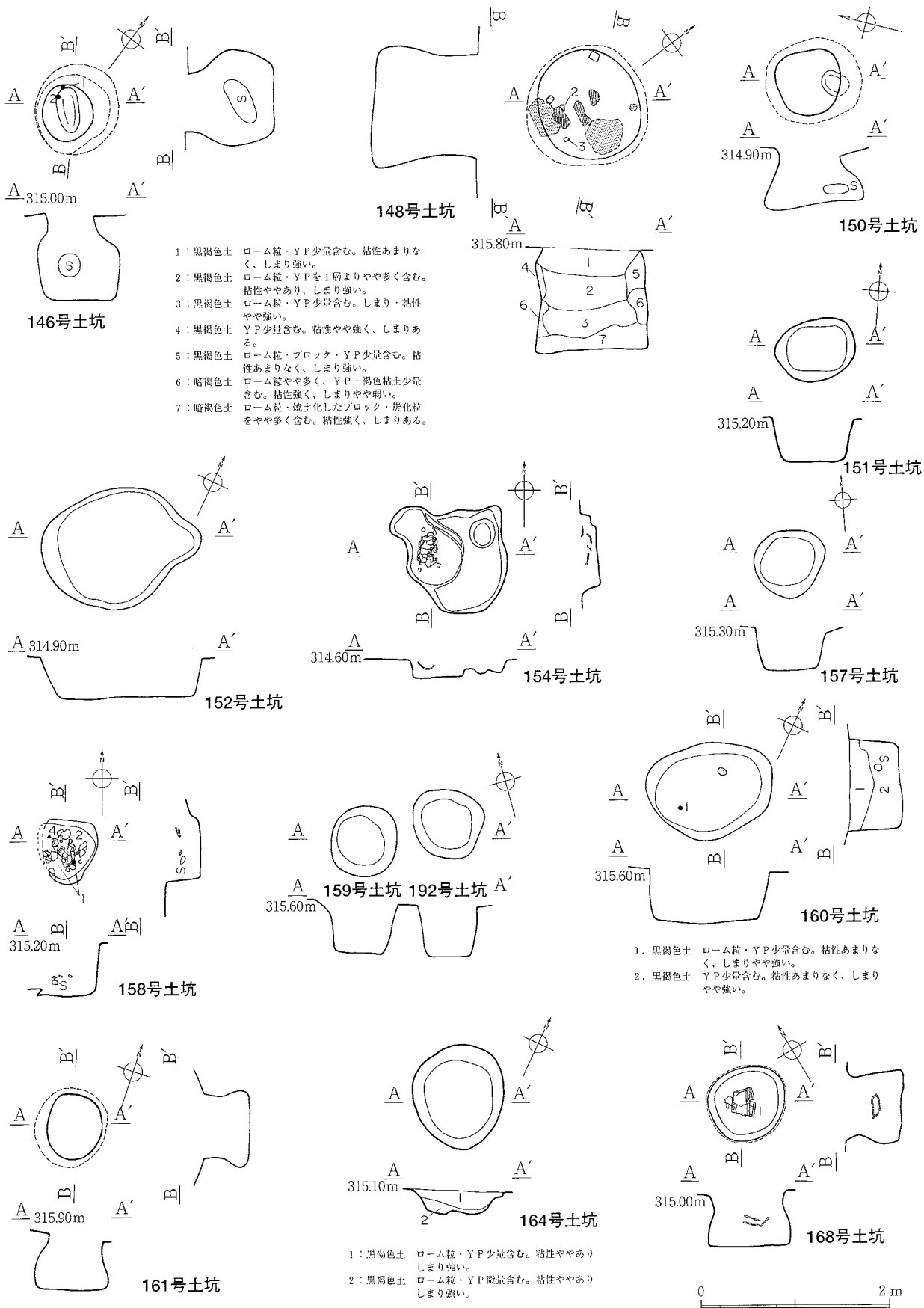
- 1: 黒褐色土 ローム粒・Y P 少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・Y P 少量含む。粘性ややあり、しまりややある。
- 3: 黒褐色土 Y P をやや多く含む。色調1・2層よりやや明るい。粘性やや強く、しまりやや弱い。



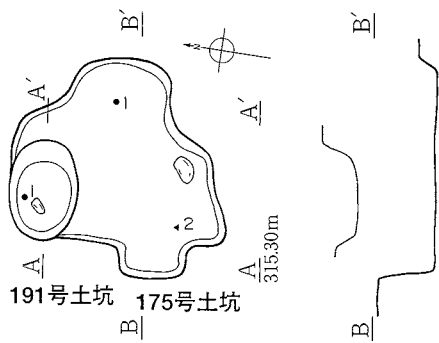
145号土坑



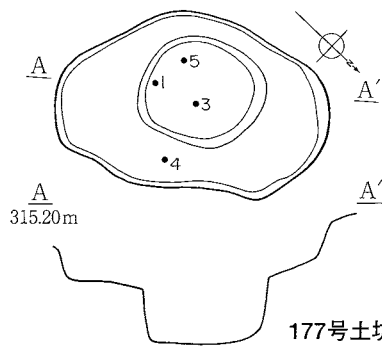
第373図 東地区土坑⑧



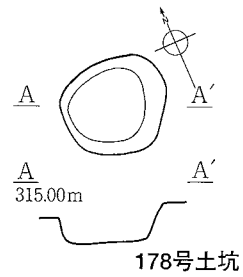
第374図 東地区土坑⑨



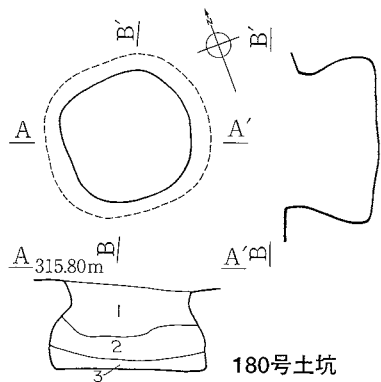
191号土坑 175号土坑



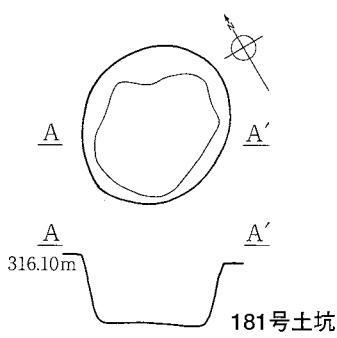
177号土坑



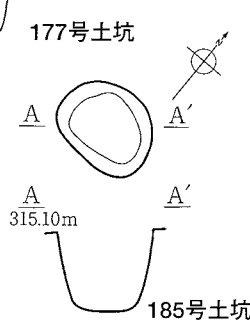
178号土坑



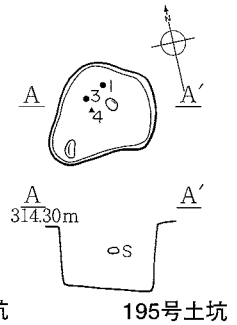
180号土坑



181号土坑

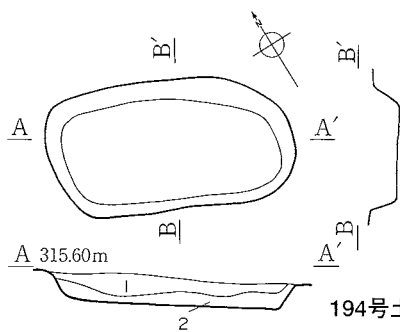


185号土坑

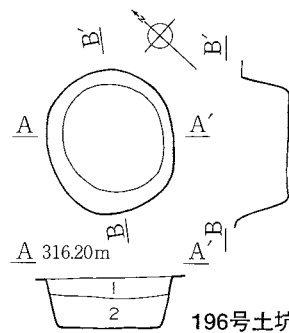


195号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。色調1層よりやや暗い。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性強く、しまりやや弱い。

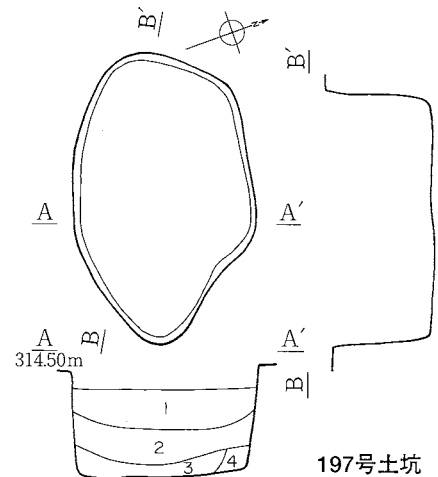


194号土坑



196号土坑

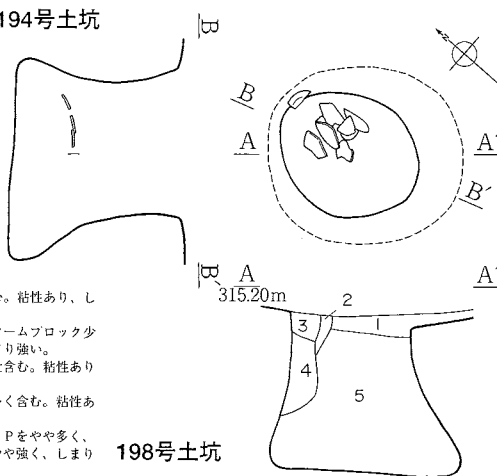
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。



197号土坑

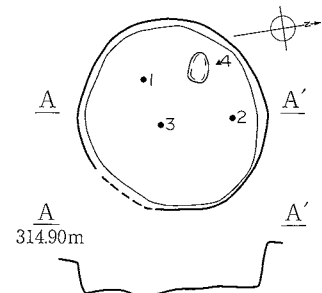
- 1: 黒褐色土 YP微量含む。粘性ないが、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YP・褐色粘土少量含む。粘性・しまりある。
- 4: 褐色土 粘性強く、しまりない。

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりない。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒をやや多く含む。粘性あまりなく、しまり強い。



198号土坑

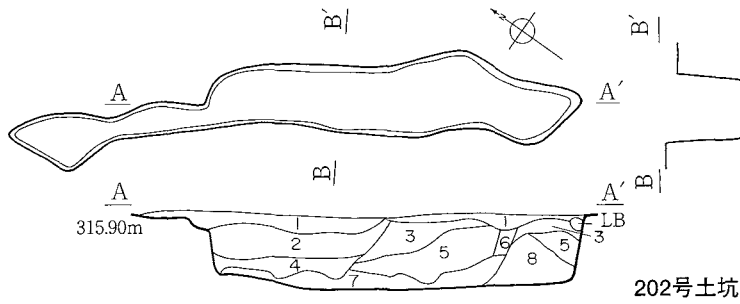
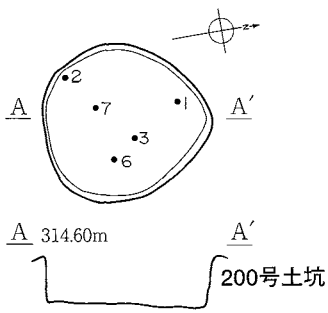
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP微量、ロームブロック少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YPをやや多く、炭化粒少量含む。粘性やや強く、しまり強い。



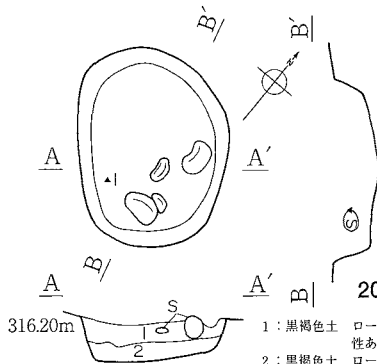
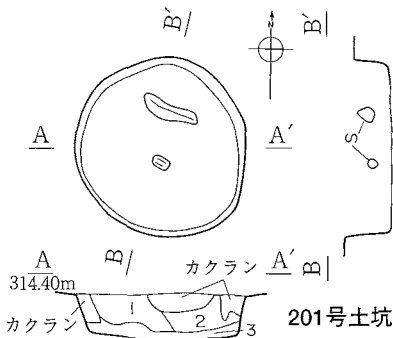
199号土坑



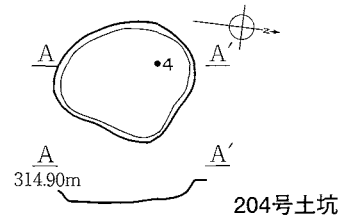
第375図 東地区土坑⑩



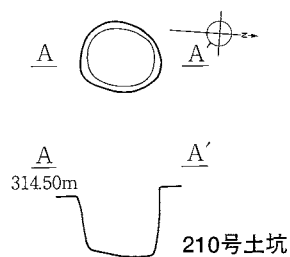
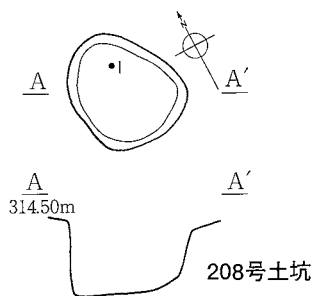
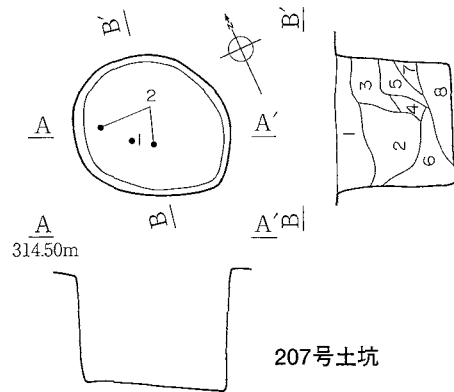
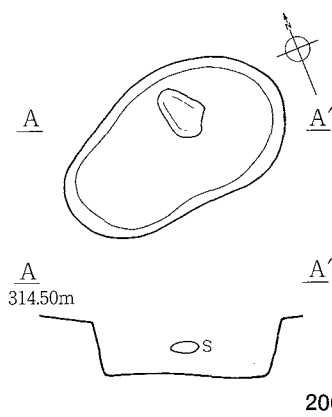
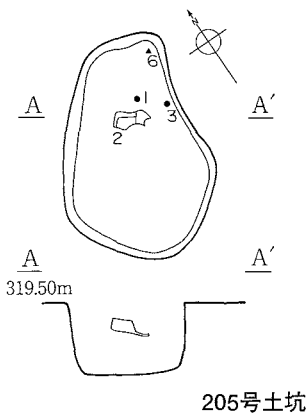
- | | | | |
|---------|---|---------|--|
| 1: 黒褐色土 | ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりややある。 | 5: 黒褐色土 | ローム粒をやや多く、ロームブロック・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。 |
| 2: 黒褐色土 | ローム粒・ブロック少量含む。粘性あり、しまりやや強い。 | 6: 黒褐色土 | ローム粒をやや多く、ロームブロック・YP微量含む。粘性ややあり、しまり強い。 |
| 3: 黒褐色土 | 色調2層よりやや明るい。ローム粒をやや多く、ロームブロック少量含む。粘性あり、しまり強い。 | 7: 暗褐色土 | ローム粒・YP多量含む。粘性あり、しまりやや強い。 |
| 4: 黒褐色土 | 色調3層に近い。ローム粒をやや多く、ロームブロック少量含む。粘性あり、しまり強い。 | 8: 暗褐色土 | ローム粒多量含む。粘性やや強く、しまりややある。 |



- | | |
|---------|----------------------------------|
| 1: 黒褐色土 | ローム粒をやや多く、YP少量含む。粘性あり、しまり強い。 |
| 2: 黒褐色土 | ローム粒・ブロック少量、YPやや多く含む。粘性あり、しまり強い。 |



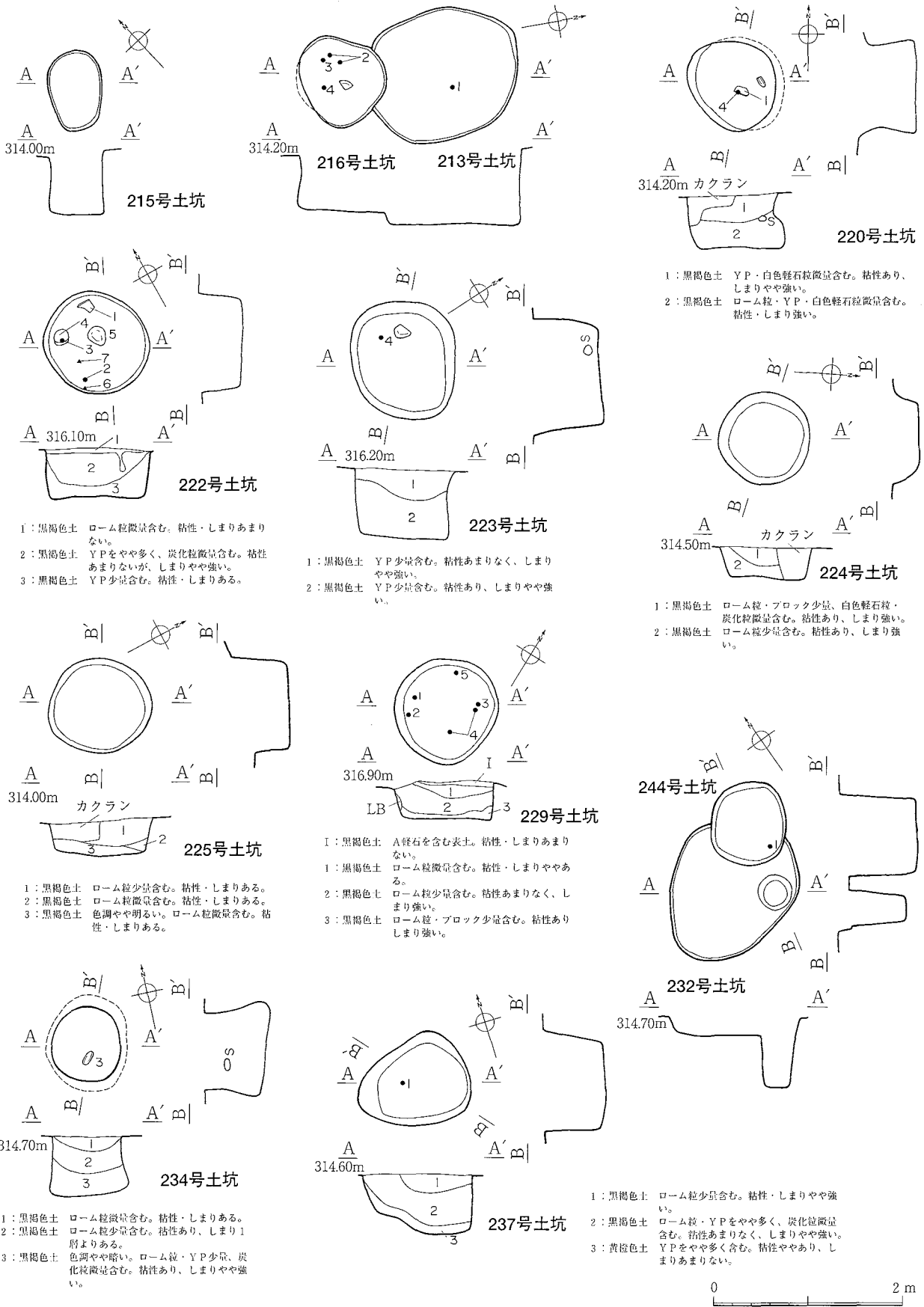
- | | |
|---------|---|
| 1: 黒褐色土 | ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒・焼土粒微量含む。粘性あり、しまり強い。 |
| 2: 黒褐色土 | ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性・しまりやや強い。 |
| 3: 黒褐色土 | ローム粒・YP微量含む。粘性やや強く、しまり強い。 |



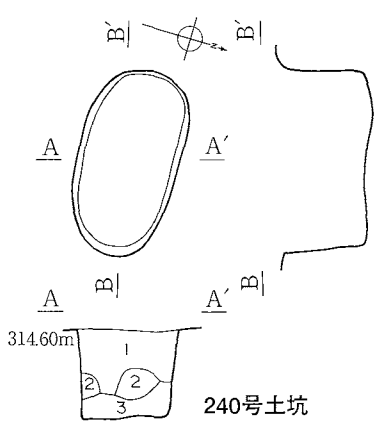
- | | |
|---------|------------------------------------|
| 1: 黒褐色土 | ローム粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。 |
| 2: 黒褐色土 | YP少量含む。粘性あまりないが、しまりやや強い。 |
| 3: 黒褐色土 | ロームブロック・YP少量含む。粘性わずかにあり、しまりやや強い。 |
| 4: 黒褐色土 | YP微量含む。粘性あまりないが、しまりやや強い。 |
| 5: 黒褐色土 | YPをやや多く含む。粘性あまりないが、しまりやや強い。 |
| 6: 黒褐色土 | ローム粒・YPをあまり含まない。粘性あり、しまりやや強い。 |
| 7: 黒褐色土 | 褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりあまりない。 |
| 8: 黒褐色土 | 褐色粘土・YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。 |



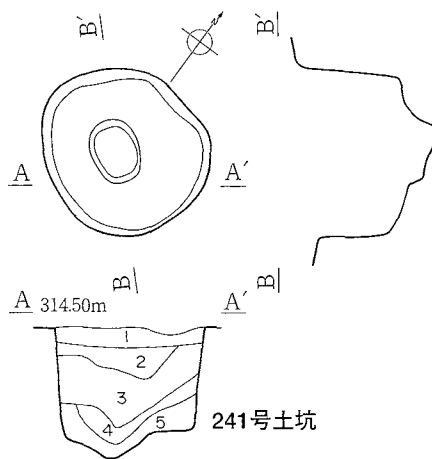
第376図 東地区土坑⑪



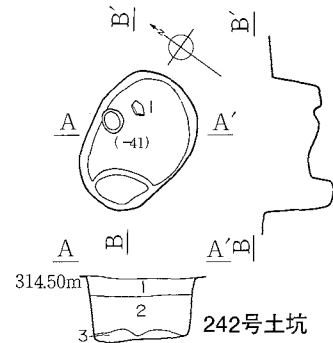
第377図 東地区土坑⑫



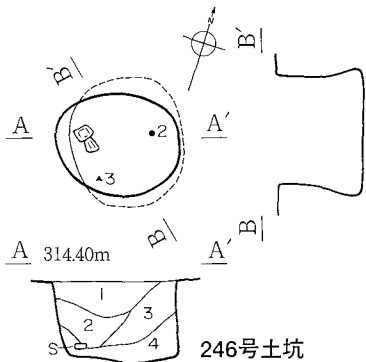
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 褐色土 ロームブロック・YP多量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土をやや多く、炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。



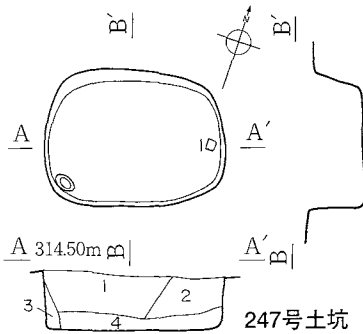
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ロームブロック・YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 褐色粘土・YP少量含む。粘性・しまりある。
- 5: 暗褐色土 褐色粘土多量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。



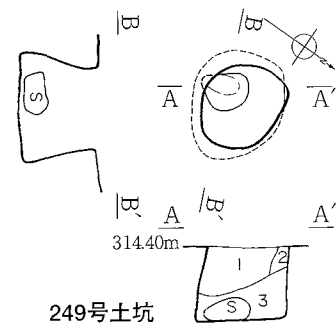
- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性・しまりある。



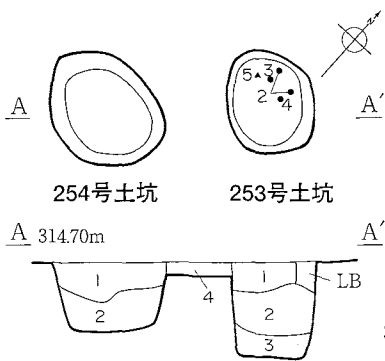
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP微量含む。粘性・しまりある。
- 3: 黒褐色土 YPをやや多く、炭化粒微量含む。粘性しまりある。
- 4: 黒褐色土 色調やや明るい。褐色粘土少量含む。粘性・しまりある。



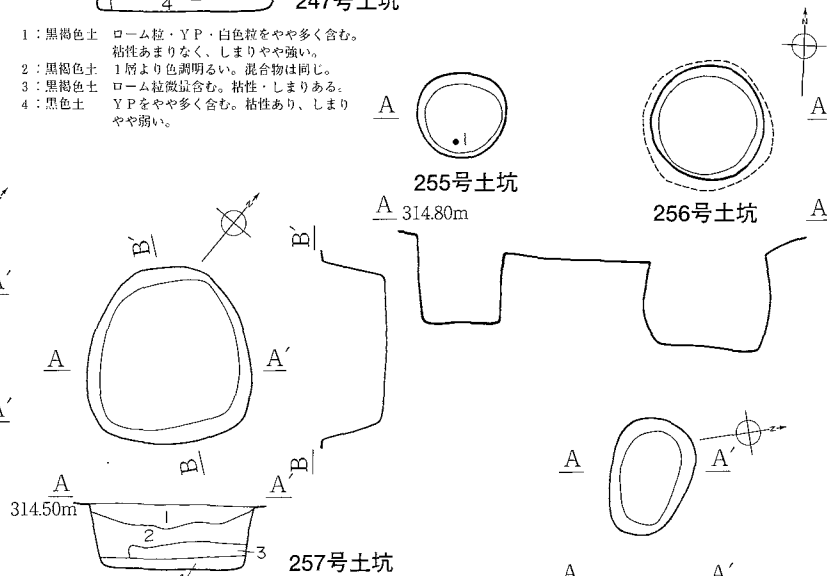
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒をやや多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 1層より色調明るい。混合物は同じ。
- 3: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりある。
- 4: 黒色土 YPをやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。



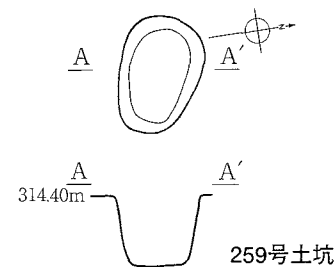
- 1: 黒褐色土 YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 色調やや明るい。YP少量含む。粘性・しまりある。
- 3: 黒褐色土 YP少量含む。白色粒の混入少ない。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや弱い。



- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・ロームブロックをやや多く含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
- 4: 黒褐色土 1層によく似る。



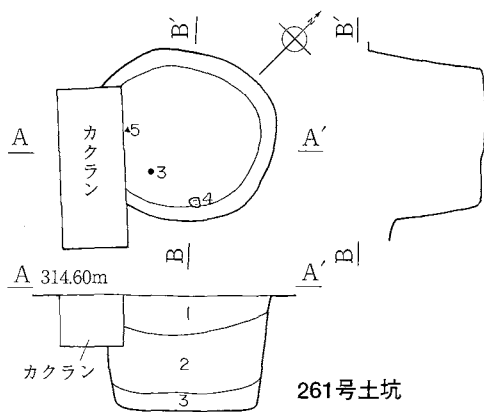
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性・しまりある。
- 4: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。



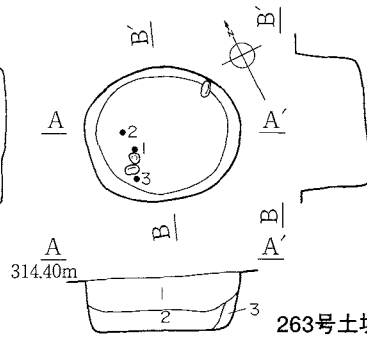
- 1: 黒褐色土
- 2: 黒褐色土
- 3: 黒褐色土



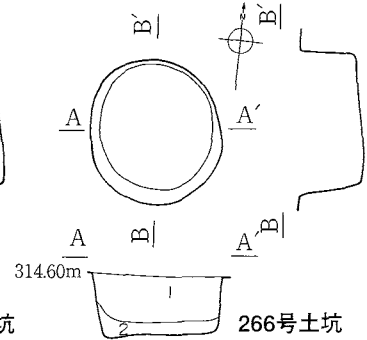
第378図 東地区土坑⑬



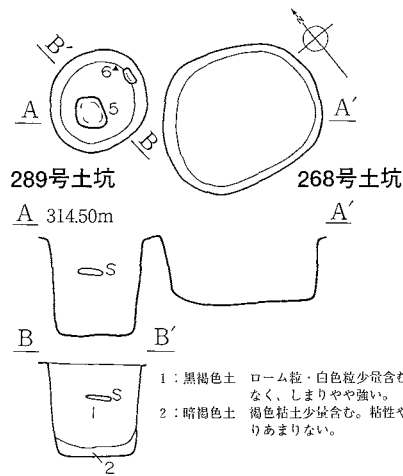
- 261号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 黒褐色土 色調1層よりやや暗い。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 3: 黒褐色土 褐色粘土微量含む。粘性あり、しまりない。



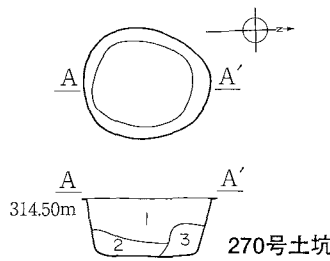
- 263号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性・しまりある。
 3: 黄褐色土 YP含む。



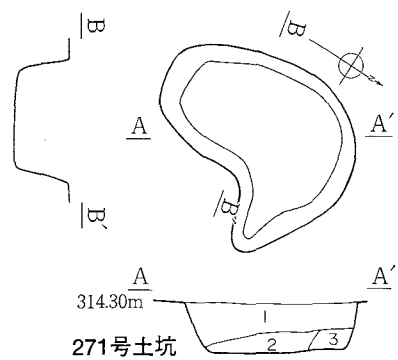
- 266号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YPを少量含む。粘性あまりないが、しまりやや強い。
 2: 褐色土 褐色粘土・YPをやや多く含む。粘性あるが、しまりあまりない。



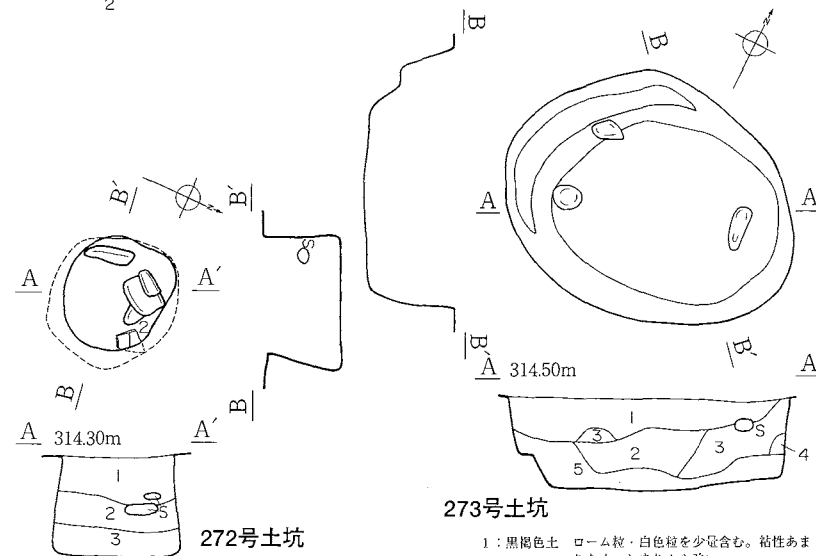
- 289号土坑
- 268号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



- 270号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。
 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。

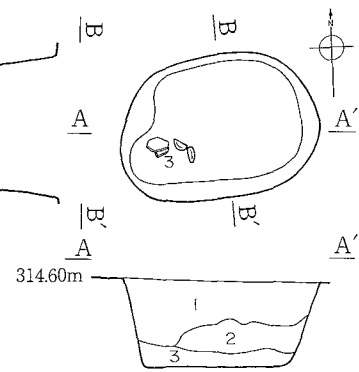


- 271号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。
 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。



- 272号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。
 3: 褐色土 褐色粘土多量含む。粘性・しまりある。

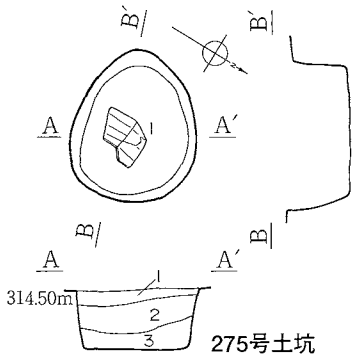
- 273号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒を少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
 3: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性・しまりある。
 4: 黒褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
 5: 褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性あるが、しまりあまりない。



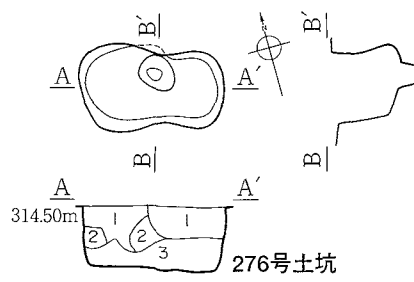
- 302号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 2: 暗褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
 3: 褐色土 褐色粘土多量含む。粘性あり、しまり弱い。

0 2 m

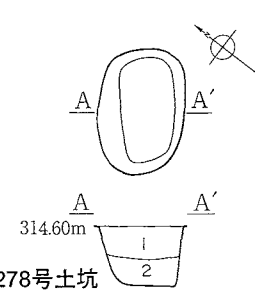
第379図 東地区土坑⑭



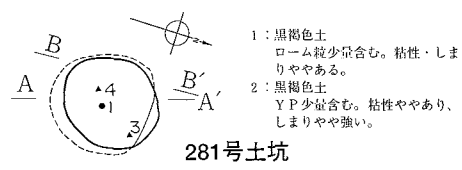
- 275号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y Pをやや多く、白色粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 褐色土 褐色粘土・Y Pをやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。



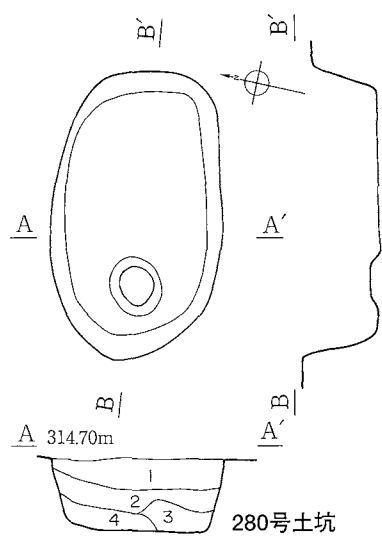
- 276号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y P多量含む。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土をやや多く含む。



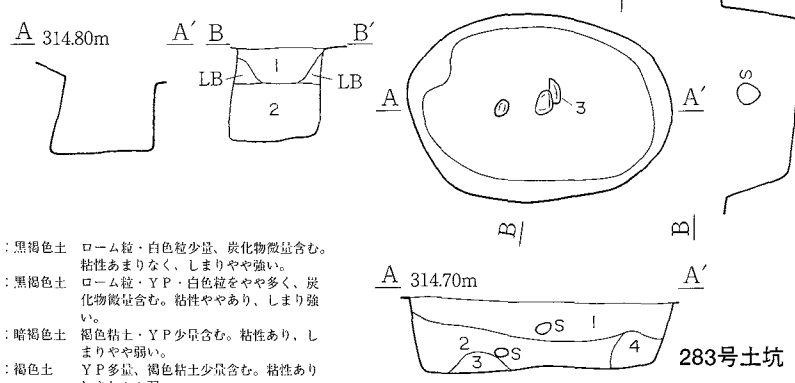
- 278号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y P多量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。



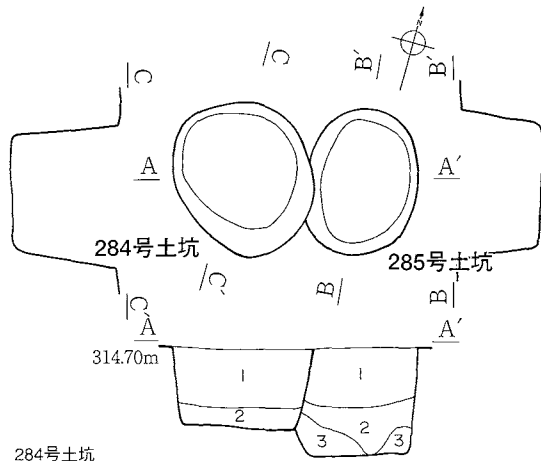
- 281号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりややある。
- 2: 黒褐色土 Y P少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



- 280号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量、炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・Y P・白色粒をやや多く、炭化物微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土・Y P少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
- 4: 褐色土 Y P多量、褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。

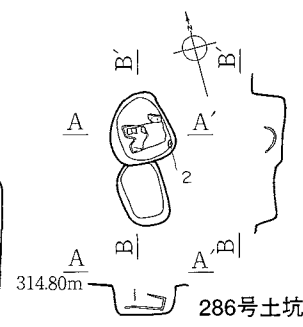


- 283号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y P少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 褐色土 Y P多量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 4: 褐色土 褐色土(白色粒含む)多量含む。粘性ないが、しまり強い。

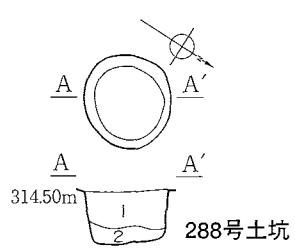


- 284号土坑
- 1: 黒色土 ローム粒・Y P微量含む。粘性・しまりある。
- 2: 褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。

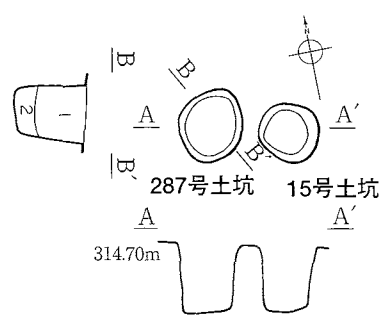
- 285号土坑
- 1: 黒褐色土 Y P・炭化物少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y Pを全体にやや多く含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりあまりない。



- 286号土坑
- 1: 黒褐色土 Y P・白色粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 Y Pをやや多く含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



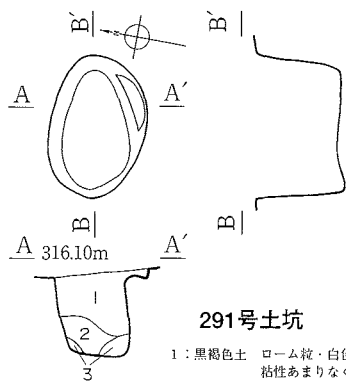
- 288号土坑



- 287号土坑 15号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 2: 黒褐色土 褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。

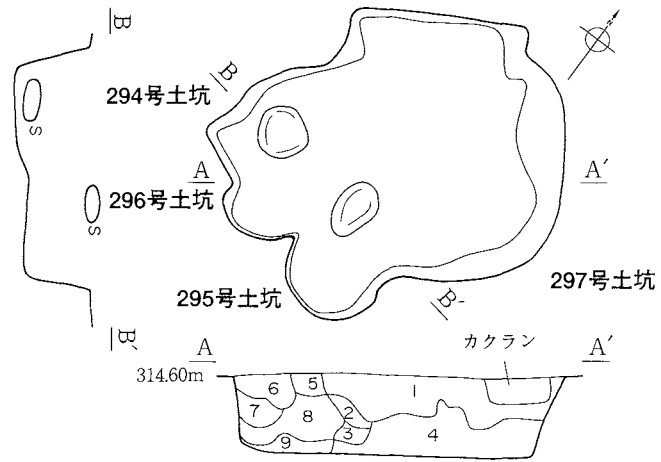


第380図 東地区土坑⑮



291号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量・炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP・ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



294号土坑

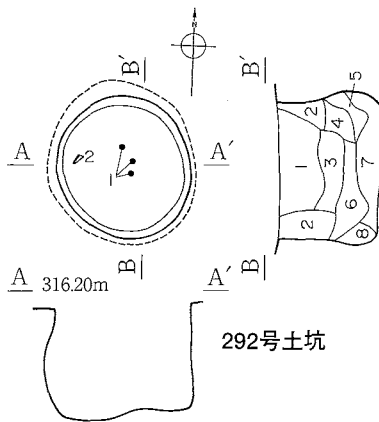
296号土坑

295号土坑

297号土坑

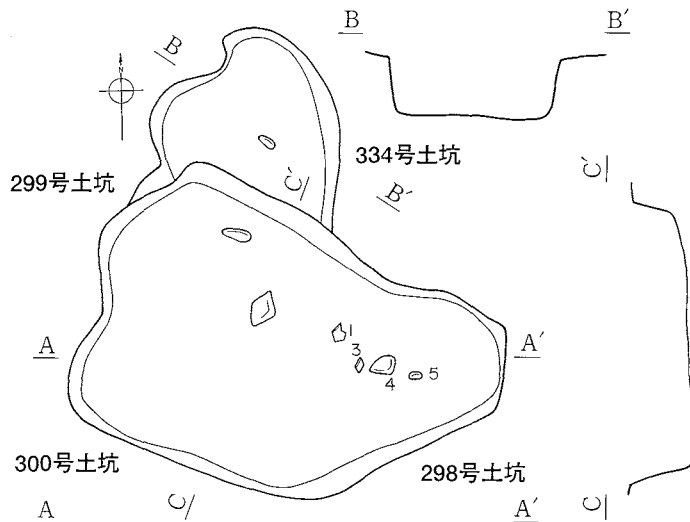
カクラン

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 褐色土 ロームブロックをやや多く含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 褐色土 YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 4: 褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりある。
- 6: 褐色土 ロームブロック多量に含む。粘性なく、しまり強い。
- 7: 黒褐色土 YPを少量含む。粘性あまりないが、しまり強い。
- 8: 褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性ややありしまりやや強い。
- 9: 褐色土 褐色粘土を少量含む。粘性あるが、しまりやや弱い。



292号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ロームブロック・YP少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 褐色土 ロームブロック多量含む。粘性・しまりある。
- 4: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 5: 黒褐色土 YP少量含む。粘性・しまりある。
- 6: 黒褐色土 YP少量含む。色調4・5層に似る。粘性・しまりある。
- 7: 暗褐色土 YP・褐色粘土をやや多く含む。粘性あり、しまりやや弱い。
- 8: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。

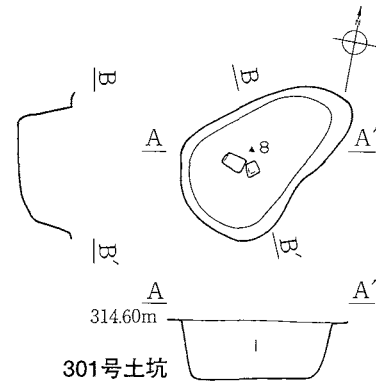


299号土坑

334号土坑

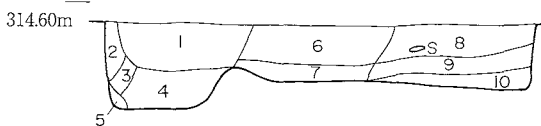
300号土坑

298号土坑



301号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。



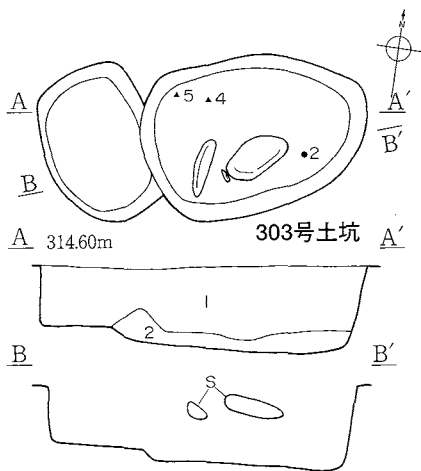
- 8: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 9: 黒褐色土 YP・ローム粒少量含む。粘性あまりなくしまりやや強い。
- 10: 褐色土 褐色粘土をやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。

- 1: 黒褐色土 YP・ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまりあまりない。
- 3: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりあまりない。

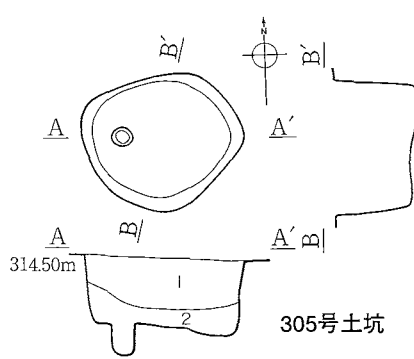
- 4: 黒褐色土 YP・ローム粒少量、炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 5: 褐色土 褐色を多量含む。
- 6: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 7: 褐色土 褐色粘土多量含む。粘性あり、しまりあまりない。



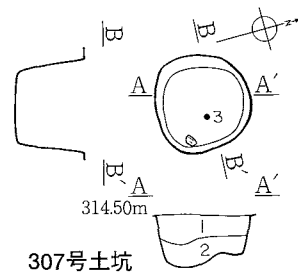
第381図 東地区土坑⑩



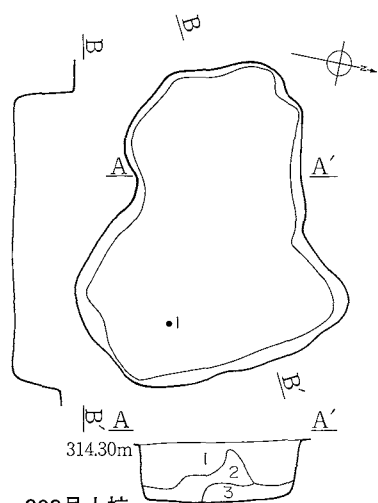
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性あり、しまりあまりない。



- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 褐色粘土・YP少量含む。粘性あり、しまりあまりない。

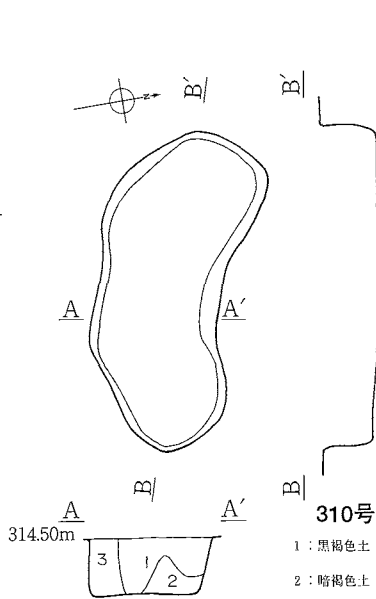


- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性・しまりある。



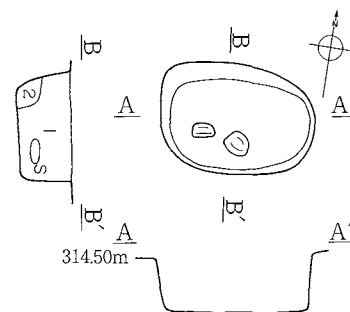
309号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ロームブロック・YPをやや多く含む。粘性・しまりある。
- 3: 褐色土 褐色粘土多量・炭化粒少量含む。粘性あり、しまり弱い。



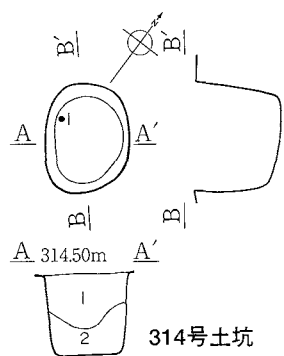
310号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 3: 褐色土 YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



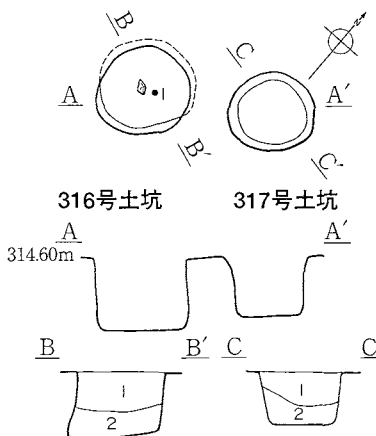
311号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりある。



314号土坑

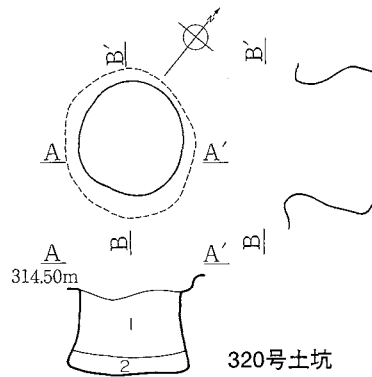
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性ややあり、しまりある。



316号土坑

317号土坑

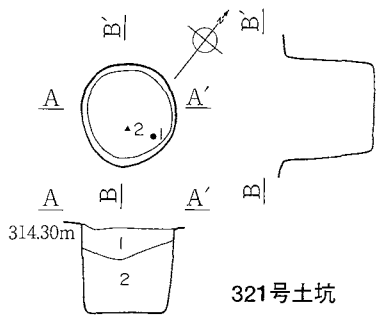
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP少量含む。粘性ややあり、しまりある。



320号土坑

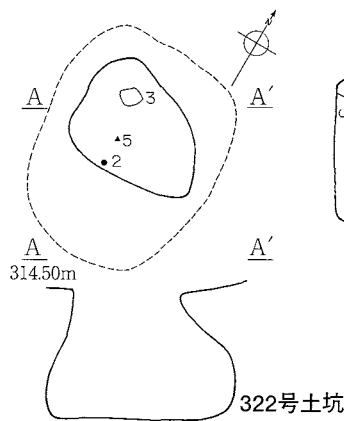
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 YP・褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。



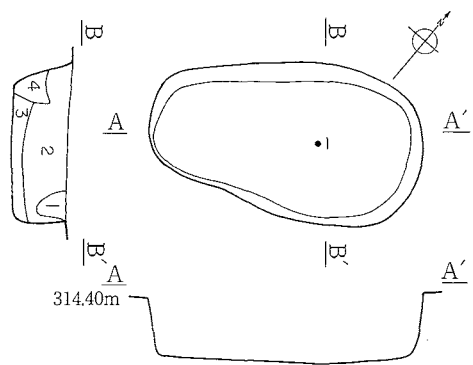


321号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色粒少量含む。粘性ややあり、しまりある。

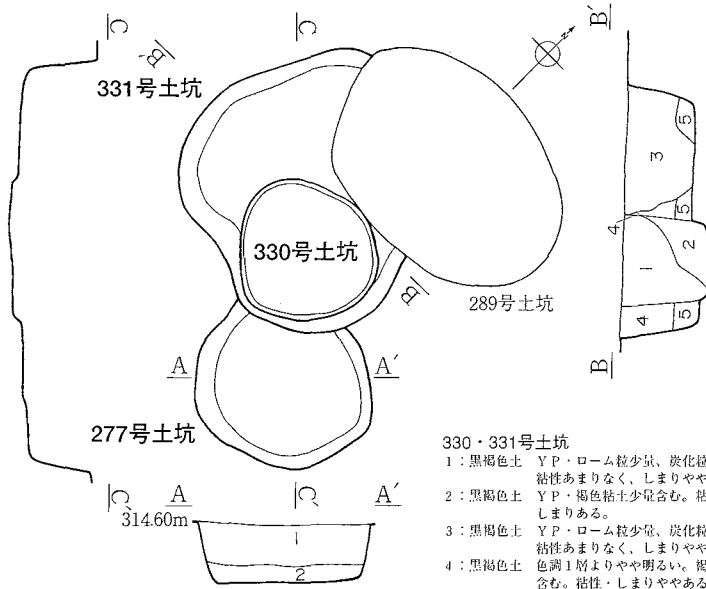


322号土坑



323号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 YP・褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 4: 褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。

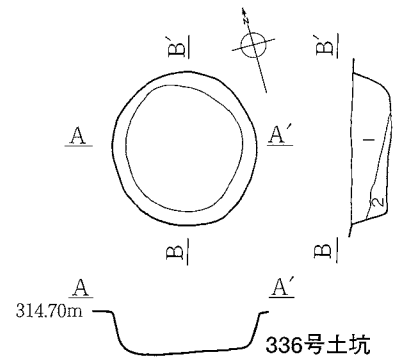


277号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色粒少量含む。粘性なく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。

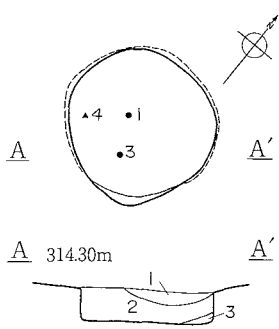
330・331号土坑

- 1: 黒褐色土 YP・ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 YP・褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 3: 黒褐色土 YP・ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 色調1層よりやや明るい。褐色粘土微量含む。粘性・しまりややある。
- 5: 黒褐色土 YP・褐色粘土少量含む。粘性ややあり、しまりある。



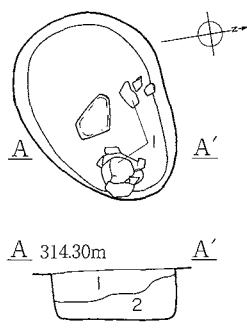
336号土坑

- 1: 黒褐色土 炭化粒・焼土粒微量、ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりややある。



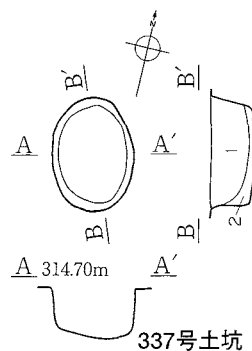
329号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。



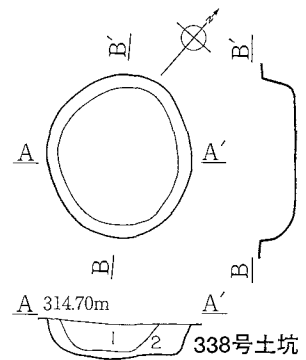
332号土坑

- 1: 黒褐色土 YP・ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 YP少量、褐色粘土をやや多く含む。粘性あるが、しまりあまりない。



337号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックをやや多く、焼土粒・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒・焼土粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。

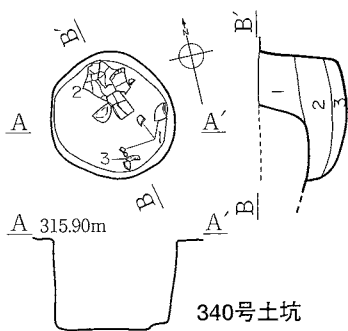


338号土坑

- 1: 黒褐色土 炭化粒・焼土粒微量、ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性・しまりややある。

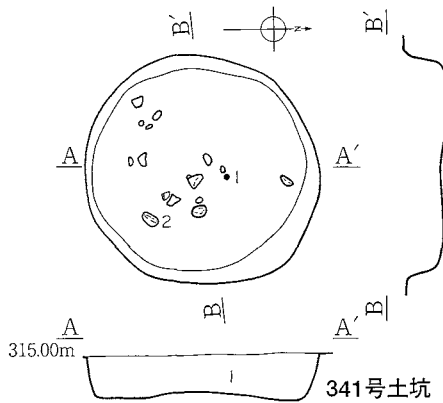


第383図 東地区土坑⑱



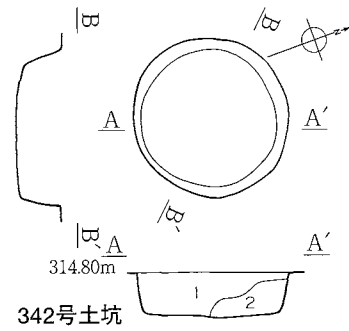
340号土坑

- 1: 黒褐色土 色調暗く黒色気味。YP粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 3: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



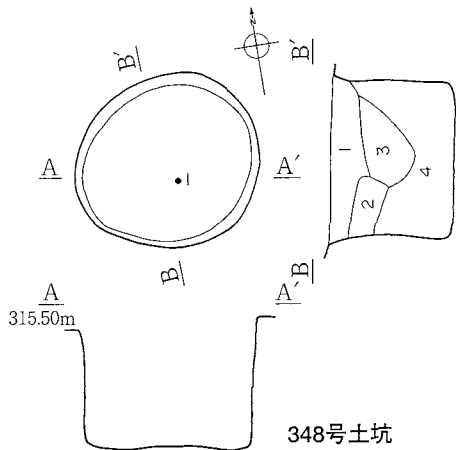
341号土坑

- 1: 黒褐色土 色調黒色気味。ローム粒・炭化粒・焼土粒ごく少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



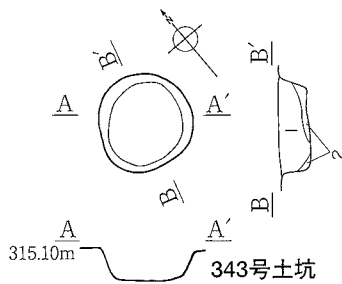
342号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。粘性わずかにあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。粘性わずかにあり、しまりやや強い。



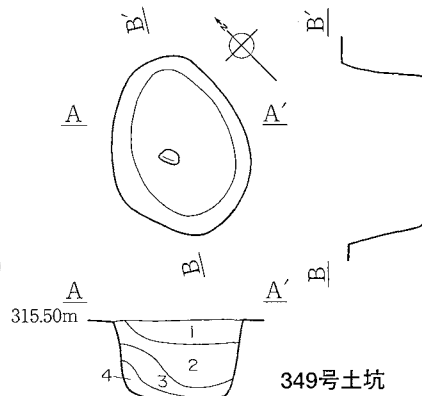
348号土坑

- 1: 黒褐色土 YP少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 黄褐色土 ロームブロック・YP多量含む。粘性ややあり、しまりあまりない。埋め戻しと思われる。
- 4: 黒褐色土 YP少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。



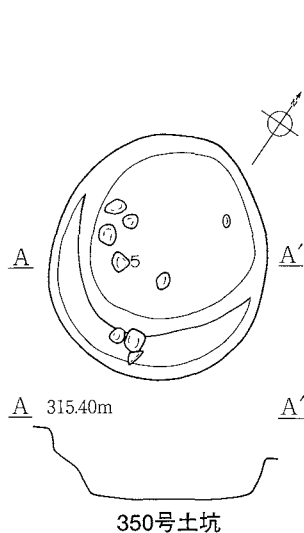
343号土坑

- 1: 黒褐色土 細かいローム粒少量、炭化粒・焼土粒微量含む。粘性あまりなく、しまりある。色調1層より明るい。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりある。

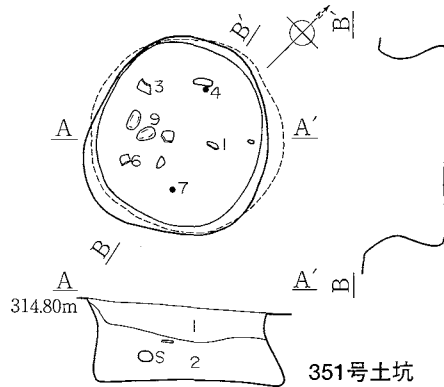


349号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・焼土粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 色調やや明るい。ローム粒少量、ロームブロック微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性あり、しまりあまりない。

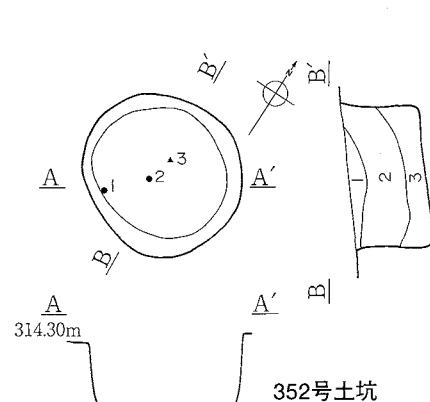


350号土坑



351号土坑

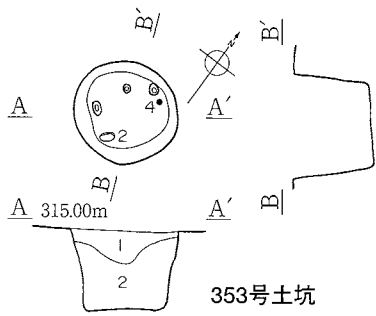
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒やや多く、焼土粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



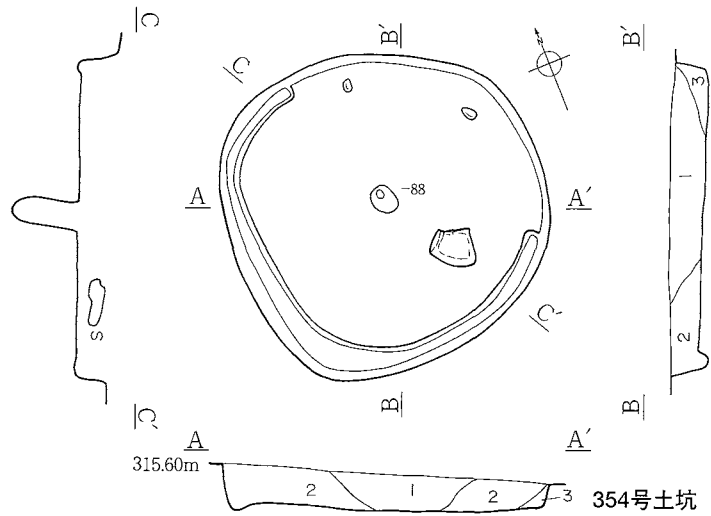
352号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 ロームブロック少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性あり、しまり強い。

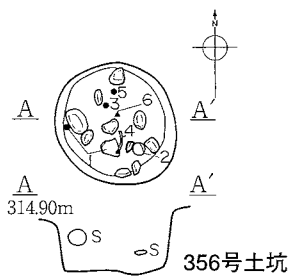




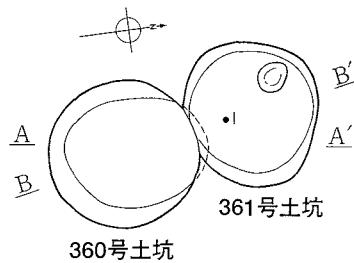
- 353号土坑
- 1: 黒褐色土 色調暗く黒色気味。ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
 - 2: 黒褐色土 色調1層に似るがわずかに暗い。ローム粒の混入も1層よりやや多い。粘性ややあり、しまりやや強い。



- 354号土坑
- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 - 2: 黒褐色土 色調1層より明るい。ローム粒・炭化粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
 - 3: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまりやや強い。



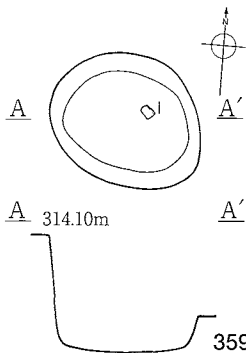
356号土坑



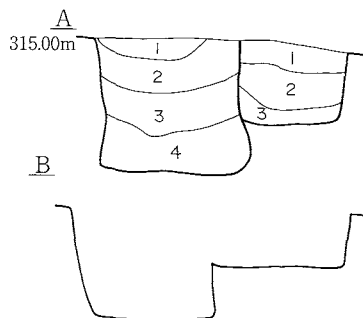
360号土坑

360号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、ロームブロック・炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 4: 黒褐色土 色調やや黒褐色気味。ローム粒少量含む。粘性・しまりある。

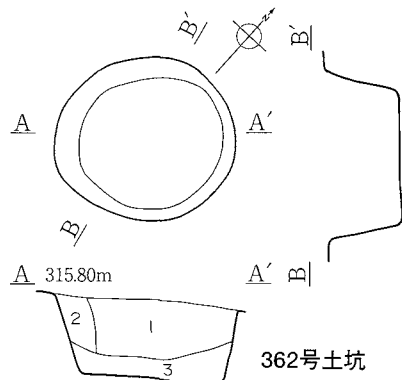


359号土坑



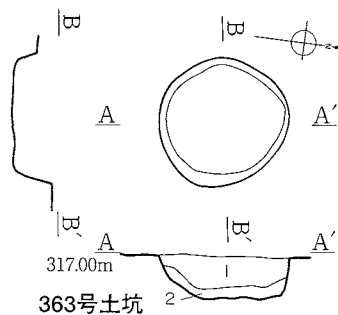
361号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・炭化粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、炭化粒少量含む。粘性・しまりある。
- 3: 黒褐色土 ロームブロック微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



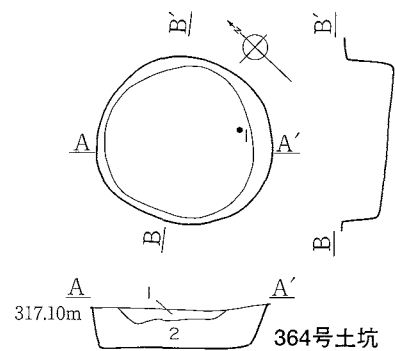
362号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 色調1層よりやや明るい。炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 色調1層より黒色気味。ローム粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。



363号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強い。

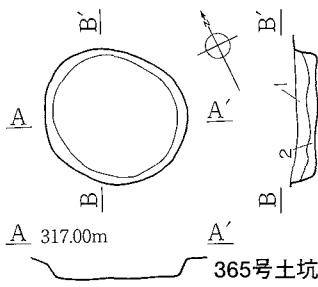


364号土坑

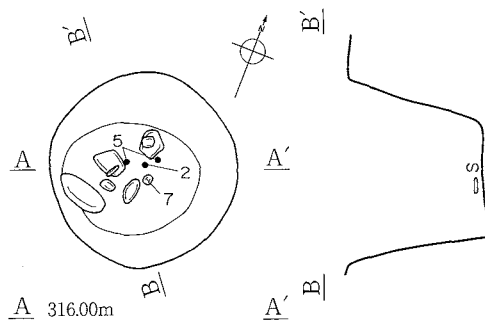
- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



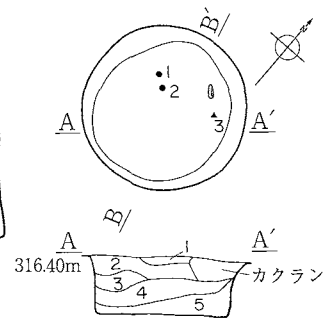
第385図 東地区土坑②



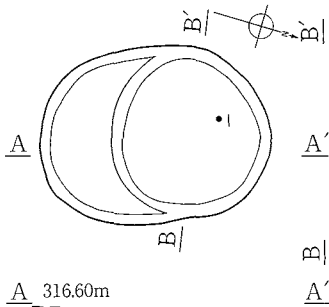
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、し
まり強い。
2: 黒褐色土 ローム粒をやや多く含む。粘性あり、し
まり強い。



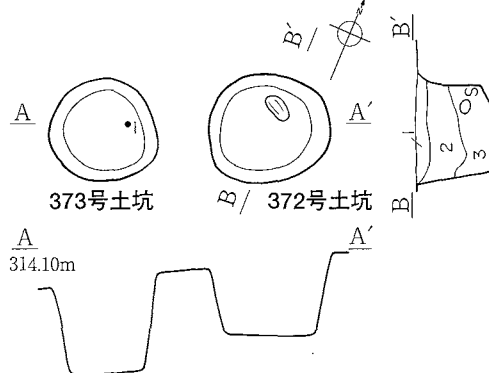
- 1: 黒褐色土 細かいローム粒・YP少量含む。粘性・
しまりある。
2: 黒褐色土 色調1層より暗い。YPをごく少量、炭
化粒微量含む。粘性・しまりある。
3: 黒褐色土 色調暗い。YP少量含む。粘性ややあり
しまりやや強い。
4: 黒褐色土 色調暗褐色に近い。ローム粒・YP少量
含む。粘性・しまりある。



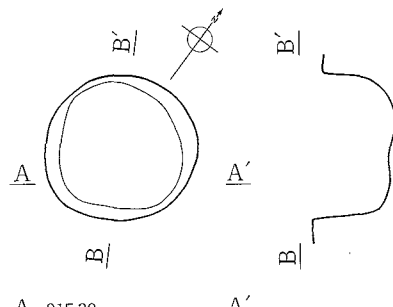
- 1: 黒褐色土 ロームブロック少量含む。粘性
・しまりあまりない。
2: 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
粘性あまりなく、しまりある。
3: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性・しまり
ある。
4: 黒褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
粘性やや強く、しまりある。
5: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、ロームブ
ロック少量含む。粘性やや強く、
しまりある。



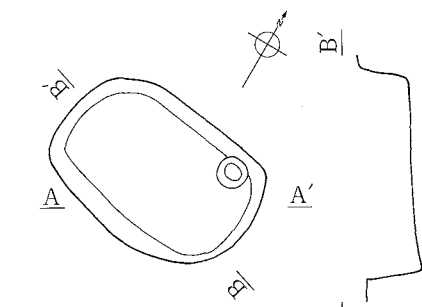
- 1: 黒褐色土 ローム粒少量、YP・白色軽石微量含む。
粘性ややあり、しまりやや強い。
2: 黒褐色土 ローム粒少量、YP微量含む。粘性あり
しまり強い。
3: 黒褐色土 ローム粒少量、YP少量、炭化粒微量含
む。粘性あり、しまり強い。
4: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性・しまり
ある。
5: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、YP少量含む。粘
性強く、しまりやや弱い。



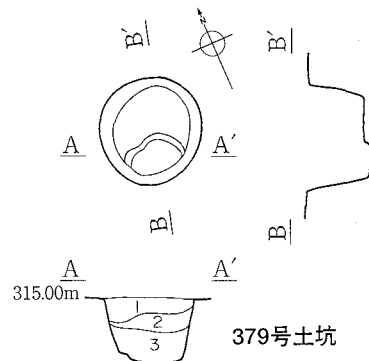
- 1: 黒褐色土
ローム粒・白色軽石微量含む。
粘性あり、しまりやや強い。
2: 黒褐色土
ローム粒・白色軽石・YP少量
含む。粘性あり、しまり強い。
3: 黒褐色土
ローム粒・ブロック少量含む。
粘性やや強く、しまり強い。



- 1: 黒褐色土 YP・ローム粒少量、炭化粒微量含む。
粘性ややあり、しまりやや強い。
2: 黒褐色土 色調暗い。ローム粒少量、炭化粒微量含
む。粘性あり、しまりやや強い。
3: 黒褐色土 YPをやや多く、ロームブロック微量含
む。粘性・しまりやや強い。



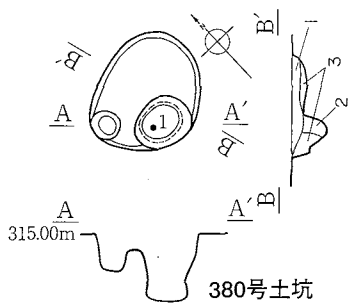
- 1: 黒褐色土 ロームブロック多量、炭化粒微量含む。
粘性・しまり強い。
2: 暗褐色土 ロームブロック多量、炭化粒微量含
む。粘性・しまり強い。



- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒微量含
む。粘性あり、しまり強い。
2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量含む。粘性あ
り、しまり強い。
3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒をやや
多く、炭化粒微量含む。粘性あり、し
まり強い。

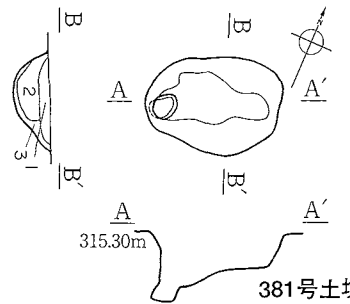


第386図 東地区土坑②



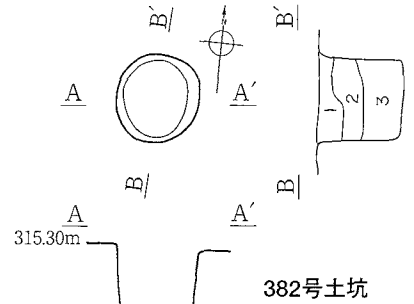
380号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒やや多く、白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。粘性ありしまり強い。



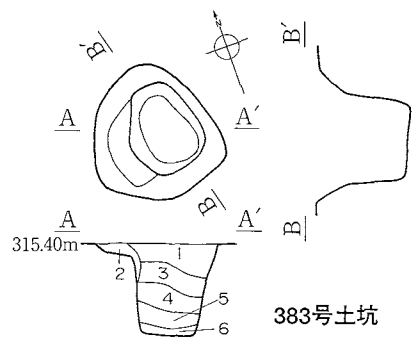
381号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまりややある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまりややある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YP多量含む。粘性あり、しまりある。



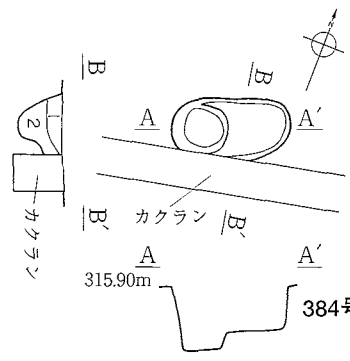
382号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YPをやや多く含む。粘性あり、しまり強い。



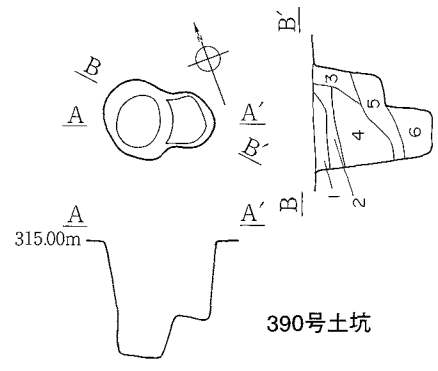
383号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒・炭化粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒少量、YP微量含む。粘性ありしまり強い。
- 6: 黄褐色土 ソフトローム。



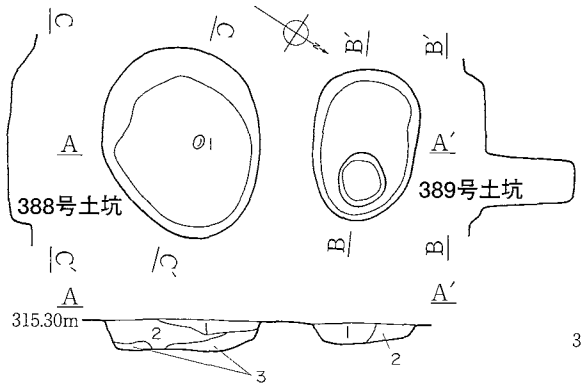
384号土坑

- 1: 暗褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。



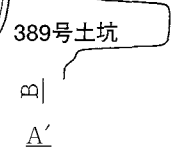
390号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒・YP密に含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 6: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性あり、しまり強い。



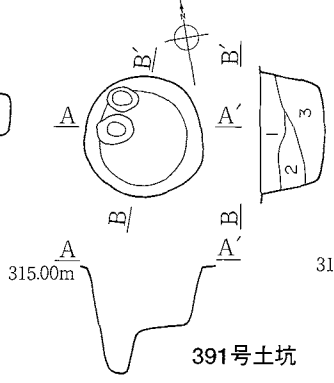
388号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



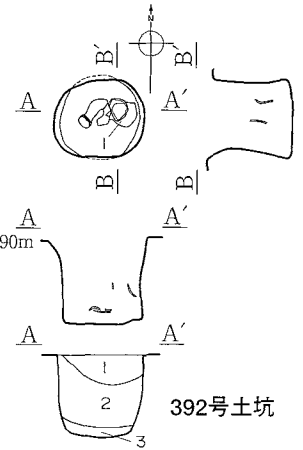
389号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒微量、白色軽石粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。



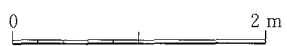
391号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。

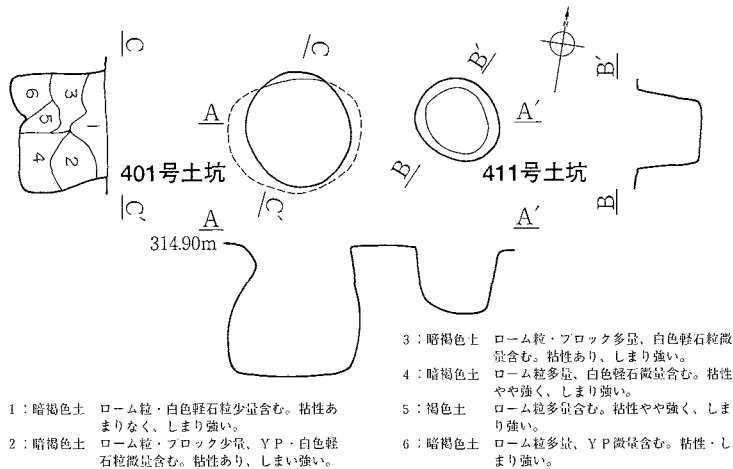
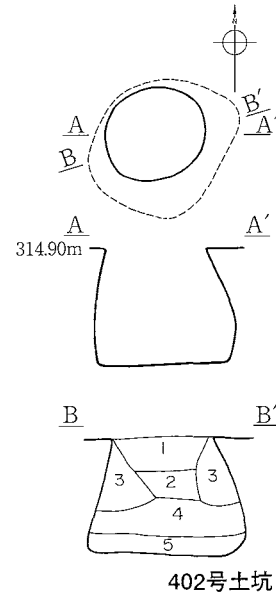
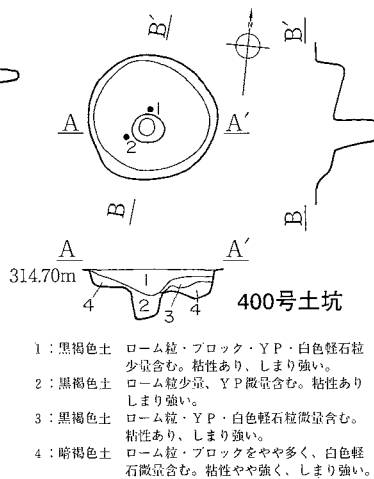
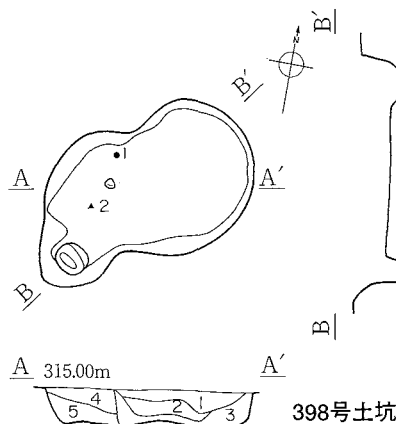
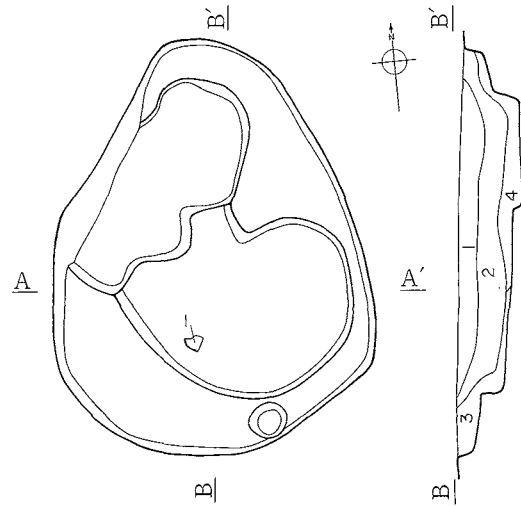
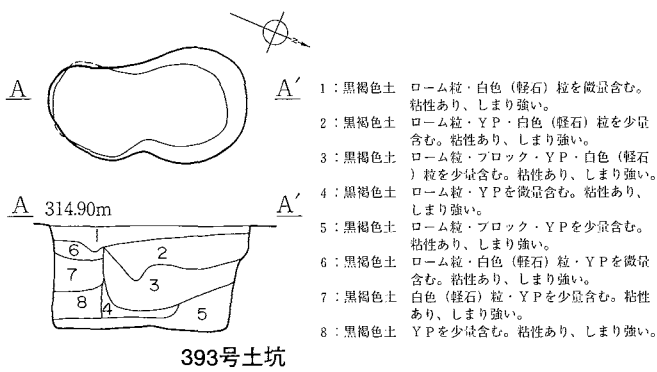


392号土坑

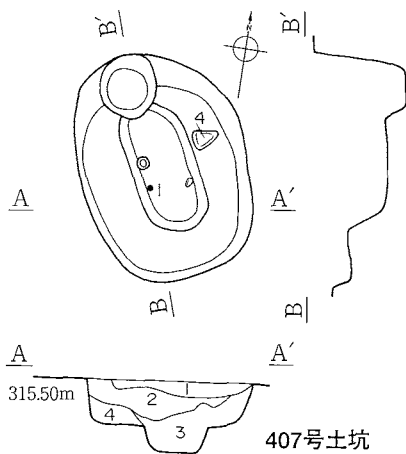
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性、しまりやや強い。



第387図 東地区土坑②

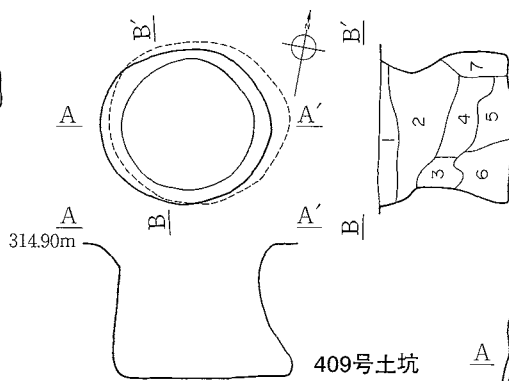


第388図 東地区土坑⑬



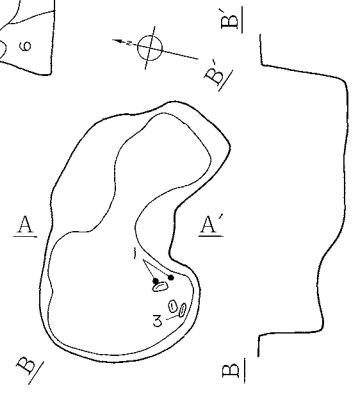
407号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP少量、白色軽石粒微量含む。粘性あまりなく、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YPを密に含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒多量、ブロック・YPをやや多く含む。粘性あり、しまり強い。



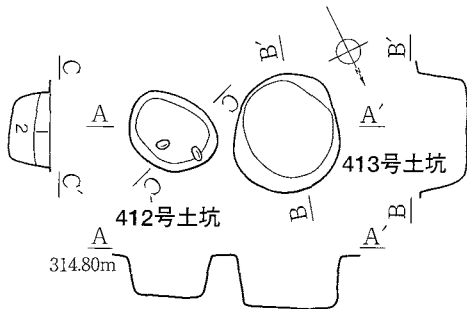
409号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YPをやや密に含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、ブロック・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 6: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YP多量含む。粘性やや強く、しまり強い。
- 7: 暗褐色土 ローム粒・YP多量含む。粘性やや強くしまりやや弱い。

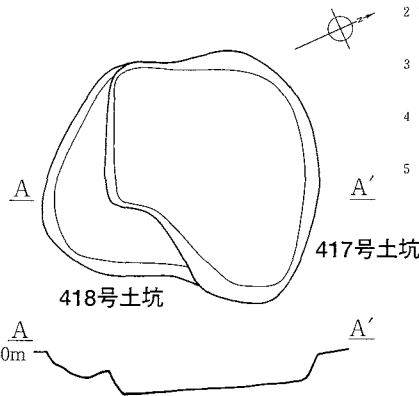


410号土坑

- 1: 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量、YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量、YP微量含む。粘性あり、しまりややある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック微量含む。粘性・しまりある。
- 4: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YPを密に含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 暗褐色土 YP多量含む。粘性ややあり、しまり強い。

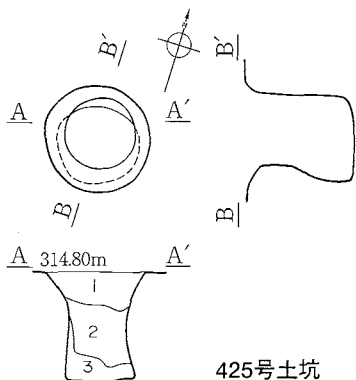


- 1: 暗褐色土 ローム粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。



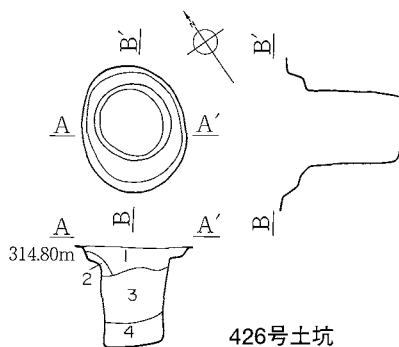
417号土坑

418号土坑



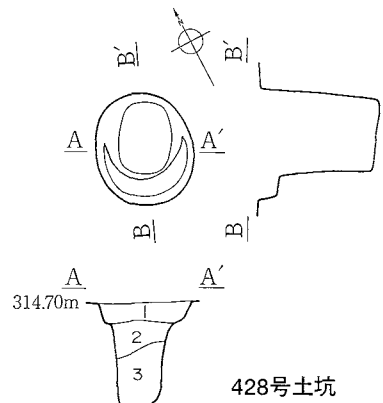
425号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色(軽石)粒を微量含む。粘性あり、しまり強い。



426号土坑

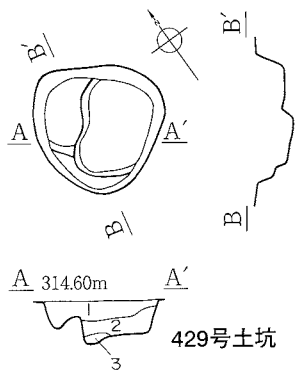
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック微量含む。粘性ありしまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒をやや多く、炭化粒微量含む。粘性ありしまり強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・YP微量含む。粘性やや強く、しまりややある。



428号土坑

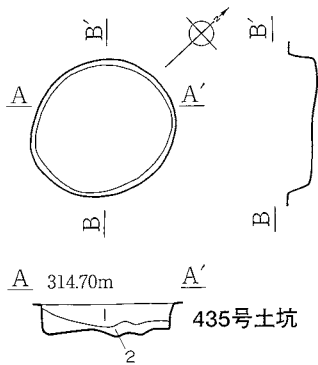
- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒少量、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YP・ブロックを密に含む。粘性・しまりやや強い。





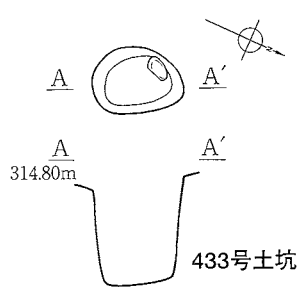
429号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・炭化粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量含む。粘性あり、しまり強い。

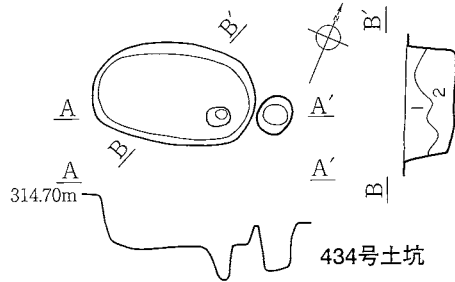


435号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。粘性あり、しまり強い。

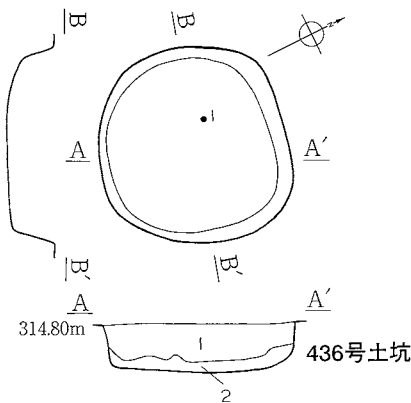


433号土坑



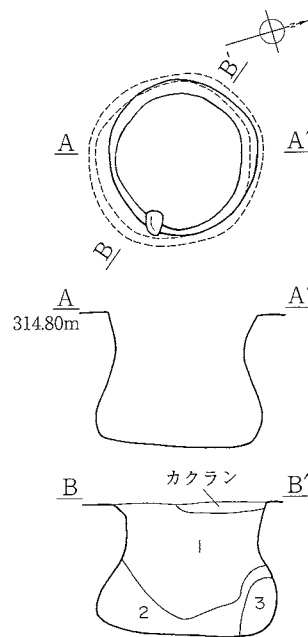
434号土坑

- 1: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量、ロームブロック・炭化粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロックをやや多く含む。粘性あり、しまり強い。



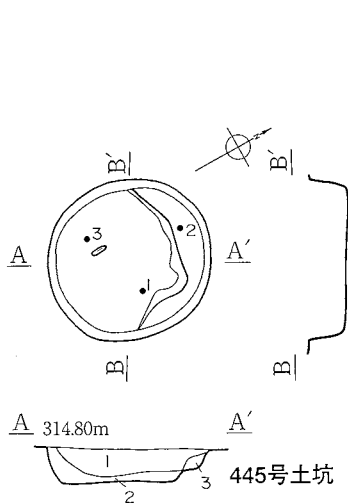
436号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。粘性あり、しまり強い。



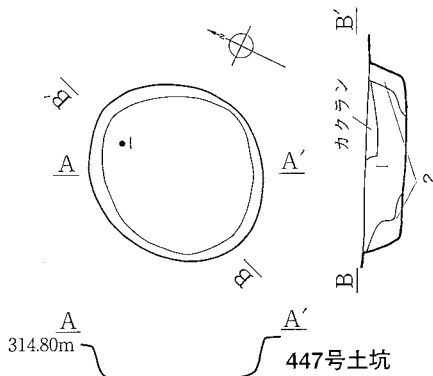
441号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒微量、YPをやや密に含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量含む。粘性・しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YPをやや多く含む。粘性・しまり強い。



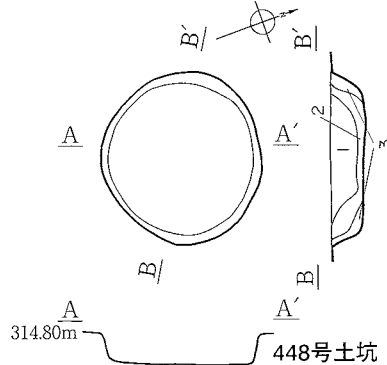
445号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。



447号土坑

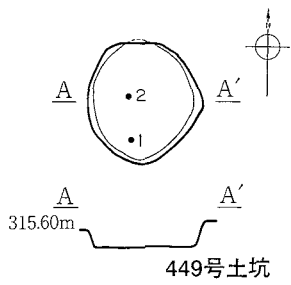
- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、白色軽石粒・YP少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。



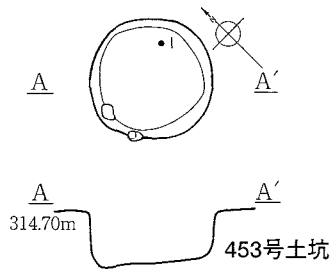
448号土坑

- 1: 黒褐色土 白色軽石粒少量、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、白色軽石粒・YP微量含む。粘性・しまりやや強い。

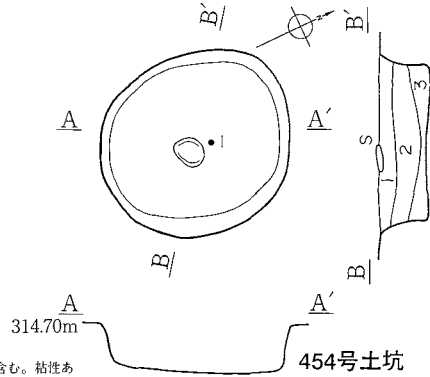




449号土坑

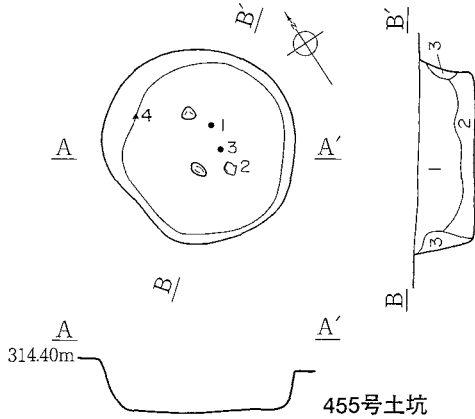


453号土坑



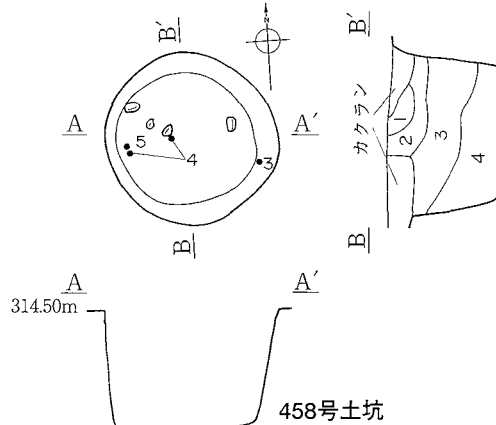
454号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒多量、YP微量含む。粘性ややあり、しまり強い。



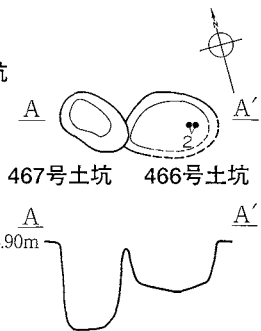
455号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまりややある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒・YP微量含む。粘性あり、しまりやや強い。

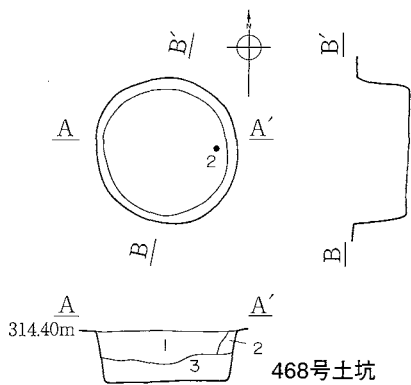


458号土坑

- 1: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、ロームブロック・白色軽石粒・砂粒少量含む。粘性あまりなく、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック・YP・白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、YPをやや多く含む。粘性・しまりやや強い。

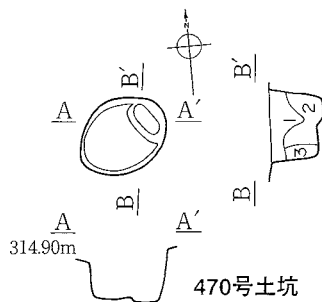


467号土坑 466号土坑



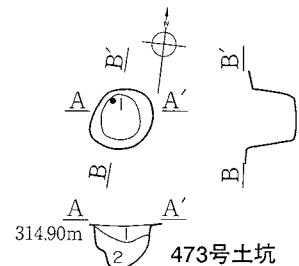
468号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・ブロック少量含む。炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 3: 黒色土 ローム粒・YP少量、白色軽石粒微量含む。粘性・しまりやや強い。



470号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量、ロームブロック微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。粘性ありしまり強い。

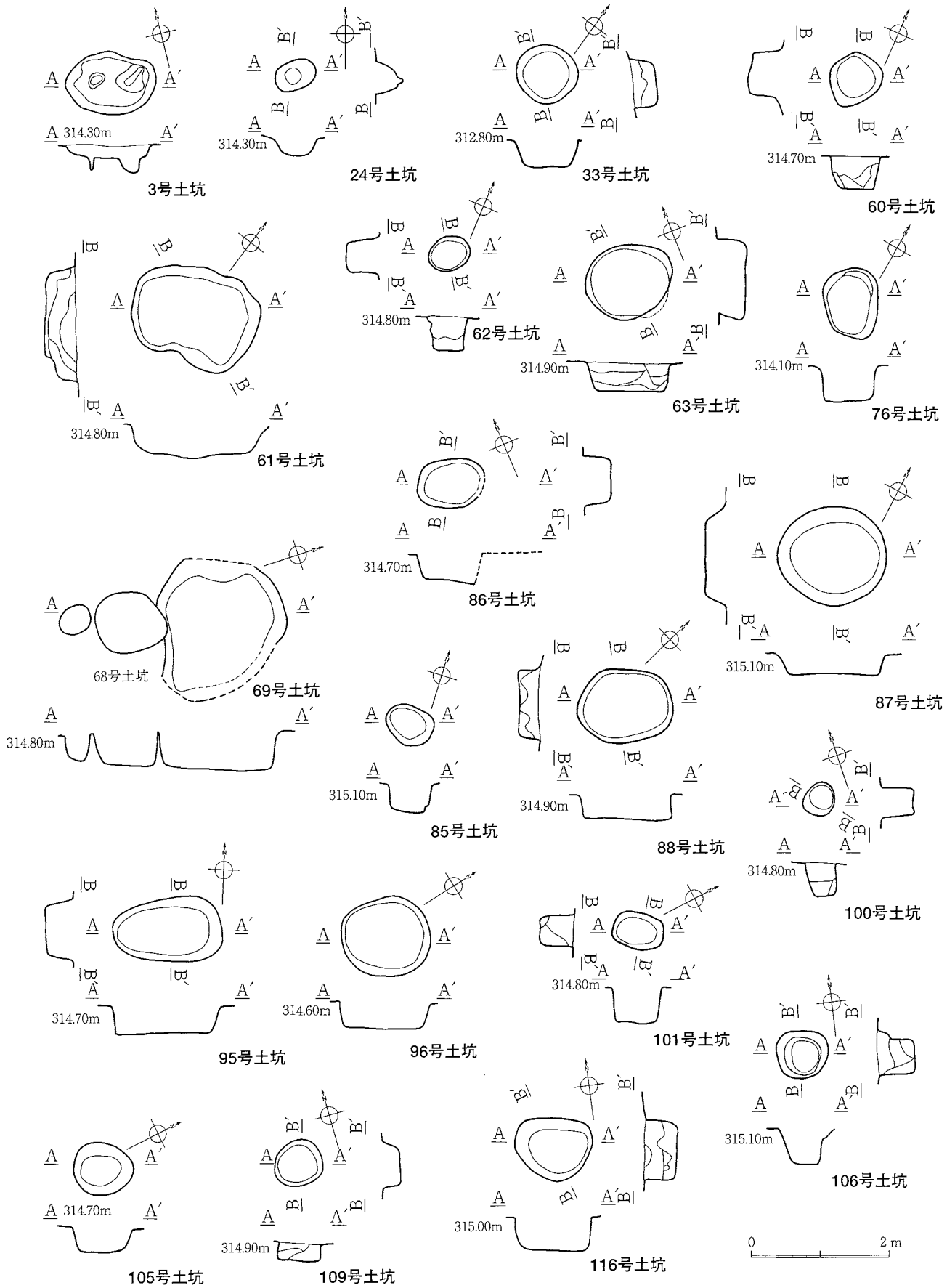


473号土坑

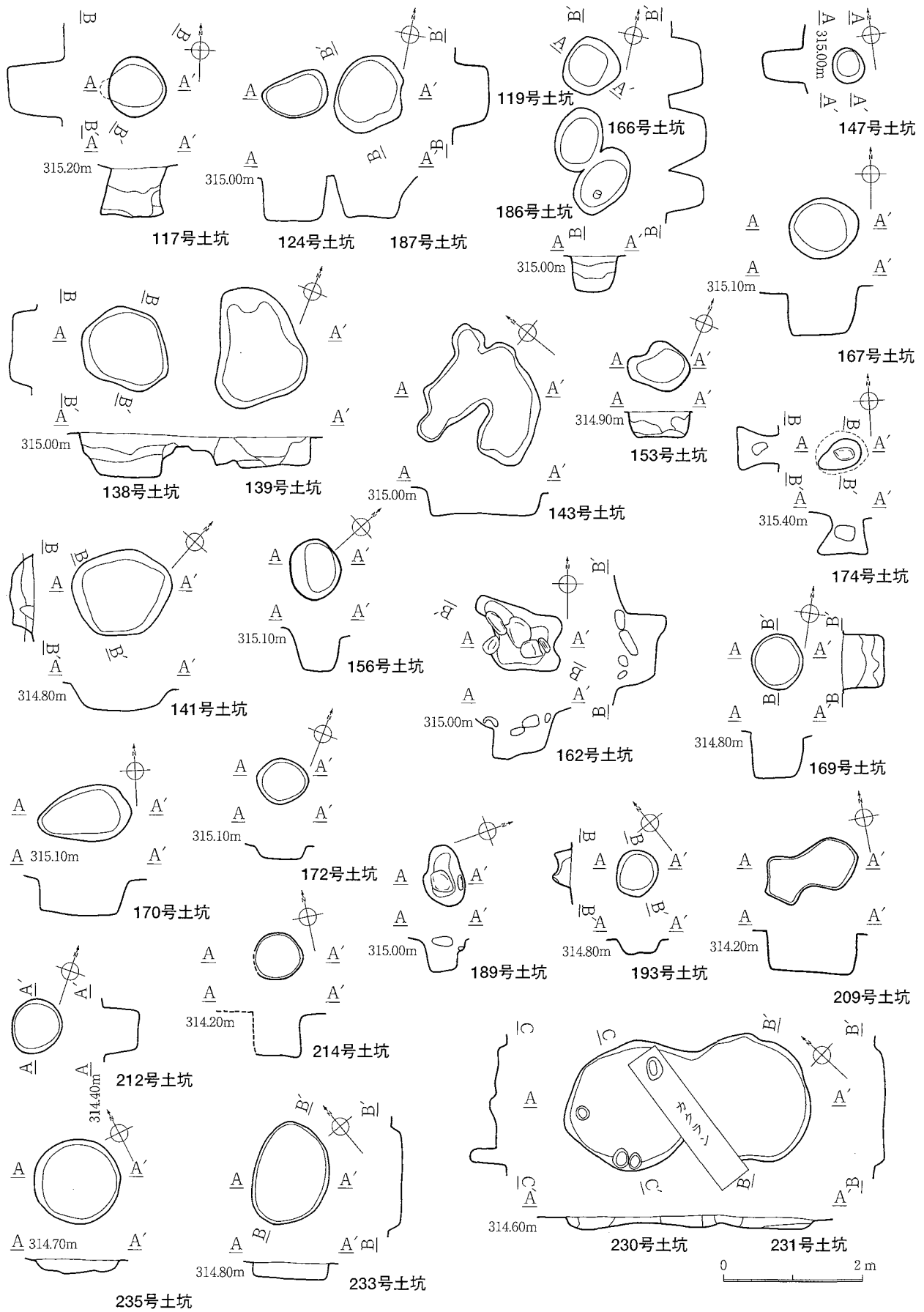
- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量、炭化粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。



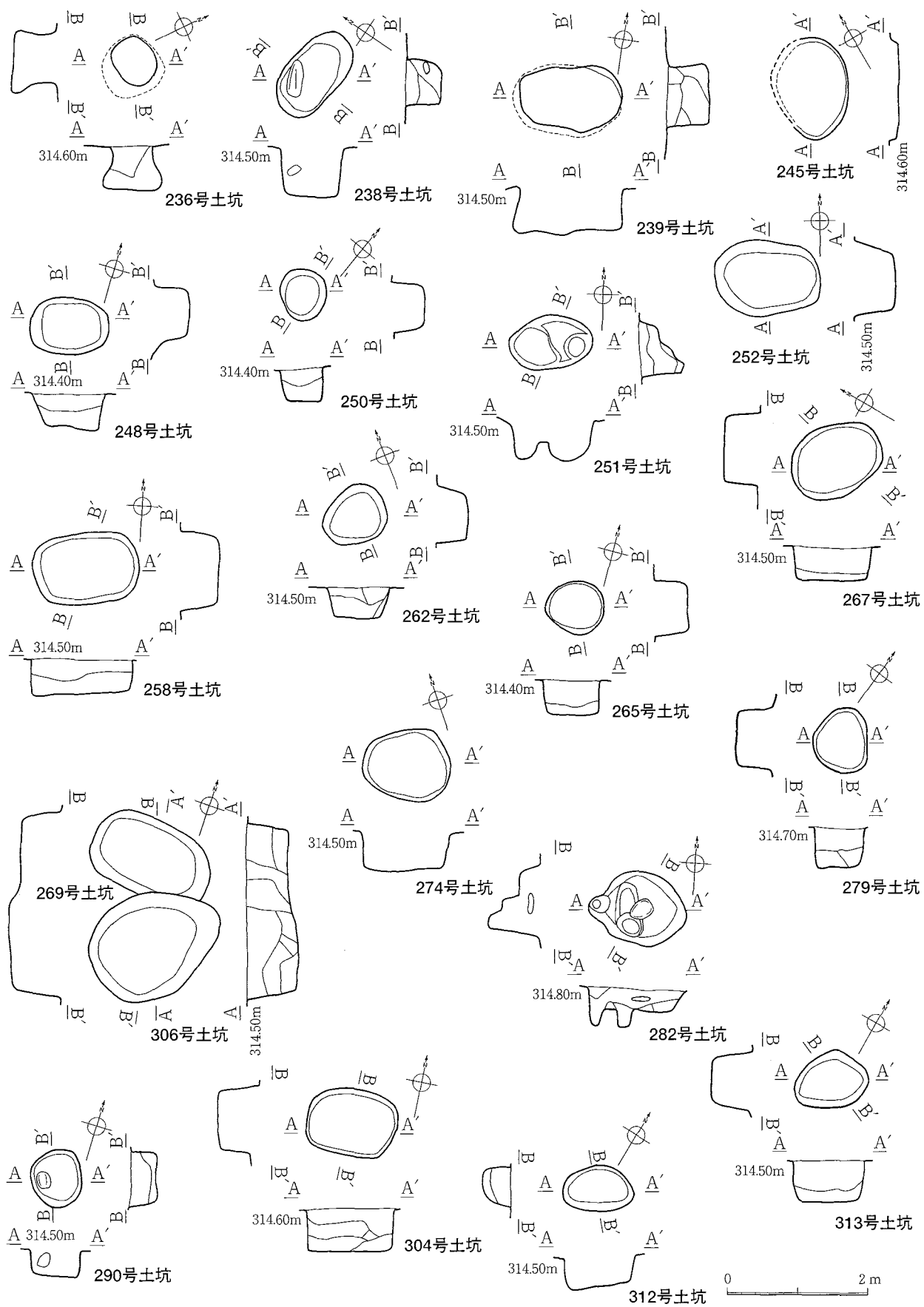
第391図 東地区土坑②



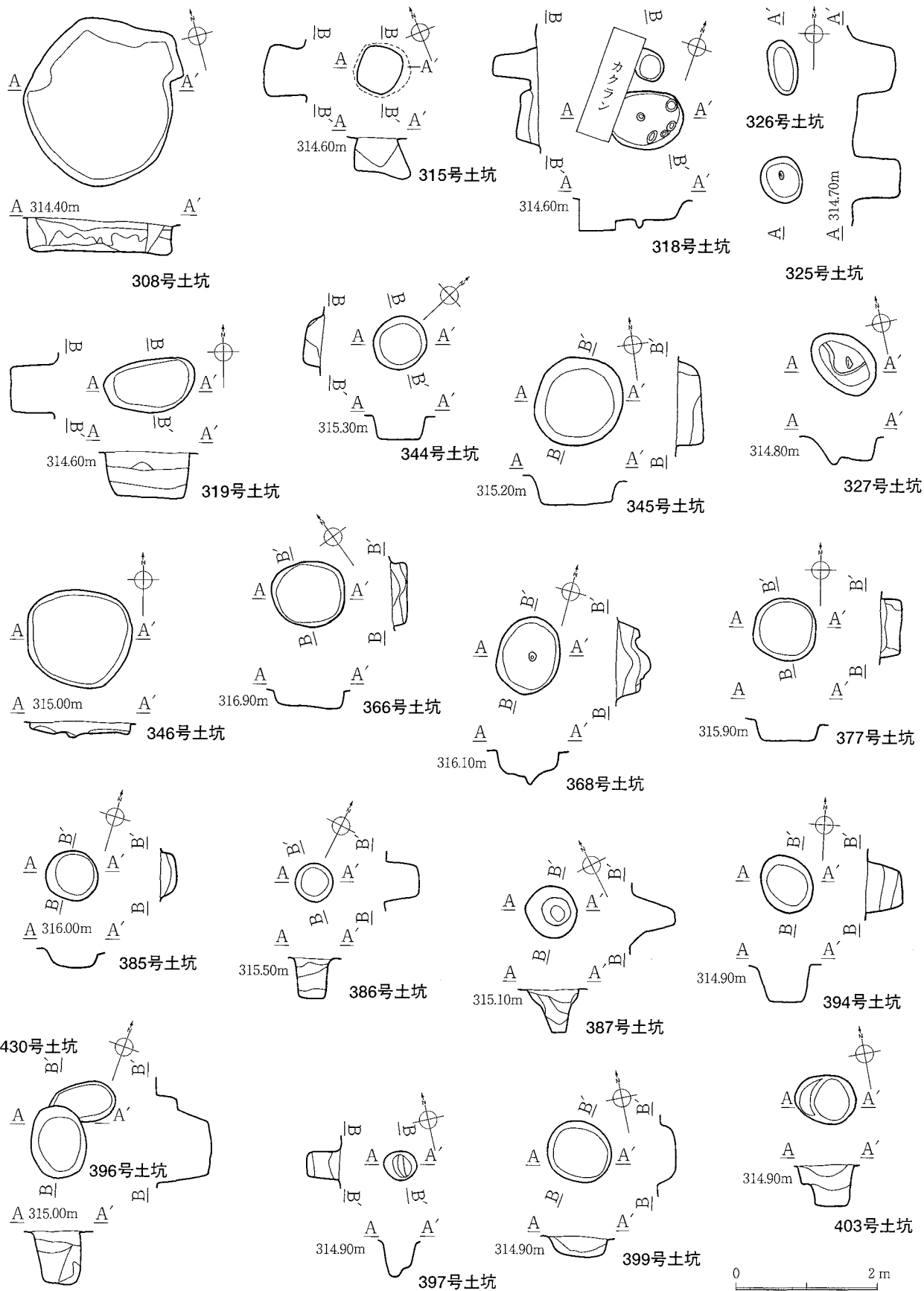
第392图 東地区土坑②



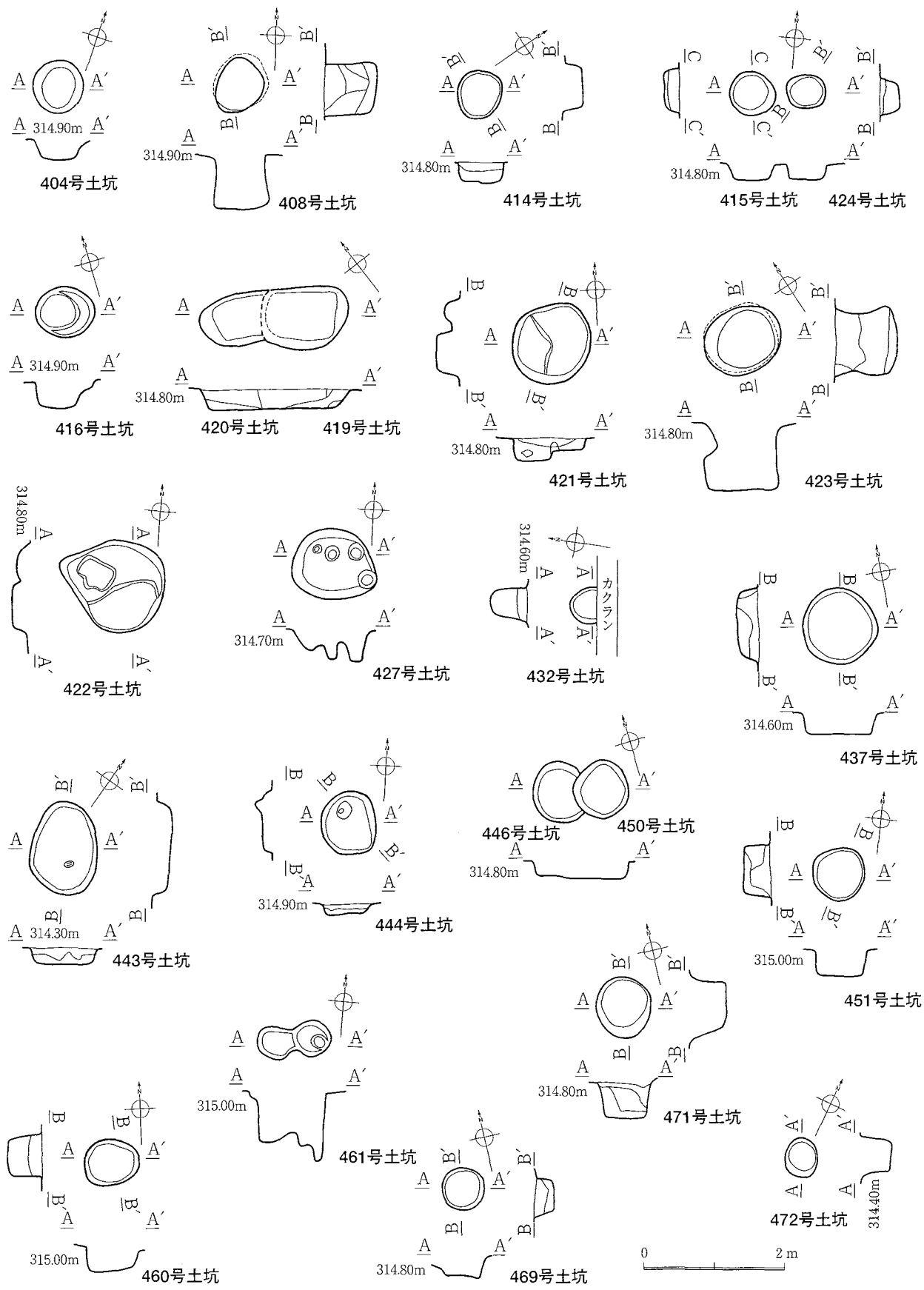
第393图 東地区土坑②



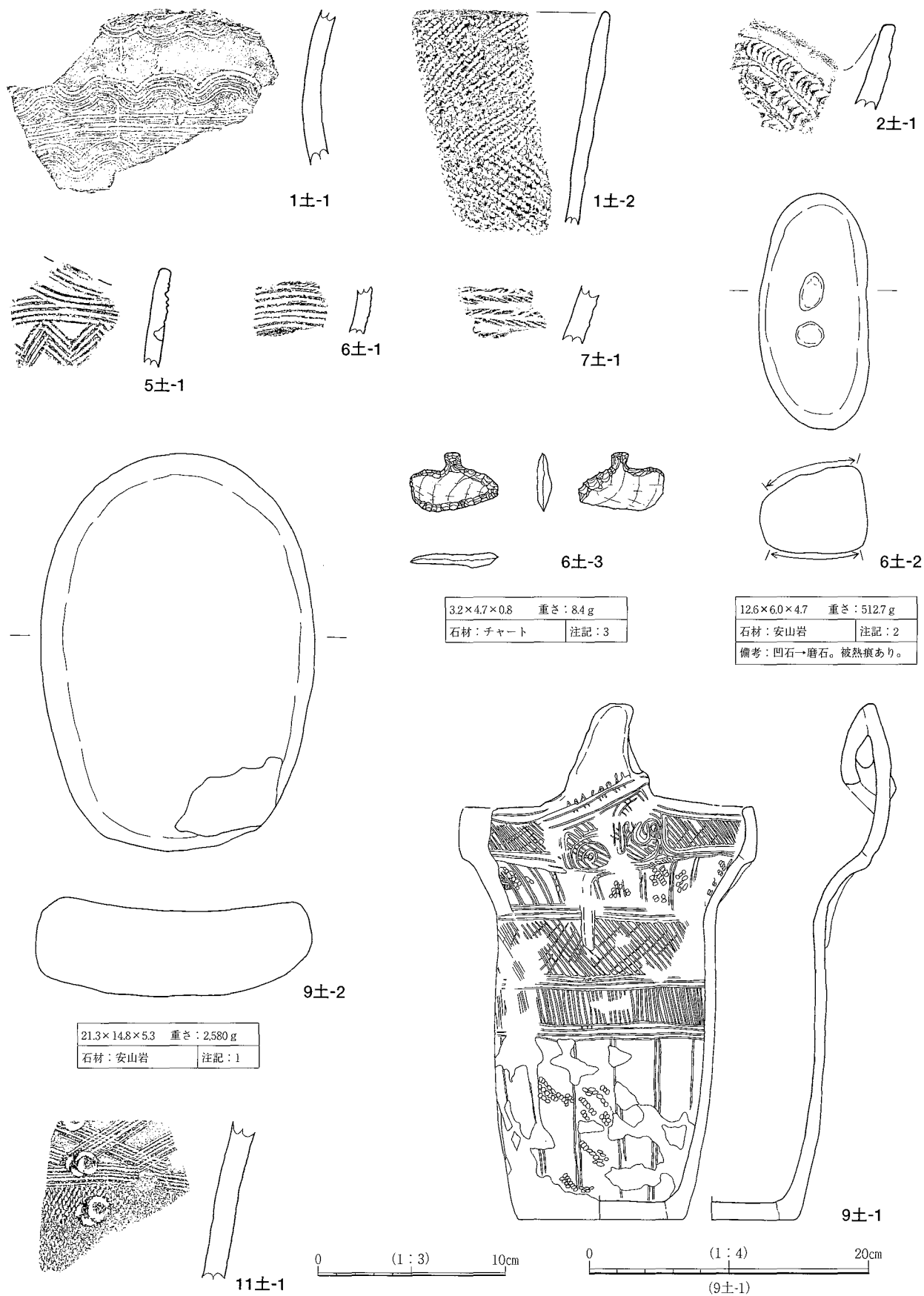
第394图 東地区土坑②



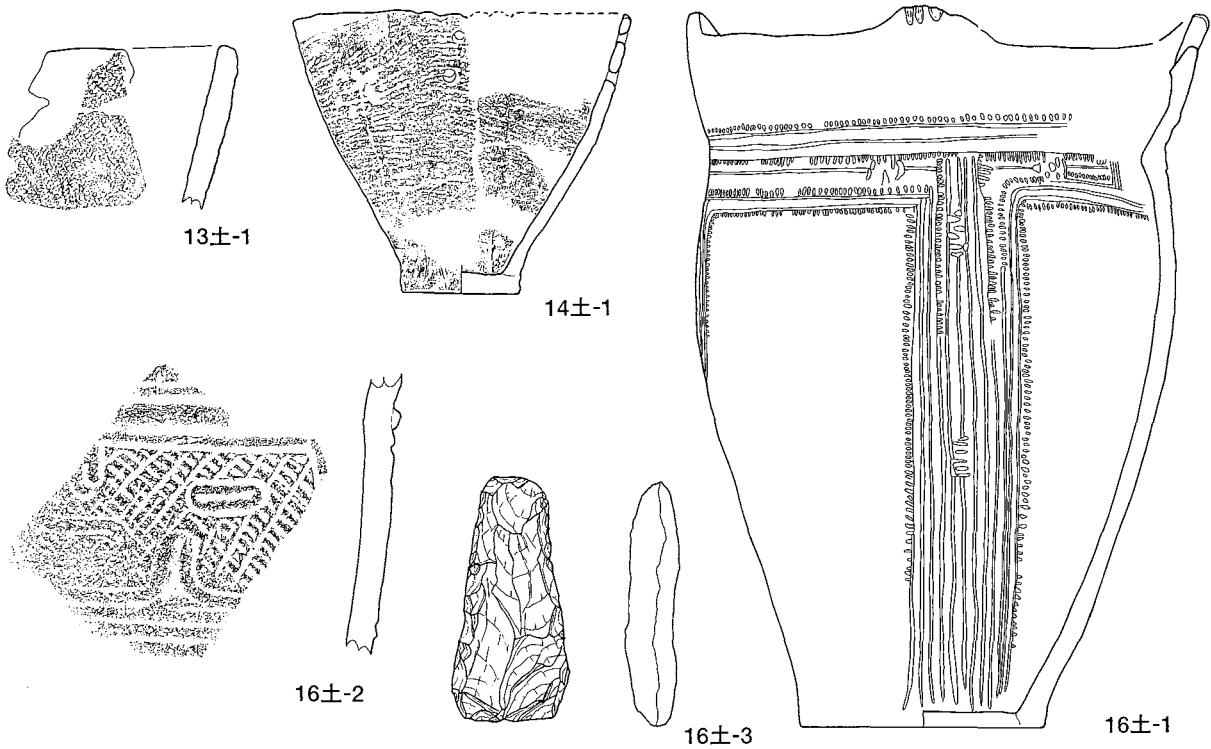
第395图 東地区土坑⑩



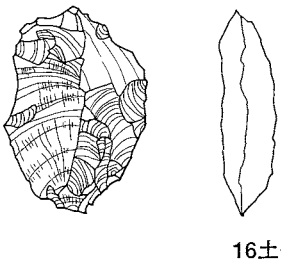
第396図 東地区土坑③



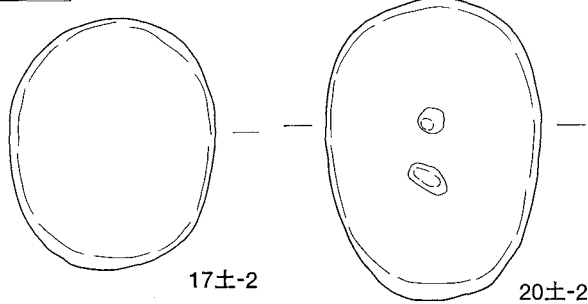
第397図 東地区土坑出土遺物①



9.6×4.6×2.2 重さ：83.5g
 石材：頁岩 注記：6

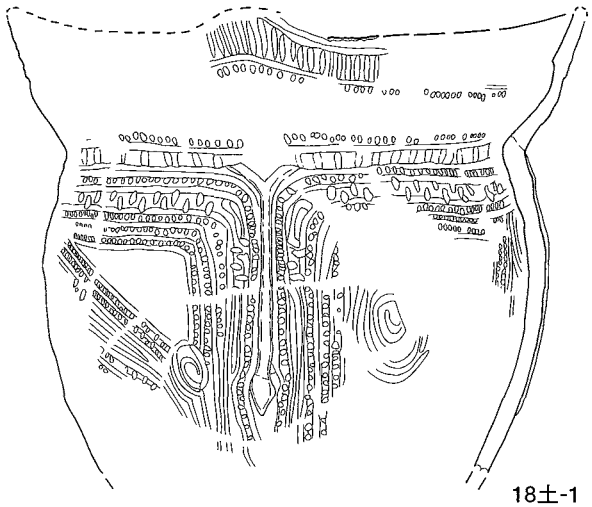


2.7×1.9×0.7 重さ：3.1g
 石材：黒曜岩 注記：-



10.0×8.2×3.0 重さ：329.8g
 石材：安山岩 注記：-

12.0×8.6×4.9 重さ：744.6g
 石材：安山岩 注記：2
 備考：凹石→磨石。



0 (1:3) 10cm

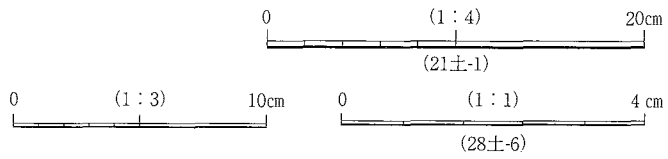
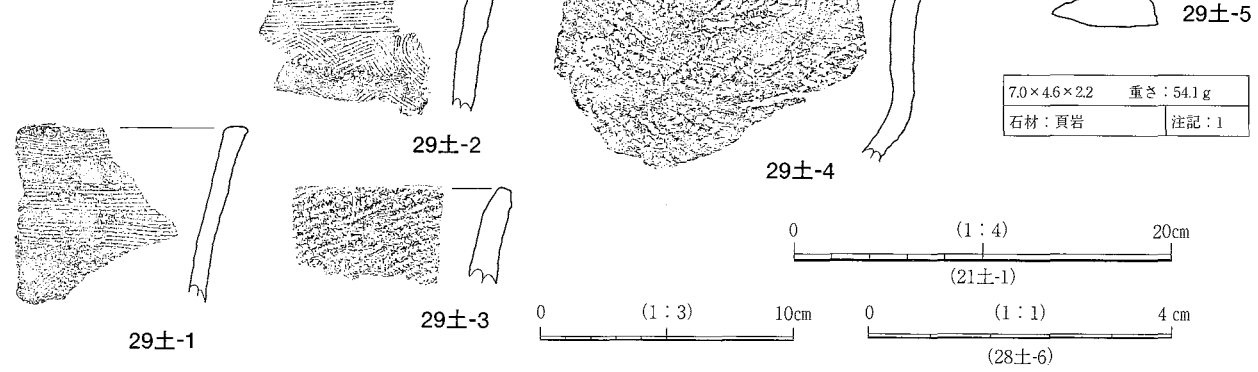
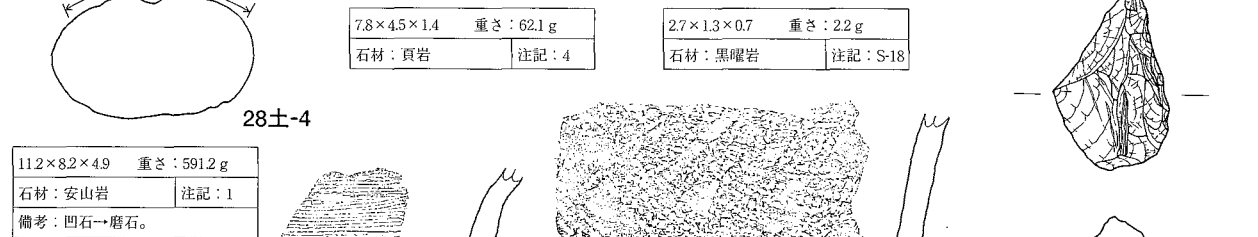
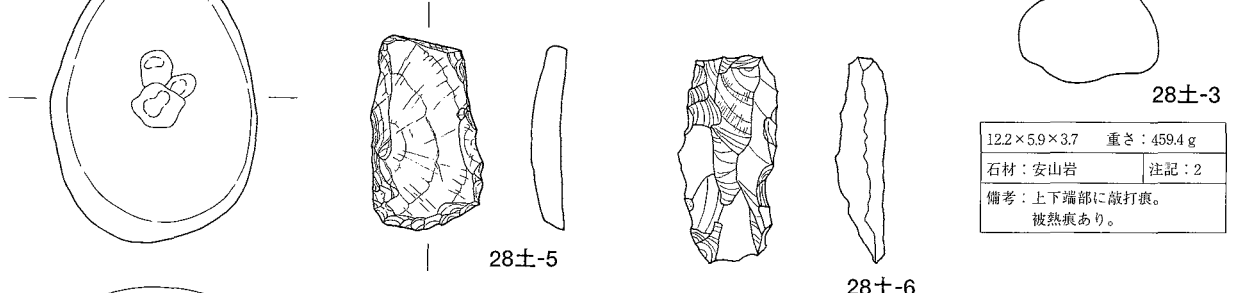
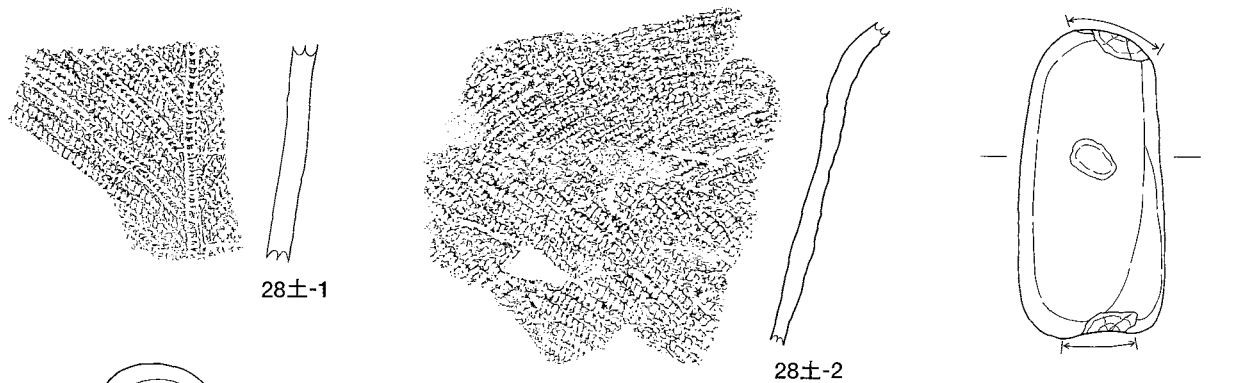
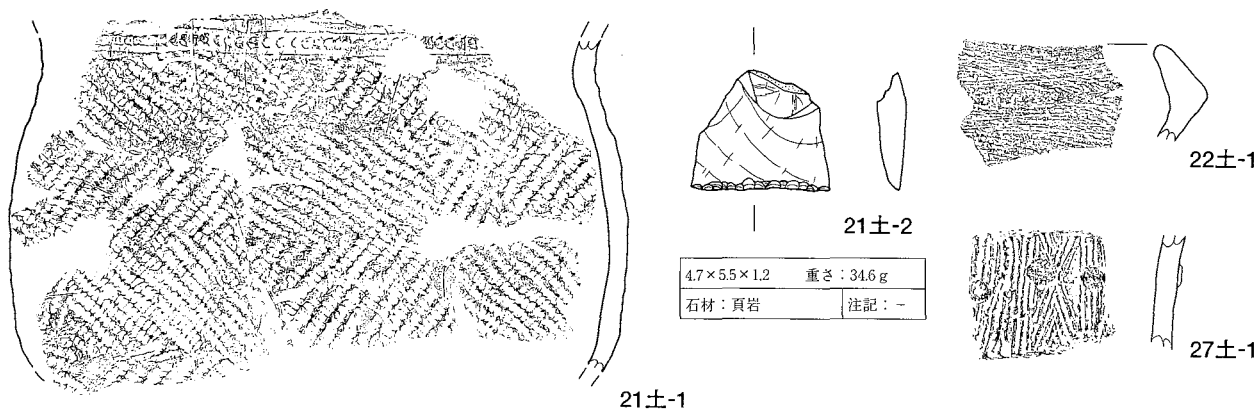
0 (1:1) 4cm

(16±-4)

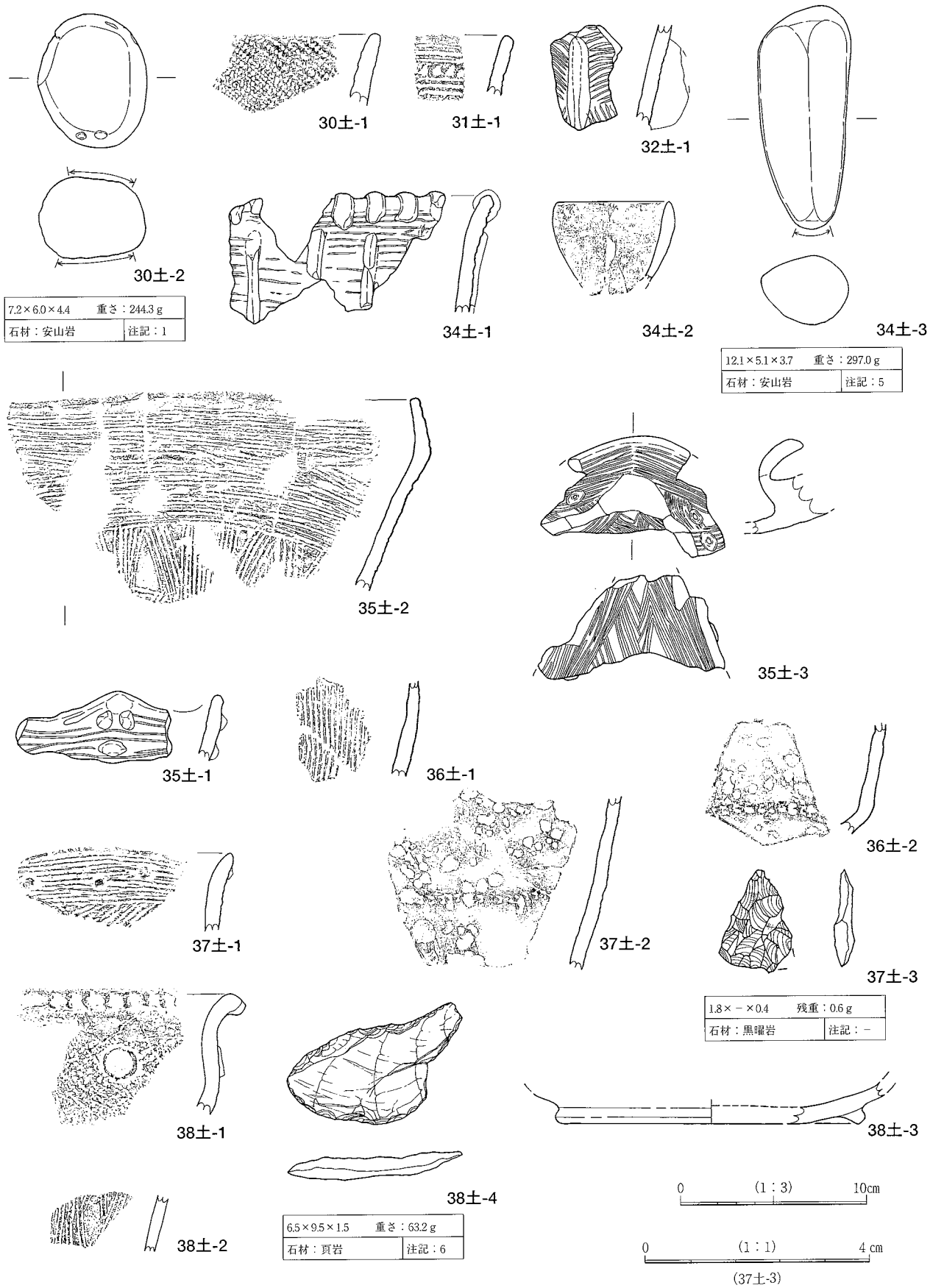
0 (1:4) 20cm

(14±-1, 16±-1, 18±-1)

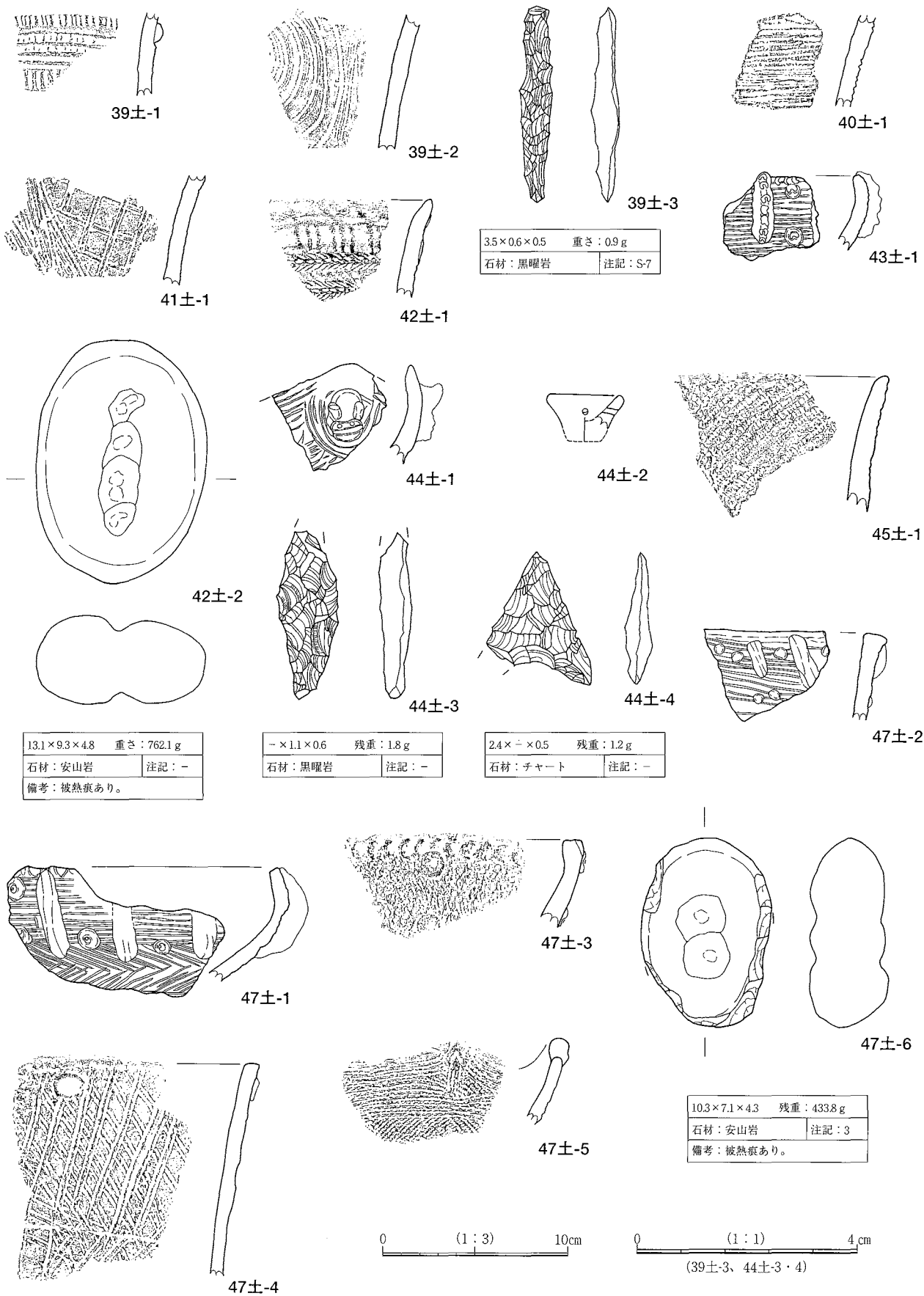
第398図 東地区土坑出土遺物②



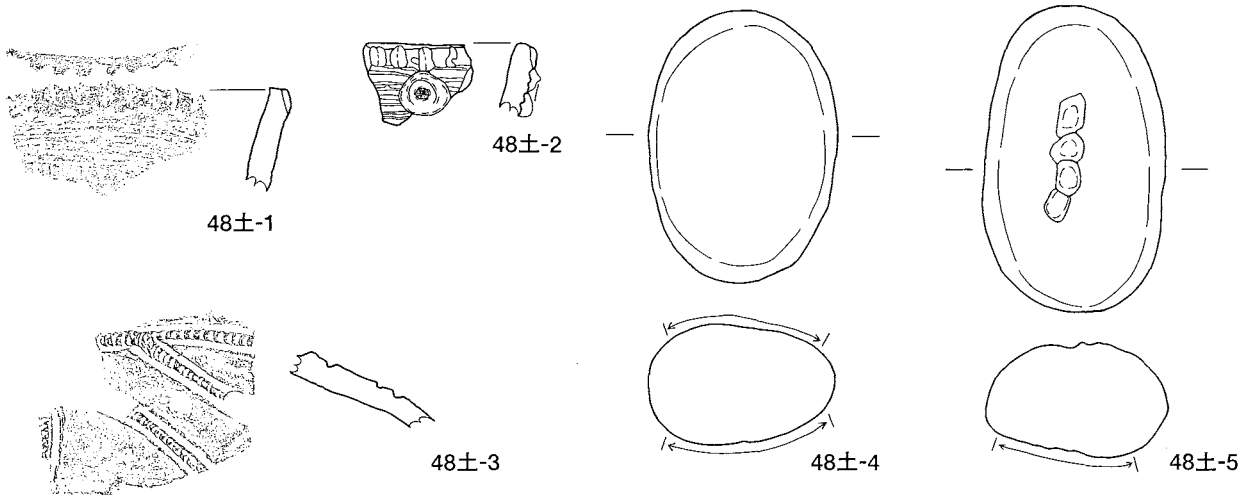
第399図 東地区土坑出土遺物③



第400図 東地区土坑出土遺物④



第401図 東地区土坑出土遺物⑤



48±-1

48±-2

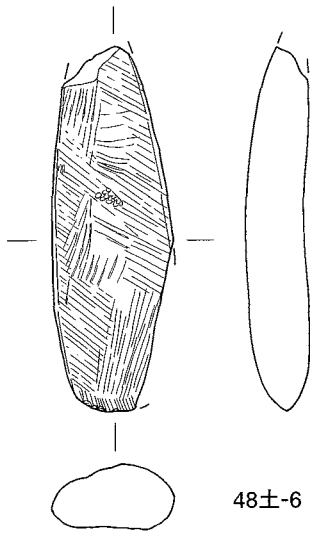
48±-3

48±-4

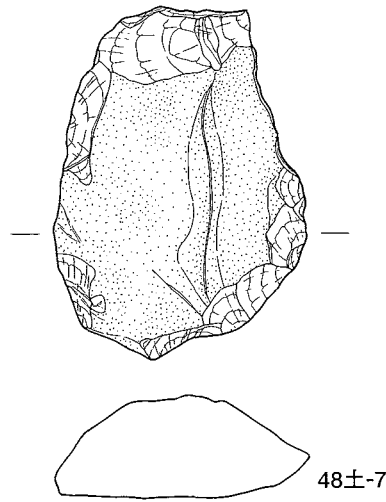
48±-5

10.9×7.4×4.9	重さ：593.5 g
石材：安山岩	注記：24

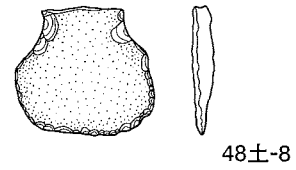
12.2×7.3×4.6	重さ：528.5 g
石材：安山岩	注記：22
備考：裏面は凹石→磨石。	



48±-6



48±-7



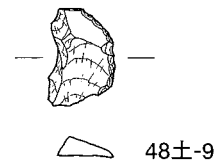
48±-8

5.2×5.6×0.9	重さ：30.2 g
石材：礫砂岩	注記：-

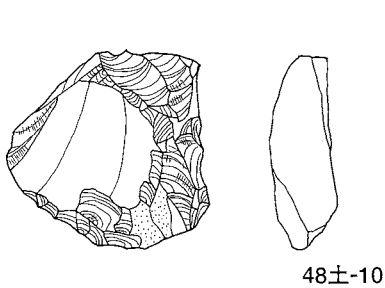
残14.5×4.8×2.9	残重：291.6 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：13

14.0×10.2×4.1	重さ：798.5 g
石材：安山岩	注記：3

3.9×2.7×0.8	重さ：8.0 g
石材：ホルンフェルス	注記：-

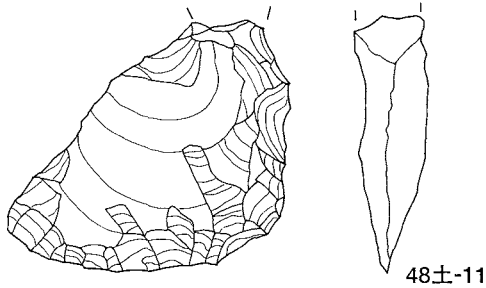


48±-9



48±-10

2.6×2.7×0.8	重さ：5.0 g
石材：黒曜岩	注記：-



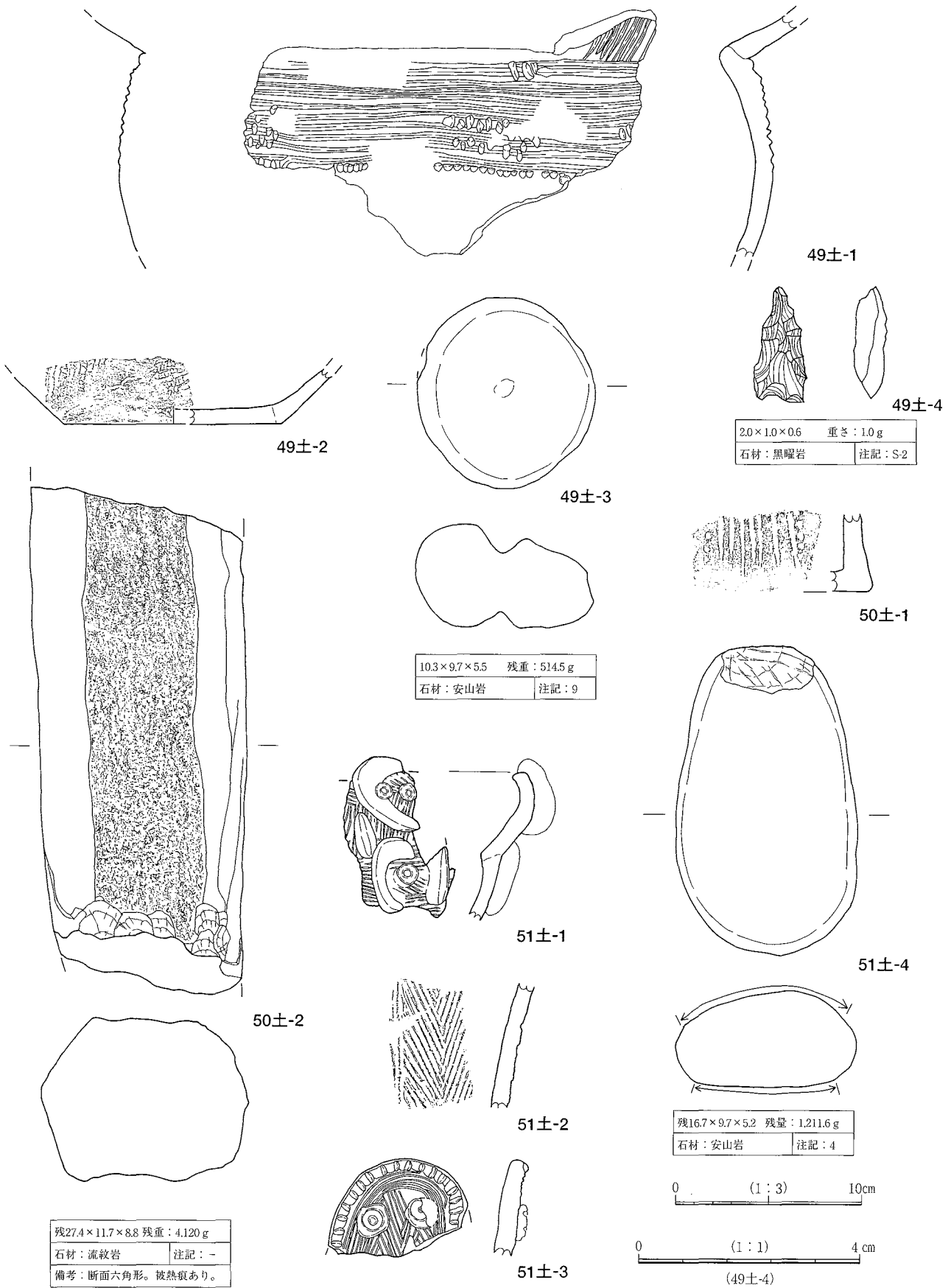
48±-11

-×3.7×0.9	残重：9.9 g
石材：チャート	注記：-

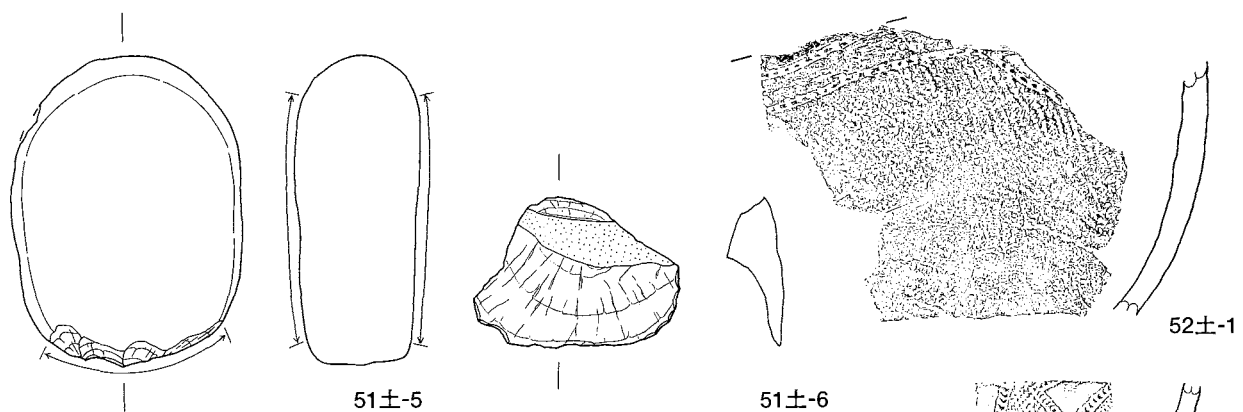
0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4cm
(48±-10・11)

第402図 東地区土坑出土遺物⑥

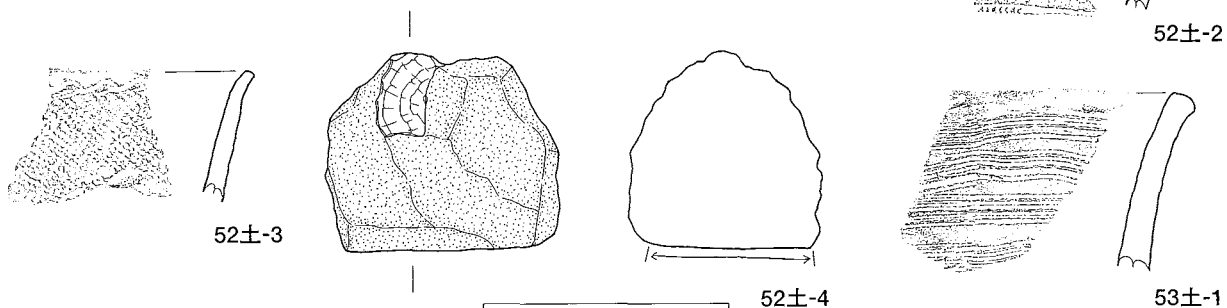


第403図 東地区土坑出土遺物⑦

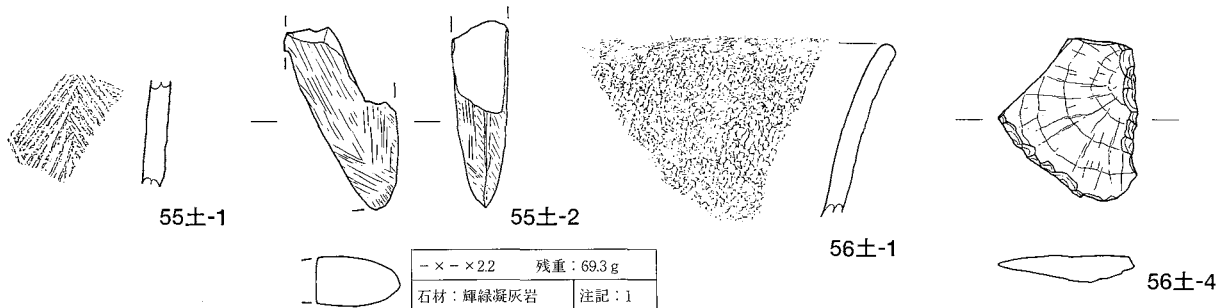
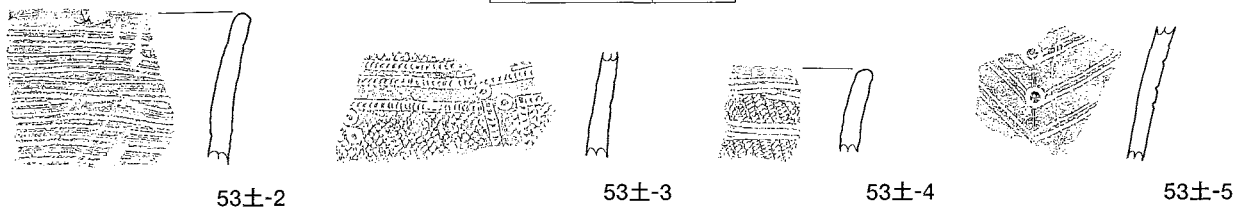


123×9.2×5.1	残重：941.9 g
石材：安山岩	注記：7
備考：下側に敲打痕あり。	

6.0×8.2×2.4	重さ：83.1 g
石材：輝緑岩	注記：10

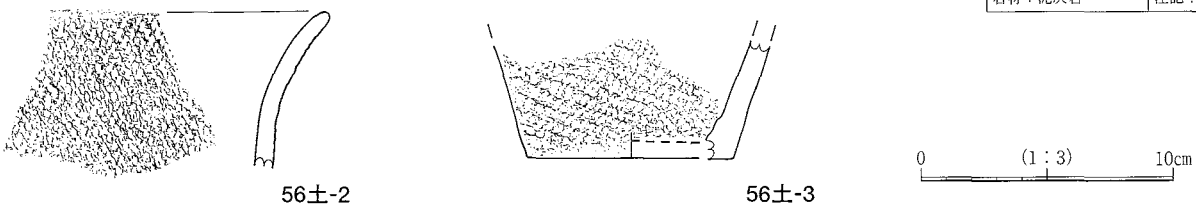


7.9×9.4×7.7	重さ：831.9 g
石材：安山岩	注記：1

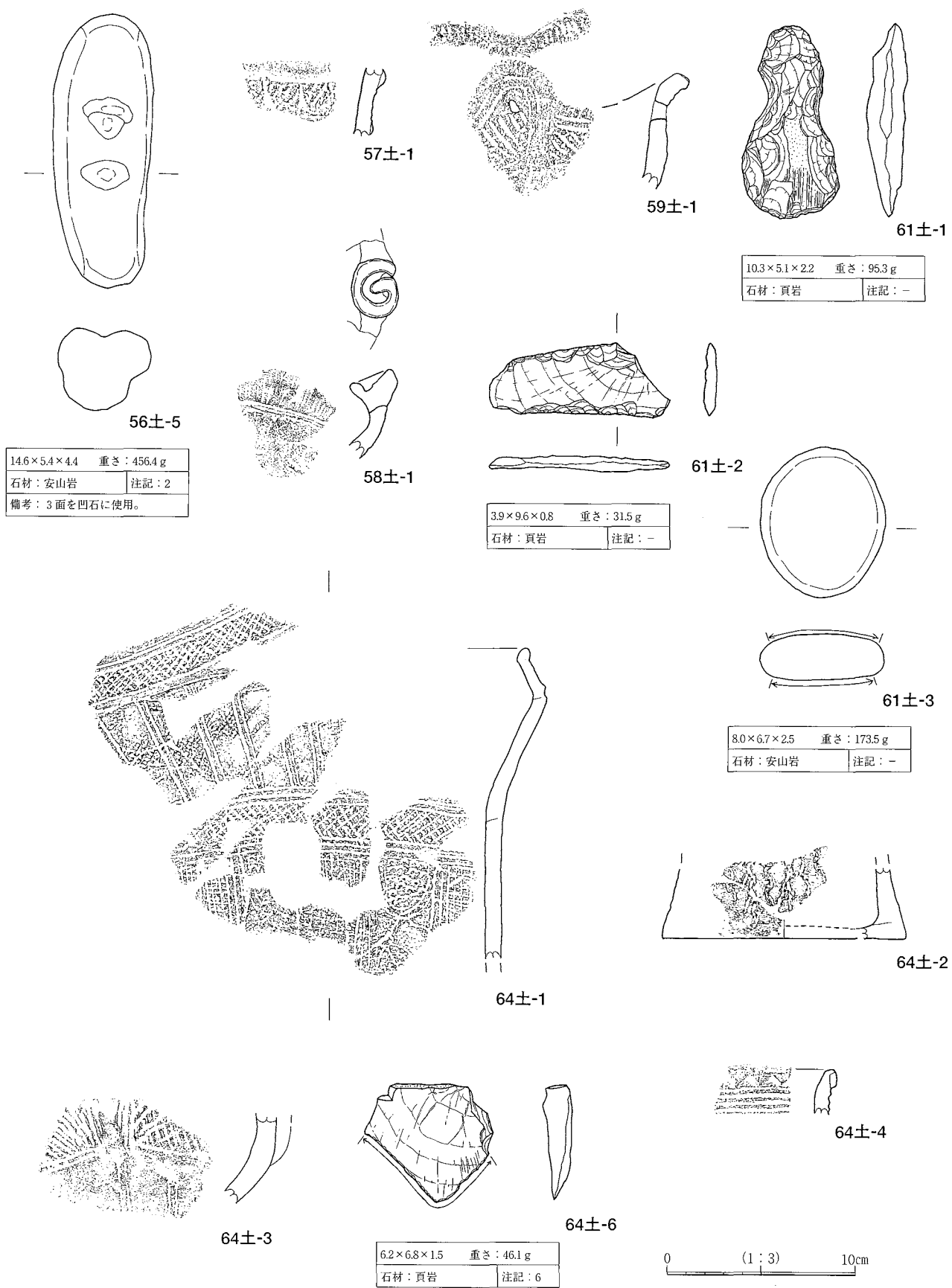


- × - × 2.2	残重：69.3 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：1

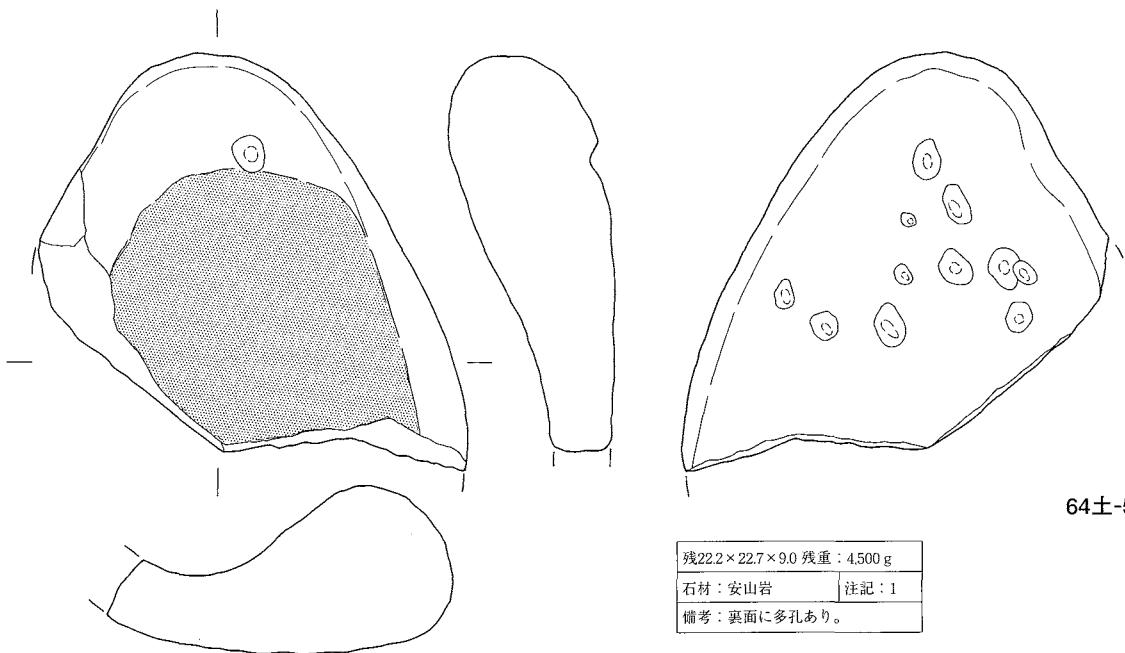
6.4×5.5×1.1	重さ：36.5 g
石材：泥灰岩	注記：13



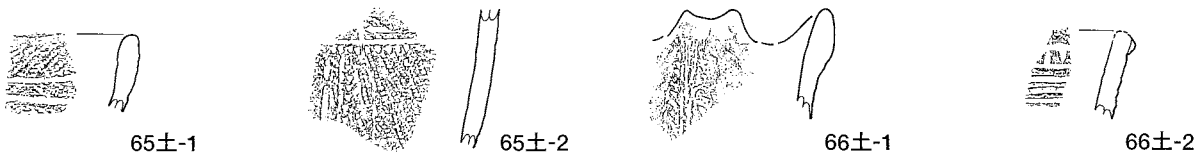
第404図 東地区土坑出土遺物⑧



第405図 東地区土坑出土遺物⑨



64±-5

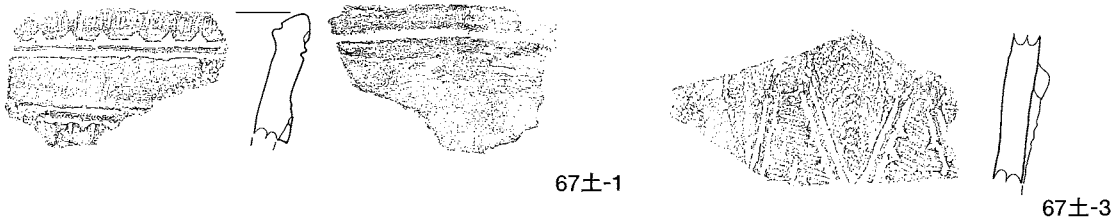


65±-1

65±-2

66±-1

66±-2



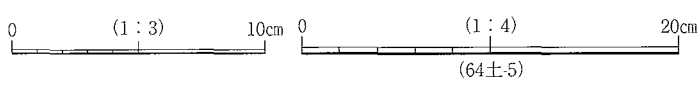
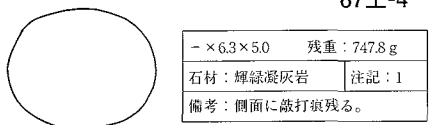
67±-1

67±-3

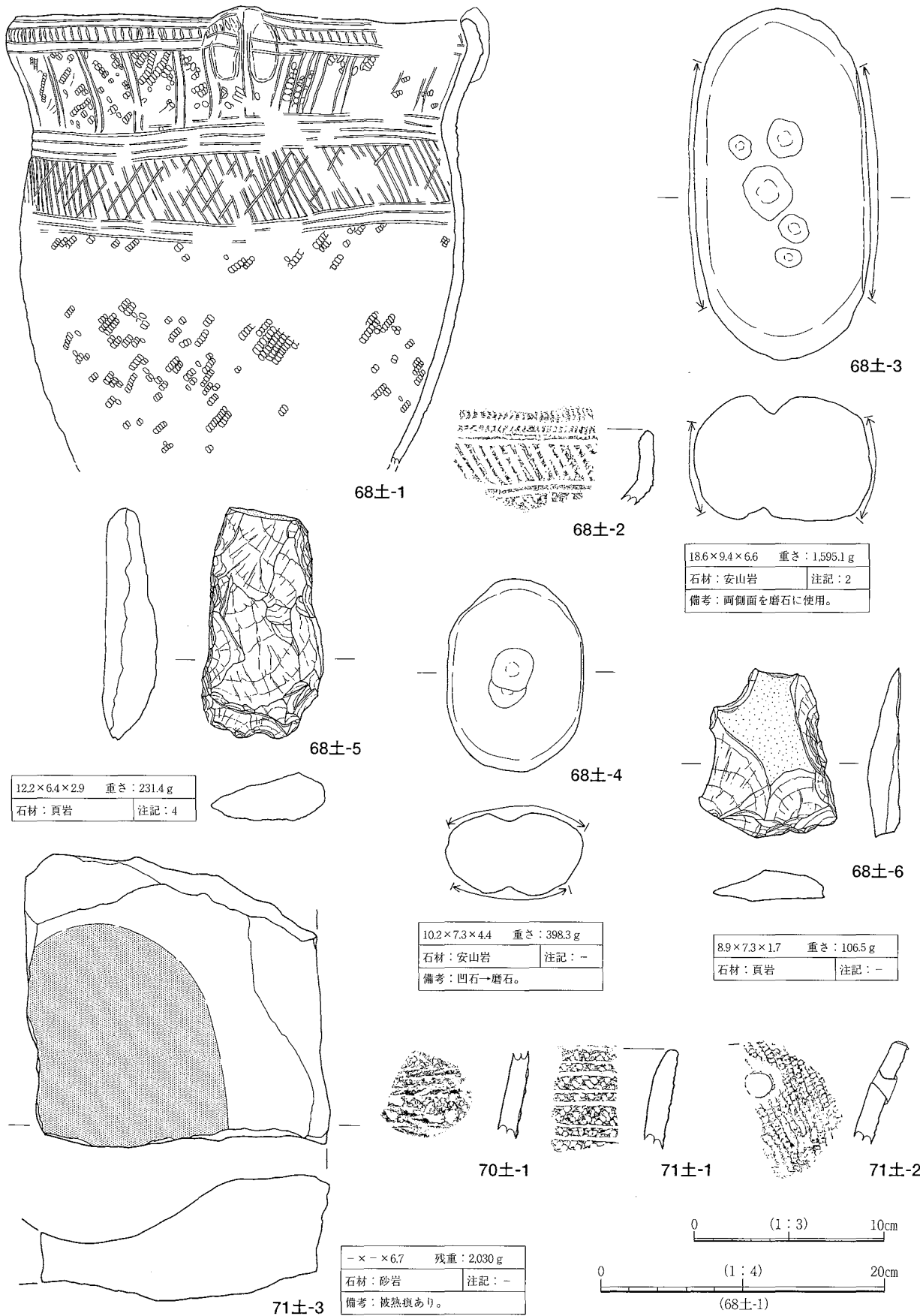


67±-4

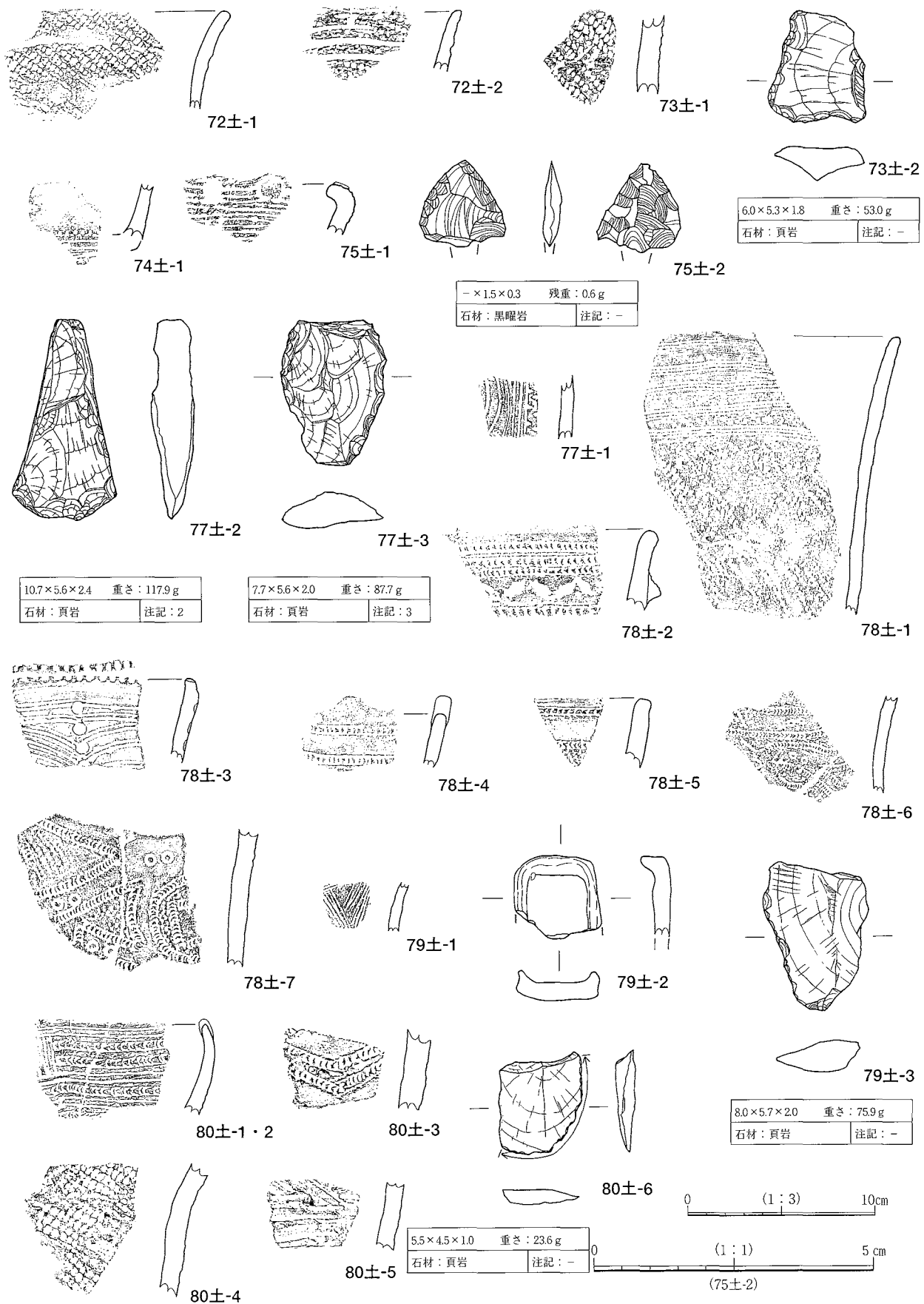
67±-2



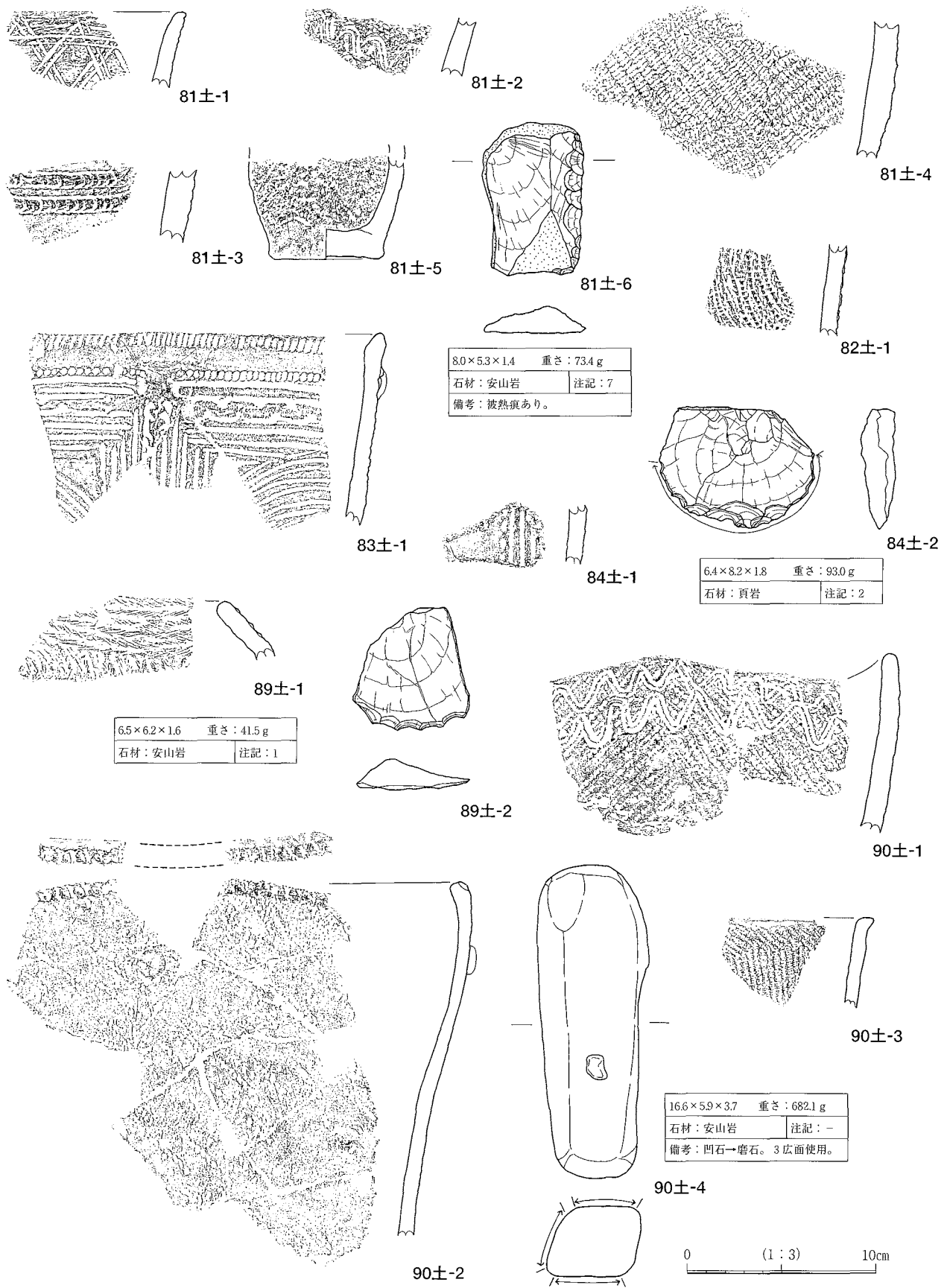
第406図 東地区土坑出土遺物⑩



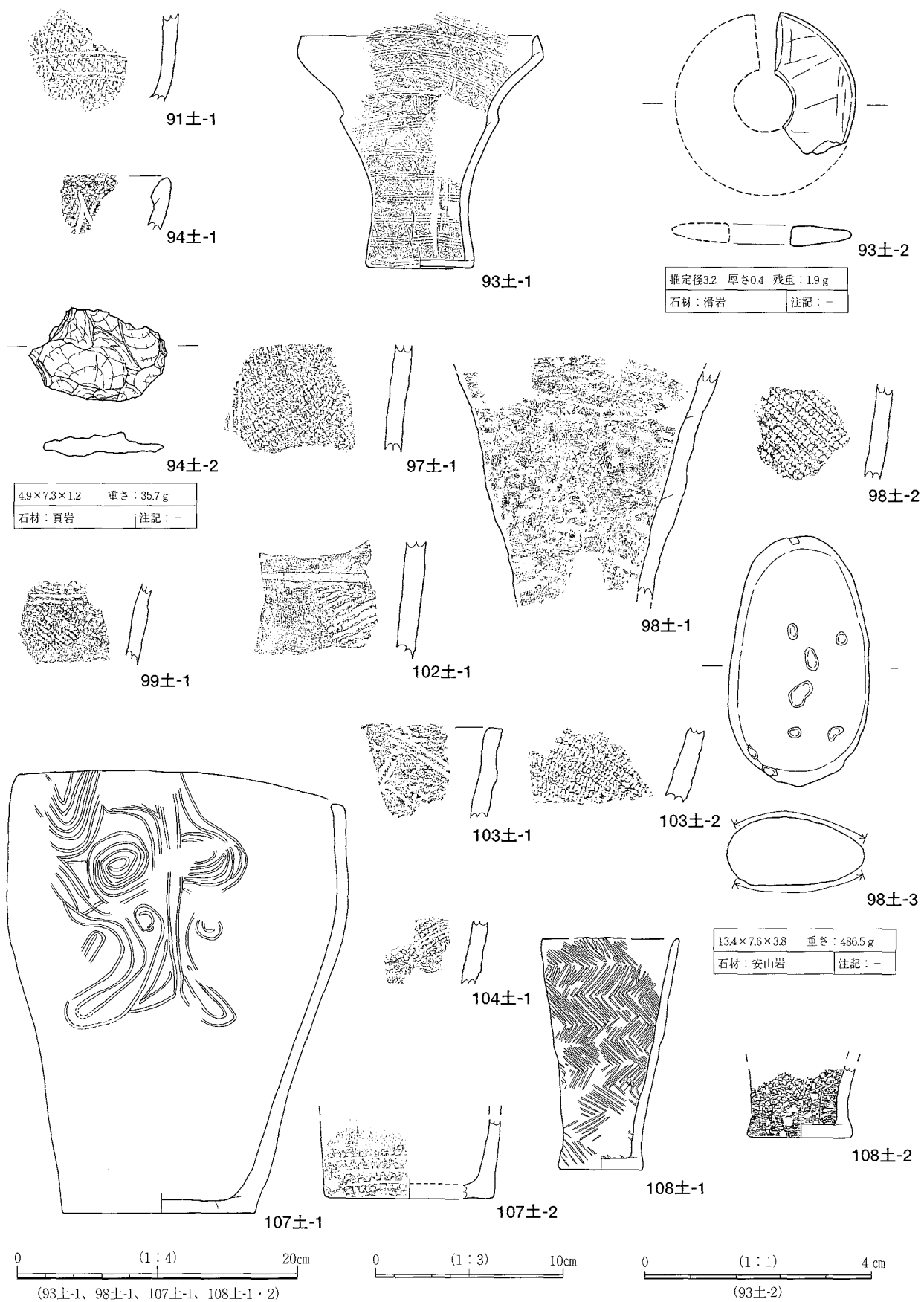
第407図 東地区土坑出土遺物⑪



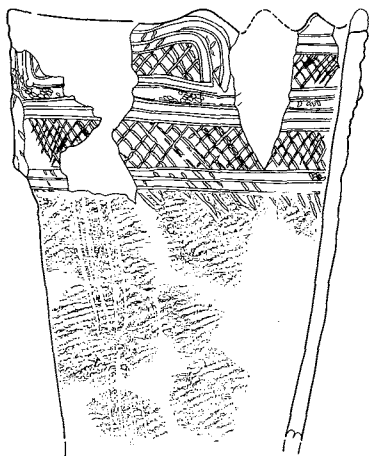
第408図 東地区土坑出土遺物⑫



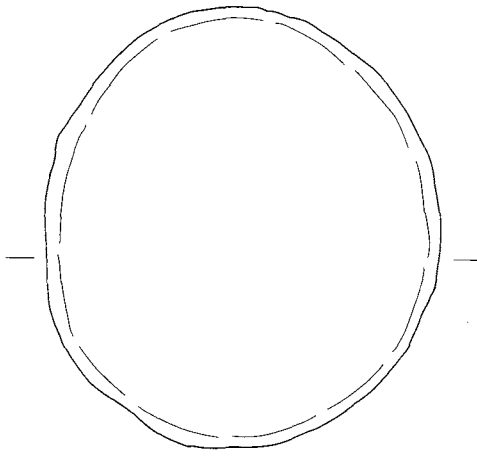
第409図 東地区土坑出土遺物⑬



第410図 東地区土坑出土遺物⑭

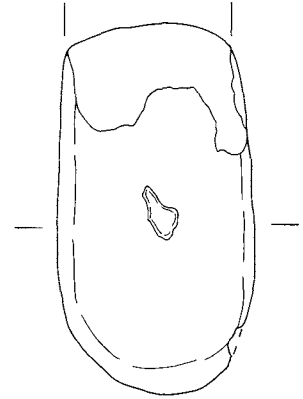


110±-1



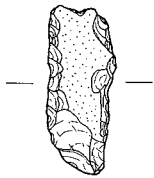
110±-2

17.5×15.7×4.4	重さ：1.660.7 g
石材：安山岩	注記：2



110±-3

- ×7.9×4.8	残重：893.7 g
石材：安山岩	注記：6
備考：凹石→磨石。	



110±-4

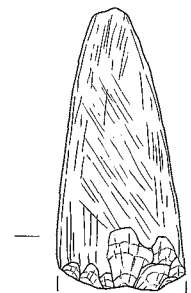
6.6×2.7×0.5	重さ：10.8 g
石材：黒色安山岩	注記：-



111±-1



112±-1



112±-2

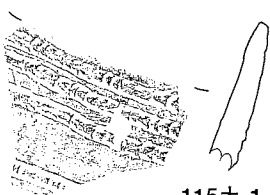
- ×5.1×2.6	残重：225.1 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：-



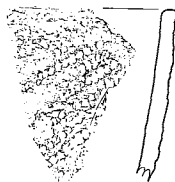
113±-1



114±-1



115±-1



115±-3



114±-2

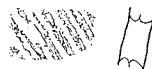


115±-4

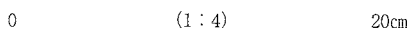
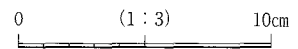
3.5×4.5×0.8	重さ：12.8 g
石材：頁岩	注記：-



115±-2

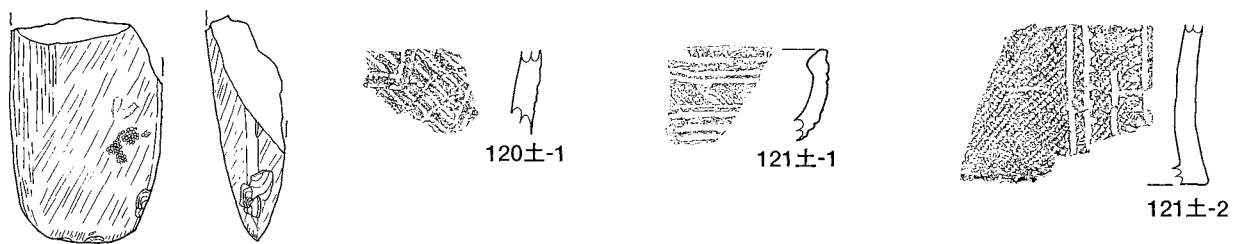


118±-1



(110±-1)

第411図 東地区土坑出土遺物⑮



119±-1

- × 6.0 × -	残重: 192.4 g
石材: 輝緑凝灰岩	注記: 3

120±-1

121±-1

121±-2



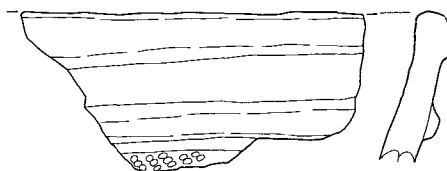
121±-4

- × 1.6 × 0.3	残重: 0.6 g
石材: チャート	注記: -



121±-3

8.7 × 3.7 × 2.1	重さ: 61.7 g
石材: 頁岩	注記: -



122±-1



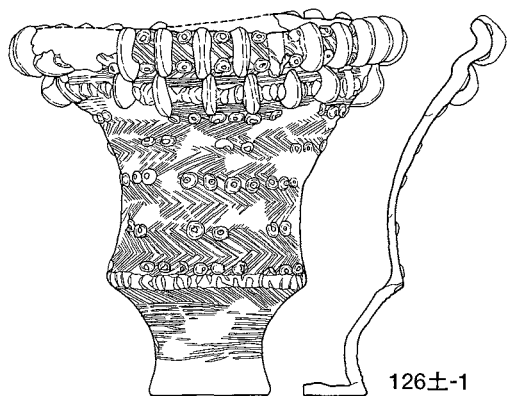
122±-2



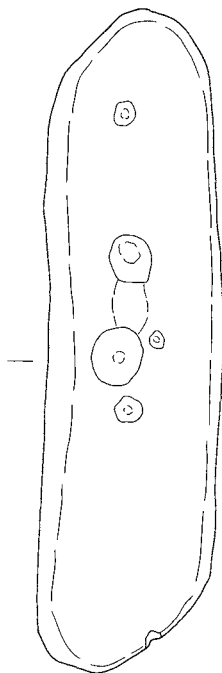
123±-1



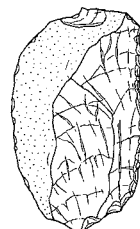
125±-1



126±-1

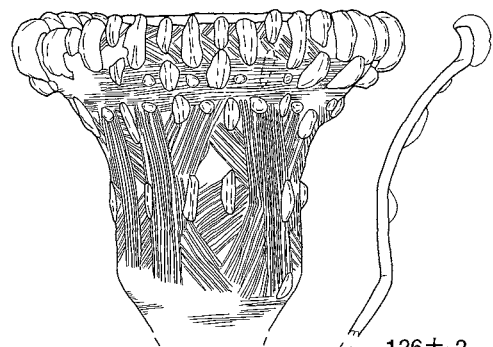


126±-3



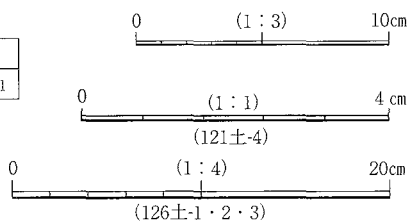
126±-4

9.0 × 5.3 × 1.5	重さ: 76.1 g
石材: 頁岩	注記: -

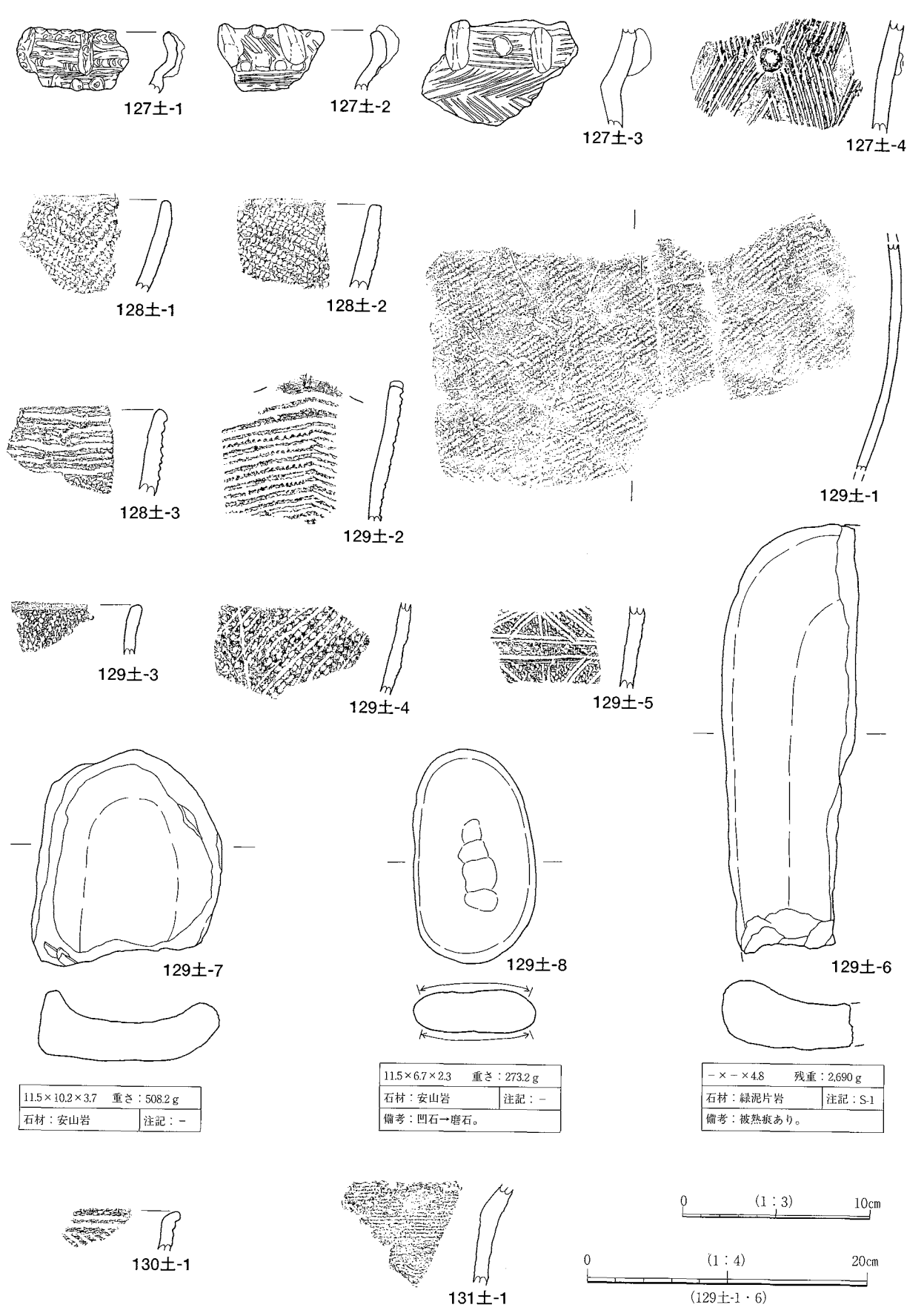


126±-2

35.4 × 9.9 × 5.5	重さ: 3,470 g
石材: 緑泥片岩	注記: S-1



第412図 東地区土坑出土遺物⑯

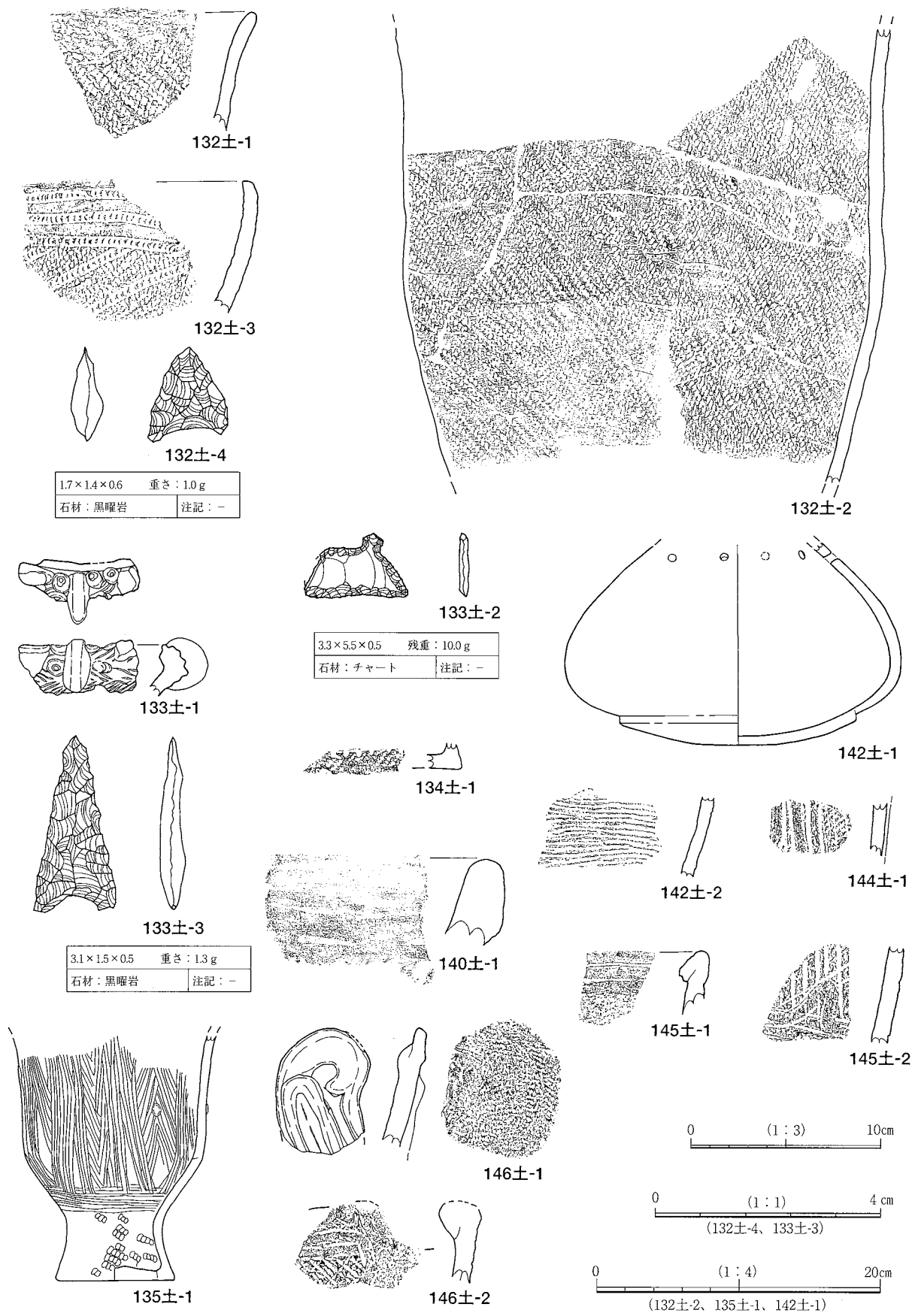


11.5 × 10.2 × 3.7	重さ: 508.2 g
石材: 安山岩	注記: -

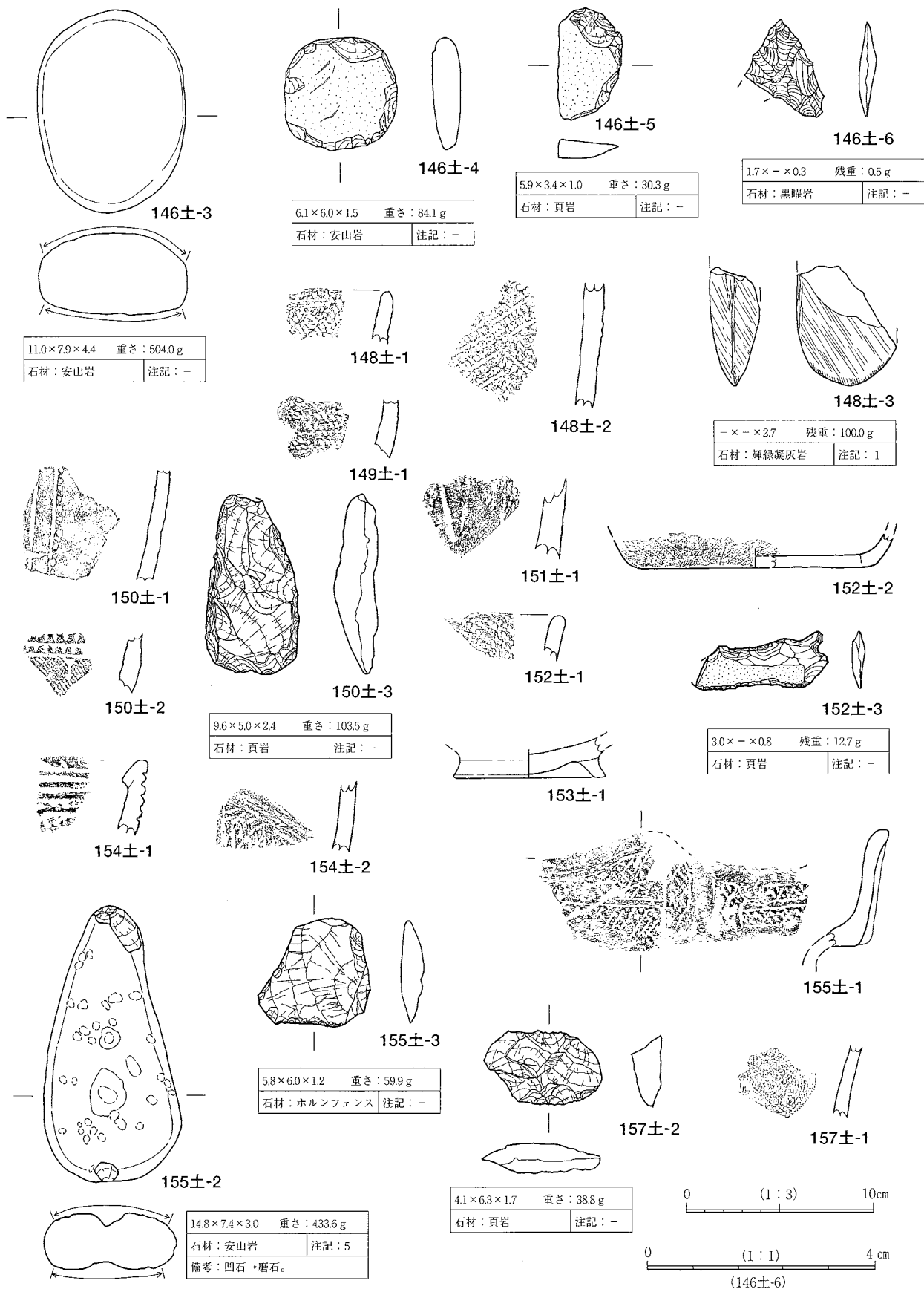
11.5 × 6.7 × 2.3	重さ: 273.2 g
石材: 安山岩	注記: -
備考: 凹石→磨石。	

- × - × 4.8	残重: 2,690 g
石材: 緑泥片岩	注記: S-1
備考: 被熟痕あり。	

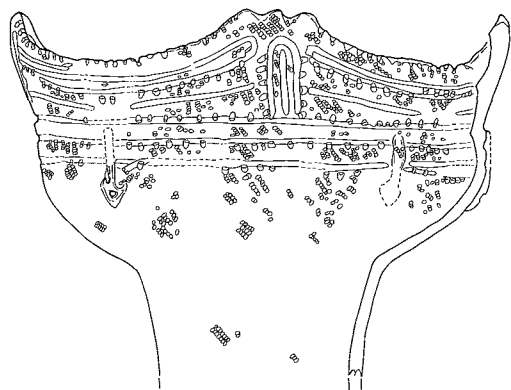
第413図 東地区土坑出土遺物⑰



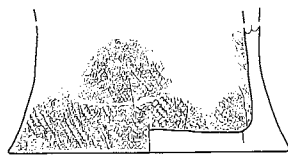
第414図 東地区土坑出土遺物⑱



第415図 東地区土坑出土遺物⑨



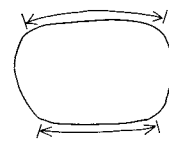
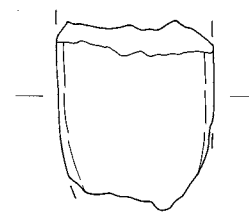
158土-1



158土-2



158土-3

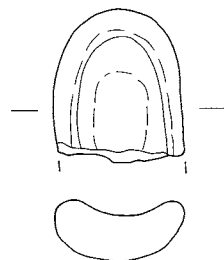


158土-4

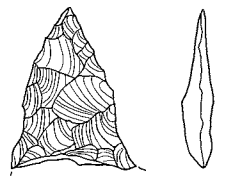
- × 6.4 × 4.1	残重: 286.6 g
石材: 安山岩	注記: 10
備考: 被熱痕あり。	



160土-1

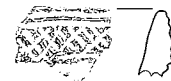


160土-2



160土-3

- × 1.6 × 0.4	残重: 0.8 g
石材: 黒曜岩	注記: -

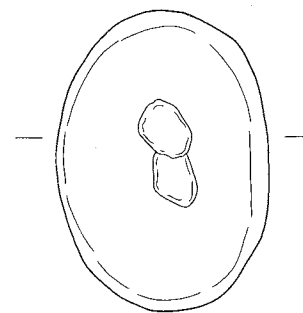


161土-1



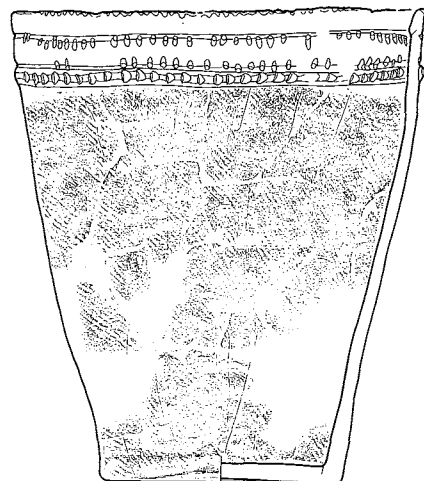
164土-1

- × 5.3 × 2.4	残重: 111.3 g
石材: 安山岩	注記: -

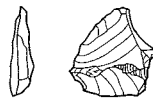


162土-1

11.9 × 8.6 × 4.1	重さ: 587.9 g
石材: 安山岩	注記: -
備考: 凹石→磨石。	

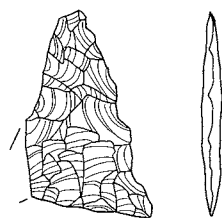


168土-1



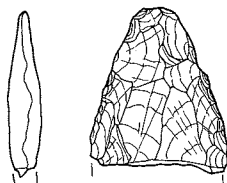
168土-3

3.5 × 3.5 × 1.0	重さ: 9.5 g
石材: チャート	注記: -



168土-4

2.7 × - × 0.3	残重: 1.1 g
石材: チャート	注記: -



168土-2

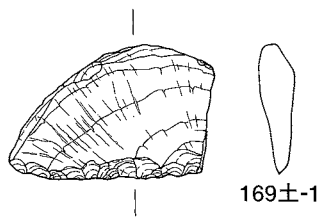
- × 5.5 × 1.3	残重: 44.5 g
石材: 頁岩	注記: -

0 (1:3) 10cm

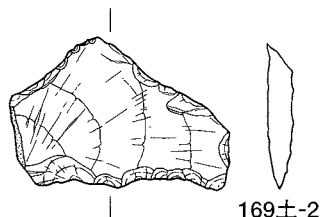
0 (1:1) 4cm
(160土-3, 168土-4)

0 (1:4) 20cm
(158土-1・2, 168土-1)

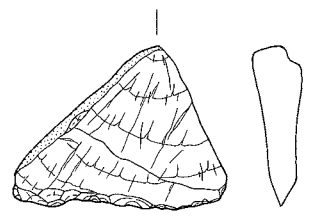
第416図 東地区土坑出土遺物②



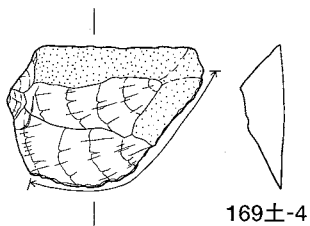
5.3×8.2×1.5 重さ：71.8 g
 石材：頁岩 注記：-



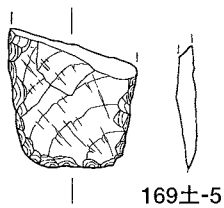
6.1×8.7×1.1 重さ：73.1 g
 石材：頁岩 注記：1



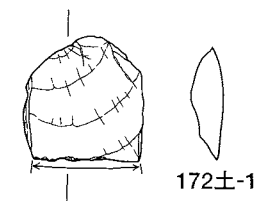
6.5×8.5×2.0 重さ：80.9 g
 石材：頁岩 注記：-



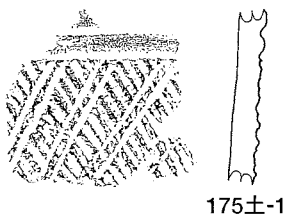
5.6×7.9×1.8 重さ：83.7 g
 石材：安山岩 注記：-



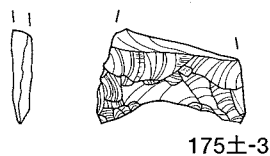
-×5.1×0.9 残重：31.2 g
 石材：頁岩 注記：-



5.0×4.8×1.3 重さ：34.8 g
 石材：頁岩 注記：2



175±-1



175±-3

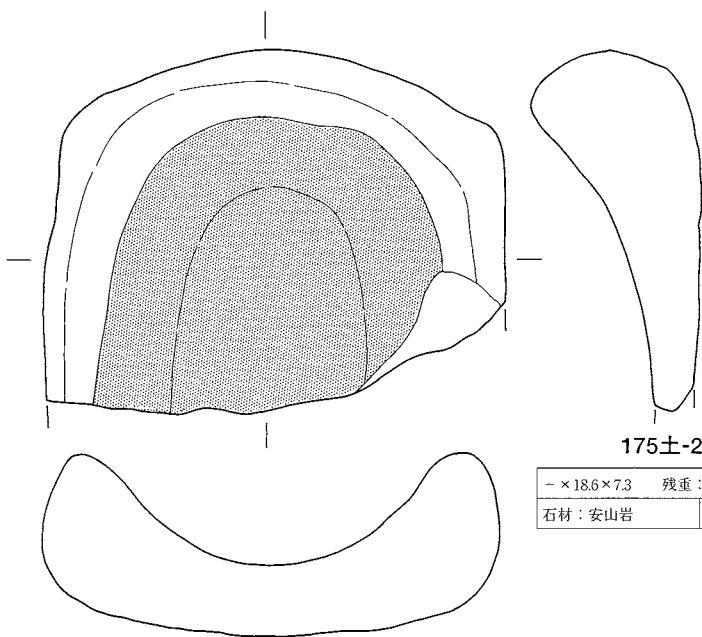
-×2.0×0.3 残重：0.7 g
 石材：黒曜岩 注記：-



177±-1



177±-2



175±-2

-×18.6×7.3 残重：2,110 g
 石材：安山岩 注記：1

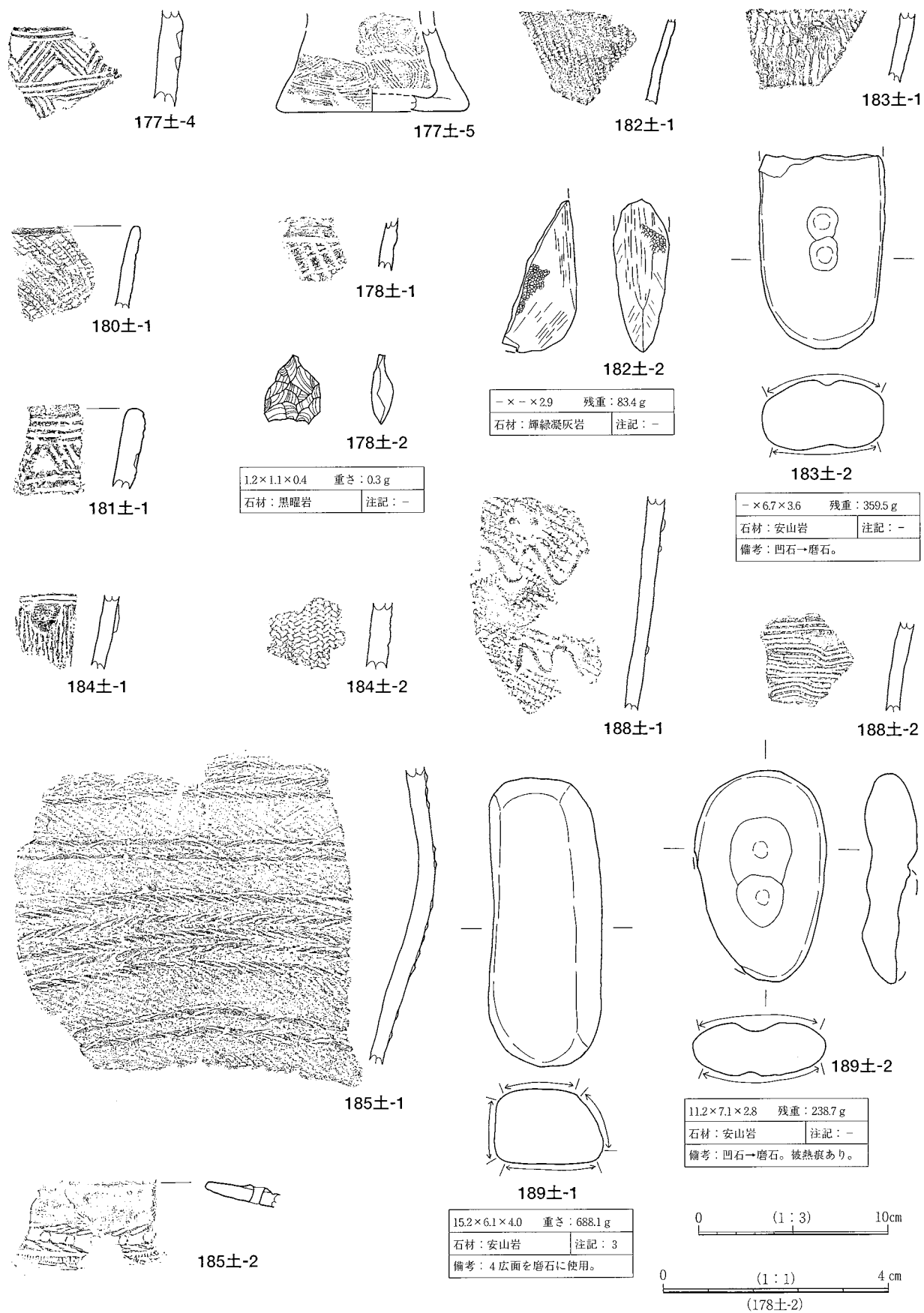


177±-3

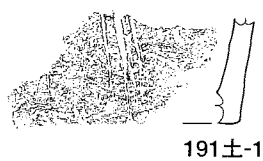
0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4 cm
 (175±-3)

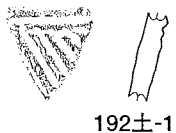
第417図 東地区土坑出土遺物②



第418図 東地区土坑出土遺物②



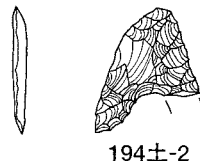
191±-1



192±-1

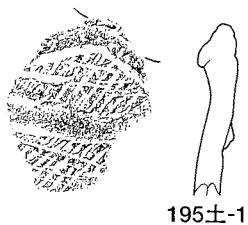


194±-1

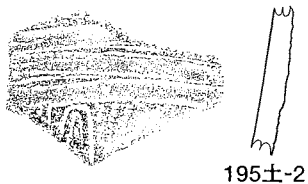


194±-2

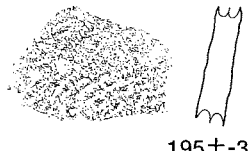
1.7 × - × 0.2	残重 : 0.4 g
石材 : 黒曜岩	注記 : -



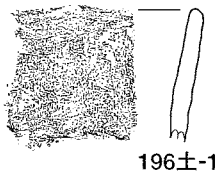
195±-1



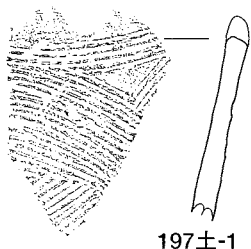
195±-2



195±-3



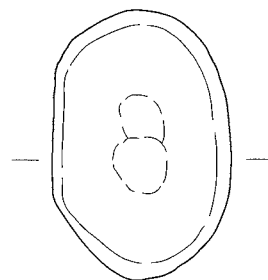
196±-1



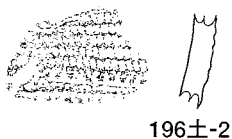
197±-1



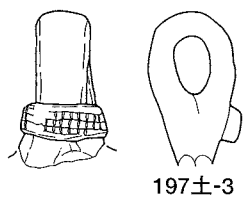
197±-2



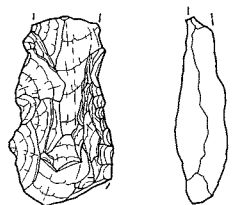
195±-4



196±-2



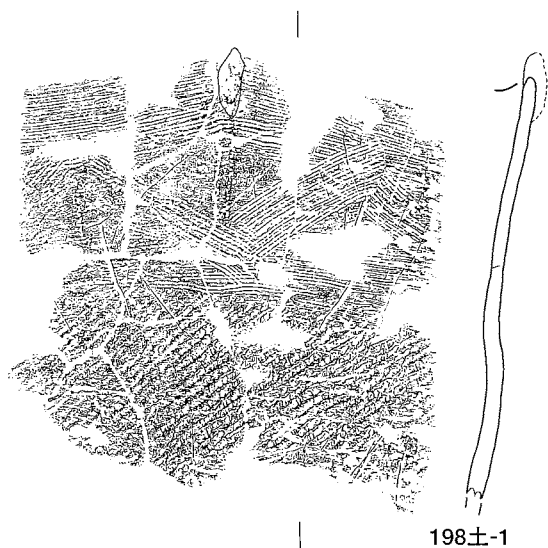
197±-3



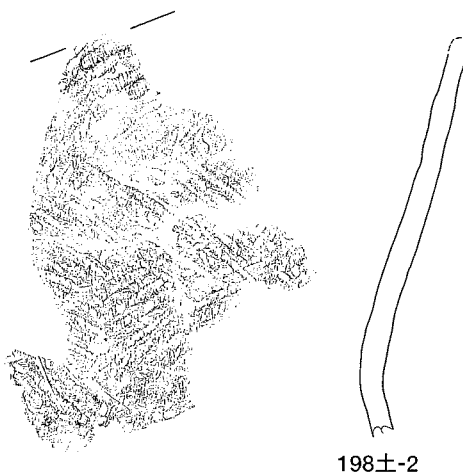
197±-4

- × 4.1 × 2.1	残重 : 58.5 g
石材 : 黒色安山岩	注記 : -

10.6 × 7.2 × 4.7	重さ : 600.0 g
石材 : 安山岩	注記 : 2
備考 : 凹石 → 磨石。被熱痕あり。	



198±-1



198±-2

0 (1 : 3) 10cm

0 (1 : 1) 4 cm

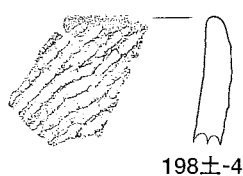
(194±-2)

0 (1 : 4) 20cm

(198±-1)

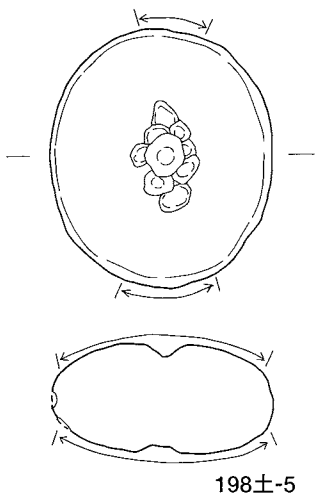


198±-3



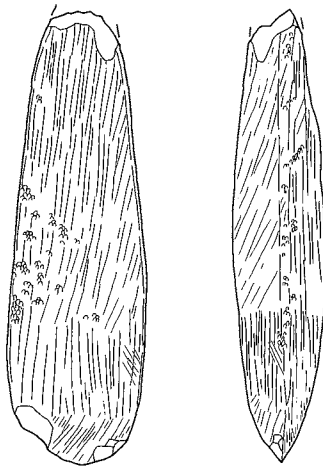
198±-4

第419図 東地区土坑出土遺物②③



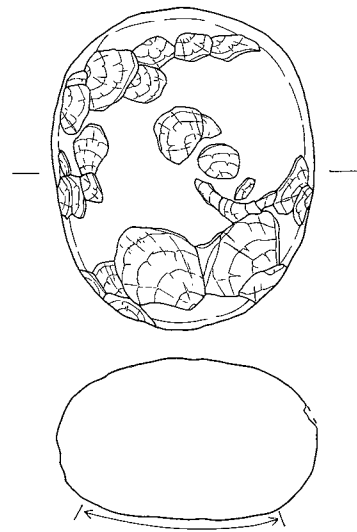
198±-5

10.3×8.8×4.3	重さ: 560.5 g
石材: 安山岩	注記: -
備考: 凹石→磨石。敲打痕。被熱痕。	



198±-6

残18.0×5.6×3.7	残重: 560.3 g
石材: 輝緑凝灰岩	注記: -



199±-4

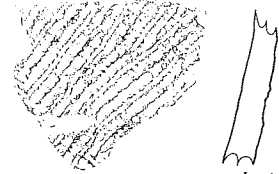
12.8×10.5×6.4	重さ: 1.160.2 g
石材: 安山岩	注記: 8
備考: 被熱痕あり。	



199±-1



199±-2



199±-3



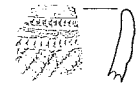
200±-1



200±-2



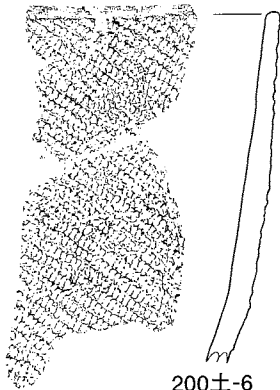
200±-3



200±-4



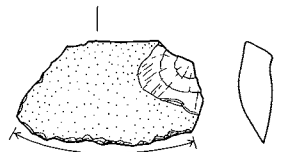
200±-5



200±-6



200±-7

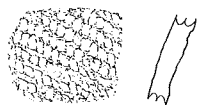


200±-8

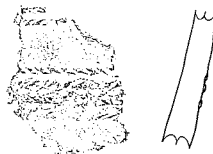
4.2×7.5×1.4	重さ: 44.2 g
石材: 頁岩	注記: -



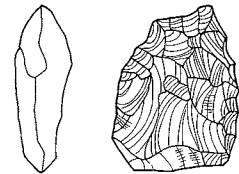
201±-1



201±-2

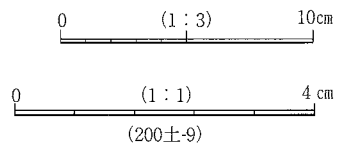


202±-1

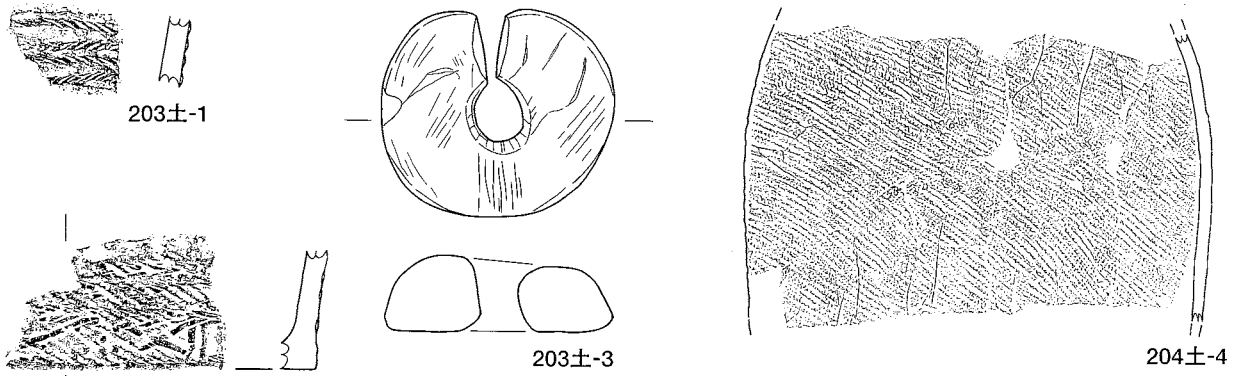


200±-9

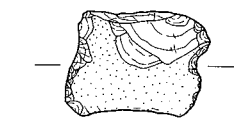
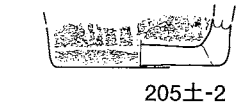
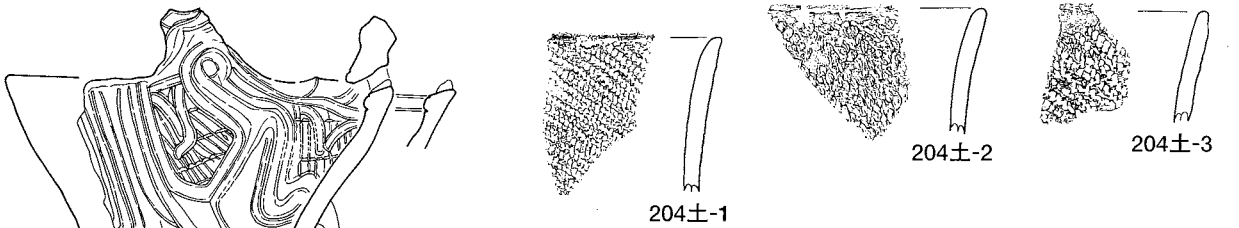
2.2×1.7×0.8	重さ: 2.7 g
石材: 黒曜岩	注記: -



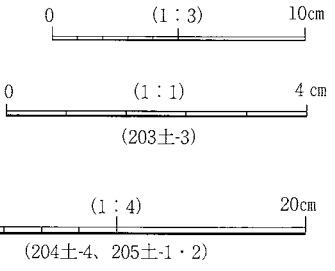
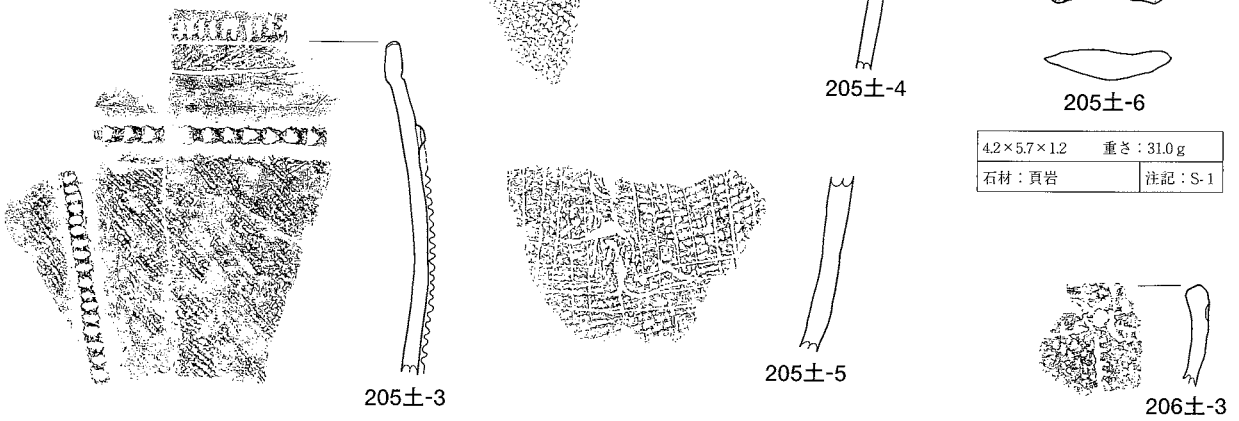
第420図 東地区土坑出土遺物④



2.8×3.1×1.0 重さ：10.2 g
 石材：滑岩 注記：-



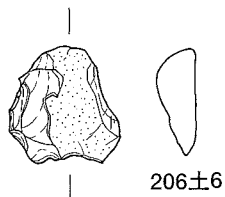
4.2×5.7×1.2 重さ：31.0 g
 石材：頁岩 注記：S-1



第421図 東地区土坑出土遺物②

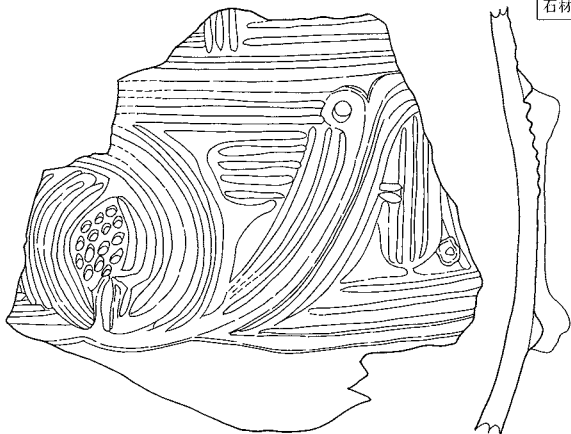
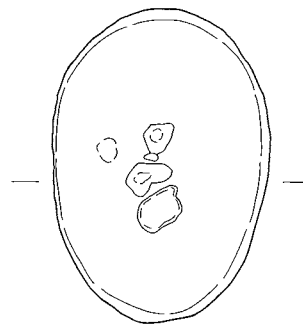


206±-4



206±6

4.6×4.3×1.5	重さ：29.0 g
石材：安山岩	注記：-

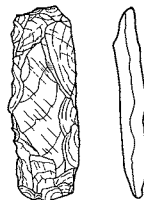


207±-1

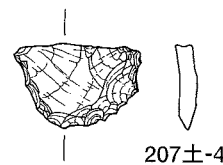
12.4×8.7×4.4	重さ：638.2 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。	



206±-5

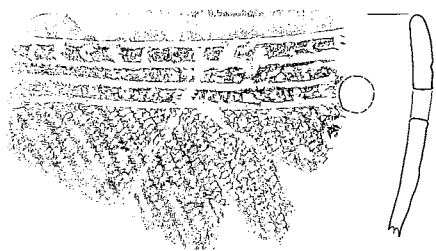


207±-3

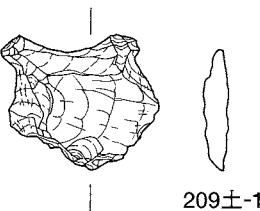


207±-4

3.3×5.1×0.9	重さ：21.3 g
石材：ホルンフェンス	注記：-



207±-2

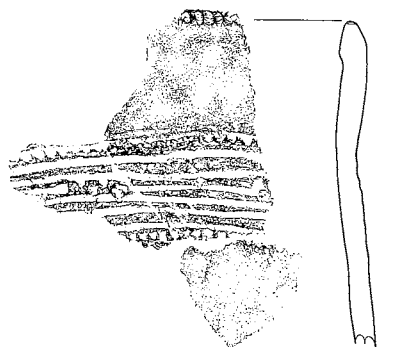


209±-1

5.3×6.2×1.0	重さ：31.5 g
石材：頁岩	注記：-



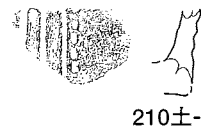
210±-3



208±-1



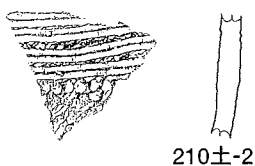
210±-1



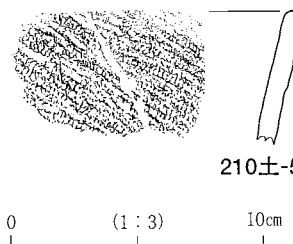
210±-4



208±-2



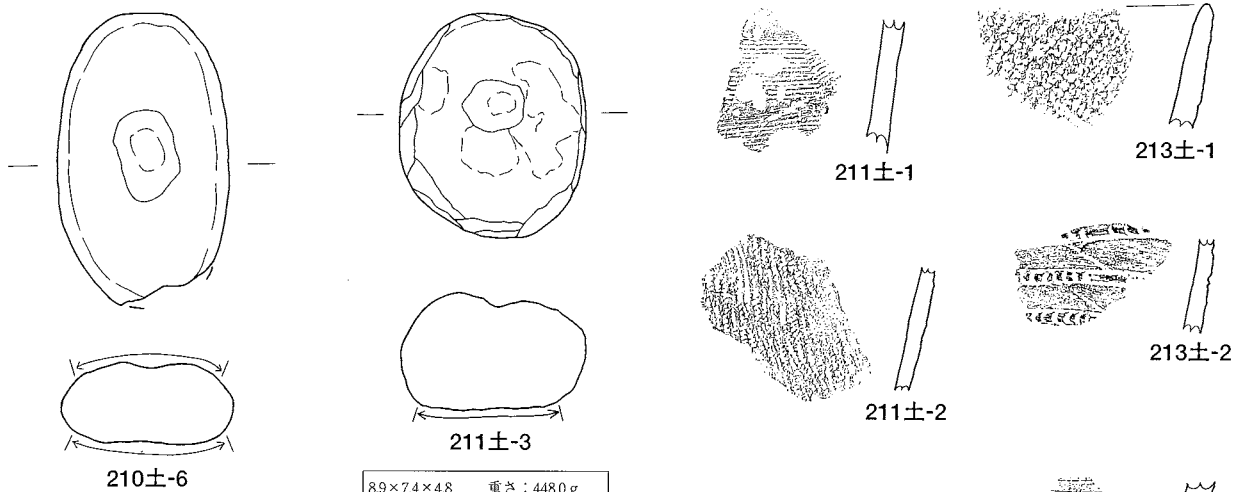
210±-2



210±-5

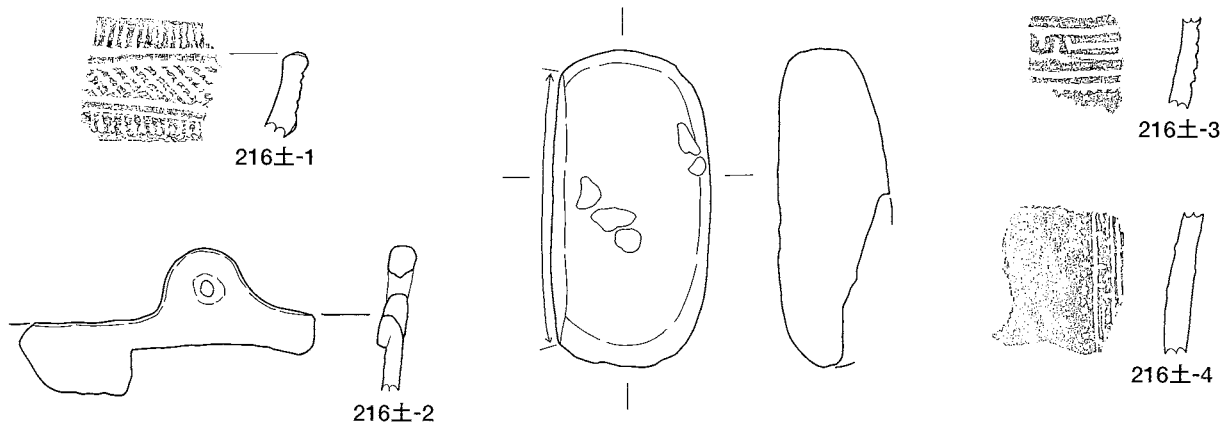
0 (1:3) 10cm

第422図 東地区土坑出土遺物②⑥



- × 6.9 × 3.7 残重: 344.9 g	
石材: 安山岩	注記: -
備考: 凹石 → 磨石。	

8.9 × 7.4 × 4.8 重さ: 448.0 g	
石材: 安山岩	注記: -
備考: 磨石兼凹石。側面中心に敲打痕。	

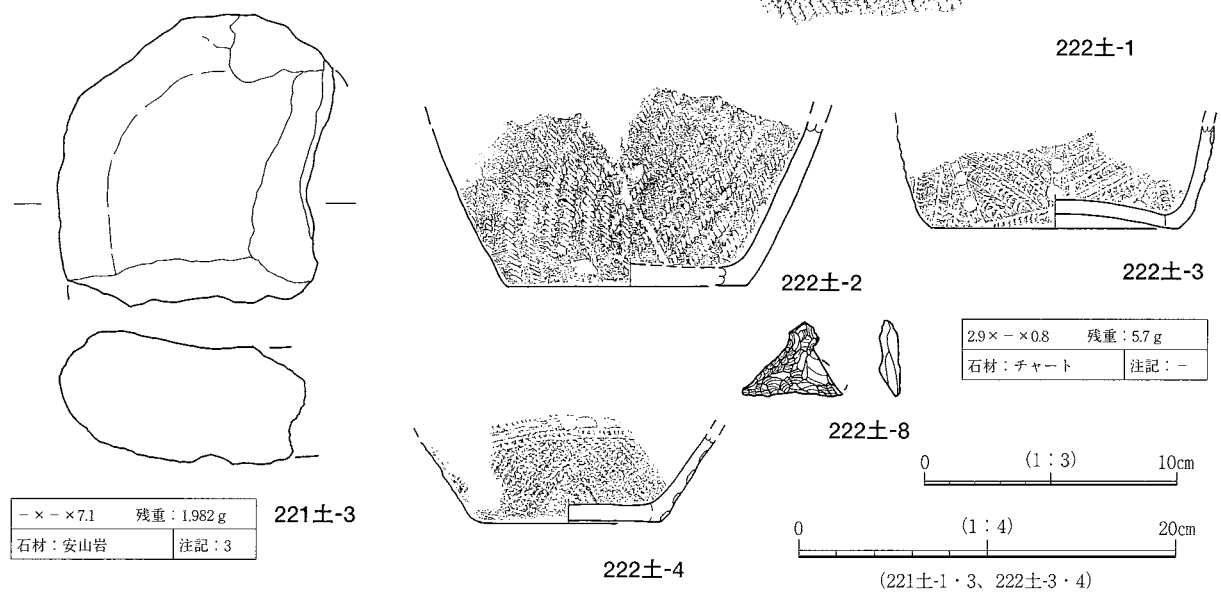
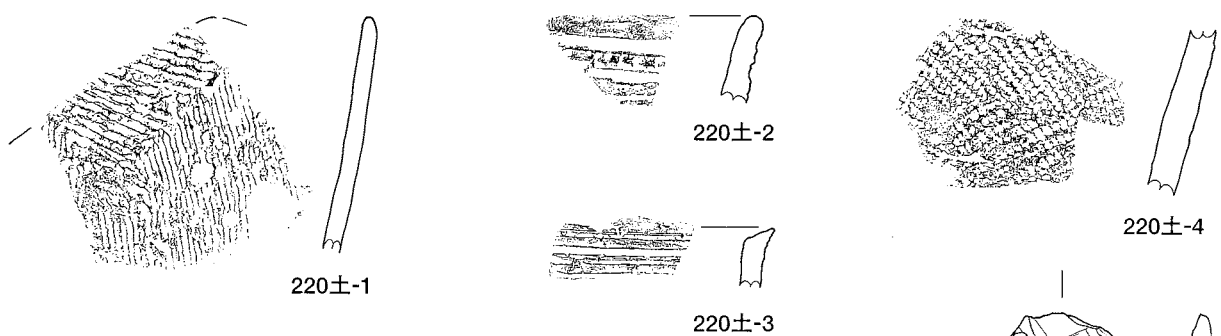


12.6 × 6.4 × 4.4 残重: 525.2 g	
石材: 安山岩	注記: 2

5.2 × 4.0 × 1.0 重さ: 14.9 g	
石材: 黒曜岩	注記: -

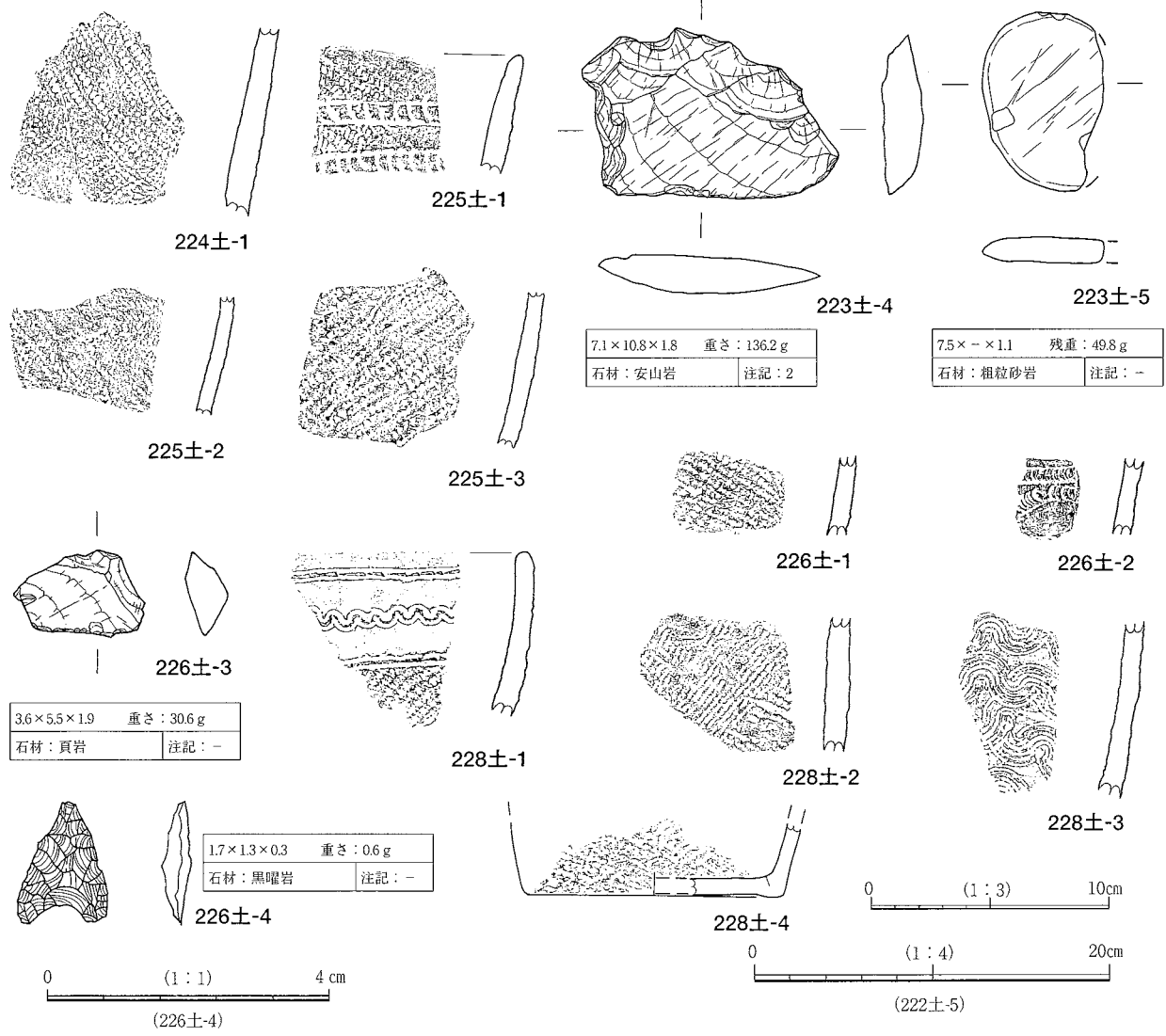
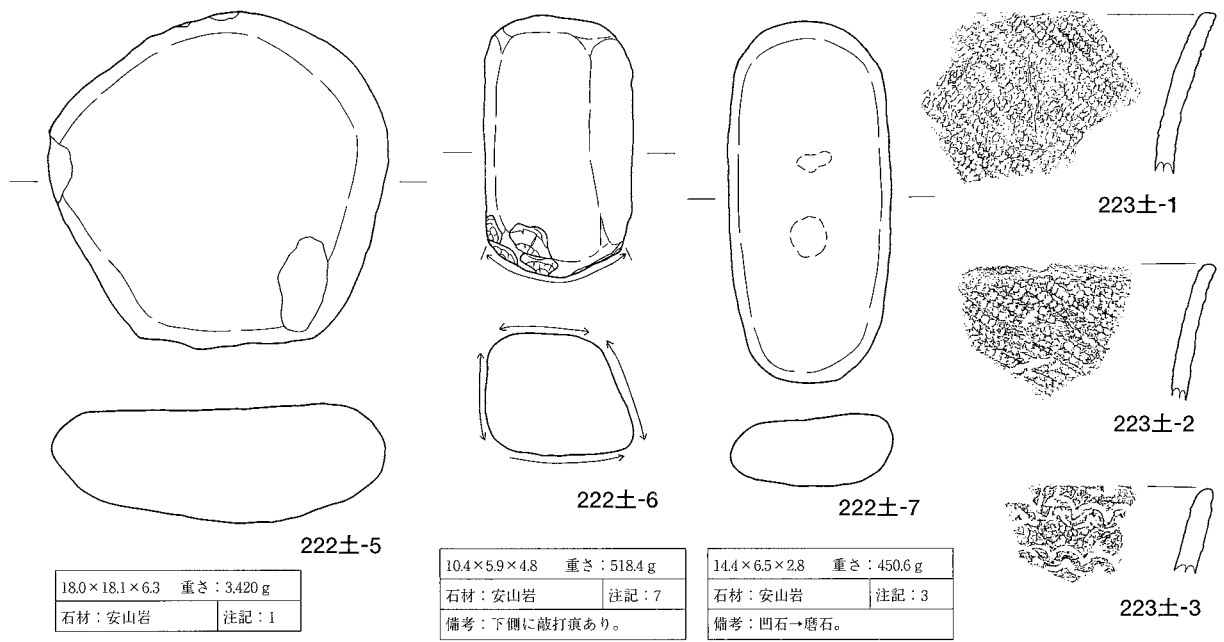
0 (1:3) 10cm

第423図 東地区土坑出土遺物⑦

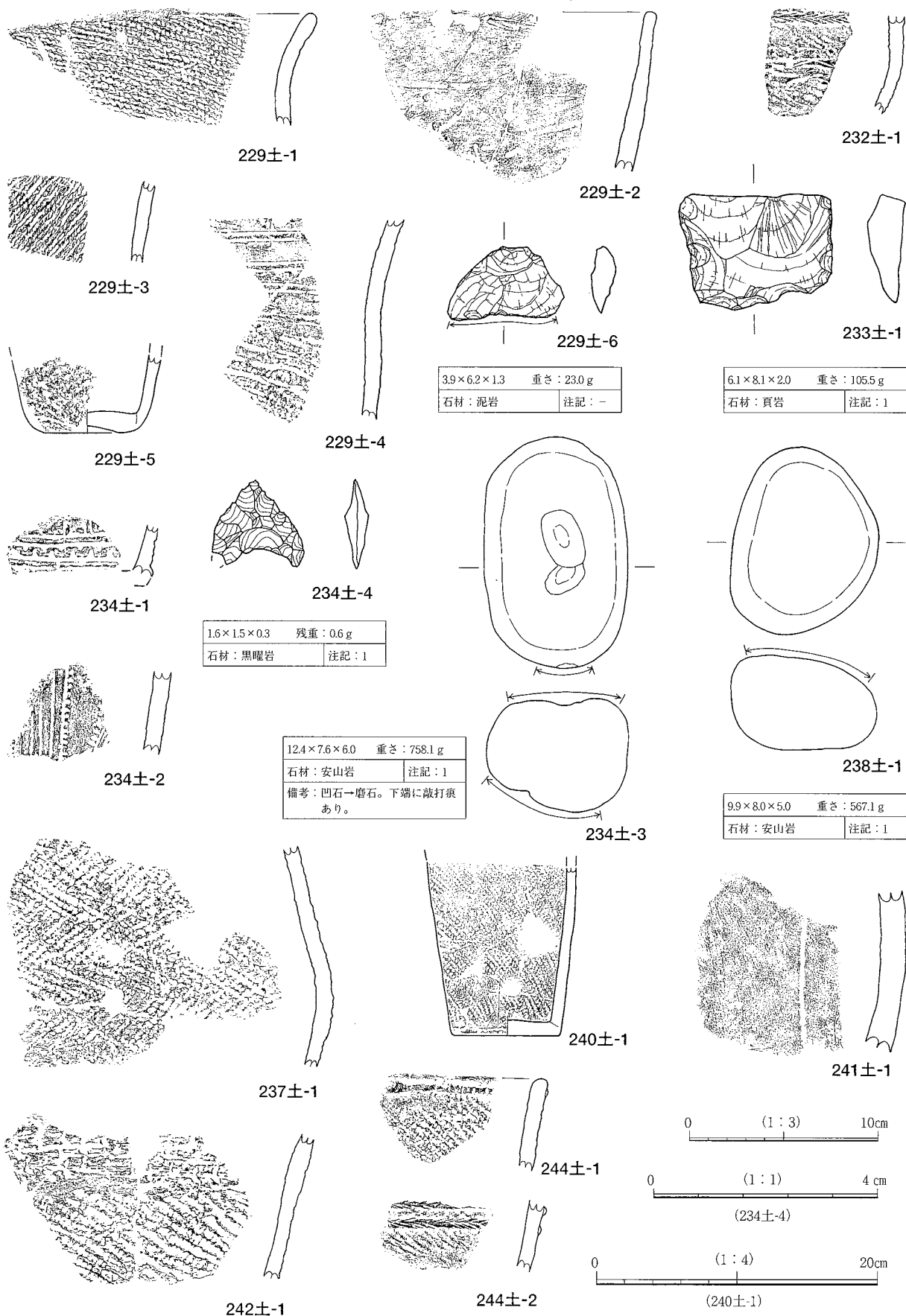


-×-×7.1	残重：1.982 g
石材：安山岩	注記：3

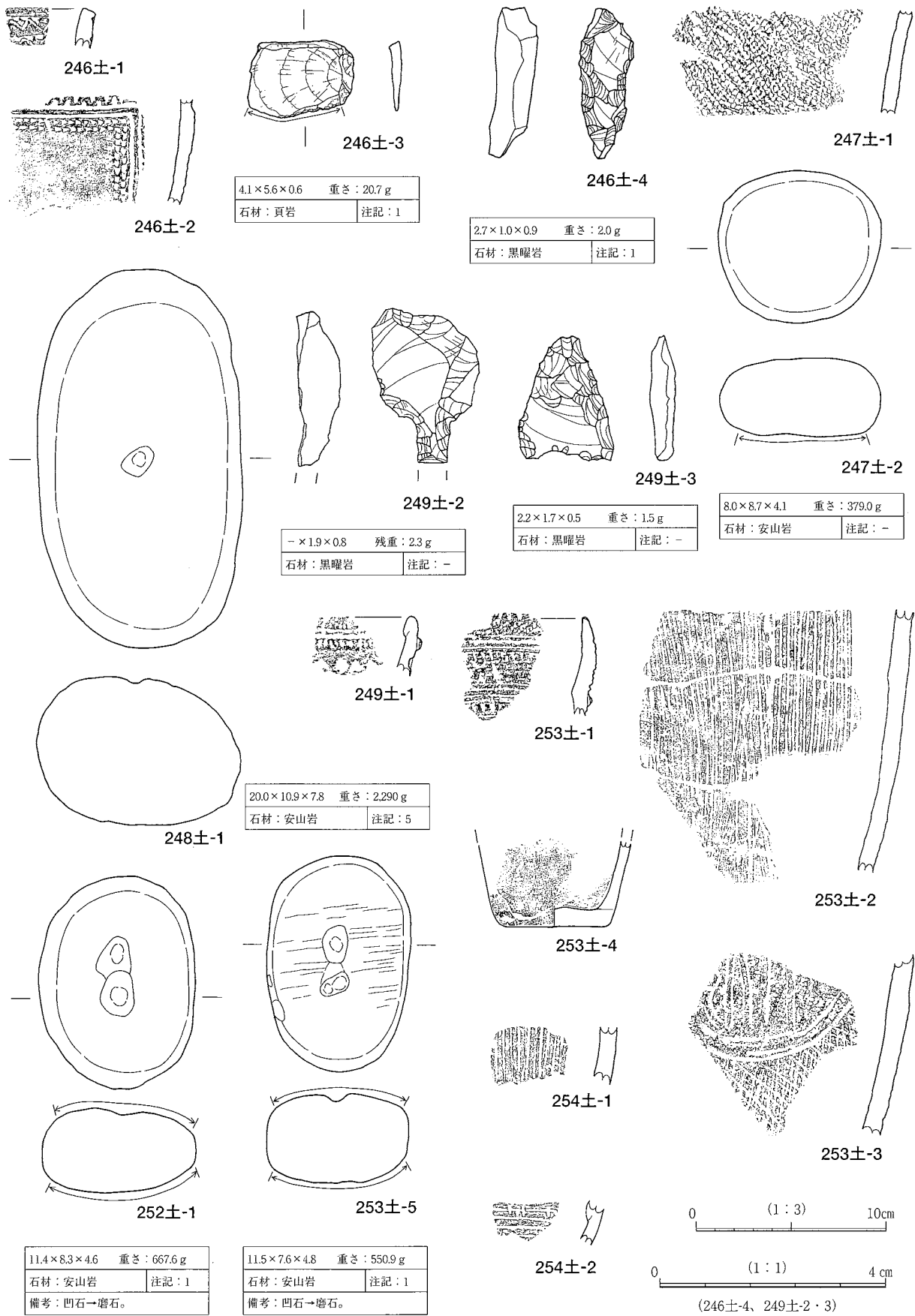
第424図 東地区土坑出土遺物②



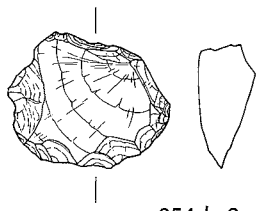
第425図 東地区土坑出土遺物②



第426図 東地区土坑出土遺物③

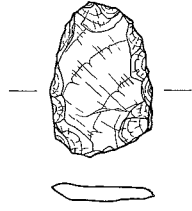


第427図 東地区土坑出土遺物③



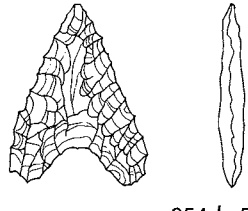
254±-3

5.4×6.4×2.3	重さ：73.1 g
石材：頁岩	注記：-



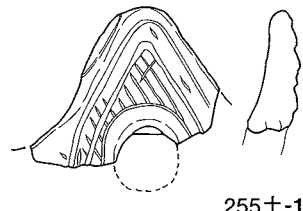
254±-4

6.1×4.1×0.8	重さ：20.3 g
石材：頁岩	注記：-



254±-5

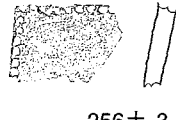
2.3×1.8×0.3	重さ：0.8 g
石材：黒曜岩	注記：-



255±-1



256±-1



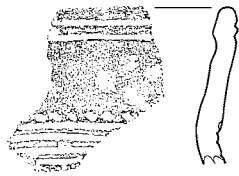
256±-3



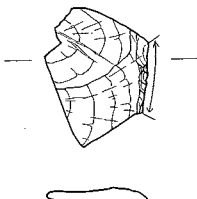
257±-1



259±-1

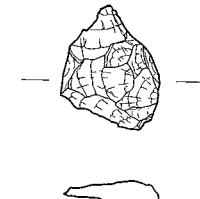


256±-2



256±-4

5.5×4.1×0.8	重さ：16.8 g
石材：頁岩	注記：-



257±-2

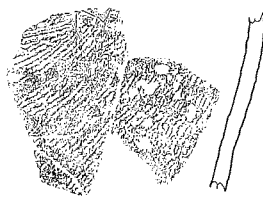
4.9×3.9×1.1	重さ：16.8 g
石材：石英斑岩	注記：-



259±-2



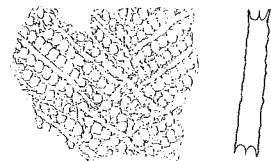
261±-1



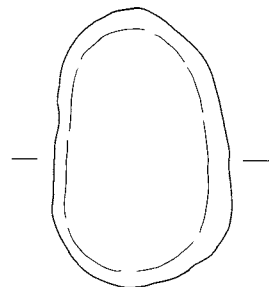
261±-2



261±-3

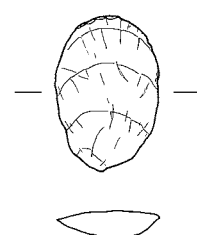


259±-3



261±-4

11.0×7.3×4.2	重さ：560.8 g
石材：安山岩	注記：3

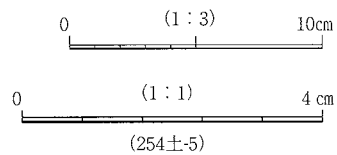


261±-5

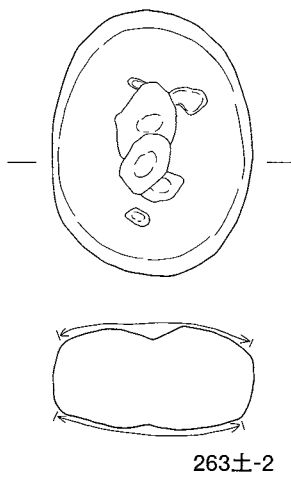
6.2×4.2×1.1	重さ：27.4 g
石材：頁岩	注記：1



263±-1

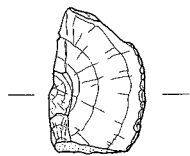


第428図 東地区土坑出土遺物⑳



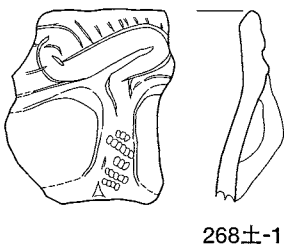
263±2

10.5×8.0×4.1	重さ：445.1 g
石材：安山岩	注記：3
備考：凹石→磨石。	



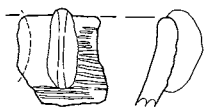
263±4

5.8×3.8×1.1	重さ：26.3 g
石材：頁岩	注記：-

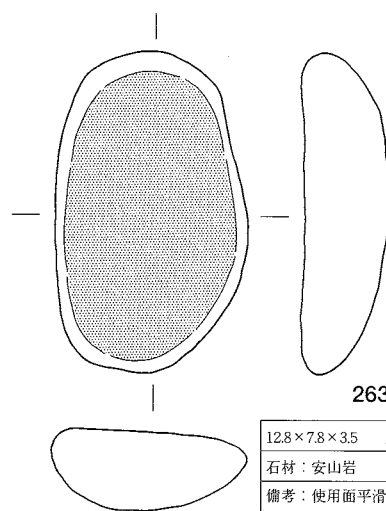


268±1

13.4×5.0×2.7	重さ：225.8 g
石材：安山岩	注記：-

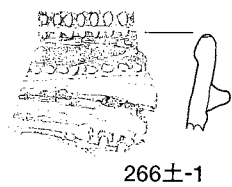


270±1



263±3

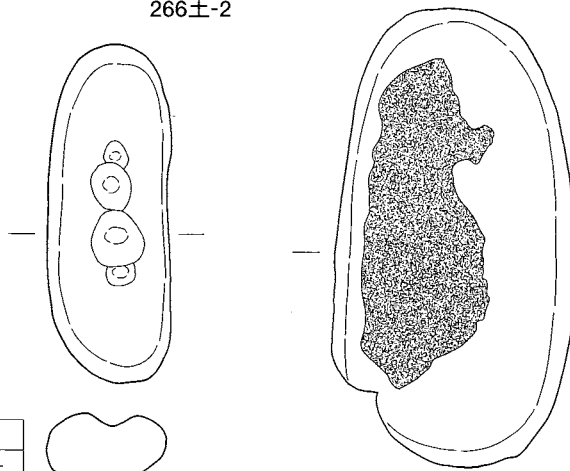
12.8×7.8×3.5	重さ：474.5 g
石材：安山岩	注記：1
備考：使用面平滑。	



266±1



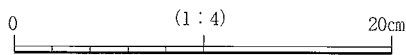
266±2



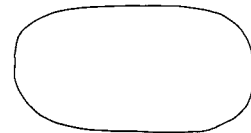
268±2

268±2

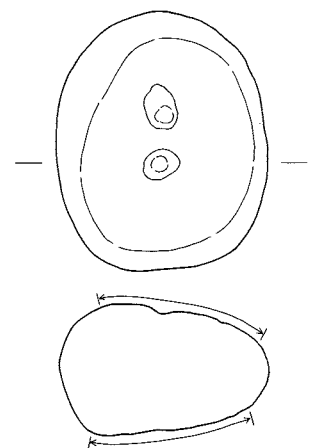
24.4×13.3×6.8	重さ：3.860 g
石材：安山岩	注記：5
備考：赤褐色物(ベンガラか)付着。	



(272±2)



272±2



265±1

10.3×8.5×5.2	重さ：659.0 g
石材：安山岩	注記：1
備考：凹石→磨石。	



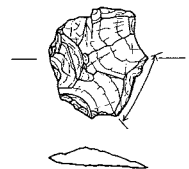
272±1



271±1



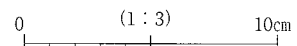
271±2



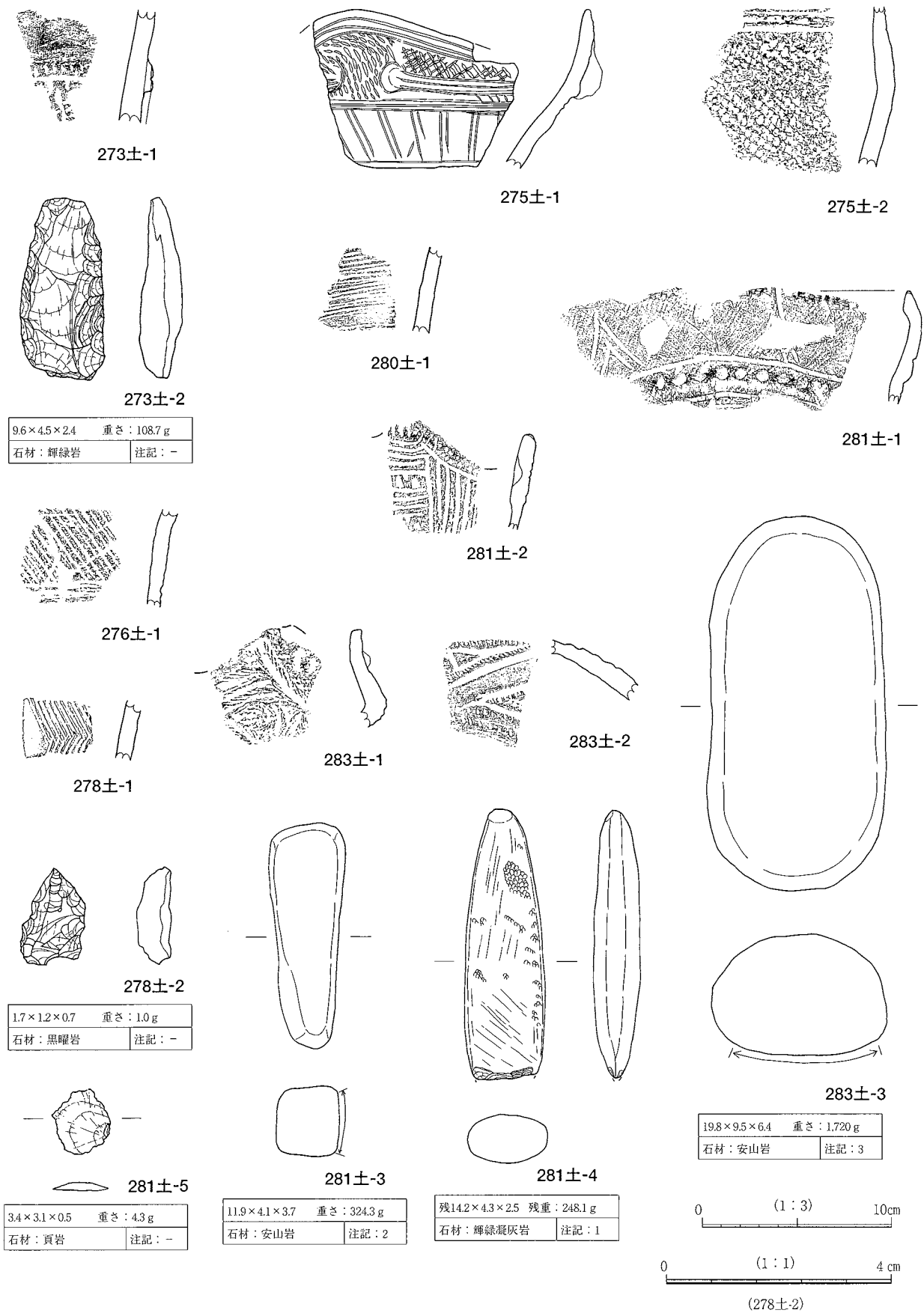
271±3

271±3

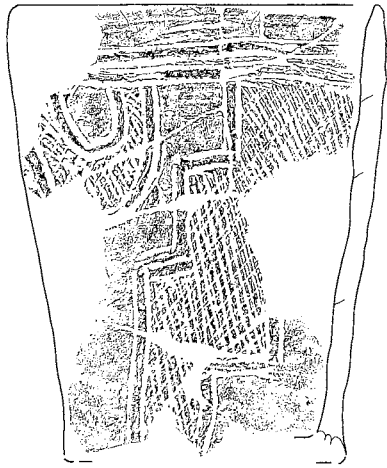
4.4×3.9×0.9	重さ：10.6 g
石材：頁岩	注記：-



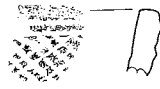
第429図 東地区土坑出土遺物③



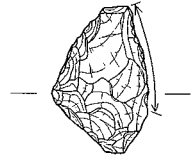
第430図 東地区土坑出土遺物③



284±-1

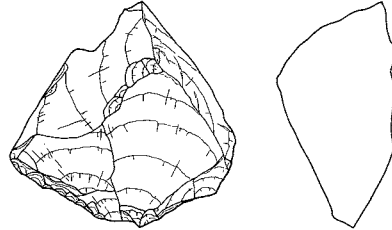


284±-2



284±-4

5.9×3.9×0.9	重さ：16.2 g
石材：頁岩	注記：-

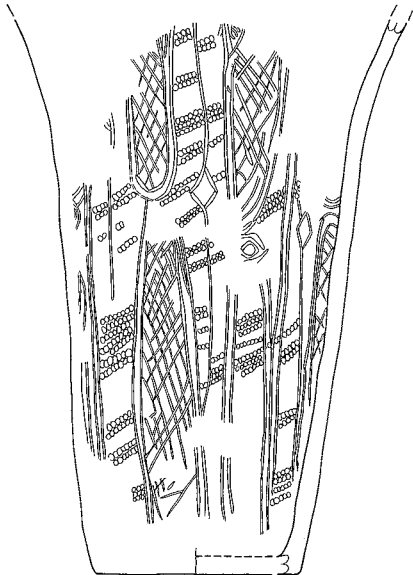


284±-3

9.0×9.0×4.7	重さ：294.3 g
石材：頁岩	注記：-



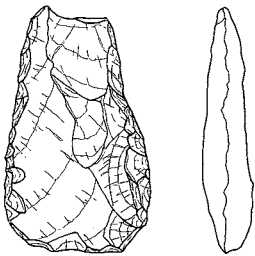
285±-1



286±-1



285±-2

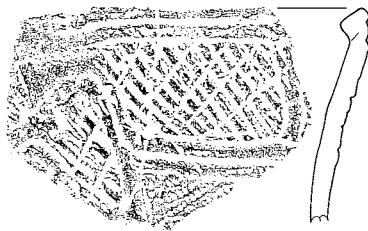


286±-2

9.7×5.8×2.0	重さ：96.1 g
石材：頁岩	注記：2



287±-1



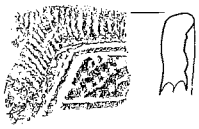
288±-1

0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm

(284±-1、285±-2、286±-1)

第431図 東地区土坑出土遺物③



289±-1



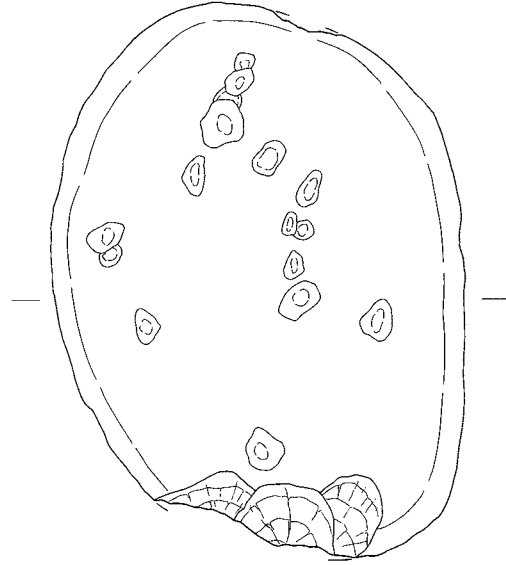
289±-2



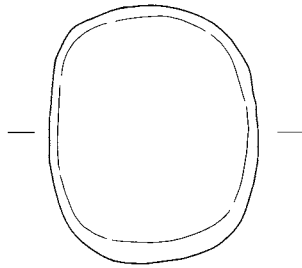
289±-3



289±-4

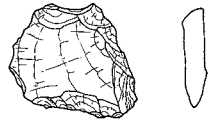


289±-5



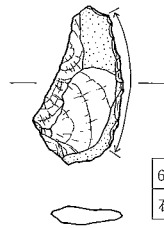
289±-6

10.2×8.3×4.8	重さ：651.7 g
石材：安山岩	注記：3



289±-7

4.4×5.2×1.0	重さ：23.3 g
石材：黒色安山岩	注記：-



289±-8

6.3×3.6×0.7	重さ：14.4 g
石材：頁岩	注記：-

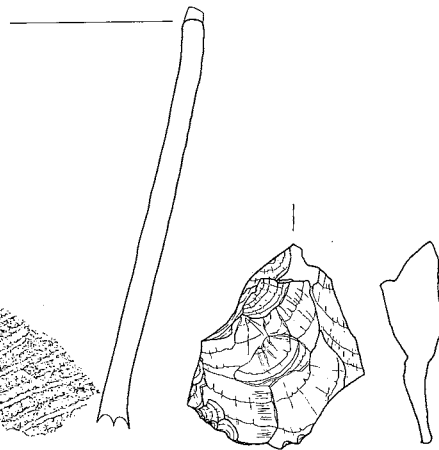
残29.5×22.1×9.5	残重：8.7kg
石材：安山岩	注記：4



291±-1

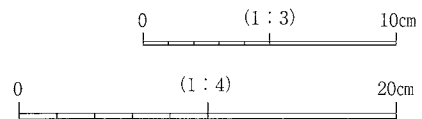


292±-2



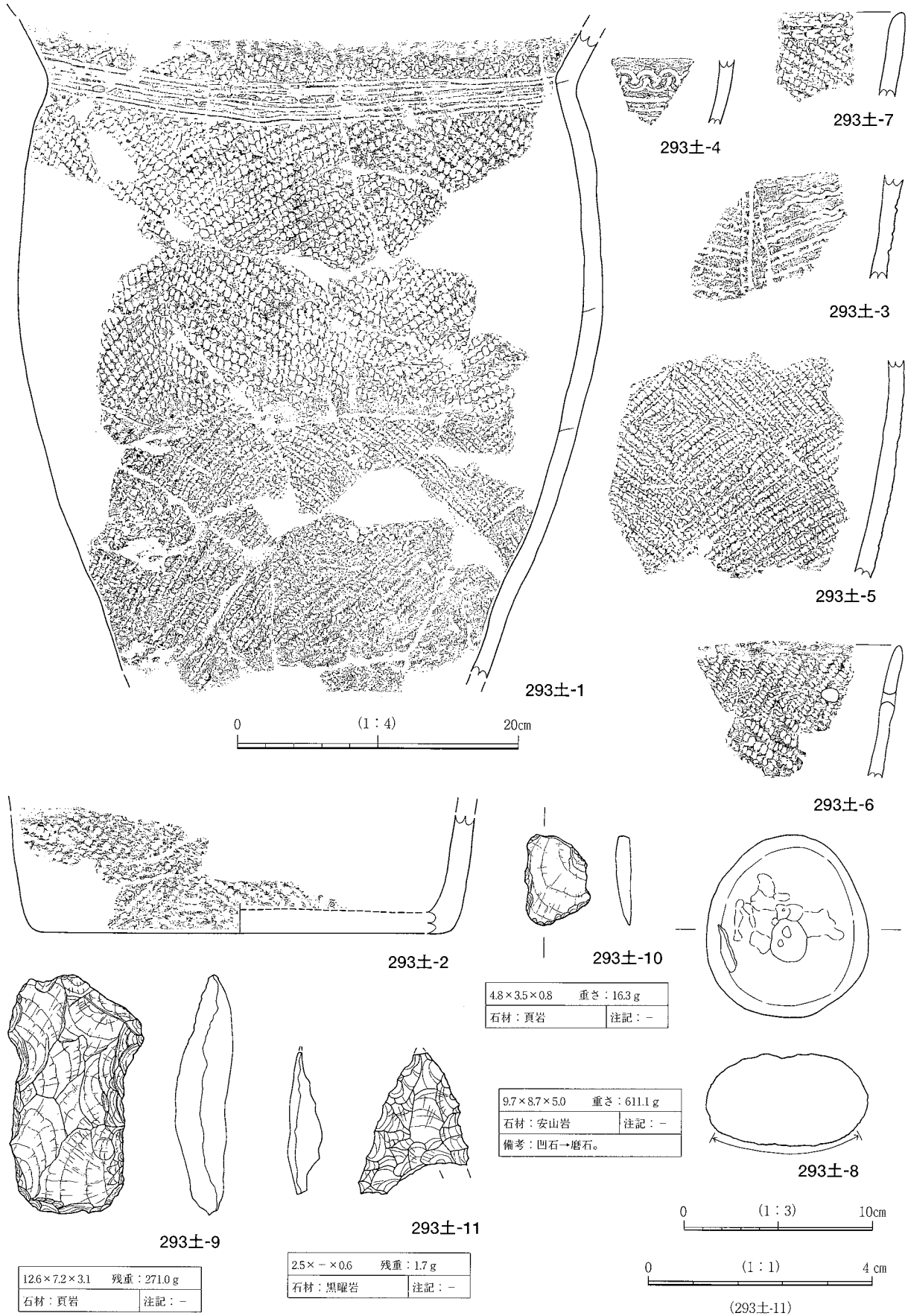
292±-3

8.1×7.0×2.5	重さ：86.2 g
石材：頁岩	注記：-

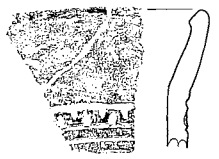


(289±-5、292±-2)

第432図 東地区土坑出土遺物③⑥



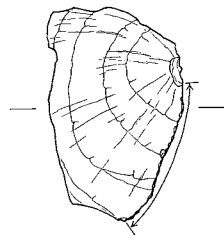
第433図 東地区土坑出土遺物③



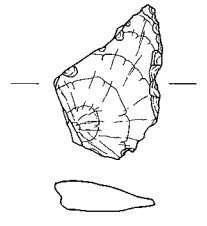
295±-1



295±-2



295±-4



297±-3

6.0×4.4×1.2	重さ：28.1 g
石材：頁岩	注記：-

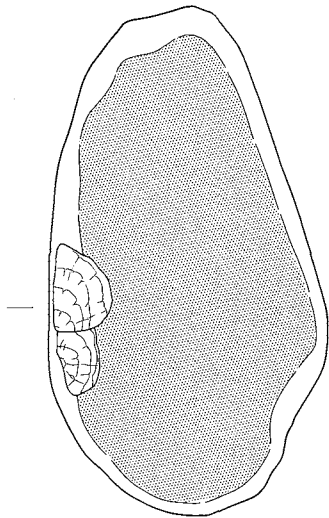


295±-3



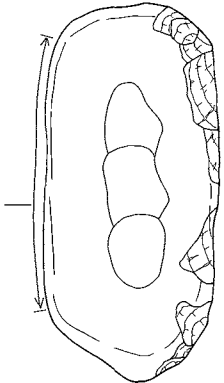
297±-2

8.4×5.4×0.9	重さ：39.6 g
石材：頁岩	注記：-

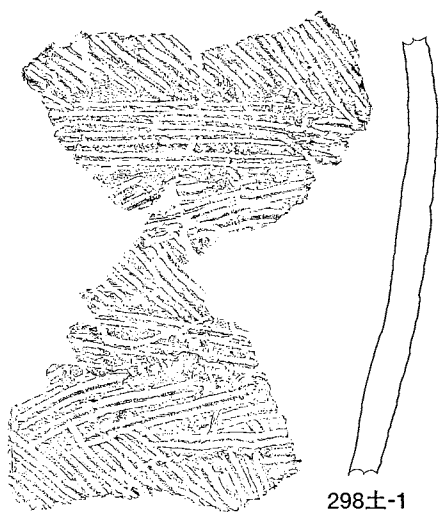


298±-4

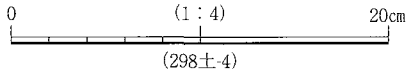
27.0×15.0×4.8	重さ：2,980 g	15.0×7.0×4.5	重さ：864.2 g
石材：安山岩	注記：3	石材：安山岩	注記：1
備考：凹石→安山岩。			



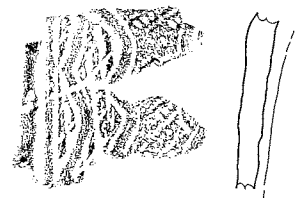
298±-5



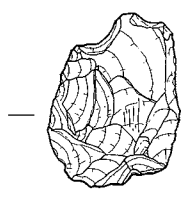
298±-1



(1:4)
(298±-4)

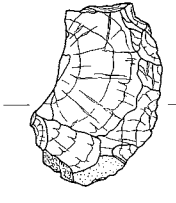


298±-2



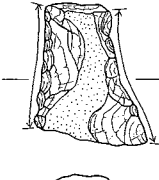
298±-6

6.9×5.3×1.5	重さ：60.0 g
石材：頁岩	注記：-



298±-7

7.2×5.3×1.5	重さ：68.1 g
石材：黑色安山岩	注記：-

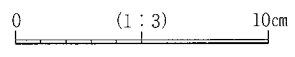


298±-8

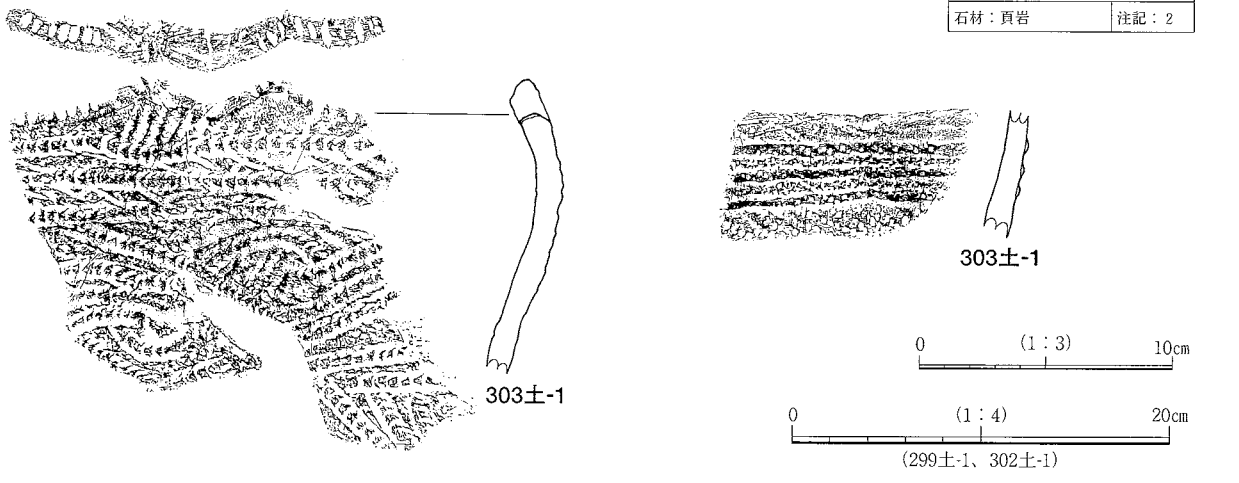
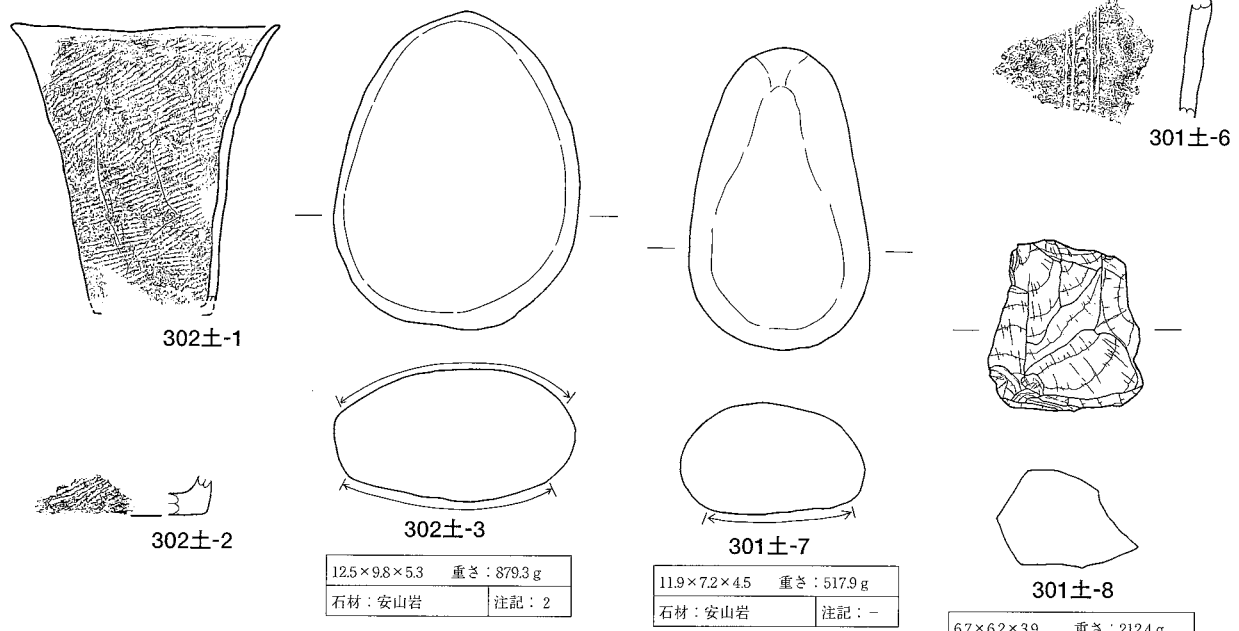
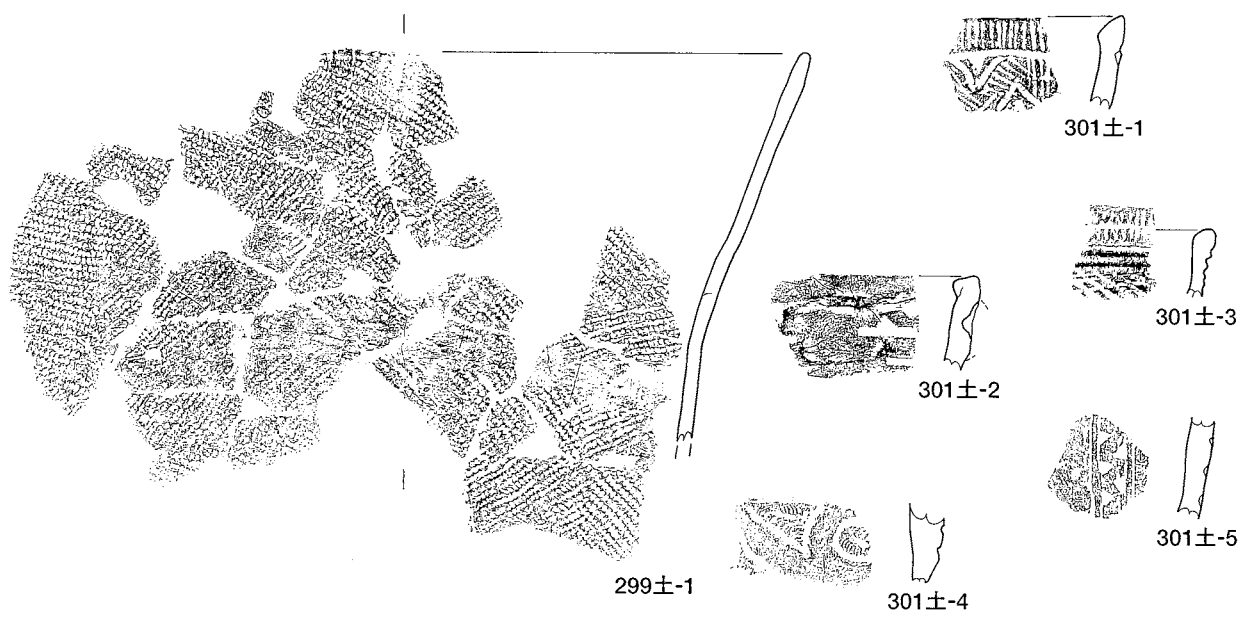
5.6×4.5×1.1	重さ：36.9 g
石材：頁岩	注記：-



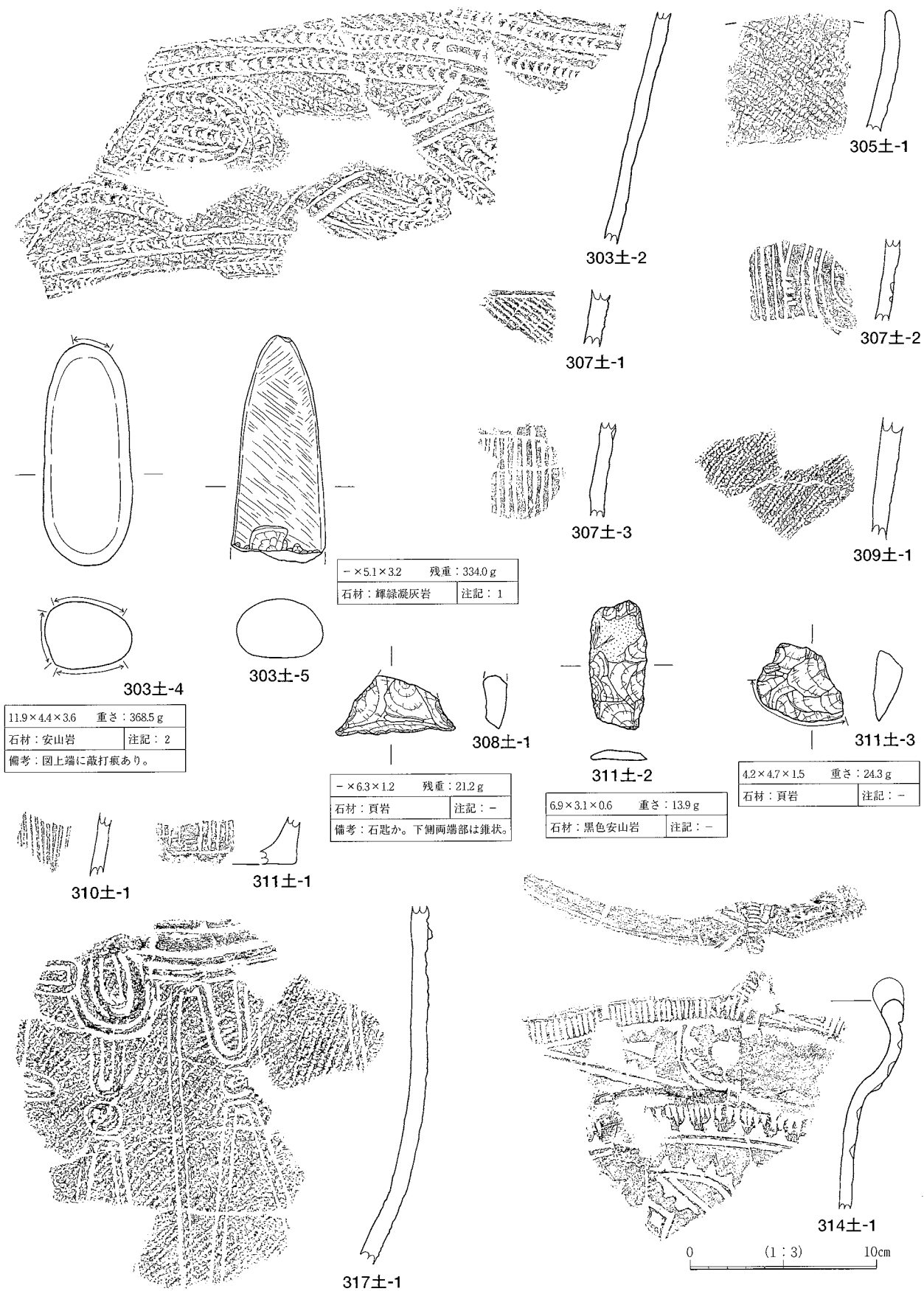
298±-3



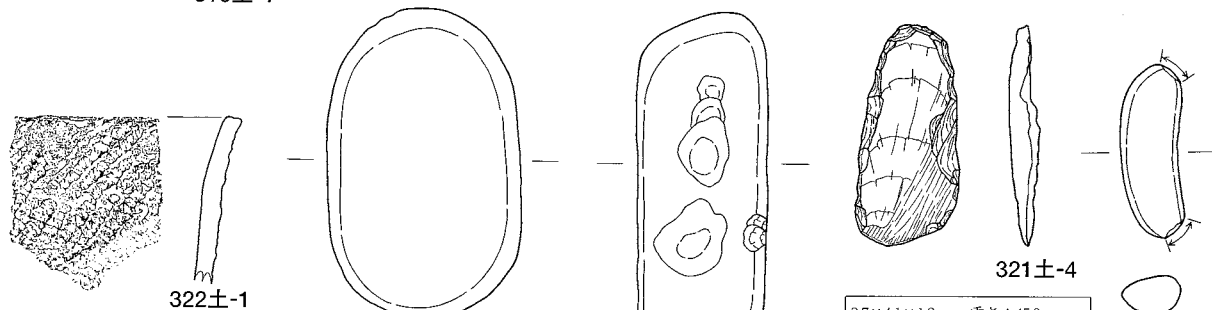
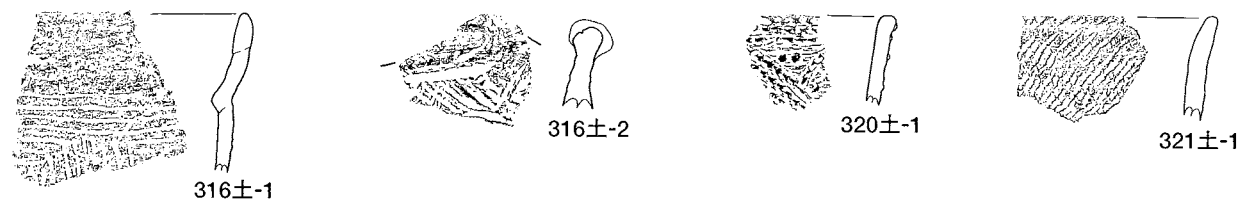
第434図 東地区土坑出土遺物⑳



第435図 東地区土坑出土遺物③

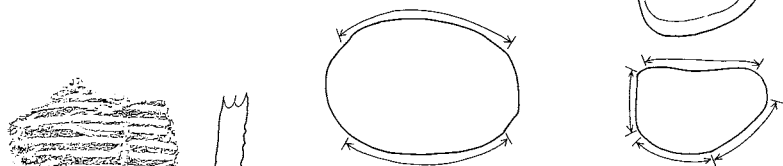


第436図 東地区土坑出土遺物④



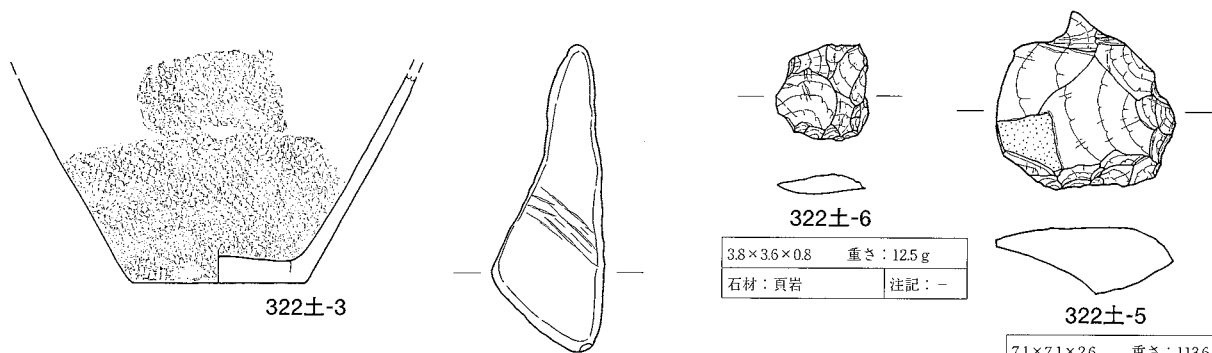
8.7×4.1×1.2	重さ：45.9 g
石材：頁岩	注記：-

6.9×2.5×1.5	重さ：38.3 g
石材：砂岩	注記：-
備考：上下端部に敲打痕。	



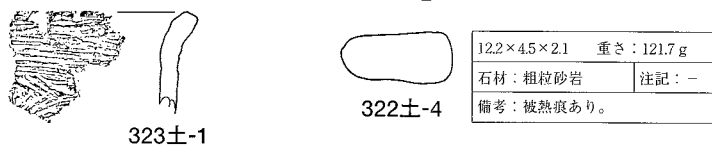
124×7.8×5.6	重さ：621.7 g
石材：安山岩	注記：1

14.2×5.3×3.5	重さ：464.6 g
石材：安山岩	注記：-
備考：凹石→磨石。	



3.8×3.6×0.8	重さ：12.5 g
石材：頁岩	注記：-

7.1×7.1×2.6	重さ：113.6 g
石材：頁岩	注記：2

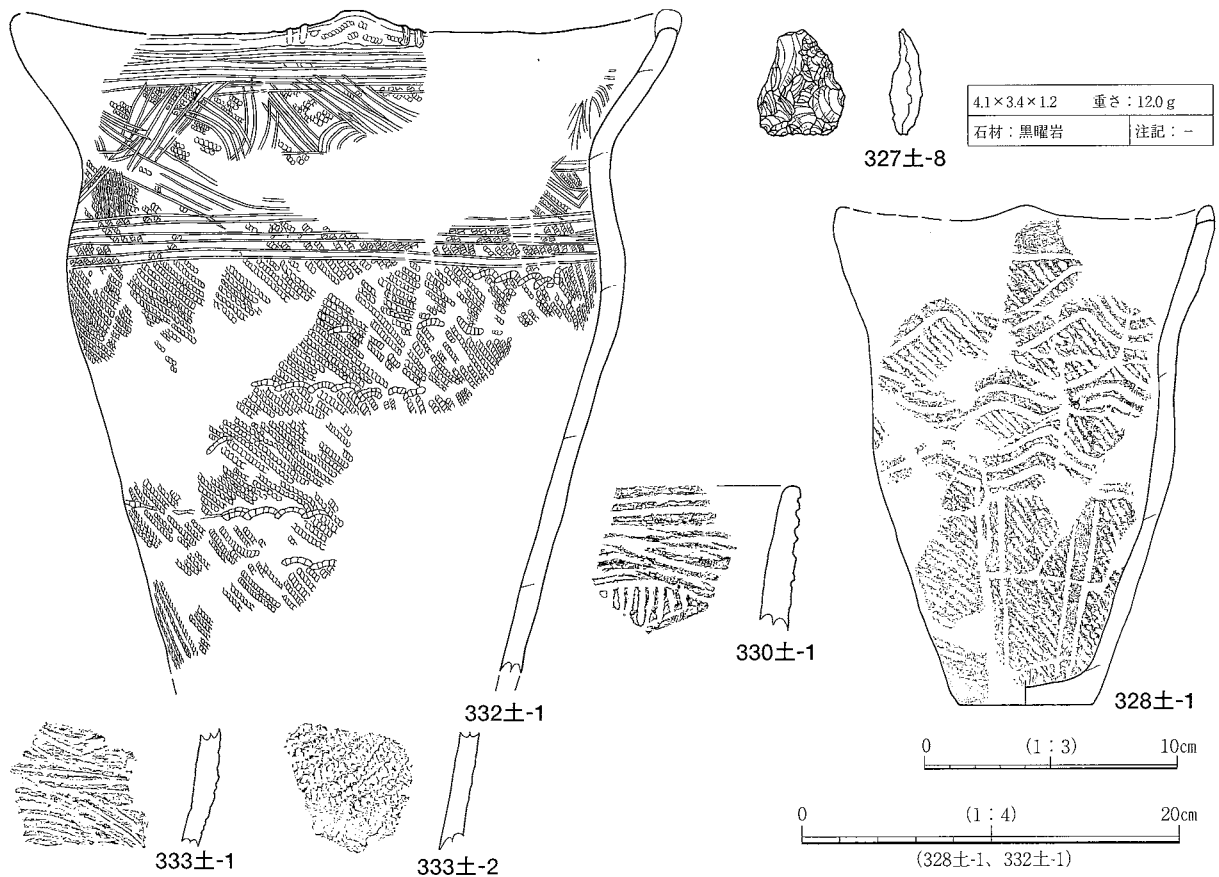
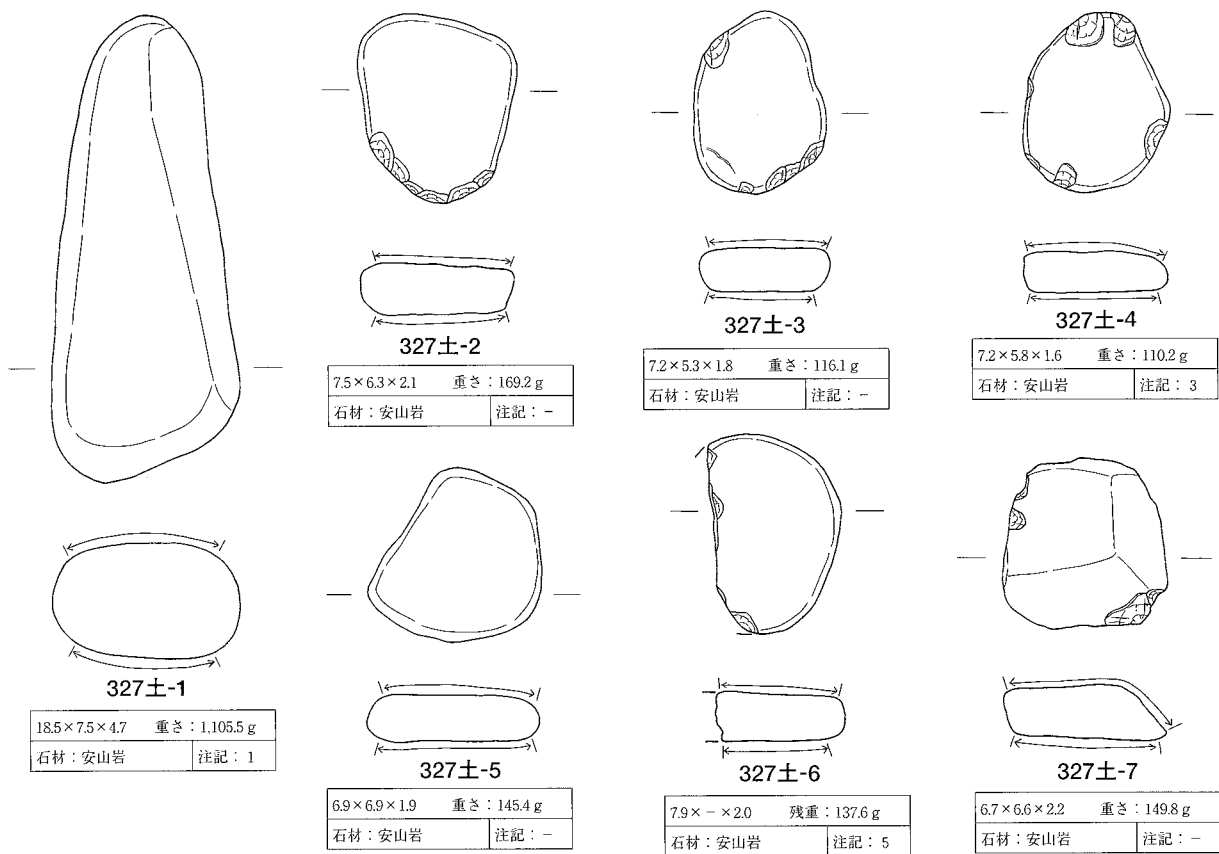


12.2×4.5×2.1	重さ：121.7 g
石材：粗粒砂岩	注記：-
備考：被熱痕あり。	

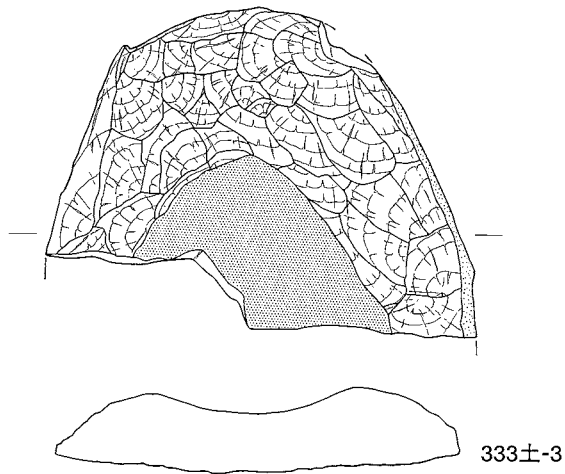


-×5.5×0.9	残重：50.0 g
石材：頁岩	注記：1

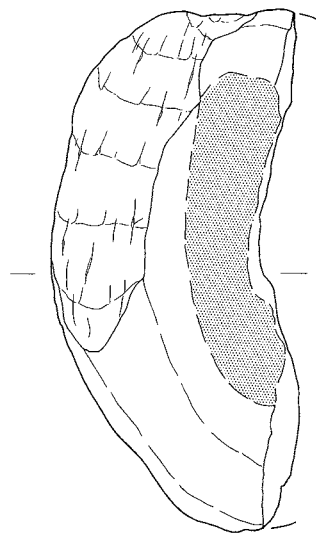
第437図 東地区土坑出土遺物④



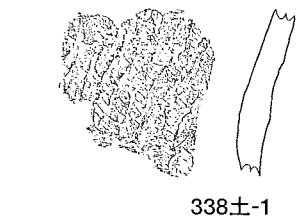
第438図 東地区土坑出土遺物④



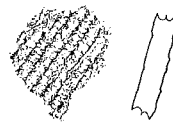
—×23.0×4.5 残重：2,005 g
 石材：安山岩 注記：S-5



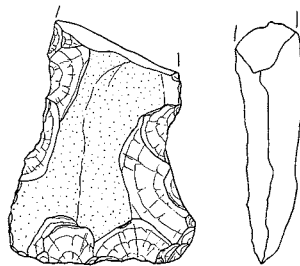
27.8×—×3.6 残重：1,945 g
 石材：緑泥片岩 注記：S-1



2.7×3.9×0.9 重さ：10.9 g
 石材：頁岩 注記：—

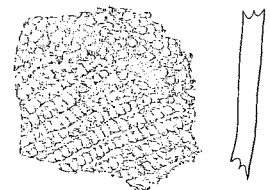


337±-1

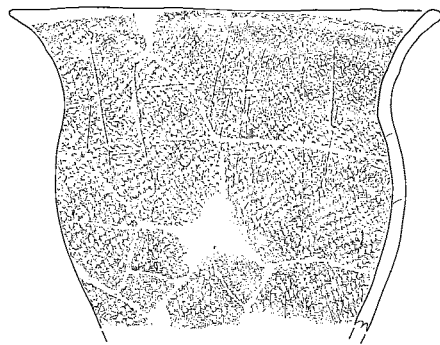


340±-3

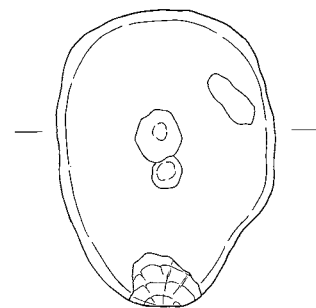
—×7.4×2.7 残重：157.5 g
 石材：安山岩 注記：2



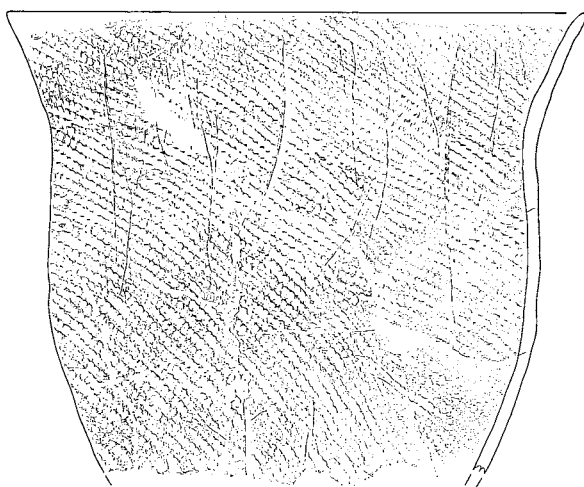
341±-1



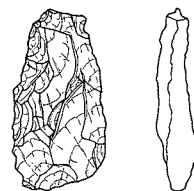
340±-1



341±-2



340±-2



340±-4

7.2×3.7×1.6 重さ：36.0 g
 石材：頁岩 注記：—

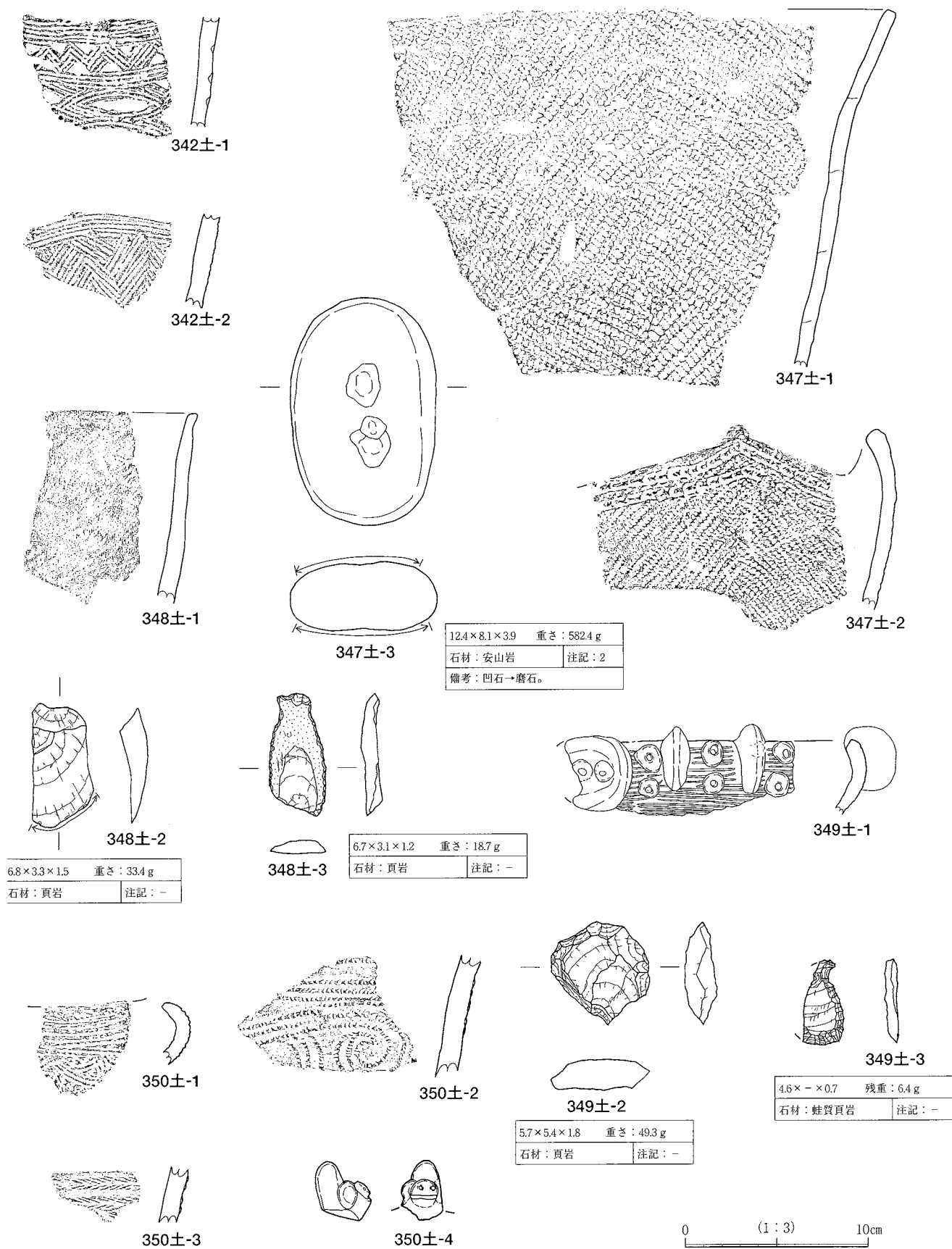
11.7×8.6×3.6 重さ：432.9 g
 石材：安山岩 注記：1
 備考：凹石→磨石。

0 (1:3) 10cm

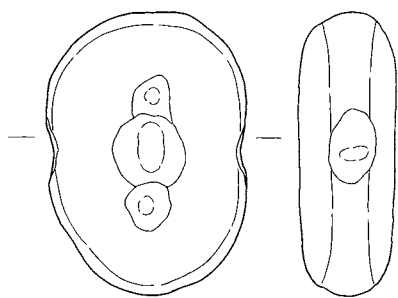
0 (1:4) 20cm

(333±-3・4、340±-1・2)

第439図 東地区土坑出土遺物④



第440図 東地区土坑出土遺物④

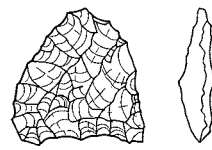
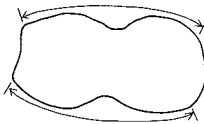


350±5

11.3×8.0×3.9 重さ: 457.2 g

石材: 安山岩 注記: 1

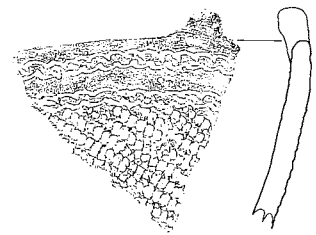
備考: 両側面中央部にも凹みあり。



350±6

1.7×1.7×0.5 重さ: 1.2 g

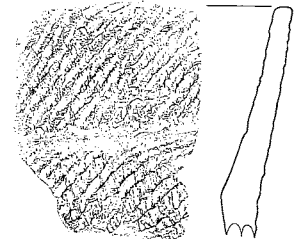
石材: チャート 注記: -



351±1



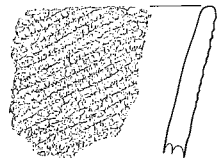
351±2



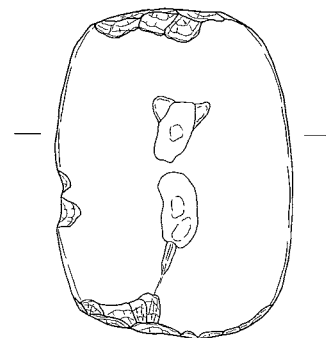
351±3



351±4



351±5

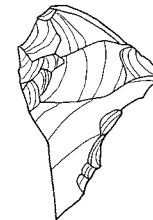


351±9

13.1×9.5×3.6 重さ: 639.9 g

石材: 安山岩 注記: 1

備考: 凹石→磨石。上下に敲打痕。



351±10

2.8×1.9×0.9 重さ: 3.1 g

石材: チャート 注記: -



351±6



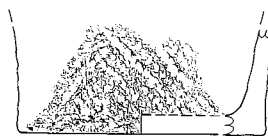
351±11

1.4×-×0.3 残重: 0.4 g

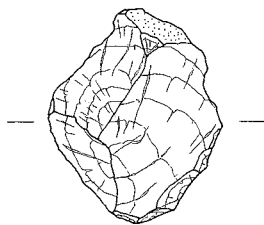
石材: 黒曜岩 注記: -



351±7



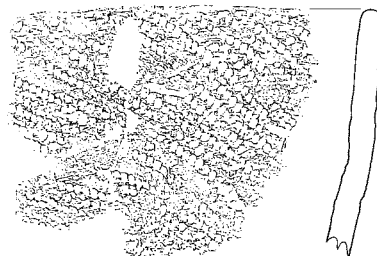
351±8



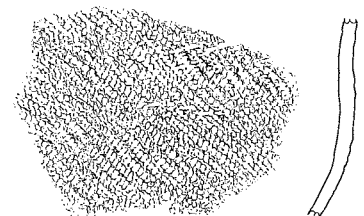
352±3

8.3×6.9×4.0 重さ: 183.5 g

石材: 安山岩 注記: 2



352±1



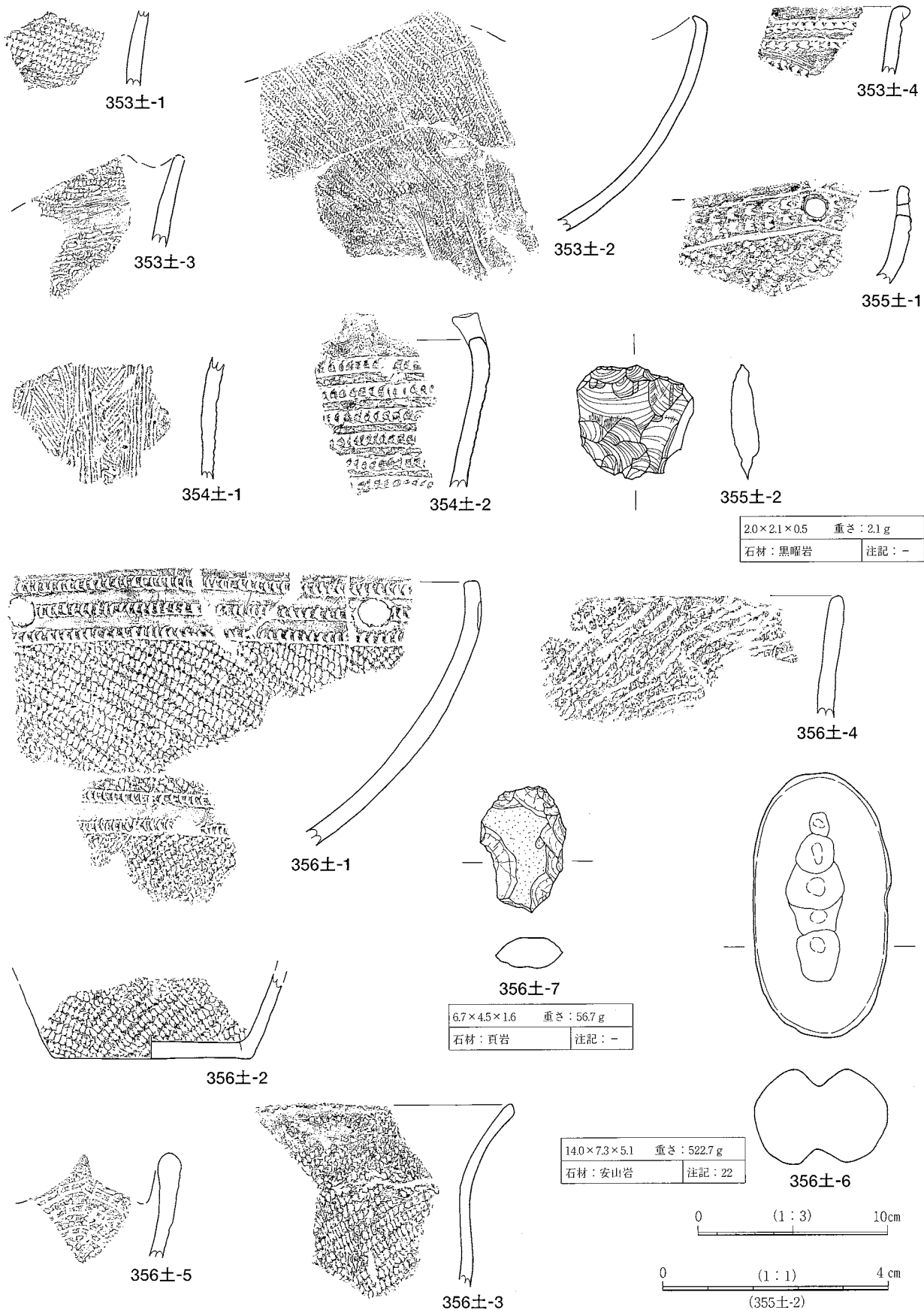
352±2

0 (1:3) 10cm

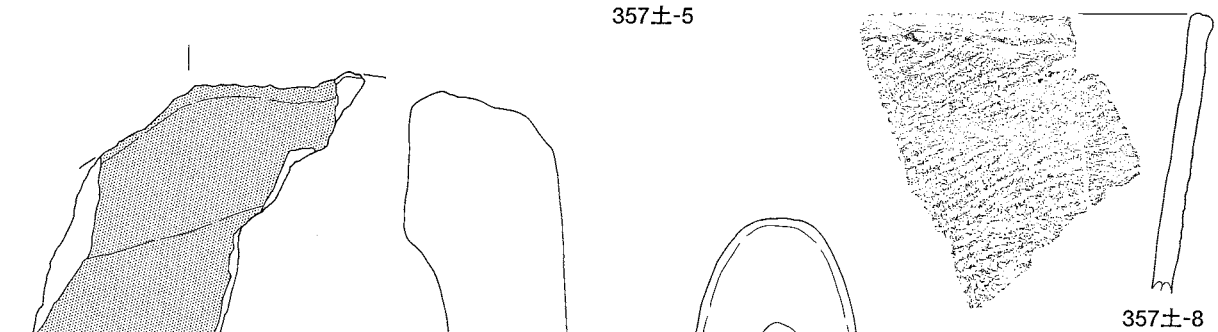
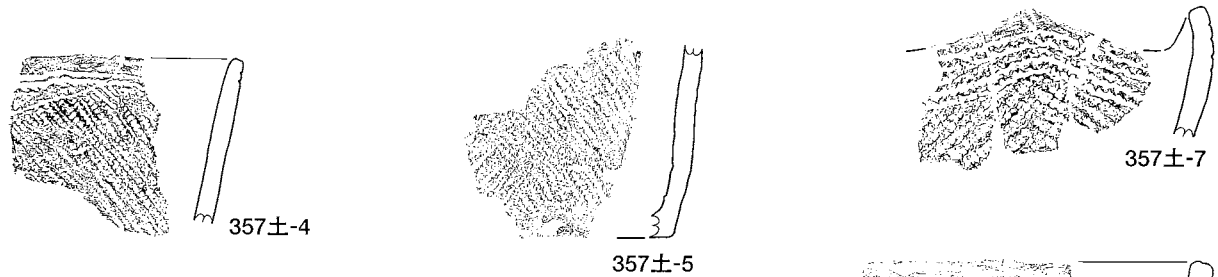
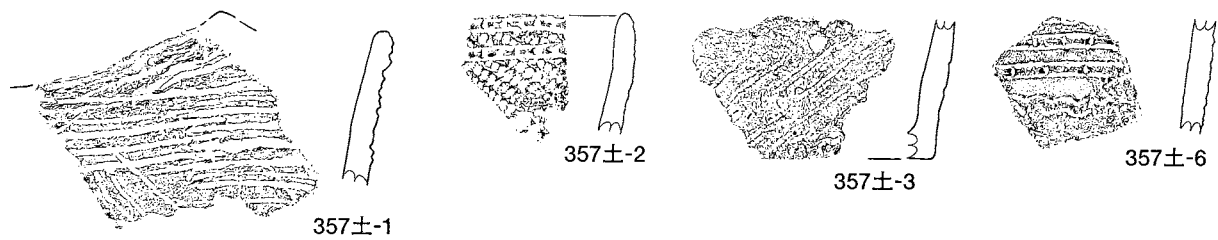
0 (1:1) 4cm

(350±6、351±10・11)

第441図 東地区土坑出土遺物④

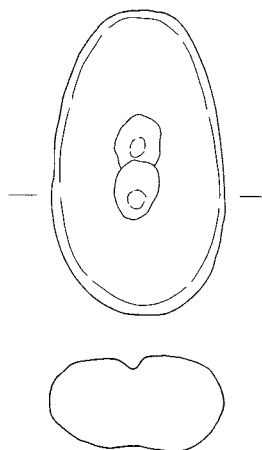


第442図 東地区土坑出土遺物④



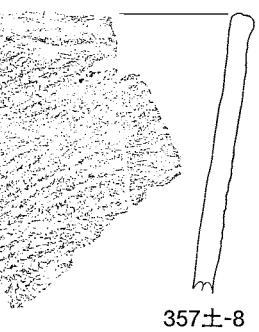
30.2 × - × 8.8	残重: 4.940 g
石材: 安山岩	注記: -
備考: 被熱痕あり。	

357±-9

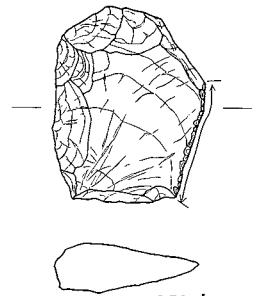


357±-10

120 × 6.9 × 3.8	重さ: 402.7 g
石材: 安山岩	注記: 4



357±-8

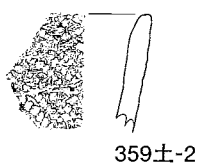


357±-11

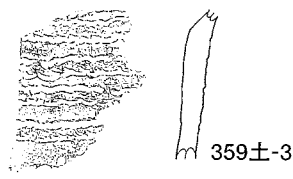
7.8 × 6.0 × 1.9	重さ: 104.9 g
石材: 頁岩	注記: 3



359±-1



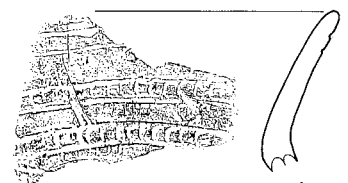
359±-2



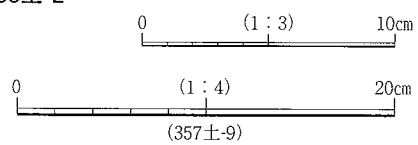
359±-3



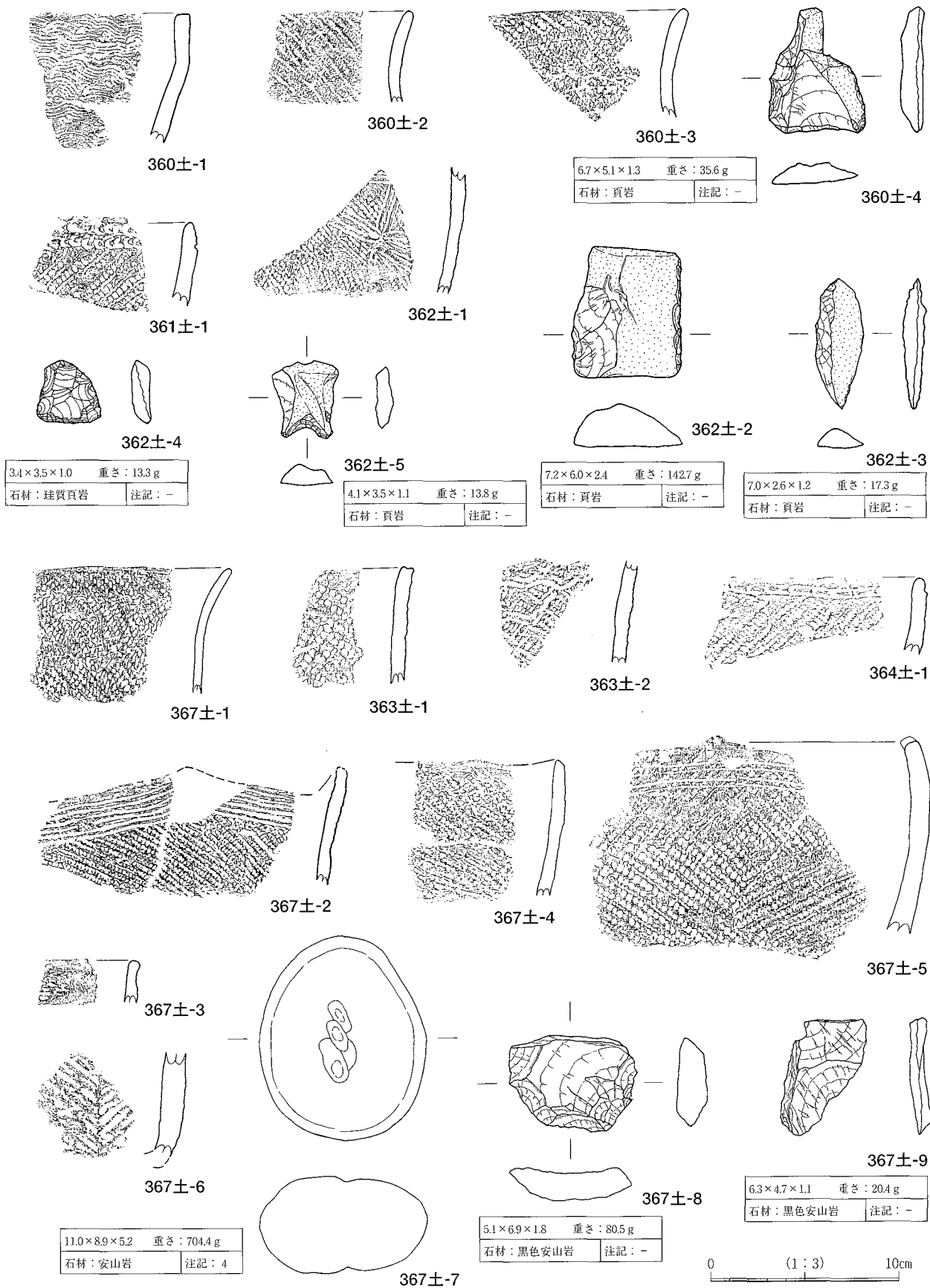
358±-2



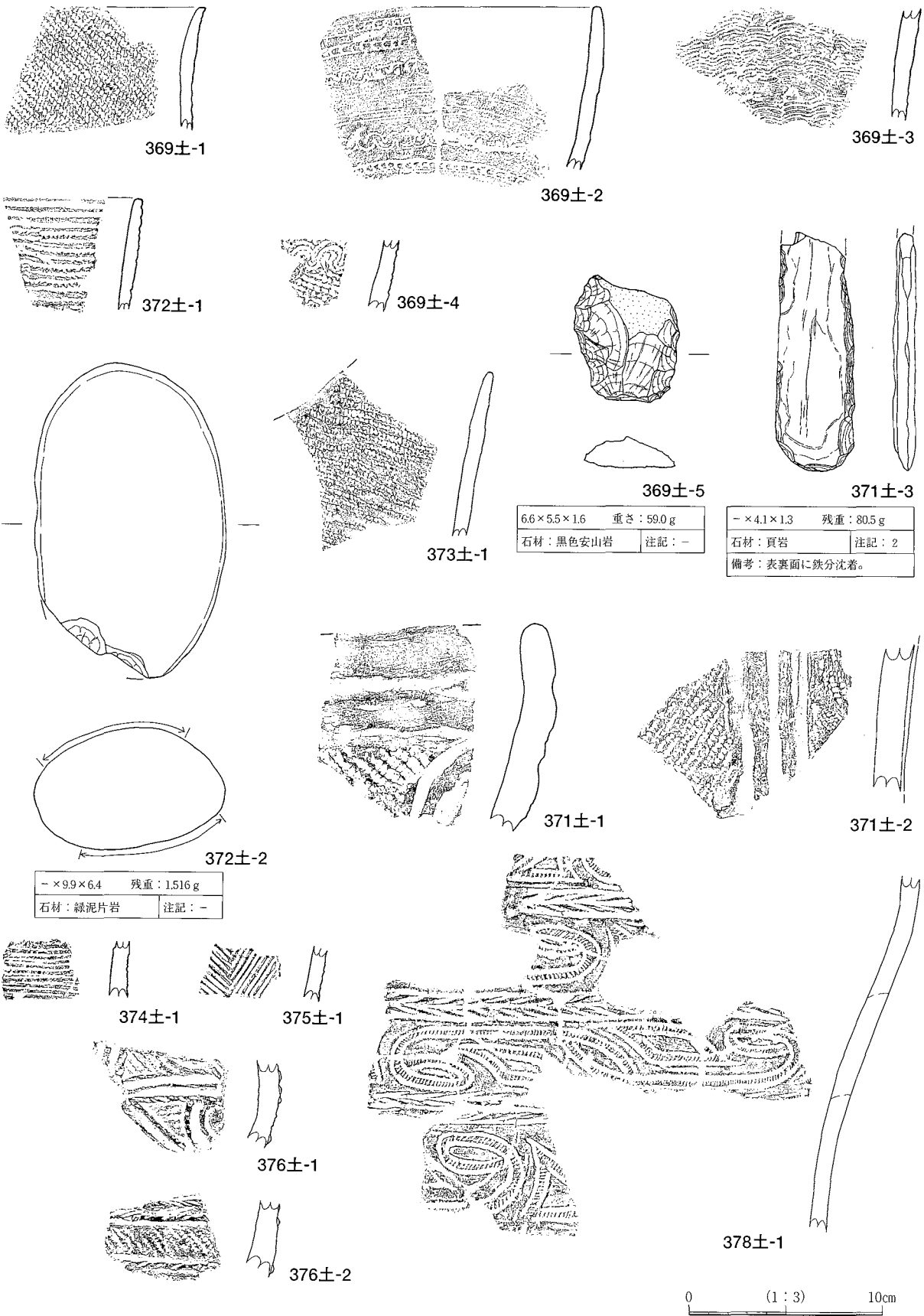
358±-1



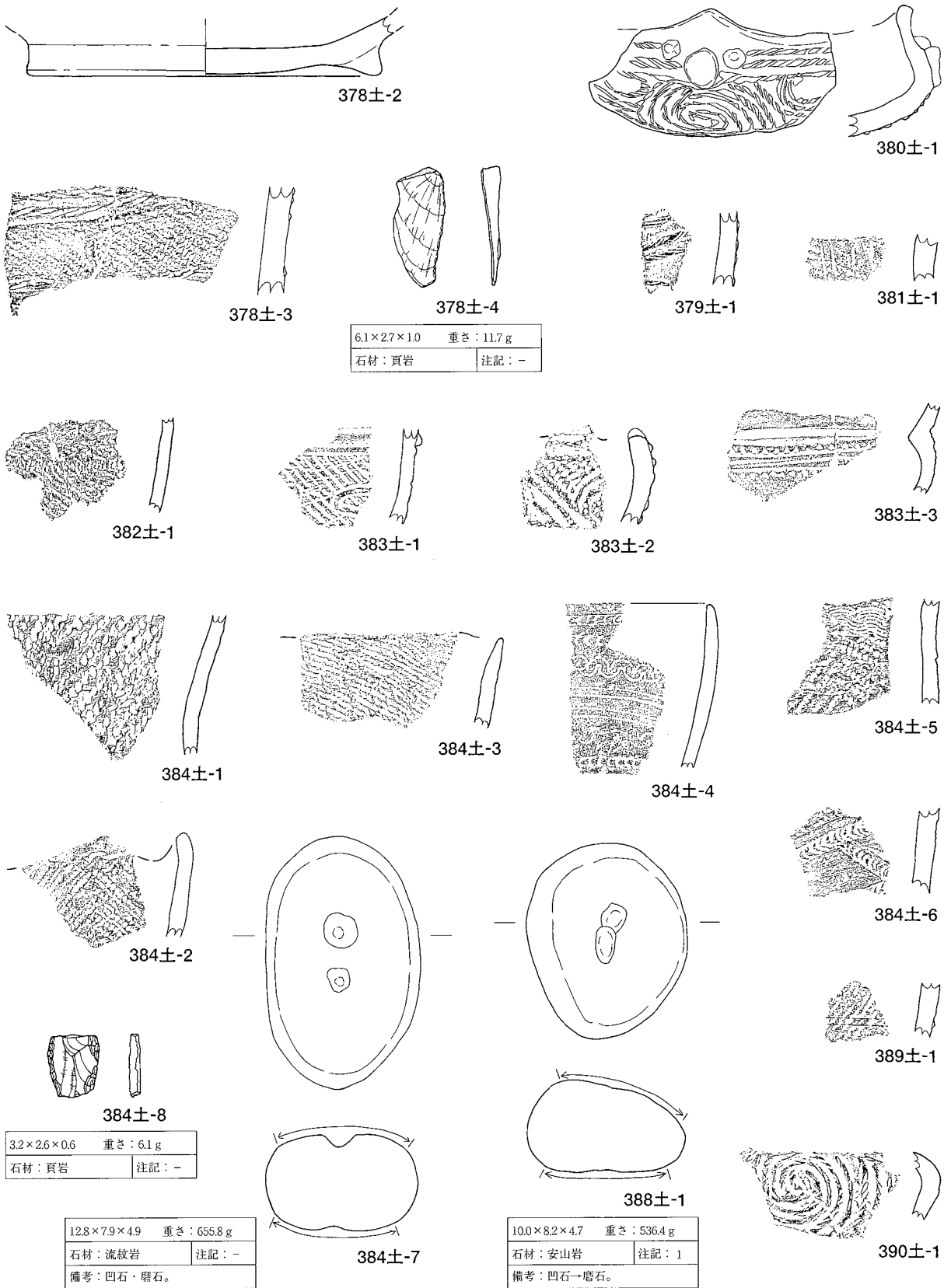
第443図 東地区土坑出土遺物④



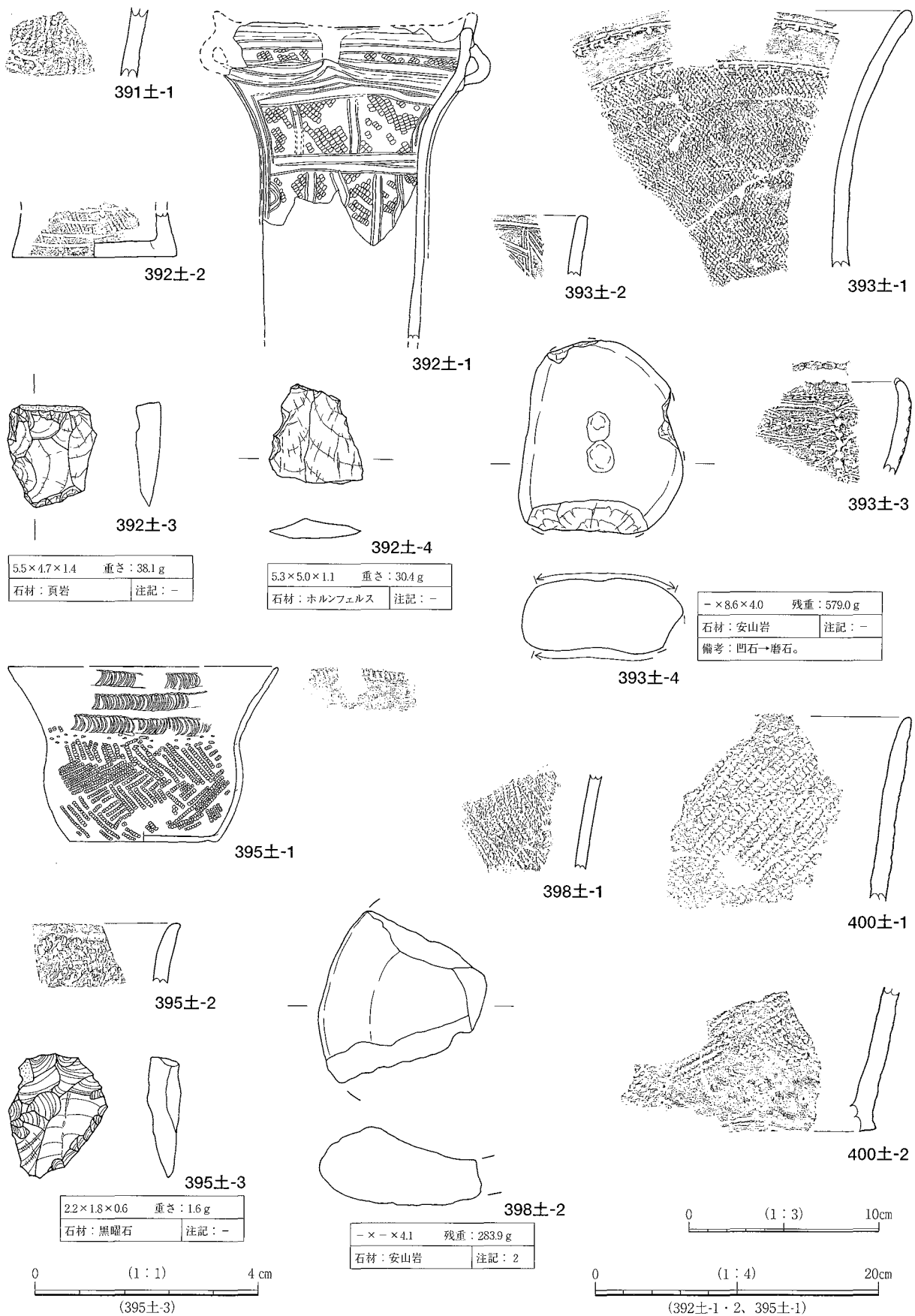
第444図 東地区土坑出土遺物④



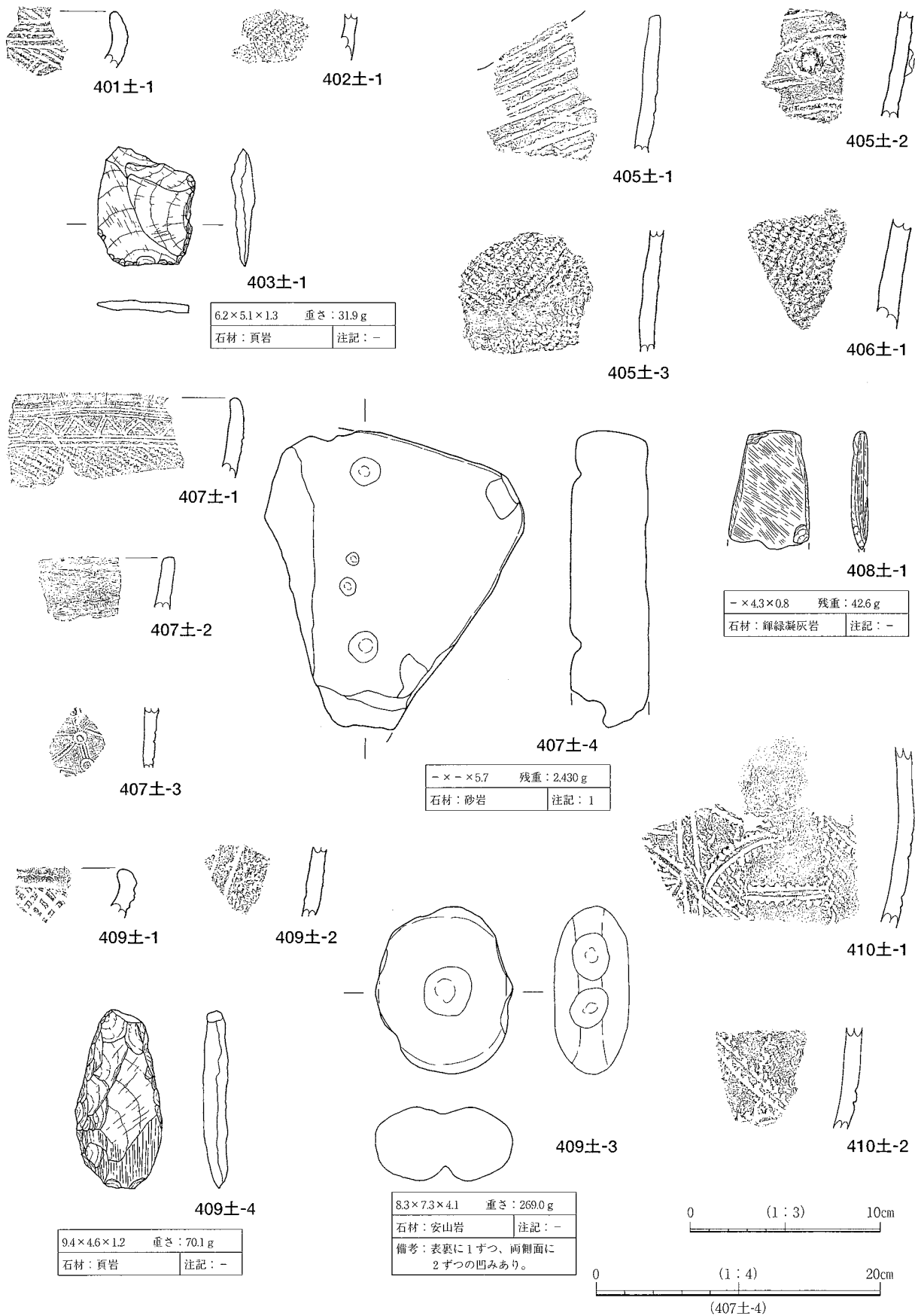
第445図 東地区土坑出土遺物④



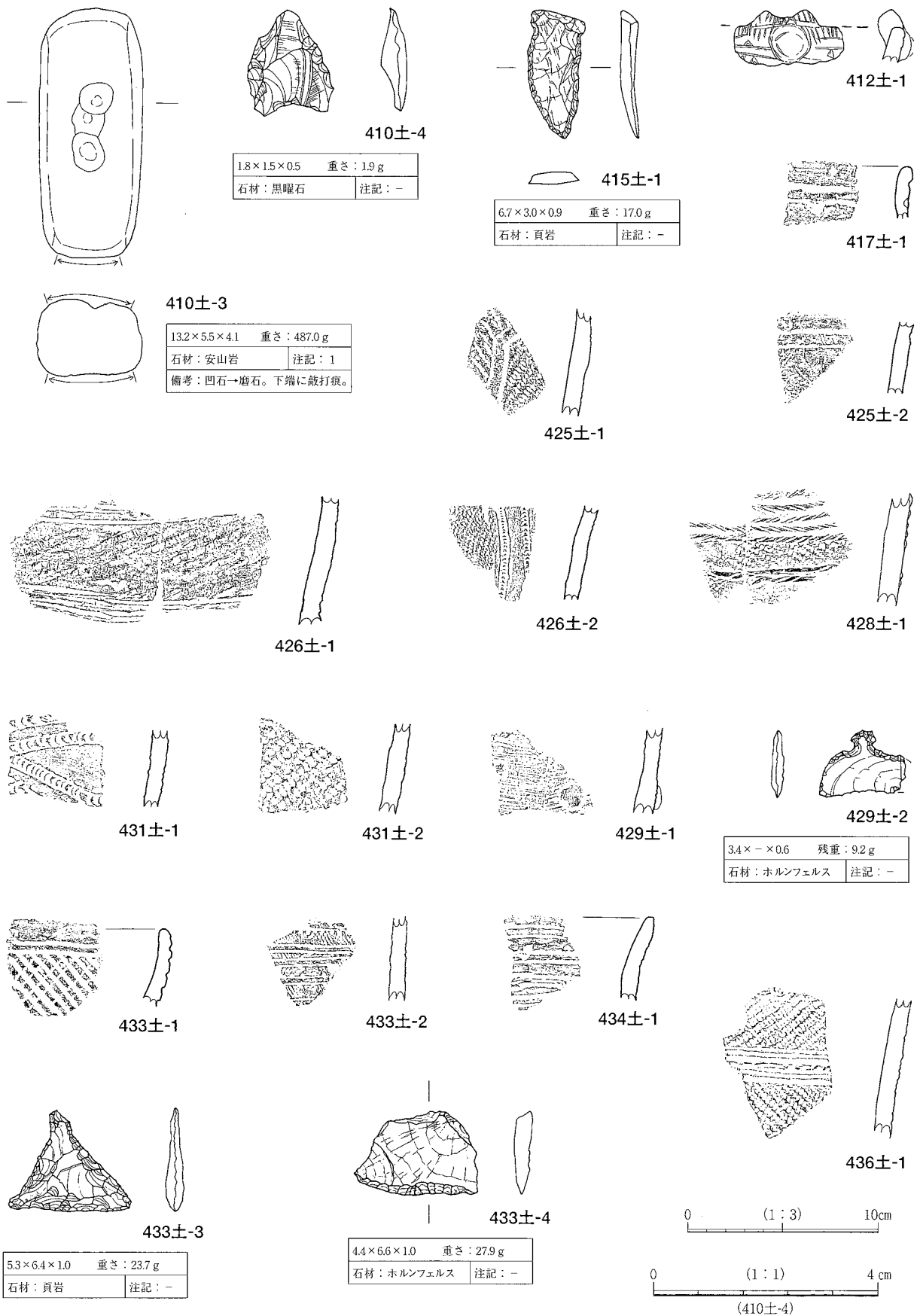
第446図 東地区土坑出土遺物⑤



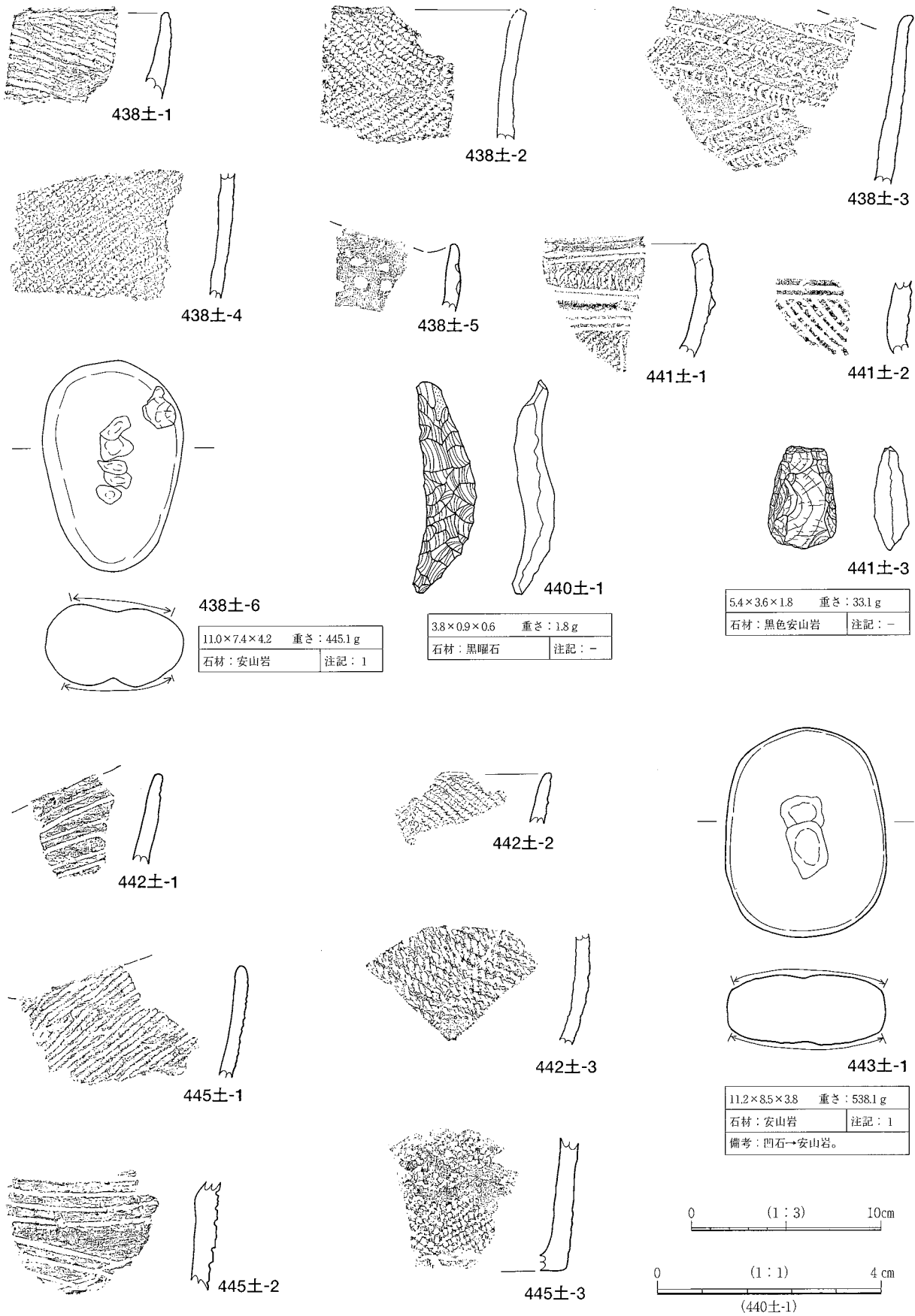
第447図 東地区土坑出土遺物⑤



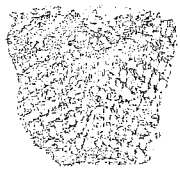
第448図 東地区土坑出土遺物⑤



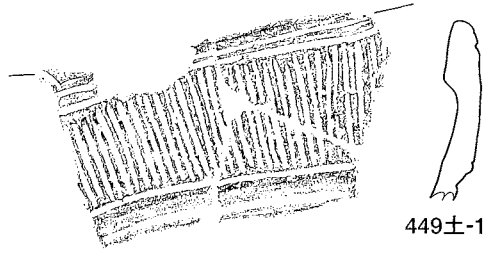
第449図 東地区土坑出土遺物⑤③



第450図 東地区土坑出土遺物⑤



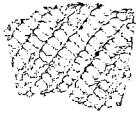
447±-1



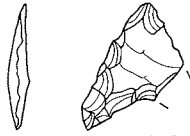
449±-1



449±-2



448±-1



449±-3



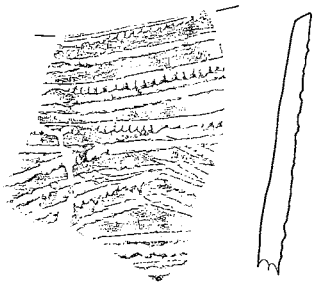
452±-3

1.7×-×0.3	残重: 0.5 g
石材: 頁岩	注記: -

1.6×-×0.3	残重: 0.6 g
石材: 黒曜石	注記: -



448±-2



453±-1



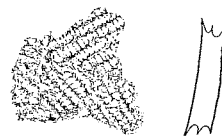
452±-1



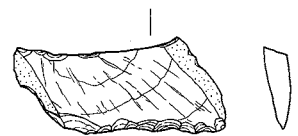
452±-2



455±-1



454±-1



455±-4

3.8×8.5×1.0	重さ: 34.0 g
石材: 頁岩	注記: 1



455±-2



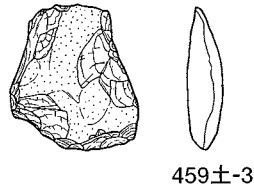
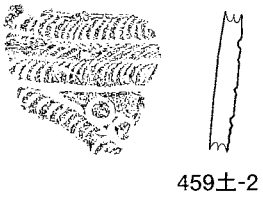
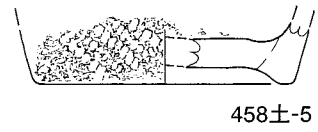
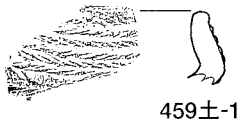
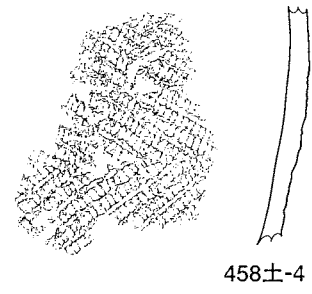
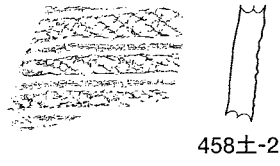
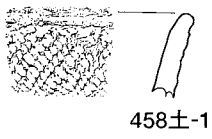
455±-3

0 (1:3) 10cm

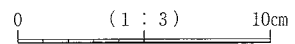
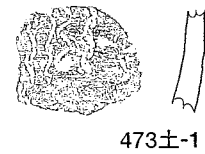
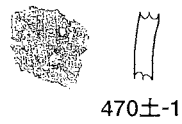
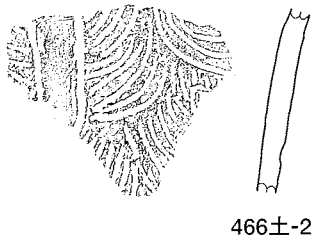
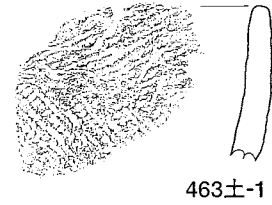
0 (1:1) 4cm

(449±-3、452±-3)

第451図 東地区土坑出土遺物⑤



5.7×5.1×1.5	重さ：40.4g
石材：頁岩	注記：1



第452図 東地区土坑出土遺物⑥

第5節 集石・集石土坑

1号集石（遺構：第453図、P L44）

位置：Ec-58グリッド。2号集石が東側に近接する。検出状態：土坑内に多量の礫が埋められたような状態で出土している。礫はやや大振りな河原石で、大半に被熱痕が認められる。礫には立石状のものもみられるが、規則性は認められない。埋没土はローム粒を含む暗褐色土で、焼土や炭化材の混入は認められなかった。土坑の底面等にも被熱痕はみられなかった。平面形態：不整楕円形。規模：1.25m×1.08m。残存深度：10cm前後。遺物出土状態：土器片1点と黒曜石のチップが出土している程度である。時期：不明。

2号集石（遺構：第453図、P L44）

位置：Ec-59グリッド。1号集石が西側に近接する。検出状態：土坑内に大量の礫が埋められたような状態で出土している。礫は1号集石と同様、やや大振りな河原石で、大半に被熱痕が認められる。礫の配置には規則性は認められないが、出土状態からは南東側から順に積まれたものと推定される。埋没土はローム粒を含む黒色土で、しまり・粘性ともにあまりなく、焼土や炭化材の混入は認められなかった。土坑の底面等にも被熱痕はみられなかった。平面形態：不整形。長方形に近い形態である。規模：1.06m×0.58m。残存深度：15cm程度。遺物出土状態：礫以外の遺物は検出されなかった。時期：不明。

3号集石（遺構：第453図、P L44）

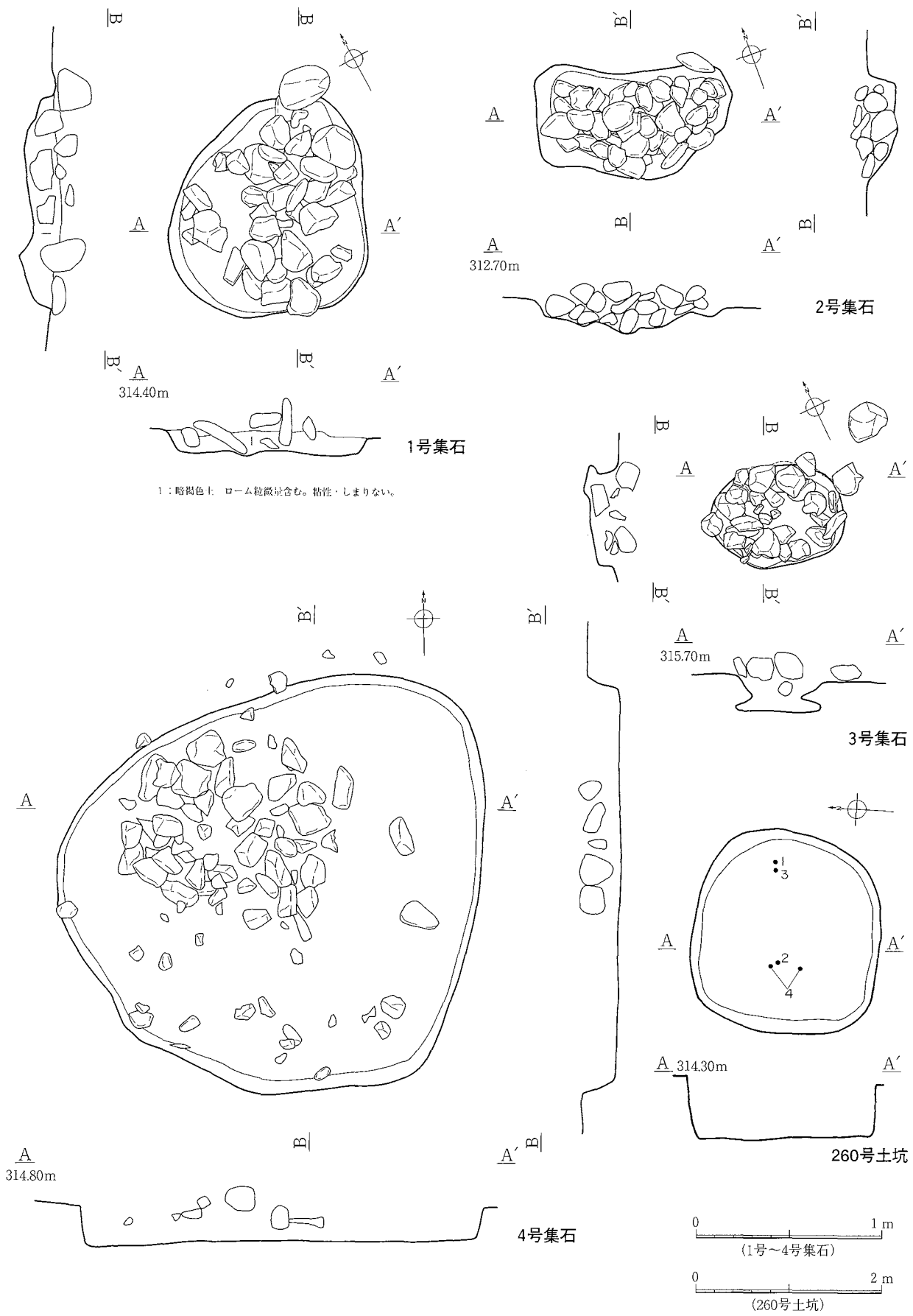
位置：Eb-53グリッド。検出状態：土坑内に多量の礫が埋められたような状態で出土しているが、土坑底面より浮いた位置もしくは上面からの出土が多い。また、中央部には少ない状態であった。礫の大半には被熱痕が認められる。埋没土はローム粒・白色軽石粒を含む黒褐色土で、しまり・粘性はややあるが、焼土や炭化材の混入は認められなかった。土坑の底面等にも被熱痕はみられなかった。平面形態：楕円形。断面形態：フラスコ状。規模：0.72m×0.55m。残存深度：19cm。遺物出土状態：土器片1点が出土しているのみである。時期：不明。

4号集石（遺構：第453図、P L45）

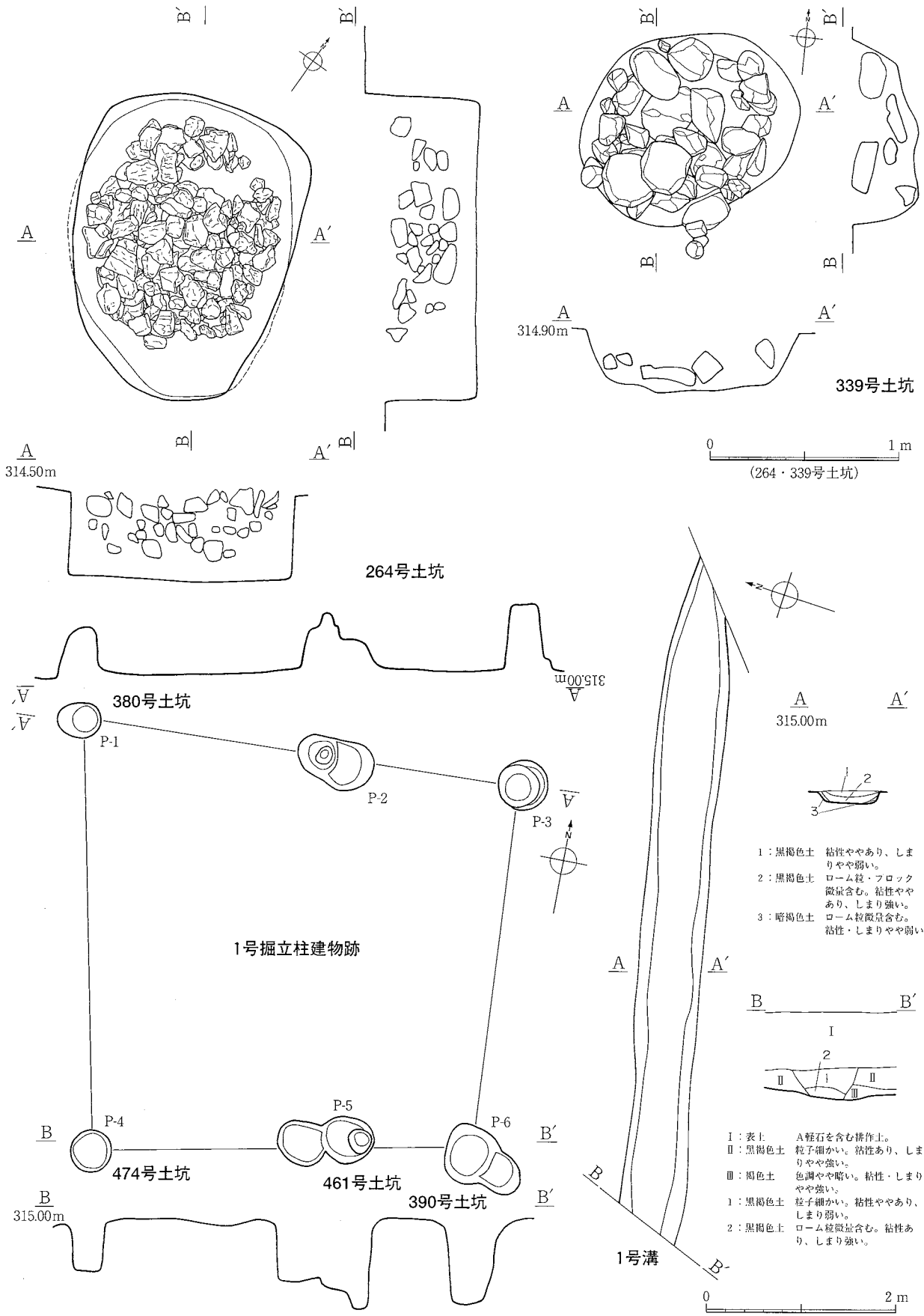
位置：Dh-54グリッド。検出状態：諸磯b式期と想定される83号住居跡の上面で検出された。土坑内から大量の礫が出土している。床面から浮いた状態のものが多く、また、北西側に集中している。礫には円礫・角礫がみられ、大半に被熱痕が認められる。埋没土中には焼土・炭化材は認められず、土坑の底面等にも被熱痕はみられなかった。平面形態：丸みを持った三角形状を呈する。規模：2.48m×2.30m。残存深度：23cm。遺物出土状態：礫に混じるような状態で諸磯c式土器片が出土している。時期：前期諸磯c式期。

260号・264号・339号土坑（遺構：第453・454図、P L45・46／遺物：第455図、P L133）

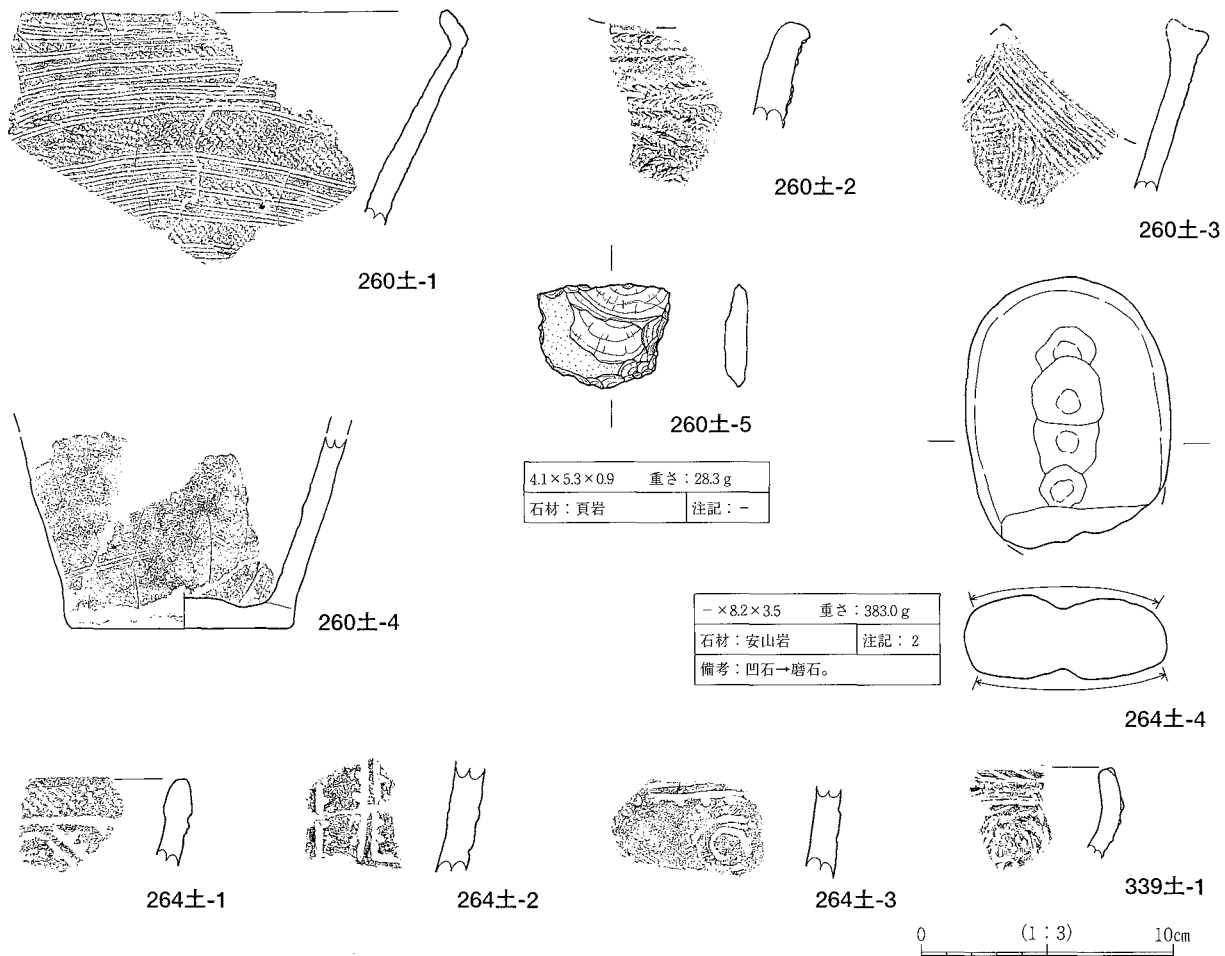
各遺構の概要は第3節の表に一覧してある。前述の4基と同様な遺構である。260号土坑は諸磯b式期と想定され、55号住居跡に切られる状態にある。礫は中央部上面付近を中心に出土している。264号土坑は五領ヶ台式期と想定され、礫は底面より浮いた状態にある。339号土坑は諸磯b式期と想定され、礫は大振りな河原石が多い。3基とも礫には被熱痕が認められるものが多いが、土坑埋没土からは焼土や炭化材は検出されておらず、土坑底面等にも被熱痕はみられなかった。



第453図 1号・2号・3号・4号集石、260号土坑



第454図 集石土坑、1号掘立柱建物跡、1号溝



第455図 集石土坑出土遺物

第6節 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（遺構：第454図、P L 47）

位置：Ea-54グリッド。検出状態：当初は単独の土坑として調査していたが、その配置に規則性が認められたことから掘立柱建物跡と判断した。各ピットを結ぶラインは菱形に近い形状を呈する。いずれのピットからも明確な柱痕は確認できなかった。発掘調査時の検討が不十分であり、ほかにも同様の遺構が存在していた可能性がある。桁×梁間：2×1間。桁行：北側4.70m。南側4.00m。梁行：西側4.55m。東側3.80m。柱間寸法：P-1・2間2.60m、P-2・3間2.10m、P-4・5間2.25m、P-5・6間1.75m。掘り方平面形：円形・楕円形。残存深度：50～95cm。遺物出土状態：474号土坑から黒浜式土器片、380号土坑及び390号土坑から諸磯b式土器片が出土している。時期：一概に断定できないが前期諸磯b式期と想定しておく。

第7節 溝

1号溝（遺構：第454図、P L 47）

位置：Ec-58グリッド。検出状態：14号・41号住居跡の上面で検出された。縄文時代の遺構とは判断し難い。底面の標高に顕著な高低差は認められず、性格も不明である。上端最大幅：0.73m。下端最大幅：0.54m。残存深度：断面観察からは30cmほどと想定される。遺物出土状態：遺物は出土していない。時期：不明。

第4章 遺構と遺物（2）西地区

第1節 概要

西地区は東地区から北西に300mほど離れて位置し、北西方向には縄文時代後期の弧状配石・配石墓群3群等が検出された行田梅木平遺跡が近接する。西地区で検出された遺構は溝2条を除き、すべて縄文時代と判断されるものである。各遺構は調査区の西側に多く分布し、北側から東側にかけてはややまばらな分布状態にある。時期的には早期～後期前半までの遺構・遺物がみられるが、東地区に比べて中期後半（末葉）～後期初頭にかけてのものが多し。東地区で多くみられた諸磯a～諸磯c式期・十三菩提式期・五領ヶ台式期の遺構は極端に少ない状態にあり、東地区・西地区は、本来、別の遺跡ととらえるべき様相にある。なお、115号住居跡埋没土中から細石核や縦長剥片が出土している。これらは旧石器時代の遺物と考えられ、同遺物については第5章（「遺構外出土遺物」）に掲載する。

住居跡

早期押型文期1軒、前期黒浜～諸磯a式期12軒、中期後半（末葉）～後期初頭9軒の計22軒を検出している。前期黒浜～諸磯a式期のものと中期後半（末葉）～後期初頭のものとはほぼ大別される状態にある。

早期押型文期とみられる114号住居跡は深い掘り込みを有するものであるが、出土遺物は山形の押型文土器片と撚糸文系とみられる無文土器片のみであった。

前期黒浜～諸磯a式期の住居跡は、おおむね東地区の当該期住居跡と同様の形態にあり、拡張の行われた形跡や出入り口部と思われる掘り込みも認められる。

中期後半（末葉）～後期初頭の住居跡は平面プランを明確に把握できなかったものが多いが、柄鏡形敷石住居跡である96号住居跡は良好な状態で検出されている。同住居跡は主体部（居住主体部）には板状の安山岩、張り出し部（出入り口部）には河原石を使用している。出土遺物から後期初頭の遺構と考えられる。

土坑

60基を確認している。時期不明の28基を除き、中期後半（末葉）～後期初頭のもの21基あり、前期黒浜・有尾（～諸磯a式期）10基、中期五領ヶ台式期1基と中期後半（末葉）～後期初頭の土坑が圧倒する状態にある。東地区では475基の土坑が検出されているにもかかわらず、中期後半代の土坑がわずか9基であったことからみても、本地区における当該期の土坑の多さがうかがえる。なお、五領ヶ台式期と想定される475号土坑は、Bj-27グリッドにおいて、試掘トレンチ調査時に1基のみ単独で検出されたもので、西地区の遺構が多く分布する区域からは離れた位置にある。

集石

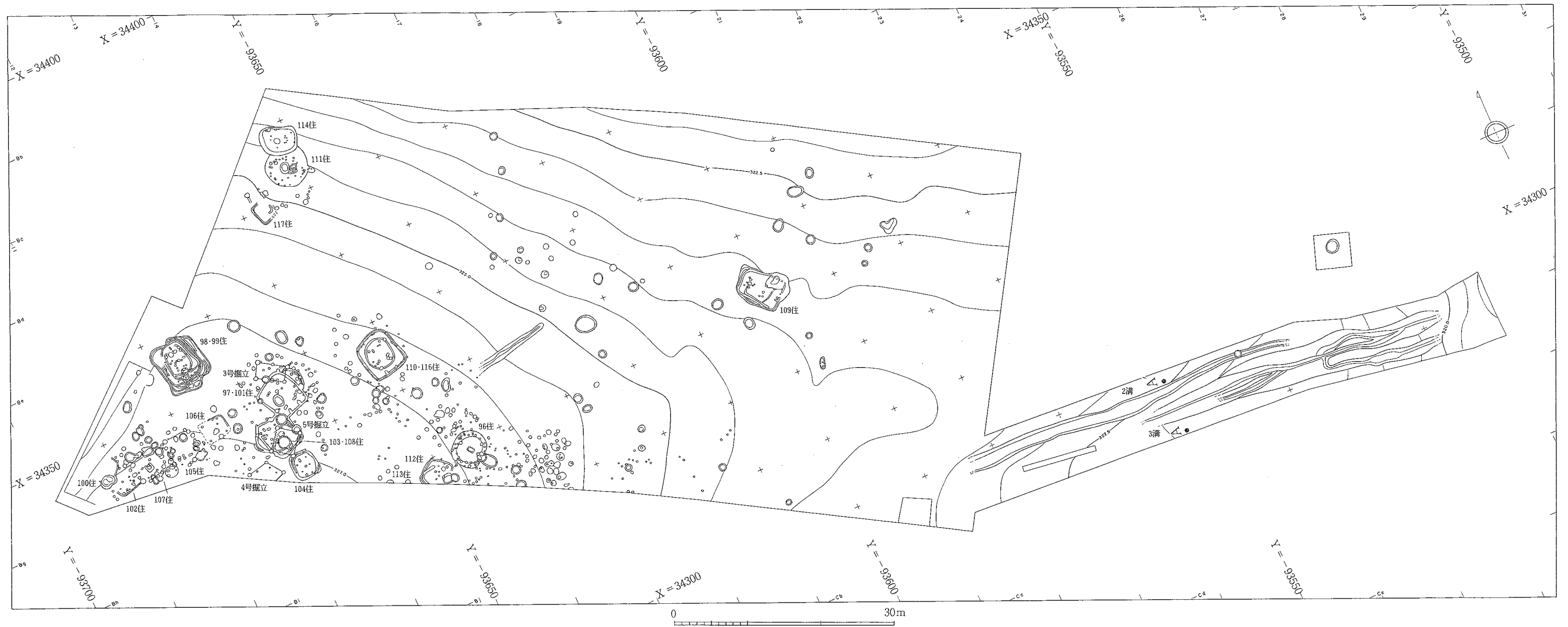
1基（5号集石）を確認したのみである。性格・時期ともに明確に把握できなかった。

掘立柱建物跡

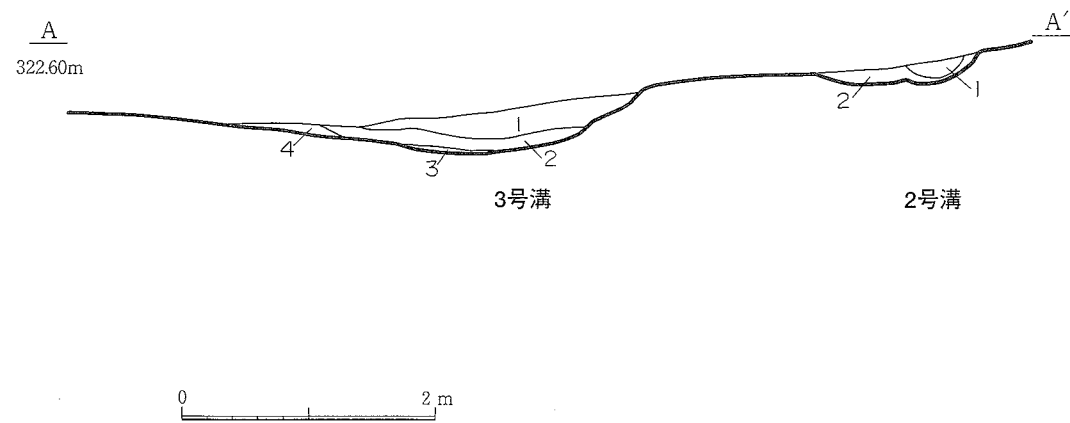
3棟を縄文時代の掘立柱建物跡と判断した。4号掘立柱建物跡は調査区の関係で規模等は不明であるが、3号掘立柱建物跡は2間×1間、5号掘立柱建物跡は1間×1間である。5号掘立柱建物跡は中央部に中期末葉と想定される486号土坑が位置し、同土坑に関連する可能性がある。

溝

2号・3号の2条を調査している。両溝とも西方から東方に位置する谷に向かって走行する。埋没土上層に浅間A軽石の堆積が認められることから近世の溝と想定される。



第456図 行田大道北遺跡 西地区全体図



2号溝

- 1: 灰白色土 浅間A軽石。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・浅間A軽石微量含む。粘性・しまりやがある。

3号溝

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・灰白色の軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやがある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量、YP微量含む。粘性あり、しまりやがある。
- 3: 黄褐色土 YP少量含む。しまり強く、堅い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性・しまりやがある。

第457図 2号・3号溝土層

第2節 住居跡

96号住居跡（遺構：第458～461図、P L 138～141／遺物：第477～479図、P L 152・153、観察表P 601）
位置：Bh-15 グリッド。検出状態：遺構南東部に浅間A軽石の二次堆積がみられ、同層を除去したところ多量の河原石が組まれたような状態で検出された。当初は近世の井戸等の可能性を想定していたが、その後、東側において板状の安山岩が検出され、土器片も出土したことから縄文時代の敷石住居跡と判明するに至った。本住居跡は竪穴内に敷石を施すもので、それに伴う柱穴も円形に巡る状態で検出されている（P L 138・139の上段）。ただ、壁面はハードロームではなく、硬くしまった暗褐色土であったことから、さらに掘り進めた結果、外側にも柱穴が巡る状態が確認された（P L 138・139の下段）。これらの柱穴の状態や、先述した壁面の状態から判断して、本住居跡は規模を内側に縮小した可能性もある。なお、遺構東側は遺存状態が悪く、壁面は削平されている状態であった。平面形態：全体としてはいわゆる柄鏡形を呈する。主体部（居住主体部）はやや方形に近い不整形、張り出し部（出入口部）は南東部が広がる不整形円形である。規模：全長外6.80m、内6.35m。主体部外4.65m×推定4.60m、内4.20m×推定4.25m。張り出し部2.15m×1.80m。主体部と張り出し部との連結部幅は0.95m前後で、同部分の敷石幅は0.44mである。残存深度：敷石面まで20cm前後、掘り方底面までは28cm前後である。長軸方位：N-34°-W。敷石の状態：主体部には、厚さ3～5cm程度の板状安山岩を敷きつめるが、北西側は半月状に敷石を欠く。同部分には攪乱を受けた痕跡は認められず、遺物も他の部分と同様に出土していることから、敷石付設当初から敷石が施されなかったものと想定される。また、敷石と柱穴の状態（P L 140）から判断して、柱を立てた後に敷石を施した可能性が高い。さらに、縁辺部には玉石や円礫、石棒片などが各柱穴間に位置するように配されていた。敷石に使用された板状の安山岩は大きいものは長さ80cm、本来は1mを超えるものもあったようである。張り出し部には、河原石を用い、両側に横位もしくは縦位に立て並べ、底面にも河原石を敷く（P L 140）。北西側には河原石を立てるための溝状の掘り方が確認されている。掘り方は連結部寄り有一段低い状態にあるが、これは底面の敷石面をほぼ水平に保つためのものと考えられる。また、南東側は崩れた状態にあるが、張り出し部壁面には複数の河原石が積まれていた可能性もある。連結部には板状の安山岩を敷き、主体部側には板状の安山岩を立て、張り出し部側には河原石を配している。床面の状態：敷石面の検出を急ぐあまり、床面の把握が不十分であった。炉跡南西側から深鉢片が重ねられるように出土している（P L 140）が、敷石面より5cm弱ほど浮いた状態にある。他の遺物出土状態等からも敷石面が床面とは考えにくく、敷石面の上に5cm前後の土を充填し床面を構築していた可能性が高い。ただし、掘り下げの過程では顕著な硬化面は確認できなかった。壁面の状態：内側の柱穴調査時点では遺存状態良好な南西壁面は、ほぼ直立に近い状態であった。壁周溝：検出されなかった。柱穴：先述したように外側にも柱穴が巡るが、第460図のP-1～22を最終的な本住居跡の柱穴と判断した。連結部両脇のP-11・12は非常に規模が大きく、掘り込みも70cm前後と深い。このP-11・12に対応する位置にはP-1があり、他の柱穴よりもやや内側に位置している。P-1も規模的には他の柱穴より大きく、「大黒柱」的な性格が想定される。P-4とP-20、P-5とP-19、P-6とP-18、P-7とP-17、P-8とP-16、P-3とP-9、P-2とP-10、P-22とP-13、P-21とP-15は、それぞれ対応する位置関係にある。また、主体部・張り出し部の外側にも多数のピットが存在しており、これらは周縁外部に何らかの施設が存在した可能性、垂木のピットの可能性、張り出し部にも上屋構造が存在した可能性等を想起させるものであるが、本遺構との帰属関係を明確に把握できなかったため、いずれの可能性についても確証は得られなかった。炉跡：主体部の中央やや南東寄りに位置する。大振りの河原石4石を用いた石囲い炉で、東側隅の

隙間には石棒の頭部片がはめ込まれていた。平面形態は長方形で、規模は75cm×58cm、石上面からの深さ37cm。各石が安定するように掘り方を施している。各石の内側はいずれも顕著な被熱痕が認められ、炉跡底面も著しく被熱していた。黒褐色土を基調とする炉跡埋没土からは、焼土や炭化粒が検出されている。石囲い施設：連結部の主体部側に石囲い施設がある。底面に板状安山岩を敷き、同じく板状の安山岩を立てて方形に囲うもので、規模は33cm×28cm、立石上端から底面の敷石面までの深さは19cmである。同施設の埋没土は黒褐色土を基調とし、焼土や炭化材等は検出されなかった。本住居跡からは埋設土器は検出されておらず、この石囲い施設が埋設土器と同様の性格を持つ可能性があるが、土壌サンプリングを行う前に埋没土をすべて掘り下げてしまったため、自然科学分析を実施することができなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・Y P等を含む黒褐色土が埋没していた。遺物出土状態：第461図の遺物分布図に示したように、土器・石器とも主体部・張り出し部のほぼ全面に散在するような状態にある。また、基本的に敷石面よりも浮いた位置から出土していた。炉跡南西側からは深鉢(2)片が重ねられたような状態で出土し、それに近接して石皿兼多孔石(23)が出土している。また、先述したが、各柱穴間には玉石・円礫・石棒片が配されており、特にP-2とP-3の間に置かれた玉石は長さ約30cmと大振りのもので全体が丁寧に磨かれていた。備考：本住居跡は移築復元を想定して調査を実施しており、遺構実測図は1/5縮尺で作図し、各敷石や炉石等は番号を付した上で取り上げ、松井田町教育委員会に保管してある。時期：後期初頭と想定される。

遺物：深鉢1点、土器片895点(紛れ込みの黒浜・有尾式土器97点を含む)、石器(石皿兼多孔石1、石皿2、磨石・凹石12、スクレイパー1、石鏃7、石棒片2、玉石・丸石10、磨製石斧3、剥片その他82点)を確認している。黒曜石総重量57.3g。掲載遺物、土器22点、石器12点。

97号住居跡(遺構：第462・463図、P L 142/遺物：第480・481図、P L 153、観察表P 602)

位置：Bf-13グリッド。検出状態：中期末葉～後期初頭と想定される101号住居跡に切られる状態にあるが、同住居跡は遺存状態が極めて悪く、床面は本住居跡よりも高い位置に構築されていたようである。東側壁周溝付近で検出された埋設土器は101号住居跡に帰属するものである。また、3号掘立柱建物跡や中期末葉と想定される476号・482号土坑に一部を切られている。平面形態：長方形。規模：5.50m×4.85m。床面積：推定26.7㎡。残存深度：20cm前後。長軸方位：N-30°-W。床面の状態：凹凸・起伏が著しい。壁面の状態：遺存状態良好な部分では80°前後の勾配で立ち上がっている。壁周溝：全周する。柱穴：P-1～4の4基を規模や位置関係から本住居跡の主柱穴と判断した。また、南側壁周溝から溝状にのびるP-5・6は出入り口部に関連するものと思われる。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・Y P等を含む黒褐色～暗褐色土が埋没していた。遺物出土状態：南東隅部から深鉢(1・2)が出土しているほか、埋没土中に散在するような状態で、土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜～諸磯a式期。遺物：深鉢2点、土器片660点(黒浜・有尾式540点、諸磯a式120点)、石器(石皿1、磨石・凹石9、磨製石斧1、スクレイパー2、剥片その他33点)を確認している。黒曜石総重量72.4g。掲載遺物、土器5点、石器5点。

98号住居跡(遺構：第464図、P L 143/遺物：第482・483図、P L 153・154、観察表P 602)

位置：Be-12グリッド。検出状態：表土の堆積が薄く、あまり良好な遺存状態ではない。所々攪乱を受け、北西側は風倒木に壊されている。99号住居跡を本住居跡が切る状態にある。拡張・立て替えが著しく、99号住居跡としたものを含めて、本地点では少なくとも5回の立て替えが行われたものと想定される。平面形態：隅丸長方形。規模：推定6.45m×5.85m。床面積：不明であるが、37㎡前後と想定される。残存深度：11

cm。長軸方位：N-17°-W。床面の状態：凹凸・起伏が見られる。炉跡西側に地山被熱痕がみられた。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：全周するものと想定される。不明瞭な部分もあるが、5重に存在するようである。柱穴：重複・拡張の影響で多数のピットが存在し、あまり明確ではないが、P-1～6の6基を本住居跡の最終拡張段階での支柱穴と判断した。3基ずつが並列する状態にあるものと想定される。P-1とP-5間、P-2とP-6間とも心々距離は3.50mである。また、南側の各壁周溝から溝状にのびる掘り込みが確認されており、不明瞭であるが本来は対の状態存在していたものと思われる。同部分は出入り口部に関連するものと想定される。炉跡：中央部北寄りに位置。地床炉で、平面形態は不整楕円形、規模73cm×53cm、深さは約30cmであるがピットと重複するようである。南側を中心に被熱痕が認められた。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片412点、石器（石皿1、スクレイパー3、石鏃2、石匙1、磨石2、敲石1、剥片その他58点）を確認している。黒曜石総重量66.3g。掲載遺物、土器6点、石器6点。

99号住居跡（遺構：第464図、P L143／遺物：第483図、P L154）

位置：Be-12 グリッド。検出状態：98号住居跡参照。98号住居跡に切られる状態にあり、同住居跡の南西側でわずかに壁周溝が確認できるのみである。平面形態：不明。規模：-×推定4.40m。床面積：不明。残存深度：8cm。長軸方位：不明。床面の状態：やや起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：残存部分においては全周する。柱穴：不明。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：ローム粒等を含む黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡出土遺物と判断したものは石器類2点のみである。時期：不明確であるが、前期黒浜・有尾式期と想定しておく。遺物：石器（スクレイパー1、剥片1）。黒曜石は検出されなかった。掲載遺物、石器1点。

100号住居跡（遺構：第465図、P L142／遺物：第484・485図、P L154、観察表P602）

位置：Bf-10 グリッド。検出状態：遺構北側は崖状地形で急激に落ち込む状態にあり、遺構も地形の改変により壊されているような印象を受けた。遺構の遺存状態が悪く、不明瞭な点が多い。本住居跡の床面は黒浜・有尾式期と想定される102号住居跡の床面よりも30～40cmほど低い位置に構築されている。また、488号・489号・490号土坑に切られる状態にある。平面形態：不明。規模：不明。短軸方向は2.80m程度と思われる。残存深度：102号住居跡の床面から30～40cm。床面の状態：若干の起伏がみられる。壁面の状態：80°前後の勾配で立ち上がる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：数基のピットが存在するが、支柱穴は不明。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片243点、石器（磨石・凹石6、異形剥片石器1、石匙1、石鏃1、敲石1、剥片その他26点）を確認している。黒曜石総重量36.4g。掲載遺物、土器8点、石器4点。

101号住居跡（遺構：第462・463図、P L142／遺物：第486・487図、P L154・155、観察表P602）

位置：Bf-13グリッド。検出状態：円形にピットが巡るようであり、おおよその範囲は想定できるが、遺存状態が悪く、壁面も残存していない。97号住居跡を切る状態にあるが、床面は本住居跡の方が高い位置に構築されていたようである。また、3号掘立柱建物跡が重複するが、新旧関係は把握できなかった。平面形態：

先述したピットの状態から円形基調と想定されるが、明確ではない。規模・床面積：不明。残存深度：0 cm。床面の状態：遺構想定範囲内においてはやや凹凸・起伏がみられるが、本来の床面は削平されている可能性がある。壁面の状態：不明。壁周溝：97号住居跡東側壁周溝の東側に、不明瞭ながら溝が弧状に検出されている。本住居跡の壁周溝とは考えにくく、別の遺構が重複していた可能性もある。柱穴：明確ではないが、P-7～10の4基を本住居跡の主柱穴と判断した。周縁部と想定される位置にピットが巡るようであるが、本住居跡との帰属関係を明確にできないものが多かった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：P-9とP-10の中間点付近から埋設土器(1)が検出されている。把手部分を欠損するもののはほぼ完形に近い状態にあり、わずかな掘り方内に正位で埋設されていた。そのほか、遺構想定範囲内から少量の土器片・石器類が出土している。時期：中期末葉～後期初頭と想定される。

遺物：深鉢1点、土器片52点、石器（磨石2、スクレイパー1、剥片その他1点）を確認している。黒曜石総重量5.5g。掲載遺物、土器6点、石器1点。

102号住居跡（遺構：第465図、P L 142／遺物：第488図、P L 155、観察表P 602）

位置：Bf-11 グリッド。検出状態：100号住居跡参照。部分的に攪乱を受けている。遺構北側の状態は不明である。100号住居跡と重複し、中期末葉もしくは後期初頭と想定される488号・489号・492号・494号土坑及び時期不明の490号土坑に切られる。また、東側は中期末葉～後期初頭と想定される107号住居跡に切られる位置関係にあるが、同住居跡の床面は本住居跡の確認面よりも高い位置に構築されていたようである。平面形態：全容は不明であるが、長方形基調と推定される。規模：-×3.85m。床面積：不明。残存深度：25 cm前後。長軸方位：推定N-11°-W。床面の状態：全体的に平坦であるが、北側に向かうにしたがって凹凸・起伏が多くなる。壁面の状態：残存部分が少ないが、60°前後の勾配で立ち上がるようである。壁周溝：南側で一部確認されているが、あまり明瞭な状態ではない。柱穴：P-1・2の2基を主柱穴の一部と判断した。また、南側壁面から溝状にのびるP-3・4は出入り口部と想定される。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色～暗褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片358点、石器（磨石・凹石3、スクレイパー1、石匙1、石鏃3、敲石1、砥石1、石核1、剥片その他16点）を確認している。黒曜石総重量16.4g。掲載遺物、土器5点、石器5点。

103号住居跡（遺構：第466図、P L 143／遺物：第489図、P L 155、観察表P 603）

位置：Bf-13 グリッド。検出状態：残存深度が浅く、あまり良好な遺存状態ではない。また、重複が著しく、遺構内は煩雑な状態にある。108号住居跡は、本住居跡とほぼ同時期と思われるが、検出状態から本住居跡の方が新しいと判断した。そのほか、5号掘立柱建物跡や中期末葉と想定される482号・486号・487号土坑に切られる状態にある。さらに、北側には97号・101号住居跡が近接する。平面形態：北側方向は遺構範囲を明確に把握できない状態にあるが、隅丸長方形基調と想定される。規模：-×4.80m。床面積：不明。残存深度：18cm。長軸方位：N-29°-W。床面の状態：重複の影響もあり、凹凸・起伏が著しい。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、本来は全周していたものと想定される。柱穴：多数のピットが存在するが、主柱穴は把握できなかった。南東壁周溝部分から溝状にのびるP-1・2は出入り口部分に関連するものと考えられる。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：ローム粒・白色軽石粒・YP等を含む黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土

器片・石器類が出土しているが、重複する108号住居跡との遺物の帰属関係はやや曖昧な状態にある。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片188点、石器（磨石・凹石13、スクレイパー 2、石錐 1、剥片その他27点）を確認している。黒曜石総重量22.5g。掲載遺物、土器 4 点、石器 5 点。

104号住居跡（遺構：第467図、P L143／遺物：第490図、P L156、観察表P603）

位置：Bg-13 グリッド。検出状態：5号掘立柱建物跡の柱穴に北西隅部を切られる。また、北東側は浅い攪乱を受けている。平面形態：隅丸方形。規模：3.65m×3.43m。床面積：推定11.8㎡。残存深度：5 cm。長軸方位：ほぼ座標北方向を指向する。床面の状態：多少の凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：全周する。不明瞭ではあるが、2重に存在するようである。柱穴：P-1・3・7とP-2・6・8はそれぞれ同一ライン上に位置しており、規模的にも支柱穴の可能性が高いが、P-4・5も深い掘り込みがみられ、あるいはP-3～6の4基が支柱穴で、P-7・8は出入り口部に関連するピットとも考えられる。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散乱するような状態で少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜～諸磯a式期。

遺物：土器片13点、石器（磨石・凹石 3、石匙 1、剥片その他 7 点）を確認している。黒曜石総重量8.1g。掲載遺物、土器 2 点、石器 2 点。

105号住居跡（遺構：第467図、P L143／遺物：第491図、P L156、観察表P603）

位置：Bf-11グリッド。検出状態：柱穴・ピットが円形に巡る状態から住居跡と判断したもので、壁面は全く残存していなかった。時期不明の480号土坑が重複する。南西部に不整形の掘り込みがあるが、本住居跡との関連性は不明である。平面形態：円形基調と想定されるが、P-1・2を連結部の対ピットとする柄鏡形住居跡、もしくは敷石住居跡であった可能性も考えられる。規模：不明であるが、直径4.5m程度と推定される。床面積：不明。残存深度：0 cm。長軸方位：不明。先述したようにP-1・2を連結部の対ピットと仮定した場合、N-59°-W。床面の状態：全体的に平坦であるが、本来の床面は削平されている可能性がある。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：P-1・2を連結部の対ピットと仮定した場合、P-3がそれに対応する奥側の柱穴と考えられる。なお、P-1・2からは径25cmほどの柱痕が確認されている。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺構想定範囲内やピット内から土器片・石器類が出土している。時期：中期末葉～後期初頭と想定される。

遺物：土器片110点、石器（スクレイパー 1、剥片その他16点）を確認している。黒曜石総重量20.1g。掲載遺物、土器 3 点、石器 2 点。

106号住居跡（遺構：第468図、P L144／遺物：第492図、P L156、観察表P603）

位置：Bf-12グリッド。検出状態：炉跡と埋設土器及び柱穴・ピットが残存するのみである。黒浜式期と想定される477号土坑と時期不明の478号土坑が重複する。平面形態：不明であるが、円形基調と推定される。規模・床面積：不明。残存深度：0 cm。長軸方位：不明。床面の状態：多少の凹凸がみられるが、本来の床面は削平されている可能性がある。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：P-1～5の5基が本住居跡の柱穴と思われる。炉跡：先述の各柱穴の中央部付近に位置する。遺存状態はあまり良好ではないが、河原石を用いた石囲い炉である。南西側に張り出した部分がみられるが、本来は平面楕円形と想定さ

れ、規模81cm×62cm、深さ20cmである。掘り方には河原石を配するための溝が確認されている。各石には被熱痕が認められ、炉跡底面にも被熱痕がある。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：P-6から埋設土器が検出されている。深鉢の下側から底部までが遺存していたのみであるが、かなり大形の土器と思われる。深鉢内からは礫が検出されている。炉跡東側に人頭大前後の河原石7点がみられたが、本住居跡との関連性は不明である。そのほか、遺構想定範囲内や柱穴・ピット内から少量の遺物が出土している。時期：中期末葉～後期初頭と想定される。

遺物：深鉢1点、土器片59点、石器（磨石・凹石1、不明礫多数）を確認している。黒曜石は検出されなかった。掲載遺物、土器6点、石器1点。

107号住居跡（遺構：第469図、P L 144／遺物：第493図、P L 156、観察表P 603）

位置：Bf-11グリッド。検出状態：上面は削平を受けており、壁面は全く遺存していない状態であった。遺構範囲は耕作痕が著しい。遺存状態は先述した理由で悪いものの、柱穴の状態からおおよその遺構の範囲を想定した。中期末葉と想定される492号・494号土坑、時期不明の481号・485号土坑が重複し、西側は黒浜・有尾式期と想定される102号住居跡を切る状態にあるが、同住居跡の確認面よりも本住居跡の床面の方が高い位置に構築されていたようである。平面形態：円形基調と想定されるが、P-1・2は柄鏡形住居跡の連結部対ピットと考えられ、本来は敷石住居跡であった可能性もある。規模：不明であるが、直径4.9m程度と推定される。床面積：不明。残存深度：0cm。長軸方位：推定N-12°-W。床面の状態：本来の床面は既に削平されていた。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：周縁部に柱穴を巡らせているものと想定される。先述したようにP-1・2は連結部の対ピットと判断した。炉跡：中央部やや南寄りとして想定される位置に炉の痕跡を確認している。本来は石囲い炉であったと思われるが、石は小振りの1石のほかは取り除かれていた。掘り方は、平面不整長方形で、規模111cm×96cm、深さ19cmである。底面や壁面には顕著な被熱痕は確認できなかった。底面の周縁部には炉石を固定するためのものと思われる溝状の掘り込みがみられた。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：遺構範囲内から土器片2点、剥片1点が出土したのみである。時期：出土遺物が少なく明確ではないが、他の遺構との類似性から中期末葉～後期初頭に想定しておく。

遺物：土器片2点、石器（剥片1点）。黒曜石は検出されていない。掲載遺物、土器1点。

108号住居跡（遺構：第466図、P L 143／遺物：第493図、P L 155、観察表P 603）

位置：Bf-13グリッド。検出状態：103号住居跡参照。平面形態：やや不明瞭であるが、隅丸長方形と想定される。規模：-×4.45m。床面積：不明。残存深度：17cm。長軸方位：N-74°-W。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、本来は全周していたものと想定される。柱穴：主柱穴は把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：本住居跡残存部分から少量の遺物が出土しているが、重複する103号住居跡との帰属関係はやや曖昧な状態にある。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片32点、石器（磨石1、剥片1点）。黒曜石は検出されていない。掲載遺物、土器3点。

109号住居跡（遺構：第470図、P L 144／遺物：第494図、P L 156、観察表P 603）

位置：Bg-20グリッド。他の住居跡群からは東方に離れて位置する。検出状態：東側は攪乱を受けている。また、南東側の状態から、他の住居跡が重複していた可能性もあるが、明確に把握できなかった。平面形態

：南東壁面が長い隅丸台形。規模：6.20m×4.35m。床面積：推定25.0m²。残存深度：13cm。長軸方位：N-45°-W。床面の状態：凹凸・起伏が著しい。壁面の状態：明確に把握できない。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、全周するものと想定される。北西側及び南西側は3重に存在するようであり、2回の拡張が行われた可能性がある。柱穴：多数のピットが位置するが、P-1～6の6基を規模や位置関係から最終拡張段階での支柱穴と判断した。3基ずつが並列するものと考えられる。また、南東側壁周溝から溝状にのびるP-7は出入り口に関連するものと思われるが、対になる状態ではなかった。炉跡：中央北西寄りに位置する。幅45cmほどの細長い溝状に検出されているが、これは新旧の炉跡が重複しているものと考えられ、北西端に枕石状に河原石を置く部分が新しい炉跡と想定される。深さは10cm前後である。炉跡内の河原石2点には被熱痕が認められ、また、古い炉跡と想定される方の埋没土2層からは焼土ブロックが検出されている。遺構埋没状態：ローム粒・YP・白色軽石粒等を含む黒褐色～暗褐色土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で、少量の土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片53点、石器（打製石斧1、スクレイパー3、磨石5、敲石2、砥石1、剥片その他18点）を確認している。黒曜石総重量29.9g。掲載遺物、土器3点、石器4点。

110号住居跡（遺構：第471図、P L 144／遺物：第495図、P L 157、観察表P 603）

位置：Bf-14 グリッド。検出状態：116号住居跡内に重複して位置し、本住居跡が切る状態にあるが、調査当初は重複関係を把握できず、2軒を同時に掘り下げてしまったため、壁面の状態等が確認できなかった。また、中期末葉～後期初頭と想定される115号住居跡が重複するが、同住居跡の床面は116号住居跡の確認面かそれよりも高い位置に構築されていたものと考えられる。115号住居跡に帰属すると判断した埋設土器の状態から判断して本住居跡の方が古い遺構と考えられる。平面形態：円形。やや楕円形に近い。規模：3.85m×3.60m。床面積：推定11.8m²。残存深度：116号住居跡からの深さ10cm弱。長軸方位：ほぼ座標北方向を指向する。床面の状態：凹凸・起伏がみられる。壁面の状態：確認できなかった。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、全周するものと想定される。柱穴：重複の影響で明確ではないが、P-1～4の4基を本住居跡の支柱穴と判断した。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中から少量の土器片が出土している程度である。時期：中期末葉（～後期初頭）に想定しておく。遺物：土器片21点を確認しているが、115号住居跡に帰属する遺物が含まれている可能性がある。石器類・黒曜石は検出されなかった。掲載遺物、土器3点。

111号住居跡（遺構：第473図、P L 145・146／遺物：第496・497図、P L 158、観察表P 603）

位置：Bc-14 グリッド。検出状態：北西側に早期の114号住居跡が隣接し、本住居跡の方が新しいが、当初重複関係を把握できず掘り込みの深い114号住居跡を先行して調査したため、北西側の遺構の範囲を明確にすることができなかった。遺構中央部に時期不明の534号土坑が位置し、遺物出土状態等から本遺構の方が新しいと考えられる。平面形態：全容は把握できなかったが、円形基調と想定される。規模：直径5.5m前後と推定される。床面積：不明。残存深度：30cm。長軸方位：不明。床面の状態：検出されている礫や埋設土器の口縁部は、「床面」よりも10cm前後上の位置にあり、当初床面と判断していたものは掘り方底面で、本来の床面は土を充填して構築されていた可能性がある。壁面の状態：遺存状態良好な西側部分では、直立に近い状態にある。壁周溝：検出されなかった。柱穴：明確ではないが壁面付近に柱穴が巡るものと思われる。炉跡：中央北西よりの円形坑を炉跡の痕跡と判断した。平面形は不整円形で、規模は推定70cm×65cm、

深さ25cm。なお、同炉跡部分から南東方向へ向かって二又の溝が掘り込まれており、南側の溝上面には河原石等の礫が集中し、その南東側には深鉢上半部の埋設土器(1)が検出されている。この溝や礫の性格については明確に判断できなかつた。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：先述の埋設土器(1)の南西側にも埋設土器(2)があり、深鉢の完形品が正位に埋設され、上部には礫が埋め込まれていた。そのほか、埋没土上層を中心に土器片・石器類が出土している。また、河原石等の礫も多く検出されており、炉跡を取り巻くように弧状もしくは円形に小礫が巡っている（P L 145）。時期：中期後半。

遺物：深鉢5点、土器片159点、石器（多孔石1、石鏃2、磨製石斧1、打製石斧1、剥片その他11点）を確認している。黒曜石総重量16.0g。(5)は高台の付く片口深鉢である。掲載遺物、土器6点、石器3点。

112号住居跡（遺構：第474図、P L 147／遺物：第498図、P L 158、観察表P 603）

位置：Bh-14グリッド。南側は調査区外。検出状態：南東側を中期末葉と想定される501号土坑に切られる状態にある。平面形態：全容は不明であるが、隅丸方形と推定される。規模：推定3.80m×3.50m。床面積：不明。残存深度：15cm。長軸方位：N-48°-W。床面の状態：凹凸・起伏が著しい。壁面の状態：残存部分が少なく、明確ではない。壁周溝：南東側では確認できなかったが、本来は全周するものと想定される。西側では不明瞭ながら3重に確認されている。柱穴：大小のピットが存在するが、主柱穴は把握できなかった。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。

遺物：土器片100点、石器（磨石3、剥片その他3点）。黒曜石総重量1.2g。掲載遺物、土器4点。

113号住居跡（遺構：第474図、P L 147／遺物：第499図、P L 158、観察表P 603）

位置：Bh-14グリッド。南側は調査区外。検出状態：遺構名は住居跡としたが、柱穴の配置から掘立柱建物跡の可能性が高い。遺構範囲内に時期不明の500号土坑が位置する。規模：全容は不明だが、各柱穴間の心々距離は、P-1～P-2が1.35m、P-2～P-3が1.35m、P-3～P-4が2.50mである。柱穴の掘り方径は40～55cm、深さは約60～80cmといずれも深い。備考：P-4の5層は柱痕と想定され、柱痕径は約20cmである。長軸方位：不明であるが、P-1～P-3のラインはN-81°-Eを指向する。遺物出土状態：柱穴内から土器片1点、剥片1点が出土している。時期：明確ではないが、中期後半～後期初頭と想定しておく。遺物：土器片1点、石器（剥片1点）。黒曜石は検出されていない。掲載遺物、土器1点。

114号住居跡（遺構：第475図、P L 145・147／遺物：第499図、P L 158、観察表P 603）

位置：Bc-14グリッド。検出状態：111号住居跡参照。平面形態：いびつな隅丸長方形。南側壁面は弧状を呈する。規模：4.40m×3.40m。床面積：13.6㎡。残存深度：70cm。長軸方位：N-78°-W。床面の状態：Y P層中に構築している。若干の起伏がみられる。壁面の状態：おおむね60°前後の勾配で立ち上がるが、遺存状態良好な部分では直立に近い状態にある。壁周溝：検出されなかった。柱穴：小ピット多数がみられるが、床面からの深さが浅いものが多く、主柱穴は把握できなかった。遺構周辺にも小ピットが多数みられるが、本住居跡との関連性は明確ではない。炉跡：中央部付近に位置する。地床炉で、平面楕円形、規模70cm×60cm、深さ12cmである。炉跡埋没土中からごく微量ではあるが、炭化粒が検出されている。被熱痕は顕著ではなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：北側隅付近の埋没土上層から押型文土器片(1)が、北東部の壁外から土器片(2)が出土している。時期：早期押型文期。

遺物：土器片4点を確認し、内3点は接合した(1)。石器類・黒曜石は検出されなかった。(1)は山形の押型文が施文され、(2)は無文であるが撚糸文系土器と思われる。掲載遺物、土器2点。

115号住居跡（遺構：第471・472図、P L144・147／遺物：第500・501図、P L157、観察表P604）

位置：Bf-14グリッド。検出状態：110号住居跡参照。116号住居跡の周辺にピットが巡るような状態から住居跡と判断したものであるが、詳細は不明である。また、後期初頭と想定される518号土坑が重複する。平面形態・規模・床面積：不明。残存深度：不明。長軸方位：不明。床面の状態：床面の範囲は明確に把握できていない。壁面の状態：不明。壁周溝：検出されなかった。柱穴：先述したように多数のピットが存在するが、柱穴構成は把握できなかった。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：不明。遺物出土状態：埋設土器2点を本住居跡に帰属するものと判断した。埋設土器(1)は、110号住居跡の北側周溝の上側に大形の深鉢下半部が埋設され、埋設土器(2)は、116号住居跡の西側壁際中央付近に相当する位置で、ほぼ完形の状態で検出されている。なお、両埋設土器の掘り方底面は110号・116号住居跡の床面にまでは達していない。そのほか、遺構想定範囲内やピット内から土器片・石器類が出土している。また、旧石器時代の遺物と想定される細石核等が出土している（第5章参照）。時期：（中期末葉～）後期初頭に想定しておく。

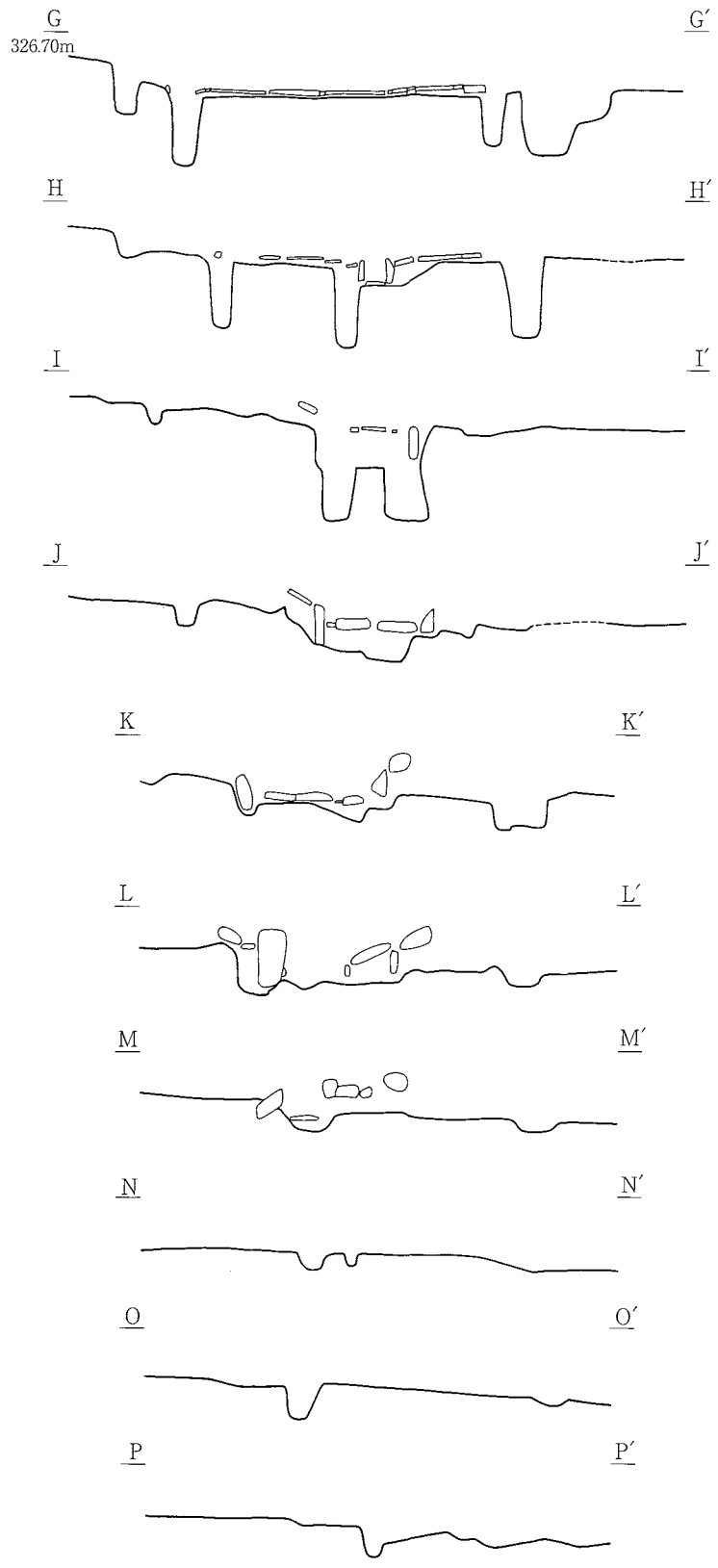
遺物：深鉢2点、土器片92点、石器（スクレイパー1、磨石6、打製石斧1、剥片その他10点）を確認している。黒曜石総重量11.7g。掲載遺物、土器5点、石器1点。

116号住居跡（遺構：第471図、P L144／遺物：第502・503図、P L157、観察表P604）

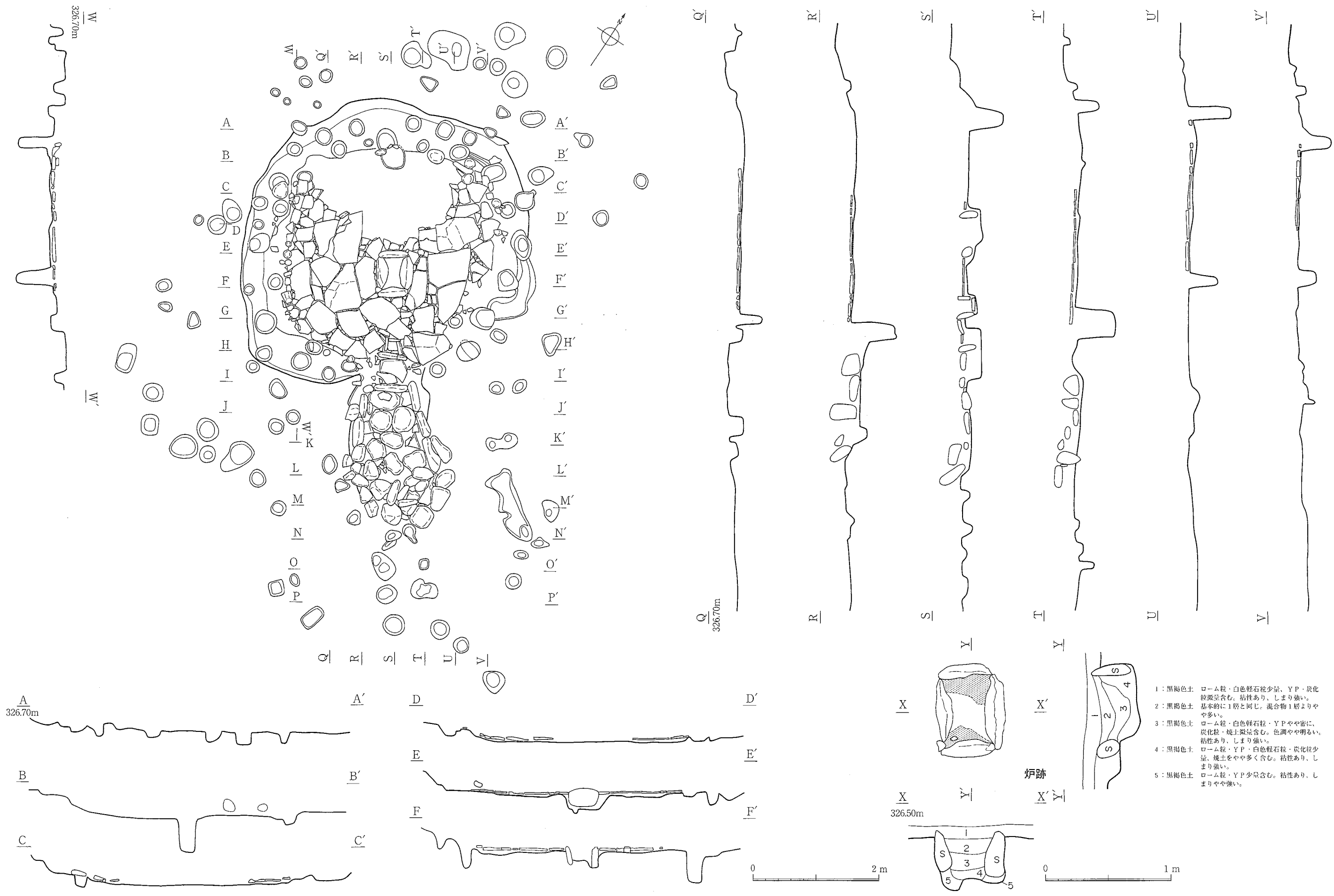
位置：Bf-14グリッド。検出状態：110号住居跡参照。遺構中央部は110号住居跡に切られる状態にある。遺構東側は遺存状態が悪い。平面形態：隅丸長方形。規模：5.80m×5.10m。床面積：推定27.4m²。残存深度：32cm。長軸方位：N-15°-W。床面の状態：多少の起伏がみられる。壁面の状態：遺存状態良好な部分では70°前後の勾配で立ち上がっている。壁周溝：不明瞭な部分もあるが、全周するものと想定される。柱穴：重複の影響で明確ではないが、P-5～10の6基を規模や位置関係から本住居跡の支柱穴と判断した。3基ずつが並列するものと想定される。また、南側壁周溝から溝状にのびるP-11とP-12は出入り口部に関連するものと思われる。炉跡：検出されなかった。遺構埋没状態：黒褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態で土器片・石器類が出土している。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：土器片264点、石器（磨石・凹石13、打製石斧1、磨製石斧2、スクレイパー1、石匙1、石鏃2、石皿2、剥片その他26点）。黒曜石総重量10.1g。土器には神之木式土器も混在する。掲載遺物、土器6点、石器6点。

117号住居跡（遺構：第476図、P L147／遺物：第504図、P L158、観察表P604）

位置：Bd-14グリッド。検出状態：遺存状態が悪く、不明な部分が多い。平面形態：長方形基調と想定される。規模：-×2.60m。床面積：不明。残存深度：10cm弱。長軸方位：推定N-13°-W。床面の状態：凹凸・起伏が著しい。壁面の状態：明確な状態ではない。壁周溝：明瞭ではないが、本来は全周していたものと想定される。柱穴：大小のピットがみられるが、支柱穴は不明。炉跡：確認できなかった。遺構埋没状態：4・5層が本住居跡の埋没土で、ロームブロック・Y P・白色軽石粒等を含む暗褐色基調の土が埋没していた。遺物出土状態：埋没土中からわずかに出土している程度であった。時期：前期黒浜・有尾式期。遺物：ミニチュア土器1点、土器片7点、石器（石皿1、磨石2点）を確認している。黒曜石は検出されていない。ミニチュア土器は紛れ込みの可能性もある。掲載遺物、土器3点、石器1点。

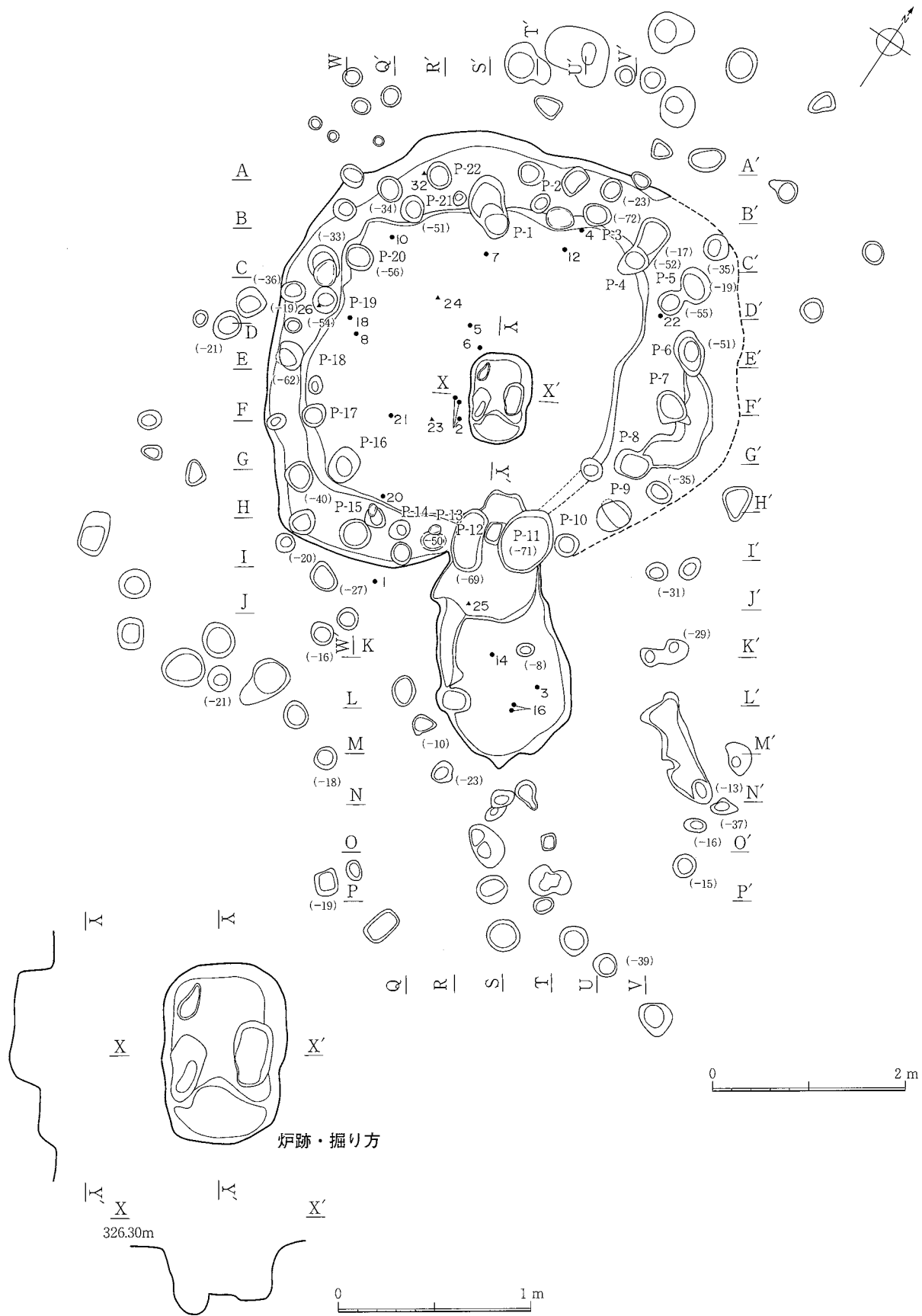


第458图 96号住居跡①

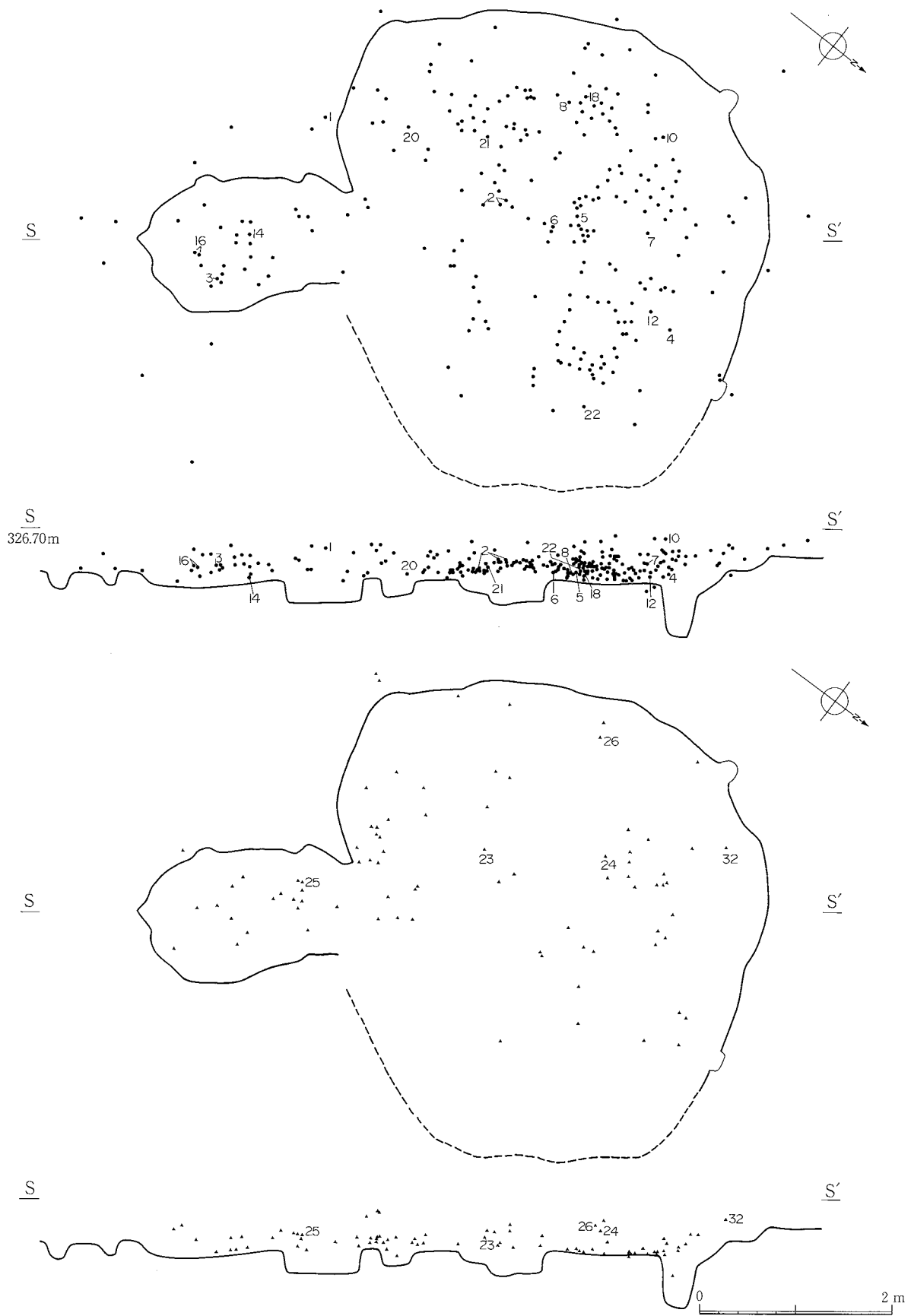


- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量、YP・炭化粒層を含む。粘性あり、しり強い。
- 2: 黒褐色土 基本的に1層と同じ。混合物1層よりやや多い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YPやや密に、炭化粒・焼土粒を含む。色調やや明るい。粘性あり、しり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒・炭化粒少量、焼土粒やや多く含む。粘性あり、しり強い。
- 5: 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しりやや強い。

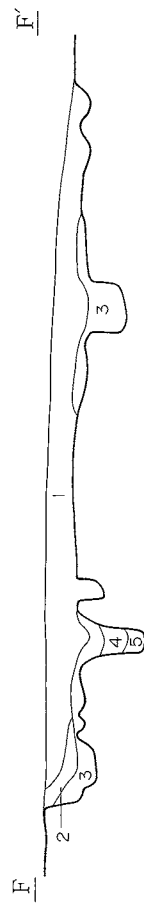
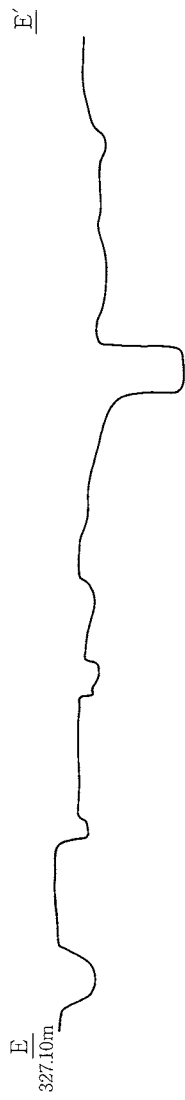
第459図 96号住居跡②



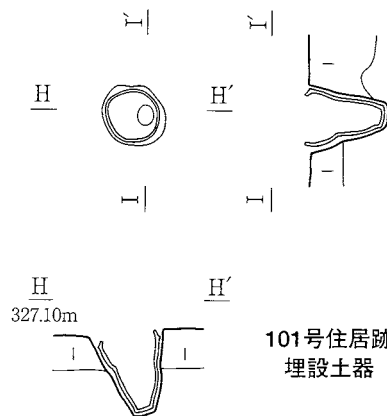
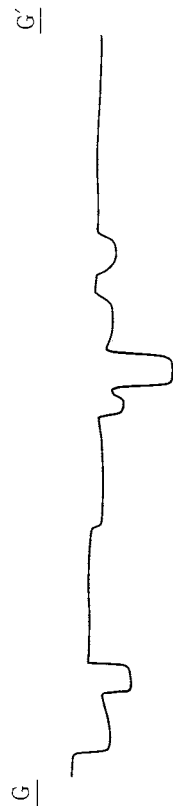
第460图 96号住居跡③掘り方图



第461图 96号住居跡④遺物分布図

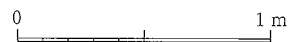


- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石少量、炭化繊維量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・Y.P.・白色軽石少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・フロックをやや多く、Y.P.・白色軽石少量、炭化繊維量含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、Y.P.少量、フロック・炭化繊維量含む。粘性あり、しまり強い。
- 5: 暗褐色土 ローム粒多量、フロック少量含む。粘性あり、しまり強い。

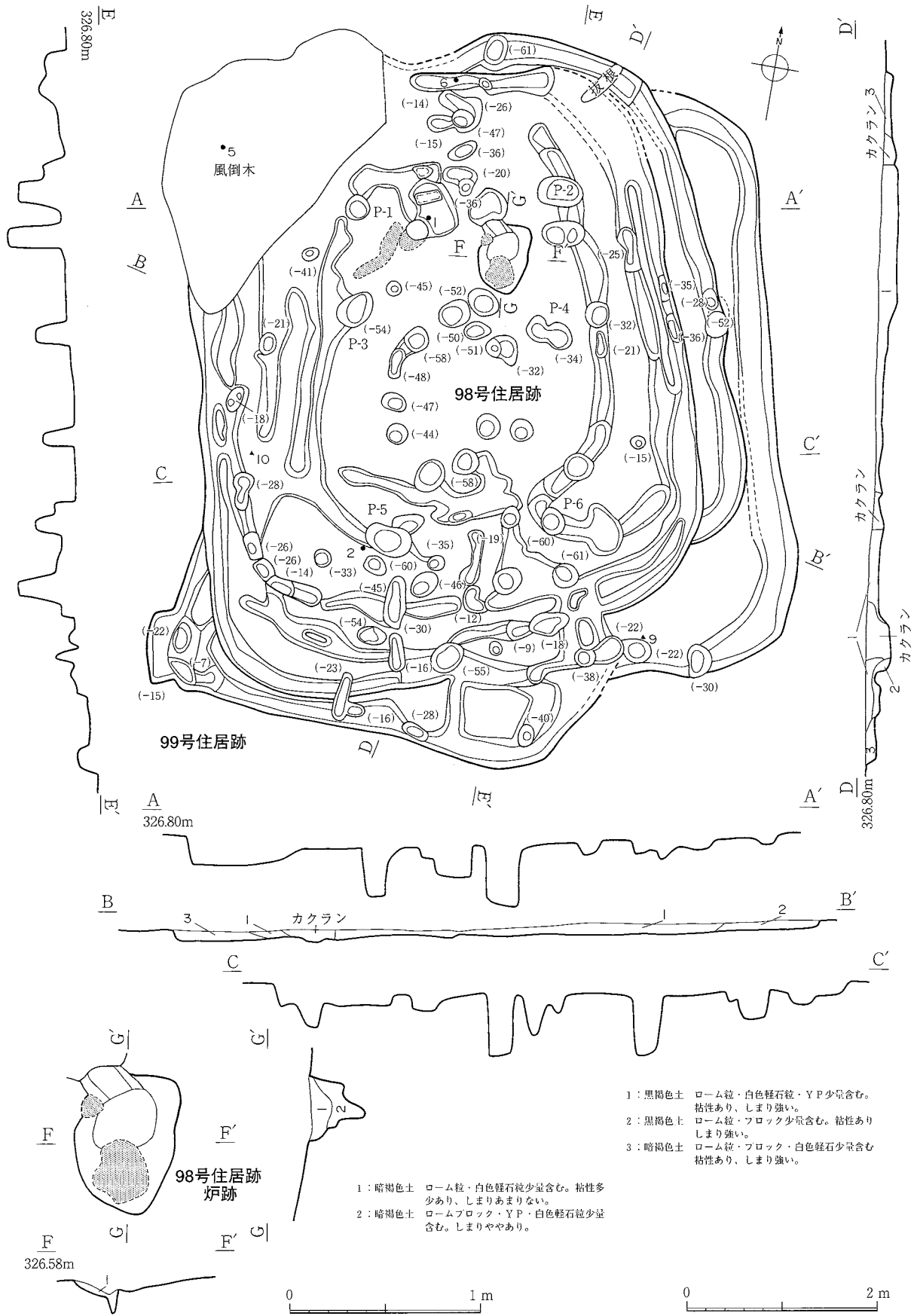


101号住居跡
埋設土器

- 1: 暗褐色土 ローム粒・Y.P.・白色軽石少量含む。粘性あり、しまり強い。



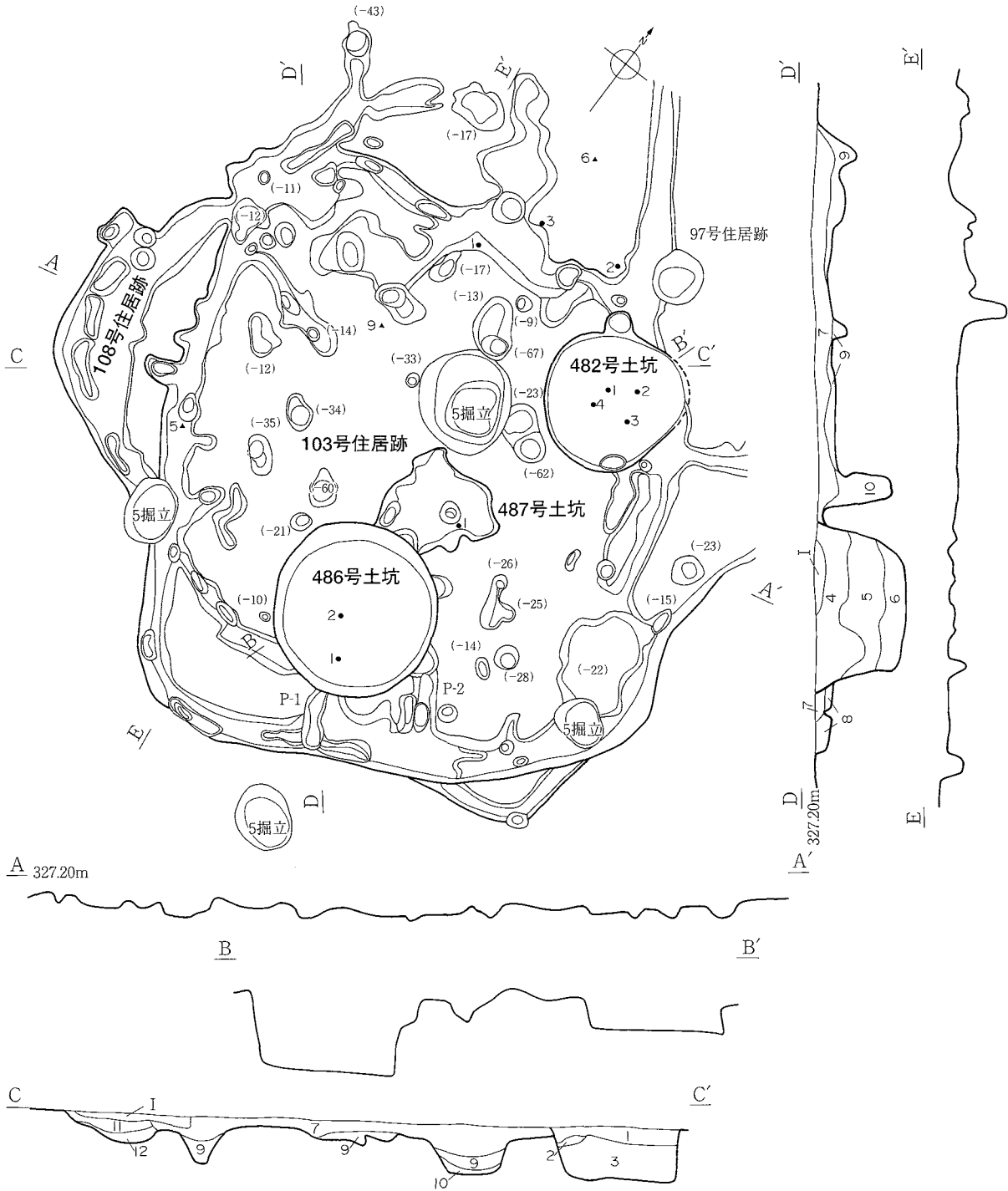
第463図 97号・101号住居跡②



- 1: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石少量含む。粘性あり、しまり強い。

- 1: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量含む。粘性多少あり、しまりあまりない。
- 2: 暗褐色土 ロームブロック・YP・白色軽石粒少量含む。しまりややあり。

第464図 98号・99号住居跡



A 327.20m

A' 327.20m

I : A 軽石を含む表土耕作土。

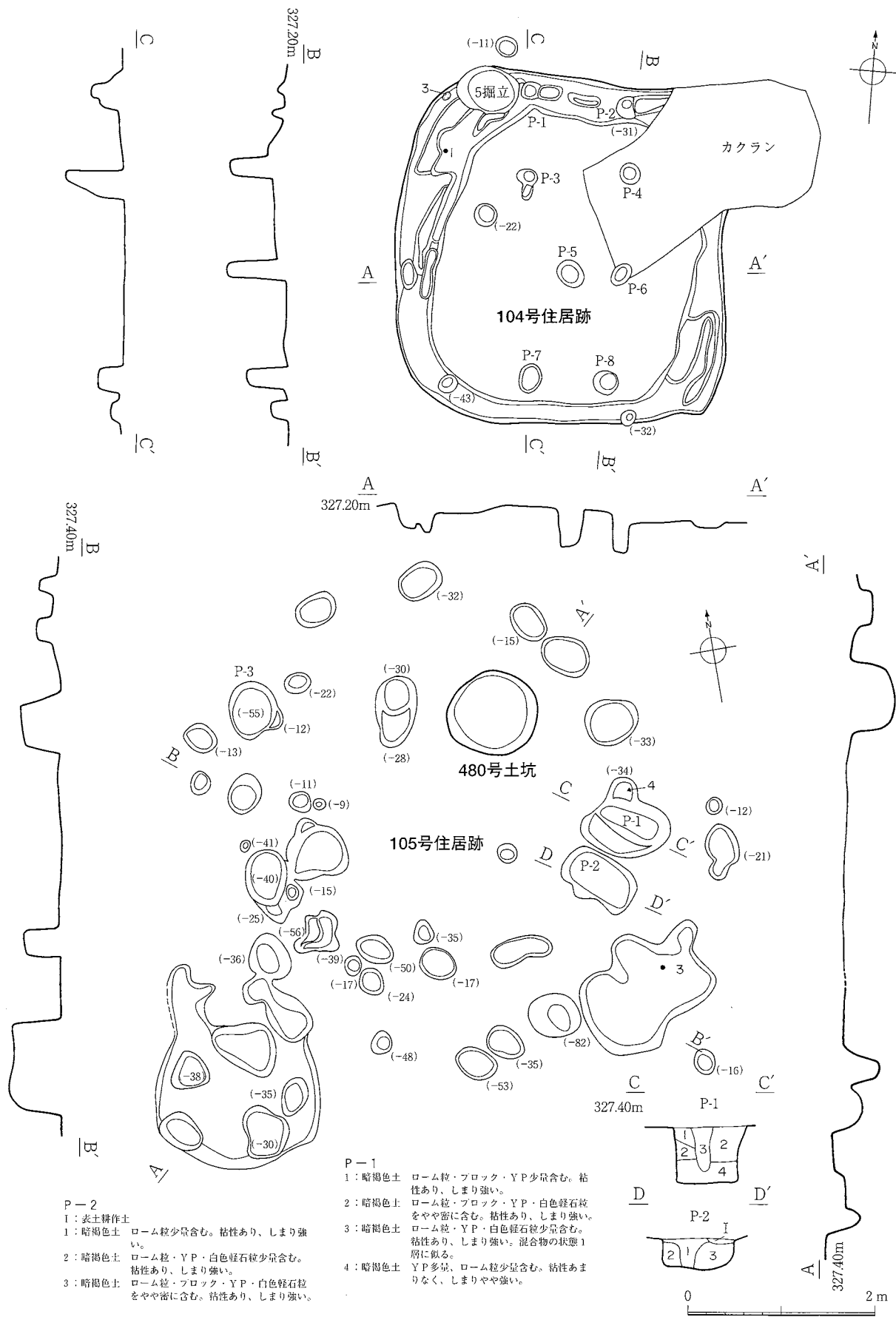
- 1 : 暗褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。(482号土坑)
- 2 : 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまりやや強い。(482号土坑)
- 3 : 暗褐色土 ローム粒・ブロック多量、YP少量含む。粘性やや強く、しまり強い。(482号土坑)
- 4 : 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量、YPやや多く、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。(486号土坑)

- 5 : 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。(486号土坑)
- 6 : 黒褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。(486号土坑)
- 7 : 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 8 : 黒褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 9 : 暗褐色土 ローム粒・ブロックをやや多く、YP少量含む。粘性あり、しまり強い。

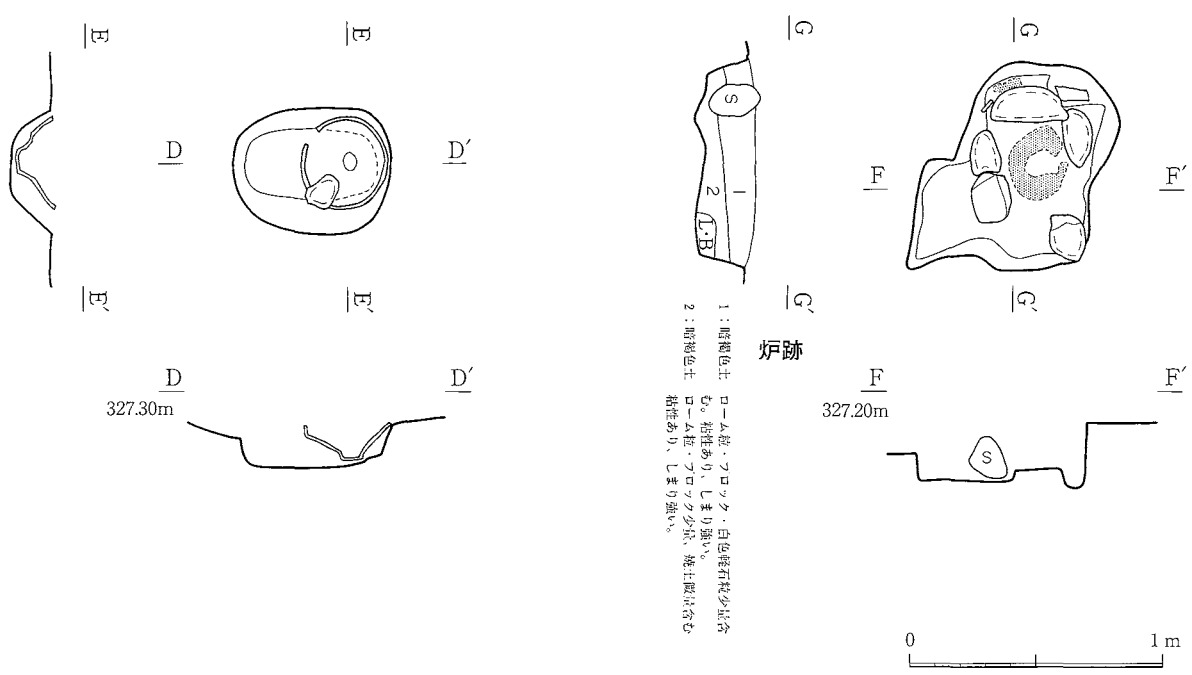
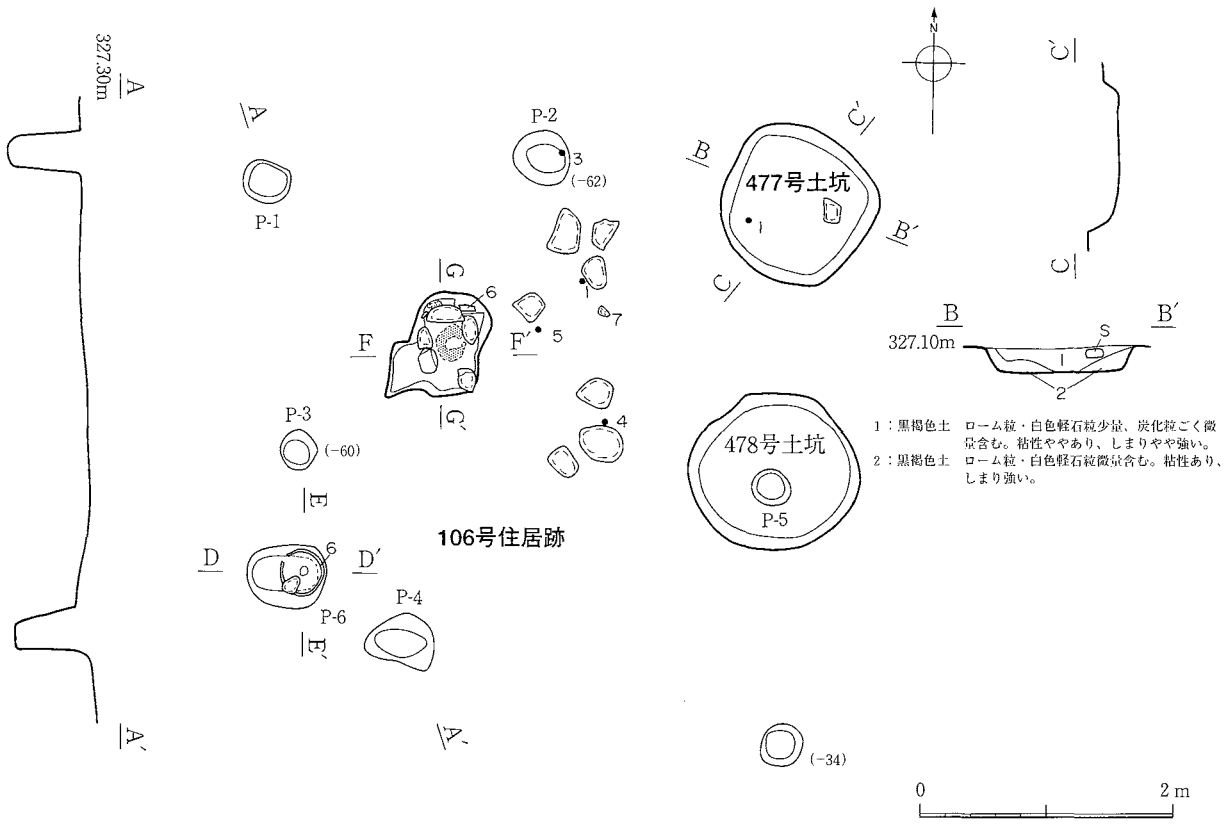
- 10 : 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 11 : 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒・YP微量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 12 : 黒褐色土 ローム粒少量、白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまりやや強い。

0 2m

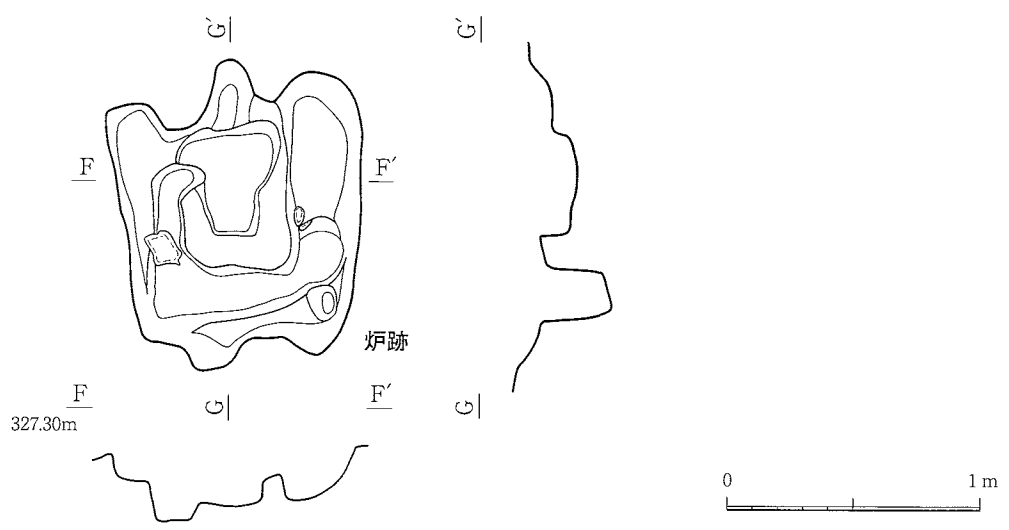
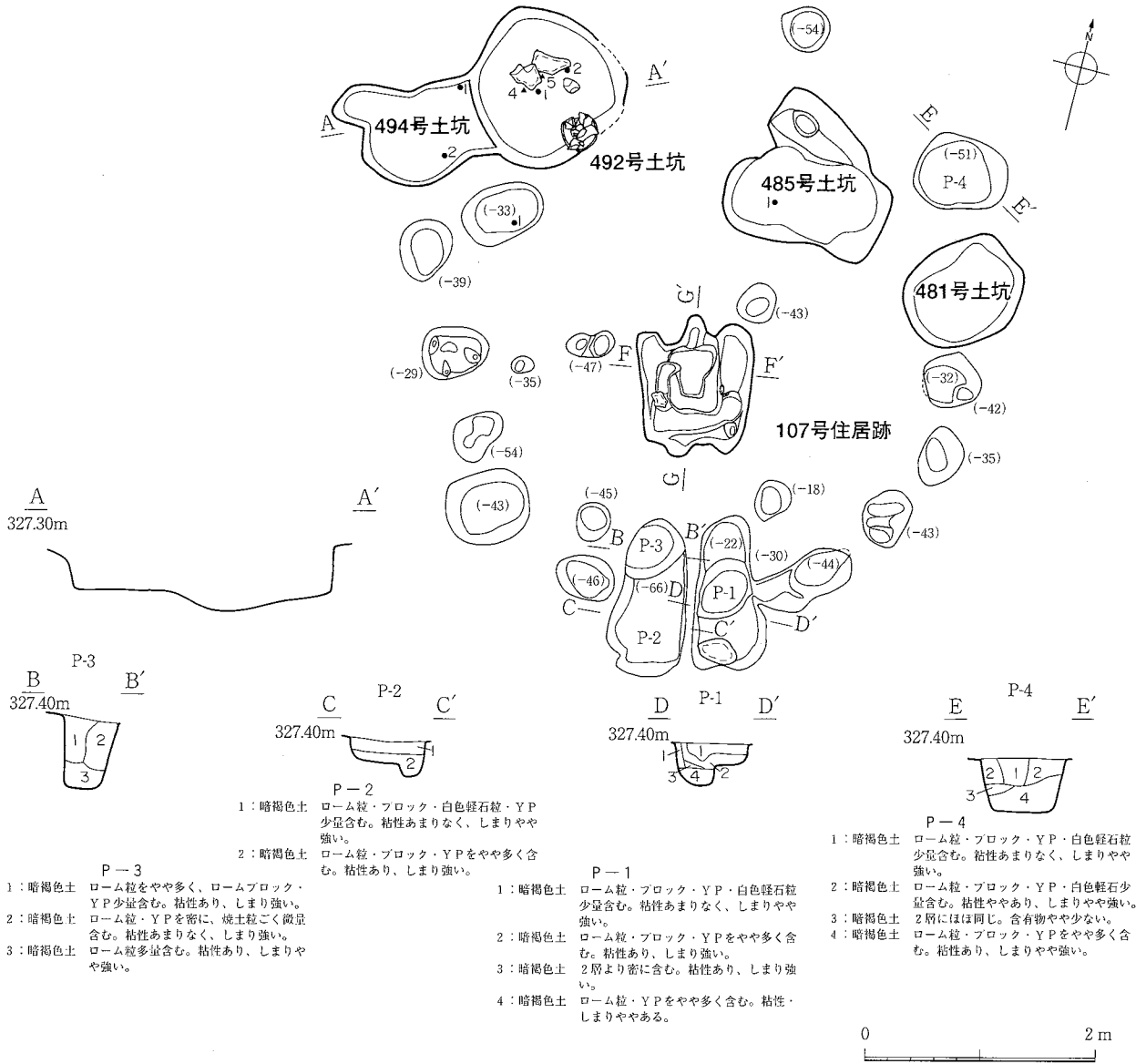
第466図 103号・108号住居跡、482号・486号・487号土坑



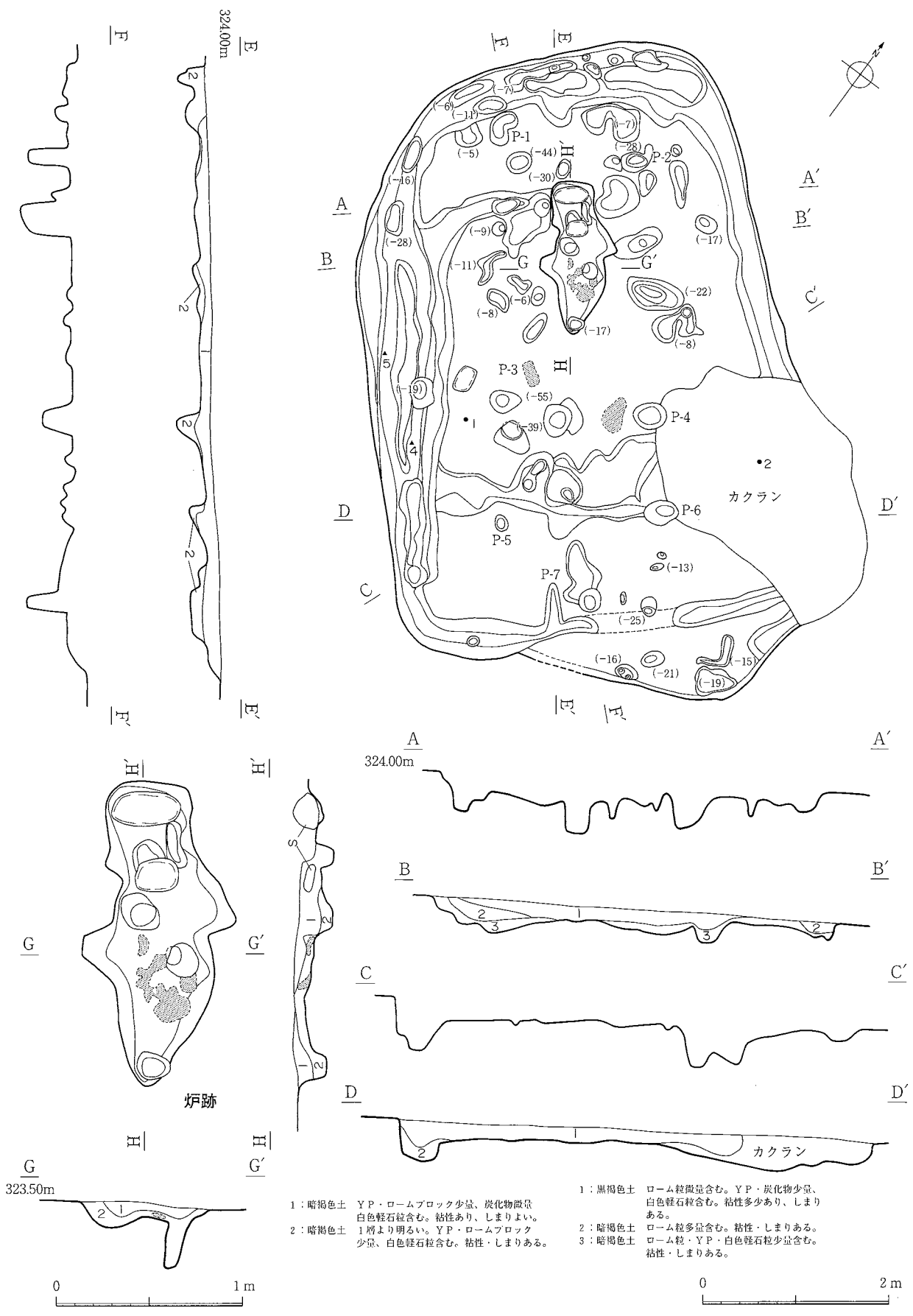
第467図 104号・105号住居跡、480号土坑



第468図 106号住居跡、477号土坑



第469図 107号住居跡、481号・485号・492号・494号土坑

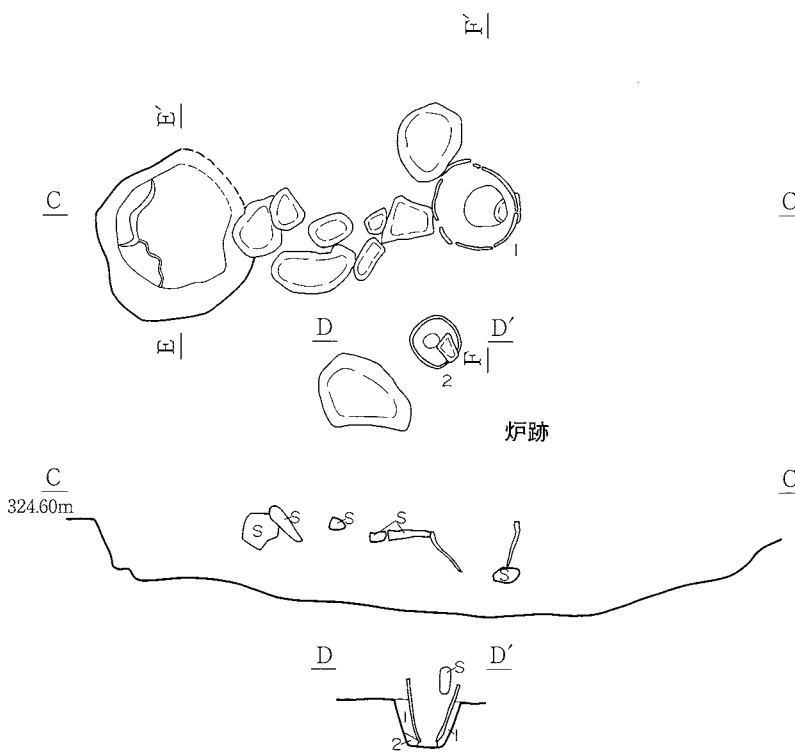
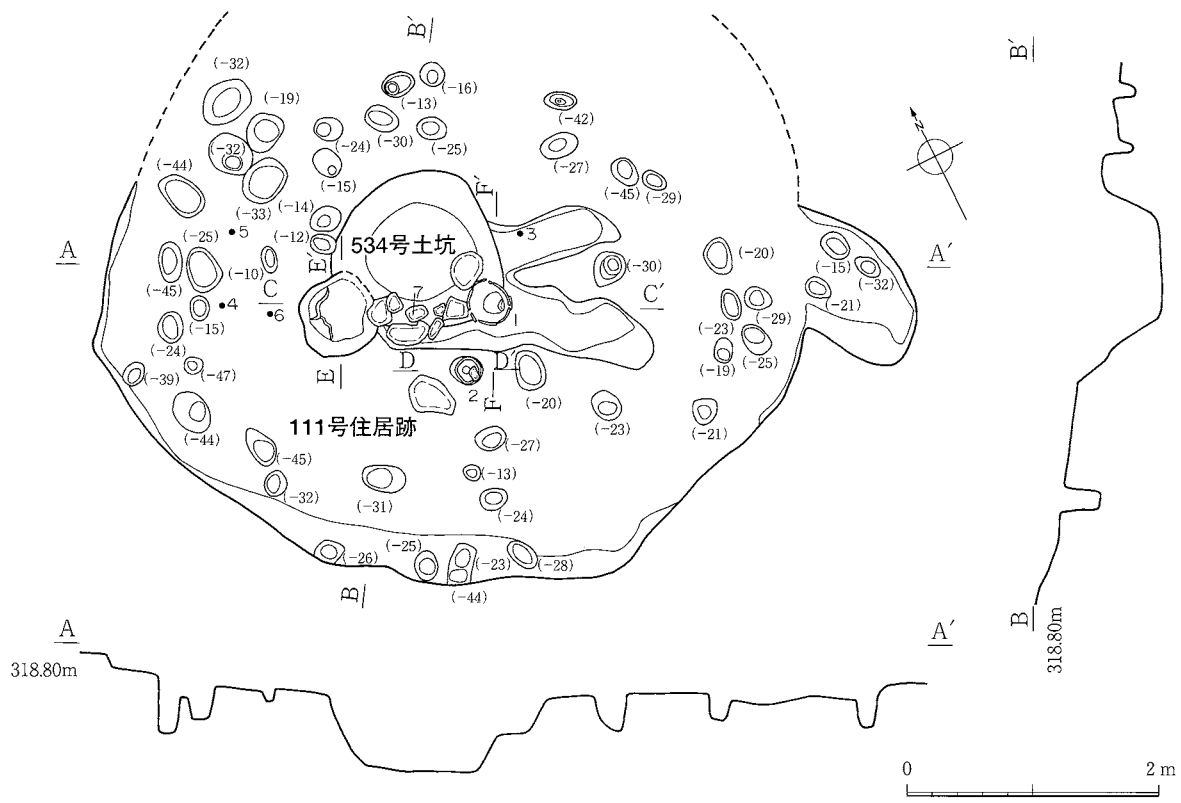


- 1: 暗褐色土 YP・ロームブロック少量、炭化物微量
白色軽石粒含む。粘性あり、しまりよい。
- 2: 暗褐色土 1層より明るい。YP・ロームブロック
少量、白色軽石粒含む。粘性・しまりある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒微量含む。YP・炭化物少量、
白色軽石粒含む。粘性多少あり、しまり
ある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒多量含む。粘性・しまりある。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。
粘性・しまりある。

第470図 109号住居跡



第472图 115号住居跡、518号土坑

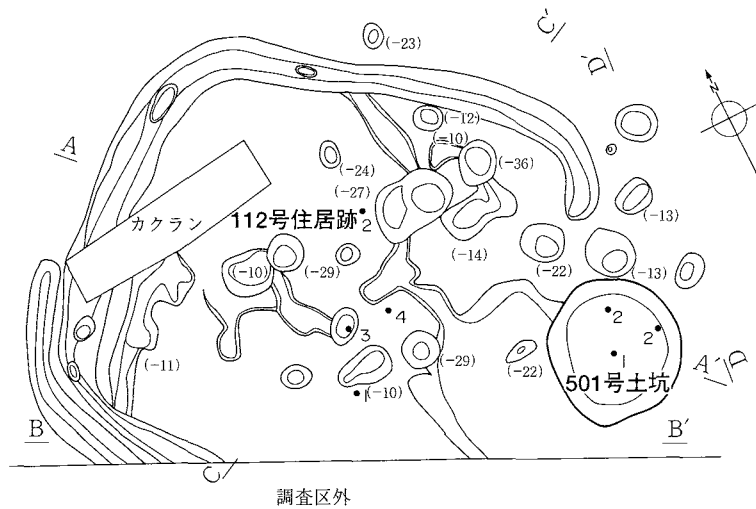


- 1: 暗褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、し
まり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強
い。

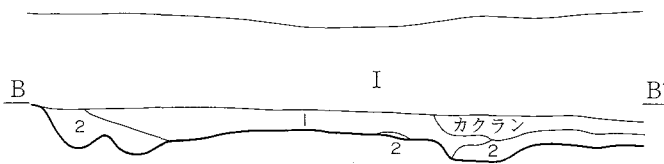
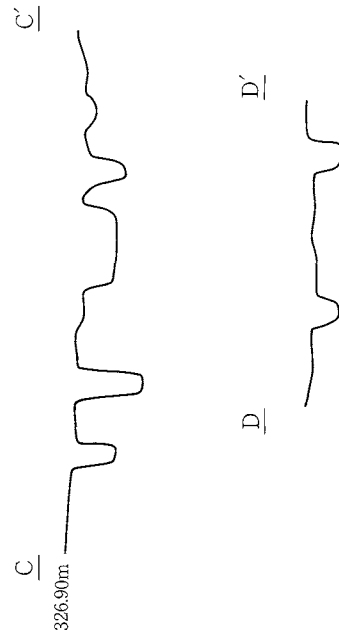
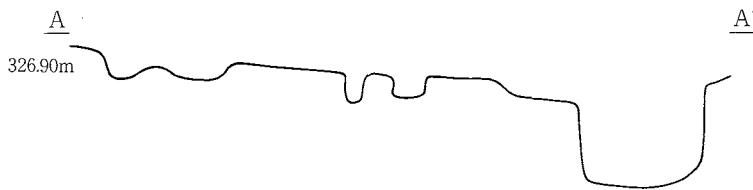
- 1: 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP・粘土少量、
炭化物散在含む。粘性ややあり、しまり
強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、し
まりやや強い。
- 3: 黄褐色土 ハードローム。掘り過ぎ。

- 1: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強
い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP・白色軽石粒
少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒少量、YPをやや多く含む。粘
性あり、しまり強い。

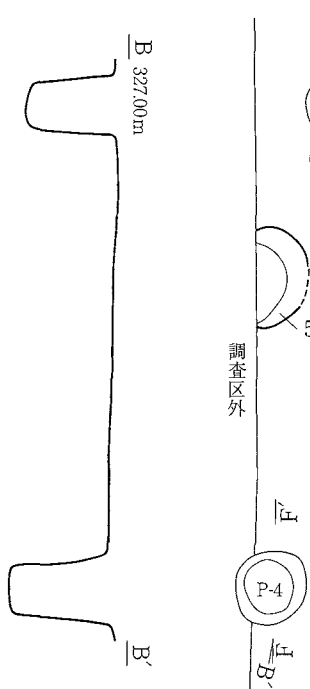
第473図 111号住居跡、534号土坑



調査区外

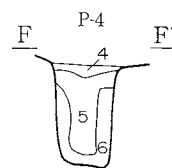
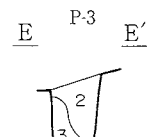
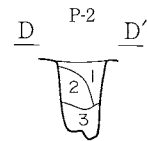
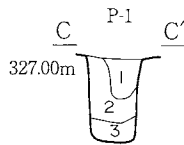


- I : 浅間A軽石を含む耕作土。
- 1 : 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2 : 暗褐色土 ローム粒・フロック少量、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。

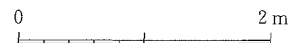


調査区外

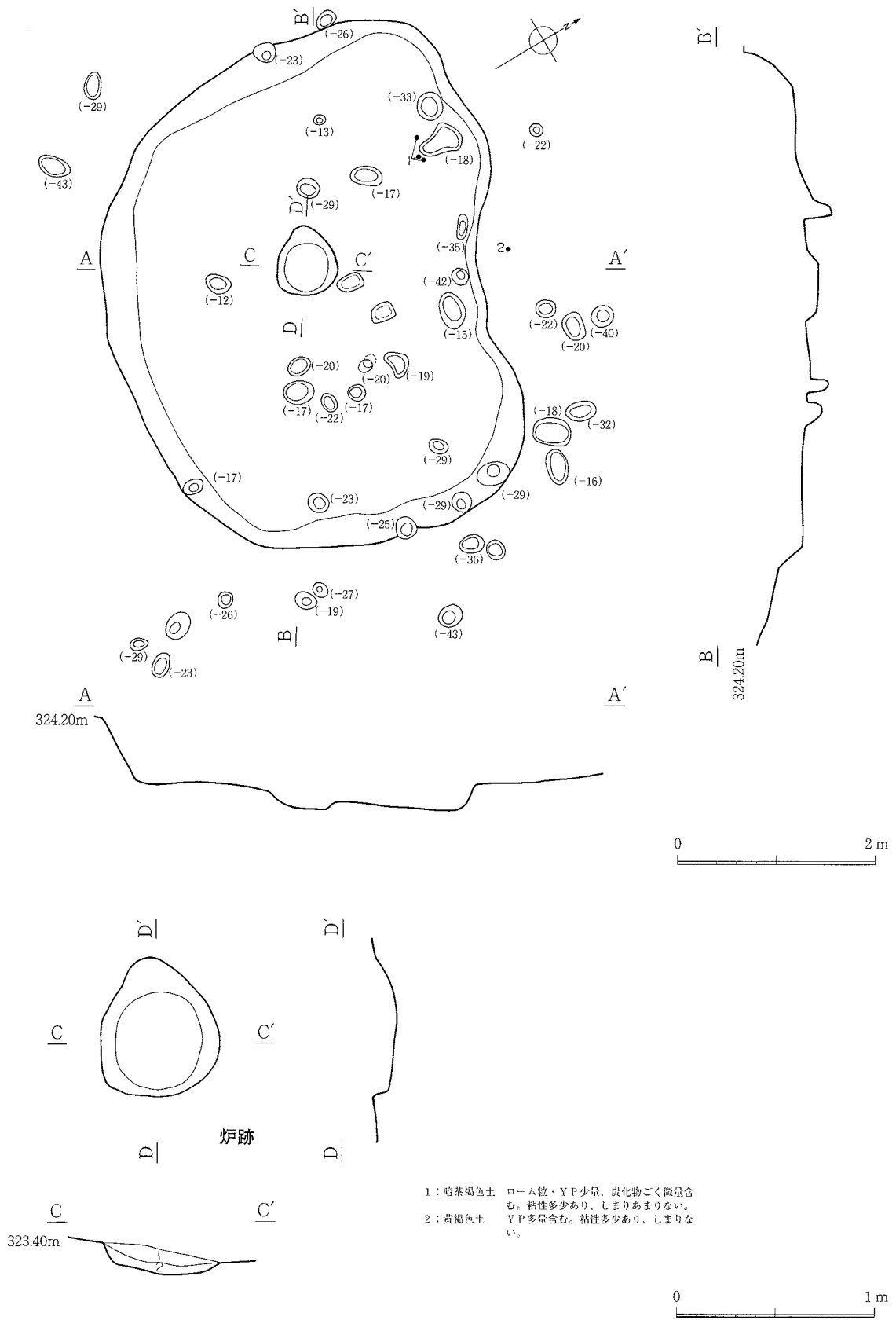
113号住居跡



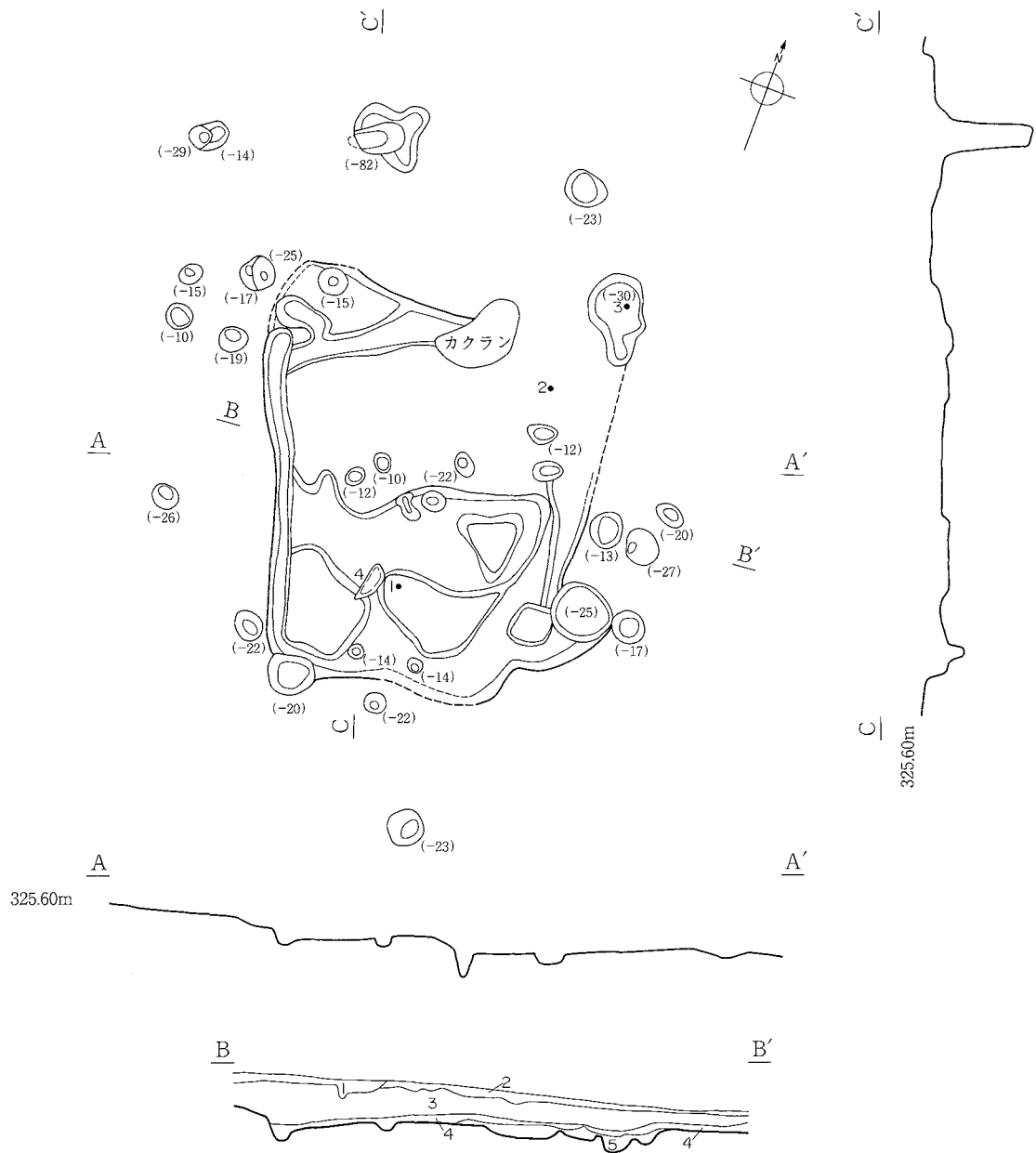
- 1 : 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2 : 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3 : 暗褐色土 ローム粒・YP少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 4 : 黒褐色土 ローム粒微量含む。粘性あまりなく、しまり弱い。
- 5 : 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP少量含む。白色軽石微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 6 : 暗褐色土 ローム粒・フロック・YPをやや多く含む。粘性ややあり、しまり強い。



第474図 112号・113号住居跡、501号土坑

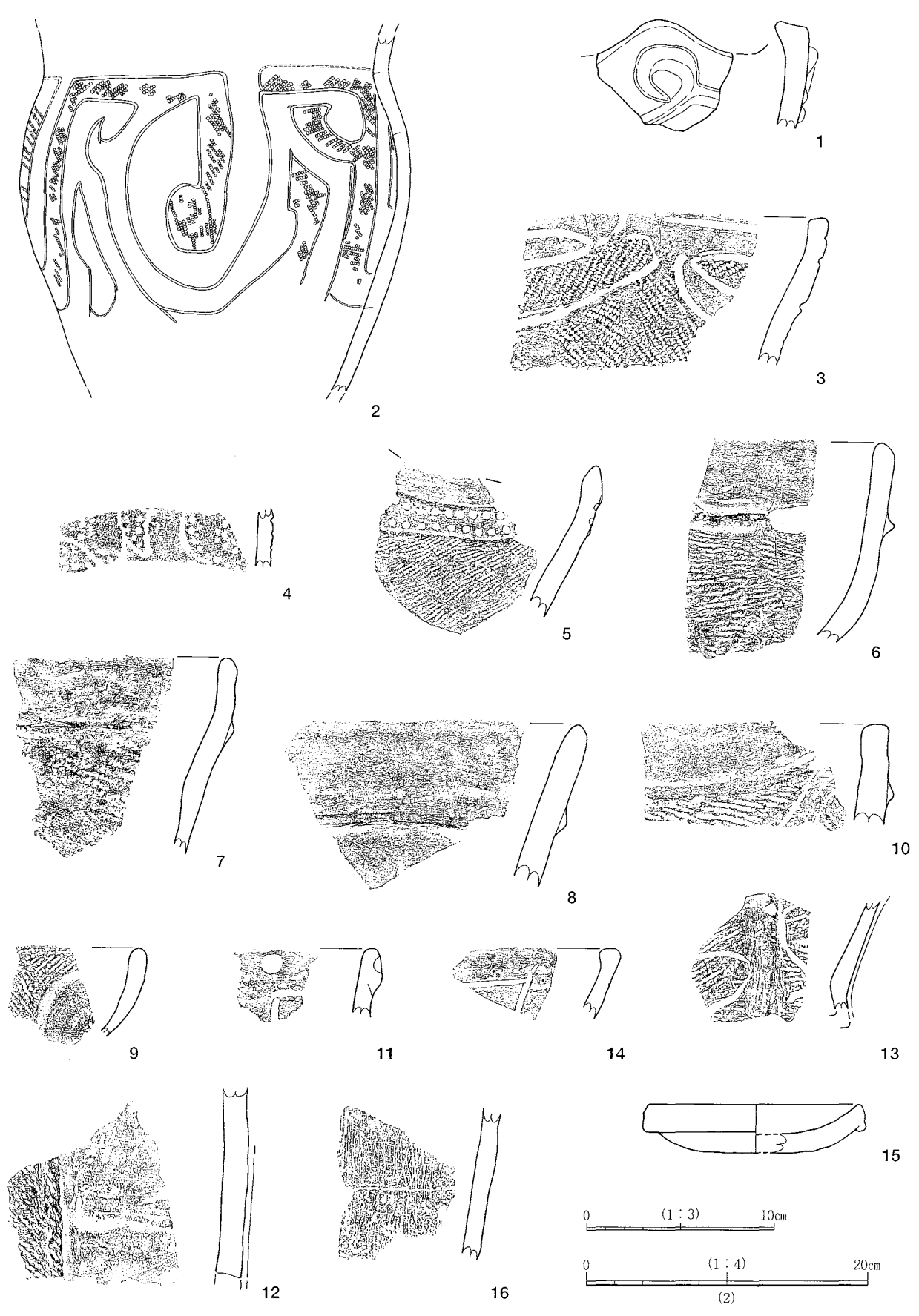


第475図 114号住居跡



- 1: 黒褐色土 白色軽石粒やや多く、ロームブロック・Y P 少量含む。木の根が入り込んで所々擾乱されている。粘性ややあり、しまりやや弱い。
- 2: 暗褐色土 Y P・白色軽石粒やや多く、ロームブロック少量含む。木の根が入り込んで所々擾乱されている。粘性やや弱く、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 色調2層とあまり変わらない。ロームブロック・Y P・白色軽石粒多量、炭化物やや多く含む。木の根が入り込んでいる。粘性やや弱く、しまりよい。
- 4: 暗褐色土 色調3層よりやや明るい。ロームブロック・Y P・炭化物・白色軽石粒少量含む。粘性やや弱く、しまり強い。
- 5: 黄褐色土 ロームブロック・Y P 少量含む。ローム面が多少掘り込まれている。粘性やや強く、しまり強い。

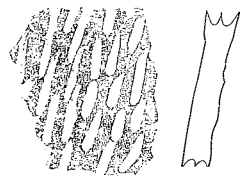
第476図 117号住居跡



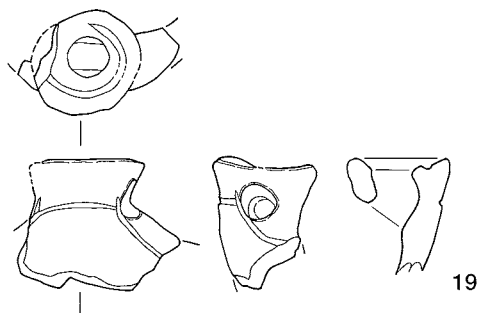
第477图 96号住居跡出土遺物①



17



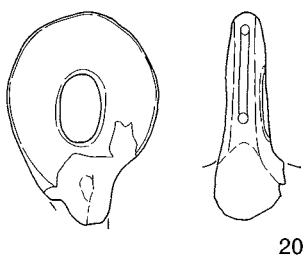
18



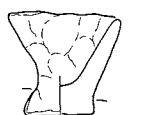
19



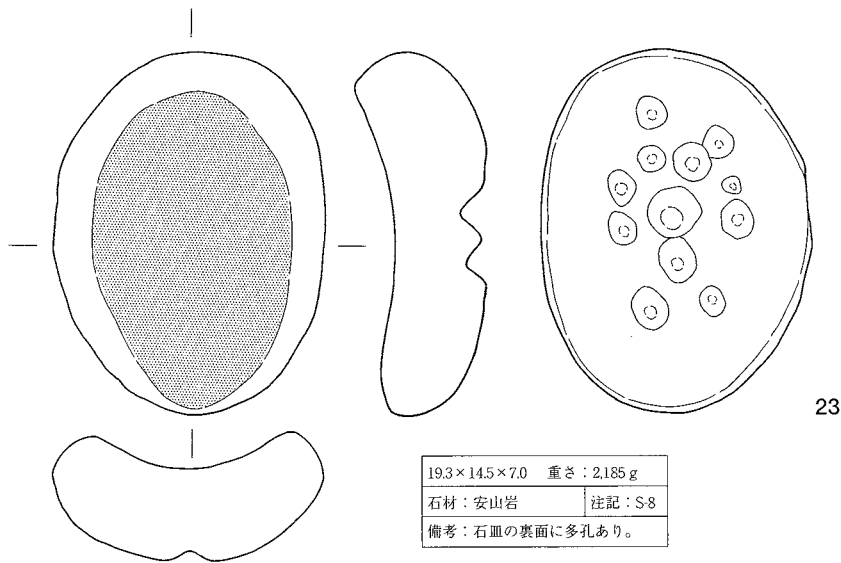
21



20

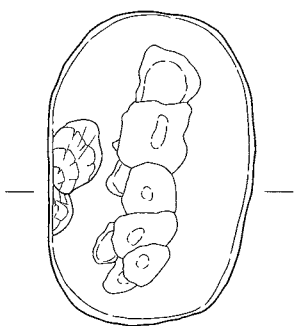


22



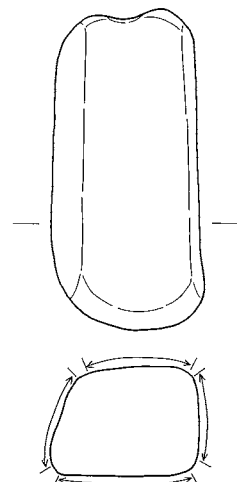
23

19.3×14.5×7.0 重さ：2.185 g	
石材：安山岩	注記：S-8
備考：石皿の裏面に多孔あり。	



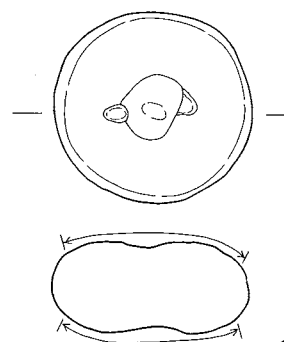
24

12.4×8.2×3.6 重さ：504.6 g	
石材：安山岩	注記：65
備考：凹石→磨石。	



25

12.7×6.1×4.6 重さ：627.6 g	
石材：安山岩	注記：47
備考：4広面使用磨石。被熱痕あり。	



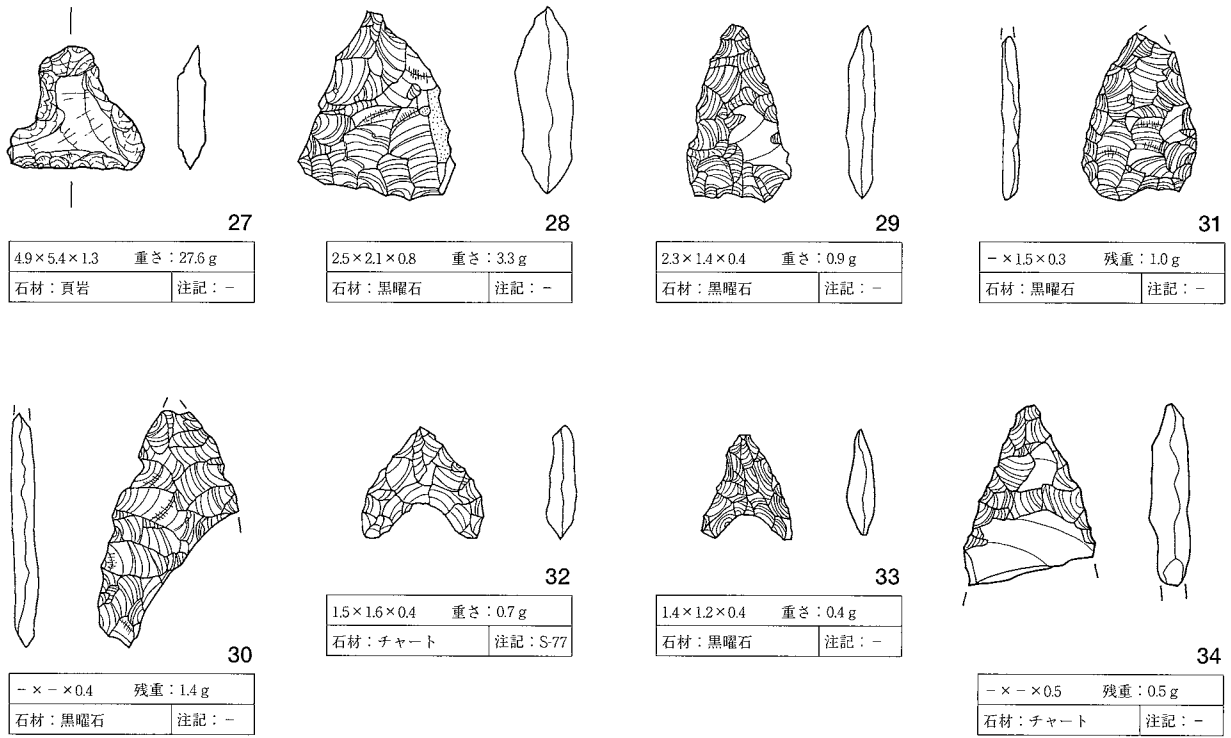
26

7.6×7.9×3.7 重さ：294.7 g	
石材：安山岩	注記：74
備考：磨石→凹石。被熱痕あり。	

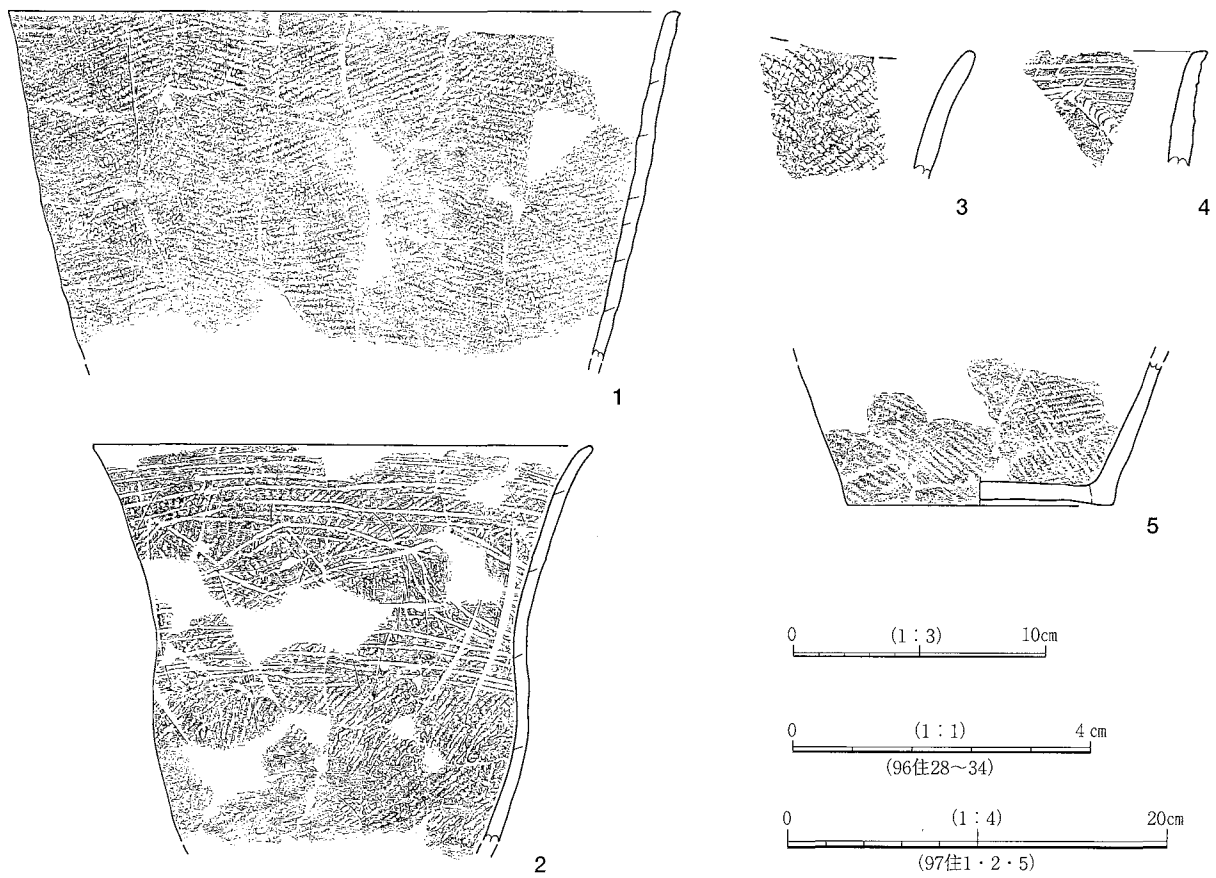
0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm
(23)

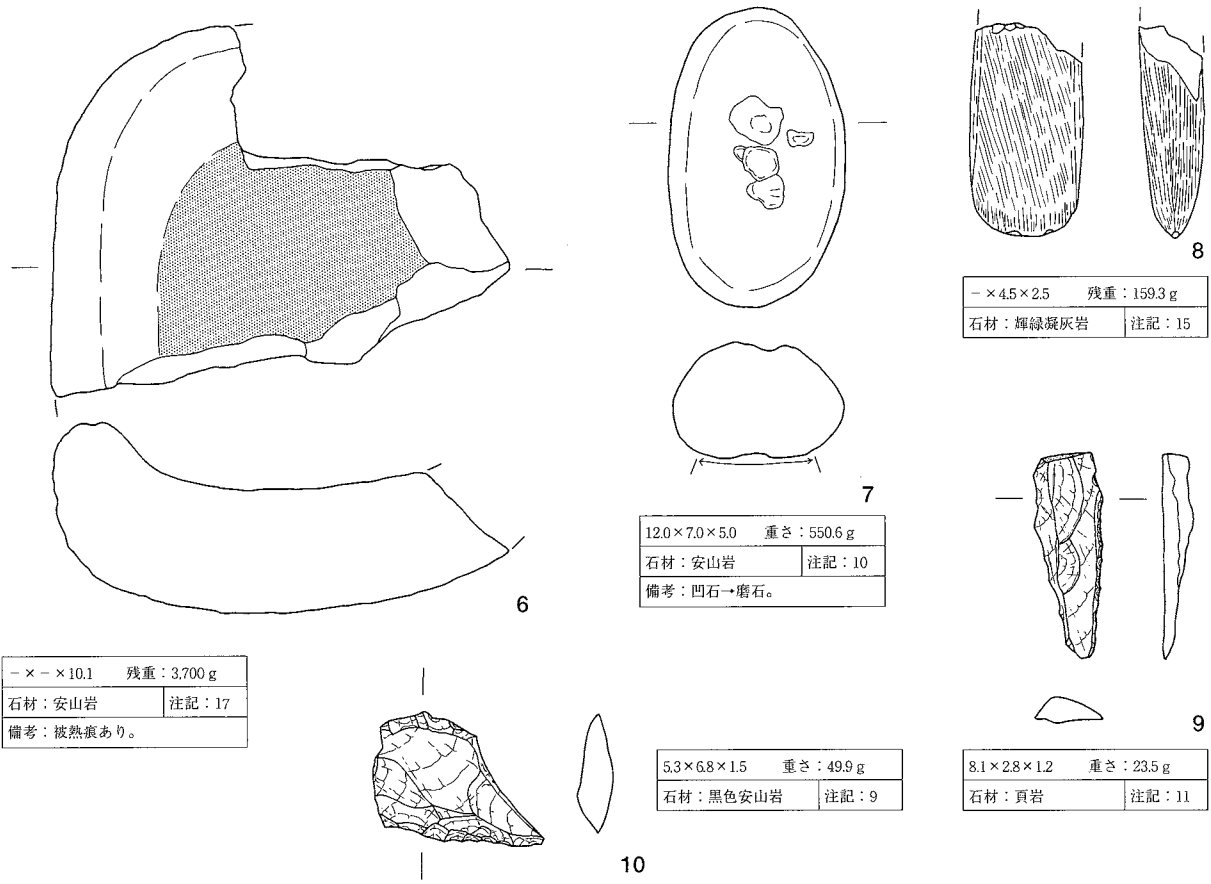
第478図 96号住居跡出土遺物②



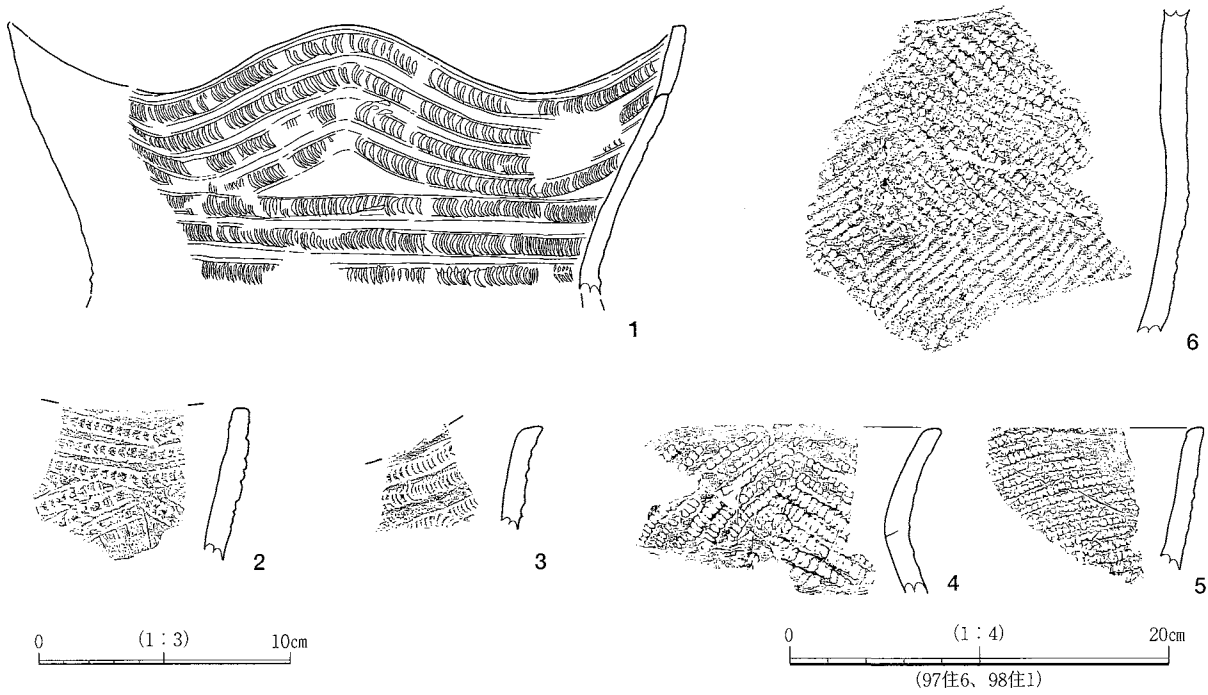
第479図 96号住居跡出土遺物③



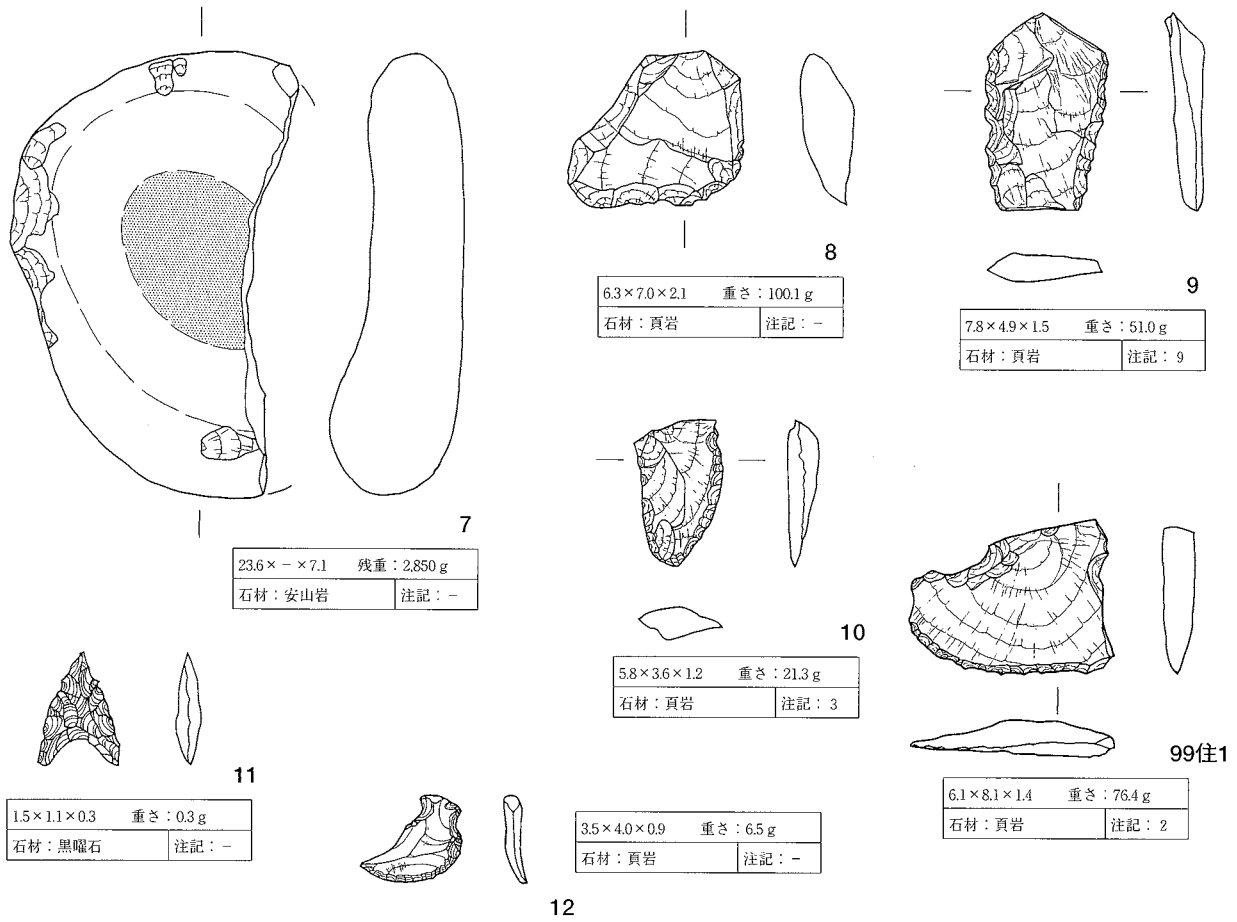
第480図 97号住居跡出土遺物①



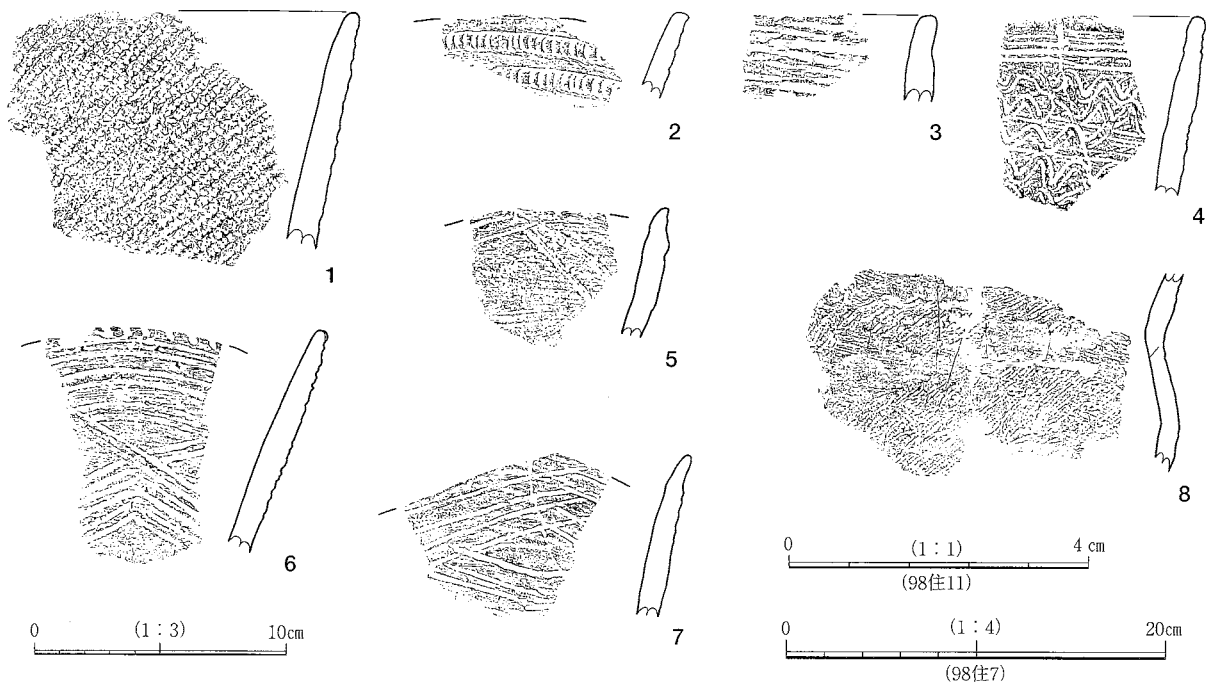
第481図 97号住居跡出土遺物②



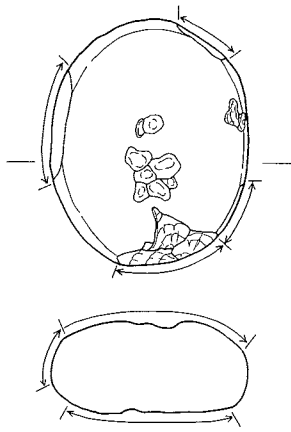
第482図 98号住居跡出土遺物①



第483図 98号住居跡出土遺物②・99号住居跡出土遺物



第484図 100号住居跡出土遺物①



9

9.8×7.9×3.8	重さ：434.5 g
石材：安山岩	注記：1
備考：凹石→磨石。側面一部も使用。下端に敲打痕。	



10

12.3×5.1×2.7	重さ：114.5 g
石材：黒色安山岩	注記：12



11

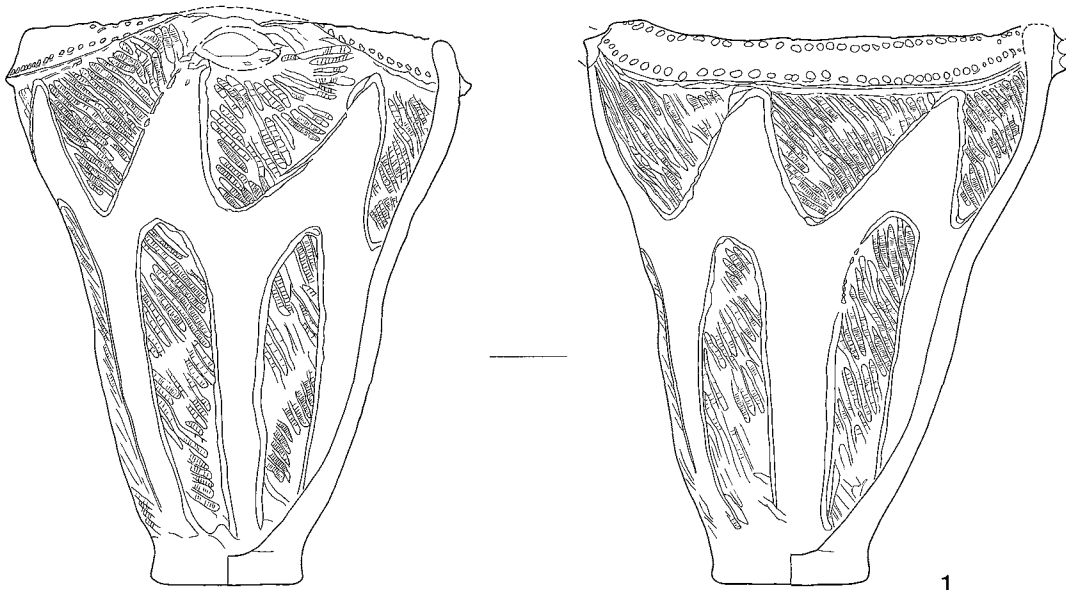
3.1×4.3×0.5	重さ：6.2 g
石材：珪質頁岩	注記：2



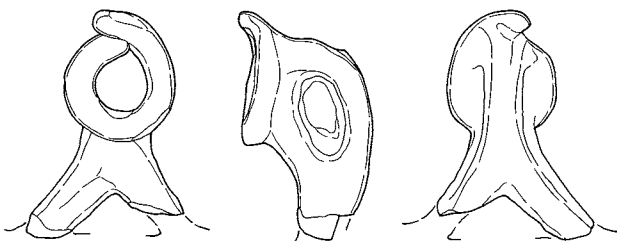
12

1.5×1.4×0.3	重さ：0.4 g
石材：黒曜石	注記：-

第485図 100号住居跡出土遺物②



1



2



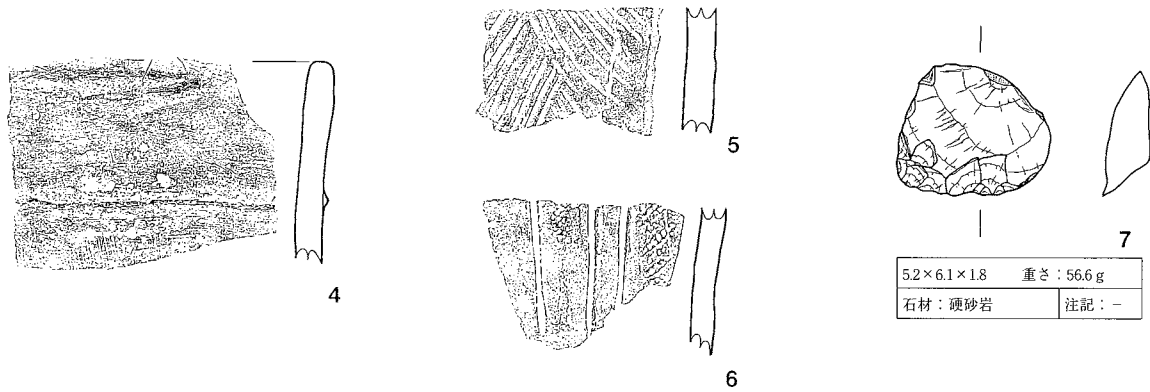
3

0 (1:1) 4 cm
(100住12)

0 (1:3) 10 cm

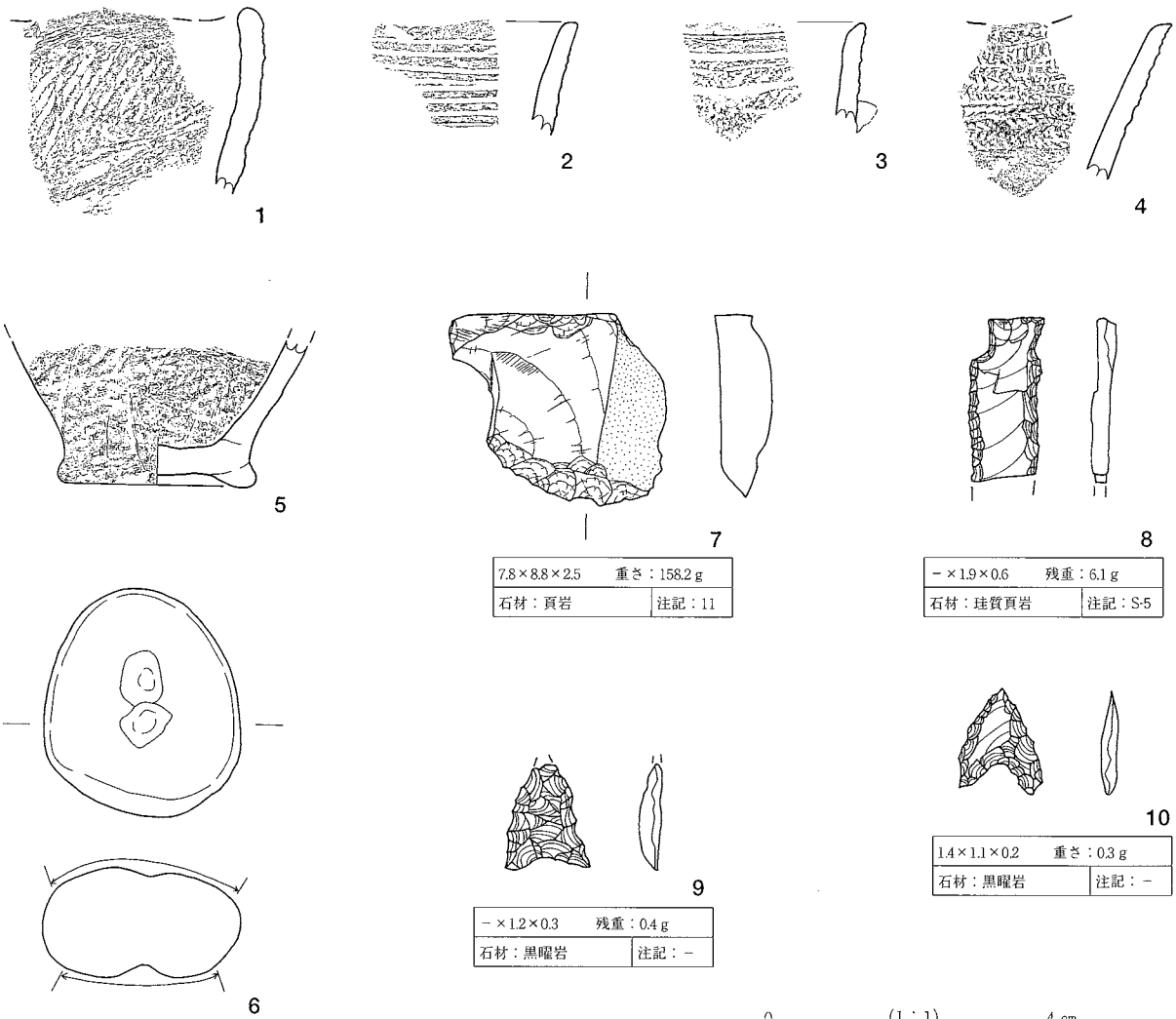
0 (1:4) 20 cm
(101住1)

第486図 101号住居跡出土遺物①



52×6.1×1.8	重さ：56.6 g
石材：硬砂岩	注記：-

第487図 101号住居跡出土遺物②



7.8×8.8×2.5	重さ：158.2 g
石材：頁岩	注記：11

-×1.9×0.6	残重：6.1 g
石材：珪質頁岩	注記：S-5

9.3×8.0×4.5	重さ：499.1 g
石材：安山岩	注記：10
備考：凹石→磨石。	

-×1.2×0.3	残重：0.4 g
石材：黒曜岩	注記：-

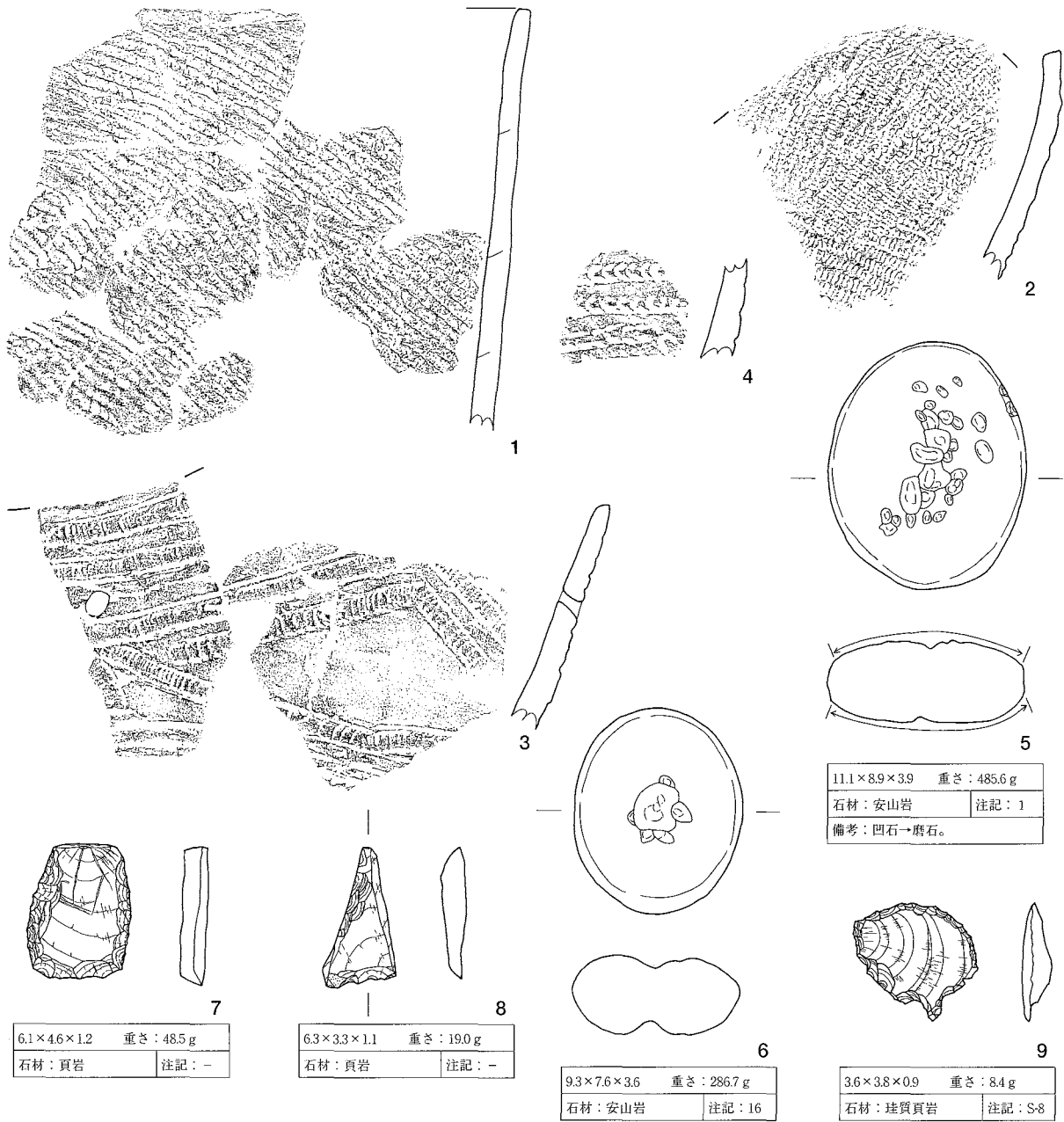
1.4×1.1×0.2	重さ：0.3 g
石材：黒曜岩	注記：-

0 (1:3) 10cm

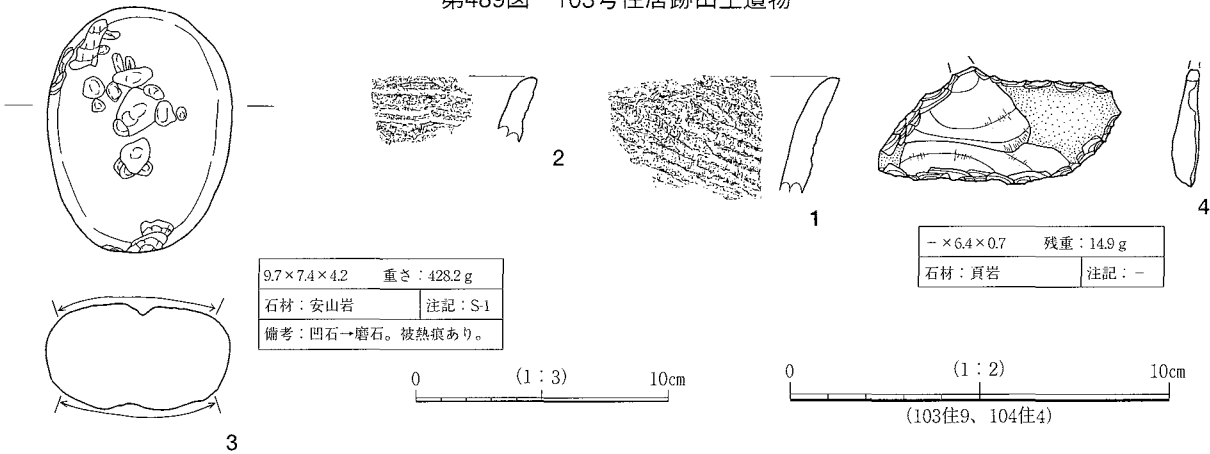
0 (1:1) 4 cm
(102住9・10)

0 (1:2) 10cm
(102住8)

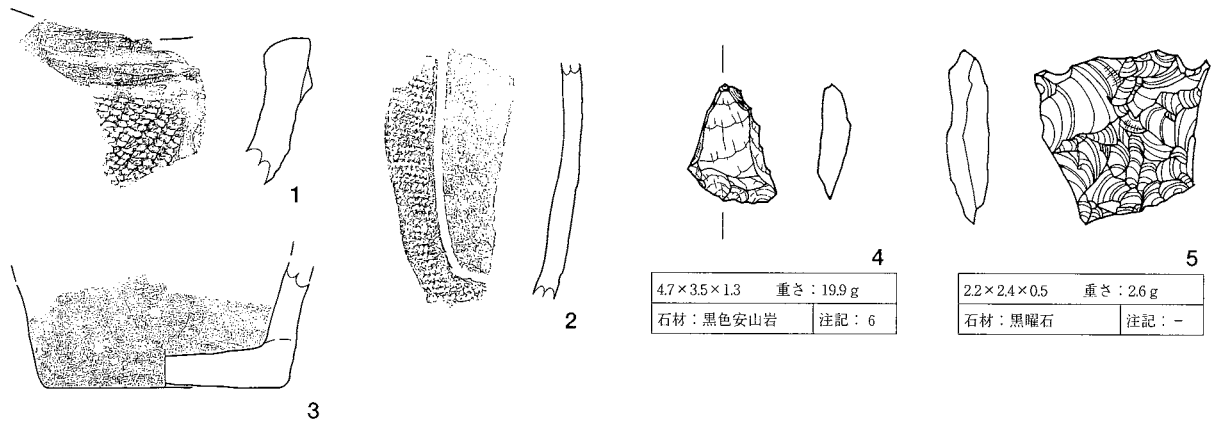
第488図 102号住居跡出土遺物



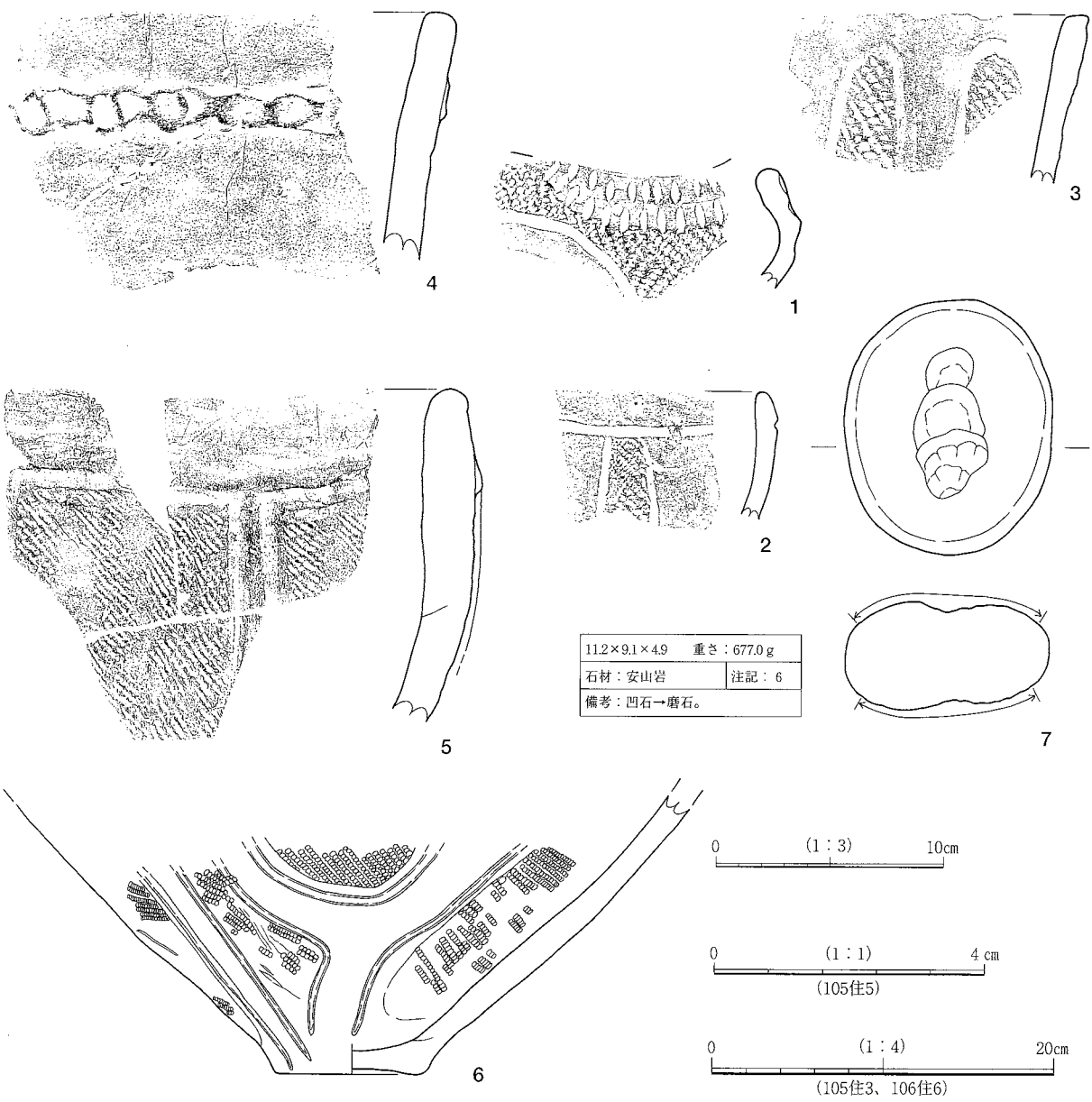
第489図 103号住居跡出土遺物



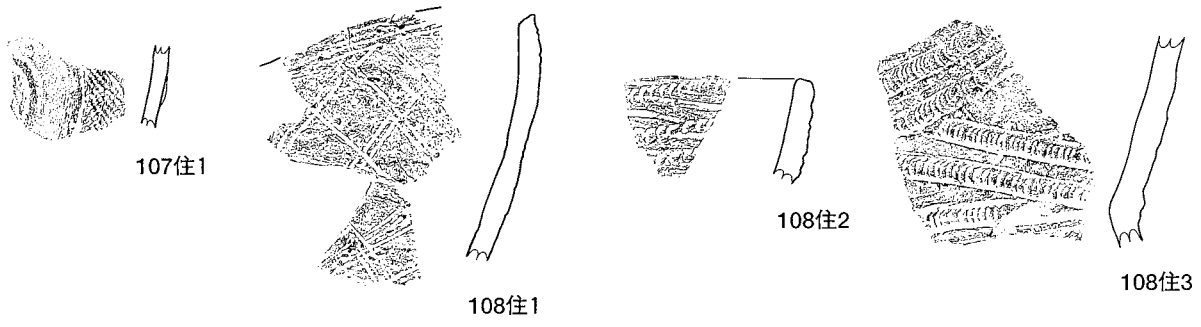
第490図 104号住居跡出土遺物



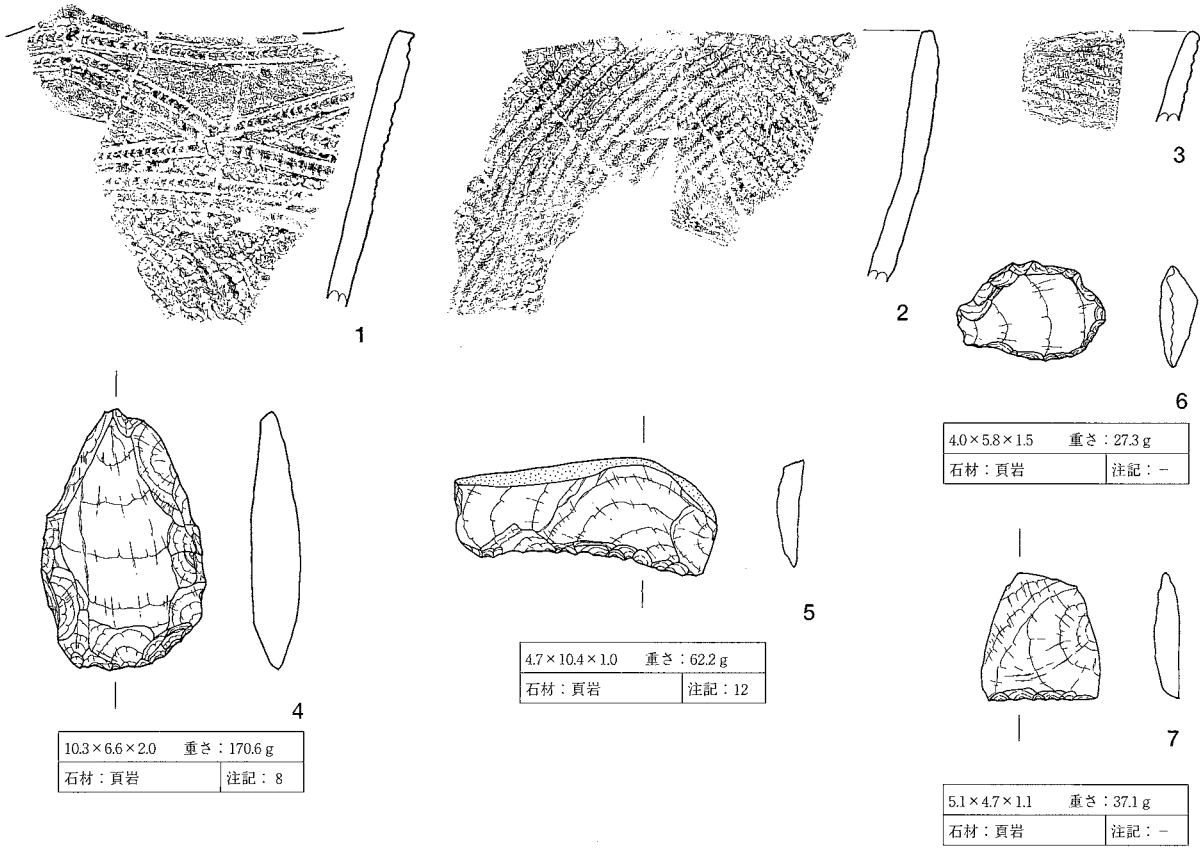
第491図 105号住居跡出土遺物



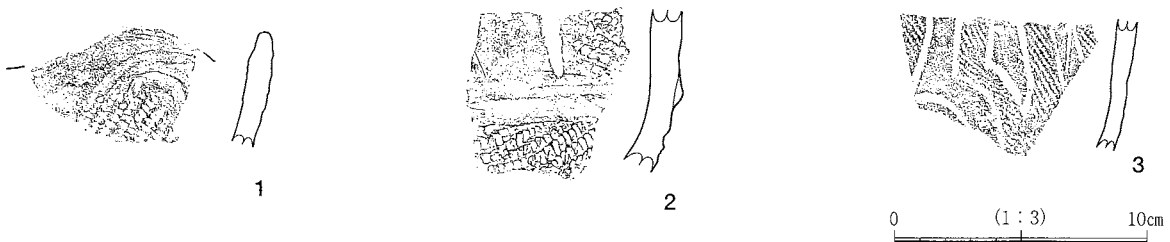
第492図 106号住居跡出土遺物



第493図 107号・108号住居跡出土遺物



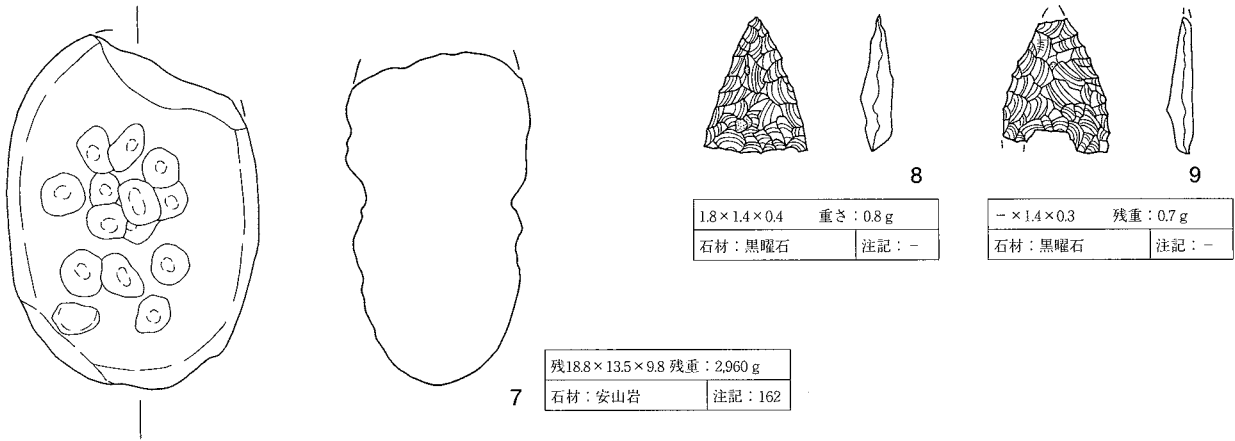
第494図 109号住居跡出土遺物



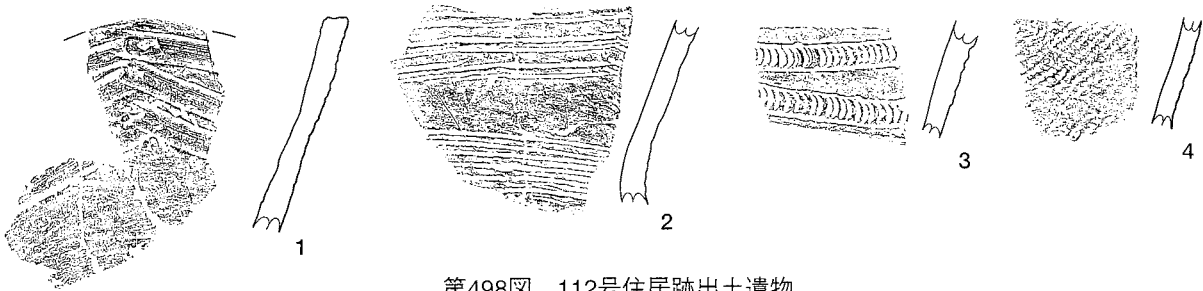
第495図 110号住居跡出土遺物



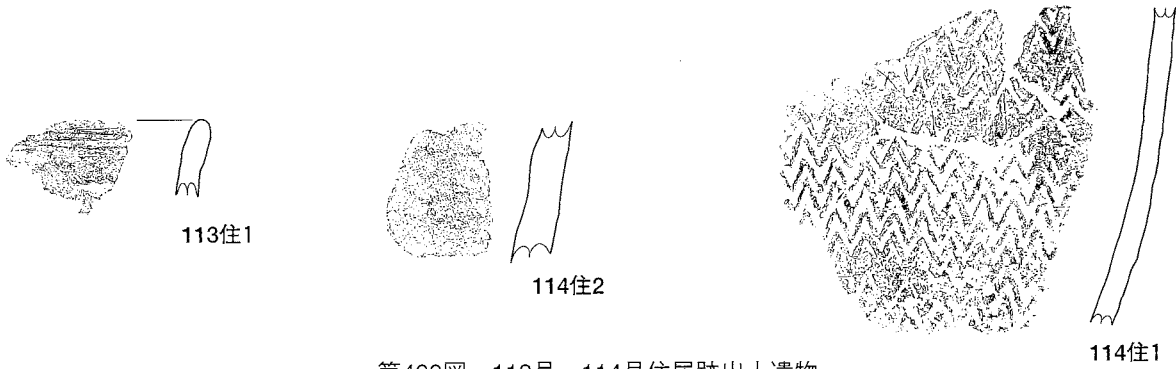
第496图 111号住居跡出土遺物①



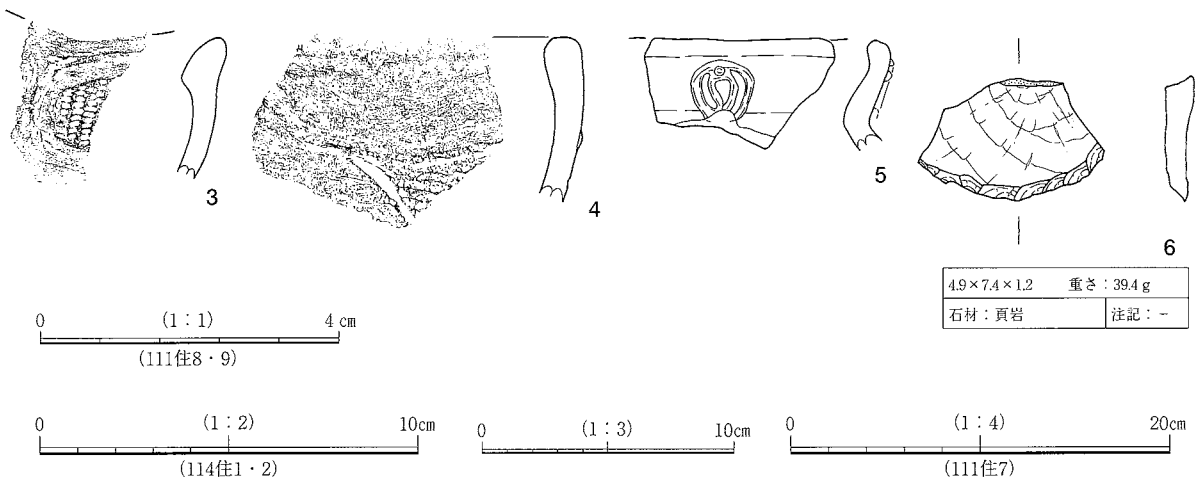
第497図 111号住居跡出土遺物②



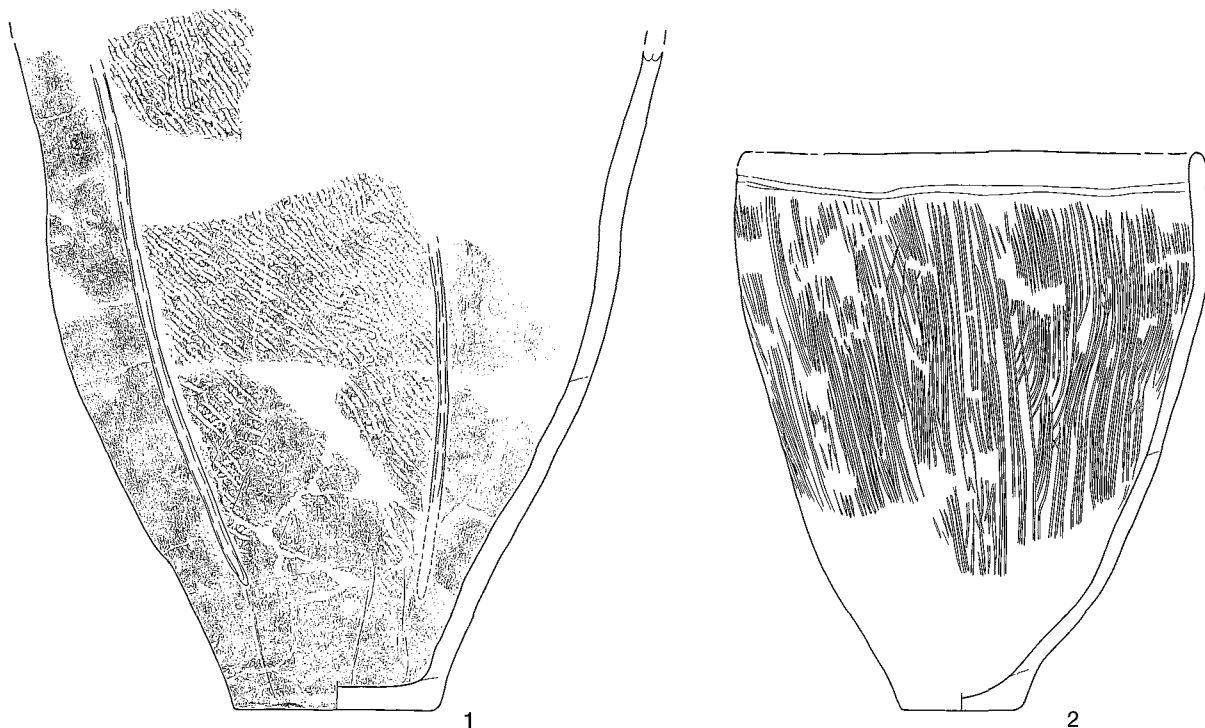
第498図 112号住居跡出土遺物



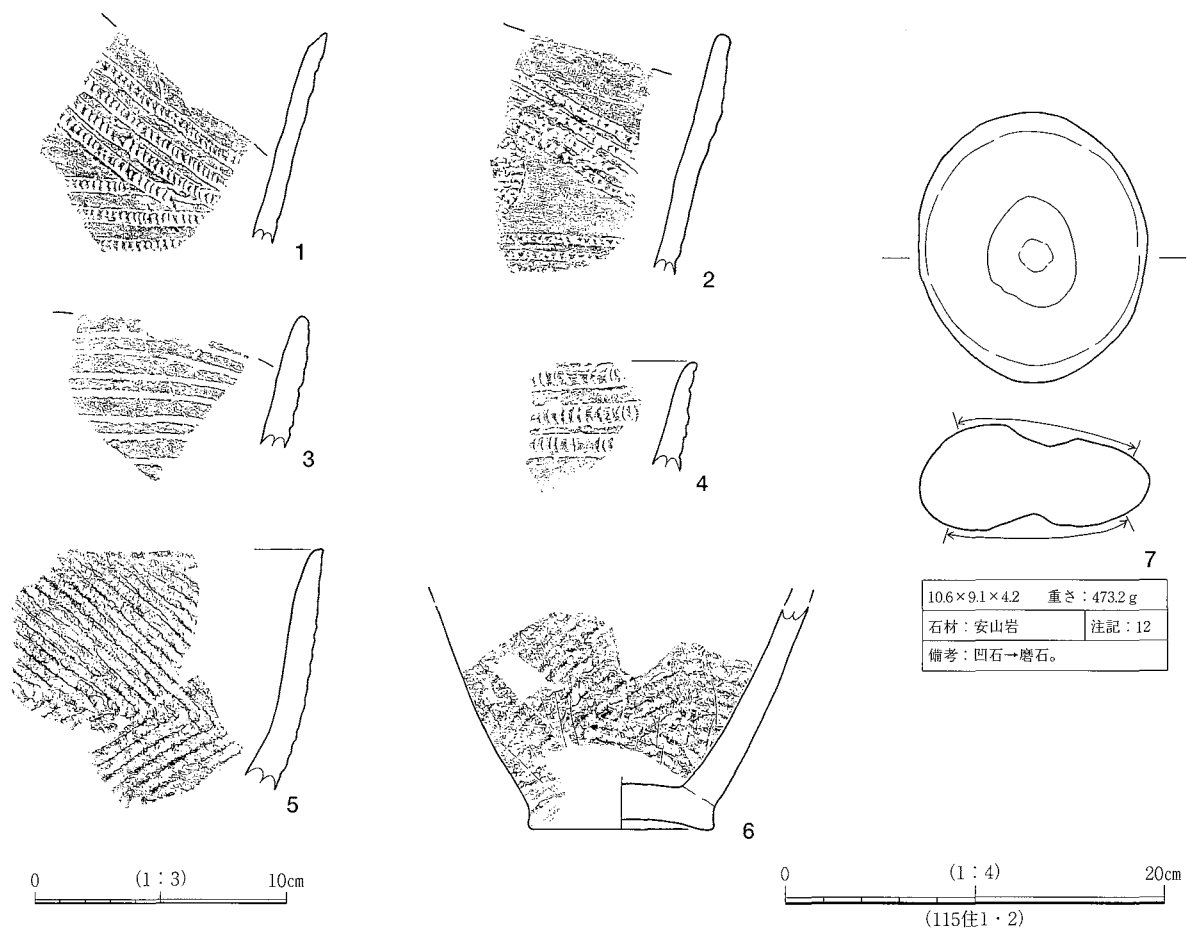
第499図 113号・114号住居跡出土遺物



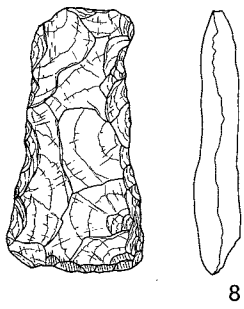
第500図 115号住居跡出土遺物①



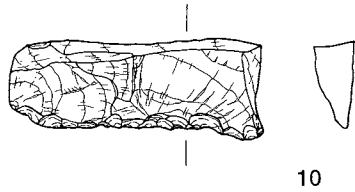
第501図 115号住居跡出土遺物②



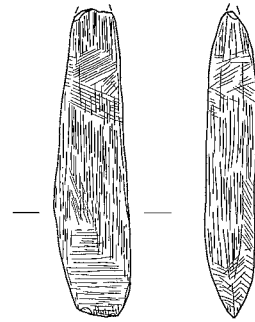
第502図 116号住居跡出土遺物①



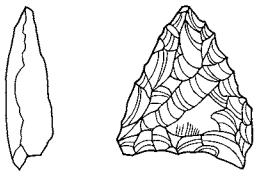
10.4×5.4×1.9	重さ：125.8 g
石材：頁岩	注記：4



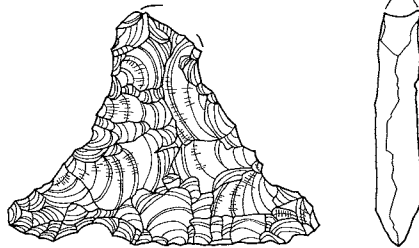
4.0×10.1×1.6	重さ：79.0 g
石材：頁岩	注記：68



残12.2×3.1×2.1	残重：117.6 g
石材：輝緑凝灰岩	注記：2
備考：被熱痕あり。	

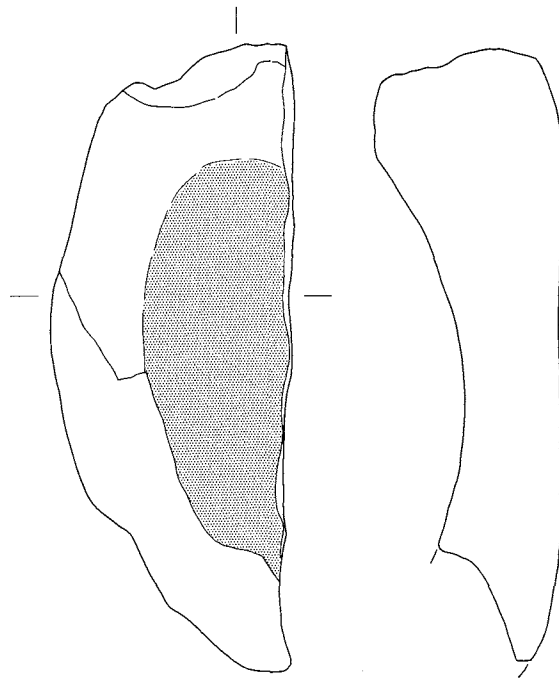
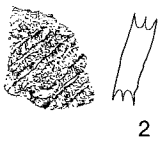
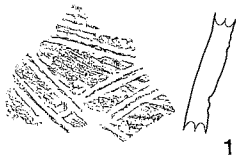


2.1×1.8×0.7	重さ：2.4 g
石材：鉄石英	注記：S-45



-×4.2×0.7	残重：4.9 g
石材：黒曜石	注記：S-3

第503図 116号住居跡出土遺物②



残33.4×-×10.0	残重：5.600 g
石材：緑泥片岩	注記：S-1

0 (1:3) 10cm

0 (1:1) 4 cm
(116住11・12)

0 (1:4) 20cm
(117住4)

第504図 117号住居跡出土遺物

第3節 土坑

西地区からは60基の土坑を確認している。各土坑の概要は表31～33に一覧した。時期的には前期黒浜・有尾式期（～諸磯a式期）と想定されるもの10基（時期不明を除いた全体比率31.3%、以下同じ）、中期五領ヶ台式期1基（3.1%）、中期後半（末葉）～後期初頭21基（65.6%）、時期不明28基である。

486号土坑は5号掘立柱建物跡（第4章第5節）の中央部に位置しており、同遺構との関連性が想定される。489号土坑からは後期初頭土器の好資料が検出されている。時期別の遺構番号は下記の通りである。

前期黒浜・有尾式期（～諸磯a式期）

477号・483号・502号・504号・505号・507号・510号・515号・520号・525号

中期五領ヶ台式期

475号

中期後半（末葉）～後期初頭

476号・482号・484号・486号・487号・488号・489号・492号・493号・494号・495号・496号・501号・509号・511号・514号・518号・528号・531号・532号・533号

表31 西地区土坑①

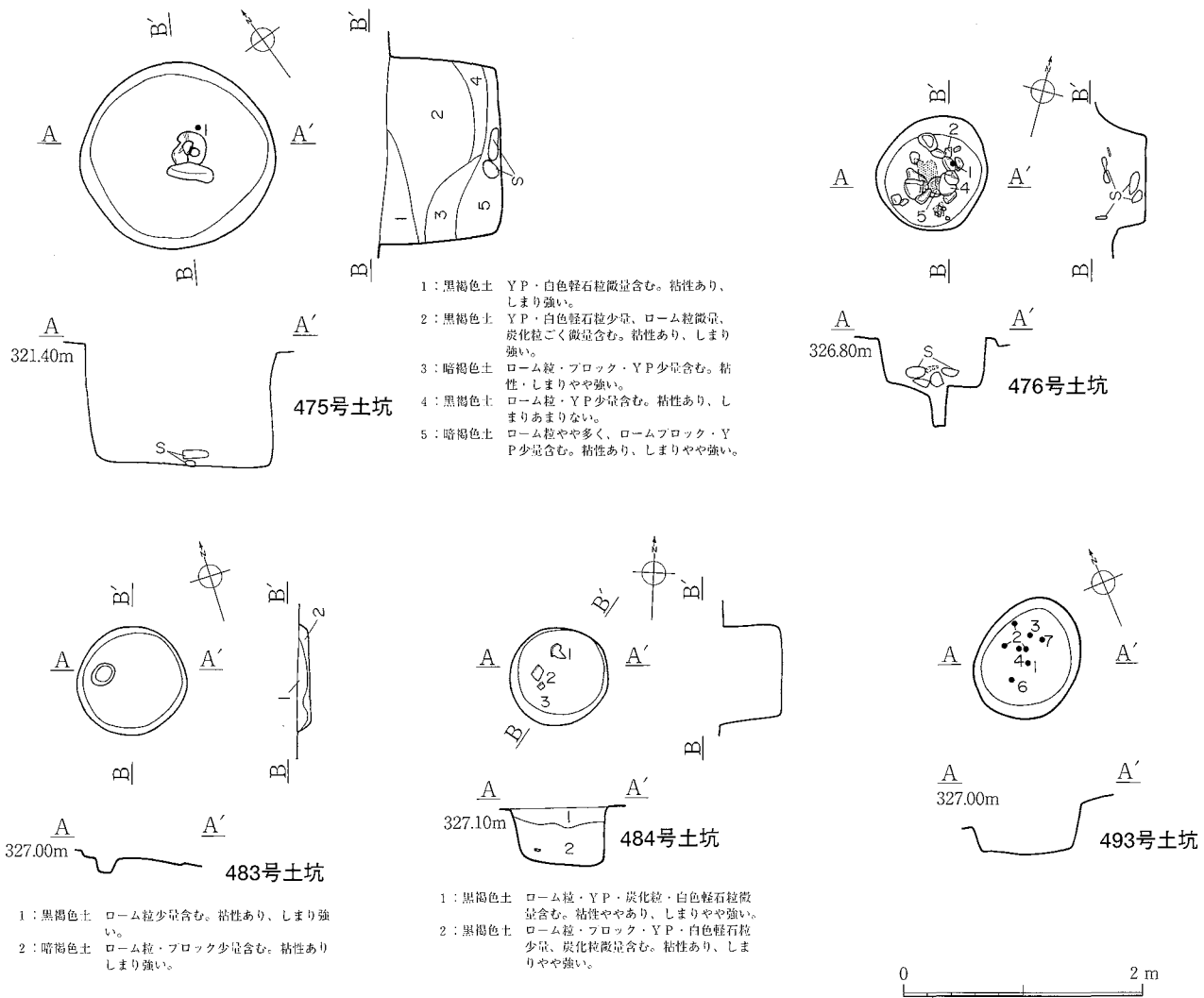
遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度 (cm)	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	PL	挿図	PL
475号土坑	Bj27	A-I	1.66×1.57	104cm	土器片1・磨石2／底面中央に礫	五領ヶ台	505	148	509	159
476号土坑	Bf13	A-II	1.00×0.93	39cm	土器片30・被熱礫1、他／ピット	中期末葉	505	-	509	159
477号土坑	Bf12	C-II	1.29×1.25	24cm	土器片4	黒浜	468	-	509	159
478号土坑	Bf12	A-II	1.30×1.22	21cm	／小ピットあり。	不明	508	-	-	-
479号土坑	Bf12	A-III	1.00×0.97	12cm	／小ピットあり。	不明	508	-	-	-
480号土坑	Bf12	A-II	0.99×0.90	50cm	／柱痕あり。	不明	508	-	-	-
481号土坑	Bf11	B-I	1.01×0.90	51cm		不明	508	-	-	-
482号土坑	Bf13	A-I	1.33×1.29	32cm	土器片40・石皿1・磨石2	中期末葉	466	-	509	159
483号土坑	Bg13	A-II	0.93×0.91	14cm	土器片36・剥片2／小ピット。	黒浜	505	-	510	159
484号土坑	Bf11	A-I	0.86×0.81	51cm	土器片18・剥片1	後期初頭	505	148	510	159
485号土坑	Bf11	E-II	1.45×1.25	44cm	土器片5・磨製石斧1・磨石1	不明	508	-	510	159
486号土坑	Bf13	A-II	1.68×1.57	81cm	土器片129・石鏃2・磨石4・剥片11	中期末葉	466	148	510	159
487号土坑	Bf13	E-V	1.04×-	31cm	土器片14	中期末葉	466	-	511	159
488号土坑	Bf10	B-II	-×1.00	62cm	土器片2	中期末葉	465	-	511	160
489号土坑	Bf10	A-II	1.08×0.97	95cm	深鉢1・磨石2、他	後期初頭	465	148	511	160
490号土坑	Bf10	不明	不明	40cm		不明	465	-	-	-
491号土坑	Bh15	A-II	1.15×1.14	24cm		不明	508	-	-	-
492号土坑	Bf11	A-II	1.41×1.31	56cm	深鉢1・石鏃1・多孔石1、他	中期末葉	469	148	511	160
493号土坑	Bf11	B-II	1.04×0.83	43cm	土器片120・剥片3	後期初頭	505	148	512	160

表32 西地区土坑②

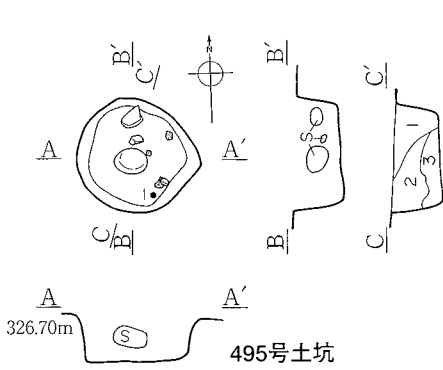
遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度 (cm)	おもな出土遺物／備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
494号土坑	Bf11	E - II	- × 0.80	27cm	土器片 9	中期末葉	469	-	513	161
495号土坑	Be13	B - II	0.98 × 0.88	36cm	土器片16・石鏃1・剥片石器1、礫	後期初頭	506	148	513	161
496号土坑	Bf11	B - III	1.03 × 0.75	36cm	土器片14・多孔石1・磨石4	中期末葉	506	149	513	161
497号土坑	Bf11	不明	不明	30cm	／496土に切られる。	不明	506	-	-	-
498号土坑	Be13	B - V	1.67 × 1.33	35cm		不明	508	-	-	-
499号土坑	Bf13	B - II	1.33 × 1.14	18cm	／ピットが重複。	不明	508	-	-	-
500号土坑	Bg14	不明	不明	不明		不明	474	-	-	-
501号土坑	Bh15	A - II	1.16 × 1.08	97cm	土器片31・石鏃1・剥片6	中期末葉	474	150	513	161
502号土坑	Bi17	A - II	0.85 × 0.83	30cm	土器片 3	黒浜	506	-	514	161
503号土坑	Bi18	A - II	1.06 × 0.99	44cm		不明	508	-	-	-
504号土坑	Bh17	A - II	0.87 × 0.81	35cm	土器片 2	黒浜	506	-	514	161
505号土坑	Bh19	B - II	1.35 × 1.18	19cm	土器片 7／小ピットあり。	黒浜	506	-	514	161
506号土坑	Bg19	B - II	1.50 × 1.25	14cm	／小ピットあり。	不明	508	-	-	-
507号土坑	Bg20	B - II	1.65 × 1.37	29cm	土器片 1・石匙 1・礫 1	黒浜	506	-	514	161
508号土坑	Bg20	A - II	1.18 × 1.13	21cm		不明	508	-	-	-
509号土坑	Bj19	A - II	0.74 × 0.70	33cm	橋状把手土器 1・土器片21	中期末葉	506	149	514	162
510号土坑	Bg15	B - II	1.45 × 1.27	20cm	土器片12・石鏃 1・剥片 3・礫 2	黒浜	506	-	514	162
511号土坑	Bg15	B - II	1.09 × 0.92	42cm	土器片52・石鏃 2・剥片 5	中期末葉	506	-	515	162
512号土坑	Bd17	A - II	1.10 × 1.02	39cm		不明	508	-	-	-
513号土坑	Bf14	B - II	1.29 × 1.11	39cm	剥片 1／514土に切られる。	不明	507	-	-	-
514号土坑	Bf14	C - II	0.97 × 0.94	14cm	土器片 2・石鏃 4・剥片 3	中期末葉	507	-	515	162
515号土坑	Bg15	A - II	0.84 × 0.77	34cm	土器片 2／ピットが重複。	黒浜	507	-	515	162
516号土坑	Bf20	E - V	2.18 × 1.28	37cm		不明	508	-	-	-
517号土坑	Bh21	B - II	0.76 × 0.67	14cm		不明	508	-	-	-
518号土坑	Bf14	A - II	1.10 × 1.02	28cm	土器片 1	後期初頭	472	-	515	162
519号土坑	Bh20	A - II	0.81 × 0.77	12cm		不明	508	-	-	-
520号土坑	Bg21	B - I	0.97 × 0.85	41cm	土器片 3	黒浜	507	-	515	162
521号土坑	Bf21	B - II	1.24 × 1.13	38cm		不明	508	-	-	-
522号土坑	Be16	B - II	1.08 × 0.98	26cm		不明	508	-	-	-
523号土坑	Bf17	B - III	1.05 × 0.91	27cm		不明	508	-	-	-
524号土坑	Bf18	B - III	1.50 × 1.32	33cm	土器片 1／小ピットあり	不明	508	-	515	162
525号土坑	Bg18	B - II	1.45 × 1.04	90cm	土器片25・砥石 1・剥片 1	黒浜	507	-	515	162

表33 西地区土坑③

遺構番号	検出位置	形態	規模 (m)	残存深度 (cm)	おもな出土遺物/備考	時期	遺構		遺物	
							挿図	P L	挿図	P L
526号土坑	Be17	B-II	1.18×1.05	30cm		不明	508	-	-	-
527号土坑	Bd17	B-II	0.95×0.86	20cm		不明	508	-	-	-
528号土坑	Be13	B-II	1.78×1.32	47cm	土器片191・石鏃2・磨石2・剥片5	後期初頭	507	-	516	163
529号土坑	Bh17	C-V	1.17×1.15	46cm	／中央部にピットあり。	不明	508	-	-	-
530号土坑	Bg15	E-II	1.80×1.20	24cm	剥片1	不明	508	-	516	163
531号土坑	Be14	A-III	0.73×0.70	14cm	土器片40・磨石2・剥片2・礫1	後期初頭	507	-	517	163
532号土坑	Be14	A-III	1.05×1.02	16cm	土器片4／小ピットあり	中期末葉	507	-	517	163
533号土坑	Be11	D-II	1.22×1.05	39cm	土器片82・凹石1・剥片3	中期末葉	507	-	517	163
534号土坑	Bc14	B-II	1.36×1.34	60cm		不明	473	150	-	-

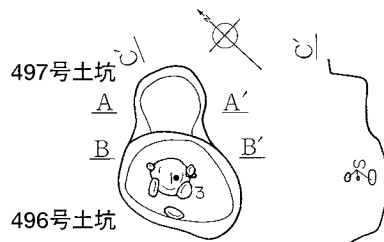


第505図 西地区土坑①



495号土坑

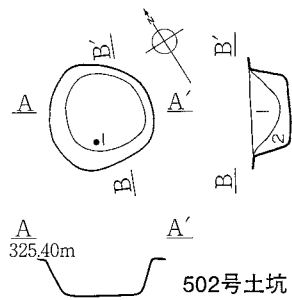
- 1: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、炭化材微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、炭化材・焼土粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



497号土坑

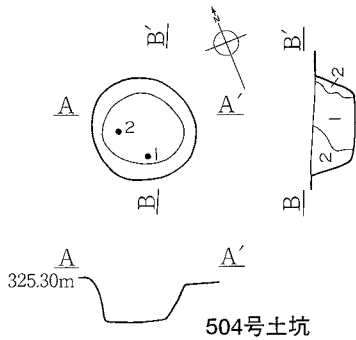
496号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量、炭化粒ごく微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。



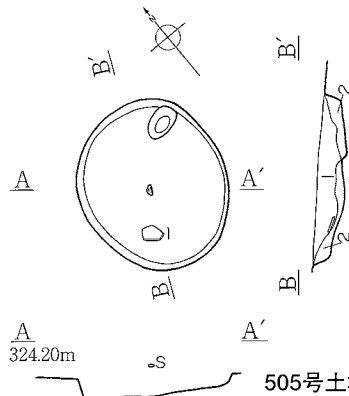
502号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまりやや強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・焼土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまり強い。



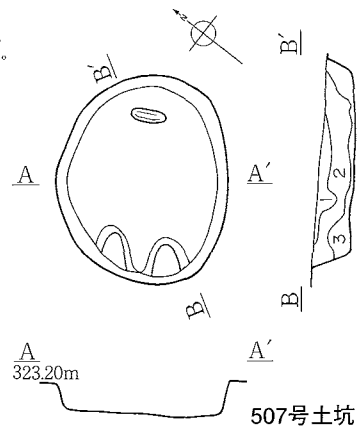
504号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



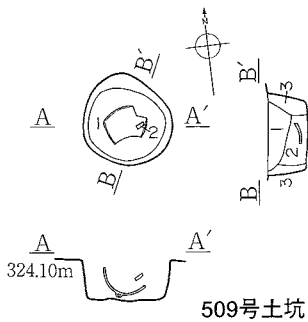
505号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。



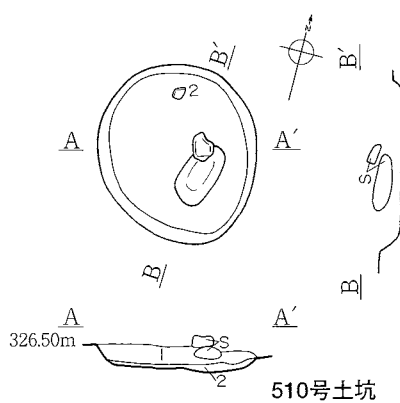
507号土坑

- 1: 黒褐色土 YP・白色軽石粒微量、ローム粒ごく微量含む。粘性あまりなく、しまりややある。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒をやや多く、YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



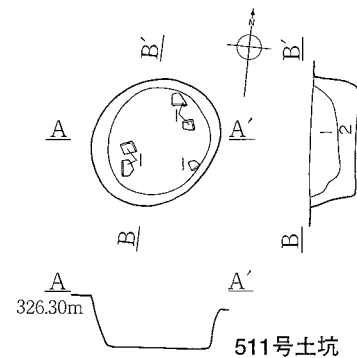
509号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒微量、ロームブロックごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・ブロック少量、YP・白色軽石粒微量含む。粘性あり、しまり強い。



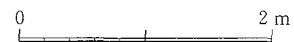
510号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック・YP・炭化粒少量、白色軽石粒多量含む。粘性・しまりある。
- 2: 暗褐色土 ロームブロック・YP少量、白色軽石粒微量含む。粘性・しまりある。

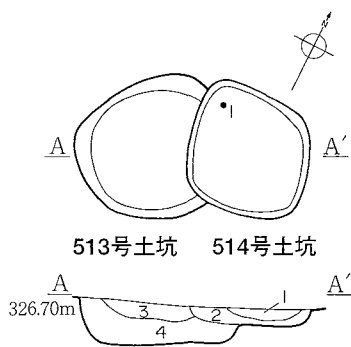


511号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック・YP・白色軽石粒・炭化物少量含む。粘性あり、しまりよい。
- 2: 暗褐色土 YP少量、炭化物・白色軽石粒・ロームブロックを含む。粘性・しまりある。

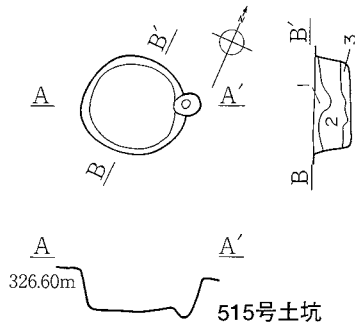


第506図 西地区土坑②



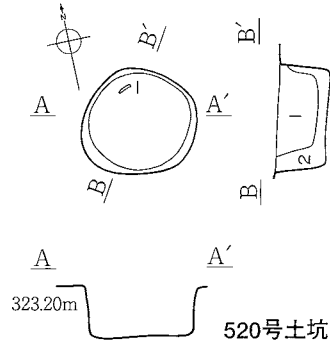
513号土坑 514号土坑

- 1: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒少量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量、白色軽石粒微量。炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒・ブロック・YP少量、白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・ブロック少量、白色軽石粒微量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。



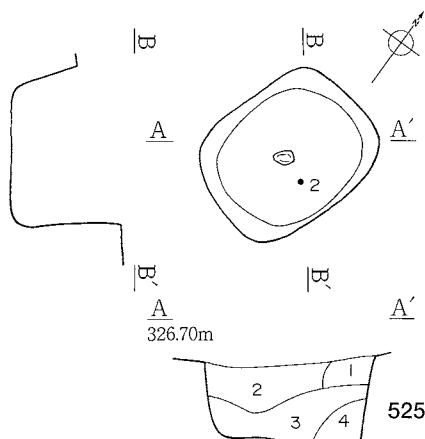
515号土坑

- 1: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・ブロック・白色軽石粒をやや多く、YP微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒微量含む。粘性あり、しまり強い。



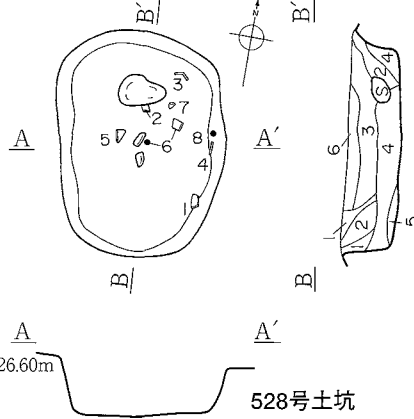
520号土坑

- 1: 黒褐色土 ロームブロック・YP多量、白色軽石粒やや多く、炭化物少量含む。粘性・しまりある。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・YP少量、炭化物・白色軽石粒多少含む。粘性あり、しまりよいが時々歌らかい所ある。粘性ある。



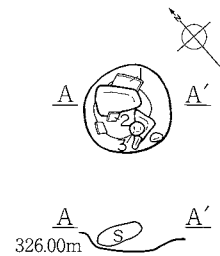
525号土坑

- 1: 黄褐色土 ロームブロック・YPやや多く、炭化物・白色軽石粒少量含む。粘性やや悪く、しまりよい。
- 2: 暗褐色土 木の根が入り込んでいる。ロームブロック・YP少量、白色軽石粒・炭化物含む。粘性やや悪く、しまり木の根のため悪いところもあるが、他はややよい。
- 3: 暗褐色土 ロームブロック・YPやや多く、白色軽石粒少量、炭化物含む。木の根が入り込んでいるため所々に黒土の混入見られる。粘性しまりややある。
- 4: 暗褐色土 ロームブロック・YP多量、白色軽石粒・炭化物少量含む。攪乱のため所々小範囲で黒土が混入している。粘性良く、しまりやや悪い。

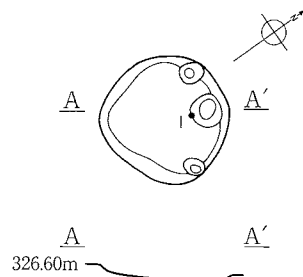


528号土坑

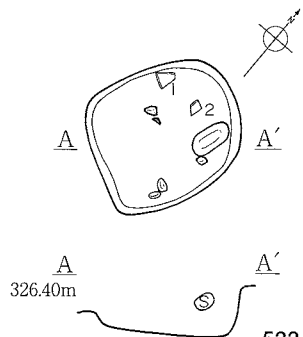
- 1: 黒褐色土 白色軽石粒少量、ローム粒・YP微量、炭化物含む。粘性よく、しまりややよい。
- 2: 暗褐色土 白色軽石粒をやや多く、ロームブロック・YP少量、炭化物含む。粘性・しまりややよい。
- 3: 暗褐色土 白色軽石粒をやや多く、ローム粒・YP・炭化物微量含む。粘性あまりなく、しまりややある。
- 4: 暗褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化物含む。粘性ややあり、しまりよい。
- 5: 暗褐色土 φ3mm~70mm位のロームブロックが混入している。YP・炭化物少量、白色軽石粒微量含む。粘性ややあり、しまりある。
- 6: 暗褐色土 ロームブロック・YP・白色軽石粒・炭化物少量含む。粘性ややあり、しまりやや弱い。



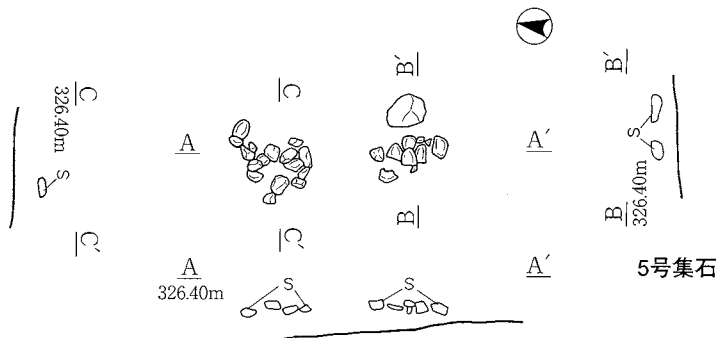
531号土坑



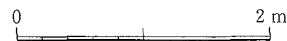
532号土坑



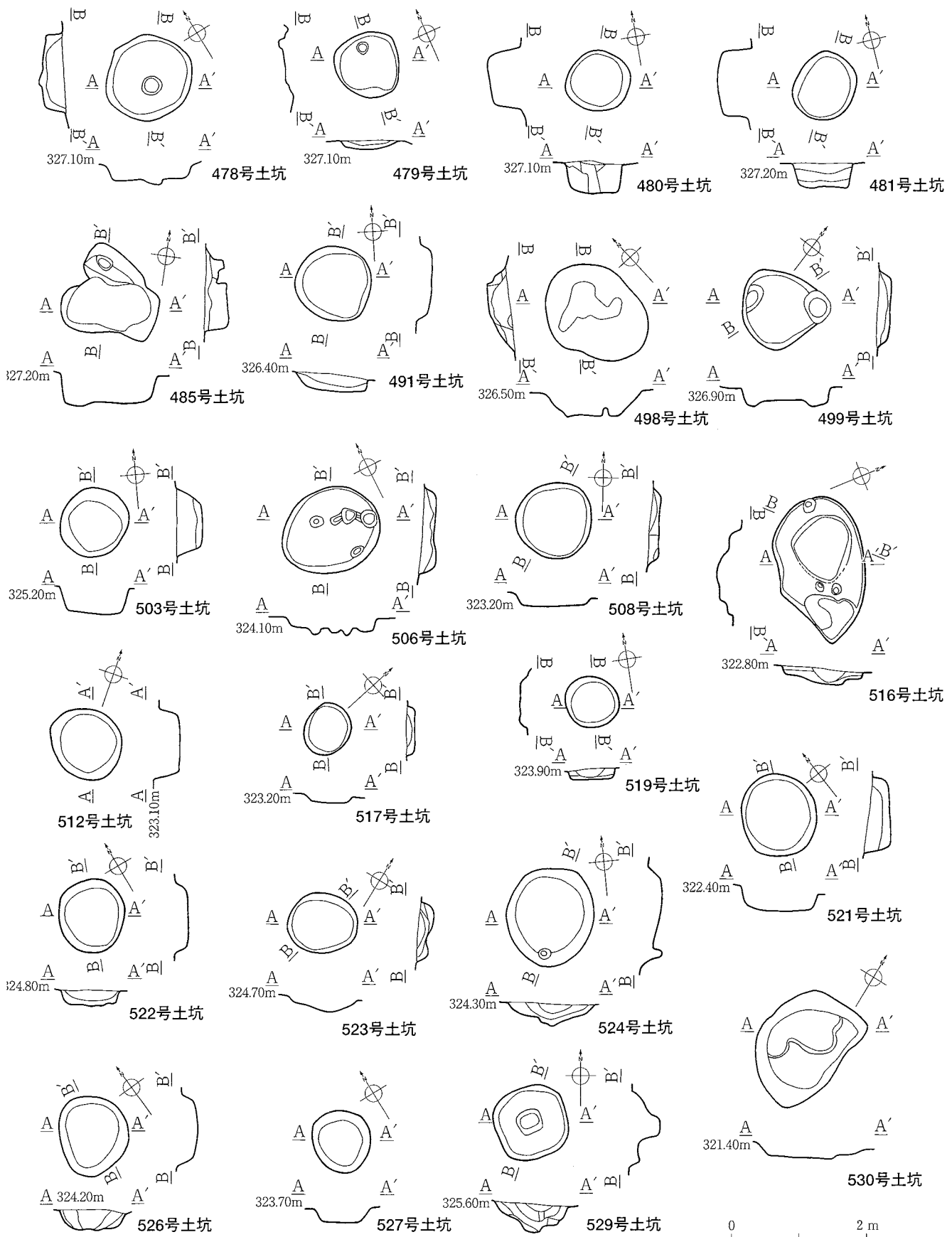
533号土坑



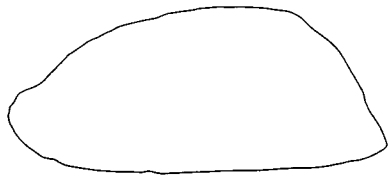
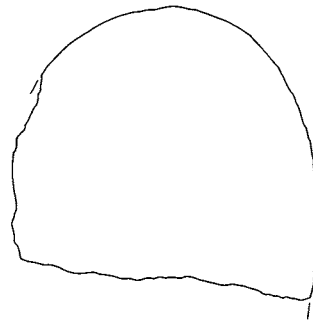
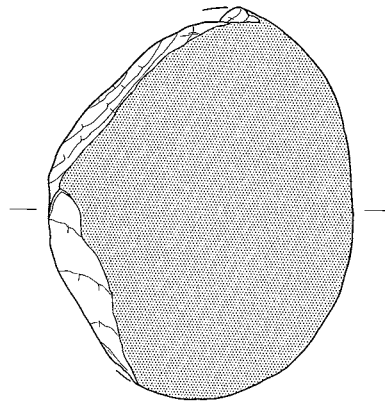
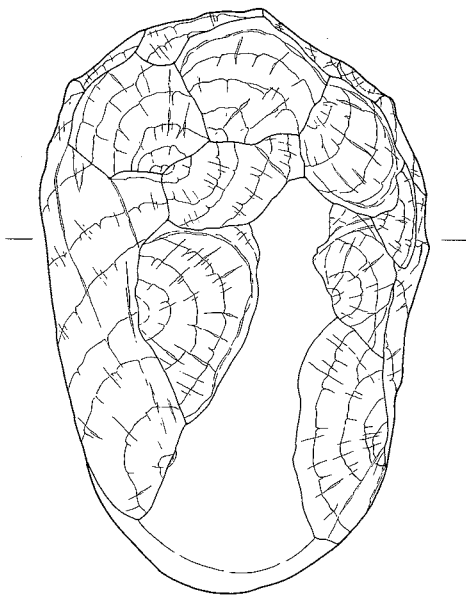
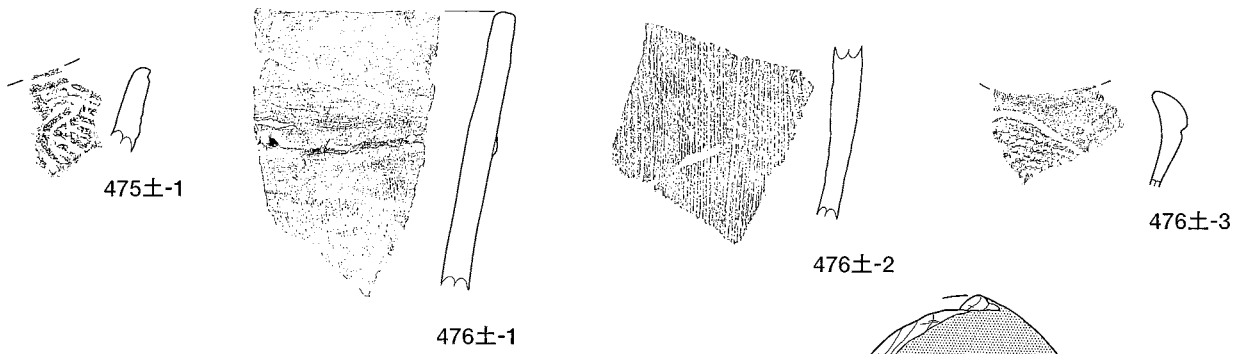
5号集石



第507図 西地区土坑③、5号集石



第508图 西地区土坑④

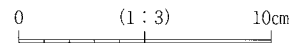
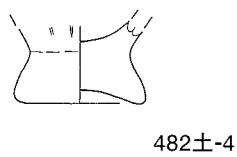
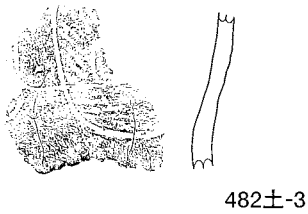
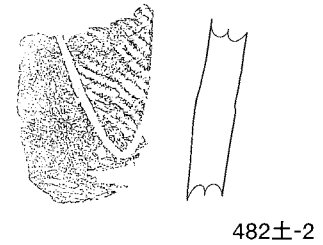
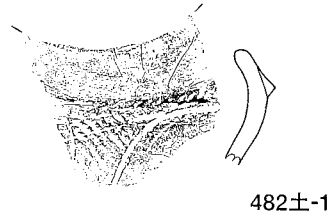
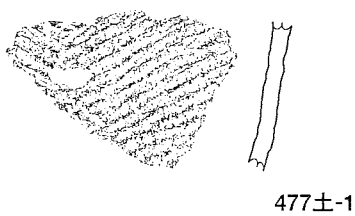


23.2×15.5×6.6 重さ：3.100 g	
石材：安山岩	注記：10
備考：被熱痕あり。	

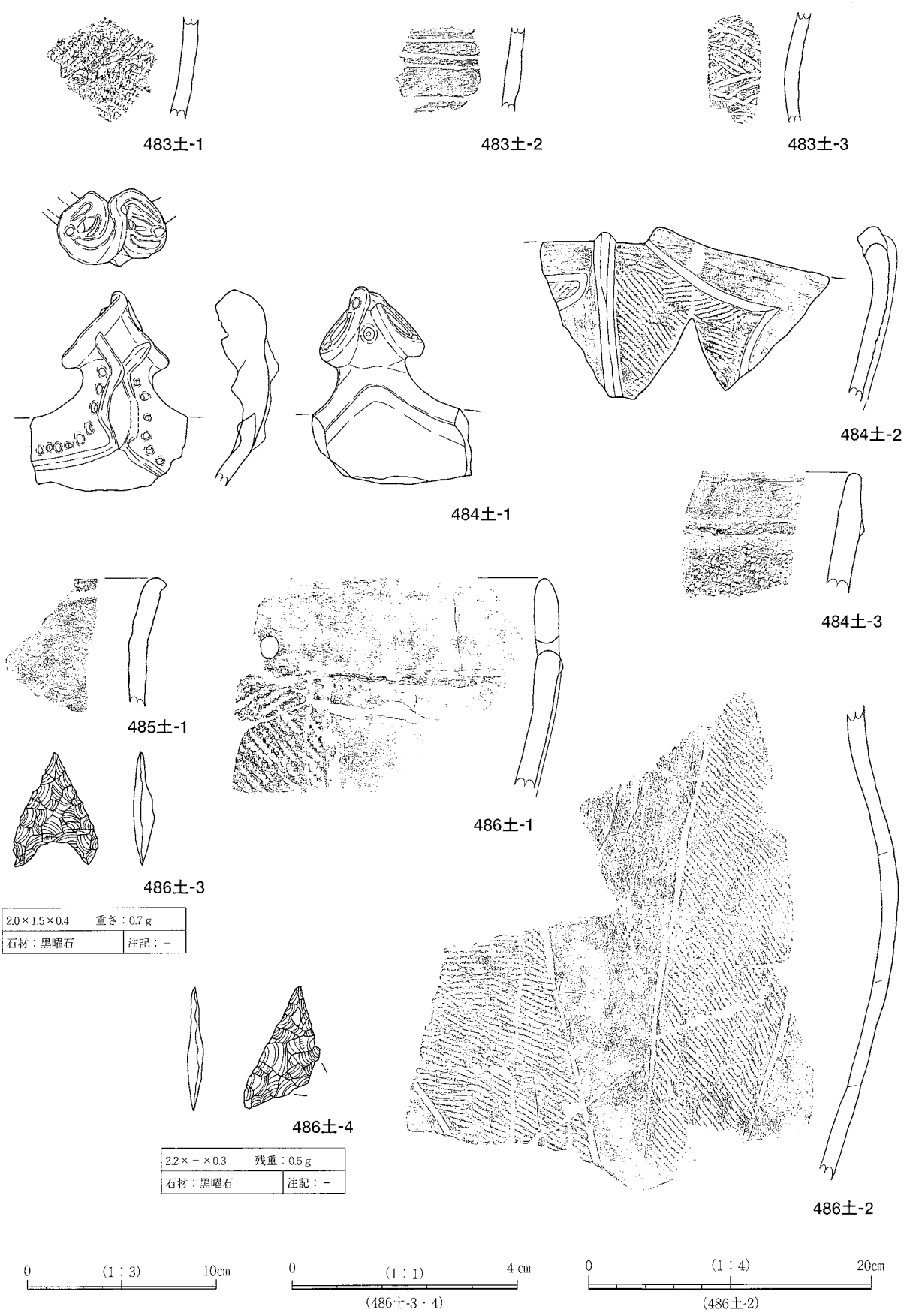
15.6×12.1×11.4 残重：2,900 g	
石材：安山岩	注記：17
備考：磨られて平滑になっている。	

476±-4

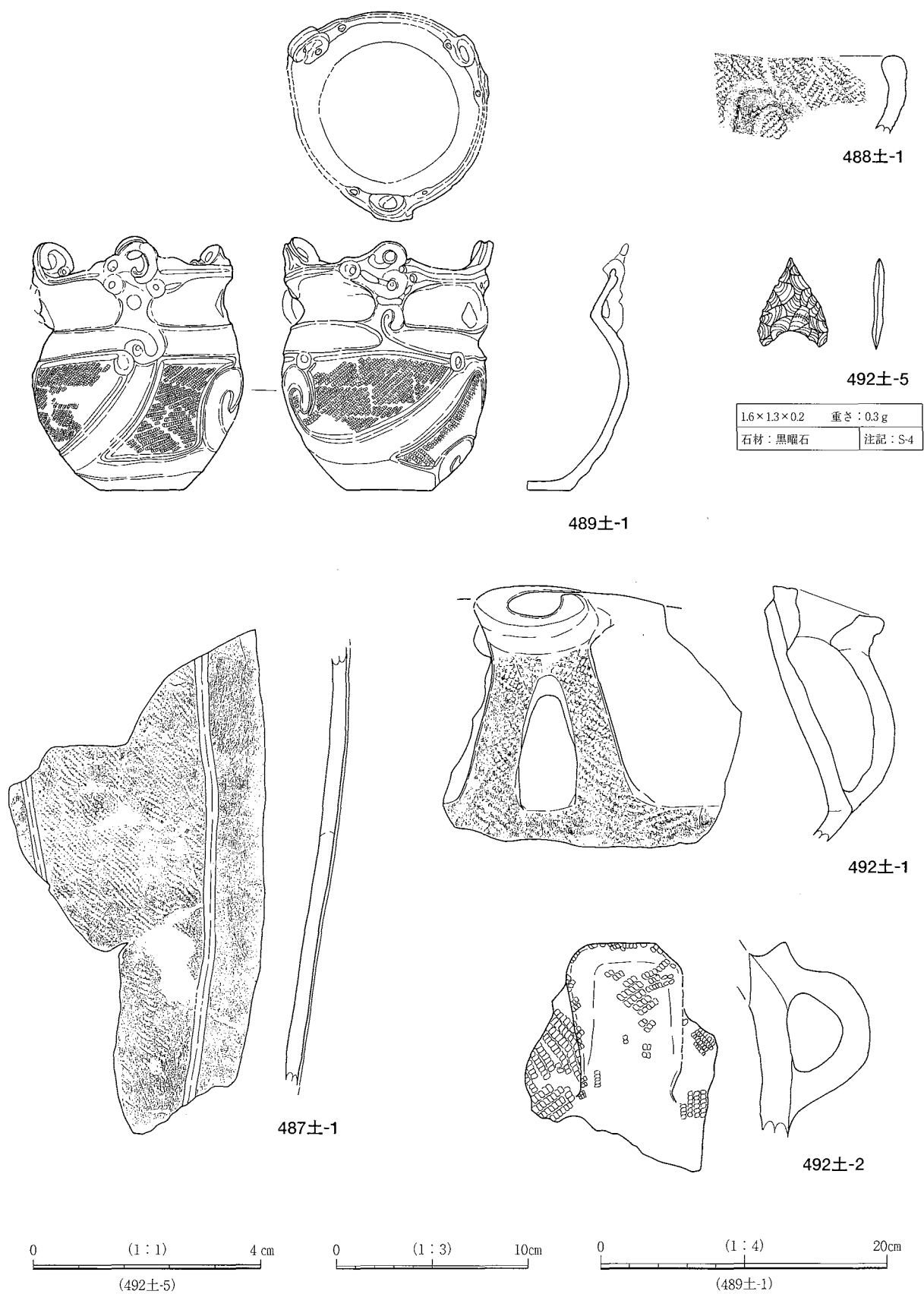
476±-5



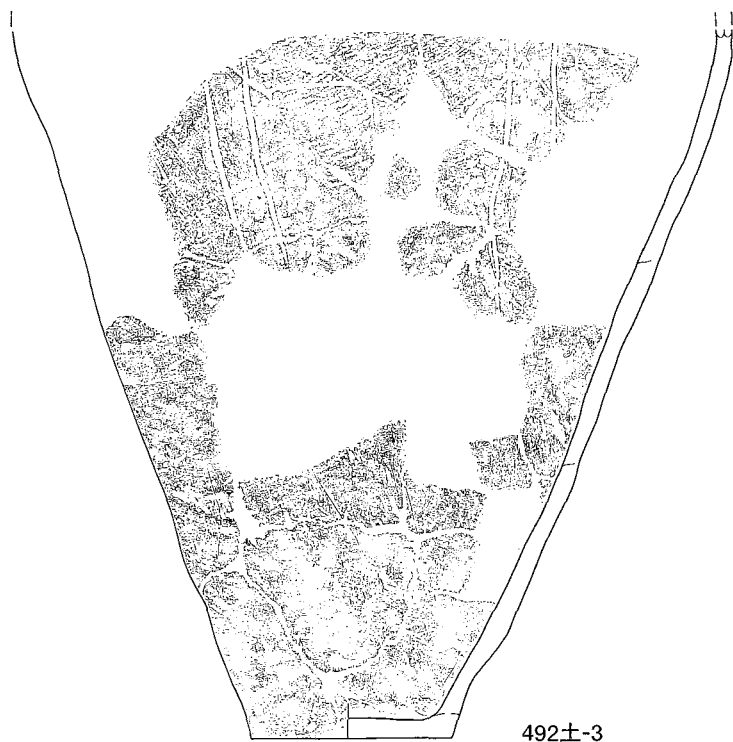
第509図 西地区土坑出土遺物①



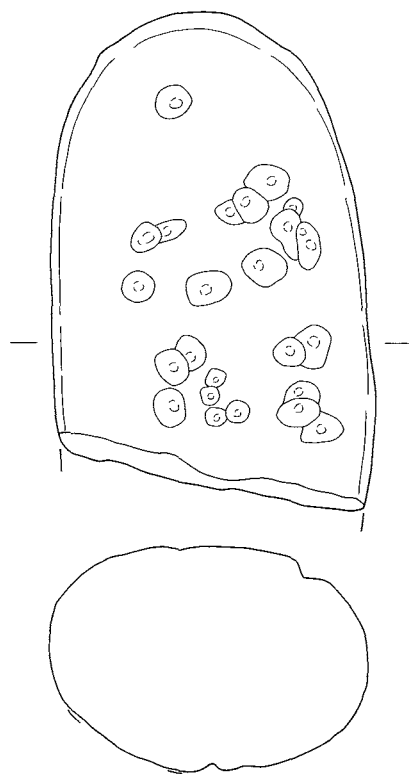
第510図 西地区土坑出土遺物②



第511図 西地区土坑出土遺物③



492±-3

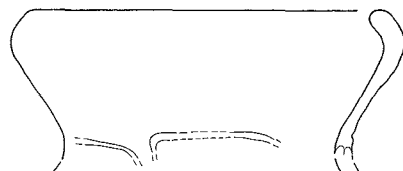


492±-4

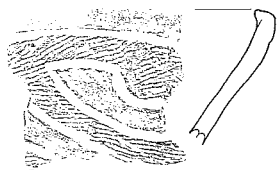
残19.7×13.1×8.9 残重：3.222g	
石材：安山岩	注記：2



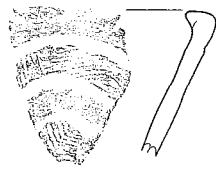
493±-1



493±-2



493±-3



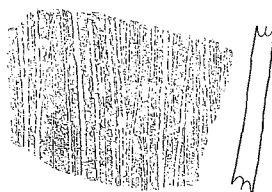
493±-4



493±-5



493±-6



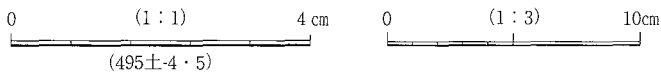
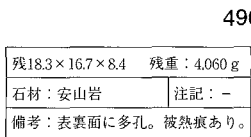
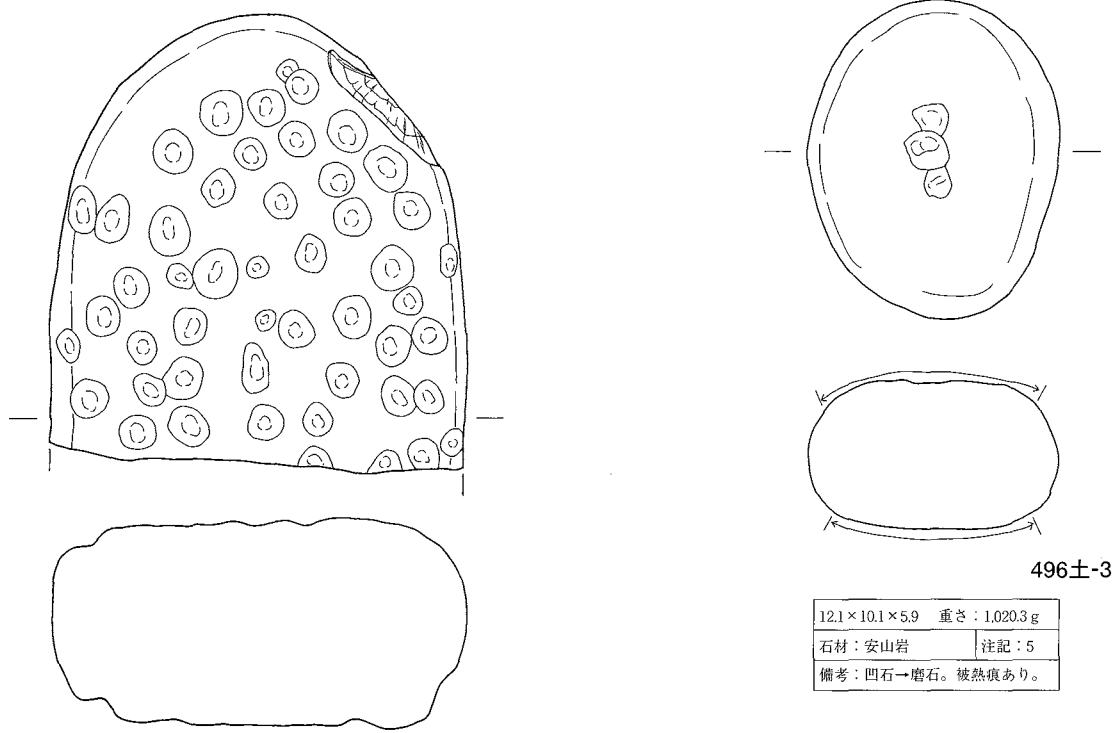
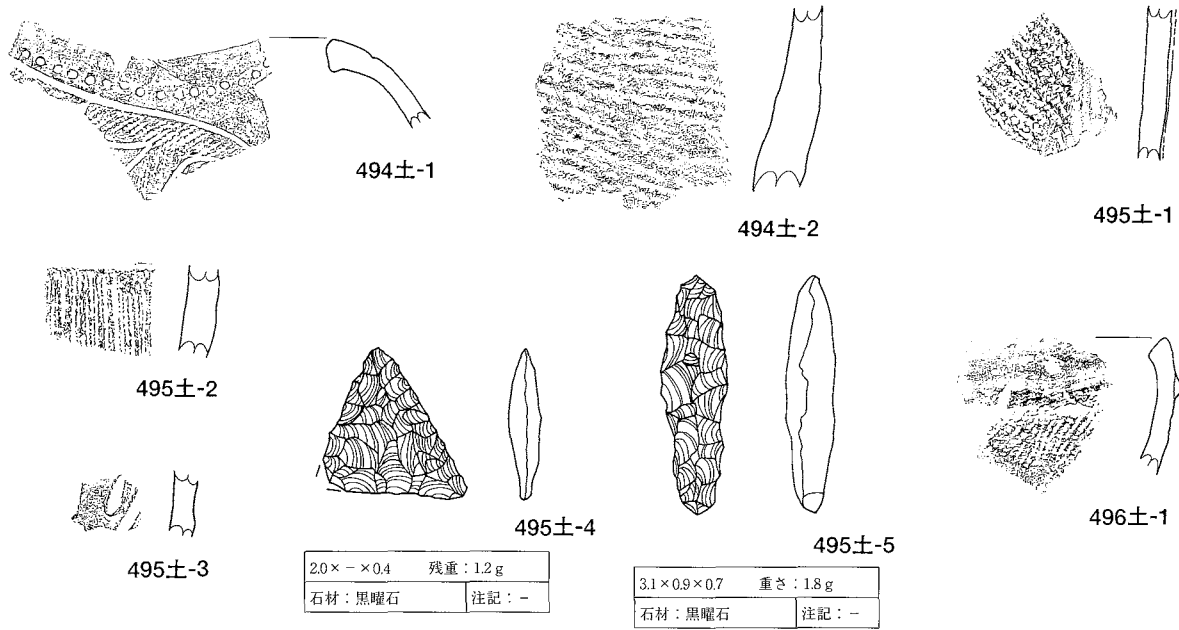
493±-7

0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 20cm

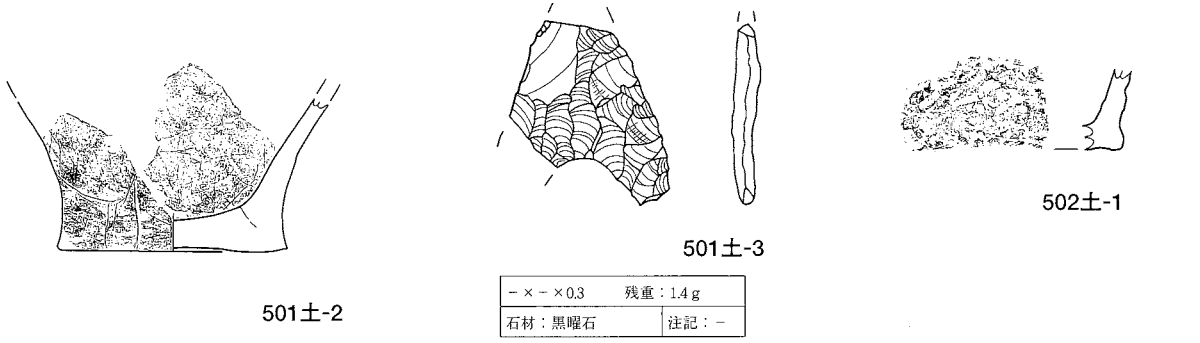
(492±-3)

第512図 西地区土坑出土遺物④

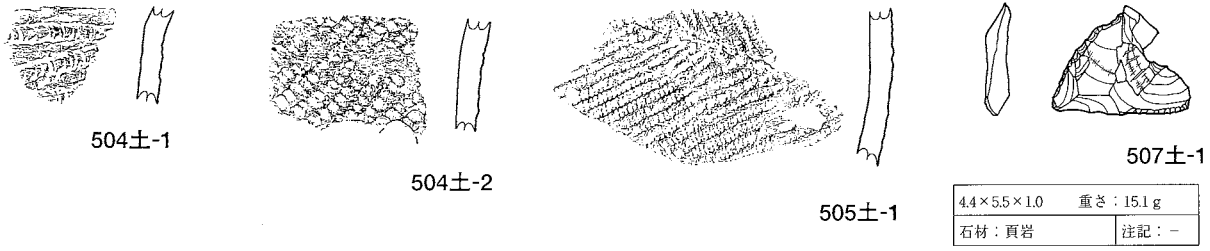


501±-1

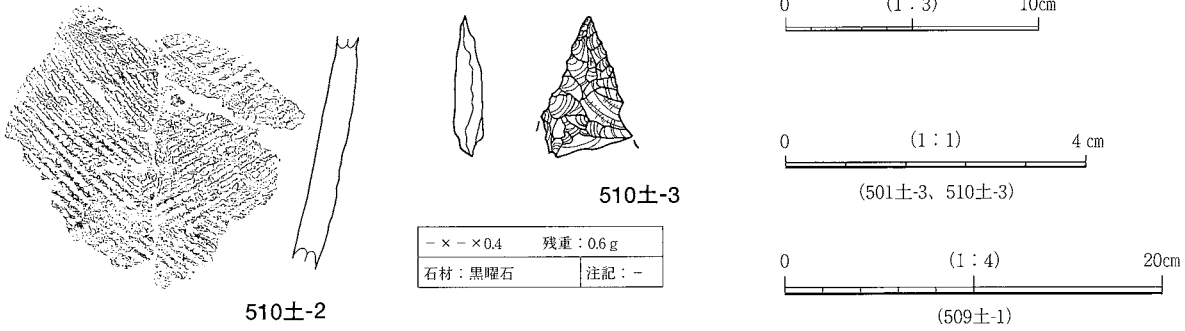
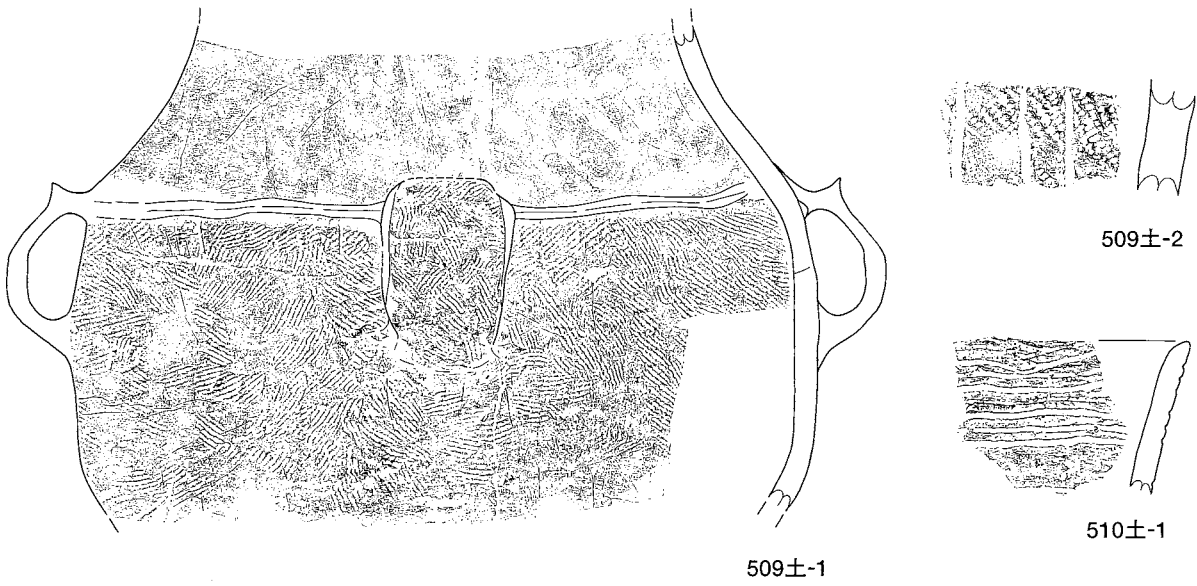
第513図 西地区土坑出土遺物⑤



- x - x 0.3	残重: 1.4 g
石材: 黒曜石	注記: -



4.4×5.5×1.0	重さ: 15.1 g
石材: 眞岩	注記: -



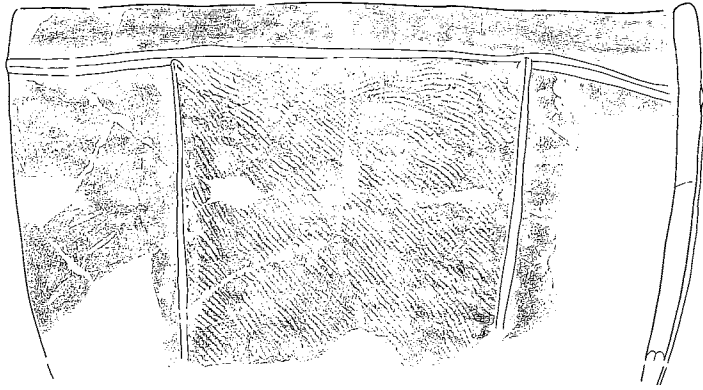
- x - x 0.4	残重: 0.6 g
石材: 黒曜石	注記: -

0 (1:3) 10cm

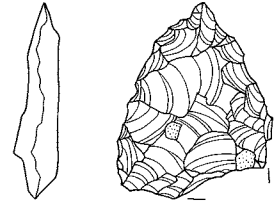
0 (1:1) 4 cm
(501±-3, 510±-3)

0 (1:4) 20cm
(509±-1)

第514図 西地区土坑出土遺物⑥



511±-1

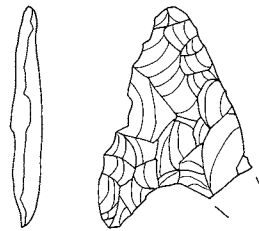


511±-2

2.6 × - × 0.6	残重: 2.4 g
石材: 黒曜石	注記: -

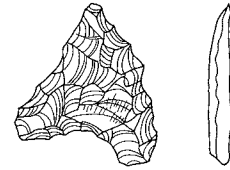


514±-1



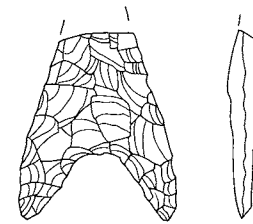
514±-2

2.9 × 2.1 × 0.4	残重: 1.8 g
石材: 頁岩	注記: -



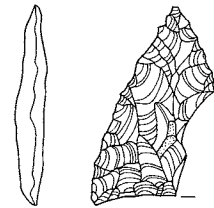
511±-3

2.1 × 1.9 × 0.3	重さ: 0.9 g
石材: 黒曜石	注記: -



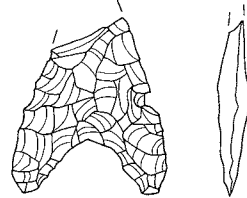
514±-3

- × 2.1 × 0.4	残重: 1.5 g
石材: チャート	注記: -



514±-5

2.6 × - × 0.4	残重: 1.2 g
石材: 黒曜石	注記: -



514±-4

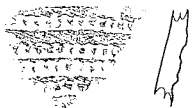
- × 2.1 × 0.4	残重: 1.4 g
石材: 鉄石英	注記: 4



515±-1



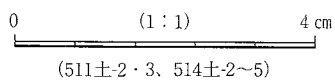
518±-1



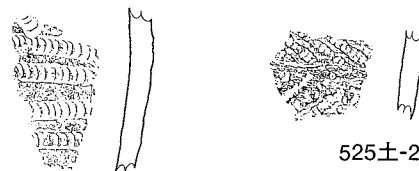
520±-1



524±-1



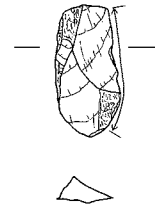
(511±-2・3, 514±-2~5)



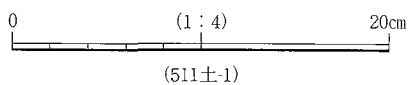
525±-1



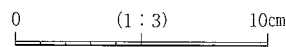
525±-2



525±-3



(511±-1)



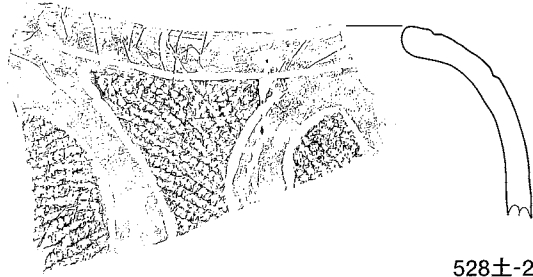
(1:3)

5.3 × 2.6 × 1.2	重さ: 11.5 g
石材: 頁岩	注記: -

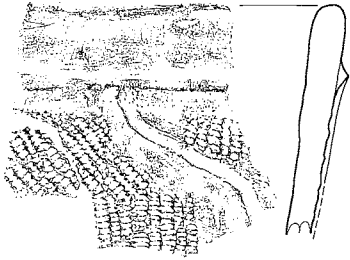
第515図 西地区土坑出土遺物⑦



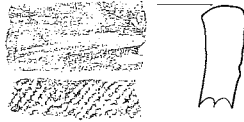
528±-1



528±-2



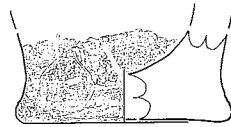
528±-3



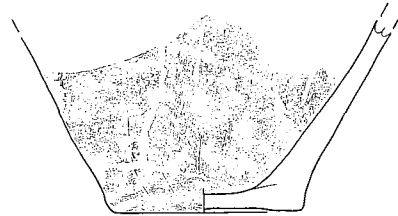
528±-4



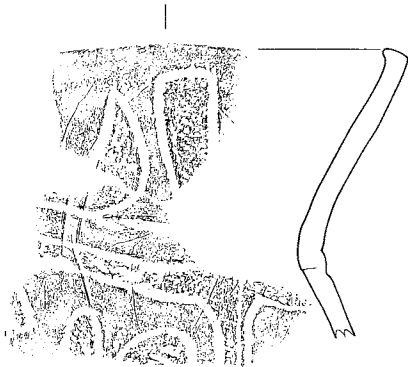
528±-5



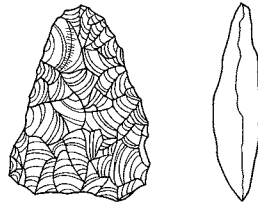
528±-7



528±-8

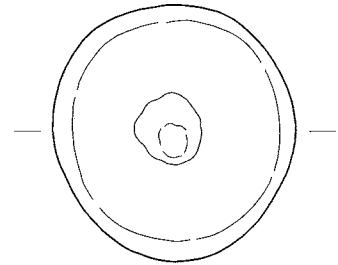


528±-6



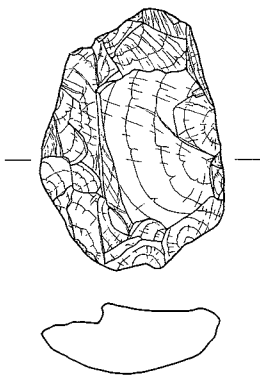
528±-9

2.6×1.9×0.7	重さ：2.5 g
石材：黒曜石	注記：-



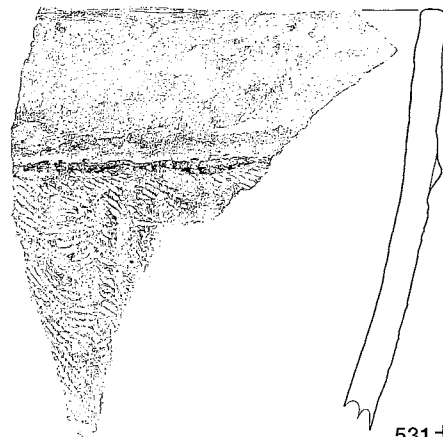
531±-3

10.2×9.7×3.9	重さ：537.3 g
石材：安山岩	注記：2
備考：凹石→磨石。被熟痕あり。	

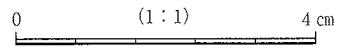
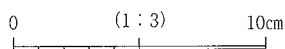


530±-1

10.4×7.3×2.8	重さ：227.0 g
石材：黒色安山岩	注記：2

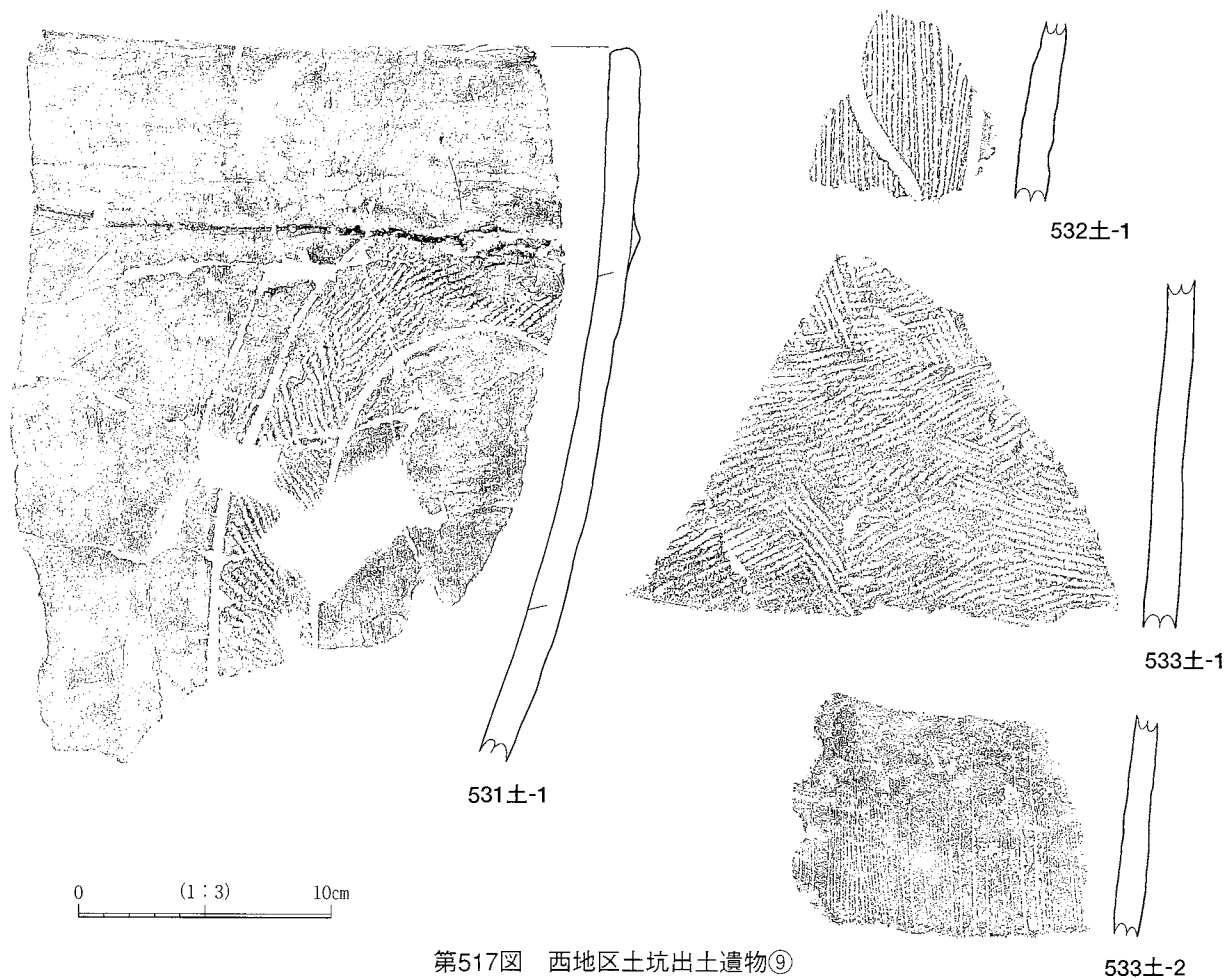


531±-2



(528±-9)

第516図 西地区土坑出土遺物⑧



第517図 西地区土坑出土遺物⑨

第4節 集石

5号集石（遺構：第507図、P L 150）

位置：Bc-13グリッド。検出状態：1.80m×0.85mほどの範囲に礫の集中がみられたことから集石としたものである。各礫の出土位置は、他の遺構の確認面よりも10～25cm浮いた状態にある。大小の礫25点が検出され、その大半に被熱痕が顕著に認められた。集石の下側に土坑等の掘り込みは確認できなかった。また、これらの礫以外には遺物は検出されなかった。時期：縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。

第5節 掘立柱建物跡

西地区からは3棟の掘立柱建物跡を確認しているが、先述したように113号住居跡としたものも掘立柱建物跡の可能性が高い。なお、2号掘立柱建物跡は欠番とした。時期は明確に判断できないが、5号掘立柱建物跡などの検出状態から、おおむね縄文時代中期後半（末葉）～後期初頭と想定しておきたい。

3号掘立柱建物跡（遺構：第518図、P L 150）

位置：Bf-13グリッド。検出状態：97号・101号住居跡と重複する。また、P-4とP-5の間には中期末葉と想定される476号土坑が位置する。いずれの柱穴からも柱痕は確認できなかった。桁×梁間：2×1間。桁行：（柱穴心々距離、以下同じ）北東側4.10m。南西側3.90m。梁行：北西側2.15m。東南側2.00m。柱間寸法

：P-1・2間2.05m、P-2・3間2.05m、P-4・5間2.20m、P-5・6間1.70m、P-1・4間2.15m、P-2・5間2.15m、P-3・6間2.00m。主軸方位：N-58°-W。掘り方平面形：円形・楕円形。残存深度：33～50cm。時期：明確ではないが、中期後半（末葉）～後期初頭に想定しておく。

4号掘立柱建物跡（遺構：第457図、P L 150）

位置：Bg-12グリッド。検出状態：柱穴3基を確認したのみで、詳細は不明である。柱穴間の距離は2.80m前後で、掘り方平面形は円形・楕円形、残存深度は45cm前後である。時期：明確ではないが、中期後半（末葉）～後期初頭に想定しておく。

5号掘立柱建物跡（遺構：第518・466図、P L 151）

位置：Bf-13グリッド。検出状態：4基の柱穴がほぼ方形の位置に配置され、中央部には中期末葉と想定される486号土坑が位置する。本掘立柱建物跡と同土坑は本来同一の遺構である可能性もあり、土坑の上屋を覆うための柱穴とも考えられる。P-1の1層は柱痕と想定され、直径25cm前後であるが、その他の柱穴では柱痕は確認できなかった。また、前期黒浜・有尾（～諸磯a）式期の103号・104号・108号住居跡を切る状態にある。桁×梁間：1×1間。柱間寸法：P-1・2間3.20m、P-3・4間3.15m、P-1・3間3.15m、P-2・4間3.20m、で各柱穴間の距離はほぼ均一な状態にある。主軸方位：N-36°-E、もしくはN-54°-W。掘り方平面形：楕円形。残存深度：55～85cm。時期：先述した486号土坑と同時期と判断し、中期末葉と想定しておく。

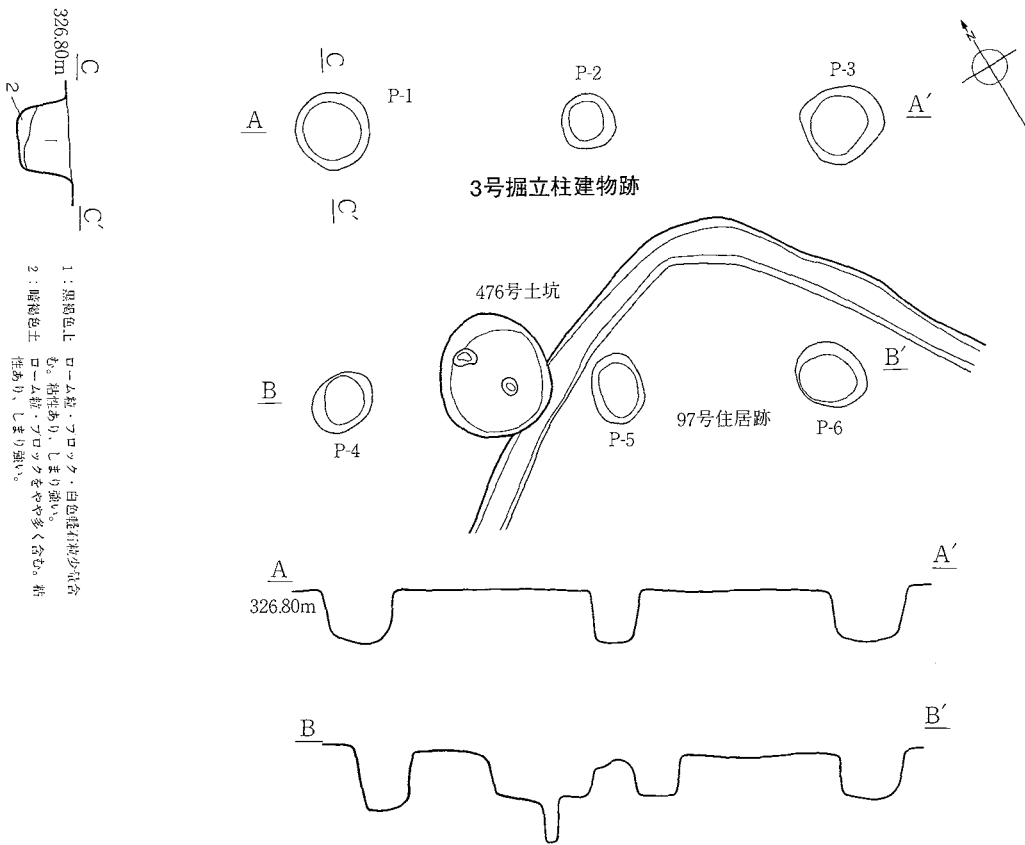
第6節 溝

2号溝（遺構：第456・457図、P L 136・137）

位置：Ca-21～Ca-26グリッド。検出状態：浅間A軽石層下で検出されている。南側に位置する3号溝とほぼ平行して、西方から谷地形が存在する東方へと走行する。Ca-21グリッド以西では明瞭に確認できず、東側もCa-26グリッドにおいて確認できなくなる状態にある。3号溝よりも1段高い位置に構築されている。溝の走行状態から排水を目的に構築された可能性が考えられる。溝底面の標高は西端で323.05m、同じく東端で321.70mである。上端最大幅：0.95m。下端最大幅：0.80m。残存深度：25cm前後。埋没土の特徴：1層に浅間A軽石が堆積する。遺物出土状態：微量の縄文土器片が出土している程度である。時期：不明であるが、検出状態から近世の可能性が高い。

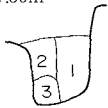
3号溝（遺構：第456・457図、P L 136・137）

位置：Ca-24～Ca-28グリッド。検出状態：浅間A軽石層下で検出されている。北側に位置する2号溝とほぼ平行して、西方から谷地形が存在する東方へと走行する。Ca-24グリッドでは明瞭に確認できず、東側はCa-26グリッド付近で二又に分かれる状態にある。2号溝よりも1段低い位置に構築されている。溝の走行状態から2号溝と同様の性格が想定される。溝底面の標高は西端で321.95m、同じく東端で320.20mである。上端最大幅：二又に分かれる手前で2.40m。下端最大幅：同じく1.35m。残存深度：35cm前後。埋没土の特徴：ローム粒・YP・灰白色軽石粒等を含む黒褐色～暗褐色土等が自然埋没する。遺物出土状態：微量の縄文土器片等が出土している程度である。時期：不明であるが、検出状態から近世の可能性が高い。

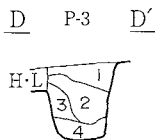


1: 黒褐色土 ローム粒・フロック・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
 2: 暗褐色土 ローム粒・フロックをやや多く含む。粘性あり、しまり強い。

B P-1 B' 327.30m

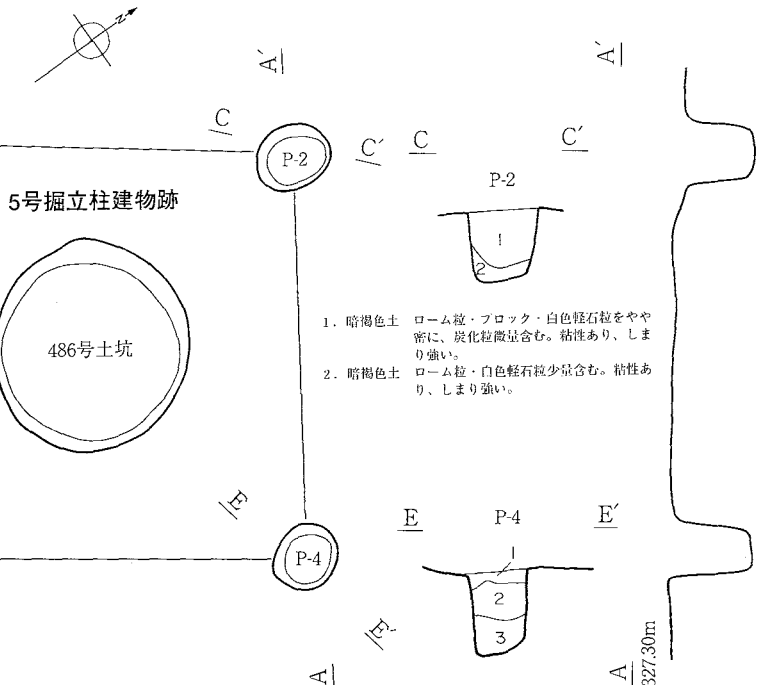


- 1: 黒褐色土 ローム粒・フロック・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 黒褐色土 ローム粒をやや多く、ロームフロック・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。



- 1: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 黒褐色土 ローム粒・フロック・YP・白色軽石粒を1層よりやや多く含む。粘性あり、しまりかなり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP・白色軽石粒をやや密に含む。粘性あり、しまり強い。
- 4: 黒褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。

0 2m



- 1. 暗褐色土 ローム粒・フロック・白色軽石粒をやや密に、炭化粒微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2. 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒少量含む。粘性あり、しまり強い。

- 1: 暗褐色土 ローム粒・白色軽石粒微量、炭化粒ごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 2: 暗褐色土 ローム粒・フロック・YP・白色軽石粒をやや密に、炭化粒をごく微量含む。粘性あり、しまり強い。
- 3: 暗褐色土 ローム粒・YP・白色軽石粒をやや密に含む。粘性あり、しまり強い。

第518図 3号・5号掘立柱建物跡

第5章 遺構外出土遺物

第1節 土器（遺物：第519～525図、P L 164～167、観察表 P 606）

縄文時代早期～後期にかけての土器や土製品が確認されており、東・西地区合わせて107点を掲載した。

縄文時代早期

撚糸文系土器（1～5）と押型文土器（6～8）がいずれも西地区から出土している。押型文土器は3点とも縦位に山形押型文が施文されている。山形押型文土器は西地区の114号住居跡からも検出されているが、同住居跡のものは横位施文である。

縄文時代前期

関山式土器（9・10）、黒浜・有尾式土器（11～21）、諸磯a式土器（22～33）、諸磯b式土器（34～40）、諸磯c式土器（41～44）、北白川下層式系土器（49～62）、十三菩提式土器（63～65）のほか、（78）も前期末葉の土器と判断した。また、ミニチュア土器（45～48）も施文の特徴等から前期諸磯式期の遺物と考えられる。北白川下層式系の土器はおおむね薄手のつくりで、幅広の爪形文を密に施文しているものが多く、また、羽状縄文が施文されるものもみられる。

縄文時代中期・後期

中期初頭の五領ヶ台式土器（66～76）、阿玉台式土器（77）、中期後半の加曾利E式～後期初頭の称名寺式期にかけての土器（79～98）、後期前半の堀之内式～加曾利B式土器（99～101）がある。中期後半代以降の土器は西地区から出土しているものが多い。

土製品

（103）は平面分銅形の板状土製品で、初期土偶の可能性はある。（104・105）は土偶の一部と思われる。（106）は土製円板。（107）は石棒状の小形土製品である。

第2節 石器（遺物：第526～530図、P L 168～170）

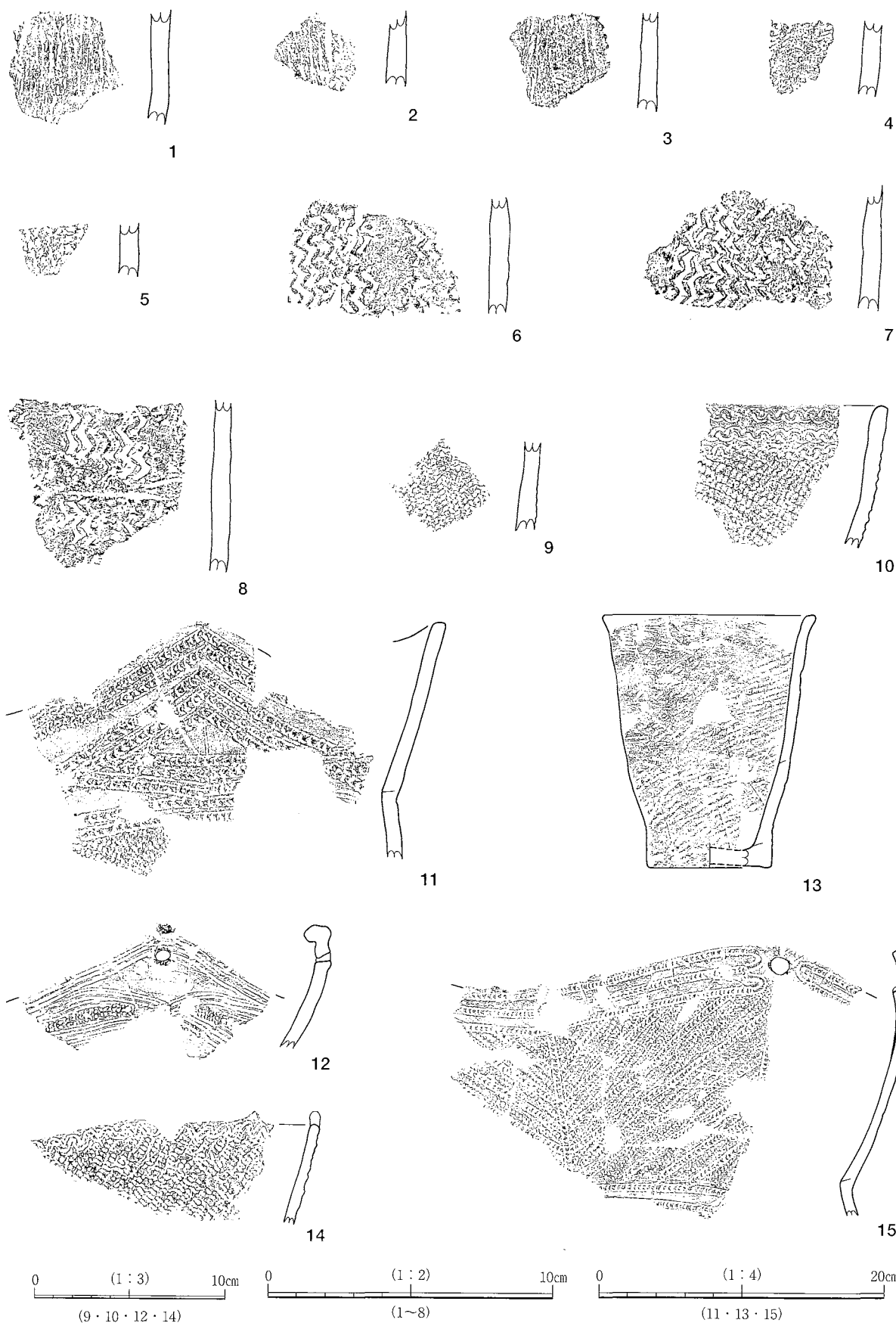
東・西地区合わせて55点を掲載した。

（1・2）はいずれも115号住居跡から出土したものであるが、旧石器時代の遺物と判断し、本章に掲載したものである。（1）は細石刃核、（2）は細石刃と判断した。（3）は縦長剥片を素材とした石器、（4）は縄文時代創草期のものと想定される尖頭器片である。

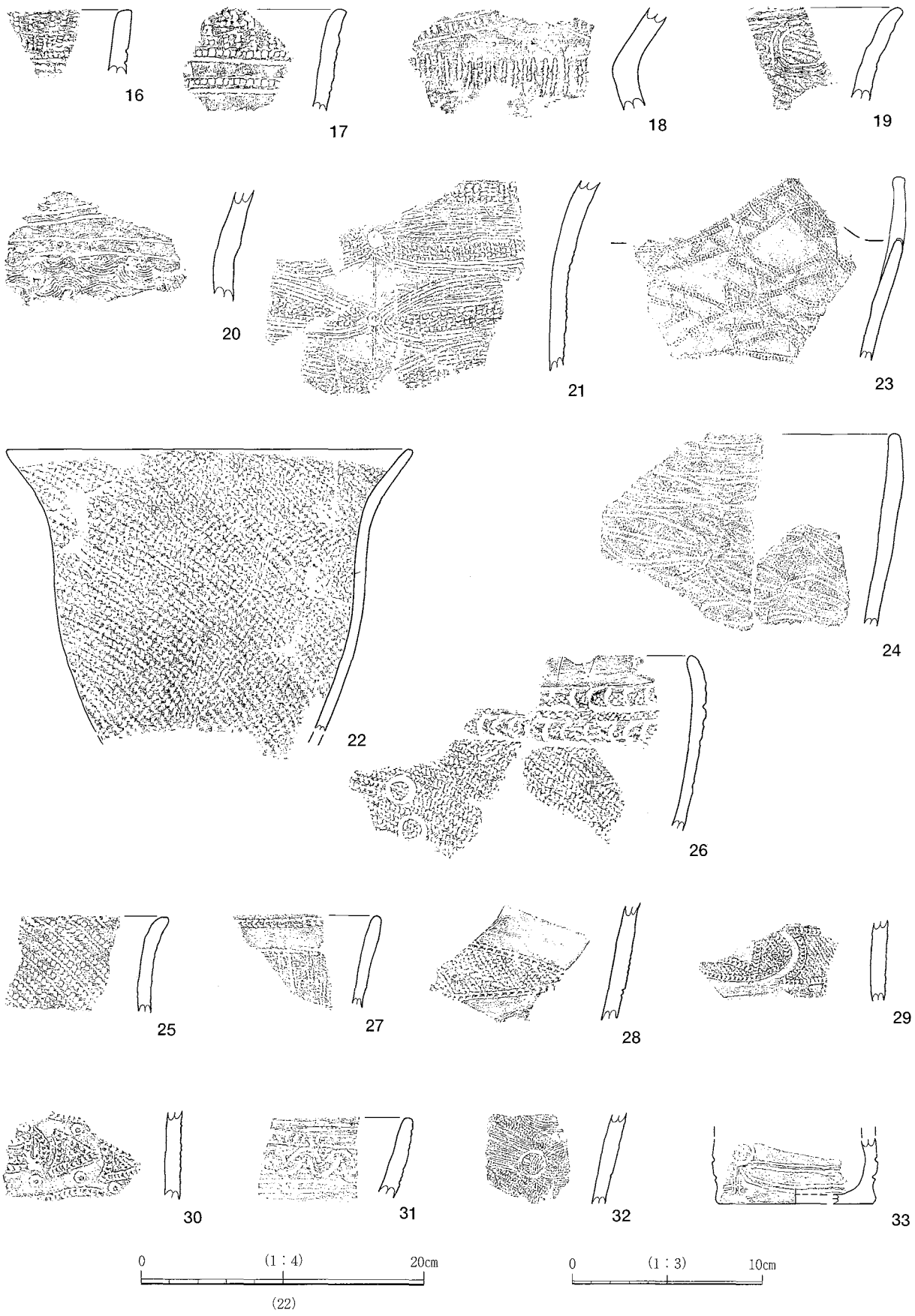
（5）は大形の多孔石、（6）は石皿兼多孔石である。（7～11）は磨石・凹石で、凹石から磨石へ転用されるものが多い。（12～14）は打製石斧で、分銅形・短冊形・撥形のものがある。（15～20）は磨製石斧で、いわゆる緑色岩類（輝緑凝灰岩）を石材としている。（24～28）は石匙、（29～32）は石錐、（33～47）は石鏃である。（48）は縦長石匙の可能性はある。（49～51）は石錐の可能性もあるが、不明石器としておく。また、石鏃としたものの内、大形のは石槍の可能性もある。（52）は研磨具と想定した石器である。（53）は石棒頭部で、全体が丁寧に研磨されており、切断面の一部にも研磨痕がみられる。（54）は塊状耳飾り片、（55）は滑石原石である。

第3節 奈良・平安時代、中・近世（遺物：第531図、P L 170、観察表 P 608）

当該期の遺物は非常に少ない状態であった。先述した1～3号溝は近世の可能性はあるが、そのほかには当該期の遺構も検出されていない。須恵器（1・2）、播鉢片（3）、寛永通宝（4・5）の計5点を掲載した。



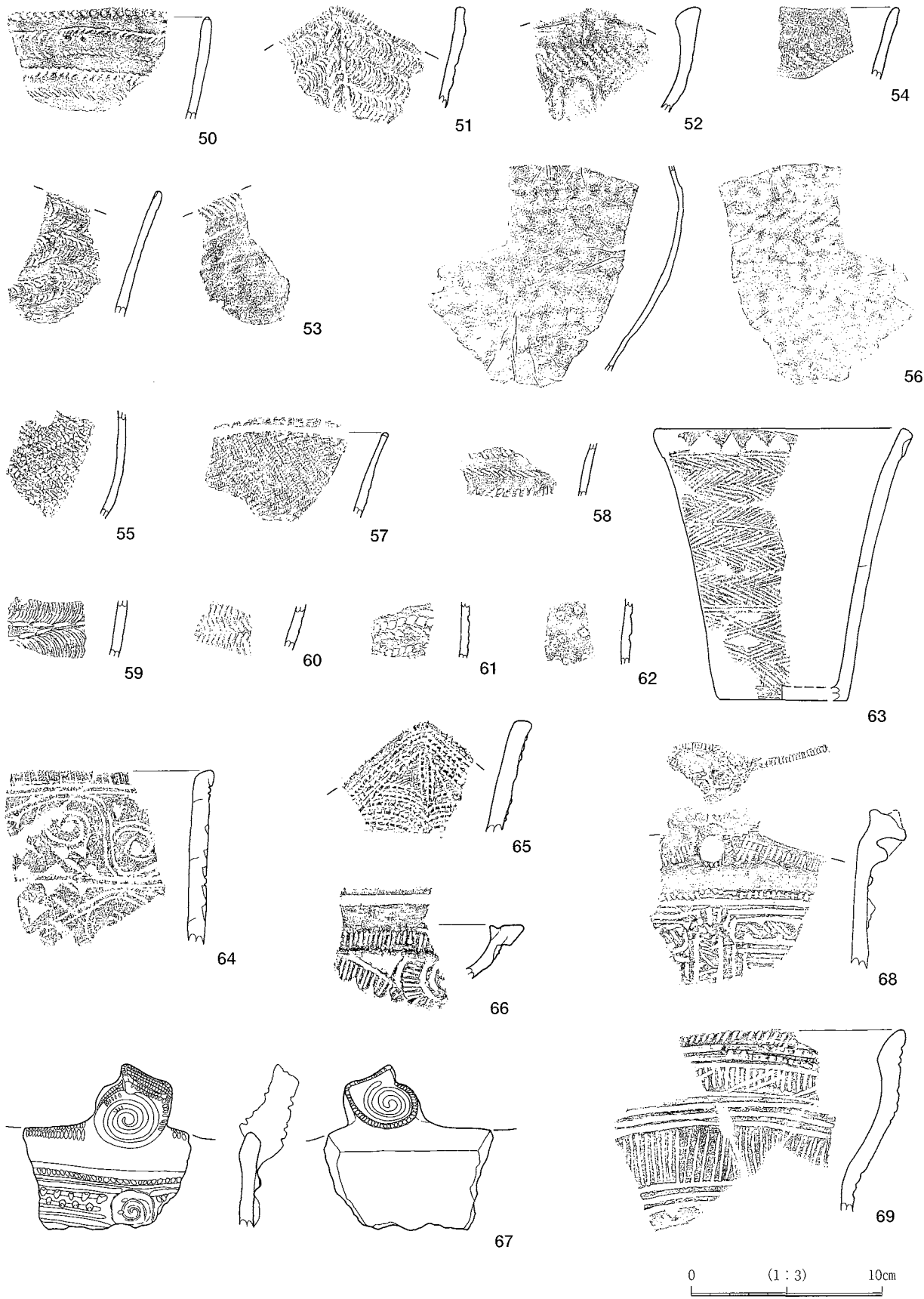
第519図 遺構外出土遺物①



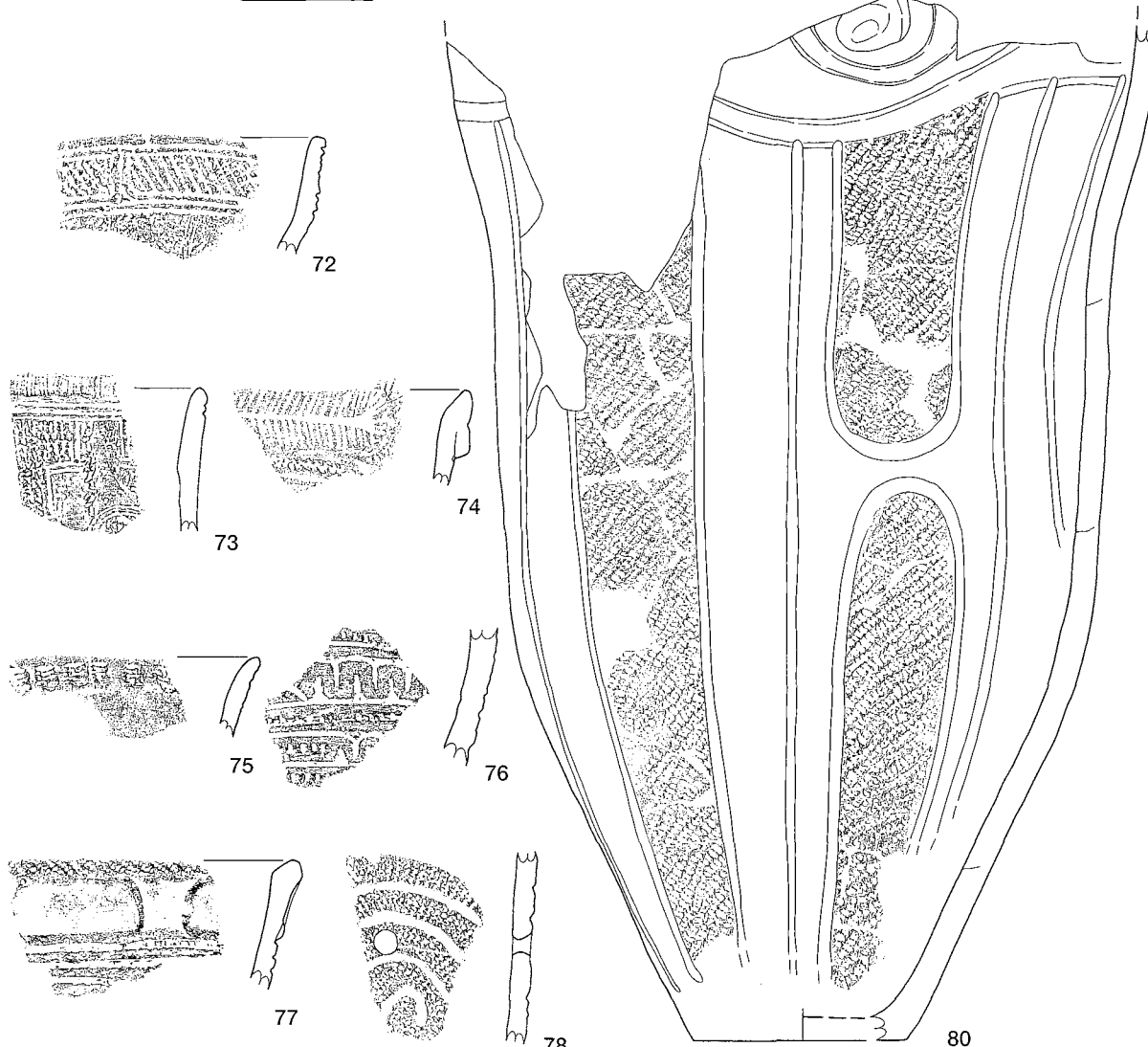
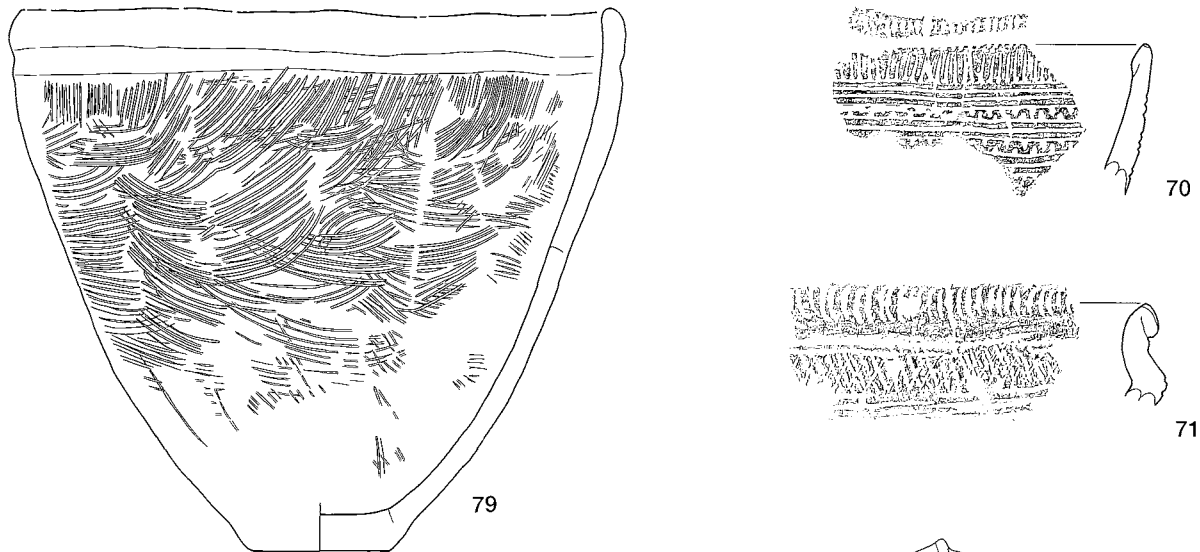
第520図 遺構外出土遺物②



第521图 遺構外出土遺物③



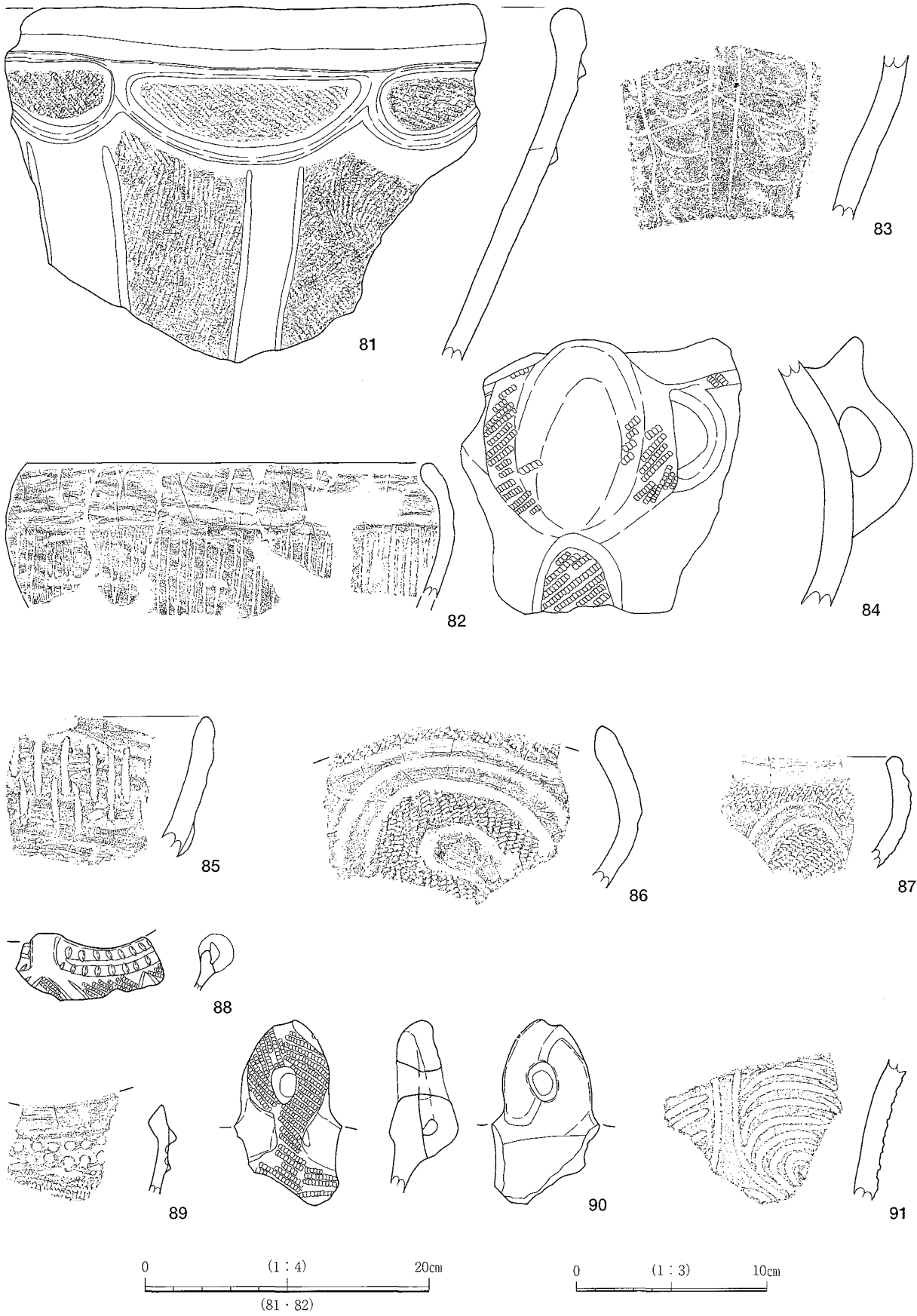
第522図 遺構外出土遺物④



0 (1 : 4) 20cm
(79 · 80)

0 (1 : 3) 10cm

第523図 遺構外出土遺物⑤



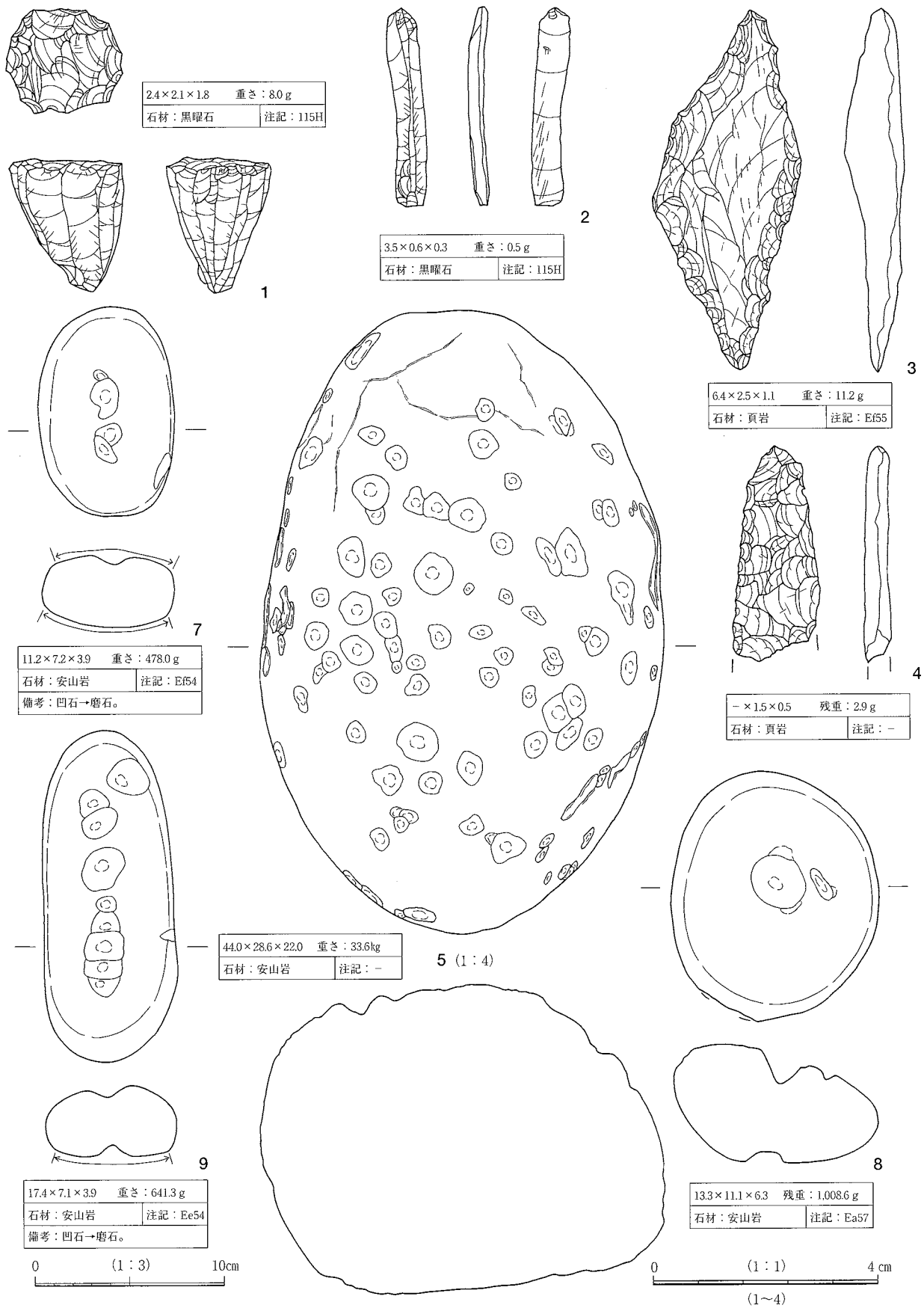
第524図 遺構外出土遺物⑥



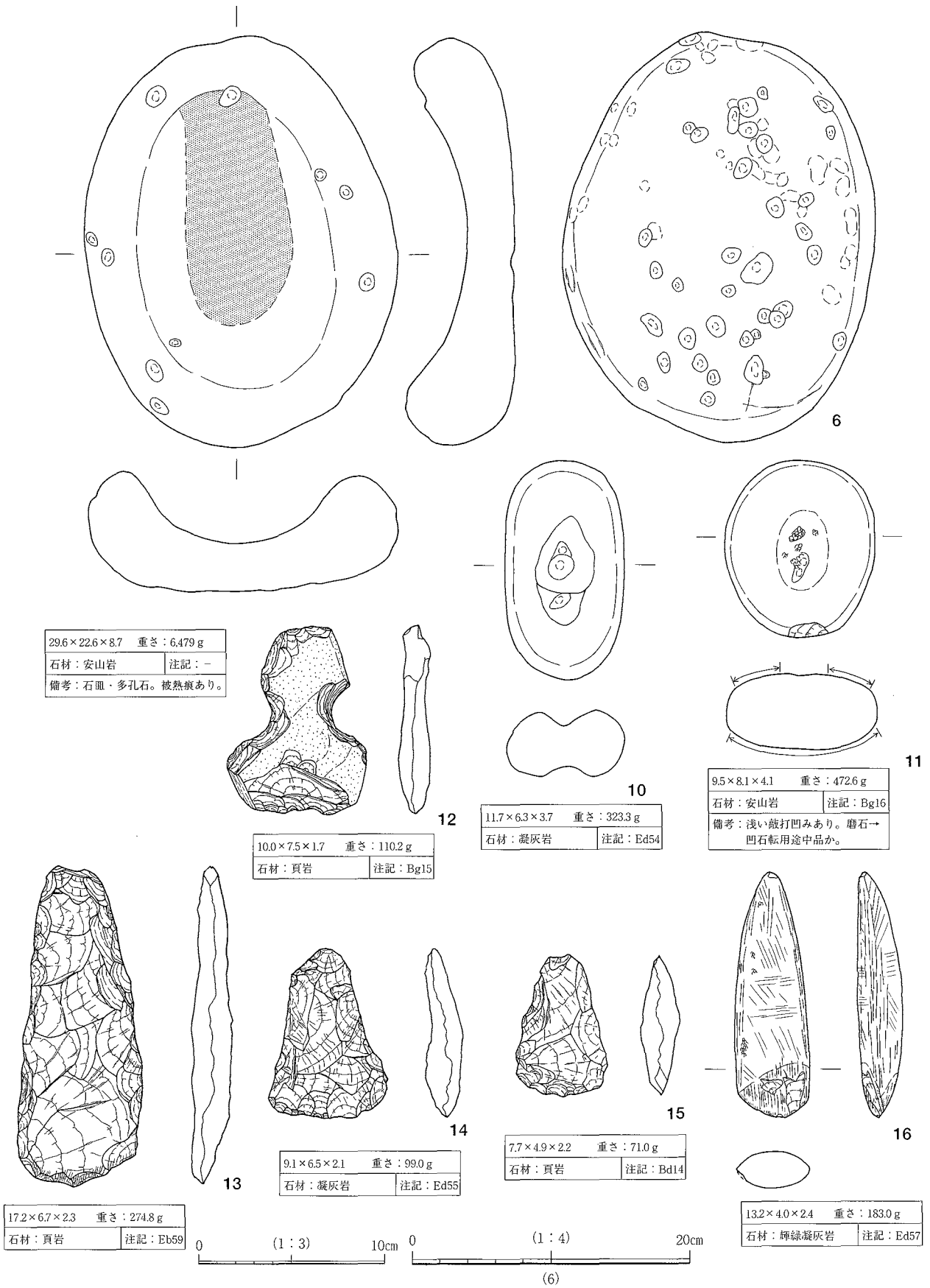
0 (1 : 2) 10cm
(103 · 107)

0 (1 : 3) 10cm

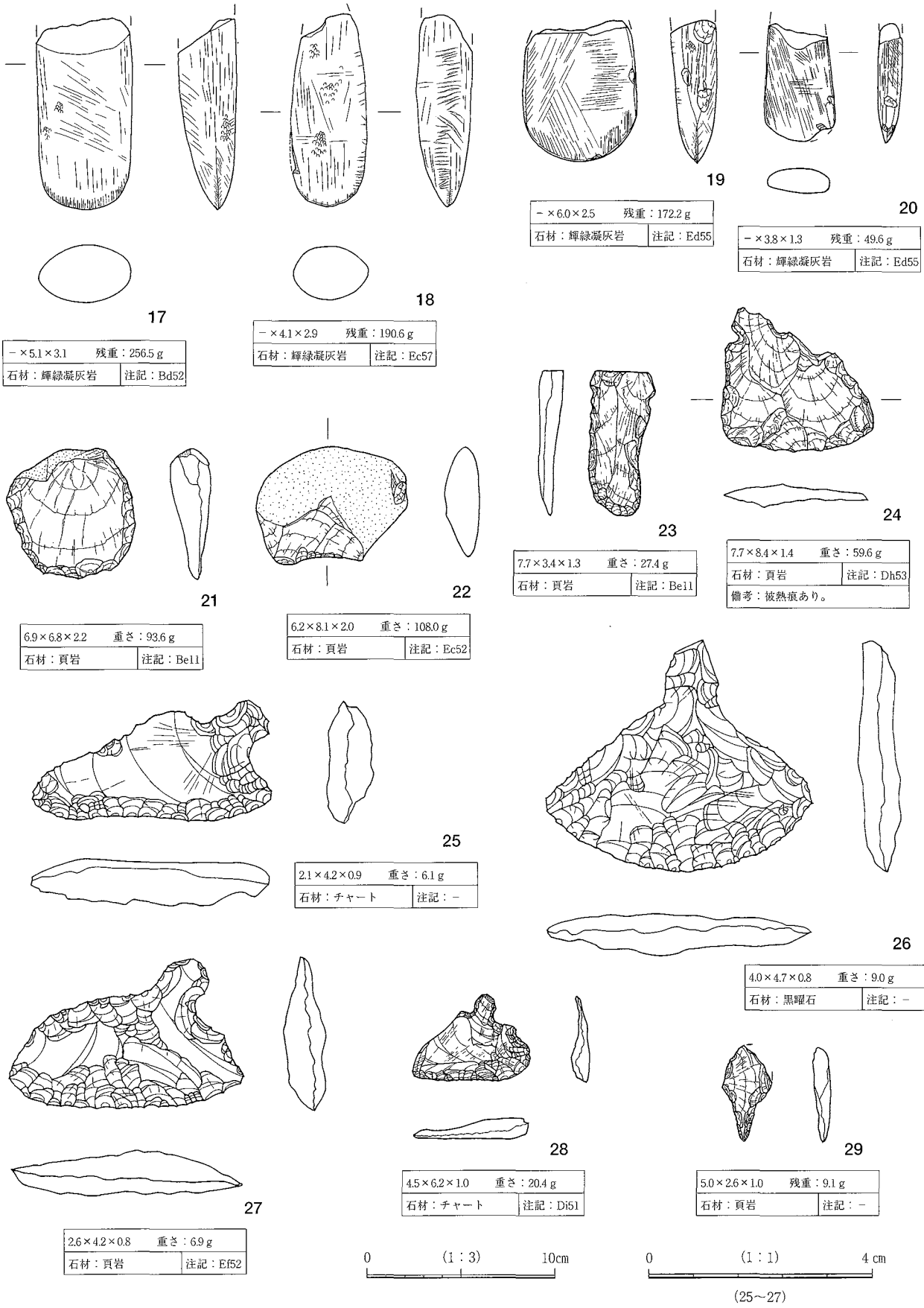
第525図 遺構外出土遺物⑦



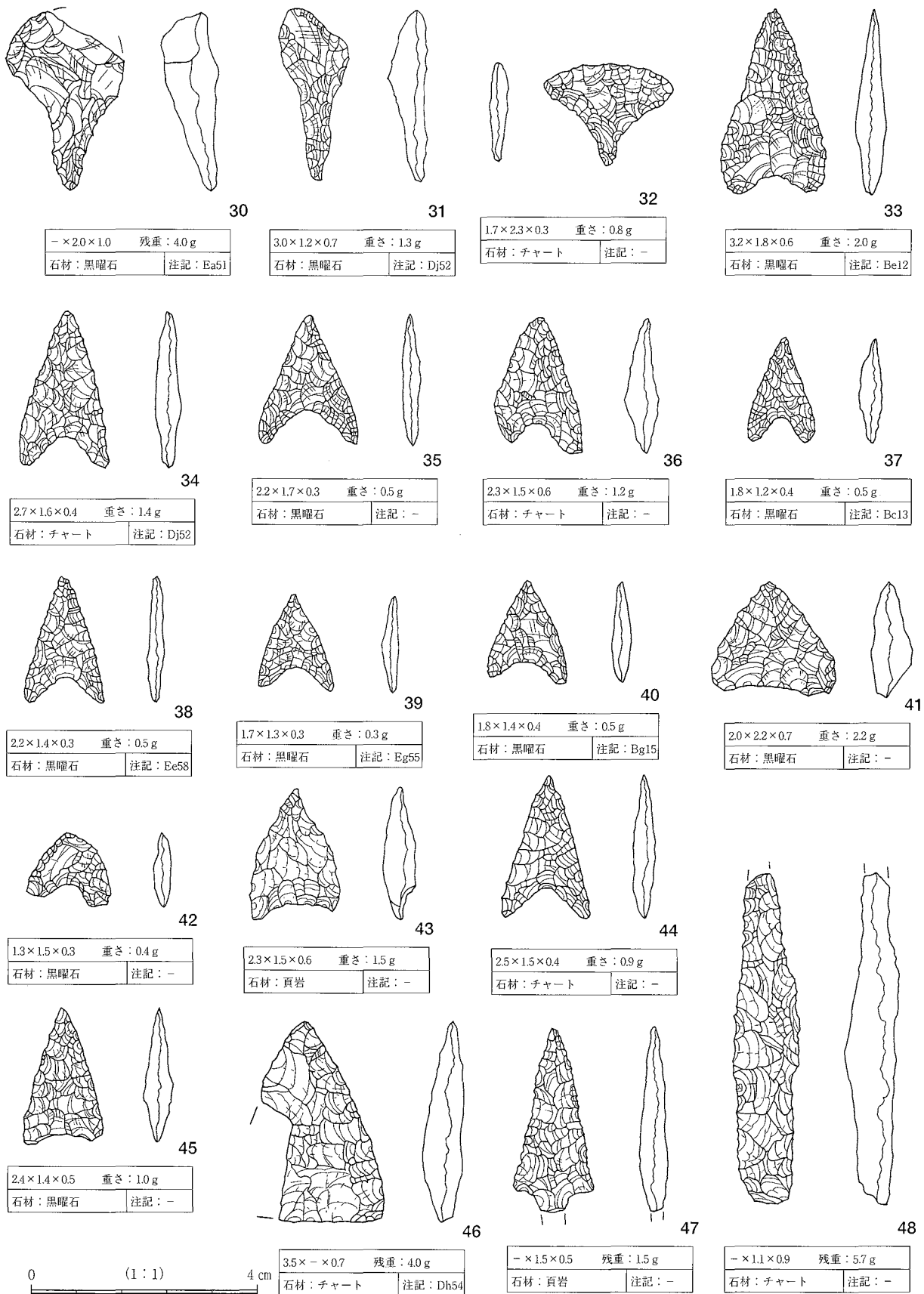
第526図 遺構外出土遺物⑧



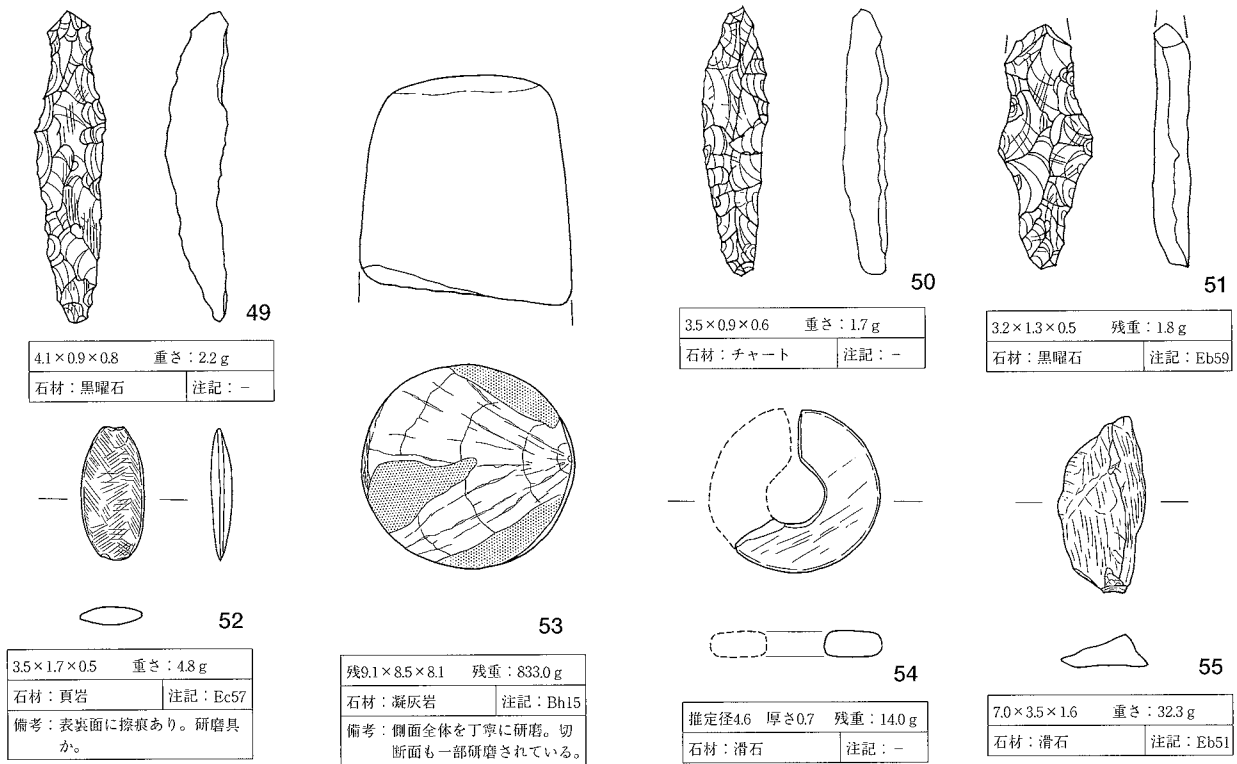
第527図 遺構外出土遺物⑨



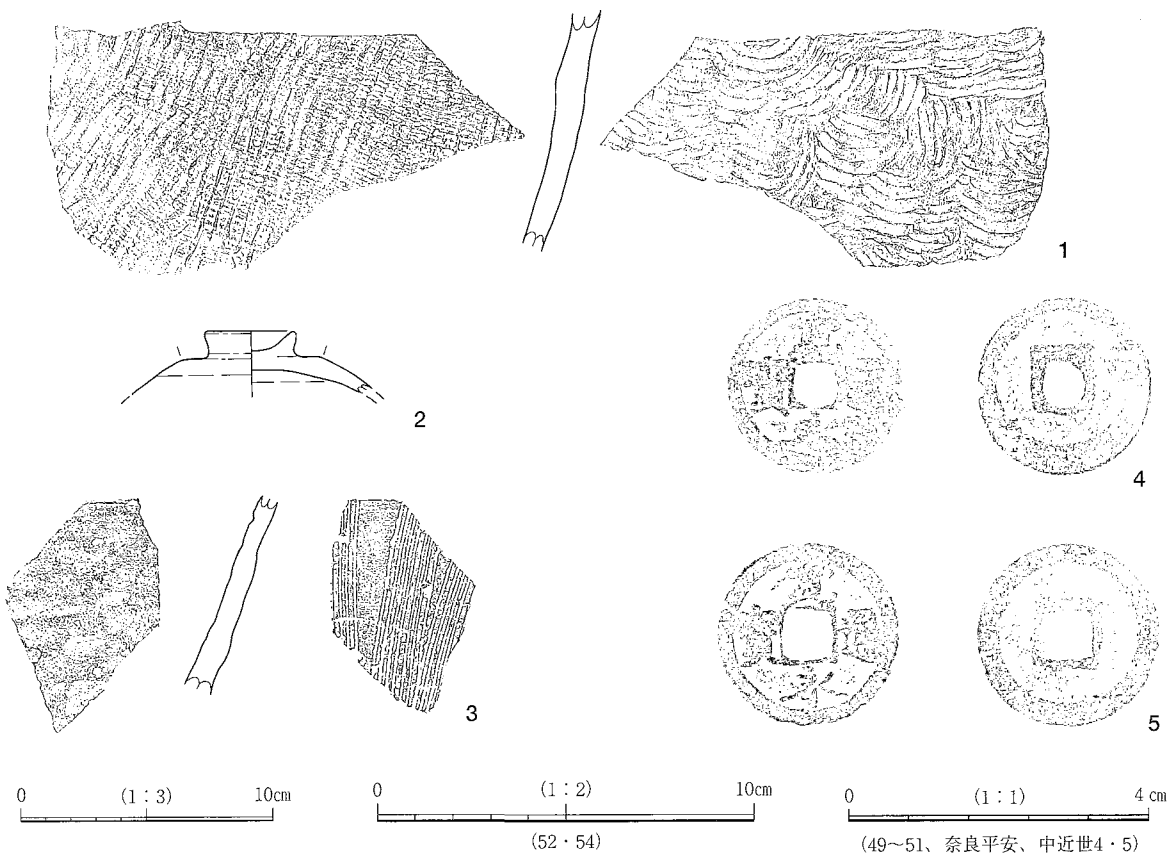
第528図 遺構外出土遺物⑩



第529図 遺構外出土遺物①



第530図 遺構外出土遺物⑫



第531図 遺構外出土遺物⑬奈良・平安時代、中・近世

東地区 土器観察表 1

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
1号住居跡 第198図 P L 48	1	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文③に黄褐色7.5YR5/4④繊維・長石・石英・角閃石	2
	2	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文、口縁部に短沈線③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・結晶片岩	22他
	3	②口唇部に小突起。平行沈線・爪形文、口縁部歯状工具連続刺突文③に黄褐色7.5YR6/6④繊維・粗砂粒・石英・長石・赤褐色粒	19
	4	②括れ部上は平行沈線、下は0段多条羽状縄文③に黄褐色10YR7/4④繊維・石英・白色粒	21他
	5	②0段多条羽状縄文③に黄褐色10YR5/6④繊維・石英・長石・白色粒・赤褐色粒	16
	6	②単節R L・0段多条羽状縄文③に黄褐色7.5YR5/4④繊維・石英・長石・白色粒・赤褐色粒	-
2号住居跡 第199図 P L 48	1	②R L縄文+平行沈線③に黄褐色7.5YR5/4④繊維・石英・長石・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	2	②口唇部に小突起。R L縄文③に黄褐色10YR6/4④繊維・石英・長石・角閃石⑤煤付着。	-
	3	②組紐文+コンパス文③に黄褐色10YR7/4④繊維・石英・白色粒	-
	4	②括れ部上は平行沈線、下は0段多条羽状縄文③に黄褐色10YR7/4④繊維・石英・角閃石	-
	5	②条線③に黄褐色10YR7/3④繊維・結晶片岩・石英・角閃石・白色粒	-
3号住居跡 第201図 P L 48	1	①口径(11.9cm) ②R L縄文+円形竹管文を縦位に施す③黒褐色7.5YR3/1④石英・角閃石・白色粒⑤補修孔あり。	278
	2	②波状口縁部片。単節縄文③に黄褐色7.5YR5/3④石英・長石・角閃石・白色粒	156
	3	②波状口縁部片。単節縄文・口唇部に刻み目③に黄褐色5YR6/6④結晶片岩・石英・白色粒⑤煤付着。	276
	4	②R L縄文③に黄褐色7.5YR5/4④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
	5	②波状口縁部片。R L縄文+円形竹管文を縦位に施す、口唇部に刻み目③に黄褐色7.5YR6/6④粗砂粒・石英・赤褐色粒	189他
4号住居跡 第203~206図 P L 50~52	1	①口径60.2cm・括れ部径33.5cm②口縁部は「く」の字状に屈曲する。口縁部平面形は隅丸方形(51.2cm×49.6cm)で、各角部分が波頂部となり、環状(孔径6mm前後)の把手が付く。各波頂部間も緩い波状を呈す。不鮮明であるが地文にR L縄文を施した後、浮線文(波頂部下は同心円状・他は横位)を施し斜位の刻み目を入れる。③に黄褐色10YR7/3④結晶片岩・石英・角閃石・赤褐色粒・白色粒⑤2と同一個体と思われる。	7・425・586
	2	①括れ部径(33.0cm)・胴部最大径(35.9cm)②胴部中位膨らむ。単節縄文を地文とし、浮線文を横位に施し斜位の刻み目を入れる。③に黄褐色7.5YR7/4④石英・角閃石・白色粒・赤褐色粒⑤1と同一個体と思われる。補修孔あり。内面下側に焦げ。	437・529他
	3	①口径30.4cm②キャリパー形の器形で口縁部は大きく内湾。緩い4単位の波状口縁。R L縄文+浮線文に斜位の刻み目(浮線文は胴部・口縁部は横位平行に、屈曲部付近は斜位・縦位に施す)。波頂部下に円形貼付文③に黄褐色7.5YR7/4④粗砂粒・長石・石英・角閃石	405
	4	①口径(39.3cm)②キャリパー形の器形で、口縁部は「く」の字状に屈曲する。緩い波状口縁。器面全体にR L縄文施した後、ナデ。③灰黄褐色10YR5/2④長石・石英・角閃石	439・473他
	5	②口縁部に向かって開く。R L縄文+浮線文に斜位の刻み目・紐状貼付文③に黄褐色7.5YR5/3④砂礫・長石・石英・白色粒⑤上半部に煤付着。	715・740他
	6	①底径10.2cm②下端に稜を持ち、外反気味に立ち上がる。R L縄文+紐状貼付文③に黄褐色7.5YR6/4④砂礫・長石・石英・白色粒⑤内面が焦げる。	437・487
	7	①底径11.4cm②径7cm程度の円板状粘土を元に巻き上げ成形する。不鮮明であるが縄文を地文とし、浮線文に斜位の刻み目を施す。③に黄褐色7.5YR7/4④長石・石英・角閃石	131・552他
	8	①口径(34.3cm)②キャリパー形の器形で、口縁部は内湾する。緩い4単位の波状口縁と想定される。浮線文を密に配し、斜位の刻み目を施す。地文は縄文のようであるが不鮮明。③黄褐色7.5YR4/3④粗砂粒・石英・長石⑤図上復元。	739・817他
	9	①口径(60.0cm)②口縁部膨らみ、「く」の字状に大きく屈曲する。4単位の波状口縁と想定される。波頂部に環状の把手が付けられる。縄文を地文とするが不鮮明。浮線文に斜位の刻み目を施す。③黄褐色10YR8/3④粗砂粒・長石・石英・角閃石⑤図上復元。	383
	10	②獣面把手。波頂部片。縄文+浮線文に刻み目③に黄褐色7.5YR6/4④石英・長石・角閃石	378
	11	②獣面把手。浮線文に刻み目③に黄褐色10YR7/3④石英・長石・角閃石	-
	12	②波状口縁部。R L縄文+浮線文に刻み目③灰黄褐色10YR4/2④石英・長石・角閃石・白色粒	539
	13	①口径(24.6cm)②口縁部膨らみ、「く」の字状に大きく屈曲する。4単位の波状口縁と想定される。R L縄文+浮線文に刻み目③灰褐色7.5YR4/2④粗砂粒・石英・白色粒	444・515他
	14	①口径(20.0cm)②有段の浅鉢と想定される。口縁部下に径7mm前後の孔を連続させ、その下には刺突文が巡る。半截竹管状工具による平行沈線で幾何学文様を描き、沈線間にヘラ先状工具による刺突を充填する。③に黄褐色7.5YR7/4④石英・長石・白色粒⑤赤彩の痕跡あり。	547
	15	①底径17.9cm②浅鉢の底部。弱い段を持ち内湾して立ち上がる。無文。③に黄褐色7.5YR6/3④結晶片岩・粗砂粒⑤外面に赤彩あり。	544
	16	①口径25.5cm②口縁部に向かって大きく開く。R L・L R結束の粗雑な羽状縄文③灰黄褐色10YR6/2④粗砂粒・石英・長石・角閃石⑤上半部に煤付着。	538
	17	①口径(35.8cm)②口縁部大きく開き、推定4か所内側にくはませる。横位の集合沈線。③灰褐色7.5YR4/2④粗砂粒・石英・長石・白色粒	2

東地区 土器観察表 2

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
4号住居跡	18	①口径(26.8cm)②口縁部内湾する。集合沈線施文後、口縁部に耳状・ボタン状・円形貼付文③暗灰黄2.5YR4/2④石英・長石・角閃石・白色粒⑤口縁部下に焼成前の穿孔あり。煤付着。	83
	19	①口径(36.6cm)②口縁部内湾。集合沈線+耳状・棒状・ボタン状貼付文③淡黄2.5Y8/3④石英・長石・角閃石・白色粒	185他
	20	②集合沈線文+円形貼付文③灰黄褐10YR6/2④石英・長石・角閃石⑤口縁部に挟りあり。	521
	21	②斜位・弧状沈線+ボタン状貼付文、口縁部に刻み目③褐10YR4/6④石英・長石・白色粒	343
	22	①底径7.0cm②横位・横位矢羽状の集合沈線③にぶい黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英・長石	535
	23	②鋸歯状・横位の平行沈線+三角形印刻文③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・白色粒	-
	24	①口径31.0cm②大きな4単位の波状口縁。波頂部は環状。口縁上端を内側に折り曲げる。口縁部に結節沈線のある蕨手状・棒状貼付文を2個づつ対称配置。胴部に結節沈線を双同心円状・横位・鋸歯状等に施す。③にぶい黄橙10YR6/4④長石・石英・角閃石・白色粒⑤内外面上半、部分的に煤付着。	1
	25	②結節沈線+三角形印刻文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
	26	②口縁部に印刻文、その下に平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④粗砂粒・石英・長石	-
	27	①器高(10.0cm)・口径(12.2cm)・底径(11.5cm)②器形は短筒状で、底部は切高台状と推定される。口縁部下の細い横線に沿って径2mm前後の孔が数か所穿たれている。文様は細い沈線・太い沈線・三角形印刻文で構成され、桶巻状・渦巻き状に描かれる。③にぶい橙7.5YR7/3④石英・長石・角閃石・白色粒⑤内面は丁寧に磨かれている。	422
28	②口縁部に粘土を貼り付け、両目を刺突表現し、口をへら先状工具により切り込む。蛇をモチーフしたものか。さらにモチーフ胴部を巻くように粘土紐を貼り付けている。器面にはRL縄文。③にぶい褐7.5YR5/4④石英・長石・角閃石	-	
5号住居跡 第209図 P L 53	1	①口径(17.4cm)②頸部で括れ、口縁部内湾する。集合沈線+耳状・ボタン状・棒状貼付文③にぶい黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英・角閃石・赤褐色粒⑤内面口縁部に焦げ。	17・40
	2	①口径(19.0cm)②口縁部内湾。集合沈線+耳状・ボタン状・棒状貼付文③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	3	②集合沈線+耳状・ボタン状等の貼付文③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石・白色粒	11
6号住居跡	1	第210図、P L 53 ②口縁部内湾する。口唇部両端を刻む。集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③橙5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・白色粒・赤褐色粒	17
7号住居跡 第211図 P L 54	1	②口縁部内湾する。集合沈線+口縁部に印刻+耳状・ボタン状貼付文③にぶい橙7.5YR6/4④粗砂粒・石英・角閃石・白色粒	3
	2	②集合沈線+円形・楕円形貼付文③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・角閃石・白色粒	32
8号住居跡 第212図 P L 54	1	②口縁部内湾する。集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③灰黄褐10YR6/2④石英・長石・角閃石・白色粒	11
	2	②集合沈線文③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・角閃石・白色粒・赤褐色粒	17
	3	②半截竹管挟り立てによる凹凸文③にぶい褐7.5YR5/3④黄褐色粒・長石・角閃石	2
	4	②半截竹管挟り立てによる凹凸文③にぶい褐7.5YR5/3④黄褐色粒・長石・石英・角閃石	5
9号住居跡 第213図 P L 49	1	①口径(22.0cm)②条痕+半截竹管挟り立てによる凹凸文・口唇部に貼付文③明黄褐10YR7/6④黄褐色粒・石英・角閃石・赤褐色粒⑤内面に条痕。2と同一個体と思われる。	62
	2	①底径(10.2cm)②条痕+半截竹管挟り立てによる凹凸文③明黄褐10YR7/6④黄褐色粒・石英・角閃石・赤褐色粒⑤内面底部付近に焦げ。1と同一個体と思われる。	61
	3	①底径13.1cm②横位基調の粗雑な沈線+円形貼付文③橙5YR7/6④長石・石英・角閃石	37他
	4	②斜位の粗雑な沈線+ボタン状貼付文③明赤褐2.5YR5/5④結晶片岩・粗砂粒・長石・石英	-
	5	②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③褐10YR4/3④長石・石英・角閃石・白色粒	-
	6	②矢羽状沈線③灰黄褐10YR5/2④長石・石英・角閃石・白色粒	63
	7	①底径(16.2cm)②鋸歯状に平行沈線③褐10YR4/1④長石・石英・角閃石・白色粒	-
10号住居跡 第214図 P L 54	1	①口径(44.2cm)②頸部括れ、口縁部内湾する。口縁部に指頭粘土逆立ての凹凸文。集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・粗砂粒・長石・石英・角閃石	50
	2	①口径(36.0cm)②有段の浅鉢と思われる。口縁部下に径8mm前後の孔、その下に径4mm前後の孔が2列巡る。屈曲部から下側に縦位の沈線が4本単位で施される。③にぶい橙7.5YR6/4④石英・長石・角閃石・白色粒⑤赤彩の痕跡あり。	25・112他
	3	①口径(36.6cm)②浅鉢の口縁部片。無文。口縁部は外反しつつ内傾する。口縁部から反りを持って鐙状に突出する部分に至り、幅6.9cm前後の受皿状部分をつくる。胴部は受皿状部分の中程から鋭く屈曲する。受皿状部分上側に焼成前の、下側に焼成後の孔を穿つ。③にぶい橙7.5YR6/4④石英・長石・角閃石・白色粒	51
	4	①器高3.1cm・口径3.5cm②丸底の手捏土器③黒褐7.5YR3/1④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	75
11号住居跡	1	第214図、P L 49 ②0段多条RL③にぶい褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
12号住居跡	1	第214図、P L 54 ②RL縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・粗砂粒・石英・長石	12
13号住居跡 第215図 P L 55	1	①口径(19.2cm)②結束のある羽状縄文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・長石・角閃石	13他
	2	②波状口縁。LR縄文+長楕円形状の平行沈線、口縁部に平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/3④繊維・石英・長石・角閃石	36

東地区 土器観察表 3

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
13号住居跡	3	②櫛歯状工具による横線・波状線③にぶい橙5YR5/4④石英・長石・角閃石	-
	4	②櫛歯状工具による肋骨状弧線+円形竹管文③灰褐7.5YR4/2④石英・長石・角閃石・白色粒	21
14号住居跡 第216図 P L 55	1	②複節縄文+平行沈線・爪形文③灰黄褐10YR4/2 ④繊維・石英・長石・角閃石	-
	2	②口唇部に三角形小突起。0段多条縄文後、口縁部に平行沈線・爪形文、縄文に沿うように半截竹管状工具による平行沈線を浅く施す。③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・角閃石⑤内外面に煤付着。	-
15号住居跡 第217図 P L 55	1	②波状口縁。口縁部内面に稜を持つ。横位・縦位の沈線③にぶい橙5YR6/4④金雲母・石英	1
	2	②縦位沈線列の脇に連続刺突文③にぶい橙7.5YR6/4④金雲母・石英・角閃石⑤外面煤付着。	8他
	3	②刺突文・縦位沈線列③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・石英・角閃石	-
	4	②縦位沈線・横位短沈線・渦巻状沈線・連続刺突文③灰黄褐10YR4/2④金雲母・石英・白色粒⑤内面は、にぶい赤褐5YR4/4	-
16号住居跡 第218図 P L 55	1	②縄文+半截竹管状工具平行沈線、破片上端に瘤状の突起あり③にぶい橙7.5YR6/4④石英・長石・角閃石・白色粒	1
	2	②口縁部内面に稜。半截竹管状工具平行沈線③橙7.5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	-
	3	②平行沈線+斜行平行沈線に交差する沈線③にぶい橙7.5YR6/4④石英・角閃石・白色粒	-
	4	②平行沈線、口縁部下は斜行平行沈線を交差させる③橙7.5YR7/6④金雲母・石英・角閃石	-
17号住居跡 第219図 P L 55	1	①口径24.3cm②器形はキャリバー形で、3単位の緩い波状口縁。口縁部文様帯は、隆起線・沈線による渦巻文・長楕円形の区画。胴部はLR縄文後、磨消懸垂文。③明黄褐10YR7/6④黄白色粒・石英・長石・角閃石⑤石組炉の中央に埋設されていた。	1
18号住居跡 第220図 P L 56	1	②0段多条LR縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・石英・角閃石・白色粒	1
	2	②半截竹管平行沈線(肋骨文)③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・雲母・石英	3
19号住居跡	1	第221図、P L 56 ②条線+隆線③にぶい黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石・白色針状粒	2
20号住居跡 第222~224図 P L 56・57	1	②RL縄文+半截竹管平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・石英・長石・角閃石	-
	2	②羽状縄文+半截竹管平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・石英・白色粒	-
	3	②半截竹管平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・角閃石・白色粒	-
	4	②粗雑な横位沈線③浅黄橙10YR8/4④繊維・粗砂粒・石英・長石	-
	5	②無節R縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
	6	②口唇部に三角形小突起。爪形文列③灰黄褐10YR4/2④繊維・結晶片岩・石英	161
	7	②半截竹管状工具平行沈線・コンパス文③橙5YR6/6④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
	8	①口径(31.0cm)②RL縄文+横位平行沈線+縦位に円形竹管文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英・角閃石・赤褐色粒	191他
	9	②RL縄文+平行沈線・爪形文+縄文磨消し③にぶい橙5YR6/4④石英・長石・黄白色粒	1
	10	②RL縄文+平行沈線・爪形文③橙5YR6/6④結晶片岩・石英・長石	60
	11	②RL縄文+平行沈線・爪形文+区画内の縄文磨消し③橙5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	61他
	12	②弧状沈線による肋骨文+円形竹管文③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	197
	13	②波状口縁部片。半截竹管状工具による木葉状文+円形竹管文、口縁部に結節沈線③灰黄褐10YR6/2④石英・長石・白色粒⑤内面を丁寧に磨く。	2
	14	②弧状沈線による肋骨文+円形竹管文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	207
	15	①口径(25.8cm)②浅鉢。結節あるRL縄文③にぶい橙5YR6/4④長石・石英・黄白色粒	221
	16	②横位平行沈線・波状沈線③橙7.5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・黄白色粒・赤褐色粒	130
	17	②横位の粗雑な平行沈線③灰白10YR8/2④石英・長石・角閃石・黄白色粒	10
	18	②横位平行沈線・波状沈線③明赤褐2.5YR5/6④石英・長石・黄白色粒	-
	19	②横位平行沈線③橙5YR6/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	20	②横位平行沈線・波状沈線③淡黄2.5Y8/4④石英・長石・白色粒・赤褐色粒	-
	21	②横位平行沈線③黒褐10YR3/1④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	22	②横位平行沈線+波状沈線③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	23	②櫛歯状工具による横位・波状線+棒先状工具による円形刺突文③にぶい黄橙10YR7/3④石英・長石・白色粒・黒色粒	217
	24	②櫛歯状工具による刺突のある横位線・鋸歯状線③浅黄橙10YR8/4④石英・角閃石・白色粒	-
	25	②波状口縁部片。RL縄文+平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	-

東地区 土器観察表 4

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
20号住居跡	26	②縄文+平行沈線・爪形文、波状線③浅黄橙10YR8/3④石英・長石・角閃石・白色粒	18
	27	②R L 縄文+平行沈線・爪形文、円形竹管文③浅黄橙10YR8/3④石英・角閃石・白色粒	-
	28	②R L 細縄文+平行沈線・爪形文の本葉状文+縄文磨消し+円形竹管文③暗褐10YR3/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒	136
	29	②口縁部肥厚する。縄文+平行沈線・爪形文、円形竹管文③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	103
	30	②L R 縄文+平行沈線・爪形文による本葉状等の幾何学文様+縄文磨消し+円形竹管文③に黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	47・49
	31	②R L 細縄文+平行沈線・爪形文③橙7.5YR7/6④長石・黄白色粒	-
	32	②口唇部に刻み。平行沈線+爪形文+円形竹管文③に黄褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
	33	②細縄文+平行沈線・爪形文③に赤褐5YR5/4④石英・長石・黒色粒・白色粒	-
	34	②縄文+平行沈線・爪形文、口唇部にも爪形文。③に黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒⑤口縁部下に焼成前の穿孔あり。波状口縁の可能性高い。	-
	35	②R L 縄文+円形竹管文③に黄褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英・長石	9
	36	②口縁部下に刻み目のある隆帯。平行沈線・爪形文③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石	-
	37	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文+円形竹管文③浅黄橙10YR8/3④石英・角閃石・白色粒	-
	38	②波状口縁部片。口縁部に沿って粗雑な沈線③に黄橙7.5YR7/4④石英・角閃石・白色粒	-
	39	②R L 縄文+口縁部に沿って刺突文③に黄橙7.5YR7/4④結晶片岩・石英・長石	-
	40	②波状口縁部片。頸部に粗雑な沈線。口縁部は無文で丁寧に磨かれる。③に赤褐5YR5/4④結晶片岩・粗砂粒・石英⑤内面も丁寧に磨かれる。	186・190
	41	②口唇部に刻み。半截状竹管平行・弧状沈線+棒先状工具による刺突文③浅黄橙7.5YR8/3④細砂粒・石英・白色粒⑤内面丁寧に磨き。	-
	42	②平行沈線+棒先状工具刺突文③に黄橙7.5YR7/4④石英・長石・黒色粒・黄白色粒	29
	43	②R L 細縄文+櫛歯状工具沈線+円形竹管文③橙5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	-
	44	②縄文+平行沈線肋骨文・長楕円形区画+縄文磨消し③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英	-
	45	②櫛歯状工具による弧状線+円形竹管文③に黄褐7.5YR5/3④石英・長石・赤褐色粒	227
	46	②折返し口縁。L R 縄文③に赤褐5YR5/3④結晶片岩・石英⑤中期初頭土器の紛れ込み。	-
	47	②口縁部に刻み。L R 縄文③明赤褐2.5YR5/6④石英・長石・白色粒・黒色粒	160
	48	①口径(11.2cm)②半截竹管平行沈線(肋骨文)③浅黄橙10YR8/4④石英・角閃石・白色粒	-
	49	②R L 縄文+平行沈線③に黄橙7.5YR6/4④石英・長石・黄白色粒	-
	50	①底径7.2cm②R L 細縄文③に黄橙10YR6/4④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	51	②沈線+全体に円形竹管文③浅黄橙10YR8/4④長石・角閃石・黄白色粒	-
52	①口径(14.3cm)②口唇部に短沈線の刻み。平行沈線・爪形文③浅黄橙2.5Y7/3④石英・角閃石・白色粒⑤北白川下層式。	-	
53	①器高2.1cm・口径(4.6cm)・底径2.8cm②ミニチュア土器。無文③に黄橙10YR7/4④石英・長石・白色粒	-	
54	②幅2cm弱の爪形文+爪形文の縁に沿ってヘラ先状工具による短沈線③浅黄橙10YR8/3④石英・長石・黄白色粒⑤北白川下層式。内外面に赤色塗彩。	248	
55	②幅2cm弱の爪形文③に黄橙10YR6/3④石英・長石・白色粒⑤北白川下層式。	-	
56	②口唇部に刻み。ヘラ先状工具連続刺突文③灰黄褐10YR4/2④石英・長石⑤北白川下層式。	-	
21号住居跡 第227・228図 P L 58	1	①器高12.9cm・口径21.6cm・底径12.2cm②浅鉢。口縁部は内側に突出。L R 縄文+口縁部及び胴部下端に半截竹管平行沈線・爪形文③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石・白色粒	58
	2	②櫛歯状工具による横位・波状・×字状沈線③に黄褐7.5YR5/3④結晶片岩・石英・白色粒	12
	3	②口唇部に双山状小突起。平行沈線本葉状文⑤褐7.5YR4/3④石英・長石・黄白色粒・黒色粒	-
	4	②R L 縄文+口縁部に平行沈線③に黄橙10YR6/4④石英・長石・黄白色粒・黒色粒	15
	5	②波状口縁部片。波頂部から逆Y字状に刻み目のある隆起線+縄文+半截竹管平行沈線・爪形文+円形竹管文+縄文磨消し③に黄橙7.5YR6/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒⑤隆起線の分岐点下に焼成前の穿孔あり。	43
	6	②半截竹管平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/3④角閃石・長石・石英・白色粒	2
	7	②R L 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③に黄褐7.5YR5/4④結晶片岩・長石・石英	47
	8	②櫛歯状による工具横位・鋸歯状沈線③黒褐10YR3/1④石英・長石・白色粒⑤外面煤付着。	42

東地区 土器観察表 5

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
21号住居跡	9	②櫛歯状による木葉縄文・弧状線③黒褐7.5YR3/2④石英・長石・黒色粒・白色粒	36
	10	②R L 縄文③明褐7.5YR5/6④石英・長石・角閃石	-
	11	②R L 縄文③褐7.5YR4/3④粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	-
	12	①口径 (14.4cm) ②胴部が張る浅鉢。平行沈線 + 爪形文③橙5YR6/6④石英・長石・黄白色粒	26
	13	②幅広の連続爪形文 + 爪形文の縁に沿ってヘラ先状工具による短沈線③に黄橙10YR6/3④石英・長石⑤北白川下層式。内外面に赤色塗彩。	-
	14	②櫛歯状工具による長楕円形区画 + 爪形文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	15	②櫛歯状工具による横位沈線③灰黄褐10YR6/2④石英・長石・白色粒・黒色粒	48
	16	②弧状沈線肋骨文 + 棒先状工具円形刺突文③に黄橙10YR7/4④細砂粒・白色粒・黒色粒	-
	17	②単節縄文 + 平行沈線・爪形文による区画 + 縄文磨消し + 円形竹管文③に黄橙10YR6/4④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	18	②櫛歯状工具弧状線 + 櫛歯状工具刺突文③に褐7.5YR5/4④石英・長石・黄白色粒	5
19	②R L 縄文 + 沈線③橙7.5YR6/6④粗砂粒・長石・石英・黄白色粒	-	
22号住居跡 第229・230図 P L 61	1	②羽状縄文③に黄褐10YR5/3④繊維・石英・長石・白色粒	27
	2	②半截竹管状工具平行沈線・爪形文③に褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	-
	3	②波状口縁部片。波頂部に小突起。平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/3④繊維・石英	-
	4	②0段多条縄文 + 平行沈線・爪形文③に黄橙10YR5/3④繊維・結晶片岩・石英・長石	-
	5	②半截竹管状工具平行沈線・爪形文③灰黄褐10YR6/2④繊維・石英・長石・白色粒	21
	6	②0段多条 R L 縄文③に褐7.5YR5/4④石英・長石・黄白色粒・赤褐色粒	42
	7	②R L 縄文③に黄橙10YR7/3④石英・長石・白色粒・黒色粒	-
	8	②平行沈線 + 円形竹管文③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・白色粒・黒色粒	14
	9	②縄文 + 平行沈線③に褐7.5YR5/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	10	①底径8.4cm②R L 縄文③褐7.5YR4/3④結晶片岩・石英・長石・角閃石・白色粒	96他
	11	①底径4.4cm②ミニチュア土器。L R 縄文③褐7.5YR4/3④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒	-
	12	①口径 (8.5cm) ②ミニチュア土器。粗雑な条線③暗褐10YR3/4④細砂粒・白色粒	-
23号住居跡 第231図 P L 61	1	①口径 (39.7cm) ②キャリバー形。口縁部に隆起線の長楕円形区画、区画内に R L 縄文。胴部に隆起線を貼り付けるが、口縁部との間は無文。③に黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒⑤図上復元。	8
	2	①口径 (45.0cm) ②キャリバー形。隆起線・沈線・縄文による口縁部文様帯。10cm程度の無文帯の下に、L R 縄文 + 隆起線。③に黄橙10YR7/3④黄白色粒・赤褐色粒・白色針状粒	4・11
	3	①底径11.6cm②垂下する隆起線。縄文あるが摩滅。③橙5YR6/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒⑤内底部が焦げる。	14
24号住居跡 第233・234図 P L 62	1	①口径 (45.8cm) ②縦方向に L R 縄文③灰褐7.5YR4/2④繊維・粗砂粒・石英・長石・白色粒	183他
	2	②L R 縄文③極暗褐7.5YR2/3④繊維・石英・角閃石・白色粒	89
	3	②波状口縁部片。平行沈線・コンパス文・爪形文③極暗褐7.5YR2/3④繊維・結晶片岩・石英・長石・白色粒	90
	4	②半截竹管状工具による浅い平行沈線③褐7.5YR4/3④繊維・長石・白色粒	4
	5	②R L 縄文 + 口縁部にコンパス文③に褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・白色粒	37
	6	②0段多条羽状縄文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・白色粒・赤褐色粒⑤内面下側に焦げ。	-
	7	②平行沈線 + 部分的に爪形文③に橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒・黄白色粒	-
	8	②直前段半撚縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・長石・白色粒・赤褐色粒	172
	9	②0段多条 L R 縄文 + 平行沈線③褐7.5YR4/3④繊維・黄白色粒・石英⑤外面に煤付着。	-
	10	②撚糸文③暗褐10YR3/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	55他
	11	②羽状縄文 + 平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/4④繊維・粗砂粒・石英・長石・白色粒	-
	12	②無節縄文③に褐7.5YR5/4④繊維・黄白色粒・赤褐色粒⑤補修孔あり。	-
	13	②R L 縄文③灰褐7.5YR4/2④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒⑤補修孔あり。	111
	14	②単節縄文を異方向から施文③褐7.5YR4/4④金雲母・石英・長石・白色粒⑤内面指頭圧痕。	11
	15	②R L 縄文③赤褐5YR4/6④結晶片岩・石英・長石・赤褐色粒	-

東地区 土器観察表 6

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
24号住居跡	16	②R L 縄文③に黄褐10YR5/4④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒	-
	17	②半截竹管連続爪形文③淡黄2.5YR8/4④細砂粒・角閃石・白色粒	-
	18	②R L 縄文+平行沈線・爪形文+縄文磨消し③に黄褐7.5YR5/3④石英・角閃石・白色粒	-
25号住居跡 第235図 P L 63	1	①口径29.9cm②口縁部文様は隆起線による楕円形区画内に縦位の幅広沈線。胴部は隆起線を垂下・蛇行させ、幅広の沈線で弧状線を連続させる。口縁部内面に稜を有す。③橙7.5YR6/8④粗砂粒・石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面一部に煤付着。	1・4・5
	2	①底径10.6cm②破片内無文③橙5YR6/6④石英・長石・白色粒・赤褐色粒	7
	3	①口径(21.8cm)②浅鉢か。縄文施文後、口縁部は沈線による楕円形区画、胴部は沈線で∩字状を連続させ、区画外の縄文を磨消す。③に黄褐10YR7/4④黄白色粒・赤褐色粒	8
26号住居跡 第237図 P L 63	1	②平行沈線を斜格子状に交差③褐10YR4/4④金雲母・石英・長石	-
	2	②無節縄文+半截竹管平行沈線で菱形等の文様③に黄褐7.5YR6/4④長石・角閃石・白色粒	51他
	3	②半截竹管状工具による平行沈線③に黄褐5YR7/4④石英・長石・角閃石・白色粒	12
	4	②粗雑な縦位平行沈線③に黄褐7.5YR6/4④長石・白色粒・赤褐色粒⑤内面下側に焦げ。	6
	5	②集合沈線+三角形印刻文③に黄褐7.5YR7/4④石英・角閃石・白色粒⑤波状口縁か。	-
27号住居跡 第239図 P L 64	1	②半截竹管平行沈線・爪形文③に黄褐10YR7/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	2	②木葉状に弧状沈線+円形竹管文③に黄褐10YR6/3④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	8
	3	①底径(15.1cm)②R L 縄文③淡黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	4	①口径(30.6cm)②浅鉢。縁孔が巡る。平行沈線による木葉状等の文様。縁孔を挟んでく状に短沈線。③橙5YR6/6④金雲母・石英・長石・白色粒・赤褐色粒	6
28号住居跡 第240・241図 P L 64・65	1	①口径(23.6cm)②R L 前々段半捲縄文+口縁部に刻み目+耳状・円形貼付文③褐7.5YR4/3④黄白色粒・石英・角閃石	87他
	2	②集合沈線+口縁部に刻み目+密に耳状貼付文③に黄褐7.5YR5/3④粗砂粒・石英・角閃石	76
	3	②口縁部は中空の管状。集合沈線+口唇部に煙突状の貼付文+耳状・ボタン状貼付文③に黄褐10YR6/4④石英・長石・白色粒・赤褐色粒・黒色粒	92
	4	②集合沈線③灰黄褐10YR4/2④黄白色粒・赤褐色粒・黒色粒⑤外面一部に煤付着。	77
	5	①底径11.5cm②無文③淡黄2.5Y8/3④石英・長石・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面上半煤付着。	59
	6	①口径(25.0cm)②浅鉢。無文。口縁部の縁に焼成前の孔(径9mm前後)が巡る。径4mm前後の小孔も規則的に配置される。③に黄褐10YR5/3④黄白色粒・赤褐色粒・黒色粒	23・24
	7	②沈線③に黄褐10YR6/4④長石・石英・角閃石⑤浅鉢片と思われる。焼成前に穿孔。	-
	8	①口径(36.5cm)②緩やかな波状口縁。R L 縄文。口縁部に半截竹管状工具挟り立てによる凹凸文を巡らせる。③黒褐7.5YR3/2④金雲母・石英・長石・黄白色粒⑤外面一部に煤付着。	21・29
	9	②半截竹管状工具刺突文③灰褐7.5YR4/2④石英・黒色粒・黄白色粒	-
29号住居跡 第243図 P L 65	1	②R L 縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒	-
	2	②L R 縄文③黒褐7.5YR3/1④石英・長石・黄白色粒	-
	3	②R L 縄文③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・角閃石・白色粒⑤外面一部に煤付着。	-
30号住居跡 第244~246図 P L 65・66	1	①口径(30.0cm)②口縁部ラッパ状に開く。集合沈線+口縁部付近を中心に棒状・耳状貼付文③に黄褐10YR5/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒⑤補修孔あり。	104
	2	②波状口縁。L R 縄文後、半截竹管平行沈線を横位及び渦巻き状に施す。③灰黄褐10YR4/2④黄白色粒・灰褐色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	60・66他
	3	②波状口縁。L R 縄文+平行沈線+波頂部下に貼付文③黒褐10YR3/1④黄白色粒・灰褐色粒・角閃石⑤2と同一個体か。	81
	4	①口径(19.4cm)②R L 縄文+集合沈線+貼付文③に黄褐10YR7/3④黄白色粒・石英	218他
	5	②集合沈線+口縁部に凹凸文+耳状・ボタン状貼付文③淡黄橙10YR8/3④粗砂粒・赤褐色粒	-
	6	②集合沈線+口縁部に半截竹管刺突+耳状貼付文③黒褐10YR3/2④粗砂粒・白色粒・赤褐色粒	154
	7	②櫛歯状工具横位沈線+半截竹管挟りの凹凸文③に黄褐10YR5/4④石英・長石・白色粒	-
	8	②口縁部に耳状・ボタン状・円形貼付文③に黄褐10YR7/4④黄白色粒・角閃石	98
	9	①底径6.6cm②集合沈線③明黄褐10YR7/6④粗砂粒・石英・赤褐色粒	78
	10	①底径9.3cm②集合沈線③橙7.5YR6/6④粗砂粒・石英・黒色粒・赤褐色粒⑤内面に焦げ。	71
	11	②半截竹管突き刺しによる凹凸文③に黄褐10YR7/3④石英・長石・角閃石・白色粒	-

東地区 土器観察表 7

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
30号住居跡	12	①口径(20.0cm)②浅鉢。無文。縁孔が巡る。③橙7.5YR7/6④石英・長石・黄白色粒・赤褐色粒⑤剥落するが赤彩あり。	-
	13	②密な貝殻腹縁文+横位沈線③にぶい褐7.5YR5/3④石英・長石・白色粒⑤興津式。	-
	14	②波状口縁。結節沈線文+円形貼付文③橙7.5YR6/6④金雲母・石英・長石・角閃石	-
	15	②連続爪形文・変形爪形文+平行沈線③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石⑤興津式。	-
31号住居跡 第249図 P L 63	1	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・石英・長石	21
	2	②平行沈線・コンパス文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石	12
	3	②直前段半撚③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・粗砂粒・結晶片岩⑤外面に煤付着。	16
	4	②無節縄文を羽状施文③褐7.5YR4/3④繊維・石英・長石・白色粒⑤内面下側に焦げ。	9
	5	②(前々段半撚)③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・石英・長石	18
	6	②無節縄文を羽状施文し、頸部に平行沈線・爪形文。③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・粗砂粒・結晶片岩⑤外面に煤付着。	14他
32号住居跡 第250・251図 P L 59	1	②平行沈線・爪形文③淡黄2.5Y8/3④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	2	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/3④結晶片岩・石英・長石・黒色粒⑤焼成前の穿孔あり。	-
	3	②平行沈線+棒先状工具による刺突文③淡黄橙10YR8/3④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	4	②羽状縄文+平行沈線③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩⑤焼成後の穿孔あり。	-
	5	②浅鉢片。沈線による区画、口縁部下に刻み目のある微隆起線文、縁孔が巡る。③にぶい褐7.5YR5/4④石英・長石・角閃石・赤褐色粒・黄白色粒	-
	6	②無節縄文+口縁部に櫛歯状工具沈線③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・石英	-
	7	②平行沈線・爪形文③淡黄2.5Y8/4④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	8	②半截竹管による縦位・斜位・長楕円形状の平行沈線③にぶい赤褐5YR5/3④結晶片岩・石英	-
	9	①底径(13.2cm)②R L 縄文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石・白色粒	76
	10	②縄文+平行沈線・爪形文による区画+縄文磨消し・円形竹管文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・赤褐色粒	-
	11	②コンパス文③橙7.5YR7/6④繊維・白色針状粒・石英・長石・角閃石	26
	12	①口径(32.6cm)②L R 縄文+平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・白色粒	4
	13	②粗雑な羽状縄文+平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・石英・長石・赤褐色粒	22
	14	②粗雑なO段多条縄文+平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・石英	84
	15	②口唇部に棒状工具を押しつけるようにして鋸歯状の刻み。弧状平行沈線後、円形竹管文を縦位に施文、口縁部には連続爪形文。③にぶい黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英	-
	16	②浅鉢片。連続爪形文③橙7.5YR7/6④粗砂粒・石英・白色粒	92
	17	②波状口縁。無節縄文+平行沈線③淡黄橙7.5YR8/6④繊維・石英・白色粒	150
	18	②羽状縄文+平行沈線及び平行沈線・爪形文③明赤褐2.5YR5/6④繊維・結晶片岩・石英	10
	19	①底径(12.6cm)②O段多条縄文を羽状施文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・白色粒⑤内面に焦げ。	79
	20	②幅広の連続爪形文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・白色粒⑤北白川下層式。	-
33号住居跡 第252図 P L 60	1	②L R 縄文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・黄白色粒	48
	2	②ヘラ状または櫛歯状工具による凹線③橙7.5YR6/6④繊維・石英・白色粒・赤褐色粒	98
	3	②平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・石英・長石・白色粒	9
	4	②原体太い羽状縄文③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・角閃石・黄白色粒	13
	5	①底径9.2cm②上げ底。羽状縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・黄白色粒	6・41
34号住居跡 第253図 P L 60	1	②L R 縄文③黒褐10YR2/3④繊維・石英・長石	41
	2	②無節L 縄文③灰黄褐10YR5/2④繊維・石英・黄白色粒	-
35号住居跡 第254図 P L 60	1	②獣面把手。縄文+平行沈線③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	-
	2	②獣面把手。縄文+平行沈線③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	9
	3	②獣面把手。R L 縄文③黒褐10YR3/2④石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	32
	4	②R L 縄文+結節浮線文③黒褐10YR3/2④石英・長石・角閃石・黄白色粒	20
	5	②R L 縄文+平行沈線③褐7.5YR4/3④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	3

東地区 土器観察表 8

遺構番号／頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
35号住居跡	6	②R L 縄文+結節浮線文③に黄橙10YR6/3④粗砂粒・黄白色粒・赤褐色粒	17
36号住居跡 第255・256図 P L 67	1	②縄文+平行沈線③黒10YR2/1④繊維・石英・角閃石・白色粒	10
	2	②口唇部に小突起。0段多糸羽状縄文、平行沈線・爪形文③に黄橙10YR4/2④繊維・石英	26
	3	②羽状縄文③黒褐10YR3/1④繊維・結晶片岩・石英・長石	-
	4	②縄文+平行沈線③黒25Y2/1④繊維・石英・長石・赤褐色粒・黄白色粒	-
	5	②擬口縁。組紐文+コンパス文・平行沈線+円形貼付文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・白色粒	-
	6	②口唇部に小突起。L R 縄文+平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・雲母	-
	7	②縄文、平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④チャート・石英・黄白色粒	-
	8	②波状口縁部片。爪形文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	9	②口縁部内面に微隆起線がめぐる。複節縄文、平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
	10	②波状口縁部片。半截竹管平行沈線③黒褐2.5Y3/2④繊維・粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	-
	11	②複節R L R 縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・長石	-
	12	②R L 縄文③黄灰2.5Y4/1④石英・長石・角閃石・白色粒	50
	13	②R L 縄文③赤褐5YR4/6④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒	-
	14	②破片内無文③褐7.5YR4/3④黄白色粒	-
	15	②櫛歯状工具沈線+円形竹管文③に黄橙10YR6/4④石英・長石・赤褐色粒⑤補修孔あり。	-
	16	②櫛歯状工具沈線③浅黄橙10YR8/4④角閃石・石英・長石	-
	17	②細縄文、隆起線に爪形文③褐7.5YR4/4④金雲母・石英・長石	-
	18	②平行沈線・爪形文の入組文+円形竹管文③浅黄橙10YR8/3④石英・長石・角閃石	-
37号住居跡 第258図 P L 60	1	②無節縄文③に赤褐5YR4/3④繊維・石英・長石・角閃石	5
	2	②0段多糸L R 縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	3	②半截竹管平行沈線③黒2.5Y2/1④繊維・石英・長石	25
	4	②平行沈線・爪形文+棒先状工具刺突文③に褐7.5YR5/3④繊維・石英・長石・赤褐色粒	-
	5	②口縁部弱く波打つ。平行沈線+D字爪形文③に黄橙7.5YR7/3④繊維・石英・黄白色粒	-
	6	②異条縄文(正反の合燃)③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒⑤閉山式。	-
38号住居跡 第259図 P L 68	1	②集合沈線+ボタン状・耳状貼付文(剥落)、口縁部凹凸文③橙7.5YR6/6④粗砂粒・石英	91
	2	②集合沈線+耳状・円形・ボタン状貼付文③橙7.5YR6/6④粗砂粒・石英⑤1と同一個体。	13他
	3	②L R 縄文+ボタン状貼付文、口縁部凹凸文③に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・白色粒	-
	4	②集合沈線+耳状+ボタン状貼付文③に黄橙10YR6/4④粗砂粒・石英⑤指紋あり。	67
	5	②集合沈線(縦位・矢羽状)③に黄橙10YR6/4④粗砂粒・石英・黄白色粒⑤煤付着。	103
	6	②集合沈線+ボタン状貼付文③に黄橙10YR7/3④石英・チャート・長石	10他
	7	②半截竹管突き刺しによる凹凸文③橙7.5YR6/6④石英・角閃石・灰白色粒	110
39号住居跡 第261図 P L 69	1	①口径25.1cm②口唇部に9個の鋸歯状(三角形)突起を4単位。R L 縄文・L R 縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒・白色粒・赤褐色粒	11炉
	2	②ループ付R L 縄文③褐10YR4/6④繊維・石英・長石・白色粒	1炉
	3	②波状口縁部片。粗雑な平行沈線③暗灰黄2.5Y4/2④繊維・黄白色粒・石英・長石	-
40号住居跡	1	第262図、P L 70 ②0段多糸羽状縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・結晶片岩	1
41号住居跡 第262図 P L 70	1	②緩い波状口縁。口縁部無文帯の下にループ付R L 縄文③に黄橙10YR6/3④繊維・石英・長石・黄白色粒	12
	2	②組紐文③に黄橙10YR6/4④繊維・微砂粒⑤外面に煤付着。	5
	3	②ループ付R L 縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	3
43号住居跡 第263図 P L 70・71	1	②波状口縁。R L 縄文+長楕円形状等に平行沈線③に黄橙10YR6/4④結晶片岩・石英	18
	2	②波状口縁。R L 縄文・結節の回転③灰黄褐10YR4/2④黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	15
	3	②R L 縄文+菱形等の平行沈線③に褐7.5YR5/3④結晶片岩・石英⑤外面に煤付着。	17

東地区 土器観察表 9

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
43号住居跡	4	②波状口縁。R L 細縄文、口唇部に刻み③に赤褐5YR5/4④結晶片岩・石英・長石	-
	5	①底径(5.7cm) ②R L 縄文③に赤褐5YR5/3④石英・長石・赤褐色粒⑤内面焦げる。	-
	6	①底径(9.0cm) ②R L 縄文・結節の回転(斜位) ③に赤褐5YR4/3④石英・黄白色粒	6
	7	②R L 縄文+平行沈線・爪形文③明赤褐5YR5/6④石英・角閃石・赤褐色粒	-
	8	②羽状縄文・口縁部沈線間に爪形文2列③褐7.5YR4/3④繊維・石英	4
	9	②平行沈線・爪形文③黒褐10YR3/2④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
	10	②平行沈線・爪形文③に橙7.5YR6/4④繊維・石英・黒色粒	-
44号住居跡 第265図 P L 71	1	②R L 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③灰黄褐10YR5/2④繊維・石英・赤褐色粒・白色粒	-
	2	②R L 縄文③に黄橙10YR6/3④繊維・石英・チャート・白色粒	-
	3	②羽状縄文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石・角閃石	3
	4	②直前段半撚縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・赤褐色粒・白色粒	-
45号住居跡 第266~268図 P L 71・72	1	①口径(31.6cm) ②無節L 縄文・結節③明褐7.5YR5/6④結晶片岩・石英・長石⑤外面に煤付着。	177他
	2	②波状口縁。R L 細縄文+円形竹管文・口縁部に沿って平行沈線。口唇部に爪形文。波頂部に焼成前の穿孔(径約2cm)あり。③に黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石	21・131
	3	②波状口縁。細縄文・口縁部に刻み③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石	122他
	4	②R L 縄文+櫛歯状工具波状線・横位線③に橙7.5YR6/4④粗砂粒・石英・黄白色粒	165
	5	②R L 縄文③橙5YR6/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
	6	②R L 縄文③に褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	41
	7	②緩い波状口縁。0段多条L R 縄文③に褐7.5YR5/3④粗砂粒・石英・長石	-
	8	②R L 縄文③黄褐2.5Y5/3④白色粒・赤褐色粒	83
	9	②条線③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石・白色粒	-
	10	②平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/3④石英・角閃石・白色粒⑤外面に煤付着。	-
	11	②R L 縄文+沈線(木葉状文) ③に褐7.5YR6/3④石英・角閃石・白色粒	-
	12	②櫛歯状工具波状線・横位線③明赤褐2.5YR5/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
	13	②R L 縄文・平行沈線・円形竹管文③に黄褐10YR5/3④石英・角閃石⑤外面に煤付着。	106
	14	①底径9.2cm ②R L 縄文、底部木葉痕③明褐7.5YR5/6④石英・黄白色粒⑤内底部焦げる。	152
	15	①口径(51.6cm) ②平行沈線・爪形文と短沈線を交互施文③灰黄褐10YR5/2④チャート・石英	133
	16	②平行沈線・爪形文と短沈線、口唇部に櫛結び状貼付文③黒褐10YR3/1④石英・角閃石	-
	17	②波状口縁。平行沈線・爪形文、口唇部に浅い刻み③灰黄褐10YR4/2④黄白色粒・角閃石	-
	18	②平行沈線・爪形文と短沈線を交互施文③暗褐7.5YR3/3④黄白色粒・角閃石	168
	19	②平行沈線・爪形文と短沈線を渦巻き状等に施文③暗褐7.5YR3/3④黄白色粒・角閃石	137
	20	②単節縄文+結節浮線文③に黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・白色粒	120他
46号住居跡 第270・271図 P L 73・74	1	①口径36.4cm ②緩い4単位の波状口縁。波頂部に耳状突起。無節縄文で菱形を構成する。③橙5YR6/8④繊維・粗砂粒・石英・長石・チャート⑤器面荒れている。	2・3
	2	①口径24.4cm ②無節縄文で菱形を構成③橙7.5YR6/6④繊維・石英・黄白色粒⑤外面上半に煤付着。内面下半が焦げる。	5・11
	3	①口径24.5cm ②0段多条縄文を羽状(菱形状)施文③橙5YR6/8④繊維・結晶片岩・石英	20
	4	①口径(27.6cm) ②羽状縄文(菱形構成) ③明赤褐5YR5/6④繊維・結晶片岩・石英・長石	-
	5	①口径(44.6cm) ②緩い4単位の波状口縁と想定される。無節縄文で菱形構成。③橙7.5YR6/8④繊維・石英・角閃石・黄白色粒⑤図上復元。	-
	6	①口径(22.8cm)・底径(11.0cm) ②欠損するが2単位の小さな波状口縁と想定される。波頂部間には棒状の貼付文がやはり2単位施されているものと想定され、貼付文の上側は口唇部に1cmほど突出する。胴部にはL R 縄文が粗雑に施文される。③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	68・110・123他
	7	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文③に橙7.5YR6/4④繊維・石英・赤褐色粒⑤補修孔あり。	-
	8	②口唇部に刻み目・格子目状に平行沈線③に褐7.5YR5/3④繊維・石英・チャート・白色粒	-

東地区 土器観察表10

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
46号住居跡	9	①口径(13.0cm) ②直前段半撚L L + 半截竹管状工具平行沈線・爪形文及び波状文。施文が深い。③橙7.5YR7/6④繊維・石英・長石・白色粒⑤外面に煤付着。	17
	10	②格子目状撚糸文③橙7.5YR7/6④繊維・赤褐色粒・石英	115他
	11	②R L 縄文 + 口縁部に爪形文2列③灰褐7.5YR4/2④繊維・石英・白色粒	88他
47号住居跡 第273図 P L 75	1	②L R 縄文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・チャート・石英⑤外面一部に煤付着。	36他
	2	②無節縄文を羽状施文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・石英⑤補修孔2か所あり。	34
	3	②R L 縄文を羽状施文③橙7.5YR6/6④繊維・黄白色粒・石英	20
	4	②R L 縄文・口縁部に短いコンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・石英・白色粒	28
	5	②縄文 + コンパス文、口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒	-
	6	②歯状工具による横位線・波状線 + 縦位刺突文③橙7.5YR6/6④繊維・チャート・石英	-
	7	②羽状縄文 + 平行沈線・爪形文③明赤褐5YR5/6④繊維・黄白色粒	-
	8	②平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・長石⑤外面に煤付着。	-
	9	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	47
	10	①口径(16.9cm) ②無節L 縄文 + 沈線(格子目文) ③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・白色粒	15
	11	②幅広の爪形文③にぶい黄橙10YR7/3④石英・長石・白色粒⑤(北白川下層1b式)。	-
48号住居跡 第275図 P L 75	1	②R L 縄文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石	-
	2	②縄文 + 沈線③橙5YR6/6④石英・長石・チャート	-
	3	②R L 縄文 + 平行沈線 + 円形竹管文③にぶい橙7.5YR7/4④結晶片岩・石英・角閃石	-
	4	②R L 縄文 + 平行沈線 + 円形竹管文③にぶい橙7.5YR6/4④石英・チャート・角閃石	-
	5	②平行沈線③浅黄2.5Y7/3④白色粒	-
	6	②R L 縄文 + 平行沈線③にぶい黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	7	②土製円板。4.3×4.0cm。無節縄文③にぶい黄橙10YR6/4④黄白色粒・石英・角閃石	-
49号住居跡 第276・277図 P L 76	1	①口径26.5cm②L R 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・角閃石⑤底部欠損するが、器高36cm前後・底径10cm前後と推定される。	58・81他
	2	②縄文 + 半截竹管による鋸歯状線及び口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR5/3④微砂粒・石英⑤波状口縁と思われる。外面に煤付着。	117
	3	②縄文 + 平行沈線・爪形文 + 円形刺突文③にぶい黄褐10YR4/3④石英・角閃石・黄白色粒	15
	4	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/4④石英・長石・黄白色粒⑤補修孔あり。	106
	5	②波状口縁。R L 縄文 + 焼成前穿孔(径1.6cm)・円形竹管文③橙7.5YR6/6④石英・雲母	139他
	6	②0段多条R L 縄文③黒褐10YR3/2④石英・長石・黄白色粒	86
	7	①底径9.6cm②複節縄文③橙7.5YR6/6④石英・長石・黄白色粒	60
	8	②幅広の連続爪形文③黒褐10YR2/2④微砂粒・石英⑤北白川下層式。	-
50号住居跡 第279図 P L 76	1	②波状口縁。渦巻文・区画内に縄文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石	7
	2	②R L 縄文 + 懸垂文・蛇行沈線 + 縄文磨消し③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石	18他
	3	②綾杉状沈線 + 懸垂文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒⑤煤付着。	5他
51号住居跡 第280図 P L 76	1	②集合沈線 + ボタン状貼付文③浅黄橙10YR8/3④石英・角閃石・黄白色粒	6・7
	2	①口径(5.6cm) ②ミニチュア土器。丸底。有段。無文。③浅黄2.5Y7/3④粗砂粒・石英	4
52号住居跡 第281図 P L 77	1	①口径(30.4cm) ②波状口縁。結節あるR L 縄文③浅黄橙10YR8/3④石英・長石・角閃石	123
	2	①口径(30.2cm) ②結節あるR L 縄文③橙5YR6/6④結晶片岩・石英	116他
	3	②R L 縄文、口唇部に刻み目③にぶい黄橙10YR6/3④石英・角閃石・白色粒	195
	4	②半截竹管平行沈線(肋骨文) + 円形竹管文③灰黄褐10YR4/2④石英・白色粒・赤褐色粒	124
	5	②弱い段を有し上側に円形竹管文、下側にR L 縄文③浅黄橙10YR8/3④角閃石・白色粒	62
	6	②隆帯2条を巡らし爪形文を充填、隆帯上下にR L 縄文③灰黄褐10YR5/2④石英・白色粒	122
	7	②R L 縄文 + 浅い平行沈線③橙5YR6/6④結晶片岩・石英・長石	43

東地区 土器観察表11

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
52号住居跡	8	②平行沈線・コンパス文③に黄褐色10YR5/3④繊維・結晶片岩・石英・長石⑤煤付着。	-
	9	②R L 縄文③暗褐色10YR3/3④繊維・石英・黄白色粒	193
	10	②無節縄文で菱形を構成③に黄褐色10YR5/4④繊維・石英・長石	51
	11	②単節縄文で菱形を構成③褐色7.5YR4/3④繊維・黄白色粒・赤褐色粒	45
	12	②無節L 縄文③に黄褐色10YR7/4④繊維・石英・チャート	63
53号住居跡 第283図 P L 75	1	②R L 縄文③に黄褐色10YR6/3④石英・長石⑤外面に煤付着。	-
	2	②無節R 縄文③に黄褐色10YR6/3④繊維・石英・白色粒	3
	3	②R L 縄文③褐色7.5YR6/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
	4	②R L 細縄文③に黄褐色10YR6/3④石英・長石・角閃石	-
54号住居跡 第284図 P L 73	1	②羽状縄文+口縁部にコンパス文3列③に黄褐色7.5YR7/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒	-
	2	②羽状縄文+平行沈線・爪形文を横・縦・斜位に施文③に黄褐色10YR6/4④繊維・石英	-
	3	②平行沈線・コンパス文・爪形文を粗雑に施文③褐色7.5YR4/3④繊維・石英・黄白色粒	-
	4	②縄文+円形刺突文・平行沈線・爪形文③に黄褐色10YR7/4④繊維・石英・長石	-
	5	②R L 縄文③に黄褐色10YR6/3④繊維・石英・白色粒	-
	6	①口径(7.1cm) ②無節L 縄文+口縁部に平行沈線3条③浅黄褐色10YR8/4④繊維・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	7	②羽状縄文+肋骨文状に平行沈線・爪形文③に黄褐色10YR4/3④繊維・石英	-
	8	②R L 縄文とL R 縄文を交互施文+コンパス文③に黄褐色10YR6/4④繊維・粗砂粒・石英	-
	9	②付加条縄文③に黄褐色10YR7/4④繊維・粗砂粒・石英・チャート	-
	10	②土製円板。径3.2cm③に黄褐色7.5YR5/4④繊維・石英・雲母	-
55号住居跡 第286図 P L 78	1	①器高18.9cm・口径13.5cm・底径6.4cm②集合沈線文+口縁部~胴上部に耳状・ボタン状・棒状貼付文③に黄褐色10YR7/3④粗砂粒・石英・長石⑤外面上半に煤付着。	2
	2	①底径11.4cm②集合沈線+ボタン状貼付文・爪形文のある棒状貼付文③褐色7.5YR6/6④粗砂粒・石英・黄白色粒・赤褐色粒	1
	3	②口縁部片。集合沈線+耳状・ボタン状・爪形文のある棒状貼付文③に黄褐色10YR7/4④石英・長石・白色粒	3
57号住居跡 第288図 P L 78・79	1	②波状口縁。R L 縄文。口縁部に刻み。波頂部凹む。③に黄褐色7.5YR6/4④石英・黄白色粒	91
	2	②波状口縁部片。爪形文・沈線+波頂部下に円形貼付文③褐色7.5YR6/6④金雲母・石英	-
	3	②R L 縄文③に黄褐色7.5YR5/3④結晶片岩・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	4	②R L 縄文+平行沈線・平行沈線・爪形文区画+交点に棒状工具刺突文③褐色7.5YR6/6④結晶片岩・石英・長石⑤煤付着。	22
	5	②R L 細縄文③明褐色7.5YR5/6④石英・白色粒⑤外面に煤付着。	36他
	6	①底径9.5cm②L R 縄文③に黄褐色10YR7/4④石英・角閃石	46他
	7	①底径7.6cm②R L 縄文+粗雑な平行沈線③に黄褐色10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	72
	8	①底径(11.0cm) ②R L 縄文③明褐色5YR5/6④結晶片岩・石英・長石	79
	9	②R L 縄文+縦位に円形竹管文を連続③明褐色5YR5/6④結晶片岩・石英・長石⑤煤付着。	50
58号住居跡 第290図 P L 79	1	②L R 縄文③明褐色5YR5/6④結晶片岩・粗砂粒・角閃石	-
	2	②R L 縄文+平行沈線+円形竹管文③に黄褐色10YR7/4④微砂粒・角閃石・白色粒	43
	3	②L R 縄文③明褐色5YR5/8④石英・長石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	49
	4	②R L 縄文③褐色5YR6/8④石英・長石	36
	5	②R L 細縄文③褐色7.5YR6/6④石英・長石・黄白色粒	16
	6	②R L 細縄文+口縁部に平行沈線③に黄褐色10YR6/3④黄白色粒・石英	-
	7	②羽状縄文+口縁部にコンパス文③明褐色5YR5/8④繊維・石英・黄白色粒	3
	8	②L R 縄文③に黄褐色10YR7/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	23
	9	②L R 縄文+平行沈線・爪形文③明褐色7.5YR5/8④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
59号住居跡 第292・293図 P L 80	1	①器高(27.5cm)・口径(23.5cm)・底径8.7cm②4単位の波状口縁と推定される。擦糸文。③赤褐色2.5YR4/6④石英・長石・白色粒⑤図上復元。	18・ 21他
	2	①器高15.2cm・口径(11.6cm)・底径5.4cm②付加条縄文③に黄褐色10YR7/4④角閃石・石英	2他

東地区 土器観察表12

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
59号住居跡	3	①器高9.5cm・口径7.5cm・底径4.5cm②コップ形土器。半截竹管状工具平行沈線を縦位・横位・斜位・弧状に施し幾何学的な文様を構成。③灰白10YR8/2④長石・石英・角閃石	1
	4	②R L 縄文③にぶい赤褐5YR5/4④結晶片岩・石英・長石⑤外面一部に煤付着。	30
	5	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR7/3④石英・長石⑤外面に煤付着。	28
60号住居跡 第295図 P L 80・81	1	②波状口縁部片。平行沈線(肋骨文)+円形竹管文、口縁部に歯状工具刺突文列③浅黄橙10YR8/3④角閃石・黄白色粒	-
	2	②0段多条L R 縄文・口唇部外側に突出し刻み目③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・粗砂粒	-
	3	②前々段半熱縄文を羽状に施文③褐7.5YR4/4④石英・長石・金雲母	-
	4	②撚糸文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	5	②L R 縄文・口唇部外側に突出し刻み目③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・白色粒	-
	6	②緩い波状口縁。L R 縄文③浅黄橙10YR8/4④繊維・石英・赤褐色粒・角閃石⑤煤付着。	48
	7	②L R 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石	-
	8	②羽状縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・長石・白色粒	-
	9	②縄文+格子状に平行沈線③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石	-
	10	②羽状縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒	24
	11	②L R 縄文+歯状工具条線+縦位刺突文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・石英・長石	2
	12	①底径11.3cm②0段多条縄文を羽状施文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・黄白色粒	56他
61号住居跡 第298図 P L 81	1	①器高18.1cm・口径(23.2cm)・底径9.2cm②口縁部に向かって大きく外反して開く。R L 縄文③浅黄橙10YR8/3④微砂粒・白色粒・角閃石⑤外面下半に煤付着。	7・16
	2	②R L 縄文③明褐7.5YR5/6④結晶片岩・石英・長石	1・3
62号住居跡 第299図 P L 82	1	①口径(46.2cm)②集合沈線+口縁部に耳状・円形貼付文、胴部上側に楕円輪状・円形貼付文③明黄褐10YR7/6④結晶片岩・粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	14
	2	②集合沈線+耳状・円形貼付文③にぶい橙7.5YR7/4④結晶片岩・砂礫・石英・長石	-
	3	①底径(11.2cm)②横位基調の粗雑な集合沈線③にぶい黄橙10YR7/3④粗砂粒・黄白色粒	2・3
	4	②棒先状工具による太い沈線で幾何学文様③にぶい黄褐10YR4/3④石英・長石・角閃石	7
63号住居跡 第300図 P L 82	1	②R L 縄文+円形竹管文③褐7.5YR4/3④結晶片岩・石英・角閃石	62
	2	②口縁部「く」の字状に外反。R L 縄文、口縁部無文。③橙5YR6/6④石英・角閃石・白色粒	-
	3	②0段多条R L 縄文③にぶい赤褐5YR4/3④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒	105
	4	②波状口縁。口唇部に刻み目・R L 縄文③橙5YR6/6④微砂粒・石英	-
	5	②R L 縄文+平行沈線③にぶい黄褐10YR7/4④石英・角閃石・白色粒⑤外面に煤付着。	96
	6	②底径5.8cm②R L 細縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・角閃石	56
	7	①底径(8.4cm)②R L 縄文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英・角閃石・黄白色粒	30
	8	②横位平行沈線、内面口縁部に刻み目③にぶい黄橙10YR7/3④結晶片岩・石英・角閃石	-
	9	②L R 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・微砂粒	-
	10	②L R 縄文+平行沈線・爪形文、コンパス文③明褐7.5YR5/6④繊維・チャート・石英	42
	11	②L R 縄文+平行沈線③明褐7.5YR5/6④繊維・石英・チャート⑤外面に煤付着。	-
	12	②歯状工具条線+コンパス文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・チャート	-
	13	②粗雑な沈線③暗褐7.5YR3/4④繊維・石英・長石・白色粒	36
64号住居跡 第302図 P L 83	1	②R L 縄文・結節+円形竹管文③にぶい橙7.5YR7/4④結晶片岩・石英・角閃石⑤炉に使用。	1
	2	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	3	②波状口縁。平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR6/3④繊維・石英・長石	-
	4	②無節R 縄文+歯状工具横位・円形条線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・石英・白色粒	-
65号住居跡 第303・305 ・306図 P L 83	1	①器高20.3cm・口径20.0cm・底径8.3cm②口縁部に向かって外反して開く。集合沈線(底部付近及び口縁部は横位線、胴部は縦位線・矢羽状線・弧状線を交互に対称配置)+貼付文(口縁部に耳状・ボタン状・棒状貼付文を2個一組で11単位施すが1か所だけボタン状貼付文1個、胴部に円形・棒状貼付文)③にぶい褐7.5YR6/3④細砂粒・角閃石・白色粒	1
	2	①口径(12.8cm)②集合沈線・口縁部に凹凸文③褐灰10YR4/1④粗砂粒・石英・黄白色粒	2

東地区 土器観察表13

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
65号住居跡	3	②格子目状沈線・口唇部に爪形文③に黄褐色7.5YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石	-
	4	②矢羽状に平行沈線③に黄褐色10YR7/4④石英・長石・黄白色粒	-
	5	②R L 縄文 + 浮線文に刻み目③に黄褐色10YR7/3④黄白色粒・黒色粒	-
	6	②縄文 + 浮線文に刻み目・刺突文③に黄褐色10YR6/3④石英・長石・角閃石	-
66号住居跡 第304・307図 P L 83	1	①口径 (23.2cm) ②無節 L 縄文③黄褐色10YR8/6④粗砂粒・石英・長石・角閃石	54
	2	②R L 縄文・口縁部に凹みのある隆起線③に黄褐色7.5YR5/3④石英・長石・角閃石	56
	3	②R L 縄文③灰黄褐色10YR4/2④石英・長石・角閃石	-
	4	②縄文 + 平行沈線・爪形文区画 + 区画外の縄文磨消し + 円形竹管文③に黄褐色10YR5/3④結晶片岩・石英・角閃石	-
	5	②歯状工具条線 (肋骨文) + 円形刺突文③暗赤褐色5YR3/3④石英・長石・角閃石	16
	6	②平行沈線・口唇部外側に刺突③に黄褐色10YR7/3④黄白色粒・角閃石	-
	7	②R L 縄文・口唇部に刺突③灰褐色7.5YR5/2④石英・白色粒⑤煤付着。	-
	8	②平行沈線・爪形文③黄褐色7.5YR4/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	9	②口縁部内屈し、波状を呈するものと推定される。浮線文に半截竹管状工具による爪形文を充填。③に黄褐色10YR7/3④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	61
	10	②口縁部内屈。浮線文に半截竹管状工具による爪形文を充填。③に黄褐色10YR6/3④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒⑤9と同一個体と思われる。	-
	11	②波状口縁と推定される。R L 縄文 + 浮線文に刻み目、口唇部に貼付文③に黄褐色10YR5/3④粗砂粒・石英・チャート・黄白色粒	-
	12	②浮線文に刻み目③黄褐色5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・角閃石	23
	13	②浮線文 + R L 縄文③に黄褐色7.5YR6/4④繊維・黄白色粒	-
	14	②縄文 + 平行沈線③に黄褐色10YR5/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
67号住居跡 第308図 P L 81	1	②無節 L 縄文③に黄褐色10YR5/4④繊維・チャート・白色粒	2
	2	②緩い波状口縁。波頂部下に焼成前の孔あり。平行沈線 + 竹管文 (爪形文) ③暗褐色10YR3/3④繊維・石英・長石	-
68号住居跡 第309図 P L 77	1	①底径10.9cm②R L 縄文 + 平行沈線・沈線 (肋骨文状) ③に黄褐色5YR6/4④石英・長石・角閃石・白色粒⑤外面上半に煤付着。内面下半に焦げ。	-
	2	②R L 縄文 + 平行沈線 + 刺突文③に黄褐色7.5YR5/4④石英・長石・赤褐色粒⑤外面煤付着。	74
	3	②波状口縁と推定される。縄文 + 平行沈線 + 円形竹管文③明赤褐色5YR5/6④結晶片岩・角閃石	17
	4	②波状口縁部片。L R 縄文③に赤褐色5YR4/4④結晶片岩・微砂粒⑤外面一部に煤付着。	-
	5	②付加条縄文 + 円形竹管文③に黄褐色5YR7/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒	69
	6	②R L 縄文 + 円形竹管文③赤褐色5YR4/6④粗砂粒・石英・長石・赤褐色粒	18
	7	②縄文 + 連続刺突文③に黄褐色7.5YR6/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	8	①口径 (7.2cm) ②無節 L 縄文③暗褐色7.5YR3/4④石英・微砂粒⑤外面一部に煤付着。	16
	9	②平行沈線 (肋骨文) + 円形竹管文③黄褐色7.5YR6/6④石英・角閃石・赤褐色粒	118
	10	②直前段半燃 R L 縄文③に黄褐色7.5YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	36
	11	②平行沈線・爪形文 + 円形竹管文③黒褐色10YR3/2④粗砂粒・黄白色粒・石英	62
	12	②浮線文に刻み目③黄褐色10YR8/3④黄白色粒・黒色粒	6
69号住居跡 第310図 P L 78	1	②複節 R L R 縄文③に黄褐色7.5YR5/3④結晶片岩・石英・黄白色粒	9
	2	②R L 縄文 + 平行沈線・爪形文③明赤褐色5YR5/6④石英・チャート・白色粒	-
	3	② (縄文) + 平行沈線③に黄褐色10YR6/4④石英・長石・角閃石	-
	4	②平行沈線 + 円形刺突文、口縁部に貼付文③に黄褐色7.5YR5/4④結晶片岩・石英・長石	3
	5	②R L 縄文③黄褐色7.5YR7/6④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	6	②複節 (前々段合燃) 縄文③赤褐色5YR4/6④結晶片岩・石英	-
	7	①底径 (10.1cm) ②R L 縄文③に黄褐色10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
70号住居跡 第311図 P L 78	1	②波状口縁部片。羽状縄文 + 平行沈線③暗褐色7.5YR3/4④繊維・石英・長石	18
	2	②平行沈線・コンパス文③黒褐色7.5YR2/2④繊維・石英・長石	6

東地区 土器観察表14

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
70号住居跡	3	②単節縄文+円錐形状貼付文③黄橙7.5YR7/8④繊維・石英・黄白色粒・角閃石	13
	4	②羽状縄文③橙7.5YR7/6④繊維・石英・白色粒	8
71号住居跡 第312図 P L 78	1	②無節縄文+平行沈線・爪形文、コンパス文③に黄褐10YR4/3④繊維・長石・白色粒	-
	2	②緩い波状口縁と推定される。平行沈線・コンパス文。波頂部に貼付文。③暗褐7.5YR3/4④繊維・石英・長石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	3	②無節R縄文③暗褐7.5YR3/4④繊維・黄白色粒・石英・長石	8
	4	②無節R縄文。口唇部に小突起。③褐7.5YR4/4④繊維・粗砂粒・黄白色粒	-
	5	②無節縄文③橙7.5YR7/6④繊維・黄白色粒・石英・角閃石	-
72号住居跡 第313図 P L 69	1	②波状口縁。幅広い平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・粗砂粒・石英・長石	-
	2	②波状口縁。平行沈線③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石	-
	3	②粗雑な平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/3④繊維・石英・黄白色粒	-
	4	②波状口縁。平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・黄白色粒	-
	5	②羽状縄文③赤褐5YR4/6④繊維・石英・チャート・黄白色粒	-
73号住居跡 第314図 P L 69・70	1	①口径26.2cm②緩やかな4単位の波状口縁。粗雑な縄文施文後、上半部に平行沈線を横位・斜位・弧状に施す。③明黄褐10YR7/6④繊維・結晶片岩・石英・長石	71
	2	①口径40.0cm②括れ部下に単節縄文を交互施文し、括れ部に横位及び鋸歯状に施す。③に黄橙7.5YR7/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒	73・76他
	3	②波状口縁部片。菱形状に平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英	33
	4	②波状口縁部片。平行沈線③に赤褐5YR4/3④繊維・結晶片岩・石英・長石	58
	5	②波状口縁部片。平行沈線③に褐7.5YR5/4④繊維・粗砂粒・黄白色粒⑤補修孔あり。	32
	6	②平行沈線③に赤褐5YR5/4④繊維・粗砂粒・石英・長石	52
	7	②平行沈線、口唇部外側に刻み目③に黄橙7.5YR7/4④繊維・石英・赤褐色粒	-
	8	②R L縄文③明黄褐10YR6/6④繊維・石英・黄白色粒	-
	9	②羽状縄文+平行沈線(円形)・コンパス文③に黄褐10YR5/3④繊維・結晶片岩・石英	-
	10	②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
74号住居跡 第316・317図 P L 84	1	②波状口縁部片。平行沈線③に黄橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・黄白色粒	27他
	2	②(波状口縁)平行沈線③に赤褐5YR5/4④繊維・黄白色粒	142
	3	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文③に黄褐10YR5/3④繊維・石英・長石・チャート	-
	4	②縄文+平行沈線③に黄橙10YR7/4④繊維・長石・赤褐色粒⑤波状口縁か。	179
	5	②平行沈線+楕円輪状に貼付文、口唇部外側に刻み目③橙7.5YR7/6④繊維・石英・長石	-
	6	②緩い波状口縁部片。無節R縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・石英	18
	7	②櫛歯状工具波状文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・石英	27
	8	②平行沈線・波状沈線+棒先状工具刺突文③に黄橙10YR6/3④石英・長石・角閃石	-
	9	②平行沈線・爪形文で菱形構成+円錐形状貼付文③に黄橙10YR7/4④繊維・微砂粒	128
	10	②無節縄文を菱形状に施文③灰黄褐10YR4/2④繊維・黄白色粒	39
	11	②平行沈線・爪形文③黒褐10YR3/1④繊維・砂礫・石英・長石	-
	12	②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	37
	13	②平行沈線(横位・格子目状)③に黄橙10YR6/3④繊維・黄白色粒・角閃石	-
	14	②列点刺突文③に黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒・石英・チャート	-
	15	②波状口縁。菱形状に平行沈線+刺突文(凹凸文状)③に黄橙7.5YR7/4④繊維・黄白色粒	91他
	16	①底径(8.3cm)②無節縄文を菱形状に施文③に黄橙10YR7/3④繊維・石英・長石・角閃石⑤内面に焦げ。	28他
	17	①径3.5cm②管状。外面に粗雑な沈線が巡る。③に黄橙7.5YR7/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒⑤注口部分か。	-
75号住居跡 第319図 P L 85	1	②無節L縄文③褐10YR4/4④繊維・石英・白色針状粒⑤補修孔あり。	-
	2	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・黄白色粒・角閃石	-

東地区 土器観察表15

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記	
75号住居跡	3	②波状口縁部片。幅広の平行沈線③暗褐7.5YR3/4④繊維・結晶片岩・石英	27	
	4	②菱形状に平行沈線・爪形文③褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・白色針状粒・赤褐色粒	-	
	5	②菱形状に平行沈線・爪形文③暗赤褐5YR3/3④繊維・結晶片岩・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	21	
	6	②平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・石英・長石	-	
	7	②平行沈線・浅い爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・白色粒	-	
	8	②無節縄文を交互施文③褐7.5YR4/4④繊維・石英・黄白色粒⑤補修孔あり。	-	
	9	②菱形状に無節縄文③褐10YR4/4④繊維・石英・長石	-	
	10	①底径8.6cm②底部片③橙7.5YR6/6④繊維・黄白色粒・赤褐色粒⑤底面に繊維状圧痕あり。	16	
	11	①底径(4.6cm)②上げ底。器面整形粗雑。③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・粗砂粒・赤褐色粒	-	
	76号住居跡 第321図 P L 85	1	②波状口縁部片。L R 縄文+平行沈線・爪形文③浅黄橙10YR8/3④繊維・角閃石・黄白色粒	-
		2	②L R 縄文+平行沈線・爪形文③浅黄橙10YR8/3④繊維・角閃石・黄白色粒⑤1と同一か。	-
3		①口径(29.2cm)②0段多条R L 縄文+平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・長石	11	
4		②平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英	14	
5		②三角形状に平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・石英⑤波状口縁か。	44	
6		②平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・粗砂粒・石英・長石	39	
7		②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	45	
77号住居跡 第323・324図 P L 86	1	①口径19.4cm②無節縄文を羽状施文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・白色粒・角閃石⑤煤付着。	361他	
	2	①底径9.3cm②やや上げ底。無節縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・白色粒	178	
	3	①底径9.6cm②やや上げ底。単節縄文を羽状施文③にぶい褐7.5YR6/3④繊維・結晶片岩	126他	
	4	①底径9.1cm②無節縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩⑤底部にも施文。内面焦げ。	162	
	5	①底径9.8cm②高台。L R 縄文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・石英・長石⑤内底部焦げ。	341	
	6	①口径(23.1cm)②4単位の波状口縁と推定される。括れ部上は横位平行沈線を波頂部で縦位区画する。括れ部下L R 縄文。③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・角閃石・黄白色粒⑤図上復元。	230・288	
	7	②波状口縁。R L 縄文+括れ部上に平行沈線③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・結晶片岩・石英	59	
	8	②波状口縁。平行沈線で菱形を構成し、中央部に円を描く。③灰黄褐10YR5/2④繊維・角閃石・黄白色粒⑤括れ部下に縄文施文か。	3・6	
	9	①口径(23.4cm)②4単位の緩い波状口縁と推定される。括れ部上側は格子目状燃糸文+横位沈線+波頂部に押圧のある貼付文、括れ部：平行沈線・(弱い)爪形文、括れ部下側は無節L 縄文+格子目状燃糸文。③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・長石・角閃石・黄白色粒⑤図上復元	2	
	10	②平行沈線+口縁部に連続刺突文、口唇部に爪形文③にぶい橙5YR6/4④繊維・石英・角閃石	1	
	11	②0段多条縄文を羽状施文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・石英・角閃石	195	
	12	②刺突のある貼付文+斜位に平行沈線③にぶい橙5YR6/4④繊維・石英・白色粒	-	
	13	②波状口縁と思われる。平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・粗砂粒・黄白色粒・赤褐色粒	147	
	14	②縄文+平行沈線③灰褐7.5YR4/2④繊維・結晶片岩・角閃石	170	
	15	②粗雑な沈線③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・長石・角閃石・白色粒	42	
	16	②波状口縁。波頂部下に貼付文+平行沈線③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・粗砂粒・石英・長石	-	
	17	②L R 縄文+平行沈線・爪形文③にぶい橙5YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	227	
	18	②鋸歯状の平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・角閃石	94	
78号住居跡 第326・327図 P L 87	1	②R L 縄文③暗褐10YR3/3④繊維・黄白色粒・石英・角閃石⑤補修孔あり。	79	
	2	②無節縄文を菱形状に施文③褐10YR4/4④繊維・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	-	
	3	②上半：横位沈線・下半：羽状縄文③暗赤褐5YR3/3④繊維・石英・金雲母⑤波状口縁か。	26他	
	4	②波状口縁。横位平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	25	
	5	②平行沈線・爪形文③暗赤褐5YR3/2④繊維・結晶片岩・石英・長石	-	
	6	②波状口縁と思われる。羽状縄文+垂下する貼付文③浅黄橙10YR8/3④繊維・黄白色粒	-	
	7	②波状口縁。胴部L R 縄文、口縁部平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・粗砂粒	-	

東地区 土器観察表16

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
78号住居跡	8	②L R 縄文+平行沈線③にぶい赤褐2.5YR4/4④繊維・長石・黄白色粒	-
	9	②R L 縄文+平行沈線③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・粗砂粒・黄白色粒	60
	10	②平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石	31
	11	②平行沈線・コンパス文③褐7.5YR4/4④繊維・黄白色粒・石英	-
	12	②平行沈線・爪形文③暗褐7.5YR3/3④繊維・黄白色粒・石英・赤褐色粒	-
79号住居跡 第329図 P L 87	1	②無節R 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・角閃石	-
	2	②0 段多条縄文を羽状施文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石	-
	3	①底径7.0cm②破片内無文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・黄白色粒・角閃石	1
	4	②細縄文+爪形文+円形竹管文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石⑤波状口縁か。	-
80号住居跡 第330図 P L 88	1	①口径(29.8cm) ②無節L 縄文+括れ部に平行沈線③にぶい黄橙7.5YR7/3④繊維・黄白色粒	217
	2	①口径(37.0cm) ②口縁部の大半を欠損するが4 単位の波状口縁と想定される。下半部に羽状縄文。上半部に平行沈線で菱形を構成し、一部に円を描く。③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・黄白色粒・石英・角閃石⑤補修孔あり。	92・197他
	3	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文で菱形構成③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・赤褐色粒	-
	4	②平行沈線③灰黄褐10YR5/2④繊維・黄白色粒・石英⑤補修孔あり。	35
	5	②平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・石英・黄白色粒	-
	6	②波状口縁部片。平行沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・黄白色粒・角閃石	-
	7	②波状口縁部片。無節縄文③暗赤褐5YR3/3④繊維・石英・長石・角閃石	17
	8	②胴部「く」の字状に内折する。上側に平行沈線・浅い爪形文で菱形を構成し、下側は無節L 縄文。③赤褐2.5YR4/6④繊維・結晶片岩・黄白色粒	16
	9	②付加条縄文+刺突文③にぶい褐7.5YR6/3④繊維・黄白色粒・石英・角閃石	62
	10	①底径8.2cm②上げ底。羽状縄文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英⑤内面焦げ。	26
	11	①底径(7.7cm) ②羽状縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・角閃石⑤底部木葉痕。	-
81号住居跡 第332~334図 P L 89・90	1	①口径(32.5cm) ②頸部括れ、口縁部は内湾気味に開く。内面頸部は鋭い稜をなす。小さな4 単位の波状口縁。波頂部下に半截竹管状工具同心円文。その下から平行沈線を垂下させ、コンパス文と平行沈線文・爪形文を横位に交互施文するが、コンパス文が2 列の部分もある。頸部はコンパス文2 列。頸部下は無節L 縄文を施文する。③浅黄橙10YR8/3④繊維・細砂粒	1・2・3・4
	2	①器高22.8cm・口径(20.0cm)・底径10.7cm②小さな三角形の波状口縁4 単位。無節縄文を菱形に施文。③浅黄橙10YR8/4④繊維・黄白色粒・石英・角閃石	65・234
	3	①口径16.0cm②無節L 縄文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英・長石⑤外面に煤付着。	2・82
	4	①底径13.4cm②単節縄文+平行沈線・爪形文を横位・斜位・縦位に施文し、交点の一部に円形竹管文③橙7.5YR6/6④繊維・黄白色粒・石英	140
	5	②口唇部に三角形小突起。羽状縄文+平行沈線・爪形文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・細砂粒	225
	6	②無節縄文のようであるが器面全体を撫で③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・黄白色粒・角閃石	144
	7	②無節縄文+平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・粗砂粒・黄白色粒	116
	8	②無節縄文+平行沈線と刺突文③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・黄白色粒・角閃石⑤補修孔あり。	170
	9	②無節縄文+菱形に平行沈線③にぶい黄褐10YR7/4④繊維・粗砂粒・長石	11
	10	②平行沈線・コンパス文③灰黄褐10YR5/2④繊維・白色粒・微砂粒	-
	11	②口唇部に三角形小突起。平行沈線・爪形文③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・長石	-
	12	②口唇部に三角形小突起を破片内に3。付加条縄文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・結晶片岩	-
	13	②粗雑な平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英	89
	14	②平行沈線・コンパス文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・長石	-
	15	②L R 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・黄白色粒⑤波状口縁か。	-
	16	②R L 縄文+粗雑な平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒	20
	17	②付加条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・角閃石	204
	18	②粗雑な平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・長石⑤補修孔あり。	189
	19	②R L 縄文、口縁部に連続短沈線③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・石英	215
	20	②無節L 縄文+口縁部にコンパス文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・黄白色粒・チャート	47

東地区 土器観察表17

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
81号住居跡	21	②粗雑な羽状縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・粗砂粒・石英・赤褐色粒	85
	22	②無節縄文を羽状施文③褐10YR4/6④繊維・粗砂粒・角閃石	81
	23	②平行沈線・爪形文③に黄褐10YR5/3④繊維・黄白色粒・角閃石	-
	24	②R L縄文+平行沈線・爪形文で横位区画+区画間の縄文磨消し後コンパス文③に黄橙10YR6/3④繊維・結晶片岩・石英・長石	-
	25	②R L縄文+平行沈線・爪形文③に褐7.5YR5/4④繊維・黄白色粒⑤外面に煤付着。	152
	26	②付加条縄文(無節縄文に単節縄文付加)を菱形状施文③に黄褐10YR5/3④繊維・石英	39
	27	②縄文+平行沈線・爪形文③に黄褐10YR4/3④繊維・粗砂粒・黄白色粒	-
	28	②複節R L R縄文③に黄橙10YR7/3④繊維・微砂粒	-
	29	②単節縄文を菱形状施文③に黄橙10YR7/4④繊維・粗砂粒・チャート・長石	93他
	30	②縄文+平行沈線・爪形文③褐10YR4/4④繊維・黄白色粒・長石・赤褐色粒	59
	31	②歯状工具波状線+垂下する貼付文③に黄橙10YR7/3④繊維・微砂粒・白色粒	-
	32	②波状口縁。平行沈線③に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
	33	②羽状縄文+平行沈線・刺突文③明黄褐10YR7/6④粗砂粒・黄白色粒・石英・角閃石	6
	34	②R L縄文・結節③に黄橙10YR6/3④黄白色粒・角閃石	-
	35	②R L縄文、口唇部に押圧2③赤褐5YR4/6④金雲母・石英・長石・角閃石	201
	36	②文様不明瞭③灰黄2.5Y6/2④繊維・微砂粒⑤不完全焼成の土器片。埋没土下層出土。	-
82号住居跡 第336図 P L.90	1	②歯状工具横線・波状線③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石	-
	2	②横位平行沈線。口縁部隆帯に刺突を加える。③浅黄橙7.5YR8/4④石英・長石・角閃石	15
	3	②R L縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
	4	②平行沈線・爪形文区画内にR L細縄文③明褐7.5YR5/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
	5	②隆起線横貼付け後、R L縄文③黒褐10YR3/2④繊維・粗砂粒・石英・黄白色粒⑤大木系。	-
	6	②(縄文)+浮線文に刻み目・円形竹管文③褐10YR4/4④粗砂粒・黄白色粒	-
	7	②口縁部内側に屈曲。浮線文に刻み目+刺突文③浅黄橙10YR8/4④粗砂粒・黄白色粒・角閃石	-
83号住居跡 第337~343図 P L.91~94	1	①器高(40.0cm)・口径27.5cm・底径10.3cm②小さな4単位の波状口縁。縄文+半截竹管状工具による平行沈線・爪形文を横位・波状・蕨手状等に施文+円形竹管文③浅黄2.5Y7/3④長石・石英・角閃石・白色粒	607・723
	2	①口径44.2cm②4単位の波状口縁(一対は双山状)。R L縄文+浮線文に刻み目。浮線文の内、上から3列目の2条は縄文施文前に貼付け。③淡黄2.5Y8/3④黄白色粒・角閃石・石英	572・680他
	3	①口径(30.0cm)②4単位の波状口縁と推定され、波頂部は短円柱状、両脇に三角形小突起。縄文+浮線文に刻み目③に黄橙7.5YR7/4④石英・長石・角閃石・白色粒	714・727他
	4	②4単位の波状口縁と推定される。縄文+浮線文に刻み目。口唇部に細い粘土紐を貼付ける。③に黄橙5YR6/4④粗砂粒・石英・長石・角閃石⑤図上復元。	276・587他
	5	①口径(44.4cm)②平口縁。縄文+太め目の浮線文に刻み目③に黄橙10YR7/4④粗砂粒・石英・長石・角閃石・黄白色粒	282・652他
	6	①口径(19.6cm)②4単位の波状口縁(一対は双山状)と推定される。縄文+浮線文に刻み目。口唇部に細い粘土紐を貼付け。③暗赤褐5YR3/3④粗砂粒・黄白色粒・石英	462・488他
	7	①口径(47.2cm)②4単位の波状口縁と推定される。無節縄文+平行沈線。波頂部下に円形貼付文が剥落。③褐7.5YR4/3④黄白色粒・石英・角閃石⑤補修孔あり。	97
	8	①口径(41.0cm)②獸面把手4単位と推定される。単節縄文+平行沈線③灰黄褐10YR4/2④黄白色粒・角閃石・石英	320
	9	①口径(39.8cm)②双山状の波状口縁。横位浮線文+R L縄文+平行沈線③に褐7.5YR5/3④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	440・510他
	10	①口径24.7cm②小さな三角形の波状口縁2単位。無節R縄文③赤灰10R5/1④粗砂粒・石英・黄白色粒⑤外面一部に煤付着。	576
	11	①口径(40.6cm)②4単位の波状口縁と推定され、短円柱状波頂部に細い粘土紐を巻く。羽状縄文+浮線文に刻み目。口唇部に刻み目。③に黄橙10YR7/2④黄白色粒・角閃石・石英	100・106他
	12	②双山状の波状口縁。R L縄文+浮線文に刻み目③に黄橙7.5YR7/3④黄白色粒・角閃石	669他
	13	②山状の波状口縁。R L縄文+浮線文に刻み目+平行沈線③に黄橙7.5YR7/4④粗砂粒・黄白色粒・石英・長石・角閃石	216他
	14	①口径(37.0cm)②羽状縄文+上半部に浮線文を横位・鎖状に配し、斜位の刻み目を入れる。③褐灰10YR4/2④石英・長石⑤北白川下層式系。器厚薄い。内面下半に焦げ。	206・683

東地区 土器観察表18

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
83号住居跡	15	①口径(28.5cm)②小さな4単位波状口縁と推定。胴部上位で稜を持って括れ、口縁部内湾して開く。R L縄文+平行沈線に斜位の刻み目を一部加え、浮線文と同様の装飾効果。③暗赤灰2.5YR3/1④黄白色粒・石英・角閃石⑤図上復元。	9・69 ・243
	16	②小さな双山状の波状口縁と推定。R L縄文+平行沈線に斜位の刻み目③灰褐5YR5/2④黄白色粒・石英・角閃石⑤外面一部に煤付着。	237・ 584他
	17	①口径(14.8cm)②内湾する口縁部に、環状に粘土紐を巻上げた貼付文。縄文+平行沈線③黒褐7.5YR3/1④黄白色粒・角閃石	41
	18	②4単位の波状口縁で、波頂部に獣面把手が取り付けられていたものと推定される。単節縄文+浮線文に刻み目③に い褐7.5YR5/3④黄白色粒・石英・角閃石	694
	19	②波頂部に取り付けられた獣面把手。耳・鼻は刺突表現。器面は縄文+浮線文に刻み目。③に い橙7.5YR7/4④黄白色粒・石英・角閃石	-
	20	②緩い波状口縁。波頂部に太い粘土紐を渦巻き状に貼り付ける。器面は縄文+浮線文に刻み目。口唇部に細い粘土紐貼付け。③に い橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英・長石・赤褐色粒	10
	21	①口径(35.4cm)②凹みのある波頂部。R L縄文③に い黄橙10YR7/4④黄白色粒・角閃石	700他
	22	①底径12.4cm②下3条の浮線文貼付け後にR L縄文+上2条の浮線文に斜位の刻み目を右上り・左上り交互に入れる。③ 灰黄褐10YR6/2④黄白色粒・石英・長石・角閃石	682
	23	①底径8.3cm②無節縄文+平行沈線に刻み目③に い橙7.5YR6/4④石英・長石・角閃石	570他
	24	①底径16.0cm②横位平行沈線下は無文③橙7.5YR6/6④砂礫・石英・長石・赤褐色粒	182
	25	①底径11.8cm②R L縄文③に い橙7.5YR7/4④石英・長石・角閃石・白色粒⑤外面に煤付着。	588
	26	②波状口縁部片。L R縄文・結節文+口縁部沿いに刺突のある隆帯③暗褐7.5YR3/3④黄白色粒・角閃石・石英	709他
	27	②口縁部外反。R L縄文+梯子状の浮線文・浮線文に刻み目③に い黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	28	②R L縄文・口唇部に刻み目③黒褐10YR2/3④黄白色粒・石英・角閃石⑤補修孔あり。	775
	29	②波状口縁部片。(R L)縄文+平行沈線+隆起線に押圧を加え鎖状・円形貼付文、口唇部に斜位の刻み目③に い黄橙10YR6/4④石英・長石・角閃石	753
	30	②波状口縁部片。縄文+浮線文に刻み目密③に い黄橙10YR7/3④白色粒・石英・角閃石	469
	31	②R L縄文+平行沈線③灰黄褐10YR6/2④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
	32	②波状口縁。口縁部「く」の字状に屈曲。縄文+浮線文に刻み目+浮線文間に刺突文③に い黄橙10YR7/3④黄白色粒・石英・角閃石	-
	33	②口縁部に環状把手。浮線文に刻み目+刺突文③に い黄褐10YR4/3④石英・角閃石	-
	34	②波状口縁部片。波頂部下に省略化された獣面把手。縄文+渦巻き状等の浮線文に刻み目③に い黄褐10YR5/4④粗砂粒・黄白色粒・石英	297
	35	②R L縄文+浮線文に刻み目③灰褐5YR4/2④粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	-
	36	②L R縄文+横位3条の沈線③に い黄橙10YR7/3④黄白色粒・角閃石⑤外面に赤色塗彩。	-
	37	②縄文後ナデ。口唇部に渦巻き状貼付文③黒褐7.5YR3/1④黄白色粒・石英・角閃石	603
	38	②浮線文に刻み目。口唇部に棒状工具腹連続押圧③橙2.5YR6/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
	39	②波状口縁部片。浮線文に刻み目+平行沈線・爪形文。口唇部に刻み目③に い褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英・角閃石	-
	40	②無節L縄文・結節文+上半部横位平行沈線の上に平行沈線を斜位に交差。③褐7.5YR4/3④黄白色粒・石英・角閃石	222他
	41	②渦巻き状等の平行沈線+横位平行沈線間に刻み目③暗赤褐5YR3/3④黄白色粒・石英	-
	42	②平行沈線・爪形文+浮線文に刻み目③に い褐7.5YR5/4④砂礫・石英・チャート・角閃石	711
	43	②0段多条縄文+平行沈線・爪形文③灰褐7.5YR5/2④砂礫・石英・長石・角閃石・赤褐色粒	774
	44	②縄文+浮線文に刻み目③暗褐10YR3/3④石英・白色粒⑤北白川下層式系。	707
	45	②R L縄文+格子目状に平行沈線③に い黄橙10YR6/3④黄白色粒・石英・角閃石	599
	46	②縄文+浮線文に刻み目+円形竹管文③に い褐7.5YR5/3④黄白色粒・角閃石	489
	47	①口径(28.8cm)②口縁部、内側水平方向にのびる。縄文(大部分ナデ消される)+平行沈線・浮線文に刻み目+縁孔③に い赤褐5YR5/4④石英・長石・チャート	-
	48	①口径(26.4cm)②口縁部、内側水平方向にのびる。浮線文に刻み目+縁孔。器面丁寧に磨かれる。③灰黄褐10YR4/2④ 黄白色粒・石英・長石・角閃石	158
	49	①口径(32.0cm)②口縁部「く」の字状に屈曲。浮線文に刻み目+平行沈線。屈曲部上側の浮線文間に縁孔。③に い橙7.5YR7/3④黄白色粒・石英・長石・角閃石	616
	50	①口径(23.8cm)②口縁部「く」の字状に屈曲。屈曲部下側は無文。上側に、粘土紐を横位・鎖状等に貼り付け+焼成前の穿孔1。③に い赤褐5YR5/4④結晶片岩・石英・黄白色粒	187

東地区 土器観察表19

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
83号住居跡	51	①胴部最大径(52.0cm)②底部に段を有す浅鉢。残存部は無文で、丁寧に磨かれる。③にぶい黄橙10YR6/3④黄白色粒・白色針状粒・角閃石	111・443他
	52	①底径(19.5cm)②底部に段を有す浅鉢。残存部は無文③にぶい黄橙10YR5/3④黄白色粒・石英・角閃石・赤褐色粒⑤外面に赤色塗彩が一部残る。	351・385
	53	②ミニチュア土器。胴部無文。括れ部に小孔が巡る。③にぶい黄橙10YR6/3④長石・角閃石	-
	54	①器高2.5cm・口径4.2cm・底径4.0cm②ミニチュア(手捏)土器③にぶい黄橙10YR7/2④石英・白色粒・角閃石	1
	55	①器高3.3cm・口径(3.6cm)・底径2.6cm②ミニチュア(手捏)土器③にぶい黄橙10YR7/4④石英・白色粒・角閃石	628
	56	①底径(4.4cm)②ミニチュア土器。平行沈線③暗灰黄2.5Y4/2④石英・角閃石・赤褐色粒	-
	57	②隆線間に幅広の爪形文・内面口縁部刻み③灰黄2.5Y6/2④石英・微砂粒⑤北白川下層式。	79
	58	②幅広の爪形文③灰黄2.5Y6/2④石英・微砂粒⑤北白川下層式。	-
	59	②連続刺突文③灰黄褐10YR5/2④石英・微砂粒⑤北白川下層式系。	21
	60	②口縁部内側におり返す。集合沈線+口縁部に耳状・ボタン状貼付文を交互に施す。内面口縁部にもボタン状貼付文。③灰黄褐10YR5/2④黄白色粒・石英・角閃石	370
84号住居跡 第347図 P L96	1	②口唇部に三角形小突起。R L縄文+口縁部に横位・鋸歯状沈線③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・結晶片岩・石英・長石	38
	2	②口唇部に小突起。(羽状縄文)③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石	34
	3	②縄文+平行沈線③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・石英・長石	42
	4	②平行沈線・口唇部に刻み目③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	-
	5	②波状口縁か。平行沈線・爪形文で菱形を構成③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・黄白色粒・石英・角閃石	21
	6	②上げ底。羽状縄文③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・黄白色粒・石英	-
	7	①底径(7.6cm)②燃糸文③明黄褐10YR7/6④繊維・黄白色粒・石英⑤内面に焦げ。	4
85号住居跡 第348図 P L98	1	②無節L縄文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・結晶片岩・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	2	②0段多条L R縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・赤褐色粒	-
	3	②無節L縄文+口縁部に爪形文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・角閃石・チャート	-
	4	②櫛歯状工具条線・波状線③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・チャート⑤補修孔あり。	-
	5	②付加条縄文を羽状施文③褐7.5YR4/4④繊維・石英・白色粒・赤褐色粒	-
	6	②R L縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・石英・長石	-
	7	②平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒	-
	8	②縄文+コンパス文・平行沈線・爪形文③にぶい赤褐5YR5/4④繊維・石英・チャート	-
	9	②ループ文③黒褐10YR3/1④繊維・石英・白色粒	-
	10	②粗雑なコンパス文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒・赤褐色粒	-
	11	②波状口縁部片。縄文+口縁部にコンパス文③淡黄2.5Y8/4④繊維・石英・黄白色粒	-
	12	②櫛歯状工具条線・波状線③淡黄2.5Y8/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	-
	13	②組紐文+コンパス文③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・長石⑤内面焦げる。	-
	14	②R L縄文③にぶい赤褐5YR5/3④石英・長石・黄白色粒⑤外面に煤付着。一度R L縄文施文した後、再度粘土を重ねて同様の施文をしている。	-
86号住居跡 第349図 P L99	1	②羽状縄文+平行沈線・爪形文+口縁部に焼成前穿孔、内面口縁部に沈線1条を巡らせる。③褐7.5YR4/3④繊維・黄白色粒・石英・角閃石	8
	2	②コンパス文③灰褐7.5YR4/2④繊維・黄白色粒・石英・角閃石	46
	3	②羽状縄文+平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/4④繊維・黄白色粒・石英・長石	-
	4	②破片内に2か所の後を持つ。無文で丁寧に磨かれる。③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・赤褐色粒・石英⑤外面に煤付着。	34
87号住居跡 第350図 P L99	1	①口径(22.6cm)②R L縄文③明赤褐5YR5/6④石英・長石・チャート・黄白色粒	2
	2	①底径6.9cm②無節縄文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	1
	3	①底径8.8cm②R L縄文③明赤褐7.5YR5/6④結晶片岩・石英・長石	16
	4	①底径5.0cm②L R縄文③にぶい黄褐10YR5/4④結晶片岩・粗砂粒・黄白色粒	40
	5	①底径4.2cm②R L縄文③明褐7.5YR5/6④石英・長石・黄白色粒	18

東地区 土器観察表20

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
87号住居跡	6	②平行沈線・爪形文で菱形構成+貼付文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・黄白色粒	12
	7	②横位・縦位に粗雑なコンパス文③に黄褐7.5YR5/4④繊維・石英・チャート⑤煤付着。	55
88号住居跡 第351図 P L 96	1	②R L 縄文③に黄橙10YR6/3④黄白色粒・石英・長石・角閃石⑤補修孔あり。	56
	2	②R L 縄文③浅黄橙10YR8/3④白色粒・石英・角閃石	30
	3	②口縁部肥厚。R L 縄文③に黄褐5YR5/4④結晶片岩・石英・長石	-
	4	②R L 縄文③に黄褐5YR5/3④黄白色粒・石英・角閃石⑤口縁部に煤付着。	-
89号住居跡 第352図 P L 96	1	②波状口縁。括れ部上はコンパス文状の文様と平行沈線・爪形文、括れ部下は無節L 縄文③明黄褐10YR7/6④繊維・結晶片岩・砂礫・角閃石	29・36
	2	②L R 縄文、口縁部に平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・黄白色粒・角閃石	30
	3	②0段多条L R 縄文③明黄褐10YR7/6④繊維・結晶片岩・石英・長石・赤褐色粒	22
	4	②縄文+浅い平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石・赤褐色粒	43
	5	②櫛歯状工具条線・刺突文③褐7.5YR4/4④繊維・石英・黄白色粒・角閃石	-
	6	②羽状縄文、平行沈線・爪形文+円形凹み③暗褐10YR3/4④繊維・微砂粒・黄白色粒	-
	7	②羽状縄文③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石・赤褐色粒	49
90号住居跡 第354図 P L 97	1	②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/3④繊維・石英・白色粒	-
	2	②R L 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石	-
	3	②R L 縄文③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石・チャート・赤褐色粒	-
	4	②波状口縁。櫛歯状工具条線+口縁部に刺突文③に黄橙10YR6/3 ④石英・長石・角閃石	-
	5	②肋骨文+円形竹管文③に黄橙10YR6/3 ④金雲母・石英・粗砂粒	-
92号住居跡 第355図 P L 99	1	②粗雑な縦位沈線③褐7.5YR4/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	1
	2	②平行沈線③に黄褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英・赤褐色粒	-
93号住居跡 第355図 P L 99	1	②R L 縄文③明赤褐5YR5/6④石英・長石・角閃石⑤外面に煤付着。	13
	2	②R L 縄文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石	8
94号住居跡 第356~358図 P L 97・98	1	①口径(31.0cm) ②4単位の波状口縁と推定される。R L 縄文+平行沈線+円形竹管文、縄文施文後に口縁部に沿って隆帯を貼り付け、口縁部と隆帯上に刺突文③に黄橙10YR7/2④角閃石・黄白色粒・長石⑤図上復元。	15・62他
	2	②波状口縁部片。口唇部鋸歯状。櫛歯状工具連続弧状条線+縦位円形刺突文・口縁部に櫛歯状工具連続刺突文③に黄褐5YR5/4④石英・長石・黄白色粒	-
	3	②波状口縁部片。櫛歯状工具条線+縦位円形刺突文・口縁部に櫛歯状工具連続刺突文③明赤褐5YR5/8④結晶片岩・石英・黄白色粒・角閃石⑤補修孔あり。	-
	4	②波状口縁部片。櫛歯状工具による条線文様+円形竹管文・口縁部及び括れ部に櫛歯状工具連続刺突文③に黄橙7.5YR7/4④角閃石・長石・黄白色粒・赤褐色粒	-
	5	①口径(13.2cm) ②口唇部に刻み目。口縁部周辺に平行沈線・爪形文を粗雑に施文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・角閃石・白色粒	-
	6	②波状口縁部片。0段多条R L 縄文+平行沈線+口縁部に刻み③橙5YR6/6④結晶片岩・石英	-
	7	②波状口縁部片。条線(肋骨文)+円形竹管文+沈線区画③橙5YR6/6④結晶片岩・角閃石	-
	8	②波状口縁部片。R L 縄文+平行沈線・爪形文区画+円形竹管文+縄文磨消し③黒褐7.5YR3/2④石英・長石	-
	9	②波状口縁部片。R L 細縄文+平行沈線・爪形文区画+円形竹管文+波頂部下に焼成前穿孔③に黄褐5YR5/4④石英・黄白色粒・角閃石	-
	10	②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石	-
	11	②平行沈線+爪形文、口唇部に刻み目③に黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石	-
	12	②R L 細縄文+平行沈線・爪形文区画+縄文磨消し③橙7.5YR6/8④結晶片岩・石英・長石	-
	13	②櫛歯状工具条線+円形竹管文③に黄褐10YR5/3④石英・長石	-
	14	②平行沈線・爪形文+鋸歯状に平行沈線③橙7.5YR6/6④結晶片岩・雲母・石英・長石	-
	15	②幅広の隆帯に斜位の刻み、平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④石英・長石・角閃石	-
	16	②波状口縁部片。条線+円形竹管文、口縁部に止めのある条線③黒褐10YR3/2④石英・長石	-
	17	②R L 縄文+平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④結晶片岩・石英・角閃石	-

東地区 土器観察表21

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
94号住居跡	18	②R L 縄文③橙5YR6/5④結晶片岩・石英・角閃石	-
	19	②無節L 縄文③にぶい橙7.5YR7/4④黄白色粒・石英・長石・角閃石	11他
	20	②R L 縄文・結節文③にぶい黄橙10YR7/3④黄白色粒・石英・角閃石	27他
	21	②平行沈線+円形竹管文③にぶい黄橙10YR7/3④黄白色粒・角閃石	-
	22	②櫛歯状工具条線と口縁部に平行沈線・爪形文+円形刺突文、口唇部に弱い刻み目③黄灰2.5Y4/1④石英・長石・黄白色粒	-
	23	②縄文+平行沈線・爪形文区画③にぶい黄橙10YR7/3④黄白色粒・石英・角閃石	-
	24	②櫛歯状工具条線・連続刺突文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	25	②縄文+平行沈線・爪形文区画+縄文磨消し+円形竹管文③にぶい黄褐10YR5/3④結晶片岩・石英・金雲母⑤内面磨く。	-
	26	②平行沈線で連続菱形状文+連続円形竹管文③灰白10YR8/2④黄白色粒・角閃石・石英	-
	27	②綾杉状に平行沈線+円形竹管文③灰黄褐10YR5/2④角閃石・長石・石英	-
	28	②R L 縄文+綾杉状沈線+円形竹管文③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石	-
	29	②櫛歯状工具弧状条線+円形竹管文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英⑤外面に煤付着。	-
	30	②櫛歯状工具木葉状文+円形竹管文③にぶい橙7.5YR6/4④黄白色粒・石英・長石・角閃石	-
	31	①底径8.2cm②平行沈線を縦位9単位間に斜位施文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・長石	-
	32	②土製円板。径4.7cm×4.4cm。R L 縄文・結節文③にぶい黄橙10YR7/3④黄白色粒・角閃石	-
	33	②条痕+縄文+平行沈線・爪形文③灰黄褐10YR4/2④石英・黄白色粒⑤北白川下層式系。	-
34	②条痕+縄文+平行沈線・爪形文③灰黄褐10YR5/2④石英・黄白色粒⑤北白川下層式系。	-	
1号土坑 第397図 P L 100	1	②櫛歯状工具条線・波状線③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・角閃石	69
	2	②単節縄文を羽状施文③明赤褐5YR5/8④金雲母・粗砂粒・石英	13
2号土坑	1	第397図、P L 100 ②波状口縁部片。平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩	-
5号土坑	1	第397図、P L 100 ②波状口縁部片。平行沈線+三角形印刻文③にぶい褐7.5YR5/4④石英	1
6号土坑	1	第397図、P L 100 ②集合沈線③橙2.5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・角閃石⑤内面に焦げ。	-
7号土坑	1	第397図、P L 100 ②浮線文に斜位の刻み目③褐灰10YR4/1④黄白色粒・石英	10
9号土坑	1	第397図、P L 100 ①器高29.7cm・口径(20.8cm)・底径12.0cm②口縁部に把手。R L 縄文を地文とし、平行沈線で文様を描出する。把手下側に三角形印刻文。口縁部下に貼付文を推定4単位垂下させる。③灰褐7.5YR4/2④金雲母・石英・角閃石	1・4・6他
	2	②波状口縁部片。縄文+平行沈線③灰黄褐10YR4/2④石英・長石・角閃石・白色粒	1
10号土坑 第360図 P L 132	2	②集合沈線③にぶい褐7.5YR5/4④結晶片岩・赤褐色粒・石英・長石	-
11号土坑	1	第397図、P L 100 ②縄文+平行沈線+円形竹管文③にぶい橙7.5YR7/4④角閃石・白色粒	-
12号土坑	1	第360図、P L 132 ②横位集合沈線+横位耳状貼付文③黒2.5Y2/1④結晶片岩・石英	6
13号土坑	1	第398図、P L 100 ②R L 縄文③灰黄褐10YR4/2④角閃石・灰白色粒⑤外面に煤付着。	-
14号土坑	1	第398図、P L 100 ①器高14.8cm・口径(18.2cm)・底径6.3cm②口縁部に向かって大きく開く。口唇部に鋸歯状刻み部分4単位。無節縄文。③にぶい赤褐5YR5/4④繊維・金雲母・石英・長石⑤補修孔2あり。外面一部に煤付着。	3
16号土坑 第398図 P L 100・101	1	①器高38.0cm・口径27.6cm・底径12.9cm②4単位の波状口縁で波頂部に3条の短沈線。横位及び垂下する沈線・短沈線と列点刺突文で文様構成。内面口縁部に稜を有す。③橙7.5YR6/6④金雲母・石英・赤褐色粒	7・8・12
	2	②沈線を斜位に交差・横位・楕円形等に施す③橙7.5YR6/8④金雲母・石英・角閃石	1
17号土坑	1	第398図、P L 100 ②集合沈線③浅黄橙10YR8/4④粗砂粒・石英・長石	-
18号土坑	1	第398図、P L 101 ①口径(31.0cm)②4単位波状口縁と推定される。口唇部に刻み目。胴部にはY字状に垂下する貼付文。沈線・短沈線・列点刺突文で文様構成。内面口縁部に稜を有す。③橙5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	1
20号土坑	1	第398図、P L 101 ②R L 縄文③黒褐10YR2/3④繊維・石英・角閃石	1
21号土坑	1	第399図、P L 101 ②頸部に平行沈線・爪形文。胴部は0段多糸縄文を菱形状に施文。③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩・黄白色粒⑤下半部に焦げ。	3・4・6・8他
22号土坑	1	第399図、P L 101 ②縄文+平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
27号土坑	1	第399図、P L 101 ②集合沈線+円形・ボタン状貼付文③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石	-
28号土坑 第399図 P L 101	1	②L R・R L 縄文+平行沈線・爪形文を肋骨文状に施文③黒褐7.5YR3/2④繊維・石英	4
	2	②0段多糸縄文を羽状施文③黒10YR2/1④繊維・黄白色粒・赤褐色粒	2

東地区 土器観察表22

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
29号土坑	1	②櫛歯状工具条線③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
第399図 P L 101	2	②櫛歯状工具横位・鋸歯状条線③褐7.5YR4/3④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
	3	②無節L縄文③灰黄褐10YR5/2④繊維・角閃石・黄白色粒	-
	4	②羽状縄文(前々段半燃か)③橙7.5YR6/6④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	1
	30号土坑	1	第400図、P L 102 ②RL縄文③にぶい橙7.5YR7/4④石英・長石・角閃石
31号土坑	1	第400図、P L 102 ②平行沈線+三角形印刻文③橙2.5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	-
32号土坑	1	第400図、P L 102 ②集合沈線+耳状貼付文③にぶい橙2.5YR6/4④粗砂粒・石英	4
34号土坑 第400図 P L 102	1	②平行沈線+棒状等の貼付文③にぶい橙5YR6/4④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
	2	①口径(6.0cm)②ミニチュア土器。無文③にぶい黄橙10YR7/3④角閃石・黄白色粒	35
35号土坑 第400図 P L 102	1	②獣面把手。貼付文+平行沈線③橙7.5YR6/6④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	①口径(39.2cm)②集合沈線③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石・黄白色粒	4
	3	②平面隅九方形の波状口縁部。裝飾性に富み波頂部は扇状。集合沈線+ボタン状貼付文。③にぶい褐7.5YR5/3④粗砂粒・黄白色粒・赤褐色粒	-
36号土坑 第400図 P L 102	1	②集合沈線③浅黄2.5Y7/3④黄白色粒	-
	2	②括れ部に半截竹管状工具による爪形文③にぶい橙5YR7/4④砂礫・角閃石⑤外面赤彩。	-
37号土坑 第400図 P L 102	1	②集合沈線+円形貼付文③にぶい褐7.5YR5/3④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
	2	②半截竹管状工具による爪形文⑤外面赤彩。36号土坑2と同一個体。	1
38号土坑 第400図 P L 102	1	②縄文+円形貼付文、口縁部に凹凸文③にぶい褐7.5YR5/3④黄白色粒・石英・角閃石	8
	2	②集合沈線③にぶい橙7.5YR6/4④石英・長石・角閃石⑤内面に焦げ。	-
	3	①底径(16.8cm)②浅鉢底部片。無文③にぶい褐7.5YR5/4④金雲母・石英・角閃石	1
39号土坑 第401図 P L 102	1	②隆帯・押し文・短沈線③明赤褐7.5YR6/4④金雲母・石英・角閃石	-
	2	②平行沈線による同心円文③にぶい橙7.5YR6/4④石英・角閃石	-
40号土坑	1	第401図、P L 102 ②集合沈線③明褐7.5YR5/8④粗砂粒・石英	1
41号土坑	1	第401図、P L 102 ②格子目状平行沈線+集合沈線③にぶい褐7.5YR5/3④角閃石・黄白色粒	6・8
42号土坑	1	第401図、P L 102 ②斜位の刻み目間に列点刺突文③黒褐10YR3/1④石英・角閃石・白色粒	1
43号土坑	1	第401図、P L 102 ②沈線+爪形文施す耳状・ボタン状貼付文③灰褐5YR4/2④粗砂粒・石英	17
44号土坑 第401図 P L 102	1	②獣面把手。地文は平行沈線③にぶい橙7.5YR6/4④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒	6
	2	①口径4.2cm②ミニチュア土器。無文。焼成前小孔。③明赤褐2.5YR5/6④石英・黄白色粒	7
45号土坑	1	第401図、P L 102 ②LR・RL縄文③にぶい赤褐2.5YR4/4④繊維・結晶片岩・石英	1
47号土坑 第401図 P L 103	1	②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文、口縁部に凹凸文③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石	8
	2	②集合沈線+耳状・円形貼付文③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	23
	3	②無節L縄文+口縁部に凹凸文+ボタン状貼付文③にぶい褐7.5YR5/4④角閃石・黄白色粒	28
	4	②格子目状に平行沈線+円形貼付文③にぶい黄褐10YR5/4④石英・角閃石・黄白色粒	29
	5	②波状口縁部片。LR・RL細縄文+平行沈線③橙5YR6/6④石英・角閃石・黄白色粒	21
48号土坑 第402図 P L 103	1	②粗雑な平行沈線、口縁部に凹凸文③にぶい橙7.5YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②集合沈線+ボタン状貼付文、口縁部に凹凸文③にぶい黄橙④石英・角閃石・赤褐色粒	-
	3	②浅鉢片。深い平行沈線に爪形文③黒7.5YR2/1④石英・長石・角閃石⑤赤彩の痕跡あり。	-
49号土坑 第403図 P L 103	1	①頸部径(32.4cm)②沈線+刺突文③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・石英	1
	2	①底径(11.9cm)②無節縄文③明赤褐5YR5/8④粗砂粒・石英・長石・角閃石	16他
50号土坑	1	第403図、P L 103 ②沈線・列点刺突文④金雲母・石英・角閃石⑤内面に焦げ。	1
51号土坑 第403図 P L 104	1	②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石	-
	2	②集合沈線③浅黄橙10YR8/4④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	20
	3	②扇状の波状口縁部。集合沈線+ボタン状貼付文、口縁部に凹凸文③にぶい黄褐10YR5/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-

東地区 土器観察表23

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
52号土坑 第404図 P L 104	1	②波状口縁と思われる。R L 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文区画+縄文磨消し③明赤褐5YR5/6④粗砂粒・石英・チャート	3
	2	②縄文+平行沈線・爪形文区画+円形竹管文+磨消し③にぶい橙7.5YR7/3④結晶片岩・石英	-
	3	②R L 縄文・結節文③橙7.5YR7/6④石英・角閃石・黄白色粒	18
53号土坑 第404図 P L 104	1	②櫛歯状工具横位条線③黒褐5YR2/1④石英・黄白色粒	7
	2	②粗雑な横位平行沈線⑤にぶい黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	14
	3	②R L 縄文+平行沈線・爪形文+円形竹管文+縄文磨消し③にぶい褐7.5YR5/3④石英・長石	-
	4	②0段多条R L 縄文+櫛歯状工具条線③にぶい黄橙10YR7/4④石英・角閃石	26
	5	②平行沈線による肋骨文+円形竹管文③暗褐7.5YR3/3④金雲母・石英	19
55号土坑	1	第404図、P L 104 ②集合沈線③明赤褐5YR3/2④石英・角閃石・黄白色粒	-
56号土坑 第404図 P L 104	1	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	11
	2	②R L 縄文③浅黄橙10YR8/4④石英・角閃石・黄白色粒	16
	3	①底径(8.2cm) ②R L 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英・角閃石	30
57号土坑	1	第405図、P L 104 ②隆帯+L R 縄文+単沈線③黒褐5YR2/2④金雲母・石英・角閃石	-
58号土坑	1	第405図、P L 104 ②縄文+平行沈線、口唇部に渦巻状貼付文③橙5YR6/6④石英・角閃石	-
59号土坑	1	第405図、P L 104 ②平行沈線、口唇部に刻み③橙5YR6/8④黄白色粒・石英⑤焼成前の穿孔あり。	-
64号土坑 第405図 P L 105	1	①口径(21.2cm) ②L R 縄文+平行沈線+区画内に格子目状に平行沈線・一部に爪形文③にぶい赤褐5YR5/3④結晶片岩・金雲母・石英・角閃石	-
	2	①底径(13.0cm) ②結節文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・金雲母・石英・角閃石⑤内面に焦げ。	13
	3	②貼付文+平行沈線⑤明黄褐10YR7/6④金雲母・石英・角閃石	-
	4	②横位平行沈線+口縁部に三角形印刻文③にぶい橙5YR6/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
65号土坑 第406図 P L 105	1	②縄文+沈線+刺突文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英	3
	2	②縄文+沈線+刺突文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英	1
66号土坑 第406図 P L 105	1	②平行沈線+刺突文③黒褐5YR2/2④石英・黄白色粒	-
	2	②沈線+刺突文、口縁部に隆帯③にぶい赤褐2.5YR4/4④石英・角閃石・赤褐色粒・白色粒	-
67号土坑 第406図 P L 105	1	②平行沈線+三角形印刻文、口縁部に短沈線、内面口縁部沈線一条巡る③灰褐5YR4/2④結晶片岩・石英・角閃石・赤褐色粒	8
	2	②波状口縁部片。幅広粘土を帯状に貼付けて短沈線+平行沈線+三角形印刻文、口縁部に短沈線、内面口縁部に沈線巡らせ波頂部は渦巻き状に押し文③明赤褐5YR4/6⑤1と同一個体。	7・11
	3	②縄文+粘土を帯状に貼付け上部には円錐状の貼付文・短沈線+平行沈線+三角形印刻文③黒褐5YR2/2④1・2と同一個体と思われる。	4
68号土坑 第407図 P L 105	1	①口径32.2cm②3単位の小さな波状口縁。波状部に逆U字状の貼付け文+L R 縄文+胴上半部に平行沈線と沈線を格子目状交差+縦位・横位平行沈線③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・石英	6・13・16他
	2	②縄文+平行沈線、口唇部に連続爪形文③にぶい黄橙10YR6/4④石英・角閃石・白色粒	-
70号土坑	1	第407図、P L 106 ②縄文+浮線文に刻み目③にぶい黄橙10YR6/3④石英・長石・角閃石	-
71号土坑 第407図 P L 106	1	②L R 縄文+平行沈線③にぶい赤褐5YR4/4④結晶片岩・石英	13
	2	②R L 縄文+焼成前穿孔、口唇部に刻み目③明褐7.5YR5/6④石英・長石⑤外面に煤付着。	5
72号土坑 第408図 P L 106	1	②R L 縄文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石⑤外面に煤付着。	1
	2	②縄文+粗雑な平行沈線③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・角閃石・黄白色粒	3
73号土坑	1	第408図、P L 106 ②0段多条縄文③明黄褐10YR7/6④石英・長石	1
74号土坑	1	第408図、P L 106 ②平行沈線+刺突文③明黄褐10YR7/6④石英・角閃石⑤内面に焦げ。	-
75号土坑	1	第408図、P L 106 ②集合沈線+円形貼付文③にぶい黄褐10YR5/3④石英・角閃石・白色粒	-
77号土坑	1	第408図、P L 106 ②平行・同心円状沈線+刺突文③明赤褐2.5YR3/3④結晶片岩・石英	-
78号土坑 第408図 P L 106	1	②R L 縄文+櫛歯状工具条線③明赤褐5YR3/3④結晶片岩・石英・長石	5
	2	②平行沈線・爪形文、隆帯上に縄文原体を交互斜めに押圧③にぶい橙5YR6/4④石英・角閃石	26
	3	②平行沈線肋骨文+円形刺突文、口唇部に刻み目③にぶい橙7.5YR6/4④微砂粒・石英	27
	4	②平行沈線・爪形文、口唇部に小突起③橙5YR6/8④結晶片岩・石英・角閃石	37

東地区 土器観察表24

遺構番号／頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
78号土坑 第408図 P L 106	5	②R L 縄文+平行沈線・爪形文+縄文磨消し③明赤褐2.5YR5/6④結晶片岩・石英・角閃石	6
	6	②縄文+平行沈線・爪形文+円形竹管文③にぶい黄橙10YR7/3④石英・角閃石・白色粒	12
	7	②縄文+平行沈線・爪形文+縄文磨消し+円形竹管文③にぶい黄橙10YR7/3④石英・角閃石	7
79号土坑 第408図 P L 106	1	②集合沈線③にぶい褐7.5YR5/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②長方形の土製品。周縁に隆起線を巡らせる。③にぶい橙7.5YR7/3④角閃石・黄白色粒	-
80号土坑 第408図 P L 106	1・2	②口唇部に小突起。平行沈線・爪形文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・角閃石・黄白色粒	-
	3	②菱形に平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・赤褐色粒	-
	4	②羽状縄文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・石英・チャート・黄白色粒	-
	5	②浅い平行沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・微砂粒	-
	81号土坑 第409図 P L 106	1	②斜格子状に平行沈線③暗褐10YR3/4④繊維・角閃石・黄白色粒
2	②組紐文+コンバズ文③明黄褐10YR7/6④繊維・石英・長石・黄白色粒	2	
3	②平行沈線・爪形文③褐10YR4/6④繊維・石英・長石	1	
4	②0段多条縄文を羽状施文③褐10YR4/4④繊維・角閃石・黄白色粒	8	
5	①底径6.2cm②無節縄文③明黄褐10YR6/6④繊維・粗砂粒・角閃石・黄白色粒⑤内面に焦げ。	4	
82号土坑	1	第409図、P L 107 ②結節浮線文③明黄褐10YR7/6④石英・角閃石・黄白色粒	3
83号土坑	1	第409図、P L 107 ②隆帯から橋状小突起、沈線+刺突文③暗褐10YR3/3④金雲母・石英	-
84号土坑	1	第409図、P L 107 ②沈線+列点刺突文③にぶい褐7.5YR5/4④金雲母・石英	1
89号土坑	1	第409図、P L 107 ②浮線文に刻み目③浅黄2.5Y7/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
90号土坑 第409図 P L 107	1	②波状口縁部片。羽状縄文+鋸歯状平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・雲母	11他
	2	②撚糸文L+円形貼付文、口唇部に刻み目③橙5YR6/6④繊維・角閃石・黄白色粒	-
	3	②0段多条縄文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
91号土坑	1	第410図、P L 107 ②R L 縄文+平行沈線+円形竹管文③明赤褐2.5YR5/6④結晶片岩・石英	-
93号土坑	1	第410図、P L 107 ①器高16.7cm・口径(16.9cm)・底径7.8cm②縄文+平行沈線③浅黄2.5Y7/4④石英・角閃石・白色粒	1
94号土坑	1	第410図、P L 107 ②縄文+沈線、内面口縁部に稜③7.5YR4/2④結晶片岩・石英・長石	-
97号土坑	1	第410図、P L 107 ②L R 縄文+縦位平行沈線③明赤褐5YR5/6④石英・長石・角閃石	-
98号土坑 第410図 P L 107	1	②(無節)縄文後ナデ③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	1
	2	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・角閃石	-
99号土坑	1	第410図、P L 107 ②R L 縄文+横位平行沈線③橙5YR6/8④結晶片岩・石英・角閃石	-
102号土坑	1	第410図、P L 107 ②無節縄文+沈線区画内の縄文磨消し③浅黄橙7.5YR6/8④石英・白色粒	1
103号土坑 第410図 P L 107	1	②菱形に平行沈線③明黄褐10YR7/6④繊維・石英・角閃石⑤外面に煤附着。	42
	2	②0段多条縄文③黒褐10YR4/6④繊維・粗砂粒・石英・白色粒	38
104号土坑	1	第410図、P L 107 ②無節L 縄文③黒褐10YR3/1④繊維・石英・黄白色粒	-
107号土坑 第410図 P L 108	1	①器高31.6cm・口径23.4cm・底径13.8cm②胴上半部の片側に沈線で渦巻状等の文様を描く③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・石英	-
	2	①底径(9.2cm)②沈線+刺突文③明褐7.5YR5/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
108号土坑 第410図 P L 108	1	①器高16.5cm・口径(9.8cm)・底径6.1cm②平行沈線を斜位交互に施し、矢羽状文様を描出。③にぶい赤褐5YR4/3④石英・長石・角閃石・白色粒	2
	2	①底径7.6cm②単節縄文③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石・白色粒	1
110号土坑	1	第411図、P L 108 ①口径(18.8cm)②波状口縁(4単位で双山状と思われる)。波状部脇に三角形小突起。口縁部隆帯区画+L R 縄文+隆帯上下に斜格子文帯+平行沈線③にぶい赤褐5YR4/3④結晶片岩・石英・長石⑤内面下半に焦げ。	5・7・11他
111号土坑	1	第411図、P L 108 ②0段多条縄文③橙7.5YR6/8④繊維・結晶片岩・粗砂粒	2
112号土坑	1	第411図、P L 108 ②沈線+三角形印刻文・口唇部、長楕円形に粘土組貼付け③にぶい褐7.5YR5/4④石英・長石・角閃石	-
113号土坑	1	第411図、P L 108 ②縦位沈線+刺突文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
114号土坑 第411図 P L 108	1	②口縁部に凹凸文、集合沈線+ボタン状貼付文③浅黄橙10YR8/4④結晶片岩・石英・角閃石	-
	2	②鋸歯状工具条線文様③明黄褐10YR7/6④繊維・石英・黄白色粒⑤紛れ込み遺物。	-

東地区 土器観察表25

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
115号土坑 第411図 P L 108	1	②平行沈線・爪形文③明黄褐10YR7/6④繊維・石英・白色粒⑤波状口縁と思われる。	2
	2	②R L 縄文③橙5YR6/6④繊維・砂礫・石英・白色粒⑤底部付近の破片。	5
	3	②L R 縄文③にぶい橙10YR6/4④繊維・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	-
118号土坑	1	第411図、P L 108 ②深い平行沈線③褐灰7.5YR4/1④粗砂粒・石英・長石・赤褐色粒	-
120号土坑	1	第412図、P L 108 ②平行沈線で文様描出③褐7.5YR4/3④金雲母・石英	1
121号土坑 第412図 P L 108	1	②平行沈線+短沈線③にぶい褐7.5YR5/3④金雲母・石英・角閃石	-
	2	②L R 縄文+沈線+刺突文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・角閃石・白色粒	-
122号土坑 第412図 P L 108	1	②隆部下に縄文③灰黄2.5Y6/2④石英・角閃石・白色粒⑤外面に煤付着。	-
	2	②縄文+垂線+磨消し③黒褐2.5Y3/2④石英・角閃石・白色粒・赤褐色粒	-
123号土坑	1	第412図、P L 109 ②縄文+浮線文に刻み目③にぶい橙7.5YR6/4④石英・角閃石・白色粒	1
125号土坑	1	第412図、P L 109 ②縄文+横位平行沈線③橙7.5YR7/6④角閃石・黄白色粒	1
126号土坑 第412図 P L 109	1	①器高20.0cm・口径18.5cm・底径6.5cm②半截竹管状工具による集合沈線(矢羽状線・横位線)+胴部下半の稜部分と下段耳状貼付文間の隆線上に凹凸文+耳状・ボタン状貼付文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・長石・角閃石・白色粒	1
	2	①口径18.5cm②集合沈線+耳状・円形・棒状貼付文③黄橙10YR8/6④結晶片岩・粗砂粒・石英・長石・角閃石⑤煤付着。	-
127号土坑 第413図 P L 109	1	②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文+爪形刺突文③橙5YR6/6④粗砂粒・石英	-
	2	②集合沈線+耳状・円形貼付文+凹凸文③にぶい褐7.5YR6/3④石英・長石・白色粒	-
	3	②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③褐7.5YR4/3④粗砂粒・石英・黄白色粒	-
	4	②集合沈線+ボタン状貼付文③にぶい褐7.5YR5/4④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	1
128号土坑 第413図 P L 109	1	②羽状縄文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	3
	2	②R L 縄文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
	3	②縄文+平行沈線③灰黄褐10YR5/2④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	6
129号土坑 第413図 P L 109	1	②L R 縄文・結節文③にぶい褐7.5YR5/4④金雲母・粗砂粒・石英⑤胴部最大径推定38.6cm。	1
	2	②波頂部に小突起。平行沈線・爪形文③黒10YR2/1④繊維・石英・黄白色粒	-
	3	②L R 縄文③褐7.5YR4/3④石英・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	4	②縄文+肋骨文状に平行沈線③橙7.5YR7/6④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	5	②縄文+平行沈線③暗赤褐5YR3/4④結晶片岩・雲母・石英	-
130号土坑	1	第413図、P L 110 ②平行沈線③明黄褐10YR7/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
131号土坑	1	第413図、P L 110 ②歯状工具条線③明褐7.5YR5/6④繊維・粗砂粒・石英・チャート	-
132号土坑 第414図 P L 110	1	②R L 縄文③暗褐7.5YR3/4④結晶片岩・石英・長石	-
	2	②R L 縄文③にぶい橙7.5YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤胴部最大径推定34.4cm。	3他
	3	②L R 縄文+平行沈線・爪形文③明褐7.5YR5/6④繊維・黄白色粒・黒色粒	2
133号土坑	1	第414図、P L 110 ②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③にぶい黄橙10YR6/4④白色粒	-
134号土坑	1	第414図、P L 110 ②縄文+沈線+刺突文③明赤褐5YR5/6④粗砂粒・石英・長石・赤褐色粒	-
135号土坑	1	第414図、P L 110 ①底径8.5cm②縄文+集合沈線+円形貼付文③明黄褐10YR7/6④石英・長石・黒色粒・赤褐色粒⑤内面下半に焦げ。	1
140号土坑	1	第414図、P L 110 ②口縁部無文③淡黄2.5Y8/3④石英・角閃石・黄白色粒	1
142号土坑 第414図 P L 110	1	①底径16.9cm②底部丸みを持ち、段を有す。無文。推定9孔。③淡黄5Y8/4④黄白色粒・角閃石⑤内面に黄白色の澱粉状物付着。	1
	2	②集合沈線③暗灰黄2.5Y5/2④黄白色粒・角閃石	-
144号土坑	1	第414図、P L 110 ②縦位隆線+縄文+平行沈線③褐7.5YR4/4④金雲母・石英・角閃石	1
145号土坑 第414図 P L 110	1	②口縁部内側に折り返す。平行沈線③にぶい黄褐10YR5/4④金雲母・石英・角閃石	-
	2	②縄文+平行沈線③にぶい黄褐10YR5/6④金雲母・石英・角閃石	-
146号土坑 第414図 P L 110	1	②把手部分。粘土紐貼付け+平行沈線、裏面に縄文。③橙5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	1
	2	②波状口縁部片。平行沈線③黒褐7.5YR2/2④金雲母・石英・角閃石	4

東地区 土器観察表26

遺構番号／頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
148号土坑 第415図 P L 110	1	②0 段多条L R縄文③に黄褐10YR5/4④繊維・石英・角閃石・白色粒	-
	2	②付加条縄文③に黄褐10YR7/4④繊維・粗砂粒・石英・長石	2
149号土坑	1	第415図、P L 110 ②R L縄文③橙5YR6/6④結晶片岩・雲母・石英・長石	-
150号土坑 第415図 P L 110	1	②縦位平行沈線+刺突文③褐7.5YR4/4④結晶片岩・石英・長石	-
	2	②R L細縄文+平行沈線+刺突文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・長石・角閃石	-
151号土坑	1	第415図、P L 111 ②(沈線区画内に縄文) ③橙7.5YR6/6④石英・角閃石・白色粒	-
152号土坑 第415図 P L 111	1	②R L縄文③明赤褐5YR5/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	2	①底径(13.5cm) ②肋骨文状に平行沈線③明赤褐5YR5/8④結晶片岩・石英	-
153号土坑	1	第415図、P L 111 ①底径8.1cm②高台部③赤褐5YR4/8④黄白色粒・黒色粒⑤赤彩の痕跡。	1
154号土坑 第415図 P L 111	1	②平行沈線③明褐7.5YR5/8④金雲母・石英	-
	2	②縄文+平行沈線③褐7.5YR4/4④金雲母・石英	-
155号土坑	1	第415図、P L 111 ②波状口縁部片。斜格子状平行沈線後に隆線・沈線区画③に黄褐7.5YR5/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
157号土坑	1	第415図、P L 111 ②R L縄文③に橙5YR6/4④結晶片岩・石英・長石⑤内面焦げ。	-
158号土坑 第416図 P L 111	1	①口径25.6cm②4 単位の波状口縁。波頂部は3つの山状。内面に稜を3か所有す。口唇部に刻み目があり、間に縄文を押しつける。胴部、R L縄文(下半の縄文はナデ消されている)+沈線+刺突文+貼付文(剥落のため形状不鮮明) ③褐7.5YR4/4④結晶片岩・石英・長石・角閃石⑤内面下半が焦げる。	7
	2	①底径15.0cm②R L縄文③に黄褐7.5YR5/3④結晶片岩・石英・白色粒⑤内面に焦げ。	25他
	3	①底径(11.4cm) ②縄文・結節文③橙5YR6/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
160号土坑	1	第416図、P L 111 ②櫛歯状工具縦位コンパス文③褐7.5YR4/6④金雲母・石英	1
161号土坑	1	第416図、P L 111 ②斜格子文+平行沈線区画③明褐7.5YR5/6④金雲母・石英・角閃石	-
164号土坑	1	第416図、P L 111 ②羽状縄文③黒10YR2/1④繊維・石英・白色粒	-
168号土坑	1	第416図、P L 111 ①器高25.2cm・口径22.1cm・底径13.0cm②R L細縄文+口縁部に隆帯・沈線+刻み目・刺突文、口唇部に刻み目③橙5YR6/6④結晶片岩・石英⑤外面に煤付着。	1
175号土坑	1	第417図、P L 112 ②斜格子状に平行沈線③明褐7.5YR5/6④金雲母・石英・角閃石	2
177号土坑 第417・418図 P L 112	1	②R L縄文・口唇部に刻み目③浅黄橙10YR8/3④繊維・角閃石・白色粒⑤紛れ込みの遺物。	21
	2	②矢羽状集合沈線+円形貼付文③暗赤褐5YR3/2④石英・角閃石・白色粒	-
	3	①底径(13.4cm) ②矢羽状沈線③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石⑤内面に焦げ。	1他
	4	②集合沈線+三角形印刻文③浅黄橙10YR8/4④石英・角閃石・白色粒	18
	5	①底径(10.2cm) ②櫛歯状工具条線文③に赤褐5YR5/4④金雲母・石英・角閃石	8
178号土坑	1	第418図、P L 112 ②斜格子状に平行沈線③橙7.5YR7/6④石英・長石・角閃石	-
180号土坑	1	第418図、P L 112 ②付加条縄文③明褐7.5YR5/6④繊維・粗砂粒・石英・角閃石	-
181号土坑	1	第418図、P L 112 ②平行沈線+三角形印刻文③浅黄橙7.5YR8/3④粗砂粒・石英・長石	-
182号土坑	1	第418図、P L 112 ②R L縄文③橙5YR6/8④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
183号土坑	1	第418図、P L 112 ②無節縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・角閃石・赤褐色粒	1
184号土坑 第418図 P L 112	1	②集合沈線+円形貼付文③に黄褐7.5YR7/4④結晶片岩・粗砂粒・石英・白色粒	-
	2	②組紐文③浅黄橙7.5YR8/4④繊維・石英・白色粒⑤紛れ込みの遺物。	-
185号土坑 第418図 P L 112	1	②R L縄文+浮線文に刻み目③に黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。内面下半に焦げ。	-
	2	②浅鉢口縁部片。浮線文に刻み目+孔を巡らせる③橙7.5YR6/6④粗砂粒・白色粒・赤褐色粒	-
188号土坑 第418図 P L 112	1	②R L縄文+円形貼付文・波状貼付文③褐7.5YR4/3④粗砂粒・石英・白色粒・赤褐色粒	-
	2	②櫛歯状工具による波状線③に黄橙10YR6/3④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
191号土坑	1	第419図、P L 112 ②(縄文)+縦位沈線③橙7.5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	1
192号土坑	1	第419図、P L 112 ②横位・斜位の平行沈線③明赤褐5YR5/6④金雲母・石英・赤褐色粒	-
194号土坑	1	第419図、P L 112 ②(縄文)+集合沈線③に黄褐10YR4/3④石英・白色粒	-
195号土坑	1	②波状口縁部片。格子状沈線を平行沈線区画③灰黄褐10YR6/2④金雲母・石英・角閃石	5

東地区 土器観察表27

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
195号土坑 第419図 P L 112	2	②縄文+平行沈線③褐10YR4/6④金雲母・石英・角閃石	-
	3	②L R 縄文③褐10YR4/4④金雲母・石英・角閃石	3
196号土坑 第419図 P L 112	1	②無文③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②R L 縄文+連続爪形文③に赤褐5YR5/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
197号土坑 第419図 P L 113	1	②口唇部に三角形小突起破片内に2。集合沈線③に赤褐5YR5/4④石英・黄白色粒	-
	2	②集合沈線③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石・黄白色粒	-
	3	②環状把手。下側に粘土紐を巻き結節沈線を加える③浅黄橙10YR8/4④石英・黄白色粒	-
198号土坑 第419図 P L 113	1	①口径(24.8cm)②緩やかな波状口縁で波頂部に貼付文。下半部に無節L 縄文+上半部に櫛歯状工具条線で菱形構成+縦位刺突文③黄橙7.5YR7/8④繊維・石英・長石・白色粒	1
	2	②波状口縁か。無節縄文を羽状施文③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	-
	3	②弧状・渦巻き状等の平行沈線③に褐7.5YR5/3④繊維・石英・角閃石・白色粒	-
	4	②無節L 縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・粗砂粒・石英・長石	-
199号土坑 第420図 P L 113	1	②羽状縄文+頸部に平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	13
	2	②平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・粗砂粒・石英・長石	18
	3	②付加条縄文③褐7.5YR4/3④繊維・粗砂粒・石英・長石	23
200号土坑 第420図 P L 113	1	②複節縄文③褐7.5YR4/3④結晶片岩・雲母・石英・長石	20
	2	②R L 縄文③明褐7.5YR5/6④結晶片岩・雲母・石英・長石	5・30
	3	②結節あるR L 縄文③明褐7.5YR5/6④粗砂粒・石英・長石・角閃石・黄白色粒	16
	4	②L R 縄文+平行沈線・爪形文③明赤褐5YR5/8④繊維・石英・黄白色粒	-
	5	②R L 縄文+円形竹管文③橙7.5YR6/8④繊維・石英・長石・角閃石・白色粒	-
	6	②R L 縄文③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・長石・角閃石・白色粒⑤外面に煤付着。	17
	7	①底径3.4cm②手捏土器③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・角閃石・白色粒	6
201号土坑 第420図 P L 113	1	②R L 縄文③に褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・石英・黒色粒	-
	2	②R L 縄文③橙5YR6/6④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	-
202号土坑	1	第420図、P L 113 ②縄文+浮線文に刻み目+刺突文③灰褐7.5YR6/2④石英・角閃石・白粒	-
203号土坑 第421図 P L 114	1	②浮線文に刻み目③に褐7.5YR5/4④粗砂粒・石英・長石	-
	2	①底径(20.1cm)②R L 縄文+浮線文に刻み目③に黄橙10YR7/4④粗砂粒・石英・長石	-
204号土坑 第421図 P L 114	1	②R L 縄文③明赤褐5YR5/6④石英・長石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	2	②撚りのしっかりしないR L 縄文③に褐7.5YR5/3④結晶片岩・雲母・石英・チャート	-
	3	②R L 縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・雲母・石英・長石	-
	4	②R L 縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石・黄白色粒	1
205号土坑 第421図 P L 114	1	②口唇部に円孔のある把手。胴部にも橋状把手が斜めに付けられ、さらに環状把手が付けられている。隆線貼付後、平行沈線で文様を描く。中位に三角形印刻文。口唇部内面側に平行沈線。③に赤褐5YR4/3④石英・長石・角閃石・白色粒	5
	2	①底径9.3cm②底部片。沈線③橙7.5YR6/6④石英・長石・白色粒・黒色粒	2
	3	②内面口縁部に稜。細縄文+縦位・横位隆帯に刺突、口唇部に刺突③明赤褐5YR5/6④雲母・粗砂粒・石英・長石・角閃石	1
	4	②R L 縄文③に赤褐5YR4/4④石英・長石・白色粒・黒色粒	-
	5	②無節縄文+平行沈線③褐7.5YR4/4④繊維・砂礫・石英・角閃石・黄白色粒⑤紛れ込み遺物。	-
206号土坑 第421・422図 P L 114	1	②細縄文+平行沈線+刺突文③に赤褐5YR5/3④結晶片岩・石英・黒色粒・白色粒	-
	2	②縦隆帯+細縄文+平行沈線文様③に赤褐2.5YR5/4④結晶片岩・石英・黒色粒・白色粒	-
	3	②縄文+爪形文③に赤褐5YR5/4④金雲母・石英・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	4	②縦位平行沈線③橙5YR6/6④石英・長石・白色粒	-
207号土坑 第422図 P L 114	1	②隆線と太めの沈線で文様を描き刺突を加える③に赤褐5YR4/3④石英・角閃石・白色粒	1
	2	②R L 縄文+焼成前穿孔+平行沈線爪形文、円形竹管文③浅黄橙7.5YR8/6④石英・長石・角閃石⑤紛れ込みの遺物。	3・5
208号土坑	1	第422図、P L 115 ②内面口縁部に稜。縦位沈線+刺突文、口唇部に刺突文③暗赤褐5YR3/2④金雲母・石英	1

東地区 土器観察表28

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
208号土坑	2	第422図、P L 115 ②横位沈線 + 刺突文③にぶい赤褐5YR5/4④金雲母・石英	-
210号土坑 第422図 P L 115	1	②口縁端部外折。平行沈線・爪形文③赤褐5YR4/6④石英・長石・白色粒	-
	2	②縄文 + 平行沈線 + 刺突文③赤褐5YR4/8④金雲母・石英	-
	3	②縦位平行沈線 + 短沈線③明赤褐5YR5/8④金雲母・石英	-
	4	②縦位沈線 + 刺突文③明赤褐5YR5/6④金雲母・石英	-
	5	②R L 縄文③明褐7.5YR5/6④石英・長石・白色粒・黒色粒⑤紛れ込み遺物。	-
211号土坑 第423図 P L 115	1	②節状工具条線③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・粗砂粒・石英・チャート	-
	2	②R L 縄文③橙7.5YR6/6④粗砂粒・長石	-
213号土坑 第423図 P L 115	1	②羽状縄文③明黄褐10YR7/6④繊維・石英・長石	1
	2	②平行沈線・爪形文③黄褐10YR5/6④繊維・白色粒	-
215号土坑 第423図 P L 115	1	②L R 縄文③明赤褐5YR5/6④微砂粒	-
	2	②浅い平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・黄白色粒	-
216号土坑 第423図 P L 115	1	②沈線斜格子文を平行沈線で区画。口唇部と平行沈線下に縄文を押圧。③橙7.5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	-
	2	②環状の波頂部。破片内無文③褐7.5YR4/4④金雲母・石英・角閃石・赤褐色粒	2・12
	3	②沈線 + 刺突文③黒7.5YR2/1④金雲母・石英・角閃石・赤褐色粒	3
	4	②縦位沈線 + 刺突文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・粗砂粒・石英・黒色粒	8
217号土坑 第423図 P L 115	1	②無節L 縄文③浅黄橙10YR8/4④繊維・石英・長石・黒色粒	-
	2	②R L 縄文 + 平行沈線③明黄褐10YR7/6④石英・長石・角閃石	-
	3	②R L 縄文 + 平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・赤褐色粒	-
	4	②平行沈線・(コンパス文) ③橙5YR6/6④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	5	②R L 縄文 + 平行沈線③浅黄橙10YR8/4④石英・白色粒・黒色粒	-
220号土坑 第424図 P L 115	1	②波状口縁部片。無節縄文を羽状施文③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	7
	2	②棒状工具沈線・半截竹管平行沈線・爪形文③橙5YR6/6④繊維・石英・白色粒	-
	3	②浅い平行沈線③橙2.5YR6/6④繊維・黄白色粒	-
	4	②単節縄文を羽状に配す③橙7.5YR7/6④繊維・結晶片岩・石英・長石	3
221号土坑 第424図 P L 115	1	①口径(30.9cm) ②単節縄文を方向を変えて施文③灰褐5YR4/2④繊維・結晶片岩・石英	27他
	2	②単節縄文を羽状施文、口唇部に刻み目③明赤褐2.5YR5/6④繊維・結晶片岩・石英	16
222号土坑 第424図 P L 116	1	②R L 縄文③にぶい褐7.5YR5/4④結晶片岩・雲母・石英・長石	2
	2	①底径(9.6cm) ②擦糸文③にぶい赤褐2.5YR4/4④粗砂粒・石英	16
	3	①底径13.2cm②縄文 + 平行沈線・爪形文 + 円形刺突文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・黄白色粒	9
	4	①底径10.6cm②肋骨文状に平行沈線・爪形文 + 円形刺突文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒⑤外面底部に煤付着。	1
223号土坑 第425図 P L 116	1	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	2	②R L 縄文③にぶい黄橙10YR7/3④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒	-
	3	②縄文 + コンパス文③灰黄2.5Y7/2④繊維・石英・長石・赤褐色粒	-
224号土坑	1	第425図、P L 116 ②付加条縄文③橙5YR7/6④繊維・粗砂粒・石英・チャート⑤内面に焦げ。	-
225号土坑 第425図 P L 116	1	②R L 縄文 + 平行沈線・爪形文③黒褐5YR2/1④繊維・石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	2	②R L 縄文を基調③にぶい褐7.5YR5/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	3	②L R 縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	-
226号土坑 第425図 P L 116	1	②羽状縄文③明褐7.5YR5/6④繊維・石英・黄白色粒	-
	2	②平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・結晶片岩・白色針状粒・石英	-
228号土坑 第425図 P L 116	1	②(前々段半撚) 縄文 + 結節状平行沈線・コンパス文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・石英⑤外面に煤付着。	10
	2	②無節縄文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・角閃石	5

東地区 土器観察表29

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
228号土坑	3	②コンパス文③におい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・チャート	1
	4	①底径(11.0cm)②羽状縄文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・角閃石・黄白色粒⑤内面に焦げ。	4
229号土坑 第426図 P L 116・117	1	②R L縄文③におい橙7.5YR7/4④石英・角閃石・白色粒⑤外面に煤附着。	19
	2	②無文③におい黄橙10YR6/4④白色針状粒・黄白色粒⑤ナデ条痕あり。	22
	3	②直前段半燃L L縄文③暗赤褐5YR3/3④石英・長石・黒色粒	1
	4	②R L縄文+浅い平行沈線③暗赤褐5YR3/2④石英・長石・黄白色粒	2・10
	5	①底径(6.0cm)②(無節縄文)③におい褐7.5YR6/3④繊維・石英・長石・黒色粒	31他
232号土坑	1	第426図、P L 117 ②R L縄文+浮線文に刻み目③におい黄橙10YR5/3④石英・角閃石	-
234号土坑 第426図 P L 117	1	②平行沈線+刺突で文様描出③暗褐7.5YR5/6④粗砂粒・長石⑤内面に焦げ。	-
	2	②縦位平行沈線+刺突文③黒褐10YR3/1④金雲母・石英・角閃石	-
237号土坑	1	第426図、P L 117 ②羽状縄文③におい褐7.5YR5/4④繊維・粗砂粒・チャート・赤褐色粒	1
240号土坑	1	第426図、P L 117 ①底径7.5cm②R L縄文③橙5YR6/6④微砂粒・黒色粒⑤外面に煤附着。	-
241号土坑	1	第426図、P L 117 ②沈線区画内に縄文③明黄褐10YR7/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
242号土坑	1	第426図、P L 117 ②R L縄文+複雑な平行沈線・爪形文③におい黄橙10YR7/3④繊維・石英・長石・赤褐色粒	1
243号土坑 第360図 P L 132	1	②集合沈線+耳状突起③黄橙7.5YR7/8④粗砂粒・石英・長石・黒色粒・白色粒	9
	2	②集合沈線+耳状突起+ボタン状貼付文③におい黄橙10YR6/4④粗砂粒・結晶片岩・石英	-
	3	②集合沈線+耳状突起③におい黄橙10YR6/3④石英・角閃石・白色粒	-
	4	②集合沈線+ボタン状貼付文③黄灰2.5Y4/1④石英・角閃石・白色粒	-
	5	①底径4.9cm②集合沈線+ボタン状貼付文③浅黄橙10YR8/4④石英・角閃石・白色粒	1
244号土坑 第426図 P L 117	1	②R L縄文+口縁部下隆線に刺突文③におい橙7.5YR6/4④石英・角閃石・白色粒	1
	2	②R L縄文+浮線文に刻み目③におい褐7.5YR6/3④石英・角閃石・白色粒⑤外面に煤附着。	-
246号土坑 第427図 P L 117	1	②鋸歯状沈線+刺突文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・角閃石	-
	2	②L状平行沈線に沿って刺突文③におい赤褐5YR4/3④金雲母・石英・長石・角閃石	4
247号土坑	1	第427図、P L 117 ②R L縄文③におい黄橙10YR6/3④雲母・粗砂粒・石英・長石	1
249号土坑	1	第427図、P L 117 ②口縁部内側に折り返す。隆帯に刺突・平行沈線・三角形印刻文③橙5YR6/6④結晶片岩・粗砂粒・石英	-
253号土坑 第427図 P L 117	1	②縄文+平行沈線+刺突文③黒褐7.5YR3/2④金雲母・石英・白色粒・赤褐色粒	-
	2	②縦位平行沈線③暗赤褐5YR3/2④粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	2・8他
	3	②縄文+平行沈線(斜格子状・弧状等)③橙5YR6/6④粗砂粒・石英・長石・角閃石	4
	4	①底径6.0cm②破片内無文③橙2.5YR6/6④金雲母・石英・黒色粒	6
254号土坑 第427図 P L 118	1	②縦位平行沈線③暗赤褐5YR3/6④石英・黒色粒・黄白色粒	-
	2	②沈線+刺突文③黒褐7.5YR3/2④金雲母・石英⑤外面に煤附着。	-
255号土坑	1	第428図、P L 118 ②波頂部片。平行沈線。直径2.3cmほどの円形孔あり。③橙7.5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	1
256号土坑 第428図 P L 118	1	②口縁部に短沈線+横位沈線+刺突文③褐7.5YR4/3④金雲母・粗砂粒・石英	-
	2	②内面口縁部に稜。横位沈線・刺突文③におい黄橙10YR6/4④石英・長石・角閃石⑤外面に煤附着。	-
	3	②破片内L字状に刺突文③褐7.5YR4/3④石英・長石・赤褐色粒	-
257号土坑	1	第428図、P L 118 ②破片内無文③におい褐7.5YR5/4④金雲母・石英・角閃石	-
259号土坑 第428図 P L 118	1	②L R縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③におい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英	-
	2	②付加条縄文+平行沈線・爪形文③におい黄褐10YR5/3④繊維・長石・黄白色粒	-
	3	②付加条縄文を羽状施文③におい黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
260号土坑 第455図 P L 133	1	②口縁部内傾。R L縄文+平行沈線③暗黄灰2.5Y5/2③石英・角閃石・黄白色粒	12
	2	②縄文+浮線文に刻み目+刺突文③黄灰2.5Y4/1④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒	16
	3	②波状口縁部片。縄文+集合沈線③におい褐7.5YR5/3④粗砂粒・石英・白色粒	11
	4	①底径(9.1cm)②平行沈線1・破片内無文③におい黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒	2・15

東地区 土器観察表30

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
261号土坑 第428図 P L 118	1	②無節L縄文+平行沈線・爪形文③灰褐5YR4/2④石英・黄白色粒・黒色粒⑤外面に煤付着。	-
	2	②無節L縄文③に赤褐5YR4/3④粗砂粒・石英・黄白色粒・黒色粒⑤外面に煤付着。	-
	3	②R L縄文③に赤褐7.5YR6/4④結晶片岩・石英・角閃石	3
263号土坑	1	第428図、P L 118 ②波状口縁。平行沈線菱形文様③に赤褐7.5YR6/4④繊維・粗砂粒	2
264号土坑 第455図 P L 133	1	②内面口縁部に稜。R L縄文+沈線+刺突文③赤褐7.5YR6/6④結晶片岩・雲母・粗砂粒・石英	-
	2	②沈線+刺突文③赤褐7.5YR4/3④結晶片岩・雲母・粗砂粒・石英⑤外面に煤付着。	-
	3	②横位・渦巻状沈線+刺突文③に赤褐7.5YR5/4④結晶片岩・雲母・粗砂粒・石英	-
266号土坑 第429図 P L 118	1	②内面口縁部に稜。鈎状の凸帯+沈線+刺突文、口唇部に刺突③赤褐5YR4/6④金雲母・石英	-
	2	②斜格子文状に平行沈線③赤褐7.5YR4/4④金雲母・石英・角閃石	-
268号土坑	1	第429図、P L 118 ②橋状把手。縄文+平行沈線③明褐7.5YR5/6④金雲母・石英・角閃石	-
270号土坑	1	第429図、P L 118 ②耳状突起貼付け+集合沈線③浅黄2.5Y7/3④白色粒・角閃石	-
271号土坑 第429図 P L 118	1	②平行沈線+円形竹管文③黒7.5YR2/1④粗砂粒・石英・黄白色粒	-
	2	②細縄文③暗赤褐2.5YR3/4④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	-
272号土坑	1	第429図、P L 118②波状口縁。羽状縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③に赤褐5YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石	3
273号土坑	1	第430図、P L 119 ②縦位貼付文・隆帯に沈線とヘラ先刺突③赤褐5YR6/6④石英・角閃石	-
275号土坑 第430図 P L 119	1	②波状口縁部片。波頂部下に突起があり両側凹むが貫通しない。横位・縦位・斜格子状に平行沈線。突起及び周辺にヘラ先刺突。③明赤褐2.5YR5/6④石英・長石・角閃石	1
	2	②R L縄文+平行沈線③に赤褐7.5YR6/4④砂礫・石英・長石・白色粒	-
276号土坑	1	第430図、P L 119 ②平行沈線③に赤褐5YR5/4④金雲母・石英	-
278号土坑	1	第430図、P L 119 ②集合沈線③赤褐7.5YR4/2④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
280号土坑	1	第430図、P L 119 ②集合沈線③黒褐10YR3/2④石英・白色粒・黒色粒⑤外面に煤付着。	-
281号土坑 第430図 P L 119	1	②内面口縁部に稜。L R細縄文+沈線・横位に指頭状の押圧痕、口唇部に刻み目③に赤褐7.5YR5/3④結晶片岩・石英・長石⑤外面に煤付着。	2
	2	②波状口縁部片。内面波頂部下は三叉状に挟まれる。沈線+刺突文、口唇部に刻み目③暗褐7.5YR3/3④金雲母・石英	-
283号土坑 第430図 P L 119	1	②波状口縁部片。縄文+浮線文に刻み目。円形貼付文があり獸面把手の一部と思われる。③浅黄橙10YR8/3④粗砂粒・角閃石・黄白色粒	-
	2	②浅鉢片。平行沈線+ヘラ先刺突③赤褐7.5YR6/6④石英・長石・角閃石	-
284号土坑 第431図 P L 119	1	①口径(14.9cm) ②平行沈線区画内に斜格子文③に赤褐7.5YR6/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②口縁部の平行沈線下に斜格子状沈線③赤褐7.5YR6/6④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
285号土坑 第431図 P L 119	1	②平行沈線区画内に斜格子文③に赤褐7.5YR6/4④金雲母・石英	-
	2	①口径(34.2cm) ②口縁部緩やかな波状を呈すると思われる。無節縄文を羽状施文③に赤褐7.5YR5/3④金雲母・石英	-
286号土坑	1	第431図、P L 119 ①底径(10.8cm) ②縄文を地文とし、半截竹管状工具による平行沈線や単沈線で文様を描く。U字状区画内には斜格子文。③に赤褐5YR6/4④金雲母・石英	1他
287号土坑	1	第431図、P L 120 ②R L縄文③に赤褐7.5YR5/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
288号土坑	1	第431図、P L 120 ②L R縄文+斜格子状に平行沈線・単沈線+平行沈線区画③に赤褐7.5YR5/4④石英・長石・角閃石	-
289号土坑 第432図 P L 120	1	②口縁部から斜めに粘土を貼付け、刺突を加える。平行沈線区画内に粘土紐を斜格子状に貼付ける③に赤黄橙10YR6/4④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	2	②平行沈線+円形竹管状工具を斜めに刺突③明褐7.5YR5/6④石英・角閃石・赤褐色粒	-
	3	②R L縄文+沈線③に赤褐7.5YR5/4④結晶片岩・雲母・石英	-
	4	②結節文+同心円状に平行沈線③に赤黄橙10YR6/3④石英・長石	-
291号土坑	1	第432図、P L 120 ②羽状縄文③に赤褐5YR5/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒・黄白色粒	-
292号土坑 第432図 P L 120	1	②口唇部に三角形小突起。付加条縄文を羽状施文+平行沈線・爪形文とコンパス文③に赤褐7.5YR6/4④繊維・石英・長石	7・8他
	2	①底径10.1cm ②無節L縄文③赤褐7.5YR6/6④繊維・石英・長石・赤褐色粒⑤内面に焦げ。	11
293号土坑 第433図 P L 120・121	1	②羽状縄文+頭部に平行沈線③に赤黄橙10YR7/3④繊維・石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒⑤胴部最大径41.7cm・残存高45.8cmの大形深鉢。	40 他
	2	①底径(22.4cm) ②羽状縄文③に赤黄橙10YR6/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	33

東地区 土器観察表31

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
293号土坑	3	②平行沈線・爪形文とコンパス文+縦位に円形竹管文③橙7.5YR7/6④繊維・石英・角閃石	-
	4	②平行沈線、コンパス文③暗灰黄2.5Y4/2④繊維・黄白色粒	40
	5	②付加条縄文を羽状施文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒	16
	6	②0段多条縄文を羽状施文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・黄白色粒⑤補修孔あり。	30他
	7	②R L 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・石英・白色粒⑤外面に煤付着。	40
295号土坑 第434図 P L 121	1	②口縁部内面に稜。平行沈線+刺突文③黒褐10YR2/3④石英・黒色粒・白色粒⑤煤付着。	-
	2	②平行沈線区画内に斜格子文③暗褐10YR3/3④金雲母・石英	-
	3	②細縄文+平行沈線、刺突文③黒褐10YR2/3④金雲母・石英⑤外面に煤付着。	-
297号土坑 第434図 P L 121	1	②浮線文に刻み目③黒褐5YR2/2④石英・黄白色粒	-
	2	②浅鉢片。平行沈線+短沈線③明赤褐5YR5/6④石英・長石・黒色粒	-
298号土坑 第434図 P L 121	1	②縄文+平行沈線を横位・羽状に施文③に黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒⑤外面に赤彩の痕跡あり。	1
	2	②縦位隆線+L R 縄文+平行沈線③橙5YR6/6④金雲母・石英・角閃石	-
	3	②縦位沈線に沿って刺突文③明赤褐5YR5/6④金雲母・石英	2
299号土坑	1	第435図、P L 122 ①口径(43.1cm) ②羽状縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・結晶片岩	-
301号土坑 第435図 P L 122	1	②内面口縁部に稜。短沈線、V状・ハ状短沈線+印刻③に赤褐5YR4/4④結晶片岩・石英	-
	2	②内面口縁部に稜。貼付文が剥落。沈線+三角形印刻文③褐10YR4/4④石英・長石・角閃石	-
	3	②平行沈線、口唇部外側に刺突③明赤褐5YR5/6④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	4	②浅鉢片。沈線区画内に刺突③褐7.5YR4/4④石英・長石・角閃石	-
	5	②(細縄文)+縦位平行沈線+三角形印刻文③褐7.5YR4/3④粗砂粒・長石・角閃石	-
	6	②縦位平行沈線間に爪形文③明赤褐5YR3/4④金雲母・石英	-
302号土坑 第435図 P L 122	1	①口径14.3cm②無節L 縄文③黄灰2.5Y4/1④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
	2	②無節L 縄文③に褐7.5YR5/4④繊維・石英・長石・黄白色粒⑤1と同一個体か。	-
303号土坑 第435・436図 P L 122	1	②双山状の波状口縁。縄文+平行沈線・爪形文による文様+部分的に斜位の刻み目、口唇部に刻み目③暗褐10YR3/3④結晶片岩・粗砂粒・石英・長石⑤外面に煤付着。	-
	2	②縄文+平行沈線・爪形文による文様③に褐7.5YR5/4④黄白色粒・赤褐色粒・角閃石	7他
	3	②横位隆線を破片内に3条+R L 縄文③黒褐10YR2/2④黄白色粒・黒色粒⑤外面に煤付着。	-
305号土坑	1	第436図、P L 122 ②緩い波状口縁部片。R L 縄文③褐7.5YR4/3④繊維・石英・黄白色粒	-
307号土坑 第436図 P L 122	1	②平行沈線区画内に斜格子文③に褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英・長石	-
	2	②縦位・同心円状沈線+刺突文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石	-
	3	②縦位沈線+刺突文③明赤褐5YR5/8④金雲母・石英	6
309号土坑	1	第436図、P L 122 ②L R 縄文③暗褐7.5YR3/3④石英・長石・赤褐色粒	2
310号土坑	1	第436図、P L 122 ②集合沈線③暗褐7.5YR3/4④石英・角閃石	-
311号土坑	1	第436図、P L 122 ②縦位沈線③明赤褐2.5YR5/6④金雲母・石英・角閃石・赤褐色粒	-
314号土坑	1	第436図、P L 122 ②口唇部に2個一単位と思われる三角形突起。頸部に隆線。斜位・横位・弧状沈線+口縁・突起部、隆線下に短沈線+三角形印刻文③暗褐10YR3/3④金雲母・石英	1
	2	②内面に稜。横位・鍵の手状に沈線③暗赤褐5YR3/3④金雲母・石英⑤外面に煤付着。	3
316号土坑 第437図 P L 123	2	②波状口縁と思われる。斜格子状に沈線③褐7.5YR4/3④石英・長石・赤褐色粒	-
317号土坑	1	第436図、P L 123 ②L R 縄文+平行沈線文様③橙7.5YR6/6④金雲母・石英⑤外面に煤付着。	-
320号土坑	1	第437図、P L 123 ②集合沈線+結節浮線文・円形貼付文③に黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石	-
321号土坑	1	第437図、P L 123 ②L R 縄文③に黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英・長石・角閃石	2
322号土坑 第437図 P L 123	1	②L R 縄文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石	-
	2	②平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	6
	3	①底径9.4cm②R L 縄文③に褐7.5YR5/3④結晶片岩・石英・角閃石・白色粒	5他
323号土坑	1	第437図、P L 123 ②集合沈線③赤褐5YR4/8④粗砂粒・石英・長石・角閃石	1

東地区 土器観察表32

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
324号土坑 第360・361図 P L 132・133	1	②集合沈線+耳状・ボタン状・楕円形貼付文+耳状突起に刺突、口縁部に凹凸文③にぶい黄橙10YR7/4④粗砂粒・石英・長石・角閃石	65
	2	②1と同様の施文③灰黄褐10YR5/2④粗砂粒・石英・長石・角閃石⑤1と同一個体。	56
	3	②集合沈線+円形貼付文、耳状突起が剥落③黒褐10YR3/1④粗砂粒・石英・長石・角閃石	-
	4	②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文、口縁部に凹凸文③黒褐10YR3/1④石英・白色粒	60
	5	②口縁部内側に折り返し環状を呈す。集合沈線+ボタン状・耳状貼付文③灰黄褐10YR4/2④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	6	②獣面モチーフの耳状突起。背の部分と両側面に半截竹管状工具の刺突文③灰黄褐10YR4/2④石英・長石・角閃石・白色粒	-
	7	②集合沈線+円形貼付文、凹凸文③にぶい黄橙10YR7/4④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒	89
	8	②原体不明の縄文、結節文③黄灰2.5Y4/1④石英・角閃石・黄白色粒	8
	9	①底径(10.1cm)②集合沈線+縦位に紐状貼付文・ボタン状貼付文+紐状貼付文に刺突③暗黄2.5YR4/2④粗砂粒・石英・長石・角閃石・白色粒⑤内面に焦げ。	87
	10	①底径7.5cm②横位沈線③明赤褐5YR5/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	1
	11	②集合沈線③にぶい黄橙10YR7/4④石英・長石・角閃石・白色粒	106
328号土坑	1	第438図、P L 123 ①器高26.6cm・口径(19.5cm)・底径7.1cm②キャリパー形。口縁部は緩やかな波状(単位不明)。R L 縄文+胴部上半は波状等の沈線、下半は沈線懸垂文③明赤褐5YR5/6④石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
329号土坑 第437図 P L 123	1	②(羽状縄文)③にぶい褐7.5YR6/3④繊維・結晶片岩・金雲母・石英・長石	25
	2	②無節R 縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英・長石⑤外面に煤付着。	-
	3	②無節縄文を羽状施文+粗雑な平行沈線③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・黄白色粒	19他
330号土坑	1	第438図、P L 124 ②横位基調の平行沈線、楕円形区画内に縦位平行沈線③にぶい橙7.5YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
332号土坑	1	第438図、P L 124 ①口径(35.5cm)②4単位の波状口縁と推定される。波頂部両脇の口唇部に細い粘土紐を2本ずつ巻きつける。R L 縄文+胴部上半に平行沈線文様③淡黄2.5Y8/4④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒	1・2
333号土坑 第438図 P L 124	1	②集合沈線③にぶい黄2.5Y6/3④石英・長石・黄白色粒	1
	2	②L R 縄文③にぶい黄橙10YR6/3④長石・角閃石・赤褐色粒	2
334号土坑	1	第439図、P L 124 ②口縁部内面に折り返す。L R 縄文③にぶい褐7.5YR5/3④金雲母・石英	-
336号土坑	1	第439図、P L 124 ②R L 縄文+帯状に平行沈線・爪形文区画+区画内の縄文を磨消し③橙7.5YR6/6④結晶片岩・雲母・石英・角閃石・赤褐色粒	-
337号土坑	1	第439図、P L 124 ②L R 縄文③にぶい黄橙10YR④繊維・石英・長石・赤褐色粒	-
338号土坑 第439図 P L 124	1	②無節L 縄文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・粗砂粒・石英・長石・角閃石	-
	2	②R L 縄文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石・黒色粒	-
339号土坑	1	第455図、P L 133 ②縄文+浮線文に刻み目③灰褐7.5YR5/2④石英・黄白色粒・黒色粒	-
340号土坑 第439図 P L 124	1	①口径23.2cm②R L 縄文③灰白10YR8/2④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	3他
	2	①口径(31.1cm)②R L 縄文③橙7.5YR7/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石⑤外面に煤付着。	1
341号土坑	1	第439図、P L 124 ②(羽状縄文)③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・角閃石⑤煤付着。	3
342号土坑 第440図 P L 124	1	②集合沈線+三角形印刻文③灰黄褐10YR6/2④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②横位・矢羽状集合沈線③にぶい黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
347号土坑 第440図 P L 125	1	②単節縄文を菱形状に施文③橙7.5YR7/6④繊維・結晶片岩・石英・長石	3
	2	②波状口縁部片。波頂部は小突起状。単節縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・石英・黒色粒・黄白色粒⑤外面に煤付着。	4
348号土坑	1	第440図、P L 125 ②無節縄文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石・赤褐色粒・黄白色粒	3
349号土坑	1	第440図、P L 125 ②集合沈線+耳状・ボタン状貼付文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
350号土坑 第440図 P L 125	1	②波状口縁と思われる。縄文+平行沈線文様③淡黄2.5Y8/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②浮線文に爪形文③淡黄2.5Y8/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
	3	②浮線文に斜位の刻み目③橙5YR6/6④石英・長石・黒色粒・白色粒	-
	4	②獣面把手片。目を貼り付け、左目剥落。③橙7.5YR6/6④石英・長石・黒色粒・白色粒	-
351号土坑	1	②口唇部に小突起。R L 縄文+口縁部にコンパス文2列③橙5YR6/6④繊維・砂礫・石英	6

東地区 土器観察表33

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
351号土坑 第441図 P L 125	2	②羽状縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・石英⑤煤付着。	-
	3	②無節L縄文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・石英	2
	4	②櫛歯状工具横位・弧状条線③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・黒色粒⑤外面に煤付着。	13
	5	②無節L縄文③暗灰黄2.5Y4/2④繊維・白色粒	-
	6	②右下がりの粗雑な平行沈線③黄灰2.5Y4/1④繊維・雲母・石英⑤補修孔あり。内面にも粗雑な平行沈線。外面に煤付着。	4
	7	②L R縄文③にぶい褐7.5YR5/4④石英・長石・黒色粒	8
	8	①底径(9.9cm) ②R L縄文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英・長石	-
	352号土坑 第441図 P L 125	1	②R L縄文③褐7.5YR4/3④繊維・結晶片岩・雲母・粗砂粒⑤外面に煤付着。
2		②R L縄文③明褐7.5YR5/6④石英・長石・黒色粒・黄白色粒⑤外面に煤、内面に焦げ付着。	1
353号土坑 第442図 P L 126	1	②R L縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・長石・黄白色粒・黒色粒	-
	2	②波状口縁の浅鉢片か。R L細縄文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英	12他
	3	②波状口縁部片。縄文+ヘラ先刺突+縄文磨消し③にぶい黄橙10YR7/4④長石・角閃石	-
	4	②口縁部肥厚する。半截竹管状工具爪形文③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石	14
354号土坑 第442図 P L 126	1	②集合沈線③にぶい黄褐10YR5/3④石英・長石・白色粒⑤外面に煤、内面に焦げ付着。	-
	2	②口唇部の把手周縁に刻み。横位平行沈線・爪形文③にぶい赤褐5YR5/3④繊維・結晶片岩・砂礫⑤紛れ込みの遺物。	-
355号土坑	1	第442図、P L 126 ②緩やかな波状口縁。波頂部下に焼成前穿孔。縄文後、口縁部に沈線と爪形文。③黒褐10YR3/2 ④繊維・石英⑤外面に煤付着。	-
356号土坑 第442図 P L 126	1	②浅鉢か。羽状縄文+口縁部に3条、胴部に2条の平行沈線・爪形文+口縁部に指頭大の円形押圧文③明赤褐 2.5YR5/6④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	19・ 25
	2	①底径10.4cm②羽状縄文③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	26
	3	②L R縄文③灰黄褐10YR4/2④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤、内面に焦げ付着。	34
	4	②無節L縄文③明赤褐5YR5/6④繊維・結晶片岩・石英・長石・赤褐色粒	10
	5	②波状口縁部片。縄文+平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・黄白色粒	5
357号土坑 第443図 P L 126	1	②波状口縁部片。粗雑な平行沈線③橙7.5YR6/6④繊維・石英・長石・チャート	43
	2	②R L縄文+平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・石英・黄白色粒	-
	3	②撚糸文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・雲母・黄白色粒	24
	4	②付加条縄文+口縁部に緩い波状平行沈線③淡黄2.5Y8/3④繊維・黒色粒・黄白色粒	-
	5	③付加条縄文③淡黄2.5Y8/3④繊維・黒色粒・黄白色粒⑤4と同一個体か。	51
	6	②平行沈線・爪形文、コンパス文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・赤褐色粒・黒色粒	26
	7	②波状口縁部片。羽状縄文+口縁部に緩い波状平行沈線③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・白色針状粒・石英・長石	-
	8	②無節L縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・角閃石・黄白色粒	50
358号土坑 第443図 P L 127	1	②平行沈線、平行沈線・爪形文③暗赤褐5YR3/3④結晶片岩・石英・長石・黒色粒	-
	2	②R L縄文+平行沈線・爪形文+円形刺突③黒7.5YR2/1④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
359号土坑 第443図 P L 127	1	②口縁部緩い波状を呈し、その千鳥の位置に三角形小突起。付加条縄文を羽状施文③橙7.5YR6/8④繊維・石英・長石	6・7
	2	②R L縄文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・石英・黄白色粒	-
	3	②緩いコンパス文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・黄白色粒	-
360号土坑 第444図 P L 127	1	②櫛歯状工具波状条線③灰褐5YR4/2④繊維・石英・黄白色粒・角閃石	-
	2	②前々段反撚R L L縄文③にぶい赤褐5YR4/4④繊維・長石・黒色粒・黄白色粒	-
	3	②R L縄文③暗赤褐5YR3/6④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
361号土坑	1	第444図、P L 127 ②付加条縄文+口縁部に爪形文③にぶい赤褐5YR5/4④繊維・粗砂粒	5
362号土坑	1	第444図、P L 127 ②R L縄文+平行沈線文様③にぶい赤褐5YR5/3④結晶片岩・石英	-
363号土坑 第444図 P L 127	1	②複々節R L R L縄文③にぶい黄褐10YR4/3④繊維・雲母・石英・長石・赤褐色粒	-
	2	②縄文+粗雑な平行沈線③黒褐10YR3/2④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
364号土坑	1	第444図、P L 127 ②0段多条L R縄文+口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・黄白色粒	2

東地区 土器観察表34

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
367号土坑	1	②R L縄文③黒褐10YR3/2④黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	-
第444図 P L 127	2	②緩やかな波状口縁。R L縄文+口縁部に平行沈線③黒褐5YR3/1④石英・黄白色粒・雲母	9
	3	②ヘラ先状工具刺突文③灰褐7.5YR4/2④石英・長石・黄白色粒・黒色粒・赤褐色粒	-
	4	②緩やかな波状口縁。R L縄文③橙7.5YR6/6④繊維・粗砂粒・黄白色粒⑤外面に煤付着。	-
	5	②口唇部に三角形小突起。付加条縄文を菱形状施文+口縁部に平行沈線③に赤褐5YR5/3④繊維・粗砂粒・石英・長石	2・10
	6	②(無節縄文を羽状施文)③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・長石・角閃石⑤内面に焦げ付着。	-
369号土坑	1	②R L縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒	6
第445図 P L 127	2	②平行沈線・爪形文、コンパス文、平行沈線③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・角閃石	-
	3	②櫛歯状工具波状条線③に黄橙10YR6/3④繊維・石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	4	②R L縄文+コンパス文③に黄橙10YR5/4④繊維・長石・黄白色粒	-
371号土坑 第445図 P L 128	1	②緩い波状口縁。R L縄文+沈線③灰黄褐10YR5/2④角閃石・黄白色粒	7
2	②L R縄文+2条隆線懸垂文③灰黄褐10YR6/2④角閃石・黄白色粒	6	
372号土坑	1	第445図、P L 128 ②平行沈線・粗雑な爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・黄白色粒	-
373号土坑	1	第445図、P L 128 ②波状口縁。R L縄文③に褐7.5YR6/3④石英・角閃石⑤外面に煤付着。	1
374号土坑	1	第445図、P L 128 ②横位集合沈線③に黄橙10YR7/4④結晶片岩・粗砂粒・赤褐色粒	-
375号土坑	1	第445図、P L 128 ②矢羽状集合沈線③明黄褐10YR7/6④結晶片岩・粗砂粒・石英	-
376号土坑 第445図 P L 128	1	②縄文+浮線文+縄文③褐7.5YR5/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②縄文+浮線文に刻み目③黒10YR2/1④石英・角閃石・黄白色粒	-
378号土坑 第445・446図 P L 128	1	②平行沈線文様+斜位の刻み・ヘラ先刺突⑤に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	①底径(18.1cm)②浅鉢底部片③に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	51
	3	②R L縄文+浮線文に刻み目③に黄橙10YR7/3④角閃石・黄白色粒	-
379号土坑	1	第446図、P L 128 ②浮線文に刻み目③に赤褐5YR5/4④石英・長石・黄白色粒	-
380号土坑	1	第446図、P L 128 ②簡略化された獣面把手。縄文+渦巻状浮線文に刻み目③に褐7.5YR5/4④石英・角閃石・黄白色粒	1
381号土坑	1	第446図、P L 128 ②縄文+縦位平行沈線③明赤褐5YR5/6④金雲母・石英・角閃石	-
382号土坑	1	第446図、P L 128 ②無節R縄文+ヘラ先状工具連続刺突③明褐7.5YR5/6④石英・長石・角閃石⑤外面に煤付着。	-
383号土坑 第446図 P L 128	1	②隆帯、斜位基調の平行沈線③褐7.5YR4/4④金雲母・石英	-
	2	②口唇部に突起。縄文+浮線文+(縄文)③橙7.5YR6/6④石英・長石・角閃石・赤褐色粒	-
	3	②内面に稜。縄文+沈線+刺突文③黄褐2.5YR5/3④金雲母・石英	-
384号土坑 第446図 P L 128	1	②複節縄文③明赤褐2.5YR5/6④結晶片岩・石英	-
	2	②波状口縁部片。無節L縄文と単節R L縄文③に黄橙10YR6/4④結晶片岩・石英	-
	3	②緩い波状口縁と思われる。(無節R)縄文③に黄橙10YR7/4④結晶片岩・粗砂粒	-
	4	②平行沈線・爪形文、コンパス文、平行沈線⑤に黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒	-
	5	②羽状縄文+櫛歯状工具コンパス文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・黄白色粒	-
	6	②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/4④繊維・粗砂粒・黄白色粒	-
389号土坑	1	第446図、P L 128 ②無節縄文+浮線文に刻み目③に黄褐10YR4/3④石英・角閃石	-
390号土坑	1	第446図、P L 128 ②縄文+渦巻状浮線文に刻み目③浅黄2.5Y7/4④石英・黒色粒	-
391号土坑	1	第447図、P L 128 ②R L縄文・結節文③明赤褐5YR5/8④黄白色粒・チャート・赤褐色粒	-
392号土坑 第447図 P L 129	1	①口径(18.8cm)②2単位の波状口縁で、口縁部に環状把手が4か所付くものと推定される。文様構成は縦位2分割。R L縄文+波状部把手下から隆線垂下+横位・縦位・蛇行平行沈線③灰褐5YR4/2④金雲母・石英⑤図上復元。	1
	2	①底径11.7cm②縄文+沈線+刺突文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・粗砂粒・石英⑤内面に焦げ。	-
393号土坑 第447図 P L 129	1	②R L細縄文+口縁部に平行沈線+刺突文③に黄褐10YR5/4④結晶片岩・チャート	-
	2	②平行沈線文様③に赤褐5YR4/4④黄白色粒・黒色粒	-
	3	②口縁部鋸歯状。木葉状平行沈線+口縁部櫛歯状工具刺突、縦位竹管状工具刺突③黒褐7.5YR2/2④石英・角閃石・黄白色粒	-

東地区 土器観察表35

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
395号土坑 第447図 P L 129	1	①器高12.2cm・L径(19.2cm)・底径(10.5cm)②器厚薄い。括れ部は羽状縄文。上は幅広の爪形文を3段配す。内面口縁部に短沈線。③灰黄褐10YR4/2④石英・長石⑤外面に煤付着。北白川下層式系。	1
	2	②複節縄文③褐7.5YR4/4④結晶片岩・金雲母・石英	-
398号土坑	1	第447図、P L 129 ②R L縄文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	4
400号土坑 第447図 P L 129	1	②付加条縄文③黒褐7.5YR3/2④繊維・石英・長石・黄白色粒・赤褐色粒	1
	2	②羽状縄文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・石英・黄白色粒・黒色粒⑤内面に焦げ。	4
401号土坑	1	第448図、P L 129 ②0段多条R L縄文+平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④石英・黄白色粒	-
402号土坑	1	第448図、P L 129 ②L R縄文③にぶい赤褐5YR5/4④金雲母・石英・黒色粒	-
405号土坑 第448図 P L 129	1	②波状口縁。粗い平行沈線③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・粗砂粒・長石⑤紛れ込み遺物。	-
	2	②押引文+円形貼付文③暗褐7.5YR3/3④金雲母・石英・粗砂粒	-
	3	②羽状縄文(前々段反燃)③褐7.5YR4/3④繊維・石英・黄白色粒⑤紛れ込み遺物。煤付着。	2
406号土坑	1	第448図、P L 129 ②L R縄文③にぶい赤褐5YR4/3④金雲母・石英	1
407号土坑 第448図 P L 129	1	②R L縄文+口縁部横位平行沈線間に鋸歯状の平行沈線③灰褐5YR4/2④石英・角閃石	3
	2	②口縁部無文③褐灰10YR4/1④石英・黄白色粒	-
	3	②平行沈線+円形竹管文③黒褐10YR3/2④石英・長石	-
409号土坑 第448図 P L 130	1	②格子目状に平行沈線③黒褐5YR3/1④金雲母・石英	-
	2	②縄文+縦位平行沈線③にぶい褐7.5YR5/4④石英・黒色粒・赤褐色粒	-
410号土坑 第448図 P L 130	1	②R L縄文・結節文+沈線+刺突文③褐10YR4/6④石英・長石	2・4
	2	②R L縄文・結節文+沈線+刺突文③灰黄褐10YR4/2④石英・長石	-
412号土坑	1	第449図、P L 130 ②口唇部に三角形小突起2。(渦巻状)貼付文+平行沈線+短沈線・三角形印刻文③暗赤褐5YR3/6④結晶片岩・石英・黄白色粒	-
417号土坑	1	第449図、P L 130 ②平行沈線+三角形印刻文③暗褐10YR3/3④金雲母・石英	-
425号土坑 第449図 P L 130	1	②縄文+平行沈線③にぶい赤褐5YR4/3④金雲母・石英	-
	2	②(縄文)+平行沈線+短沈線③褐7.5YR4/3④金雲母・石英・赤褐色粒	-
426号土坑 第449図 P L 130	1	②無節縄文+粗雑な平行沈線③にぶい黄褐10YR5/4④黄白色粒・赤褐色粒	-
	2	②縄文+平行沈線・爪形文区画+縄文磨消し③浅黄橙10YR8/3④結晶片岩・石英・黒色粒	-
428号土坑	1	第449図、P L 130 ②R L縄文+浮線文に斜位の刻み目③黒褐10YR3/2④石英・黄白色粒	-
429号土坑	1	第449図、P L 130 ②集合沈線+円形貼付文③にぶい褐7.5YR5/3④黄白色粒・黒色粒	-
431号土坑 第449図 P L 130	1	②菱形状に平行沈線・爪形文③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・石英	-
	2	②L R縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・砂礫・石英・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	-
433号土坑 第449図 P L 130	1	②右下がり平行沈線+左下がり沈線③にぶい黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	-
	2	②縄文+平行沈線+刺突文③褐7.5YR4/6④石英・長石・黄白色粒	-
434号土坑	1	第449図、P L 130 ②粗雑な横位平行沈線③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・黄白色粒	-
436号土坑	1	第449図、P L 130 ②羽状縄文+平行沈線③褐7.5YR4/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	1
438号土坑 第450図 P L 130	1	②無節縄文③黒褐5YR3/1④繊維・石英・赤褐色粒	-
	2	②羽状縄文③明赤褐5YR5/6④繊維・砂礫・石英・黄白色粒	7
	3	②波状口縁と思われる。縄文+菱形状に平行沈線・爪形文④繊維・粗砂粒・石英・赤褐色粒	3
	4	②L R縄文③にぶい赤褐2.5YR4/4④石英・黄白色粒・黒色粒	6
	5	②波状口縁と思われる。ヘラ先状工具刺突文③黒褐10YR3/2④繊維・石英・長石	-
441号土坑 第450図 P L 130	1	②波状口縁か。隆帯。縄文+平行沈線・短沈線③暗赤褐5YR3/3④金雲母・石英	-
	2	②平行沈線と沈線を格子目状施文③にぶい褐7.5YR5/4④石英・黒色粒	-
442号土坑 第450図 P L 130	1	②波状口縁と思われる。平行沈線③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・長石	-
	2	②R L縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・黄白色粒	-
	3	②複節縄文③明赤褐5YR5/6④結晶片岩・石英・黒色粒	-

東地区 土器観察表36

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
445号土坑 第450図 P L 131	1	②波状口縁部片。無節L縄文③暗灰黄2.5Y4/2④繊維・黄白色粒・黒色粒	12
	2	②粗雑な平行沈線③に黄褐7.5YR5/4④繊維・石英・黄白色粒	10
	3	②羽状縄文③橙7.5YR6/6④繊維・石英・黒色粒⑤内面に焦げ。	39
447号土坑	1	第451図、P L 131 ②羽状縄文③褐7.5YR4/4④繊維・結晶片岩・石英・黄白色粒	8
448号土坑 第451図 P L 131	1	②LR縄文③に黄褐7.5YR5/4④繊維・黄白色粒・黒色粒	-
	2	②無節縄文を羽状施文③に黄褐10YR4/3④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
449号土坑 第451図 P L 131	1	②口縁部緩い波状。縦位沈線を横位平行沈線区画③に赤褐5YR4/3④金雲母・石英	11
	2	②沈線+刺突文③暗褐7.5YR3/4④金雲母・石英⑤外面に煤付着。	22
452号土坑 第451図 P L 131	1	②羽状縄文③に黄褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英	2
	2	②縄文+平行沈線・爪形文③黒褐10YR2/2④繊維・石英・黄白色粒・黒色粒	-
453号土坑	1	第451図、P L 131 ②波状口縁と思われる。平行沈線・爪形文③に赤褐5YR5/4④繊維・石英・長石⑤外面に煤付着。	1
454号土坑	1	第451図、P L 131 ②羽状縄文③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・黄白色粒	1
455号土坑 第451図 P L 131	1	②羽状縄文③褐10YR4/6④繊維・石英・黄白色粒⑤外面に煤付着。	4
	2	②羽状縄文+平行沈線・爪形文、コンパス文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・黄白色粒	9
	3	②LR縄文+ナデ③に黄橙10YR7/4④繊維・結晶片岩・石英・角閃石・黄白色粒	6
458号土坑 第452図 P L 131	1	②LR縄文③に黄橙10YR6/4④繊維・黄白色粒・黒色粒	-
	2	②RL縄文+平行沈線③に黄褐10YR5/3④繊維・粗砂粒・石英・長石・黄白色粒	-
	3	②縄文+歯状工具横位・波状条線③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・白色粒	7
	4	②付加条縄文を羽状(菱形)施文③に黄褐10YR5/4④繊維・石英	2・10
	5	①底径(10.4cm) ②上げ底。羽状縄文③明黄褐10YR6/6④繊維・石英・黄白色粒	9
459号土坑 第452図 P L 131	1	②浮線文に斜位の刻み目③に黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	2	②平行沈線+爪形文、斜位の短沈線+円形竹管文③黒褐7.5YR3/2④石英・黄白色粒・黒色粒	9
463号土坑	1	第452図、P L 131 ②羽状縄文③に黄褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英	1
466号土坑 第452図 P L 131	1	②緩い波状口縁。隆帯(渦巻き文)貼り付け。無節縄文③に赤褐5YR4/4④石英・黄白色粒・黒色粒	-
	2	②連弧文+沈線懸垂文③橙7.5YR6/6④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤、内面に焦げ。	4・5
468号土坑 第452図 P L 131	1	②付加条縄文を羽状施文③に黄褐10YR5/3④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	-
	2	②羽状縄文③黄褐10YR5/6④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英⑤外面に煤付着。	2
470号土坑	1	第452図、P L 131 ②燃糸文③に赤褐5YR4/4④石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
473号土坑	1	第452図、P L 131 ②結節文③に赤褐5YR3/4④結晶片岩・石英・黄白色粒⑤内面に焦げ。	1
474号土坑 第452図 P L 131	1	②0段多糸RL縄文③黒褐2.5YR3/2④繊維・石英・黄白色粒・黒色粒	1
	2	②(複節縄文)③に赤褐5YR4/4④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英	2

西地区 土器観察表1

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
96号住居跡 第477・478図 P L 152	1	②波状口縁部片。波頂部下に渦巻状貼付文③に黄橙10YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒	250
	2	②J字状等の沈線区画内に縄文③に黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面上半部に煤、内面下側に焦げ付着。胴部最大径28.0cm。	120 他
	3	②沈線+単節縄文③に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒	199
	4	②沈線区画内に円形刺突文③橙2.5YR6/8④石英・角閃石・黄白色粒	201
	5	②波状口縁と思われる。口縁部隆帯間に連続円形刺突文、隆帯下にLR細縄文③褐7.5YR4/3④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	104
	6	②浅鉢か。口縁部無文帯下に鐮状の隆帯、隆帯下に無節縄文③灰白10YR8/1④石英・角閃石	256
	7	②口縁部無文帯下に隆帯、隆帯下に単節縄文③明褐7.5YR5/6④粗砂粒・石英・角閃石	43
	8	②口縁部無文帯下に隆帯、破片内無文③に黄橙7.5YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	27

西地区 土器観察表 2

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
96号住居跡	9	②浅鉢か。縄文+太目の沈線③灰黄褐10YR5/2④石英・角閃石・黄白色粒	-
	10	②隆帯下に無節縄文+沈線③に黄橙10YR5/3④石英・角閃石・黄白色粒	1
	11	②口縁部肥厚。口縁部に円形刺突文、胴部に沈線③灰黄2.5YR6/2④石英・角閃石・黄白色粒	-
	12	②隆線懸垂文+無節縄文③に黄褐10YR4/3④石英・角閃石・黄白色粒	123
	13	②隆線懸垂文+無節縄文+沈線③灰黄褐10YR5/2④石英・角閃石・黄白色粒⑤内面に焦げ。	-
	14	②沈線区画③灰褐7.5YR4/2④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	218
	15	①器高(2.6cm)・口径(11.2cm)②皿状土器。無文③黒2.5Y2/1④石英・角閃石・黄白色粒	-
	16	②細い条線③に黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	209他
	17	②沈線区画内に単節縄文③に黄橙10YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒	-
	18	②雨垂れ状の連続刺突文、もしくは短沈線③灰黄褐10YR6/2④石英・角閃石・黄白色粒	7
	19	②深鉢上部の把手部分。上面の平面形は環状で沈線を1条めぐらせる。側面の両方向からも穿孔される。器面は沈線区画内に縄文。③黒褐7.5YR3/2④石英・角閃石・黄白色粒	-
	20	②深鉢上部の環状把手部分。外面側の偶面に深さ6mm前後の未貫通孔2とそれを結ぶ沈線。③に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒	107
21	②沈線区画内に縄文③黒褐7.5YR3/2④石英・黄白色粒⑤外面に煤付着。	220	
22	②環状の装飾把手か。下端に剥離痕あり。③に黄橙7.5YR7/4④石英・角閃石・黄白色粒	176	
97号住居跡 第480図 P L 153	1	①口径(36.0cm)②単節縄文③に赤褐5YR4/3④結晶片岩・石英・長石・角閃石	2
	2	①口径(26.7cm)②無節縄文+上半部に平行沈線文様③に黄橙7.5YR6/4④繊維・粗砂粒	1・60
	3	②波状口縁と思われる。羽状縄文③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・黄白色粒	-
	4	②平行沈線+平行沈線・爪形文③に黄褐7.5YR5/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	5	①底径14.4cm②0段多条縄文を羽状施文③明黄褐10YR7/6④繊維・石英・赤褐色粒	-
98号住居跡 第482図 P L 153	1	①口径(36.4cm)②4単位の波状口縁か。平行沈線・爪形文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・長石・角閃石⑤図上復元。	15他
	2	②波状口縁と思われる。平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/4④繊維・結晶片岩・赤褐色粒	8
	3	②波状口縁と思われる。平行沈線・爪形文③に黄褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・赤褐色粒	-
	4	②0段多条縄文を羽状施文③に黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒・赤褐色粒	-
	5	②単節縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・石英・赤褐色粒	46
	6	②羽状縄文③に黄褐10YR5/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	34
100号住居跡 第484図 P L 154	1	②L R 縄文③黄7.5YR6/6④繊維・石英・チャート・黄白色粒・赤褐色粒・黒色粒	4
	2	②波状口縁と思われる。平行沈線・爪形文③褐7.5YR4/4④繊維・石英・赤褐色粒・黒色粒	37
	3	②粗雑な平行沈線③に黄褐10YR5/3④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
	4	②横位平行沈線+波状線③暗褐10YR3/4④繊維・石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
	5	②粗雑な平行沈線③に黄褐10YR5/4④繊維・石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。波状口縁か。	14
	6	②波状口縁部片。平行沈線。口縁端部に刻み目。③に黄褐10YR5/4④繊維・黄白色粒	90
	7	②波状口縁部片。平行沈線③に黄褐10YR4/3④繊維・石英・赤褐色粒	49
	8	②無節縄文③暗褐10YR3/3④繊維・結晶片岩・粗砂粒・石英・黄白色粒	69他
101号住居跡 第486・487図 P L 154・155	1	①残存器高29.7cm・口径22.1cm・底径8.1cm②欠損するが口縁部に把手2か所。口縁部の把手間に微隆起帯を弧状に配し、口縁部及び微隆起帯に沿って円形刺突文を2列巡らせる。胴部は沈線によりV字状・U字状に区画し、区画内に無節縄文を施文する。③に黄橙10YR7/3④粗砂粒・長石・石英・角閃石⑤外面上半部に煤付着。内面下半は焦げる。	3
	2	②把手部分。口唇部から二又状に延び橋状部に至る。内面側は逆「6」字状。③橙7.5YR6/8④石英・長石・角閃石⑤橋状部に煤付着。	15
	3	②緩い波状口縁。口縁部無文帯下にL R 縄文③淡黄2.5Y8/4④石英・角閃石・黄白色粒	8
	4	②口縁部無文で隆帯下に条線③に黄橙10YR7/4④黄白色粒・黒色粒	11
	5	②斜位・縦位沈線③に黄橙10YR6/3④石英・角閃石・黄白色粒	-
	6	②沈線懸垂文+L R 縄文③に黄橙10YR6/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。	1
102号住居跡	1	②口縁部緩い波状。無節L 縄文③に黄橙10YR7/3④繊維・粗砂粒・石英・白色粒	45

西地区 土器観察表 3

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
102号住居跡 第488図 P L 155	2	②平行沈線③灰黄褐10YR4/2④繊維・結晶片岩・石英・黄白色粒・赤褐色粒	-
	3	②貼付文+縄文+平行沈線③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・石英・長石・赤褐色粒	-
	4	②平行沈線・爪形文③橙7.5YR6/6④繊維・粗砂粒・石英・長石⑤波状口縁か。	-
	5	①底径8.1cm②上げ底。無節縄文③にぶい黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒・黒色粒・赤褐色粒⑤内面に焦げ。	42
103号住居跡 第489図 P L 155	1	②無節縄文③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・粗砂粒・黄白色粒・黒色粒・赤褐色粒	10
	2	②波状口縁部片。0段多条縄文を羽状施文③灰褐7.5YR4/2④繊維・石英・黄白色粒	3・21
	3	②波状口縁。平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・結晶片岩・石英⑤補修孔あり。	14
	4	②連続爪形文③灰黄褐10YR6/2④繊維・石英・黄白色粒	-
104号住居跡 第490図 P L 156	1	②無節縄文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・黄白色粒・黒色粒	1
	2	②平行沈線⑤黒褐2.5Y3/1④繊維・石英・角閃石・黄白色粒	-
105号住居跡 第491図 P L 156	1	②緩やかな波状口縁。隆線区画内に縄文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・角閃石	-
	2	②沈線区画+縄文③にぶい黄褐10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	3	①底径13.4cm②器面の摩滅激しい③明黄褐10YR7/6④石英・黄白色粒・角閃石	1
106号住居跡 第492図 P L 156	1	②緩やかな波状口縁。縄文+沈線+口縁部へ先状工具刺突③にぶい褐7.5YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面煤付着。	7
	2	②R L縄文+横位・縦位沈線+縄文磨消し③橙7.5YR6/6④粗砂粒・石英・黄白色粒・角閃石	-
	3	②「 \square 」字状区画内に縄文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	8
	4	②口縁部下に指頭押圧のある隆帯③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石	4
	5	②無節縄文+隆帯・懸垂文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面煤付着。	6
	6	①底径9.2cm②小さな底部から胴部に向かって大きく開く。R L縄文+隆線区画+縄文磨消し③浅黄2.5Y7/3④石英・黄白色粒・角閃石	1
107号住居跡	1	第493図、P L 156 ②R L縄文+隆線区画③浅黄橙10YR8/3④石英・黄白色粒・角閃石	1
108号住居跡 第493図 P L 155	1	②緩い波状口縁。格子目状に平行沈線③にぶい黄褐10YR5/4④繊維・石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	-
	2	②平行沈線+爪形文③灰褐7.5YR4/2④繊維・石英・黄白色粒	-
	3	②平行沈線・爪形文③黄褐10YR5/8④繊維・石英・長石・角閃石・黄白色粒	-
109号住居跡 第494図 P L 156	1	②波状口縁。縄文+平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・粗砂粒・石英・長石	11
	2	②緩やかな波状口縁。無節縄文とR L縄文を羽状施文③橙7.5YR6/6④繊維・結晶片岩・粗砂粒⑤外面に煤付着。	1
	3	②無節縄文③暗灰黄2.5Y5/2④繊維・黄白色粒・角閃石	-
110号住居跡 第495図 P L 157	1	②浅い沈線区画内にL R縄文③にぶい褐7.5YR5/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	6
	2	②隆帯+縄文+沈線③にぶい黄橙10YR7/2④石英・黄白色粒・角閃石	5
	3	②縄文(撚糸文)+沈線区画+縄文磨消し③にぶい橙7.5YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石	7
111号住居跡 第496図 P L 158	1	①口径30.0cm②深鉢上半部。口縁部は渦巻状文と楕円形区画、区画内に前々段反摺縄文。胴部は前々段反摺縄文施文後、沈線2条を \square 状に施す。③明黄褐10YR7/6④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	77
	2	①器高25.5cm・口径20.2cm・底径7.6cm②高台の付く深鉢。R L縄文③明褐7.5YR6/6④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面上半に煤、内面下半に焦げ付着。	埋
	3	②区画内に縄文③浅黄橙10YR8/4④石英・黄白色粒・角閃石	19
	4	②大形の深鉢。隆線により獣手状文や懸垂文等を描く。R L縄文③明黄褐10YR7/6④石英・黄白色粒・角閃石	1他
	5	①器高14.3cm・口径(13.6cm)・底径7.8cm②高台の付く片口深鉢。粗雑に縄文施文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	16
	6	①器高21.6cm・口径32.4cm・底径8.1cm②無文。一部に整形時の条痕③浅黄橙7.5YR8/3④石英・黄白色粒・角閃石	4他
112号住居跡 第498図 P L 158	1	②波状口縁部片。粗雑な平行沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・石英・長石・白色粒	28
	2	②平行沈線③にぶい褐7.5YR5/3④繊維・結晶片岩・チャート・石英	9他
	3	②平行沈線・爪形文③にぶい褐7.5YR5/4④繊維・チャート・石英・赤褐色粒	36
	4	②羽状縄文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・チャート・石英・赤褐色粒・黒色粒⑤外面に煤付着。	24
113号住居跡	1	第499図、P L 158 ②破片内無文③灰黄褐10YR6/3④石英・黄白色粒・角閃石	1
114号住居跡	1	第499図、P L 158 ②山形押形文③橙7.5YR7/6④石英・赤褐色粒・黒色粒・黄白色粒	4他

西地区 土器観察表 4

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
114号住居跡	2	第499図、P L 158 ②破片内無文③に赤褐5YR4/3④結晶片岩・石英⑤擦糸文系土器と思われる。	1
115号住居跡 第500・501図 P L 157	1	①底径11.0cm②垂下する隆線間に無節縄文帯と無文帯を交互3単位に配置③に黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石	2
	2	①器高29.7cm・口径(24.4cm)・底径6.5cm②縦位条線③に橙7.5YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面口縁部に煤。	1
	3	②緩い波状口縁。楕円形区画内に単節縄文③褐7.5YR4/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	3
	4	②隆線下に縄文③に黄橙10YR6/4④粗砂粒・石英・黄白色粒・角閃石	30
	5	②口縁部に粘土紐を楕円形状に貼り付け、頂部に円形刺突、左右に短沈線③浅黄2.5Y7/4④石英・黄白色粒・角閃石	8
116号住居跡 第502図 P L 157	1	②波状口縁部片。平行沈線・爪形文③暗灰黄2.5Y5/2④繊維・白色針状粒・石英・粗砂粒⑤白色針状粒の含有顕著。	114
	2	②波状口縁と思われる。平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・黄白色粒	4
	3	②口縁部緩やかな波状。平行沈線③橙7.5YR7/6④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒・黒色粒	27
	4	②平行沈線・爪形文③明赤褐5YR5/6④繊維・石英・黄白色粒	-
	5	②無節縄文を羽状施文③明褐7.5YR5/6④繊維・石英・長石・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	-
	6	①底径7.4cm②上げ底。無節縄文を粗雑に施文③明褐7.5YR5/6④繊維・石英・黄白色粒・黒色粒⑤内面に焦げ。	1・47
117号住居跡 第504図 P L 158	1	②平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	2他
	2	②無節L縄文③に黄橙10YR7/3④繊維・石英・黄白色粒・黒色粒⑤外面に煤付着。	3
	3	①器高2.1cm・口径(2.9cm)・底径1.8cm②手捏土器③に黄褐10YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石	1
475号土坑	1	第509図、P L 159 ②平行沈線文様③明赤褐5YR5/6④金雲母・石英・赤褐色粒	1
476号土坑 第509図 P L 159	1	②隆帯下に縦位条線③に黄橙10YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石	10
	2	②縦位条線③灰黄褐10YR5/2④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	3
	3	②沈線区画内に縄文③に黄褐10YR4/3④石英・黄白色粒・角閃石	-
477号土坑	1	第509図、P L 159 ②羽状縄文③橙5YR6/6④繊維・粗砂粒・石英・赤褐色粒⑤内面に焦げ。	2
482号土坑 第509図 P L 159	1	②上側に把手が付くと思われる。口縁部に沿って隆帯+隆帯下に無節縄文+沈線+縄文磨消し③に褐7.5YR5/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤、内面に焦げ付着。	6
	2	②無節R縄文+V状沈線区画+縄文磨消し③橙7.5YR6/6④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	12
	3	②沈線区画内に縄文③に黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石	14
	4	①底径5.3cm②深鉢に付く高台部。胴部下端に沈線が確認される③に黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石	5
483号土坑 第510図 P L 159	1	②羽状縄文③灰褐7.5YR4/2④繊維・石英・赤褐色粒	-
	2	②平行沈線③橙7.5YR7/6④繊維・石英・長石・チャート	-
	3	②縄文+粗雑な平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・結晶片岩・石英	-
484号土坑 第510図 P L 159	1	②裝飾把手部分。頂部は左右楕円形状部に沈線と円形刺突文、口縁部は隆線に沿って円形刺突文。③に赤褐5YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	1
	2	②異なる口縁部。縦位隆線・沈線区画内に縄文③灰黄褐10YR4/2④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	3
	3	②隆帯下に単節縄文③灰黄褐10YR4/2④石英・黄白色粒・角閃石	4
485号土坑	1	第510図、P L 159 ②破片内無文③に橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	2
486号土坑 第510図 P L 159	1	②隆帯・縦位隆線+縄文③黒褐10YR3/1④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤補修孔あり。外面に煤付着。	19
	2	②大形深鉢片。縦位沈線区画内に縄文帯と無文帯を交互配置③橙7.5YR6/6④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	1他
487号土坑	1	第511図、P L 159 ②縦位隆線区画内に縄文帯と無文帯を交互配置③浅黄2.5Y7/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	1他
488号土坑	1	第511図、P L 160 ②単節縄文+円状沈線③黒褐2.5Y3/1④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	-
489号土坑 第511図 P L 160	1	①器高17.5cm・口径13.6cm・底径6.1cm②胴部は丸みを持ち、頸部で括れた後に、口縁部に向かって開く。頸部付近から口縁部に橋状把手3単位。把手上端は渦巻きを意識した環状で、その内2つには頂部に凹線を施す。把手部分の内外面は円形刺突・凹線で加飾する。口縁部内面に稜を持つ。胴部は隆線を2本単位で横位・J字状・斜位などに施し、隆線区画内にL R縄文を施した後、縄文施文の周縁部に沈線を隆線に沿って施す。③浅黄橙10YR8/4④細砂粒・長石・石英⑤器面丁寧に磨かれる。外面上半部を中心に煤付着。	1
492号土坑 第511・512図 P L 160	1	②橋状把手。上部は環状(6字状)で橋状部は二又。橋状部～胴部にL R縄文。③灰黄2.5Y7/2④石英・黄白色粒・角閃石	9
	2	②橋状把手。把手部分と胴部に単節縄文③に黄橙10YR6/4④粗砂粒・石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	10
	3	①底径10.7cm②残存高37.5cmの大形深鉢。沈線を2本単位で垂下させるが下半までには及ばない。縄文帯と無文帯を交互配置する。施文は粗雑である。③に黄橙7.5YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤内面下半に焦げ。	-

西地区 土器観察表 5

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
493号土坑	1	①口径 (33.0cm) ②隆帯下に単節縄文③に黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	1
第512図 P L 160	2	①口径 (13.5cm) ②口縁部内湾する。口縁部無文で、頸部から胴部に向かったの沈線あり。③に黄褐7.5YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	2・25 ・33
	3	②口唇部内側に突出。撚糸文+沈線文様③明赤褐5YR5/6④石英・黄白色粒・角閃石	34
	4	②口唇部内側に突出。撚糸文+沈線③に黄橙10YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石	9
	5	②縄文+沈線+縄文磨消し③に黄橙10YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石	-
	6	②縦位隆線+無節縄文+蛇行沈線③に黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石	31
	7	②縦位条線③に黄橙10YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石	17
	494号土坑	1	②縄文+沈線、口縁部に沿って円形刺突文③灰黄褐10YR4/2④石英・黄白色粒・角閃石
第513図 P L 161	2	②無節縄文③淡黄2.5Y8/4④粗砂粒・石英・黄白色粒・角閃石	5
495号土坑	1	②縦位隆線+R L 縄文③浅黄橙10YR8/3④石英・黄白色粒・角閃石	4
第513図 P L 161	2	②沈線下に縦位条線③灰黄褐10YR4/2④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	-
	3	②(沈線区画内に) 刺突文③橙7.5YR6/6④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	-
	496号土坑	1	第513図、P L 161 ②隆帯下にL R 縄文③暗褐7.5YR3/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
501号土坑	1	②縦位隆線間に無節R 縄文帯と無文帯を交互配置③淡黄2.5Y8/3④粗砂粒・石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	8
第513図 P L 161	2	①底径 (9.2cm) ②破片内無文で丁寧に磨かれる③に黄橙10YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤内面に焦げ。	4他
502号土坑	1	第514図、P L 161 ②無節縄文③黄褐10YR5/6④繊維・石英・長石・黄白色粒⑤内面に焦げ。	4
504号土坑	1	②平行沈線・爪形文③に黄橙7.5YR6/4④繊維・石英・黄白色粒・黒色粒	1
第514図 P L 161	2	②L R 縄文③褐10YR4/6④繊維・石英・長石・黄白色粒・黒色粒⑤補修孔あり。外面に煤付着。	2
505号土坑	1	第514図、P L 161 ②羽状縄文(0段多糸)③橙5YR6/6④繊維・石英・長石・黒色粒・赤褐色粒⑤内面に焦げ。	1
509号土坑	1	②胴部から隆帯にかけて橋状把手が2単位付けられるものと想定される。隆帯下側及び把手部分に無節縄文。隆帯上側は無文。③に黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤胴部最大径推定40.0cm。内面に焦げ顕著。図上復元。	1
第514図 P L 162	2	②R L 縄文+縦位沈線③橙5YR6/6④石英・黄白色粒・長石・角閃石・赤褐色粒	4
510号土坑	1	②横位平行沈線③に黄橙10YR6/4④繊維・石英・長石・黄白色粒	-
第514図 P L 162	2	②羽状縄文③に黄橙10YR7/4④繊維・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	2
511号土坑	1	第515図、P L 162 ①口径 (36.0cm) ②隆帯+縦位隆線+隆線間に無節縄文帯と無文帯を交互配置③明黄褐10YR6/6④黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤縄文は隆線以上にまで及ぶ。	7・13 ・24他
514号土坑	1	第515図、P L 162 ②縦位隆線+粗雑な縄文③橙7.5YR6/6④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	1
515号土坑	1	第515図、P L 162 ②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/3④繊維・石英	-
518号土坑	1	第515図、P L 162 ②縄文+沈線区画+縄文磨消し③灰褐5YR4/2④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	1
520号土坑	1	第515図、P L 162 ②平行沈線・爪形文③に黄褐10YR4/3④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒	2
524号土坑	1	第515図、P L 162 ②高台の付く底部片。破片内無文③に黄橙7.5YR6/4④石英・長石⑤石英の含有量多い。	-
525号土坑	1	②平行沈線・爪形文③に黄橙10YR6/4④繊維・粗砂粒・石英・チャート	-
第515図 P L 162	2	②付加糸縄文を羽状施文③橙7.5YR7/6④繊維・石英・赤褐色粒・黒色粒	3
528号土坑	1	②隆線区画+縄文+区画周縁部の縄文をナデ消す、口縁部下に凹線③浅黄橙10YR8/3④石英・黄白色粒・角閃石	27
第516図 P L 163	2	②口縁部に向かって内湾単節縄文+沈線区画+縄文磨消し③に黄褐10YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤。	67
	3	②隆帯+蛇行隆線+隆帯下側に単節縄文と0段多糸縄文③に黄褐10YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	59
	4	②口縁部無文、沈線下側にL R 縄文③に黄橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤外面に煤付着。	29
	5	②横位沈線下側に縦位条線③に黄橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒	6
	6	①口径 (17.6cm) ②頸部で括れ口縁部に向かって開く。口唇部内側に突出。器面荒れるが、縄文施文後に沈線区画を施し、縄文を磨消すものと思われる。③浅黄橙10YR8/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。	31・32
	7	①底径 (8.4cm) ②破片内無文③浅黄2.5Y7/4④石英・黄白色粒・赤褐色粒⑤内面に焦げ。	72
	8	①底径7.8cm②縦位沈線あるが下端までには及ばない③に黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤内面に焦げ。	60
	531号土坑	1	②隆帯下に無節縄文+沈線+縄文磨消し③に黄褐7.5YR5/3④黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。
第516・517図 P L 163	2	②隆帯下に無節縄文③に黄橙7.5YR6/4④黄白色粒・赤褐色粒	6・10

西地区 土器観察表 6

遺構番号/頁	番号	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考	注記
532号土坑	1	第517図、P L 163 ②縦位条線+蛇行・垂下する沈線③橙5YR6/6④粗砂粒・石英・黄白色粒・角閃石	1
533号土坑 第517図 P L 163	1	②単節縄文を短い単位で方向を変えて施文③灰黄褐10YR4/2④石英・黄白色粒・角閃石⑤器面荒れる。	13他
	2	②縦位条線③褐7.5YR4/3④石英・黄白色粒・角閃石	12

遺構外 土器観察表 1 (第519～525図、P L 164～167)

番号	グリッド	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考
1	B e 15	②燃糸文R③にぶい褐7.5YR5/4④結晶片岩・石英
2	B d 14	②燃糸文R③にぶい橙5YR6/4④結晶片岩・石英・赤褐色粒
3	B d 14	②燃糸文本体の引きずり③にぶい橙5YR6/4④結晶片岩・石英・赤褐色粒
4	D h 55	②燃糸文L③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英・長石・黒色粒
5	D h 55	②燃糸文L③にぶい黄橙10YR6/4④石英・黄白色粒・灰白色粒・黒色粒・赤褐色粒
6	B e 13	②山形押型文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・長石・黄白色粒・赤褐色粒
7	B d 14	②山形押型文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒
8	-	②山形押型文③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・長石・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒
9	E c 59	②紐組文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・黄白色粒⑤外面に煤付着。
10	E a 51	②R L 縄文+口縁部にコンパス文 3列③にぶい黄橙10YR7/3④繊維・石英・チャート・黄白色粒・黒色粒・赤褐色粒
11	-	②波状口縁。頸部上側は平行沈線・爪形文を菱形状施文、胴部は単節縄文を羽状施文③にぶい黄橙10YR6/4④繊維・石英・角閃石
12	E e 57	②波状口縁部片。波頂部下に焼成前穿孔。歯状工具による条線と刺突文③にぶい黄褐10YR5/3④繊維・石英・黄白色粒
13	-	①器高17.7cm・口径(15.0cm)・底径8.7cm②無節縄文③にぶい橙7.5YR6/4④繊維・黄白色粒・黒色粒⑤外面上半に煤付着。
14	-	②口唇部に三角形小突起。L R 縄文+口縁部にコンパス文③にぶい褐7.5YR6/3④繊維・石英・長石・黄白色粒
15	E c 58・59	②緩やかな波状口縁。波頂部下に焼成前穿孔。波頂開口唇部に三角形小突起。単節縄文後、平行沈線・爪形文を口縁部に沿って施文し、その下は同じく肋骨文状に施文。③橙7.5YR6/6④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒⑤外面に煤付着。
16	B e 11	②列点刺突文、沈線③灰黄褐10YR4/2④繊維・石英・チャート・赤褐色粒
17	B f 11	②列点刺突文、沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒
18	B e 11	②歯状工具刺突文、平行沈線・爪形文③にぶい橙7.5YR7/4④繊維・石英・黄白色粒・赤褐色粒
19	B d 14	②無節縄文+平行沈線文様③灰黄褐10YR5/2④繊維・石英・灰白色粒
20	B g 15	②歯状工具コンパス文+平行沈線③にぶい黄橙10YR6/3④繊維・石英・黄白色粒⑤外面に煤付着。
21	E e 57	②歯状工具による木葉状文+刺突文+円形竹管文③にぶい赤褐5YR4/3④繊維・石英・黄白色粒
22	E c 58	①口径28.9cm②複節R L R 縄文③にぶい黄橙10YR7/4④結晶片岩・石英・赤褐色粒
23	E f 54	②波状口縁部片。波底部に三角形小突起。平行沈線・爪形文による入り組文様。③にぶい黄橙10YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石
24	D g 54	②浅い平行沈線による木葉状文③にぶい橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石
25	D h 54	②付加条縄文③にぶい橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・赤褐色粒
26	E f 54	②0段多条R L 縄文+口縁部に平行沈線・爪形文、胴部に円形竹管文③にぶい橙7.5YR7/4④石英・黄白色粒・赤褐色粒
27	D g 54	②燃糸文+口縁部に平行沈線・爪形文③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤外面に煤付着。
28	D i 51	②R L 縄文+平行沈線・爪形文による木葉状文+区画外の縄文磨消し③暗灰黄2.5Y5/2④石英・黄白色粒・赤褐色粒
29	E c 58	②R L 縄文+平行沈線・爪形文による入り組文様+区画外の縄文磨消し③にぶい黄橙10YR6/3④微砂粒・石英・黄白色粒・角閃石
30	E e 56	②縄文+平行沈線・爪形文による入り組文様+区画外の縄文磨消し+円形竹管文③にぶい橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英・黄白色粒
31	E e 53	②平行沈線+コンパス文③にぶい黄橙10YR6/4④石英・灰白色粒・赤褐色粒・黒色粒
32	E b 55	②細縄文+歯状工具木葉状文+円形竹管文③にぶい褐7.5YR5/4④石英・長石・黄白色粒
33	D h 54	①底径(8.2cm)②平行沈線による木葉状文+円形竹管文③にぶい黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・黒色粒
34	D j 52	②口縁部内湾。縄文+平行沈線文様③浅黄褐10YR8/4④石英・角閃石・黄白色粒⑤外面に煤付着。
35	E c 53	②縄文+渦巻状浮線文に斜位の刻み目。隅部に耳状突起。口唇部は細い粘土紐で加飾。③橙7.5YR6/6④結晶片岩・石英・角閃石
36	E e 56	②波状口縁部片。縄文+平行沈線・爪形文と斜位の刻み目。口唇部に貼付文と斜位の刻み目。③明赤褐5YR5/6④粗砂粒・石英・長石
37	E c 58	②縄文+浮線文に刻み目+円形竹管文③にぶい褐7.5YR6/3④石英・黄白色粒・赤褐色粒

遺構外 土器観察表 2

番号	グリッド	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考
38	D j 51	②獸面把手。縄文+浮線文に斜位の刻み目③に黄橙10YR7/3④石英・長石・角閃石・黄白色粒
39	E c 56	②獸面把手。縄文+浮線文に斜位の刻み目③に黄橙10YR7/3④粗砂粒・石英・角閃石・黄白色粒
40	E c 54	②獸面把手。浮線文に斜位の刻み目③浅黄2.5Y8/4④石英・長石・黒色粒・赤褐色粒・黄白色粒
41	E e 59	②集合沈線+ボタン状貼付文、口縁部に凹凸文③灰黄褐10YR4/1④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒
42	D i 51	②集合沈線+耳状・円形貼付文、口縁部に凹凸文③に黄橙7.5YR6/4④粗砂粒・石英・角閃石・灰褐色粒・赤褐色粒⑤外面煤付着。
43	-	②縦位・横位・弧状等の平行沈線③に黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
44	-	②集合沈線+耳状(C字状)貼付文に半截竹管状工具先端の刺突③に黄橙10YR7/4④粗砂粒・石英・長石・赤褐色粒
45	E d 54	①口径(5.6cm)②ミニチュア土器。破片内無文。焼成前穿孔、破片内に2。③浅黄2.5Y7/3④粗砂粒・石英・角閃石⑤図上復元。
46	E d 57	②ミニチュア土器片。平行沈線・爪形文・円形竹管文③灰黄褐10YR5/2④石英・長石・黒色粒・赤褐色粒⑤図上復元。
47	E f 54	②ミニチュア土器片。口縁部に格子目状平行沈線、胴部に爪形文③浅黄橙10YR8/4④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒
48	D j 51	②ミニチュア土器片。縁孔あり。胴部全体に沈線文③に黄橙10YR7/3④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒
49	E c 58	②口縁部下に隆帯。幅広く浅い爪形文を密に施文。口唇部に刻み目③褐灰10YR4/1④石英・長石・赤褐色粒
50	E e 57	②幅広く浅い爪形文を密に施文。口唇部に刻み目③灰黄褐10YR4/2④石英・長石⑤外面に煤付着。
51	E e 56	②波状口縁部片。幅広く浅い爪形文を密に施文。口唇部に刻み目③に黄橙10YR6/4④粗砂粒・石英・長石
52	E c 58	②波状口縁部片。波頂部下を除き口縁部凹む。羽状縄文+円状沈線+縄文磨消し③に黄橙10YR7/4④石英・黒色粒・赤褐色粒
53	E a 54	②波状口縁部片。幅広く浅い爪形文を密に施文。内面口縁部に刻み目③灰黄褐10YR4/2④石英・長石・チャート
54	D j 51	②(R L) 縄文③灰黄褐10YR4/2④石英・長石・黒色粒⑤外面に煤付着。
55	D i 54	②条痕後に複節縄文③暗灰黄2.5Y5/2④石英・長石・黄白色粒
56	-	②破片上側に稜を持ち、稜の上側に格子目状沈線③に黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒⑤内面の指頭圧痕顕著。内面下側に焦げ。
57	D h 49	②0段多条縄文を羽状施文。口唇部に刻み目③暗灰黄2.5Y5/2④石英・黄白色粒⑤外面に煤付着。
58	E e 57	②ヘラ先状工具による連続刺突文③黄灰2.5Y4/1④石英・長石・黄白色粒
59	E e 56	②幅広く浅い爪形文を密に施文+ヘラ先刺突③に黄2.5Y6/3④石英・長石・黄白色粒⑤内面と外面のヘラ先刺突範囲に赤彩。
60	-	②幅広い爪形文を密に施文③灰黄2.5Y6/2④石英・長石・黄白色粒
61	-	②円形竹管文③黄灰2.5Y4/1④粗砂粒・石英・黄白色粒
62	E b 51	②工具不明の連続刺突文③黄灰2.5Y5/1④石英・長石・黄白色粒
63	-	①器高(14.2cm)・口径(13.6cm)・底径(6.8cm)②集合沈線、口縁部に三角形印刻文③に黄橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・黒色粒⑤内面の色調は全体が黒褐10YR3/1。図上復元。
64	E a 59	②横位・渦巻状等の平行沈線+三角形印刻文③に黄橙7.5YR6/4④結晶片岩・石英
65	E d 53	②波状口縁部片。結節浮線文③に黄橙10YR7/2④石英・角閃石・黄白色粒・赤褐色粒
66	E b 55	②口唇部内側に凹線1条巡る。沈線+短沈線+三角形印刻文③に黄橙10YR6/4④金雲母・粗砂粒・石英・長石・角閃石
67	-	②口縁部内面に稜。口縁部上側に装飾突起があり、内外面に沈線で渦巻文、周縁部に刻み目、側面に押引文。口唇部に刻み目。胴部は刻み目のある隆帯下に渦巻文を貼り付け、横位沈線の後、交互刺突を加える。③に黄褐10YR5/3④金雲母・石英
68	D i 56	②口縁部内面に稜。波頂部下に未貫通孔。口唇部に刻み目。口縁部に短沈線。刻み目のある隆帯下に貼付文・沈線・短沈線後に交互刺突文。③に黄橙10YR6/3④金雲母・石英・長石
69	E b 55	②内面口縁部に稜。横位沈線(一部に結節あり)+口縁部及び横位沈線間に縦位短沈線(一部に斜位の沈線)+口縁部下の一部に交互刺突文と括れ部に三角形印刻文③黄5YR6/6④金雲母・石英・角閃石
70	E c 55	②口縁部内側肥厚。口唇部に刻み目。横位沈線+口縁部に短沈線+交互刺突文③に黄橙7.5YR7/4④石英・長石・角閃石・赤褐色粒
71	E f 55	②口縁部外側に折り返す。口唇部に連続爪形文。横位平行沈線間に斜格子状沈線。③に黄橙7.5YR6/4④石英・黄白色粒・角閃石
72	E d 55	②縄文+口縁部に斜位(一部斜格子状)沈線+平行沈線区画③に黄褐7.5YR5/3④金雲母・石英・赤褐色粒
73	E b 55	②口唇部に刻み目。口縁部に横位平行沈線。縦位結節沈線+平行沈線区画+結節文③黒褐10YR3/1④石英・黄白色粒・白色針状粒
74	E c 55	②口縁部「ㄣ」状貼付文に短沈線、その下に竹管状工具連続刺突文③に黄橙7.5YR6/4④金雲母・石英・角閃石
75	D h 54	②口縁部に歯状工具による抉りを連続させる。③黄7.5YR6/6④金雲母・石英・角閃石
76	D i 57	②横位沈線+交互刺突(短沈線)を加えクランク状の文様を描出、連続刺突文③に黄橙7.5YR6/4④金雲母・石英・角閃石
77	E b 57	②口縁部上端に縄文、その下に「J」状の貼付文、隆帯下に有節沈線③に黄橙10YR6/4④砂礫・石英・長石・角閃石
78	E d 53	②渦巻状沈線間に歯状工具による連続刺突文③に黄褐7.5YR5/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤補修孔あり。

遺構外 土器観察表 3

番号	グリッド	①計測値 ②器形・文様 ③色調 ④胎土 ⑤備考
79	B f 15	①器高28.8cm・口径(31.6cm)・底径7.2cm②口縁部下に凹線1条めぐり、その下から胴部下半にかけて弧状・斜位等の沈線を粗雑に連続させる。③橙7.5YR6/8④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤外面一部に煤付着。
80	E d 54	①底径(11.8cm)②残存高約58cmの大形深鉢。欠損するが上側に渦巻文。胴部は沈線懸垂文とU・U状沈線区画内に単節縄文。③に ぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤内面は丁寧な磨き。
81	D i 55	②口縁部下に凹線1条巡り、その下に隆線による楕円形区画を施し区画内にR L縄文。胴部は縄文後に沈線を2条単位で垂下させ 沈線間の縄文を磨消す。③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
82	E c 58	①口径28.4cm②沈線を縦位に連続させる③にぶい黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石⑤胴部の上側のみ逆位で出土(P L 47)。
83	-	②2条単位の沈線懸垂文+弧状沈線を縦位に連続させる。③浅黄橙10YR8/4④黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
84	B f 11	②橋状把手。把手周縁部に縄文。胴部は縄文+U状沈線区画+区画外の縄文磨消し③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石
85	B e 11	②幅広の低い隆帯。口縁部に太目の縦位交互短沈線③にぶい黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
86	B f 11	②緩やかな波状口縁。縄文+渦巻状に沈線+縄文磨消し③浅黄橙10YR8/4④石英・黄白色粒・角閃石
87	B e 11	②縄文+沈線+縄文磨消し③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
88	B e 11	②緩やかな波状口縁。口縁部に小さな橋状把手。口縁部に沈線1条を巡らせ、その上下に刺突を加える。胴部は口縁部との境に稜 を持ち、R L縄文後に沈線区画。③にぶい黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・角閃石
89	B d 13	②緩やかな波状口縁。2条の隆帯間に交互円形刺突文。隆帯下に単節縄文。③にぶい黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・角閃石
90	B e 14	②「8」の字状粘土紐を二つに折り曲げたような裝飾把手。把手部分外面から胴部に単節縄文。③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄 白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤外面に煤付着。
91	E b 54	②沈線連文③にぶい黄橙10YR6/3④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
92	-	②楕円形状の裝飾把手部分外面から胴部に無節縄文。隆線に沿って円形刺突文。③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石
93	-	②R L縄文+ U状沈線区画+区画外の縄文磨消し③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石
94	B g 15	②波状口縁部片。波頂部は楕円形部分に沈線と円形刺突文で加飾。口縁部に円形刺突文を巡らせる。胴部は沈線区画内に縄文。③ にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石⑤外面に煤付着。
95	B e 14	②波状口縁部片。波頂部下に「8」の字状粘土紐を貼付け、沈線を加える。内面の波頂部下に未貫通孔あり。③にぶい黄橙 10YR7/4④石英・長石・角閃石・赤褐色粒
96	B g 15	②裝飾把手。内外面及び側面部に「8」の字状隆線。外面は隆線上に無節縄文。③にぶい黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石
97	B g 14	②(J)状沈線区画内に縄文③灰黄褐10YR6/2④石英・黄白色粒・長石・角閃石
98	B f 13	②(J)状沈線区画③にぶい黄橙10YR7/4④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒
99	E b 53	②弧状・横位沈線区画内にL R細縄文③暗灰黄2.5Y5/2④結晶片岩・石英・長石⑤外面に煤付着。
100	-	②沈線区画内に縄文③黒褐2.5Y3/2④石英・黄白色粒・角閃石
101	-	②把手上部側面方向に貫通孔1、頂部・内外面に未貫通孔3。頂部からの両側面部に未貫通孔2ずつ。胴部は波頂部下に貫通孔1、 沈線・沈線区画内に無節縄文。内面口縁部下に沈線2条。器面丁寧に磨かれる。③にぶい橙7.5YR7/4④石英・長石・赤褐色粒
102	-	②口縁部下に粗雑な刺突のある低い隆帯。内面口縁部に沈線2条。③にぶい黄褐10YR4/3④石英・黄白色粒・角閃石
103	E d 53	①長さ6.4cm・最大幅3.4cm・中央部幅2.2cm・厚さ0.9cm・重さ22.9g②平面分銅形状の土製品。板状楕円形の両側面中央部にヘラ状工 具による焼成前の挟り。全体をナデ。線刻・貼付け等の意匠はみられない。③浅黄2.5Y7/3④黄白色粒・角閃石⑤初期土偶か。
104	B e 14	②土製品。形状は四角柱状もしくは三角柱状と推定される。周縁部に円形刺突文列を配する。③灰黄褐10YR6/2④石英・黄白色 粒・角閃石⑤土偶の一部か。
105	D h 54	②土製品。端部は扇状で円形小孔3が貫通。③にぶい黄橙10YR7/3④石英・黄白色粒・角閃石・赤褐色粒⑤板状土偶の腕の部分か。
106	E d 55	①径3.1×3.3cm②土製円板。土器再利用。側面部を研磨する。③黒褐10YR3/1④金雲母・石英・長石
107	B f 14	①残存長2.8cm・頭部径1.5cm②石棒状の土製品。全体をナデ。③明黄褐10YR7/6④石英・白色粒・角閃石・赤褐色粒

奈良・平安時代、中・近世遺構外出土遺物観察表 (第531図、P L 170)

番号	グリッド	器種	特徴	色調	胎土	備考
1	-	須恵器 甕	外面、擬格子状の叩き。内面、同心円文。	黒5Y2/1	石英・長石	
2	B d 14	須恵器 蓋	天井部は小さめで環状掴みが付けられる。	灰黄2.5Y7/2	微砂粒・白色粒・黒色粒	内面に自然釉と灰かぶり。
3	B d 14	陶器 搦鉢	内面に8条単位の卸目あり。	にぶい橙7.5YR6/4	粗砂粒・石英・長石	内面に一部自然釉あり。
4	-	古銭	寛永通宝。			
5	-	古銭	寛永通宝。			

第6章 行田大道北遺跡出土の琥珀玉について

中村祥子（國學院大學大学院）

第4章第2節にあるように、行田大道北遺跡の縄文時代前期に属する住居跡から、琥珀製玉が出土している（第346図）。群馬県内の縄文時代遺跡からの琥珀製品の出土例は、管見の限り本例が初めてであり、琥珀製品の流通全体を考える上で重要な資料であるといえる。

琥珀とは樹木樹脂の化石で、普通赤褐色や鉛色に近い黄色を呈する。縄文時代は前期後半から玉の素材として利用が始まり、中期後半が最も多い。筆者が確認した限りでは、琥珀製品が確認された縄文時代遺跡は全国に80か所存在している。八幡一郎、野口義麿を始め、寺村光晴、北海道については松下亘、東北地方は佐々木清文、福田友之諸氏による成果があり、また室賀照子氏を中心とした科学的に産地を導く方法の研究も一定の成果を上げている。以下、本遺跡より出土した琥珀玉の意義について考察を行いたいと思う。

琥珀は軟質で碎けやすいという性質上、穿孔途中に破損するものも多い。本遺跡の資料は、表面が丁寧に整形されているため、製作時に破損したものとは考えにくく、使用時に破損した可能性が高い。縦穿孔と横穿孔が同じ工具によったかどうかは確認できない。琥珀の産出地は千葉県銚子市に確認されており、銚子市粟島台遺跡において中期の琥珀玉未製品が多数検出され、ここが琥珀流通の発信地と考えられる。他に東京都八王子市にも少量確認されているが、利用の可能性は明らかではない。

本遺跡の玉は、他の琥珀玉と比較して長軸が長く、縦方向に穿孔されているという特徴がある。前期に比定される琥珀玉のうち最も定型的な形状をなしており、これに似た形態のものは他に例を見ない。大きさの時期的傾向は、大まかにいって、前期から後期後半にはやや大形のものが存在し、後期後半以降には大形ものは少なくなるようである。基本的には大形ものは、原産地近くに集中するようである。

関東地方における琥珀出土遺跡を概観すると、千葉県内に集中しており、時期も縄文時代中期に属するものが多い（表34）。こうした中で、分布の傾向を見ると、前期に属する資料は、総点数の割には関東一円に広がる傾向がある。縄文時代前期には、琥珀もこうした流通システムによって各地に運ばれたのかも知れない。

本稿は平成8年度國學院大學卒業論文の一部を手直ししたものである。ご指導賜った小林達雄先生をはじめ、資料見学等でお世話になった方々に深く感謝する次第です。なお、紙面の都合上、参考文献の一部を略したことをお断りしておきます。

表34 関東周辺地域の縄文時代琥珀出土遺跡数

	群馬	栃木	富山	長野	山梨	埼玉	東京	神奈川	千葉	茨城
前期	1								2	1
中期		2		6	3		8	1	13	
後晩期			1	1		1			4	

- 引用・参考文献 寺村光晴「日本先史時代の琥珀」学部創設35周年記念論文集、和洋女子大学 1985
『千葉県文化財センター研究紀要13 生産遺跡の研究2-玉-』1992
五味・野代『研究紀要10 山梨県立博物館・山梨県埋蔵文化財センター』1994
福田友之「本州北端の琥珀」『青森県立郷土館調査研究年報 19号』1995

第7章 まとめ

第1節 遺跡の変遷（東地区）

行田大道北遺跡東地区からは、縄文時代前期関山式期から中期加曾利E式期にかけての遺構・遺物が検出されている。ここでは、おおまかに6期区分して遺構・遺物を概括し、遺跡の変遷を追うことにする。

1期（縄文時代前期関山式期及び黒浜・有尾式期）の遺構と遺物

住居跡30軒、土坑71基を本期と判断した。住居跡は関山Ⅱ式期2軒（39号・41号住居跡）、黒浜・有尾式期28軒（1号・2号・18号・31号・33号・34号・37号・40号・44号・46号・54号・56号・70号・71号・72号・73号・74号・75号・76号・77号・78号・80号・84号・85号・86号・89号・92号・95号）が該当し、黒浜・有尾式期が本期の主体となるものである。

黒浜・有尾式期の住居跡分布をみると、44号・56号・46号住居跡や74号・77号・89号住居跡などのように、長軸方向をほぼ同じにする住居跡が3軒前後のまとまりを持っている状態がうかがえる。前者は縦列するような状態にある。安中市・中野谷松原遺跡¹⁾では当該期の住居跡が「列状集落」形態を呈していることが明らかにされている。住居跡の平面形は、隅丸方形・(隅丸)長方形・隅丸台形などがある。隅丸台形としたもののほとんどは「長台形」とされるもので、黒浜・有尾式期に特有の形態との指摘がある²⁾。

黒浜・有尾式期の住居跡は著しい重複・拡張のため、柱穴構成を明確に把握できないものも多かったが、おおむね4基もしくは6基支柱穴とみられ、6基支柱穴のものは3基ずつが並列するものと想定される。また、本期住居跡の多くには壁周溝から対の状態で溝状の掘り込みが認められた。同様の掘り込みは、月夜町・三後沢遺跡の当該期住居跡などでも確認されるが、同遺跡のものは間仕切り溝と判断されている³⁾。本遺跡では、当該期住居跡にほぼ通有の形態としてこれらの掘り込みが認められていることに加え、南東側もしくは東側に掘り込みがみられること・掘り込み間の幅などの位置的・規模的な観点から、本書では出入口部と想定した。

第533図に主要な土器を集成した。黒浜・有尾式期の古相から新しい段階の土器がみられるが、波状口縁は4単位とみられ、安中市・清水Ⅰ遺跡⁴⁾で検出されたような2単位波状口縁の土器は確認できなかった。

2期（縄文時代前期諸磯a式期）の遺構と遺物

住居跡37軒、土坑65基を本期と判断した。住居跡は前期黒浜～諸磯a式期と想定した22軒（14号・20号・22号・24号・26号・27号・32号・36号・45号・47号・52号・53号・57号・58号・60号・61号・63号・67号・79号・81号・88号・90号住居跡）、諸磯a式期と想定した15軒（3号・12号・13号・21号・29号・43号・48号・49号・59号・64号・69号・82号・87号・93号・94号住居跡）が該当する。

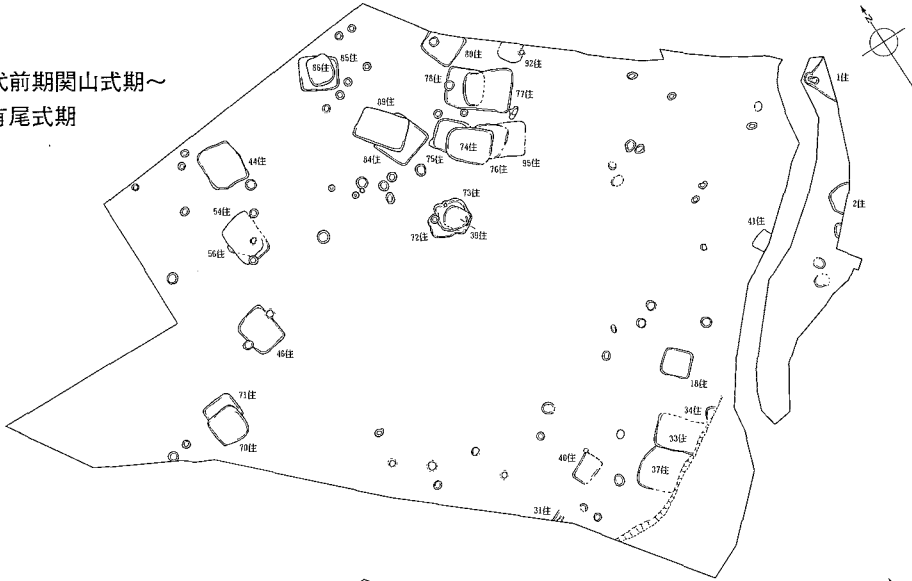
遺構の分布状態は1期に類似するものの、住居跡がやや小規模化するようである。

第534図に主要な土器を集成した。59号住居跡からは、4単位波状と想定される深鉢とともにコップ形の土器が出土している。また、本期から北白川下層式系の土器（第540図）が散見されるようになる。

3期（縄文時代前期諸磯b式期）の遺構と遺物

住居跡4軒、土坑29基、掘立柱建物跡1棟を本期と判断した。住居跡は前期諸磯a式～諸磯b式期と想定

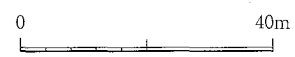
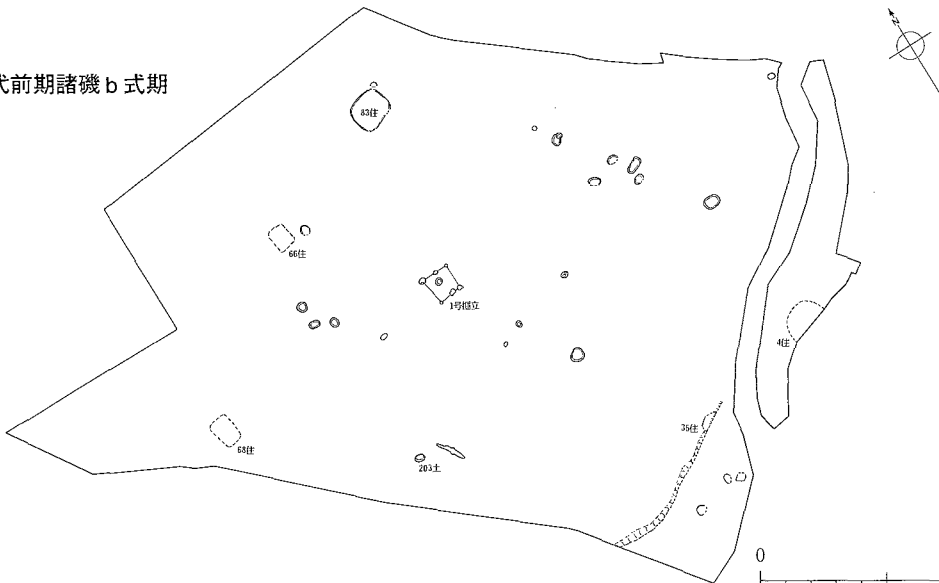
1 期
 縄文時代前期関山式期～
 黒浜・有尾式期



2 期
 縄文時代前期諸磯 a 式期



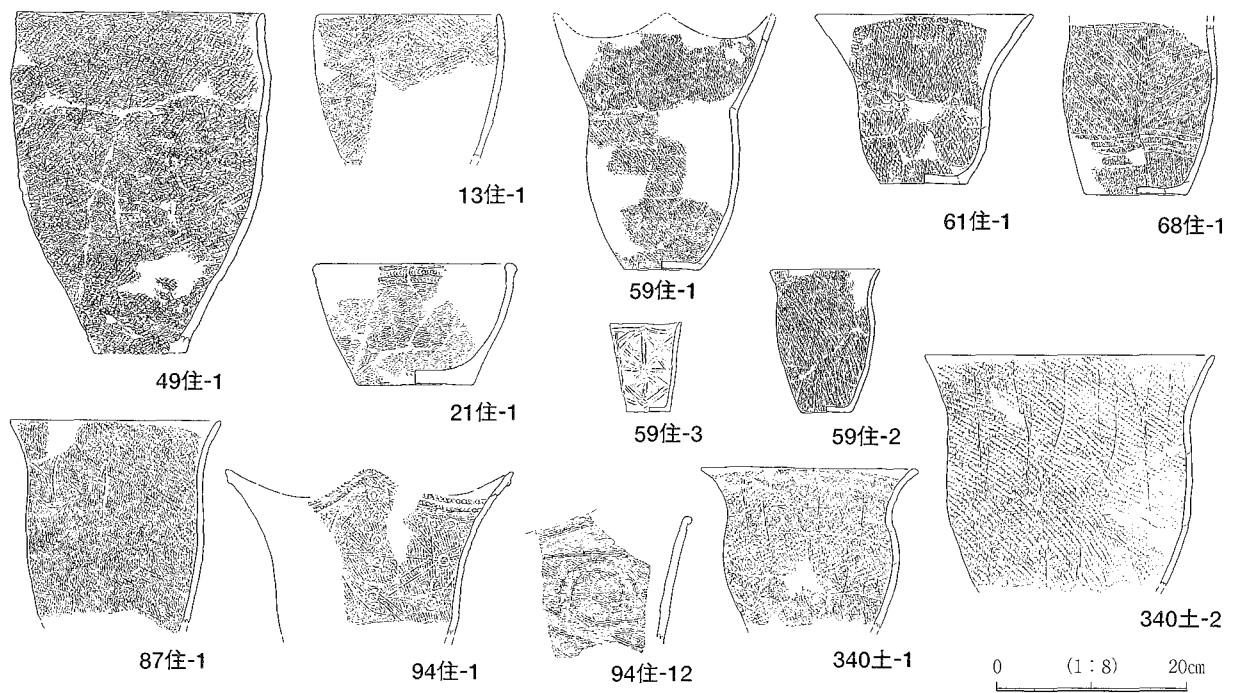
3 期
 縄文時代前期諸磯 b 式期



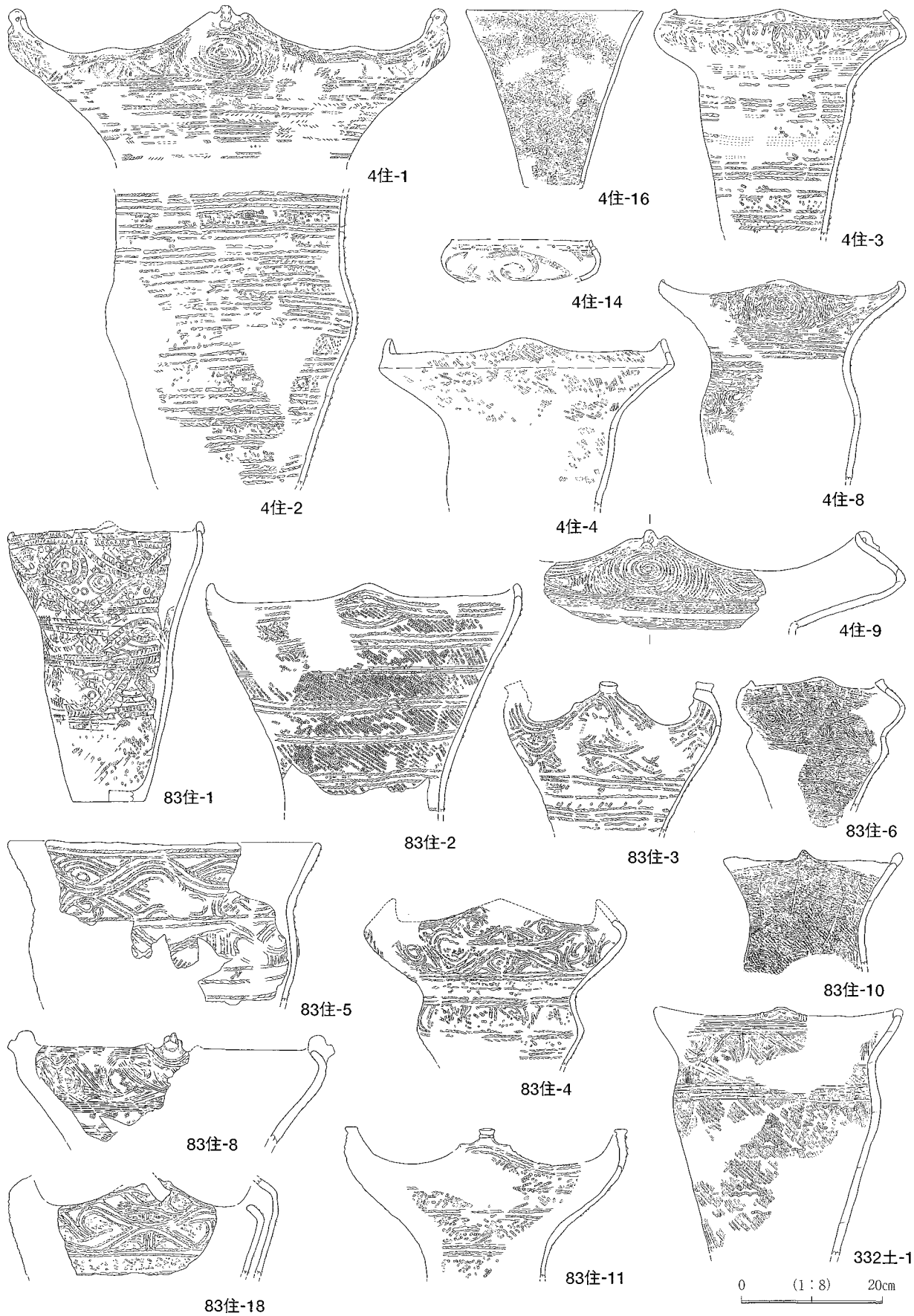
第532図 東地区遺構変遷図①



第533図 黒浜・有尾式土器集成図



第534図 諸磯 a 式土器集成図



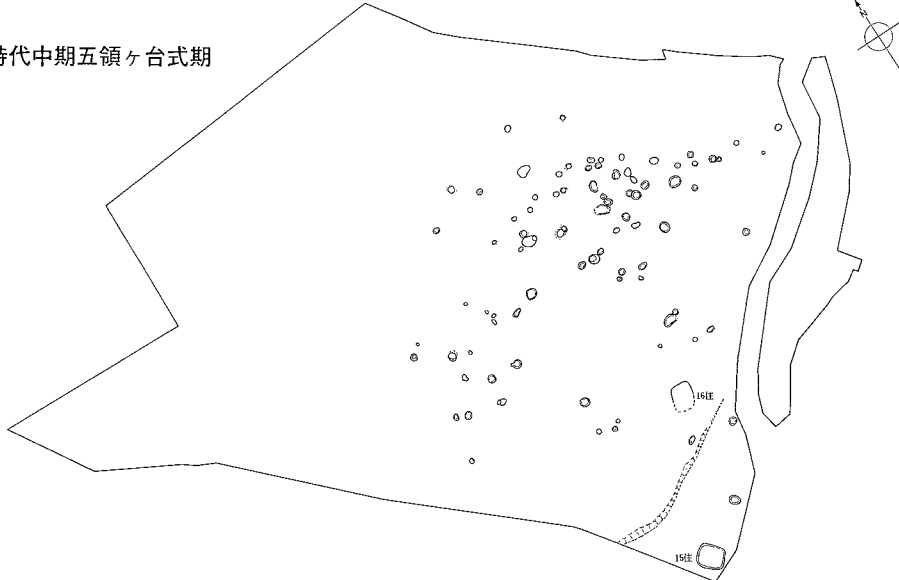
第535図 諸磯 b 式土器集成図

4期
縄文時代前期諸磯C式期～
十三菩提式期

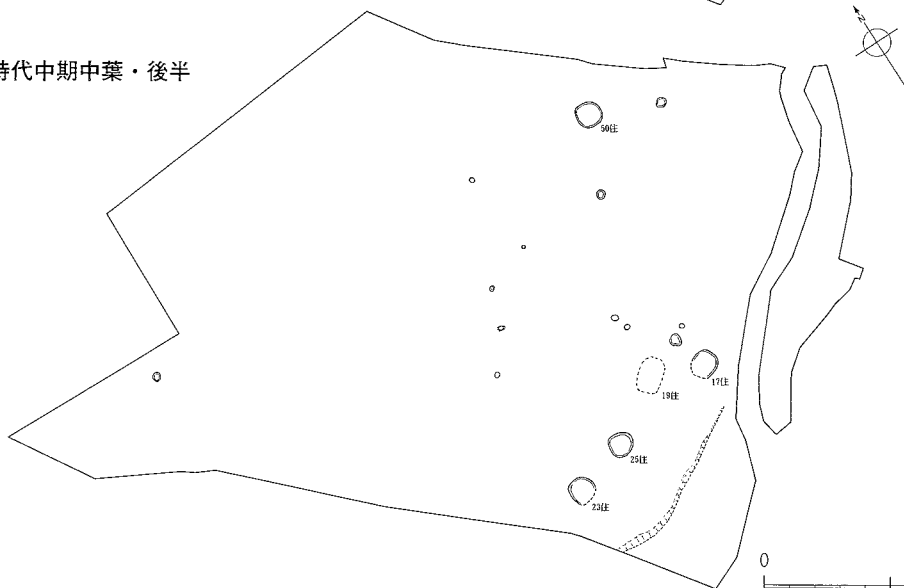
※スクリーントーンはクッキー状炭化物出土遺構



5期
縄文時代中期五領ヶ台式期

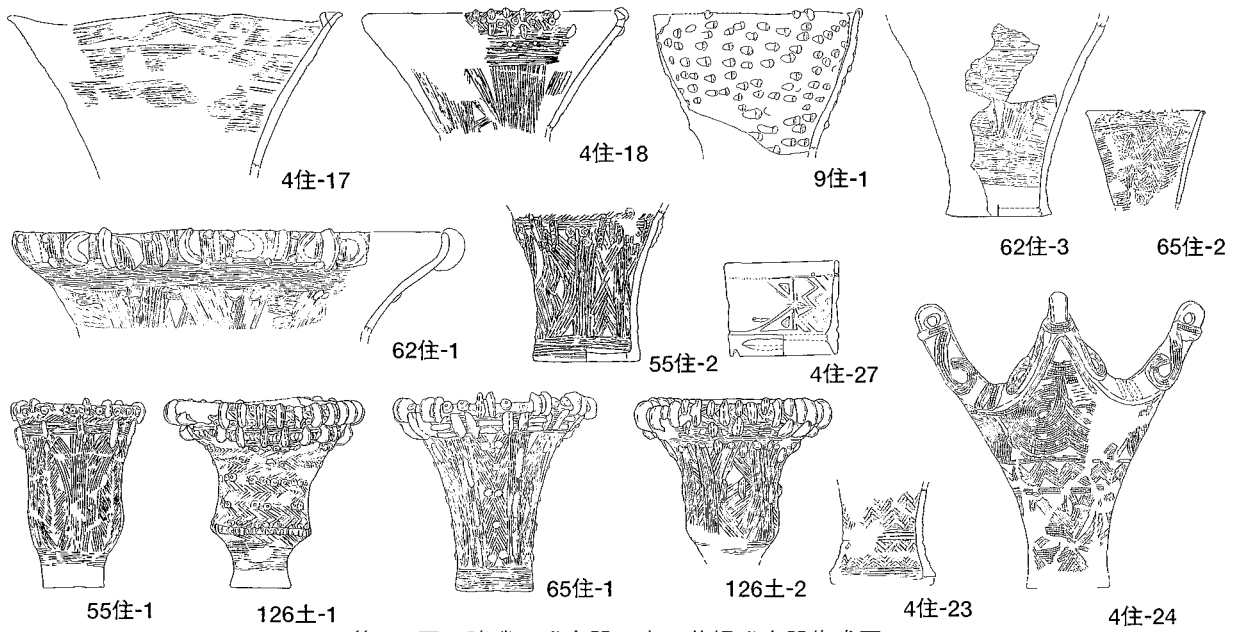


6期
縄文時代中期中葉・後半

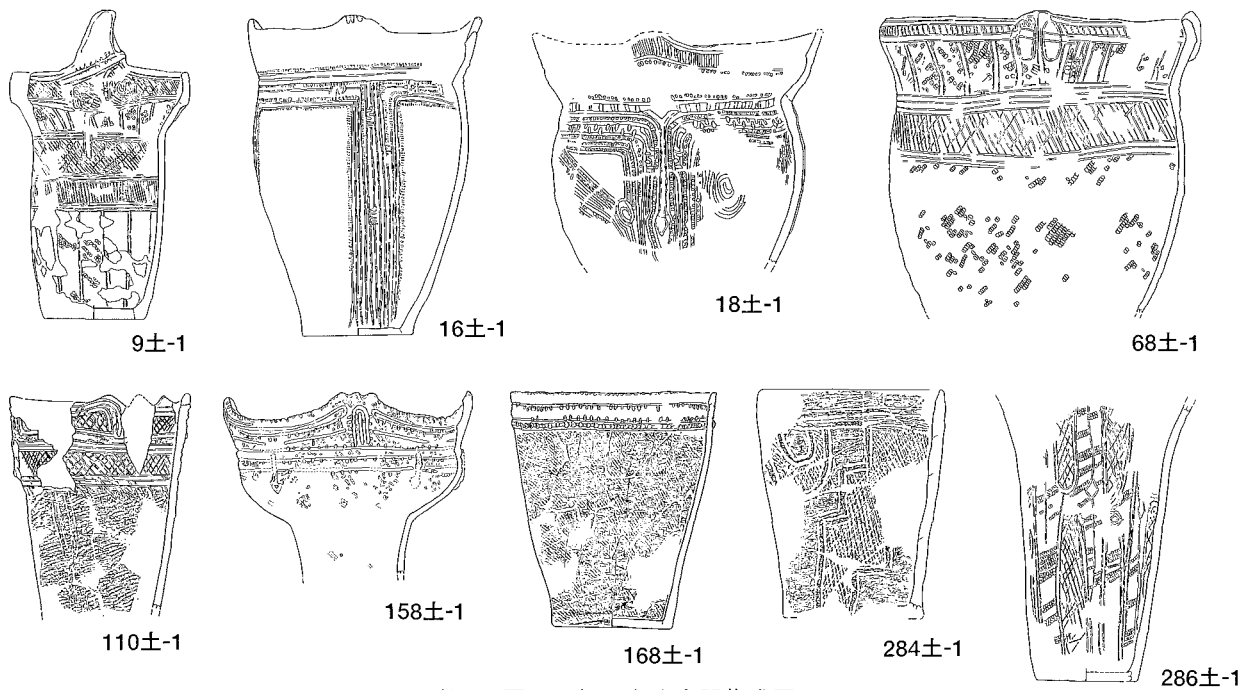


0 40m

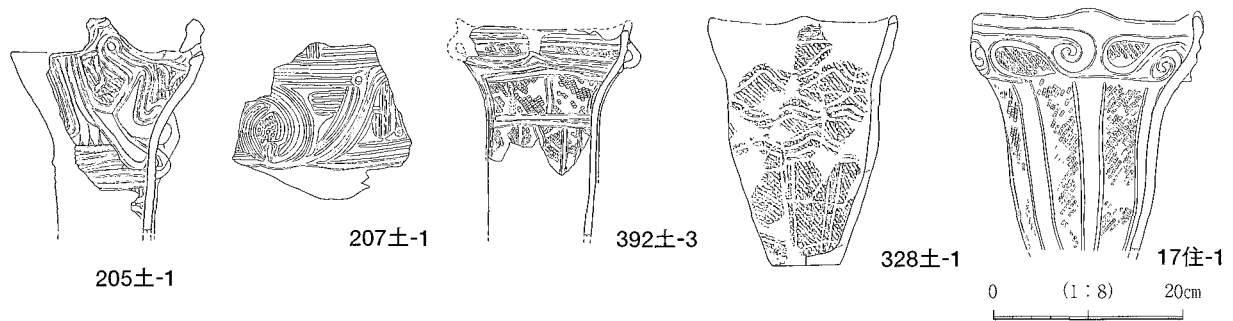
第536図 東地区遺構変遷図②



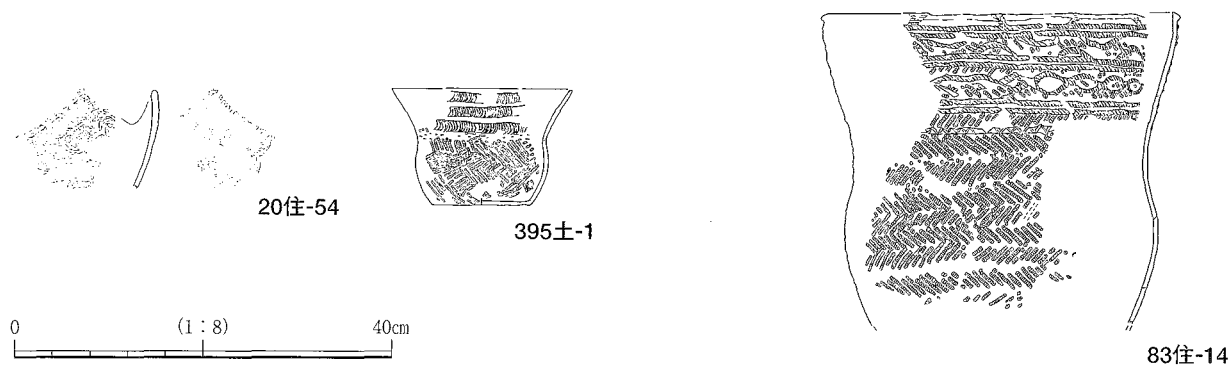
第537図 諸磯c式土器・十三菩提式土器集成図



第538図 五領ヶ台式土器集成図



第539図 中期中葉・後半土器集成図



第540図 北白川下層式系の土器

した1軒（68号住居跡）、諸磯b式期と想定した3軒（35号・66号・83号住居跡）のみであり、1・2期に比べ遺構分布密度が極端に減少する傾向にある。ただ、4期と想定した4号住居跡からも諸磯b式期の良好な資料が得られている。83号住居跡は平面隅丸方形であるが、他の住居跡は形態を明確に把握できるものがなく、柱穴構成等も不明である。

第535図に主要な土器を集成した。先述したように4号住居跡からは当該期の土器が大量に出土している。また、83号住居跡からも大量の出土遺物が見られる。同住居跡からは北白川下層系土器も客体的にはあるが出土している。83号住居跡14は中部高地に類例がみられ、鈴木徳雄は北白川下層式-諸磯式間の“中部高地交渉連鎖網”による類型的变化と捉えている⁵⁾。

このほか、4号住居跡からは珪藻土製の小形石棒2点が出土している。同様の石棒が前橋市・荒砥上ノ坊遺跡の1区72号住居跡（諸磯b式期）からも出土しており⁶⁾、本遺跡例も諸磯b式期の遺物と判断しておきたい。能登健の集成⁷⁾によれば群馬県内で9例の前期石棒が確認されており、群馬県内においては縄文時代前期に石棒が分布することは確定的とされている。縄文時代前期の石棒については、いずれも小形品であることなどからその存在を疑問視する向きもあるが、形状はまさに「石棒」である。ただ、中期以降の（大形）石棒とは系譜を異にするものと想定され、時期的にも諸磯b式期に限定されるようである。

83号住居跡から出土した琥珀玉については産地不明であるが、岐阜県・丸山遺跡において7点の琥珀玉が出土している⁸⁾ことや、先述したように北白川下層式土器が出土していることなどから、「東山道ルート」でもたらされた可能性を考えておきたいが、確証はない。

また、203号土坑からは上層からではあるが珓状耳飾りが出土しており、墓としての性格が想定される。

4期（縄文時代前期諸磯c式～十三菩提式期）の遺構と遺物

住居跡14軒、土坑50基を本期と判断した。住居跡（4号・5号・6号・7号・8号・9号・10号・28号・30号・38号・51号・55号・62号・65号）は、小規模なものが多い。各遺構の分布状態は全体的に環状を呈するようであるが、数軒・数基単位のまとまりがあるようであり、クッキー状炭化物が検出された遺構は調査区の東側に集中する傾向が認められる。

第537図に主要な土器を集成した。55号・65号住居跡や126号土坑からは諸磯c式土器の優品が出土している。9号住居などには凹凸文を施文した当該期の土器がみられる。また、4号住居跡からは十三菩提式土器の良好な資料がある。

クッキー状炭化物（第3章第3節）は、残存脂肪酸分析⁹⁾からは加工食品の可能性が指摘されている。い

いわゆる「縄文クッキー」と呼称されるものである。本遺跡からは総数70点以上のクッキー状炭化物が、諸磯c式期の遺構に限って検出されている。こうした縄文時代の加工食品は、「パン状」「ハンバーグ状」「カリントウ状」などの形状のものを含めて日本海側や中部高地を中心とする各県の縄文時代遺跡で出土例が知られているが、群馬県内では現在までのところ本遺跡例のみである。本遺跡のクッキー状炭化物には、中央部に指頭大の凹み¹⁰⁾が特徴的にみられる。なお、山形県・押出遺跡例¹¹⁾には渦巻き状の文様が施されている。

5期（縄文時代中期五領ヶ台式期）の遺構と遺物

住居跡2軒、土坑92基を本期と判断した。住居跡（15号・16号住居跡）は調査区の南端付近に位置し、その北側に土坑群が展開する状態にある。

第538図に主要な土器を集成した。南東側に近接する八城二本杉東遺跡（本書所収）からも中期初頭の土坑群が検出されているが、全体的には本遺跡の方がやや古相を示すようである。

6期（縄文時代中期中葉・後半）の遺構と遺物

住居跡5軒、土坑12基を本期と判断した。5期との間には断絶期があり、中葉・後半の遺構・遺物も連続するものではない。中期中葉と判断したのは土坑3期のみで、他は中期後半（末葉）の遺構である。住居跡（17号・19号・23号・25号・50号住居跡）の内4軒は調査区南側に集中する。17号・23号住居跡からは石囲い炉が検出されている。

第539図に主要な土器を集成した。207号土坑などからは中期中葉の焼町類型土器が出土している。

第2節 遺跡の変遷（西地区）

行田大道北遺跡西地区から検出された遺構・遺物は、縄文時代早期押型文期の114号住居跡を除き、①縄文時代前期黒浜・有尾式期（～諸磯a式期）と、②中期後半（末葉）～後期初頭の2時期に大別される。

①縄文時代前期黒浜・有尾式期の遺構と遺物

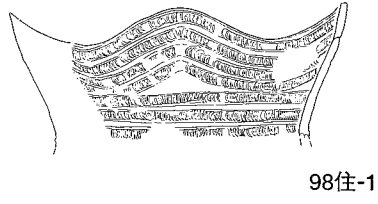
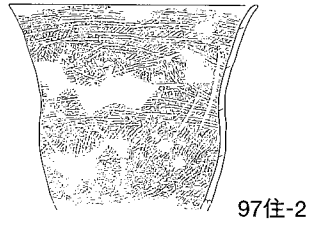
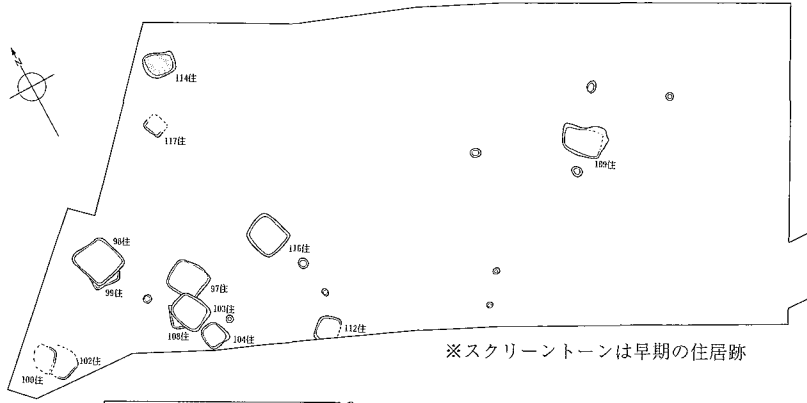
住居跡12軒、土坑10基がある。住居跡（97号・98号・99号・100号・102号・103号・104号・108号・109号・112号・116号・117号住居跡）は主軸方向をほぼ同一にするものが多く、109号住居跡を除き、調査区西側に集中する。集落はさらに調査区外の南西から南方にかけて展開している可能性がある。遺構の形態等は東地区のものと同様な状態にある。

②縄文時代中期後半（末葉）～後期初頭の遺構と遺物

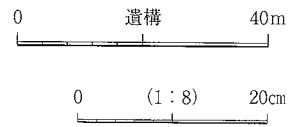
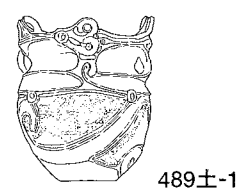
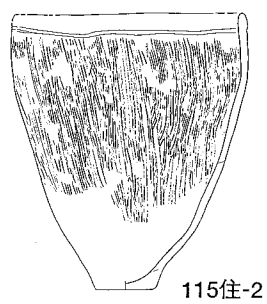
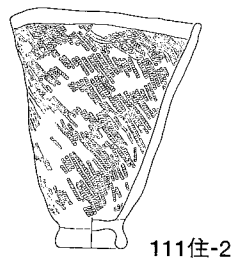
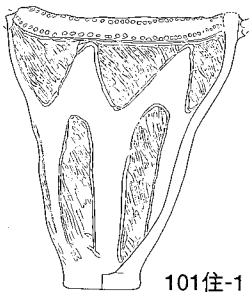
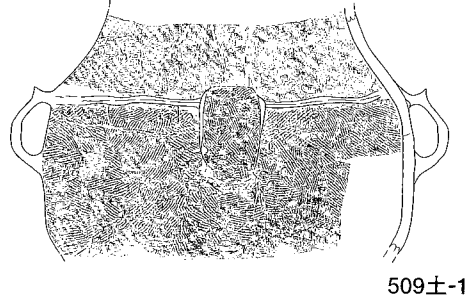
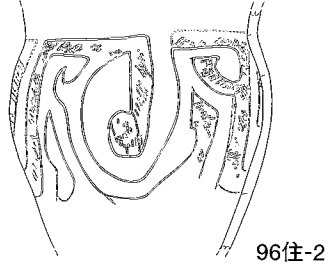
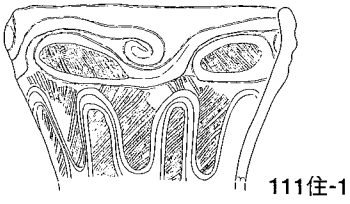
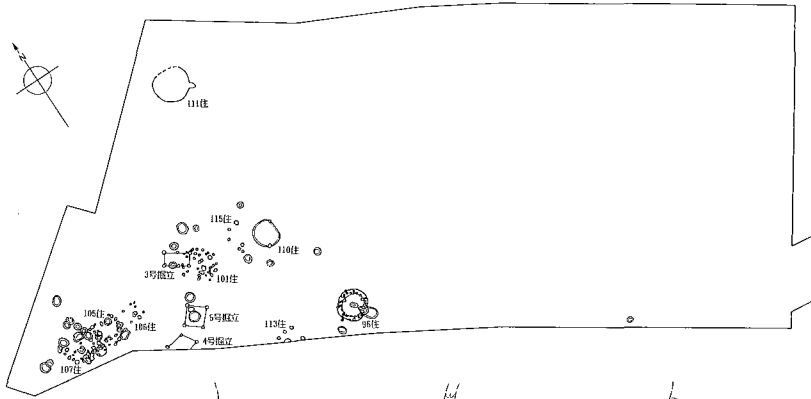
住居跡9軒、土坑21基、掘立柱建物跡3棟を当該期と判断した。各遺構は111号住居跡を除き、調査区西側に集中する。住居跡（96号・101号・105号・106号・107号・110号・111号・113号・115号住居跡）は、表土の堆積が薄く削平を受けているものが多く、遺存状態は概して悪かったが、柄鏡形敷石住居跡である96号住居跡は比較的良好な状態で検出されている。明確に柄鏡形敷石住居跡と断定できるものは、この96号住居跡1軒のみであるが、105号・107号住居跡も本来は柄鏡形敷石住居跡であった可能性があり、数軒単位で集落が形成されていたものと推測される。

柄鏡形敷石住居跡は、松井田町において仁田遺跡や暮井遺跡¹²⁾が昭和47年に調査されたのをはじめ、本遺跡に隣接する行田梅木平遺跡、二軒在家二本杉遺跡¹³⁾などでも調査されている。

① 早期・前期の遺構と遺物



② 中期後半〜後期初頭の遺構と遺物



第541図 西地区遺構・遺物変遷図

本遺跡96号住居跡や仁田遺跡・暮井遺跡例では主体部と張り出し部との連結部に石囲い施設が検出されているが、二軒在家二本杉遺跡例には同様の施設は認められない。この連結部石囲い施設については、地域的・時期的な限定性が指摘されており¹⁴⁾、群馬県内において「加曾利EⅢ式」から称名寺式期にわたって設置された施設と考えられている。また、この石囲い施設はその位置から「埋甕」と同様な性格が想定されている。

本遺跡の柄鏡形敷石住居跡については、奥側に置かれた玉石の問題、本来の床面の問題など、残された検討課題も多い。後者については、敷石面がそのまま床面として使用されたとは想定し難いとの前提に立っているが、今後、何らかの機会に検証したいと考えている。

《引用・参考文献、註》

- 1) 大工原 豊 1996『中野谷松原遺跡－縄文時代遺構編』安中市教育委員会
- 2) 原 雅信 1991「群馬県における縄文時代前期の住居形態について」『研究紀要8』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 3) 菊池 実 1986『三後沢遺跡・十二沢遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4) 長井正欣 1996『清水Ⅰ遺跡』原市第一県営住宅遺跡調査会
- 5) 鈴木徳雄 1996「諸磯b式の変化と形式間交渉－文様変化の継起的累積性と形式間の諸相」『縄文時代』第7号, 縄文時代文化研究会
- 6) 小島敦子 1995『荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7) 能登 健 1995「縄文時代前期の石棒について」『荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 8) 野村宗作氏の御教示による。
- 9) 中野益男 1995「残存脂肪酸分析の現状と課題」『月刊考古学ジャーナル』No.386, ニュー・サイエンス社
坂井良輔・小林正史 1995「残存脂肪酸分析の方法と問題点」同上
菊池 実 1995「脂肪酸分析と考古学的成果」同上
- 10) 新潟県・沖の原遺跡にも同様のクッキー状炭化物がある。鈴木道之助 1991『図録・石器入門事典〈縄文〉』柏書房, 「IV-1 縄文時代の食糧」参照。
- 11) 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 1996『第3回特別展縄文のタイムカプセル押出遺跡』
- 12) 石坂 茂 1990『仁田遺跡・暮井遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 13) 田口 修 1992『二軒在家二本杉遺跡』松井田町埋蔵文化財調査会
- 14) 鈴木徳雄 1994「敷石住居址の連結部石囲い施設－群馬県における敷石住居内施設の一様相」『群馬考古学手帳』Vol. 4, 群馬土器観会

上記のほか、本遺跡の報告書作成にあたって下記の文献を参考にしている。

- 奥野麦生 1989「黒浜式土器の系統性とその変遷」『土曜考古』第13号, 土曜考古学研究会
- 埼玉考古学会 1990「シンポジウム大木、有尾、そして黒浜－縄文時代前期中葉にみる系統と交流の実態」『埼玉考古別冊3』
- 縄文セミナーの会 1989『縄文中期の諸問題』第3回縄文セミナー
- 縄文セミナーの会 1990『縄文後期の諸問題』第4回縄文セミナー
- 縄文セミナーの会 1993『前期終末の諸様相』第6回縄文セミナー
- 縄文セミナーの会 1995『中期初頭の諸様相』第8回縄文セミナー
- 安達尊信 1996「黒浜期の住居の支柱構造と系統について」『群馬考古学手帳』6, 群馬土器観会
- 山本暉久 1976「敷石住居出現のもつ意味(上)・(下)」『古代文化』28巻2・3, 古代協会
- 山本暉久 1996「柄鏡形(敷石)住居と石棒祭祀」『縄文時代』第7号, 縄文時代文化研究会
- 村田文夫 1995「柄鏡形住居址考－その後」『季刊考古学』第50号, 雄山閣
- 村田文夫 1985『縄文集落』考古学ライブラリー36, ニュー・サイエンス社
- 神奈川県立埋蔵文化財センター 1996『敷石住居の謎に迫る』資料集
- 神奈川県立埋蔵文化財センター 1996『平成7年度かながわの遺跡展－謎の敷石住居跡』
- 都築恵美子 1990「堅穴住居址の系統について－縄文時代中期後半から後期初頭の住居変遷と時期的動態－」『東京考古』8, 東京考古談話会
- 赤城高志 1992「縄文時代柄鏡形敷石住居の微視的分析」『人間・遺跡・遺物』2, 発掘者談話会
- 櫛原功一 1995「柄鏡形住居の柱穴配置」『研究報告』第6集, 帝京大学山梨文化財研究所

抄 録

フリガナ	ヤシロニホンスギヒガシイセキ(ヤシロイセキ) オクナダダイドウキタイセキ(オクナダイチイセキ)
書名	八城二本杉東遺跡 (八城遺跡) 行田大道北遺跡 (行田 I 遺跡)
副書名	関越自動車道 (上越線) 地域埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	長井正欣・田口修・飯塚聡・中村祥子
編集機関	山武考古学研究所 〒286 千葉県成田市並木町221番地
発行機関	日本道路公団・群馬県教育委員会・松井田町遺跡調査会
発行年月日	西暦 1997年 3月 31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ヤシロニホンスギ 八城二本杉 ヒガシイセキ 東遺跡	ダンマケンウスイダシマツイダマチオオヤ 群馬県碓氷郡松井田町大字 ヤシロアザニホンスギヒガシ 八城字二本杉東792-2他	10401		36°	138°	19880308	24,000m ²	関越自動車道 (上越線) 建設工事
				18′	47′	}		
オクナダダイドウキ 行田大道北 イセキ 遺跡	ダンマケンウスイダシマツイダマチオオヤ 群馬県碓氷郡松井田町大字 オクナダアザダイドウキ 行田字大道北732他	10401		36°	138°	19880711	16,100m ²	関越自動車道 (上越線) 建設工事
				18′	47′	}		
				02″	52″	19880901		
				11″	41″	19891003		

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
八城二本杉 東遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡 32軒 円形柱穴列 2基 掘立柱建物跡 1棟 土坑 205基	前期土器 (関山式)、中期土器 (五領ヶ台式、阿玉台式)、石器 類、垂飾	前期関山式期の円形柱穴 列を中心とする2群の住 居跡群。 中期初頭土坑群。
		弥生時代	土坑 13基	前期後半～中期前半土器、石剣	再埋葬の可能性あり。
		平安時代	住居跡 2軒	土師器・須恵器	
行田大道北 遺跡	集落跡	旧石器時代	住居跡 117軒	細石核	前期黒浜式期～諸磯c式 期を中心とする集落変遷 がみられる。
		縄文時代	土坑 535基 集石 5基 掘立柱建物跡 4棟	早期土器 (押型文)、前期土器 (関山式、黒浜・有尾式、諸磯a式、 諸磯b式、諸磯c式、北白川下 層式、十三菩提式)、中期土器 (五領ヶ台式、焼町系、加曾利E 式)、後期土器 (称名寺式、堀之 内式、加曾利B式)、石器類、琥珀 玉、小形石棒、クッキー状炭化物	前期諸磯b式期の住居跡 から琥珀玉出土。 前期諸磯c式期の遺構か らクッキー状炭化物が出土。 前期の小形石棒を検出。 中期初頭の土坑群。 後期初頭の柄鏡形敷石住 居跡を検出。
		時期不明	溝 3条		

八城二本杉東遺跡

(八城遺跡)

行田大道北遺跡

(行田Ⅰ遺跡)

— 関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 —

《本文編》

印刷 平成9年3月20日

発行 平成9年3月31日

編集 山武考古学研究所
発行 日本道路公団
群馬県教育委員会
松井田町遺跡調査会

印刷 (株)文化総合企画
千葉県印旛郡富里町日吉台1-23-12

☎(0476)93-0593